Yokohama ビルドのワークフロー

最終更新日: **2025年4月23日**

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ここで示したいくつかの例と図は、説明の目的でのみ提供されています。
ServiceNow 製品またはサービスへの実際の関連付けやつながりは意図されておらず、推測されるものではありません。

ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは
米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の
商標または登録商標です。その他の会社名および
製品名は、それぞれの所有者の
商標です。

下記の ServiceNow ウェブサイト利用規約をお読みください。 www.servicenow.com/terms-of-use.html

本社
2225 Lawson Lane
Santa Clara, CA 95054
United States
(408) 501-8550

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

servicenow

目次

ワークフローのビルド....5
Now Assist for Creator....8
Now Assist for Creator のインストール....11
Now Assist Creator [now.assist.creator]....11
ワークフロースタジオ....12
ワークフロースタジオ の詳細....13
ワークフロースタジオの構成....136
ワークフロースタジオの使用....206
ワークフロースタジオ参照....604
クラシックの承認....1009
承認エンジン....1010
承認ルール....1011
承認サマライザーフォーマッター....1018
Approval with e-signature....1021
承認ステータス....1026
承認ルールを使用した承認の生成....1026
承認者関連リストを使用した承認の生成....1027
ワークフローを使用した承認の生成....1027
複数の承認者....1027
通知の受信....1027
ダイナミック承認フォーム....1029
スクリプトおよびエンジンの実行順序....1029
クラシックビジネスルール....1030
ビジネスルールの仕組み....1031
スコープ対象アプリケーションのビジネスルール....1033
ビジネスルールの作成....1034
ビジネスルールのグローバル変数....1037
ビジネスルールとクライアントスクリプトを使用したフィールド値の制御....1038
ビジネスルールの表示....1039
タスクアクティブ状況管理ビジネスルール....1040
サンプルのビジネスルールスクリプト....1040
システムイベント....1046
システムイベントの詳細....1047
システムイベントの構成....1051
システムイベントの管理....1053
システムイベントに関する参照情報....1058
サービスクリエーター....1064
サービスクリエーターのプロセス....1064
サービスクリエーターをアクティブ化する....1065

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスを管理する....1072
クラシック Workflow....1078
ワークフローの概要....1079
ワークフローエディター....1082
ワークフロー管理....1095
ワークフローコンセプト....1172
ワークフロー管理....1181
ワークフローのトラブルシューティング....1212
ワークフロー運用ダッシュボードを使用する....1214
ワークフローパフォーマンスタイミング....1216
ワークフローアクティビティ....1216

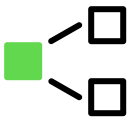
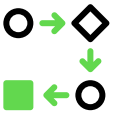
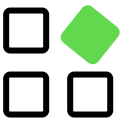
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフローのビルド

手動タスクと日常業務をデジタルワークフローに変換します。ハイパーオートメーションによって従来のプロセスを最新化します。1 つのプラットフォームからシチズンオートメーションを実現します。

はじめに

手動で行うプロセスを自動化することで、企業間ワークフローの影響度が高まります。自動化によりビジネスパフォーマンスを変革します。プロセスの効率を最適化し、作業をシームレスに遂行します。

ワークフロースタジオ  単一のインターフェイスからワークフローアプリケーションにアクセスします。	ワークフロースタジオ フロー  コードの必要なく、再利用可能なコンポーネントから複数ステップのフローをビルドします。	ワークフロースタジオ プレイブック  企業間ワークフローを作成し、単一の統一されたプロセスを作成します。
ワークフロースタジオ プレイブックエクスペリエンス ワークスペース 内からビジネスワークフローとリアルタイムにやり取りします。	ワークフロースタジオ ディシジョンテーブル 意思決定ルールを作成し維持することで、コードから意思決定ロジックを分離します。	サービスクリエーター 部門はサービスカタログを通じてカスタムサービスを提供できます。

ワークフロースタジオ

ServiceNow® ワークフロースタジオアプリケーションは、すべてのプロセス自動化アプリケーションにアクセスするための単一の場所を提供します。

ワークフロースタジオ フロー

ServiceNow ワークフロースタジオ フローは、プロセスオーナーが作業を自動化できる Now Platform® 機能です。エンドツーエンドのデジタルワークフローを作成します。簡単な製作から複雑な変換まで、あらゆるプロセスをノーコードの環境で自動化します。

ワークフロースタジオ **Playbook**

ServiceNow® ワークフロースタジオ プレイブックは、プロセスオーナーが、企業間ワークフローを作成し、単一の統一されたプロセスを作成できるようにします。ノーコードのプレイブックとエン

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タープライズアプリケーション開発プラットフォームを使用して、複数の複雑なワークフローを簡単にビルド及び管理します。

ワークフロースタジオ ディシジョンテーブル

ワークフロースタジオ ディシジョンテーブルは、意思決定ルールのセットを格納するディシジョンテーブルを作成および管理するための直感的なインターフェイスを提供します。 デシジョンビルダーの意思決定テーブルは、ビジネスロジックを一連の [if-then] 意思決定ルールに埋め込みます。意思決定テーブルは入力からデータを読み取ります。ディシジョンルールのすべての条件が満たされると、意思決定テーブルは 1 つ以上の結果を返します。デシジョンビルダーを使用すれば、開発者はコードベースから意思決定ロジックを分離できます。

Playbook Experience (プレイブックエクスペリエンス)

エージェント専用にビルドされたシンプルで使い慣れたタスク指向のビューで、複雑なプロセスをビジュアル化します。エージェントはプレイブックを使用して、レコードの更新や添付ファイルのアップロード、複数のワークフローアクティビティでのタスクの完了などを行うことができます。

サービスカタログ アイテムデザイナー

サービスカタログ アイテムデザイナーでは、アドミニストレーターではないユーザーがカタログアイテムを作成、保守、公開できます。構造化されたデザインと公開プロセスが使用され、一貫性のある使用が確保されます。

サービスクリエーター

サービスクリエーターは、HR 部門が今後の教育のための授業料払い戻しを提供するといったサービスカタログを通じて部門がカスタムサービスを提供するのを可能にします。

従来のワークフロービルダーツール

Now Platform では、以下のような従来のワークフロービルダーツールをサポートしています。

クラシックの承認

クラシック承認は、作業を行う前にタスクに対する承認を要求する従来のプロセスです。以前のリリースでは、承認レコードを作成して承認タスクを定義し、ユーザーまたはグループを関連付けて承認または却下することができました。クラシック承認はフローデザイナー のフローまたはクラシックワークフローに置き換えることができます。

クラシックビジネスルール

ビジネスルールとは、レコードが表示、挿入、更新、または削除されるとき、またはテーブルに対してクエリが実行されるときに実行する、サーバー側スクリプトです。クラシックビジネスルールは フローデザイナー フローに置き換えることができます。

クラシックイベント

イベントは、特定の条件が発生したときにシステムがログに記録し、その条件に応じて何らかのアクションを実行するために使用する特別なレコードです。クラシックイベントは フローデザイナー のフローや プロセスオートメーションデザイナー のプロセスに置き換えることができます。

クラシックワークフロー

ワークフローは、プラットフォーム全体で複数ステップの処理を自動化するためのドラッグアンドドロップインターフェイスを提供します。各ワークフローは、一連のアクティビティ (レコードの生成、ユーザーへの承認待ちの通知、またはスクリプトの実行など) で構成されています。グラフィカルなワークフローエディタは、ワークフローをフローチャートのように視覚的に表します。アクティビティはそのアクティビティに関する情報でラベル付けされたボックスとして表示され、1 つのアクティビティから次の

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティビティへの移行はボックスを結ぶ線として表示されます。クラシックワークフローは フローデザイナー のフローや プロセスオートメーションデザイナー のプロセスに置き換えることができます。

アプリケーションと機能

ワークフロースタジオ

ワークフローの作成、構成、および監視を単一のページエクスペリエンスに統合します。プロセスオートメーションデザイナー、フローデザイナー、アクションデザイナー、統合ハブ 統合、および ディシジョンビルダー を 1 つの設計環境に統合します。

ワークフロースタジオのプレイブック

ワークフロースタジオ プレイブックは、プロセスオーナーが、企業間ワークフローを作成し、単一の統一されたプロセスを作成できるようにします。プレイブックエクスペリエンス のエージェントと履行者が使用するプレイブックの基礎となるプロセスをビルドします。

ワークフロースタジオのフロー

フローは、繰り返し可能な複数ステップのプロセスを自動化します。フローのトリガー条件が満たされると、フローは一連の再利用可能なアクションとフローロジックを実行してプロセスを完了します。

ワークフロースタジオのアクション

アクションは、フロー内の繰り返し可能なタスクまたは操作を自動化します。フローは、アクションに入力としてデータを渡すことでアクションを実行します。アクションは、一連のステップを実行してタスクを完了し、データを出力としてフローに渡します。

ワークフロースタジオのディシジョンテーブル

ワークフロースタジオ ディシジョンテーブルを使用すると、開発者は意思決定ルールを作成して維持することで、意思決定ロジックをコードから分離することができます。

Playbook Experience (プレイブックエクスペリエンス)

ワークスペース の中から、ビジネスワークフローをリアルタイムで操作します。エージェントはプレイブックを使用して、レコードの更新や添付ファイルのアップロード、複数のワークフローアクティビティでのタスクの完了などを行うことができます。

サービスクリエーター

サービスクリエーターは、HR 部門が今後の教育のための授業料払い戻しを提供するといったサービスカタログを通じて部門がカスタムサービスを提供するのを可能にします。

クラシックの承認

クラシック承認は、作業を行う前にタスクに対する承認を要求する従来のプロセスです。以前のリリースでは、承認レコードを作成して承認タスクを定義し、ユーザーまたはグループを関連付けて承認または却下することができました。

クラシックビジネスルール

ビジネスルールとは、レコードが表示、挿入、更新、または削除されるとき、またはテーブルに対してクエリが実行されるときに実行する、サーバー側スクリプトです。

クラシックイベント

イベントは、特定の条件が発生したときにシステムがログに記録し、その条件に応じて何らかのアクションを実行するために使用する特別なレコードです。

クラシックワークフロー

ワークフローは、プラットフォーム全体で複数ステップの処理を自動化するためのドラッグアンドドロップインターフェイスを提供します。各ワークフローは、一連のアクティビティ (レコードの生成、ユーザーへの承認待ちの通知、またはスクリプトの実行

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

など) で構成されています。グラフィカルなワークフローエディタは、ワークフローをフローチャートのように視覚的に表します。アクティビティはそのアクティビティに関する情報でラベル付けされたボックスとして表示され、1 つのアクティビティから次のアクティビティへの移行はボックスを結ぶ線として表示されます。

関連 **ServiceNow** アプリケーションと機能

App Engine Studio

ServiceNow® App Engine Studio (AES) は、さまざまなスキルレベルの作成者が組織の当面のニーズを満たすアプリケーションをビルドするための開発ツールです。

ERP 統合ERP キャンバスERP データハブERP キャンバス

SAP などの ERP SoR のリモートテーブル、および API や ETL を操作して、Now Platform アプリケーションのデータソースとして使用する ERP データモデルを作成します。

ERP Customization Mining

Now Platform へ移行する候補となる ERP カスタマイズアプリを特定します。Now Platform を使用し、アプリケーションと機能をビルドし、ERP プロセスとワークフローを自動化します。

Integration Hub

ServiceNow® フローデザイナー用に ServiceNow のコンポーネントを使用して統合タスクを自動化するか、カスタム統合を開発します。別のサブスクリプションが必要です。

統合ハブの利用できるスポーク

スポークをアクティブ化して、統合専用のコンテンツで フローデザイナー エクスペリエンスを向上させます。事前にビルドされたフローとアクションを使用して、統合を自動化するか、または独自に統合の自動化を作成します。

MID サーバー

管理、計測、ディスカバリー (MID) サーバーは、ローカルネットワーク内のサーバーで Windows のサービスまたは UNIX のデーモンとして動作する Java アプリケーションです。ServiceNow® MID サーバーは、ServiceNow インスタンスと外部のアプリケーション、データソース、サービスの間のデータの通信や移動を支援します。

ロボティックプロセスオートメーション (RPA) ハブ

ServiceNow® ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub を使用して、組織のエンドツーエンドの自動化を有効にします。UI インタラクション、要素ベースの自動化、およびさまざまなビジネスアプリケーション間でやり取りする API を組み合わせて使用することで、ユーザーアクションをエミュレートし、日常の反復的な人的アクティビティをなくすことができます。

仮想エージェントデザイナー

仮想エージェントデザイナー は、仮想エージェントとユーザー間の会話の詳細計画であるトピックを作成および管理するためのダイアグラムツールです。ユーザーが一般的な作業の問題を解決するのに役立つトピックを設計したり、セルフサービスのタスクを通してサポートしたりできます。

Now Assist for Creator

クリエーターの Now Assist には、Now Platform での開発をより効率化できる生成 AI スキルが含まれています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

servicenow

開始

インストール

クリエーターの Now Assist をインストールします。

アプリの生成

AI が生成したテーブル、エクスペリエンス、ロールをテキストプロンプトに合わせて調整して、簡素化されたアプリを生成します。

アプリのサマリー生成

生成 AI を使用してアプリの動作を要約します。

カタログアイテムの生成

生成 AI を使用してカタログアイテムを生成します。

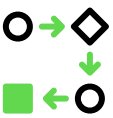
コード生成

テキストプロンプトまたはコードプロンプトに基づいて AI が生成したコードを使用して素早くスクリプトを記述するために役立ちます。

データの可視化の生成

会話のインタラクションからプラットフォームアナリティクスアーティファクトを生成します。

フロー生成

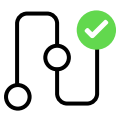


テキストの指示からフローのアウトラインを生成します。

フローの推奨事項

フローの次のステップの推奨事項を生成します。

プレイブック生成



テキストの指示からプレイブックのアウトラインを生成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロセスマイニング 作業メモを特定し、非効率性、課題、および作業の再アサインの原因となるその他の理由に関するインサイトを生成します。	RPA ボットの生成 テキスト指示とプレビューのオプションから自動化とアクティビティを作成し、自動化ロジックを追加します。	スポークの生成 サードパーティの API ドキュメントスニペットからスポークを作成します。
UI 生成 自然言語を使用して実行したいことを説明することで、エクスペリエンスを作成します。	テストの生成 AI を活用してテストを生成することで、簡単な説明をもとにテストの作成を自動化します。	

重要:

- Now Assist の一部の製品/機能は現在、FedRAMP、NSC DOD IL5、オーストラリアの IRAP で保護されたデータセンターのお客様、セルフホスト型のお客様、またはその他の制限された環境のお客様は利用できません。詳細については、Now Support ナレッジベース 記事「KB0743854」を参照してください。将来のリリースで可用性の更新を確認してください。
- 現在、一部の地域のお客様は一部の Now Assist 製品/機能をご利用いただけません。詳細については、Now Support ナレッジベースの記事「KB1699552」を参照してください。将来のリリースで可用性の更新を確認してください。

トラブルシューティングとサポート

- ワークフロー自動化製品 - ServiceNow コミュニティ
- Known Error Portal で既知のエラー記事を検索
- 連絡先カスタマーサービス & サポート

AI の制限事項

このアプリケーションは、データ内のパターンに基づいて予測を生成する急速に進化している研究分野である人工知能 (AI) と機械学習を使用しています。その結果、このアプリケーションは必ずしも正確、完全、または適切な情報を生成するとは限りません。さらに、このアプリケーションがユースケースに合わせて完全にトレーニングまたはテストされているという保証はありません。これらの問題を軽減するために、自身のユースケースに適した精度、損害、適切性についてこのアプリケーションの使用をテストおよび評価し、出力に対する人間による監視を採用し、意思決定の目的のために AI で生成された出力のみに依存しないようにすることは、ユーザーの責任です。これは、医療、ファイナンス、法務、雇用、セキュリティ、インフラストラクチャなど、結果が影響を与える分野にこのアプリケーションを展開することを

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

選択した場合に特に重要です。お客様は、「ServiceNow AI Acceptable Use Policy」に従うことに同意していただきます。その利用規定は、ServiceNow によって更新される場合があります

データ処理

このアプリケーションでは、ServiceNow 顧客の個々のインスタンスから一元化された ServiceNow 環境にデータを転送する必要があります。この環境は、インスタンスが存在するデータセンターとは異なるデータセンターリージョンに配置されている可能性があり、場合によっては Microsoft Azure などのサードパーティクラウドプロバイダーにも転送されます。このデータは、コアコンプライアンスポータルから利用可能なポリシーを含む、ServiceNow の内部ポリシーと手順に従って処理されます。

データコレクション

ServiceNow は、このアプリケーションの入力、出力を収集して使用し、出力を編集して、ServiceNow モデルや AI 製品などの ServiceNow テクノロジーを開発および改善します。さらに、このアプリケーションは スキルの使用状況メトリクス。 お客様は、「Now Assistオプトアウトに関するページ」の説明に従って、いつでも将来のデータコレクションをオプトアウトできます。

詳細については、Now Assistドキュメントを参照してください。

Now Assist for Creator のインストール

クリエーターの Now Assist アプリケーションをインストールして、生成 AI 機能をワークフローに追加します。

始める前に

- 必要なロール：admin
- 依存関係、ライセンスやサブスクリプションの要件、およびリリースの互換性については、ServiceNow Store の クリエーターの Now Assist アプリケーションリストを確認してください。
- Washington DC パッチ 1 以降にアップグレードします。このリリースの詳細については、「利用可能なパッチとホットフィックス」を参照してください。
- ネクストエクスペリエンスを有効にします。ネクストエクスペリエンス の有効化の詳細については、「Next Experience の有効化に関する考慮事項」を参照してください。

手順

1. ServiceNow Store の クリエーターの Now Assist アプリケーションに移動します。

   重要: クリエーターの Now Assist では別のサブスクリプションが必要です。

2. クリエーターの Now Assist アプリケーションページで、[アプリを要求] を選択します。
3. 承認を取得した後で、インスタンスで、[すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション]に移動します。
4. フィルター基準と検索バーを使用して、クリエーターの Now Assist アプリケーション (sn_now_creator) を検索します。
5. [インストール] を選択します。

次のタスク

サポートする クリエーターの Now Assist スキルをオンにします。クリエーターの Now Assist スキルを使用する各ユーザーに now.assist.creator ロールを付与します。

Now Assist Creator [now.assist.creator]

このロールは、ユーザーに クリエーターの Now Assist スキルへのアクセス権を付与します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

含まれるロール

このロールに含まれるロールはありません。

グループ

このロールがデフォルトでアサインされているグループのリスト。

なし。

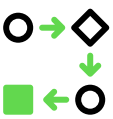
特別な考慮事項

なし。

ワークフロースタジオ

ワークフローの作成、構成、および監視を単一のページエクスペリエンスに統合します。プレイブック、フロー、アクション、ディシジョンテーブル、統合を 1 つの設計環境に統合します。

開始

詳細 ワークフロースタジオ の概念と機能について学びます。	構成 ワークフロービルダーの構成
使用  ワークフローとワークフローコンポーネントのビルド	参照 ロールおよびシステムプロパティを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローアシスト	プレイブックアシスト
テキストプロンプトからフローを生成し、フローの次のステップに関する推奨事項を生成します。	テキストの指示からプレイブックアウトラインを生成します。

トラブルシューティングとサポート

- ワークフロー自動化製品 - ServiceNow コミュニティ
- Known Error Portal で既知のエラー記事を検索
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート

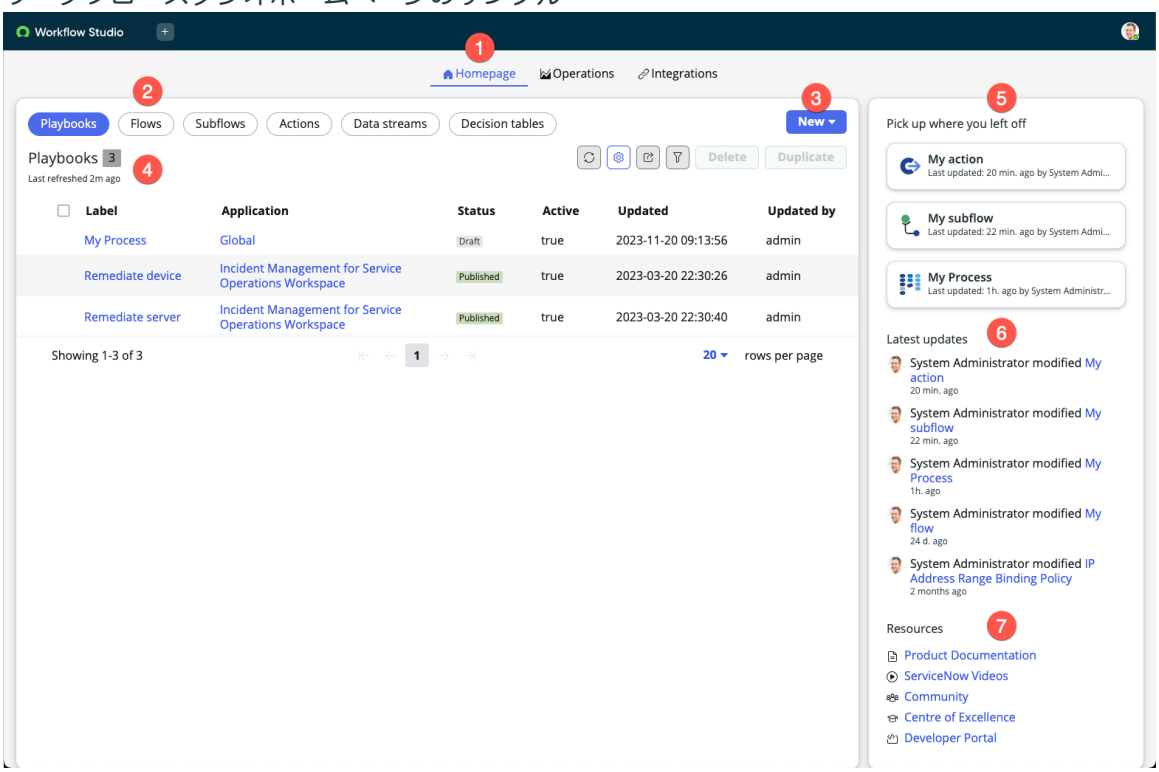
ワークフロースタジオ の詳細

プレイブック、フロー、サブフロー、アクション、データストリーム、意思決定テーブルを単一の統合されたインターフェイスから操作します。ワークフローアプリケーションの運用の詳細を確認し、統合接続と資格情報を構成します。

ホームページ

ワークフロースタジオホームページには、作成と編集に使用できるすべてのワークフローアプリケーションが表示されます。

ワークフロースタジオホームページのサンプル



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロースタジオホームページは次の要素で構成されています。

1. ホームページ

   ホームページを使用して、ワークフローを作成および表示します。タイプ別のワークフローのリスト、最後に作業したワークフローのリスト、最近のワークフローの更新のリスト、および情報リソースのリストを表示できます。

2. ワークフロータイプ

   ワークフロータイプを選択すると、編集可能なアイテムのリストが表示されます。オプションには、プレイブック、フロー、サブフロー、アクション、データストリームアクション、意思決定テーブルが含まれます。

3. ワークフローの作成

   作成するワークフローコンポーネントを選択します。オプションには、プレイブック、フロー、サブフロー、アクション、データストリームアクション、意思決定テーブルが含まれます。

4. 現在のワークフローリスト

   編集可能なワークフローアイテムのリストを表示します。各リストには、使用可能なワークフローアイテムの合計数、リストコントロールのセット、および各ワークフローアイテムの個別のリスト行が表示されます。リストオプションには、リストの更新、リストアクション、URL のコピー、フィルターパネルの表示、削除が含まれます。

5. 前回閲覧した画面に戻る

   現在のユーザーが前回作業したワークフローアイテムの一覧を表示します。ワークフローアイテムの作業をすばやく再開します。

6. 最新のアップデート

   最近追加または更新されたワークフローアイテムのリストを表示します。アイテムの作業者と更新日時を確認します。

7. リソース

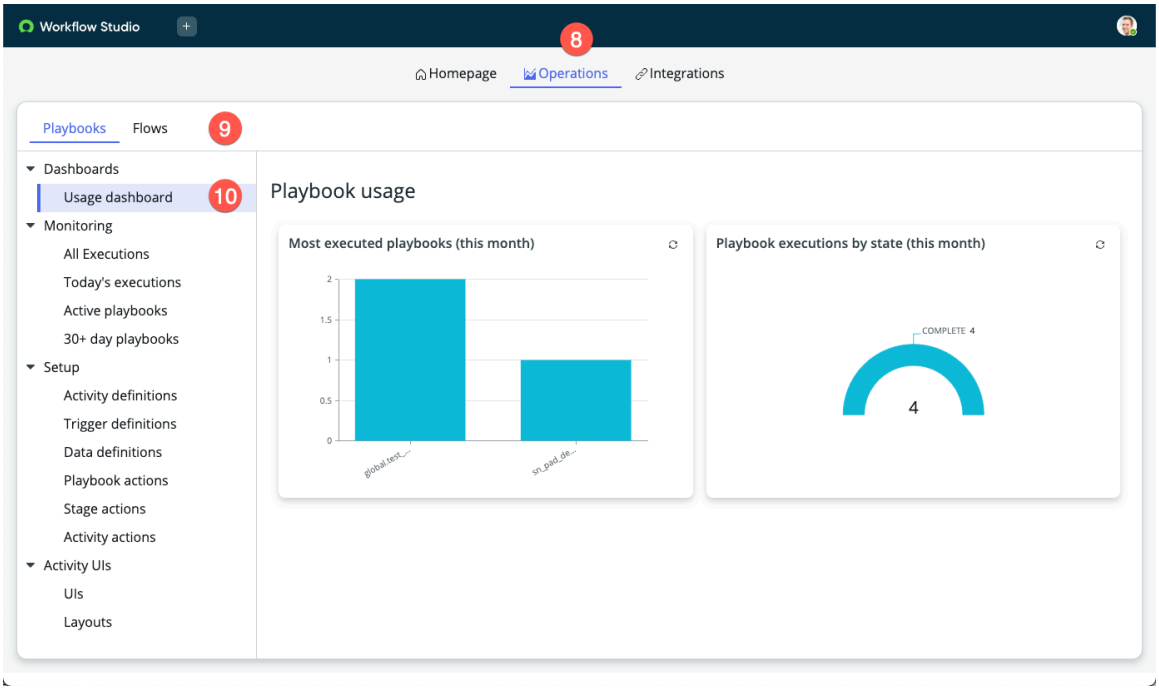
   ワークフロースタジオとそれに関連するワークフローアプリケーションの詳細について学びます。リソースには、製品ドキュメント、ServiceNow ビデオ、ServiceNow コミュニティサイト、センターオブエクセレンスサイト、および Developer Portal へのリンクが含まれます。

オペレーション

ワークフロースタジオ操作ページには、現在実行中および実行が完了したワークフローコンポーネントの使用状況ダッシュボードと実行の詳細が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロースタジオ操作ページのサンプル



ワークフロースタジオ操作ページは次の要素で構成されています。

8. 操作

   操作ページを使用して、ダッシュボードとワークフロータイプ別の実行の詳細を確認します。

9. ワークフロータイプ

   ワークフロータイプを選択すると、利用可能なダッシュボードと実行の詳細が表示されます。オプションには、プレイブックとフローが含まれます。

10. ダッシュボード、監視、およびセットアップ

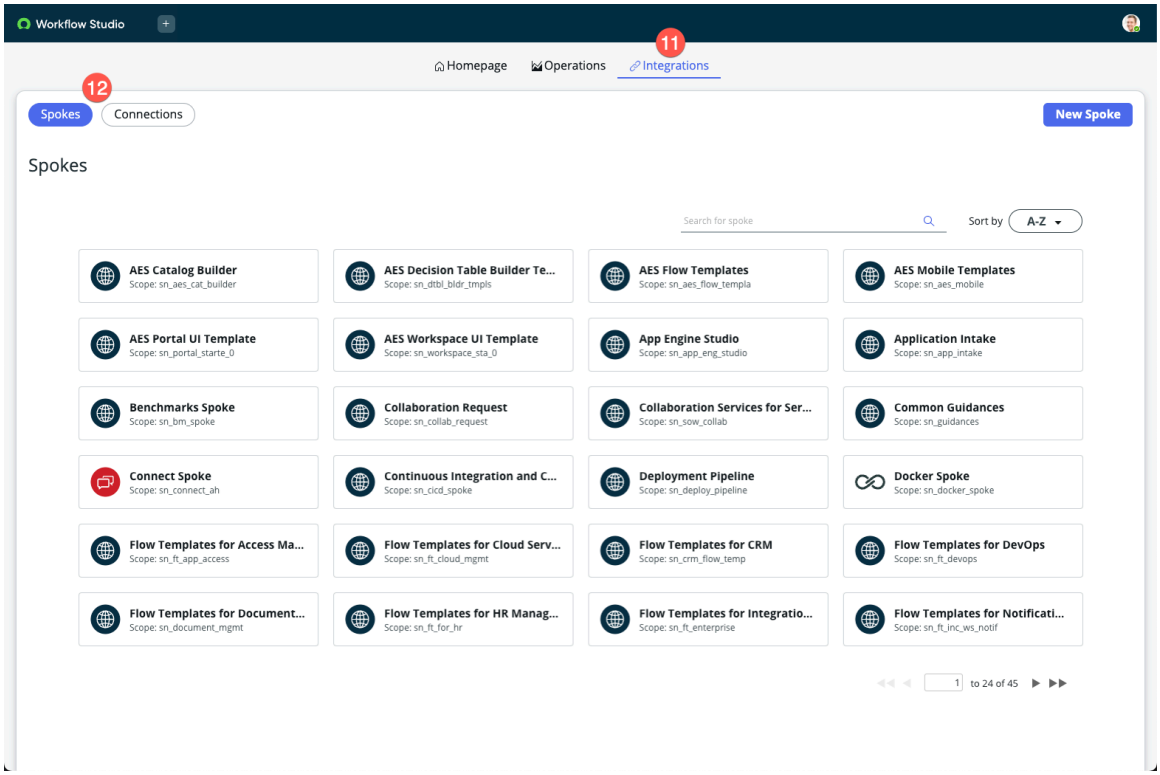
    ダッシュボードを選択すると、最も実行されたプレイブックやステータス別のプレイブック実行などの運用チャートが表示されます。admin ロールを持つユーザーのみが運用ダッシュボードを表示できます。監視オプションを選択すると、実行の詳細が表示されます。セットアップオプションを選択すると、設定とプロパティが表示されます。

統合

ワークフロースタジオ統合ページには、統合ハブスポークの接続の詳細が表示されます。このページを使用して、インバウンドおよびアウトバウンドのスポーク接続を設定できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロースタジオ統合ページのサンプル



ワークフロースタジオ統合ページは次の要素で構成されています。

11. 統合

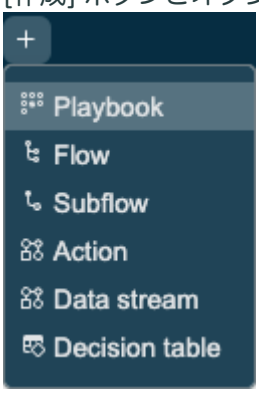
    [統合] ページを使用して、利用可能な接続を追加、構成、または表示します。

12. 統合タイプ

    利用可能で構成済みのスポークと接続のリストを表示します。データを統合するためのスポークを構成または作成します。接続カードを使用して、接続を構成するか、その詳細を確認します。

[作成] ボタン

[作成] ボタンとオプションメニュー



Xanadu リリース以降、ホームページだけでなく、任意のワークフロースタジオページから新しいワークフローアイテムを作成できます。タブヘッダーの [作成] ボタンを使用して、使用可能なワークフローコンポーネントのリストを表示します。

- プレイブック
- フロー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- サブフロー
- アクション
- データストリーム
- ディシジョンテーブル

プレイブックとフローどちらか一方の選択

フロー、サブフロー、およびアクションは、プロセスの自動化の基本的な構成要素です。プレイブックは、フロー、サブフロー、およびアクションに基づいて構築され、既に構築されているサブフローによって駆動される、すぐに利用可能な一連のアクティビティが付属しています。自動化を単なるフローではなくプレイブックにするかどうかを決定する場合は、まずフローにユーザーのインタラクションが必要かどうかを判断することから始めます。

- プロセスの自動化でユーザーの操作が必要な場合、手動でのユーザー操作は必要ですか？手動によるユーザーインタラクションの例としては、ナレッジベース記事の閲覧、チェックリストの確認、フィードバックの収集などが挙げられます。
  - 「はい」の場合は、プレイブックを使用します。
  - 「いいえ」の場合、プロセス自動化には複数のユーザーインタラクションがありますか？ユーザーインタラクションの例としては、インシデントステータスの変更やタスク作業メモの追加など、レコードフィールド値の変更が挙げられます。
    - 「はい」の場合は、ユーザーエクスペリエンスを向上させるためにプレイブックの使用を検討してください。
    - 「いいえ」の場合は、フローを使用します。フローでは、インスタンス内のデータストレージが少なくなります。
- プロセスの自動化がユーザーのインタラクションを必要としない場合、それは一連のサブフロー呼び出しですか？
  - 「はい」の場合、管理が難しいですか、またはフローを表示するのが困難ですか？
    - 「はい」の場合は、ユーザーエクスペリエンスを向上させるためにプレイブックの使用を検討してください。プレイブックのステージは見やすくなり、追加の構成オプションもあります。
    - 「いいえ」の場合は、フローを使用します。フローでは、インスタンス内のデータストレージが少なくなります。
  - プロセスの自動化でユーザーのインタラクションが必要ない場合は、フローのままにしておきます。フローでは、インスタンス内のデータストレージが少なくなります。

注: インタラクティブなステップのためだけにプレイブックをトリガーするフローを使用することもできます。

プレイブックをフローにすべきかどうかを判断しようとしている場合は、まずプレイブックが毎秒 10 回、100 回、あるいは 1,000 回トリガーされるかどうかを判断することから始めます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- プレイブックが毎秒 10 回、100 回、または 1,000 回トリガーされる場合、ユーザーインタラクションはありますか？
  - 「はい」の場合、ユーザーインタラクションは実行のたびに行われますか？
    - 「はい」の場合は、プレイブックを使用します。プレイブックは、プロセスのどの段階にいるかを可視化します。特に、手動でのユーザーステップを使用するビジネスプロセスではなおさらです。
    - いいえの場合は、ユーザーインタラクションのプレイブックをトリガーするフローを作成します。
  - 「いいえ」の場合は、フローを使用します。フローでは、インスタンス内のデータストレージが少なくなります。
- プレイブックが頻繁にトリガーされない場合は、プレイブックとして保持します。プレイブックは、プロセスのどの段階にいるかを可視化します。特に、手動でのユーザーステップを使用するビジネスプロセスではなおさらです。

フロー、サブフロー、アクション、プレイブックでディシジョンテーブルを参照できます。データストリームは、フロー、サブフロー、アクション、プレイブック、またはディシジョンテーブルでは使用されません。データストリームの詳細については、「データストリームアクションおよびページネーション」を参照してください。

以前のリリースとの違い

ワークフロースタジオ は、プレイブック、フロー、サブフロー、アクション、ディシジョンテーブル、および 統合ハブ 統合を組み合わせて単一のビルダーアプリケーションにします。以前の各ワークフローアプリケーションはそれぞれ、ワークフローオブジェクトを作成および編集するための機能とユーザーインターフェイスを保持しています。ワークフロースタジオ では、次の変更が導入されています。

重複するメニューアイテムから ワークフロースタジオ にアクセスする

ワークフロースタジオ は、個別のワークフロービルダーアプリケーションの既存のメニューアイテムを使用して、対応するワークフローオブジェクトタイプを開きます。たとえば、[プロセスオートメーションデザイナー] メニューアイテムを選択すると、ワークフロースタジオ ホームページのプレイブックリストが開きます。

統合接続を構成する

ワークフロースタジオ を使用すると、統合コンポーネントをビルドするときと同じユーザーインターフェイスで統合を構成できます。たとえば、データストリームアクションを作成し、その接続の詳細を定義することもできます。

任意のページからワークフローコンポーネントを作成する

Xanadu リリース以降、ワークフロースタジオでは、ホームページだけでなく、任意のページからワークフローコンポーネントを作成できます。

各ワークフロータイプを個別のタブに表示する

ワークフロースタジオ は、各ワークフローオブジェクトタイプを独自のタブに表示します。たとえば、プレイブックは [プレイブック] タブで開き、フローは [フロー] タブで開きます。

異なるワークフロータイプを同時に編集する

ワークフロースタジオ は、すべてのワークフローオブジェクトタイプを単一のユーザーインターフェイスに統合します。個別のワークフロービルダーアプリケーションを切り替えるのではなく、関連するワークフローオブジェクトを同時に操作できます。たとえば、意思決定フローロジックを含むフローを作成し、その意思決定で使用するディシジョンテーブルを作成することもできます。

既存のプロパティページからアプリケーション固有の設定を行う

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロースタジオ は、既存のシステムプロパティページを使用して、各ワークフローアプリケーションの設定を追加および構成します。たとえば、フローのプロパティページを開いて、フロー、サブフロー、およびアクションの動作を構成します。

すべての利用可能な実行の詳細を表示する

ワークフロースタジオ には、すべてのワークフローオブジェクトタイプの実行の詳細が含まれます。特定のオブジェクトタイプの実行の詳細を表示するためにアプリケーションを切り替える必要がなくなりました。

プレイブックの探索

ワークフロースタジオ プレイブックは、プロセスオーナーが、企業間ワークフローを作成し、単一の統一されたプロセスを作成できるようにします。プレイブックエクスペリエンス のエージェントと履行者が使用するプレイブックの基礎となるプロセスをビルドします。

お知らせ

- プロセスオートメーションデザイナーはワークフロースタジオの一部になりました。ワークフロースタジオを使用すると、プレイブック、フロー、サブフロー、アクション、および意思決定テーブルを 1 つの場所で簡単な方法で作成、構成、および監視することができます。
- プロセスはプロセスオートメーションデザイナーと呼ばれるようになりましたが、プレイブックエクスペリエンスはまだワークフロースタジオ内からアクセスできない別のアプリケーションのままです。
- ワークフロースタジオのコアプロセスオートメーションデザイナービルダーはデフォルトで Now Platform® で引き続き入手できますが、最新のアップデートは ServiceNow® Store でプロセスオートメーションデザイナーアプリケーションからダウンロードできます。
- 最新の更新の詳細については、「Xanadu のリリースノート」を参照してください。

プロセスオートメーションデザイナー のメリット

ワークフロースタジオ プロセスオートメーションデザイナーを使用すると、ビジネスプレイブックオーナーが企業間のデジタル化された統一プロセスにフローデザイナーコンテンツを整理できます。プロセスオートメーションデザイナー を使用すると、次のメリットが得られます。

- 複数のフローとアクションをエンドツーエンドのビジネスワークフローに接続します。
- 既存のフローデザイナーのフロー、サブフロー、またはアクションを再利用して、プレイブックアクティビティを自動化します。
- デジタル化されたタスクボードまたはダイアグラムインターフェイスでプレイブックアクティビティを整理します。
- 複雑なプレイブックを使用してエージェントと履行者を最初から最後までガイドし、カスタマーエクスペリエンスとタスク解決を改善します。ワークフロースタジオでプレイブックをビルドし、プレイブックエクスペリエンスを設計して従来のワークスペース、UI ビルダー、ServiceNow モバイルプラットフォーム、サービスポータルなどに埋め込みます。
- 組織全体の個別のビジネスプロセスを統合します。
- 作成から完了まで一貫したレコードライフサイクルを定義します。
- アクティビティとビジネスプロセスのステージ間でデータを渡します。
- アクティビティとステージを実行する条件と順序を指定します。
- プロセスのアクティビティとステージをビジュアル化して管理します。

適切に設計されたプレイブックの作成

設計した自動ビジネスプロセスは、エンドユーザーをガイドし、エンドユーザーが重要なタスクや情報に集中できるようにサポートします。適切に設計されたプレイブックでは、次のことができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- エンドユーザーが関心を持っているレコードのタイプに対して、自動的に起動またはトリガーします。
- 既存の ワークフロースタジオ コンテンツのアクティビティを再利用します。
- 適切に定義されたステージがあり、エンドユーザーがステージをたどってレコードを見ることができます。
- エンドユーザーがレコードのライフサイクルを進めるために実行する必要のある次のステップを明確に示します。

プロセスオートメーションデザイナー のコンテンツ

プロセスオートメーションデザイナー には次のコンポーネントがあります。

プレイブック
: 「プレイブック」は、Now Platform® では組織の企業間ビジネスプロセスを指します。プレイブックオーナーは、プレイブックの作成と維持を担当します。

トリガー
: 「トリガー」は、プレイブックの実行を開始するタイミングを指定します。

ステージ
: 「ステージ」は、プレイブック内のグループ化された一連のアクティビティです。プレイブックオーナーは、アクティビティの論理グループを指定するステージを作成します。 ビジネスプロセス全体の中の 1 つのステージ。

アクティビティ
: 「アクティビティ」は、プレイブックの自動化を強化するワークフロースタジオコンテンツを定義します。アクティビティでは、プレイブックの実行時に生成されるユーザー向けのエクスペリエンスを指定することもできます。

プロセスオートメーションデザイナー ユーザーインターフェイスの使用方法と操作方法の詳細については、「プロセスオートメーションデザイナー」を参照してください。

はじめに

プロセスオートメーションデザイナー の使用を始める前に、次のことを行ってください。Now Platform での操作 (フロー、サブフロー、アクションなど) を自動化するには、自社で使用しているすべての機能をよく理解しておいてください。

プレイブックオーナーがビジネスプロセスのデジタル化の基礎を学びたい場合は、次のリソースを確認してください。

- ServiceNow® Process Automation の使用を開始する
- プロセスを開始する
- 最初の自動化プロセスを設計する
- プロセス実行を表示する

ServiceNow Process Automation アドミニストレーターが プロセスオートメーションデザイナー の設定とカスタマイズを行う場合は、次のリソースを確認してください。

- トリガー
- プロセス定義
- アクティビティ定義

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プレイブックユーザーエクスペリエンス

ワークフロースタジオ プロセスオートメーションデザイナーが Now Platform® で、部門横断型プロセスを自動化し、エンドユーザー向けのタスク指向のビューに統合するためにどのように機能するかを理解してください。

[すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] > [プレイブック]は、プレイブックオーナーがプレイブックをビルドするための設計環境です。一方、ランタイムエクスペリエンスでは、プレイブックエージェントなどのエンドユーザーがプレイブックに従ってビジネスプロセスを完成させます。

設計環境

ワークフロースタジオのプロセスオートメーションデザイナーの設計環境は次のコンポーネントで構成されています。

プロセスオートメーションデザイナー

プレイブックは、プレイブックオーナーが、フローデザイナーコンテンツの複数のインスタンスを一貫したビジネスプロセスになるように構成して整理する場所です。プレイブックはトリガーと一連のステージで構成され、ステージは一連のアクティビティで構成されます。

トリガー定義

「トリガー定義」は、プレイブックを実行するために満たす必要のある条件を指定します。admin、playbook.admin、または pd_trigger_author ロールを持つユーザーは、通常、プレイブック 作成者がテンプレートとして使用できるトリガー定義を作成および構成します。トリガー定義は、プレイブックの実行を開始するために満たす必要のあるレコード操作とテーブル条件を指定します。通常、プレイブックオーナーは、プレイブックを作成するときにトリガーテンプレートを選択します。

トリガーインスタンス

トリガーテンプレートを選択すると、「トリガーインスタンス」が生成されます。トリガーインスタンスには、レコードがプレイブックの実行を開始するために満たす必要がある条件が保存されます。

ステージ

「ステージ」は、プレイブック内のアクティビティを論理的にグループ化したものです。プレイブックオーナーは、アクティビティをグループ化するステージを作成し、そのステージの実行を開始するタイミングに対する「開始ルール」を指定します。 ビジネスプロセス全体の中の 1 つのステージ。

アクティビティ定義

「アクティビティ定義」は、「サブフロー」と「アクション」の入力と出力をアクティビティインスタンスにマッピングします。サブフローの探索アクションの探索アクティビティ定義には、次の内容が含まれます。

- トリガーする「入力レコード」データをアクションまたはサブフロー入力にマッピングする「自動化プラン」
- アクションまたはサブフロー出力をプレイブックのユーザー向けビューにマッピングする「アクティビティエクスペリエンス」

通常、admin、playbook.admin、または pd_content_author ロールを持つユーザーは、アクティビティ定義を作成するときに自動化プランとアクティビティエクスペリエンスを指定します。

アクティビティインスタンス

プレイブックにアクティビティを追加すると、「アクティビティインスタンス」が生成されます。アクティビティインスタンスは、アクティビティ定義からの自動化プラン

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データマッピングを保存します。デフォルト値がプレイブックに適合しない場合は、これらのデータマッピングを変更できます。プレイブックでは、アクティビティの実行を開始するタイミングの開始ルールを指定できます。

開始ルール

開始ルールは、ステージまたはアクティビティの実行を開始するタイミングを指定します。プレイブックオーナーは、開始ルールを使用してプレイブックのどの部分を同時に実行し、どの部分を順次に実行するかを指定できます。

ワークフロースタジオ ユーザーインターフェイスの使用方法と操作方法の詳細については、「プロセスオートメーションデザイナー」を参照してください。

ランタイムエクスペリエンス

ワークフロースタジオはプロセスオートメーションデザイナーのランタイムコンポーネントを生成します。

プロセス実行

「プロセス実行」は、プレイブックの実行の詳細をコンテキストレコードに保存します。プロセス実行を使用してトラブルシューティングを行い、プレイブックが期待どおりに実行されていることを確認できます。

アクティビティの実行

「アクティビティの実行」は、アクティビティインスタンスの実行の詳細をコンテキストレコードに保存します。アクティビティ実行を使用してトラブルシューティングを行い、プレイブックが期待どおりに実行されていることを確認できます。

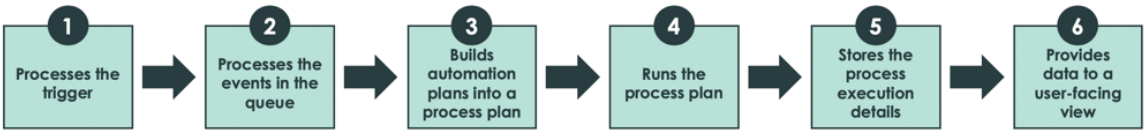
プレイブックランタイム

「プレイブックランタイム」とは、エージェントまたは履行者に対して、プレイブックが実行されているときのことです。プレイブックは、プレイブックエクスペリエンスアドミニストレーターがプレイブックを表示する方法と場所を構成した後にのみ、エージェントに対して実行されます。プレイブックの設定 に関するページ参照してください。

プレイブックの実行時に、インスタンスは次のことを行います。

1. トリガー定義で指定された条件を評価し、トリガーを処理します。
2. イベントを処理し、プレイブックの実行をバックグラウンドで開始します。
3. 各アクティビティの自動化計画をプロセス計画全体にビルドします。
4. プレイブックのプロセス計画を実行します。
5. プロセス実行 [sys_pd_context] テーブルにプロセス実行情報を保存します。
6. エージェントと履行者が体験する実行中のプレイブックビューのデータを提供します。

プレイブック処理



インスタンスは、トリガー条件を評価し、キュー内のイベントを処理し、プロセス計画をビルドして実行し、プロセス実行の詳細を保存し、プレイブックエクスペリエンスのデータを提供することによって、実行時にプレイブックを処理します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データセキュリティと HTML のサニタイズ

プロセスオートメーションデザイナー は、HTML マークアップのすべての文字列データを評価することで、クロスサイトスクリプティングやコードインジェクションから保護します。包含リストに存在する HTML マークアップのみが保持されます。他のすべての HTML マークアップは文字列データから削除されます。

包含リストは、変更できない次の HTML 要素と属性をサポートしています。

HTML 包含リスト

HTML 要素	含まれる属性
a	class、href、target、title
abbr	class、title
address	class
area	alt、class、coords、href、shape
article	class
aside	class
audio	autoplay、class、controls、loop、preload、src
b	class
bdi	class、dir
bdo	class、dir
big	class
blockquote	cite、class
br	class
caption	class
center	class
cite	class
code	class
col	align、class、span、valign、width
colgroup	align、class、span、valign、width
dd	class
del	class、datetime
details	class、open
div	class
dl	class
dt	class
em	class
emp	class
font	class、color、face、size

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

HTML 包含リスト (続く)

HTML 要素	含まれる属性
footer	class
h1	class
h2	class
h3	class
h4	class
h5	class
h6	class
header	class
hr	class
html	
i	class
img	alt、class、height、src、title、width
input	aria-label、class、type、value
ins	class、datetime
li	class
mark	class
nav	class
ol	class
p	class
pre	class
s	class
section	class
small	class
span	class
sub	class
sup	class
svg	class
strong	class
style	
table	align、border、class、valign、width
tag	class
tbody	align、class、valign
td	align、class、colspan、rowspan、valign、width
tfoot	align、class、valign

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

HTML 包含リスト (続く)

HTML 要素	含まれる属性
th	align、class、colspan、rowspan、valign、width
thead	align、class、valign
tr	align、class、rowspan、valign
tt	class
u	class
ul	class
video	autoplay、class、controls、height、loop、preload、src、width

プロセスオートメーションデザイナー

プロセスオートメーションデザイナーはワークフロースタジオのコンポーネントです。ワークフロースタジオを使用すると、プレイブック、フロー、サブフロー、アクション、および意思決定テーブルを 1 つの場所で簡単な方法で作成、構成、および監視することができます。

ワークフロースタジオ ランディングページ

[プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動すると、ワークフロースタジオのランディングページを表示できます。デフォルトではランディングページがプロセスオートメーションデザイナーに表示されますが、フロー、サブフロー、アクション、意思決定に簡単に移動することができます。ワークフロースタジオ の詳細については、「ワークフロースタジオ」を参照してください。

プロセスオートメーションデザイナービルダー

プロセスオートメーションデザイナーのビルダーは、メインヘッダー、設計スペース、サイドパネルで構成されています。

メインヘッダー

メインヘッダーには、現在設計しているプレイブックに関する情報が表示されます。メインヘッダーでは、次の操作を実行できます。

- プレイブックのステータスとアクティブ化のステータスを確認する。
- ダイアグラムビューとボードビューを切り替える。
- アクションを元に戻したり、やり直す。
- エラートレイを介してエラーを確認し、エラーに移動します。
- オプションのアクティビティ のオンとオフを切り替える。
- トリガーされたときにプレイブックが正常に実行されるよう、プロセスをテストしてアクティブ化する。テスト中にプレイブックエクスペリエンスをプレビューすることもできます。詳細については、「プレイブックのステータスとアクティブ化ステータス」を参照してください。
- [その他のアクション] メニューで、プレイブックを非アクティブ化したり複製する。
- [その他のアクション] メニューで、プレイブックのプロパティにアクセスする。プレイブックの名前や説明を追加または編集したり、プレイブックを再起動したり、トリガーの動作を編集したりできます。詳細については、「プロセス定義プロパティ」を参照してください。

設計スペース

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ダイアグラムビューまたはボードビューでプレイブックをビルドします。どちらのビューでも、ほとんど同じ機能を実行できます。

> **注:** 意思決定アクティビティはボードビューでは使用できず、オプションのアクティビティはダイアグラムビューでは使用できません。

アクティビティを複数のステージに整理して、プレイブックを設計します。

- アクティビティは、ビジネスプロセス全体の 1 つのステップを表します。アクティビティは、レコードの作成または更新、レコード情報の表示、バックグラウンドでの自動アクションの実行など、Now Platform の操作を自動化できます。
- 一連のアクティビティを、ビジネスプロセス内の複数のステージに整理します。

詳細については、「ステージとアクティビティ」を参照してください。

サイドパネル

サイドパネルでは、アクティビティとステージを構成できます。サイドパネルで可能な操作は次のとおりです。

- ステージまたはアクティビティの名前と説明を追加または編集する。
- ステージまたはアクティビティの開始ルールを定義する。
- アクティビティまたはステージの再起動時の動作を定義する。
- アクティビティの入力を追加または編集する。
- 実行中のアクティビティのレンダリング方法に関する追加のプロパティを定義する。

プレイブックの作成の詳細については、「プロセスオートメーションデザイナー の使用開始」を参照してください。

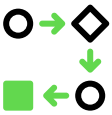
プレイブックアシスト

プレイブックアシストを使用して、テキストの指示からプレイブックアウトラインを生成します。たとえば、指示を入力して、カスタマーサポートケースを管理するためのプレイブックアウトラインを生成できます。プレイブックアシストは クリエーターの Now Assist アプリケーションの一部です。

開始

探索	構成
プレイブックアシストが何をサポートするかについて詳しく説明します	インスタンスのプレイブックアシストを有効にします

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プレイブックの生成	参照
	
プレースホルダーアクティビティを使用して プレイブックのアウトラインを作成します	プレイブックアシストを使用するために 必要なロールについて詳しく説明します

重要: Now Assist の一部の製品/機能は現在、FedRAMP、NSC DOD IL5、オーストラリアの IRAP で保護されたデータセンターのお客様、セルフホスト型のお客様、またはその他の制限された環境のお客様は利用できません。詳細については、Now Support ナレッジベース 記事「KB0743854」を参照してください。将来のリリースで可用性の更新を確認してください。

トラブルシューティングとヘルプ

- ServiceNow コミュニティ
- 既知のエラーポータルで既知のエラー記事を検索する
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート

AI の制限事項

このアプリケーションは、データ内のパターンに基づいて予測を生成する急速に進化している研究分野である人工知能 (AI) と機械学習を使用しています。その結果、このアプリケーションは必ずしも正確、完全、または適切な情報を生成するとは限りません。さらに、このアプリケーションがユースケースに合わせて完全にトレーニングまたはテストされているという保証はありません。これらの問題を軽減するために、自身のユースケースに適した精度、損害、適切性についてこのアプリケーションの使用をテストおよび評価し、出力に対する人間による監視を採用し、意思決定の目的のために AI で生成された出力のみに依存しないようにすることは、ユーザーの責任です。これは、医療、ファイナンス、法務、雇用、セキュリティ、インフラストラクチャなど、結果が影響を与える分野にこのアプリケーションを展開することを選択した場合に特に重要です。お客様は、「ServiceNow AI Acceptable Use Policy」に従うことに同意していただきます。その利用規定は、ServiceNow によって更新される場合があります

データ処理

このアプリケーションでは、ServiceNow 顧客の個々のインスタンスから一元化された ServiceNow 環境にデータを転送する必要があります。この環境は、インスタンスが存在するデータセンターとは異なるデータセンターリージョンに配置されている可能性があり、場合によっては Microsoft Azure などのサードパーティクラウドプロバイダーにも転送されます。このデータは、コアコンプライアンスポータル から利用可能なポリシーを含む、ServiceNow の内部ポリシーと手順に従って処理されます。

データコレクション

ServiceNow は、このアプリケーションの入力、出力を収集して使用し、出力を編集して、ServiceNow モデルや AI 製品などの ServiceNow テクノロジーを開発および改善します。さらに、このアプリケーションは ：コード生成用の Now Assist が呼び出されるスクリプト (および関連するスクリプトレコード) に関する情報。 お客様は、「 Now Assistオプトアウトに関するページ 」の説明に従って、いつでも将来のデータコレクションをオプトアウトできます。

詳細については、Now Assistドキュメント を参照してください。

プレイブックアシストの概要

プレイブックアシストを使用して、テキストの指示からプレイブックアウトラインを生成します。たとえば、指示を入力して、カスタマーサポートケースを管理するためのプレイブックアウトラインを生成できます。プレイブックアシストは クリエーターの Now Assist アプリケーションの一部です。

クリエーターの Now Assist は、プレイブックの生成スキルをアクティブ化します。プレイブックの生成により、プレイブック作成者に生成 AI 機能が提供されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: プレイブックの生成を使用するには、プレイブック作成者に **now.assist.creator** ロールがアサインされている必要があります。このスキルの詳細については、「プレイブックアシストのロール」を参照してください。

プレイブック作成者は、プレースホルダーアクティビティ ( ) を使用してマルチステージのプレイブックを作成するためのテキストの指示を提供できます。

注: プレイブックの生成では、プレイブック内のプレースホルダーアクティビティを使用します。プレイブックをアクティブ化する前に、各アクティビティを構成します。

アクティベーション

プレイブックの生成は、クリエーターの Now Assist (sn_now_creator) アプリケーションとともにインストールされるスキルです。ServiceNow Store の Web サイトからこのアプリケーションをインストールできます。

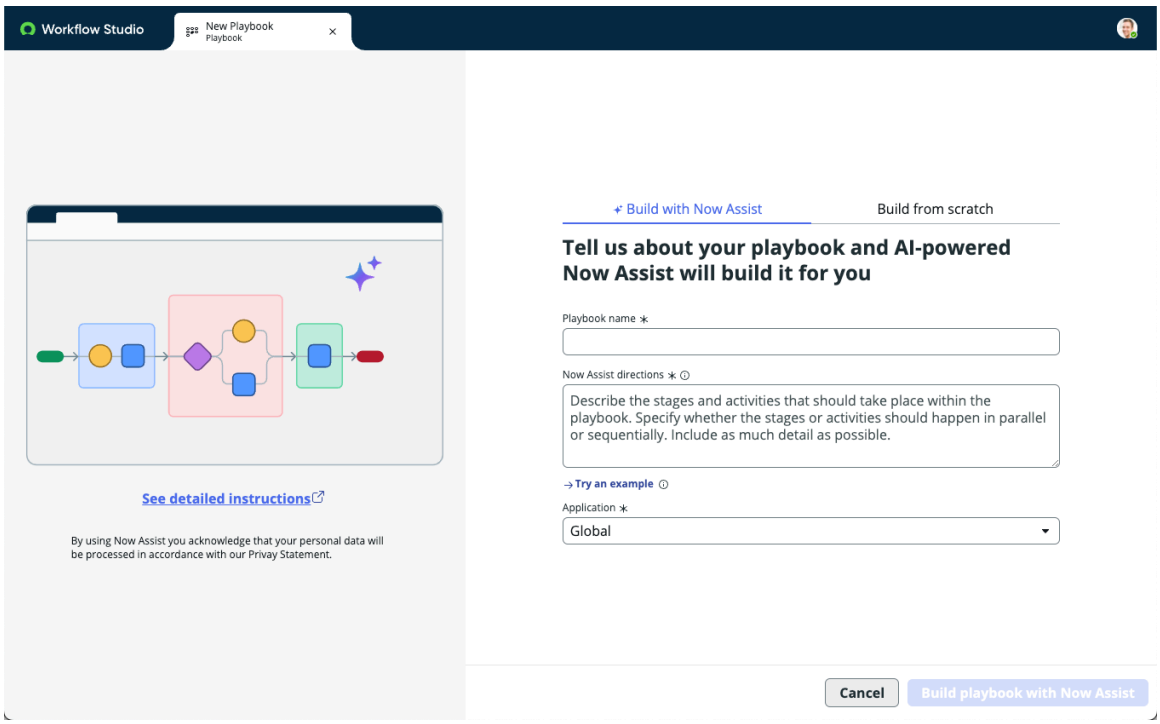
サポートされている **Now Assist** スキル

プレイブックアシストは現在、英語のプレイブックの生成スキルのみをサポートしています。

プレイブックアシストは現在、プレイブックの生成スキル、プレイブックの推奨事項スキル、および画像を使用したプレイブックの生成スキルを英語でサポートしています。画像を使用したプレイブック生成スキルは、APAC 地域でホストされている ServiceNow インスタンスでは使用できません。

サポート対象のユーザーインターフェイス

ワークフロースタジオ でプレイブックを作成している場合に、プレイブックの生成スキルにアクセスします。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロンプトの作成とプレイブックのアウトラインの確認

プレイブックの生成スキルを使用してプレイブックを作成する場合は、次のガイドラインに従ってください。

プロンプトの作成：

プレイブックにわかりやすい名前を付ける

プレイブック名が分かりやすくなるほど、Now Assist で作成できるプレイブックの質が向上します。

指示を正確かつ説明的にする

- 各ステージとアクティビティをできるだけ詳しく説明します。
- ステージとアクティビティを実行する順序を指定します。
- ステージまたはアクティビティを同時に実行するかどうかを指定します。

プロンプトを試す

プロンプトを、変更されたバージョンも含めてどこかに保存します。プロンプトを保存すると、結果を簡単に比較できます。

> **注:** プレビューの生成にのみ使用されるプロンプトは保存されませんが、保存されたプレイブックのアウトラインに使用されるプロンプトはプレイブックの [プロパティ] 設定にあります。

プレイブックのアウトラインの確認：

正確性の確認

生成されたプレイブックの各ステージとアクティビティを確認して、正確性、効率性、およびビジネスプロセスの概要をどの程度適切に示しているかを判断します。

プレースホルダーアクティビティを構成する

プレイブックをアクティブ化する前に、プレースホルダーアクティビティを構成します。プレイブックの推奨事項を使用して、アクティビティ定義の選択に役立てます。

アクティビティサイドパネルでアクティビティ定義を構成する

プロンプトの例

次の例は、プレイブックのアウトラインを生成するために役立ちます。

プレイブックプロンプトの例 1：従業員のオンボーディング

このプロンプトを使用して、新入社員のオンボーディングプロセス用のプレイブックを作成できます。

```
Create an employee onboarding playbook that integrates new
 hires into the organization.
HR initiates it upon job offer acceptance, gathering documents,
 assigning mentors, providing orientation,
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
setting up IT access, ensuring compliance, and job-specific
 training. The playbook ends with feedback from the employee
 and HR,
resulting in an onboarding checklist.
```

プレイブックプロンプトの例 2：カスタマーサポート

このプロンプトを使用して、カスタマーサポートケースに対してエージェントが実行するステップを含むプレイブックを作成できます。

```
Create a customer support playbook which is the primary point
 of contact for handling customer inquiries,
problems, and requests. It starts by receiving and categorizing
 customer inquiries based on urgency and complexity.
Support tickets are then assigned to agents who troubleshoot
 and resolve them, with the option to escalate to higher
support tiers if needed. After resolution, follow-up with the
 customer is crucial. A satisfaction survey gathers feedback
 for
improvement, and all interactions are documented, updating the
 knowledge base for future reference.
```

プレイブックプロンプトの例 3：出張旅費精算

このプロンプトを使用して、従業員の出張旅費を管理するためのプレイブックを作成できます。

```
Create a travel expense reimbursement playbook for managing
 employee travel expenses efficiently.
Employees submit expense reports with valid receipts.
 Finance verifies expenses against policies, ensuring budget
 compliance.
Managers approve expenses, initiating payment processing.
```

プレイブックプロンプトの例 4：コントロールドキュメント

このプロンプトを使用して、コントロールドキュメントを管理するためのプレイブックを作成できます。

```
Create a playbook for generating, reviewing, and approving a
 control document. Suppliers and Quality managers collaborate
to upload documents and conduct appropriate refinement before a
 final document is approved.
```

プレイブックプロンプトの例 5：サプライヤー評価

このプロンプトを使用して、潜在的なサプライヤーが認定基準を満たしているかどうかを評価するためのプレイブックを作成できます。

```
Create a playbook for qualifying a new supplier. Suppliers
 request qualification. Quality managers review and approve
qualification requests, plan qualification deliverables,
 execute qualification activities, and summarize qualification
 findings in a report.
The playbook concludes by determining if the supplier has
 achieved the requested qualification.
```

プレイブックプロンプトの例 6：ハードウェアインベントリ

このプロンプトを使用して、ハードウェアインベントリを管理するためのプレイブックを作成できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
Create a playbook that manages hardware inventory. This
 playbook should efficiently track stock levels, update in
 real-time,
and generate alerts for low inventory. It must support
 categorization, bar codes, and seamless integration with sales
 and procurement systems.
```

注: プレイブックプレビューを生成または再生成すると、10 アシストとしてカウントされます。Now Assist の使用状況を追跡するには、「サブスクリプション管理 での Now Assist 使用状況のモニタリング」を参照してください。

プレイブックアシストの構成

クリエーターの Now Assist アプリケーションでプレイブックアシストスキルを有効にすると、プレイブックのビルドをより迅速に開始できます。

プレイブックアシストをインストールする

クリエーターの Now Assist アプリケーションをインストールして、プレイブックアシスト生成 AI 機能をプレイブックに追加します。

始める前に

- 依存関係、ライセンスやサブスクリプションの要件、およびリリースの互換性については、ServiceNow Store の クリエーターの Now Assist アプリケーションリストを確認してください。
- Washington DC パッチ 1 以降にアップグレードします。このリリースの詳細については、「利用可能なパッチとホットフィックス」を参照してください。
- プロセスオートメーションデザイナー 25.2 以降にアップグレードします。 ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。
- ネクストエクスペリエンスを有効にします。ネクストエクスペリエンス の有効化の詳細については、「Next Experience の有効化に関する考慮事項」を参照してください。
- 必要なロール：admin

手順

1. ServiceNow Store の クリエーターの Now Assist アプリケーションに移動します。

   重要: クリエーターの Now Assist では別のサブスクリプションが必要です。

2. クリエーターの Now Assist アプリケーションページで、[アプリを要求] を選択します。
3. 承認を取得した後で、[すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション]に移動します。
4. フィルタークライテリアと検索バーを使用して、クリエーターの Now Assist アプリケーション (sn_now_creator) を検索します。
5. [インストール] を選択します。

タスクの結果

クリエーターの Now Assist がインスタンスにインストールされます。

次のタスク

クリエーターの Now Assist を構成してプレイブックアシストスキルをオンにします。プレイブックアシストスキルを使用する各ユーザーに now.assist.creator ロールを付与します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プレイブックの生成スキルをオンにする

生成 AI を使用して クリエーターの Now Assist プレイブックのアウトラインを作成するには、プレイブックの生成スキルをオンにします。

始める前に

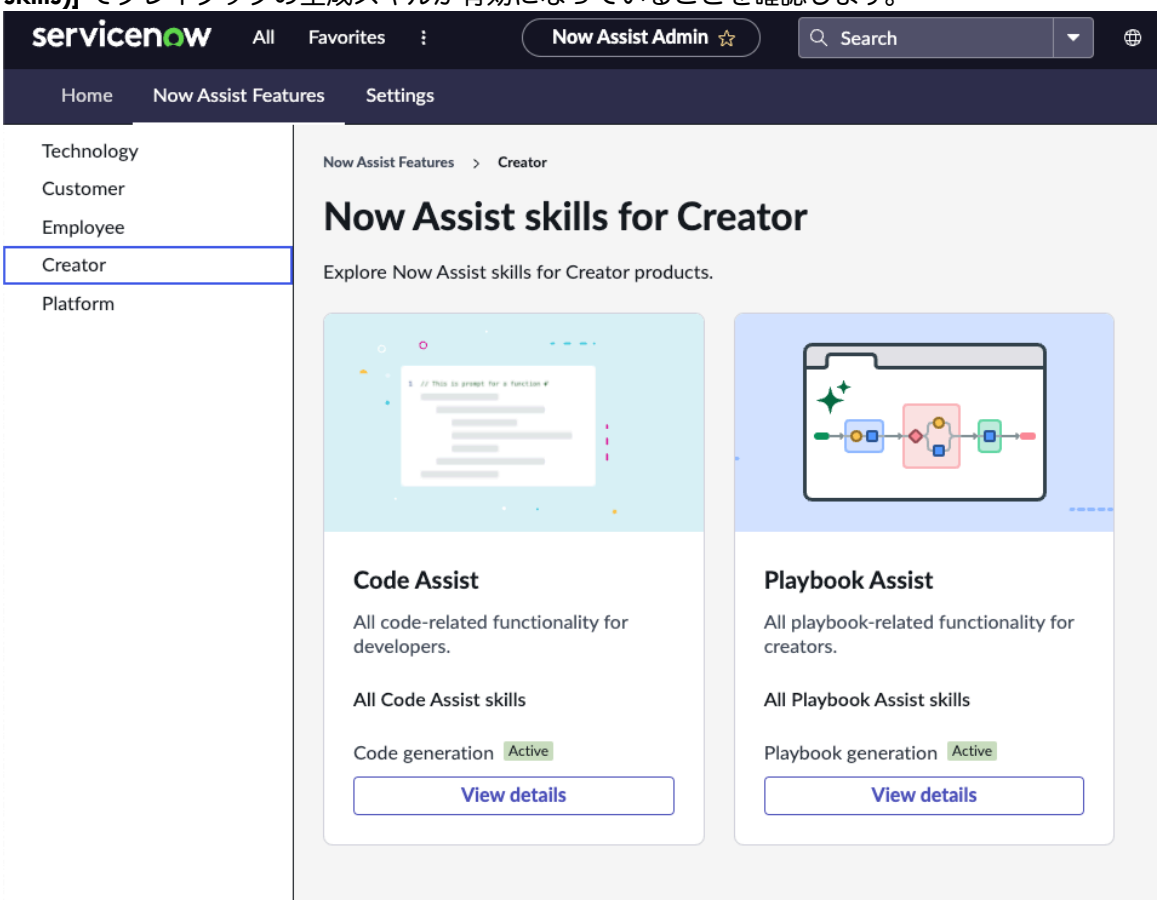
- クリエーターの Now Assistアプリケーションのインストール
- 必要なロール：admin

このタスクについて

重要: プレイブックの生成スキルには、個別の クリエーターの Now Assist のサブスクリプションが必要です。

手順

1. [すべて] > *Now Assist* アドミン > [機能]に移動します。
2. ワークフローリストで、[作成者] を選択します。
3. プレイブックアシストカードで、[詳細を表示] を選択します。
4. [利用可能なすべてのプレイブックアシストスキル **(All available Playbook Assist skills)**] > [プレイブックの生成 **(Playbook generation)**] > [スキルをオンにする **(Turn on skill)**]を選択します。
5. [プレイブックアシスト] カードで、[すべてのプレイブックアシストスキル **(All Playbook Assist skills)**] でプレイブックの生成スキルが有効になっていることを確認します。



タスクの結果

プレイブックアシストスキルがインスタンスで有効になっています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
プレイブックの生成スキルを使用する権限を持つ各ユーザーに now.assist.creator ロールを付与します。

プレイブックの推奨事項をオンにする

プレイブックの推奨事項スキルをオンにして、AI 検索を使用してプレースホルダーアクティビティで使用するアクティビティ定義の推奨事項を取得します。

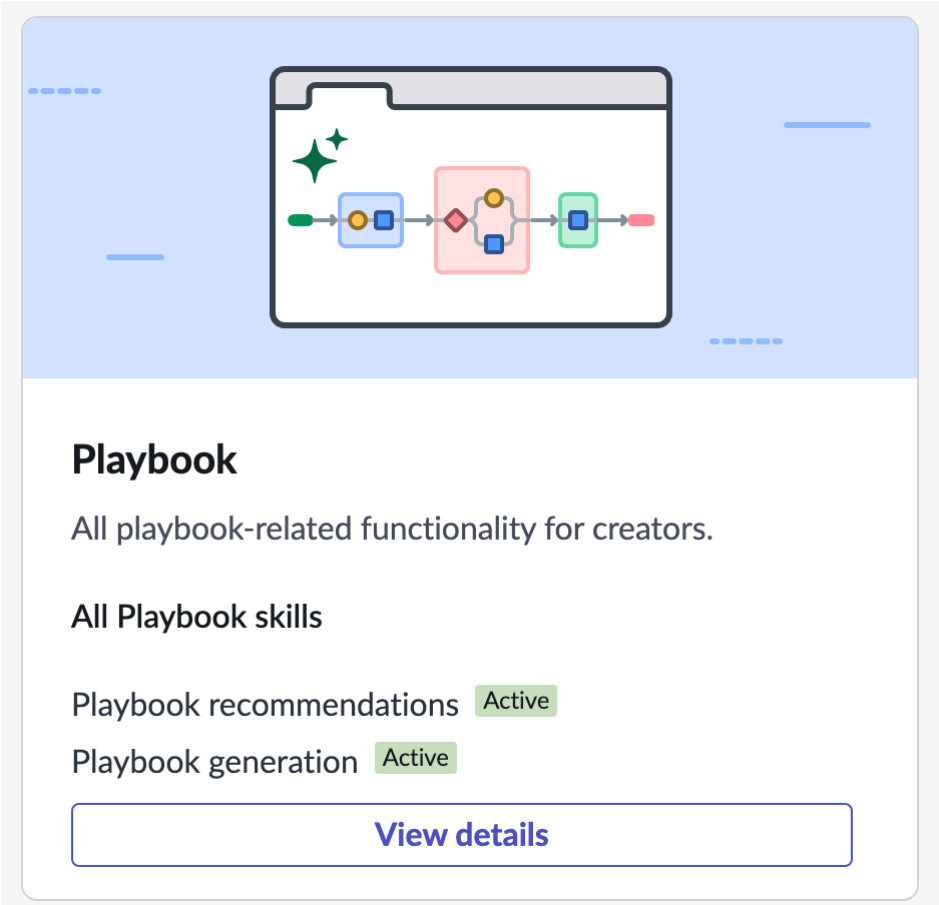
始める前に

- 必要なロール：admin
- クリエーターの Now Assist アプリケーションをインストールします。

> **重要:** プレイブックの推奨事項スキルには、 個別の クリエーターの Now Assist のサブスクリプションが必要です。

手順

1. [すべて] > **[Now Assist** アドミン] > [機能] に移動します。
2. ワークフローリストで、[作成者] を選択します。
3. プレイブックアシストカードで、[詳細を表示] を選択します。
4. [利用可能なすべてのプレイブックアシストスキル **(All available Playbook Assist skills)]** > [プレイブックの推奨事項] > [スキルをオンにする]を選択します。
5. [プレイブックアシスト] カードで、[すべてのプレイブックアシストスキル **(All Playbook Assist skills)]** でプレイブックの推奨事項スキルが有効になっていることを確認します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
プレイブックの推奨事項スキルを使用する各ユーザーに **now.assist.creator** ロールを付与します。

プレイブックを生成する

プレースホルダーアクティビティを使用してプレイブックのアウトラインを作成するためのテキストの指示を Now Assist に提供します。

https://player.vimeo.com/video/982759426?h=24780a7fa3&badge=0&autopause=0&player_id=0&app_id=58479

始める前に
より適切なプレイブックを生成するためのプロンプトを記述する方法について説明します。詳細については、「プロンプトの作成とプレイブックのアウトラインの確認」を参照してください。

必要なロール：

- admin、playbook.admin、pd_author、または委任開発者権限
- now.assist.creator

手順

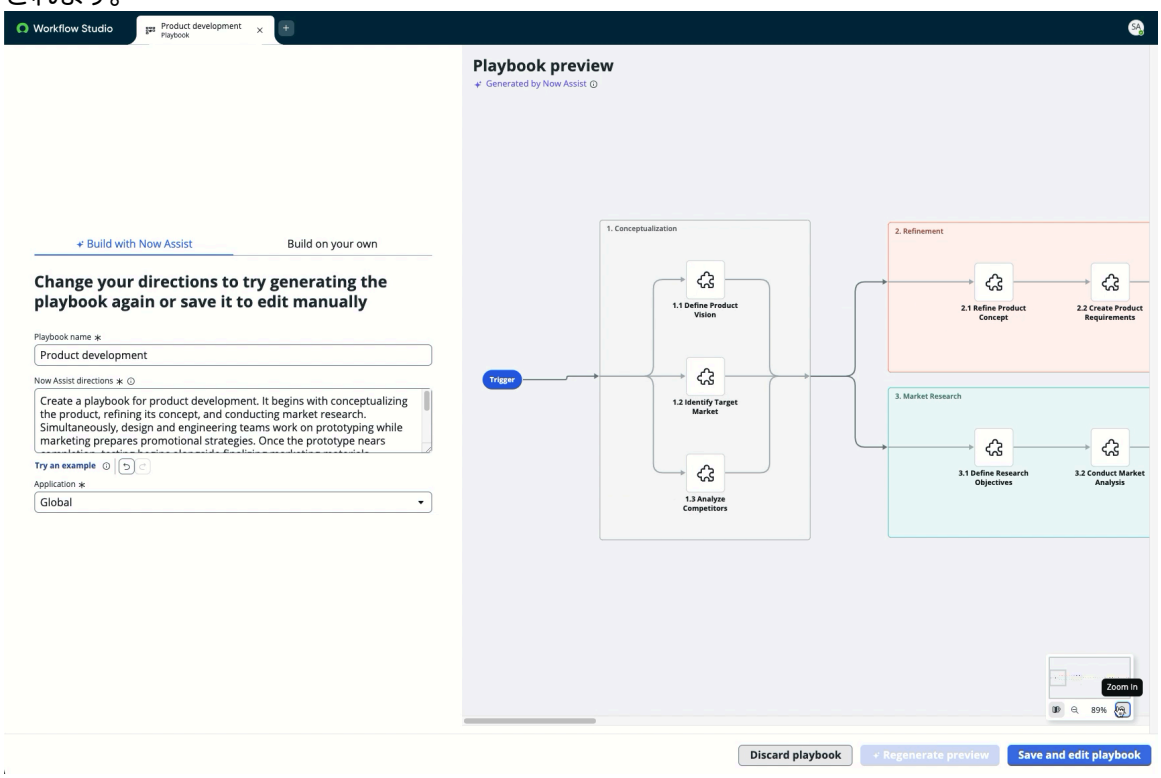
1. [すべて] > [ワークフロースタジオ]に移動します。
   ワークフロースタジオ ランディングページが表示されます。プロセスオートメーションデザイナーはデフォルトで表示されますが、フロー、サブフロー、アクション、意思決定に切り替えることができます。
2. [新規] ドロップダウンメニューを開き、[プレイブック] を選択します。
   プレイブック が ワークフロースタジオ タブで開きます。**[Now Assist** を使用したビルド **(Build with Now Assist)]** がデフォルトの方法ですが、[ゼロから構築します] に切り替えることもできます。
3. **[Now Assist** を使用したビルド **(Build with Now Assist)]** タブに留まり、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
ラベル	プレイブックの一意のユーザー向けの名前を入力します。この名前は、実行時にエージェントと履行者にも表示されます。
Now Assist の指示	アウトラインを作成するプレイブックに関する指示。 指示は正確かつ分かりやすいものにしてください。 ◦ 各ステージとアクティビティをできるだけ詳しく説明します。 ◦ ステージとアクティビティを実行する順序を指定します。 ◦ ステージまたはアクティビティを同時に実行するかどうかを指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
アプリケーション	プレイブック を実行するアプリケーションスコープ。[グローバル] を選択すると、任意のアプリケーションスコープでプレイブックを実行できます。詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。 **重要:** プレイブックのプレビューを生成した後に、プレイブックのアプリケーションスコープを変更することはできません。

4. [プレイブックプレビューの生成 **(Generate playbook preview)]** を選択します。
ワークフロースタジオ はテキストの指示を使用してプレイブックのアウトラインをビルドします。成功すると、ワークフロースタジオ のダイアグラムビューにプレイブックのプレビューが表示されます。

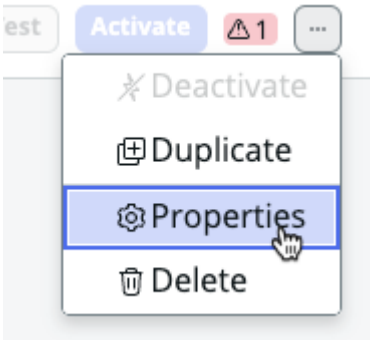


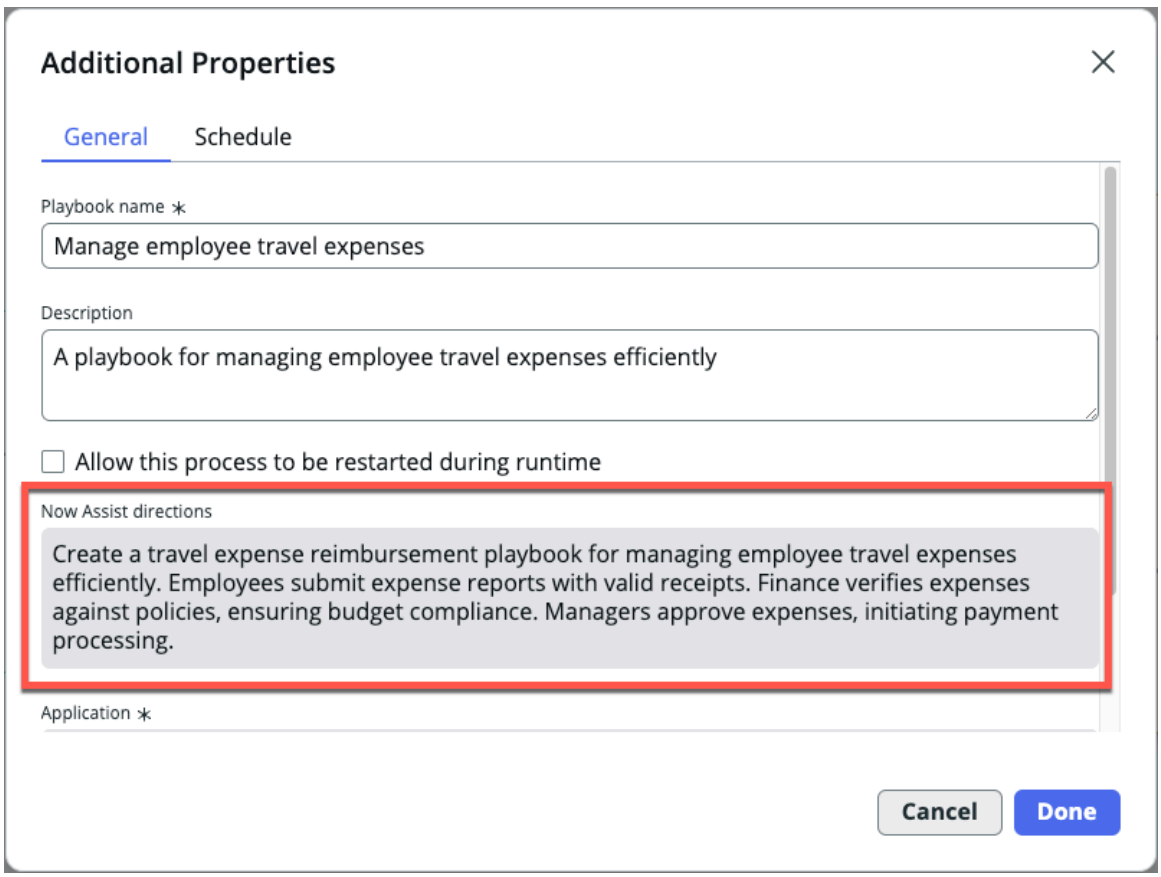
5. オプション: プレビューを水平方向にスクロールし、必要に応じてズームインおよびズームアウトします。
6. プレイブックのプレビューが正確であることを確認してください。
7. オプション: プレイブックのアウトラインが要件を満たしていない場合は、「プロンプトの作成とプレイブックのアウトラインの確認」に従ってプロンプトを書き換えて、[プレビューを再生成 **(Regenerate preview)]** を選択します。
8. プレイブックのアウトラインを生成する準備ができたら、 [プレイブックの保存と編集 **(Save and edit playbook)]** を選択します。

注: プレイブックのプレビューを生成または再生成すると、10 アシストとしてカウントされます。Now Assist の使用状況を追跡するには、「サブスクリプション管理 での Now Assist 使用状況のモニタリング」を参照してください。プレイブックを開いてもアシストとしてカウントされません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

9. オプション:
プレイブックの生成に使用されるプロンプトを表示するには、[その他のアクションメニュー] > [プロパティ] > [全般] > **[Now Assist の指示 (Now Assist directions)]**に移動します。





10. トリガーを構成します。
トリガーの詳細については、「トリガーを構成する」を参照してください。
11. プレースホルダーアクティビティを手動で選択して、プレースホルダーアクティビティを構成します。

> ヒント: 代わりに Now Assist からアクティビティ定義の推奨事項を生成するには、「プレイブックの推奨事項を生成する」を参照してください。

a. 構成するプレースホルダーアクティビティを選択します ( )。
プレースホルダーアクティビティにカーソルを合わせ、 アクティビティの置換アイコン (ミニピッカーの) を選択して、アクティビティピッカーを直接開くこともできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

b. オプション: 必要に応じて、[ラベル] と [説明] を更新します。

c. [アクティビティ定義] フィールドの下で、編集ボタン ( ) を選択します。
アクティビティピッカーが表示されます。

d. アクティビティピッカーで、追加するアクティビティ、サブフロー、またはアクションを検索します。

> 注: 最初にアプリケーションを選択して、表示されるリストからアクティビティを選択します。サブフローまたはアクションの詳細については、「サブフローまたはアクション」を参照してください。

e. アクティビティの入力を構成します。
一般的なアクティビティとその入力の詳細については、「プロセスオートメーションデザイナー参照」を参照してください。

12. オプション: 追加する必要があるアクティビティがアクティビティピッカーに表示されない場合は、アクティビティ定義を作成します。
詳細については、「アクティビティ定義の作成」を参照してください。
13. すべてのステージとアクティビティを構成したら、ヘッダーの [有効化] を選択します。
トリガーされたときに実行されるように、プレイブックを有効化して公開します。
14. オプション:

> 注: プレイブック を有効化した後に変更を加えると、変更は保存されますが、プレイブックは無効になります。

プレイブック に新しい変更を公開するには、もう一度 [有効化] を選択します。
詳細については、「プレイブックのステータスとアクティブ化ステータス」を参照してください。

タスクの結果

プレイブックのトリガー条件が満たされると、プレイブックが実行されます。その結果、プロセス実行レコードが作成され、プレイブックエクスペリエンスのユーザー向け構成がレンダリングされます。Playbook としてレンダリングされる手動ビジネスプロセスをデジタル化する方法の例については、「自動化プロセスを設計する」を参照してください。

次のタスク

UI ビルダー でエージェントと履行者の プレイブックエクスペリエンス を設計します。UI ビルダー でランタイムプレイブックエクスペリエンスを設計およびカスタマイズする方法については、「プレイブックエクスペリエンスのカスタマイズ」を参照してください。

プレイブックの推奨事項

プレースホルダーアクティビティに関する AI 生成の推奨事項を取得します。アクティビティの名前と説明に基づいて推奨事項が生成されます。

https://player.vimeo.com/video/982759426?h=24780a7fa3&badge=0&autopause=0&player_id=0&app_id=58479

アクティベーション

Now Assist の推奨事項は、クリエーターの Now Assist (sn_now_creator) アプリケーションとともにインストールされるスキルです。ServiceNow Store の Web サイトからこのアプリケーションをインストールできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

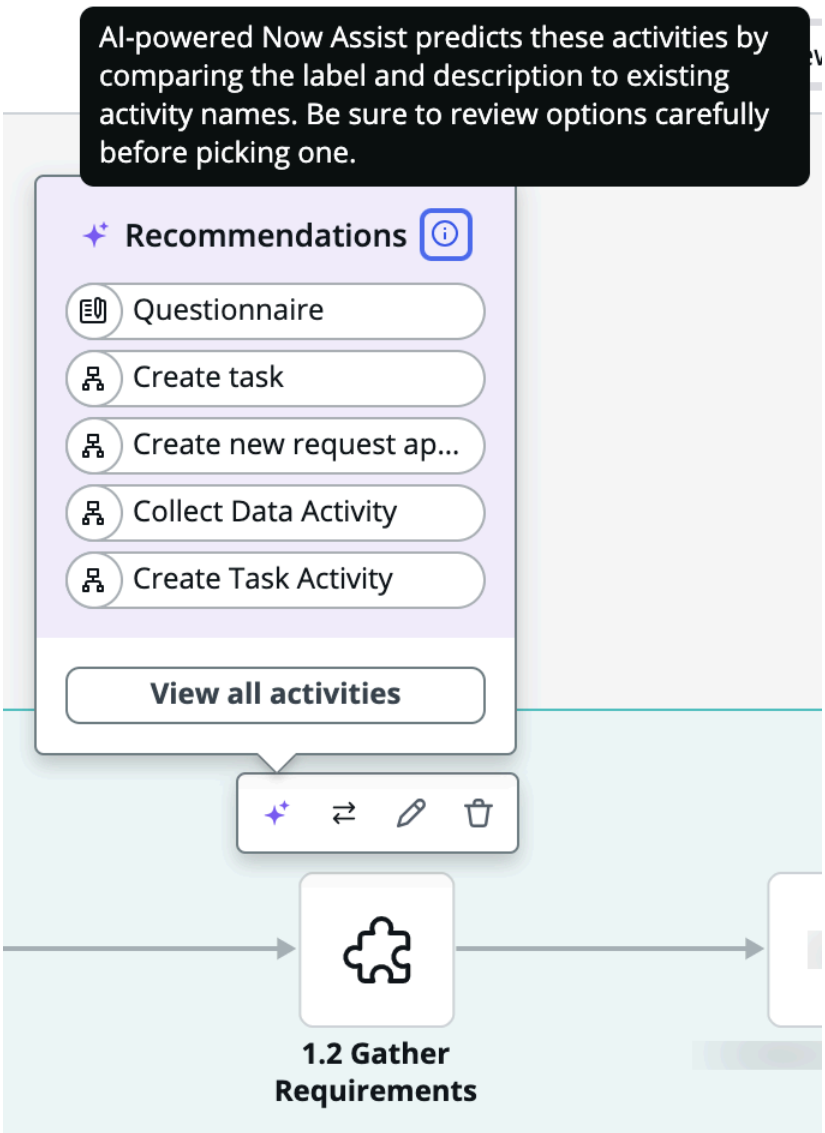
メリット

Now Assist の推奨事項スキルを有効にすると、インスタンスで利用可能なすべてのアクティビティ定義、フロー、サブフロー、およびアクションを検索するために役立ちます。これにより、プライブックのアウトラインのプレースホルダーアクティビティをより迅速に構成できるようになり、プレイブックを有効化するまでの合計時間が短縮されます。

サポート対象のユーザーインターフェイス

プロセスオートメーションデザイナー のユーザーインターフェイスから Now Assist の推奨事項スキルにアクセスします。

Now Assist の推奨事項の例



Now Assist の推奨事項スキルは、アクティビティの名前と説明を使用して、プレースホルダーアクティビティに使用するアクティビティ定義の推奨事項を 1 つから 5 つ生成します。推奨事項がリストされていない場合、アクティビティの名前と説明に関連するアクティビティ定義は考慮されません。

生成 AI モデルのトレーニング

この生成 AI の大規模言語モデルは、プレイブック作成パターンを学習するために内部 ServiceNow プレイブックで事前トレーニングされています。目標は、トリガーと以前のアクティビティを考慮し

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

て、どのプレイブックアクティビティがプレイブックの特定の位置に最も関連性の高いかを理解することでした。

AI の制限事項

このアプリケーションは、データ内のパターンに基づいて予測を生成する急速に進化している研究分野である人工知能 (AI) と機械学習を使用しています。その結果、このアプリケーションは必ずしも正確、完全、または適切な情報を生成するとは限りません。さらに、このアプリケーションがユースケースに合わせて完全にトレーニングまたはテストされているという保証はありません。これらの問題を軽減するために、自身のユースケースに適した精度、損害、適切性についてこのアプリケーションの使用をテストおよび評価し、出力に対する人間による監視を採用し、意思決定の目的のために AI で生成された出力のみに依存しないようにすることは、ユーザーの責任です。これは、医療、ファイナンス、法務、雇用、セキュリティ、インフラストラクチャなど、結果が影響を与える分野にこのアプリケーションを展開することを選択した場合に特に重要です。お客様は、「ServiceNow AI Acceptable Use Policy」に従うことに同意していただきます。その利用規定は、ServiceNow によって更新される場合があります

プレイブックの推奨事項を生成する

AI で生成された推奨事項のリストから、プレースホルダーアクティビティのアクティビティ定義を選択します。アクティビティの名前と説明に基づいて推奨事項が生成されます。

始める前に

- プレイブックの推奨事項スキルがオンになっていることを確認します。プレイブックの推奨事項スキルをオンにする方法については、「プレイブックの推奨事項をオンにする」を参照してください。
- プレースホルダーアクティビティの推奨事項は、生成されたプレイブックのアウトラインでのみ生成できます。プレイブックのアウトラインを生成する方法については、「プレイブックを生成する」を参照してください。
- 必要なロール：
  - admin、playbook.admin、pd_author、または委任開発者権限
  - now.assist.creator

手順

1. プレイブックのアウトラインで、プレースホルダーアクティビティにカーソルを合わせ、ミニピッカーの推奨事項アイコン ( ) を選択します。
2. 必要に応じて、推奨されるアクティビティ定義を 1 つ選択します。

   注: 推奨事項がリストされていない場合、アクティビティの名前と説明に関連するアクティビティ定義は考慮されません。

3. オプション: 結果を改善するには、[ラベル] と [説明] の更新を試みます。
   a. プレースホルダーアクティビティを開きます。
   b. [ラベル] と [説明] を更新します。
   c. [アクティビティ定義] フィールドで、推奨事項ボタン ( ) を選択して、推奨事項の生成を再試行します。
   d. 必要に応じて、推奨されるアクティビティ定義を 1 つ選択します。
4. プレイブックを生成する 手順のステップ 11.e からアクティビティ構成を続行します。

タスクの結果

プレイブックのトリガー条件が満たされると、プレイブックが実行されます。その結果、プロセス実行レコードが作成され、プレイブックエクスペリエンスのユーザー向け構成がレンダリングされます。Playbook としてレンダリングされる手動ビジネスプロセスをデジタル化する方法の例については、「自動化プロセスを設計する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
UI ビルダー でエージェントと履行者の プレイブックエクスペリエンス を設計します。UI ビルダー でランタイムプレイブックエクスペリエンスを設計およびカスタマイズする方法については、「プレイブックエクスペリエンスのカスタマイズ」を参照してください。

プレイブックアシストのリファレンス

参照トピックには、構成プロパティ、ロールなどに関するその他の情報が記載されています。

プレイブックアシストのロール

クリエーターの Now Assist のプレイブック生成スキルで使用するために、次のロールがインストールされます。

サブスクリプション管理 でサブスクリプションを割り当てることで、Now Platform で、購入するアプリケーションにユーザーエンタイトルメントを付与できます。サブスクリプションを割り当てるには、測定済みロールを持つ 1 つ以上のグループを製品サブスクリプションに追加します。

ユーザーごとのサブスクリプション管理の詳細については、「サブスクリプション管理 でのユーザーごとのサブスクリプションの管理」を参照し、アカウント担当者にお問い合わせください。

Now Assist Creator [now.assist.creator]

AI を利用したプレイブックの生成を使用して、プレースホルダーアクティビティでプレイブックのアウトラインを作成します。

グループ
: このロールはデフォルトでどのグループにもアサインされません。

ロールを含む
: このロールに含まれるロールはありません。

昇格
: このロールは昇格したロールではありません。

特別な考慮事項
: なし

Process Automation の使用を開始する

Process Automation アプリケーションが、Now Platform® を使用して手動ビジネスプロセスをデジタル化された自動ワークフローに変換する方法について説明します。

ServiceNow Process Automation アプリケーションは、ビジネスの企業間ワークフローのデジタル化、チャート化、および管理に役立ちます。Process Automation アプリケーションを使用してビジネスプロセスをデジタル化すると、次のようなメリットがあります。

- プロセスコンプライアンスの管理
- 継続的なプロセス改善の所有権
- 部門および部署間のコラボレーション
- プロセス結果の可視化

Process Automation アプリケーション

Now Platform でビジネスプロセスをデジタル化された自動ワークフローに変換するために使用できる ServiceNow Process Automation アプリケーションには、次のものが含まれます。

フロー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローでは、プロセスオーナーが、承認、タスク、通知、およびレコード操作を、コード化することなく自動化できるようになります。

Playbook (プレイブック)

ワークフロースタジオ プレイブックは、プロセスオーナーが、企業間ワークフローを作成し、単一の統一されたプロセスを作成できるようにします。プレイブックエクスペリエンス のエージェントと履行者が使用するプレイブックの基礎となるプロセスをビルドします。

Process Automation に関連するロール

使用する Process Automation アプリケーションによっては、自動化されたプロセスがスムーズに実行されるように、他のチームや個人との調整が必要になる場合があります。Process Automation アプリケーションのロールを整理する方法の 1 つは、次のとおりです。

- 「開発者」は、フローデザイナー を使用してフロー、アクション、およびアクティビティ定義で作業し、ビジネスプロセスの個々の部分を自動化します。
- 「プレイブックオーナー」は、プロセスオートメーションデザイナーを使用して、ビジネスプロセスの各部分をデジタル化された企業間ワークフローに整理します。
- 「プレイブックエクスペリエンスアドミニストレーター」は、適切なシステムユーザー向けのビジネスプロセスの適切なビューをプレイブック内に構成します。
- 「プレイブックエクスペリエンスエージェント」 (この場合はエンドユーザー) は、Now Platform でプレイブック内のビジネスプロセスの個々のタスクを処理および管理します。

ユーザーロール

Now Platform で効果的なデジタル化された自動化プロセスを作成するには、さまざまなユーザーロールが関連します。

Process Automation の詳細を確認する

フローデザイナー と プロセスオートメーションデザイナー を使用してビジネスプロセスをデジタル化する方法の詳細については、次のリソースを確認してください。

- フローデザイナーの基礎コース (Flow Designer fundamentals course)
- フローの探索
- プロセスオートメーションデザイナー の使用開始

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ドメインセパレーションとプロセスオートメーションデザイナー

データ分離はプロセスオートメーションデザイナーでサポートされています。トリガーとなる入力レコードのドメイン値によって、ドメインコンテキストが決まります。 ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル：ベーシック

- アプリケーションサービスプロバイダーのユースケースに合わせてデータが適切なドメインに送られるようにするビジネスロジックが存在します。
- このアプリケーションは、ドメインセパレーションを完全にサポートしています。ドメインセパレーションには、ユーザーインターフェイス、キャッシュキー、レポート、ロールアップ、および集計からのドメインの分離が含まれます。
- インスタンスのオーナーは、複数のテナント間で正常に機能するようにアプリケーションをセットアップする必要があります。

サンプルユースケース：サービスプロバイダーがチャットを使用してテナント顧客のメッセージに応答する場合、お客様がサービスプロバイダーの応答を確認できるようにする必要があります。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート)」を参照してください。

プロセスオートメーションデザイナーのドメインセパレーションの仕組み

システムドメインは、次のルールに従って プロセスオートメーションデザイナー のコンテンツを分離します。

プロセスオートメーションデザイナー のコンテンツはトリガーされるドメインから実行される

アクティビティとプロセスオートメーションデザイナーは、それらを開始したレコードまたはユーザーのドメインから実行されます。たとえば、子ドメイン ACME のユーザーが親ドメイン TOP に属するプレイブックをトリガーすると、プレイブックは子ドメイン ACME のコンテキストで実行されます。

フローデザイナー コンテンツは、呼び出し元の プロセスオートメーションデザイナー アクティビティのドメインで実行される

アクティビティ定義がアクションまたはフローを呼び出すたびに、トリガーしている プロセスオートメーションデザイナー コンテンツと同じドメインコンテキストで フローデザイナー コンテンツが実行されます。フローデザイナー コンテンツに一致するドメイン固有のプロセスの上書きがある場合、システムは代わりに上書きバージョンを実行します。プロセスオートメーションデザイナー はプロセスの上書きをサポートしていませんが、フローデザイナー 内で定義されたプロセスの上書きを使用します。

注:

- プロセスの上書きとは、ドメインセパレーションにおける上書き のタイプを指します。
- サービスプロバイダー (SP) は、ドメインセパレーション を使用して、データ、プロセス、管理タスクを定義されるグループに論理的に分けることができます。

プロセスオートメーションデザイナー 構成ファイルはすべてのドメインユーザーに表示される

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロセスオートメーションデザイナー 構成ファイルはドメインセパレーションされていません。適切なロールを持つすべてのユーザーは、すべてのプレイブック、トリガー定義、アクティビティ定義を表示できます。

関連情報

サービスプロバイダーのドメインセパレーション

フローとプレイブックを使用するタイミング

これらの一般的なガイドラインを使用して、フローまたはプレイブックを作成するタイミングを決定します。

フローを使用する場合

フロー、サブフロー、およびアクションは、プロセスの自動化の基本的な構成要素です。フローはトリガー条件が満たされると実行され、各フローは一連のアクション、フローロジック、およびサブフローを順番に実行します。フロー内のアクション、フローロジック、およびサブフローによって、データが作成および更新されます。

フローは、これらの基準を満たしたプロセスの自動化に適しています。

手動によるユーザー操作がほとんど、またはまったくないことが予想される場合

フローに必要な入力データがある限り、ユーザーの操作なしでフローを完了まで実行できます。一部のフローロジックとアクションではユーザーがレコードを変更する必要がありますが、待機条件が満たされるまでフローを自動的に一時停止できます。ナレッジベース記事の閲覧、チェックリストの確認、フィードバックの収集など、ユーザーのインタラクションに依存するプロセスの自動化は、フローでは管理が困難です。フローは、ユーザーが操作するための UI 要素を直接提供しません。フローは、ユーザーが既存の UI を見つける方法と必要な変更を行う方法を知っているかどうかに依存します。たとえば、レコードベースのフローは、ケースやインシデントなどの特定のレコードを変更するユーザーに依存します。

大量の実行が見込まれる場合

インスタンスは、毎秒数百から数千のフローを実行できます。フローレポートがデフォルトで無効になっているため、インスタンスは、パフォーマンスに影響が及ぶ前に大量のフローを実行できます。プロセスの自動化を大量に実行することが予想される場合、フローはオーバーヘッドとシステムリソースが少なくて済むため、プレイブックに適しています。

サブフローの実行がほとんどないか、まったくないことが見込まれる場合

フローが呼び出すサブフローが多いほど、フローインターフェイスからの管理が難しくなります。条件付きフローロジックまたはディシジョンテーブルを使用して実行するサブフローを選択できますが、一連のサブフローを実行するためのユーザーエクスペリエンスはプレイブックの方が優れています。

プレイブックを使用するタイミング

プレイブックはアクティビティに基づいて構築され、構築済みのフロー、サブフロー、およびアクションを構成要素として使用します。

プレイブックは、これらの基準を満たしたプロセスの自動化に適しています。

複数の手動ユーザーインタラクションが見込まれる場合

プレイブックは、ユーザーが操作するための UI 要素を提供します。プレイブックエクスペリエンスは、プレイブックを進めるために必要な変更を加えるようにユーザーをガイドします。

少量の実行が見込まれる場合

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プレイブックは UI 要素を生成し、より多くの実行の詳細を保存するため、実行するためにより多くのシステムリソースを必要とします。

多くのサブフローの実行が見込まれる場合

プレイブックは、一連のサブフローを実行するためのユーザーエクスペリエンスを向上させます。

フローの探索

フローは、繰り返し可能な複数ステップのプロセスを自動化します。フローのトリガー条件が満たされると、フローは一連の再利用可能なアクションとフローロジックを実行してプロセスを完了します。

https://player.vimeo.com/video/1007933352?badge=0&autopause=0&player_id=0&app_id=58479

フローの概要

「フロー」は、トリガーおよび一連の再利用可能なアクションとフローロジックからなる自動化されたプロセスです。トリガーは、フローを実行するタイミングを指定します。アクションは、データに対して一連の操作を実行します。たとえば、**VTB** のフローのサンプルは、優先度 1 のインシデントが作成されるたびに VTB カードを作成してアサインします。

フローは、次のコンポーネントで構成されています。

トリガー

「トリガー」は、フローを実行するタイミングを指定します。トリガー条件が満たされると、トリガーによって提供されたデータを使用してフローが実行されます。 ワークフロースタジオ は、レコード、サービスカタログ要求、スケジュールトリガーなどのさまざまなトリガータイプをサポートしています。使用可能なトリガータイプの説明については、「ワークフロースタジオ フロートリガータイプ」を参照してください。

フロー実行の詳細

フロー実行の詳細ページを使用すると、フロー作成者はアクションまたはフローに関するランタイム情報を設計環境から直接表示できます。現在の状態、実行されたアクションまたはステップ、生成された出力値、生成されたエラーなどの詳細を表示できます。「フロー実行の詳細」を参照してください。

フローエラーハンドラー

フローエラーハンドラーを使用すると、フロー実行の詳細からエラーを検出して報告できます。一連のアクションとサブフローを実行して、問題を特定して修正します。たとえば、エラー発生時に、フローログ出力値を取得し、通知を送信し、修正サブフローを実行するようにします。「フローエラーハンドラー」を参照してください。

サブフロー

「サブフロー」は、一連の再利用可能なアクション、データ入力、およびデータ出力からなる自動化されたプロセスです。フローとは対照的に、サブフローにはトリガーがなく、代わりにフロー、別のサブフロー、またはスクリプトからの呼び出し時に実行されます。サブフローのビルドおよび管理にあたっては、アプリケーションやプロセスが使用する Now Platform のテーブルおよびフィールドについて、ある程度の知識が必要になります。プロセスアナリストは、利用可能なアクションを使用してサブフローを作成したり、既存のサブフローをテンプレートとして使用したりすることができます。「サブフローのビルド」を参照してください。

アクション

「アクション」は、コードを書かなくてもプロセスアナリストが Now Platform 機能を自動化できるようにする再利用可能な操作です。たとえば、[レコードを作成] アクションによって、プロセスアナリストは、特定の条件が発生したときに特定の値を持

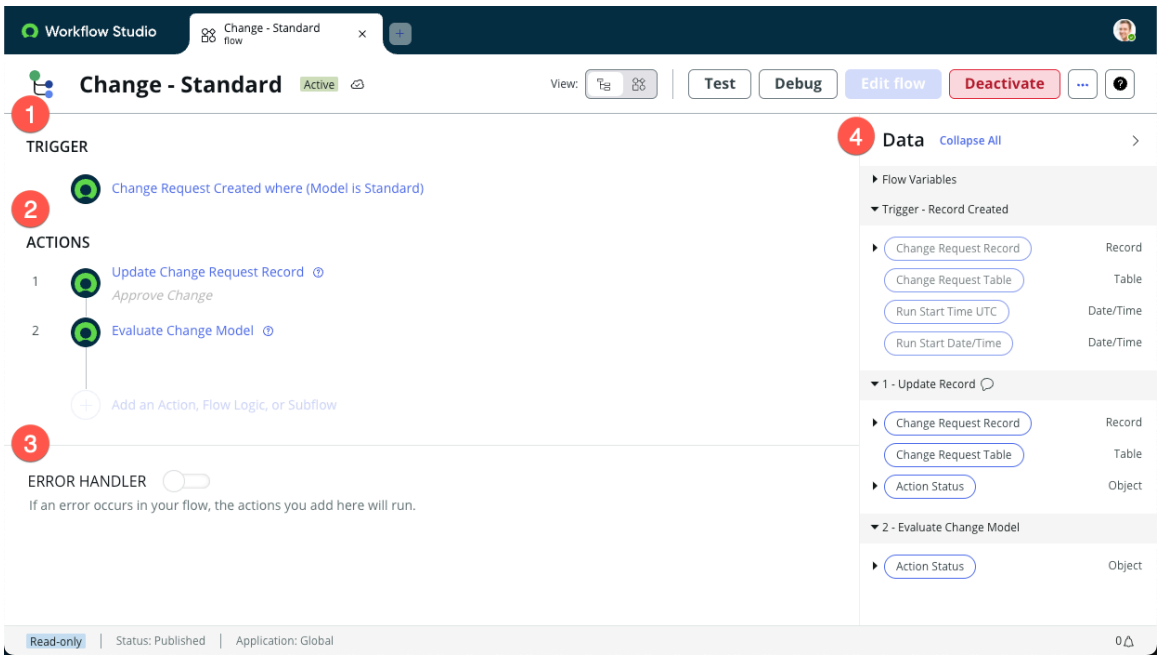
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

つ特定のテーブルにレコードを生成することができます。[レコードを作成] のような ServiceNow コアアクションでは、Now Platform テーブルとフィールドに精通している必要があります。アクションデザイナーは、アプリケーション固有のアクションを作成して、構成の詳細をあらかじめ設定することができます。たとえば、[インシデントタスクを作成] アクションを作成すると、アクションが使用されるたびにプロセスアナリストが正しいテーブルとフィールドの構成を使用するようになります。関連するスポークを有効化することによって、アプリケーション固有のアクションを追加できます。 「ワークフロースタジオ アクション」を参照してください。

スポーク

「スポーク」は、特定のテーブルを管理するための フローデザイナー アクションとサブフローを含むスコープ対象のアプリケーションです。たとえば、**[ITSM** スポーク] には、インシデントレコードと問題レコードを管理するためのアクションが含まれています。ServiceNow ストアから追加のスポークを有効にするか、適切なプラグインを有効にできます。独自のスポークをビルドするには、Now Platform のアプリケーション開発に精通している必要があります。利用可能なスポークの一覧については、「スポーク」を参照してください。

フローのセクション



フローは 4 つのセクションで構成されます。

1. [トリガー] セクション

   [トリガー] セクションでは、フローを実行するタイミングを選択して定義します。 各トリガータイプで、フローを開始するタイミングと利用可能な初期データを定義します。トリガーには、レコード操作、日付、およびアプリケーション操作に対するものがあります。☒

   フローは、レコードベース、スケジュールベース、およびアプリケーションベースのトリガータイプをサポートしています。利用可能なトリガータイプの詳細については、「ワークフロースタジオ フロートリガータイプ」を参照してください。

2. [アクション] セクション

   [アクション] セクションでは、フローを構成するステップを選択して構成します。関連するピッカーを開くと、 アクション、 フローロジック、および サブフロー をフローに追加できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デザインキャンバスの各アイテムの横には連番が表示されます。アクション番号は 1 から始まり、フローにアイテムを追加すると 1 ずつ増えていきます。

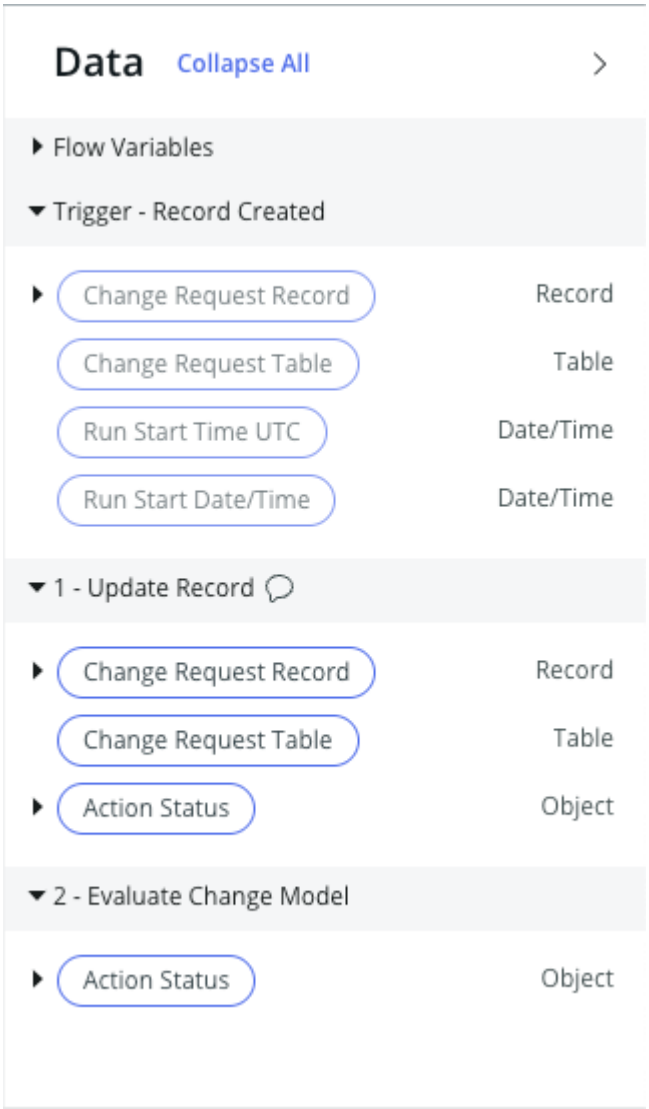
3. [エラーハンドラー] セクション

   フローの [エラーハンドラー] セクションでは、フローでエラーをキャッチして修正できます。[エラーハンドラー] セクションの使用の詳細については、「フローエラーハンドラー」を参照してください。

4. [データ] パネル

   フローでは、収集または生成されたすべてのデータが変数として [データ] パネルに保存されます。データ変数はそれぞれ独自のピルを持っています。フローデザイナーは「ピル」を使用して、変数値をアクションの入力または出力にドラッグすることができます。フローでは、内容とそのデータタイプに基づいてピル名が生成されます。ピルの横には変数のデータ タイプが指定されます。

データパネル内のフローデータの例



アクション構成

アクションピッカーを開いて、フローにアクションを追加します。アクションは、入力値を指定することにより設定します。入力値は、フロートリガーからのデータまたは他のアクションの出力です。入力の値を直接入力するか、[データ] パネルのデータを使用してアクションの入力を設定します。フローの開始時に、データはフロートリガーまたはサブフローの入力に制限される場合があります。ア

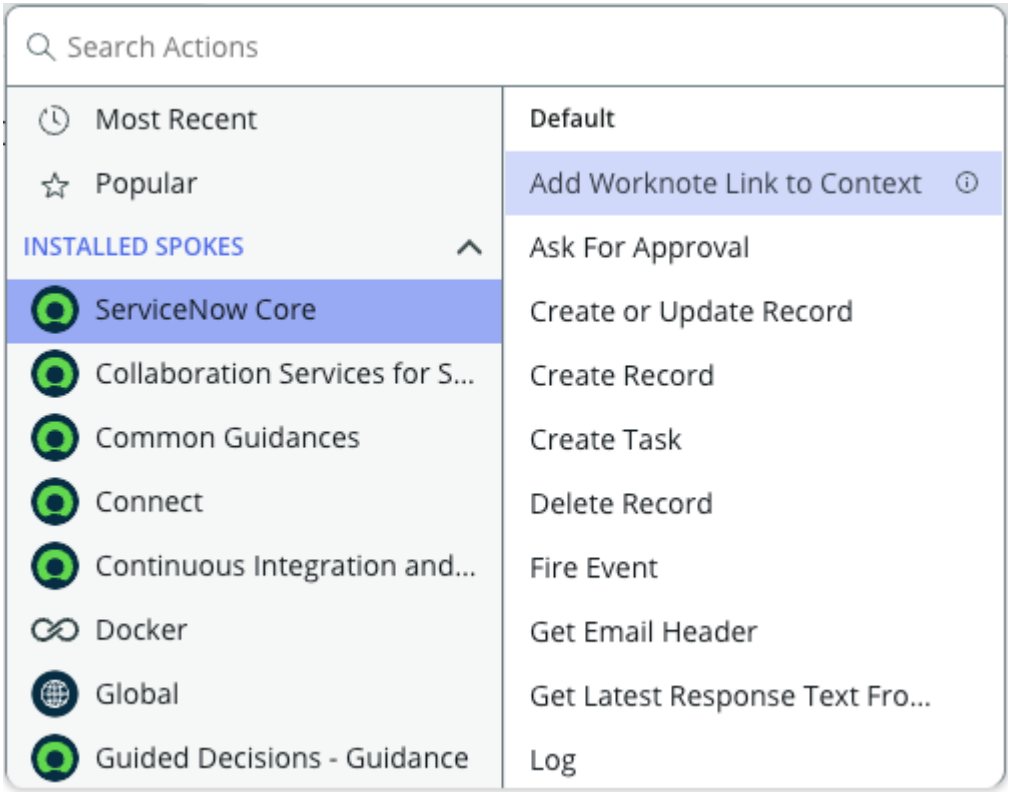
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クションをフローに追加すると、各アクションの出力値がデータピルとして [データ] パネルに表示されます。

アクションピッカー

フローの [アクション] セクションで、[アクション] を選択して、アクションピッカーを開きます。検索ウィンドウにテキストを入力してアクションを検索するか、アクションカテゴリを参照してフローに追加するアクションを見つけることができます。

アクションピッカーメニュー



アクションピッカーは、アクションの検索をより簡単にするいくつかの機能で構成されています。

検索アクション

アクションピッカーは、入力時に表示されるアクションのリストをフィルターします。ピッカーには、検索クエリに一致するアクションのみが表示されます。

最新

アクションピッカーには、このセッション中に選択した最新のアクションのリストが表示されます。

人気

アクションピッカーには、他のユーザーが頻繁に使用したアクションのリストが表示されます。

インストールされたスポーク

アプリケーションによっては、アプリケーション固有のアクションを追加するスポークが含まれています。スポークのアクションは、通常は読み取り専用ですが、コピーやカスタマイズが可能です。アクションピッカーは、アクションを、それが属するアプリケーションスコープ別にグループ化します。スポークを選択すると、アクションのリストが表示されます。

ServiceNow コアアクション

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インスタンスには、任意のフローに追加できるコアアクションまたは頻繁に使用される Now Platform 操作のコレクションが含まれています。

グローバルスポークアクション

開発者は、グローバルアプリケーションスコープでカスタムアクションを作成して、すべてのアプリケーションで利用可能にすることができます。ServiceNow には、任意のフローで使用するためのアクションがグローバルスコープにいくつか用意されています。

カスタム アクション

開発者は、自分が所有するアプリケーションスコープでカスタムアクションを作成することもできます。カスタムアクションは、スポークのアプリケーションスコープのアクションピッカーに表示されます。

ワークフロースタジオ を使用してフローを作成するワークフロー

次の図は、ワークフロースタジオ を使用したフローの作成に関連する基本的なタスクを示しています。フローを作成するための詳細な手順については、「ワークフロースタジオ でのフローの作成」を参照してください。

フローのメリット

フローは、プロセスオーナーと開発者に次のメリットをもたらします。

- 反復作業を自動化し、効率とエクスペリエンスを向上させます。
- 技術者以外のユーザーがワークフローの内容を理解できるように、ワークフローを自然言語で説明します。
- ビルダーが利用可能なパスと接続を確認できるように、ワークフローを図として表示します。
- 単一のインターフェイスからワークフローを作成およびテストし、想定どおりに動作することを確認できます。
- 該当分野のエキスパートが再利用可能なアクションを開発してフロー作成者と共有できるようになり、プロセスの自動化が促進されます。
- アップグレードのコストが削減され、安全にアップグレードできる Now Platform のロジックが複雑なカスタムスクリプトの代わりとなります。
- 再利用可能なアクションのライブラリが提供され、開発コストが削減されます。
- 統合およびロボティックプロセスオートメーション (RPA) 機能の個別のサブスクリプションで拡張します。

メリット	機能	ユーザー
自動化された操作の既存のライブラリから自動化されたワークフローをビルドします。	フロー	アプリケーション開発者、プロセス作成者 オーナー、またはアドミニストレーター
一連のトリガー条件が満たされたときに自動ワークフローを実行します。	フロー	アプリケーション開発者、プロセス作成者 オーナー、またはアドミニストレーター
一連のトリガー条件を入力データとして使用して、自動化されたワークフローを実行します。	フロー	アプリケーション開発者、プロセス作成者

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メリット	機能	ユーザー
		オーナー、またはアドミニストレーター

フローの作成を開始する

承認を必要とするトリガーアクションとベースシステムアクションを使用して、フローのサンプルを作成します。

スポークの概要、アプリケーションの設定、アクセス権の付与、フローの作成、ATF テストの設定、およびフローの公開。

フローデザイナー の使用方法の概要については、この 11 分間のビデオをご覧ください。

始める前に

必要なロール：admin

注: フローデザイナーはほとんどのシナリオで flow_designer ロールと delegated_developer ロールを使用するように設計されていますが、このチュートリアルでは、追加のロールを必要としない機能を説明するために、admin ロールを使用してレコードを設定し、要求を承認します。

タスクテーブルにアクセスするには、ITSM アプリケーションが必要です。

このタスクについて

フローには次のコンポーネントを含めることができます。

- トリガー：フローを開始するアクティビティ。指定したテーブルまたはスケジュールされたジョブで作成されたレコードなど。
- 条件：アクションがいつ、どのように実行されるかを決定するステートメント。たとえば、フィールドが特定の値を超えている場合にのみアクションを実行します。
- アクション：システムによって実行される操作。フィールド値の更新、承認の要求、値のログへの記録など。

基本的なフローを理解するため、経費承認フローを作成します。このフローの動作は次のとおりです。

1. 経費レコードが作成されたときに実行されます。
2. 合計金額を使用して、実行するアクションを決定します。
3. 要求が指定の金額を下回っている場合は、要求を承認します。
4. 要求が指定の金額を上回っている場合は、マネージャーの承認を必要とします。別の承認者を手動で追加することができます。

手順

1. フローのカスタムアプリケーションを作成します。アプリケーションの中でフローやアクションを作成することで、フローやアクションをアプリケーションリポジトリーに公開し、他のインスタンスに展開することができます。この例では委託開発を使用していませんが、開発者をアプリケーションにアサインして、アクション設計者とフロー設計者による開発を委任することもできます。
   a. システムアプリケーション > スタジオに行きます。
   b. 「経費入門」という名前のカスタムアプリケーションを作成します。
2. スタジオ で、経費テーブルを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [アプリケーションファイルを作成] をクリックします。

b. [データモデル] で [テーブル] を選択し、[作成] をクリックします。
テーブルフォームが開きます。

c. フォームに次の値を入力します。

- ラベル：経費
- 拡張テーブル：タスク

d. フォームを保存します。

e. さらに 3 つの列をテーブルに追加します。

列ラベル	タイプ	参照
総計	浮動小数点数	なし
移動先	文字列	なし
要求元	参照	ユーザー [sys_user]

3. 経費テーブルに、フローデザイナーのテストで使用する 4 つのレコードを追加します。
後の手順でフローをテストするときに、どのレコードをトリガーとして使用するかを指定して、特定のレコード値をテストすることができます。

a. 経費テーブルのレコードで、[リストを表示] 関連リンクをクリックします。

b. [新規] をクリックします。

c. [金額]、[要求先]、[要求元] の各フィールドと、[承認者] 関連リストを追加するようにフォームを設定します。

d. [要求先] フィールドと [要求元] フィールドに入力します。
システムで、テスト レコードの [要求元] フィールドのユーザーにマネージャーがアサインされていることを確認します。テストレコードのユーザーにマネージャーがアサインされていない場合は、[マネージャー] フィールドを追加するようにユーザー フォームを設定し、ユーザーにマネージャーをアサインします。

e. [金額] フィールドに、100.00 未満の値を追加します。

f. フォームを送信します。

g. もう 1 つのレコードをテーブルに追加し、金額を 100.00 未満とします。

h. さらに 2 つのレコードをテーブルに追加し、[金額] フィールドに 100.00 を超える値を設定します。

4. スタジオ で、新しいフローを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [アプリケーションファイルを作成] をクリックします。

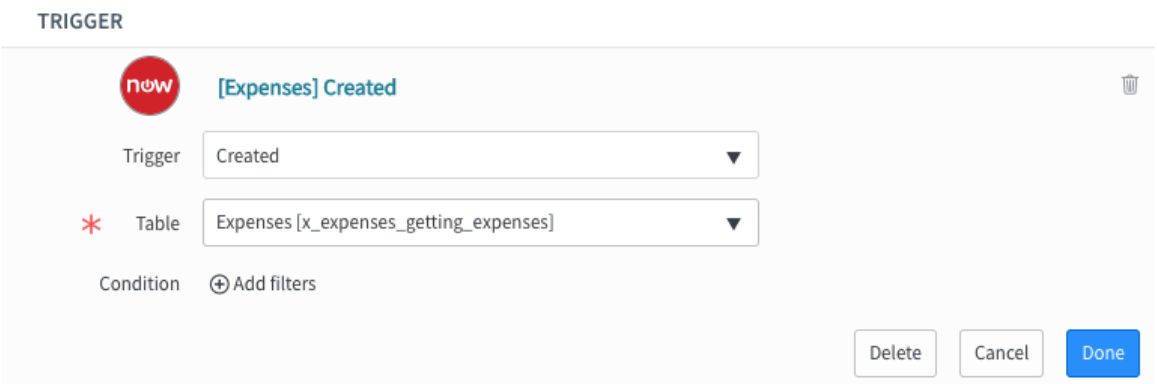
b. フローデザイナーで、[フロー] を選択し、[作成] をクリックします。

c. [フロー] オプションを選択し、[次へ] をクリックします。

d. [フロー名] フィールドに「経費の承認」と入力します。

e. [送信] をクリックします。
「経費の承認」フローが「経費入門」スコープに作成されます。

5. 経費テーブルにレコードが作成されたときにフローを実行するトリガーを作成します。
   - トリガー：[作成]
   - テーブル：経費 **[x_expenses_getting_expenses]**



6. if 条件をフローに追加します。

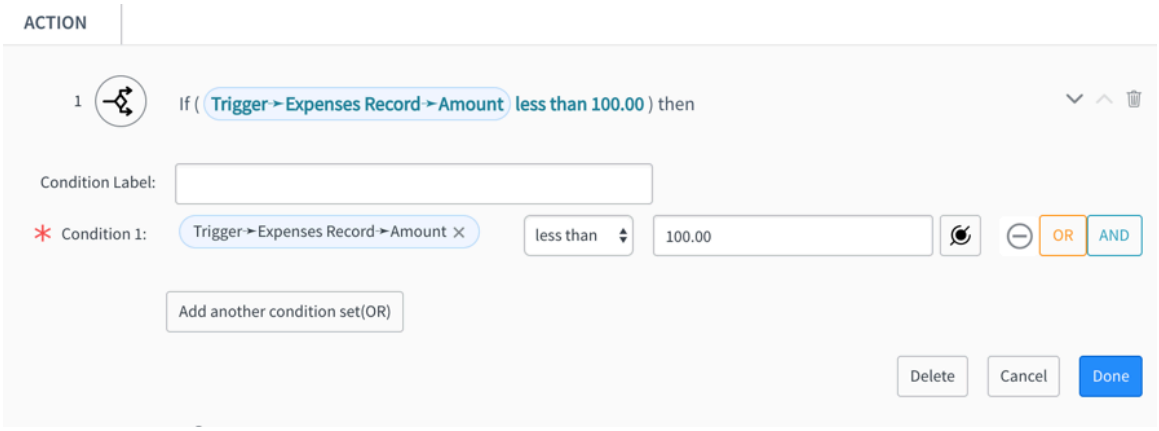
a. [フローロジック] > **[If]**を選択します。

b. 右側のペインで、[トリガー - 作成されたレコード] カテゴリと [経費レコード] ピルを展開します。

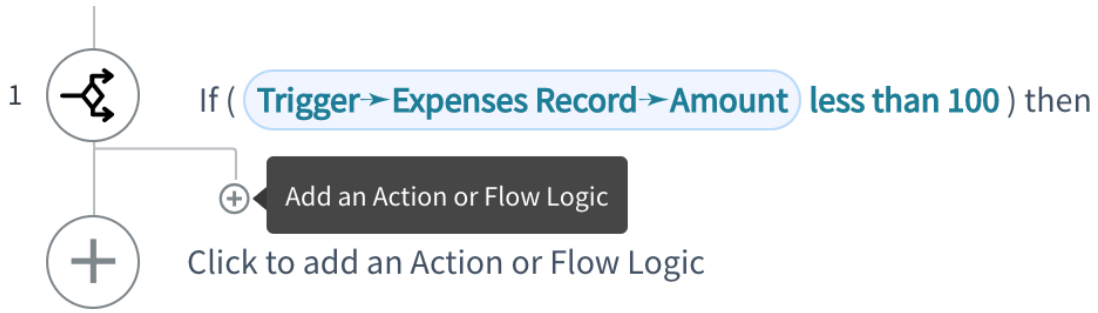
c. [金額] ピルを [条件 **1]** にドラッグ アンド ドロップします。
データ ピルは、フローの特定の段階におけるレコードまたはフィールドの値を表します。[金額] データ ピルをトリガーからドラッグすると、条件として、トリガーとなるレコードのフィールドの値が設定されます。

d. [条件 1] を [トリガー **->** 経費レコード **->** 金額] [次の値未満 **(<)] [100.00]** に設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

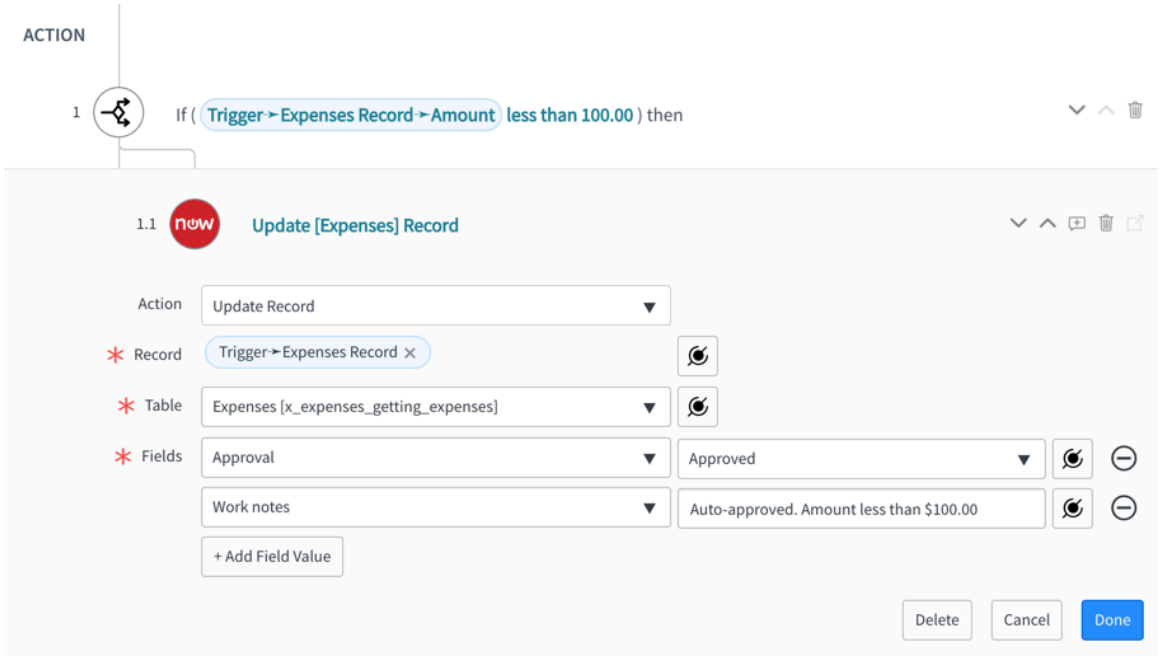


7. アクション 1 で、**[+]** をクリックし、if 条件が満たされたときに実行するアクションを追加します。

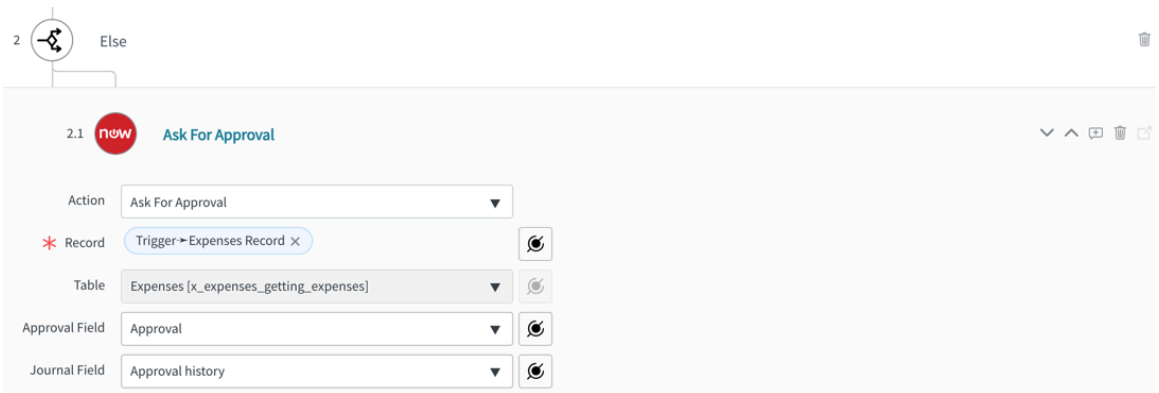


8. 要求を承認する「レコードの更新」アクションを作成します。
   - アクション：レコードを更新
   - レコード：[トリガー - 作成されたレコード] カテゴリを選択し、右側のペインから [経費レコード] データ ピルをドラッグします。
   - テーブル：経費 **[x_expenses_getting_expenses]** に設定します。
   - フィールド：
     - 承認：承認済み
     - 作業メモ：自動承認済み。金額は `100.00` 未満

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



9. フローに else 条件を追加します。
   a. [フロー ロジック] > **[Else]**を選択します。
10. アクション 2 で、**[+]** をクリックし、else 条件が満たされたときに実行する「承認を求める」アクションを追加します。
    a. 「承認を求める」ステップのフィールドに入力します。
       - アクション：承認を求める
       - レコード：[トリガー - 作成されたレコード] カテゴリを選択し、右側のペインから [経費レコード] データ ピルをドラッグします。
       - テーブル：経費 **[x_expenses_getting_expenses]** に設定します。
       - 承認フィールド：[承認] に設定します。
       - ジャーナル フィールド：[承認履歴] に設定します。



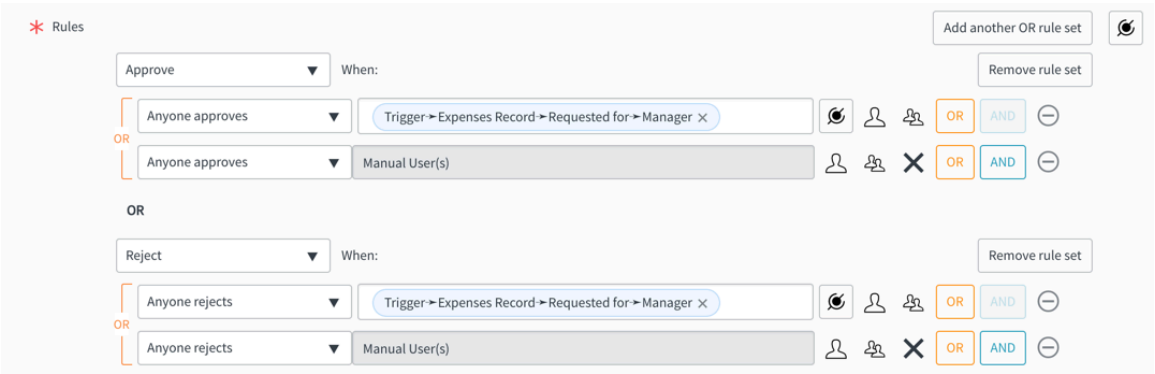
    b. 「承認を求める」ステップでルールを定義します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [承認] 時期：[誰でも承認可能] ([トリガー -> 経費レコード -> 要求元 -> マネージャー] フィールドから)、**[OR]**
- [誰でも承認可能] ([手動ユーザー] リストから)。 手動承認者 を選択すると、手動承認者が承認または却下を処理できるようになります。手動承認者は、手動で承認者関連リストに追加されたユーザーで、これにより要求を承認できます。たとえば、内容領域専門家をタスクに手動で追加して、要求を承認することができます。手動承認者の追加について詳しくは、「承認者関連リストを使用した承認の生成」を参照してください。

[別の **OR** ルールセットを追加] を選択し、却下ルールを定義します。承認を定義するときは、一致する承認ルールがない場合に待機状態のままになるフローを作成しないように、必ず却下ルールを含めます。

- [却下] 時期：[誰かが却下時] ([トリガー -> 経費レコード -> 要求元 -> マネージャー] フィールドから)、**[OR]**
- [誰かが却下時] ([手動ユーザー] リストから)。

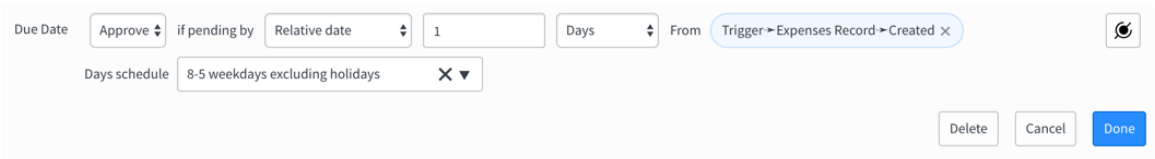


c. 指定した時間までに要求が承認または却下されない場合に、承認を自動的に承認、キャンセル、または却下する期日を定義します。

期日を追加すると、フローが待機状態のままにならなくなります。

- [承認] 次のユーザーによって処理待ちにされた場合 [日付 (相対)] **[1]**[日間] ([トリガー -> 経費レコード -> 作成] から)。
- 日間スケジュール [休日を除く平日 **8** ～ **5** 時]。

この期日によって、要求が作成されてから 1 日以内に承認または却下されなかったすべての要求が自動的に承認されます。



11. [保存] をクリックします。

12. 指定した上限を下回る金額のレコードを使用してフローをテストします。

a. フローから [テスト] をクリックします。
[テスト フロー] モーダルが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

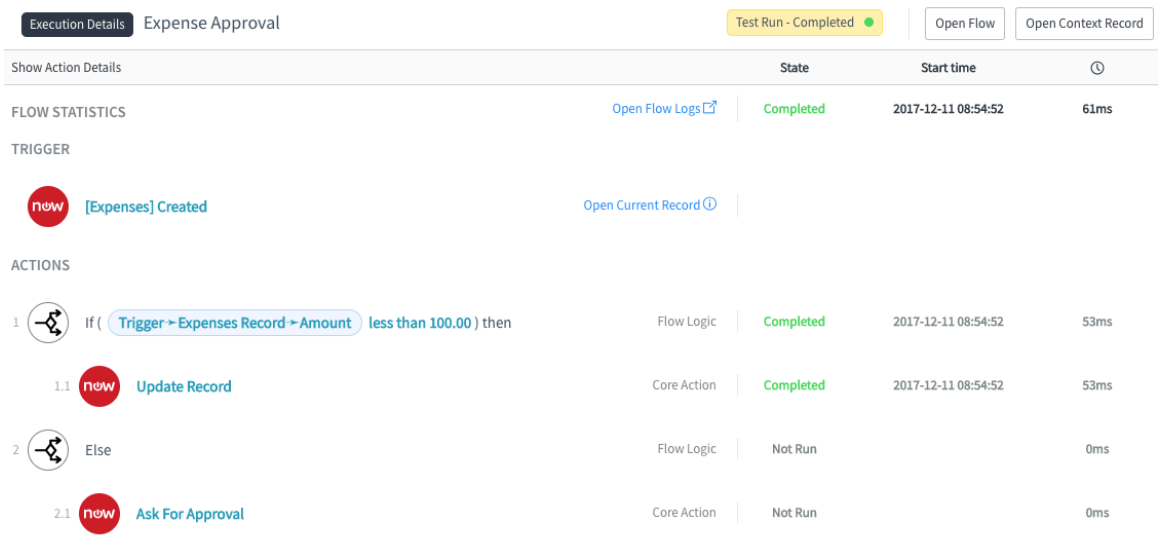
b. [レコード] フィールドで、以前の手順で作成したレコードを選択します。このレコードの [金額] フィールドの値は上限の 100.00 より少なくなっています。
このフィールドは、トリガーで定義されたテーブルへの参照です。

> **注:** フローのテストでは、トリガー条件がバイパスされ、すぐに実行されます。レコードベースのトリガーでフローをテストするには、トリガーとして動作する特定のレコードを選択する必要があります。

c. [テストを実行] を選択します。

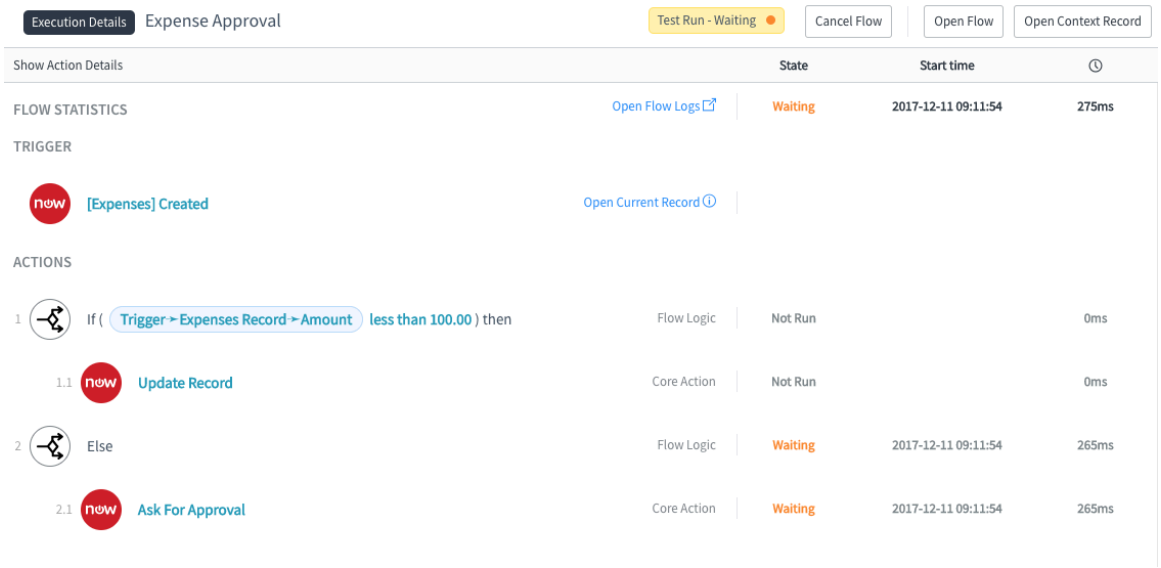
d. フローの実行後、[フローの実行が完了しました。フローを表示するにはここをクリックしてください。] をクリックします。
[実行の詳細] が開きます。

金額が 100.00 未満であるため、最初の条件が満たされ、要求が承認されます。



13. フローに戻り、指定した金額を超えるレコードを使用して、再びテストを実行します。
14. フローの実行後、フローの [実行の詳細] を開きます。
金額が指定した上限を超えているため、要求を承認する必要があります。マネージャーまたは手動承認者が要求を承認するまで、ステータスは [待機中] になります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

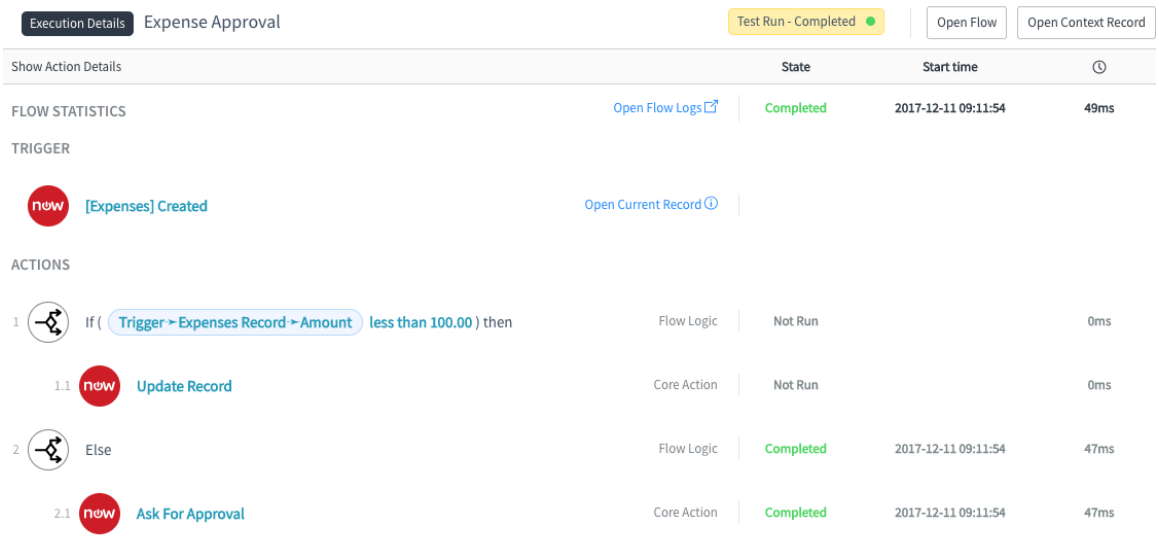


15. 要求を承認します。
有効なフローでは、承認者リストのユーザーが要求を承認または却下します。ただし、フローはテスト中のため、アドミニストレーターがフローを承認できます。

    a. テスト レコードに移動します。
    関連付けられたマネージャーが [承認者] 関連リストに表示され、[ステータス] フィールドが [要求済み] になっています。または、リストを編集して手動承認者を追加することもできます。

    b. [承認者] 関連リストの [ステータス] フィールドの値を [承認済み] に変更します。

    c. フローの [実行の詳細] に戻り、ブラウザーを更新します。
    要求が承認されたため、フローは完了します。



次のタスク
アクションデザイナーを使用して、「承認を求める」アクションを再利用可能なアクションに変換します。フロー設計者はアクションを使用することで、最小限の設定で複数のフローに複雑なアクションを追加できます。「アクションの作成を開始する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローデザイナー での最初のフローのビルド

フローデザイナー でサンプルフローをビルド、テスト、および有効化する方法の例を順を追って説明します。

始める前に

- 必要なロール：admin、flow_designer、または delegated_developer
- 必ず以下を実行してください。Now Platform での操作 (フロー、サブフロー、アクションなど) を自動化するには、自社で使用しているすべての機能をよく理解しておいてください。

このタスクについて

フローデザイナー で最初のフローのビルドを開始できるようにするには、以下の手順に従ってください。 例のフローは、インスタンスのユーザーが サービスカタログ アイテムの要求を作成するたびに開始またはトリガーされます。要求が作成されると、フローは自動的に次のアクションを実行します。

- カタログアイテムの価格が 1,000 ドルを超えているかどうかを確認します。
- 価格が 1,000 ドルを超えている場合は、要求者のマネージャーに要求を承認するように通知します。
- 価格が $1,000 以下の場合は、要求が自動的に承認されてクローズされます。

手順

1. フィルターナビゲーターを使用して、[すべて] > [セルフサービス] > [サービスカタログ]に移動します。
2. [トップリクエスト] ボックスから、[標準ラップトップ] を選択し、レコードプロデューサーを完了します。
   価格が $1100 以上の要求アイテムレコード (RITM0010001) が生成されます。
3. フィルターナビゲーターを使用して、[すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
4. フローデザイナー ランディングページのメインヘッダーで、[新規] > [フロー]を選択します。
5. フロープロパティウィンドウで、次のフィールドに入力します。

フィールド	アクション
フロー名	要求済みアイテムの承認フローを入力します

   次に、[送信] を選択して、 フローデザイナー 設計環境でフローを開きます。
6. [トリガー] セクションで [トリガーを追加] を選択します。
7. トリガーピッカーで、検索フィールドに「サービスカタログ」と入力するか、[アプリケーション] カテゴリの下の *Service Catalog* トリガーを探します。
   次に、*Service Catalog* トリガーを選択して、このトリガーをフローに追加します。後でこのフローをテストする際に、新しい サービスカタログ アイテム要求レコードを作成することで、このトリガーの起動をシミュレートできます。
8. [完了] をクリックして、*Service Catalog* トリガーのフローへの追加を終了します。
9. [アクション] セクションで [アクション、フローロジック、またはサブフローを追加] を選択します。
   次に、[フローロジック] を選択してフローロジックピッカーを開きます。
10. フローロジックピッカーで **[If]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

11. [条件 1] 入力の横にあるピルピッカーアイコン ( ) をクリックして、ドット連結ツールを開きます。
ドット連結ツールを使用すると、フロー内のトリガーからデータにアクセスできます。後でフローにアクションを追加する際に、ドット連結ツールを使用してそれらのアクションからデータにアクセスすることもできます。ドット連結ツールを使用して、他のレコードを参照するデータにドリルダウンし、アクションの入力でデータピルとしてドロップする適切なフィールドプレースホルダー値を取得することができます。
12. [トリガー - サービスカタログ] > [要求済みアイテムレコード] > [価格]に移動またはドット連結して [価格] を選択し、このデータピルを [条件 1] 入力に追加します。
13. 条件ビルダーの次のフィールドで [次の値を超える **(>)]** を選択し、最後のフィールドに「`1000`」と入力します。
これで、ユーザーが要求したカタログアイテムの価格が $1,000 を超えているかどうかを確認する条件が正常に設定されました。
14. [完了] をクリックして、フローへの *If* フローロジックの追加を終了します。
15. *If* フローロジック条件で [アクション] を選択します。
16. アクションピッカーで、検索フィールドに「承認を求める」と入力するか、[デフォルト] サブカテゴリで**[ServiceNow** コア] > [承認を求める]を選択して *Ask For Approval* アクションを見つけます。
17. [承認を求める] アクションの入力に次の値を追加します。

入力	アクション
レコード	ピルピッカーアイコン ( ) をクリックして、ドット連結ツールを開きます。その後、[トリガー - サービスカタログ] > [要求されたアイテムレコード **(Requested Item Record)]** に移動またはドット連結して [要求済みアイテムレコード] を選択し、このデータピルを入力に追加します。
テーブル	要求済みアイテム `[sc_req_item]` のままにします。
承認フィールド	「承認」のままにします。
ジャーナルフィールド	「承認履歴」のままにします。
ルール	最初のフィールドは「承認」のままにします。[時期] で、リストから [誰でも承認可能] を選択します。続いて、ピルピッカーアイコン ( ) をクリックして、ドット連結ツールを開きます。[トリガー - サービスカタログ] > [要求済みアイテムレコード] > [開始者] > [マネージャー]に移動またはドット連結して [マネージャー] を選択し、このデータピルをフィールドに追加します。
期日	「なし」のままにします。

これで、価格が $1,000 を超えるすべてのカタログアイテムについて、要求者のマネージャーに自動的に承認を求める条件付きアクションが正常に設定されました。

18. [完了] をクリックして、フローの *If* フローロジック内に条件付き *Ask for Approval* アクションの追加を完了してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

19. [アクション、フローロジック、またはサブフローを追加] を選択します。
次に、[フローロジック] を選択してフローロジックピッカーから [*Else*] を選択します。

20. *Else* フローロジックで、プラスアイコン ( ) を選択し、[アクション] を選択します。
アクションピッカーで、[レコードの更新] アクションを検索します。

21. [レコードの更新] アクションの入力に次の値を追加します。

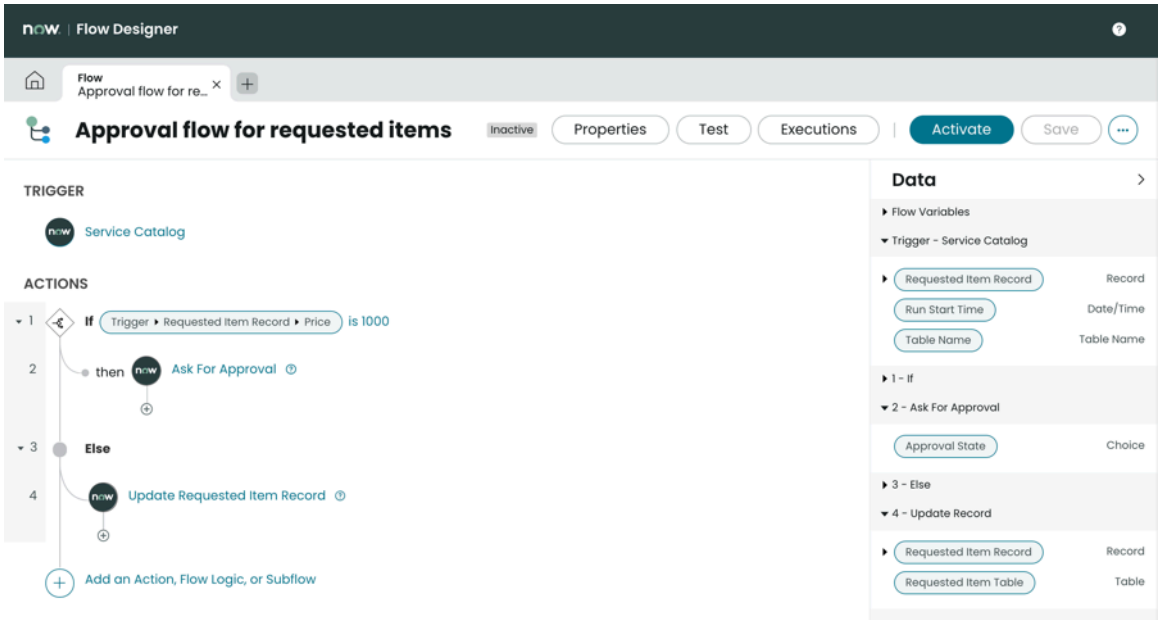
入力	アクション
レコード	ピルピッカーアイコン ( ) をクリックして、ドット連結ツールを開きます。その後、[トリガー - サービスカタログ] > [要求されたアイテムレコード **(Requested Item Record)]** に移動またはドット連結して [要求済みアイテムレコード] を選択し、このデータピルを入力に追加します。
テーブル	要求済みアイテム `[sc_req_item]` のままにします。
フィールド	**[+** フィールド値の追加] を選択します。次に、[承認] フィールドを選択し、フィールドの値として [承認済み] を選択します。次に、[状態] フィールドを選択し、フィールドの値として [完了してクローズ] を選択します。最後に、[クローズメモ] フィールドを選択し、「要求されたアイテムの価格は `1,000` ドル未満なので、要求は自動的に承認されました」と入力します。

これで、要求されたアイテムの価格が 1,000 ドル以下の場合にカタログアイテム要求を自動的に承認してクローズする条件付きアクションを正常に設定できました。

22. フローの *Else* フローロジック内での条件付き *Update Record* アクションの追加を完了するには、[完了] をクリックします。

23. メインヘッダーで、[保存] をクリックしてフローへの変更を保存します。
フローは次の例のようになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



24. フローをテストして、エラーが発生せずに正常にトリガーされ実行されるかどうかをテストするには、メインヘッダーに移動して [テスト] をクリックします。
25. [テストフロー] ウィンドウで、価格が $1000 を超える要求アイテムレコードを選択し、[テストを実行] を選択します。

    Example
    たとえば、以前にサービスカタログから作成した要求アイテムレコード (RITM0010001) を選択します。

    [新規レコードを作成] アイコン (+) を選択して、新しい要求アイテムを作成できます。
26. 次を選択します：テストの実行が終了しました。**(Your test has finished running.)** フロー実行の詳細を表示します。**(View the flow execution details.)**
27. [実行の詳細] ページで、フロー内のトリガーと各自動アクションに入力された値を確認します。詳細については、「フロー実行の詳細」を参照してください。
28. フローに戻ります。
29. メインヘッダーで [有効化] をクリックすると、インスタンスのユーザーが新しい サービスカタログ アイテム要求レコードを作成するたびにフローのトリガーが開始されます。

次のタスク
フローがアクティブになり、トリガーされるたびに実行されます。次に、フローの実行履歴を表示することで、フローが実行されるたびに管理できます。 この履歴を表示するには、フローデザイナー設計環境でフローを開き、メインヘッダーの [実行] をクリックします。 結果のページには、各フロー実行の完了状況と、各フローの実行にかかった時間 (ランタイム) が表示されます。フロー実行のエラーのトラブルシューティングを行うには、このリストから実行を選択して フロー実行の詳細 を開きます。

App Engine Studio のテンプレートからのフローのビルド

App Engine Studio でフローテンプレートを使用してフローをビルド、テスト、および有効化する方法の例を順を追って説明します。

始める前に
App Engine Studio でアプリケーションを作成します。アプリケーションがビルドされたら、フローテンプレートを使用してフローを作成できます。詳細については、「App Engine Studio でのアプリケーションのビルド」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール：admin、flow_designer、または delegated_developer

このタスクについて
フローテンプレートからフローのビルドを開始できるようにするには、以下の手順に従ってください。 例のフローは、インスタンスのユーザーが サービスカタログ アイテムの要求を作成するたびに開始またはトリガーされます。要求が作成されると、フローは自動的に次のアクションを実行します。

- カタログアイテムの価格が 1,000 ドルを超えているかどうかを確認します。
- 価格が 1,000 ドルを超えている場合は、要求者のマネージャーに要求を承認するように通知します。
- 価格が $1,000 以下の場合は、要求が自動的に承認されてクローズされます。

手順

1. [すべて] > **[App Engine Studio]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリケーションで、[自動化] の横にある追加アイコン ( ) をクリックします。
4. 自動化テンプレートのギャラリーから、[要求されたカタログアイテムの承認を作成する] を選択し、[開始] をクリックします。
5. [テンプレートカタログアイテム] リストから [標準ラップトップ] を選択します。
6. [カタログアイテムの価格が次より高い場合に承認を求める] フィールドに「`1000`」と入力し、[完了] をクリックします。
7. [名前] フィールドに`要求済みアイテムの承認フロー`を入力します。
8. [説明] フィールドに`要求済みアイテムの承認フロー`を入力し、[続行] をクリックします。
9. フローが作成されたら、[このフローを編集します] をクリックします。
10. フローページで [承認されていない場合 **(If not approved)]** ステップをクリックし、[削除] をクリックしてステップを削除します。
11. フローの一番下にある [ログ] ステップをクリックし、[削除] をクリックしてステップを削除します。
12. 同様に、フローの一番下にある最後の 2 つのログアクションを削除します。
13. [アクション、フローロジック、またはサブフローを追加] を選択します。
    次に、[フローロジック] を選択してフローロジックピッカーから [*Else*] を選択します。
14. *Else* フローロジックで、プラスアイコン ( ) を選択し、[アクション] を選択します。
    アクションピッカーで、[レコードの更新] アクションを検索します。
15. [レコードの更新] アクションの入力に次の値を追加します。

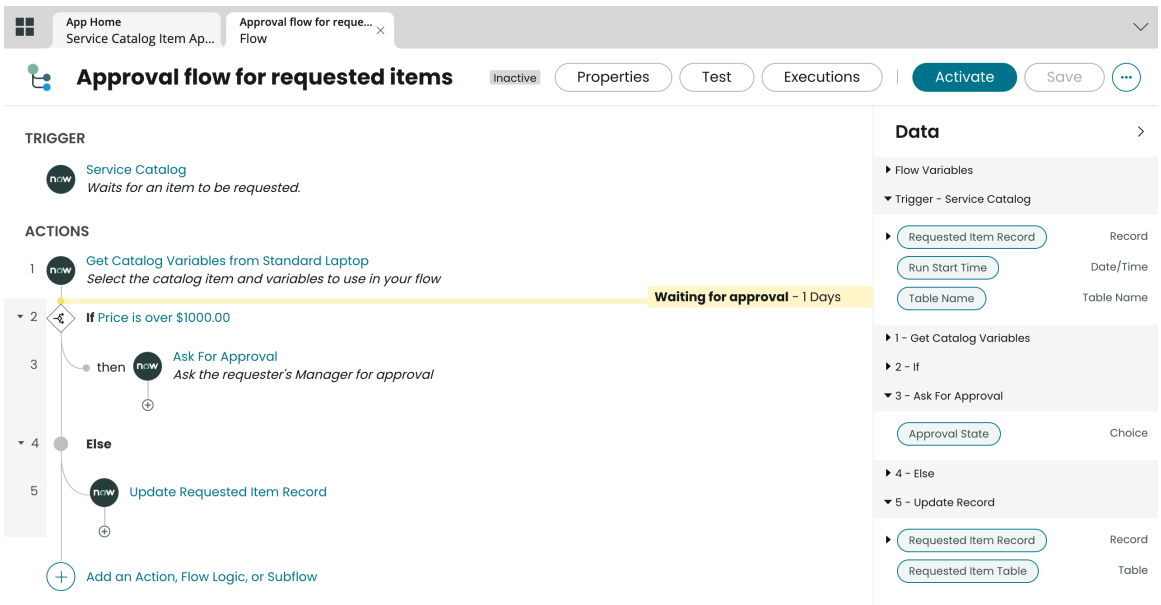
入力	アクション
レコード	ピルピッカーアイコン ( ) をクリックして、ドット連結ツールを開きます。その後、[トリガー - サービスカタログ] > [要求されたアイテムレコード **(Requested Item Record)]** に移動またはドット連結して [要求済みアイテムレコード] を選択し、このデータピルを入力に追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	アクション
テーブル	要求済みアイテム `[sc_req_item]` のままにします。
フィールド	**[+** フィールド値の追加] を選択します。次に、[承認] フィールドを選択し、フィールドの値として [承認済み] を選択します。次に、[状態] フィールドを選択し、フィールドの値として [完了してクローズ] を選択します。最後に、[クローズメモ] フィールドを選択し、「`要求されたアイテムの価格は 1,000 ドル未満なので、要求は自動的に承認されました`」と入力します。

これで、要求されたアイテムの価格が 1,000 ドル以下の場合にカタログアイテム要求を自動的に承認してクローズする条件付きアクションを正常に設定できました。

16. フローの *`Else`* フローロジック内での条件付き *`Update Record`* アクションの追加を完了するには、[完了] をクリックします。
17. メインヘッダーで、[保存] をクリックしてフローへの変更を保存します。
フローは次の例のようになります。



18. フローをテストして、エラーが発生せずに正常にトリガーされ実行されるかどうかをテストするには、メインヘッダーに移動して [テスト] をクリックします。
19. [テストフロー] ウィンドウで、価格が $1000 を超える要求アイテムレコードを選択し、[テストを実行] を選択します。

    Example
    たとえば、以前にサービスカタログから作成した要求アイテムレコード (RITM0010001) を選択します。

    [新規レコードを作成] アイコン (+) を選択して、新しい要求アイテムを作成できます。
20. 次を選択します：テストの実行が終了しました。**(Your test has finished running.)** フロー実行の詳細を表示します。**(View the flow execution details.)**
21. [実行の詳細] ページで、フロー内のトリガーと各自動アクションに入力された値を確認します。
詳細については、「フロー実行の詳細」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

22. フローに戻ります。
23. メインヘッダーで [有効化] をクリックすると、インスタンスのユーザーが新しい サービスカタログ アイテム要求レコードを作成するたびにフローのトリガーが開始されます。

次のタスク
フローがアクティブになり、トリガーされるたびに実行されます。次に、フローの実行履歴を表示することで、フローが実行されるたびに管理できます。 この履歴を表示するには、 メインヘッダーの [実行] をクリックします。 結果のページには、各フロー実行の完了状況と、各フローの実行にかかった時間 (ランタイム) が表示されます。フロー実行のエラーのトラブルシューティングを行うには、このリストから実行を選択して フロー実行の詳細 を開きます。

フローデザイナー ヘルプパネルの使用

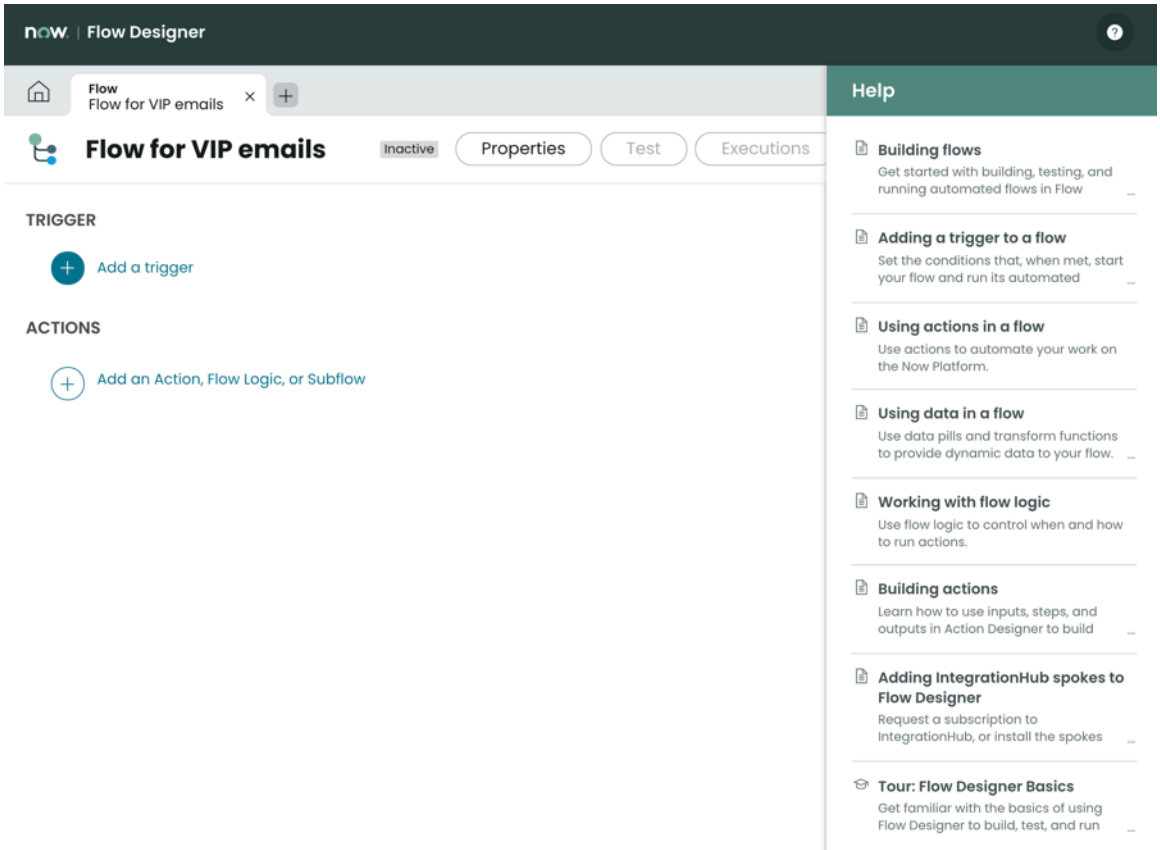
サイドヘルプパネルのトピックを参照して、フローとアクションのビルド、データとスポークの操作、フローデザイナー のガイド付きツアーの手順の詳細を確認してください。

始める前に
必要なロール：admin、flow_designer、または delegated_developer

手順
1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. フローデザイナー ランディングページのメインヘッダーで、疑問符アイコン ( ) を選択して、ヘルプパネルを開きます。
   ヘルプトピックが表示され、フローとアクションのビルド、データの操作、統合ハブ スポークの設定に関する詳細を選択して参照できます。
3. ヘルプパネルを閉じるには、疑問符アイコン ( ) を再度選択します。
4. フローのリストから任意のフローを開き、フローデザイナー 設計環境に移動します。
5. フロー内のアクションの名前の横にある、ヘルプパネルを開くアイコン ( ) を選択します。
   ヘルプパネルが開き、アクションに関する情報と、アクションの入力と出力をフローで使用する方法が表示されます。選択したアクションで利用可能なヘルプコンテンツがない場合、パネルには [次のヘルプコンテンツが見つかりません] と表示され、アクションの名前が表示されます。
6. フローデザイナー 設計環境で疑問符アイコン ( ) を選択して、ヘルプパネルからガイド付きツアーにアクセスすることもできます。
   ヘルプパネルを開いた後、「`Tour:`」で始まるヘルプカードを探し、そのカードを選択してツアーを開始します

タスクの結果
ヘルプパネルが開き、フロー、アクション、スポーク、ガイド付きツアーに関するヘルプコンテンツが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



フローアクションの番号付け

アクションアウトラインには、フロー内の各アクションおよびフローロジックブロックの横に整数が表示されます。フローデザイナー 内から従来のアクションの番号付けを含むフローを更新できます。

現在のアクションの番号付け

現在の順序番号は、アクションアウトラインの各アイテムの値を整数値 1 ずつ増加させたものです。たとえば、フローロジックブロックがアクションアウトラインのステップ 2 である場合、フローロジックブロック内のアクションはステップ 3、4、および 5 となります。インラインスクリプトは、アクションとフローロジックの整数値を参照します。

従来のアクションの番号付け

従来の順序番号は、フローロジックブロック内の各アイテムを 10 進数値の 0.1 ずつ増加させたものです。たとえば、フローロジックブロックがアクションアウトラインのステップ 2 である場合、フローロジックブロック内のアクションはステップ 2.1、2.2、および 2.3 となります。インラインスクリプトは、アクションとフローロジックの 10 進数値を参照します。

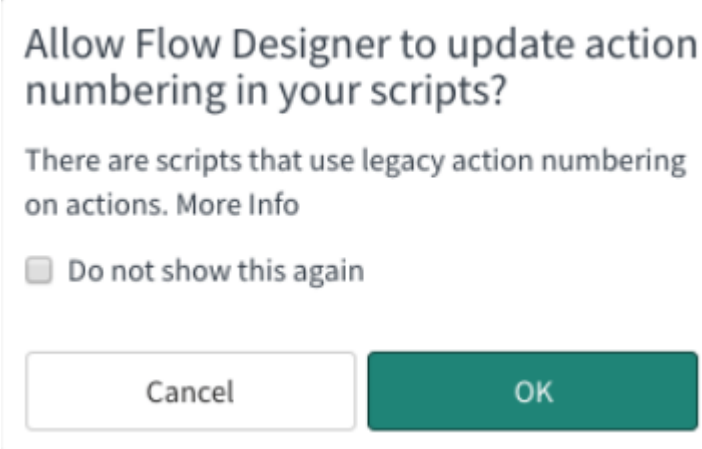
重要: インラインスクリプトが従来のアクションの番号付けを使用したアクションを参照すると、エラーが発生します。すべてのインラインスクリプトの参照を更新して、新しいアクションの番号付けを使用します。

アクションの番号付けの自動更新

フローデザイナー は、アップグレード時にすべてのフローのアクションの番号付けを自動的に更新します。インラインスクリプトを含むフローを開くたびに、フローデザイナー は従来のアクションの番号付けへの参照がないかスクリプトをチェックします。スクリプトに従来の参照が含まれている場合は、アクションの番号付けを更新するように求めるプロンプトが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インラインスクリプトのアクションの番号付けを自動的に更新するように要求する



従来のアクションの番号付けによって参照されたアクションと新しい番号付けのアクションとの照合が試行されます。インラインスクリプトの変更をレビューして、インラインスクリプトが正しいアクションを参照していることを確認します。

注: アップグレードされたフローの番号付けが正しくない場合は、アクションとフローロジックを正しい順序に移動します。

Flow Assist

Flow Assist を使用して、テキストプロンプトからフローを生成し、フローの次のステップに関する推奨事項を生成します。Flow Assist は クリエーターの Now Assist アプリケーションの一部です。

開始

探索 フローアシストが何をサポートするかについて詳しく説明します	構成 インスタンスのフローアシストを有効にします
生成 AI でフローのアウトラインを作成します	参照 フローアシストを使用するために必要なロールについて詳しく説明します

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重要: Now Assist の一部の製品/機能は現在、FedRAMP、NSC DOD IL5、オーストラリアの IRAP で保護されたデータセンターのお客様、セルフホスト型のお客様、またはその他の制限された環境のお客様は利用できません。詳細については、Now Support ナレッジベース 記事「KB0743854」を参照してください。将来のリリースで可用性の更新を確認してください。

重要: 現在、一部の地域のお客様は一部の Now Assist 製品/機能をご利用いただけません。詳細については、Now Support ナレッジベースの記事「KB1699552」を参照してください。将来のリリースで可用性の更新を確認してください。

トラブルシューティングとサポート

- ServiceNow コミュニティ
- 既知のエラーポータルで既知のエラー記事を検索する
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート

AI の制限事項

このアプリケーションは、データ内のパターンに基づいて予測を生成する急速に進化している研究分野である人工知能 (AI) と機械学習を使用しています。その結果、このアプリケーションは必ずしも正確、完全、または適切な情報を生成するとは限りません。さらに、このアプリケーションがユースケースに合わせて完全にトレーニングまたはテストされているという保証はありません。これらの問題を軽減するために、自身のユースケースに適した精度、損害、適切性についてこのアプリケーションの使用をテストおよび評価し、出力に対する人間による監視を採用し、意思決定の目的のために AI で生成された出力のみに依存しないようにすることは、ユーザーの責任です。これは、医療、ファイナンス、法務、雇用、セキュリティ、インフラストラクチャなど、結果が影響を与える分野にこのアプリケーションを展開することを選択した場合に特に重要です。お客様は、「ServiceNow AI Acceptable Use Policy」に従うことに同意していただきます。その利用規定は、ServiceNow によって更新される場合があります

データ処理

このアプリケーションでは、ServiceNow 顧客の個々のインスタンスから一元化された ServiceNow 環境にデータを転送する必要があります。この環境は、インスタンスが存在するデータセンターとは異なるデータセンターリージョンに配置されている可能性があり、場合によっては Microsoft Azure などのサードパーティクラウドプロバイダーにも転送されます。このデータは、コアコンプライアンスポータルから利用可能なポリシーを含む、ServiceNow の内部ポリシーと手順に従って処理されます。

データコレクション

ServiceNow は、このアプリケーションの入力、出力を収集して使用し、出力を編集して、ServiceNow モデルや AI 製品などの ServiceNow テクノロジーを開発および改善します。さらに、このアプリケーションは ：コード生成用の Now Assist が呼び出されるスクリプト (および関連するスクリプトレコード) に関する情報。 お客様は、「 Now Assistオプトアウトに関するページ」の説明に従って、いつでも将来のデータコレクションをオプトアウトできます。

詳細については、Now Assistドキュメントを参照してください。

フローアシストの探索

Flow Assist を使用して、テキストプロンプトからフローを生成し、フローの次のステップに関する推奨事項を生成します。Flow Assist は クリエーターの Now Assist アプリケーションの一部です。

概要

Flow Assist は、フロー作成者に生成 AI 機能を提供します。

- フロー生成スキルを使用すると、フロー作成者はテキストプロンプトからフローを作成または編集できます。このスキルの詳細については、「フロー生成」を参照してください。
- フロー推奨スキルは、フロー作成者にフローの次のステップに関する推奨事項を提供します。このスキルの詳細については、「フローの推奨事項」を参照してください。

サポートされているバージョン

Flow Assist は、Vancouver パッチ 2 以降のリリースでサポートされています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポート対象のユーザーインターフェイス

クリエーターの Now Assist アプリケーションは、次のユーザーインターフェイスで Flow Assist スキルをサポートしています。

インターフェイスでサポートされている **Flow Assist** スキル

インターフェイス	サポートされているスキル
ワークフロースタジオの新しいフローまたはサブフローのプロパティ	フロー生成
ワークフロースタジオの設計環境	フローの推奨事項

フロー生成

生成 AI で複数ステップのフローを作成します。サポートされているフロートリガーとアクション入力に対して適切なデータピル値を生成します。

https://player.vimeo.com/video/1038315421?h=b6160313f5&badge=0&autopause=0&player_id=0&app_id=58479

アクティベーション

フロー生成は、クリエーターの Now Assist (sn_now_creator) アプリケーションとともにインストールされるスキルです。ServiceNow Store の Web サイトからこのアプリケーションをインストールできます。

メリット

これらのメリットを得るには、フローの生成を有効にします。

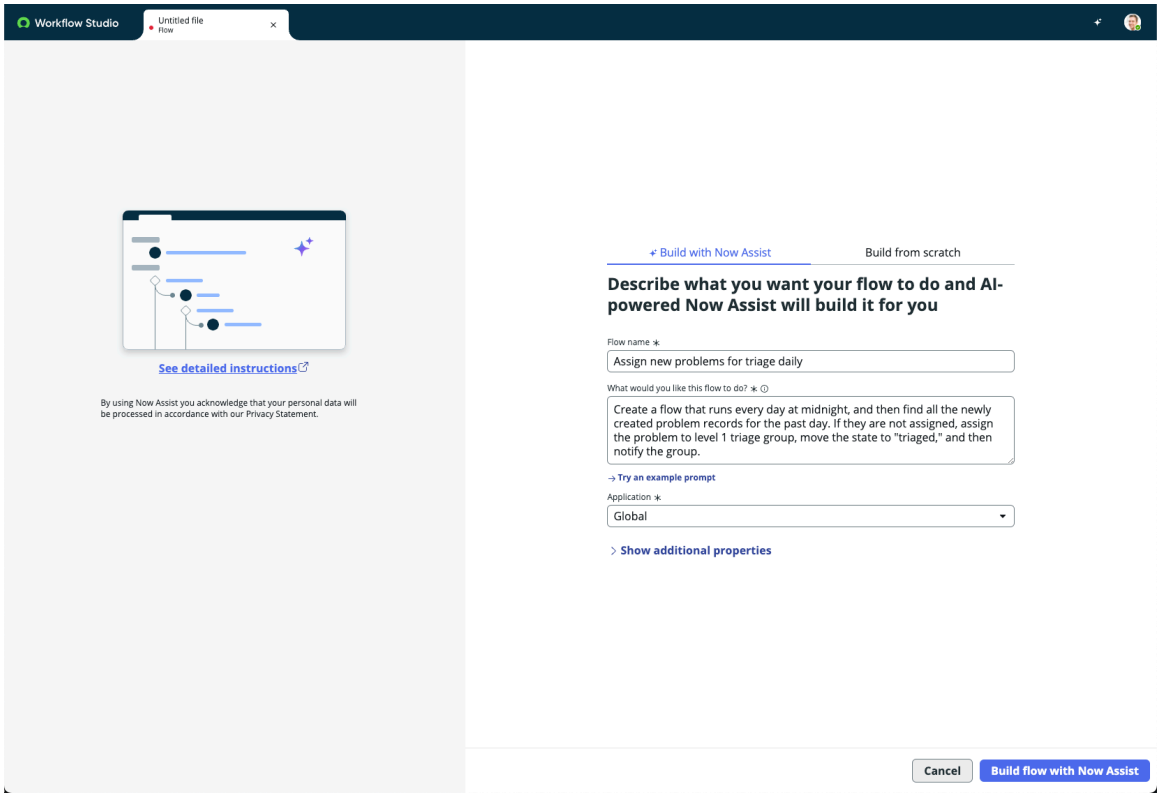
- ワークフロースタジオ のフローの説明から複数ステップのフローを構築します。サポートされているトリガーとアクションは、適切なデータピル値で構成されます。
- フロー内の各アイテムの生成に使用されるテキストの指示を参照してください。
- 標準のフロー設計パターンを使用します。

サポート対象のユーザーインターフェイス

ワークフロースタジオのユーザーインターフェイスからフロー生成スキルにアクセスします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロースタジオのユーザーインターフェイスからのフロー生成



サポートされているトリガータイプ

フロー生成でサポートされるトリガータイプの数は限られています。テキストの指示を使用して、以下のトリガータイプを指定できます。

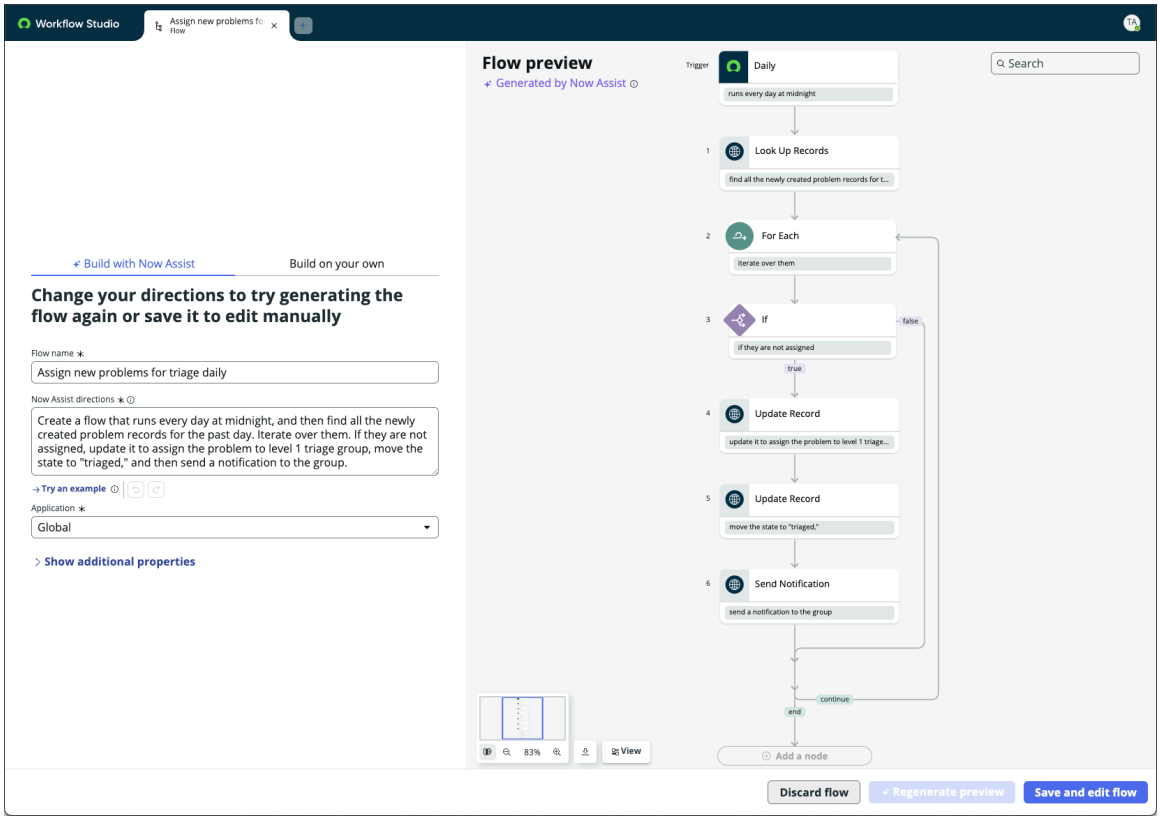
- スケジュールされたトリガー
- レコードトリガー
  - 作成済み
  - 作成済みまたは更新済み
  - 更新済み
- サービスレベルアグリーメントトリガー
- 受信メールトリガー
- サービスカタログトリガー

使用された指示を注釈で表示する

Xanadu のパッチ 1 リリース以降、フロー生成スキルでは、フローに追加された各アイテムの下にフロー注釈が表示されます。フロー注釈には、フロー生成スキルがアイテムを生成するために使用したテキスト指示が含まれます。フロー注釈を使用して、より適切なテキスト指示を作成でき、また指示を特定のアクション、フローロジック、サブフローにどのようにマッピングするかについてフィードバックを得ることもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フロー注釈付きのフロープレビュー



この例は、フロー生成スキルが特定のテキストの指示をフローアイテムにどのようにマッピングしたかを示しています。

指示をフローアイテムにマッピングしたサンプル

指示	生成されたフローアイテム
毎日深夜に実行する	日次トリガー
昨日新しく作成されたすべての問題レコードを検索する	「複数レコードのルックアップ」アクション
それらを反復する	For Each フローロジック
アサインされていない場合	If フローロジック
更新して問題をレベル 1 トリアージグループにアサインする	「レコードの更新」アクション
ステータスを「トリアージ済み（triaged)」に移行し、	「レコードの更新」アクション
グループに通知を送信する	[通知を送信] アクション

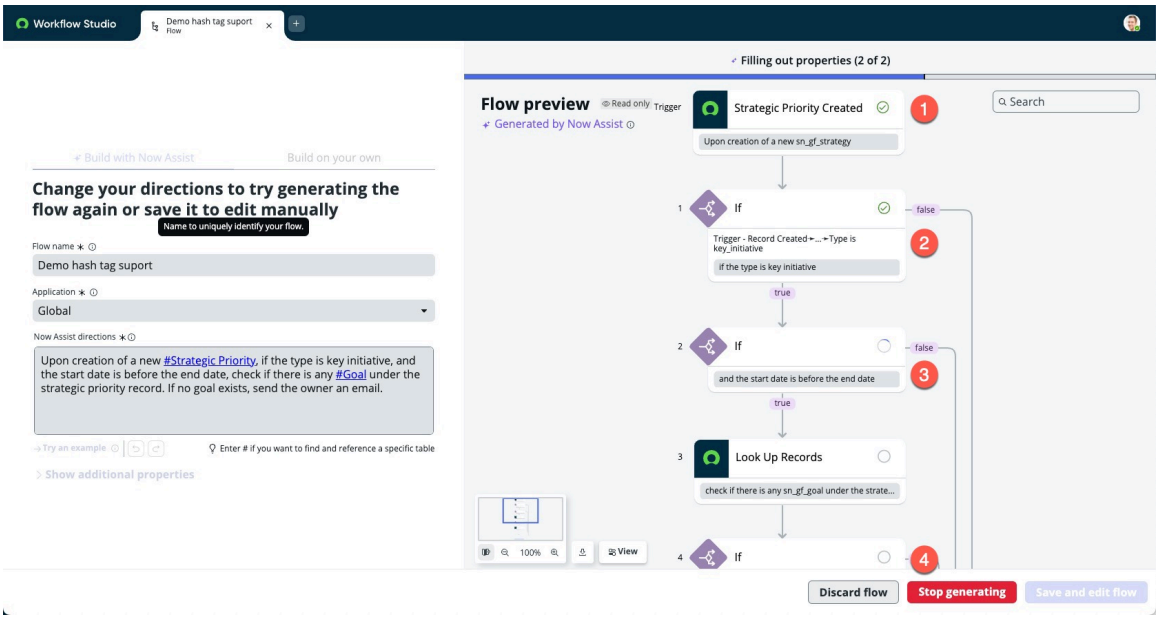
サポートされているアイテムのデータピル構成

Xanadu のパッチ 3 リリース以降、フロー生成スキルは、サポートされているトリガー、アクション、およびフローロジックに対して適切なデータピル値を生成します。フロー生成スキルは、データピル値を生成時に、フロープレビューをデータピル値で更新します。フロープレビューの生成中、生成されたデータピル値を含む各アイテムの横にチェックマークアイコンが表示されます。フローコンポーネントの名前とフロー注釈 (元のテキストの指示を含む) の間に、生成されたデータピル値が表示されます。フロープレビューでは、データピル値の生成を待機しているアイテムの横に、アニメーション化された作業中アイコンが表示されます。フロープレビューがデータピル値を生成している

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

間、フロープレビューの生成を停止するオプションが表示されます。フロープレビューの生成を停止した場合は、フローを手動で保存して編集するか、指示を編集して別のフロープレビューを生成する必要があります。

データピル構成を使用したフローのプレビュー



1. 完了アイコン

   データピル値を生成したフローコンポーネントのカードに緑色のチェックマークアイコンが表示されます。これらのステータスアイコンは、フロープレビューの生成中にのみ表示されます。

2. 生成されたデータピル値

   フローコンポーネント名と、フローコンポーネントの生成に使用されるテキストの指示の間に、データピル値のプレビューが表示されます。長いデータピル値のプレビューが表示されます。フローコンポーネントを選択すると、プロパティペインに完全なデータピル構成を表示できます。

3. 作業中アイコン

   データピル値を生成している現在のカードに、アニメーション化された作業中アイコンが表示されます。データピル値をまだ生成していないフローコンポーネントには、静的な作業中アイコンが表示されます。これらのステータスアイコンは、フロープレビューの生成中にのみ表示されます。

4. 生成の停止 (Stop generating) ボタン

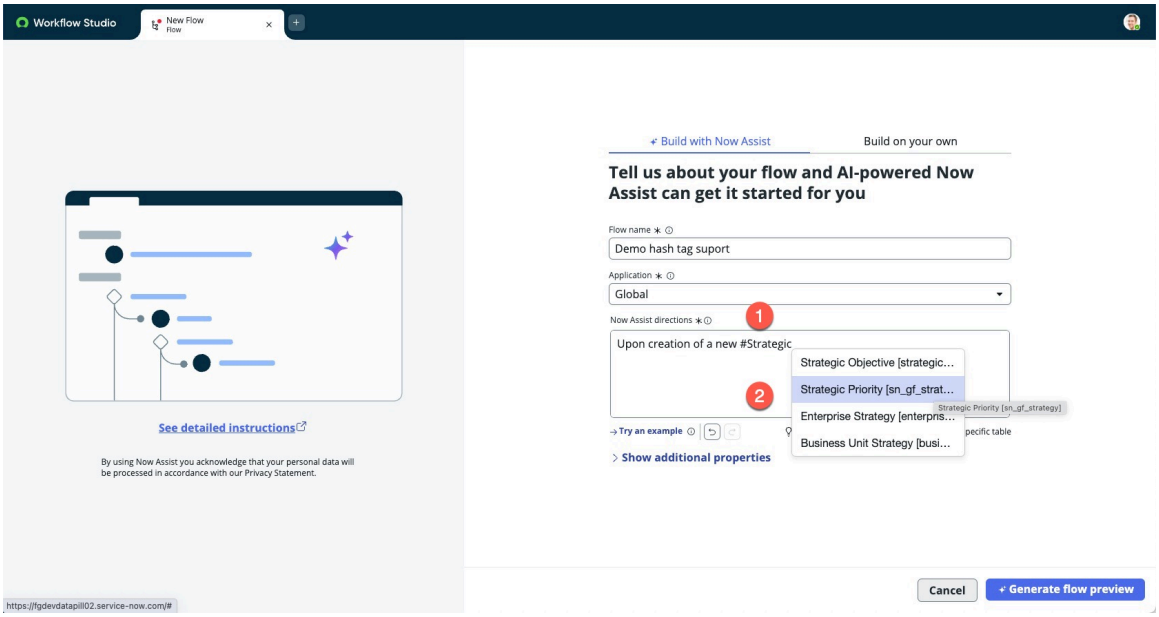
   データピル値の生成中、[生成の停止 (Stop generating)] ボタンが表示されます。フローの生成を停止して、フローを手動で保存して編集するか、フロープレビューの生成に使用された Now Assist の指示を更新することができます。

テーブル名参照に関するハッシュタグのサポート

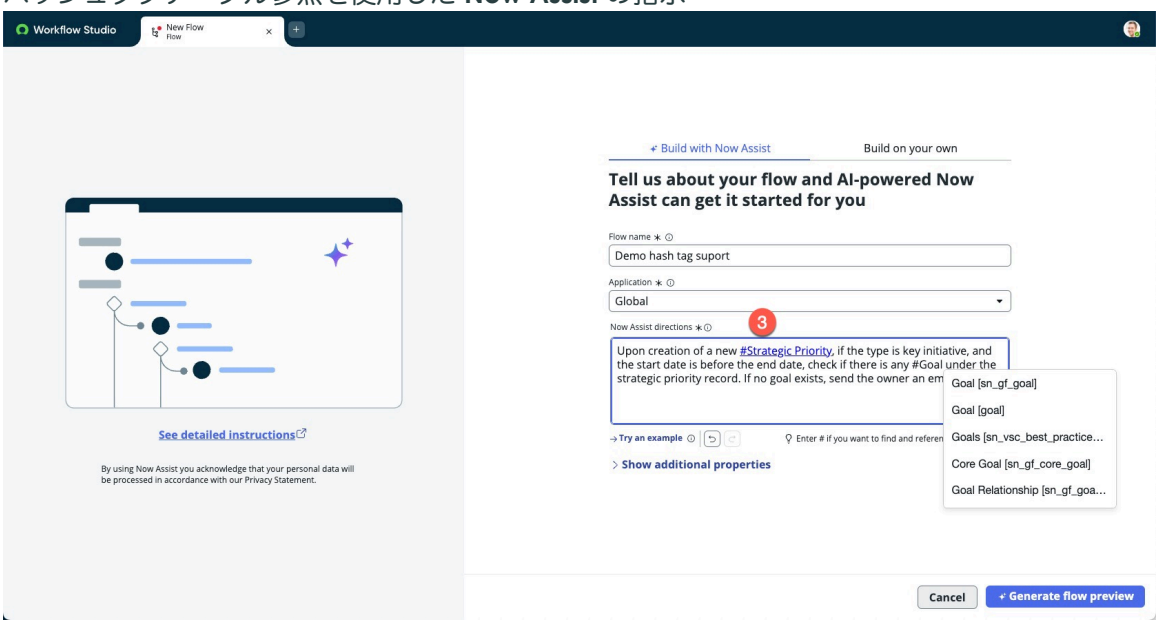
Xanadu パッチ 3 リリース以降では、ハッシュタグ文字を入力してからテーブルラベルまたはテーブル名のいずれかを入力することで、Now Assist の指示の特定のテーブルを参照できます。入力中、オートコンプリートにより入力内容と一致するテーブルが表示されます。フロー生成でトリガーまたはレコードベースのアクションの正しいテーブルが選択されるようにするには、ハッシュタグ参照を指示に追加します。ハッシュタグ参照は、同一または類似のラベルを持つテーブル (ユーザー [sys_user] テーブルとユーザー [imp_user] テーブルなど) を LLM で区別する場合に特に役立ちます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ハッシュタグのオートコンプリート



ハッシュタグテーブル参照を使用した **Now Assist** の指示



1. ハッシュタグテキスト

   ハッシュタグは、テーブルラベルまたはテーブル名への参照として認識されます。「Strategic Priority」などのテーブルラベルや sn_gf_strategy などのテーブル名を入力できます。

2. テーブル名のオートコンプリート提案

   ハッシュタグテキストに一致するテーブル名の提案が表示されます。オートコンプリート提案を選択すると、その特定のテーブルのデータを Now Assist の指示で使用できます。

3. テーブルへのハッシュタグリンク

   選択したテーブルへの下線付きリンクテキストが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Retrieval Augmented Generation (RAG) のサポート

フロー生成では、Retrieval Augmented Generation (RAG) を使用して、インスタンスで利用できる一般的な最近公開されたアクションとサブフローの名前を含めます。ワークフロースタジオ は、一般的な最近公開されたアクションとサブフローのリストを 1 時間ごとに更新し、フロー生成に利用できるようにします。フロー生成の指示で、公開されたアクションとサブフローを名前でリストできます。

プロンプトの例

フローとサブフローの作成に使用できる例を次に示します。

フロープロンプト例 1：スケジュールされたトリガー

このプロンプトを使用して、スケジュールされたトリガーでフローを作成できます。

毎日深夜に実行するフローを作成し、過去 1 日に新しく作成されたすべての問題レコードを検索します。それらに対して反復します。それらがアサインされていない場合は、それを更新して、問題をレベル 1 トリアージグループにアサインし、ステータスを［トリアージ済み］に移行して、グループに通知を送信します。

フロープロンプト例 2：サービスレベルアグリーメント (SLA) タスクトリガー

このプロンプトを使用して、サービスレベルアグリーメント (SLA) タスクトリガーでフローを作成できます。

SLA トリガーを使用してフローを作成します。SLA の 50% が完了するのを待機してから通知を送信します。次に、SLA の 75% が完了するのを待機してから別の通知を送信します。SLA が 100% 完了したら、if ステートメントを実行して、SLA の不履行がなかったか、完了したかを判断します。

フロープロンプト例 3：レコードトリガー

このプロンプトを使用して、レコードトリガーでフローを作成できます。

モデルが未承認のデモである場合、変更要求が作成または更新されるたびに、次の操作を並行して実行します。最初に、変更承認ポリシーを適用します。承認が認められたかまたはスキップされた場合は、変更要求レコードを承認済みとして更新します。そうでない場合は、変更要求レコードを却下済みとして更新されます。モデルをもう一度評価します。却下された場合は、メールを送信します。2 番目に、active が false になるまで待機し、変更要求の承認を無視して、変更モデルを評価します。

サブフロープロンプト例 4：レコード入力

このプロンプトを使用して、レコード入力でフローを作成できます。

問題入力の名前をログに記録するサブフローを作成し、最終更新担当者がアサイン先と同じかどうかを確認します。サブフロー出力から結果を出力します。

サブフロープロンプト例 5：承認入力

このプロンプトを使用して、承認のためのサブフローを作成できます。

指定されたジョブ構成 sys id と作業負荷ジェネレーターパラメーターを使用してフローランチャージョブを作成するためのサブフローを作成します。ジョブ sys id が空でない場合は、それをジョブ実行 id サブフロー出力としてアサインします。続いて、作成されたジョブ sys id のフローランチャーを開始し、サブフロー出力をアサインします。

サブフロープロンプト例 6：カタログタスク

このプロンプトを使用して、カタログタスクを作成するサブフローを作成できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ラップトップがアサインされているすべてのユーザーに対して、オペレーティングシステムをすぐに更新する必要があることを示すメールを送信し、それを実行するための手順を含む SMS を送信するサブフローを作成します。

次の例では、ハッシュタグを使用して特定のテーブルを参照しています。

フロー例 7：戦略的優先事項 [sn_gf_strategy] とゴール [sn_gf_goal]

新しい #Strategic Priority の作成時に、タイプが主要イニシアチブで、開始日が終了日より前の場合は、戦略的優先事項レコードの下に #Goal があるかどうかを確認します。ゴールが存在しない場合は、オーナーにメールを送信します。

例 8：転送注文 [alm_transfer_order]

#Transfer Order が出荷準備のステージに更新されたら、[倉庫 (stockroom)] フィールドに値があることを確認します。フィールドが空でない場合は、新しい転送注文ラインを作成し、それをトリガーする転送注文レコードにリンクします。

例 9：アセスメントメトリクスタイプ [asmt_metric_type]

毎日午後 7 時に、ライブフィードである新しい #Assessment Metrics Type レコードがあるかどうかを確認します。それぞれについて、ページネーション設定がカテゴリの場合は、査定人ロールをアセスメントマネージャーユーザーに追加します。

例 10：テストスイート [sys_atf_test_suite] と テスト [sys_atf_test]

新しい #Test Suite レコードが作成または更新されたら、その中に子 #Test レコードがあるかどうかを確認します。何もない場合は、[アクティブ] フィールドを「false」に設定します。

プレースホルダーステップ

フロー生成では、要求の一部を使用可能なアクションまたはサブフローに一致させることができない場合に、プレースホルダーステップを挿入します。プレースホルダーステップは操作を実行しません。これらは、注釈を表示するだけの空のステップです。フロー作成者は、プレースホルダーテキストを使用して、適切な置換アクションまたはサブフローを選択できます。

重要: プレースホルダーステップを含むフローをアクティブ化することはできません。各プレースホルダーステップを削除するか、アクションまたはサブフローに置き換える必要があります。

一般的なガイドライン

Now Assist 指示を記述するときは、次の一般的なガイドラインに従います。

常に最初にトリガーを説明する

最初にフロートリガーとそのデータ条件について説明します。トリガーの後に、アクションとフローロジックをフローに含める順序と同じ順序で記述します。

スペルミスをしないようにする

アクション、フローロジック、またはテーブルの名前のスペルを間違えないようにします。テーブル名を間違えないように、ハッシュタグの使用を検討してください。

要求は正確かつ詳細に記述してください

要求が正確でわかりやすいことを確認してください。フロートリガー、レコードデータ、アクション、およびフローロジックをできるだけ詳しく説明してください。

要求は簡潔で直接的なものにする

まず、フローを生成するかサブフローを生成するかを指定します。たとえば、「Create a flow that」というフレーズを使用してフローを生成します。フローの各ステップを順番に説明します。

アクション、フローロジック、テーブルを名前で参照する

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

指示の一部としてアクション、フローロジック、テーブル名を使用します。指示が実際の名前に近ければ近いほど、LLM はそれらを認識しやすくなります。たとえば、「`for each`」または「`do the following in parallel`」というテキストを使用して、それらの特定のフローロジックオプションを参照します。テーブル名には、ハッシュタグの使用を検討してください。

生成されたフローアウトラインを確認し、値を入力する

生成されたフローアウトライン内の各アクション、フローロジック、サブフローを確認します。生成された入力値を確認して、関連するデータ参照が含まれていることを確認します。

ハッシュタグを使用して特定のテーブルのデータを参照する

ハッシュタグを使用して、特定のテーブル名を選択します。ハッシュタグは、同一または類似の表示名を持つテーブル (ユーザー [sys_user] テーブルとユーザー [imp_user] テーブルなど) を区別する場合に特に役立ちます。

数字を使用して「次を並列で操作 (do the following in parallel)」フローロジックの分岐を区別する

数字を各並列分岐に追加します。たとえば、指示を「`When a P1 incident is created, do the following in parallel: 1. Log its short description and 2. Look up the user assigned to it and send an email`」とすれば、2 つの分岐があることが明確になります。

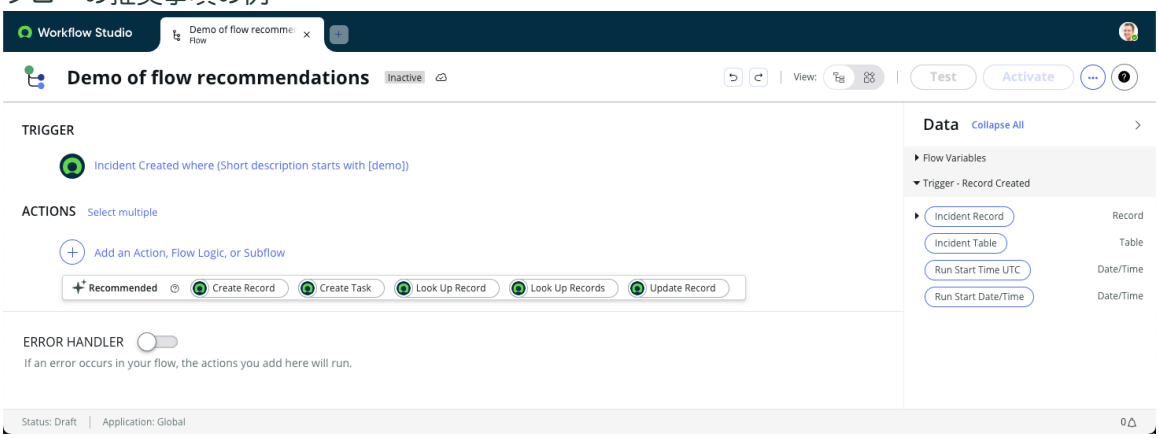
引用符を使用して正確な値を設定する

LLM が操作名とデータ値を区別しやすくするために、正確なデータ値を引用符で囲みます。たとえば、指示を「`Log the value, 'incident reopened'`」とすれば、「incident reopened」というテキストがデータ値であることが明確になります。

フローの推奨事項

AI で生成された推奨事項のリストから、フロー内の次のコンポーネントを選択します。フロー内の現在の位置と、前にリストされたフローコンポーネント名に基づいて、推奨事項が生成されます。

フローの推奨事項の例



モデルは、前に表示されたフローコンポーネントの名前を使用して、フローの次のステップに対する 1 ～ 5 件の推奨事項を生成します。推奨事項が一覧表示されていない場合は、必要な関連性のしきい値を満たすフローコンポーネントがありません。

システムから推奨できるのは、ServiceNow から利用可能なアクション、フローロジック、およびサブフローのみです。推奨事項に、ユーザーが生成したフローコンポーネント (カスタムアクションなど) を含めることはできません。また、ServiceNow Store スポークからのアクションを含めることもできません。

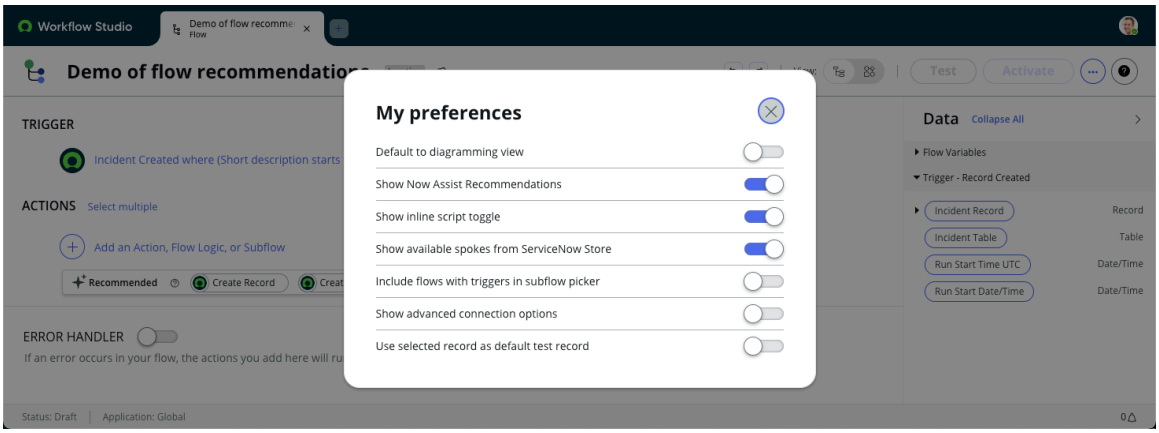
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

生成 AI モデルのトレーニング

この生成 AI の大規模言語モデルは、フロー作成パターンを学習するために内部 ServiceNow フローで事前トレーニングされています。トレーニングしたときの目標は、前のコンテンツを考慮して、フロー内の特定の位置に最も関連性の高いフローコンポーネントを理解することです。

フロー設定

フローの初期設定



デフォルトでは、フローをビルドする際、フローデザイナーに推奨事項が表示されます。[推奨事項を表示] のフロー設定をオフにすることで、フローごとにこれらの推奨事項を非表示にできます。詳細については、「フローのユーザー設定」を参照してください。

AI の制限事項

このアプリケーションは、データ内のパターンに基づいて予測を生成する急速に進化している研究分野である人工知能 (AI) と機械学習を使用しています。その結果、このアプリケーションは必ずしも正確、完全、または適切な情報を生成するとは限りません。さらに、このアプリケーションがユースケースに合わせて完全にトレーニングまたはテストされているという保証はありません。これらの問題を軽減するために、自身のユースケースに適した精度、損害、適切性についてこのアプリケーションの使用をテストおよび評価し、出力に対する人間による監視を採用し、意思決定の目的のために AI で生成された出力のみに依存しないようにすることは、ユーザーの責任です。これは、医療、ファイナンス、法務、雇用、セキュリティ、インフラストラクチャなど、結果が影響を与える分野にこのアプリケーションを展開することを選択した場合に特に重要です。お客様は、「ServiceNow AI Acceptable Use Policy」に従うことに同意していただきます。その利用規定は、ServiceNow によって更新される場合があります

フローアシストの構成

クリエーターの Now Assist アプリケーションでフローアシストスキルを有効にすると、フローのビルドをより迅速に開始できます。

Flow Assist のインストール

クリエーターの Now Assist アプリケーションをインストールして、Flow Assist 生成 AI 機能を追加します。

始める前に

- 必要なロール：admin
- 依存関係、ライセンスやサブスクリプションの要件、およびリリースの互換性については、ServiceNow Store の クリエーターの Now Assist アプリケーションリストを確認してください。
- Washington DC パッチ 1 以降にアップグレードします。このリリースの詳細については、「利用可能なパッチとホットフィックス」を参照してください。
- ネクストエクスペリエンスを有効にします。ネクストエクスペリエンス の有効化の詳細については、「Next Experience の有効化に関する考慮事項」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. ServiceNow Store の クリエーターの Now Assist アプリケーションに移動します。

   重要: クリエーターの Now Assist では別のサブスクリプションが必要です。

2. クリエーターの Now Assist アプリケーションページで、[アプリを要求] を選択します。
3. 承認を取得した後で、インスタンスで、[すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション]に移動します。
4. フィルター基準と検索バーを使用して、クリエーターの Now Assist アプリケーション (sn_now_creator) を検索します。
5. [インストール] を選択します。

次のタスク
クリエーターの Now Assist を構成して Flow Assist スキルをオンにします。Flow Assist スキルを使用する各ユーザーに now.assist.creator ロールを付与します。

フロー生成スキルをオンにする

生成 AI を使用してフローを作成および編集するには、フロー生成スキルをオンにします。

始める前に

- クリエーターの Now Assistアプリケーションのインストール
- 必要なロール：admin

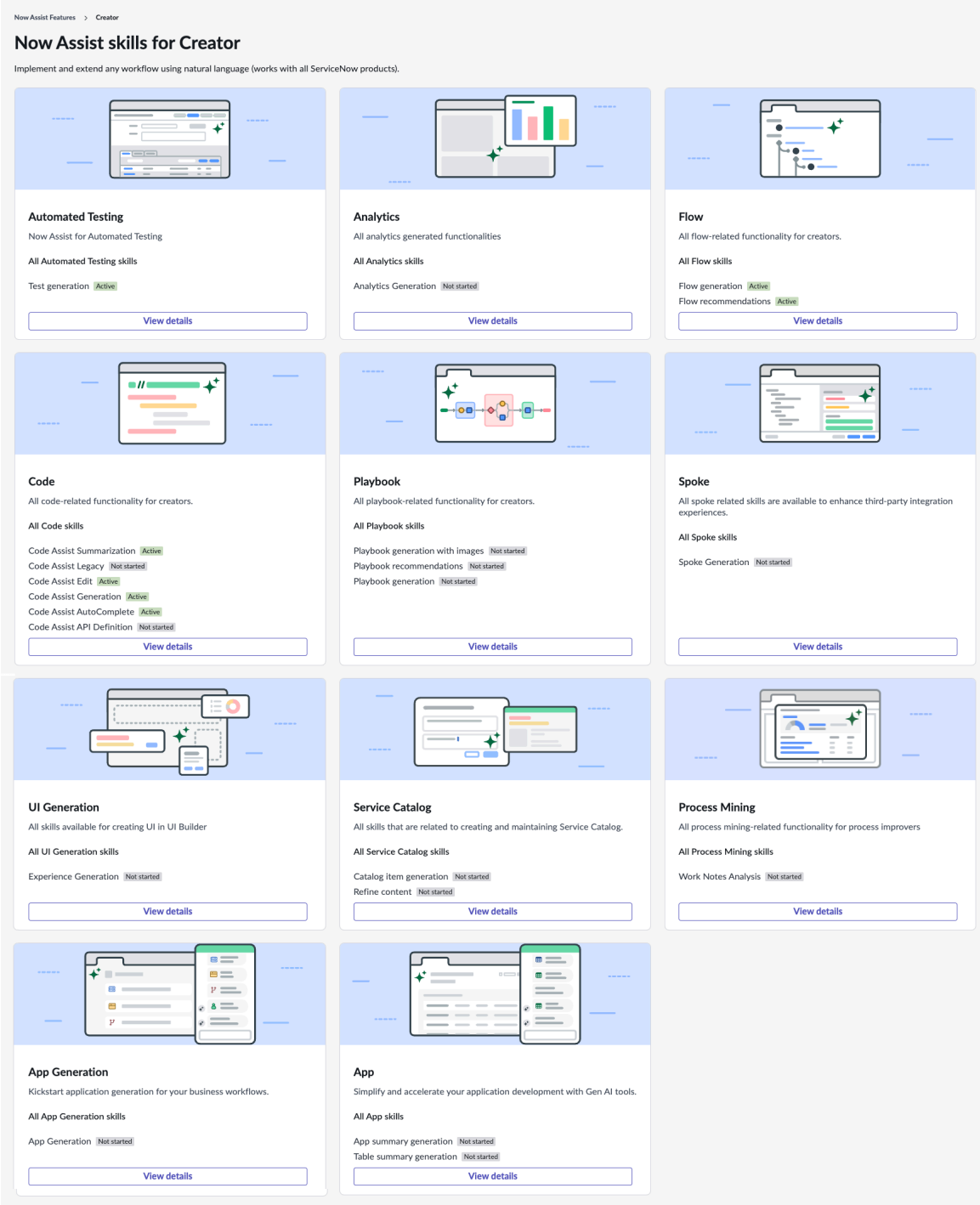
このタスクについて

重要: フロー生成スキルには、個別の クリエーターの Now Assist のサブスクリプションが必要です。

手順

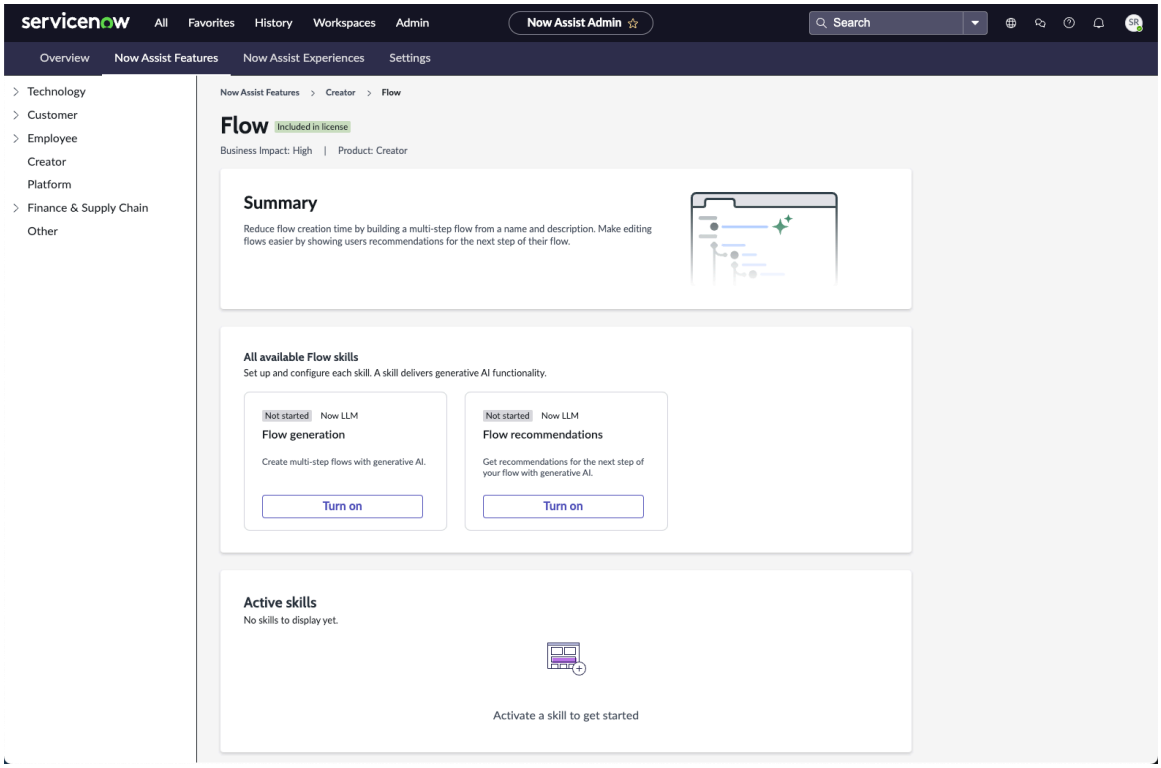
1. [すべて] > *Now Assist* アドミン > [機能]に移動します。
2. ワークフローリストで、[作成者] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

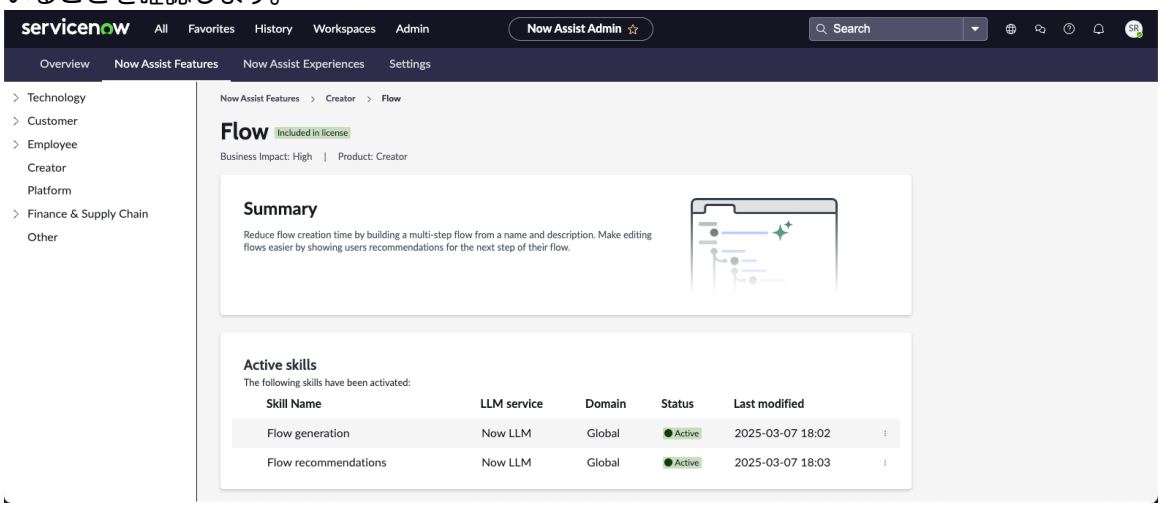


3. [フロー] カードで、[詳細を表示] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. [利用可能なすべてのフロースキル **(All available Flow skills)]** > [フロー生成 **(Flow generation)]** > [オンにする] を選択します。
5. フローカードの [アクティブなスキル] で [フロー生成 **(Flow generation)]** スキルが有効になっていることを確認します。



次のタスク
フロー生成スキルを使用する各ユーザーに now.assist.creator と flow_designer ロールを付与します。

フローの推奨事項スキルをオンにする

フロー推奨事項スキルを有効にして、 生成 AI を使用するフローの次のステップの推奨事項を取得します。

始める前に

- クリエーターの Now Assistアプリケーションのインストール
- 必要なロール：admin

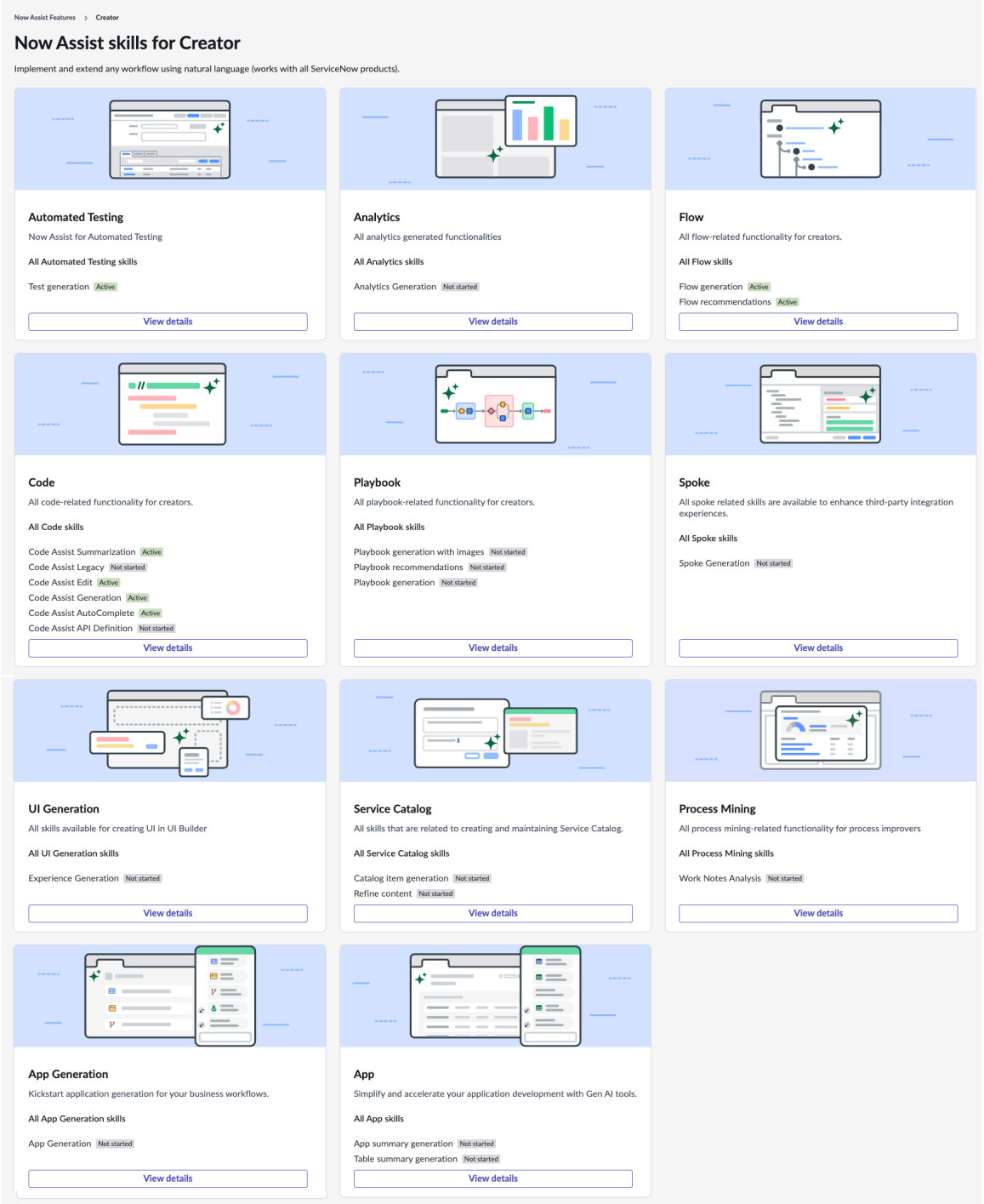
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

重要: フローの推奨事項スキルには、 個別の クリエーターの Now Assist のサブスクリプションが必要です。

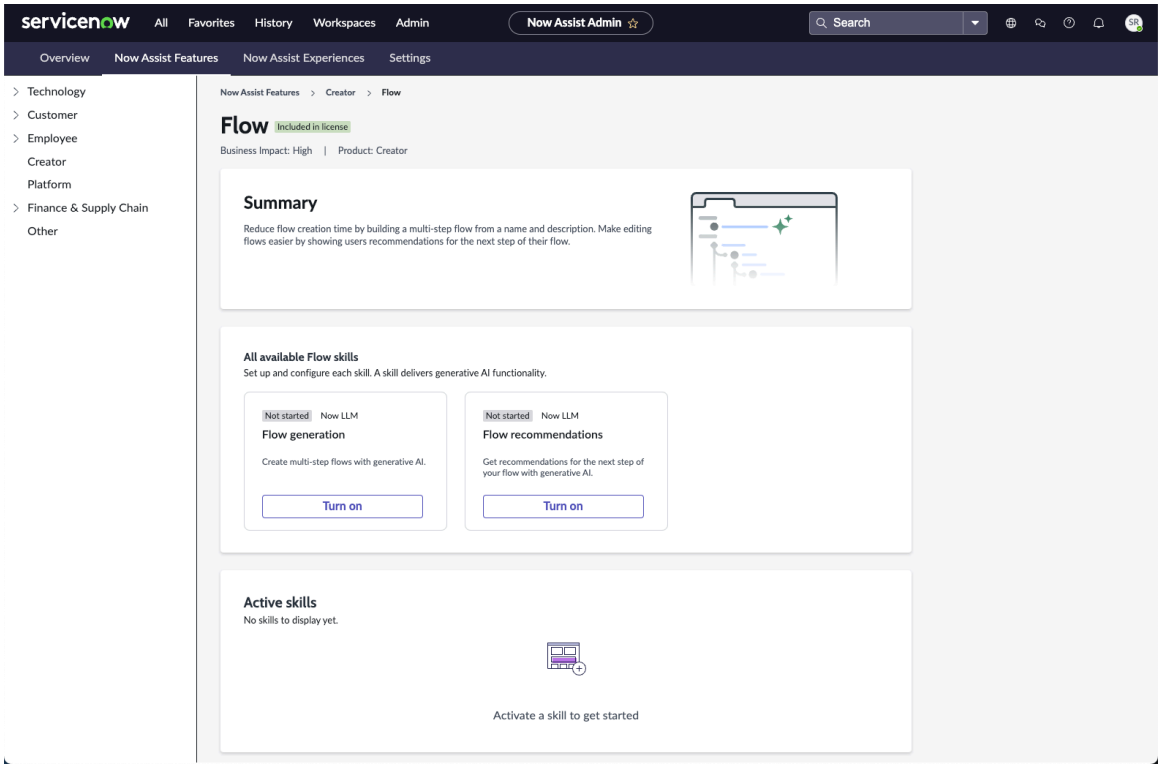
手順

1. [すべて] > *Now Assist* アドミン > [機能]に移動します。
2. ワークフローリストで、[作成者] を選択します。

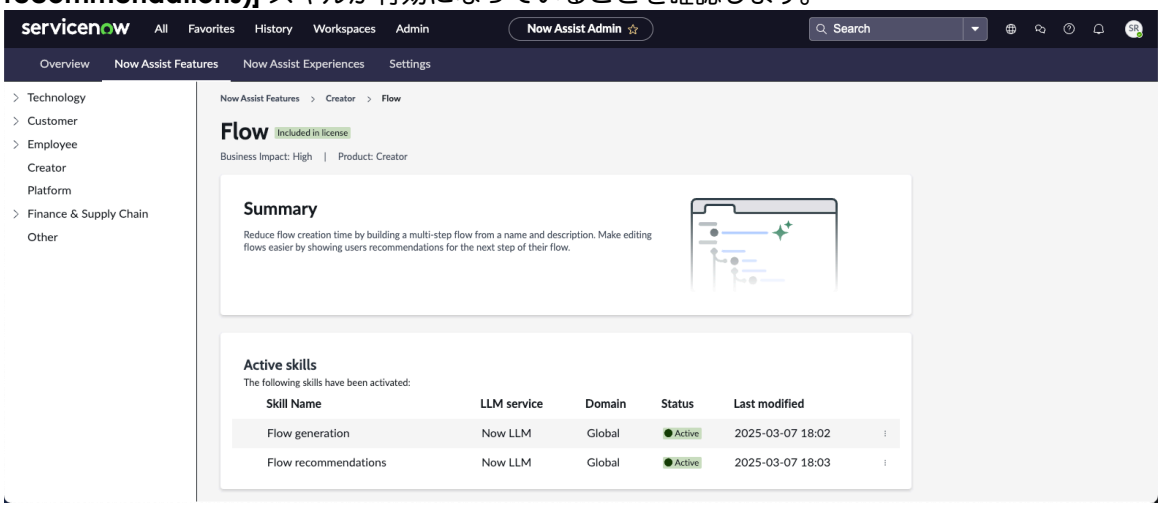


3. [フロー] カードで、[詳細を表示] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. [利用可能なすべてのフロースキル **(All available Flow skills)]** > [フローの推奨事項 **(Flow recommendations)]** > [オンにする] を選択します。
5. [フロー] カードで、[すべてのフロースキル **(All Flow skills)]** で [フローの推奨事項 **(Flow recommendations)]** スキルが有効になっていることを確認します。



次のタスク
フローの推奨事項スキルを使用する各ユーザーに now.assist.creator ロールを付与します。

フローアシストの参照

参照トピックには、構成プロパティ、ロールなどに関するその他の情報が記載されています。

フローアシストのロール

クリエーターの Now Assist のフロー生成スキルとフローの推奨事項スキルで使用するために、次のロールがインストールされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サブスクリプション管理 でサブスクリプションを割り当てることで、Now Platform で、購入するアプリケーションにユーザーエンタイトルメントを付与できます。サブスクリプションを割り当てるには、測定済みロールを持つ 1 つ以上のグループを製品サブスクリプションに追加します。

ユーザーごとのサブスクリプション管理の詳細については、「サブスクリプション管理 でのユーザーごとのサブスクリプションの管理」を参照し、アカウント担当者にお問い合わせください。

Now Assist Creator [now.assist.creator]

このロールにより、ユーザーはフローアシストのフロー生成スキルとフローの推奨事項スキルの両方にアクセスできます。

グループ

このロールはデフォルトでどのグループにもアサインされません。

ロールを含む

このロールに含まれるロールはありません。

昇格

このロールは昇格したロールではありません。

特別な考慮事項

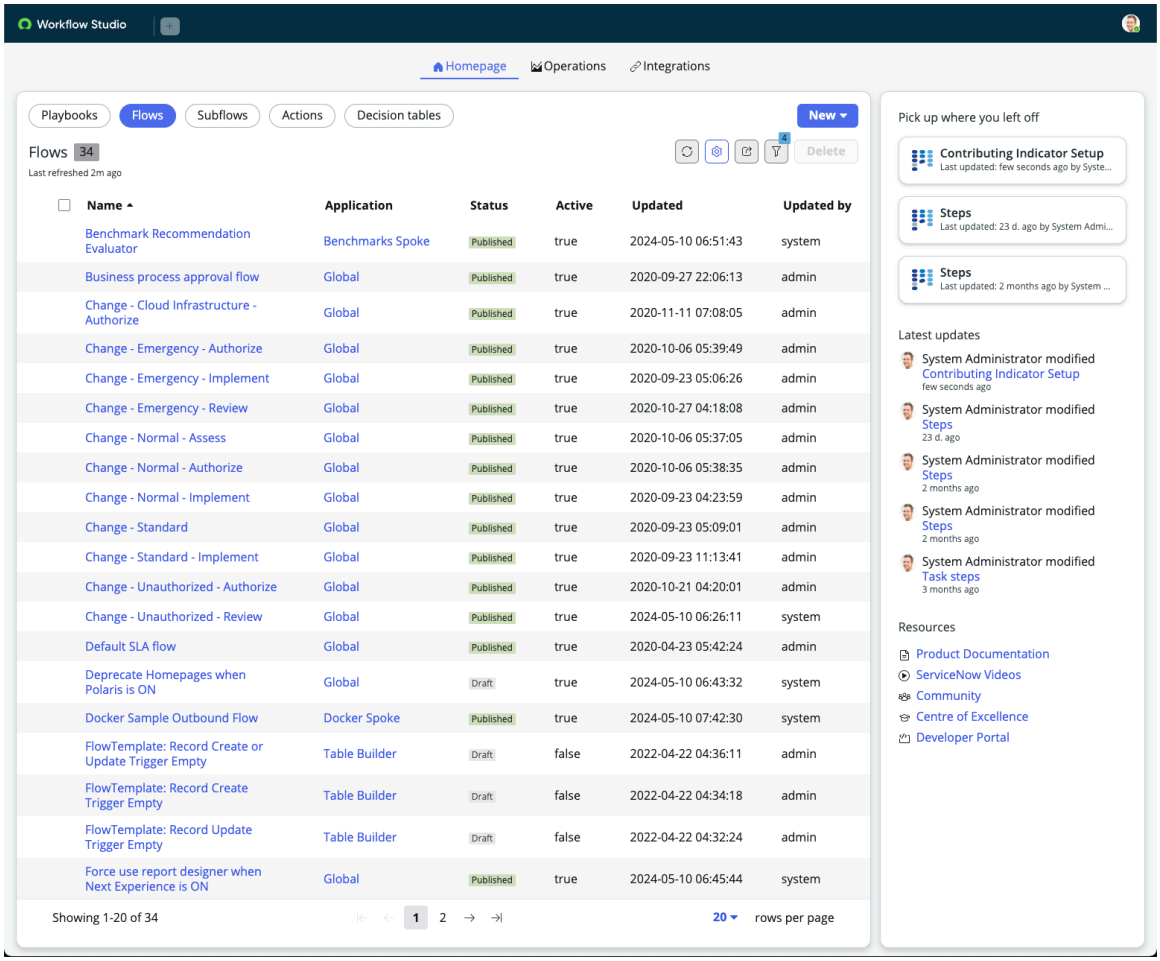
なし

フローデザイナー のランディングページ

アクション、フロー、サブフロー、または実行の詳細にアクセスしたり、作成します。

フローデザイナー のランディングページには、作業のガイドとなるいくつかのセクションとウィジェットがあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



コンポーネントタイプ別の実行可能な作業

このセクションには、レコードリストが作業のコンポーネントタイプごとに表示されます。

フロー

作業可能なフローを一覧表示します。フローを選択すると、そのフローが新しいタブで開きます。デフォルトでは、このリストには、フロー名、内部名、アプリケーションスコープ名、公開ステータス、アクティブ状態、および更新情報が表示されます。標準のリストコントロールを使用して、このリストをフィルタリングまたはカスタマイズできます。

サブフロー

作業可能なサブフローを一覧表示します。サブフローを選択すると、そのサブフローが新しいタブで開きます。デフォルトでは、このリストには、サブフロー名、内部名、アプリケーションスコープ名、公開ステータス、アクティブ状態、および更新情報が表示されます。標準のリストコントロールを使用して、このリストをフィルタリングまたはカスタマイズできます。

アクション

作業可能なアクションを一覧表示します。アクションを選択すると、そのアクションが新しいタブで開きます。デフォルトでは、このリストには、アクション名、内部名、アプリケーションスコープ名、公開ステータス、アクティブ状態、および更新情報が表示されます。標準のリストコントロールを使用して、このリストをフィルタリングまたはカスタマイズできます。

実行

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

実行されたアクション、フロー、およびサブフローの実行の詳細を一覧表示します。デフォルトでは、このリストには、作成日、実行されたアクション、フローまたはサブフローの名前、実行状況、ランタイム期間、作成者、および sys_id 情報が表示されます。標準のリストコントロールを使用して、このリストをフィルタリングまたはカスタマイズできます。

接続

統合ハブ スポークに対して表示または編集可能な接続レコードを一覧表示します。

[すべての作業] フィルター

実行可能な作業のフィルターオプションを一覧表示します。[自分で作成] または [すべての作業] のいずれかを選択します。[自分で作成] オプションを選択すると、自分が作成した フローデザイナー コンポーネントまたは実行の詳細のみが表示されます。[すべての作業] オプションを選択すると、自分が表示または編集する権限を持つすべての フローデザイナー コンポーネントまたは実行の詳細が表示されます。

新規作成

このセクションには、フロー、サブフロー、またはアクションを作成するためのリンクがあります。有効な選択肢は、ユーザーロール、開発者権限、および機能アクセスの設定によって異なります。作成できるのは、自分が作成権限を持つコンポーネントのみです。フローデザイナー コンポーネントへのアクセスを許可または制限する方法については、「ワークフロースタジオ フローへのユーザーアクセス」を参照してください。

中断した場所をピックアップ

このセクションには、最後に作成または編集した フローデザイナー コンポーネントが一覧表示されます。作業を続行するコンポーネントを選択します。

実行レポート

このセクションには 2 つのレポートが表示されます。

今日のフロー実行

このレポートには、本日作成された実行の詳細が一覧表示されます。

今日最も実行されたフロー

このレポートには、過去 24 時間に最も多く実行されたフローまたはサブフローが一覧表示されます。

最近のアクティビティ

このセクションには、フローデザイナー コンポーネントの作成と更新のアクティビティストリームが表示されます。アクティビティストリームには、ユーザー、作業した フローデザイナー コンポーネント、およびアクティビティが発生してから現在までの時間が表示されます。

リソース

このセクションには、製品ドキュメント、サポート動画、コミュニティディスカッション、統合ハブ スポーク、および開発者向けコースへのリンクがあります。

ヘルプパネル

このセクションは、疑問符アイコン ( ) を選択して フローデザイナー のヘルプパネルを閉じると表示されます。フローとアクションのビルドを開始する際に役立つトピックとガイド付きツアーを参照できます。詳細については、「フローデザイナー ヘルプパネルの使用」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

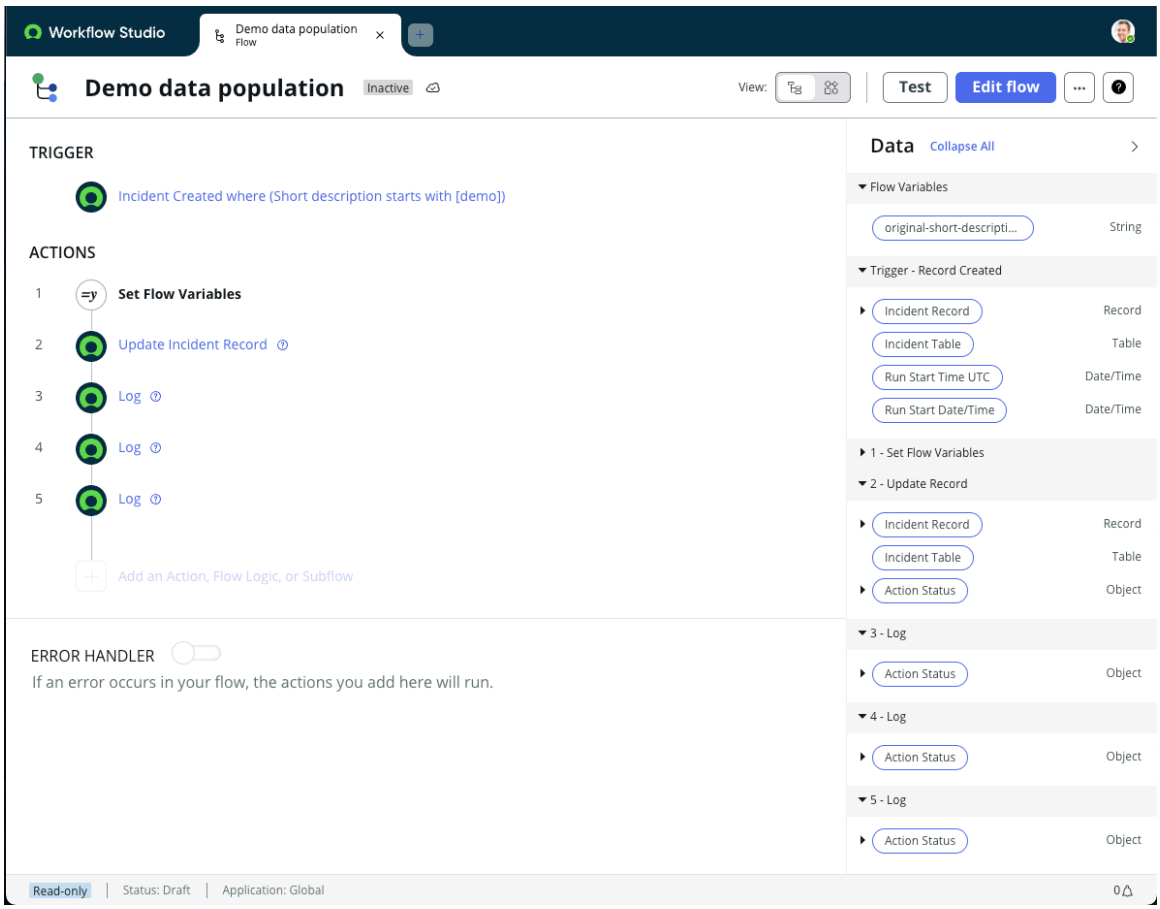
フローデザイナー データ

フローにアクションを追加すると、そのたびに、フローデザイナーによってその結果を格納するためのデータ ピルが追加されます。データ ピルの名前は、フロー内のシーケンスとそのデータ タイプを示します。

フロー設計者は、アクション結果データ ピルを使用して、他のフロー、アクション、またはサブフローの入力を提供します。フロー設計者は、データ ピル名のシーケンス値を使用することで、正しいデータ ピルを入力値として確実に選択できます。フローでアクションが実行されると、データピルのランタイム値が使用時に生成されます。たとえば、[トリガー -> インシデントレコード] のデータピルにインシデントレコード値がフローの開始時に設定された場合、インシデントレコード値が更新され、データピルは、フローの残りに対して更新されたリアルタイム値を反映します。

データピルの設定

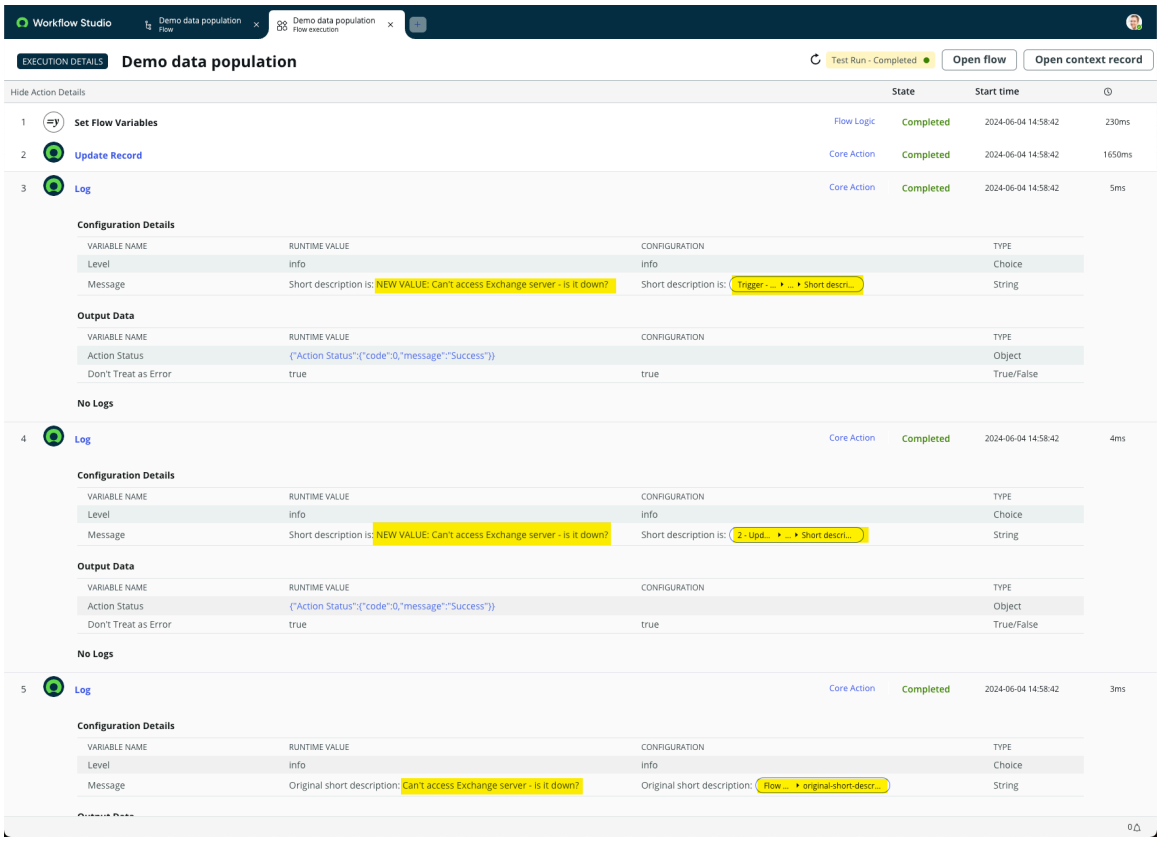
フローデザイナー では、データピルを生成するアクション、フローロジック、またはサブフローの実行が終了したときに、データピルの値が入力されます。別のアクション、フローロジック、またはサブフローが実行されてデータピル値が変更されると、残りのフローには新しい値が使用されます。たとえば、次のアクションを実行するインシデントレコードを作成することで、フローをトリガーしたとします。



1. [トリガー->インシデントレコード->簡単な説明] の値を **original-short-description** フロー変数に保存するための [フロー変数の設定] フローロジック。
2. [トリガー -> インシデントレコード -> 簡単な説明] にテキスト文字列を追加するための [インシデント] レコードの更新アクション。
3. [トリガー->インシデントレコード->簡単な説明] データピルの値を保存するためのログアクション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. **[2->インシデントレコード->簡単な説明]** データピルの値を保存するためのログアクション。
5. **original-short-description** フロー変数の値を保存するためのログアクション。



このフローをテストして実行の詳細を表示すると、実行されたアクションとフローロジックがランタイム値に反映されていることがわかります。アクション-1 は、元のインシデントの簡単な説明を **original-short-description** というフロー変数に保存します。アクション-2 は、[トリガー->インシデントレコード->簡単な説明] データピルの値を変更して、文字列の先頭にプリフィックス NEW VALUE: を追加します。このデータピルを使用する他のすべてのアクションは、この新しい値を使用します。アクション-3 は、アクション-2 によって更新された [トリガー- >インシデントレコード->簡単な説明] データピルの現在の値をログに記録します。アクション-4 は、**[2->**インシデントレコード->簡単な説明] データピルの値をログに記録します。このピルの値は、[トリガー->インシデントレコード->簡単な説明] データピルと同じ値です。どちらのデータピルにも、アクション-2 で設定されたインシデントの簡単な説明が保存されます。アクション-5 は、アクション-1 で設定された **original-short-description** フロー変数の値をログに記録します。

重要: Washington DC リリースの前には、データピルがフローシーケンスのどの位置にあっても、フローデザイナーが、データが利用可能になるとすぐにすべてのデータピルの値を設定していました。この例では、アクション-2 で生成された更新されたデータピル値を使用するのではなく、フローの開始時に [トリガー->インシデントレコード->簡単な説明] のアクション-3 データピルが設定されます。以前の動作が必要な場合は、フロー変数を使用して、生成されたときにデータピル値を保存できます。たとえば、アクション-1 では、データピル値が変更される前に、[トリガー->インシデントレコード->簡単な説明] データピルが **original-short-description** というフロー変数に保存されます。

データセキュリティと **HTML** のサニタイズ

フローデザイナー は、HTML マークアップのすべての文字列データを評価することで、クロスサイトスクリプティングやコードインジェクションから保護します。包含リストに存在する HTML マークアップのみが保持されます。他のすべての HTML マークアップは文字列データから削除されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

包含リストは、変更できない次の HTML 要素と属性をサポートしています。

HTML 包含リスト

HTML 要素	含まれる属性
a	class、href、target、title
abbr	class、title
address	class
area	alt、class、coords、href、shape
article	class
aside	class
audio	autoplay、class、controls、loop、preload、src
b	class
bdi	class、dir
bdo	class、dir
big	class
blockquote	cite、class
br	class
caption	class
center	class
cite	class
code	class
col	align、class、span、valign、width
colgroup	align、class、span、valign、width
dd	class
del	class、datetime
details	class、open
div	class
dl	class
dt	class
em	class
emp	class
font	class、color、face、size
footer	class
h1	class
h2	class
h3	class

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

HTML 包含リスト (続く)

HTML 要素	含まれる属性
h4	class
h5	class
h6	class
header	class
hr	class
html	
i	class
img	alt、class、height、src、title、width
input	aria-label、class、type、value
ins	class、datetime
li	class
mark	class
nav	class
ol	class
p	class
pre	class
s	class
section	class
small	class
span	class
sub	class
sup	class
svg	class
strong	class
style	
table	align、border、class、valign、width
tag	class
tbody	align、class、valign
td	align、class、colspan、rowspan、valign、width
tfoot	align、class、valign
th	align、class、colspan、rowspan、valign、width
thead	align、class、valign
tr	align、class、rowspan、valign
tt	class

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

HTML 包含リスト (続く)

HTML 要素	含まれる属性
u	class
ul	class
video	autoplay、class、controls、height、loop、preload、src、width

フロー図作成ビュー

フローを作成して図として表示します。フローがたどることができるパスと要素間の接続を表示します。

アクティベーション

ServiceNow Store の Web サイトからフロー図をインストールします。

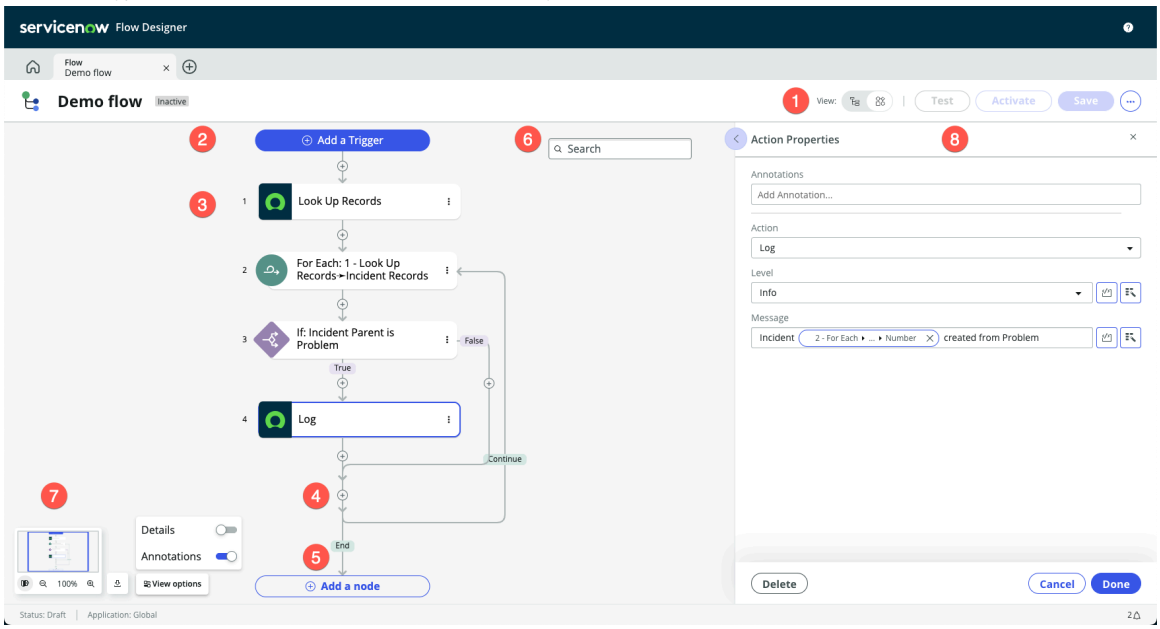
メリット

フローのフロー図作成ビューを有効にすると、次のメリットが得られます。

- フローの特定のパス内で フローデザイナー コンポーネントを追加および編集します。
- フローがたどることができる分岐とパスを表示します。
- フローデザイナー コンポーネント間の関係を表示します。

フロー図作成コンポーネント

フロー図作成ユーザーインターフェイスコンポーネント



フロー図作成ビューは、これらのコンポーネントで構成されています。

1. ビューセレクター

   フロー図作成ビューとフロー説明ビューを切り替えます。

2. トリガーを追加

   フロートリガーを選択して設定します。フロー図作成ビューは、一部のトリガータイプをサポートしていません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. フローノード

   フローコンポーネントをノードとして表示および設定します。各ノードには、これらの要素が表示されます。

   - フロー内のフローコンポーネントの順番
   - スポークまたはコンポーネントタイプを表すアイコン
   - フローコンポーネントの名前
   - フローコンポーネントで利用可能なオプションのメニュー
   - このノードから利用可能なパス

   注: フロー図作成ビューには、サポートされているフローコンポーネントのノードのみが表示されます。

4. プラスアイコン

   フローの特定のパスに沿って挿入するアクション、フローロジック、またはサブフローを選択して設定します。

   注: フロー図作成ビューには、サポートされているフローコンポーネントのオプションのみが表示されます。

5. ノードを追加

   フローの端にあるアクション、フローロジック、またはサブフローを選択して設定します。

   注: フロー図作成ビューには、サポートされているフローコンポーネントのオプションのみが表示されます。

6. 検索ノード

   検索条件に一致するすべてのノードを検索します。

7. ダイアグラムビューコントロール

   ビューの現在のフォーカスを選択し、ズームレベルを設定し、図をダウンロードして、表示オプションを選択します。

   - プレビューおよびズームコントロール
   - ダイアグラムを画像としてダウンロード
   - 表示オプション

8. ノードプロパティ

   現在選択されているノードのプロパティを設定します。

プレビューおよびズームコントロール

サムネイル画像の領域を選択して、ビューの現在のフォーカスを設定します。ズームインおよびズームアウトして、フロー構造の特定の部分を表示します。

ダイアグラムを画像としてダウンロード

現在のフローをポータブルネットワークグラフィック (PNG) 形式の画像としてダウンロードします。ファイルを保存する場所を選択するためのダイアログウィンドウを開きます。この画像には、ノード、接続線、および順序番号のみが表示されています。画像が大きすぎて 1 つのファイルに収まらない場合は、フローのセクションごとに複数の画像が作成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

表示オプション

ダイアグラムビューでのノードの表示方法を設定します。

詳細

各ノードの下にあるボックスでの構成の詳細を表示または非表示にします。構成の詳細には、条件とデータピルパスが含まれています。

注釈

各ノードで使用可能な注釈を表示または非表示にします。注釈は、各ノードの下に斜体のテキストとして表示されます。

サポートされているフローコンポーネント

フロー図作成ビューは、限られた選択肢のフローコンポーネントをサポートしています。フローデザイナー は、サポートされていないフローコンポーネントがフローに含まれている場合、フロー図作成ビューを無効にします。

注釈

フロー図作成ビューは、アクション、フローロジック、およびサブフローへの注釈の追加と編集をサポートしています。

データストリームアクション

フロー図作成ビューは、データストリームアクションの追加と編集をサポートしています。

フローロジック

フロー図作成ビューには、これらのフローロジックタイプを含むフローのみが表示されます。

- ワークフローの呼び出し
- Do the following in parallel (次を並列で操作)
- Do the following until (次を特定の項目まで操作)
- 動的フロー
- そうでない場合
- 終了フロー
- ループを終了
- 各
- フロー出力の取得
- 条件
- 意志決定
- プレースホルダー
- フロー変数の設定
- 反復をスキップ
- 試してください
- 期間の待機

ステージ

フロー図ビューには、フローで使用できるステージが表示されます。

サブフロー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フロー図ビューは、サブフローの追加と構成をサポートしています。

トリガー

フロー図作成ビューには、これらのトリガータイプのフローのみが表示されます。

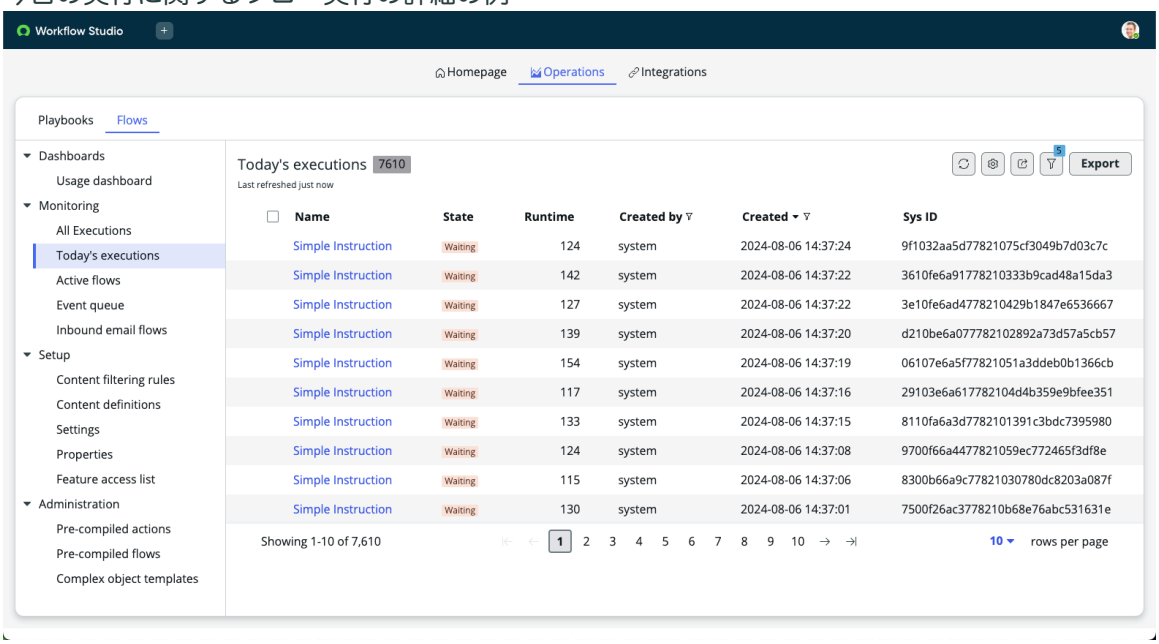
- レコード トリガー
- 日付トリガー
- 受信メール
- Kafka メッセージ
- メトリックベース
- REST API - 非同期
- サービスカタログ
- SLA タスク

フロー実行の詳細

現在のステータス、実行されたアイテム、生成された値など、設計環境からアクションまたはフローに関するランタイム情報を直接表示します。埋め込まれた Now Platform エディターまたは新しいタブから関連レコードを開きます。

フローをテストするたびに、フロー実行の詳細として生成された構成値とランタイム値に関する情報が生成されます。フロー実行の詳細は、ワークフロースタジオ の [操作] タブから表示できます。関連する実行の詳細ページを開くには、フロー実行を選択します。

今日の実行に関するフロー実行の詳細の例

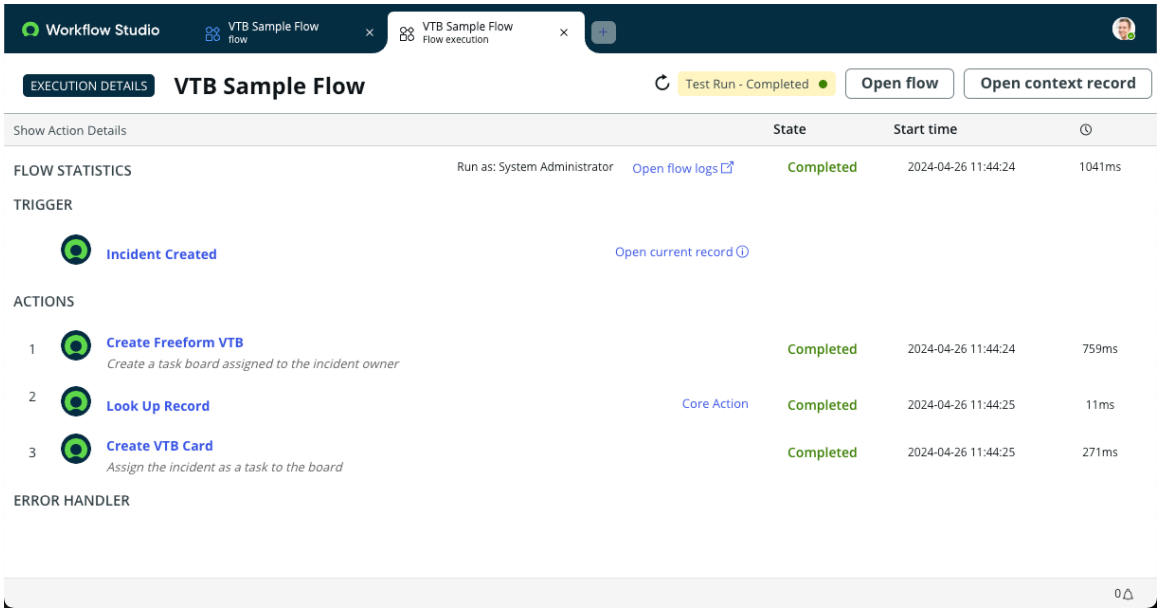


それぞれの実行の詳細ページには、フローに関するランタイム情報が表示されます。

- フローの名前
- フローデータをリフレッシュ
- フロー状態
- 関連レコードのオプション
- フロー統計情報

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

実行の詳細の例



レポートレベル

レポートレベルは、通常の操作中にフロー、サブフロー、またはアクションが生成する実行の詳細を決定します。デフォルトでは、フローデザイナー は通常の操作中に実行の詳細を生成しません。フローデザイナー は、個々のフロー、サブフロー、またはアクションをテストするときは、フロー実行の詳細を生成します。インスタンスがより多くの実行の詳細を生成して保存すると、レポートによって、インスタンスに対するより大きなパフォーマンス上の影響が生じます。

各レポートレベルでは、さらにフロー実行の詳細が段階的に生成されます。

オフ

フロー実行の詳細は生成されません。テストの実行時にのみ、実行の詳細が生成されます。

注: アクションまたはフローをテストすると、トレースレベルで実行の詳細が生成されます。

基本：ランタイム状況と期間のみ

フロー、サブフロー、およびアクションが実行されるたびに、ランタイム実行の詳細が生成されます。これらの基本的なアイテムについて、ランタイムステータスと期間を確認できます。また、フロートリガー、サブフロー入力、サブフロー出力について、構成とランタイム値の確認もできます。

完全：アクションの構成とランタイム値 (デバッグのみ)

フロー、サブフロー、アクションが実行されるたびに、構成とランタイム実行の詳細が生成されます。すべてのアイテムについて、ランタイムステータス、期間、入力値、および出力値を確認できます。カスタムアクションの場合は、ステップのランタイムステータス、期間、入力値、および出力値を確認できます。また、フロートリガー、サブフロー、アクション、およびカスタムアクションの一部になっているステップについて、構成値の確認もできます。

重要: fd_read_operations_all ロールを持つユーザーのみが、フロー実行の詳細でレコード値などの構成およびランタイム情報を表示できます。このロールを持たないユーザーには、ステータスと期間に関する基本的な詳細のみが表示されます。

トレース：すべての値 (テストとサポートのみ)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フロー、サブフロー、アクション、およびステップが実行されるたびに、構成とランタイム実行の詳細が生成されます。すべてのアイテムについて、ランタイムステータス、期間、入力値、および出力値を確認できます。また、フロートリガー、サブフロー、アクション、およびステップについて、構成値の確認もできます。

重要: fd_read_operations_all ロールを持つユーザーのみが、フロー実行の詳細でレコード値などの構成およびランタイム情報を表示できます。このロールを持たないユーザーには、ステータスと期間に関する基本的な詳細のみが表示されます。アクションまたはフローをテストすると、トレースレベルで実行の詳細が生成されます。

レポートがオフになっている場合にフローが実行されると、レポートレベルが後で変更されても、フローの過去の実行の詳細は使用できません。レポートがオンの場合にフローが実行されると、レポートレベルが変更されても、フローの実行の詳細は使用できます。レポートレベルはコンテキストおよびログレコードには影響しません。

フローが実行されるたびに実行の詳細の生成に使用されるデフォルトのレポートレベルを設定できます。詳細については、「フローのレポートの有効化」を参照してください。

フローデータをリフレッシュ

必要に応じてフローのランタイムデータを更新します。フロー設定を、テストの実行時にフローデータを自動的に更新するように設定します。「フローのユーザー設定」を参照してください。

フロー状態

すべての有効なフローは次のいずれかの状況になります。

完了

フローはすべてのアクションを正常に実行しました。フロー統計情報には、アクションごとの構成とランタイムの詳細が表示されます。

キャンセル

フローの実行時間がフローのタイムアウト値を超えたために、フローが停止したか、手動でフローがキャンセルされました。

待機中

続行する前に条件が満たされるのを待っているアクションで、フローが一時停止しました。フロー統計情報には、完了したアクションおよび条件が満たされるのを待機しているアクションの構成とランタイムの詳細が表示されます。待機状態でのフローでは、ヘッダーに [フローのキャンセル] UI アクションが表示されます。

一時停止

優先度の高いフローの実行または正常なノードのシャットダウンを可能にするために、フローが一時停止されました。フロー統計情報には、完了したアクションの構成とランタイムの詳細が表示されます。

中断と推定

フローが 15 分以上実行されていて、現在のノードに有効なトランザクション ID がなくなりました。または、フローが別のノードで 8 時間を超えて実行されています。トランザクションの終了やノードの再起動などの予期しない中断が原因で、フローが停止した可能性があります。

エラー

フローはエラーで停止しました。フロー統計情報には、完了したアクションの構成とランタイムの詳細、およびエラーを生成したアクションの構成の詳細が表示されます。エラー状態のフローでは、ヘッダーに [エラーに移動] UI アクションが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: アクションによってエラーが発生すると、フローはその時点で実行を停止し、エラーステータスになります。

関連レコードのオプション

[実行の詳細] ページから、現在のフローに関連するレコードにアクセスできます。

フローを開く

構成を変更してフローの新しいインスタンスを公開するには、このオプションを使用します。フローの構成を変更しても、現在有効なフローは変更されません。

コンテキストレコードを開く

標準のフォーム ビューから、フロー状態、実行時間、および関連するログ エントリーを表示するには、このオプションを使用します。このオプションでは、新しいタブにコンテキスト レコードが開きます。

フロー ログを開く

各アクションに関する詳細なログ情報を表示するには、このリンクを使用します。このリンクをクリックすると、新しいタブにログ エントリーの一覧が表示されます。

現在のレコードを開く

レコードベースのトリガーを持つフローの場合は、このリンクを使用して、ポップアップ ウィンドウにトリガーとなるレコードを表示します。

アクションを開く

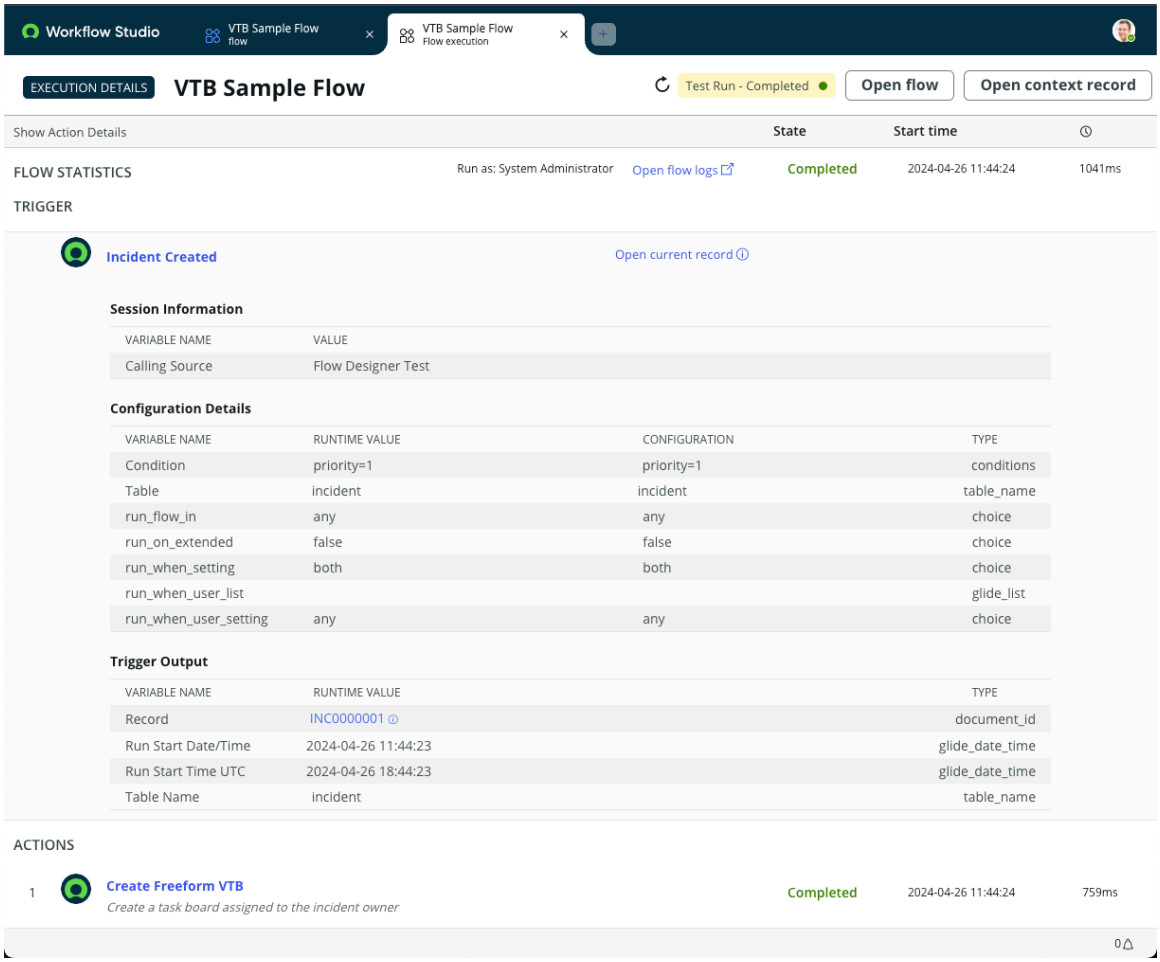
このリンクを使用して、構成の変更を行い、アクションの新しいインスタンスを公開します。アクションの構成を変更しても、現在有効なフローは変更されません。ServiceNow が提供するコアアクションでは、このリンクは利用できません。

フロー統計情報

フロー統計情報を使用して、各フローコンポーネントの構成の詳細とランタイム値を確認します。トリガーまたはアクションを選択すると、行が展開され、その行に関する構成とランタイムの詳細が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フロー統計情報の例



次のタイプの実行の詳細が利用できます。

コール ソース

フロー、サブフロー、またはアクションを開始したコールソースを表示します。

実行方法

フローの [実行方法] が、システムなのか、フローをトリガーしたユーザーなのかを識別します。

実行するロール

フローをトリガーしたユーザーに付与されたロールを識別します。

統合メタデータ

使用している接続と資格情報、使用している MID サーバー、ターゲットホスト、ペイロードサイズなどのトランザクションデータを表示します。データ連携メタデータは統合ステップでのみ表示されます。また、統合ハブ のサブスクリプションが別途必要です。詳細については、「統合ステップ」を参照してください。

構成詳細

入力変数のリストを表示して、アクションの構成エラーを特定します。各変数には、名前、データタイプ、構成設定、およびランタイム値を表示する独自の行があります。構成設定では、動的な値がピルとして表示されます。ランタイム値には、生成されたレコードがリンクとして表示されます。

注: 変換機能を持つ変数では、ランタイム値が 1 つだけ表示されます。これはすべての変換の結果です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力データ

出力変数のリストを表示して、アクションの構成エラーを特定します。

ログ

ログ エントリーを使用して、処理やパフォーマンスの潜在的な問題を特定します。各ログ エントリーには、作成日、ログ レベル、およびログ メッセージを表示する独自の行があります。アクションによってログが生成されない場合、統計情報には「ログがありません」という文字列が表示されます。

注: ログは UTC 形式で表示されます。これは、インスタンスが複数のノード間でログデータを共有できるように、ログを文字列として保存する必要があるためです。各ノードは異なるタイムゾーンに存在する可能性があるため、正しい時間の値を保持するための一般的な形式として UTC 形式が使用されます。

ステップ

ステップのリストを使用して、アクションの構成エラーを特定します。各ステップには、変数名、データタイプ、構成設定、およびランタイム値を表示する独自の行があります。コアアクションについては、構成を変更できないため、ステップが表示されません。

com.snc.process_flow.reporting.serialized.val_size_limit システムプロパティを変更して、フロー実行の詳細のステップ構成でランタイム値を切り捨てます。詳細については、「ワークフロースタジオ フローシステムプロパティ」を参照してください。

開始時間

アクションが開始された現地時間を表示します。

実行期間

実行時間を使用して、処理やパフォーマンスの潜在的な問題を特定します。実行時間はミリ秒単位で測定されます。Washington DC リリースの時点では、実行時間にはアイテム実行の合計時間が一覧表示されます。合計時間には、以下の項目が含まれます。

- イベントキュー内の時間
- ECC キュー内の時間
- イベントの処理時間
- フローエンジンでの実行時間
- MID サーバーとの通信時間

再試行情報

[再試行情報] セクションを使用して、再試行ポリシーの詳細を確認します。詳細には、再試行戦略のタイプ、経過時間、次のスケジュールされた再試行要求が含まれます。[再試行情報] セクションは、ステップで再試行ポリシーが有効になっている場合にのみ表示されます。詳細については、「再試行ポリシー」を参照してください。

コール ソース

コールソースには、フロー、サブフロー、またはアクションの開始元が一覧表示されます。

ソース	説明
フローデザイナー のテスト	誰かがフローデザイナーのインターフェイスから [テスト] オプションを選択したためにフローが開始されました。フローのトリガー条件は無視されました。

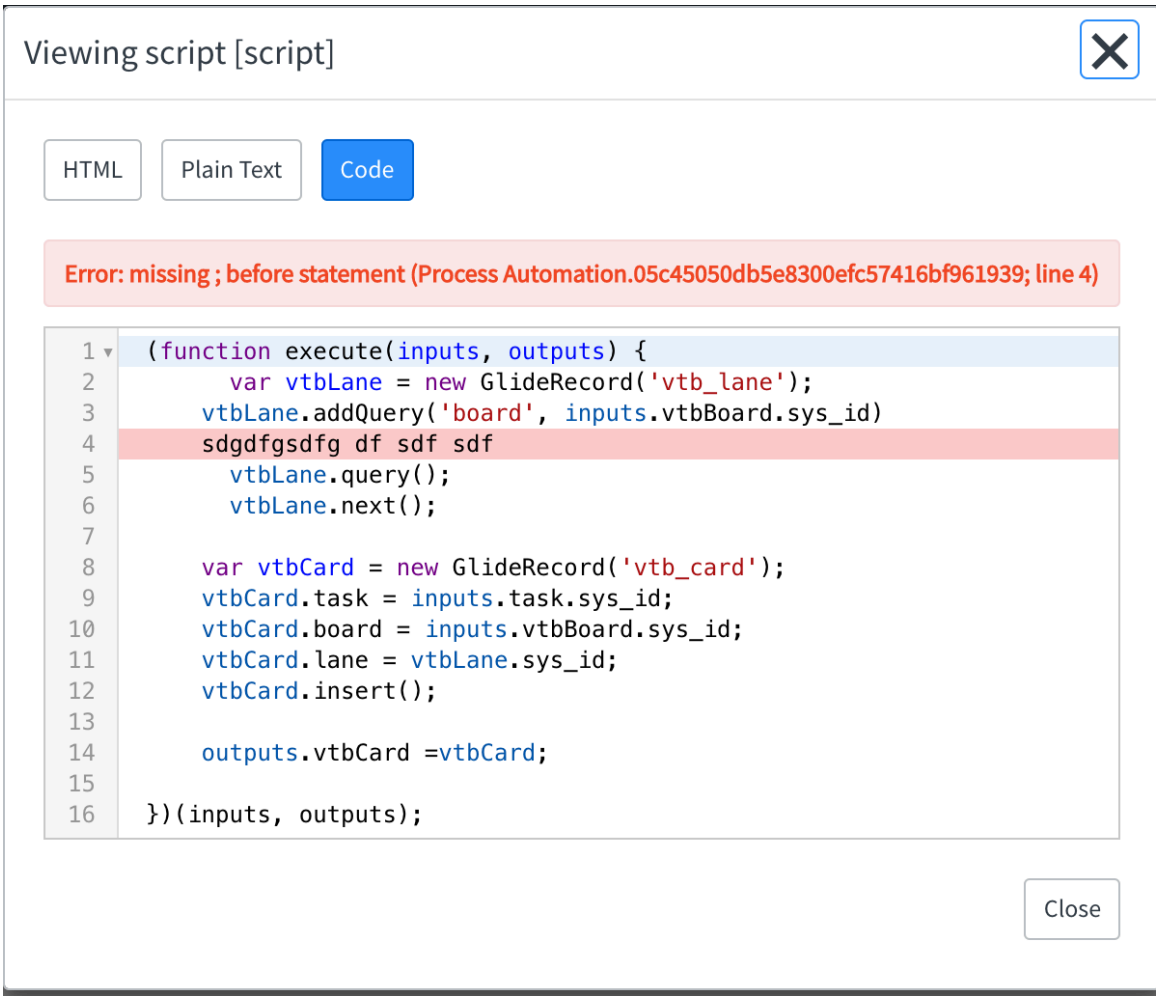
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソース	説明
CRUD トリガー	レコードベースのトリガー条件が満たされたときにフローが開始されました。
日付トリガー	スケジュールベースのトリガー条件が満たされたときにフローが開始されました。
Metric トリガー	メトリックベース のメトリックベースのトリガー条件が満たされたときにフローが開始されました。
サービスカタログ トリガー	サービスカタログアイテムが要求されたときにフローが開始されました。
スクリプト	ビジネスルールなど、スクリプト内のメソッド呼び出しからフローが開始されました。
バックグラウンド スクリプト	[スクリプト - バックグラウンド] モジュール内のメソッド呼び出しからフローが開始されました。

埋め込みテキスト ビューアー

フローデザイナー では、埋め込みテキストビューアーを使用して、メール出力、XML ペイロード、スクリプトステップなど、大規模なテキストベースの構成およびランタイムの出力レコードが表示されます。埋め込みテキスト ビューアーでは、テキストを HTML、プレーン テキスト、または色分けされた JavaScript として書式設定できます。スクリプト ステップについては、テキスト ビューアーではエラーを含むコード行が強調表示されます。

スクリプト ステップのテキスト表示の例

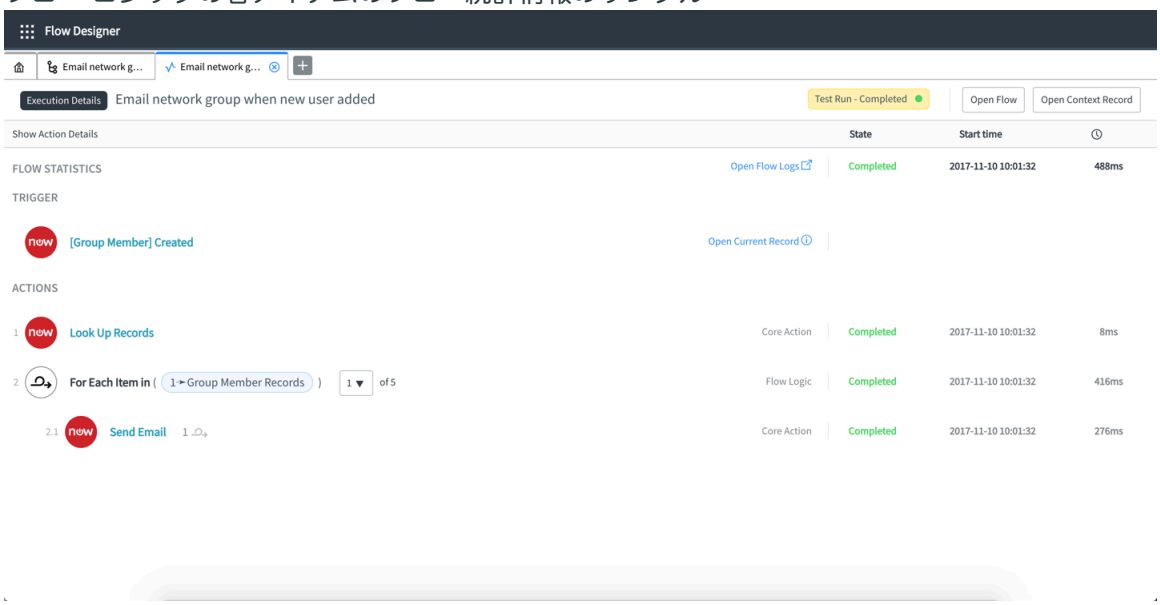


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フロー ロジックの各アイテムの結果の表示

フローデザイナー には、フローロジックによって処理された各アイテムの構成とランタイムの結果を表示するためのセレクターコントロールが表示されます。レコード番号を選択すると、その構成と実行時の詳細が表示されます。

フロー ロジックの各アイテムのフロー統計情報のサンプル



サブフロー実行の詳細

プロセスアナリストは、複数の場所からサブフロー実行の詳細を表示できます。

親フロー

親フローは、インライン要素として呼び出される各サブフローのフロー実行の詳細をリストします。サブフローのステップを展開して、サブフロー実行の詳細を表示します。

サブフロー

サブフローが実行されるたびにフロー実行の詳細が生成されます。フロー実行のリストからサブフロー実行の詳細を直接表示します。

ユーザーロールのサポート

ユーザーロールを付与することで、フロー実行の詳細へのアクセスを制御できます。フローデザイナー のユーザーロールの詳細については、「ワークフロースタジオ フローへのユーザーアクセス」を参照してください。

フローデザイナー の実行の詳細のロール

ロールタイトル [名前]	説明	ロールを含む
flow_operator	ユーザーがフロー実行の詳細、ダッシュボード、およびログを表示できるようにします。アドミニストレーターは、実行結果を表示する必要はあるじぇが、実行結果の作成、変更、テストは行わないユーザーに対して、このロールを付与できます。	なし
fd_read_operation	ユーザーが基本フローおよびアクションの実行の詳細を表示できるようにします。レポートが有効になっている場合、このロールを持つユーザー	なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローデザイナー の実行の詳細のロール (続く)

ロールタイトル [名前]	説明	ロールを含む
	は、ランタイムの状況や期間などの基本的な実行の詳細のみを表示できます。レポートレベルで追加の詳細が生成された場合、このロールを持つユーザーはそれらを表示できません。アドミニストレーターは、基本的な実行の結果を表示する必要はあるがフローおよびアクションの作成、変更、テストは行わないユーザーに対して、このロールを付与できます。 **注:** 読み取り専用ロールは、flow_designer や action_designer など、書き込みアクセス権を提供するロールと互換性がありません。同じユーザーに読み取り専用アクセスロールと書き込みアクセスロールの両方を付与することは避けてください。	
fd_read_operations_all	ユーザーが生成されたすべてのフローおよびアクションの実行の詳細を表示できるようにします。レポートが有効になっている場合、このロールを持つユーザーは利用可能なすべての実行の詳細を表示できます。ユーザーは、レポートレベルのシステムプロパティで定義されている詳細のみを表示できます。アドミニストレーターは、すべてのフローの結果を表示する必要はあるがフローおよびアクションの作成、変更、テストは行わないユーザーに対して、このロールを付与できます。 **注:** 読み取り専用ロールは、flow_designer や action_designer など、書き込みアクセス権を提供するロールと互換性がありません。同じユーザーに読み取り専用アクセスロールと書き込みアクセスロールの両方を付与することは避けてください。	fd_read_operation

フローロール

特定のロールで実行するフローとサブフローを作成します。ロールを割り当てることで、ユーザーが開始したフローを作成できます。このフローは、そのユーザーのロールではなく自身のロールで実行されます。

ロールの選択

フローは、システムユーザーとして、またはセッションを開始したユーザーとして実行されます。ロールは、セッションを開始するユーザーとして実行されるフローにのみ割り当てることができます。フローをシステムユーザーとして実行する場合、フローはシステムロールで実行され、個々のロールを選択することはできません。詳細については、「ワークフロースタジオ でのフローの作成」を参照してください。

フローに複数のロールを割り当てることができます。新しいロールを選択すると、フローの元のロールが置き換えられます。ロールが選択されていない場合、フローはセッションを開始したユーザーのロールで実行されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローに対して選択できるロールは、所有しているロールとフローのアプリケーションスコープによって異なります。特定のスコープ内でアクセス権を持つ任意のロールを割り当てることができます。ただし、高セキュリティロールは除きます。次のロールをフローに割り当てることはできません。

- admin
- security_admin
- ヒューマンリソース (HR) のアプリケーションアドミニストレーターロールなど、アプリケーション固有のアドミンロール

変更およびコピーされたフロー

他のユーザーがフローを変更およびコピーできます。フローを変更するには、ユーザーがフローと同じロールを持っている必要があります。フローに割り当てられたいずれのロールも持たないユーザーには、フローが読み取り専用として表示されます。

フローをコピーすると、割り当てられたロールが削除されます。コピーされたフローは、システムロールまたはセッションを開始したユーザーのロールのいずれかで実行されます。

不足しているロール

フローがインスタンス上にないロールを参照することがあります。不足しているロールは、削除されたか、インスタンスに存在しない可能性があります。どちらの状況もインスタンス間でフローを移動するときに発生する可能性があります。ロールが利用できない場合、[ロールを使用して実行] フィールドにはロールの名前ではなく sys_id が表示されます。ロールがない間は、フローへの変更を保存できません。フローの変更を保存するには、ロールをフローから削除するか、インスタンスに追加します。

実行におけるフローロールの詳細

フロー実行の詳細を表示すると、フローの「実行に使用する」ロールを確認できます。[実行方法] フィールドを使用して、フローを実行したユーザーを特定します。ロールを割り当てることができるのは、開始ユーザーとして実行されたフローのみです。これらのフローには、フローに割り当てられたロールを表示する [ロールを使用して実行] フィールドがあります。

サブフローロール

フローとサブフローはそれぞれ独自のロールで実行されます。サブフローは親フローからロールを継承しません。フロー実行が子フローから親フローに戻ると、子フローに関連付けられた特別なロールはすべて削除されます。親は独自のロールで実行を続行します。

アクセス制御リスト

フローにロールを割り当てても、フローがレコードまたはテーブルにアクセスできるとは限りません。ロールはアクセス制御リスト (ACL) の重要な部分ですが、可能な条件の 1 つにすぎません。フローが目的のレコードにアクセスできない場合は、テーブルとフィールドのレコード ACL ルールを確認します。ACL ルールでは、アクセスを許可するために追加の基準が必要になる場合があります。詳細については、「アクセス制御リストルール」を参照してください。

ドメインセパレーションと フローデザイナー

ドメインセパレーションは フローデザイナー でサポートされています。 フローデザイナー は、ビジネスロジックのドメインセパレーションをサポートしています。これにより、各テナントドメインに独自のフロー、アクション、サブフローを組み込むことができます。 ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートレベル：標準*

- ベーシックレベルを含みます。
- ビジネスロジック：サービスプロバイダーによって顧客ごとにプロセスを作成または変更できます。ユースケースには、単一のインスタンスでの複数のサービスプロバイダー顧客によるアプリケーションの正しい使用が反映されています。
- インスタンスの所有者は、特定のアプリケーションに期待される通りに、テナントごとに MVP ビジネスロジックとデータパラメーターを設定できる必要があります。

ユースケース：アドミニストレーターには、あるテナントではレコードを閉じる際にコメントを残すことを必須にし、別のテナントでは必須にしない機能が必要です。

フローデザイナーにおけるドメインセパレーションの仕組み

システムドメインは、これらのルールに従って フローデザイナー のコンテンツを分離します。

フローデザイナー のコンテンツは、コンテンツを作成したユーザーのドメインを継承します

フロー、アクション、およびサブフローは、それらを作成したユーザーのドメインに属します。たとえば、TOP ドメインのサービスプロバイダー (SP) アドミニストレーターがフローを作成する場合、そのフローは TOP ドメインに属します。

> **注:** ドメインピッカーから選択されたドメインは、ユーザーが属するドメインを上書きします。たとえば、TOP ドメインの SP アドミニストレーターがドメインピッカーから ACME ドメインを選択する場合、作成されたコンテンツはすべて ACME ドメインに属します。

フローデザイナー のコンテンツはトリガーまたは開始されるドメインから実行される

フロー、アクション、およびサブフローは、それらを開始したレコードまたはユーザーのドメインから実行されます。たとえば、子ドメイン ACME のユーザーが親ドメイン TOP に属するフローをトリガーすると、フローは子ドメイン ACME のコンテキストで実行されます。

トリガータイプ別のドメインアサイン

トリガータイプ	ドメインアサイン
API 呼び出し	API 呼び出しを行うユーザーのドメイン
メールトリガー	メール送信者のドメイン
レコードトリガー	トリガーレコードのドメイン
スケジュールされたトリガー	フローのドメイン
サービスカタログトリガー	要求アイテムレコードのドメイン

フローデザイナー は現在のドメインコンテキストからアクセス可能なコンテンツのみを実行する

システムは、現在のドメインコンテキストでアクセスが許可されているコンテンツのみを実行できます。データ分離とドメイン階層を理解するには、「ドメインセパレーションについて理解する」を参照してください。たとえば、子ドメイン ACME のユーザーは、親ドメイン TOP に属するフローをトリガーすることはできますが、INITECH などの兄弟ドメインに属するフローをトリガーすることはできません。

フローデザイナー は現在のユーザードメインコンテキストからレコード操作を実行します。ルックアップレコードアクションなどの読み取り操作は、現在選択されているドメインとその子に基づいてレコードを返します。たとえば、現在選択されているド

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メインが TOP ドメインである場合、TOP ドメインとそのすべての子 (ACME ドメインや INITECH ドメインなど) のレコードが表示されます。現在選択されているドメインが ACME ドメインの場合、ACME ドメインとその子のレコードは表示されますが、親 TOP ドメインのレコードは表示されません。

> **注:** レコード操作では、レコードが属するテーブルに適用されるデータまたはプロセスの分離ルールを使用します。たとえば、ビジネスルールテーブルがプロセス分離されているとします。TOP ドメインにビジネスルールを追加すると、プロセス分離によって親ドメインのレコードにアクセスできるため、ACME ドメインなどの子ドメインのレコード操作でビジネスルールにアクセスできるようになります。

ディシジョンテーブルやワークフローなどの別のアプリケーションを呼び出すフローも、現在のユーザードメインコンテキストから実行されます。

フローデザイナー はトリガー条件が満たされたすべてのフローを実行する

あるドメイン内のフローは、別のドメインからのフローを上書きしたり、別のドメインからフローが実行されないようにすることはできません。フローデザイナー は、現在のユーザーに表示され、トリガー条件が満たされたすべてのフローを実行します。たとえば、インシデントレコードの作成によってトリガーされる TOP ドメインに属するフローは、インシデントが ACME または INITECH のどちらの子ドメインに作成されているのかに関係なく、インシデントが作成されるたびに実行されます。

一般的なガイドライン

フローデザイナー でドメインセパレーションを使用する場合は、次の一般的なガイドラインに従います。

テナントフロー、アクション、およびサブフローがドメインに対して適切に実行されていることを確認する

テナントは フローデザイナー のコンテンツを上書きできないため、TOP ドメインのサービスプロバイダー (SP) アドミニストレーターは、ドメインで正しく実行されるように、テナントを作成して管理する必要があります。ドメイン固有のフローを作成することもできますが、階層の上位のドメインから作業しているユーザーが複数の子ドメインフローをトリガーする可能性があります。たとえば、TOP ドメインで作業しているユーザーは、ACME や INITECH などの子ドメインでフローをトリガーできます。

> **注:** フロー作成者は、階層内の現在のドメインと親ドメインから利用可能な フローデザイナー のコンテンツのみを表示できます。フローデザイナー は包含ドメインから表示されるコンテンツを表示しません。

各フロー、アクション、およびサブフローに一意の名前を指定する

すべてのドメインが フローデザイナー のコンテンツを共有するため、TOP ドメインの SP アドミニストレーターが各フロー、アクション、およびサブフローに一意の名前を付けて、特定のドメインを対象としているフローが別のドメインのフローの名前と重複しないようにします。たとえば、「`インシデントの検証 - TOP`」、「`インシデントの検証 - ACME`」、「`インシデントの検証 - INITECH`」のように、フロー名にドメインを追加します。

フローとアクションに現在のドメインまたは親ドメインからのアーティファクトのみが含まれていることを確認する

フローデザイナー は、現在のドメインまたは親ドメインで利用できないアーティファクトを含むフローがアクティブ化されるのを防ぎます。たとえば、ACME ドメインに属するドメイン固有のフローを作成する場合、兄弟ドメイン INITECH に属するアクションまたはサブフローを含めることはできません。

属するドメインの フローデザイナー のコンテンツを編集する

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

親ドメインのユーザーは、子ドメインのフロー、アクション、およびサブフローを表示できません。これらを編集するには、属しているドメインに変更する必要があります。たとえば、TOP ドメインのアドミニストレーターは ACME ドメインからのフローを表示できません。それらを表示および編集するには、アドミニストレーターが ACME ドメインに切り替える必要があります。

関連情報

サービスプロバイダーのドメインセパレーション

ドメインセパレーションされた要求のグループ承認の生成

グループのすべてのメンバーに対して承認を生成するか、要求のドメインから表示されるグループメンバーのみに承認を制限するように フローデザイナー を構成します。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

デフォルトでは、フローデザイナー はドメインの可視化に関係なく、親要求にアクセスできるすべてのグループメンバーに対して承認を生成します。この構成では、子ドメインのメンバーからの要求で、ドメイン階層の下位からは表示されない親ドメインのメンバーの承認を生成できます。この手順を使用して、承認の生成を親要求のドメインから表示されるグループメンバーのみに制限できます。ドメイン階層の詳細については、「ドメインセパレーションについて理解する」を参照してください。ヴィジビリティドメインと包含ドメインの詳細については、「ヴィジビリティドメインと包含ドメイン」を参照してください。

手順

1. システムプロパティーを追加します。
2. システムプロパティ名として、「`com.glide.hub.flow.approval.group_member.use_query_no_domain`」と入力します。
3. システムプロパティタイプとして、**true|false** を選択します。
4. システムプロパティ値として、次のいずれかの値を入力します。

オプション	説明
true	親要求のドメインにアクセスできるグループのすべてのメンバーに対して承認を生成します。承認生成クエリからドメインの可視化を除外するには、このオプションを選択します。たとえば、ドメイン階層の上位のドメインに属するユーザーの承認を生成します。これがデフォルト値です。
false	親要求のドメインから表示されるグループメンバーに対してのみ承認を生成します。承認生成クエリでドメインの可視化を含めるには、このオプションを選択します。たとえば、ドメイン階層の上位のドメインに属するユーザーに対して承認は生成されません。

注: フローデザイナー は要求のドメインにアクセスできるユーザーに対してのみ承認を生成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
フローデザイナー は親要求と同じドメインまたは子ドメインに属するグループメンバーに対してのみ承認を生成します。

アーキテクチャの概要

フローデザイナーが Now Platform の中でフローやアクションをアクティブ化し、トリガーし、処理する仕組みについて理解します。

フローは「トリガー」と 1 つ以上のアクションで構成されます。トリガーは、いつフローを開始するかを指定するもので、レコードベース、スケジュールベース、またはアプリケーションベースになります。レコードベースのトリガーは、レコードが作成、更新、または削除された後にフローを実行します。フローではアクションの入力として、トリガーとなるレコードを使用できます。スケジュールベースのトリガーは、指定した日時にフローを実行します。フローではアクションの入力として、実行日時を使用できます。アプリケーション トリガーは、関連するアプリケーションが有効になったときに追加されます。たとえば、メトリックベース トリガーは、メトリックベース アプリケーションが有効のときに出現します。

フローの処理

フローの処理は次のシーケンスで行われます。

1. フローのトリガー条件が発生した場合、または API がフローを直接呼び出した場合、システムはイベントキューにエントリーを作成してフローを開始します。
2. スケジューラーはイベントを処理し、バックグラウンドでフローを開始します。
3. システムは、フローからプロセス計画を作成します。
4. システムは、フローをトリガーしたレコードを使用してプロセス計画を実行します。
5. システムは、実行の詳細をコンテキスト レコードに格納します。

1. フロートリガーおよび API 呼び出しを処理する

   トリガー条件が満たされた場合、または API がフローを直接呼び出した場合、そのたびに フローデザイナー によってイベントエントリーが作成されます。システムは、データベースの操作後にトリガーを処理します。詳細については、「スクリプトとエンジンの実行順序」を参照してください。通常、同時に実行されるビジネスルールの仕組みとワークフローエンジンの操作順序は、トリガーされるフローの前に実行されます。

2. キュー内のイベントを処理する

   フロー イベントにはそれぞれ、開始するフローへの参照と、トリガーとなるレコードか実行時間のいずれかへの参照が含まれています。システムは、イベントを使用してこれらのイベントを処理します。この処理では、スケジューラーがイベントキュー内の現在のアイテムを、追加された順に定期的に処理します。キュー内の他のイベントによっては、システムがすぐにフローを開始しない場合があります。フロー設計者は、トリガー条件が発生してから実際にフローが開始されるまでの間に、ある程度の遅れ時間が生じることを想定する必要があります。

3. プロセス計画を作成する

   フローデザイナーがキューからイベントを取り出すと、「プロセス計画」を作成して、実際にフローを実行します。プロセス計画には、フローの実行に必要なすべての情報が

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

含まれています。たとえば、一連の公開されたアクションまたはサブフロー、各サブフローまたはアクションの入力値、各アクションに対して実行するアクション ステップ、トリガーまたはサブフローの出力から提供されるデータなどが含まれています。

フローデザイナー では、フロー、サブフロー、アクションに対する最新の変更がプロセス計画に含まれるように、ジャストインタイムのコンパイル方式が採用されています。変更が検出されない場合、フローデザイナーは、プロセス計画のキャッシュされたコピーを使用します。それ以外の場合は、新しいプロセス計画を作成します。

更新されたフロー、サブフロー、およびアクションをプロセス計画で自動的にチェックすることにより、フローデザイナーでは、現在のフローを編集しなくても更新セットやアップグレードからの変更を適用することができます。公開されたアクションをターゲット インスタンスに移動すると、公開されたアクションを使用するすべてのフローが次回の実行時に自動的に更新されます。

> ⚠ **警告:** アクティブになったフローで使用されるサブフローやアクションを変更する場合は、サブフローやアクションで使用する入力と出力を変更しないでください。入力と出力を変更した場合、新しい入力と出力を使用するように設定されていないため、アクティブになったフローが次回トリガーされたときにエラーが発生することがあります。現在実行中のフローはすべて、プロセス計画から得られたコンパイル済みのサブフローやアクションを使用するため、入力または出力の変更の影響を受けることはありません。

4. プロセス計画を実行する

   フローデザイナーは、フローのプロパティで指定されたユーザーとしてプロセス計画を実行し、それをフローアプリケーションのスコープ内で実行します。

   レコードベースのトリガーを使用してフローを実行する場合、フローデザイナーは、トリガーレコードを「インスタンス」としてメモリに格納します。これはインターフェイスでは「データ ピル」として表現されます。

   フローにアクションを追加するたびに、アクションの結果を保存するデータピルがフローデザイナーによって追加されます。データ ピルの名前は、フロー内のシーケンスとそのデータ タイプを示します。フロー設計者は、アクション結果データ ピルを使用して、他のフロー、アクション、またはサブフローの入力を提供します。フロー設計者は、データ ピル名のシーケンス値を使用することで、正しいデータ ピルを入力値として確実に選択できます。フローでアクションが実行されると、データピルのランタイム値が使用時に生成されます。

5. フロー実行の詳細を格納する

   フローデザイナーは、フロー実行の詳細を「フロー コンテキスト レコード」に格納します。これには次の情報が含まれています。

   - フローの結果の状態
   - フローの実行時間
   - フローのログ メッセージ
   - フローの設定とランタイム値

   フローが実行されるたびに、フローデザイナーによって [フロー実行] リストにエントリーが追加されます。各エントリーには、独自のコンテキスト レコードと、一致する実行の詳細ページがあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: フロー実行コンテキストはシングルスレッドで実行されます。 ただし、インスタンスのリソースをより多く消費する場合でも、別々のコンテキスト内でフローを実行することがあります。同じフロー内の別々のフローコンテキストでサブフローを実行するには「動的フロー」を参照してください。

フローの結果状況は次のうちの 1 つになります。

状況	説明
完了	フローは正常に完了しました。
処理中	フローは実行中です。デフォルトでは、トランザクション クォータ ルールによりフローの実行時間が 1 時間より長くなることはありません。
待機中	フローは他のイベントが発生するのを待っています。たとえば、ユーザーがタスクまたは承認を更新する必要があります。または、レコードが特定のステータスに到達する必要があります。待機中の状態になると、フローは休止中になり、コンテキスト レコードにシリアル化されます。
キャンセル	フローはユーザーによってキャンセルされました。
エラー	フローにエラーが発生し、実行が停止しました。たとえば、アクションの入力値がない、トランザクション クォータ ルールによりフローが停止された、などです。

フロー、サブフロー、およびアクションのライフサイクル

フローデザイナー は、フローまたはアクションのステータスを使用して、設定の変更の現在の状態を表現します。

フローおよびサブフローのステータスとアクティブ化のステータス

[ステータス] フィールドは、フローまたはサブフローに関連付けられたプロセス計画が存在するかどうかを示します。

フローのステータス	説明
変更あり	フローまたはサブフローへの未保存の変更が存在することを示します。変更ありのフローまたはサブフローはまだ保存されていません。
ドラフト	フローまたはサブフローへの保存済みの変更が存在しますが、まだプロセス計画に保存されていないことを示します。ドラフト フローは、すでに保存されていますが、アクティブ化されていません。ドラフトサブフローは、すでに保存されていますが、公開されていません。
公開	フローまたはサブフローの格納済みのプロセス計画が存在することを示します。公開されたフローは有効化または無効化されています。

[有効] フィールドは、システムがフローまたはサブフローを実行するかどうかを示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

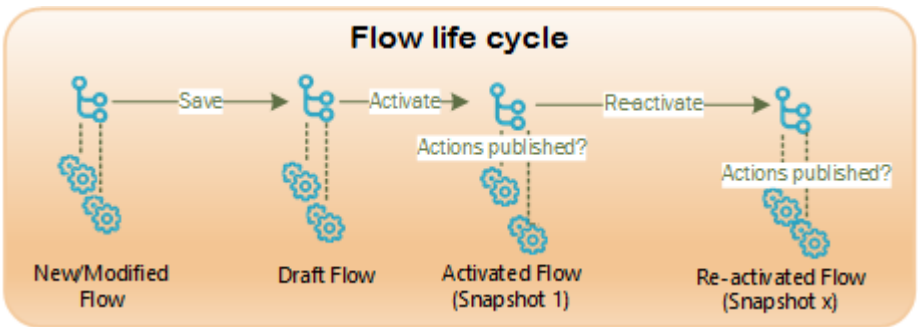
アクティブ	説明
true	フローまたはサブフローが有効であり、トリガーされたか呼び出されたときに実行されることを示します。フローが有効化されているか、サブフローが公開されています。有効なフローは、トリガー条件が満たされたときか呼び出されたときに実行されます。有効なサブフローは、呼び出されたときに実行されます。
False	フローが非アクティブで、トリガーされたか呼び出されたときに実行されないことを示します。非アクティブなフローは、一度もアクティブ化されていないか、またはすでに非アクティブ化されています。非アクティブなサブフローは、一度も公開されていません。

フローを操作する場合は、次の操作を実行できます。

- フローを保存する：フローのドラフトを作成します。
- フローを有効化する：フローのトリガーを有効にし、フローをプロセス計画に変換します。
- フローを非アクティブ化する：フローのトリガーを無効にし、新しいフローが実行されないようにします。現在実行中のフローは実行を続けます。

サブフローを操作する場合は、次の操作を実行できます。

- サブフローを保存する：サブフローのドラフトを作成します。サブフローが公開後に変更された場合、サブフローはドラフト状況に移行します。サブフローを使用する有効なフローはすべて、公開済みのサブフローのみを実行します。
- サブフローを公開する：サブフローが含まれているフローを有効化できます。公開によって、フロー内の使用可能なサブフローのリストにサブフローが追加されます。



アクションステータス

アクションデザイナーのインターフェイスには、アクションの設定ステータスは表示されません。アクションステータスを表示するには、アクション タイプ テーブル [sys_hub_action_type_definition] に移動して、[ドラフト ステータス] フィールドを表示します。

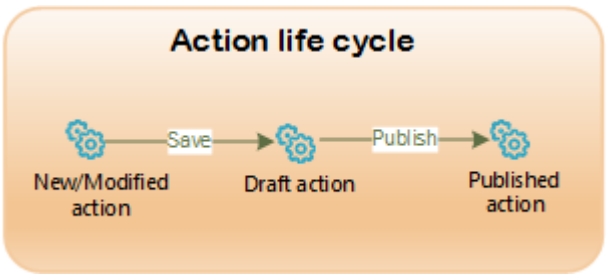
アクションのドラフトステータス	説明
ドラフト	公開されていないアクションに対する変更が存在することを示します。ドラフトのアクションは、[ドラフト アクションを表示] オプションが有効になっている場合にのみ、フローで使用できま

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクションのドラフトステータス	説明
	す。ドラフトのアクションが含まれているフローを有効化することはできません。
公開	アクションが公開されたことを示します。公開されたアクションは、すべてのフローで使用でき、フローを有効化できます。

アクションを操作する場合は、次の操作を実行できます。

- アクションを保存する：アクションのドラフトを作成します。ドラフトのアクションは、[ドラフト アクションを表示] が有効になっている場合にのみ、フローで使用できます。アクションが公開後に変更された場合、アクションはドラフト状況に移行します。アクションを使用する有効なフローはすべて、公開済みのアクションのみを実行します。
- アクションを公開する：アクションが含まれているフローを有効化できます。公開によって、フロー内の使用可能なアクションのリストにアクションが追加されます。フローの実行中は、公開ステータスのアクションのみが実行されます。



アプリケーション開発

アクションまたはフローを設計するときは、次の一般的なガイドラインに従います。

標準の Now Platform アプリケーション開発機能を使用して、フローデザイナーのコンテンツを作成、管理、保護、および展開してください。フローデザイナーおよびアクションデザイナーは、通常は次のアプリケーション開発タスクを実行します。

- フローやアクションを格納するカスタムアプリケーションを作成します。
- アプリケーションのアクセス許可を設定して、アプリケーションデータへのアクセスを共有または制限します。
- フローデザイナーへのアクセスをアプリケーション開発者に許可します。
- カスタムアプリケーションをアプリケーションリポジトリに公開して、フローやアクションを他のインスタンスに展開します。

衝突回避

フローデザイナー は、衝突回避をサポートします。衝突回避は、ユーザーが別の更新セットで変更されているオブジェクトを変更できないようにします。たとえば、ユーザー A が特定の更新セットのフローを編集しているとします。別の更新セットで作業しているユーザー B が、同じフローを開こうとしています。この状況では、システムは衝突を検出し、ユーザー B に警告します。その後、ユーザー B は [キャンセル] または [続行] のいずれかを選択できます。[キャンセル] を選択すると、ユーザー B は フローデザイナー ホームページに戻ります。[続行] を選択すると、フローが読み取り専用モードで開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

衝突回避が機能するには、両方のユーザーが同じアプリケーションスコープ内にあり、グローバル以外のアプリケーションスコープである必要があります。さらに、変更するアプリケーションをソースコントロールにリンクする必要があります。詳細については、「衝突回避」を参照してください。

セキュリティ

フローデザイナーのプロセスやレコードへのアクセスを制御します。

- アドミニストレーターは、アプリケーションを作成し、フローデザイナー　委託開発権限を持つ開発者としてユーザーをアサインすることにより、ユーザーにワークフロースタジオフローへのアクセス権限を付与できます。委託開発では、アドミニストレーターは、フローデザイナーが通常はアドミンに限定された機能 (ユーザーロールの割り当て、アクセス制御の作成、スクリプトの作成など) にアクセスできるかどうかを制御できます。詳細については、「開発者権限」を参照してください。
- アドミニストレーターは、ユーザーにフロー実行の詳細を表示するロールが含まれる flow_designer ユーザーロールを直接アサインすることによってワークフロースタジオフローへのアクセス権限を付与できます。

  警告: ワークフロースタジオ はすべてのテーブルおよびすべてのデータベース操作にアクセスできるシステムユーザーとしてフローを実行できるため、ユーザーに直接 flow_designer ロールの権限を許可することは、ユーザーに admin ロールを与えることと同じです。

- フローデザイナーおよびアクションデザイナーは、標準のアプリケーションアクセス設定を使用して、コンテンツと他のアプリケーションとのやり取りを管理できます。

アクションに関する制限

デフォルトでは、フローのアクションは 50 を超えることはできません。デフォルトの動作を変更するには、*sn_flow_designer.max_actions* システムのプロパティの値を増やします。ただし、大きなフローがインスタンスに与える可能性があるパフォーマンスの影響を考慮してください。

レコードの更新のためのトリガー オプション

フロー設計者は、[トリガーを実行] オプションを使用して、フローが特定のレコードを更新できる頻度を指定できます。**[1** 回] オプションは、フローを 1 回だけ実行する場合に使用します。レコードが初めて更新されるとフローが実行されますが、それ以降はレコードが更新されてもフローはトリガーされません。[常時] オプションは、レコードが更新されるたびに、かつ、レコードに対して実行中の有効なフローがまだ存在しない場合に、フローを実行する場合に使用します。たとえば、インシデント レコードを 1 回だけ実行するようにアサインするフローを設定し、インシデント ウォッチ リストを常時実行するように通知するフローを設定できます。[[トリガーを実行]] フィールドは次のトリガー タイプでのみ使用できます。

- 作成済みまたは更新済み
- 更新日時

直接再帰の防止と間接再帰の制限

インスタンスの機能停止やシステムリソースの消費を防ぐため、フローデザイナー では、直接再帰の結果であるフローまたはサブフローを開始する要求が無視されます。直接再帰は次の条件下で発生します。

- アクションが、自分自身が含まれているものと同じフローを呼び出す場合。たとえば、スクリプトステップからフローへの API 呼び出しを実行する、などです。
- アクションまたはサブフローによって、フローのトリガーに一致する結果が生成される場合。たとえば、インシデント レコードが更新されたときに実行されるフローに、インシデント レコードを更新するレコード更新アクションが含まれている、などです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローデザイナー ではまた、間接再帰からフローを開始できる回数も制限されています。関節再帰は次の条件下で発生します。

- 同じフローが一連のサブフロー呼び出しの中で複数回呼び出される場合。たとえば、サブフロー A がサブフロー B を呼び出し、サブフロー B がサブフロー A を呼び出す場合、いずれかのサブフローの呼び出しによって間接再帰が生じます。
- 一連のサブフローで同じフローが複数回トリガーされる場合。たとえば、レコードの作成によってトリガーされる 2 つのフローがあるとします。レコード A を作成するとフロー A がトリガーされ、レコード B が作成されます。さらに、レコード B を作成するとフロー B がトリガーされ、レコード A が作成されます。いずれかのレコード タイプの作成によって間接再帰が生じます。

デフォルトでは、実行カウントが 3 回の間接再帰制限に達すると、フローの実行が停止されます。アドミニストレーターは、システムプロパティ *com.glide.hub.flow_engine.indirect_recursion_limit* を 1 以上の整数値に設定して、この制限を変更することができます。1 未満のプロパティ値は無視され、代わりに 1 回の制限が適用されます。間接再帰の制限を増やすとインスタンスのパフォーマンスに影響を及ぼす場合があるので注意してください。

注: デフォルトでは、トランザクション クォータ ルールによりフローの実行時間が 1 時間より長くなることはありません。

フローとアクションのテスト

フローのテストでは、トリガー条件がバイパスされ、すぐに実行されます。レコードベースのトリガーでフローをテストするには、トリガーとして動作する特定のレコードを選択する必要があります。フロー設計者は、テストの前に適切なサンプル レコードを生成しておく必要があります。フローのテストの詳細については、「フローをテストする」を参照してください。

設計段階では、フローで [ドラフトアクションを表示] を設定することで、未公開のアクションをテストできます。ドラフト アクションを使用してテストを行う場合は、次のガイドラインに従ってください。

- フローとアクションを非本番インスタンスで設計します。有効な作業中のフローだけを本番インスタンスに展開します。
- ドラフトアクションが完成状態になるまで、[ドラフトアクションを表示] を True のままにしておきます。完成したら、それぞれのアクションを公開し、[ドラフト アクションを表示] を False に設定して、フローを有効化します。

  警告: アクションを公開する前に [ドラフト アクションを表示] を無効化すると、フローからすべてのドラフト アクションが削除されます。

- 有効なフローまたは公開されたアクションに変更を加えると、それらはドラフトのステータスに戻ります。フローがトリガーされると、有効化されたフローと公開されたアクションのみが実行され、フロー実行の詳細には実行されたものだけが表示されます。有効なフローのドラフトが存在すると、フロー実行の詳細にリストされているトリガーとアクションが、ドラフト フローにリストされているものと異なる場合があります。

デフォルトの読み取り専用フロー

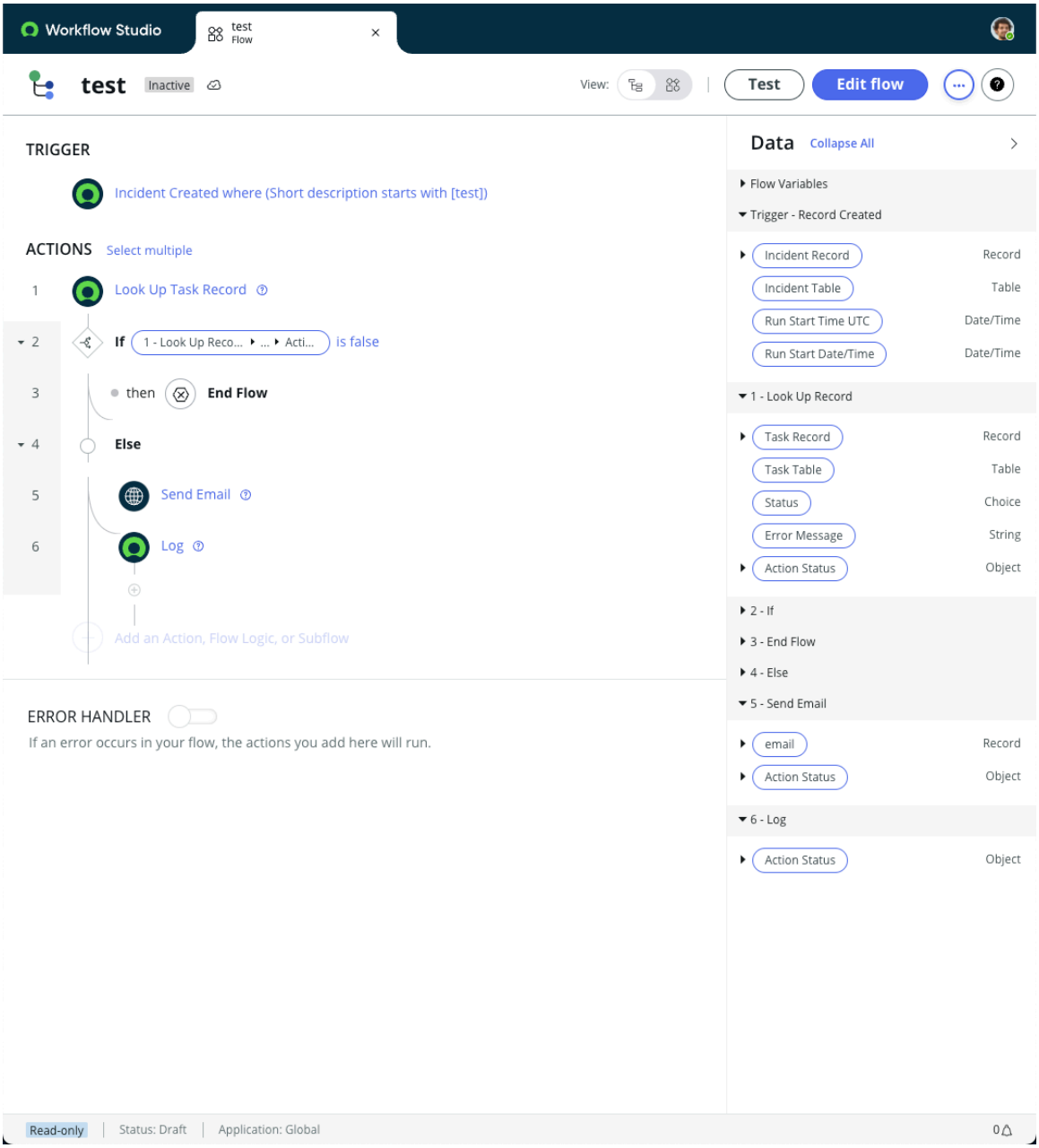
既存のフローを読み取り専用状態で開き、誤って変更されないように保護します。フローが読み取り専用状態の間は、レビュー、テスト、非アクティブ化、または編集要求のみを行うことができます。

フローの編集の要求

Washington DC リリースの時点では、既存のフローを変更する前に、その編集を要求する必要があります。フローを編集する権限がない場合、[フローを編集する] ボタンは無効のままになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

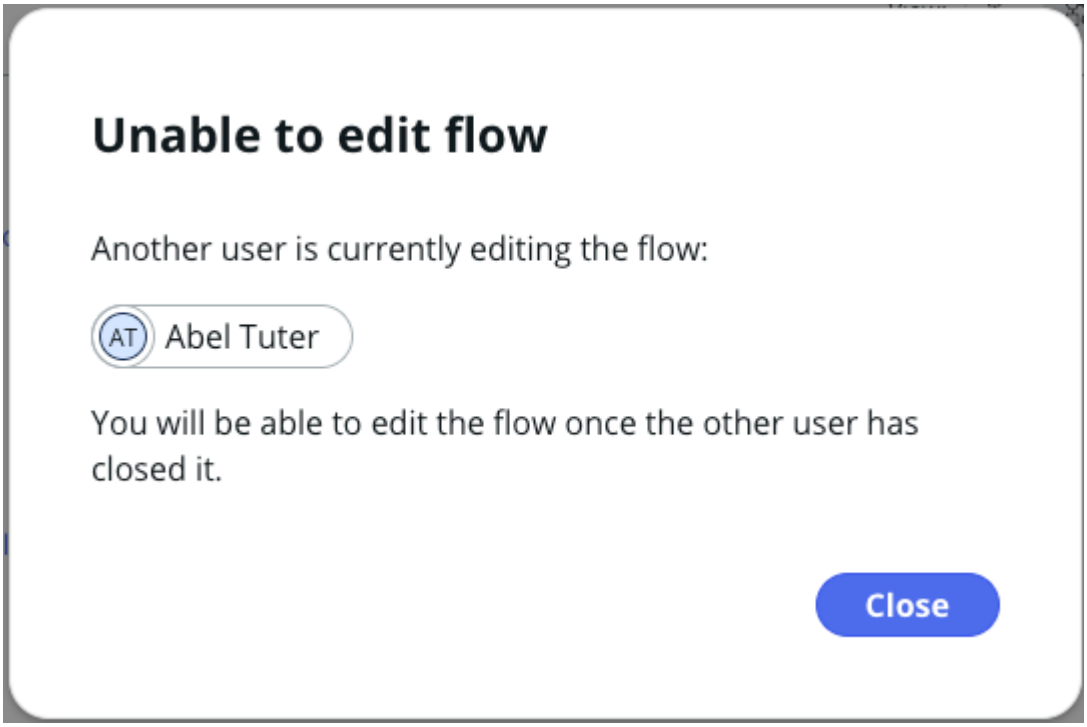
フロー編集オプション



フローの編集を要求すると、ワークフロースタジオが他のユーザーが既にフローを編集用に開いているかどうかを確認します。フローが編集可能な場合は、編集可能な状態でフローを開きます。フローが既に編集されている場合は、フローを編集しているユーザーの名前を示すメッセージが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

「フローを編集できません」メッセージ



フローの編集の停止

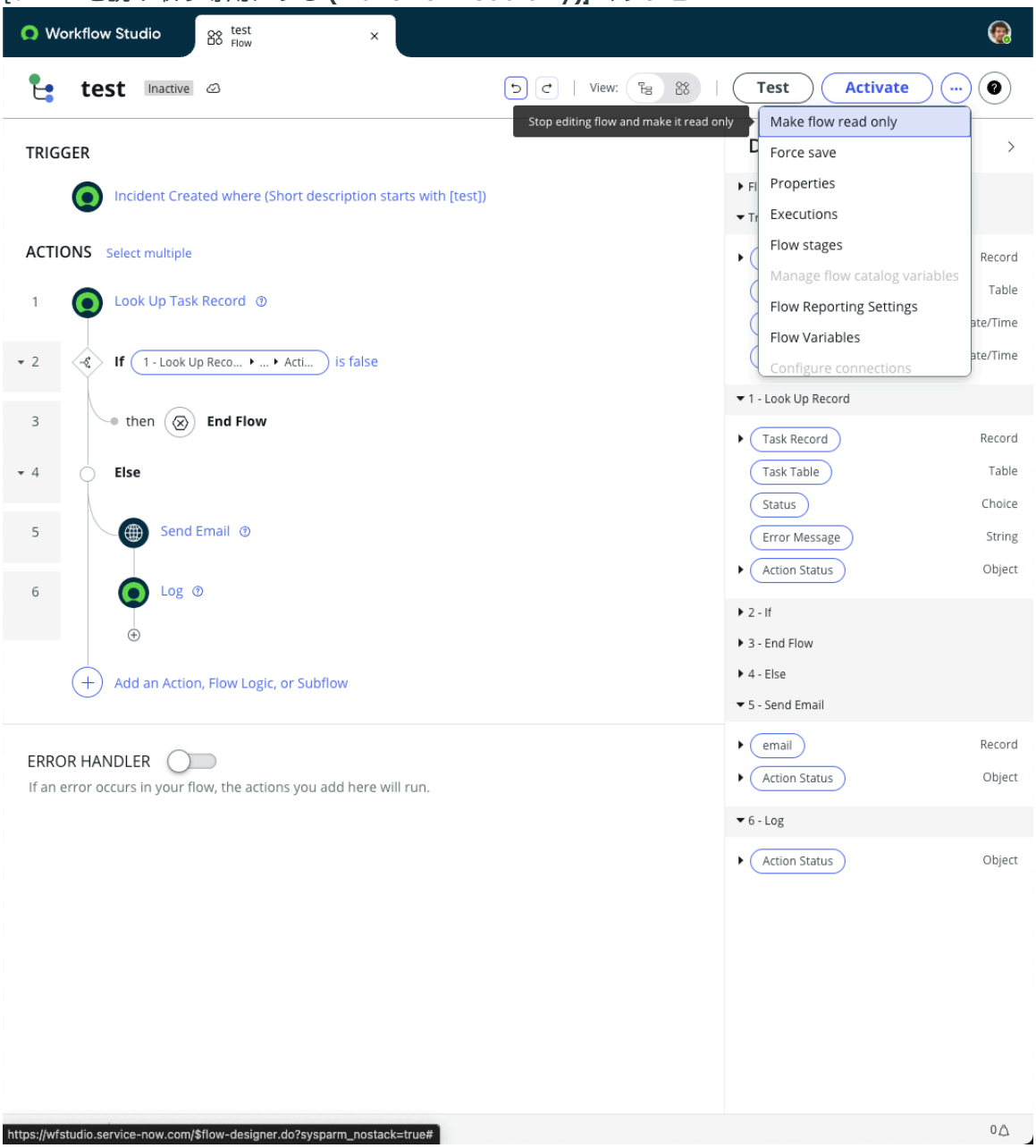
次のイベントのいずれかが発生するまで、フローの編集可能な状態が保たれます。

- ワークフロースタジオフロータブを閉じる。
- ワークフロースタジオブラウザータブを閉じる。
- [フローを読み取り専用にする **(Make flow read only)]** オプションを選択する。
- 30 分以上フローが非アクティブのままになっている。

フローの編集が完了したら、他のユーザーが編集できるように読み取り専用にすることができます。[フローを読み取り専用にする **(Make flow read only)]** オプションを使用して、フローの編集を停止できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[フローを読み取り専用にする **(Make flow read only)**] オプション



フローデバッガ

専用の [ワークフロースタジオ] タブからフローとサブフローをデバッグします。ブレークポイントと、フローを一時停止するステップを設定して、構成とランタイム値を確認します。

フローデバッガを使用して、次のアクションを実行できます。

- 専用の ワークフロースタジオ タブからフローとサブフローをデバッグする。
- ブレークポイントの設定および削除
- ブレークポイントでフローまたはサブフローを一時停止する。
- フローまたはサブフローの各ステップの構成とランタイム値を確認する。
- フローまたはサブフローを 1 行ずつ実行する。
- サブフローにステップインおよびステップアウトする。
- 次のブレークポイントをステップオーバーする。

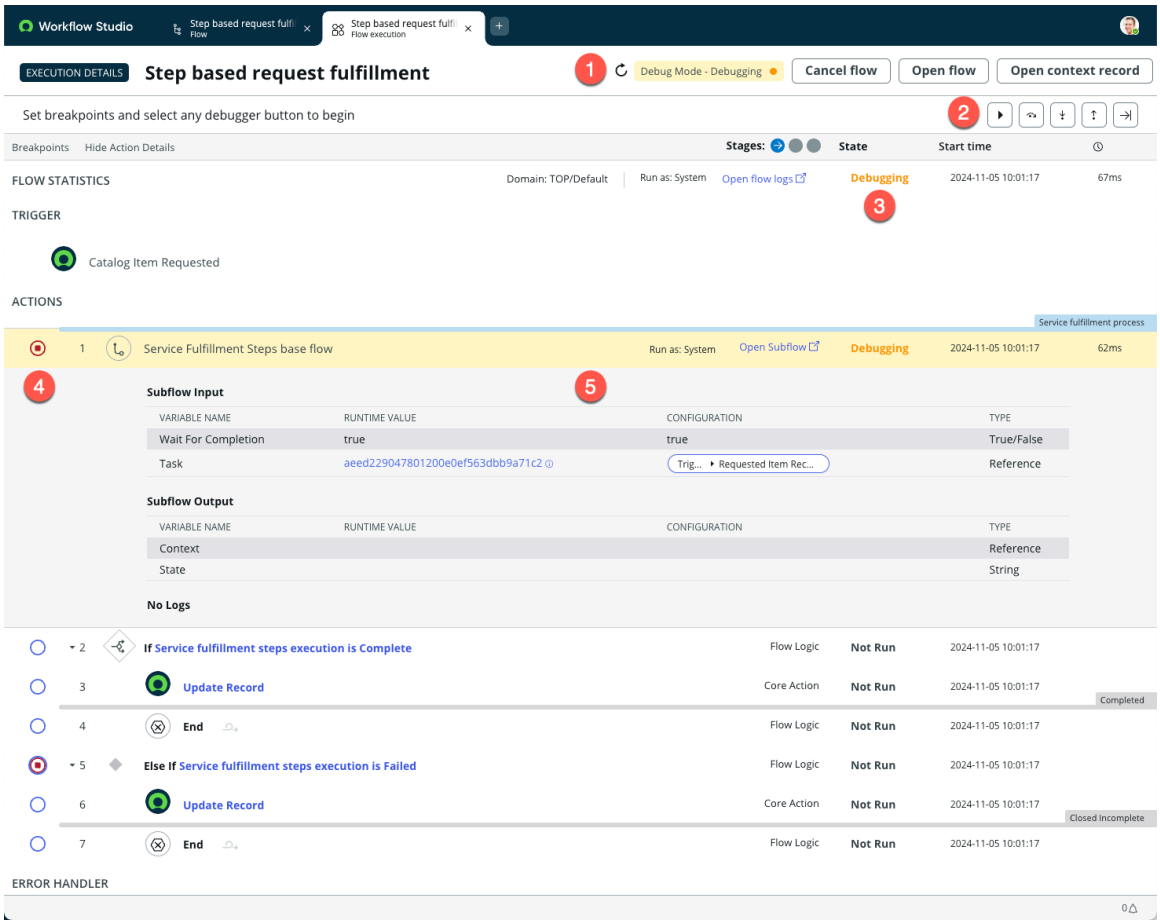
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 残りのブレークポイントをすべてスキップする。
- 一時停止したフローまたはサブフローの実行を再開する。

デバッグモードタブ

ワークフロースタジオ のデバッグモードタブでは、フロー実行の詳細がデバッグビューに表示されます。

デバッグモードタブのサンプル



ワークフロースタジオ のデバッグビュータブは、以下の要素で構成されています。

1. デバッグモードラベル

   現在のフローまたはサブフローをデバッグしていることを確認します。

2. デバッグコントロール

   フローまたはサブフローを 1 行ずつ実行するため、デバッグコントロールを選択します。

   - フローまたはサブフローを再開して、次のブレークポイントまで実行します。
   - ブレークポイントをステップオーバーして、次のブレークポイントで一時停止せずにフローまたはサブフローを実行します。
   - サブフローにステップインして、別のタブでサブフローをデバッグします。
   - サブフローをステップアウトして、親フローのデバッグタブに戻ります。
   - すべてのブレークポイントをスキップして、ブレークポイントで一時停止せずにフローまたはサブフローの実行を再開します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. デバッグの状況

   現在デバッグ中のフローまたはサブフローのステップを表示します。

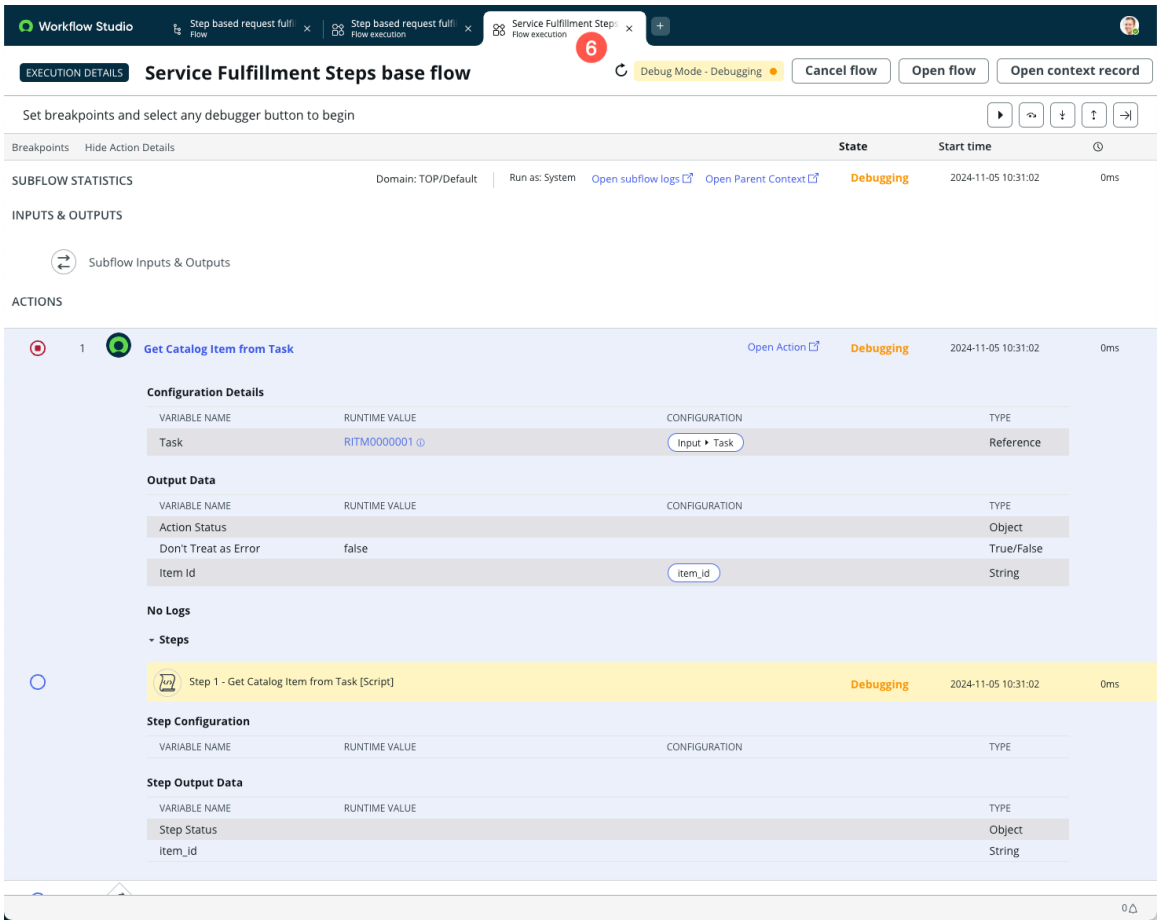
4. ブレークポイント

   このステップでフローを一時停止するためのブレークポイントを設定します。ブレークポイントを削除すると、ステップで一時停止せずにフローが実行されます。

5. ランタイム値と構成値

   現在のステップによって生成されたランタイム値と構成値を表示します。これらの値を使用して、フローが期待どおりのデータを生成しているかどうかを判断します。

ステップインしたサブフローのサンプル



サブフローにステップインすると、ワークフロースタジオ にサブフローをデバッグするための別のタブが表示されます。

6. サブフローのデバッグタブ

   サブフローにステップインして、別のタブでデバッグします。

保存済みのフロートリガー

一連のトリガー定義を再利用可能なトリガーとして保存します。フロー作成者が、一部またはすべてのアプリケーションフローから保存済みのトリガーを選択できるようにします。フロー作成者がトリガーの詳細を表示できるかどうか、またはトリガーに条件を追加できるかどうかを指定します。

メリット

フロートリガーを保存すると、次のメリットが得られます。

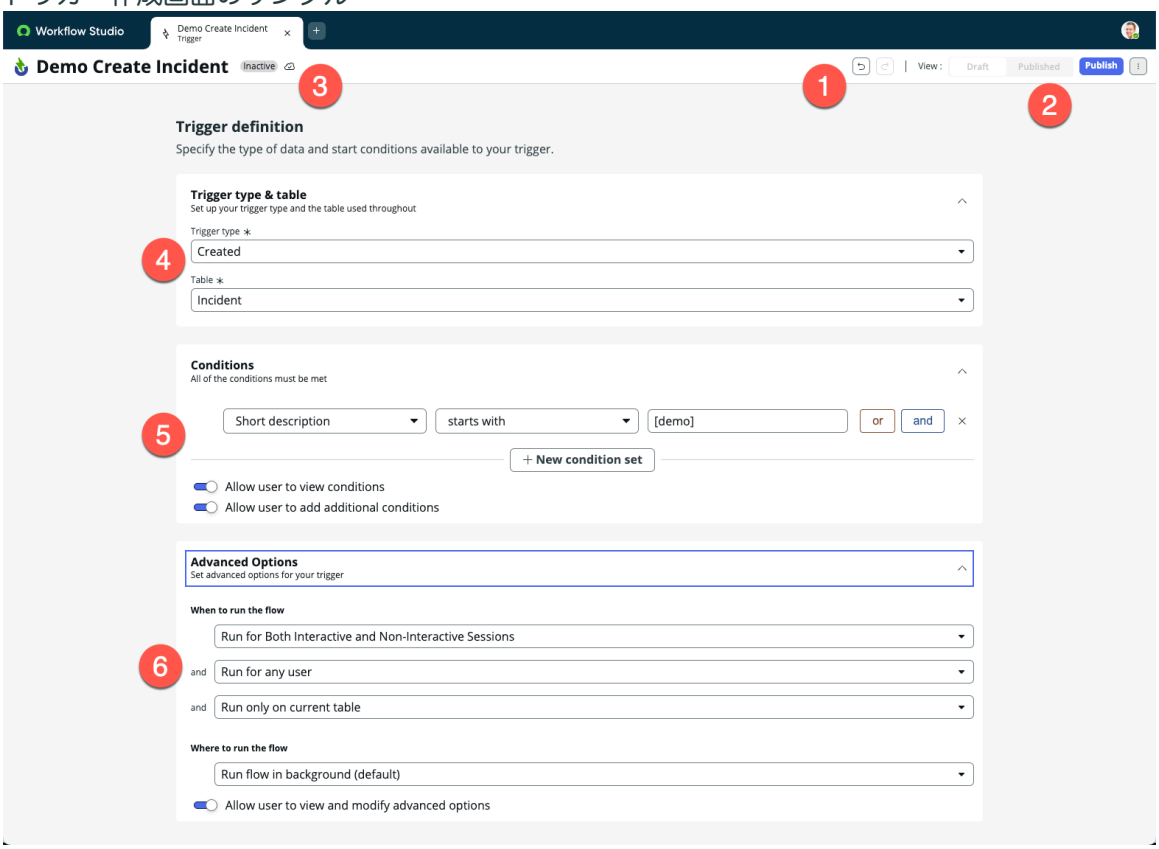
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- フロー作成者は、トリガーを作成する手間をかけずに、事前定義されたトリガー定義を選択できます。
- 各フローを手動で更新するのではなく、保存済みのトリガーを使用するすべてのフローに変更をプッシュできます。
- トリガー定義を複数のフローで再利用できます。

UI 要素

ワークフロースタジオのホームページでは、使用可能なコンポーネントのリストと新しいコンポーネントのリストに [トリガー] オプションが表示されます。

トリガー作成画面のサンプル



ワークフロースタジオ [トリガーを作成 **(Create trigger)]** タブは、次の要素で構成されています。

1. アクションコントロール

   トリガーの作成中に実行したアクションをやり直すか、または元に戻します。

2. 表示ボタンと公開ボタン

   最新の変更すべてについてトリガーのドラフトバージョンを表示するか、公開されたトリガーを表示します。ユーザーが確認できるようにトリガーを公開します。

3. 自動保存アイコン

   変更が自動的に保存されたかどうかを確認できます。

4. トリガータイプとテーブルセクション

   使用可能なオプションからトリガータイプとテーブルを選択します。

   トリガータイプの詳細については、「ワークフロースタジオ フロートリガータイプ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: Yokohama リリース以降、保存済みフロートリガーについてはレコードベースのトリガーのみがサポートされます。

5. 条件セクション

   トリガーの条件を指定します。必要に応じて条件を追加します。

   フロー作成者がフローで保存済みトリガーを使用する際、条件を表示、または条件を表示して追加することを許可できます。変更は保存済みのトリガーには影響しません。

6. 詳細オプションセクション

   [詳細オプション] セクションで、フローの開始に必要なユーザーセッション要件を指定します。

   フローを実行する時期

   フローをトリガーできるセッションのタイプ、特定のユーザーによってトリガーされたときにフローを実行するかどうか、およびフローをトリガーできるテーブルを決定します。

インタラクティブセッションドロップダウンメニューのオプション

オプション	説明
非インタラクティブ セッションに対してのみ実行	非インタラクティブセッションでのみトリガーされるフローです。「非インタラクティブセッション」を参照してください。
ユーザー インタラクティブセッションに対してのみ実行	インタラクティブセッションでのみトリガーされるフローです。
インタラクティブ セッションおよび非インタラクティブ セッション両方に対して実行	すべてのセッションでトリガーされるフローです。

ユーザードロップダウンメニューのオプション

オプション	説明
次のユーザーによってトリガされた場合は実行されない	選択したユーザーのリストではトリガーされないフローです。ユーザーをリストに追加するには、[ユーザーを追加] アイコン ( ) を選択します。
次のユーザーによってトリガーされた場合のみ実行	選択したユーザーのリストでのみトリガーされるフローです。ユーザーをリストに追加するには、[ユーザーを追加] アイコン ( ) を選択します。
任意のユーザーに対して実行	任意のユーザーで実行されるフローです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブルドロップダウンメニューのオプション

オプション	説明
現在のテーブルでのみ実行	選択したテーブルに対してのみトリガーされるフローです。
現在のテーブルおよび拡張テーブルで実行	選択したテーブルおよび任意の拡張テーブルに対してトリガーされるフローです。

フローを実行する場所

フローをバックグラウンドで実行するか、現在のセッションで実行するかを決定します。

オプション	説明
バックグラウンドでフローを実行 (デフォルト)	バックグラウンドで非同期的に実行されるフローです。このオプションは即時更新を必要としないフローに使用し、他のシステムプロセスを同時に実行できるようにします。
フォアグラウンドでフローを実行	現在のセッションで同期的に実行されるフローです。エンドユーザーに即時更新を提供するには、このオプションを使用します。たとえば、前のタスクがクローズされた後にフローがタスクを開く場合、ユーザーがタスクをクローズした直後に次のタスクを開くには、このオプションを使用します。 **注:** フォアグラウンドでフローを実行すると、現在のセッションスレッドがブロックされ、フローが終了するまでユーザー入力ができなくなる場合があります。スクリプトを実行するアクションなど、中断できないアクションが含まれている場合は、フローをフォアグラウンドで実行しないでください。フローを一時停止するアクションまたはフローロジックにより、セッションがブロックされることはありません。

ユーザーがフローで保存済みトリガーを使用する際、詳細オプションを表示および変更できるようにすることができます。ユーザーが詳細オプションを変更した場合でも、トリガーに加えた変更は、ユーザーが変更したオプションには影響しません。

関連情報

保存済みトリガーの作成

保存済みトリガーの編集

保存済みトリガーの削除

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サブフローの探索

サブフローは、別のプロセスが必要とする出力も生成する、繰り返し可能な複数ステップのプロセスを自動化します。プレイブック、フロー、またはスクリプトがサブフローを呼び出すと、サブフローは一連の再利用可能なアクションとフローロジックを実行してプロセスを完了し、出力値を生成します。

サブフローの概要

「サブフロー」は、一連の再利用可能なアクションとフローロジック、データ入力、およびデータ出力からなる自動化されたプロセスです。フローとは対照的に、サブフローにはトリガーがなく、代わりにプレイブック、フロー、別のサブフロー、またはスクリプトからの呼び出し時に実行されます。入力は、サブフローの実行に使用されるデータを記述します。アクションは、データに対して一連の操作を実行します。たとえば、変更 - 実装タスクサブフローは、入力変更レコードを指定して実装および実装後タスクを作成します。

サブフローのビルドおよび管理にあたっては、アプリケーションやプロセスが使用する Now Platform のテーブルおよびフィールドについて、ある程度の知識が必要になります。プロセスアナリストは、利用可能なアクションを使用してサブフローを作成したり、既存のサブフローをテンプレートとして使用したりすることができます。「サブフローのビルド」を参照してください。

サブフローは、次のコンポーネントで構成されています。

サブフロー入力

「サブフロー入力」には、サブフローの実行に使用されるデータが保存されます。各入力には名前とデータタイプがあります。サブフローで利用できる 1 つ以上の入力を定義できます。サブフローを呼び出す場合、フロー作成者はサブフロー入力のデータ値を指定する必要があります。

サブフロー出力

「サブフロー出力」には、サブフローによって生成されたデータが保存されます。各出力には名前とデータタイプあります。サブフローで利用できる出力を 1 つ以上定義できます。サブフローを呼び出すときに、フロー作成者は、サブフロー出力をフローの後半の操作のデータとして使用できます。[サブフロー出力のアサイン] フローロジックを使用して、出力値を設定できます。

サブフロー実行の詳細

フロー作成者は、「サブフロー実行の詳細」ページを使用して、アクションまたはフローに関するランタイム情報を設計環境から直接表示できます。現在の状態、実行されたアクションまたはステップ、生成された出力値、生成されたエラーなどの詳細を表示できます。「フロー実行の詳細」を参照してください。

フローエラーハンドラー

「フローエラーハンドラー」を使用すると、サブフローで、サブフロー実行の詳細からエラーをキャッチしてレポートできます。一連のアクションとサブフローを実行して、問題を特定して修正します。たとえば、エラー発生時に、サブフローログ出力値を取得し、通知を送信し、修正サブフローを実行するようにします。「フローエラーハンドラー」を参照してください。

アクション

「アクション」は、コードを書かなくてもプロセスアナリストが Now Platform 機能を自動化できるようにする再利用可能な操作です。たとえば、[レコードを作成] アクションによって、プロセスアナリストは、特定の条件が発生したときに特定の値を持つ特定のテーブルにレコードを生成することができます。[レコードを作成] のような ServiceNow コアアクションでは、Now Platform テーブルとフィールドに精通している必要があります。アクションデザイナーは、アプリケーション固有のアクションを作成して、構成の詳細をあらかじめ設定することができます。たとえば、[インシデントタスクを作成] アクションを作成すると、アクションが使用されるたびにプロセスア

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ナリストが正しいテーブルとフィールドの構成を使用するようになります。関連するスポークを有効化することによって、アプリケーション固有のアクションを追加できます。 。「ワークフロースタジオ アクション」を参照してください。

ワークフロースタジオ を使用してサブフローを作成するワークフロー

次の図は、ワークフロースタジオ を使用したサブフローの作成に関連する基本的なタスクを示しています。サブフローを作成するための詳細な手順については、「ワークフロースタジオ でサブフローを作成」を参照してください。

サブフローのメリット

サブフローは、プロセスオーナーと開発者に次のメリットをもたらします。

- 反復作業を自動化し、効率とエクスペリエンスを向上させます。
- 技術者以外のユーザーがワークフローの内容を理解できるように、ワークフローを自然言語で説明します。
- ビルダーが利用可能なパスと接続を確認できるように、ワークフローを図として表示します。
- 単一のインターフェイスからワークフローを作成およびテストし、想定どおりに動作することを確認できます。
- 該当分野のエキスパートが再利用可能なアクションを開発してフロー作成者と共有できるようになり、プロセスの自動化が促進されます。
- アップグレードのコストが削減され、安全にアップグレードできる Now Platform のロジックが複雑なカスタムスクリプトの代わりとなります。
- 再利用可能なアクションのライブラリが提供され、開発コストが削減されます。
- 統合およびロボティックプロセスオートメーション (RPA) 機能の個別のサブスクリプションで拡張します。

メリット	機能	ユーザー
自動化された操作の既存のライブラリから自動化されたワークフローをビルドします。	サブフロー	アプリケーション開発者、プロセス作成者 オーナー、またはアドミニストレーター
自動化されたワークフローをオンデマンドで実行します。	サブフロー	アプリケーション開発者、プロセス作成者 オーナー、またはアドミニストレーター
自動ワークフローが実行に使用する入力データを指定します。	サブフロー	アプリケーション開発者、プロセス作成者 オーナー、またはアドミニストレーター
他の自動ワークフローで使用するために、1 つ以上の出力をデータとして保存します。	サブフロー	アプリケーション開発者、プロセス作成者 オーナー、またはアドミニストレーター
自動化されたステップの既存のライブラリから自動化された操作をビルドします。	アクション	アプリケーション開発者、統合オーナー、またはプロセスオーナー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メリット	機能	ユーザー
自動化された操作をオンデマンドで実行します。	アクション	アプリケーション開発者、統合オーナー、またはプロセスオーナー
1 つ以上の入力をデータとして使用して、自動化された操作を実行します。	アクション	アプリケーション開発者、統合オーナー、またはプロセスオーナー
1 つ以上の出力をデータとして保存し、他の自動操作で使用します。	アクション	アプリケーション開発者、統合オーナー、またはプロセスオーナー

会話サブフロー

Now Assist の会話から ワークフロースタジオ サブフローを実行します。ワークフロースタジオから会話スキルを作成して構成します。

https://player.vimeo.com/video/1056127876?h=4808699af0&badge=0&autopause=0&player_id=0&app_id=58479

ワークフロースタジオ には、対話型インターフェースから実行できる事前構成済みのサブフローの選択肢が用意されています。

サブフローとアクションスキルのアクティブ化

サブフローとアクションスキルをアクティブ化するには、「サブフローとアクションスキルをオンにする 」を参照してください。

ユーザーロールアクセス

担当者に対話型サブフローにアクセスするための適切なロールを付与します。「対話型サブフローとアクションのユーザーロール」を参照してください。

サブフローの会話に互換性を持たせる

サブフローの会話に互換性を持たせるには、次の手順を実行する必要があります。

- サブフローとアクションスキルをオンにします。「サブフローとアクションスキルをオンにする 」を参照してください。
- 担当者に対話型サブフローにアクセスするための適切なロールを付与します。「対話型サブフローとアクションのユーザーロール」を参照してください。
- 対話型インターフェースと互換性のあるサブフロー入力を選択します。「対話型サブフローとアクションについてサポートされている入力データタイプ」を参照してください。
- すべてのサブフロー入力にツールヒントヒントテキストを追加します。
- サブフローを公開します。

会話設定

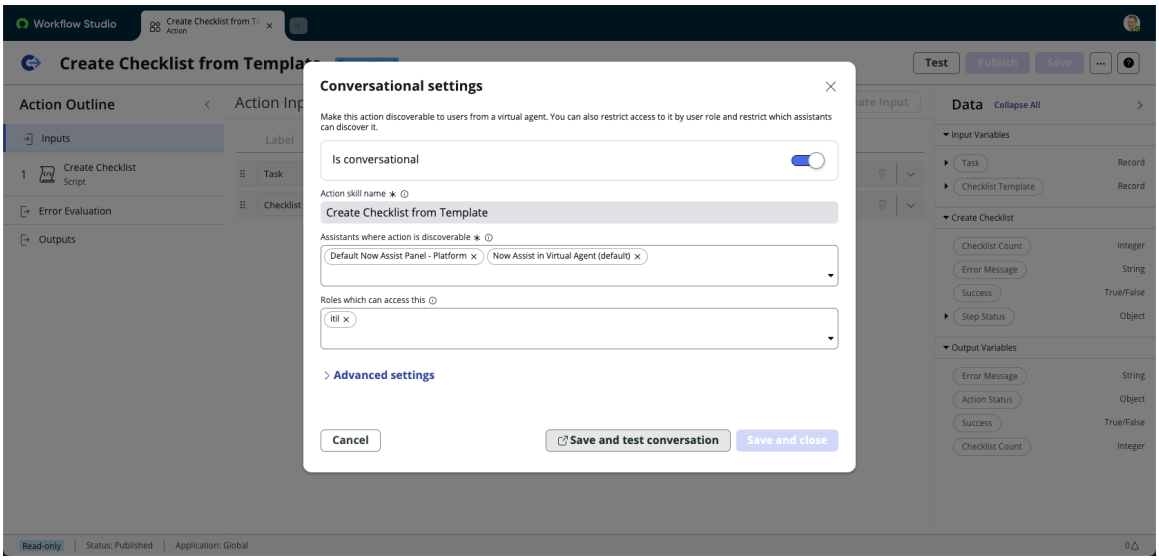
会話設定メニューを使用して、ワークフロースタジオから対話型サブフローとアクションを管理できます。次のオプションが含まれます。

- オプションのオン/オフを切り替えて、アクションまたはサブフローを対話型にします。
- サブフローまたはアクションのスキル名が表示されます。
- アクションまたはサブフローのスキルを検出できる 1 つ以上のアシスタントを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アクションまたはサブフローのスキルにアクセスするためにユーザーが必要とする 1 つ以上のロールを選択します。
- 詳細オプションを設定して、アクションまたはサブフローのスキルを検出可能にします。
- 詳細オプションを設定して、アクションまたはサブフローのスキルをトピックのリストに含めます。

会話設定の例



これらのオプションをワークフロースタジオで設定すると、対応するオプションも仮想エージェントデザイナーに設定されます。

サポートされている対話型サブフローとアクションの入力データタイプ

対話型サブフローとアクションは、限られた数の入力データタイプをサポートします。対話型インターフェイスに対応するには、アクションまたはサブフローには、サポートされているデータタイプを使用した入力のみを含める必要があります。

Now Platform データタイプ名	ワークフロースタジオデータタイプラベル
array.string	文字列のアレイ
ブール	True/False
カレンダー	カレンダー日付/時刻
選択	選択肢
日付	日付
datetime	日付/時刻
document_id	ドキュメント ID
date_time	日付/時刻
due_date	期日
email	メール
glide_date	日付
glide_time	時刻

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Now Platform データタイプ名	ワークフロースタジオデータタイプラベル
glide_date_time	日付/時刻
GUID	Sys ID (GUID)
html	HTML
整数	整数
長整数	Long
longint	長整数文字列
reference	参照
schedule_date_time	スケジュール日付/時刻
文字列	文字列
string_full_utf8	文字列 (完全な UTF-8)
table_name	テーブル名

関連情報

会話アクション

使用可能な対話型サブフロー

ワークフロースタジオは、Now Assist などの対話型インターフェイスと互換性があり、それによって呼び出せるように事前設定された一連のサブフローを提供します。

名前	アプリケーションスコープ	必要なユーザーロール
メール送信	対話型サブフローとアクション	admin
SMS を送信	対話型サブフローとアクション	admin
機会を検索 - サンプル	Microsoft Dynamics CRM スポーク	admin
連絡先を検索 - サンプル	Microsoft Dynamics CRM スポーク	admin
アカウントを検索 - サンプル	Microsoft Dynamics CRM スポーク	admin
リードを検索 - サンプル	Microsoft Dynamics CRM スポーク	admin
リードを作成 - サンプル	Microsoft Dynamics CRM スポーク	admin
メールアドレスを使用してグループにユーザーを追加 - サンプル	Microsoft Entra ID スポーク (旧 Microsoft Azure Active Directory スポーク)	admin
グループにユーザーを追加 - サンプル	Microsoft Entra ID スポーク (旧 Microsoft Azure Active Directory スポーク)	admin
直属の部下を検索 - サンプル	Microsoft Entra ID スポーク (旧 Microsoft Azure Active Directory スポーク)	admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	アプリケーションスコープ	必要なユーザーロール
グループメンバーを検索 - サンプル	Microsoft Entra ID スポーク (旧 Microsoft Azure Active Directory スポーク)	admin
グループを検索 - サンプル	Microsoft Entra ID スポーク (旧 Microsoft Azure Active Directory スポーク)	admin
ユーザーを検索 - サンプル	Microsoft Entra ID スポーク (旧 Microsoft Azure Active Directory スポーク)	admin
発注書 (PO) を検索 - サンプル	Coupa スポーク	admin
イメージを検索 - サンプル	Amazon EC2 スポーク	admin
インスタンスを実行 - サンプル	Amazon EC2 スポーク	admin

アクションの探索

アクションは、フロー内の繰り返し可能なタスクまたは操作を自動化します。フローは、アクションに入力としてデータを渡すことでアクションを実行します。アクションは、一連のステップを実行してタスクを完了し、データを出力としてフローに渡します。

アクションの概要

フロー内の繰り返し可能なタスクを一連の関連ステップとして自動化します。フロー作成者が最小限の設定で複数のフローにアクションを追加できるようにします。

再利用可能なアクションには、次のコンポーネントが含まれます。

入力

入力はアクションで使用されるデータ変数です。 たとえば、アクション ステップでインシデント テーブルにレコードを作成する場合、入力はインシデント テーブルへの参照にすることが考えられます。入力として追加されたテーブルとそのフィールドは、フロー内のステップと出力で使用できます。

アクションのために定義した各入力は、フローデザイナー インターフェイスの構成オプションになります。フローでアクションを使用するには、フローデザイナーが各必須入力の値を定義する必要があります。アクションの入力が増えるほど、データフローデザイナーはより多くのデータフローを定義しなければならず、アクションを効果的に使用するために基礎となるデータモデルに精通する必要があります。

入力は、データ型に基づいて詳細なオプションを提供します。すべての入力には、ヒントを追加する、またはデフォルト値を指定するための詳細なオプションがあります。詳細なオプションを使用すると、フローにアクションを追加して設定することで、フローデザイナーを誘導できます。たとえば、選択肢の入力を作成して、フローデザイナーに事前に定義された構成オプションのリストから選択させることができます。特定のデータ型で利用可能な構成オプションの詳細については、「フィールドタイプ」を参照してください。

出力

出力はアクションの結果を表すデータ変数です。これらの結果は、フロー内の他のアクションで使用できます。

ステップ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ステップは、アクション内で再利用可能な単一の操作です。たとえば、[レコードを作成] ステップでは、アクションデザイナーがレコード作成時に使用するテーブルとフィールドの値を指定できます。ステップを設定するには、アプリケーションのテーブル、フィールド、およびビジネスロジックに関する専門分野の知識が必要です。アプリケーション開発者または IT ジェネラリストは、ワークフロースタジオアクションの設計環境のアクションにステップを追加します。ワークフロースタジオは、Now Platform プロセスを自動化する一連の ServiceNow コアステップを提供します。関連するスポークを有効化することによって、アプリケーション固有のステップを追加できます。

ワークフロースタジオ を使用してアクションを作成するワークフロー

次の図は、ワークフロースタジオ を使用したサブフローの作成に関連する基本的なタスクを示しています。サブフローを作成するための詳細な手順については、「ワークフロースタジオ でのアクションの作成」を参照してください。

アクションのメリット

アクションデザイナーを使用して、以下を行うことができます。

- 事前設定された設定の詳細を使用してアプリケーション固有のアクションを作成し、プロセス アナリストがほとんど設定を行わずにフローにアクションを簡単に追加できるようにします。
- フローへの追加時にコードレスで表示されるスクリプト化済みアクションを作成します。
- 統合ハブ を使用して統合をビルドします。

メリット	機能	ユーザー
自動化されたステップの既存のライブラリから自動化された操作を構築します。	アクション	アプリケーション開発者、統合オーナー、またはプロセスオーナー
自動化された操作をオンデマンドで実行します。	アクション	アプリケーション開発者、統合オーナー、またはプロセスオーナー
他の自動化された操作からのデータを入力として使用します。	アクション	アプリケーション開発者、統合オーナー、またはプロセスオーナー
データを出力として他の自動化された操作に渡します。	アクション	アプリケーション開発者、統合オーナー、またはプロセスオーナー
一連のページでデータをストリーミングします。	データストリームアクション	統合オーナー

会話アクション

Now Assist の会話から ワークフロースタジオ アクションを実行します。ワークフロースタジオから会話スキルを作成して構成します。

ワークフロースタジオ には、対話型インターフェースから実行できる事前構成済みのアクションの選択肢が用意されています。

サブフローとアクションスキルのアクティブ化

サブフローとアクションスキルをアクティブ化するには、「サブフローとアクションスキルをオンにする」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザーロールアクセス

担当者に対話型サブフローにアクセスするための適切なロールを付与します。「対話型サブフローとアクションのユーザーロール」を参照してください。

アクションの会話に互換性を持たせる

アクションの会話に互換性を持たせるには、次の手順を実行する必要があります。

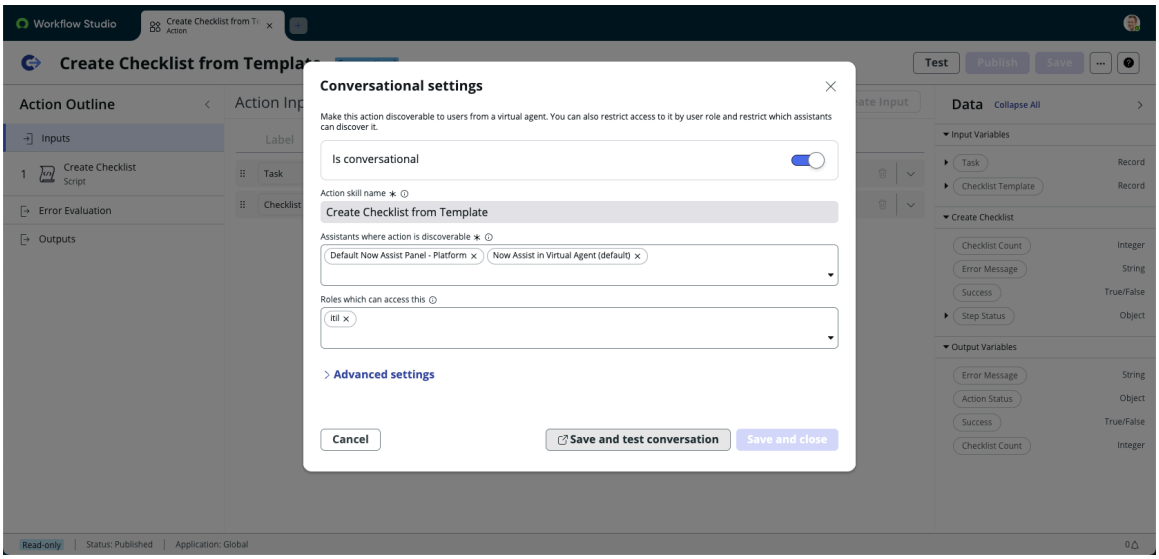
- サブフローとアクションスキルをオンにします。「サブフローとアクションスキルをオンにする」を参照してください。
- 会話アクションにアクセスするための適切なロールを担当者に付与します。「対話型サブフローとアクションのユーザーロール」を参照してください。
- 対話型インターフェースと互換性のあるアクション入力を選択します。「対話型サブフローとアクションについてサポートされている入力データタイプ」を参照してください。
- すべてのアクション入力にツールヒントヒントテキストを追加します。
- アクションを公開します。

会話設定

会話設定メニューを使用して、ワークフロースタジオから対話型サブフローとアクションを管理できます。次のオプションが含まれます。

- オプションのオン/オフを切り替えて、アクションまたはサブフローを対話型にします。
- サブフローまたはアクションのスキル名が表示されます。
- アクションまたはサブフローのスキルを検出できる 1 つ以上のアシスタントを選択します。
- アクションまたはサブフローのスキルにアクセスするためにユーザーが必要とする 1 つ以上のロールを選択します。
- 詳細オプションを設定して、アクションまたはサブフローのスキルを検出可能にします。
- 詳細オプションを設定して、アクションまたはサブフローのスキルをトピックのリストに含めます。

会話設定の例



これらのオプションをワークフロースタジオで設定すると、対応するオプションも仮想エージェントデザイナーに設定されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされている対話型サブフローとアクションの入力データタイプ

対話型サブフローとアクションは、限られた数の入力データタイプをサポートします。対話型インターフェイスに対応するには、アクションまたはサブフローには、サポートされているデータタイプを使用した入力のみを含める必要があります。

Now Platform データタイプ名	ワークフロースタジオデータタイプラベル
array.string	文字列のアレイ
ブール	True/False
カレンダー	カレンダー日付/時刻
選択	選択肢
日付	日付
datetime	日付/時刻
document_id	ドキュメント ID
date_time	日付/時刻
due_date	期日
email	メール
glide_date	日付
glide_time	時刻
glide_date_time	日付/時刻
GUID	Sys ID (GUID)
html	HTML
整数	整数
長整数	Long
longint	長整数文字列
reference	参照
schedule_date_time	スケジュール日付/時刻
文字列	文字列
string_full_utf8	文字列 (完全な UTF-8)
table_name	テーブル名

関連情報

会話サブフロー

使用可能な会話アクション

ワークフロースタジオは、Now Assist などの対話型インターフェイスと互換性があり、それによって呼び出せるように事前設定された一連のアクションを提供します。

名前	アプリケーションスコープ	必要なユーザーロール
コメントを追加	ITSM スポーク	itil

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	アプリケーションスコープ	必要なユーザーロール
テンプレートからチェックリストを作成	グローバル	itil
機能停止の作成	グローバル	itil
インシデントから問題レコードを作成	グローバル	itil
ユーザーを検索	Microsoft Active Directory v2 スポーク	admin
ユーザーを無効化	Microsoft Active Directory v2 スポーク	admin
ユーザーを有効化	Microsoft Active Directory v2 スポーク	admin
通知を送信	グローバル	なし
会議スペースを作成	Google Meet スポーク	admin
会議スペースを更新	Google Meet スポーク	admin

ディシジョンテーブルの探索

ワークフロースタジオ でディシジョンテーブルを使用すると、開発者は意思決定ルールを作成して維持することで、意思決定ロジックをコードから分離することができます。

概要

ディシジョンテーブルの機能とメリットの詳細なレビューとデモについては、「ディシジョンビルダーのテストと公開 | クリエーターツールボックス - ServiceNow」を参照してください。

お知らせ

- Washington DC リリースの時点では、ディシジョンビルダー は ワークフロースタジオ の一部になりました。ワークフロースタジオ を使用すると、プロセス、フロー、サブフロー、プレイブック、アクション、およびディシジョンテーブルを 1 箇所で簡素化された方法で作成、構成、および監視することができます。
- コア ディシジョンビルダー 機能は Now Platform® でデフォルトで引き続き使用できますが、最新のアップデートは ServiceNow® Store で ワークフロースタジオ アプリケーションからダウンロードできます。
- この更新の詳細については、「Washington DC ディシジョンビルダーのリリースノート」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

開始

探索

ディシジョンテーブルの概念と機能について詳しく説明します

構成

Workflow Studio でディシジョンテーブルの環境、ツール、ユーザーアクセスを構成しますワークフロースタジオ

使用

意思決定テーブルをビルドしますワークフロースタジオ

参照

ディシジョンテーブルのプロパティとドメインセパレーションの詳細を取得します

機能

注: ワークフロースタジオ ディシジョンテーブルをインストールした後は、ワークフロースタジオ を介してのみ、以前にクラシック環境で作成されたディシジョンテーブルにアクセスできます。クラシック環境で意思決定テーブルを作成または変更することはできなくなりました。

ワークフロースタジオ は、意思決定ルールのセットを格納する意思決定テーブルを作成および管理するための直感的なインターフェイスを提供します。

ディシジョンテーブルは、ビジネスロジックを一連の [if-then] 意思決定ルールに埋め込みます。意思決定テーブルは、入力からデータを読み取り、指定された条件に従ってデータを評価します。ディシジョンルールのすべての条件が満たされると、ディシジョンテーブルは 1 つ以上の結果を返します。

アドミニストレーターは、委託開発機能を使用して開発者または非アドミンユーザーに委託開発ロールを割り当てることで、作業負荷を効率的に管理できます。委任開発者が持つ権限は、ユーザーよりも多いですが、アドミンよりは少なくなります。指定された非アドミンユーザーは、アプリケーションレベルで意思決定テーブルを作成および管理できます。詳細については、「委託開発」を参照してください。

ワークフロースタジオの意思決定テーブルを使用すると、次の操作を実行できます。

- 既存のレコード、外部データソース、またはハードコードされた値から実行時にデータを読み取る入力を作成する。
- 意思決定ルールを作成および変更する。
- 評価基準の順序を変更して結果を最適化する。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メリット

ワークフロースタジオの意思決定テーブルには、次のメリットがあります。

- 意思決定テーブルを使用して、複雑な意思決定を簡単にビルドできます。
- アプリケーションコードではなく意思決定ロジックのみを変更することで、変化するビジネス要件に対応し、意思決定を迅速に更新します。
- 複数のアプリケーション間で意思決定ロジックを再利用することで、効率を向上させることができます。
- 既存の ServiceNow レコードや外部ソースからのデータといった複数のソースから、実行時にデータを評価します。

ワークフロースタジオ と他のアプリケーションとの統合

Now Platform® スイートのアプリケーションと統合することで、ワークフロースタジオの意思決定テーブルの機能を拡張します。

アプリケーション統合

アプリケーション	説明	参照
App Engine Studio	• App Engine Studio (AES) は、組織のブランドとアプリケーション開発の標準を維持しつつ、アプリ開発者が一元的にカスタムアプリケーションをビルドするための、統合開発環境 (IDE) アプリケーションのようなインターフェイスです。 • AES ユーザーは、AES ウィザードを使用して意思決定テーブルを作成し、AES を離れることなくアプリケーションの既存の意思決定テーブルにアクセスできます。	App Engine Studio で「意思決定の追加」を参照してください。

トラブルシューティングとヘルプ

- ユーザーアカウントのロック解除または追加、復元または zboot の実行などについては、会社のカスタマーアドミンにお問い合わせください。

  会社のカスタマーアドミンにお問い合わせください

- ServiceNow コミュニティのデシジョンビルダー
- 既知のエラーポータルで既知のエラー記事を検索
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート

ディシジョンテーブルのワークフロー

コードを記述する Now Platform のフロー、サブフロー、プレイブック、および他の場所で使用するディシジョンテーブルを ワークフロースタジオ で作成および管理する方法について説明します。

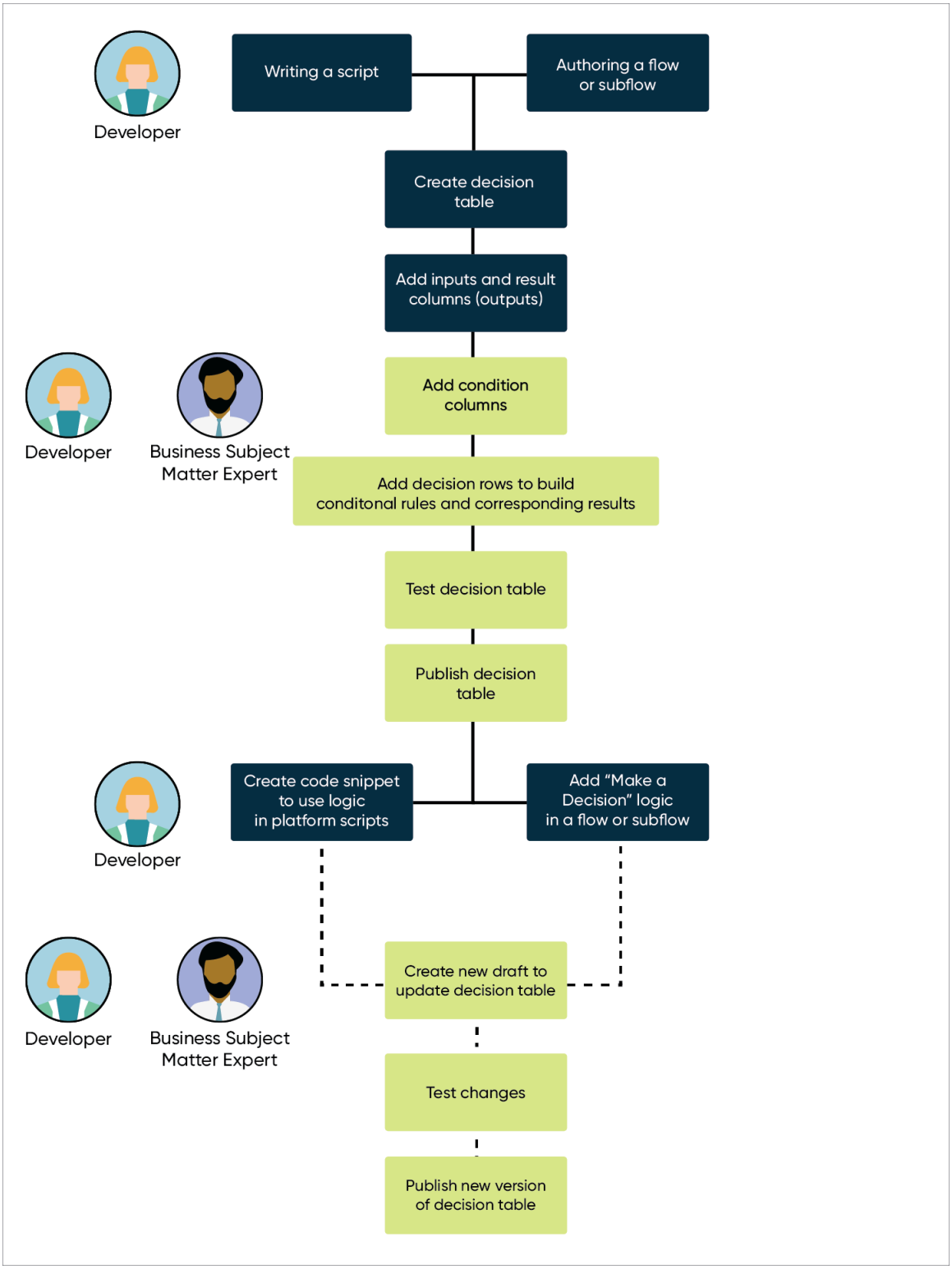
ディシジョンテーブルを使用すると、意思決定ロジックをコードから切り離すことができます。つまり、アプリケーションロジックを使用して ワークフロースタジオ でディシジョンテーブルを作成し、そのディシジョンテーブルを参照して、フロー、プレイブック、またはスクリプトなどの別の場所でロジックを実行することができます。この切り離しにより、さらに効率的で管理しやすいフローとスクリプトを作成でき、関連するビジネス分野の専門家が意思決定ロジックを直接管理できるようになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ディシジョンテーブルを作成するためのワークフロー

次の図は、 ワークフロースタジオ でディシジョンテーブルを作成するプロセスを示しています。

ディシジョンテーブルの作成プロセス



ワークフロースタジオ でディシジョンテーブルを作成するワークフローは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. 開発者がスクリプトを記述するか、フローまたはサブフローを作成しているときに、ディシジョンテーブルが必要であることに気付きました。ディシジョンテーブルは、次のシナリオではハードコードされたロジックよりも保守しやすいソリューションです。
   - コードには、条件付きの入れ子になった if/else または switch ステートメントの複雑なセットがあります。
   - コードを駆動するロジックは頻繁に変更される可能性があります。
   - アプリケーションロジックを読み取り可能な形式で開発者以外と共有する必要があります。
   - アプリケーションロジックは、実装されている場所から独立して管理する必要があります。
   - アプリケーションロジックは、開発者以外が管理する必要があります。
   - 複数のフロー、サブフロー、またはスクリプトに同じロジックを適用する必要があります。
   - 開発者がコードとは別に管理するアプリケーションロジックまたはビジネスロジックがあります。
2. 開発者は、 ワークフロースタジオ でディシジョンテーブルを作成し、入力と結果の列 (意思決定の出力) を追加します。
3. 開発者またはビジネス該当分野の専門家 (SME) は、次のステップを実行できます。
   a. 条件列を追加してルールを構造化します。
   b. 意思決定行を追加して、条件付きルールと対応する結果をビルドします。
   c. ディシジョンテーブルをテストします。
   d. ディシジョンテーブルを公開します。
4. 開発者は、ディシジョンテーブルをいくつかの方法で使用できます。
   - ディシジョンテーブルのコードスニペットを作成し、それをコードに挿入できます。
   - フローまたはサブフローに意思決定ロジックを追加し、ディシジョンテーブルを参照できます。
   - [意思決定 - 最初の一致] アクティビティを使用して、ディシジョンテーブルをプレイブックに追加できます。
5. 新しいロジックを反映するためにディシジョンテーブルを更新する必要がある場合、開発者またはビジネス SME はテーブルの新しいドラフトを作成できます。新しいロジックを使用してテーブルをテストし、新しいバージョンを公開できます。

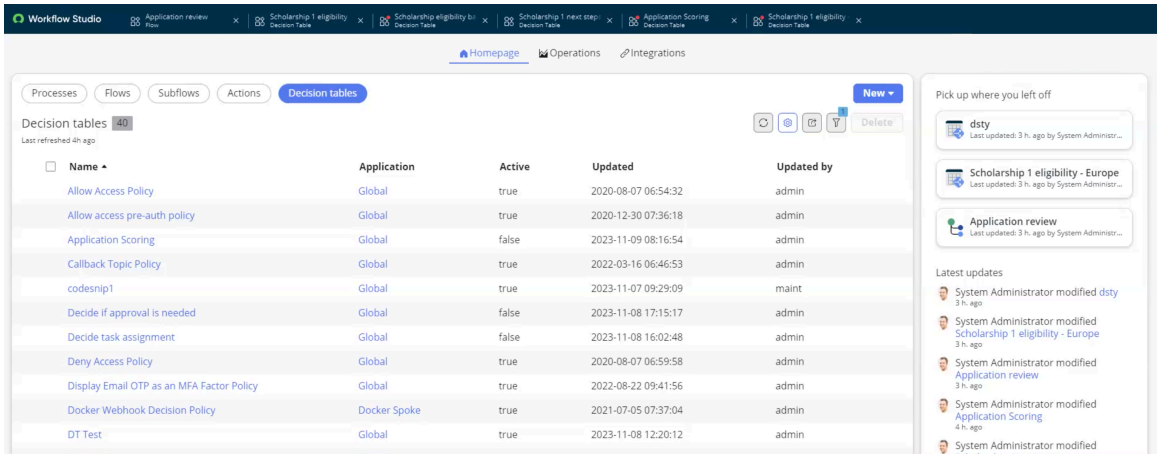
   注: ドラフト作成を使用しないディシジョンテーブルの場合、開発者またはビジネス SME が行った変更は自動的に有効になります。

ディシジョンビルダー ユーザーインターフェイス

ワークフロースタジオ のユーザーインターフェイスについて説明します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

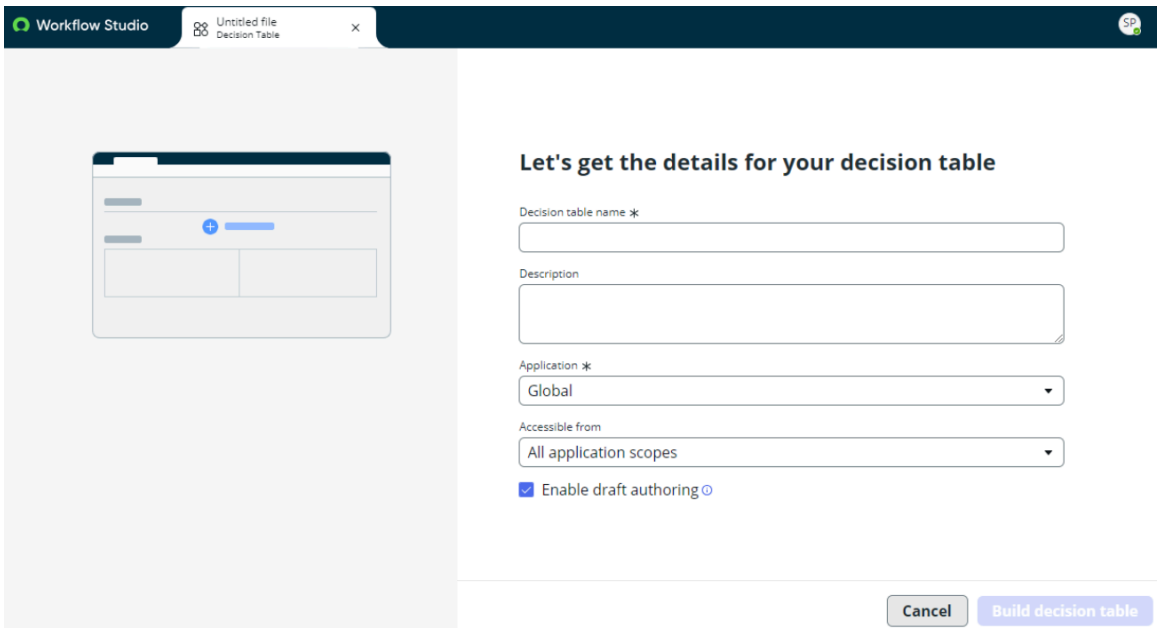
ワークフロースタジオのディシジョンテーブルホームページ



ワークフロースタジオのディシジョンテーブルホームページでは、次の操作を実行できます。

- [新規] を選択し、[ディシジョンテーブル] を選択してテーブルを作成します。
- 作成済みのテーブルを開きます。
- 意思決定テーブルのリストをソートおよびフィルタリングします。
- [リストアクション] アイコン (⚙) を選択して、使用可能な列を編集します。
- 選択した意思決定テーブルを削除します。

新しいディシジョンテーブル

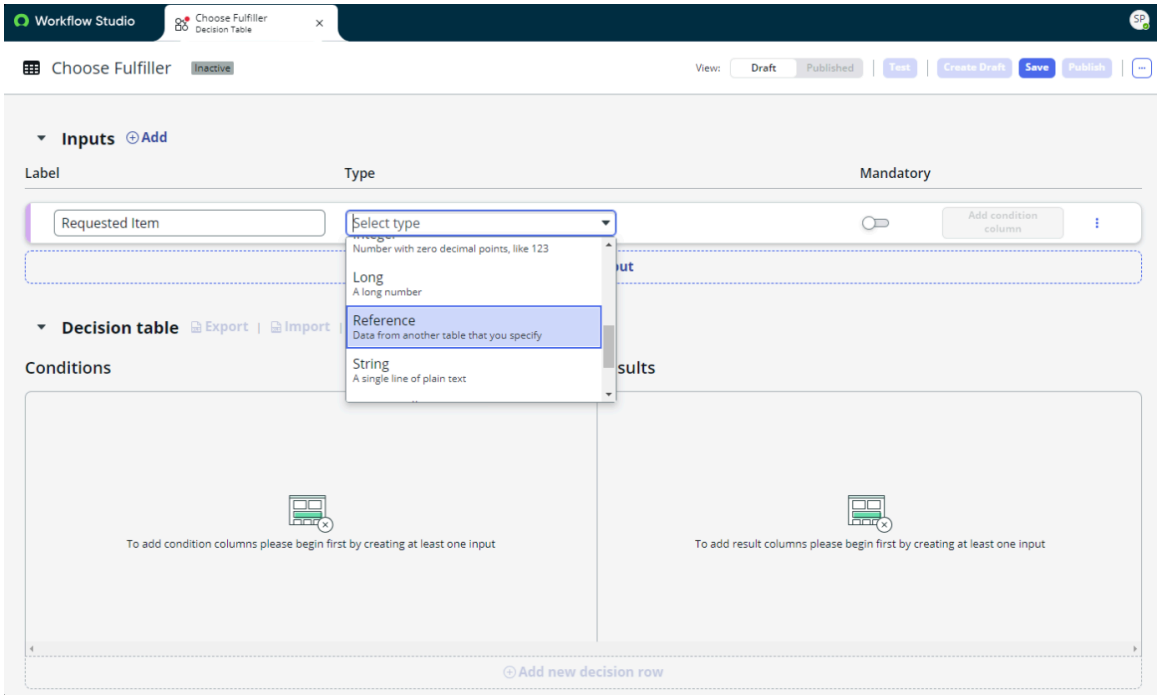


新しいディシジョンテーブルでは、次の操作を実行できます。

- ディシジョンテーブルに名前を付け、説明を入力します。
- ディシジョンテーブルを関連付けるアプリケーションを選択します。
- ディシジョンテーブルにアクセスできるようにするスコープを選択します。
- ドラフトの作成を有効にして、ディシジョンテーブルを使用のために公開する前にドラフトモードで作成できるようにするかを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

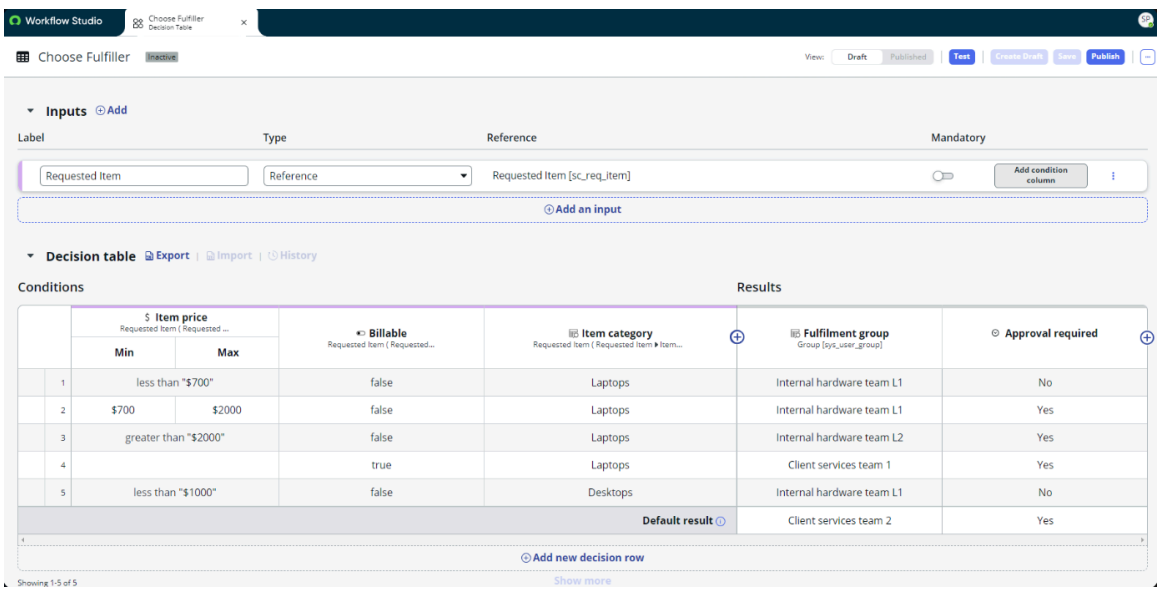
ディシジョンテーブル



ディシジョンテーブルを初めて作成するときは、次の操作を実行できます。

- 入力、条件列、および結果列を追加します。
- 意思決定行を追加します。
- ディシジョンテーブルを保存します。
- テーブルを Microsoft Excel にエクスポートし、ディシジョンビルダー にインポートし直します。テーブルを保存した後にのみ、エクスポートとインポートを行うことができます。
- ディシジョンテーブルのプロパティを編集します。
- ディシジョンテーブルを削除します。

ディシジョンテーブルを完了



保存されたディシジョンテーブルでは、次の操作を実行できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ディシジョンテーブルを公開します。
- ディシジョンビルダー インターフェイスで意思決定行を再度編集します 。
- 入力、条件列、および結果列を編集します。
- Excel にエクスポートし、意思決定行を再度編集して、ディシジョンビルダー にインポートしてディシジョンテーブルを更新します。
- ディシジョンテーブルをテストして、ルールによって所定の入力データのセットに期待される結果が出ることを確認します。

ページネーション

ページネーションは、大きなデータセットを、ページと呼ばれるより小さくて管理しやすいセクションに分割して表示するために使用される方法です。この機能は、表示したいページを選択してページを切り替えるのに役立ちます。

注:

- 行の並べ替え、追加、削除、またはテーブルの変更を行うときは、現在のビューを離れる前に変更を保存する必要があります。
- ページの最後に新しい行が追加された場合、追加された行は保存後に次のページに移動します。
- エクスポート/インポート後、フィルタリング後、またはページの行数を変更すると、最初のページにリダイレクトされます。

ディシジョンテーブルのフィルター

ワークフロースタジオのディシジョンテーブルにある条件列と結果列の両方にフィルターを適用します。フィルターを適用することで、大きなディシジョンテーブル管理の使いやすさと効率が向上します。この機能を使用して、テーブルを Excel にエクスポートすることなく、ディシジョンテーブル内で行のサブセットの表示、変更、および並べ替えを直接実行できます。

フィルタリングのルールと条件

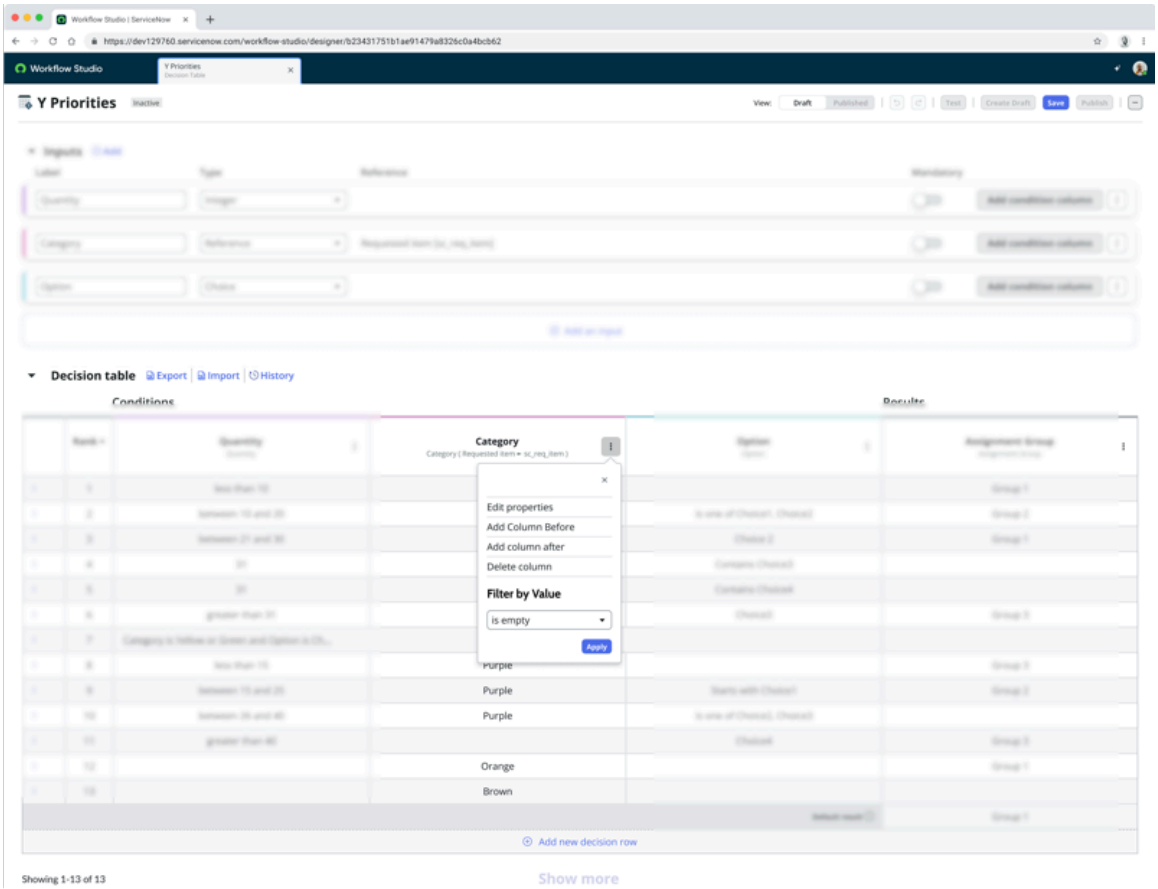
- 変更の保存：フィルタリングは、変更を保存した後にのみ機能します。テーブルに未保存の変更がある場合は機能しません。フィルタリングが列に適用されている場合、行のオプションは非アクティブです。
- 動的演算子のサポートなし： フィルタリングは、動的演算子 (相対/傾向演算子) をサポートしません。動的演算子は、「空でない」でフィルタリングされているとき、またはフィルターが削除されている場合にのみ表示されます。
- 「読み取り専用」ビューのサポート：フィルタリングは、ディシジョンテーブルの「読み取り専用」ビューでも機能します。
- セル値のサポート：フィルタリングはセル値のみを考慮し、演算子は考慮しません。

デフォルトの動作

他のフィルタリングが適用されていない場合、デフォルトのフィルタリング演算子は「is」です。

次の画像は、フィルタリング機能を含むテーブルインターフェイスを示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ワークフロースタジオの構成

ワークフロースタジオへのアクセスを有効にし、ワークフローアプリケーションを管理できるようにします。

ワークフロースタジオ アプリケーションはデフォルトで有効になっている Now Platform 機能であり、ServiceNow Store からインストールおよび更新することもできます。

ワークフロースタジオ内の各ワークフローアプリケーションには、独自のインストール要件とサブスクリプション要件があります。

プロセスオートメーションデザイナー

プレイブックはワークフロースタジオに含まれています。これはデフォルトで有効になっている Now Platform 機能であり、ServiceNow Store からインストールおよび更新できます。ただし、トリガーできるのは、アクセスできるプラットフォームとアプリケーションテーブルのプレイブックのみです。アクティベーションの詳細については、「プレイブックのアクティブ化」を参照してください。

フローとサブフロー

フローとサブフローは ワークフロースタジオ に含まれています。これはデフォルトで有効になっている Now Platform 機能であり、 ServiceNow Store からインストールおよび更新できます。

アクション

アクションは ワークフロースタジオ に含まれています。これはデフォルトで有効になっている Now Platform 機能であり、ServiceNow Store からインストールおよび更新できます。

データストリームアクション

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データストリームアクションには統合ハブの別のサブスクリプションが必要です。アクティベーションの詳細については、「統合ハブ を要求する」を参照してください。

ディシジョンビルダー

ディシジョンビルダーは、ServiceNow Store からインストールおよび更新できる Now Platform 機能です。インストールと更新の詳細については、「ディシジョンテーブルの構成」を参照してください。

プレイブックの構成

プレイブックと プレイブックエクスペリエンス を設定して監視します。

概要

1. コアワークフロースタジオ プロセスオートメーションデザイナー機能は既に Now Platform の一部であるため、アクティブ化する必要はありませんが、多くの機能は ServiceNow Store からのアプリケーションの更新でのみ使用できます。

   ServiceNow Store から最新のプロセスオートメーションデザイナーの更新をダウンロードします。より迅速に開始するために、プロセス自動化のデモエクスペリエンス、プロセス自動化コンテンツ、およびプレイブックエクスペリエンスアプリケーションもダウンロードすることをお勧めします。

2. プロセスオートメーションデザイナーのユーザーアクセスとプロパティを設定します。

プレイブックのアクティブ化

ワークフロースタジオアプリケーションをアクティブ化して、いずれかのユースケースのフロー、プレイブックなどを作成します。

プレイブックはワークフロースタジオに含まれています。これはデフォルトで有効になっている Now Platform 機能であり、ServiceNow Store からインストールおよび更新できます。ただし、トリガーできるのは、アクセスできるプラットフォームとアプリケーションテーブルのプレイブックのみです。以下のような内容が考えられます。

- アプリケーション テーブル
- アプリケーションテーブルを拡張するカスタムテーブル
- アプリケーションサブスクリプションによって承認されたカスタムテーブル

各アプリケーションサブスクリプションでは、関連するテーブルのプレイブックを作成できます。サブスクリプションを購入して、プレイブックをトリガーする追加のテーブルにアクセスします。アプリケーションのサブスクリプションを既に持っていても、アプリケーションのテーブルのプレイブックを作成できない場合は、適切なプラグインを有効にします。

注: 有効にするプロセスオートメーションデザイナープラグインによって、プレイブックの作成に使用できるテーブルが決まります。

アプリケーションでワークフロースタジオ プロセスオートメーションデザイナーをアクティブ化する方法については、次のセクションを参照してください。

App Engine 向け プロセスオートメーションデザイナー の有効化

インスタンスでプロセスオートメーションデザイナーをアクティブ化して App Engine でプレイブックを作成します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

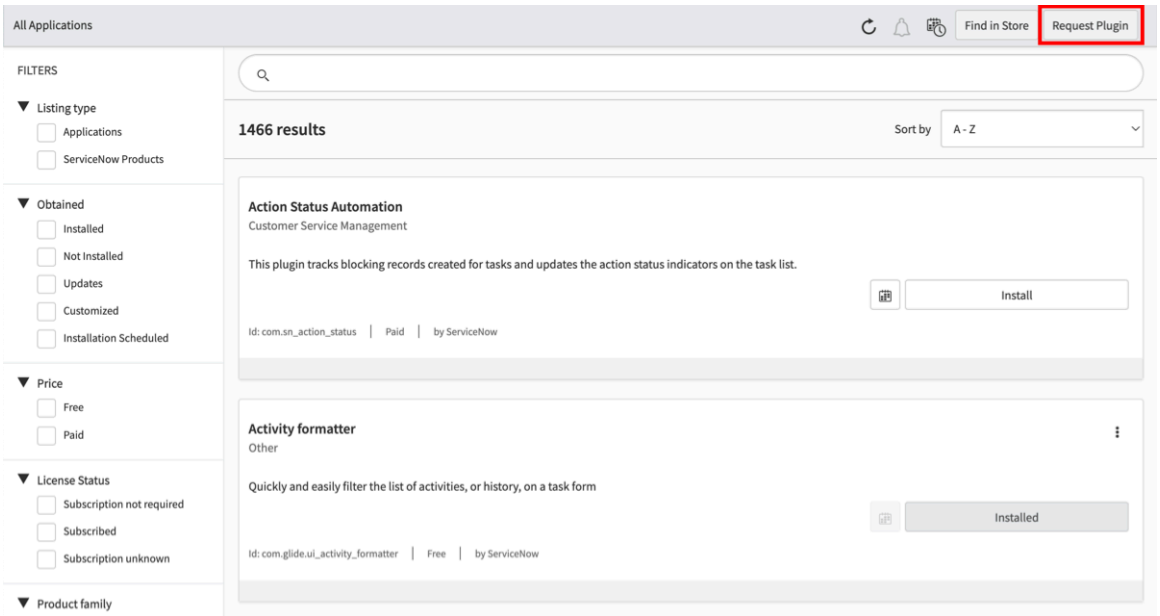
このタスクについて
プレイブックを App Engine で作成するには、Now Platform App Engine のサブスクリプションを購入する必要があります。

このサブスクリプションを購入するには、ServiceNow アカウントマネージャーにお問い合わせください。アカウントマネージャーは通常数日以内に、組織の本番および準本番インスタンスでプラグインが有効化されるように手配することができます。

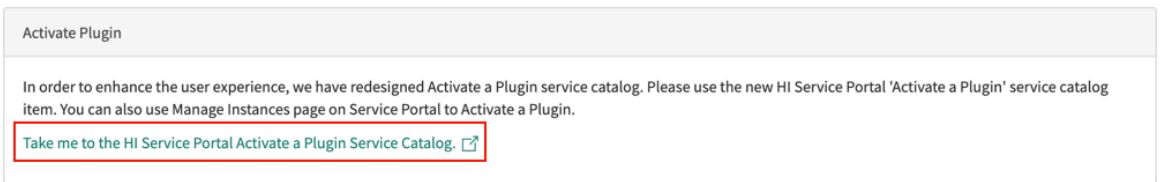
アカウントマネージャーがいない場合、購入後に有効化を延期することを決定するか、無料で準本番インスタンスで製品を評価する場合には次の手順を実行して、**App Engine** のプロセスオートメーションデザイナー **[com.glide.pad.license]** プラグインを有効にします。

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。
2. [すべてのアプリケーション] ページで [プラグインの要求] をクリックして、Now Support で [プラグインをアクティブ化] フォームを開きます。



3. Now Support で、Now Support サービスポータル サービスカタログ にアクセスするリンクを選択します。



4. インスタンスを選択します。
5. [アクション] > [プラグインのアクティブ化] を選択します。
6. [プラグインのアクティブ化] フォームで、次の情報を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

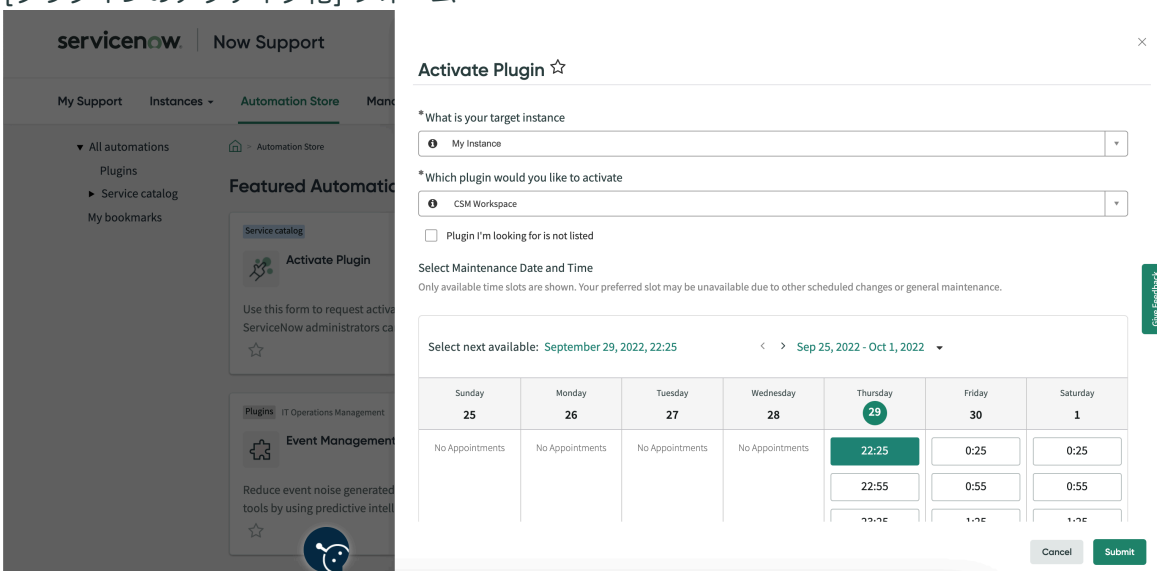
[プラグインのアクティブ化] フォーム

フィールド	説明
ターゲットインスタンスは何ですか	プラグインをアクティブ化するインスタンス。
どのプラグインをアクティブ化しますか	アクティブ化するプラグインの名前です。 **注:** 必要なプラグインが表示されない場合、または OEM またはオンプレミスのインスタンスでプラグインをアクティブ化している場合は、[探しているプラグインが表示されていません **(Plugin I'm looking for is not listed)]** チェックボックスをオンにして、プラグインの名前を入力します。
メンテナンスの日時を選択 (Select Maintenance Date and Time)	プラグインをアクティブ化する日時。 **注:** プラグインは、米国太平洋標準時で、毎営業日の朝と夕方の 2 回のバッチでアクティブ化されます。特定の時刻にプラグインをアクティブ化する必要がある場合は、[理由/コメント **(Reason/Comments)]** フィールドに要求を入力します。

Example

たとえば、 [自分のインスタンス (My Instance)] という名前のインスタンスで CSM Workspace プラグインをアクティブ化するには、次のフォームを参照してください。

[プラグインのアクティブ化] フォーム



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [送信] を選択します。
   プラグインの要求に関するその他の詳細については、Now Support ナレッジベース の記事「サービスカタログからのプラグインの要求 (Requesting a Plugin from the サービスカタログ) (KB0751715)」を参照してください。

タスクの結果

作成したカスタムテーブルのトリガーを プロセスオートメーションデザイナー に作成できます。**App Engine** のプロセスオートメーションデザイナー **[com.glide.pad.license]** プラグインを有効にすると、これらのテーブルとその拡張プレイブックを作成できます。

- 影響を受ける CI [cmdb_outage_ci_mtom]
- エージェントキャパシティ [awa_agent_capacity]
- エージェントチャネルの可用性 [awa_agent_channel_availability]
- エージェントの在席状況 [awa_agent_presence]
- お知らせ [announcement]
- アセスメントカテゴリ結果 [asmt_category_result]
- アセスメントのインスタンス [asmt_assessment_instance]
- アセスメントメトリクス [asmt_metric]
- アセスメントメトリクステンプレート [asmt_template]
- アセスメントメトリクスタイプ [asmt_metric_type]
- アセスメントメトリクスタイプグループ [asmt_metric_type_group]
- アセスメントネットプロモータースコア [asmt_nps_result]
- アセスメントテンプレートの定義 [asmt_template_definition]
- アサイン資格 [awa_eligibility_pool]
- アサインルール [awa_assignment_rule]
- 監査 [cert_audit]
- 監査結果 [cert_audit_result]
- AWA エージェントのプレゼンスとキャパシティ [awa_agent_presence_capacity]
- AWA ドキュメントサイズ [awa_document_size]
- ベース構成アイテム [cmdb]
- ビルド [cmn_building]
- ビジネスカレンダー [business_calendar]
- 認定テンプレート [cert_template]
- CI 関係フィルター [cmdb_rel_filter]
- CI 関係 [cmdb_rel_ci]
- CI 関係ロールアップ [cmdb_rel_rollup]
- CI 関係タイプ [cmdb_rel_type]
- CI/ユーザー関係タイプ [cmdb_rel_user_type]
- 影響を受ける CI [task_ci]
- CMDB グループ [cmdb_group]
- CMDB グループイベントキュー [cmdb_group_event_queue]
- CMDB グループタイプ [cmdb_group_type]

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- CMDB ヘルス構成 [cmdb_health_config]
- CMDB ヘルスメトリクス [cmdb_health_metric]
- CMDB ヘルス結果 [cmdb_health_result]
- CMDB ヘルススコアカード [cmdb_health_scorecard]
- 会社 [core_company]
- 接続および資格情報エイリアス [sys_alias]
- 接続および認証情報テンプレート [sys_alias_templates]
- コストセンター [cmn_cost_center]
- 国 [core_country]
- 部門 [cmn_department]
- 直接の関係 [cmdb_related]
- [dms_document]
- ドラフトドキュメント [draft_document]
- 後続タスク [cert_follow_on_task]
- グループ [sys_user_group]
- グループメンバー [sys_user_grmember]
- グループキュー優先度 [awa_group_queue_priority]
- グループの関係 [cmdb_rel_group]
- グループロール [sys_group_has_role]
- グループスキル [sys_group_has_skill]
- ガイド付きセットアップタスク [gsw_task]
- 休日 [sys_holiday]
- 影響する CI [task_cmdb_ci_service]
- 受信ボックスのレイアウト [awa_inbox_layout]
- インタラクション [interaction]
- IP アドレスプール [cmdb_ip_address_pool]
- IP アドレス範囲 [cmdb_ip_address_range]
- IP アドレスから DNS 名 [cmdb_ip_address_dns_name]
- IP サービス [cmdb_ip_service]
- KB 送信 [kb_submission]
- ナレッジ [kb_knowledge]
- ナレッジベース [kb_knowledge_base]
- ナレッジカテゴリ [kb_category]
- ナレッジフィードバック [kb_feedback]
- ナレッジフィードバックタスク [kb_feedback_task]
- ナレッジ使用 [kb_use]
- 場所 [cmn_location]
- メトリクス [metric_instance]
- モデルカテゴリ [cmdb_model_category]

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- オファーの詳細 [awa_offer_details]
- OS ユーザー [cmdb_os_user]
- 機能停止 [cmdb_ci_outage]
- ページ [sp_page]
- ピア関係 [cmdb_peer]
- 人物関係 [cmdb_rel_person]
- 在席状況 [awa_presence_state]
- プライベートタスク [vtb_task]
- 製品モデル [cmdb_model]
- キュー [awa_queue]
- 関連エントリ [cmdb_related_entry]
- レポート [sys_report]
- ロール [sys_user_role]
- 勤務表 [cmn_rota_roster]
- ローテーションエスカレーション [cmn_rota_escalation]
- スケジュール済みスイート実行 [sys_atf_schedule_run]
- サービス [cmdb_ip_service_ci]
- サービスポータル [sp_portal]
- シフト [cmn_rota]
- シフトエスカレーションセット [cmn_rota_escalation_set]
- シフトエスカレーションステップの定義 [cmn_rota_esc_step_def]
- スキルカテゴリ [cmn_skill_category]
- スキルレベル [cmn_skill_level]
- スキルレベルタイプ [cmn_skill_level_type]
- 登録者 [cmdb_subscriber]
- テンプレート [sys_template]
- テスト [sys_atf_test]
- テスト結果 [sys_atf_test_result]
- テストスイート [sys_atf_test_suite]
- テストスイート結果 [sys_atf_test_suite_result]
- テストスイートテスト [sys_atf_test_suite_test]
- テストテンプレート [sys_atf_test_template]
- テーマ [sp_theme]
- チケット [ticket]
- Universal_request
- ユーザー [sys_user]
- ユーザースキル [sys_user_has_skill]
- ベンダータイプ [vendor_type]
- 作業アイテム [awa_work_item]

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 作業アイテムの却下 [awa_work_item_rejection]
- 作業アイテムのサイジング [awa_work_item_sizing]
- 作業アイテムのソート順 [awa_queue_item_sorting]

注: 自分のテーブル [x_my_table] などのカスタムテーブルを作成すると、作成したカスタムテーブルからトリガーするプレイブックを作成できます。ただし、別のプロセスオートメーションデザイナープラグインに属するテーブルからトリガーするプレイブックを作成することはできません。

カスタマーサービス管理 (CSM) 向け プロセスオートメーションデザイナー の有効化

インスタンスでワークフロースタジオ プロセスオートメーションデザイナーを有効にして、CSM テーブルによってトリガーされるプロセスオートメーションデザイナーを作成できます。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

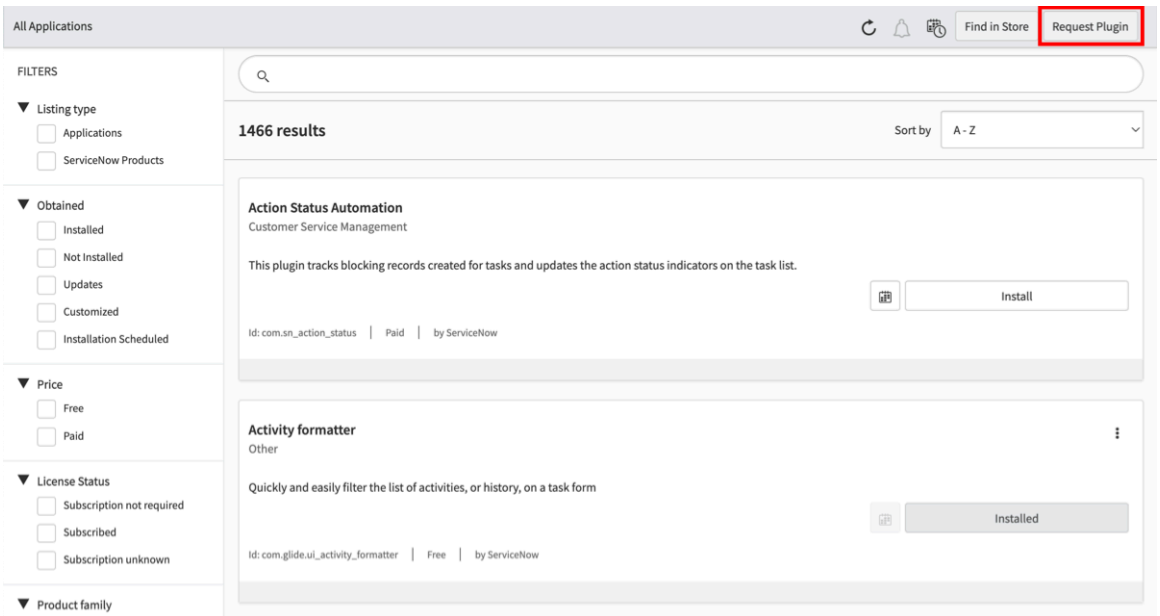
CSM テーブルとこのテーブルから拡張されるカスタムテーブルによってトリガーされるプロセスオートメーションデザイナーをワークフロースタジオで作成するには、CSM のサブスクリプションを購入する必要があります。

このサブスクリプションを購入するには、ServiceNow アカウントマネージャーにお問い合わせください。アカウントマネージャーは通常数日以内に、組織の本番および準本番インスタンスでプラグインが有効化されるように手配することができます。

アカウントマネージャーがいない場合、購入後に有効化を延期することを決定するか、無料で準本番インスタンスで製品を評価する場合には次の手順を実行して、カスタマーサービス管理 **(CSM)**向けプレイブック **[com.sn_csm_playbook]** プラグインを有効にします。

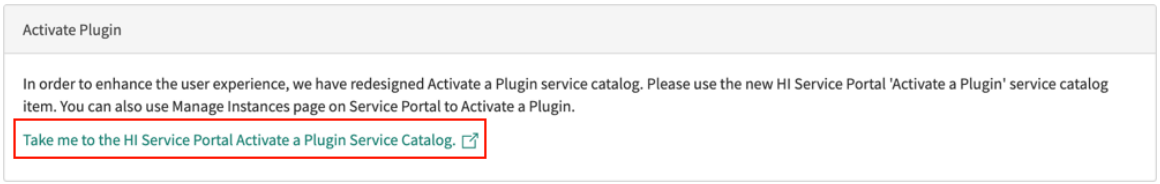
手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。
2. [すべてのアプリケーション] ページで [プラグインの要求] をクリックして、Now Support で [プラグインをアクティブ化] フォームを開きます。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. Now Support で、Now Support サービスポータル サービスカタログ にアクセスするリンクを選択します。



4. インスタンスを選択します。
5. [アクション] > [プラグインのアクティブ化] を選択します。
6. [プラグインのアクティブ化] フォームで、次の情報を入力します。

[プラグインのアクティブ化] フォーム

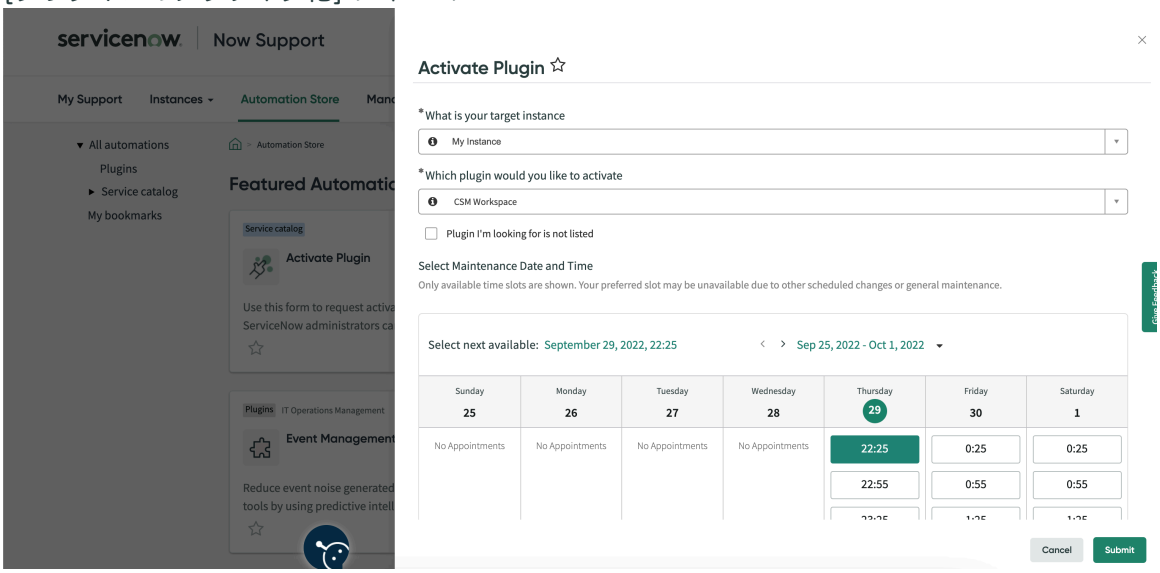
フィールド	説明
ターゲットインスタンスは何ですか	プラグインをアクティブ化するインスタンス。
どのプラグインをアクティブ化しますか	アクティブ化するプラグインの名前です。 **注:** 必要なプラグインが表示されない場合、または OEM またはオンプレミスのインスタンスでプラグインをアクティブ化している場合は、[探しているプラグインが表示されていません **(Plugin I'm looking for is not listed)]** チェックボックスをオンにして、プラグインの名前を入力します。
メンテナンスの日時を選択 (Select Maintenance Date and Time)	プラグインをアクティブ化する日時。 **注:** プラグインは、米国太平洋標準時で、毎営業日の朝と夕方の 2 回のバッチでアクティブ化されます。特定の時刻にプラグインをアクティブ化する必要がある場合は、[理由/コメント **(Reason/Comments)]** フィールドに要求を入力します。

Example

たとえば、 [自分のインスタンス (My Instance)] という名前のインスタンスで CSM Workspace プラグインをアクティブ化するには、次のフォームを参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[プラグインのアクティブ化] フォーム



7. [送信] を選択します。
   プラグインの要求に関するその他の詳細については、Now Support ナレッジベース の記事「サービスカタログからのプラグインの要求 (Requesting a Plugin from the サービスカタログ) (KB0751715)」を参照してください。

タスクの結果

カスタマーサービス管理向けプレイブック **[com.sn_csm_playbook]** プラグインを有効にすると、これらのテーブルとその拡張のプレイブックを作成できます。

- アカウント (customer_account)
- ケース [sn_customerservice_case]
- 変更要求 [change_request]。サービス管理によるカスタマーサービス (com.sn_cs_sm) が必要です。
- コンシューマー (csm_consumer)
- 連絡先 (customer_contact)
- エスカレーション [sn_customerservice_escalation]
- 世帯 [csm_household]
- インシデント [incident] サービス管理によるカスタマーサービス (com.sn_cs_sm) が必要です。
- インタラクション [interaction]
- オーダー [csm_order]。オーダーのカスタマーサービス管理 (CSM) (com.snc.csm.order) が必要です。
- 発注書明細 [csm_order_line_item]。オーダーのカスタマーサービス管理 (CSM) (com.snc.csm.order) が必要です。
- 問題 [problem]。サービス管理によるカスタマーサービス (com.sn_cs_sm) が必要です。
- 要求 [sc_request]。要求管理によるカスタマーサービス (com.sn_cs_sm_request) が必要です。
- サービス組織 [sn_customer_service_organization]。サービス組織 (com.snc.service_organization) が必要です。
- タスク [sn_customerservice_task]

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: ケースなどの CSM テーブルを拡張するカスタムテーブルを作成する場合は、そこからトリガーするプレイブックを作成できます。

フィールドサービス管理 **(FSM)** 向け プロセスオートメーションデザイナー の有効化

インスタンスでワークフロースタジオ プロセスオートメーションデザイナーを有効にして、テーブルによってトリガーされるプロセスオートメーションデザイナーを作成できます。

始める前に
必要なロール：admin

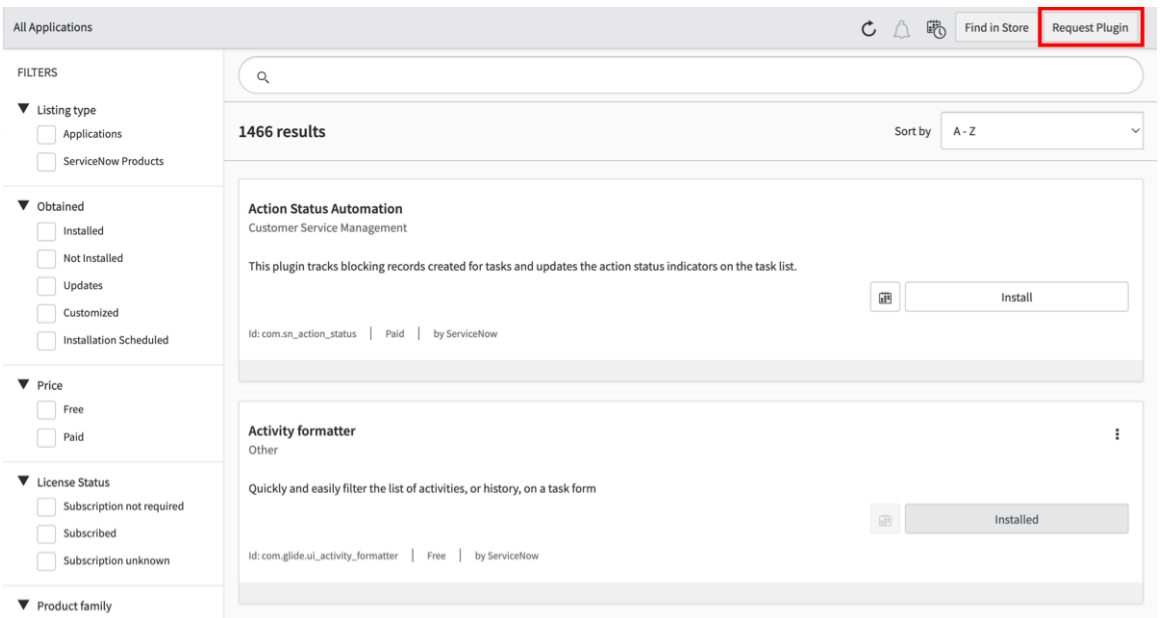
このタスクについて
フィールドサービス管理 (FSM)テーブルによってトリガーされるプロセスオートメーションデザイナーをワークフロースタジオで作成するには、フィールドサービス管理 (FSM) のサブスクリプションを購入する必要があります。

このサブスクリプションを購入するには、ServiceNow アカウントマネージャーにお問い合わせください。アカウントマネージャーは通常数日以内に、組織の本番および準本番インスタンスでプラグインが有効化されるように手配することができます。

アカウントマネージャーがいない場合、購入後に有効化を延期することを決定するか、無料で準本番インスタンスで製品を評価する場合には次の手順を実行して、フィールドサービス管理のプレイブック **[com.sn_fsm_playbook]** プラグインを有効にします。

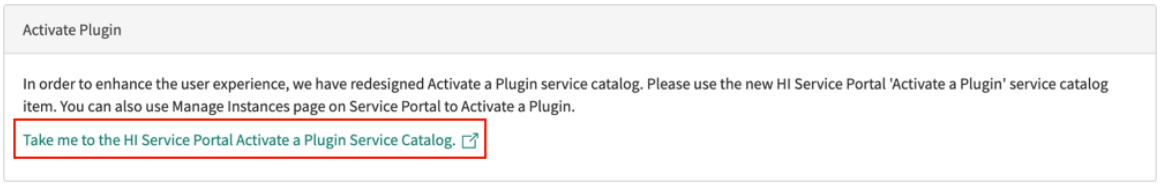
手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。
2. [すべてのアプリケーション] ページで [プラグインの要求] をクリックして、Now Support で [プラグインをアクティブ化] フォームを開きます。



3. Now Support で、Now Support サービスポータル サービスカタログ にアクセスするリンクを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. インスタンスを選択します。
5. [アクション] > [プラグインのアクティブ化] を選択します。
6. [プラグインのアクティブ化] フォームで、次の情報を入力します。

[プラグインのアクティブ化] フォーム

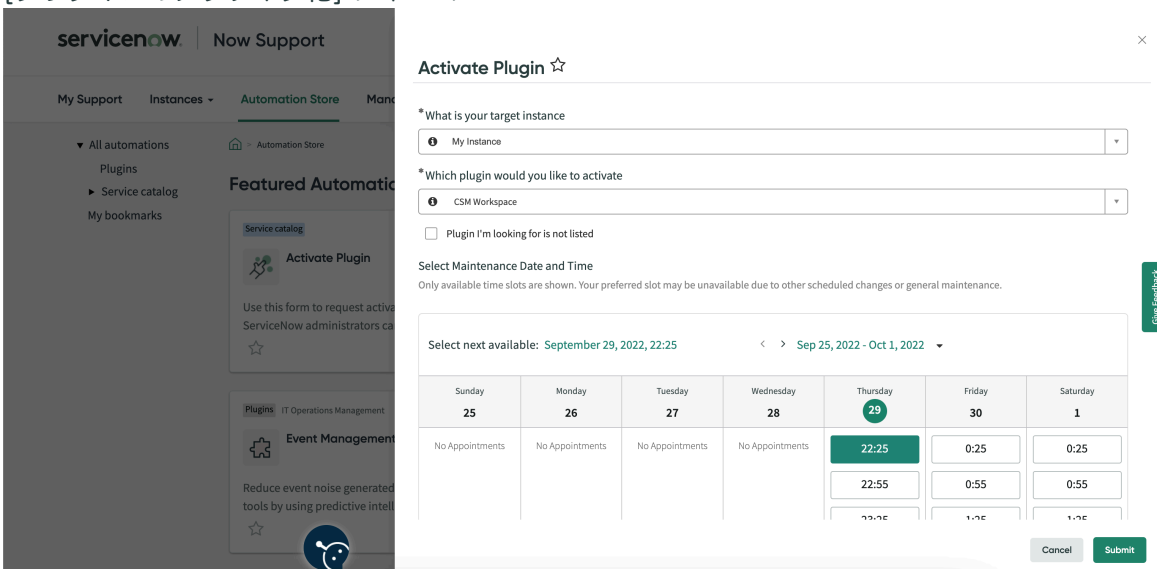
フィールド	説明
ターゲットインスタンスは何ですか	プラグインをアクティブ化するインスタンス。
どのプラグインをアクティブ化しますか	アクティブ化するプラグインの名前です。 **注:** 必要なプラグインが表示されない場合、または OEM またはオンプレミスのインスタンスでプラグインをアクティブ化している場合は、[探しているプラグインが表示されていません **(Plugin I'm looking for is not listed)]** チェックボックスをオンにして、プラグインの名前を入力します。
メンテナンスの日時を選択 (Select Maintenance Date and Time)	プラグインをアクティブ化する日時。 **注:** プラグインは、米国太平洋標準時で、毎営業日の朝と夕方の 2 回のバッチでアクティブ化されます。特定の時刻にプラグインをアクティブ化する必要がある場合は、[理由/コメント **(Reason/Comments)]** フィールドに要求を入力します。

Example

たとえば、 [自分のインスタンス (My Instance)] という名前のインスタンスで CSM Workspace プラグインをアクティブ化するには、次のフォームを参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[プラグインのアクティブ化] フォーム



7. [送信] を選択します。
   プラグインの要求に関するその他の詳細については、Now Support ナレッジベース の記事「サービスカタログからのプラグインの要求 (Requesting a Plugin from the サービスカタログ) (KB0751715)」を参照してください。

タスクの結果

Playbooks for Field Service Management [com.sn_fsm_playbook] プラグインを有効にすると、これらのテーブルとその拡張のプロセスオートメーションデザイナーを作成できます。

- 作業タスク フロー [sf_work_task]
- 作業指示書フロー [sf_work_order]
- 作業指示タスク [wm_Task]
- 作業指示 [wm_order]
- 作業指示モデル [cmdb_workorder_product_model]
- 作業タスクモデル [cmdb_worktask_product_model]
- 作業タイプ [wm_work_type]
- エージェントパーソナルスケジュール [agent_events]
- アポイントメントの予約 [sn_apptmnt_booking_appointment_booking]
- アンケート [wm_questionnaire]
- サービスオーダータスク [sm_task]
- サービスオーダータスクテンプレートの依存関係 [sm_m2m_task_template_Dependency]
- 資産使用率 [sm_asset_usage]
- 部品要件 [sm_part_requirement]
- サービス管理雑費 [sm_incidentals]

プレイブックの管理

プレイブックの実行を確認して、問題の監視およびトラブルシューティングを行います。

これらのモジュールは、アドミニストレーターがプロセスオートメーションデザイナーを監視および管理するために提供されています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

今日の実行

今日実行されるプロセスオートメーションデザイナーのレコードのリストを表示します。

アクティブなプロセス

すべてのアクティブなプロセスオートメーションデザイナーのリストを表示します。

30 日以上経過したプロセス

30 日以上経過したすべてのアクティブなプロセスオートメーションデザイナーのリストを表示します。

アクティビティ定義

アクティビティを表示または作成します。

資産構成

フロー、サブフロー、アクションなどの自動化資産を表示または作成します。

トリガー定義

トリガーを表示または作成します。

データの定義

データ定義を表示または作成します。データ定義は、特定のプレイブックでのみ再利用される情報であり、sys_flow_data_definition テーブルに保存されます。

ワークフロースタジオ でのプレイブックへのユーザーアクセス

アドミニストレーターは、委託開発権限をアサインするかユーザーロールを直接アサインして、ユーザーにプレイブックに対するアクセス権を付与できます。また、アドミニストレーターは、ユーザーのロールに基づいて、ユーザーがアクセスできる機能とコンテンツを指定することもできます。

ユーザーロール別のアクセス

アドミニストレーターは、ユーザーにアクティビティ定義を表示するロールが含まれる pd_author ユーザーロールを直接アサインすることによって ワークフロースタジオ のプレイブックへのアクセス権限を許可できます。

ワークフロースタジオのプレイブックのロール

ロール	説明	含まれるロール
playbook.admin	ユーザーは次のことができます。 • トリガー定義を作成、更新、削除する。 • ワークフロースタジオ を起動して、プレイブックを作成、アクティブ化、編集、削除する。 • アクティビティ定義を作成、編集、削除する。 • プロセスオートメーションデザイナー と プレイブックエクスペリエンス によって共有されるエクスペリエンスアクティビティタイプ (sys_pd_activity) テー	• pd_author • pd_content_author • pd_trigger_author • pd_operator • pd_cancel

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロースタジオのプレイブックのロール (続く)

ロール	説明	含まれるロール
	ブルとエクスペリエンスアクティビティプロパティ (sys_pd_activity_type_prop) テーブルを表示する。	
pd_author	ユーザーは次のことができます。 • ワークフロースタジオ を起動して、プレイブックを作成、アクティブ化、編集、削除する。 • すべてのアクティビティ定義を表示する。 • プロセスオートメーションデザイナー と プレイブックエクスペリエンス によって共有されるエクスペリエンスアクティビティタイプ (sys_pd_activity) テーブルとエクスペリエンスアクティビティプロパティ (sys_pd_activity_type_prop) テーブルを表示する。	• pd_shared.user • playbook.write • playbook.activity_def_read
pd_content_author	ユーザーは次のことができます。 • アクティビティ定義を作成、編集、削除する。 • トリガー定義を作成、編集、削除する。 • プロセスオートメーションデザイナー と プレイブックエクスペリエンス によって共有されるエクスペリエンスアクティビティタイプ (sys_pd_activity) テーブルとエクスペリエンスアクティビティプロパティ (sys_pd_activity_type_prop) テーブルを表示する。	• pd_trigger_author • pd_shared.user • playbook.activity_def_read
pd_trigger_author	ユーザーがトリガー定義を作成、更新、削除できるようにします。	なし
pd_operator	ユーザーがプロセス実行、アクティビティ実行、実行ログの表示のみをできるようにします。	なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロースタジオのプレイブックのロール (続く)

ロール	説明	含まれるロール
pd_shared.user	プロセスオートメーションデザイナー および プレイブックエクスペリエンスで共有されるエクスペリエンスアクティビティタイプ (sys_pd_activity) テーブルとエクスペリエンスアクティビティプロパティ (sys_pd_activity_type_prop) テーブルを表示できるようにします。	なし
pd_shared.admin	プロセスオートメーションデザイナー および プレイブックエクスペリエンスで共有されるエクスペリエンスアクティビティタイプ (sys_pd_activity) テーブルとエクスペリエンスアクティビティプロパティ (sys_pd_activity_type_prop) テーブルを編集できるようにします。	pd_shared.user
pd_cancel	playbook.admin ロールまたは親レコードへの書き込みアクセス権なしで実行中のプレイブックをキャンセルできるようにします。たとえば、プレイブックをキャンセルする機能をエージェントマネージャーに付与しても、エージェントには付与しない場合などです。	なし
pd_restarter	アクティブなプレイブックを再起動できるようにします。	なし
playbook.write	ユーザーは次のことができます。 • ワークフロースタジオ を起動して、プレイブックを作成、アクティブ化、編集、削除する。 • プロセスオートメーションデザイナー と プレイブックエクスペリエンス によって共有されるエクスペリエンスアクティビティタイプ (sys_pd_activity) テーブルとエクスペリエンスアクティビティプロパティ (sys_pd_activity_type_prop) テーブルを表示する。	pd_shared.user

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロースタジオのプレイブックのロール (続く)

ロール	説明	含まれるロール
playbook.activity_def_read	すべてのアクティビティ定義を表示できるようにします。	なし

ロールが含まれている場所の視覚的表現：

- playbook.admin
  - pd_content_author
    - playbook.activity_def_read
    - pd_shared.user
    - pd_trigger_author
  - pd_operator
  - pd_cancel
  - pd_restarter
  - pd_author
    - playbook.write
      - pd_shared.user
      - sn_workflow_studio.workflow_studio_read

        注: このロールでは、ユーザーは ワークフロースタジオ を起動できますが、プレイブックアドミニストレーターによって管理されることはありません。

      - sn_diagram_builder.db_read

        注: このロールでは、ユーザーは ワークフロースタジオ のダイアグラムビューでプレイブックを表示できますが、プレイブックアドミニストレーターによって管理されることはありません。

    - playbook.activity_def_read
  - pd_shared.admin
    - pd_shared.user
- delegated_developer

委託開発アクセス

アドミニストレーターは、アプリケーションを作成し、プレイブック 委託開発 権限を持つ開発者としてユーザーをアサインすることにより、ユーザーに ワークフロースタジオ プレイブックへのアクセス権限を付与できます。委託開発を使用すると、アドミニストレーターは、通常はアドミンユーザーに制限されている機能にプレイブック作成者がアクセスできるかどうかを制御できます。詳細については、「 開発者権限 」を参照してください。

ロールベースのコンテンツのフィルタリング

ワークフロースタジオ プレイブックのコンテンツにアクセスするために必要なユーザーロールを指定します。例：アクティビティ定義。コンテンツ定義とコンテンツフィルタリングルールを作成して、コンテンツのフィルタリングを管理します。詳細については、「プレイブックのコンテンツフィルタリング」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールベースのアクティビティ定義へのアクセス

アクティビティ定義にアクセスするために必要なロールを指定して、アクティビティ定義へのアクセスを管理します。アクティビティ定義の詳細については、「アクティビティ定義」を参照してください。

注: playbook.admin ロールと pd_content_author ロールの両方がアクティビティ定義を編集できますが、[必要なロール] フィールドを編集できるのは playbook.admin ロールのみです。

プレイブックのコンテンツフィルタリング

ユーザーのロールに基づいて、ユーザーがアクセスできるコンテンツを指定します。

不要または機密性の高いコンテンツは非表示にして、特定のユーザーに関連するコンテンツのみを表示します。アクセスを制御する ワークフロースタジオ プレイブックコンテンツと、ユーザーがそのコンテンツにアクセスするために必要なロールを指定します。たとえば、guided_decision_builder ロールを持つユーザーがプレイブックを作成している場合は、関連するアクティビティセットのみを表示します。

コンテンツフィルタリングを実装するには、次のものが必要です。

- コンテンツのタイプを指定する「コンテンツ定義」
- コンテンツにアクセスできるユーザーを決定する「コンテンツフィルタリングルール」と「ロール」

プレイブックには、デフォルトで、[プレイブック - すべてのアクティビティ定義] コンテンツ定義という 1 つのコンテンツ定義があります。[プレイブック - すべてのアクティビティ定義] コンテンツ定義には、デフォルトで 2 つのコンテンツフィルタリングルールがあります。

- (デフォルト) **delegated_developer** ロールを持つプレイブック - ユーザーは、すべてのアクティビティ定義にアクセスできます
- (デフォルト) **playbook.activity_def_read** ロールを持つプレイブック - ユーザーは、すべてのアクティビティ定義にアクセスできます

つまり、delegated_developer ロールまたは playbook.activity_def_read ロールを持つユーザーがすべてのアクティビティ定義にアクセスできます。デフォルトの定義とルールを使用して、または独自の定義とルールを作成して、コンテンツフィルタリングを開始します。

コンテンツ定義

コンテンツ定義は、ワークフロースタジオ リソースのタイプを指定します。リソースは、プレイブックのアクティビティ定義など、ワークフロースタジオ コンポーネントの重要な要素です。リソース全体を含めるコンテンツ定義を作成するか、条件ビルダーを使用して定義を絞り込みます。たとえ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ば、プレイブックアクティビティ定義のコンテンツ定義にはすべてのアクティビティ定義が含まれますが、名前またはパッケージに「ガイド付きディシジョン」を含むアクティビティ定義のみを含むコンテンツ定義を作成できます。

タグ付けにより、コンテンツ定義をさらに絞り込むことができます。リソースリストのアイテムにリソースタグを追加し、そのタグを持つリソースのみを含むようにコンテンツ定義を設計します。

コンテンツフィルタリングルール

コンテンツフィルタリングルールは、ユーザーが特定の定義のコンテンツにアクセスするために必要なロールを指定します。各ルールでは、単一のユーザーロールを単一のコンテンツ定義に関連付けます。ユーザーが ワークフロースタジオ プレイブックにアクセスするときに、ユーザーのロールに基づいてユーザーがアクセスできるアクティビティがコンテンツフィルタリングルールによって決定されます。

ロールベースのアクティビティ定義へのアクセス

アクティビティ定義にアクセスするために必要なロールを指定して、アクティビティ定義へのアクセスを管理します。ロールの詳細については、「プロセスオートメーションデザイナー ロール」を参照してください。アクティビティ定義の詳細については、「アクティビティ定義」を参照してください。

注: playbook.admin ロールと pd_content_author ロールの両方がアクティビティ定義を編集できますが、[必要なロール] フィールドを編集できるのは playbook.admin ロールのみです。

制限付きプレイブック

ユーザーは、アクセス権のないアクティビティを含むプレイブックを表示できません。プレイブックに制限付きアクティビティが含まれている場合、プレイブック全体が制限されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクセスサマリー

フィルタリング対象のリソース	ユーザーにロールがある場合	ユーザーにロールがない場合
アクティビティ定義	• アクティビティ定義を表示して、プレイブックをビルドするときに選択できる。 • アクティビティ定義をコピーできる。 • アクティビティ定義を変更できる。	• アクティビティ定義を非表示にして、プレイブックのビルド時に選択できないようにする。 • アクティビティ定義を含むプレイブックを表示できない。

デザインの検討

アクティビティ定義のコンテンツ定義ロール

pd_author ロールではなく playbook.write ロールをアサインすることで、コンテンツ定義内のアクティビティ定義のサブセットへのアクセス権をユーザーに付与します。

プレイブックのコンテンツフィルタリング定義の構成

コンテンツ定義を作成して、ユーザーがアクセスできるコンテンツを指定します。

始める前に

コンテンツのフィルタリングには、ユーザーロールと ワークフロースタジオ のテーブルとレコードに精通している必要があります。

必要なロール：admin、playbook.admin

このタスクについて

ユーザーロールに基づいて ワークフロースタジオ プレイブックをフィルターします。コンテンツをフィルタリングするには、次を設定する必要があります。

1. フィルターするコンテンツを説明するコンテンツ定義。コンテンツ定義では、アクティビティ定義などの ワークフロースタジオ リソースのタイプを指定します。
2. ユーザーが特定の定義のリソースにアクセスするために必要なロールを指定するコンテンツフィルタリングルール。

プレイブックには、デフォルトで、[プレイブック - すべてのアクティビティ定義] コンテンツ定義という 1 つのコンテンツ定義があります。[プレイブック - すべてのアクティビティ定義] コンテンツ定義には、デフォルトで 2 つのコンテンツフィルタリングルールがあります。

- (デフォルト) **delegated_developer** ロールを持つプレイブック - ユーザーは、すべてのアクティビティ定義にアクセスできます
- (デフォルト) **playbook.activity_def_read** ロールを持つプレイブック - ユーザーは、すべてのアクティビティ定義にアクセスできます

つまり、delegated_developer ロールまたは playbook.activity_def_read ロールを持つユーザーがすべてのアクティビティ定義にアクセスできます。デフォルトの定義とルールを使用して、または独自の定義とルールを作成して、コンテンツフィルタリングを開始します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. コンテンツ定義を変更または作成するには、[プロセス自動化] > [フロー管理 **(Flow Administration)]** > [コンテンツ定義 **(Content Definitions)]** に移動します。

   注: フロー管理へのアクセス権がない場合は、代わりに [コンテンツ定義] モジュールが [プロセス自動化] の直下にあります。

2. 変更する定義を選択するか、[新規] をクリックして定義を作成します。
3. フォームのフィールドに入力します。

   ワークフローリソースフォーム

フィールド	説明
名前	コンテンツ定義の名前。
アプリケーション	コンテンツ定義が適用されるアプリケーションスコープ。このフィールドには、現在選択されているアプリケーションスコープが自動的に設定されます。アプリケーションスコープが選択されていない場合、フィールドは [グローバル] に設定されます。特定のアプリケーションスコープを設定した場合、コンテンツ定義はそのアプリケーションスコープにのみ適用されます。グローバルアプリケーションスコープを選択した場合、コンテンツ定義はすべてのアプリケーションに適用されます。
テーブル	定義しているリソースタイプを含むテーブル。たとえば、アクティビティ定義 [sys_pd_activity_definition] テーブルには、インスタンスで利用可能なすべてのアクティビティ定義が含まれています。
Conditions (状態)	テーブルでレコードをフィルタリングするために使用される条件。たとえば、[名前] [含む] [ガイド付きディシジョン] という条件を作成すると、名前に「ガイド付きディシジョン」という用語が含まれているアクティビティのみが返されます。
リソースタグ	テーブル内のリソースをフィルタリングするために使用されるタグ。

4. [送信] をクリックします。

プレイブックのコンテンツフィルタリングルールの構成

コンテンツフィルタリングルールを使用して、ユーザーがコンテンツにアクセスするために必要なロールを指定します。

始める前に

必要なロール：admin、playbook.admin

コンテンツフィルタリングでは、ユーザーロールとプレイブックのテーブルとレコードに精通している必要があります。

このタスクについて

ユーザーロールに基づいて ワークフロースタジオ プレイブックをフィルターします。コンテンツをフィルタリングするには、次を設定する必要があります。

1. フィルターするコンテンツを説明するコンテンツ定義。コンテンツ定義では、アクティビティ定義などの ワークフロースタジオ リソースのタイプを指定します。
2. ユーザーが特定の定義のリソースにアクセスするために必要なロールを指定するコンテンツフィルタリングルール。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プレイブックには、デフォルトで、[プレイブック - すべてのアクティビティ定義] コンテンツ定義という 1 つのコンテンツ定義があります。[プレイブック - すべてのアクティビティ定義] コンテンツ定義には、デフォルトで 2 つのコンテンツフィルタリングルールがあります。

- (デフォルト) **delegated_developer** ロールを持つプレイブック - ユーザーは、すべてのアクティビティ定義にアクセスできます
- (デフォルト) **playbook.activity_def_read** ロールを持つプレイブック - ユーザーは、すべてのアクティビティ定義にアクセスできます

つまり、delegated_developer ロールまたは playbook.activity_def_read ロールを持つユーザーがすべてのアクティビティ定義にアクセスできます。デフォルトの定義とルールを使用して、または独自の定義とルールを作成して、コンテンツフィルタリングを開始します。

手順

1. コンテンツフィルタリングルールを変更または作成するには、[プロセス自動化] > [フロー管理 **(Flow Administration)]** > [コンテンツフィルタリングルール **(Content Filtering Rules)]** に移動します。

   注: フロー管理へのアクセス権がない場合は、代わりに [コンテンツフィルタリングルール] モジュールが [プロセス自動化] の直下にあります。

2. 変更するルールを選択するか、[新規] をクリックしてルールを作成します。
3. フォームのフィールドに入力します。

ワークフローリソースのフィルタールールフォーム

フィールド	説明
名前	コンテンツフィルタリングルールの名前。
ユーザーロール	[リソース定義] フィールドのコンテンツにアクセスするためにユーザーに必要なロール。
委託開発権限	ユーザーが委任開発者である特定のリソースパス。[sys_development_permission_set] テーブルでリソースパスを構成します。
アクティブ	ルールを有効にするオプション。
アプリケーション	コンテンツフィルタリングルールが適用されるアプリケーションスコープ。このフィールドには、現在選択されているアプリケーションスコープが自動的に設定されます。アプリケーションスコープが選択されていない場合、フィールドは [グローバル] に設定されます。特定のアプリケーションスコープを設定した場合、コンテンツフィルタリングルールはそのアプリケーションスコープにのみ適用されます。グローバルアプリケーションスコープを選択した場合、コンテンツフィルタリングルールはすべてのアプリケーションに適用されます。
リソー	フィルタリングするリソースを指定するコンテンツ定義の名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ス定義	

4. [送信] をクリックします。

プロセスコンテキストのアーカイブ

[完了]、[エラー]、または [キャンセル] ステータスの不要なプレイブックのレコードをアーカイブすることで、データベースクエリのパフォーマンスを向上させます。

始める前に

必要なロール：admin または playbook.admin

このタスクについて

実行したプレイブックの数に応じて、データベースに数百または数千の使用されなくなったレコードが存在する可能性があります。[完了]、[エラー]、または [キャンセル] ステータスのプレイブックのレコードをアーカイブすることで、データベースクエリで検索する必要があるレコードの件数を減らします。

デフォルトでは、次のようなプロセス実行についてコンテキストレコードが自動的にアーカイブされます。

- Xanadu インスタンスで作成され、
- ステータスが [完了] または [キャンセル] で、
- 14 日以内に編集されていないプレイブックの場合。

> **注:** 日数は調整できます。アーカイブ設定の構成の詳細については、「プロセスコンテキストのアーカイブ設定の構成」を参照してください。

コンテキストレコードを自動的にアーカイブしない場合は、「自動アーカイブをオフにする」を参照してください。

[エラー] ステータスのプロセス実行のコンテキストは、手動でアーカイブする必要があります。

> **注:** エラーで終了したプロセス実行のログが不要になった場合は、コンテキストレコードをアーカイブします。

プロセス実行のコンテキストレコードをアーカイブすると、次のレコードが単一の JSON レコードに圧縮されます。

- 要素マッピング [`sys_element_mapping`]
- コンテキストログ [`sys_pd_context_logs`]
- 変数値 [`sys_variable_value`]
- アクティビティコンテキスト [`sys_pd_activity_context`]
- ステージコンテキスト [`sys_pd_lane_context`]

JSON レコードは表示できますが、編集はできません。アーカイブされたコンテキストデータの JSON レコードの表示の詳細については、「アーカイブされたプロセスコンテキストの表示」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

⚠ **警告:** アーカイブを取り消すことはできません。これらのレコードを使用するコンテキストログまたはレポートが必要な場合は、アーカイブしないでください。 自動アーカイブでレポートの問題が発生する場合は、この機能をオフにします。自動アーカイブをオフにする方法については、「自動アーカイブをオフにする」を参照してください。

エージェントは引き続きプレイブックを開いて、プレイブックがキャンセルされた理由やアクティビティが誰にアサインされたかなどの履歴データを表示できます。

フローコンテキスト (`sys_flow_context`) レコードも、完了後 2 週間で自動的に削除されます。フローデータの保持の詳細については、「フロー実行詳細の保持」を参照してください。

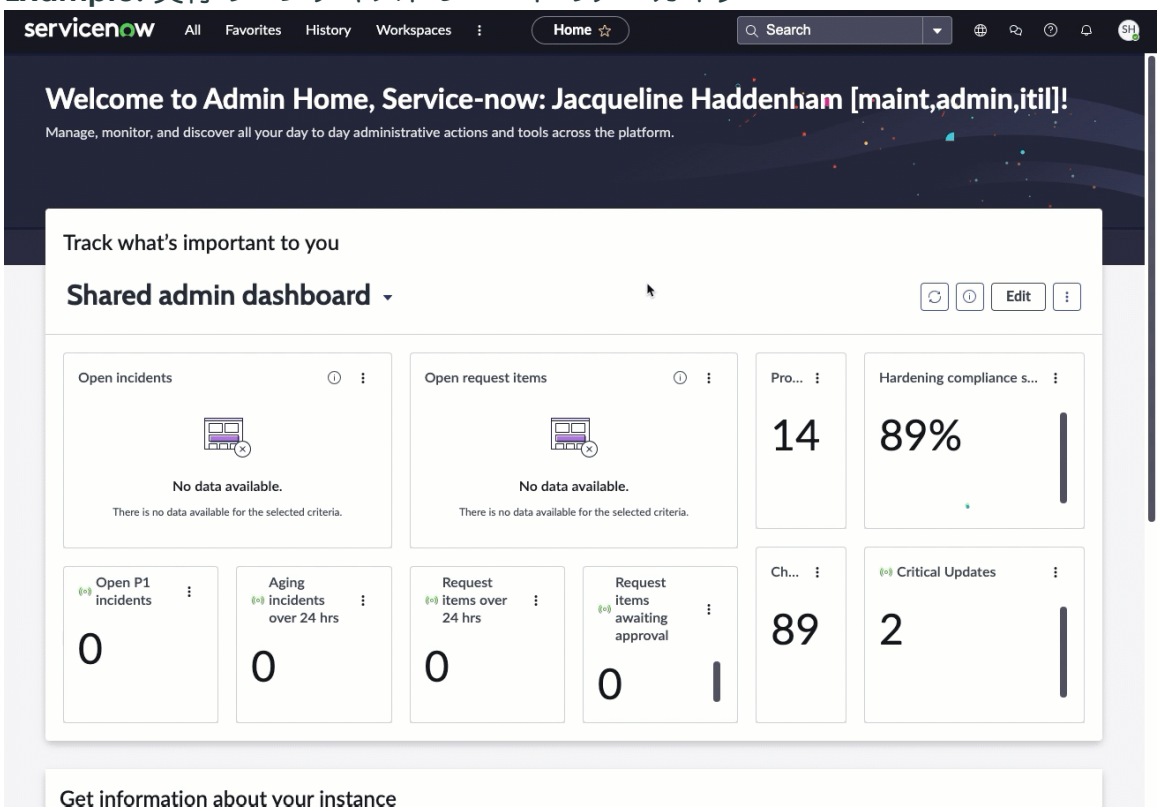
手順
プロセス実行のコンテキストレコードの手動アーカイブ

1. [すべて] に移動し、[フィルター] フィールドに「**sys_pd_context.list**」と入力して [sys_pd_context] テーブルを開きます。
2. コンテキストレコードをアーカイブする実行の横にあるチェックボックスをオンにします。
3. 右上隅で、アクションメニューから [プロセスコンテキストのアーカイブ] を選択します。
4. プロセスコンテキストをアーカイブすることを確定します。

タスクの結果
選択したプロセス実行のコンテキストレコードがアーカイブされます。

Trouble?
アーカイブするコンテキストレコードが多数ある場合、レコードはインスタンスの速度低下を回避するために、1 時間ごとに限定されたバッチでアーカイブされます。

Example: 実行のコンテキストレコードのアーカイブ



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク

プロセス実行のフォームレイアウトを構成して、アーカイブされたデータを表示できるようにします。プロセス実行のフォームレイアウトの構成の詳細については、「アーカイブされたプロセスコンテキストの表示」を参照してください。

プロセスコンテキストのアーカイブ設定の構成

プロセスコンテキストの自動アーカイブ機能のデフォルト設定を変更します。

始める前に

必要なロール：admin または playbook.admin

代わりに自動アーカイブをオフにする場合は、「自動アーカイブをオフにする」を参照してください。

手順

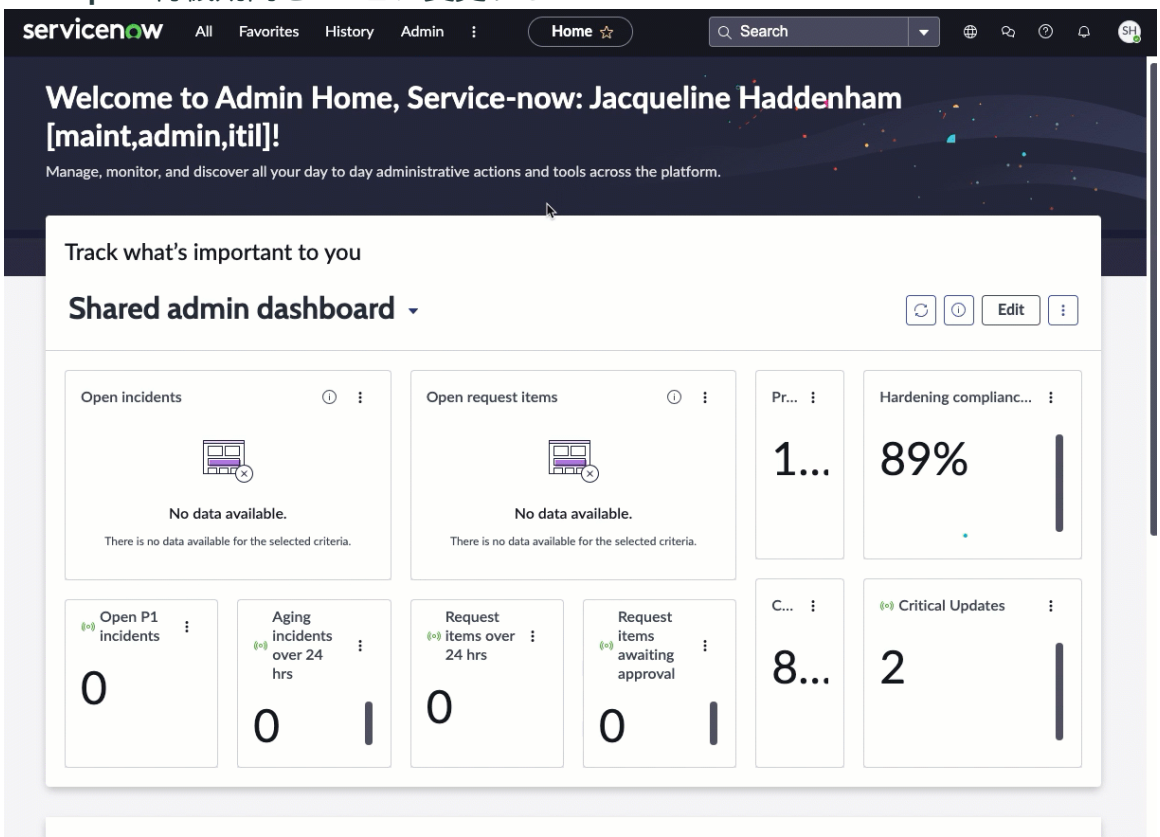
1. [すべて] > [システムプロパティ] > [すべてのプロパティ]に移動します。
2. **sn_pa_designer.data_retention_policy** プロパティを検索して開きます。
3. 警告メッセージ内の [ここ] リンクを選択して、レコードを編集します。
4. [値] を、完了またはキャンセルされたプレイブックのコンテキストレコードをアーカイブする前に編集を解除する必要がある日数に変更します。
   デフォルト値は 14 です。プレイブックが完了またはキャンセルされた直後に実行のコンテキストレコードをアーカイブする場合は、値を 0 に設定できます。コンテキストレコードがアーカイブされるまでの待機時間を長くする場合は、より大きい数値を入力します。

   ⚠ 警告: このレコードの他のフィールドを変更すると、自動アーカイブが機能しなくなる可能性があります。

5. [更新] をクリックします。
   変更が保存されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: 待機期間を 30 日に変更する



自動アーカイブをオフにする

完了したプレイブックおよびキャンセルされたプレイブックのコンテキストレコードの自動アーカイブをオフにします。

始める前に

必要なロール：admin または playbook.admin

プレイブックがアーカイブされるまでの日数を変更する場合は、「プロセスコンテキストのアーカイブ設定の構成」を参照してください。

手順

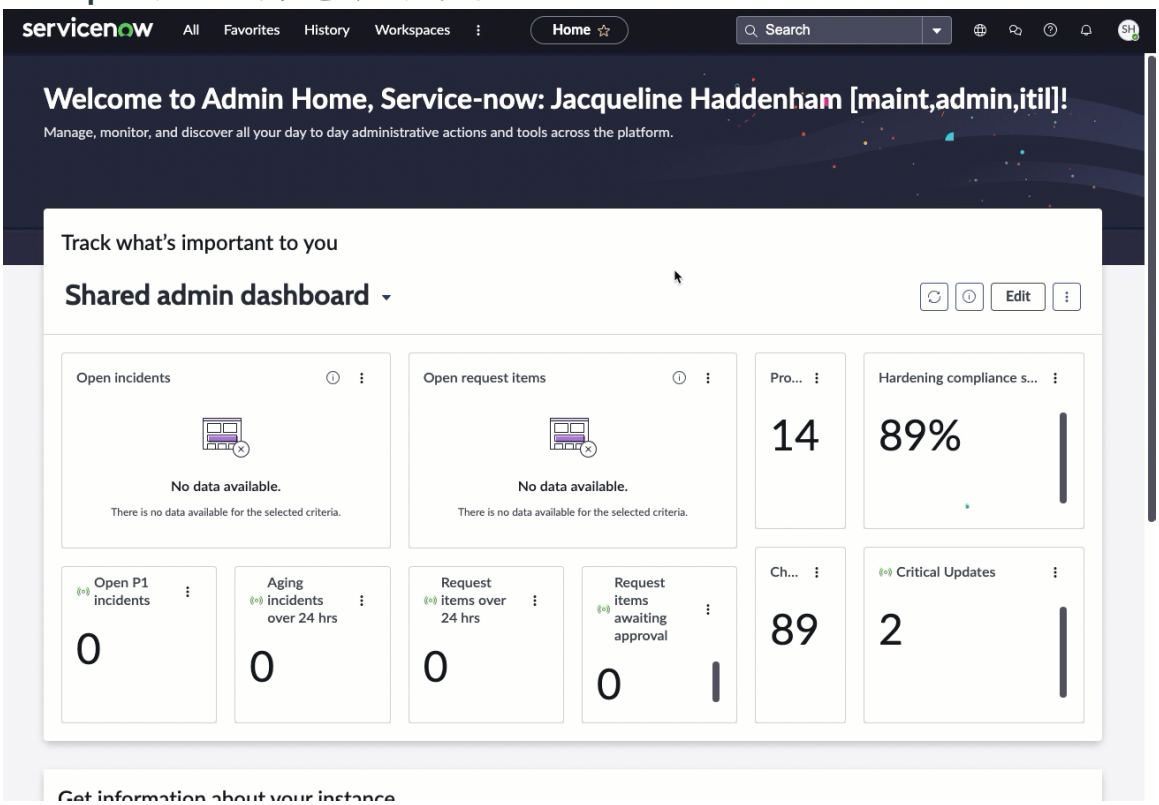
1. [すべて] > [システムプロパティ] > [すべてのプロパティ]に移動します。
2. **sn_pa_designer.enableDataRetentionFeatures** プロパティを検索して開きます。
3. 警告メッセージ内の [ここ] リンクを選択して、レコードを編集します。
4. [値] を **true** に設定します。

> ⚠ **警告:** このレコードの他のフィールドを変更すると、自動アーカイブが機能しなくなる可能性があります。

5. [更新] をクリックします。
   自動アーカイブはオフになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: アーカイブをオフにする



アーカイブされたプロセスコンテキストの表示

アーカイブされたコンテキストレコードの JSON レコードを表示できるように、プロセス実行のフォームレイアウトを構成します。

始める前に

必要なロール：admin または playbook.admin

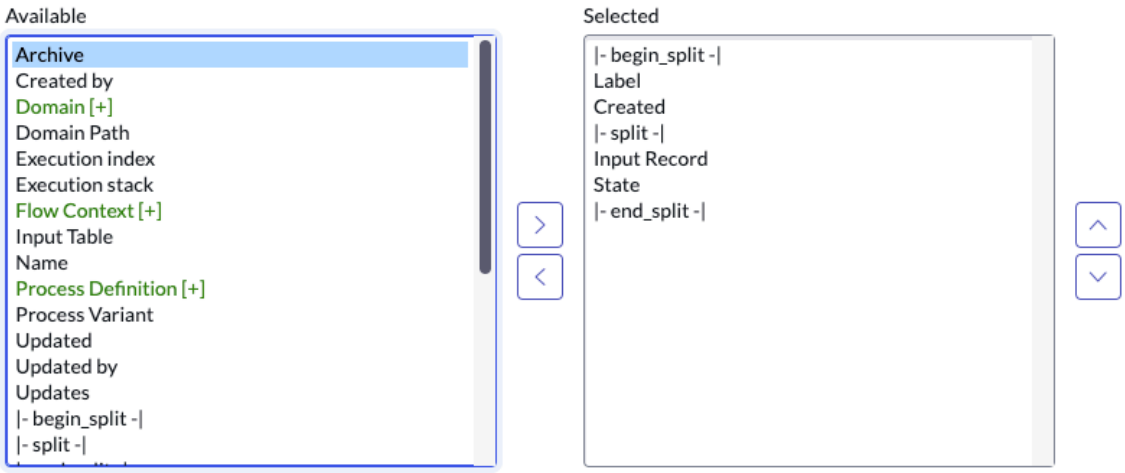
このタスクについて

プロセス実行レコードのアーカイブされたコンテキストレコードを表示するには、プロセス実行レコードのフォームレイアウトを構成する必要があります。プロセス実行のコンテキストレコードをアーカイブしておらず、アーカイブする場合は、「プロセスコンテキストのアーカイブ」を参照してください。

手順

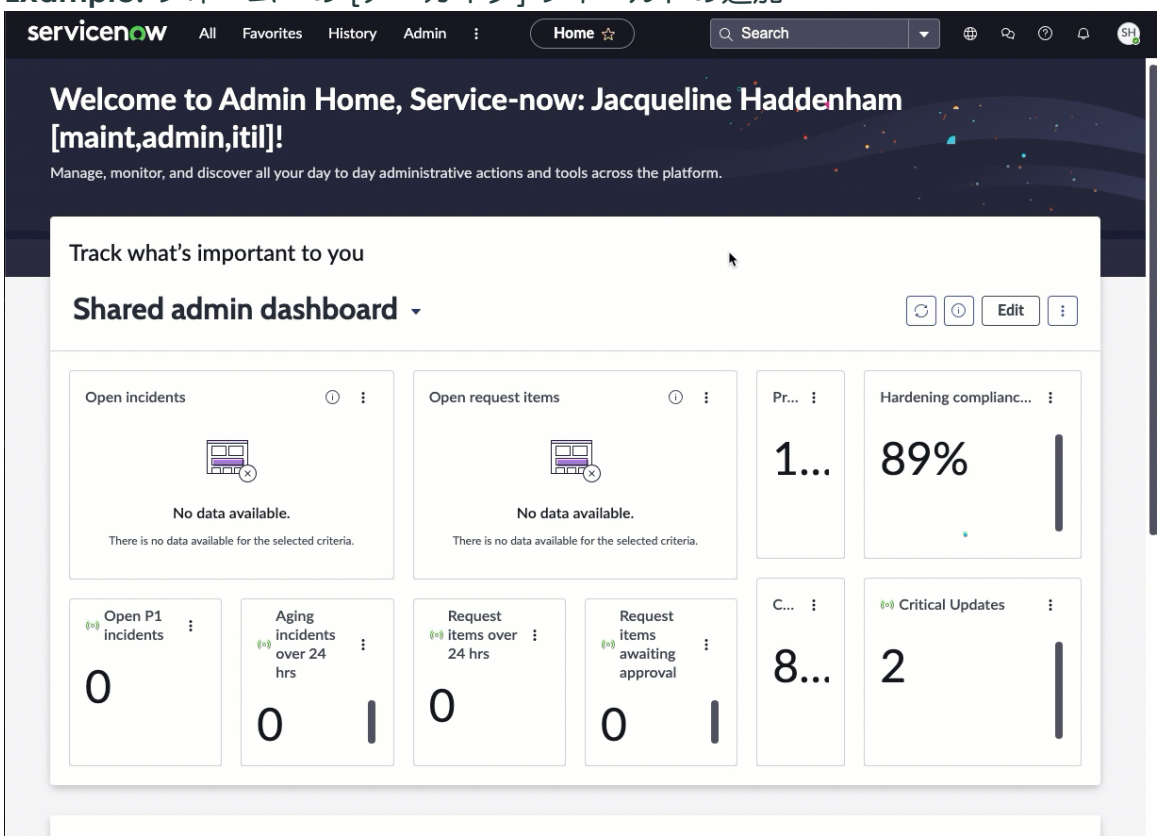
1. [すべて] に移動し、[フィルター] フィールドに「**sys_pd_context.list**」と入力して [sys_pd_context] テーブルを開きます。
2. いずれかのプロセス実行を開きます。
3. フォームコンテキストメニュー ( ) を開きます。
4. [設定] > [フォーム レイアウト] を選択します。
5. [利用可能] リストで、[アーカイブ] をダブルクリックして [選択済み] リストに移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. [保存] をクリックします。
   [アーカイブ] フィールドは、すべてのプロセス実行レコードに表示されます。
7. アーカイブされたプロセスコンテキストレコードを使用してプロセス実行を開きます。
   プロセス実行のアーカイブされたコンテキストレコードの JSON レコードを [アーカイブ] フィールドで表示できます。

Example: フォームへの [アーカイブ] フィールドの追加



データ定義を作成する

データ定義を使用して、プレイブック内の情報を収集して後で使用できるようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

重要: 26.1 リリースの時点で、[ユーザーデータの収集] アクティビティはアクティビティピッカーで使用できなくなりました。アクティビティはどこで使用されても引き続き機能しますが、新しいアクティビティの場合は、代わりに [アンケート] アクティビティを使用してください。[アンケート] アクティビティでは、データ定義を作成する必要はありません。[アンケート] アクティビティの詳細については、「アンケートアクティビティ」を参照してください。

必要なロール：admin、flow_designer

このタスクを完了するには、Now Platform で作業します。

このタスクについて

データ定義は、プレイブックの実行中にエージェントまたは履行者に収集してもらう情報であり、[ユーザーデータの収集] アクティビティの主要な入力となります。プレイブック作成者は、エージェントまたは履行者に収集してもらいたいデータを `sys_flow_data_definition` テーブルで定義します。エージェントまたは履行者が情報を収集すると、情報はレコードテーブルではなく、`sys_flow_data` テーブルに保存され、後でプレイブックの実行中に使用できるようになります。

データ定義は、次の場合にのみ使用します。

- データが単一のプレイブック実行中に下流でのみ必要である場合。収集されて使用されると、二度と必要になることはありません。
- 収集したデータについてレポートを作成する必要がない場合。収集されたデータに関するメトリクスまたはレポートが必要な場合は、テーブルを作成し、代わりにユーザーフォームアクティビティを使用します。

たとえば、アクティビティを実行する複数のチームがあるとします。あるチームが、[ユーザーデータの収集] アクティビティを実行するときに作成済みのデータ定義に入力を実行します。次に 2 番目のチームが、収集された入力を使用してプレイブックを完了します。その後、その情報は必要なくなります。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [プロセス自動化管理] > [データの定義]に移動します。
2. [新規] を選択して、新しいデータ定義を作成します。
3. 新しいデータ定義に名前を付けます。

   注: デフォルトでは、データ定義のスコープは他のメタデータテーブルと同じです。

4. レコードヘッダーを右クリックして [**Save**] を選択します。
   [送信] ボタンを選択すると、[データの定義] リストに戻るため、新しいデータ定義を選択して再度開く必要があります。
5. エージェントに収集してもらいたい情報のフィールドを追加します。
   a. [フローデータ変数] テーブルで、[新規] を選択します。
   b. 必須フィールドに入力します。

オプション	説明
タイプ	エージェントがフィールド用に収集している入力のタイプ。たとえば、文字列、参照、整数などです。
ラベル	プレイブック実行中の UI 内のフィールドのラベル。ラベルは任意のテキストで構成できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
列名	収集される入力の名前。単語を区切るためにスペースを使用することはできません。
最大長	文字列タイプのフィールドに入力できる文字列値の最大長。変数は、表示可能な長さよりも長い文字列を格納できます。
アプリケーション	データ変数のアプリケーションスコープ。常に [グローバル] に設定され、変更できません。

オプションの構成

6. オプション: [デフォルト値] タブで、プレイブックが値を提供しない場合に使用される値を指定します。
7. レコードヘッダーを右クリックして [**Save**] を選択します。

タスクの結果
ワークフロースタジオのプロセスオートメーションデザイナーでアクティビティを設定するときに、データ定義を使用できるようになりました。

Example:
プレイブックの実行中に、データ定義を使用して次のことを行うことができます。

- 出荷先を収集し、出荷ラベルを生成するときにその住所を参照する。
- ユーザーに「はい」または「いいえ」の質問をし、ユーザーの応答に基づいてその後のアクティビティを決定する。

次のタスク
新しいデータ定義を使用するには、ワークフロースタジオ プロセスオートメーションデザイナーで[ユーザーデータの収集] アクティビティを構成します。

フローの構成

ワークフロースタジオ フローのユーザーアクセス、API アクセス、およびプロパティを構成します。

アクティベーション

ワークフロースタジオ フロー、サブフロー、およびアクションは、デフォルトで有効になっている Now Platform 機能です。

構成オプション

フロー管理オプション

構成オプション	参照
フロー実行の詳細を保持する	フロー実行詳細の保持
フロー固有の実行設定を作成する	フロー実行の設定
フローレポートを有効にする	フローのレポートの有効化
フローおよびアクションダッシュボードを表示する	FDIH ダッシュボード
フロー優先度を設定する	フロー優先度

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザーアクセスオプション

構成オプション	参照
ロール別にフローをビルドするためのアクセス権をユーザーに付与する	ワークフロースタジオ フローへのユーザーアクセス
個々のフローおよびアクション機能へのアクセスをカスタムロールごとに制限する	ワークフロースタジオ フロー機能へのアクセス管理
フローとアクションのコンテンツをロールでフィルターする	ワークフロースタジオ フローのコンテンツフィルタリング

API アクセスオプション

構成オプション	参照
フローおよびアクション API にアクセス権を付与する	ワークフロースタジオ フローへの API アクセス
コードスニペットを作成する	フロー、サブフロー、アクションのコードスニペットの作成
クライアント呼び出し可能なフロー、サブフロー、アクションの作成	クライアント呼び出し可能なフロー、サブフロー、アクションの作成

制限付き発信者アクセスオプション

構成オプション	参照
フローとアクションへのクロススコープアクセスを管理する	ワークフロースタジオ フローへの制限付き発信者アクセス
制限付き発信者アクセスをアップグレードする	フローおよびアクションの制限付きの申請者アクセス特権のアップグレード

ワークフロースタジオオプションの更新

構成オプション	参照
フロー図を更新する	フロー図作成の最新バージョンに更新する
ワークフロースタジオ とそのすべての依存関係を更新する	ワークフロースタジオの最新バージョンへの更新

フローアドミニストレーター

アクションとフローの実行、その結果の状態、実行時間を確認することで、潜在的な問題を特定してトラブルシューティングします。

フローデザイナー では、フローを管理するための次のモジュールがアドミニストレーターとフローオペレーターに提供されています。

今日の実行

今日実行されるフローのフロー コンテキスト レコードリストを表示します。この情報を使用して、今日実行されるフローを特定します。

アクティブなフロー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ステータス] が [待機中] の実行中フローのフロー コンテキスト レコードリストを表示します。この情報を使用して、トリガーまたは条件の継続を待っているフローを特定します。

イベント キュー

[キュー] が **[flow_engine]** で [ステータス] が [準備完了] となっているイベント レコードのフィルタリングされたリストを表示します。この情報を使用して、イベント処理時に待機しているフローを特定します。

運用ダッシュボード

実行されるフロー数や平均フロー実行時間など、応答性の高いダッシュボードを表示します。今日または過去 30 日間の統計情報を表示します。この情報を使用して、フロー実行の正常性とパフォーマンスを調べます。

設定

フローとアクションの設定レコードリストを表示します。このテーブルを使用し、どのアクションとフローでレポートが無効になっているのかを特定します。アクションでレポートを実行するか、フローでレポートを実行するかを制御するレコードをこのテーブルに作成します。

プロパティ

フローの処理方法の設定に使用するシステムプロパティが表示されます。

複合オブジェクトテンプレート

統合ハブ を統合したフローで使用できる複合オブジェクトのテンプレートを表示します。複合オブジェクトテンプレートの作成および使用の詳細については、「アクションを作成する」および「オブジェクトデータタイプ」を参照してください。

使用法の概要

インスタンスとサードパーティシステム間のトランザクション数を表示します。使用法の概要 基本システムでは使用できず、ServiceNow® 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。

フロー実行詳細の保持

フロー実行の詳細に使用されるデータ量は膨大であるため、インスタンスではデータ保持ポリシーを使用して、設定された時間が経過するとこのデータを削除します。

フロー実行の詳細の生成

デフォルトでは、テストの実行時にのみ、実行の詳細が生成されます。フロー実行の詳細を生成するには、「フローのレポートの有効化」を参照してください。

スケジュール済みテーブルクリーンアップ

システムは、標準のテーブルクリーナーレコードを使用して、実行の詳細を削除するタイミングを決定します。フロー実行コンテンツのタイプはそれぞれ独自のテーブルに保存され、独自の保存期間があります。レコードがデフォルト保持期間より古くなると、完了ステータスになった場合に削除されます。テーブルクリーナーレコードを検索して構成する方法の詳細については、「テーブルクリーナー」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローレポートデータテーブル

テーブル	説明	デフォルト保存期間
sys_flow_context	すべての フローデザイナー コンテキストレコードとそれに関連するプロセス計画を格納する親テーブル。コンテキストレコードには、ステータスと、フローまたはアクションの実行に使用されるデータへの参照が格納されます。特定の状況のコンテキストレコードについては、子テーブルを参照してください。	• 完了したフローの場合は 2 週間 • エラーまたはキャンセルステータスのフローの場合は 6 週間 **警告:** フローコンテキストレコードの保持期間を無効にしたり長くしたりすると、インスタンスのパフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。保持するフローコンテキストが増えると、フローのパフォーマンスと新しいフロー機能を使用する能力に影響を与える可能性があります。
sys_flow_context_chunk	現在実行中のフローとアクションのコンテキストレコードとランタイムデータを格納する子テーブル。このテーブルは、sys_json_chunk テーブルに代わって、アクティブなコンテキストレコードのデータを格納する場所となります。実行中のフローまたはアクションは、次のいずれかの状況になります。 • 同期を続ける • 処理中 • キューに格納 • 待機中 **危険:** このテーブルのデータを変更または削除しないでください。フローデザイナー は、アクティブ状況のフローとアクションに、このテーブルを使用します。	フローの実行が停止すると、これらのレコードは削除され、sys_flow_context_chunk_archive テーブルにエントリが作成されます。
sys_flow_context_chunk_archive	実行を停止したフローおよびアクションのコンテキストレコードとランタイムデータを格納する子テーブル。このテーブルは、sys_json_chunk テーブ	関連する sys_flow_context レコードが削除されると、削除されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローレポートデータテーブル (続く)

テーブル	説明	デフォルト保存期間
	ルに代わって、非アクティブなコンテキストレコードのデータを格納する場所となります。停止したフローまたはアクションは、次のいずれかの状況になります。 • キャンセル • 完了 • エラー 注: フローデザイナーは、非アクティブ状況のフローとアクションに、このテーブルを使用します。	• 完了したフローの場合は 2 週間 • エラーまたはキャンセルステータスのフローの場合は 6 週間
sys_flow_report_doc	実行の詳細のレポートデータが利用可能である フローデザイナー コンテキストレコードへの参照を格納する親テーブル。特定の状況のフローとアクションの実行の詳細については、子テーブルを参照してください。	sys_flow_context から親コンテキストレコードが削除されると、これらのレコードは削除されます。
sys_flow_report_doc_chunk	現在実行中のフローとアクションのレポートデータと実行の詳細を格納する子テーブル。実行中のフローまたはアクションは、次のいずれかの状況になります。 • 同期を続ける • 処理中 • キューに格納 • 待機中 危険: このテーブルのデータを変更または削除しないでください。フローデザイナー は、アクティブ状況のフローとアクションに、このテーブルを使用します。	フローの実行が停止すると、これらのレコードは削除され、sys_flow_report_doc_chunk_archive テーブルにエントリが作成されます。
sys_flow_report_doc_chunk_archive	実行を停止したフローとアクションのレポートデータと実行の詳細を格納する子テーブル。停止したフローまたはアクションは、次のいずれかの状況になります。	sys_flow_context_chunk_archive から親コンテキストレコードが削除されると、これらのレコードは削除されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローレポートデータテーブル (続く)

テーブル	説明	デフォルト保存期間
	• キャンセル • 完了 • エラー 注: このテーブルは、sys_json_chunk テーブルに代わって、非アクティブな実行の詳細のレポートデータを格納する場所となります。	• 完了したフローの場合は 2 週間 • エラーまたはキャンセルステータスのフローの場合は 6 週間
sys_json_chunk	San Diego リリースの前に作成された、実行前、実行中、および完了済みのフローとアクションのコンパイル済みのプロセス計画が格納されたテーブル。 危険: このテーブルのデータを変更または削除しないでください。フローデザイナー は、アクティブ状況のフローとアクションに、このテーブルを使用します。	親レコードが削除されたときに、これらのレコードは削除されました。
sys_flow_log	ログ [syslog] テーブルから複製されたログエントリを格納するテーブル。ユーザーがログをフローコンテキストに関連付けることができるようにします。	これらのレコードは、テーブルがローテーションされてから 28 日経過後、またはコンテキストレコードが削除された時点のいずれか早い方のタイミングで削除されます。 sys_flow_log のテーブルローテーションは構成可能です。詳細については、「テーブルローテーション」を参照してください。
sys_flow_plan_context_binding	各コンテキストレコードの一意の識別子とそれを開始したトリガーを格納するテーブル。トリガーイベントが発生	これらのレコードは作成から 12 か月後に削除されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

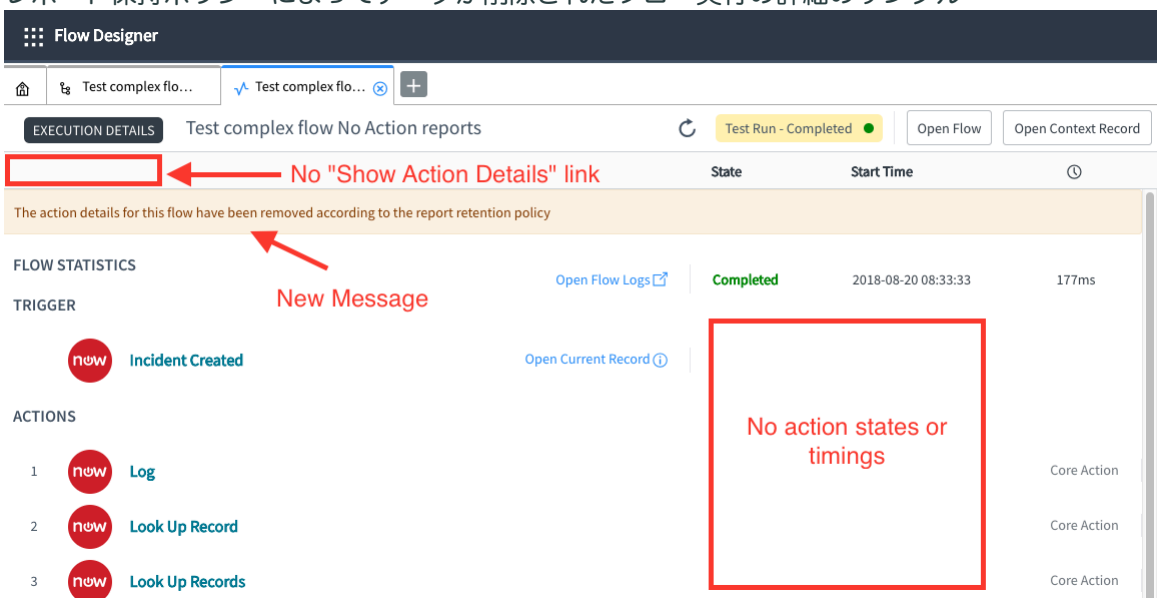
フローレポートデータテーブル (続く)

テーブル	説明	デフォルト保存期間
	するたびに、システムは一意の識別子を計算し、それを sys_flow_plan_context_binding レコードと比較します。計算された一意の識別子が既存の sys_flow_plan_context_binding レコードと一致した場合、トリガーされたフローは開始されません。 **注:** この一意の識別子は、「1 回実行」または「それぞれ一意の変更の場合」の条件でフローをいつ実行するかを決定するために使用されます。	**重要:** システムは、保持ポリシーによって一意の識別子が削除されたフローを再実行できます。たとえば、「1 回実行」フローのトリガー条件が満たされ、sys_flow_plan_context_binding レコードが削除された場合は、新しい一意の識別子が作成され、フローが実行されます。

使用不可のフローデータ

フローレポートの上部に、テーブルのクリーンアップのためにアクションレポートをフローで使用できないことを示すメッセージが表示されます。この場合、[アクションの詳細を表示 **(Show Action Details)]** リンクとアクションの状況は使用できません。フローのレポートが非アクティブ化されたことを示す同様のメッセージが表示されます。この場合、レポート設定へのリンクも表示されます。

レポート保持ポリシーによってデータが削除されたフロー実行の詳細のサンプル



復旧オプション

インスタンスバックアップからデータを復元するには、カスタマーサービスとサポートにお問い合わせください。

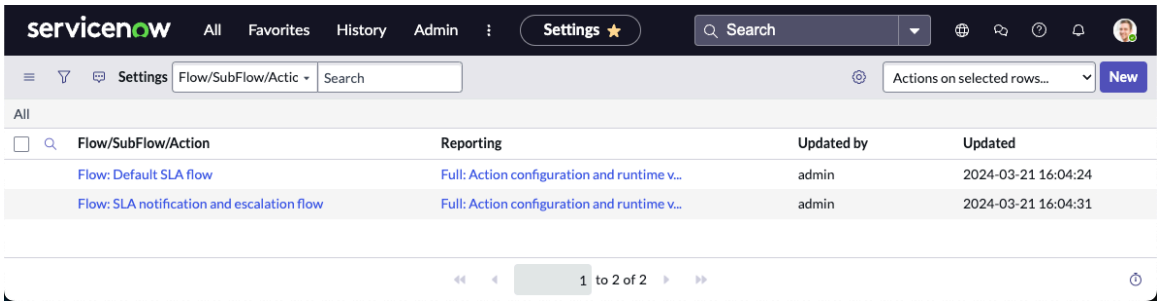
データ復旧要求が受理される期限を確認するには、Now Support ナレッジベースの「インスタンスのバックアップおよび復旧 [KB0547654]」の記事を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フロー実行の設定

実行優先度、レポートレベル、ログ記録レベルなど、個々のフロー、サブフロー、またはアクションの実行時設定を指定します。

実行設定レコードリストの例



実行の詳細を収集する各フロー、サブフロー、またはアクションの実行設定レコードを作成できます。実行設定レコード [sys_flow_execution_setting] は、特定のアイテムのレポートシステムプロパティを上書きします。たとえば、システム全体のレポートレベルをオフに保ち、実行の詳細を収集するアイテムに対してのみ実行設定レコードを作成できます。

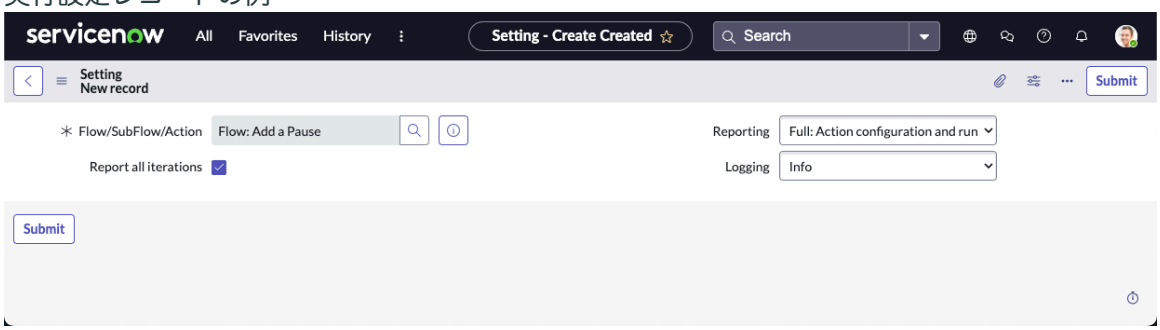
実行設定レコードはいくつでも作成できます。フロー、サブフロー、またはアクションが直接実行されるたびに、実行の詳細が生成されます。親フローから実行されるアクションまたはサブフローは、親フローの実行設定レコードを使用します。

注: アクション API またはスクリプト API を使用して、アクションとサブフローを直接呼び出すことができます。

実行設定レコードは、フロー管理モジュールから利用できます。

実行設定レコードのフィールド

実行設定レコードの例



実行設定レコード [sys_flow_execution_setting] には、次のフィールドが含まれます。

実行設定レコードのフィールド

フィールド	説明
フロー/サブフロー/アクション	実行設定が適用される個々のフロー、サブフロー、またはアクションです。
すべての反復をレポート	最初と最後の反復の実行の詳細を保存するだけでなく、ループのすべての反復の実行の詳細を収集するオプション。
レポート	実行の詳細を収集するレポートレベル。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

実行設定レコードのフィールド (続く)

フィールド	説明
ログ記録	フローエンジンによって生成されたメッセージをフローエンジンのログエントリ [sys_flow_log] テーブルに書き込むために ワークフロースタジオ に必要なログ記録レベルのしきい値。
フロー優先度	バックグラウンドフローの実行に使用される優先度の値。フロー優先度の設定の詳細については、「フロー優先度」を参照してください。 注: このフィールドはデフォルトでは非表示になっています。フロー優先度フィールドの表示の詳細については、「フロー優先度フィールドの表示」を参照してください。 .

一般的なガイドライン

実行設定レコードを作成して実行の詳細をキャプチャするときは、次の一般的なガイドラインを使用します。

本番インスタンスでのレポートを避ける

テストに使用する非本番インスタンスでのみレポートを有効化し構成することで、本番インスタンスでのパフォーマンスの問題を回避します。実行の詳細を生成して保存すると、インスタンスリソースが消費されるため、パフォーマンスが低下する可能性があります。

非本番テストインスタンスで実行設定レコードを作成する

非本番テストインスタンスで実行設定レコードを作成して、実行の詳細の生成と保存によるパフォーマンスへの影響を最小限に抑えます。

フローループによって消費されるメモリ量を削減する

すべての反復をレポートするオプションを使用しないことで、実行の詳細を生成するために消費されるメモリの量を削減します。レポートする反復が多いほど、より多くのメモリが必要になります。

実行の詳細を生成するためのフロー、サブフロー、アクションをテストする

フローとサブフローをテストして、デバッグレベルで実行の詳細を生成します。必要なデータが生成され、想定どおりに機能することを確認した後にのみ、アイテムを本番インスタンスに展開してください。

フローのトラブルシューティング中にのみ、[フローレポート] オプションと [すべての反復をレポート] オプションを使用する

フローのトラブルシューティングが必要な場合にのみ、[フローレポート] オプションと [すべての反復をレポート] オプションを使用します。これらの設定で情報を生成すると、インスタンスのリソースが消費されます。パフォーマンスへの影響を軽減するには、フローのトラブルシューティングが完了したら、これらの設定をオフにするか、設定レコードを完全に削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローのレポートの有効化

実行の詳細の生成を、実行されたすべてのフローとアクションに対して行うか、個々のフローとアクションに対してのみ行うか、またはフローまたはアクションのテスト時にのみ行うかを選択します。実行の詳細に含まれる詳細のレベルを指定します。

個々のフロー、サブフロー、またはアクションのレポートをアクティブ化

個々のフロー、サブフロー、またはアクションの実行の詳細を、テスト中だけでなく実行されるたびに生成します。

始める前に

必要なロール：admin または flow_operator

このタスクについて

重要: 本番インスタンスのパフォーマンスの問題を回避するには、テストに使用する非本番インスタンスのレポートを有効化して設定します。

個々のフロー、サブフロー、またはアクションのレポートを有効にするには、設定 [sys_flow_execution_setting] テーブルにレコードを作成します。各設定レコードは、実行の詳細を生成するフロー、サブフロー、またはアクションと、使用する詳細レベルを指定します。設定レコードは、いくつでも作成できますフロー、サブフロー、またはアクションが直接実行されるたびに、実行の詳細が生成されます。親フローから実行されるアクションまたはサブフローは、親フローの [設定] レコードを使用します。

注: アクション API またはスクリプト API を使用して、アクションとサブフローを直接呼び出すことができます。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フロー管理] > [設定] の順に移動します。
   フローレポートが有効になっている個々のアイテムのリストが表示されます。
2. [フロー/サブフロー/アクション] フィールドで、検索アイコン ( ) を選択して、レポートを有効にするアイテムのタイプを選択します。
   タイプと特定のインスタンスを選択するためのダイアログボックスが表示されます。
3. [テーブル名] フィールドで、アイテムに一致するテーブルを選択します。

オプション	説明
フロー	フローとサブフローのテーブル
アクションタイプ	アクションに使用されるテーブル

4. [ドキュメント] フィールドで、検索アイコン ( ) を選択します。
   一致するタイプのアイテムのリストが表示されます。
5. レポートを有効にする個々のフロー、サブフロー、またはアクションを選択します。
6. **[OK]** を選択してダイアログボックスを閉じます。
7. [レポート] フィールドで、生成するレベルのランタイムデータを選択し、フロー実行の詳細を表示します。

   オフ

   フロー実行の詳細は生成されません。テストの実行時にのみ、実行の詳細が生成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:** アクションまたはフローをテストすると、トレースレベルで実行の詳細が生成されます。

基本：ランタイム状況と期間のみ

フロー、サブフロー、およびアクションが実行されるたびに、ランタイム実行の詳細が生成されます。これらの基本的なアイテムについて、ランタイムステータスと期間を確認できます。また、フロートリガー、サブフロー入力、サブフロー出力について、構成とランタイム値の確認もできます。

完全：アクションの構成とランタイム値 (デバッグのみ)

フロー、サブフロー、アクションが実行されるたびに、構成とランタイム実行の詳細が生成されます。すべてのアイテムについて、ランタイムステータス、期間、入力値、および出力値を確認できます。カスタムアクションの場合は、ステップのランタイムステータス、期間、入力値、および出力値を確認できます。また、フロートリガー、サブフロー、アクション、およびカスタムアクションの一部になっているステップについて、構成値の確認もできます。

> **重要:** fd_read_operations_all ロールを持つユーザーのみが、フロー実行の詳細でレコード値などの構成およびランタイム情報を表示できます。このロールを持たないユーザーには、ステータスと期間に関する基本的な詳細のみが表示されます。

トレース：すべての値 (テストとサポートのみ)

フロー、サブフロー、アクション、およびステップが実行されるたびに、構成とランタイム実行の詳細が生成されます。すべてのアイテムについて、ランタイムステータス、期間、入力値、および出力値を確認できます。また、フロートリガー、サブフロー、アクション、およびステップについて、構成値の確認もできます。

> **重要:** fd_read_operations_all ロールを持つユーザーのみが、フロー実行の詳細でレコード値などの構成およびランタイム情報を表示できます。このロールを持たないユーザーには、ステータスと期間に関する基本的な詳細のみが表示されます。アクションまたはフローをテストすると、トレースレベルで実行の詳細が生成されます。

8. [送信] を選択します。

タスクの結果

フローデザイナー は常に、個々のフロー、サブフロー、またはアクションの実行の詳細を生成します。

すべてのアイテムのレポートをアクティブ化

テスト中にのみ実行の詳細を生成するのではなく、フローデザイナー が実行するすべてのアイテムの実行の詳細を生成します。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

> **重要:** 本番インスタンスのパフォーマンスの問題を回避するには、テストに使用する非本番インスタンスのレポートを有効化して設定します。

デフォルトでは、テストの実行時にのみ、実行の詳細が生成されます。*com.snc.process_flow.reporting.level* システムのプロパティを設定することで、フローデザイナー が実行するすべてのアイテムのレポートを有効にできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フロー管理] > [プロパティ]に移動します。
2. プロパティ [フローエンジンによって生成されたレポートデータのレベル] を設定します。

オフ

フロー実行の詳細は生成されません。テストの実行時にのみ、実行の詳細が生成されます。

注: アクションまたはフローをテストすると、トレースレベルで実行の詳細が生成されます。

基本：ランタイム状況と期間のみ

フロー、サブフロー、およびアクションが実行されるたびに、ランタイム実行の詳細が生成されます。これらの基本的なアイテムについて、ランタイムステータスと期間を確認できます。また、フロートリガー、サブフロー入力、サブフロー出力について、構成とランタイム値の確認もできます。

完全：アクションの構成とランタイム値 (デバッグのみ)

フロー、サブフロー、アクションが実行されるたびに、構成とランタイム実行の詳細が生成されます。すべてのアイテムについて、ランタイムステータス、期間、入力値、および出力値を確認できます。カスタムアクションの場合は、ステップのランタイムステータス、期間、入力値、および出力値を確認できます。また、フロートリガー、サブフロー、アクション、およびカスタムアクションの一部になっているステップについて、構成値の確認もできます。

重要: fd_read_operations_all ロールを持つユーザーのみが、フロー実行の詳細でレコード値などの構成およびランタイム情報を表示できます。このロールを持たないユーザーには、ステータスと期間に関する基本的な詳細のみが表示されます。

トレース：すべての値 (テストとサポートのみ)

フロー、サブフロー、アクション、およびステップが実行されるたびに、構成とランタイム実行の詳細が生成されます。すべてのアイテムについて、ランタイムステータス、期間、入力値、および出力値を確認できます。また、フロートリガー、サブフロー、アクション、およびステップについて、構成値の確認もできます。

重要: fd_read_operations_all ロールを持つユーザーのみが、フロー実行の詳細でレコード値などの構成およびランタイム情報を表示できます。このロールを持たないユーザーには、ステータスと期間に関する基本的な詳細のみが表示されます。アクションまたはフローをテストすると、トレースレベルで実行の詳細が生成されます。

警告: 本番インスタンスでは [完全なレポート (Full reporting)] オプションを有効にしないでください。[完全なレポート (Full reporting)] では、インスタンスで実行されるすべてのフローとアクションの実行の詳細情報が生成されます。このような実行の詳細情報を作成して保存すると、システムメモリが消費され、システムパフォーマンスが低下する可能性があります。代わりに、特定のフローとアクションのレポートのみを有効にするか、非本番インスタンスでテストしてください。

3. [保存] を選択します。

タスクの結果

フローデザイナー は、システムのプロパティで指定したすべてのアイテムの実行の詳細を生成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

FDIH ダッシュボード

単一のダッシュボードを使用して、フローデザイナー および 統合ハブ のトランザクションの使用状況、実行状況、デバッグに関する情報を表示します。関連する フローデザイナー プロパティ、ログ、イベント、エディターへのリンクを開きます。

FDIH ダッシュボードを使用すると、フローデザイナー および 統合ハブ のトランザクションを管理および表示できます。ダッシュボードへのアクセスはロールベースです。

ダッシュボードは 6 つのセクションに分かれています。

FDIH ダッシュボードヘッダー

フローレポートのステータスと、フローログに複製されているログレベルを表示します。リンクを使用して、システムプロパティテーブル、システムログ、送信 HTTP ログ、フローデザイナー のプロパティ、およびフロー設定を開きます。

フローの使用状況

実行されたフローの数とそのステータスをさまざまな期間で表示します。たとえば、過去 14 日間に完了ステータスになったフローの実行を表示できます。フローデザイナー、システムプロパティ、イベントハンドラー、およびフロー設定へのリンクを使用して、フローの実行方法を管理します。

IH の使用状況

先月使用された 統合ハブ のトランザクションと機能を表示します。たとえば、先月使用された上位のスポークを表示できます。

フロー実行

フロー実行のリストを作成日別に表示します。フロー、その実行時間、ステータス、コールソース、および関連するアプリケーションに関する情報を表示します。たとえば、コールソースを基準にフローをフィルタリングし、最近テストされたフローを確認できます。

MID 実行

統合ハブ で実行された MID サーバー のプローブを表示します。エージェント、ソース、トピック、キュー、ステータス、および処理ステータスに関する情報を表示します。たとえば、実行されたプローブをキューのソースでフィルタリングできます。リンクを使用して、ソースおよび利用可能な MID サーバー でソートされた MID サーバーキューを表示します。

Debug

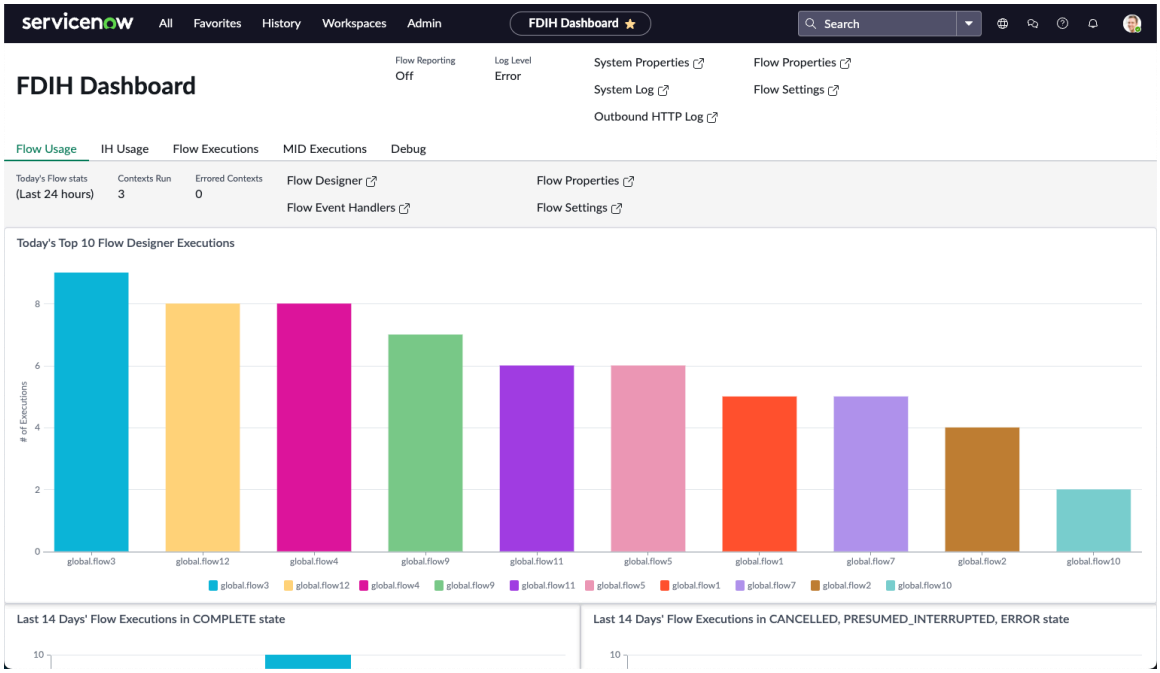
実行を待機している準備完了ステータスのフロージョブのリストを表示します。完了のために手動での介入または再設計が必要なフローを特定します。たとえば、待機中のフローのリストを使用してパフォーマンスの問題を特定します。

レポートの表示、フィルターの設定、またはレポートテーブル内の列のカスタマイズに、特定の順序はありません。

次の例は、ダッシュボードデータがセクション、チャート、フィルター、およびグラフでどのようにまとめられているかを示しています。フィルターを使用すると、チャートやグラフから詳細なデータを表示できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サンプルフローの使用状況を示す **FDIH** ダッシュボード



FDIH ダッシュボードからのインサイトの取得

FDIH ダッシュボードを使用して、フロー実行とパフォーマンス履歴に関するインサイトを取得します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フロー管理] > **[FDIH** ダッシュボード] の順に移動します。
2. レポートを表示するには、[フローの使用状況] セクションを選択します。

   注: レポートの表示、フィルターの設定、またはレポートテーブルの列のカスタマイズに順序はありません。次の 1 つ以上の手順を任意の順序で実行できます。[フローの使用状況] セクションはデフォルトで選択されています。

3. オプション: レポートをドリルダウンして詳細を表示するには、グラフまたはチャートを選択します。
4. オプション: Now Platform のリストコントロールを使用して、リストレポートをフィルタリングします。

   Example

   たとえば、フィルターパラメーターアイコン ( ) を選択し、[この値で絞り込み] を選択して、選択したものと同じ値を持つレコードを表示します。
5. オプション: レポートテーブルの列をカスタマイズするには、次のアクションを実行します。
   a. レポートをドリルダウンします。
   b. 列設定アイコン ( ) をクリックします。
   c. [列を編集] をクリックします。
   d. [利用可能な列] セクションで、列名をクリックします。
   e. 列を含めるには、列を含めるアイコン ( ) をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

f. テーブルから列を除外するには、[選択した列] セクションで列を削除アイコン ( ) をクリックします。

g. レポートテーブルの列の位置を変更するには、[選択した列] セクションで、列をドラッグアイコン ( ) をクリックしてドラッグします。

h. 変更を適用するには、**[OK]** をクリックします。

6. オプション: 列幅をリセットするには、列設定アイコン ( ) をクリックしてから、[幅をリセット] をクリックします。

フロー優先度

実行を待機している他のフローと比較したバックグラウンドフローの優先度を指定します。優先度の低いフローを実行する前に、優先度の高いフローのグループを実行します。

フロー優先度は、バックグラウンドで実行されるフローに対してのみ設定できます。バックグラウンドフローは、次に利用可能なワーカースレッドから実行されます。デフォルトでは、フローデザイナー は利用可能なワーカースレッドの半分までを使用してバックグラウンドフローを実行できます。フローの実行に利用可能なワーカースレッドがない場合、そのフローは、それを実行するために利用可能なワーカースレッドができるまでキューに入れられます。

バックグラウンドフローには次のいずれかの優先度の値を設定できます。

- 高い
- 中
- 低い

デフォルトでは、バックグラウンドフローは中程度の優先度で実行されます。

注: フォアグラウンドで実行されるフローは現在のスレッドで実行されるため、フローの優先度によって実行順序が決定されることはありません。

フローの優先度を設定すると、ワーカースレッドがキューからフローを選択する順序が決まります。ワーカースレッドは、優先度の高いフローをいくつか実行してから、優先度の低いフローを実行します。この優先度スキームによって、キューに優先度の高いフローがあっても、優先度の低いフローがいくつか実行されるようになります。実行する作業キューが大きい場合、優先度の低いフローの大部分は、優先度の高いフローが実行されるまで待機する必要があります。優先度の高いフローが実行された後に、優先度の低いフローが実行可能になります。

フローがキュー内に 1 分以上残っている場合、システムはフローの実行を別のノードに委任します。フローが別のノードに委任されると、その優先度の値は失われます。委任されたノードはフローを時系列順にイベントキューからプルします。委任されたノードは、最初に最も古いフローを実行してから、最新のフローを実行します。一般に、別のノードからのフロー実行の委任は、ノードで利用可能なすべてのワーカースレッドがビジー状態の場合にのみ行われます。

注: ワーカースレッドは、フローイベントだけでなく、すべてのシステムイベントを実行します。

フローが何らかの理由で一時停止した場合にも、そのフローの優先度の値は失われます。一時停止から再開されるフローは、デフォルトの [中程度] の優先度で実行されます。たとえば、フローを高い優先度で開始してから、[期間が終わるまで待機 (Wait for a Duration)] の条件で一時停止することができます。フローの実行が再開されると、[中程度] の優先度で実行されます。

優先度の低いフローの自動一時停止

デフォルトでは、優先度の高いフローが、実行中の優先度の低いフローによってブロックされているかどうかがチェックされます。優先度の低いフローが 2 分以上実行されると、システムは過去 5 分間

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

に優先度の高いフローが実行されたかどうかをチェックします。優先度の高いフローがしばらく実行されていない場合、システムはイベントキューで実行を待機しているフローの数をチェックします。イベントキューで実行を待機している優先度の高いフローが 100 個以上バックログにあると、システムは実行中の優先度の低いフローを一時停止します。フローを一時停止すると、そのコンテキストとデータが保持されます。一時停止したフローはイベントキューに戻り、処理できるワーカーがあるときに実行されます。

優先度の低いフローが期待どおりに実行されていない場合は、システムが生成して実行する優先度の高いフローの数を確認してください。フローの優先度を設定するタイミングについては、「デザインの検討」を参照してください。優先度の低いフローがまだ実行されていない場合は、システムプロパティを使用して優先度の低いフローの一時停止を無効にできます。com.glide.hub.pause_low_priority_flows_enabled プロパティの値を変更するには、「ワークフロースタジオ フローシステムプロパティ」を参照してください。

クイック API のサポート

クイック API メソッドでは、優先度設が保持されます。クイック API メソッドによって実行されるフローは、フローに対して以前に定義されたものと同じ優先度で実行されます。

デザインの検討

フロー優先度を設定するときは、デザインに関する次の検討事項に従ってください。

すべてのフローを高い優先度で実行するように設定しない

: すべてのフローの優先度を高く設定するのではなく、複数の優先度を組み合わせて設定します。ワーカースレッドは、フロー間の相対的な優先度で作業を選択します。すべてのフローが高い優先度で実行されている場合、待機すべき優先度の低いフローはありません。

一時停止する必要があるフローにはフロー優先度を設定しない

: 一時停止する必要のあるフローは、デフォルトである中程度の優先度のままにしておきます。フローの実行を再開すると、その優先度の値が失われるためです。

ビジネスクリティカルなフローには高い優先度を使用する

: 優先度の高いフローは、ビジネス価値が高く、実行頻度が低く、実行時間が短いフローに限定します。他のフローを実行できるワーカースレッドの数が制限されるため、大量のフローを高い優先度に設定しないでください。高優先度のフローを長時間実行すると、他のフローの実行に使用可能なワーカースレッドが減る可能性もあります。

ボリュームの大きなフローには低い優先度を使用する

: 他の時間的制約のあるフローが最初に実行されるように、ボリュームの大きなフローは低い優先度で実行します。優先度の低いフローには時間的制約がないようにしてください。

時間的制約のあるフローには中程度の優先度を使用する

: 他のフローと比較して時間的な制約が高いフローには、デフォルトのフロー優先度を使用します。

フロー優先度フィールドの表示

設定リストとフォームを構成して、[フロー優先度] フィールドを表示します。

始める前に

必要なロール：admin または personalize_form および personalize_list

このタスクについて

[フロー優先度] フィールドはデフォルトでは非表示になっています。フィールドを表示するための [設定] テーブルリストとフォームレイアウトを構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フロー管理] > [設定] の順に移動します。
   設定レコードのリストが表示されます。
2. リストをカスタマイズアイコンを選択します。
   [リストの列をカスタマイズ] ダイアログが表示されます。
3. [利用可能] 列で [フロー優先度] フィールドを選択し、[選択済み] 列の表示させたい順序のところに追加します。
4. **[OK]** を選択します。
   [フロー優先度] フィールドがリストに表示されます。
5. 設定レコードのリストで、[新規] を選択します。
   新しい設定レコードが表示されます。
6. [他のアクション] メニューから、[構成] > [フォームレイアウト]を選択します。
   [設定の構成 (Configuring Setting)] フォームダイアログが表示されます。
7. [利用可能] 列で [フロー優先度] フィールドを選択し、[選択済み] 列の表示させたい順序のところに追加します。
8. [保存] を選択します。
   [フロー優先度] フィールドがフォームに表示されます。

次のタスク

リストまたはフォームから [フロー優先度] を設定します。

フロー優先度の設定

ワーカースレッドがバックグラウンドフローを実行する順序を決定します。フロー優先度の組み合わせを使用して、保留するフローと最初に実行するフローを区別します。

始める前に

- 必要なロール：flow_designer または admin
- フロー優先度フィールドの表示

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [フロー] データピルフィルターを選択します。
3. 優先度を設定するフローを開きます。
4. [フローを編集する] を選択します。
5. [その他のアクション] メニューから [プロパティ] を選択します。
6. [フロープロパティ] ウィンドウで、[詳細オプション] を展開します。
7. [フロー優先度のデフォルト] から、フローに必要な優先度の値を選択します。

   バックグラウンドフローには次のいずれかの優先度の値を設定できます。

   - 高い
   - 中
   - 低い

   デフォルトでは、バックグラウンドフローは中程度の優先度で実行されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: フォアグラウンドで実行されるフローは、バックグラウンドフローよりも高い優先度で実行されます。

8. [更新] を選択します。

タスクの結果
フローは、一時停止したり、別のノードに実行を委任されたりしない限り、指定した優先度で実行されます。

次のタスク
FDIH ダッシュボードを使用してフロー実行を確認し、フローが期待どおりに実行されていることを確認します。

アクションの関連フローの参照

カスタムアクションを含むフローのリストを表示します。アクションに対する変更が公開済みフローとドラフトのフローに与える影響を判断します。

始める前に
必要なロール：admin または flow_designer

このタスクについて
アクションの変更が公開中のフローとドラフトのフローに及ぼす影響を判断します。当該のアクションを含むフローのリストを表示し、関連するフローの変更が自分の行う変更に必要かどうかを判断します。たとえば、アクションが使用する入力を変更した場合は、新しい入力または変更された入力を使用するように誰かが関連フローを再構成する必要があります。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。

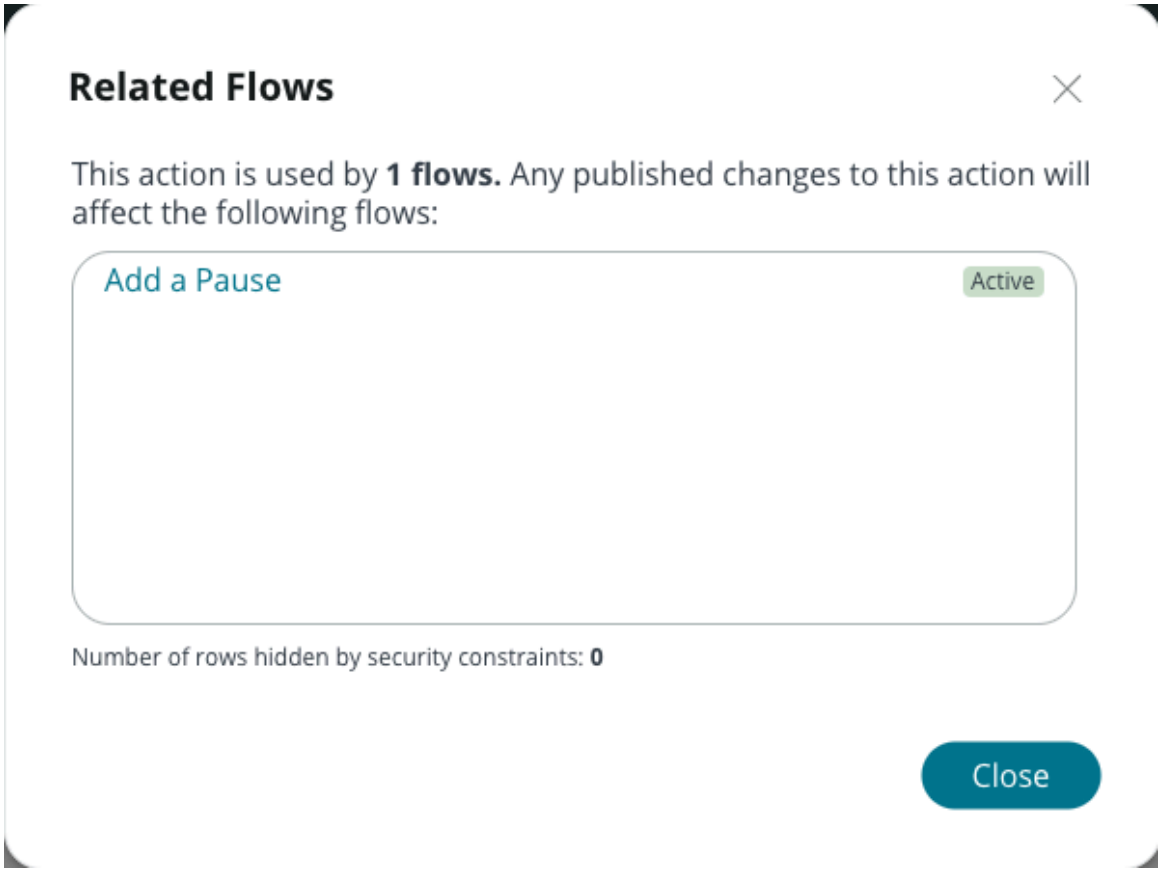
2. [アクション] を選択します。

3. 関連フローを表示するアクションを選択します。
アクションデザイナー 環境にアクションが表示されます。

4. [その他のアクション] メニューから [関連フローを表示] を選択します。

[関連フロー] ダイアログが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[関連フロー] ダイアログには、アクションを使用するフローに関する情報が表示されます。

- アクションを使用するフローの数
- 関連フローそれぞれの名前
- 関連フローそれぞれのアクティブ化のステータス
- セキュリティ上の制約により非表示になっている、アクションを使用するフローの数

次のタスク
計画どおりにアクションを変更するために関連フローの更新が必要かどうかを判断します。アクションを公開すると、そのアクションを使用する関連フローのリストも表示されます。

ワークフロースタジオ フローへのユーザーアクセス

アドミニストレーターは、委託開発権限をアサインするかユーザーロールを直接アサインして、ユーザーにワークフロースタジオフローに対するアクセス権を付与できます。また、アドミニストレーターは、ユーザーのロールに基づいて、ユーザーがアクセスできる機能とコンテンツを指定することもできます。アプリケーション開発者は、フロー、サブフロー、アクションの API を介して ワークフロースタジオ の機能にアクセスできます。

ユーザーロール別のアクセス

アドミニストレーターは、ユーザーにフロー実行の詳細を表示するロールが含まれる flow_designer ユーザーロールを直接アサインすることによってワークフロースタジオフローへのアクセス権限を付与できます。

⚠ **警告:** ワークフロースタジオ はすべてのテーブルおよびすべてのデータベース操作にアクセスできるシステムユーザーとしてフローを実行できるため、ユーザーに直接 flow_designer ロールの権限を許可することは、ユーザーに admin ロールを与えることと同じです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アドミニストレーターは、1 つ以上の ワークフロースタジオ ロールをユーザーに付与して、そのユーザーがフローとサブフローの作成、フロー実行の詳細の確認、アクションの作成を行えるようにすることもできます。

ワークフロースタジオ ロール

ロールタイトル [名前]	説明	ロールを含む
flow_designer	ユーザーが ワークフロースタジオフローの設計環境を起動してフローおよびサブフローを作成および編集できるようにします。	flow_operator、trigger_designer
flow_designer_scripting	flow_designer または action_designer ロールを持つユーザーがインラインスクリプトを記述して入力値を設定および変更できるようにします。詳細については、「インラインスクリプト」を参照してください。	なし
flow_operator	ユーザーがフロー実行の詳細、ダッシュボード、およびログを表示できるようにします。アドミニストレーターは、フロー結果を表示する必要はあるがフローの作成、変更、テストは行わないユーザーに対して、このロールを付与できます。	なし
flow_report_viewer	ユーザーがワークフロースタジオフローテーブルのレポートを表示できるようにします。関連するフローレポートテーブルのリストについては、「フロー実行詳細の保持」を参照してください。	なし
trigger_designer	ワークフロースタジオを起動し、保存済みトリガーを作成、編集、および削除できるようにします。	なし
action_designer	ワークフロースタジオのアクション設計環境を起動してアクションを作成および編集できるようにします。	なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロースタジオ ロール (続く)

ロールタイトル [名前]	説明	ロールを含む
action_category_creator	action_designer ロールを持つユーザーがアクションおよびサブフローのアクションカテゴリを作成できるようにします。	なし
fd_read	ワークフロースタジオフローおよびアクションの設計環境を起動して、フロー、サブフロー、およびアクションの構成と実行の詳細を表示できるようにします。 **注:** 読み取り専用ロールは、flow_designer や action_designer など、書き込みアクセス権を提供するロールと互換性がありません。同じユーザーに読み取り専用アクセスロールと書き込みアクセスロールの両方を付与することは避けてください。	fd_read_flows、fd_read_actions、fd_read_operations
fd_read_flow	ワークフロースタジオのフロー設計環境を起動して、フローおよびサブフローの構成と実行の詳細を表示できるようにします。	fd_read_operation

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロースタジオ ロール (続く)

ロールタイトル [名前]	説明	ロールを含む
	注: 読み取り専用ロールは、flow_designer や action_designer など、書き込みアクセス権を提供するロールと互換性がありません。同じユーザーに読み取り専用アクセスロールと書き込みアクセスロールの両方を付与することは避けてください。	
fd_read_action	ワークフロースタジオアクションの設計環境を起動して、アクションの構成を表示できるようにします。 **注:** 読み取り専用ロールは、flow_designer や action_designer など、書き込みアクセス権を提供するロールと互換性がありません。同じユーザーに読み取り専用アクセスロールと書き込みアクセスロールの両方を付与することは避けてください。	なし
fd_read_operation	ユーザーが基本フローおよびアクションの実行の詳細を表示できるようにします。レポートが有効になっている場合、ランタイムステータスや期間などの基本的な実行の詳細のみを表示できます。レポートレベルで追加の詳細が生成された場合、それらを表示できません。アドミニストレー	なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロースタジオ ロール (続く)

ロールタイトル [名前]	説明	ロールを含む
	ターは、基本的な実行の結果を表示する必要はあるがフローおよびアクションの作成、変更、テストは行わないユーザーに対して、このロールを付与できます。 注: 読み取り専用ロールは、flow_designer や action_designer など、書き込みアクセス権を提供するロールと互換性がありません。同じユーザーに読み取り専用アクセスロールと書き込みアクセスロールの両方を付与することは避けてください。	
fd_read_operations_all	ユーザーが生成されたすべてのフローおよびアクションの実行の詳細を表示できるようにします。レポートが有効になっている場合、利用可能なすべての実行の詳細を表示できます。レポートレベルのシステムプロパティで定義されている詳細のみを表示できます。アドミニストレーターは、すべてのフローの結果を表示する必要はあるがフローおよびアクションの作成、変更、テストは行わないユーザーに対して、このロールを付与できます。	fd_read_operation

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロースタジオ ロール (続く)

ロールタイトル [名前]	説明	ロールを含む
	注: 読み取り専用ロールは、flow_designer や action_designer など、書き込みアクセス権を提供するロールと互換性がありません。同じユーザーに読み取り専用アクセスロールと書き込みアクセスロールの両方を付与することは避けてください。	

注: 一部のアプリケーションには、関連するフローまたはフローコンテキストを表示するための UI アクションが用意されています。このような UI アクションを表示するには、アプリケーション固有のユーザーロールが必要です。たとえば、要求アイテムレコードから利用可能なフローコンテキスト UI アクションを表示するには、*itil* または同等のユーザーロールが必要です。

API アクセス

の機能にアクセスできます。ワークフロースタジオフロー作成者は、個々のフロー、サブフロー、およびアクションを設計中にクライアント呼び出し可能にすることができます。 詳細については、「ワークフロースタジオ フローへの API アクセス」を参照してください。

委託開発アクセス

アドミニストレーターは、アプリケーションを作成し、フローデザイナー 委託開発 権限を持つ開発者としてユーザーをアサインすることにより、ユーザーにワークフロースタジオフローへのアクセス権限を付与できます。委託開発では、アドミニストレーターは、フローデザイナーが通常はアドミンに限定された機能 (ユーザーロールの割り当て、アクセス制御の作成、スクリプトの作成など) にアクセスできるかどうかを制御できます。詳細については、「 開発者権限 」を参照してください。

ロールベースのコンテンツのフィルタリング

ワークフロースタジオ フローコンテンツにアクセスするために必要なユーザーロールを指定します。たとえば、フロー、フロートリガー、アクション、サブフローなどです。コンテンツ定義とコンテンツフィルタリングルールを作成して、コンテンツのフィルタリングを管理します。詳細については、「ワークフロースタジオ フローのコンテンツフィルタリング」を参照してください。

注: フローを作成して編集するには、ユーザーに flow_designer ロールが必要です。ユーザーが特定の機能またはコンテンツにアクセスするために必要な追加のロールを指定できます。

ロールベースの機能アクセス

ワークフロースタジオ フローの UI 要素にアクセスするために必要な追加のユーザーロールを指定します。たとえば、フローを保存、テスト、またはアクティブ化するボタンや、コードスニペットをコ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ピーするオプションにアクセスするためのロールを指定します。機能アクセスリストから機能アクセスを直接管理します。詳細については、「ワークフロースタジオ フロー機能へのアクセス管理」を参照してください。

> **注:** フローを作成して編集するには、ユーザーに flow_designer ロールが必要です。ユーザーが特定の機能またはコンテンツにアクセスするために必要な追加のロールを指定できます。

ワークフロースタジオ フロー機能へのアクセス管理

個々のワークフロースタジオフロー機能へのアクセスをユーザーロールごとに制限します。フローのコピーなど、個別の機能にアクセスするためにユーザーに要求される追加のロールを指定します。

始める前に

機能アクセスに使用するカスタムロールを作成します。機能にアクセスするために必要なロールを指定するときは、既存のロールのリストからロールを選択できます。

必要なロール：admin

このタスクについて

機能は フローデザイナー UI の要素です。機能フィルタリングをオフにすると、flow_designer ロールを持つユーザーは、フローデザイナー のすべての機能にアクセスできます。機能フィルタリングがオンの場合、ユーザーが個々の機能にアクセスするために必要なロールを指定できます。

> **注:** フローを作成して編集するには、ユーザーに flow_designer ロールが必要です。ユーザーが特定の機能またはコンテンツにアクセスするために必要な追加のロールを指定できます。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フロー管理] > [機能アクセスリスト]に移動します。
2. リストの各機能について、機能の横にある編集アイコン ( ) をクリックします。
3. 機能にアクセスするために必要な 1 つまたは複数のロールを入力します。

> **注:** 機能アクセスリストの各機能に flow_designer ロールを追加します。ユーザーが フローデザイナー 機能にアクセスするには、flow_designer ロールを持つ必要があります。

これらのオプションを使用して、フローデザイナー アクション作成機能へのアクセスを制限できます。

アクションオーサリング機能

機能	説明
コピーアクション	アクションをコピーして新しい名前を付け、別のアプリケーションスコープに移動します。詳細については、「アクションのコピー」を参照してください。
エラー評価	アクションを有効化してステップの失敗を検出し、実行を継続します。特定のエラー状態が発生するタイミングを特定して、独自のアクションステータスコード、ステータスメッセージ、エラー状態を返します。詳細については、「エラーの評価」を参照してください。
自然言語タイトルの管理	スタイル付きテキストおよび動的テキストを追加して、アクションのデフォルトタイトルを変更します。詳細については、「自然言語タイトルの管理」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

機能	説明
セキュリティを管理します。	フローデザイナー アクションへのアクセスの管理。
実行	現在のステータス、アクション、またはステップの実行、および生成された値など、設計環境からアクションに関するランタイム情報を表示します。詳細については、「実行」を参照してください。
保存	アクションを保存します。
公開	アクションを公開して、他のユーザーがそのアクションを使用できるようにします。
構成管理	フローデザイナー の構成を管理します。
「ステップが失敗した場合... (If step fails...)」ステップオプション	次のステップの実行を続行するか、エラーの評価に進みます。詳細については、「「ステップが失敗した場合... (If step fails...)」ステップオプション」を参照してください。
コードスニペット	アクションを呼び出すコードスニペットを生成します。詳細については、「コードスニペット」を参照してください。
テスト	他のユーザーに公開する前に、アクションをテストします。詳細については、「アクションのテスト」を参照してください。
プロパティ	フローの処理方法を設定します。詳細については、「プロパティ」を参照してください。
接続を設定	接続ダッシュボードを介して接続を構成します。詳細については、「接続の設定」を参照してください。

これらのオプションを使用して、 フローデザイナー フローオーサリング機能へのアクセスを制限できます。

フローオーサリング機能

機能	説明
自然言語タイトルの管理	スタイル付きテキストおよび動的テキストを追加して、フローのデフォルトタイトルを変更します。詳細については、「自然言語タイトルの管理」を参照してください。
フローカタログ変数を管理	特定の サービスカタログトリガーフローでのみ利用可能な サービスカタログ変数を作成します。フロー固有の変数は、フロー内のカタログタスクおよびアクションで使用できます。詳細については、「フローカタログ変数を管理」を参照してください。
プロパティ	フローの処理方法を設定します。詳細については、「プロパティ」を参照してください。
コピーフロー	フローをコピーして新しい名前を付け、別のアプリケーションスコープに移動します。詳細に

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

機能	説明
	ついては、「フローのコピー」を参照してください。
テスト	他のユーザーに公開する前に、フローをテストします。詳細については、「フローをテストする」を参照してください。
接続を設定	接続ダッシュボードを介して接続を構成します。詳細については、「接続の設定」を参照してください。
アクティブ化	フローをアクティブ化して、他のユーザーが利用できるようにします。詳細については、「アクティブ化」を参照してください。
非アクティブ化	フローを無効にして、他のユーザーが利用できないようにします。
構成管理	フローデザイナー の構成を管理します。
コードスニペット	フローを呼び出すコードスニペットを生成します。詳細については、「コードスニペット」を参照してください。
実行	現在のステータス、アクション、またはステップの実行、および生成されたデータピル値など、設計環境からフローに関するランタイム情報を表示します。詳細については、「実行」を参照してください。
フローエラーハンドラー	エラーを検出するフローを有効にします。一連のアクションとサブフローを実行して、問題を特定して修正します。詳細については、「フローエラーハンドラー」を参照してください。
セキュリティを管理します。	フローデザイナー アクションへのアクセスの管理。
ステージ	ステージをいつユーザーに表示するかを設定し、ステージ ステータスのラベルを定義し、フローデザイナーの中でフローにステージを追加します。詳細については、「ステージ」を参照してください。
ダイアグラムビュー	フローを作成して図として表示します。フローがたどることができるパスと要素間の接続を確認できます。詳細については、「図作成ビュー」を参照してください。

これらのオプションを使用して、フローデザイナー サブフロー作成機能へのアクセスを制限できます。

サブフローオーサリング機能

機能	説明
フローカタログ変数を管理	特定の サービスカタログトリガーフローでのみ利用可能な サービスカタログ変数を作成します。フロー固有の変数は、フロー内のカタログタスクおよびアクションで使用できます。詳細

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

機能	説明
	については、「フローカタログ変数を管理」を参照してください。
コードスニペット	サブフローを呼び出すコードスニペットを生成します。詳細については、「コードスニペット」を参照してください。
保存	サブフローを保存します。
セキュリティを管理します。	サブフローへのアクセスを管理します。
プロパティ	サブフローの処理方法を設定します。詳細については、「プロパティ」を参照してください。
自然言語タイトルの管理	スタイル付きテキストおよび動的テキストを追加して、サブフローのデフォルトタイトルを変更します。詳細については、「自然言語タイトルの管理」を参照してください。
接続を設定	接続ダッシュボードを介して接続を構成します。詳細については、「接続の設定」を参照してください。
サブフローのコピー	サブフローをコピーして新しい名前を付け、別のアプリケーションスコープに移動します。詳細については、「サブフローのコピー」を参照してください。
テスト	他のユーザーに公開する前に、サブフローをテストします。詳細については、「サブフローをテストする」を参照してください。
公開	サブフローを公開して、他のユーザーがサブフローを使用できるようにします。詳細については、「テスト」を参照してください。
構成管理	フローデザイナー の構成を管理します。詳細については、「接続の設定」を参照してください。

これらのオプションを使用して、フローデザイナー フローテンプレートオーサリング機能へのアクセスを制限できます。

フローテンプレートオーサリング機能

機能	説明
保存	フローテンプレートを保存します。
プロパティ	フローテンプレートの処理方法を設定します。詳細については、「プロパティ」を参照してください。
非アクティブ化	フローテンプレートを無効にして、他のユーザーが利用できないようにします。
フローカタログ変数を管理	特定の サービスカタログトリガーフローでのみ利用可能な サービスカタログ変数を作成します。詳細については、「フローカタログ変数を管理」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

機能	説明
アクティブ化	フローテンプレートを有効にします。

4. リスト内の各機能へのロールの追加を続行します。
5. [**OK**] をクリックします。
6. ユーザーに対して機能アクセスを有効にするには、[機能アクセスフィルタリングを有効にしますか？] オプションをオンします。
   機能アクセスを有効にした後、ユーザーが機能にアクセスするには、必要なロールを持っている必要があります。ユーザーが機能にアクセスするために必要なロールを持っていない場合は、その機能を使用できません。

次のタスク
機能にアクセスするために必要なロールをユーザーに割り当てます。

ワークフロースタジオ フローのコンテンツフィルタリング

ユーザーのロールに基づいて、ユーザーがアクセスできるコンテンツを指定します。

不要または機密性の高いコンテンツは非表示にして、特定のユーザーに関連するコンテンツのみを表示します。アクセスを制御するワークフロースタジオフローコンテンツと、ユーザーがそのコンテンツにアクセスするために必要なロールを指定します。たとえば、ヒューマンリソース (HR) で hr_manager ロールを持つユーザーがフローを作成している場合は、人事ケースに関連する一連のアクションとサブフローのみを表示します。

コンテンツのフィルタリングでは、以下を使用します。

- コンテンツのタイプを指定する「コンテンツ定義」
- コンテンツにアクセスできるユーザーを決定する「コンテンツフィルタリングルール」

フローデザイナー には、いくつかのデフォルト定義とフィルタリングルールが含まれています。既存のルールを変更するか、独自のルールを作成して、コンテンツフィルタリングを設定します。

コンテンツ定義

コンテンツ定義は、ワークフロースタジオ フローリソースのタイプを指定します。リソースは、トリガー、アクション、サブフローなど、ワークフロースタジオ フローの主要コンポーネントです。リソース全体を含める定義を作成するか、条件で定義を絞り込みます。たとえば、すべてのフロートリガーを含む定義を作成したり、条件を使用してカテゴリが日付のトリガーのみを含めたりすることができます。

タグ付けにより、コンテンツ定義をさらに絞り込むことができます。リソースリストのアイテムにタグを追加し、そのタグを持つリソースのみを含むようにコンテンツ定義を設計します。

コンテンツフィルタリングルール

コンテンツフィルタリングルールは、ユーザーが特定の定義のコンテンツにアクセスするために必要なロールを指定します。各ルールでは、単一のユーザーロールを単一のコンテンツ定義に関連付けます。ユーザーが ワークフロースタジオ フローにアクセスするときに、ユーザーのロールに基づいてユーザーがアクセスできるコンテンツがコンテンツフィルタリングルールによって決定されます。

機能アクセス

ワークフロースタジオ フロー機能へのアクセスをフィルターすることもできます。機能は、UI 要素とセクションです。要素とセクションの両方へのアクセスは、コンテンツ定義とフィルタリングルールを設定することで管理できます。ただし、UI 要素へのアクセスは、簡略化された UI を使用して管

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

理することもできます。詳細については、「ワークフロースタジオ フロー機能へのアクセス管理」を参照してください。

読み取り専用フロー

ユーザーは、通常はアクセスできないコンテンツを含むフロー、サブフロー、またはアクションを表示できる場合があります。たとえば、ユーザーに表示されるフローに、ユーザーが通常は表示できないアクションが含まれている場合があります。制限されたコンテンツがフローに含まれている場合、フロー全体が読み取り専用になります。ユーザーはフローを実行できますが、変更またはコピーすることはできません。

読み取り専用フローの作成は、機能フィルタリングには適用されません。ユーザーが機能へのアクセス権を持っていない場合、その機能はそのユーザーに対して表示されません。これは、フローをコピーまたは変更する機能には影響しません。ユーザーが変換関数へのアクセス権を持たず、既に変換関数が適用されているフローを使用している場合、変換関数は読み取り専用になります。残りのフローは引き続きコピーして変更できます。

アクセスサマリー

フィルタリング対象のリソース	ユーザーにロールがある場合	ユーザーにロールがない場合
フロー	• フローは表示され設計時に選択できます。 • フローをコピーできます。 • フローを変更できます。	• フローは非表示になり、設計時に選択できません。たとえば、プロセスオートメーションデザイナー アクティビティ定義の作成時にはフローは非表示になります。 • フローはコピーできません。 • フローは読み取り専用です。
フロー実行の詳細	フロー実行の詳細が表示されます。	フロー実行の詳細は非表示になります。
トリガー	• トリガーは表示され設計時に選択できます。 • トリガーを含むすべてのフローをコピーできます。 • トリガーを含むすべてのフローを変更できます。	• トリガーは非表示になり、設計時に選択できません。 • トリガーを含むすべてのフローはコピーできません。 • トリガーを含むすべてのフローは読み取り専用です。
サブフロー	• サブフローは表示され設計時に選択できます。 • サブフローを呼び出すすべてのフローをコピーできます。 • サブフローを呼び出すすべてのフローを変更できます。	• サブフローは非表示になり、設計時に選択できません。 • サブフローを呼び出すすべてのフローはコピーできません。 • サブフローを呼び出すすべてのフローは読み取り専用です。
サブフロー実行の詳細	サブフロー実行の詳細が表示されます。	サブフロー実行の詳細は非表示になります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィルタリング対象のリソース	ユーザーにロールがある場合	ユーザーにロールがない場合
フローロジック	• フローロジックは表示され設計時に選択できます。 • フローロジックを含むすべてのフローをコピーできます。 • フローロジックを含むすべてのフローを変更できます。	• フローロジックは非表示になり、設計時に選択できません。 • フローロジックを含むすべてのフローはコピーできません。 • フローロジックを含むすべてのフローは読み取り専用です。
アクション	• アクションは表示され設計時に選択できます。 • アクションを含むすべてのフローをコピーできます。 • アクションを含むすべてのフローを変更できます。	• アクションは非表示になり、設計時に選択できません。 • アクションを含むすべてのフローはコピーできません。 • アクションを含むすべてのフローは読み取り専用です。
アクション実行の詳細	アクション実行の詳細が表示されます。	アクション実行の詳細は非表示になります。
ステップ	• ステップは表示され設計時に選択できます。 • アクションを含むすべてのアクションをコピーできます。 • ステップを含むすべてのアクションを変更できます。	• ステップは非表示になり、設計時に選択できません。 • ステップを含むすべてのアクションはコピーできません。 • ステップを含むすべてのアクションは読み取り専用です。
変換関数を除く UI 要素とセクション	• UI 要素またはセクションは表示され、設計時に使用できます。 • UI 要素またはセクションを含むすべてのフロー、サブフロー、またはアクションをコピーできます。 • UI 要素またはセクションを含むすべてのフロー、サブフロー、またはアクションを変更できます。	• UI 要素またはセクションは非表示になり、設計時に使用できません。 • UI 要素またはセクションを含むすべてのフロー、サブフロー、またはアクションをコピーできます。 • UI 要素またはセクションを含むすべてのフロー、サブフロー、またはアクションを変更できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィルタリング対象のリソース	ユーザーにロールがある場合	ユーザーにロールがない場合
変換関数	• 変換関数は表示され設計時に使用できます。 • 変換関数を含むすべてのフロー、サブフロー、またはアクションをコピーできます。 • 変換関数を含むすべてのフロー、サブフロー、またはアクションを変更できます。	• 変換関数は非表示になり、設計時に使用できません。 • 変換関数を含むすべてのフロー、サブフロー、またはアクションをコピーできます。変換関数は読み取り専用です。 • 変換関数を含むすべてのフロー、サブフロー、またはアクションを変更できます。変換関数は読み取り専用です。

コンテンツフィルタリング定義の構成

コンテンツ定義を作成して、ユーザーがアクセスできるコンテンツを指定します。

始める前に

コンテンツのフィルタリングには、ユーザーロールと ワークフロースタジオ のテーブルとレコードに精通している必要があります。

必要なロール：flow_designer、action_designer、 または admin

このタスクについて

ユーザーロールに基づいてワークフロースタジオフローコンテンツをフィルターします。コンテンツをフィルタリングするには、次を設定する必要があります。

1. フィルタリングするコンテンツを説明するコンテンツ定義。コンテンツ定義では、アクションやサブフローなどのワークフロースタジオフローリソースのタイプを指定します。
2. ユーザーが特定の定義のリソースにアクセスするために必要なロールを指定しするコンテンツフィルタリングルール。

フローデザイナー には、いくつかのデフォルト定義とフィルタリングルールが含まれています。既存の定義とルールを変更するか、独自に作成して、コンテンツフィルタリングの使用を開始します。

手順

1. コンテンツ定義を変更または作成するには、[プロセス自動化] > [フロー管理 **(Flow Administration)]** > [コンテンツ定義 **(Content Definitions)]** に移動します。
2. 変更する定義を選択するか、[新規] をクリックして定義を作成します。
3. フォームのフィールドに入力します。

フローデザイナー リソースフォーム

フィールド	説明
名前	コンテンツ定義の名前。
アプリケーション	コンテンツ定義が適用されるアプリケーションスコープ。このフィールドには、現在選択されているアプリケーションスコープが自動的に設定されます。アプリケーションスコープが選択されていない場合、フィールドは [グローバル] に設定されます。特定のアプリケーションスコープを設定した場合、コンテンツ定義はそのアプリケーションスコープにのみ適用されます。グローバルアプリケーションスコープを選択した場合、コンテンツ定義はすべてのアプリケーションに適用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
テーブル	定義しているリソースタイプを含むテーブル。たとえば、フロー [sys_hub_flow] テーブルには、インスタンスで利用可能なすべてのフローとサブフローが含まれます。
条件	テーブルでレコードをフィルタリングするために使用される条件。たとえば、**[Flow Type] [is] [SubFlow]** がフローテーブルからサブフローのみを返す条件を作成します。
リソースタグ	テーブル内のリソースをフィルタリングするために使用されるタグ。

4. [送信] をクリックします。

コンテンツフィルタリングルールの構成

コンテンツフィルタリングルールを使用して、ユーザーがコンテンツにアクセスするために必要なロールを指定します。

始める前に

必要なロール：flow_designer、action_designer、 または admin

コンテンツのフィルタリングには、ユーザーロールと ワークフロースタジオ のテーブルとレコードに精通している必要があります。

必要なロール：flow_designer、action_designer、 または admin

このタスクについて

ユーザーロールに基づいてワークフロースタジオフローコンテンツをフィルターします。コンテンツをフィルタリングするには、次を設定する必要があります。

1. フィルタリングするコンテンツを説明するコンテンツ定義。コンテンツ定義では、アクションやサブフローなどのワークフロースタジオフローリソースのタイプを指定します。
2. ユーザーが特定の定義のリソースにアクセスするために必要なロールを指定しするコンテンツフィルタリングルール。

フローデザイナー には、いくつかのデフォルト定義とフィルタリングルールが含まれています。既存の定義とルールを変更するか、独自に作成して、コンテンツフィルタリングの使用を開始します。

手順

1. コンテンツフィルタリングルールを変更または作成するには、[プロセス自動化] > [フロー管理 **(Flow Administration)]** > [コンテンツフィルタリングルール **(Content Filtering Rules)]** に移動します。
2. 変更するルールを選択するか、[新規] をクリックしてルールを作成します。
3. フォームのフィールドに入力します。

フローデザイナー リソースフィルタールールフォーム

フィールド	説明
名前	コンテンツフィルタリングルールの名前。
ユーザー	[リソース定義 **(Resource Definition)]** フィールドのコンテンツにアクセスするためにユーザーに必要なロール。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ロール	
アクティブ	ルールを有効にするオプション。
アプリケーション	コンテンツフィルタリングルールが適用されるアプリケーションスコープ。このフィールドには、現在選択されているアプリケーションスコープが自動的に設定されます。アプリケーションスコープが選択されていない場合、フィールドは [グローバル] に設定されます。特定のアプリケーションスコープを設定した場合、コンテンツフィルタリングルールはそのアプリケーションスコープにのみ適用されます。グローバルアプリケーションスコープを選択した場合、コンテンツフィルタリングルールはすべてのアプリケーションに適用されます。
リソース定義	フィルタリングするリソースを指定するコンテンツ定義の名前。

4. [送信] をクリックします。

ワークフロースタジオ フローへの **API** アクセス

の機能にアクセスできます。ワークフロースタジオフロー作成者は、個々のフロー、サブフロー、およびアクションを設計中にクライアント呼び出し可能にすることができます。

利用可能な ワークフロースタジオ フロー **API**

サーバースクリプトまたはクライアントスクリプトから次の API を使用し、フロー、サブフロー、アクションをトリガーします。

サーバー側

FlowAPI：同期メソッドまたは非同期メソッドを使用し、実行の詳細があるかないかに関係なく、フロー、サブフロー、またはアクションをトリガーします。

クライアント側

GlideFlow：アクション、フロー、サブフローでクライアント側インタラクションを実行します。フローデザイナーは、クライアントから呼び出すフロー、サブフロー、アクションを有効にする必要があります。

FlowAPI クイックメソッド

FlowAPI クラスのクイックメソッドを使用すると、実行の詳細やその他の関連レコードを作成せずに、サーバー側のスクリプトからアクション、フロー、またはサブフローを実行できます。これらのメソッドを使用すると、本番環境での大量処理の速度を高め、記録保持のオーバーヘッドをなくすことでパフォーマンスを向上させることができます。メソッドは次のとおりです。

- `executeActionQuick()`、`executeFlowQuick()`、`executeSubflowQuick()`：現在のユーザーセッションから同期的に、サーバー側スクリプトからアクション、フロー、またはサブフローを実行します。
- `startActionQuick()`、`startFlowQuick()`、`startSubflowQuick()`：サーバー側スクリプトから非同期的に、アクション、フロー、またはサブフローを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

XML および JSON ストリーミング API

大規模なストリーミングまたは非ストリーミング JSON または XML ペイロードをビルドし、それを REST または SOAP 要求で使用して大量のデータをサードパーティ API に送信します。たとえば、これらの API を使用して ワークフロースタジオ スクリプトステップで JSON ペイロードを作成し、戻り値を REST ステップに渡して、要求をサードパーティサービスに送信できます。詳細については、「 JSONStreamingBuilder 」と「 XMLStreamingBuilder 」を参照してください。

クライアント呼び出し可能 API

デフォルトでは、フロー、サブフロー、およびアクションは、サーバースクリプト内の FlowAPI からのみ呼び出すことができます。フローデザイナーおよびアクションデザイナーは、設計プロセス中に [クライアント呼び出し可能] オプションを有効にすることで、個々のフロー、サブフロー、またはアクションをクライアント呼び出し可能にできます。

実行方法のサポート

フローとサブフローはシステムユーザーまたはセッションを開始したユーザーとして実行できます。この動作は、[フロープロパティ] から設定します。すべての API クイックメソッドは実行方法プロパティを無視し、常にシステムユーザーとして実行されます。

アクションは常にセッションを開始するユーザーとして実行されます。

コードスニペット

アプリケーション開発者は、[コードスニペット] オプションにより、特定のフロー、サブフロー、アクションを呼び出す JavaScript 関数を生成できます。ビジネスルールなどのスクリプト、または特定の ワークフロースタジオ 要素を呼び出す [スクリプト - バックグラウンド] モジュールで、コードスニペットを使用します。コードスニペットが生成されるのは、公開済みのフロー、サブフロー、アクションのみです。ドラフト状況または変更ステータスの ワークフロースタジオ 要素では、コードスニペットは生成されません。

フロー、サブフロー、アクションのコードスニペットの作成

特定のフロー、サブフロー、またはアクションを呼び出すためのコードスニペットを生成します。

始める前に

- 呼び出すフローまたはサブフローを有効にします。
- コールするアクションを公開します。

必要なロール：flow_designer または admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. フロー、サブフロー、またはアクションを開きます。
3. フローデザイナーの右上隅の [その他のアクション] アイコンをクリックします。
4. [コードスニペットを作成] を選択します。
   コードスニペットが新しいウィンドウに表示され、デフォルトで選択されています。
5. ポップアップモーダルからコードを手動でコピーするか、[コードスニペットクリップボードをコピー **(Copy Code Snippet Clipboard)]** ボタンをクリックしてコードをコピーします。

次のタスク

スクリプトを編集して、入力などの必須値を追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアント呼び出し可能なフロー、サブフロー、アクションの作成

クライアントスクリプトで、フロー、サブフロー、またはアクションをトリガーできます。

始める前に

- 必要なロール：security_admin
- フロー、サブフロー、アクションをクライアント呼び出し可能にする場合の影響、たとえば保護対象データの公開や検証ロジックの迂回などを検討してください。

このタスクについて

デフォルトでは、フロー、サブフロー、およびアクションは、サーバースクリプト内の FlowAPI からのみ呼び出すことができます。フローデザイナーおよびアクションデザイナーは、設計プロセス中に [クライアント呼び出し可能] オプションを有効にすることで、個々のフロー、サブフロー、またはアクションをクライアント呼び出し可能にできます。

手順

1. security_admin に特権を昇格させます。
2. [システムセキュリティ] > [アクセス制御 **(ACL)**]に移動します。
3. [新規] をクリックします。
4. アクセス制御を作成します。

フィールド	説明
タイプ	client_callable_flow_object
操作	execute
アドミン優先	選択済み
名前	ACL の名前を入力します。
ロールが必要	API へのアクセスを可能にするロールを作成します。たとえば、flow_api_access ロールを作成します。

5. アクセス権を付与するユーザーにロールを割り当てます。
6. クライアントスクリプトで、フロー、サブフロー、またはアクションをトリガーできるようにします。
   a. クライアント呼び出し可能にするフロー、サブフロー、またはアクションを開きます。
   b. [その他のアクション] メニューで、[セキュリティ管理 **(Manage security)**] を選択します。
   c. [クライアント **API** によるコール可能 **(Callable by Client API)**] を選択します。
   d. 以前に作成したアクセス制御レコードを **[ACLs]** フィールドに追加します。
   e. [更新] をクリックします。

タスクの結果

指定された権限を持つユーザーは、GlideFlow API を使用して、クライアント呼び出し可能なフロー、サブフロー、アクションをクライアントスクリプトからトリガーできます。

ワークフロースタジオ フローへの制限付き発信者アクセス

クロススコープリソースへのアクセスを必要するフローとアクションを追跡します。フローとアクションによるクロススコープリソースへのアクセスを許可または拒否します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

制限付きの申請者アクセス特権テーブルには、ワークフロースタジオ コールソースを識別するための専用のソースタイプがあります。

フロー

ServiceNow コアアクションによって実行される操作を追跡するために、フローソースタイプが使用されます。制限付きの申請者アクセス特権レコードにより、フローが特定のクロススコープリソースに対して特定の操作を実行することが許可されます。操作を実行するフローを承認すると、同じフロー内の他のコアアクションが同じクロススコープリソースに対して同じ操作を実行可能になります。

たとえば、クロススコープテーブルに対して [レコードの検索] アクションを実行するフローがあるとします。クロススコープテーブルに対して申請者制限が有効になっている場合、[レコードの検索] アクションによって読み取り操作の実行要求が生成されます。フローがクロススコープテーブルに対して読み取り操作を実行することを許可すると、コアアクションによって実行される他の読み取り操作も実行可能になります。たとえば、フローでは、同じクロススコープテーブルに対して [レコードの検索] および [添付ファイルを検索] アクションを実行できます。同じクロススコープテーブルの [レコードの検索] アクションを別のフローまたはサブフローに追加するとします。この読み取り操作は別のフローから発生しているため、コアアクションは別のアクセス権限承認要求を生成します。別のクロススコープテーブルにアクセスするように [レコードの検索] アクションを設定した場合、それによって別のアクセス権限承認要求が生成されます。

フローアクション

システムは、フローアクションのソースタイプを使用し、カスタムアクションによって特定のクロススコープリソースに対して実行される操作を追跡します。制限付きの申請者アクセス特権レコードにより、カスタムアクションが特定のクロススコープリソースに対して特定の操作を実行することが許可されます。操作を実行するアクションを承認すると、カスタムアクションは任意のコンテキストでクロススコープリソースに対して操作を実行できます。

たとえば、クロススコープテーブルに対して [レコードの検索] ステップを実行するカスタムアクションを作成するとします。クロススコープテーブルに対して申請者制限が有効になっている場合、[レコードの検索] ステップによって読み取り操作の実行要求が生成されます。クロススコープテーブルに対して読み取り操作を実行するカスタムアクションを許可すると、任意のコンテキストからカスタムアクションを実行できます。たとえば、カスタムアクションを複数のフローに追加したり、スクリプトからカスタムアクションを呼び出したりできます。カスタムアクションで操作を実行するターゲットが、許可されたクロススコープリソースである限り、システムではカスタムアクションの実行が許可されます。別のクロススコープテーブルにアクセスするようにカスタムアクションを設定した場合、カスタムアクションによって別のアクセス権限承認要求が生成されます。

フローおよびアクションの制限付きの申請者アクセス特権のアップグレード

San Diego 以前のリリースからアップグレードされたインスタンスが、フローおよびアクションに対する制限付き申請者アクセス権限要求を生成できるようにします。

始める前に

ターゲットアプリケーションのアプリケーション管理が有効である場合、アプリケーションに対するアクセスを設定できるのはターゲットアプリケーションのアプリケーションアドミニストレーターのみです。アプリケーション管理が有効でない場合、アドミンユーザーがアプリケーションに対するアクセスを設定できます。

必要なロール：application admin または admin

注: アプリケーション固有のアドミンロールと委託開発については、「アプリケーション管理アプリのアクセス制御ルール」および「委託開発と展開」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
San Diego 以前のリリースでは、制限付きの申請者アクセス特権テーブルは、フローおよびアクションをソースタイプとして認識していませんでした。フローおよびアクションのための制限付きの申請者アクセス特権レコードを生成したい場合は、間接的にしか生成できませんでした。スクリプトインクルードまたはビジネスルールを使用すると、フローまたはアクションを呼び出すことができます。スクリプトインクルードまたはビジネスルールが実行されると、クロススコープリソースへのアクセス権限承認要求が生成されます。

⚠ **警告:** フローとアクションを追跡するように制限付きの申請者アクセス特権をアップグレードすると、以前はスクリプトインクルードやビジネスルールからのクロススコープアクセスを追跡していたインスタンスで、サービスが中断される可能性があります。アップグレード後は、制限付きリソースへのアクセスを試みるすべてのフローとアクションの実行がブロックされ、代わりにそのフローやアクション独自の制限付きの申請者アクセス特権に対する承認要求が生成されます。クロススコープのフローおよびアクションを実行するには、アクセス権限要求を誰かが承認する必要があります。スクリプトの呼び出しを使用してフローとアクションの間接的な追跡を既に許可しているお客様は、このタスクをスキップして、引き続きスクリプトからフローとアクションを呼び出すことができます。既存のアクセス権限を新しいフローおよびフローアクションのソースタイプに置き換えたいお客様は、新しいアクセス権限要求を生成および承認するための機能停止のスケジュールを設定することができます。

手順

1. システムのプロパティを追加します。
   このプロパティを作成します。

フィールド	値
名前	`com.glide.hub.flow.restricted_caller_access.track_flows_as_source`
タイプ	**true** | **false**
値	true

2. アプリケーションリソースへのクロススコープアクセスを定義します。
   フローおよびアクションがアクセスを要求する対象のテーブルの [申請者制限] を有効にします。
3. 既存のスクリプトベースのアクセス権限を置き換える場合は、アクセス権限が必要な既存のクロススコープのフローおよびアクションを特定します。
   クロススコープのフローおよびアクションについて、既存のアクセス権限を再生成する必要があります。フローおよびアクションのアクセス権限は、既存のスクリプトインクルードおよびビジネスルールのアクセス権限を置き換えます。
4. 既存のクロススコープのフローおよびアクションについて、アクセス権限要求を生成します。
   クロススコープアプリケーションを使用またはテストすることで、クロススコープのフローおよびアクションを実行できます。
   クロススコープのフローおよびアクションは、申請者制限に設定されたテーブルへのアクセス権限要求を生成します。
5. フローとアクションがアプリケーションリソースにアクセスできるようにします。
   これらのソースタイプを使用してアクセス権限要求を特定します。
   - フロー
   - フローアクション

   フローまたはアクションが制限付きのアプリケーションリソースに対して実行する操作ごとに、[ステータス] を [許可] に設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
制限付きアプリケーションリソースへのアクセスを試みるフローおよびアクションによって、アクセス権限要求が生成されます。

次のタスク
アプリケーションレコードからアクセス権限要求を確認して承認します。

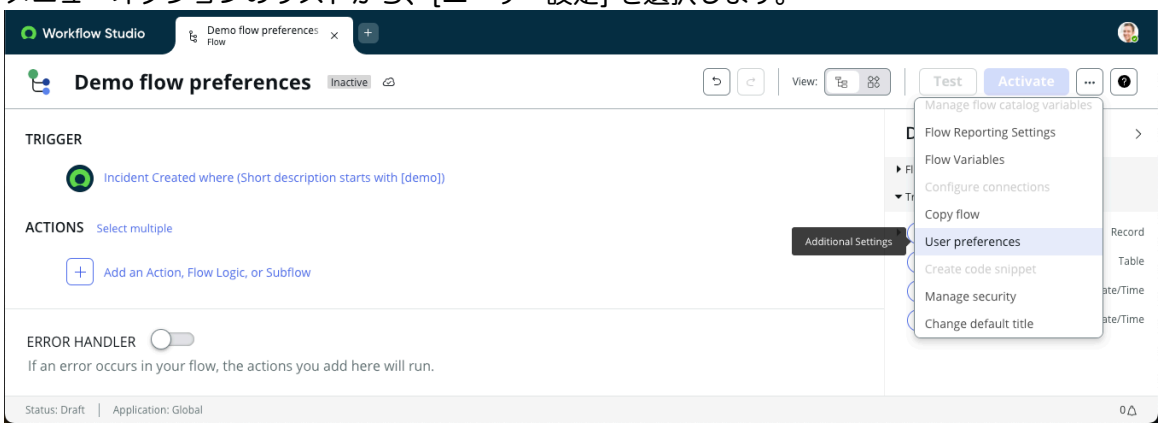
フローユーザー設定の設定

デフォルトのエディタービューなどのフローをビルドおよび編集するときの設定を行います。

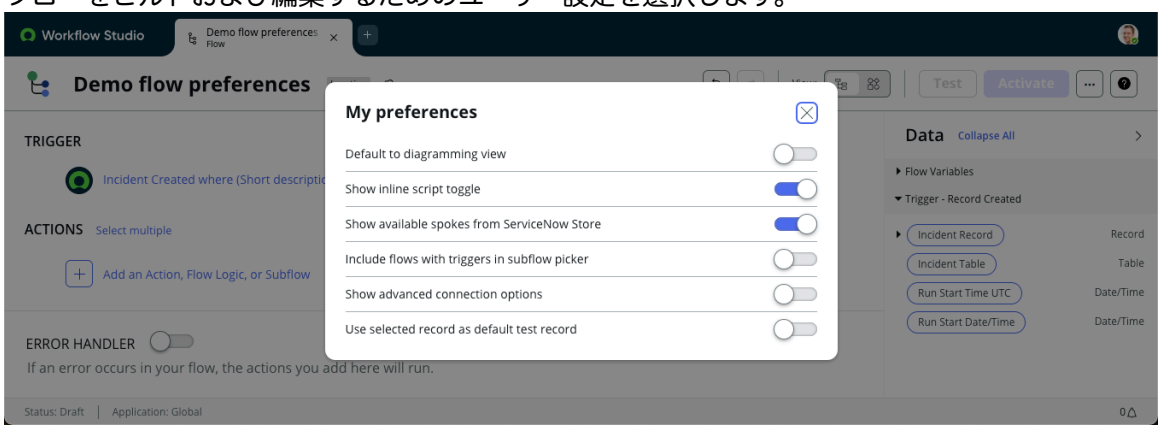
始める前に
必要なロール：admin または flow_designer

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、[フロー] を選択します。
3. 編集するフローを作成または選択します。
4. [その他のアクションメニュー] アイコンを選択します。
5. メニューオプションのリストから、[ユーザー設定] を選択します。



6. フローをビルドおよび編集するためのユーザー設定を選択します。



利用可能なユーザー設定の詳細については、「フローのユーザー設定」を参照してください。

フロー図作成の最新バージョンに更新する

フロー図は、ワークフロースタジオ の依存関係としてインスタンスに自動的にインストールされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
Washington DC パッチ 3 の時点では、ワークフロースタジオ を更新すると、フローデザイナー、プレイブック、ディシジョンビルダーなどのすべてのアプリケーション依存関係が自動的に更新されます。ServiceNow Store またはプラグインのリストから、ワークフロースタジオ の個々のアプリケーション依存関係を表示または更新することはできなくなりました。

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。
2. フィルター基準と検索バーを使用して ワークフロースタジオ アプリケーションを検索します。
3. 右側のバージョンリストを使用して、ワークフロースタジオ の最新バージョンを選択します。
4. [更新] をクリックします。

タスクの結果
フロー図作成アプリケーションが最新のアプリケーションバージョンに更新されます。利用可能な最新バージョンと機能については、ServiceNow Store のフロー図作成 アプリケーションのリストを参照してください。

ディシジョンテーブルの構成

ワークフロースタジオ は、ファミリをアップグレードするたびに自動的にインストールされます。最新バージョンの ワークフロースタジオ に更新すると、ディシジョンテーブルの最新の更新が取得されます。ワークフロースタジオ を構成し、必要な権限レベルに基づいてスタッフにロールをアサインします。

詳細については、「ワークフロースタジオの最新バージョンへの更新」を参照してください。

ディシジョンテーブルのペルソナとロール

スタッフの責任は、各メンバーにアサインされるロールによって制御されます。ペルソナは明示的にワークフロースタジオの意思決定テーブルの一部ではありませんが、アドミニストレーターはロールをアサインして、チームメンバーにを意思決定テーブルを構成または使用する権限を付与します。

ペルソナとロール

ワークフロースタジオ のディシジョンテーブルで使用されているペルソナとロールを確認します。

ディシジョンテーブルアドミン

ディシジョンテーブルアドミニストレーターは、ディシジョンテーブルの任意の部分を作成および編集できます。アドミニストレーターは、ディシジョンテーブルがいつ必要になるかについて大まかな決定を行い、テーブルを作成してから、テーブルのルールの作成作業を他のユーザーに任せることができます。ディシジョンテーブルアドミニストレーターは、入力およびディシジョンテーブルの列と値を作成できる唯一のペルソナです。

ディシジョンテーブルリーダー

ディシジョンテーブルリーダーには、ディシジョンテーブルに対する読み取り専用アクセス権があります。入力、条件、または結果を追加または削除することはできませんが、ディシジョンテーブルを Excel にエクスポートすることはできます。

意思決定ルール作成者

意思決定ルール作成者は、ディシジョンテーブルを更新するためのアクセス権をディシジョンテーブルアドミンの次に多く持っています。アドミニストレーターは、入力と

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル列を含むテーブルを作成し、残りの作業を意思決定ルール作成者に任せることができます。意思決定ルール作成者は、意思決定行を追加、再配置、削除し、すべての行と列の条件と結果の値を編集できます。

意思決定結果編集者

意思決定結果編集者は、既存の意思決定行の結果値のみを編集できます。意思決定結果編集者は、新しいビジネス上の意思決定またはポリシーに基づいて値を変更できます。

ディシジョンテーブルのユーザーロールおよび権限

ロール	タスク
admin および decision_table_admin	入力およびディシジョンテーブルの列と値を作成、読み取り、編集、および削除します。
decision_table_reader	入力およびディシジョンテーブルの列および値への読み取り専用アクセス。 意思決定テーブルでは、このロールを持つユーザーは意思決定テーブルを Excel にエクスポートできます。
decision_rule_author	入力およびディシジョンテーブルの列への読み取り専用アクセス。 意思決定テーブルで、このロールを持つユーザーは次の操作を実行できます。 • 新しい意思決定行を追加する • 意思決定行を再配置する • 意思決定行を削除する • すべての行と列の条件と結果の値を編集する
decision_result_editor	入力、ディシジョンテーブルの列および条件への読み取り専用アクセス。 意思決定テーブルでは、このロールを持つユーザーは既存の意思決定行の結果値を編集できます。

ワークフロースタジオの最新バージョンへの更新

ワークフロースタジオ はインスタンスに自動でインストールされます。ただし、 ワークフロースタジオ は ServiceNow Store アプリケーションであるため、最新の機能を取得するには、バージョンを最新バージョンに更新する必要があります。

始める前に

必要なロール：admin

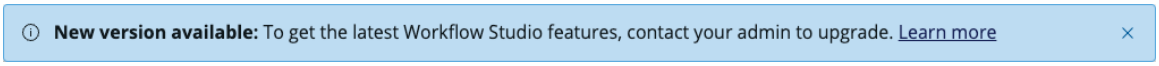
このタスクについて

Washington DC パッチ 3 の時点では、ワークフロースタジオ を更新すると、フローデザイナー、プレイブック、ディシジョンビルダーなどのすべてのアプリケーション依存関係が自動的に更新されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Xanadu パッチ 3 以降では、ServiceNow® Store またはプラグインのリストから個々のワークフロースタジオアプリケーションの依存関係を検索して更新することもできます。

新しいバージョンの利用可能な情報バナー



Xanadu リリース以降、新しいバージョンが利用可能になると、ワークフロースタジオに情報バナーが表示されます。

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。
2. フィルター基準と検索バーを使用して ワークフロースタジオ アプリケーションを検索します。
3. 右側のバージョンリストを使用して、ワークフロースタジオ の最新バージョンを選択します。
4. [更新] を選択します。

ワークフロースタジオの使用

ワークフローを自動化する ワークフロースタジオ コンポーネントを作成します。

ワークフロースタジオ では、ワークフローコンポーネントを作成および管理できます。

フローのビルド

フローは、繰り返し可能な複数ステップのプロセスを自動化します。フローのトリガー条件が満たされると、フローは一連の再利用可能なアクションとフローロジックを実行してプロセスを完了します。

サブフローのビルド

サブフローは、別のプロセスが必要とする出力も生成する、繰り返し可能な複数ステップのプロセスを自動化します。プレイブック、フロー、またはスクリプトがサブフローを呼び出すと、サブフローは一連の再利用可能なアクションとフローロジックを実行してプロセスを完了し、出力値を生成します。

アクションのビルド

アクションは、フロー内の繰り返し可能なタスクまたは操作を自動化します。フローは、アクションに入力としてデータを渡すことでアクションを実行します。アクションは、一連のステップを実行してタスクを完了し、データを出力としてフローに渡します。

フローのビルド

ワークフロースタジオ は、フローの作成に使用されるデフォルトの Now Platform プロセス自動化ビルダーです。ワークフロースタジオ は、ワークフロー エディターに代わるものです。

フローは、トリガーと一連のアクションとフローロジックで構成されます。フローにアクションとフローロジックを追加すると、収集または作成されたデータがデータパネルに表示され、他のアクションやフローロジックで使用できます。

フローのビルドおよび管理にあたっては、アプリケーションやプロセスが使用する Now Platform のテーブルおよびフィールドについて、ある程度の知識が必要になります。プロセスアナリストは、利用可能なアクションとフローロジックを使用してフローを作成したり、既存のフローをコピーしてテンプレートとして使用したりすることができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクションに関する制限

デフォルトでは、フローのアクションは 50 を超えることはできません。デフォルトの動作を変更するには、*sn_flow_designer.max_actions* システムのプロパティの値を増やします。ただし、大きなフローがインスタンスに与える可能性があるパフォーマンスの影響を考慮してください。

不足しているアクション

アドミニストレーターが更新セットからフローを追加した場合、フローにいくつかのアクションが不足している可能性があります。これは通常、インスタンスに適切な 統合ハブ スポークがインストールされていない場合に発生します。これらのアクションを表示するために必要なスポークのインストール方法については、「スポーク」を参照してください。

その他のアクションメニュー

[その他のアクション] アイコン ( ) を選択し、フローのその他のオプションにアクセスします。

ステージ
: フローのステージにアクセスします。

フローカタログ変数を管理
: サービスカタログによってトリガーされるフローに使用可能なカタログ変数を管理します。

フロー変数
: フロー変数を作成して、フロー全体でデータを設定および取得します。

コピーフロー
: 指定アプリケーションでオープンフローのコピーを作成します。

フローの初期設定
: [ドラフトアクションを表示]、[トリガーフローを表示]、[ストアスポークを表示]、および [インラインスクリプトの切り替えを表示] オプションを有効または無効にします。

コードスニペットの作成
: 特定のフロー、サブフロー、またはアクションを呼び出すためのコードスニペットを生成します。

セキュリティを管理します。
: [クライアント **API** によるコール可能 **(Callable by Client API)]** オプションを有効または無効にします。

デフォルトのフロータイトルの変更
: スタイル付きまたは動的テキストを追加することで、フローのデフォルトタイトルを変更します。詳細については、「自然言語タイトルの作成 (Create a natural language title)」を参照してください。

フローのテスト

フローデザイナー インターフェイスから直接フローをテストできます。各テストは、トリガー条件が満たされた場合と同様にフローを実行します。フローにレコードトリガーがある場合は、テストに使用するレコードを指定できます。フローが実行されたら、フロー実行の詳細を使用してフローが正しく実行されていることを確認します。

重要: テストを実行する際は、必ずフローレコードの変更が本番データに影響を及ぼさない非本番インスタンスで行ってください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フロー実行の詳細

フローをテストするたびに、フロー実行のレコード、ログメッセージ、およびレポートが生成されます。フロー コンテキストは、フローの現在のステータスとランタイム値が含まれている関連レコードです。フローが実行されるとそのたびにコンテキスト レコードが生成されます。

オプションで、テスト中だけでなく、フローが実行されるたびに実行の詳細を生成するようにシステムを設定できます。詳細については、「フローのレポートの有効化」を参照してください。

フロー プロパティ

フロープロパティにはフローに関する情報が含まれています。メインヘッダーで [プロパティ] を選択し、フローのプロパティを表示または編集します。

プロパティ	説明
名前	フローの一意の名前を入力します。
保護	[なし] または [読み取り専用] を選択し、フローを読み取り専用にするかどうかを選択します。
アプリケーション	フローのアプリケーションを選択します。フローの作成時にこのプロパティを設定します。その後は変更できません。
説明	フローの説明を入力します。
実行方法	そのフローをシステムユーザーとして実行するか、セッションを開始したユーザーとして実行するかを指定するオプションです。フローをトリガーしたユーザーから更新を実行する必要がある場合は、セッションオプションを開始したユーザーを選択します。たとえば、現在のユーザーからのインシデントレコードに関するコメントや、承認者から送信された承認メールが必要な場合に、このオプションを使用します。フローのオプションとして実行を設定しても、子サブフローには適用されません。 個人用の OAuth トークンを使用して実行できるフローを作成するには、セッションを開始するユーザーのオプションを選択します。フローを実行しているユーザーが個人用の OAuth トークンを持っていれば、そのトークンでフローが実行されます。個人用の OAuth トークンの作成の詳細については、「 OAuth 2.0 認証情報 」を参照してください。
ロールを使用して実行	フローを実行するロールです。[実行方法] が [セッションを開始するユーザー] に設定されている際にのみ、このオプションを利用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローの印刷

フローデザイナー は、フロー、サブフロー、アクション、およびフロー実行の詳細の複数ページの印刷をサポートしています。その他のサポートされているブラウザーのリストについては、「ブラウザーサポート」を参照してください。

ロール

フローにアクセスするユーザーには、flow_designer ロールまたは admin ロールが必要です。

一般的なガイドライン

フローは、短いモジュール型の再利用可能な作業の集合にする必要があります。実行に 1 時間以上かかる場合は、長すぎる可能性があり、より効率的にすることができます。

フローに適用される一般的なガイドラインはすべてサブフローにも適用されます。

競合するビジネスロジックや重複するビジネスロジックを回避する

自動化は、フローデザイナー、ビジネスルール、ワークフロー、および統合ハブを使用して作成できます。フローデザイナー の使用を開始する前に、既存の Now Platform の自動化がどのように機能するかを理解してください。フローデザイナー フローおよびアクションに置き換える前に、自動化を無効にします。「アーキテクチャの概要」を参照して、フローデザイナー が Now Platform 内でどのように機能するかを確認してください。

必要に応じて、フロー、サブフロー、およびアクションのドキュメントを確認してください。

フローにトリガーまたは変数の入力が必要かどうかを判断する

フローは、トリガー条件が満たされたときに常に実行されます。トリガーは常にフローの入力として同じデータを提供します。フローを開始するために代わりに変数の入力が必要な場合は、サブフローを作成します。

ビジネスロジックを再利用する

一連の再利用可能な操作をサブフローとして作成し、それを複数のフローで使用できます。

ロールで保護されたデータにアクセスしてユーザー情報を保持するにはフローロールを付与

フローロールは、フローの権限をシンプルに保つのに役立ちます。システムユーザーとしてフローを実行する代わりに、フローロールを使用してユーザー情報を保持し、データへのアクセスを許可します。フローロールを追加すると、ユーザーが開始したフローに通常含まれない追加のデータにアクセスすることもできます。付与されたロールはフローにのみ適用されます。フローを開始したユーザーには適用されません。

フローのタイミングを制御するにはフローロジックまたはスケジュールベースのトリガーを使用

フローロジックまたはスケジュールベースのトリガーは、フローのパフォーマンスを最適化するのに役立ちます。フロー内で待機するために、`gs.sleep()` メソッドを使用しないでください。`gs.sleep()` メソッドを使用すると、スレッドで他の作業を実行できなくなります。特定の時間にフローを実行するには、スケジュールベースのトリガーを使用します。特定の期間フローを一時停止するには、[期間が終わるまで待機] または [条件待ち] フローロジックを使用します。

依存関係を回避する

ブランチが別のブランチからの出力を待機する必要がある場合、互いに依存する並列ブランチはフローを停止します。

スコープループカウンター

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトループには最大反復数がないため、有効な終了条件がない場合はループが無限に実行されます。

有効な終了条件があることを確認するには、インラインスクリプトまたはアクション内のスクリプトステップでスコープループカウンターを使用します。`for (i=0; i< length; i++)` に `var` を追加し、`for (var i=0; i< length; i++)` を取得します。

For Each および Do Until ループの反復回数を 1000 に制限

1000 以上のループを含む反復では、メモリの問題が発生する可能性があります。

- [レコードを検索] の最大レコード数を 1000 に設定します。
- プロパティ sn_flow_designer.max_iterations は変更しないでください。デフォルトは 1000 です。
- 大量のデータ処理の場合は、小さなバッチに分割することを検討してください。
- 一括インポートの場合は、同時インポート を検討してください。

実行を高速化するための QuickAPI の使用 (ビジネスルールの代替)

- QuickAPI は非常に高速に実行されますが、デバッグ機能は少なくなります。
- フォアグラウンドの QuickAPI 実行は、フローを呼び出したユーザーとしてユーザーセッションで実行されます。
- バックグラウンドの QuickAPI 実行は、バックグラウンドスレッドで実行され、「システム」ユーザーセッションで実行されます。

フロー自体からフローを呼び出す代わりに Do Until ループを使用する

フロー自体を呼び出すフローは許可されず、エラーが発生します。ただし、フロー A がフロー B を呼び出している場合、フロー B はフロー A を最大 3 回呼び出すことができます。

バックグラウンドでフローを実行する

バックグラウンドでフローを実行すると、ユーザーにフローの実行を待機させることなく、UI スレッドが解放されます。

大きな出力を収集した後に待機するフローロジックを回避する

大きなペイロードを取得した直後に使用すると、メモリの問題を防ぐことができます。

環境間の切り替えを最小限に抑える

フロー内のインスタンスと MID サーバーのステップ間で切り替えを頻繁に行うと、処理が遅れる可能性があります。遅延のリスクを最小限に抑えるには、インスタンスと MID の切り替えを 1 回のみに制限します。

フローによって生成された sys_complex_object レコードを更新セットに含める

複雑なデータスキーマが見つからないと、実行の問題が発生する可能性があります。フローによって生成された sys_complex_object レコードを更新セットに含めたことを確認してください。

スクリプトからフローを呼び出す

スクリプトから呼び出してカスタムトリガーでフローを開始します。

古いリリースのインスタンスに新しいリリースのフローを展開することは避けてください

ワークフロースタジオ では、以前のリリースで実行されているインスタンスへの新しいリリースフローの展開はサポートされていません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

危険: フローデータモデルはリリース間で変更される可能性があるため、以前のリリースのインスタンスで実行した際、新しいフローが実行されなかったり、予期しない結果が生じたりする可能性があります。展開する前に、同じリリースバージョンになるようにインスタンスをアップグレードしてください。

本番環境でフローレポートをオフにする

フローレポートを無効にして、フローの実行に必要なメモリ量を最小限に抑えます。フローレポートには、[実行の詳細] ページの構成とランタイム情報が保存されます。これらのレポートはトラブルシューティングに役立ちますが、メモリとデータベースの両方に大量のデータを保持する必要があります。デフォルトでは、フローレポートは無効になっており、フローまたはアクションを手動でテストする場合にのみ実行の詳細が生成されます。代わりに、レポートをオフにしているときも使用できるログファイルを使用できます。

ネストされたループを使用してフローで消費するメモリ量を削減する

レポートが有効になっている場合は、com.snc.process_flow.reporting.iteration.lastn を値「1」に設定して、前のループ反復で消費されるメモリ量を減らします。レポートする反復が多いほど、より多くのメモリが必要になります。

ワークフロースタジオ でのフローの作成

トリガー条件が発生したときに、一連のアクションとフローロジックを実行します。

https://player.vimeo.com/video/984477123?h=6189b3336b&badge=0&autopause=0&player_id=0&app_id=58479

始める前に

- ワークフロースタジオ コンテンツを保存するアプリケーションを作成または選択します。
- 必要なロール：flow_designer または admin

このタスクについて

flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アプリケーションのテーブル構造を把握し、フローまたはサブフローのターゲットテーブルに関連付けられている既存のビジネスロジックを認識する必要があります。フローまたはサブフローを作成する前に、競合するビジネスルールまたはワークフローを無効にしてください。

カスタムアプリケーションを作成して フローデザイナー のコンテンツを格納することで、アプリケーションリポジトリまたは ServiceNow Store を使用してアプリケーションを展開することができます。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ワークフロースタジオ のホームページから [新規] > [フロー] を選択します。
3. Now Assist を使用してフローをビルドするか、フローを最初からビルドするかを選択します。

   Now Assist を使用してフローをビルドするには、「Now Assist を使用したフローの作成」を参照してください。

   フローを最初からビルドするには、次のステップに進みます。

4. [ゼロから構築します] を選択します。
5. [フロープロパティ] 画面のフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
フロー名	フローを一意に識別する名前です。システムは、スペース文字をアンダースコア文字に置き換えることにより、フロー名を内部名に変換します。
説明	フローの説明です。
アプリケーション	フローを作成するアプリケーションスコープ。デフォルトは「グローバル」です。アプリケーションスコープによって、フローがアクセスできるデータと共有できるデータが決まります。
ドメイン	フローのドメインスコープ。ドメインセパレーションの詳細については、「ドメインセパレーションの説明」を参照してください。

追加のプロパティ

Field (フィールド)	説明
保護	フローが読み取り専用の場合に指定する選択肢です。自分が所有するアプリケーションスコープでフローを作成する場合にのみ、値を選択できます。
実行方法	そのフローをシステムユーザーとして実行するか、セッションを開始したユーザーとして実行するかを指定するオプションです。フローをトリガーしたユーザーから更新を実行する必要がある場合は、セッションオプションを開始したユーザーを選択します。たとえば、現在のユーザーからのインシデントレコードに関するコメントや、承認者から送信された承認メールが必要な場合に、このオプションを使用します。フローのオプションとして実行を設定しても、子サブフローには適用されません。 注: デフォルトでは、フローはセッションを開始するユーザーとして実行されます。 個人用の OAuth トークンを使用して実行できるフローを作成するには、セッションを開始するユーザーのオプションを選択します。フローを実行しているユーザーが個人用の OAuth トークンを持っていれば、そのトークンでフローが実行されます。個人用の OAuth トークンの作成の詳細については、「 OAuth 2.0 認証情報」を参照してください。 セッションを開始したユーザーとしてフローを実行すると、システムはユーザーの ACL 制限によりフローアクションを制限します。フローをトリガーするユーザーによるフローアクションの実行が、セキュリティ制限によって妨げられることがないようにしてください。開始ユーザーによって実行されるフローも、日時形式などのユーザー固有の設定に従って実行されます。 注: 受信メールフローはこの設定を無視し、常にセッションを開始するユーザーとして実行されます。受信メールフローのアクセス制御をテストするには、典型的な受信メールユーザーを代理操作してフローを手動でトリガーします。
実行するロール	フローを実行するロールです。[実行方法] が [セッションを開始するユーザー] に設定されている際にのみ、このオプションを利用できます。
フロー優先	デフォルトでこのフローが実行される優先度レベル。次のオプションが含まれます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Field (フィールド)	説明
度のデフォルト	◦ 低 ◦ 中 (デフォルト) ◦ 高 フローの優先度レベルの詳細については、「フロー優先度」を参照してください。

6. [送信] を選択します。

   注: ワークフロースタジオ で初めて実行する場合は、ようこそ画面が表示されます。ウェルカムツアーを表示するか、今はスキップするかを選択できます。

   システムにより ワークフロースタジオ 設計環境が表示されます。

7. 保存済みトリガーをフローに追加します。

   注: フローのトリガーを作成するか、保存済みのトリガーを使用できます。トリガーを作成するには、次の手順に進みます。保存済みトリガーの作成の詳細については、「保存済みトリガーの作成」を参照してください。

   a. [トリガー] セクションで [トリガーを追加] を選択します。

   b. [トリガー] リストの [インストールされたスポーク] で、トリガーが作成されたアプリケーションを選択します。
   たとえば、グローバルなど。
   ワークフロースタジオに、選択したアプリケーションにあるトリガーのリストが表示されます。

   c. トリガーを選択します。
   トリガーの構成方法に応じて、トリガーのプロパティを表示、またはトリガーに条件を追加できる場合があります。

   d. [完了] を選択します。

8. フローのトリガーを作成するには、次の手順を実行します。

   a. [トリガー] セクションで [トリガーを追加] を選択します。

   b. [トリガー] リストから、フローの実行を開始するトリガーを選択します。
   トリガー タイプの詳細については、「ワークフロースタジオ フロートリガータイプ」を参照してください。
   選択したトリガーのタイプに応じて、一連のフィールドが表示されます。

   c. フィールドに入力してトリガーを設定します。
   たとえば、レコードベースのトリガーの場合、テーブルを選択し、フィールド条件を設定します。この条件が満たされると、フローの実行が開始されます。

   d. [完了] をクリックします。

9. アクション、フロー、サブフロー、またはフローロジックを追加するには、[アクション、フローロジック、またはサブフローを追加] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. オプションを選択します。

オプション	説明
アクション	目的のアクションを選択します。ワークフロースタジオ には、フローとサブフローで使用可能な ワークフロースタジオ アクション が含まれています。または、action_designer ロールを持つユーザーは、フローに追加するアクションを作成できます。統合ハブ プラグインと スポーク プラグインは、追加のアクションをインストールします。 [その他のアクション] メニューからドラフトアクションを追加するには、[ドラフトアクションを表示] を **true** に設定します。 ServiceNow Store で利用可能なスポークを表示するには、 [その他のアクション] メニューから [ストアスポークを表示] を **true** に設定します。 注: [スポークが未インストール] の下に、ServiceNow のバージョンとの互換性や ワークフロースタジオ のアプリケーションの依存関係に基づいて ServiceNow Store で利用可能なスポークが表示されます。
フローロジック	条件付き操作または繰り返し操作を指定するオプションを選択します。
サブフロー	公開されたサブフローを選択し、入力値を定義します。フローアクションとしてサブフローを追加することに加えて、[その他のアクション] メニューから [トリガーフローを表示] オプションを有効にして、有効になったフローを選択し、必要な入力を定義することができます。トリガーされたフローを実行すると、そのトリガー条件は無視され、すべてのアクションが実行されます。

フロー内のアクションの順序を変更するには、アクションの左側にあるハンドルを目的の場所にドラッグします。

選択したオプションに応じて、一連のフィールドが表示されます。

b. アクション、フローロジック、またはサブフローを設定するには、フィールドに入力します。

c. [完了] を選択します。

d. 完了するまでアクションの追加を繰り返します。

10. [保存] を選択します。
フローデザイナー によって、フロー、トリガー、およびアクションのドラフトが保存されます。

次のタスク

- フローを有効化する準備ができるまで、フローをテストします。

  注: システムでトリガーされるのは有効なフローのみです。

- フローを展開するか、別のインスタンスに転送します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アプリケーションが完了し、リリースの準備ができたら、アプリケーションリポジトリからフローを展開 します。
- 別のインスタンスでフローをテストする場合は、更新セット XML ファイルからフローを転送 します。フローを保存すると、ワークフロースタジオ はそのサブフローとアクションを含む単一の更新セットファイルを生成します。

保存済みトリガーの作成

一連のトリガー定義を再利用可能なトリガーとして保存します。フロー作成者が、一部またはすべてのアプリケーションフローから保存済みのトリガーを選択できるようにします。フロー作成者がトリガーの詳細を表示できるかどうか、またはトリガーに条件を追加できるかどうかを指定します。

始める前に

必要なロール：trigger_designer、flow_designer、または admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ワークフロースタジオのホームページで、[新規] > > [トリガー]を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

[新しいトリガー **(New Trigger)]** フォーム

フィールド	説明
トリガー名	トリガーを識別する一意の名前。
トリガータイプ	フローを開始するトリガーのタイプ。 トリガータイプの詳細については、「ワークフロースタジオ フロートリガータイプ」を参照してください。 注: Yokohama リリース以降、保存済みフロートリガーについてはレコードベースのトリガーのみがサポートされます。
説明	トリガーの説明。
アプリケーション	トリガーを作成するアプリケーション。デフォルトは [グローバル] です。 アプリケーションスコープによって、トリガーがアクセスできるデータと共有できるデータが決まります。

4. [追加のプロパティを表示する] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

[追加のプロパティ **(Additional properties)]** フォーム

フィールド	説明
アクセス可能	トリガーデータに、指定したアプリケーションからのみアクセス可能にするか、すべてのアプリケーションスコープからアクセス可能にするかを選択します。
カテゴリ	トリガーが表示されるカテゴリ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
トリガーの注釈	ユーザーがトリガーを選択する前に確認できるトリガーの注釈。

6. [トリガーのビルド **(Build trigger)]** を選択します。
7. フォームのフィールドに入力します。

[トリガー定義] フォーム

フィールド	説明
テーブル	フローのテーブル。
条件	満たされると、トリガーがアクティブ化され、フローが開始される条件。 ユーザーがフローでトリガーを使用するときに、条件を表示するか、トリガーに条件を追加するかを選択できます。
詳細オプション	フローを実行する場所とタイミングを選択するための追加オプション。 詳細なオプションの詳細については、「ワークフロースタジオ フロートリガータイプ」を参照してください。 ユーザーがフローでトリガーを使用するときに、これらのオプションを表示および変更するかどうかを選択できます。 ユーザーが詳細オプションを変更した場合でも、それ以降にトリガーのオプションに加えた変更は、ユーザーが変更したオプションには影響しません。

ヒント: 変更は自動的にワークフロースタジオに保存されます。必要に応じて [元に戻す] ボタンや [やり直し] ボタンを使用します。

8. [公開] を選択して、トリガーを使用できるようにします。

関連情報

保存済みのフロートリガー

保存済み外部トリガーの作成

一連のトリガー定義を、Webhook を介して外部イベントに応答する再利用可能なトリガーとして保存します。指定された条件を満たす構成済みのサードパーティアプリケーションでイベントが発生すると、トリガーが有効になります。

このタスクについて

ワークフロースタジオで既に構成されていて、サポートされているサードパーティスポークで発生するイベントに応答する保存済みトリガーを作成します。サードパーティスポークは、イベントが発生するたびにイベントペイロードをワークフロースタジオに送信します。トリガー定義で、JSON 形式のイベントペイロードとトリガーを開始する条件を指定します。構成したサードパーティスポークからイベントペイロード JSON を取得します。

始める前に

必要なロール：trigger_designer、flow_designer、または admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サブスクリプションが必要：このステップには、統合ハブのサブスクリプションが必要です。

必要なプラグイン：次の統合ハブプラグインをインストールします。

- ServiceNow 統合ハブ外部トリガー [com.glide.ih.external_trigger]：すぐに利用可能な外部トリガーを使用する場合。
- 外部トリガービルダー [sn_ext_trg_bldr]：保存済み外部トリガーを作成する場合。

注: さまざまな統合ハブサブスクリプションに含まれるものの詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

サードパーティアプリケーションスポークの外部トリガーエンドポイントが構成されていることを確認します。サポートされているスポークは次のとおりです。

- Jira スポーク
- GitHub スポーク
- Docusign eSignature スポーク

サードパーティスポークの構成の詳細については、「外部トリガーエンドポイントの設定」を参照してください。

重要: サードパーティアプリケーションのイベントペイロード JSON を手元に用意します。ペイロード JSON をコピーできる場所については、サードパーティの Webhook ドキュメントを参照してください。たとえば、Jira イベントのさまざまなペイロードの形状を示す次のリンク：Executing a webhook (Webhook の実行) を参照してください。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化 **(Process Automation)]** > [ワークフロースタジオ]に移動します。
2. ワークフロースタジオのホームページで、[新規] > [トリガー]を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

[新しいトリガー **(New Trigger)]** フォーム

フィールド	説明
トリガー名	トリガーを識別する名前です。
トリガータイプ	フローを開始するトリガーのタイプ。[外部 (External)] の [イベント **(Webhook) (Event (Webhook))]** を選択します。
説明	トリガーの説明。
アプリケーション	トリガーを作成するアプリケーションスコープ。 ワークフロースタジオに、サポートされている構成済みのスポークが表示されます。

4. [追加のプロパティを表示する] を選択し、フィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[追加のプロパティ **(Additional properties)**] フォーム

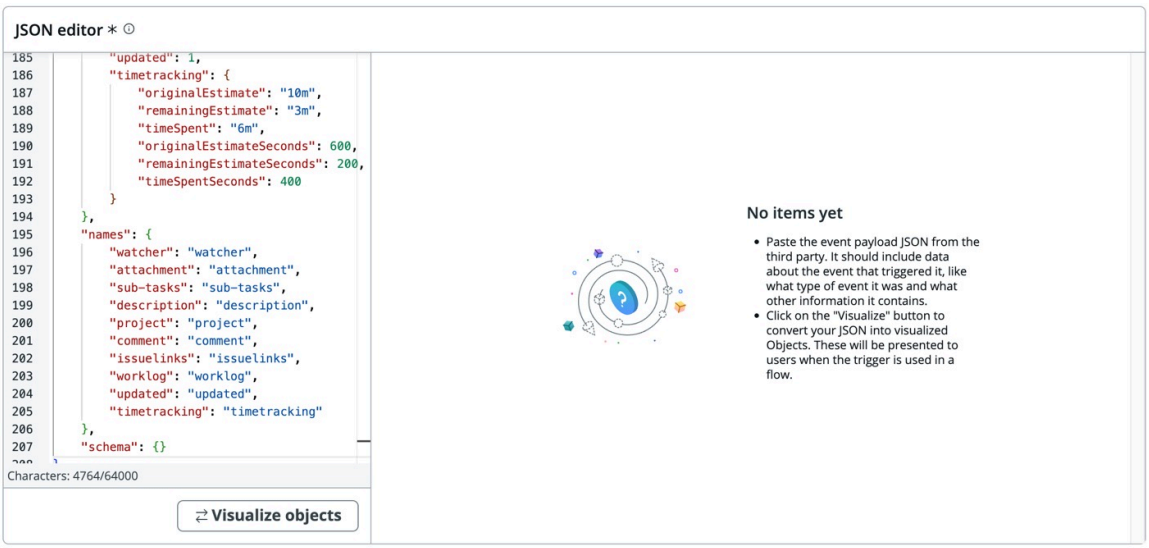
フィールド	説明
アクセス可能	トリガーデータには、すべてのアプリケーションスコープからアクセスできます。
カテゴリ	トリガーが表示されるカテゴリ。
トリガーの注釈	ユーザーがトリガーを選択する前に確認できるトリガーの注釈。

5. [トリガーのビルド **(Build trigger)**] を選択します。
ワークフロースタジオにトリガー定義のページが表示されます。[イベントソースのプレビュー (Event source preview)] 領域には、外部トリガーエンドポイントの構成方法に関する情報が表示されます。
6. [パーサー] でフィールドに入力します。

[パーサー] フォーム

フィールド	説明
トリガー出力名	トリガー出力を識別するためのラベル。
要求ヘッダー	受信要求に含める 1 つ以上のヘッダーを指定するオプションのフィールド。
クエリパラメーター	受信要求に含める 1 つ以上のパラメーターを指定するオプションのフィールド。

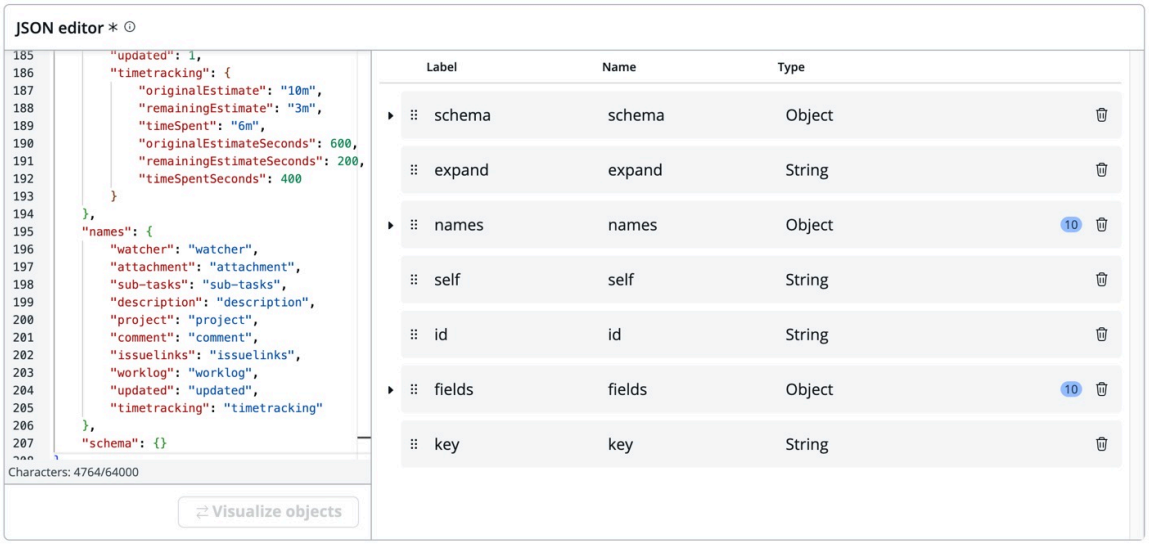
7. **JSON** エディターの [本文] で、サードパーティアプリケーションからのペイロード JSON を貼り付けます。
ペイロード JSON をコピーできる場所については、サードパーティの Webhook ドキュメントを参照してくださ



い。

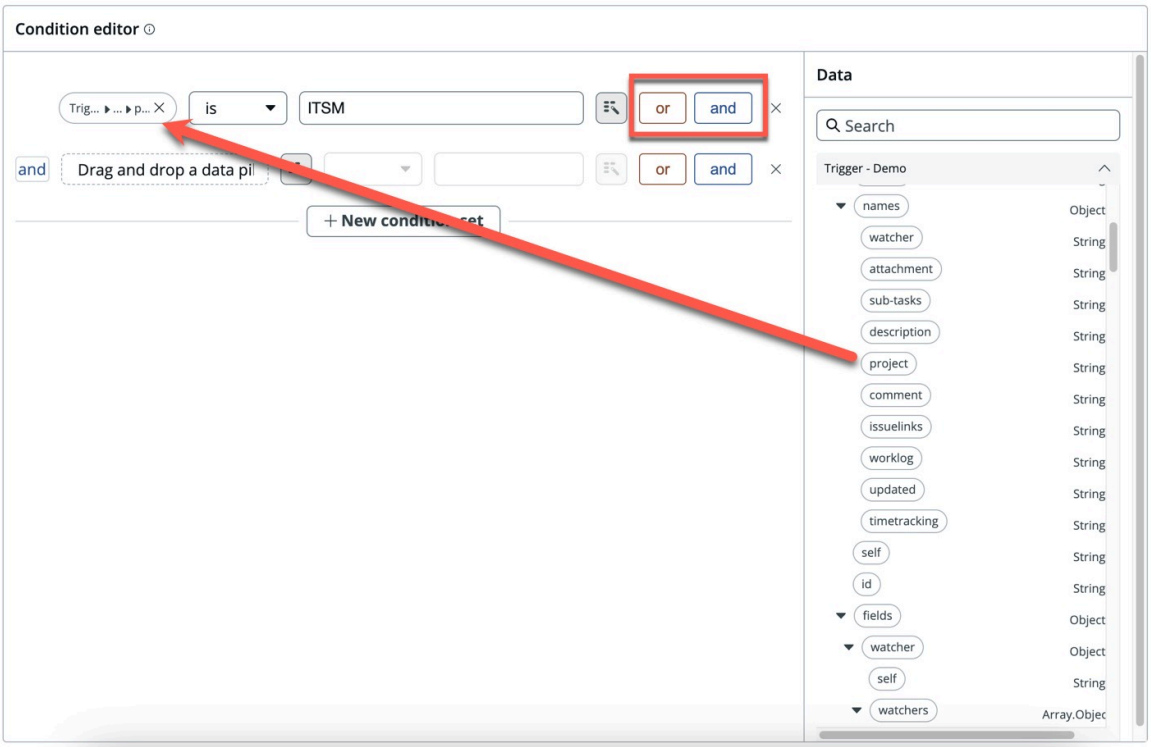
8. [オブジェクトの可視化 **(Visualize objects)**] を選択します。
エディターに、ペイロード JSON にあるオブジェクトが表示されます。オブジェクトを並べ替えたり、削除したりできます。オブジェクトは、条件で使用するデータピルとして利用できま

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



す。
を選択した後のオブジェクトを表示します。

9. 条件エディターで、データピルをドラッグアンドドロップして条件セットを作成します。
[or] または [and] 演算子を使用して、条件セットに条件を追加しま



す。

10. 要件に従って条件セットを追加するには、**[+ 新しい条件セット (+New condition set)]** を選択します。

11. 他のユーザーがトリガーを使用できるようにするには、[公開] を選択します。

> **注:** 保存済みの外部トリガーを公開後に編集することはできません。

受信メールトリガーを含むフローの作成

インスタンスがメールを受信したら、フローを開始します。

始める前に

必要なロール：flow_designer または admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. **[+** 新規] > [フロー]を選択します。
3. フロープロパティで、[実行方法] フィールドを [セッションを開始するユーザー] に設定します。

> **重要:** 受信メールフローでは、メールの送信者をセッションを開始するユーザーとして使用します。システムが送信者を認識しない場合、受信メールフローはゲストユーザーとして実行されます。セッションを開始するユーザーが受信メールフローを実行するように設定すると、フローのアクションがユーザーアクセス制御によって制限されます。何らかの理由でセッションを開始するユーザーに権限昇格が必要な場合は、受信メールフローから必要なロールで実行されるサブフローを呼び出します。

4. [トリガー] セクションで、プラスアイコン (⊕) を選択してトリガーを追加します。
5. [受信メール] を選択します。
6. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
メール条件	フローを開始するメールを認定するための条件。条件ビルダーは、メール [sys_email] テーブルからのフィールドを使用します。たとえば、ユーザーがシステム通知に返信する受信メールのフローをトリガーするには、条件を [受信タイプ] [次の値に等しい] [返信] に設定します。
返信レコードタイプ	ターゲットメールに関連付けられているテーブルです。たとえば、ユーザーがインシデントレコード通知から送信する返信メールからフローをトリガーするには、インシデント **[incident]** を選択します。

7. [完了] を選択します。
8. アクション、サブフロー、およびフローロジックをフローに追加します。
9. オプション: 要求者に進行状況を報告するために、フローにステージを追加します。
「フローおよびサブフローのステージ」を参照してください。
10. フローをテストします。
受信メールフローのアクセス制御をテストするには、典型的な受信メールユーザーを代理操作してフローを手動でトリガーします。。詳細については、「フローをテストする」を参照してください。
11. テストが成功した場合は、フローを有効にします。
詳細については、「フローをアクティブ化する」を参照してください。

タスクの結果
設定した条件を受信メールが満たすと、関連するフローがトリガーされ、アクションが実行されます。

複数のトリガーによる受信メールの処理の許可

受信メールを、特定の順序で複数の受信メールトリガーで処理できるように フローデザイナー を設定します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

複数の受信メールアクションで受信メールを処理することはできますが、デフォルトでは複数のフローで受信メールを処理することはできません。システムプロパティを追加して、プロセスオーナーが複数のトリガーを使用して受信メールを処理できるようにすることができます。

⚠ **警告:** 複数のトリガーが受信メールを処理できるようにすると、メンテナンスが増えてシステムパフォーマンスが落ちる可能性があります。

手順

1. 次の設定を使用して プロパティを追加します 。
   - 名前： *glide.hub.flow.inbound_email_trigger.show_advanced*
   - タイプ：true | false
   - 値：true

   システムプロパティを有効にすると、受信メールのトリガーに [順序] フィールドと [処理の停止] フィールドが表示されます。
2. 受信メールトリガーを含む複数のフローを作成します。

   詳細については、「受信メールトリガーを含むフローの作成」を参照してください。
3. 次のように、各受信メールフローの処理順序を指定します。

   a. 各フローを開き、[順序] フィールドに値を入力します。

      フローの優先度を他のフローより高くするには、入力する数値を小さくします。

   b. シーケンス内の各フローの停止処理を有効または無効にします。

      シーケンス内の次のフローで受信メールを処理できるようにするには、[処理の停止] オプションをオフにします。

      特定のフローでシーケンスを終了するには、そのフローでオプションを選択したままにします。

Kafka メッセージトリガーを使用したフローの作成

Kafka ストリームからのイベントを処理するフローをビルドします。指定されたトピックでイベントが利用可能になったときにフローを開始します。

始める前に

必要なロール：flow_designer または admin

このトリガーには、Apache Kafka 向けストリームコネクト サブスクリプションが必要です。詳細については、「https://www.servicenow.com/now-platform/workflow-data-fabric.html 」を参照してください。

このトリガーには、 ServiceNow Stream Connect Installer [com.glide.hub.stream_connect.installer] プラグインが必要です。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] に移動します。
2. [新規] > [フロー]をクリックします。
3. フロー プロパティを定義します。
   詳細については、「ワークフロースタジオ でのフローの作成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [トリガー] セクションで、[トリガーを追加] をクリックし、[アプリケーション] > **[Kafka メッセージ]** の順に選択します。
5. [Kafka メッセージ] フォームで、フィールドに入力します。

フィールド	説明
トピック	メッセージを監視するトピックへの参照。
シリアル化形式	メッセージのシリアル化形式。次のいずれかを選択します。 ◦ プレーンテキスト：プレーンテキストメッセージの場合は、このオプションを選択します。これがデフォルトの形式です。 ◦ エンコード済み：Apache Avro 形式のメッセージには、このオプションを選択します。プレーンテキストメッセージを Avro 形式に変換するには、スキーマが必要です。[スキーマレジストリ] フィールドでスキーマレジストリを選択します。スキーマの詳細については、「ストリームコネクトのスキーマ管理」を参照してください。
スキーマレジストリ	選択したスキーマのレジストリ。次のいずれかを選択します。 ◦ スタンドアロンのスキーマレジストリ ◦ **Confluent Schema Registry** このフィールドは、[シリアル化形式] が [エンコード済み] に設定されている場合にのみ表示されます。 Confluent Schema Registry では、受信したメッセージのスキーマ ID がスキーマテーブルにない場合、構成された REST 接続を使用してスキーマが動的にインポートされます。
詳細オプション	
処理を開始する順 (Start processing from)	日付順に整理されたキューの先頭または末尾からメッセージの処理を開始するオプション。次のいずれかを選択します。 ◦ キュー内の最も古いメッセージ **(The earliest message in the queue)**：キュー内の最も古いメッセージから処理を開始します。 ◦ キューの最後 **(The end of the queue)**：キュー内の最も新しいメッセージから処理を開始します。
1 回の実行で処理するメッセージの数 (Number of messages to process per run)	実行ごとに処理されるメッセージの数を指定するか、システムがメッセージの数を決定するオプション。次のいずれかを選択します。 ◦ 自動的に最適化 **(Automatically optimize)**：システムが 1 回の実行で処理するメッセージの数を決定します。 ◦ 手動で上書き (高度) **(Manually override (advanced))**：実行ごとに処理するメッセージの数を指定します。
メッセージの数を入力してください (システム生成値が小さい場合は無視) (Enter the number of messages (ignored if	1 回の実行で処理するメッセージの数。このフィールドは、**[1 回の実行で処理するメッセージの数(Number of messages to process per run)]** が [手動で上書き (高度) **(Manually override (advanced))]**に設定されている場合にのみ表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
system-generated value is lower))	◦ タイプ：整数 ◦ デフォルト値： 100 ◦ 最小値：1 ◦ 最大値：100,000 選択した数がシステムによって計算された数より大きい場合、その計算された数でフローが実行されます。 メッセージのサイズによっては、一度の実行で処理されるメッセージの数が指定された値よりも少なくなる場合があります。

6. [完了] をクリックします。
7. オプション: [最大同時実行] フィールドと [相対的重み付け **(Relative weight)]** フィールドを設定します。
   [最大同時実行] フィールドは、作成するパーティショングループの数と使用する並列プロセッサーの数を決定します。[相対的重み付け **(Relative weight)]** フィールドを使用すると、他のコンシューマーよりも多くの処理時間を当該コンシューマーに割り当てることができます。

   a. [すべて] > [プロセス自動化] > [フロー管理] > [設定] の順に移動します。

   b. [フロー/サブフロー/アクション] フィールドで、フローの情報アイコン ( ) を選択し、[レコードを開く] を選択します。

   c. 他のアクションアイコン ( ) をクリックし、[表示] > **[Kafka]** を選択します。
   [最大同時実行] フィールドがフォームに表示されます。

   d. [相対的重み付け **(Relative weight)]** フィールドを表示するには、[詳細]を選択します。

   e. [最大同時実行] と [相対的重み付け **(Relative weight)]** の値を設定します。

フィールド	説明
最大同時実行	(Optional) メッセージを消費するために使用する並列プロセッサーの最大数と作成するパーティショングループの数。 デフォルト値：1
相対的重み付け	(Optional) 各サイクルについて、他のコンシューマーと比較して、メッセージを処理するためにコンシューマーに割り当てられた最大時間。たとえば、相対的な重み付けが別のコンシューマーの 2 倍であるコンシューマーは、2 倍の時間を取得します。相対的な重み付けが同じコンシューマーは、同じ時間になります。 最小値は 5、最大値は 2000 です。デフォルト値は、最大同時実行数に *glide.ih.kafka.consumer.max_seconds_per_partition_group* プロパティの値を掛けた値です。*glide.ih.kafka.consumer.max_seconds_per_partition_group* プロパティは、各パーティショングループに割り当てられる最大時間 (秒) を指定します。デフォルト値は 10 です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	相対重み付けを使用して、サブスクリプションのパーティショングループタイムアウトが計算されます。パーティショングループタイムアウトは、特定のサブスクリプションの各パーティショングループに割り当てられる最大時間 (ミリ秒) を指定します。 このフィールドは、[詳細] が選択されている場合にのみ表示されます。

f. [更新] を選択します。

g. フローデザイナー で作業していたフローに戻ります。

8. アクション、サブフロー、およびフローロジックをフローに追加します。
9. フローをテストするには、[テスト] ボタンをクリックします。
   [テスト] ボタンをクリックすると [フローのテスト (Test flow)] ダイアログが開き、ここでフローに送信するメッセージを作成できます。Kafka トピックからのメッセージではなく、この新しく作成されたメッセージを使用して、フローがテストされます。フローは、有効になるまではトピックからのメッセージの受信を開始しません。詳細については、「フローをテストする」を参照してください。
10. フローを有効にするには、[有効化] ボタンをクリックします。
    フローを有効にすると、そのトピック内でメッセージの検索が開始されます。メッセージを受信するには、フローを有効にする必要があります。詳細については、「フローをアクティブ化する」を参照してください。

タスクの結果
Kafka トピックにメッセージがあると、フローがトリガーされてアクションが実行されます。

メトリックベース トリガーを使用してフローを作成する

メトリックベース トリガーが満たされるとフローが開始されます。メトリックベース トリガーは時系列データを追跡し、しきい値に達したとき、傾向が検出されたとき、またはシステムがデータのレポートを停止したときを監視できます。

始める前に
必要なロール：flow_designer または admin

メトリックベース トリガーはベース システムでは使用できません。メトリックベース アプリケーションの利用には個別のサブスクリプションが必要であり、ServiceNow の担当者による有効化が必要です。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. **[+** 新規] > [新しいフロー]をクリックします。
3. フロー プロパティを定義します。
   詳細については、「ワークフロースタジオ でのフローの作成」を参照してください。
4. [トリガー] セクションで、トリガーを追加し、[メトリックベース] を選択します。
5. トリガーのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
メトリックベース トリガー	フローを開始するための メトリックベース トリガー レコードを選択または作成します。メトリックベース トリガーのタイプについては、「メトリックベース トリガー」を参照してください。
テーブル	メトリクスが含まれている読み取り専用テーブル。
条件	[フィルターを追加] をクリックして、フローをいつ実行するかを決定するフィールドベースの条件を設定します。
条件スクリプト	[追加の メトリックベース トリガー フィルタリング条件] と [モデレート] テーブルでスクリプトを定義し、メトリクスイベントが重複してもフローが再トリガーされないようにします。たとえば、メトリクスと、定義済みのトリガーしきい値とが重なる場合は、メトリクスが満たされたときに 1 回フローを実行するか、またはトリガーしきい値を超えるたびにフローを実行するかを定義するスクリプトを作成します。

6. アクション、サブフロー、およびフローロジックをフローに追加します。
7. フローをテストします。
8. フローが想定どおりに動作したら、フローをアクティブ化します。
   詳細については、「フローをテストする」と「フローをアクティブ化する」を参照してください。

タスクの結果
メトリックベース アプリケーションによって、Now Platform で時系列データが監視されます。選択したトリガーが満たされると、フローが実行されます。

プロアクティブアナリティクストリガーを使用してフローを作成する

パフォーマンスアナリティクス インジケーターを使用してフローを開始します。フロー開始条件を、一連のプロアクティブアナリティクス KPI スコアと KPI しきい値として定義します。

始める前に

重要: このフローは、プラットフォームアナリティクス 内の パフォーマンスアナリティクス インジケーターをサポートしています。フローには、 パフォーマンスアナリティクス のサブスクリプションが必要です。さらに、作業用の パフォーマンスアナリティクス の実装が必要です。詳細については、「パフォーマンスアナリティクス (インジケーターデータソース)」を参照してください。

フローを作成するには、インジケーターなどの パフォーマンスアナリティクス アーティファクトと、それに関連するターゲットおよびしきい値に精通している必要があります。また、組織の パフォーマンスアナリティクス 実装についても理解しておく必要があります。パフォーマンスアナリティクス のエキスパートでない場合は、組織内からそのようなエキスパートに問い合わせることを検討してください。このエキスパートは、プロアクティブアナリティクストリガーの組織のユースケースを特定できます。その後、それを自身で実装できます。フローをテストするだけの場合でも、このエキスパートはフローをテストする適切なインジケーターを特定できます。

- プラットフォームアナリティクス サブスクリプションのアクティブ化「パフォーマンスアナリティクス サブスクリプションのアクティブ化」を参照してください。
- 関連する パフォーマンスアナリティクス インジケーター (KPI) と KPI シグナルを選択します。
- スケジュール [sys_trigger] からプロアクティブアナリティクストリガー定義アクティベーションジョブを実行します。

必要なロール：admin または flow_designer

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ワークフロースタジオ のホームページから [新規] > [フロー] を選択します。
3. フロー プロパティを定義します。
   詳細については、「ワークフロースタジオ でのフローの作成」を参照してください。
4. [トリガー] セクションで、トリガーを追加し、[プロアクティブなアナリティクス] を選択します。
5. [プロアクティブアナリティクストリガー] で、トリガータイプを選択します。

プロアクティブアナリティクストリガーのタイプ	説明
予測ターゲット経過	KPI ターゲットを達成できない可能性があるときにフローを開始します。
予測しきい値違反	KPI しきい値に違反する可能性があるときにフローを開始します。
シグナル生成済み	KPI インジケーターがシグナルを生成したら、フローを開始します。
ターゲット経過	KPI ターゲットを達成できないときにフローを開始します。
しきい値全期間	常に KPI しきい値の高い値または低い値に違反しているときにフローを開始します。
しきい値超過	KPI しきい値に違反したときにフローを開始します。

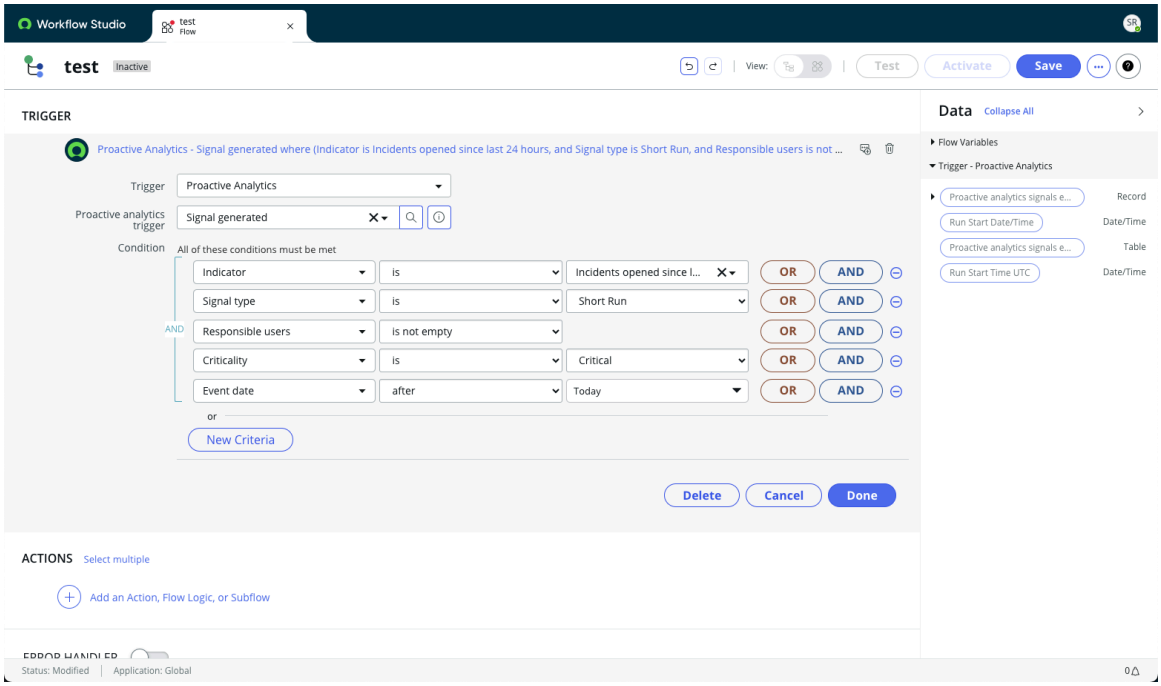
注: プロアクティブアナリティクスのオプションの詳細については、「ダッシュボードでのプロアクティブなアナリティクスインサイト」を参照してください。

6. [条件] で、フローを開始するために必要な KPI インジケーター、ターゲット、またはしきい値を選択します。
   条件のリストは、プロアクティブアナリティクスのトリガータイプによって異なります。条件ビルダーを使用して、必要に応じて条件を追加または削除できます。

   Example

   たとえば、[過去 24 時間に開始されたインシデント] インジケーターが短時間実行シグナルを生成したときにフローを開始します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



7. アクション、サブフロー、およびフローロジックをフローに追加します。

   Example
   たとえば、通知を送信したり、タスクを作成したりします。

8. フローをテストします。
   フローのテストの詳細については、「フローをテストする」を参照してください。

関連情報

パフォーマンスアナリティクス インジケーター

KPI シグナル

パフォーマンスアナリティクス ターゲットとしきい値

サービスカタログ トリガーを使用してフローを作成する

サービスカタログ アイテムが達成プロセスの自動化を要求されるとフローが開始されます。

https://player.vimeo.com/video/984477123?h=6189b3336b&badge=0&autopause=0&player_id=0&app_id=58479

始める前に

必要なロール：flow_designer または admin

このタスクについて

テーブル内のすべてのレコードで実行されるレコード トリガーとは異なり、サービスカタログ トリガーは、カタログ アイテムが特定のフローを実行するように設定されている場合に、特定のアイテムのすべてのカタログ アイテム要求で実行されます。たとえば、タブレットの要求が生じるたびに実行されるフローを定義できます。要求されたアイテムが、フロー トリガー レコードになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. カタログ アイテムをまだ作成していない場合は、フローに関連付けるカタログ アイテムを作成します。

   a. [サービスカタログ] > [カタログ定義] > [アイテムの管理] に移動します。
   カタログ アイテム [sc_cat_item] テーブルが開きます。

   b. [新規] をクリックします。

   c. フィールドに入力します。
   カタログアイテムのフィールドの詳細については、「カタログアイテムの作成または編集」を参照してください。

   注: 後でフローにステージを追加する場合は、ステージが一緒に含まれているアイテムに関連付けられている既存のワークフローがないことを確認します。競合するステージによって、要求されたアイテムのステージ フィールドにレポートされるのを防ぐため、[ワークフロー] フィールドと [実行計画] フィールドの値をクリアーします。

2. カタログ アイテムに関連付けるフローを作成します。
   このフローがトリガーされると、カタログ アイテム要求が処理されます。

   a. [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。

   b. [+ 新規] > [新しいフロー]をクリックします。

   c. フロー プロパティを定義します。
   詳細については、「ワークフロースタジオ でのフローの作成」を参照してください。

   d. [トリガー] セクションで、トリガーを追加し、[サービスカタログ] を選択します。

   注: サービスカタログ トリガーは、トリガー条件の一部としてカタログ変数をサポートしていません。代わりに、フローの本体でカタログ変数を取得または作成します。

   e. オプション: フロー アクションでのみ使用可能なフロー固有のカタログ変数を作成します。
   「フローのサービスカタログ変数を作成する」を参照してください。

   f. アクション、サブフロー、およびフローロジックをフローに追加します。
   アクションによっては、カタログ アイテムを管理することができます。たとえば、「カタログ タスクの作成」アクションで、要求されたアイテム用のタスクを生成し、「カタログ変数の取得」アクションを使用して、フロー内のデータピルとしてカタログ変数にアクセスすることができます。「「カタログ タスクの作成」アクション」および「「カタログ変数の取得」アクション」を参照してください。

   g. オプション: 要求者に進行状況を報告するために、フローにステージを追加します。
   「フローおよびサブフローのステージ」を参照してください。

   h. フローをテストします。
   想定どおりに動作したら、フローを有効化します。詳細については、「フローをテストする」と「フローをアクティブ化する」を参照してください。

   注: フローが非アクティブまたは存在しないカタログ変数を参照する場合、そのフローは有効化できません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 作成したカタログ アイテムの [フロー] フィールドにフローを追加します。

   a. カタログ アイテムに移動します。

   b. [フロー] フィールドで、作成したフローを選択します。

      注: [フロー] フィールドには、サービスカタログ トリガーを持つフローのみが表示されます。

   c. [更新] をクリックします。

タスクの結果
カタログ アイテムが要求されると、関連付けられたフローがトリガーされ、アクションが実行されます。

次のタスク
カタログアイテムレコードを作成してインスタンスに展開します。

注: サービスカタログ レコードはグローバルスコープに作成されます。これらはソースコントロールまたはアプリケーションリポジトリ転送の一部ではなく、デフォルトの フローデザイナー 更新セットの一部でもありません。

SLA タスクトリガーを使用してフローを作成する

アクションプランとしてフローを実行するように、Service Level Agreement (SLA) の定義を構成します。

始める前に

- ガイド付きアプリケーションクリエーターでアプリケーションを設定して フローデザイナーコンテンツを保存します。
- 必要なロール：flow_designer または admin

このタスクについて
SLA タスクトリガーは、タスクレコードが Service Level Agreement (SLA) の定義の条件に一致した場合にのみ実行されます。たとえば、インシデントレコードが [優先度 **1** の解決 **(8** 時間)] の SLA 定義に一致するたびにフローを実行できます。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. **[+** 新規] > [新しいフロー]を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

フロープロパティフォーム

フィールド	説明
名前	フローを一意に識別する名前です。この名前からフローの内部名が計算されます。
アプリケーション	フローを作成するアプリケーションスコープ。デフォルトは「グローバル」です。
説明	フローの説明です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
保護	フローが読み取り専用の場合に指定する選択肢です。自分が所有するアプリケーションスコープでフローを作成する場合にのみ、値を選択できます。
実行方法	そのフローをシステムユーザーとして実行するか、セッションを開始したユーザーとして実行するかを指定するオプションです。フローをトリガーしたユーザーから更新を実行する必要がある場合は、セッションオプションを開始したユーザーを選択します。たとえば、現在のユーザーからのインシデントレコードに関するコメントや、承認者から送信された承認メールが必要な場合に、このオプションを使用します。フローのオプションとして実行を設定しても、子サブフローには適用されません。 フローを開始するユーザーとしてフローアクションが実行されます。フローをトリガーできるすべてのユーザーが、そのアクションを実行するために必要なセキュリティアクセス権を持っていることを確認します。開始ユーザーは、日時形式などのユーザー固有の設定も決定します。 **注:** 受信メールフローはこの設定を無視し、常にセッションを開始するユーザーとして実行されます。受信メールフローのアクセス制御をテストするには、典型的な受信メールユーザーを代理操作してフローを手動でトリガーします。

4. [送信] を選択します。
   [フローデザイナー] ページが表示されます。
5. [トリガーを追加する場合に選択] > [アプリケーション] > **[SLA** タスク]を選択します。
6. アクション、サブフロー、およびフローロジックをフローに追加します。
   [SLA パーセンテージタイマー] アクションを追加して、SLA に添付されたタスクレコードが特定の完了率に達した場合の処理を指定します。
7. フローをテストします。
   詳細については、「フローをテストする」と「フローをアクティブ化する」を参照してください。想定どおりに動作したら、フローを有効化します。
8. SLA 定義の作成

   a. [フロー] フィールドで、以前に作成した SLA タスクフローを選択します。

      注: [フロー] フィールドには、SLA タスクトリガーを持つフローのみが表示されます。

   b. [送信] をクリックします。

タスクの結果
SLA 定義の条件が true の場合、システムは指定された SLA タスクフローを実行します。

外部トリガーを使用したフローの作成

ベースシステムの外部トリガー定義を使用してフローを設定します。フローは、サードパーティシステムからのイベント駆動型外部トリガーに応答します。たとえば、サードパーティの問題追跡システムで問題が作成されるとフローを実行します。

始める前に
必要なロール：flow_designer または admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サブスクリプションが必要：この機能には、統合ハブのサブスクリプションが必要です。詳細については「法務スケジュール - 統合ハブ の概要」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [新規作成] > [フロー]を選択します。
3. [フロープロパティ] フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	フローを一意に識別する名前です。この名前からフローの内部名が作成されます。
説明	フローの説明です。
アプリケーション	フローを作成するアプリケーションスコープ。デフォルトは「グローバル」です。
保護	フローが読み取り専用の場合に指定します。 注: これは、[なし] と [読み取り専用] の 2 つの値を持つオプションのフィールドです。自分が所有するアプリケーションスコープ内にフローがある場合は、[読み取り専用] を選択します。
実行方法	そのフローをシステムユーザーとして実行するか、セッションを開始したユーザーとして実行するかを指定するオプションです。フローをトリガーしたユーザーから更新を実行する必要がある場合は、セッションオプションを開始したユーザーを選択します。たとえば、現在のユーザーからのインシデントレコードに関するコメントや、承認者から送信された承認メールが必要な場合に、このオプションを使用します。フローのオプションとして実行を設定しても、子サブフローには適用されません。 注: デフォルトでは、フローはセッションを開始するユーザーとして実行されます。 個人用の OAuth トークンを使用して実行できるフローを作成するには、セッションを開始するユーザーのオプションを選択します。フローを実行しているユーザーが個人用の OAuth トークンを持っていれば、そのトークンでフローが実行されます。個人用の OAuth トークンの作成の詳細については、「 OAuth 2.0 認証情報 」を参照してください。 セッションを開始したユーザーとしてフローを実行すると、ユーザーのアクセス制御ルール (ACL) 制限によりフローアクションが制限されます。フローをトリガーするユーザーによるフローアクションの実行が、セキュリティ制限によって妨げられることがないようにしてください。開始ユーザーによって実行されるフローも、日時形式などのユーザー固有の設定に従って実行されます。 注: 受信メールフローはこの設定を無視し、常にセッションを開始するユーザーとして実行されます。受信メールフローのアクセス制御をテストするには、典型的な受信メールユーザーを代理操作してフローを手動でトリガーします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ロールを使用して実行	フローを実行するロールです。[実行方法] が [セッションを開始するユーザー] に設定されている際にのみ、このオプションを利用できます。

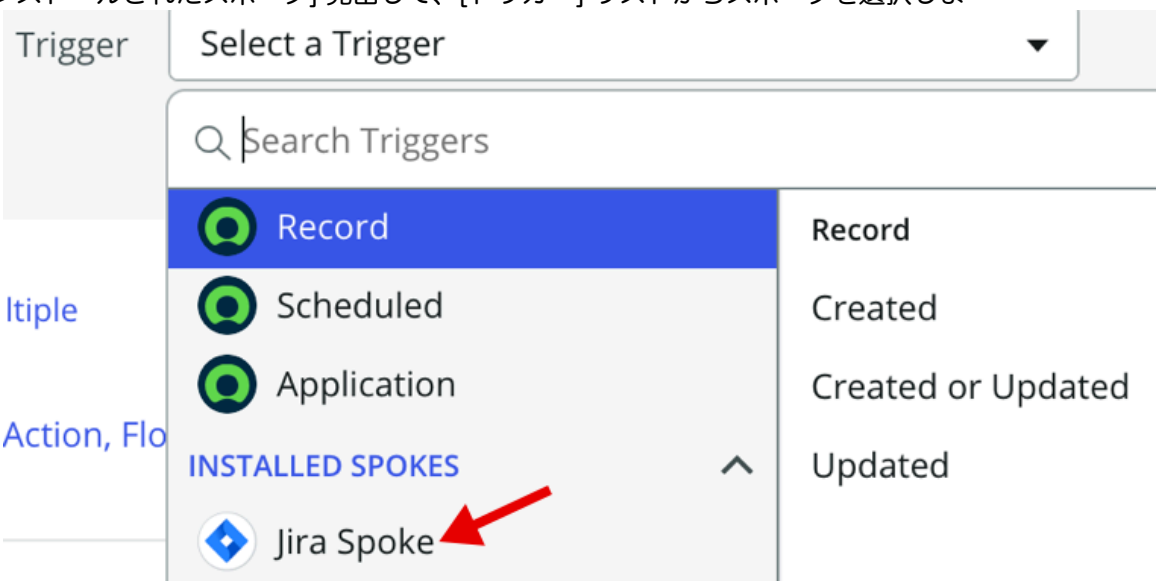
4. [送信] を選択します。

   注: フローデザイナー で初めて実行する場合は、ようこそ画面が表示されます。ウェルカムツアーを表示するか、スキップするかを選択できます。

5. フローにトリガーを追加します。
   保存済みの外部トリガーがある場合は、そのトリガーがｇインストール済みのサードパーティスポークの下に表示され、使用できます。必要に応じて条件を追加できます。「保存済み外部トリガーの作成」を参照してください。

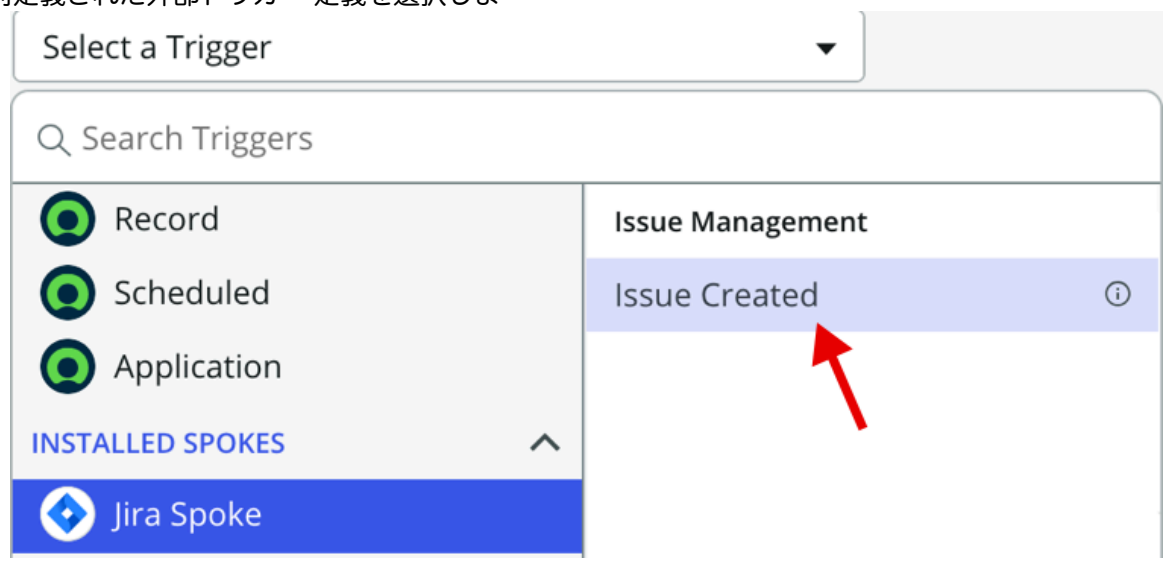
   a. [トリガー] セクションで [トリガーを追加] を選択します。

   b. [インストールされたスポーク] 見出しで、[トリガー] リストからスポークを選択しま



す。

   c. 事前定義された外部トリガー 定義を選択しま



す。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

外部トリガー定義の詳細については、「条件付きおよびイベント駆動型のインバウンド統合」を参照してください。

d. オプション: フローを実行する条件を定義するには、[条件 1] フィールドに適切なデータピルをドラッグして値を入力します。

e. [完了] を選択します。
トリガーが設定されました。

6. アクション、サブフロー、およびフローロジックをフローに追加します。
7. フローをテストします。
8. フローをアクティブ化します。
テストで目的の結果が返された場合は、フローをアクティブ化します。フローのテストおよびアクティブ化の詳細については、「フローをテストする」と「フローをアクティブ化する」を参照してください。

Now Assist を使用したフローの作成

生成 AI を使用して、テキストの指示からフローを作成します。

https://player.vimeo.com/video/1038315421?h=b6160313f5&badge=0&autopause=0&player_id=0&app_id=58479

始める前に

- 必要なロール：
  - admin、flow_designer、または委託開発者権限
  - now.assist.creator
- フロー生成スキルをオンにします。「フロー生成スキルをオンにする」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ワークフロースタジオ のホームページから [新規] > [フロー] を選択します。
3. **[Now Assist** を使用したビルド **(Build with Now Assist)]** タブを選択します。
4. フィールドに入力してフローをビルドします。

フィールド	説明
フロー名	フローを一意に識別する名前です。システムは、スペース文字をアンダースコア文字に置き換えることにより、フロー名を内部名に変換します。
Now Assist の指示 (Now Assist directions)	フローを作成するために Now Assist フロー生成スキルで使用されるテキスト。最初にフロートリガーとそのデータについて説明します。次に、すべてのアクションとフローロジックをフローに含める順序で記述します。最良の結果を得るため、できるだけ多くの詳細を含めます。
例をお試しください (Try an example)	[Now Assist の指示 (Now Assist directions)] フィールドに挿入する一連のテキストの例。指

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	示フィールドにテキストの例を挿入するにはこのオプションを選択します。各例は、フローアウトラインをビルドするための手順を示しています。例を試すと、以前に追加した指示テキストが上書きされます。元に戻すオプションとやり直しオプションを使用して、以前の指示に戻すことができます。
アプリケーション	フローを作成するアプリケーションスコープ。デフォルトは「グローバル」です。アプリケーションスコープによって、フローがアクセスできるデータと共有できるデータが決まります。 **重要:** フローのプレビューを生成した後に、フローのアプリケーションスコープを変更することはできません。

Now Assist 指示を記述するときは、次の一般的なガイドラインに従います。

常に最初にトリガーを説明する

最初にフロートリガーとそのデータ条件について説明します。トリガーの後に、アクションとフローロジックをフローに含める順序と同じ順序で記述します。

スペルミスをしないようにする

アクション、フローロジック、またはテーブルの名前のスペルを間違えないようにします。テーブル名を間違えないように、ハッシュタグの使用を検討してください。

要求は正確かつ詳細に記述してください

要求が正確でわかりやすいことを確認してください。フロートリガー、レコードデータ、アクション、およびフローロジックをできるだけ詳しく説明してください。

要求は簡潔で直接的なものにする

まず、フローを生成するかサブフローを生成するかを指定します。たとえば、「`Create a flow that`」というフレーズを使用してフローを生成します。フローの各ステップを順番に説明します。

アクション、フローロジック、テーブルを名前で参照する

指示の一部としてアクション、フローロジック、テーブル名を使用します。指示が実際の名前に近ければ近いほど、LLM はそれらを認識しやすくなります。たとえば、「`for each`」または「`do the following in parallel`」というテキストを使用して、それらの特定のフローロジックオプションを参照します。テーブル名には、ハッシュタグの使用を検討してください。

生成されたフローアウトラインを確認し、値を入力する

生成されたフローアウトライン内の各アクション、フローロジック、サブフローを確認します。生成された入力値を確認して、関連するデータ参照が含まれていることを確認します。

ハッシュタグを使用して特定のテーブルのデータを参照する

ハッシュタグを使用して、特定のテーブル名を選択します。ハッシュタグは、同一または類似の表示名を持つテーブル (ユーザー [sys_user] テーブルとユーザー [imp_user] テーブルなど) を区別する場合に特に役立ちます。

数字を使用して「次を並列で操作 (do the following in parallel)」フローロジックの分岐を区別する

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

数字を各並列分岐に追加します。たとえば、指示を「`When a P1 incident is created, do the following in parallel: 1. Log its short description and 2. Look up the user assigned to it and send an email`」とすれば、2 つの分岐があることが明確になります。

引用符を使用して正確な値を設定する

LLM が操作名とデータ値を区別しやすくするために、正確なデータ値を引用符で囲みます。たとえば、指示を「`Log the value, 'incident reopened'`」とすれば、「incident reopened」というテキストがデータ値であることが明確になります。

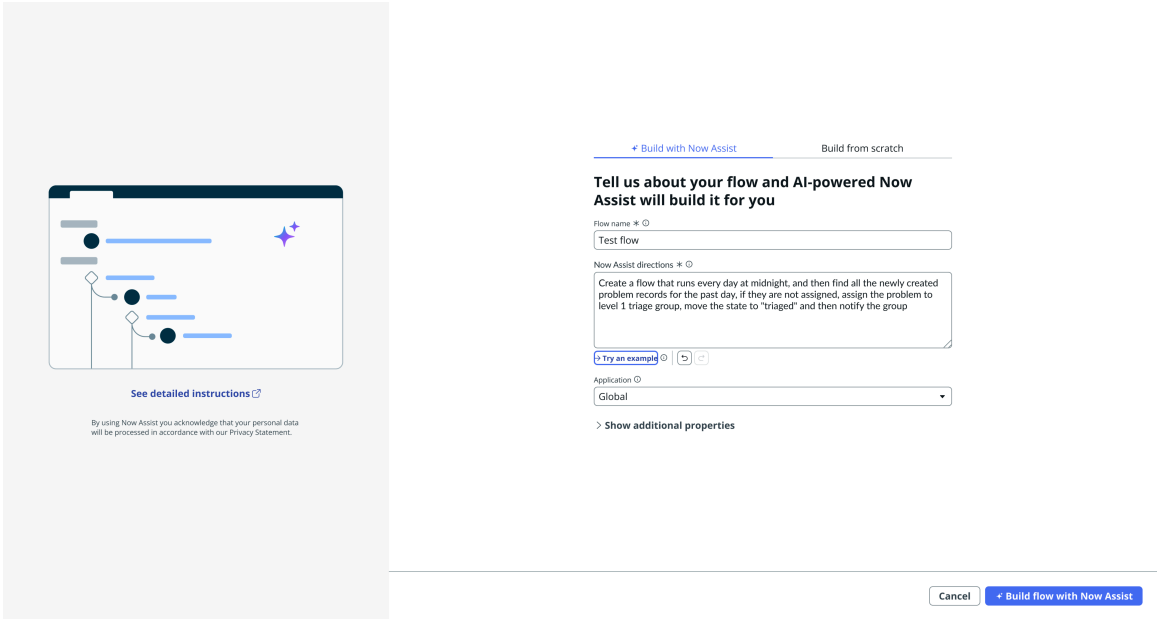
追加のプロパティを表示する

フィールド	説明
保護	フローが読み取り専用の場合に指定する選択肢です。自分が所有するアプリケーションスコープでフローを作成する場合にのみ、値を選択できます。
実行方法	そのフローをシステムユーザーとして実行するか、セッションを開始したユーザーとして実行するかを指定するオプションです。フローをトリガーしたユーザーから更新を実行する必要がある場合は、セッションオプションを開始したユーザーを選択します。たとえば、現在のユーザーからのインシデントレコードに関するコメントや、承認者から送信された承認メールが必要な場合に、このオプションを使用します。フローのオプションとして実行を設定しても、子サブフローには適用されません。 **注:** デフォルトでは、フローはセッションを開始するユーザーとして実行されます。 個人用の OAuth トークンを使用して実行できるフローを作成するには、セッションを開始するユーザーのオプションを選択します。フローを実行しているユーザーが個人用の OAuth トークンを持っていれば、そのトークンでフローが実行されます。個人用の OAuth トークンの作成の詳細については、「OAuth 2.0 認証情報」を参照してください。 セッションを開始したユーザーとしてフローを実行すると、システムはユーザーの ACL 制限によりフローアクションを制限します。フローをトリガーするユーザーによるフローアクションの実行が、セキュリティ制限によって妨げられることがないようにしてください。開始ユーザーによって実行されるフローも、日時形式などのユーザー固有の設定に従って実行されます。 **注:** 受信メールフローはこの設定を無視し、常にセッションを開始するユーザーとして実行されます。受信メールフローのアクセス制御をテストするには、典型的な受信メールユーザーを代理操作してフローを手動でトリガーします。
ロールを使用して実行	フローを実行するロールです。[実行方法] が [セッションを開始するユーザー] に設定されている際にのみ、このオプションを利用できます。 フローがデータにアクセスするために使用できる 1 つ以上のロールを追加できます。これらのロールはフローにのみ適用されます。たとえば、ITSM データにアクセスする必要があるフローに itil ロールを追加します。
フロー優先度のデ	デフォルトでこのフローが実行される優先度レベル。次のオプションが含まれます。 ◦ 低 ◦ 中 (デフォルト) ◦ 高

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

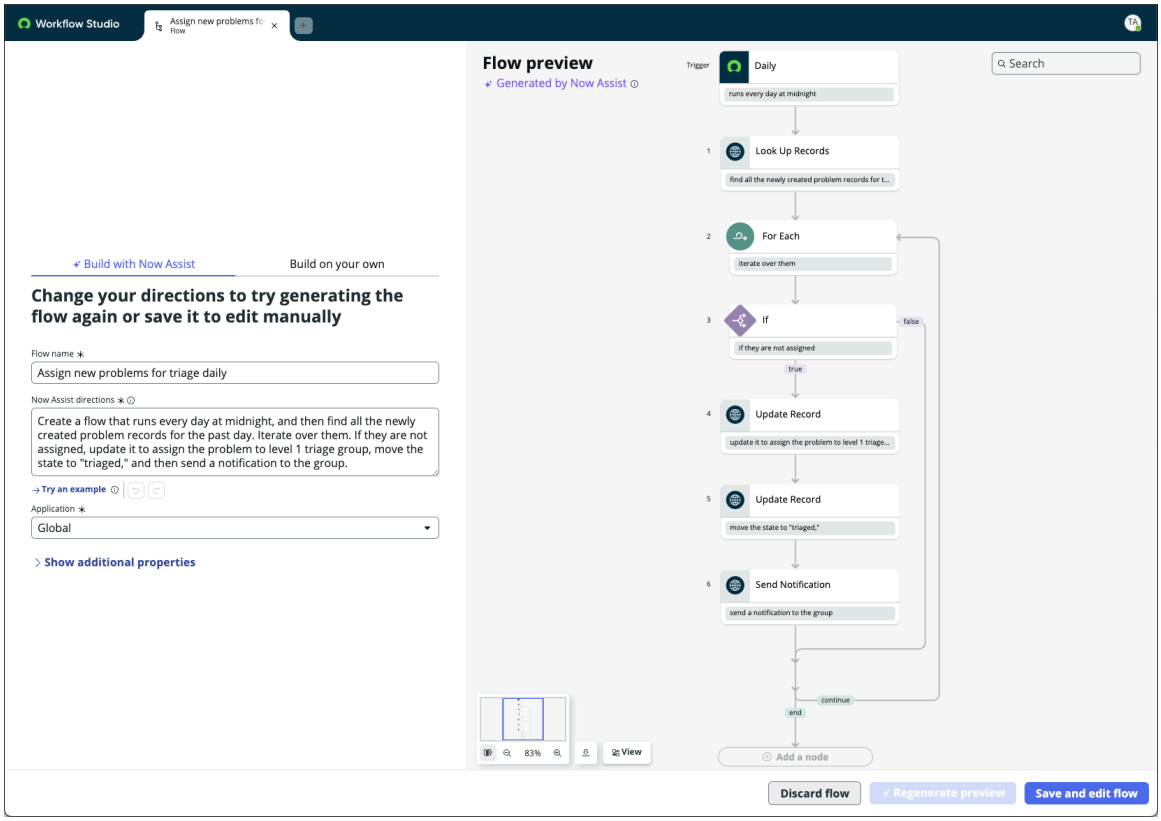
フィールド	説明
フォルト	フローの優先度レベルの詳細については、「フロー優先度」を参照してください。

5. オプション: 有効なフロー指示の例を挿入するには、[例をお試しください **(Try an example)]** オプションを選択します。
   オプションを選択するたびに、異なるフロー指示のテキスト例が挿入されます。選択できる指示の例は 3 つあります。それぞれの指示の例は、異なるタイプのフローを生成します。[例をお試しください (Try an example)] を選択すると、以前に追加した指示テキストが上書きされます。元に戻すオプションとやり直しオプションを使用して、以前の指示に戻すことができます。
6. **[Now Assist** を使用したフローのビルド **(Build flow with Now Assist)]** を選択します。



ワークフロースタジオはテキストの指示を使用してフローアウトラインをビルドします。成功すると、ワークフロースタジオによってダイアグラムビューにフローのプレビューが表示されます。フローの各ノードの下には、アイテムの生成に使用されるテキストの指示を示す注釈があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



7. オプション: 生成されたフロープレビューがニーズを満たさない場合は、[Now Assist の指示 (Now Assist directions)] を更新し、[フローの再ビルド **(Rebuild flow)**]を選択します。
フローをビルドまたは再ビルドするたびに、その操作は Now Assist サブスクリプションによって追跡されるアシストとしてカウントされます。Now Assist の使用状況を追跡するには、「サブスクリプション管理 での Now Assist 使用状況のモニタリング」を参照してください。
8. オプション: フローの作成を停止して ワークフロースタジオ ホームページに戻る場合は、[フローを破棄] を選択します。

> **重要:** ワークフロースタジオ はフローのプレビューを保存しません。フローを破棄すると、そのフローに関するすべての情報が失われます。

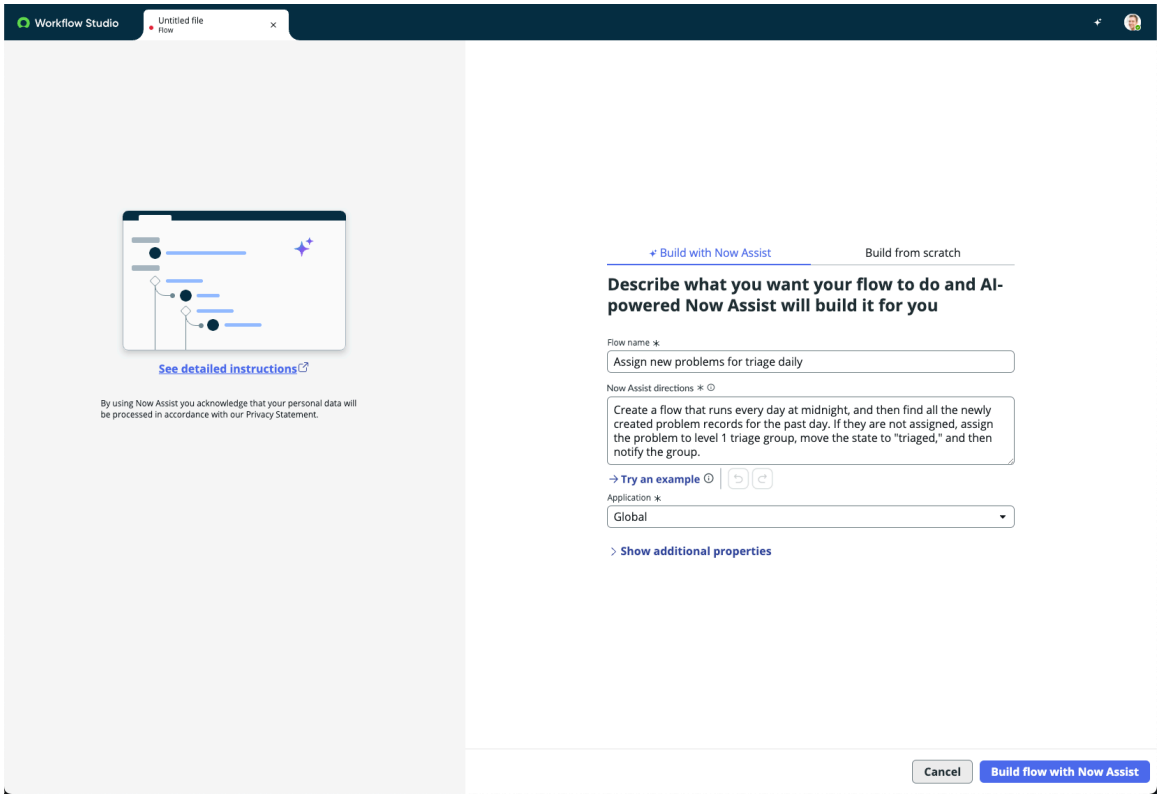
9. フローアウトラインを確認するには、[フローを保存して編集] を選択します。

> **注:** フローを開くことはアシストとしてカウントされません。

タスクの結果
Now Assist は、指定した名前でフローアウトラインを作成します。大規模な言語モデルで要求に一致するアクション、フローロジック、またはサブフローが見つからなかった場合は、代わりに 1 つ以上のプレースホルダーステップが追加されることがあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: スケジュールトリガーを使用してフローを作成する



これらのプロンプト値を使用して、スケジュールされたトリガーでフローを作成できます。

フロー名

新しい問題を毎日トリアージに割り当てる

Now Assist の指示 (Now Assist directions)

毎日深夜に実行するフローを作成し、過去 1 日に新しく作成されたすべての問題レコードを検索します。それらに対して反復します。それらがアサインされていない場合は、それを更新して、問題をレベル 1 トリアージグループにアサインし、ステータスを [トリアージ済み] に移行して、グループに通知を送信します。

次のタスク

- プレースホルダーステップを実際のアクションまたはサブフローに置き換えます。
- 適切なデータを使用するようにそれぞれのアクション、フローロジック、およびサブフローの入力を構成します。
- フローをアクティブ化する前にテストしてください。

ロールを使用したフローの作成

割り当てられたロールで実行されるフローまたはサブフローを作成します。ロールを割り当てることで、ユーザーのロールではなく独自のロールで実行される、ユーザー開始のフローを作成できます。

始める前に

必要なロール：flow_designer または admin

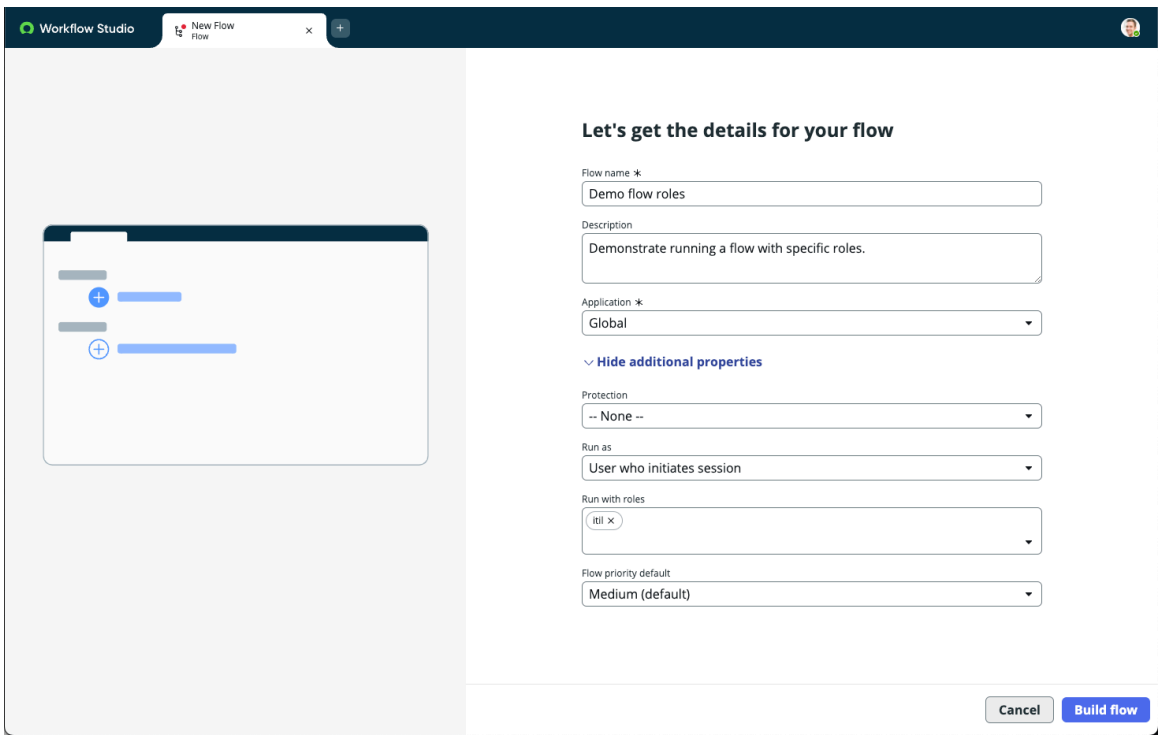
このタスクについて

ユーザーのロールではなく独自のロールで実行される、ユーザー開始のフローを作成します。フローへのロールの割り当ての詳細については、「フローロール」を参照してください。たとえば、インシデントや問題などの IT Service Management アプリケーションに属するデータにアクセスできるように、itil ロールでのフローの実行を許可します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. **[+** 新規] > [フロー]または**[+** 新規] > [サブフロー]をクリックします。
3. [フロープロパティ] フォームで、フローの [名前]、[アプリケーション]、および [説明] を定義します。
   詳細については、「ワークフロースタジオ でのフローの作成」を参照してください。
4. [追加プロパティ] セクションを展開します。
5. [実行方法] フィールドで [セッションを開始するユーザー] を選択します。
   [実行方法] フィールドで [システムユーザー] オプションが選択されている場合、ロールは選択できません。
6. [ロールを使用して実行します] フィールドで、フローの実行中に使用するロールを 1 つ以上選択します。



選択したロールで、ユーザーが通常持っているロールが置き換えられます。ロールを選択しない場合、フローはユーザーに通常関連付けられているロールで実行されます。

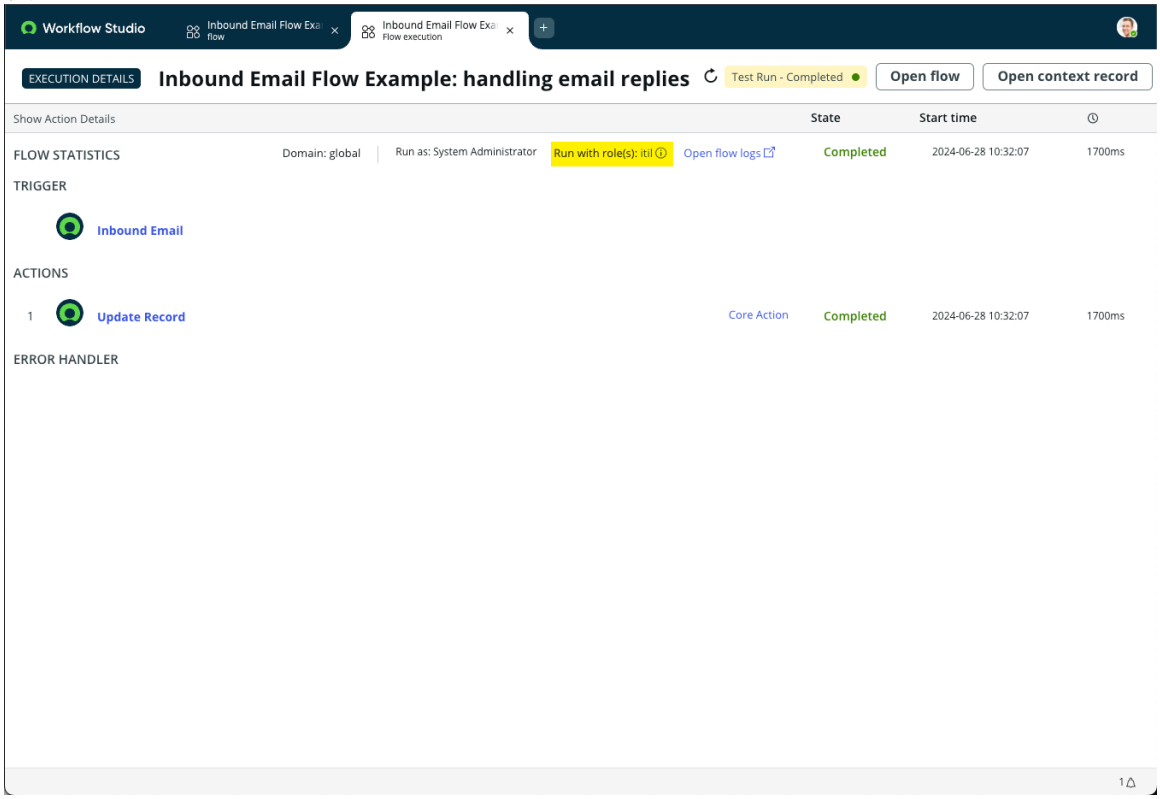
> **ヒント:** Explicit Roles プラグイン (com.glide.explicit_roles) を有効にしている場合は、snc_internal ロールをフローに追加します。

Example
たとえば、受信メールフローは通常、既存のユーザーとして実行されるか、既存のユーザーが存在しない場合はゲストユーザーとして実行されます。ゲストユーザーは、インシデントや問題などの IT Service Management データにアクセスできません。ロールを指定せずにフローを実行すると、フローがゲストユーザーの代わりに制限付きデータにアクセスしようとしたときに、アクセスエラーが発生する可能性があります。itil などのロールを使用してフローを実行すると、フローが必要なデータにアクセスできるようになります。

7. [フローを構築] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク



フローを有効化する準備ができるまで、フローをビルドしてテストします。フローのロールは、[フロープロパティ] フォームを更新することにより、いつでも変更できます。

フローのサービスカタログ変数を作成する

特定の サービスカタログ フローにのみ利用可能な サービスカタログ 変数を作成します。フロー固有の変数は、フロー内のカタログタスクおよびアクションで使用できます。

始める前に

必要なロール：flow_designer または admin

このタスクについて

フローの サービスカタログ 変数は、[カタログタスクの作成] アクションと [カタログ変数の取得] アクションの [カタログ変数] フィールドに表示されます。これらは「フロー:変数名」という形式で表示され、定義されているフローでのみ使用できます。

サービスカタログ のアクションの詳細については、「「カタログ タスクの作成」アクション」と「「カタログ変数の取得」アクション」を参照してください。

手順

1. サービスカタログ トリガーを持つフローを開くか作成します。
2. ･･･をクリックし、[フロー カタログ変数を管理] を選択します。
   フロー カタログ変数テーブルが開きます。
3. [新規] をクリックして、フローで使用できる新しい変数を追加します。
4. フォームに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

変数フォーム

フィールド	説明
アプリケーション	この変数を使用できるアプリケーションを示す読み取り専用フィールドです。
フィールドにマップ	レコードプロデューサーのテーブルの特定のフィールドに変数をマップします。 このフィールドが表示されるのは、変数がレコードプロデューサーに属する場合です。
タイプ	作成する変数タイプ。詳細については「サービスカタログ変数のタイプ」を参照してください。
カタログアイテム	変数を使用したカタログアイテムです。
順番	変数がカタログアイテムのページに配置される順番です。変数は、上から下へ最小順序値から最大順序値まで編成されます。たとえば、順序値が 1 の変数は、順序値がより大きいその他の変数の上に配置されます。
アクティブ	変数を使用可能にするためのチェックボックスです。
必須	変数を注文プロセスの一部として必須にするためのチェックボックスです。 注: この動作はページのロード時にのみ適用されて、クライアント API から変更できます。
読み込み専用	変数を読み込み専用または編集可能にするオプション。
非表示	変数を非表示にするオプション。
一意	複数行の変数セット内でこの変数の値の重複を禁止するオプション。 注: ◦ このフィールドは、複数行の変数セットで作成された変数に対してのみ表示されます。 ◦ この動作は、Now Platform、サービスポータル、および エージェントワークスペース の変数エディターでのみ適用できます。
選択する必要があります	ユーザーにチェックボックス変数を選択するように要求するためのチェックボックスです。たとえば、このオプションを使用して、ユーザーに合意フォームの **[I agree]** (同意します) チェックボックスをオンにするように要求します。ユーザーがチェックボックスを選択せずに契約フォームを送信しようとすると、チェックボックスをオンにする必要があることをユーザーに伝える警告メッセージが表示されます。
グローバル	これを選択した場合、デフォルトではサービスカタログワークフローまたは実行計画内のすべてのカタログタスクで変数を使用できます。この選択を解除した場合、変数を個々のカタログタスクに関連付ける必要があります。
フィールド	変数がマップされるフィールドです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	このフィールドが表示されるのは、変数がレコードプロデューサーに属する場合です。
レコードプロデューサーテーブル	レコードプロデューサーがレコードを作成するテーブルです。 このフィールドが表示されるのは、変数がレコードプロデューサーに属する場合です。
質問	
質問	ユーザーにカタログアイテムの注文を尋ねる質問です。
名前	質問を識別するための名前です。 **注:** このフィールドが空の場合、その値は、ブレーク、コンテナ分割、コンテナ終了を除くすべての変数タイプの [質問] フィールドに基づいて自動的に設定されます。
ツールヒント	ユーザーが変数を指したときに表示されるツールチップのテキストです。簡潔なメモを入力して「質問」の目的を説明します。
サンプルテキスト	ユーザーが値を入力する前に質問フィールドに表示されるヒントです。 次の変数に適用されます。 ◦ IP アドレス ◦ メール ◦ URL ◦ 1 行テキスト ◦ ワイドな 1 行テキスト ◦ 複数行テキスト ◦ 日付 ◦ 日付/時刻
リッチテキスト	カタログアイテムフォームに表示される書式設定されたラベル。 リッチテキストラベル変数に適用できます。
注釈	
ヘルプ表示	選択すると、変数のヘルプテキストと指示が表示されます。 **注:** ◦ これは、ブレーク変数とチェックボックス変数では使用できません。 ◦ ヘルプテキストと指示は、変数セットには使用できません。
常に展開	これを選択した場合、デフォルトではカタログアイテムページのロード時に [ヘルプテキスト] と [説明] フィールドの値が展開されます。 このチェックボックスが表示されるのは、[ヘルプ表示] チェックボックスをオンにした場合です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: ◦ また、このフィールドはサービスポータルにも適用されます。 ◦ このフィールドは、ワークスペースの変数エディターとカタログアイテム UIB コンポーネントでは適用できません。 ◦ カタログアイテムレベルで [すべての質問のヘルプを展開] チェックボックスがオンになっている場合、変数レベルの [常に展開] フィールド設定が上書きされます。 ◦ カタログアイテムレベルで [すべての質問のヘルプを展開] チェックボックスがオフの場合は、変数レベルで [常に展開] フィールド設定が適用されます。
ヘルプタグ	[常に展開] チェックボックスをオフにした場合は、このフィールドで指定された値をクリックして、[ヘルプテキスト] と [説明] フィールドの値を表示します。 このフィールドは、ワークスペースの変数エディターとカタログアイテム UIB コンポーネントでは適用できません。
ヘルプテキスト	サービスカタログ変数のヘルプ情報です。 このフィールドは、Now Platform、サービスポータル、およびワークスペースの変数エディターとカタログアイテム UIB コンポーネントで適用できます。 ただし、ワークスペースとカタログアイテム UIB コンポーネントでは、ヘルプテキストまたは指示のいずれかを表示できます。指示とヘルプテキストの両方が利用可能な場合は、指示のみを表示できます。 このフィールドは、ブレーク、チェックボックス、コンテナ終了、コンテナ分割、マクロ、および UI ページの変数には適用されません。ワークスペースとカタログアイテム UIB コンポーネントでは、このフィールドをマスク済み変数に追加で適用することはできません。
説明	ヘルプ情報をサポートするためにリッチテキストの書式設定または画像の追加が必要な情報です。 このフィールドは、Now Platform、サービスポータル、およびワークスペースの変数エディターとカタログアイテム UIB コンポーネントで適用できます。 ただし、ワークスペースとカタログアイテム UIB コンポーネントでは、ヘルプテキストまたは指示のいずれかを表示できます。指示とヘルプテキストの両方が利用可能な場合は、指示のみを表示できます。 ワークスペースとカタログアイテム UIB コンポーネントでは、このフィールドをマスク済み変数に追加で適用することはできません。 注: HTML テーブルの場合、変数の幅以内のサイズを使用してください。
タイプ仕様 (このセクションのフィールドは変数タイプごとに異なります)	
変数の幅	カタログアイテムページの変数の幅です。画面サイズの何パーセントに及ぶかを指定します。詳細については、「サービスカタログ変数のデフォルト幅を設定する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	このフィールドは、ブレーク、コンテナ終了、コンテナ開始、コンテナ分割、コンテナレイアウト、ラベル変数を除くすべての変数タイプに表示されます。
[追加要求] の有効化	複数のユーザーに対してカタログアイテム要求を送信できるようにするオプション。このオプションを選択すると、[追加要求 **(Also request for)]** フィールドが要求元変数とともにカタログアイテムに表示されます。 ◦ この機能は サービスポータルでのみ適用できます。 ◦ このフィールドは、要求元変数にのみ適用できます。 委任された要求エクスペリエンスについては、「委任された要求エクスペリエンス」を参照してください。
[追加要求] を使用するロール	複数のユーザーにカタログアイテム要求を送信できるロールを指定するオプション。 ◦ この機能は サービスポータルでのみ適用できます。 ◦ このフィールドは、要求元変数にのみ適用できます。 ◦ このフィールドは、[追加要求の有効化 **(Enable also request for)]** チェックボックスがオンになっている場合にのみ表示されます。 **注:** ロールが指定されていない場合は、カタログアイテムにアクセスできるすべてのユーザーが要求を送信できます。 委任された要求エクスペリエンスについては、「委任された要求エクスペリエンス」を参照してください。
選択肢の表示方向	選択リストが配置される方向です。 ◦ [交差]：選択肢を水平に配置します。 ◦ [下]：選択肢を垂直に配置します。 このフィールドは、複数選択肢のルックアップの変数に表示されます。 **注:** 選択した方向は、サービスポータルにも適用されます。
選択肢フィールド	変数のオプションを設定するためのテーブルフィールドです。フィールドに選択肢が定義されていない場合、変数によってテーブルからフィールド関連の個々の値がロードされます。 このフィールドは、選択ボックス変数に表示されます。
選択肢テーブル	[選択肢フィールド] に値を設定するためのテーブルです。 このフィールドは、選択ボックス変数に表示されます。
第一選択肢をデフォルト選択しない	カタログアイテム ページで変数のすべてのオプションをクリアするためのチェックボックスです。 このチェックボックスをオンにした場合、変数の第一選択肢がデフォルト選択されます。 このフィールドは、複数選択肢変数および数値スケール変数に表示されます。
ダイナミック参照修飾子	ダイナミック修飾子です。参照フィールドに対してクエリを実行する動的フィルターを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	このフィールドは、[参照修飾子を使用] が [ダイナミック] に設定されている場合の参照変数に表示されます。
なしを含む	選択肢のリストに [なし] オプションを含めるためのチェックボックスです。 このフィールドは、複数選択肢のルックアップ、選択ボックスのルックアップ、複数選択肢、および選択ボックスの変数に表示されます。
レイアウト	列が 1 つであるか、2 つであるかのコンテナのレイアウトです。 このフィールドは、コンテナ開始変数に表示されます。
リストテーブル	リストコレクタの値を含む表です。このテーブルには表示列を指定する必要があります。 このフィールドは、リストコレクター変数に表示されます。
テーブルからルックアップ	ユーザーが選択する値を取得するテーブルです。このテーブルの値は、[ルックアップ値フィールド] に入力されます。 このフィールドは、複数選択肢のルックアップの変数と選択ボックスのルックアップの変数に表示されます。
ルックアップ値フィールド	変数のオプションを設定するルックアップテーブルのフィールドです。 このフィールドは、複数選択肢のルックアップの変数と選択ボックスのルックアップの変数に表示されます。
ルックアップラベルフィールド	オプションの表示に値を使用するルックアップテーブルのフィールドのカンマ区切りリストです。 このフィールドは、複数選択肢のルックアップの変数と選択ボックスのルックアップの変数に表示されます。
ルックアップ価格フィールド	注文されるアイテムの価格の変更に値を使用するルックアップテーブルのフィールドです。 このフィールドは、複数選択肢のルックアップの変数と選択ボックスのルックアップの変数に表示されます。
繰り返し発生する料金のルックアップ用フィールド	注文されるアイテムの繰り返し発生料金の変更に値を使用するルックアップテーブルのフィールドです。 このフィールドは、複数選択肢のルックアップの変数と選択ボックスのルックアップの変数に表示されます。
マクロ	カタログアイテムに挿入する UI マクロ です。 このフィールドは、マクロ、ラベル付きマクロ、および UI ページの変数に表示されます。
サマリーマクロ	これは、マクロ、およびラベル付きマクロタイプの変数にのみ適用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ウィジェット	これは、マクロ、およびラベル付きマクロタイプの変数にのみ適用されます。
選択した場合、価格	アイテムの価格です。 このフィールドは、チェックボックス変数に表示されます。
選択した場合、繰り返し発生する料金	ユーザーがアイテムについて複数の注文を要求した場合に、アイテムに対して増加する価格です。 このフィールドは、チェックボックス変数に表示されます。価格および繰り返し発生料金の詳細については、「価格セットアップの変数の使用」を参照してください。
参照	変数の参照テーブル。このテーブルには表示列を指定する必要があります。 このフィールドは、参照変数に表示されます。
参照修飾子	フィールドで使用可能なデータを制限する修飾子。 参照修飾子と高度な修飾子をサポートします。詳細については、「参照修飾子」を参照してください。 一致するすべての結果を返します (上限なし)。 注: セキュリティ上の理由から、[参照修飾子] フィールドでのスクリプトの使用は、**[Allow javascript in Default Value]** (デフォルト値で Javascript を許可) ビジネスルールによってシステムアドミニストレーターに制限されています。 このフィールドは、リストコレクター、複数選択肢の検索、選択ボックスの検索、参照、要求元の各変数に表示されます。 これは、[参照修飾子を使用] が [ダイナミック] に設定されている場合の参照変数に表示されます。
参照修飾子の条件	条件をビルドするためのオプションです。 このフィールドは、[参照修飾子を使用] が [簡易] に設定されている場合の参照変数に表示されます。
スケール最大値	変数に使用可能なオプションのスケールで最も大きい値です。 このフィールドは、数値スケール変数に表示されます。
スケール最小値	変数に使用可能なオプションのスケールで最も小さい値です。 このフィールドは、数値スケール変数に表示されます。
一意の値のみ	フィールドに一意の値を要求するためのチェックボックスです。このチェックボックスをオンにした場合、2 つのレコードでそのフィールドの値を同じにすることはできません。 このフィールドは、複数選択肢のルックアップ、選択ボックスのルックアップ、および選択ボックスの変数に表示されます。
確認を使用	ユーザーにデータを再入力して各自のエントリを確認するように求めるためのチェックボックスです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	このフィールドは、マスクされた変数に表示されます。
暗号化を使用	回答を暗号化形式でデータベースに保存するためのチェックボックスです。暗号化されない場合、回答はプレーンテキスト形式で保存されます。暗号化では、システム暗号化とともに Triple DES を使用します。 このフィールドは、マスクされた変数に表示されます。
参照修飾子を使用	使用する修飾子のタイプです。 このフィールドは、参照変数に表示されます。
検証用の正規表現	変数値を検証する正規表現です。このフィールドは、1 行テキストとワイドな 1 行テキストの変数タイプに対してのみ表示されます。 正規表現を定義するには、「変数に対する正規表現の定義」を参照してください。 注: ◦ また、このフィールドはサービスポータルにも適用されます。 ◦ 検証用の正規表現が設定されていても、max_length 属性値は有効です。 ◦ 正規表現検証エラーのあるカタログアイテムをウィッシュリストに追加することはできません。
変数の属性	変数の動作と制限を定義する属性。変数属性の詳細については、「サービスカタログ変数属性」を参照してください。
トピックブロック	仮想エージェント会話で同じ動作を再現するには、カスタム変数またはラベル付きカスタム変数で使用される、構成済みの UI マクロまたはウィジェットと同様のトピックブロックを指定します。 注: このフィールドは、「カスタム」および「ラベル付きカスタム」変数タイプでのみ使用できます。
デフォルト値	
デフォルト値	変数のデフォルト値です。
権限 このタブに読み込み、書き込み、または作成アクションのロールが指定されていない場合は、カタログ アイテムにアクセスできるすべてのユーザーが、ロールに関係なくこれらのアクションを実行できます。たとえば、[書き込みロール] フィールドにロールが指定されていない場合は、カタログ アイテムにアクセスできるすべてのユーザーが、変数エディタで変数値を編集できます。 次のロールのいずれにも一致しないロールを持つユーザーは、スクリプティングを使用しても変数値を設定できません。 これらのロールは、ラベル、ブレーク、コンテナ分割、コンテナ終了、マクロ、ラベル付きマクロ、および UI ページの変数では利用できません。	
読み込みロール	カタログアイテムまたはレコードプロデューサーの要求前後に変数を表示できるロールです。このフィールドで指定されたロールを持つユーザーのみが変数を表示できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
書き込みロール	カタログアイテムまたはレコードプロデューサーの要求後に変数エディターで変数を編集できるロールです。ユーザーがこのフィールドに指定されたロールを持っていない場合、変数は変数エディターで読み込み専用になります。
作成ロール	カタログアイテムまたはレコードプロデューサーの要求前に変数の値を作成できるロールです。ユーザーが指定されたロールを持っていない場合、カタログアイテムまたはレコードプロデューサーの要求前の変数は読み取り専用です。
可用性	
各所に表示	これを選択した場合、変数が、アイテムフォーム (アイテムを注文する前) 、VEditor (アイテムを注文した後)、およびアイテムの買い物かごビューに表示されます。
バンドルに表示	これを選択した場合、アイテムをバンドルに追加したときに変数が表示されます。
ガイドに表示	これを選択した場合、変数が注文ガイドに追加されたとき、または注文ガイドに含まれるカタログアイテムに追加されたときに表示されます。 **注:** 注文ガイドにあるアイテムおよび変数が多すぎる場合は、注文ガイドのロードパフォーマンスを改善するために、できるだけ多くのアイテムでこのチェックボックスをオフにすることを検討してください。
サマリーに表示	これを選択した場合、カタログアイテムの任意の変数サマライザーに変数が表示されます。 サービスポータルでは、RITM チケットページと [承認] ページに変数が表示されます。 Now Mobile では、変数は RITM レコードと承認レコードに表示されます。
対話型インターフェースから削除	カタログアイテムにアイテムを非対話型にする変数 (価格設定に関する変数など) がある場合は、チェックボックスをオンにしてカタログアイテムを対話型にします。 **注:** このオプションは、複数行の変数セット (MRVS) には適用されません。

5. [送信] をクリックします。

タスクの結果

フロー内の変数にアクセスするには、「カタログ タスクの作成」アクションまたは「カタログ変数の取得」アクションを追加します。

フローでのディシジョンテーブルの作成

ワークフロースタジオ でフローを作成するときに、ディシジョンテーブルの構造を作成します。フローからのデータを使用して、ディシジョンテーブルの入力、条件、および結果をすべて 1 つの便利なモーダルで作成します。

始める前に

必要なロール：admin、decision_table_admin、flow_designer、または委任開発者権限

このタスクについて

フローでディシジョンテーブルをインラインで作成すると、入力、条件、および結果を含むテーブルの構造のみが作成されます。実際の意思決定ルールを追加してテーブルを完成させるには、ディシジョンテーブルを独自のタブで開いて編集する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、[フロー] を選択します。
3. フローを選択します。
4. [アクション] の下で、[フローロジック] を選択します。
5. [意思決定] を選択します。
6. [意思決定ラベル] フィールドに、意思決定の一意のラベルを入力します。
7. [ディシジョンテーブル] フィールドで、[新しいレコードを作成] (+) アイコンを選択します。
   [ディシジョンテーブルを作成 (Create decision table)] モーダルの [プロパティを設定 (Set Properties)] ページに、フローから 2 つの編集可能なフィールドが入力されます。

   プロパティを設定

フィールド	説明
ディシジョンテーブル名	テーブルの一意の名前。この名前は意思決定ラベルから入力されます。
アプリケーション	ディシジョンテーブルが存在するアプリケーション。アプリケーションは、フローが含まれているアプリケーションに基づいて入力されます。

8. [次へ] を選択します。
9. [入力を追加] を選択して、ディシジョンテーブルに入力を追加します。
   入力は、ディシジョンテーブルが意思決定を行うために検索するデータのタイプを定義する変数です。フローでディシジョンテーブルを作成するときは、フロー内のデータから直接入力を追加できます。追加できる入力のタイプの詳細については、「ワークフロースタジオ に意思決定テーブルを作成」を参照してください。

   注: ディシジョンテーブルを開いて値を入力するときに、一部の入力を追加または調整する必要があります。

   - このディシジョンテーブルに参照タイプの入力を追加する場合は、ディシジョンテーブルを独自のタブで開くときにそれを行う必要があります。
   - このモーダルに選択肢タイプの入力を追加する場合、ディシジョンテーブルを独自のタブで編集し始めると、選択肢自体は表示されません。選択肢オプションは現在のスコープに基づいているため、手動で追加する必要があります。たとえば、タイプが [選択肢] の [優先度] フィールドを追加する場合、優先度のオプション ([低]、[中]、[高] など) は自動的に追加されません。ディシジョンテーブルを開いて値を入力するときに追加できます。

10. [次へ] を選択します。
11. [結果列を追加] を選択して、テーブルへの結果列の追加を開始します。
    結果は、特定の条件が満たされたときにディシジョンテーブルから返される出力です。
12. オプション: 選択した結果タイプに必要な構成を追加します。
13. [作成して開く **(Create and Open)**] を選択します。
    ディシジョンテーブルは、ワークフロースタジオ内の独自の統合タブで開きます。ここでは、入力または結果への [参照タイプ] フィルターの追加など、テーブルの任意の部分を編集できます。

    条件列は、対応する入力フィールドに基づいてディシジョンテーブルに追加されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

14. 条件列と結果値に意思決定ルールを追加して、ディシジョンテーブルを完成させます。
15. [保存] を選択します。
16. オプション: 元のフローで、意思決定をレビューおよびテストして、期待どおりの結果が生成されることを確認します。
17. [完了] を選択します。

フローのコピー

フローをコピーして新しい名前を付け、別のアプリケーションスコープに移動します。

始める前に

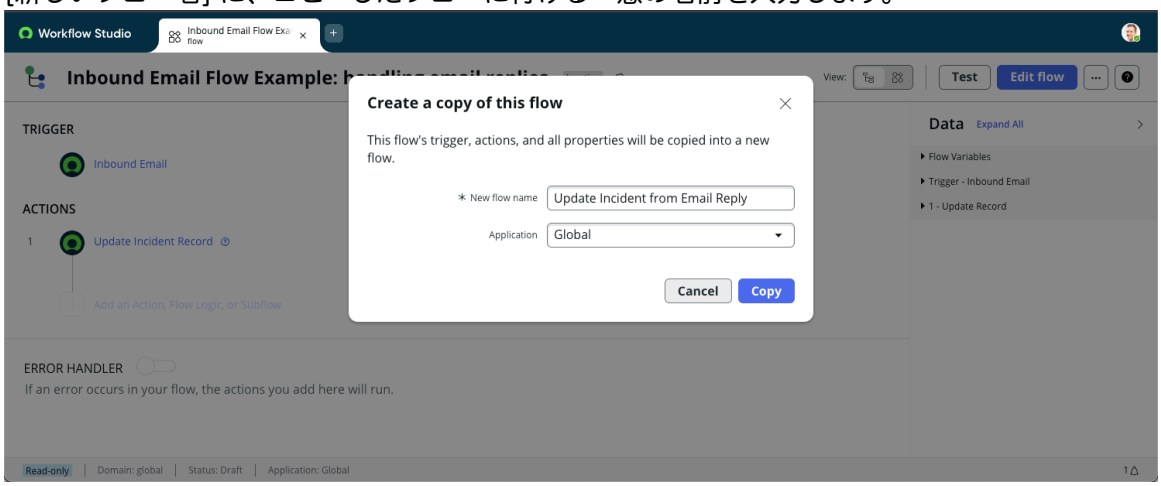
必要なロール：admin または flow_designer

このタスクについて

フローをコピーして新しい名前を付けたり、別のアプリケーションスコープに移動したりすることができます。新しいフローには、ソースフローと同じフロープロパティ、トリガー、アクション、およびフローロジックが含まれます。

手順

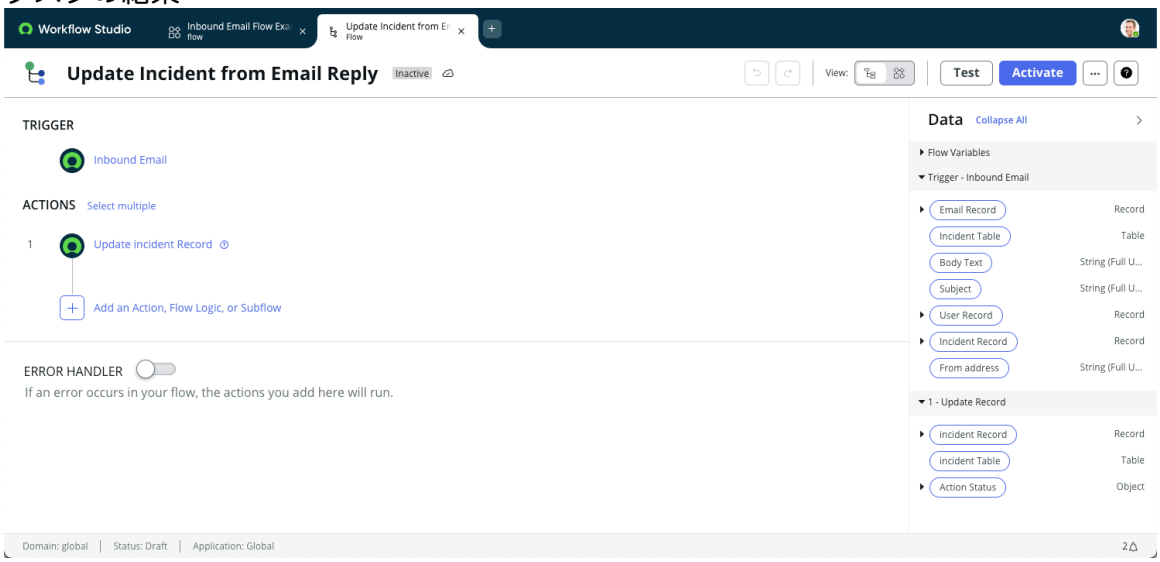
1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、[フロー] を選択します。
3. コピーするフローを開きます。
4. その他のアクションアイコン ( ) をクリックし、[コピーフロー] を選択します。
5. [新しいフロー名] に、コピーしたフローに付ける一意の名前を入力します。



6. オプション: [アプリケーション] から、フローをコピーするアプリケーションスコープを選択します。
7. [コピー] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果



ワークフロースタジオ で新しいフローが開きます。

アクションまたはサブフローの複製

フロー内でアクションまたはサブフローを複製します。

始める前に

必要なロール：admin または flow_designer

このタスクについて

この手順では、現在のフロー内のアクションまたはサブフローのみを複製できます。アクションを直接複製して、あるフローから別のフローに移動することはできません。フロー間でコンテンツを移動する必要がある場合は、次のいずれかの方法を使用できます。

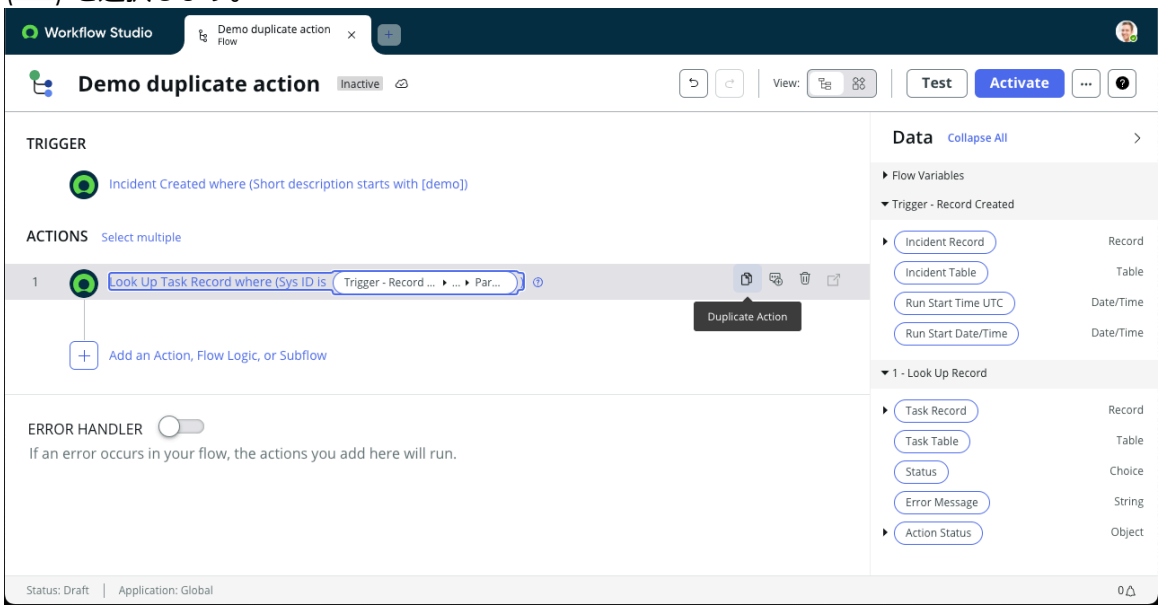
- フロー間で複製する値をハードコードするカスタムアクションを作成します。カスタムアクションの作成に関する詳細については、「ワークフロースタジオ でのアクションの作成」を参照してください。
- 現在のフロー内の 1 つ以上のアイテムをサブフローに変換します。複製されたコンテンツを必要とする各フローからサブフローを呼び出します。アイテムのサブフローへの変換に関する詳細については、「アイテムをサブフローに変換」を参照してください。

手順

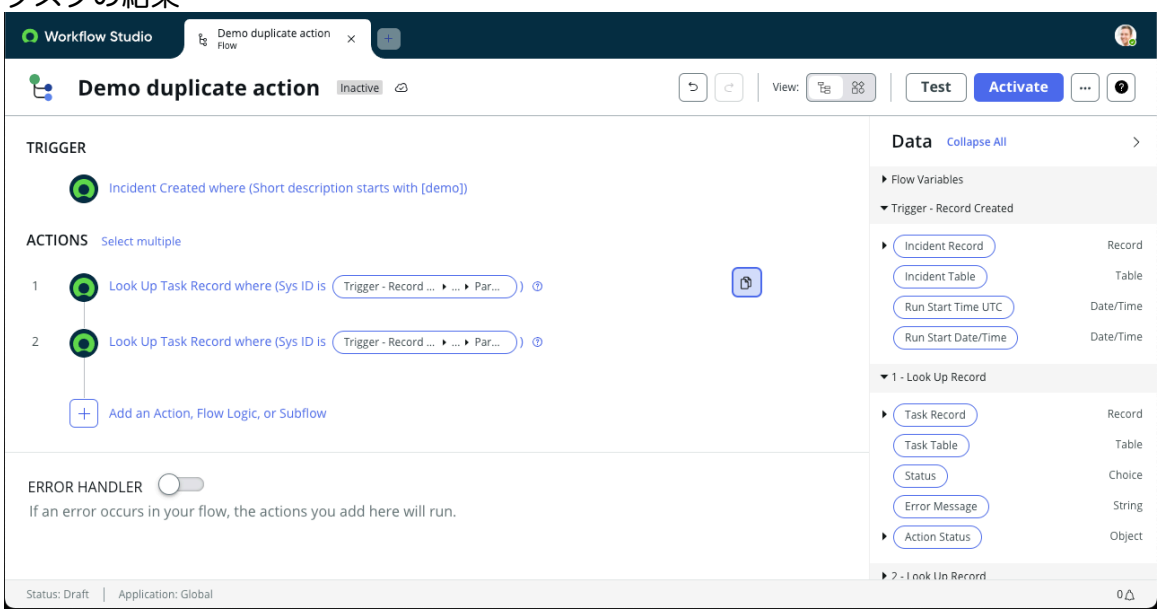
1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、[フロー] を選択します。
3. 複製するアクションまたはサブフローを含むフローを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [アクション] で、複製するアクションまたはサブフローをポイントし、アクションの複製アイコン ( ) を選択します。



タスクの結果



選択したアクションまたはサブフローの直下に複製されます。変換関数を含むすべての設定が、複製したアクションまたはサブフローにコピーされます。

フローをテストする

フローを有効化して他のユーザーがアクセスできるようにする前に、テストを実行して、想定どおりに機能することを確認します。

始める前に

必要なロール：flow_designer または admin

このタスクについて

フローをテストすると、フローのトリガー条件がバイパスされ、指定したテストデータでフローが実行されます。たとえば、レコード [作成済み] トリガーを使用してフローをテストすると、選択したレコードが作成されたかのようにシステムが動作します。トリガータイプごとに利用可能なデータピルのリストについては、「ワークフロースタジオ フロートリガータイプ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: フローをテストするとインスタンスでレコードが作成または変更されるため、フロー設計者は関連するデモンストレーションデータを含む非本番インスタンスのフローを常にテストする必要があります。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー]に移動し、テストするフローの行をダブルクリックします。
2. フローを保存します。
3. [テスト] を選択します。
   [テスト フロー] ダイアログが表示されます。[テストフロー] ダイアログの内容はトリガーのタイプによって異なります。
4. フローにレコードトリガーが含まれている場合は、テストに使用するレコードを作成または選択します。
   レコードを作成するには、[新しいレコードを作成] ボタン + を選択します。
5. フローにレコード [更新済み] あるいは [作成済みまたは更新済み] トリガーが含まれている場合は、更新時に変更されたフィールドと値を指定します。
   フィールド値の変更を指定するには、値を変更する各フィールドに対して [変更されたフィールドを新規作成 **(Create new changed field)]** ボタン [+] を選択します。変更された各フィールドで、変更されたフィールドの詳細を入力します。

フィールド	説明
フィールド名	テストで更新されたフィールド
前の値	更新前のフィールド値。
現在の値	更新後のフィールド値。
前の表示値	更新前のフィールド表示値。
現在の表示値	更新後のフィールド表示値。

6. [テストを実行] を選択します。

   注: フローをバックグラウンドで非同期的にテストするには、[バックグラウンドでテストを実行] オプションを選択します。

   フローがテストされます。
7. 次を選択します：テストの実行が終了しました。**(Your test has finished running.)** フロー実行の詳細を表示します。**(View the flow execution details.)**

   注: このリンクは、[バックグラウンドでテストを実行] オプションの選択に関係なく作成されます。[バックグラウンドでテストを実行] オプションを選択した場合、実行の詳細は、実行がバックグラウンドで非同期的に完了した後にのみ表示されます。また、実行の詳細は、実行が完了した後にのみフローに関連付けられます。

   テストのフロー実行の詳細が表示されます。

次のタスク
「フロー実行の詳細」を確認してください。

フローをアクティブ化する

フローをアクティブ化して、実行できるようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：flow_designer または admin

フローが期待した結果と出力を生成することをテストします。フローへの書き込みアクセス権があることを確認してください。

このタスクについて
フローが適切に実行されることをテストした後、フローをアクティブ化して実行できるようにします。トリガー条件が満たされたときまたはスクリプトによって呼び出されたときは、アクティブ化されたフローのみが実行されます。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [フロー] データピルフィルターを選択します。
3. 保存されたフローのリストからアクティブ化するフローを選択して開きます。
4. **[Activate** (アクティブ化)] を選択します。

   フローをアクティブ化するには、フローへの書き込みアクセス権が必要です。アクティブ化オプションは、さまざまな理由で非アクティブになる可能性があります。
   - フローは、アクセス権のない別のアプリケーションスコープに属している可能性があります。
   - フローを保護するために、フローが読み取り専用としてマークされる場合があります。
   - フローには、現在持っていない開発者権限が必要になる場合があります。

フローまたはアクションのデフォルトのタイトルの変更

スタイル付きおよび動的テキストを追加して、フロー、サブフロー、またはアクションのデフォルトタイトルを変更します。

始める前に
必要なロール：admin、flow_designer、または action_designer

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. フローデザイナー ランディングページで、[新規] をクリックし、リストから [フロー]、[サブフロー]、または [アクション] を選択します。
3. フローデザイナー メインヘッダーでその他のアクションアイコン ( ) をクリックします。
4. [デフォルトのタイトルを変更 **(Change default title)]** をクリックします。
5. [デフォルトのタイトルを変更 (Change default title)] 画面で、タイトルを入力します。

   a. スタイル付きタイトルを作成するには、次のオプションを任意に組み合わせて使用します。

テキストスタイル	新しいタイトルの入力例	フローデザイナー 環境での出力例
ボールド	*太字*タイトル	A **bold** title
斜体	_斜体_タイトル	An *italic* title

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テキストスタイル	新しいタイトルの入力例	フローデザイナー 環境での出力例
下線	~下線付き~タイトル	An underlined title
取り消し線	~~取り消し線付き~~タイトル	A strikethrough title
タイトル (太字および色付き)	#タイトル付き#タイトル	A titled title

b. データピルピッカー ( ) をクリックし、タイトルに含める入力、出力、アクション、またはアクションステップを選択して、入力、出力、アクション、またはアクションステップから動的に生成されたタイトルのテキストを追加します。

> 注: 入力または出力の [ラベル] フィールドに関連付けられている値がタイトルに表示されます。

6. [送信] をクリックします。

タスクの結果
アクションまたはサブフローのデフォルトのタイトルを変更すると、フローデザイナー 環境に新しいタイトルが表示されます。

保存済みトリガーの編集

ワークフロースタジオで保存済みトリガーを編集し、ビジネスニーズに応じてトリガー定義やその他のオプションを更新します。

始める前に
必要なロール：trigger_designer、flow_designer、または admin

このタスクについて
保存済みトリガーを編集して、トリガー定義の条件を更新できます。変更を公開する前に、トリガーを使用しているフローを確認します。必要に応じて、更新された条件がフローに影響を与えないように、フローからトリガーをデタッチできます。

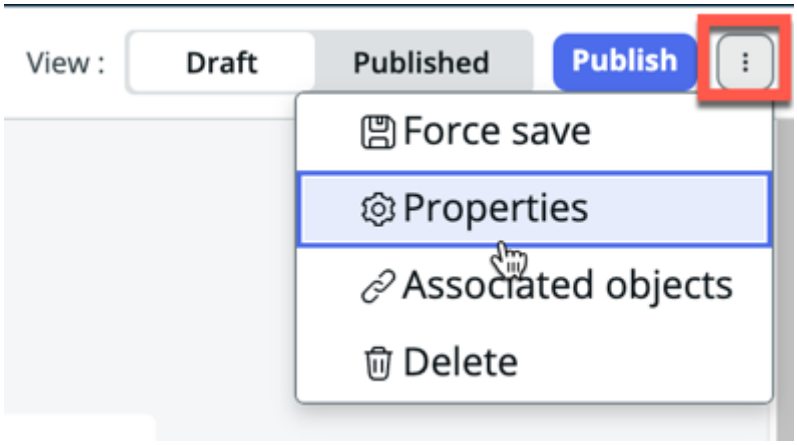
トリガータイプとテーブルは変更できません。

手順
1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. **[Triggers** (トリガー)] を選択します。
3. 編集するトリガーを選択します。
   ワークフロースタジオによって、トリガー定義が読み取り専用モードで開かれます。
4. [トリガーの編集 **(Edit trigger)]** を選択します。
5. トリガー条件または詳細オプションを更新します。

> 注: トリガーの使用中にユーザーが詳細オプションを変更した場合でも、そのオプションに加えた変更は、ユーザーが変更した設定には影響しません。トリガーフォームのフィールドに関する説明を表示するには、「保存済みトリガーの作成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. **[Publish** (公開)] を選択します。
7. トリガーを使用しているフローのリストから各フローを選択し、更新したトリガー定義がフローに対して有効かどうかを評価します。
8. 更新したトリガー定義がフローに対して有効でない場合は、フローからそのトリガーをデタッチします。
   トリガーをデタッチする方法については、「保存済みトリガーをフローからデタッチする」を参照してください。
9. [その他のアクションメニュー] アイコンを選択し、[プロパティ **(Properties)]** を選択して、トリガー名などのトリガープロパティを更新します。



10. [トリガープロパティ] ポップアップウィンドウで、必要に応じてプロパティを更新し、[更新] を選択します。
11. [公開] を選択して、更新したトリガーを使用できるようにします。

保存済みトリガーをフローからデタッチする

保存済みトリガーに関連付けられているフローのリストを表示し、いずれかのフローからデタッチします。フローに別の開始条件を指定する前、またはトリガーを削除する前に、保存済みトリガーをデタッチします。

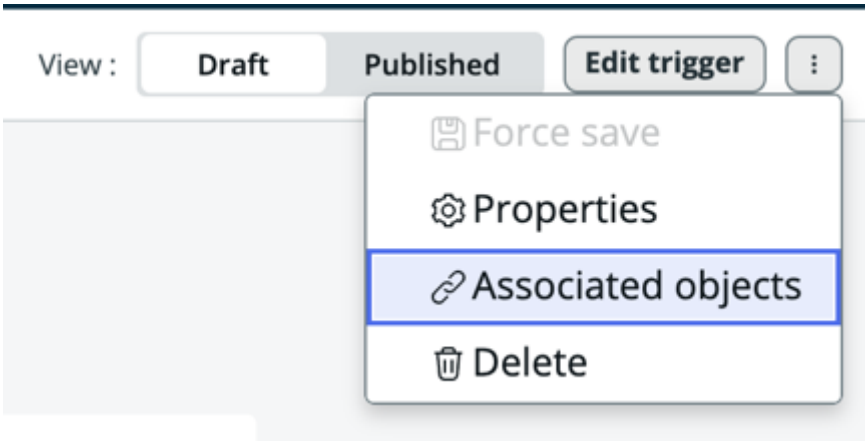
始める前に

必要なロール：trigger_designer、flow_designer、または admin

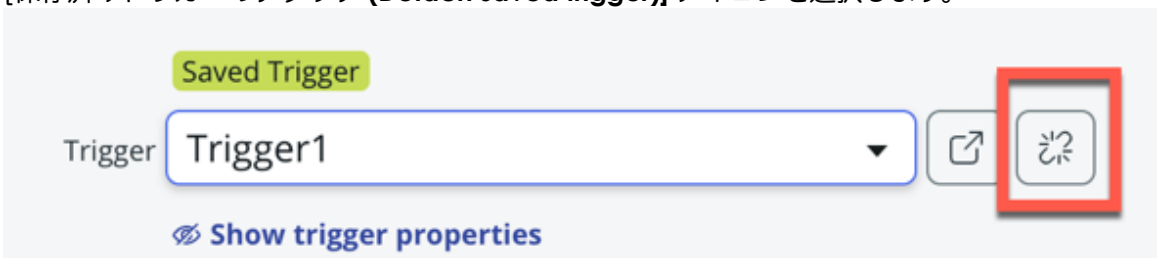
手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. **[Triggers** (トリガー)] を選択します。
3. トリガーのリストで、フローからデタッチするトリガーを選択します。
4. [その他のアクション] メニューアイコンを選択し、[関連オブジェクト **(Associated objects)]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. トリガーを使用しているフローのリストから、デタッチするフローを選択します。
6. **[Trigger** (トリガー)] ドロップダウンリストで、トリガー名を選択します。
7. [保存済みトリガーのデタッチ **(Detach saved trigger)]** アイコンを選択します。



8. [確認] ウィンドウで、[デタッチ] を選択します。
   ワークフロースタジオがトリガーをデタッチし、開始条件を保存済みトリガーからフローにコピーします。
9. [**Done**] を選択します。
10. [保存] アイコンをクリックしてフローを保存します。

フローを編集する

既存のフローを編集します。

始める前に

必要なロール：flow_designer または admin

このタスクについて

Washington DC リリースの時点では、フローを読み取り専用状態で開き、誤って変更されないように保護します。フローが読み取り専用状態のときは、レビュー、テスト、非アクティブ化、または編集要求のみを行うことができます。変更を加える前に、フローの編集を要求する必要があります。フローの編集中は、[完了] を選択して構成オプションを閉じるたびに、変更が自動的に保存されます。

注: フローデザイナーではフローの編集中に [保存] ボタンが表示されなくなりました。

手順

1. 編集するフローを開きます。
   必要に応じて、[すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー]に移動し、編集するフローを選択します。
   フローデザイナーはフローを読み取り専用状態で開きます。この状態では、編集、レビュー、テスト、または非アクティブ化を要求するオプションのみが表示されます。
2. [フローを編集する] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローデザイナーが他のユーザーが既にフローを編集用に開いているかどうかを確認します。フローが既に編集されている場合は、フローを編集しているユーザーの名前を示すメッセージが表示されます。フローが編集可能な場合は、編集可能な状態でフローを開きます。

3. 該当する操作を実行してフローを編集します。
フローの編集中は、[完了] を選択して構成オプションを閉じるたびに、変更が自動的に保存されます。フローが保存されるたびに、[インジケーターの保存] アイコンが更新されます。

オプション	説明
フロー名、説明、またはロールを変更する	メインヘッダーで [プロパティ] を選択し、該当するフィールドに適切な値を入力して [更新] を選択します。 **注:** 保存後にフローのアプリケーションスコープを変更することはできません。
トリガーを編集するには	フローでトリガーの説明を選択し、必要に応じてフィールドに入力して [完了] を選択します。 **注:** トリガーを変更すると、参照されているアクション構成が削除される可能性があります。
既存のアクションを編集するには	フローでアクションの説明を選択し、必要に応じてフィールドに入力して [完了] を選択します。
新しいアクションを追加するには	フローの最後にアクションを追加するには、[アクション] セクションのプラスアイコンを選択します。新しいフローにアクションを追加する場合と同様に続行します。 既存のフローにアクションを挿入するには、アクションを挿入するアクションアイコン間の縦線をポイントします。プラスアイコンが表示されたら、それを選択します。新しいフローに追加する場合と同様にアクションを追加します。 **重要:** フローデザイナーは、必須フィールド値が欠落しているアクション、フローロジック、またはサブフローの横にアスタリスク文字を表示します。アクション、フローロジック、またはサブフローを開いて、必須フィールド値を追加します。
最後の編集を元に戻すには	最後の変更を元に戻すには、[直前の操作を元に戻す] を選択します。 フローデザイナーでは、最後の 20 件の構成の変更が保存されます。レコードが作成される変更を元に戻すことはできません。たとえば、アクションをサブフローに変換すると、サブフローが作成されるので、それを元に戻すことはできません。[直前のアクションを元に戻す] を

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	複数回選択して、複数の変更を元に戻すことができます。 **重要:** 元に戻すオプションは、現在のユーザーセッション中にのみ使用できます。フロータブまたはフローデザイナーのブラウザータブを閉じると、現在のユーザーセッションが終了し、元に戻す操作の履歴が消去されます。
最後の元に戻す操作をやり直すには	最後に元に戻した変更を再び適用するには、[最後のアクションをやり直す] を選択します。 フローデザイナーでは、最後の 20 件の構成の変更が保存されます。[最後のアクションをやり直す] を複数回選択して、複数の変更を再び適用することができます。 **重要:** やり直すオプションは、現在のユーザーセッション中にのみ使用できます。フロータブまたはフローデザイナーのブラウザータブを閉じると、現在のユーザーセッションが終了し、やり直す操作の履歴が消去されます。

4. 変更を保存するには、フロータブを閉じます。
   アイテムを追加および編集すると、フローデザイナーで変更が自動的に保存されます。また、フローをテストまたは有効化するときにも保存されます。

保存済みトリガーの削除

不要になった保存済みトリガーを削除します。

始める前に

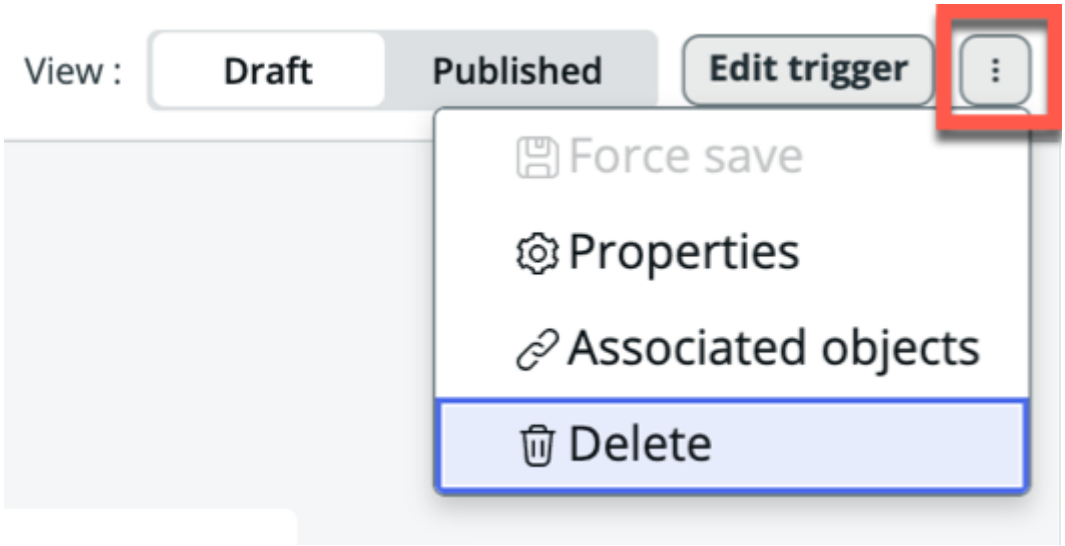
必要なロール：trigger_designer、flow_designer、または admin

トリガーは、そのトリガーを使用しているすべてのフローからデタッチする必要があります。保存済みトリガーのデタッチの詳細については、「保存済みトリガーをフローからデタッチする」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. **[Triggers** (トリガー)] を選択します。
3. 削除するトリガーを選択します。
4. [その他のアクション] メニューアイコンを選択し、[削除] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. トリガーがいずれかのフローに添付されている場合は、トリガーを使用しているフローのリストからフローを選択し、 [デタッチ] を選択し、トリガーをデタッチします。
6. ポップアップウィンドウで、[削除] を選択します。

フローを削除する

不要になったフローを削除します。

始める前に

必要なロール：flow_designer または admin

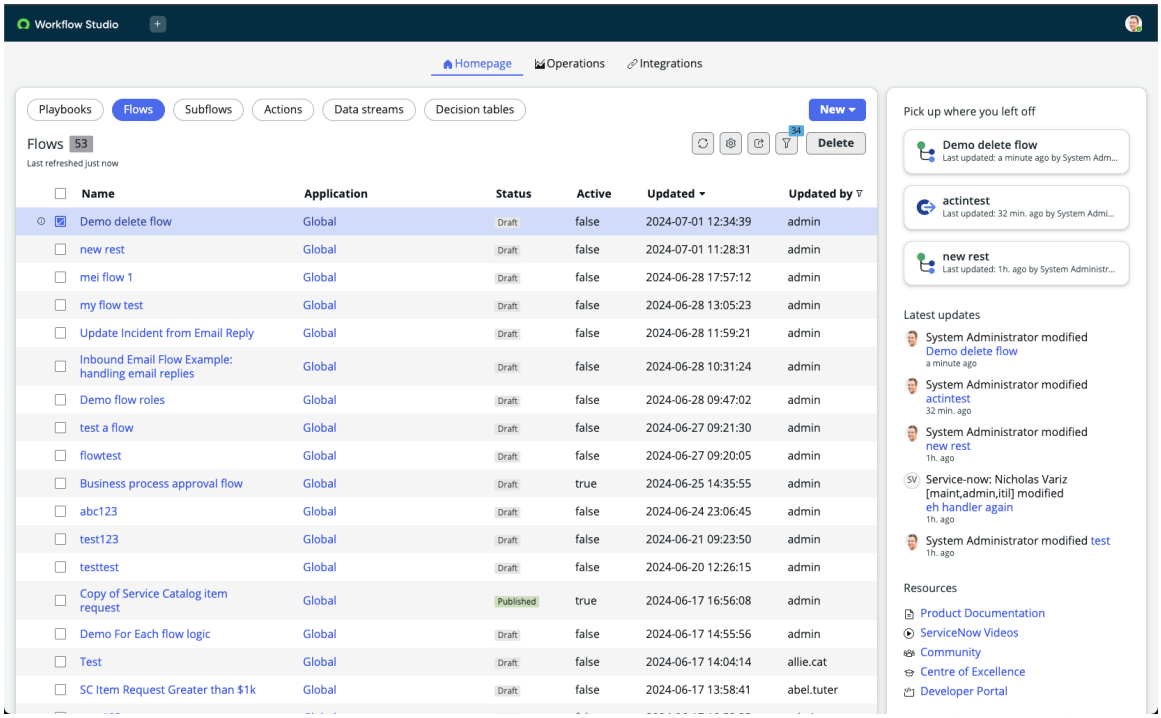
このタスクについて

現在のセッションと同じアプリケーションスコープにあるフローのみを削除できます。読み取り専用で保護されているフローは削除できません。インスタンスでドメインセパレーションを使用している場合は、グローバルスコープ内であることを確認してください。詳細については、「ドメインセパレーションと フローデザイナー」を参照してください。

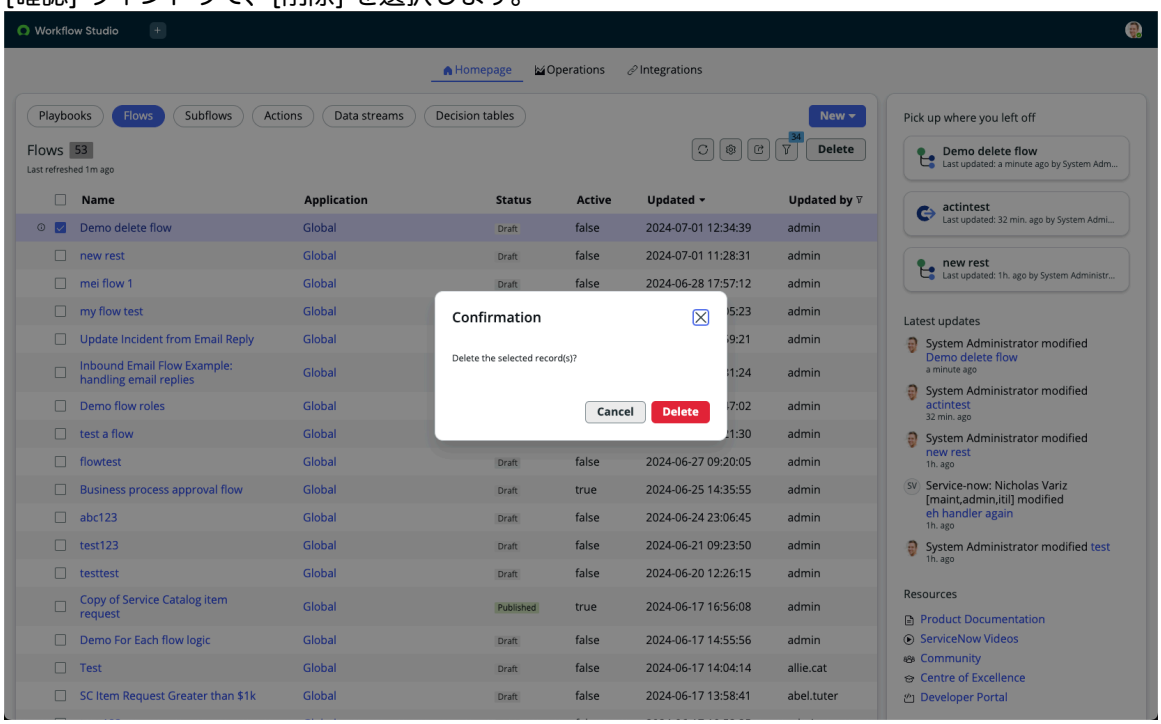
手順

1. オプション: 必要に応じて、削除するフローのアプリケーションスコープに変更します。
   アプリケーションスコープの変更に関する詳細については、「ネクストエクスペリエンスピッカーの詳細」を参照してください。
2. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
3. ホームページで、[フロー] を選択します。
4. フローのリストから、削除するフローの横にあるボックスを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. [削除] を選択します。
   削除オプションが使用できない場合は、間違ったアプリケーションスコープ内にいるか、フローが読み取り専用で保護されている可能性があります。
   ワークフロースタジオ に確認ウィンドウが表示されます。
6. [確認] ウィンドウで、[削除] を選択します。



タスクの結果
ワークフロースタジオ でフローが削除され、使用可能なフローのリストから削除されます。

テーブルに対して有効化されたフローを表示する

特定のテーブルで実行されるレコードベースのトリガーを持つフローを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin または flow_designer、およびデータテーブルを表示するために必要なロール。

手順

1. アクティブ化されたレコードベースのフローを表示するデータテーブルのリストビューに移動します。

   Example
   たとえば、インシデントレコードのリストを表示するには、`incident_list.do` に移動します。
2. リストビューから任意の列見出しを右クリックし、[設定] > [フローデザイナーフロー]を選択します。
   [フロー] テーブルが開き、指定したテーブルで実行されるようにアクティブ化されたすべてのレコードベースのフローが表示されます。

フローおよびサブフローのステージ

要求、フロー、またはサブフローの現在のステージをエンドユーザーと通信します。

ワークフロースタジオ でステージを設定するときは次の操作を実行できます。

- フローまたはサブフローにステージを追加します。
- ステージのラベルと名前を変更できます。
- ステージの見込み時間を構成できます。
- [Stage Set] テーブルから、事前に定義されたステージセットのコピーをインポートできます。ステージセットの詳細については、「ワークフローステージセット」を参照してください。このコピーにどのような変更を加えても、元のステージセットレコードには影響しません。

フローまたはサブフローのステージはフロー実行の詳細で確認できます。

ステージ フィールドにステージを表示する

ステージフィールドには、フローまたはサブフローの実行中に、ステージのステータスと特定のレコードの詳細が保存および表示されます。たとえば、サービスカタログ テーブルでは、[ステージ] フィールドを使用して、要求の処理の進行状況を示します。

ステージ フィールドには次のものが表示されます。

- フローをトリガーした特定のレコード、またはサブフロー入力として使用された特定のレコードのステージの詳細。たとえば、特定の サービスカタログ 要求アイテムの現在のステータスなどです。
- 関連するフローまたはサブフローで定義されたステージ名とステータス。関連付けられたフローから別のフローを呼び出す場合、子フローに設定されたステージは表示されません。
- 開始されたフローまたはサブフローからのステージの詳細。フローまたはサブフローがレコードに対して実行されていない場合、そのレコードにはステージフィールドの詳細が含まれません。

ステージ フィールドのステータス アイコンは変更できません。ステージの数と各ステージ名の長さを制限して、テキストやアイコンが複数の行に折り返されることがないようにしてください。

> **注:** テーブルごとに 1 つのステージ フィールドのみを追加してください。ステージ フィールドが複数ある場合は、テーブル ディクショナリー エントリーで定義されている最初のステージ フィールドからのステージのみが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ステージ フィールドとトリガー タイプ

ステージ フィールドへのフローの関連付けは、フローのトリガー タイプによって異なります。

フローのトリガー タイプ	要件
レコード	ステージフィールドがレコードベースフロー上のステージをレポートするためには、トリガーするレコードと同じテーブルにステージフィールドが存在していなければなりません。 フローにステージがある場合、フローデザイナーは、各ステージのステータスをトリガーとなるテーブルに戻して伝え、現在のステージのステータスをアイコンとして表示します。テーブルに複数のステージ フィールドが存在する場合は、テーブルの辞書定義で定義されている最初のステージ フィールドのみが使用されます。 **注:** 同じテーブルからトリガーする複数のフローのステージを作成することは避けてください。ステージ フィールドには、最後に実行されるフローのステージのみが表示されます。あるフローのステージが別のフローを上書きしないように、フローごとに異なる条件を追加してください。
サービスカタログ	サービスカタログトリガーを使用している場合、[フロー] フィールドを使用してフローを サービスカタログ アイテムに関連付ける必要があります。[ワークフロー] と [実行計画] フィールドを消去して、アイテムに関連付けられているワークフローをすべて削除します。[ステージ] フィールドでは、要求アイテム [sc_req_item] テーブルの任意のリストビューに、現在のステージのステータスが表示されます。

注: スケジュール済みトリガーを含むフローにステージを追加することはできますが、ステージフィールドに関連付けられたトリガーレコードがないため、ステージはエンドユーザーに表示されません。トリガーまたは入力レコードを持つフローおよびサブフローにのみステージを追加します。

ステージ状況

フローまたはサブフローの実行中、各ステージは 6 つのステータスのいずれかになります。

ステータス	説明
処理待ち	このステージはまだ開始されていません。
処理中	このステージは実行中です。
スキップ	このステージはスキップされ、実行されませんでした。通常、このステータスに達するのは、条件付きフロー ロジック ブロックが実行されないときです。
完了	このステージは完了しています。
Cancelled (キャンセル)	このステージはキャンセルされました。
エラー	このステージはエラー状態に達しました。 フローまたはサブフローを設計する際、エラーステータスを報告するようにそれを手動で設定できます。エラー ステータスを設定するには次のようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ステータス	説明
	• フローまたはサブフローには、少なくとも 1 つのステージが定義されている必要があります。 • エラーはステージ内でのみ設定できます。エラー条件に達すると、現在のステージはエラーに設定されます。 • エラーは、条件付きフローロジックブロック内でのみ設定できます。

各ステージには独自のカスタム ステータス ラベルを持たせることができます。たとえば、2 つのステージを持つフローがあるとします。ステージ 1 には、待機中のラベルが付いた処理待ち状況を持たせ、ステージ 2 には、「まだ開始されていない」というラベルが付いた処理待ち状況を持たせる、といったことができます。フローデザイナーには、デフォルト状況または承認状況のいずれかを生成するためのオプションがあります。

システムプロパティ

これらのシステムプロパティを使用して、フローまたはサブフローで承認の詳細を表示する方法を構成できます。

com.glide.hub.flow_engine.stage_display.show_approvers

ステージフィールドからステージにアサインされた承認者のリストを表示または非表示にします。値を true に設定すると、ステージにアサインされた承認者のリストが表示されます。値を false に設定すると、ステージにアサインされた承認者のリストが非表示になります。

- タイプ：true | false
- デフォルト値：true
- 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブルに追加

com.glide.hub.flow_engine.stage_display.show_approvers_limit

ステージフィールドに表示する承認者の最大数を整数値で指定します。この値を 10 より大きく設定すると、リストビューでレンダリングエラーが発生するリスクがあります。1 つのレコードのステージフィールドが大きくなりすぎて、リスト内の他のレコードを表示できなくなることがあります。

- タイプ：整数
- デフォルト値： 5
- 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブルに追加

一般的なガイドライン

ステージを使用してフローまたはサブフローを作成する場合は、次の一般的なガイドラインに従います。

For Each フローロジックに依存するステージの定義を避ける

フローデザイナーでは **[For Each]** ブロック内にステージを追加できません。**[For Each]** ブロックの前後にのみステージを追加できます。

異なるフローまたはサブフローでの同じレコードのステージの作成を避ける

ステージフィールドには、テーブルのレコードで実行する最後のフローまたはサブフローからのステージ情報が常に表示されます。複数のフローまたはサブフローが同じレコードで実行される場合、理論的には、1 つのフローまたはサブフローで定義されたステージが別のフローまたはサブフローのステージを上書きする可能性があります。複数のフローまたはサブフローが互いのステージを上書きしないようにするには、フローまたはサブフローごとに一意のトリガー条件または開始条件を定義します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローまたはサブフローの外部からのステージフィールドの更新を避ける

フローまたはサブフローを使用してステージを管理する場合は、フローまたはサブフローの外部からレコードステージフィールドを直接更新しないでください。ステージフィールドの値を手動で更新すると、予期しない結果または望ましくない結果が生じる可能性があります。

テーブルの各フローに一意のトリガー条件があることを確認する

各フローに一意のトリガー条件を追加すると、フローはそれらの条件でのみ実行され、あるフローのステージが別のフローのステージを上書きすることを防ぐことができます。一意のトリガー条件を指定すると、レコード変更を生成できるフローの実行回数が制限され、フローのトラブルシューティングが容易になります。

エラーステージを使用してユーザーに通知する

フローのエラーステータスは、フローの実行には影響しません。フローはエラーステージに達しても引き続き実行されます。条件付きフローロジックブロックを使用してエラーステージを設定し、現在のステージのステータスがエラーであることをユーザーに伝えます。たとえば、必要な限度内で承認されていない承認がある場合、ユーザーにエラーを通知することができます。

エラーステージを使用してフローの処理を停止する

条件付きフローロジックブロックを使用して、フローがエラーステージに移行するタイミングを特定します。フローロジックを使用して、フローの処理を停止するか、何らかの修復アクションを実行します。たとえば、フローがエラーステータスになったときに、レコードのステータスやアサインを変更することができます。

ステージを設定してフローに追加する

ステージをいつユーザーに表示するかを設定し、ステージステータスのラベルを定義し、フローデザイナーの中でフローまたはサブフローにステージを追加します。

始める前に

このタスクは、フローとサブフローのステージ、ステージフィールド、およびステージセットに精通していることを前提としています。ステージの詳細については、「フローおよびサブフローのステージ」を参照してください。

必要なロール：flow_designer または admin

手順

1. オプション: フローをトリガーするステージ フィールドをテーブルに作成します (まだ存在しない場合)。

   (Optional) ステージフィールドには、フローまたはサブフローの実行中に、ステージのステータスと特定のレコードの詳細が保存および表示されます。サービスカタログの要求アイテム [sc_req_item] テーブルには、デフォルトでステージ フィールドが存在します。

   ステージフィールドがレコードベースフロー上のステージをレポートするためには、トリガーするレコードと同じテーブルにステージフィールドが存在していなければなりません。

   テーブルにフィールドを追加するには、「テーブルのフィールドを追加およびカスタマイズする」を参照してください。

2. オプション: サービスカタログ トリガーを持つフローにステージを追加する場合は、サービスカタログ アイテム [sc_cat_item] テーブルの [フロー] フィールドでフローを選択します。
   サービスカタログ トリガーを使用している場合、[フロー] フィールドによってフローを サービスカタログ アイテムに関連付ける必要があります。[ワークフロー] と [実行計画] フィールドを消去して、アイテムに関連付けられているワークフローをすべて削除します。これにより、カタログアイテムの要求から、そのカタログアイテムに固有のフローを開始できるようになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. フローデザイナーでフローまたはサブフローを開きます。

   注: スケジュール済みトリガーを含むフローにステージを追加することはできますが、ステージフィールドに関連付けられたトリガーレコードがないため、ステージはエンドユーザーに表示されません。トリガーまたは入力レコードを持つフローおよびサブフローにのみステージを追加します。

4. ステージを作成して設定します。

   a. ... をクリックし、[フローステージ] を選択します。
   [フローステージ] メニューが開きます。

   b. オプション: [テンプレートからステージを追加] から、ステージセットテーブルの既存のステージをインポートするためのステージセットを選択し、[ステージを追加] を選択します。
   ステージセットの詳細については、「ワークフローステージセット」を参照してください。このコピーにどのような変更を加えても、元のステージセットレコードには影響しません。

   一般に、複数のフローまたはサブフロー間でステージを再利用する場合は、ステージセットを使用します。

   c. [新しいステージを追加] をクリックして、手動でステージのオプションをインラインで作成および構成します。

フィールド	説明
名前	ステージの表示名。一意である必要があります。
値	ステージの内部名。一意である必要があります。
期間	ユーザーに表示される予定期間。フロー実行時間に基づいてステージを更新する場合は、1 つ以上の Wait for a duration フローロジックブロックを追加することを検討してください。詳細については、「Wait for a duration フローロジック」を参照してください。
常に表示	選択した場合、実行されない可能性があるフロー ロジック ブロックの中にステージが設定されていても、ステージは常にステージ フィールドに表示されます。

   一般に、他のフローまたはサブフローでステージを再利用する予定がない場合は、インラインでステージを作成します。

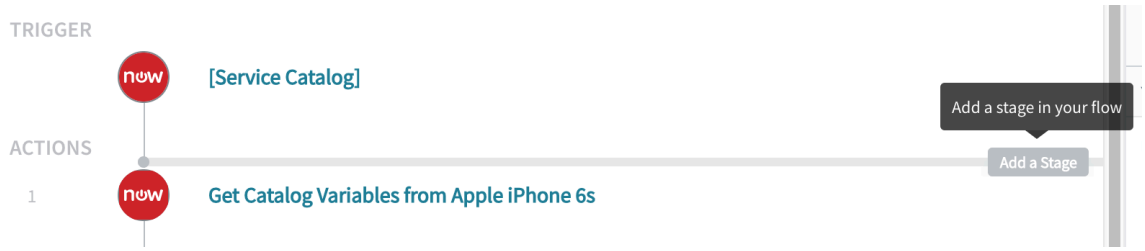
   d. ステージを上から下に、ステージフィールドに表示する順序で並べ替えます。
   ステージフィールドには、一番上のステージが最初に表示され、一番下のステージが最後に表示されます。

      注: ステージをインラインで作成すると、[フローステージ] メニューには、フローに表示される順序ではなく、作成された順序でステージが表示されます。

5. フローまたはサブフローにステージを追加します。
   a. フローまたはサブフロー内の場所をポイントします。
   b. [ステージを追加] をクリックします。
   c. 既存のステージを選択します。
   ステージは、フローデザイナーの任意のアクションまたはフロー ロジック ブロックの開始時に、あるいは If ブロックの中で、適用することができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重要: **[For Each]** フローロジックブロック内ではステージは使用できません。**[For Each]** フローロジックブロックの前後にのみステージを追加できます。



6. オプション: ステージをインラインで作成します。
   a. フローまたはサブフロー内の場所をポイントします。
   b. [ステージを追加] を選択します。
   c. **[+]** を選択します。

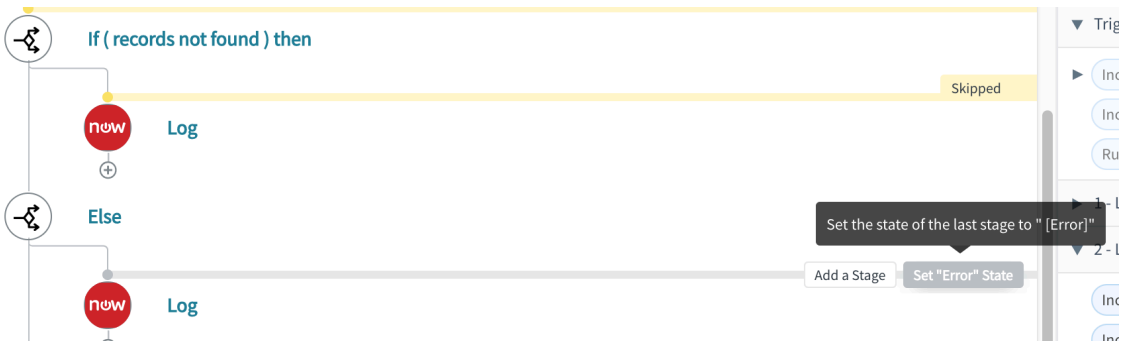
重要: ステージをインラインで作成すると、ステージフィールドには、フローに表示される順序ではなく、作成された順序でステージが表示されます。インラインで作成するステージの順序を設定または変更するには、[その他のアクション] メニュー ... を開きます。

7. オプション: 条件付き フロー ロジック ブロックの中でステージをエラー ステータスに設定します。

   a. 場所をポイントします。

   b. [[エラー] ステータスを設定] を選択します。
   ステージを [エラー] ステージに設定するには、次の要件に注意してください。

   - フローまたはサブフローには、少なくとも 1 つのステージが定義されている必要があります。
   - エラーはステージ内でのみ設定できます。エラー条件に達すると、現在のステージはエラーに設定されます。
   - エラーは、条件付きフローロジックブロック内でのみ設定できます。



フローが指定のポイントに達すると、現在実行中のステージがステージ フィールドでエラーに設定されます。

タスクの結果
フローが実行されると、ステージの詳細が [ワークフロー] タイプの任意のフィールドに表示されます。レコードベースのトリガーを持つフローでは、トリガーテーブルのワークフローフィールドに現在のステージのステータスが表示されます。サービスカタログ トリガーを持つフローでは、要求ア

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イテム [sc_req_item] テーブルの [ステージ] フィールドに現在のステージのステータスが表示されます。

フローエラーハンドラー

エラーを検出するフローを有効にします。一連のアクションとサブフローを実行して、問題を特定して修正します。たとえば、エラー発生時に、フローログ出力値を取得し、通知を送信し、修正サブフローを実行するようにします。

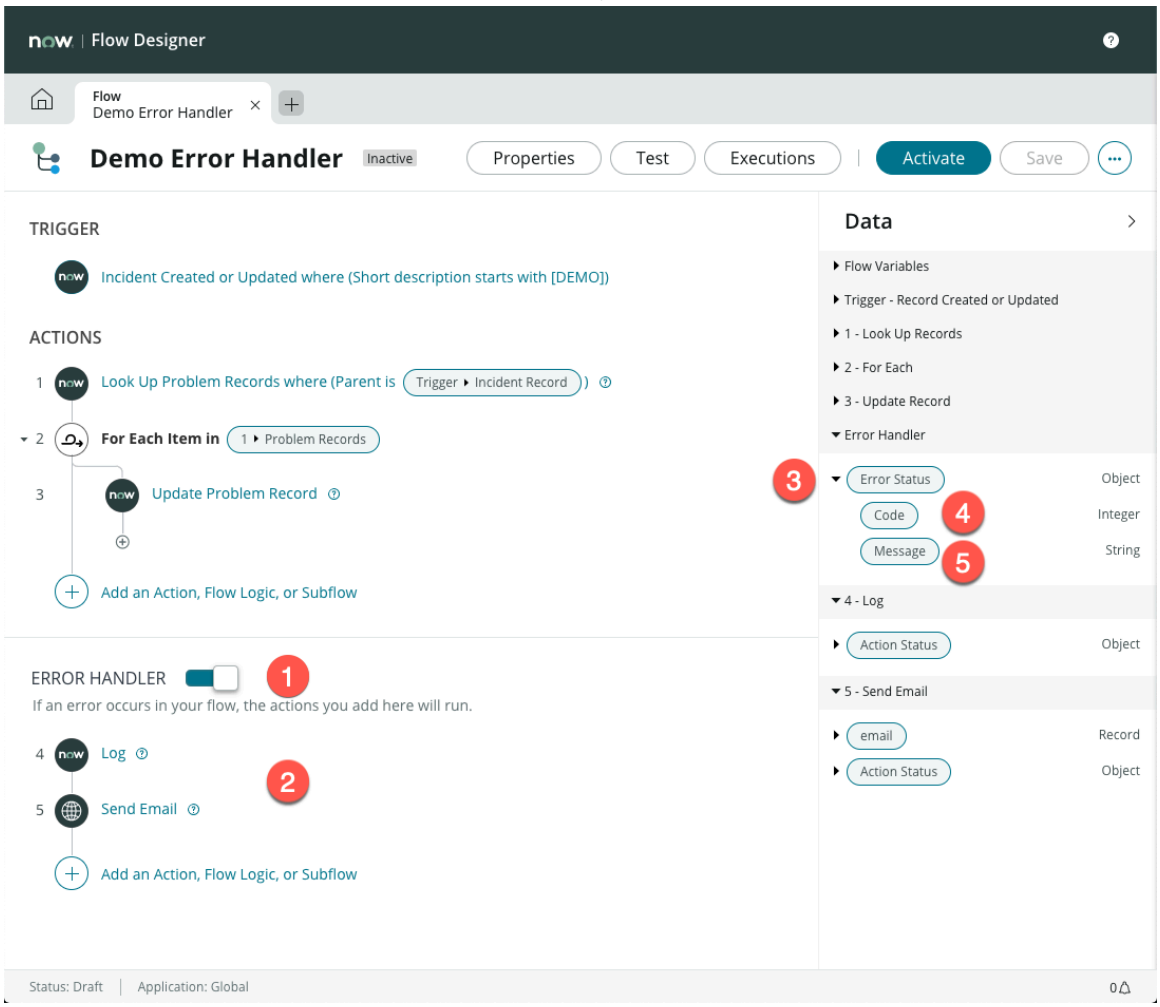
メリット

フローエラーハンドラーを有効にすると、次のメリットが得られます。

- フローエラーが発生したときにその特定を自動化できます。フローエラーに起因する問題を手動で検索するのではなく、フローエラー情報をキャプチャしてプッシュできます。
- フローエラーの解決を自動化できます。フローエラーの影響を受けるレコードを手動で更新するのではなく、アクションとサブフローを実行してレコードを更新できます。
- 独自のアクションエラー処理ロジックをビルドできます。アクションで毎回エラーを返すのではなく、エラーを返すタイミングを指定できます。

エラーハンドラーコンポーネント

エラーハンドラーユーザーインターフェイスコンポーネント



フローエラー処理は、次のコンポーネントで構成されています。

1. エラーハンドラースイッチ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローエラー処理を有効または無効にするオプションです。有効にすると、フローに [エラーハンドラー] セクションが表示されます。

2. エラーハンドラーセクション

   フローでエラーが検出された場合に実行されるフローのセクションです。このセクションを使用して、フローエラーの特定と解決を自動化します。このセクションには最大 10 個のアイテムを追加できます。

   注: 10 個のアイテムの制限には、アクション、フローロジック、またはサブフローの任意の組み合わせが含まれます。

3. エラーステータス

   フローによって検出されたエラーに関する詳細を含むオブジェクトデータピルです。

4. エラーステータス > コード

   フローでエラーが発生したかどうかを示す整数データピルです。デフォルトでは、値 1 はフローでエラーが生成されたことを示します。値 0 は、フローが正常に実行されたことを示します。カスタムアクションを作成する際に、独自のエラーコードを定義できます。

5. エラーステータス > メッセージ

   アクション、ステップまたはシステム操作によって生成されたエラーメッセージを含む文字列データピルです。

利用可能なエラー状況

エラーハンドラーを有効にすると、フロー実行の詳細でレポートされる状況が変更されます。エラーハンドラーでは、次のフロー状況を生成できます。

完了 (エラーを取得)

フローがエラーを検出し、[イベントハンドラー] セクションのアイテムを正常に実行したときに生成されるステータスです。フローは、[イベントハンドラー] セクションが空の場合でもこのステータスを生成します。このステータスは、フローのエラーハンドラーを有効にした場合にのみ使用できます。このステータスは、フロー実行の詳細ページからのみ表示されます。フローコンテキストレコードでは、代わりにステータスを [完了] として表示します。

完了 (エラーをスキップ)

ステップが失敗した後もカスタムアクションが実行を継続する場合に生成されるステータスです。アクションがこのステータスを生成すると、親フローに渡されます。このステータスは、フローのエラーハンドラーを有効にした場合にのみ使用できます。このステータスは、フロー実行の詳細ページからのみ表示されます。フローコンテキストレコードでは、代わりにステータスを [完了] として表示します。

エラー

エラーが未取得の場合に生成されるステータスです。

- エラーハンドラーが無効になっている間にフローでエラーが発生しました
- [エラーハンドラー] セクションでエラーが発生しました

エラーが発生したとき

アクティブなエラーハンドラーを含むフローでエラーが発生すると、フローはそれ以降のアクションとフローロジックの実行を停止し、代わりに [エラーハンドラー] セクションのアイテムを実行します。[エラーハンドラー] セクションのアイテムが実行された場合、フローは完了 (エラーをキャッチ) 状態で停止します。エラーハンドラー自体がエラーを生成した場合、フローはエラーステータスで停止します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローは、エラーを生成したアイテムを再実行したり、エラーを生成したステップから再開したりすることはできません。Try フローロジック を使用して、try ブロック内でエラーが発生したフローの実行を続行することができます。

フローとアクションのエラー処理に関するリソース

アクションとフローでエラー処理を使用する方法の詳細については、ServiceNow® Community の投稿「Flow and Action Error Handling Overview: Why and how to test for errors - Workflow Automation CoE (フローとアクションのエラー処理について：エラーをテストする理由と方法 - ワークフローオートメーション CoE)」を参照してください。

- 「Flow and Action Error Handling Level 1: Retry and Action Error Evaluation - Workflow Automation CoE (フローとアクションのエラー処理レベル 1：再試行とアクションのエラー評価 - ワークフローオートメーション CoE)」
- 「Flow and Action Error Handling Level 2: Flow Logic - Workflow Automation CoE (フローとアクションのエラー処理レベル 2：フローロジック - ワークフローオートメーション CoE)」
- 「Flow and Action Error Handling Level 3: Flow Error Handling - Workflow Automation CoE (フローとアクションのエラー処理レベル 3：フローのエラー処理 - ワークフローオートメーション CoE)」
- 「Flow and Action Error Handling Level 4: Good Practices and Summary - Workflow Automation CoE (フローとアクションのエラー処理レベル 4：推奨プラクティスとまとめ - ワークフローオートメーション CoE)」

一般的なガイドライン

フローエラー処理によるメリットを得るには、次の一般的なガイドラインに従います。

エラー処理アイテムをフローのメインセクションに追加しないようにする

通常、アクションまたはサブフローがメインセクションでエラーを返すと、フローは実行を停止します。停止したフローは、エラーが返された時点を過ぎてアクションまたはサブフローを実行することはできません。エラー処理アクションとサブフローを [エラーハンドラー] セクションに追加すると、エラーが発生した場合にエラー処理アクションとサブフローが確実に実行されるようになります。

エラーステータス情報をキャプチャする

エラーステータスオブジェクトには、エラーを生成したアクションに関する情報が含まれています。この情報を使用して、エラーの原因や、修正が必要な可能性があるレコードデータを特定することができます。

サブフローエラーメッセージを非表示にする

サブフローのエラーハンドラーを有効にして、エラーが親フローにカスケードされないようにすることができます。サブフローの [エラーハンドラー] セクションを空のままにすると、常に [完了 (エラーを取得)] ステータスが生成されます。

サブフローを使用して 10 個のアイテム制限を回避する

エラー処理プロセスを強制的に 10 個のアイテム制限内に収まるようにするのではなく、さらに多くのアイテムを含めることができるサブフローを呼び出します。サブフロー出力を使用して、他のフローの自動化をトリガーすることもできます。

サブフローを使用して是正処置を行う

複数のフローで同じ一連のアクションを再作成するのではなく、再利用可能なサブフローを作成して、レコードデータのエラーを修正します。フローエラーによってレコードデータが望ましくない状態になった場合は、サブフローを使用してこれらのレコードを修正します。エラーハンドラーを使用して、そのようなレコードデータをサブフロー出力として特定することができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

アクションエラー評価

フローへのエラーハンドラーの追加

一連の フローデザイナー アクションとサブフローを実行して、フローエラーが原因の問題を特定して修正します。

始める前に
必要なロール：flow_designer または admin

このタスクについて
フローエラーハンドラーを使用すると、フローでエラーを検出し、一連のアクション、フローロジックオプション、およびサブフローを実行できます。

重要: フローエラーハンドラーは、エラーが発生したフローを再開または再起動することはできません。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. フローを作成するか、既存のフローを開きます。
   フロー作成の詳細については、「ワークフロースタジオ でのフローの作成」を参照してください。
3. [エラーハンドラー] スイッチを有効にします。
   フローデザイナー により、フローと [データ] ペインにエラーハンドラーセクションが追加されます。
4. アクション、フローロジックオプション、またはサブフローを [エラーハンドラー] セクションに追加します。
   このセクションには、最大 10 個のアクション、フローロジックオプション、またはサブフローを追加できます。サブフローを使用して、エラー情報をキャプチャしたり、レコードデータの問題を修正したりすることを検討してください。

   エラーハンドラーに フローロジックオプション を追加できます。それらのオプションを次の表に記載しています。

サポートされているフローロジックオプション

フローロジックのオプション	説明
条件	条件のリストが満たされた場合にのみ、1 つ以上のアクションを選択的に適用します。詳細については、「条件」をご覧ください。
期間の待機	このフローロジックオプションを使用して、指定された期間フローを一時停止し、指定された期間が経過するとフローの実行を再開します。詳細については、「期間の待機」をご覧ください。
終了フロー	このフローロジックオプションを使用して、フローデザイナー 内のフローを停止します。詳細については、「終了フロー」をご覧ください。
動的フロー	ランタイムデータを使用して、フローまたはサブフローを動的に識別して実行します。動的に呼び出されるフローまたはサブフローに必要な入力を提供するテンプレートをビルドします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローロジックのオプション	説明
	詳細については、「動的フロー」をご覧ください。
フロー変数の設定	1 つ以上のフロー変数に値を割り当てます。フロー中に変数の値を変更または更新します。詳細については、「フロー変数の設定」を参照してください。

[エラーステータス] オブジェクトには、フローエラーに関する情報が含まれています。各アクションによって返された [アクションステータス] オブジェクトを使用して、条件付きロジックをビルドすることもできます。これらのオブジェクトはどちらも [データ] ペインから使用できます。

5. オプション: エラーハンドラーにステージを追加します。
   ステージの追加方法の詳細については、「ステージを設定してフローに追加する」を参照してください。
6. エラーをスローするフローの本文にカスタムアクションを追加します。
   カスタムアクションの作成方法については、「エラーをスローするカスタムアクションの作成」を参照してください。
7. フローをテストして、エラーハンドラーが正常に機能することを確認します。
   フローのテストの詳細については、「フローをテストする」を参照してください。
8. フローエラー処理が正常に機能している場合は、エラーをスローしてフローから削除するカスタムアクションの横にある削除アイコンを選択します。

タスクの結果
フローでエラーが発生した場合、指定したアクション、フローロジックオプション、およびサブフローがフローで実行されます。フロー実行の詳細には、フローおよびエラーを返したアクション双方の [完了 (エラーを取得)] ステータスが表示されます。

エラーをスローするカスタムアクションの作成

意図的にエラーをスローするアクションを作成し、フローエラー処理をテストします。

始める前に
必要なロール：flow_designer、action_designer、 または admin

このタスクについて
このカスタムアクションは、アクションの入力値が 1 に設定されている場合にエラーをスローします。入力値がその他の値の場合、エラーをスローせずにアクションを実行できます。このカスタムアクションをフローに追加して、フローエラー処理をテストできます。

手順
1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
   フローデザイナー のランディングページが表示されます。
2. [新規] > [アクション]を選択します。
   [アクションプロパティ] ダイアログが表示されます。
3. 次のサンプル値を入力します。

フィールド	値
名前	エラーをスロー
アプリケーション	グローバル
アクセス可能	すべてのアプリケーションスコープ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [送信] を選択します。
   アクションデザイナー インターフェイスが表示されます。
5. [アクションアウトライン] から[入力] > [入力の作成]を選択します。
   新しいアクション入力が表示されます。
6. 次の値を使用してアクション入力を構成します。

フィールド	値
ラベル	エラーコード
タイプ	整数
必須	True

7. [アクションアウトライン] から [新しいステップを追加] を選択します。
   利用可能なステップのリストが表示されます。
8. [スクリプトステップ] を選択します。
9. [入力変数] セクションから [変数の作成] を選択します。
10. 次の値を使用して変数を構成します。

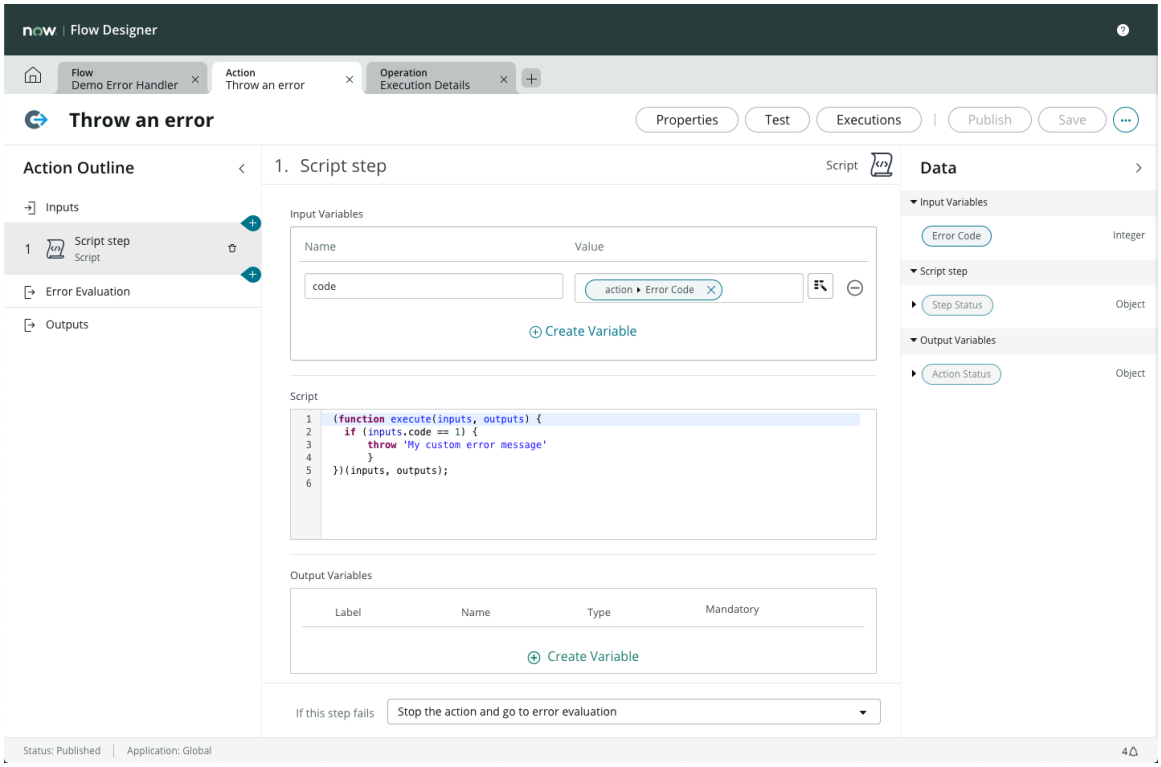
フィールド	値
名前	コード
値	データピル [アクション -> エラーコード] を選択します

11. [スクリプト] にこの JavaScript コードを入力します。

```
(function execute(inputs, outputs) {
  if (inputs.code == 1) {
      throw 'My custom error message'
      }
})(inputs, outputs);
```

12. [保存] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

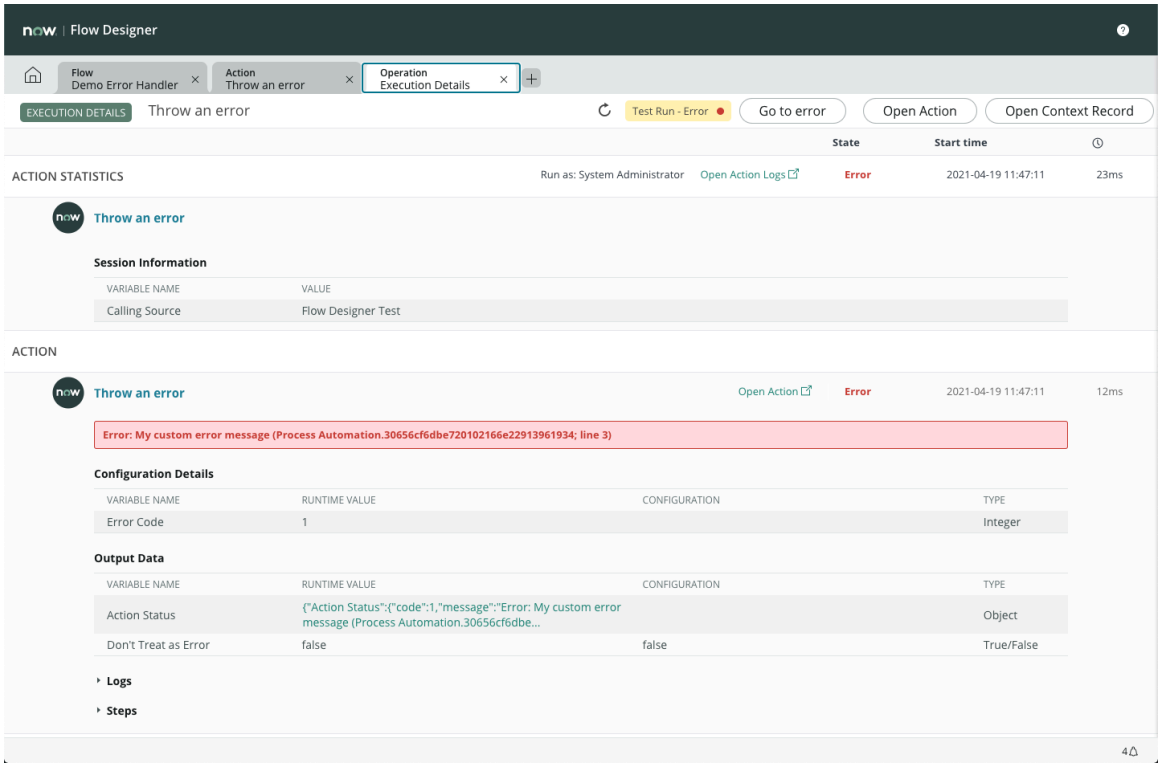


13. [テスト] を選択します。
[アクションのテスト] ダイアログが表示されます。
14. 次のテスト値を入力します。

入力	値
エラーコード	1

15. [テストを実行] を選択します。
指定されたテスト値を使用してアクションが実行されます。
16. 次を選択します：テストの実行が終了しました。**(Your test has finished running.)** アクションの実行の詳細を表示します。
アクション実行の詳細が表示されます。
17. アクションがスクリプトステップを実行し、カスタムエラーメッセージをスローしたことを確認します。
[アクションステータス] オブジェクトにより、3 行目にエラーがリストされ、カスタムエラーメッセージのテキストが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



18. アクション実行の詳細を閉じます。
19. アクションのテストを停止するには、[キャンセル] を選択します。
20. [公開] を選択して、カスタムアクションをフローで使用できるようにします。

タスクの結果

アクション入力 [エラーコード] を 1 に設定するとエラーをスローするカスタムアクションが作成されました。

次のタスク

このアクションをフローに追加して、[エラーハンドラー] セクションのコンテンツをテストします。

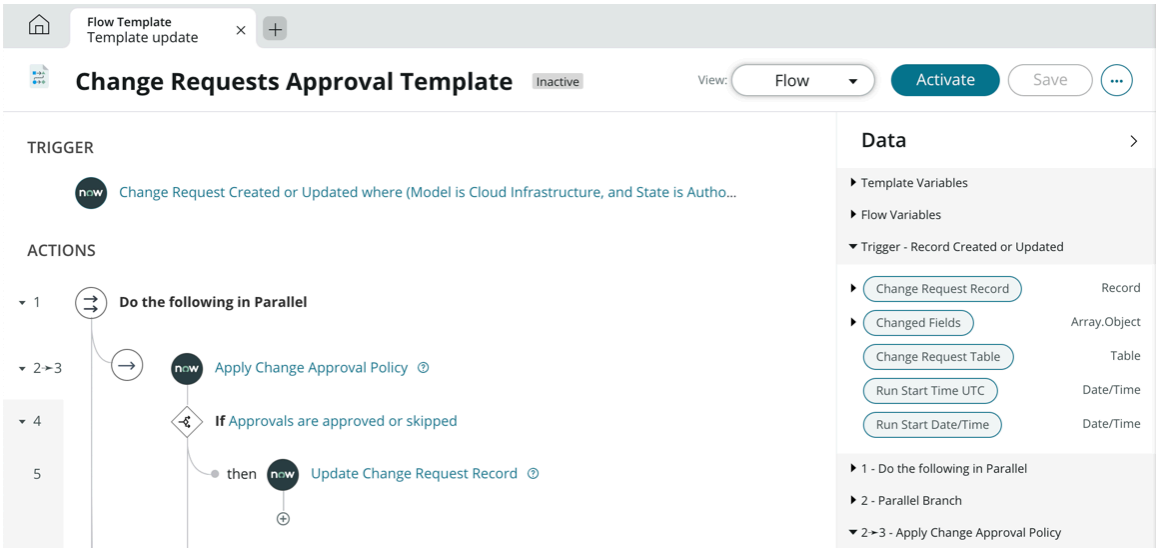
フローテンプレートビルダー

市民開発者が独自のフローテンプレートを作成できるようにします。フローテンプレートは、一般的なユースケースのフローを作成するためにフロー作成者をガイドします。フローテンプレートビルダーを使用して、フロー、アクション、およびフローテンプレート変数を定義します。

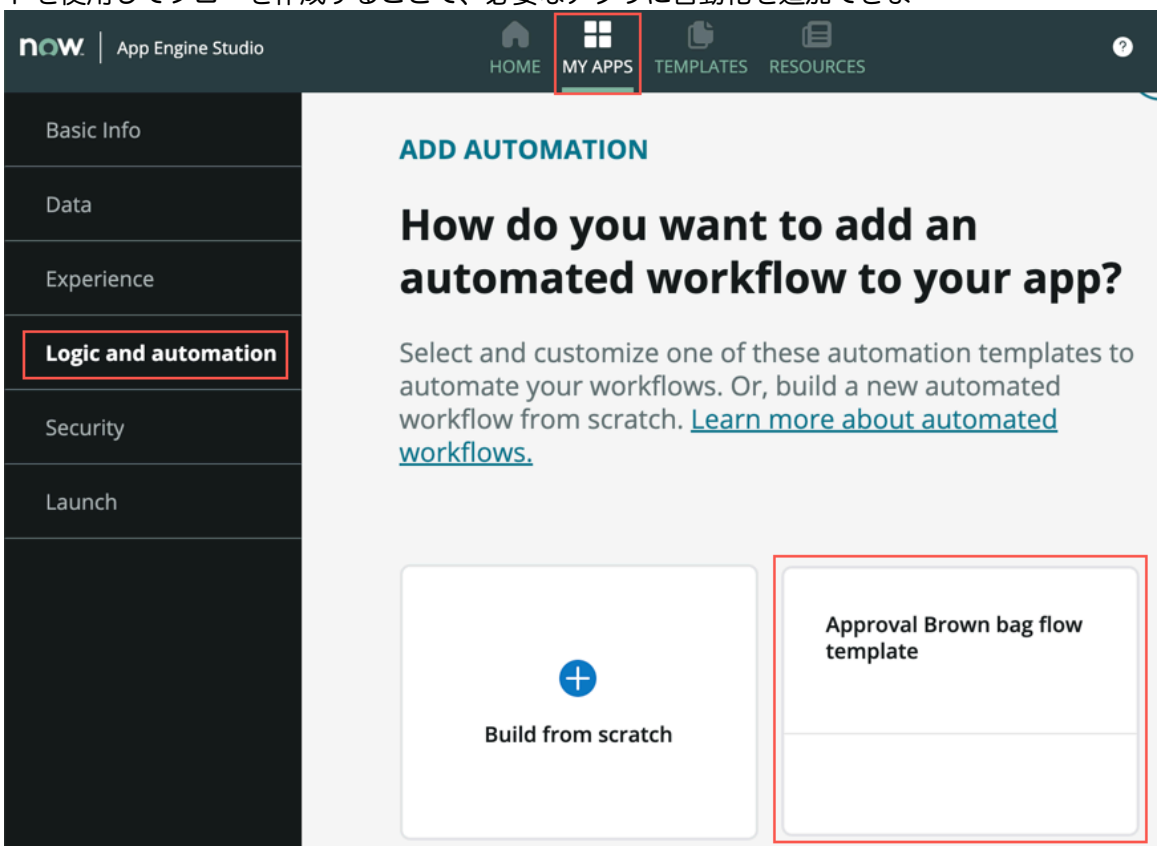
テンプレート作成者は フローデザイナー で、必要な構成を持つフローからテンプレートを作成できます。テンプレート作成者は、フローテンプレートビルダーで既存のフローテンプレートを表示または編集できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローテンプレートビルダー UI



アドミニストレーターは App Engine Studio でこれらのアクティブなテンプレートを使用してフローを作成することで、必要なアプリに自動化を追加できます。



フローテンプレートビルダー を使用してテンプレートを作成

フローデザイナー のフローからテンプレートを作成し、コンポーネントに対して同じ構成とカスタマイズされたテンプレート入力値を持つフローを作成するように、フロー作成者をガイドします。

始める前に

- App Engine Studio (sn_app_eng_studio) および フローテンプレートビルダー(sn_flow_template) プラグインを有効にします。
- 要件に従って フローデザイナー にフローを作成します。

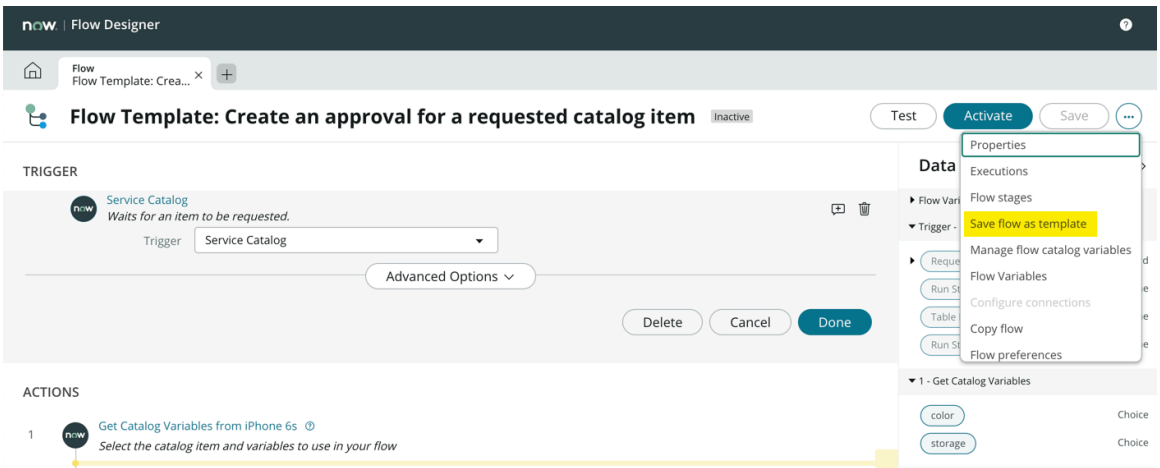
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 必要なロール：アプリテンプレート作成者またはアドミニストレーター

> **注:** アプリテンプレート作成者を持つユーザーは、[グローバル] スコープでフローテンプレートを作成できません。フローテンプレートは、自分がアクセス権を持つスコープでのみ作成できます。

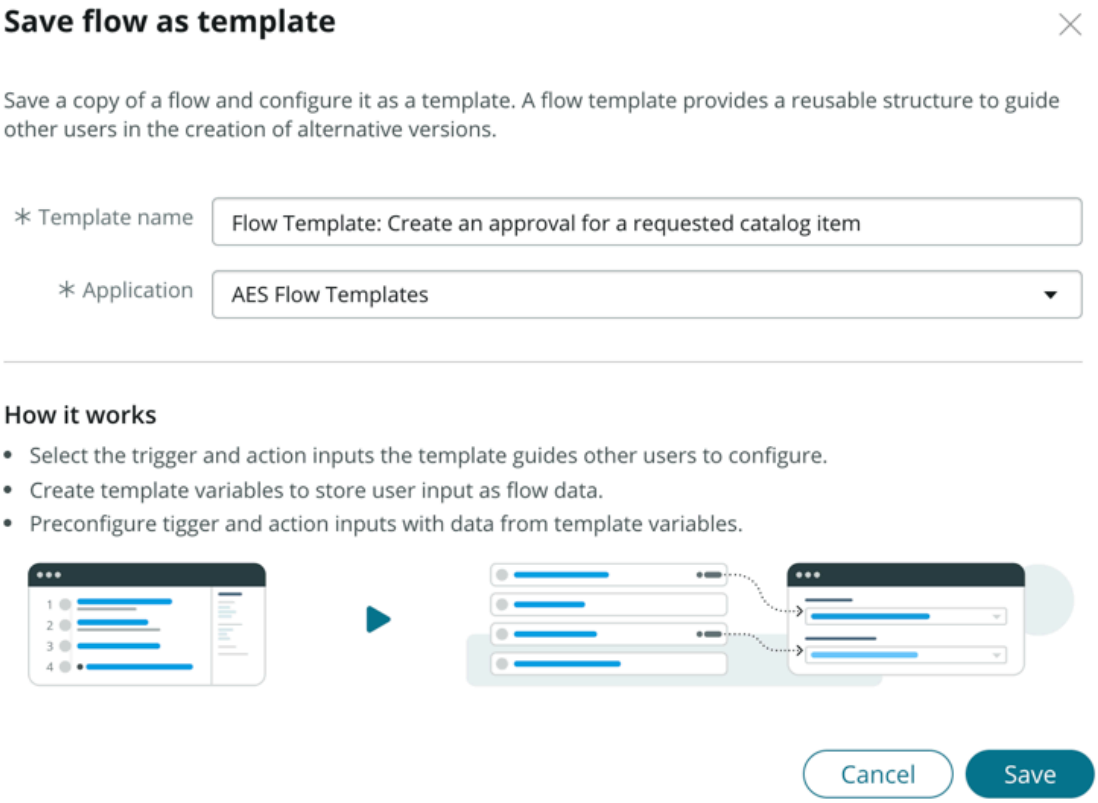
手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. フローデザイナー で、必要なフローを開きます。
3. [その他のアクション] アイコン ( ) をクリックし、[フローをテンプレートとして保存 **(Save flow as a template)]** を選択します。

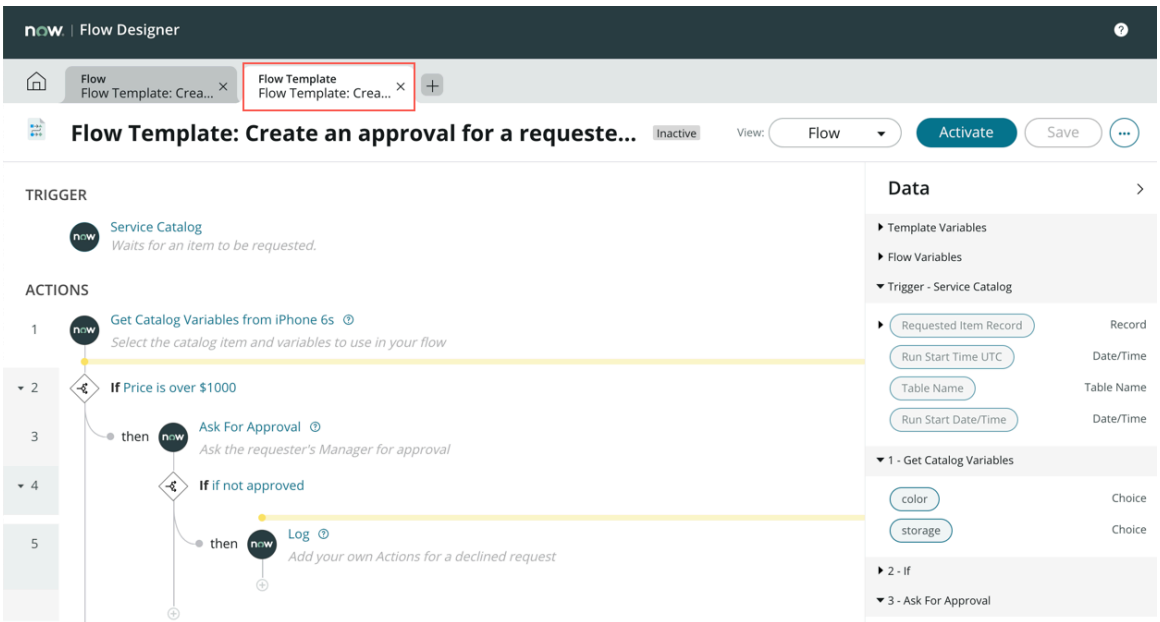


4. [フローをテンプレートとして保存 (Save flow as template)] ダイアログで、テンプレート名を入力し、テンプレートを配置するアプリケーションを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

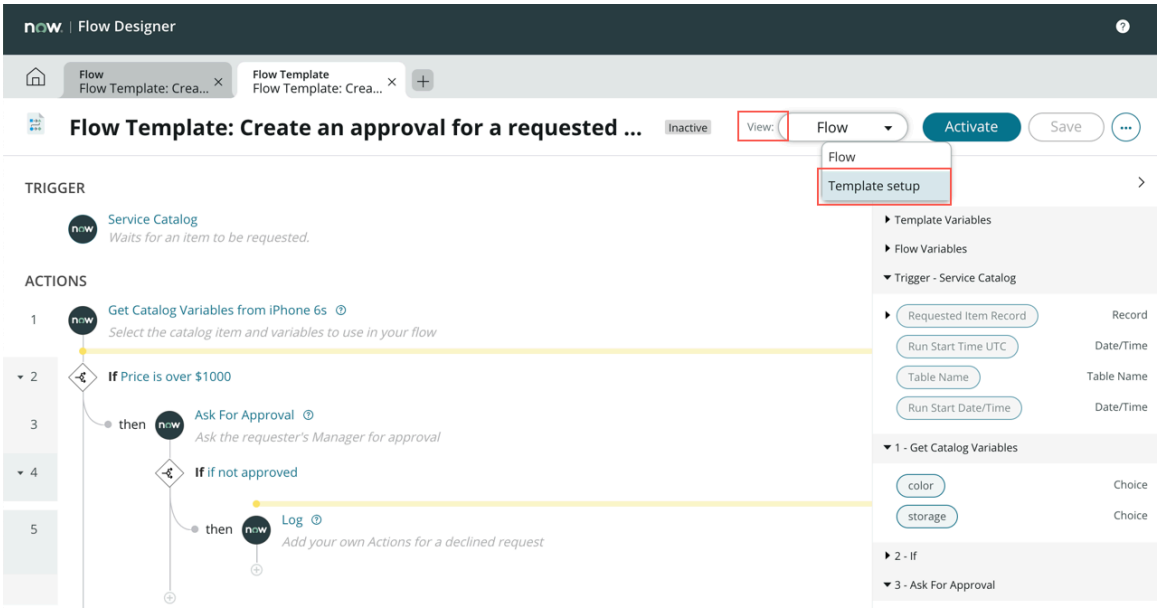


5. [保存] をクリックします。
   テンプレートが作成され、フローテンプレートビルダー に表示されます。



6. [ビュー] で、[テンプレートのセットアップ] を選択します。

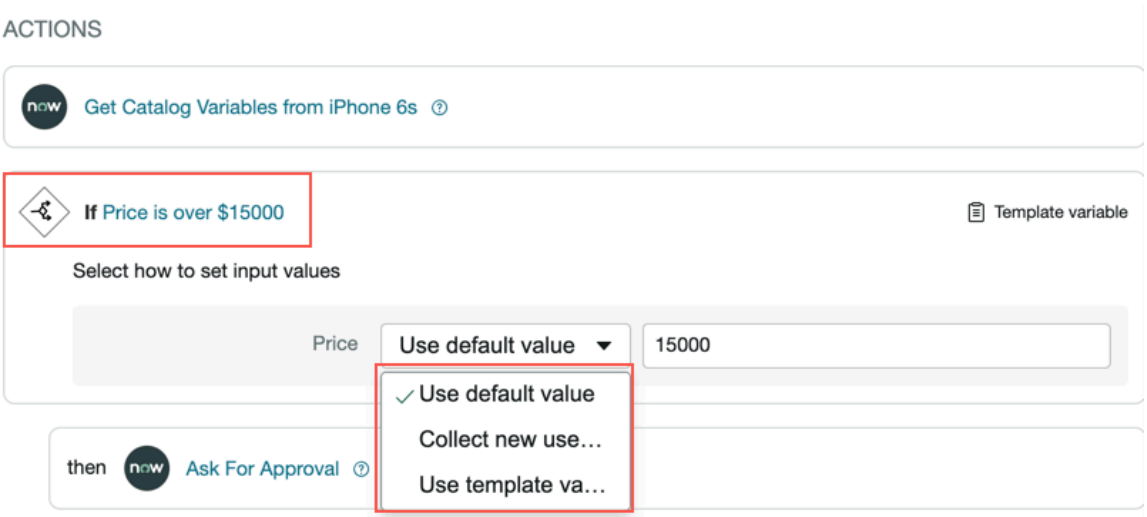
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



テンプレートが フローテンプレートビルダー にロードされます。

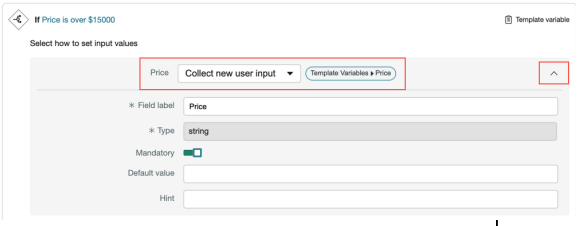
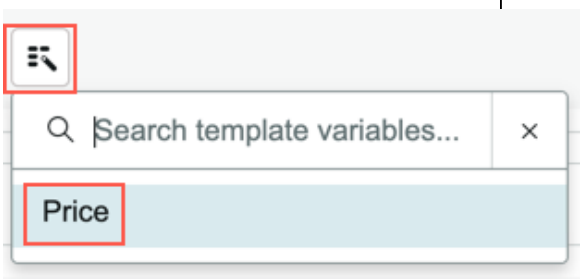
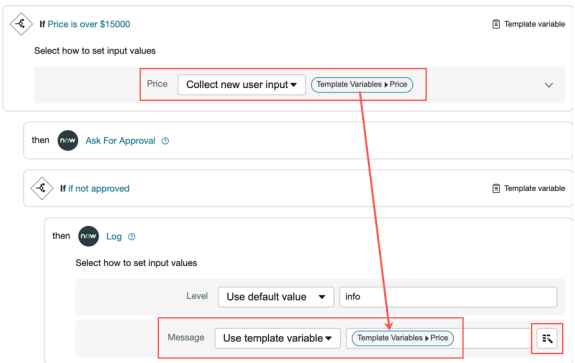
[ビュー] を [フロー] に変更すると、テンプレートが フローデザイナー UI に表示されます。

7. 必要なアクションをクリックし、必要な入力を選択します。



選択肢	説明
デフォルト値を使用	フローで指定されたデフォルト値を使用します。
新しいユーザー入力を収集	テンプレート変数を作成します。テンプレート変数を展開し、要件に従ってユーザー入力を設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

選択肢	説明
	 注: 一度作成された入力変数は削除できません。
テンプレート変数を使用	前のアクションで収集されたテンプレート変数を使用します。データピッカーをクリックして、以前に収集したユーザー入力を使用します。  この例では、価格がユーザー入力として収集され、このユーザー入力がログアクションのメッセージ入力で使用されます。 

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: サポートされるテンプレート変数データタイプ：

- 文字列
- リスト
- 選択肢
- 参照
- テーブル名
- URL
- 複数行小テキストエリア
- 2 行テキストエリア
- 価格
- メール
- 整数

8. [保存] をクリックします。
フローテンプレートが作成されます。

テンプレートレコードが作成されたかどうかを確認するには、左側のナビゲーターペインに「`sys_app_template.list`」 と入力し、作成したテンプレートを検索します。

9. [アクティブ化] をクリックします。

注:

- [フローテンプレートプロパティ] ダイアログでプロパティを設定するとき、必ず最初にアイコンを選択してから他のフィールドを入力し、[更新] をクリックします。
- フローテンプレートプロパティのアイコンは、.SVG ファイルのみをサポートしています。

App Engine Studio のテンプレートからフローを作成

既存の App Engine Studio 自動化テンプレートからフローを作成します。テンプレートガイダンスに従って、動的データを受け入れるテンプレート入力の値を指定します。

始める前に

- フローテンプレートビルダー を使用してテンプレートを作成 を行い、有効にします。

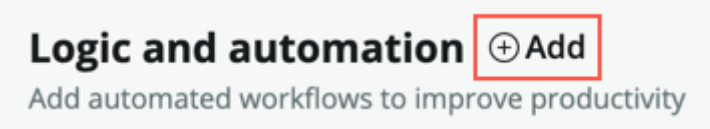
  注: テンプレートが変更された場合、変更を App Engine Studio に反映するには、テンプレートを再度有効化する必要があります。

- 必要なロール：テンプレートランナー

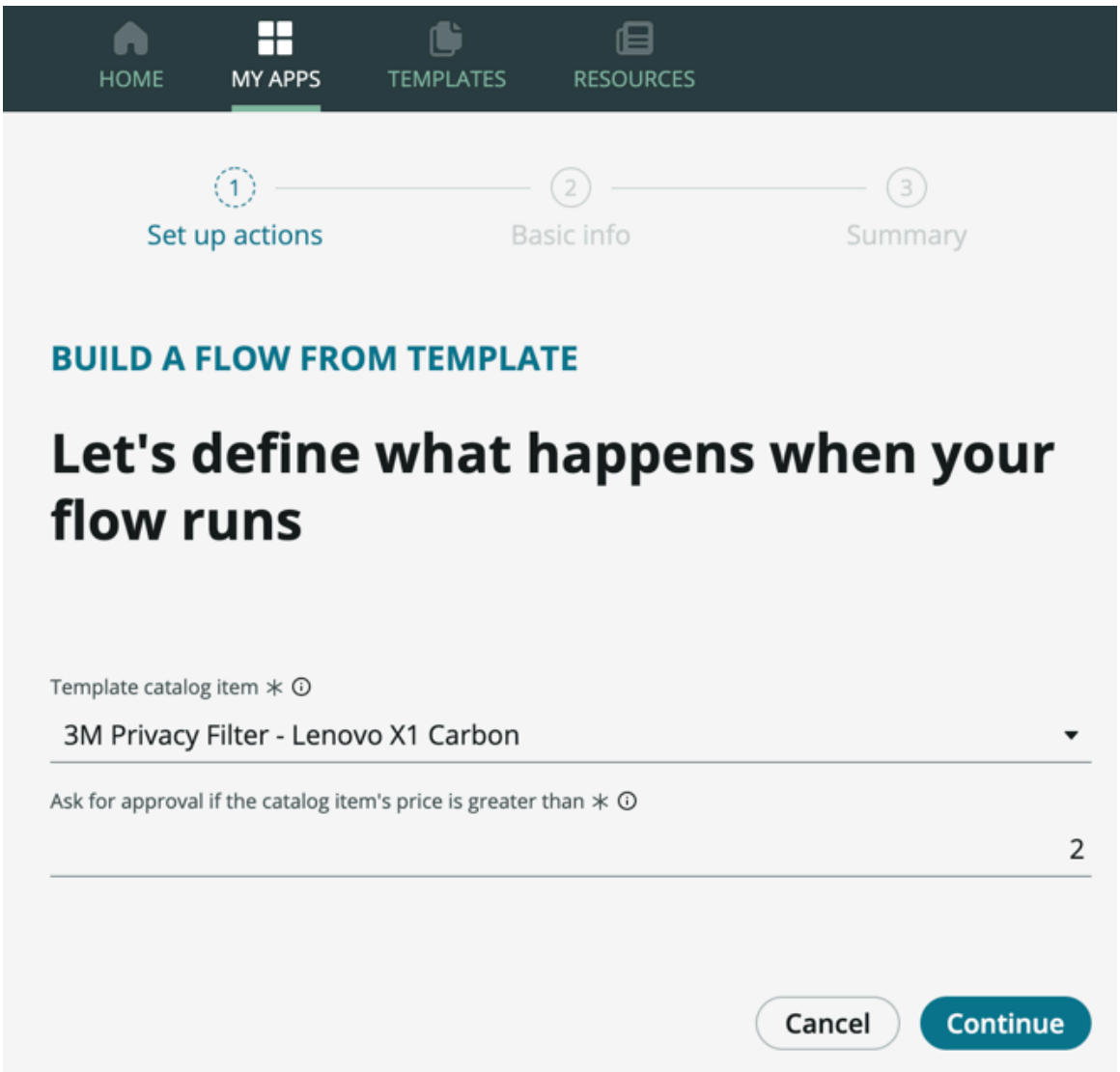
手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [最近のアプリ] で、必要なアプリを選択します。
アプリをまだ作成していない場合は、それを作成することができます。
アプリは App Engine Studio で開きます。
3. [ロジックと自動化] をクリックします。
4. [追加] をクリックします。

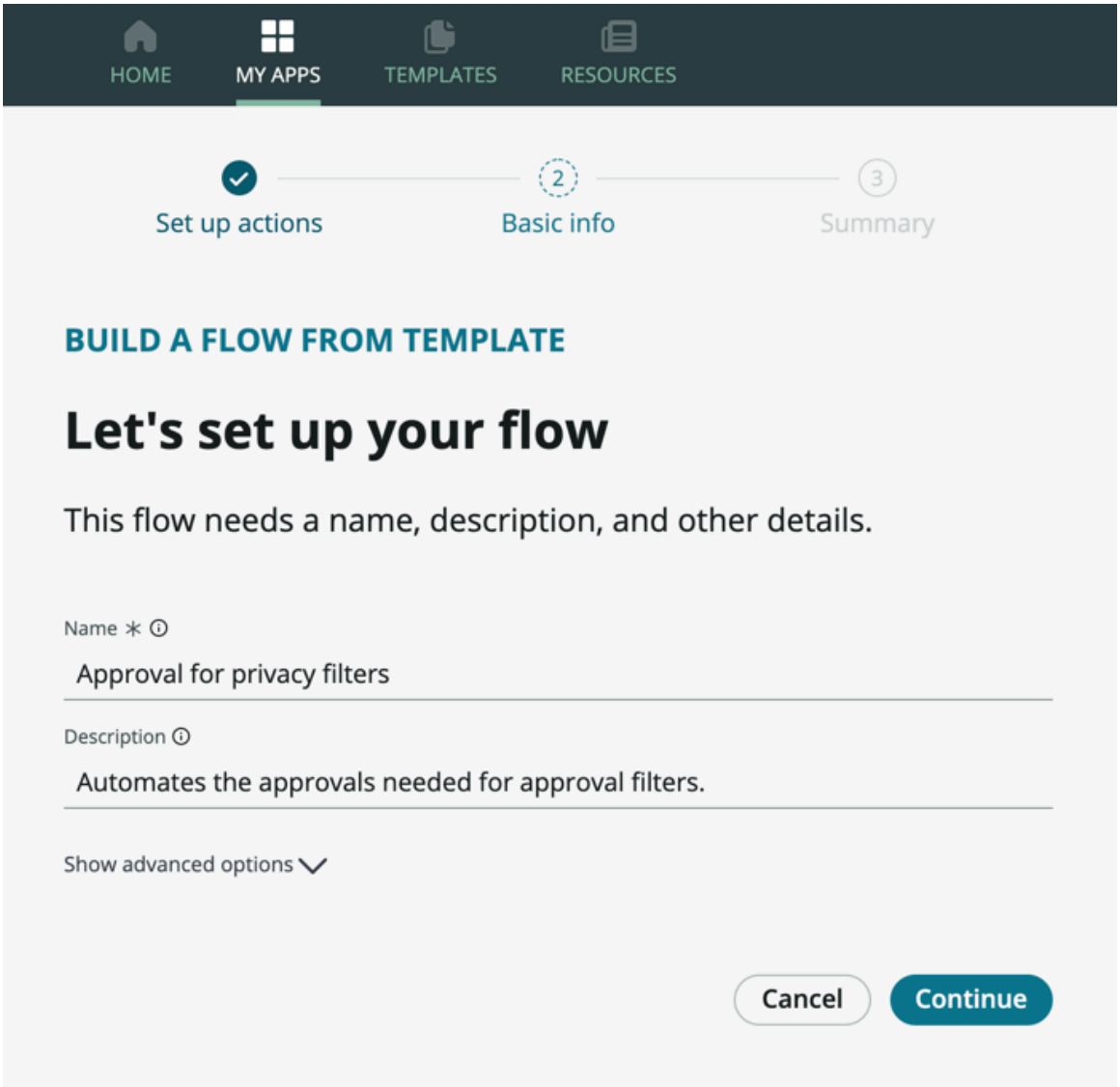
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. 必要なフローテンプレートを選択します。
6. テンプレートダイアログで、[開始] をクリックします。
7. テンプレートウィザードで、テンプレートを使用してフローを作成するための入力を指定します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



必要な入力を指定すると、フローが作成されたことを示す確認メッセージが表示されます。

8. フローデザイナー でフローを編集するには、[このフローを編集します] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

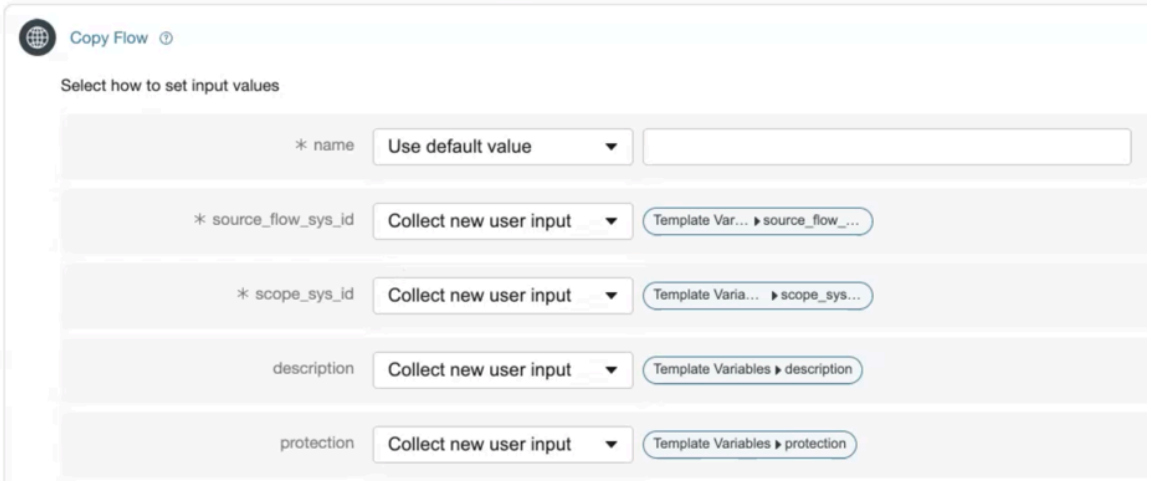
フローが フローデザイナー で開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

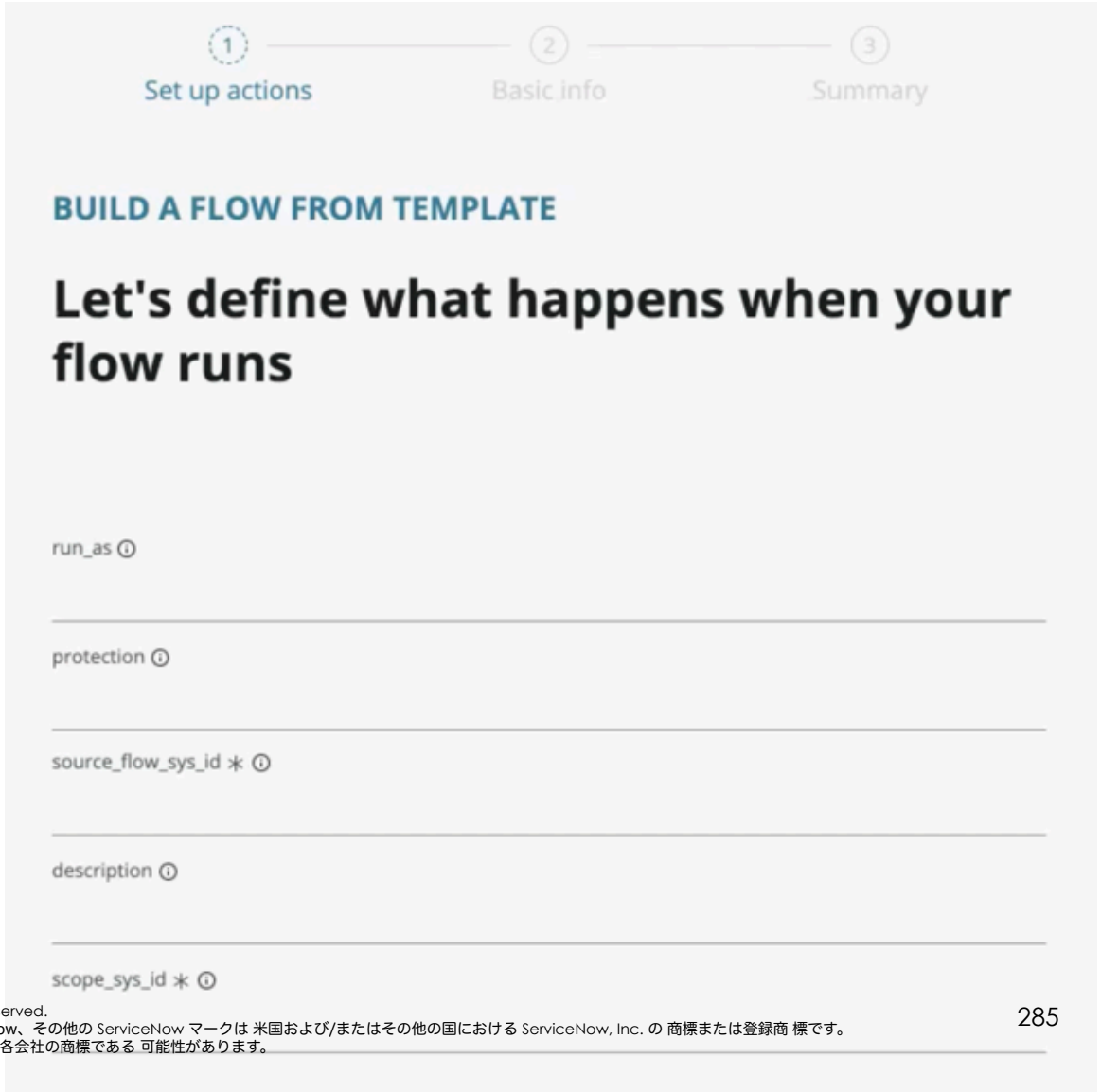
注:

- テンプレートから作成されたフローを編集しないでください。フローを編集する場合は、必ずテストしてから公開してください。
- App Engine Studio では、テンプレート入力が フローデザイナー で作成したものと同じ順序では表示されません。この例では、App Engine Studio にフィールドが表示される順序は、フローデザイナー で入力が設定される順序とは異なります。

フローデザイナー で設定された入力フィールド



App Engine Studio に表示される入力フィールド



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フロー変数

ワークフロー スクラッチパッド変数と同様に、フローで直接使用して変更できる変数を作成します。[データ] パネルでフロー変数にデータピルとして直接アクセスします。

フロー変数を使用して、フローを通じて値を設定および取得します。フロー変数は、サブフローの入力および出力に似ています。どちらも、フローまたはサブフローで利用可能なデータを定義します。これらの主な違いはアクセス可能になるタイミングです。フロー変数にはフローを通してアクセスできます。入力にはサブフローの開始時にのみアクセスでき、出力にはサブフローが完了したときにのみアクセスできます。

フロー変数の作成

[その他のアクション] メニューの [フロー変数] オプションを使用して変数を作成します。一度に複数の変数を作成するには、それぞれの名前とデータ型を選択します。フロー変数は、[データ] パネルの [フロー変数] セクションにデータピルとして表示されます。

フロー変数への値の割り当て

[フロー変数の設定] フローロジックを使用して変数に値を割り当てます。[フロー変数の設定] には次の入力があります。

- 変数の名前
- 変数のデータ値です。

[フロー変数の設定] を 1 回使用するだけで、すべての変数に値を割り当てることができます。他のデータピルとは異なり、フロー変数に割り当てられた値はいつでも変更できます。[フロー変数の設定] を使用すると、変数の現在の値が上書きされます。変数に値が割り当てられていない場合、デフォルト値は **null** です。

フロー変数の値は、上から下に割り当てられた順序で設定されます。同じ変数の値を複数回設定すると、フローは最後に設定された値のみを使用します。 たとえば、これらの 3 つの変数定義は、変数が [最後の値セット `(last value set)`] のランタイム値を持つようになります。

最後の値セットはフロー変数値を定義

順番	変数	設定
1	変数	最初の値セット
2	変数	2 番目の値セット
3	変数	最後の値セット

変数の値は、他の変数を含めて、フローの初期のデータピルを参照できます。他のデータピルを参照して変数の値を設定する場合は、変数割り当ての順序を維持する必要があります。参照される値は、常に参照される値を使用する変数の前に来る必要があります。順序を変更すると、null 値が生成される場合があります。 たとえば、これらの変数定義は、変数定義の順序を維持している場合、予想されるランタイム値のみを生成します。

参照による変数値の設定

順番	変数	設定	ランタイム値
1	変数 1	1 つ	1 つ
2	変数 2	{変数 1}、2	1、2
3	変数 3	{変数 1}、{変数 2}、3	1、2、3

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フロー実行の詳細

[フロー変数の設定] フローロジックの概要が実行の詳細に表示されます。詳細には、アクションで設定されたすべての変数セットの名前、タイプ、構成、およびランタイム値が表示されます。実行の詳細には、アクションまたはフローロジックで使用される場合の変数に関する情報も表示されます。その場合は、タイプ、構成、およびランタイム値が表示されます。

サポートされるデータ型

フローデザイナー は、フロー変数に対して次のデータ型をサポートしています。

- 日付/時刻
- 10 進数
- 浮動小数点数
- 整数
- JSON
- 参照
- 文字列
- True/False

フロー変数の作成

フロー変数を作成し、フローを通じて値を保存、取得します。

始める前に

必要なロール：flow_designer または admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [新規] > [フロー]をクリックします。
3. [フロープロパティ] フォームのフィールドに入力します。
   詳細については、「ワークフロースタジオ でのフローの作成」を参照してください。
4. [送信] をクリックします。
5. [その他のアクション] アイコン ( ) をクリックして、[フロー変数] を選択します。
6. [フロー変数] フォームの右上にあるプラスアイコン ( ) をクリックして、変数を作成します。
7. フォームのフィールドに入力します。

フロー変数フォーム

フィールド	説明
ラベル	変数の一意のラベルです。任意のテキストで構成できます。ラベルはユーザーに表示されます。
名前	変数の一意の名前です。スクリプト呼び出しで変数を識別するために使用される名前を表示します。名前には、英数字とアンダースコアのみを使用できます。特殊文字を削除または置換することにより、ラベルが有効な名前に自動的に変換されます。名前はユーザーには表示されず、システムがバックグラウンドで使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
タイプ	変数のデータ型です。

8. [保存] をクリックします。

タスクの結果
[データ] パネルの [フロー変数] セクションに変数が表示されます。名前とタイプとともにデータピルとして表示されます。

次のタスク
変数に値を割り当てるには、[フロー変数の設定] フローロジック を使用します。値を割り当てない場合、デフォルト値は null です。

インラインスクリプト

コーディング経験のあるユーザーが、アクションまたはフローの構成中に入力値を設定および変更するインラインスクリプトを記述できるようにします。インラインスクリプトを使用して、小さな形式変換、データ変換、または演算操作を必要とする入力値を変更します。

変換関数を使用して、スクリプティングなしで入力値を変更することもできます。利用可能なオプションのリストについては、「変換関数」を参照してください。

次のコンポーネントを設定すると、フローデザイナー に [スクリプト] ボタンが表示されます。

- フローのアクションを構成する際のアクション入力
- フローのアクションを構成する際のアクション出力
- フローのフローロジックを構成する際のフローロジック入力
- フローのフローロジックを構成する際のフローロジック出力
- アクションのステップを構成する際のステップ入力
- フローのサブフローを構成する際のサブフロー入力
- フローのサブフローを構成する際のサブフロー出力

インラインスクリプトは、入力が想定するものと同じデータ型の値を返す必要があります。たとえば、レコード入力のインラインスクリプトは GlideRecord オブジェクトを返す必要があり、日付入力のインラインスクリプトは日時値を返す必要があります。インラインスクリプトを含むアクションとフローを常にテストし、フロー実行の詳細にランタイムエラーがないことを確認します。

スクリプト作成者は、Now Platform テーブル構造とフィールドタイプ に精通している必要があります。さらに、ServiceNow API を使用してレコードとシステムデータを操作する方法を知っている必要があります。

メリット

インラインスクリプトには次のメリットがあります。

- カスタムアクションやカスタムフローを作成しなくても、データ変換や変換を簡単に行うことができます。
- スクリプトの影響を受ける入力データを特定できます。
- スクリプティング機能へのアクセスを、利用可能な ServiceNow API に精通しているユーザーまたはグループに制限することができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

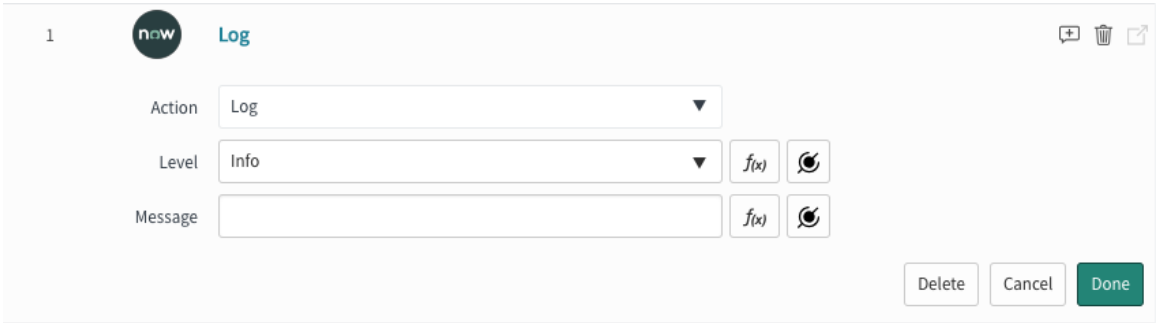
インラインスクリプトへのアクセス

flow_designer_scripting ロールまたは [スクリプティングを許可] 委託開発権限のいずれかを付与することで、オンラインスクリプティングへのアクセス権をユーザーに付与することができます。ロールと開発者権限の両方で、フローデザイナー 入力ごとにスクリプトボタンフィールドが表示されます。

スクリプトボタン

ユーザーがインラインスクリプトを作成できるようにすると、フローデザイナー によりフローおよびステップ入力の横にスクリプトボタンが表示されます。

入力の横に表示されるスクリプトボタン



[スクリプト] ボタンをクリックするとスクリプトエディターが開き、標準の入力インターフェイスが置き換えられます。入力値を計算するスクリプトを入力します。

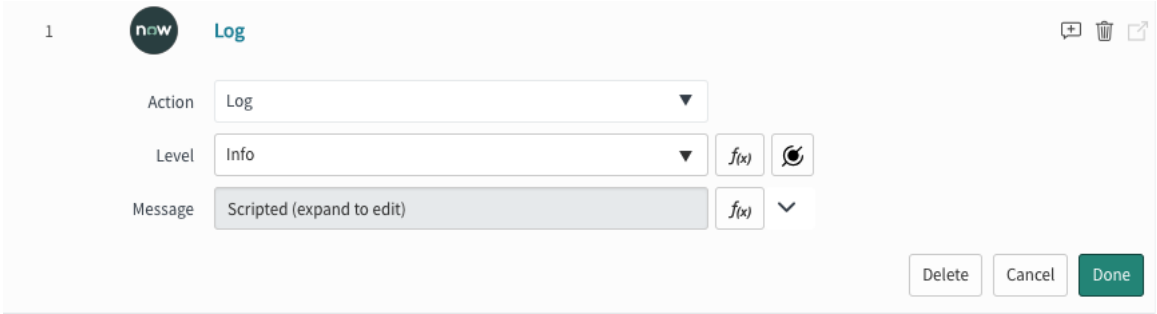
スクリプトに、スクリプトの結果を含む「`return`」ステートメントが含まれていることを確認してください。たとえば、「`return shortDesc;`」は「`shortDesc`」変数の値を返します。

入力用のスクリプトエディター

[スクリプトを折りたたむ **(Collapse Script)**] ボタンをクリックすると、スクリプトエディターが非表示になり、読み取り専用バージョンの入力が表示されます。[スクリプトを展開 **(Expand Script)**] ボタンをクリックすると、スクリプトエディターが表示され、スクリプトを編集できるようになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトを含む入力



フローデザイナー データオブジェクト

スクリプト作成者は、「`fd_data`」オブジェクトを使用して、前のアクションとステップのデータにアクセスできます。`fd_data` オブジェクトを使用して、フローの特定の出力にドット連結します。スクリプトエディターの先行入力の提案を使用して、特定の出力値を選択できます。たとえば、`fd_data` と入力し、先行入力の提案から `_2__for_each.item` を選択して、`fd_data._2__for_each.item` へのドット連結参照を作成します。この参照は、フローの 2 番目の出力 (この例では For Each フローロジックアイテム) からのデータにアクセスします。

重要: fd_data オブジェクトには、特定のフロー出力へのドット連結参照が常に必要です。ドット連結参照がないと、インラインスクリプトは フローデザイナー データにアクセスできません。

フローデザイナーは、アクション、フロー、またはサブフローを保存するたびにデータオブジェクトを更新します。先行入力の提案にターゲットが含まれていない場合は、アクション、フロー、またはサブフローを保存し、ピリオド文字を再入力して提案のリストを更新します。

フローデザイナーのデータオブジェクトのオプション

データターゲット	参照構文	例
アクションの入力	`fd_data.action_inputs.`*`action-input-name`*	`var task = fd_data.action_inputs.task;`
フロー変数	`fd_data.flow_var.`*`flow-variable-name`*	`var shortDesc = fd_data.flow_var.short_description;`
前のアクション、フローロジック、またはステップの出力	`fd_data._`*`output-target-step-number`*`__`*`output-target-name`*	`var taskRecord = fd_data._2__create_task;`
サブフロー入力	`fd_data.subflow_inputs.`*`subflow-input-name`*	`var reqItem = fd_data.subflow_inputs.requested_item`
トリガー	`fd_data.trigger.`*`trigger-data-pill`*	`var incident = fd_data.trigger.current;`

一般的なガイドライン

再利用可能かつメンテナンス可能なインラインスクリプトを作成するには、次の一般的なガイドラインに従います。

再利用不可能な短いロジック用のインラインスクリプトを記述する

インラインスクリプトを使用して、特定の入力およびユースケースのデータをフォーマットまたは変更します。標準的で再利用可能な入力データの変換とフォーマットの操作の場合は、代わりに変換関数を選択してください。

利用可能な変換関数の確認

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローデザイナー は、データ変換とフォーマットの操作のための標準的な変換関数のリストを提供します。カスタムスクリプトソリューションを記述して管理するのではなく、既存の変換関数が利用可能な場合はそれを選択してください。

インラインスクリプトからのスクリプトインクルードの呼び出し

インラインスクリプトからスクリプトインクルードを呼び出すと、記述するコードの量を削減でき、また共通コードを 1 つの場所に保持することもできます。スクリプトインクルードを呼び出すには、クラスコンストラクターを使用します。スクリプトインクルードの作成の詳細については、「スクリプトインクルード」を参照してください。

```
var si = new MyScriptInclude();
si.functionOne();
```

インラインスクリプトではなく、再利用可能なコードのカスタムアクションまたはサブフローを作成する

ソースデータのデータ型の変更など、再利用可能または複合データロジックのカスタムアクションまたはサブフローを作成します。また、コードに慣れていないフローデザイナー向けにカスタムアクションやサブフローを提供することもできます。

アクションとフローの機能を複製しないようにする

アクションとフローの機能を複製するインラインスクリプトは記述しないでください。たとえば、レコード操作を実行するインラインスクリプトを記述するのではなく、レコードベースラインを作成および更新するアクションを使用します。

データ型を変更しないようにする

インラインスクリプトが入力または出力で想定されているものと同じデータ型の情報を提供することを確認して、ランタイムエラーを回避します。

var キーワードで変数を宣言して変数を作成する

「`var`」キーワードを使用して変数を宣言し、適切な JavaScript スコープ内に留まるようにします。値を割り当てて変数を作成すると、JavaScript によってその変数がグローバルオブジェクトに添付され、変数値がローカルスコープ外で存続してエラーが発生する可能性があります。

For Each フローロジックとフローデータオブジェクトを使用してレコード出力を処理する

インラインスクリプトは、For Each フローロジックから [複数のレコードの検索] アクションの [レコード] 出力にのみアクセスできます。[複数のレコードの検索] アクションをフローに追加して、レコード出力を生成します。For Each フローロジックをフローに追加して、レコード出力の各レコードを処理します。fd_data オブジェクトとアイテムオブジェクトを使用して、For Each フローロジックへのインラインスクリプト参照を作成します。たとえば、この参照では、For Each フローロジックがフローアウトライン「`fd_data._2__for_each.item`」の 2 番目のアイテムであると想定しています。

先行入力候補を使用して、フローおよびアクションデータへの参照を生成します。

fd_data オブジェクトを使用してフローおよびアクションデータへの参照を作成します。「`fd_data`」と入力すると、スクリプトエディターに既存のフローとアクションデータの先行入力候補が表示されます。フローおよびアクションデータへの参照をビルドする候補を選択します。

> **注:** [アイテム] オブジェクトを使用する For Each フローロジックのレコードデータを参照してください。

スコープループカウンター

スクリプトループには最大反復数がないため、有効な終了条件がない場合はループが無限に実行されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

有効な終了条件があることを確認するには、インラインスクリプトまたはアクション内のスクリプトステップでスコープループカウンターを使用します。`for (i=0; i< length; i++)` に `var` を追加し、`for (var i=0; i< length; i++)` を取得します。

ライセンスに関する考慮事項

データ連携 API を呼び出すインラインスクリプトは、統合ハブ のライセンスの対象となります。

コードエディター

コードエディターは、インラインスクリプトのテキストエディターをサポートします。

コードエディターには、サポートされている言語サービスおよびインラインスクリプト用の機能があります。

- 構文の色分け、インデント、行番号、閉じ括弧と引用符の自動作成
- 自動提案およびオートコンプリート

コードエディター

編集のヒント

- コード内の任意の位置に固定スペースを挿入するには、Tab キーを押します。
- コードの 1 行をインデントするには、行の先頭の空白をクリックして Tab キーを押します。
- コードの 1 行以上の行をインデントするには、対象のコードを選択して Tab キーを押します。インデントを減らすには、Shift+Tab キーを押します。
- コードの行の先頭から 1 つのタブを削除するには、行をクリックして Shift+Tab キーを押します。
- 変数を宣言するには、`var` キーワードを使用して、適切な JavaScript スコープ内に留まるようにします。

サブフローのビルド

ワークフロースタジオ は、サブフローの作成に使用されるデフォルトの Now Platform プロセス自動化ビルダーです。ワークフロースタジオ は、ワークフロー エディターに代わるものです。

フローとは異なり、サブフローにはトリガーがありません。次の場合にサブフローを使用します。

- 別のフローまたはスクリプトから呼び出してフローのみを開始する場合。
- 複数のフローで使用する一連の再利用可能な操作を作成する場合。
- サブフローが開始されたときにサブフローで使用できる入力を指定する場合。
- サブフローが終了した後に親フローで使用できる出力を指定する場合。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

すべてのサブフローは、「プロパティ」、1 つ以上の「入力」、1 つ以上の「出力」、一連のアクションとフローロジック、および、収集または作成されたデータで構成されています。

サブフローのプロパティ

サブフローのプロパティでは、サブフロー名、アプリケーション、カテゴリ、説明、インフロー注釈、ロール、およびステータスを指定します。フロー設計者はいつでも、サブフロー名、カテゴリ、説明、インフロー注釈、およびロールを更新できますが、アプリケーションの設定はサブフローの作成中にのみ行えます。サブフローのステータスは、サブフローを保存または公開するときに設定されます。

サブフローの入力

サブフローの入力では、開始時にサブフローで使用できるデータを指定します。 サブフローのために定義した各入力は、ワークフロースタジオ インターフェイスの構成オプションになります。フローでサブフローを使用するには、各必須入力の値を定義する必要があります。サブフローの入力が増えるほど、より多くのデータを定義しなければならず、サブフローを効果的に使用するためには基礎となるデータモデルをよく理解している必要があります。

入力は、データ型に基づいて詳細なオプションを提供します。すべての入力には、ヒントを追加する、またはデフォルト値を指定するための詳細なオプションがあります。詳細なオプションを使用すると、フローにサブフローを追加して設定することで、フローデザイナーを誘導できます。たとえば、選択肢の入力を作成して、フローデザイナーに事前に定義された構成オプションのリストから選択させることができます。特定のデータ型で利用可能な構成オプションの詳細については、「フィールドタイプ」を参照してください。

サブフローの出力

サブフローの出力では、サブフローが完了した後に親フローで使用できるデータを指定します。サブフロー出力は、名前とデータ型を持つ変数として定義されます。サブフローデザイナーは、[サブフロー出力の割り当て] フローロジックを使用して出力に値を割り当てます。出力値は、サブフローのロジック条件、アクション結果、または手動で設定された値に基づくことができます。たとえば、ある条件が満たされたときに出力に 1 つの値が含まれ、条件が満たされないときには出力に別の値が含まれることがあります。実行時に満たされた条件によって出力の値が決まります。

次の 2 つの条件を持つサブフローの例を考えてみましょう。どちらの結果も単一の出力変数の値になります。変数の値は、実行時に満たされる条件に依存します。

出力

[マネージャー ID] [文字列]

アクション

- 1 ルックアップ [ユーザー] レコード 場所 (作成日が本日)
- 2 (**[1->**ユーザーレコード**->**タイトル] にマネージャーが含まれている) 場合は、サブフロー出力 [マネージャー ID] を **[1->**ユーザーレコード**->**ユーザー **ID]** に割り当て
- 3 それ以外の場合は、サブフロー出力 [マネージャー ID] を **[1->**ユーザー レコード**->**マネージャー**->**ユーザー **ID]** に割り当て

この場合、ユーザーのタイトルに「マネージャー」が含まれていれば、ユーザー ID が出力として割り当てられます。それ以外の場合は、サブフローによってユーザーのマネージャーが検索され、マネージャーのユーザー ID が出力として割り当てられます。

フローデザイナー では、同じ変数の値を複数回定義することができます。ただし、条件付きロジックがない状態で変数に 2 つ以上の値が与えられた場合は、サブフローで定義された最後の値のみが実行時に出力に適用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力

[マネージャー ID] [文字列]。

アクション

- 1 ルックアップ [ユーザー] レコード 場所 (作成日が本日)
- 2 サブフロー出力を割り当て [マネージャー ID] 宛先 **[1->ユーザーレコード->ユーザー ID]**
- 3 サブフロー出力を割り当て [マネージャー ID] 宛先 **[1->ユーザーレコード>マネージャー->ユーザー ID]**

この例では、アクション 3 によってアクション 2 の値が上書きされ、実行時に **[1->ユーザーレコード>マネージャー->ユーザー ID]** が最後に定義された値であるため、この値が [マネージャー ID] 出力に適用されます。通常、条件付きフロー ロジックを使用する場合、サブフローでは 1 つの変数に複数の値のみ含める必要があります。

サブフロー実行の詳細

プロセスアナリストは、複数の場所からサブフロー実行の詳細を表示できます。

親フロー実行の詳細

フローデザイナー により、親フロー実行の詳細にサブフロー実行の詳細が表示されます。親フロー実行の詳細には、各サブフローがインライン要素としてリストされます。サブフローのステップを展開すると、その実行の詳細を表示できます。

サブフロー実行の詳細

サブフローが実行されるたびにフロー実行の詳細が生成されます。フロー実行のリストからサブフロー実行の詳細を直接表示します。

アクション

フロー設計者は、[アクション] の中にアクション、フローロジック、フロー、または他のサブフローを追加できます。

「アクション」は、コードを書かなくてもプロセスアナリストが Now Platform 機能を自動化できるようにする再利用可能な操作です。たとえば、[レコードを作成] アクションによって、プロセスアナリストは、特定の条件が発生したときに特定の値を持つ特定のテーブルにレコードを生成することができます。[レコードを作成] のような ServiceNow コアアクションでは、Now Platform テーブルとフィールドに精通している必要があります。アクションデザイナーは、アプリケーション固有のアクションを作成して、構成の詳細をあらかじめ設定することができます。たとえば、[インシデントタスクを作成] アクションを作成すると、アクションが使用されるたびにプロセスアナリストが正しいテーブルとフィールドの構成を使用するようになります。関連するスポークを有効化することによって、アプリケーション固有のアクションを追加できます。

フローロジック

サブフローに「フローロジック」を含めて、条件付きアクションまたは反復アクションを指定したり、出力変数をサブフローデータに割り当てたりすることができます。フローロジックでは次のオプションが提供されています。

利用可能なフローロジック

フローロジック	説明
For Each	レコードリスト内の各レコードにアクションを適用します。フロー設計者は、サブローデータからレコードリストを指定する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

利用可能なフローロジック (続く)

フローロジック	説明
	注: 一連のレコードに対してアクションを繰り返すために、**For Each** フローロジックブロックを別のフローブロックの中にネストできます。ただし、多数のレコードを処理する For Each ループがネストされないようにしてください。ループがネストされた場合は、フローが 1 時間より長く実行されないようにするフロートランザクションクォータのルールによって停止するまでフローが実行されることがあります。トランザクション割り当ての詳細については、「トランザクション割り当て」を参照してください。
条件	条件のリストが満たされたときにアクションを適用します。フロー設計者は、サブフローデータを使用して条件を指定できます。If 条件を追加したら、Else または Else のフローロジックオプションを追加して、条件が満たされない場合の動作を定義できます。
サブフロー出力のアサイン	サブフローデータに出力変数を割り当てます。[入力および出力] で定義された出力のみに値を割り当てることができます。出力を割り当てると、サブフロー内の各論理パスに異なる出力変数を割り当てることができます。

その他のアクション

[その他のアクション] ( ) ボタンをクリックし、サブフローのその他のオプションにアクセスします。

コピーアクション
: 指定アプリケーションでオープンサブフローのコピーを作成します。

構成管理
: [ドラフトアクションを表示]、[トリガーフローを表示]、[ストアスポークを表示]、および [インラインスクリプトの切り替えを表示] オプションを有効または無効にします。

コードスニペット
: アクションのコードスニペットを生成します。

セキュリティを管理します。
: [クライアント **API** によるコール可能 **(Callable by Client API)]** オプションを有効または無効にします。

自然言語タイトルの管理
: スタイル付きまたは動的なテキストを使用してサブフローのタイトルを作成または編集します。詳細については、「自然言語タイトルの管理 (Manage natural language titles)」を参照してください。

サブフローのテスト

サブフロー単独の場合、またはフローに追加した場合にテストできます。サブフローのみをテストする場合は、サブフローがそのアクションで使用する入力を定義する必要があります。サブフローにはトリガーがないため、サブフローをテストすると、定義された入力値を使用してアクションが実行されます。

注: サブフローをテストするとインスタンスでレコードが作成または変更されるため、フローデザイナーは関連するデモ用データを含む非本番インスタンスでサブフローを常にテストする必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロール

サブフローにアクセスするユーザーには、flow_designer ロールまたは admin ロールが必要です。

一般的なガイドライン

フローに適用される一般的なガイドラインはサブフローにも適用されます。

フローの代わりにサブフローを使用する理由は次のとおりです。

フローにトリガーまたは変数の入力が必要かどうかを判断する

フローは、トリガー条件が満たされたときに常に実行されます。トリガーは常にフローの入力として同じデータを提供します。フローを開始するために代わりに変数の入力が必要な場合は、サブフローを作成します。

ビジネスロジックを再利用する

一連の再利用可能な操作をサブフローとして作成し、それを複数のフローで使用できます。

呼び出しごとに異なる入力値を設定する

サブフローを呼び出すたびにサブフローの入力値の設定を変えます。たとえば、さまざまなレコードタイプを実行の入力として受け入れるようにサブフローを設計します。レコードタイプごとに特定のフローを書き込む代わりに、この汎用レコードサブフローを再利用します。

大規模なフローのパフォーマンスと読みやすさを向上させる

フローが 25 アクションを超える場合は、サブフローを使用します。sn_flow_designer.max_actions システムのプロパティで指定されているアクションの最大数は 50 ですが、最高のパフォーマンスを得るにはフローを 25 アクションに制限します。

サブフローの入力を 20 件に制限する

サブフローの入力数が多いほど、サブフローを開いて実行するためのリソースが多く必要になります。20 件を超える入力を処理すると、サブフローのオープンと実行が遅くなる可能性があります。

入力と出力をサブフローで渡す

入力と出力を渡す場合は、サブフローを呼び出します。開始時にサブフローで使用できる入力を指定する場合、またはサブフローの終了後に親フローで使用できる出力を指定する場合は、サブフローを使用します。

単一のイベントで複数のフローをトリガーする場合と並列サブフローを使用する場合の比較

- 相互に関連する出力があるか、すべてが利用可能な場合に何らかのアクションを実行する必要がある場合は並列サブフローを使用します。そうでない場合は、複数のフローをトリガーする方が簡単です。
- 並列サブフローを設定するには、待機なしで各サブフローを起動し、[条件待ち] を使用して各サブフローが終了する (完了、エラー、キャンセル) まで待機します。

類似の機能を持つサブフローが複数ある場合は動的フローを使用する

動的フローでは、テンプレートを適用して複数の類似したサブフローの入力を処理することで、プロセスを区分化できます。区分化により、統合ハブ スポークのサブフローなど、類似の機能を実行するサブフローを区別できます。

エラー処理プロセスで 10 個のアイテムの制限を回避する

エラー処理プロセスを強制的に 10 個のアイテム制限内に収まるようにするのではなく、さらに多くのアイテムを含めることができるサブフローを呼び出します。サブフロー出力を使用して、他のフローの自動化をトリガーすることもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

是正処置を実行する

複数のフローで同じ一連のアクションを再作成するのではなく、再利用可能なサブフローを作成して、レコードデータのエラーを修正します。フローエラーによってレコードデータが望ましくない状態になった場合は、サブフローを使用してこれらのレコードを修正します。エラーハンドラーを使用して、そのようなレコードデータをサブフロー出力として特定することができます。

ワークフロースタジオ でサブフローを作成

フローのコンテンツ全体をサブフローとして再利用します。サブフローが使用する入力データと生成する出力データを定義します。他のフローまたはスクリプトからサブフローを呼び出します。

始める前に

ガイド付きアプリケーションクリエーターでアプリケーションを設定 して フローデザイナーコンテンツを保存します。

必要なロール：flow_designer または admin

このタスクについて

flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アプリケーションのテーブル構造を把握し、フローまたはサブフローのターゲットテーブルに関連付けられている既存のビジネスロジックを認識する必要があります。フローまたはサブフローを作成する前に、競合するビジネスルールまたはワークフローを無効にしてください。

カスタムアプリケーションを作成して フローデザイナー のコンテンツを格納することで、アプリケーションリポジトリまたは ServiceNow Store を使用してコンテンツを展開 することができます。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [新規] > [サブフロー] を選択します。
   [サブフローのプロパティ] 画面が表示されます。
3. 次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
サブフロー名	サブフローの名前。
説明	サブフローの説明。
アプリケーション	サブフローを作成するアプリケーションスコープ。
ドメイン	サブフローのドメインスコープ。ドメインセパレーションの詳細については、「ドメインセパレーションの説明 」を参照してください。
追加のプロパティ	
アクセス可能	スコープ対象のすべてのアプリケーションから、または指定したアプリケーション スコープ内のみから、アクセス可能です。
カテゴリ	サブフローのアプリケーションスコープ内で定義されたカテゴリ。Xanadu リリース以降、カスタムカテゴリを作成してサブフローを整理できます。
保護	サブフローを読み取り専用にするかどうかを選択します。自分が所有するアプリケーションスコープでサブフローを作成する場合にのみ、値を選択できます。デフォルト値は「なし」です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
サブフロー注釈	ワークフロースタジオでサブフローのタイトルの下に表示されるヘルプテキスト。フロー作成者はこれを利用して、サブフローがフロー内で使用されるときに何を実行するのかを理解できます。
実行方法	そのフローをシステムユーザーとして実行するか、セッションを開始したユーザーとして実行するかを指定するオプションです。フローをトリガーしたユーザーから更新を実行する必要がある場合は、セッションオプションを開始したユーザーを選択します。たとえば、現在のユーザーからのインシデントレコードに関するコメントや、承認者から送信された承認メールが必要な場合に、このオプションを使用します。フローのオプションとして実行を設定しても、子サブフローには適用されません。開始ユーザーとして実行すると、フロー実行中に実行されるアクションは、ユーザーの ACL 制限によって制限されます。開始ユーザーによって実行されるフローも、日時形式などのユーザー固有の設定に従って実行されます。 **注:** セッションを開始するユーザーとして実行するためのオプションを選択するときは、セキュリティ制限によって、ユーザーがフロー実行を変更することが妨害されないようにしてください。
ロールを使用して実行	フローを実行するロールです。[実行方法] が [セッションを開始するユーザー] に設定されている際にのみ、このオプションを利用できます。
フローのデフォルトの優先度	デフォルトでこのサブフローが実行される優先度レベル。次のオプションがあります。 ◦ 低 ◦ 中 (デフォルト) ◦ 高 フローの優先度レベルの詳細については、「フロー優先度」を参照してください。

4. サブフローの入力を作成して、サブフローが実行開始されたときに使用できるデータを指定します。
   サブフローのために定義した各入力は、ワークフロースタジオ インターフェイスの構成オプションになります。フローでサブフローを使用するには、各必須入力の値を定義する必要があります。サブフローの入力が増えるほど、より多くのデータを定義しなければならず、サブフローを効果的に使用するためには基礎となるデータモデルをよく理解している必要があります。

   a. **[+]** をクリックし、[入力および出力] ペインを開きます。

   b. **[+]** をクリックし、新しい入力を追加します。

   c. 入力の名前とタイプを定義します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: サブフローの入力名に、次の予約済みシステム名を含めることはできません。

- `sys_id`
- `sys_created_by`
- `sys_created_on`
- `sys_updated_on`
- `sys_updated_by`
- `sys_mod_count`

d. 入力を必須の設定オプションにするには、[必須] フラグを選択します。

e. をクリックして詳細オプションを表示し、値を定義します。
入力は、データ型に基づいて詳細なオプションを提供します。すべての入力には、ヒントを追加する、またはデフォルト値を指定するための詳細なオプションがあります。詳細なオプションを使用すると、フローにサブフローを追加して設定することで、フローデザイナーを誘導できます。たとえば、選択肢の入力を作成して、フローデザイナーに事前に定義された構成オプションのリストから選択させることができます。特定のデータ型で利用可能な構成オプションの詳細については、「フィールドタイプ」を参照してください。

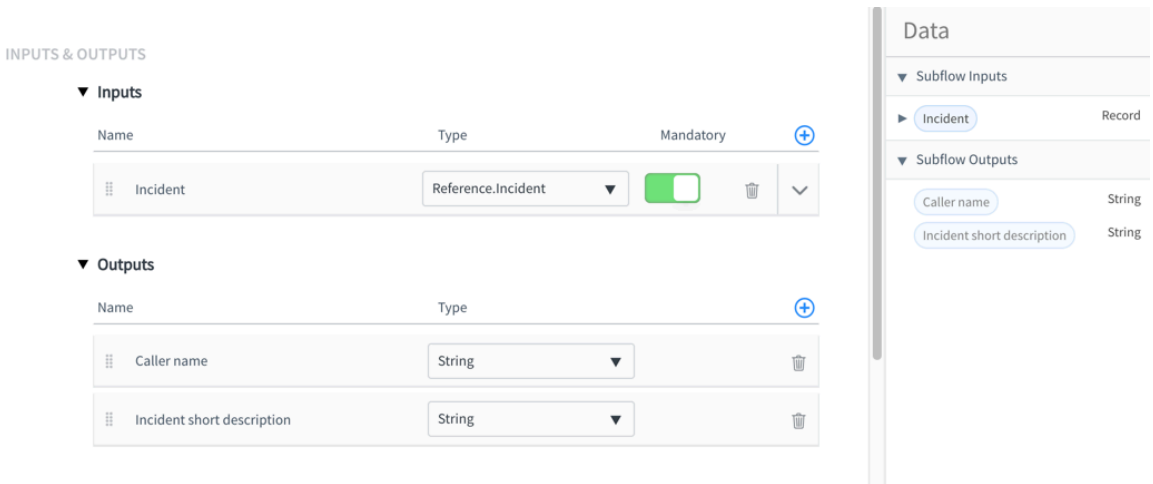
5. サブフローの出力を作成します。それには名前とデータタイプを定義します。
サブフローの出力では、サブフローが完了した後に親フローで使用できるデータを指定します。

a. **[+]** をクリックし、新しい出力を追加します。

b. 名前とデータタイプを定義します。
出力値は後のステップで割り当てます。

注: サブフローの出力名に、次の予約済みシステム名を含めることはできません。

- `sys_id`
- `sys_created_by`
- `sys_created_on`
- `sys_updated_on`
- `sys_updated_by`
- `sys_mod_count`



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. アクション、フロー、サブフロー、またはフローロジックを追加するには、[アクション、フローロジック、またはサブフローを追加] を選択します。

   a. オプションを選択します。

オプション	説明
アクション	目的のアクションを選択します。ワークフロースタジオ には、フローとサブフローで使用可能な ワークフロースタジオ アクション が含まれています。または、action_designer ロールを持つユーザーは、フローに追加するアクションを作成できます。統合ハブ プラグインと スポーク プラグインは、追加のアクションをインストールします。 [その他のアクション] メニューからドラフトアクションを追加するには、[ドラフトアクションを表示] を **true** に設定します。 ServiceNow Store で利用可能なスポークを表示するには、 [その他のアクション] メニューから [ストアスポークを表示] を **true** に設定します。 注: [スポークが未インストール] の下に、ServiceNow のバージョンとの互換性や ワークフロースタジオ のアプリケーションの依存関係に基づいて ServiceNow Store で利用可能なスポークが表示されます。
フローロジック	条件付き操作または繰り返し操作を指定するオプションを選択します。
サブフロー	公開されたサブフローを選択し、入力値を定義します。フローアクションとしてサブフローを追加することに加えて、[その他のアクション] メニューから [トリガーフローを表示] オプションを有効にして、有効になったフローを選択し、必要な入力を定義することができます。トリガーされたフローを実行すると、そのトリガー条件は無視され、すべてのアクションが実行されます。

   フロー内のアクションの順序を変更するには、アクションの左側にあるハンドルを目的の場所にドラッグします。

   選択したオプションに応じて、一連のフィールドが表示されます。

   b. アクション、フローロジック、またはサブフローを設定するには、フィールドに入力します。

   c. [完了] を選択します。

   d. 完了するまでアクションの追加を繰り返します。

7. サブフローの出力を値に割り当てます。
   サブフローの出力は複数の値に割り当てることができ、フローロジックに基づいて条件付き出力を作成することができます。

   a. [アクション] の下で、**[+]** をクリックし、[フローロジック] を選択します。

   b. [サブフロー出力を割り当て] をクリックします。

   c. [名前] で、[入力および出力] セクションで作成した出力を選択します。
   すでに名前とデータ タイプが指定されている出力にのみ、値を割り当てることができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. [データ] フィールドに、値を入力するか、データパネルからデータピルを選択します。

e. [完了] をクリックします。

次のタスク
サブフローをテストし、フローに追加する準備またはスクリプトから呼び出す準備ができたら、公開します。

注: テストまたは公開できるのは、少なくとも 1 つのアクションが含まれているサブフローのみです。

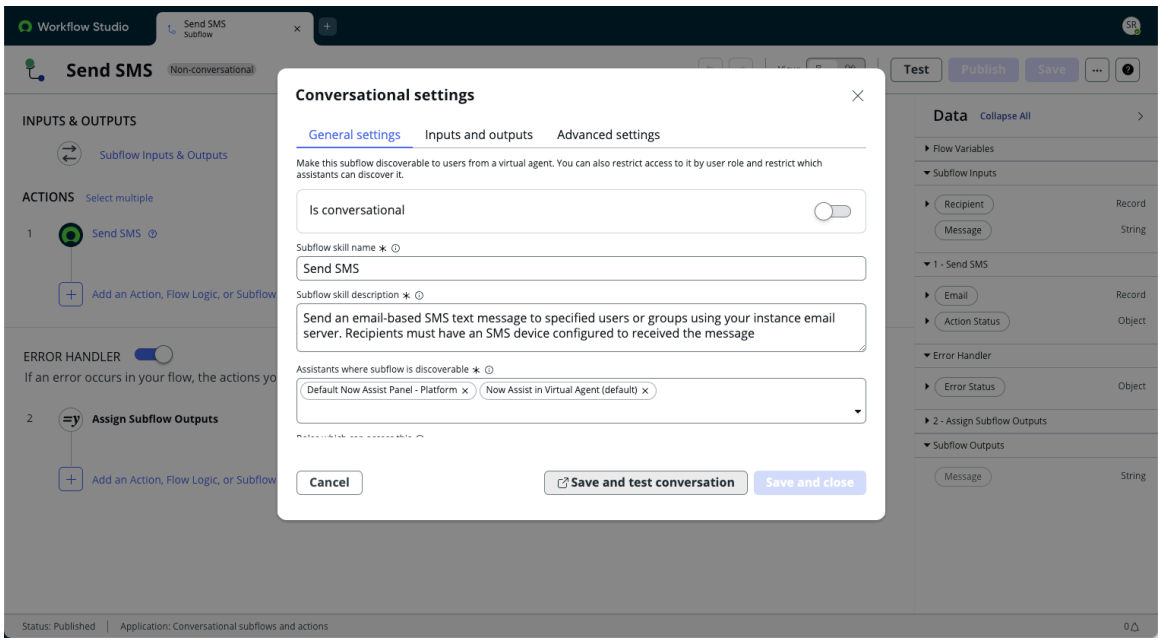
サブフローの会話設定を構成する

会話設定を構成して、対話型インターフェースでサブフローを使用できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、[サブフロー] を選択します。
3. すべてのサブフローのリストから、構成するサブフローを選択します。
4. その他のアクションアイコン ( ) をクリックし、[会話設定 **(Conversational settings)]** を選択します。
5. 全般設定を構成します。

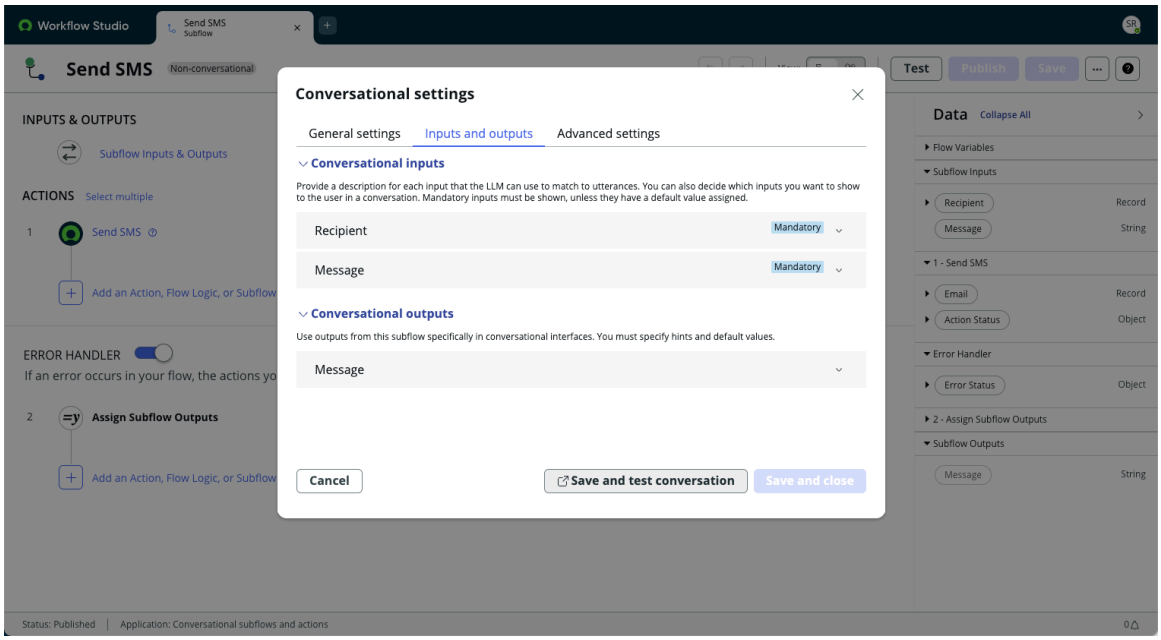


フィールド	説明
会話型である	サブフローを対話型インターフェースで利用できるようにするためのオプション。有効にすると、会話からサブフローを呼び出すことができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
サブフロースキル名 (Subflow skill name)	利用可能なトピックのリストで、仮想エージェントが表示するスキルの名前。
サブフロースキルの説明 (Subflow skill description)	このサブフローを呼び出すために誰かが会話で使用する可能性がある検索用語とキーワード。スキルの説明が良いほど、発話に対して AI 検索の一致が向上します。
サブフローが検出可能な場合のアシスタント (Assistants where subflow is discoverable)	このサブフローを検出可能な場合の仮想アシスタントのリスト。
これにアクセスできるロール	仮想エージェントからこのサブフローにアクセスするために必要なロール。

6. サブフローの入力および出力を構成します。

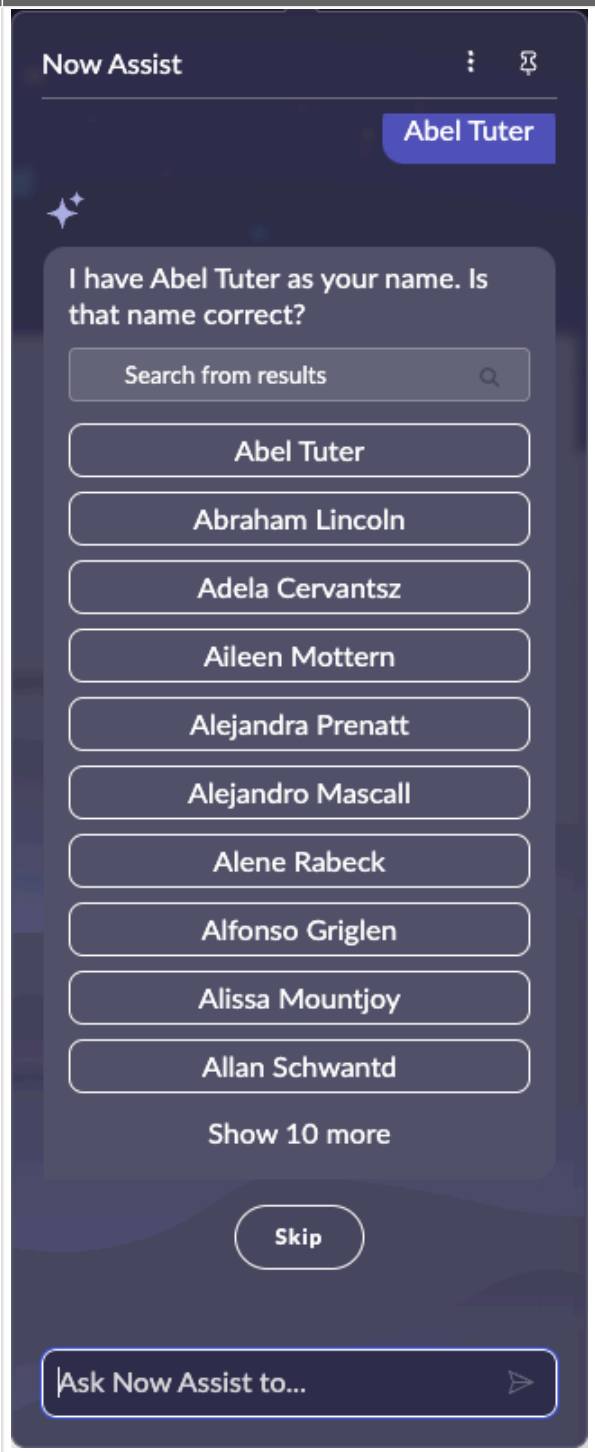


フィールド	説明
会話型入力	対話型インターフェースで利用可能なサブフロー入力のリスト。
この入力についての説明	この入力を設定するために誰かが会話で使用する可能性がある検索用語とキーワード。入力の説明が良いほど、発話に対して AI 検索の一致が向上します。必須入力の説明を入力する必要があります。
参照で上書き (Override with reference)	選択したテーブルと参照フィールドから既存の値を検索して挿入するオプション。このオプションを使用すると、手動で値を入力する代わりに、既存のレコード値のリストから選択できます。実行時に、リストから選択した値が入力に使用されます。 このオプションは、メール、GUID、整数、長整数、長整数文字列、文字列、および文字列 (完全な UTF8) データタイプの入力で使用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: ドキュメント ID および参照データタイプは、テーブルの参照フィールドで定義されている表示値のリストによって自動的に上書きされるため、有効なオプションではありません。表示値と参照フィールドの詳細については、「表示値」を参照してください。 このオプションをオンにすると、[テーブル] および [参照フィールド] オプションが表示されます。
テーブル	既存の値のリストを表示するために使用する参照フィールドを含むテーブル。たとえば、ユーザー [sys_user] テーブルには、ユーザーを名前で選択するための文字列フィールドが含まれます。
参照フィールド	既存のレコード値をオプションのリストとして表示するフィールド。この入力には、参照フィールドのデータタイプに基づいてオプションのリストが表示されます。選択する参照フィールドのデータタイプは、入力のデータタイプと一致する必要があります。意味のある値と一意の値の両方を含むフィールドを選択します。たとえば、ユーザー名の文字列入力がある場合は、ユーザー [sys_user] テーブルから name などの文字列フィールドを選択します。会話では、`Abel Tuter` や `Beth Anglin` など、選択できる文字列ユーザー名のリストが入力に表示されます。 **注:** 各テーブルには Sys ID 値を格納する一意のフィールドが既に存在するため、このオプションは GUID データタイプの入力には使用できません。

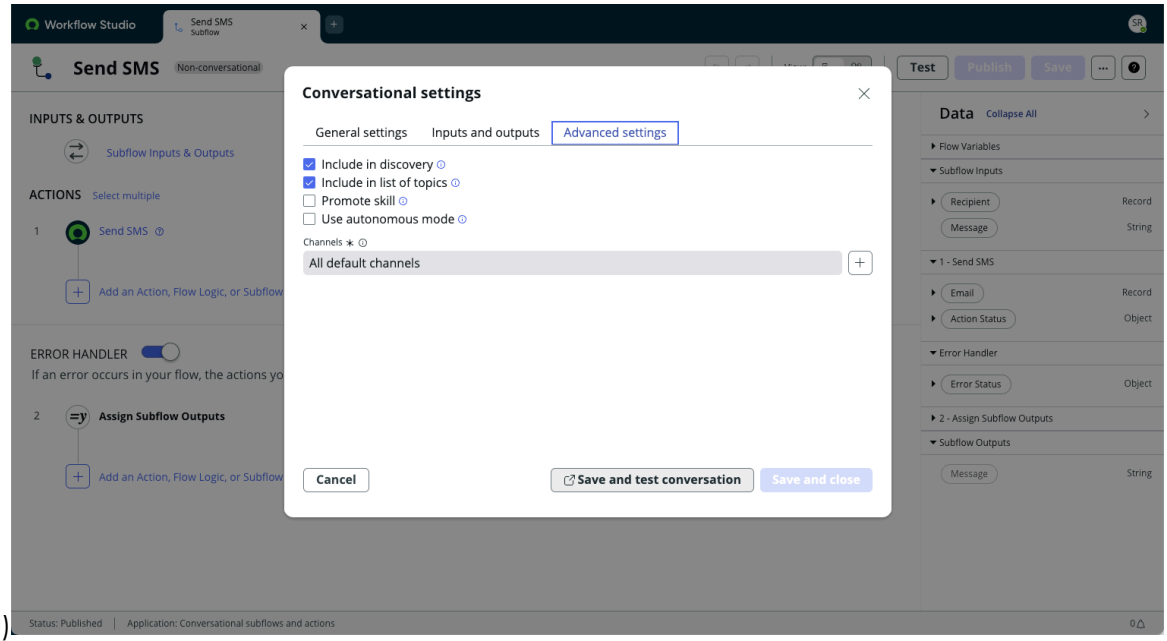
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	 表示値と参照フィールドの詳細については、「表示値」を参照してください。
会話型出力	対話型インターフェースで利用可能なサブフロー出力のリスト。
この出力について説明します	この出力を設定するために誰かが会話で使用する可能性がある検索用語とキーワード。出力の説明が良いほど、発話に対して AI 検索の一致が向上します。必須出力の説明を入力する必要があります。

7. オプション: 会話の詳細設定を構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

(Optional)



フィールド	説明
ディスカバリーに含む	このサブフローを仮想エージェントから検出可能にするためのオプション。
トピックのリストに含む	利用可能なトピックのリストにこのサブフローを含めるためのオプション。
スキルを昇格	利用可能なすべてのスキルを表示するように求められたときに、このサブフローをリストの上位に表示するためのオプション。
自律モードを使用	確認を求めずに、レコードを作成、表示、更新、または削除するオプション。
チャネル	このサブフローを使用できるデフォルトチャネルのリスト。

8. [Save and close (保存して閉じる)] を選択します。

サブフローのコピー

サブフローをコピーして新しい名前を付け、別のアプリケーションスコープに移動します。

始める前に

必要なロール：admin または flow_designer

このタスクについて

サブフローをコピーして新しい名前を付けたり、別のアプリケーションスコープに移動したりすることができます。新しいサブフローには、ソースサブフローと同じサブフロープロパティ、入力、アクション、フローロジック、および出力があります。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。

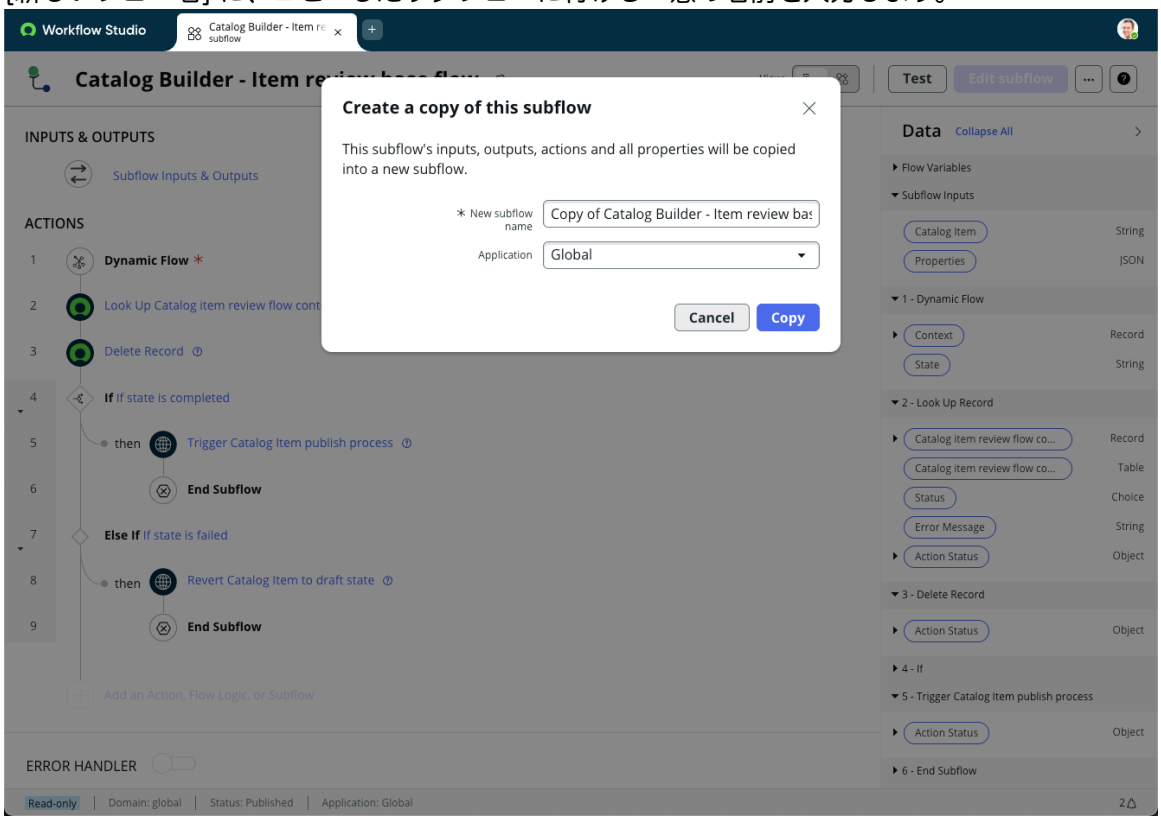
2. ホームページで、[サブフロー] を選択します。

3. コピーするサブフローを選択します。

4. その他のアクションアイコン (⋯) をクリックし、[サブフローのコピー] を選択します。

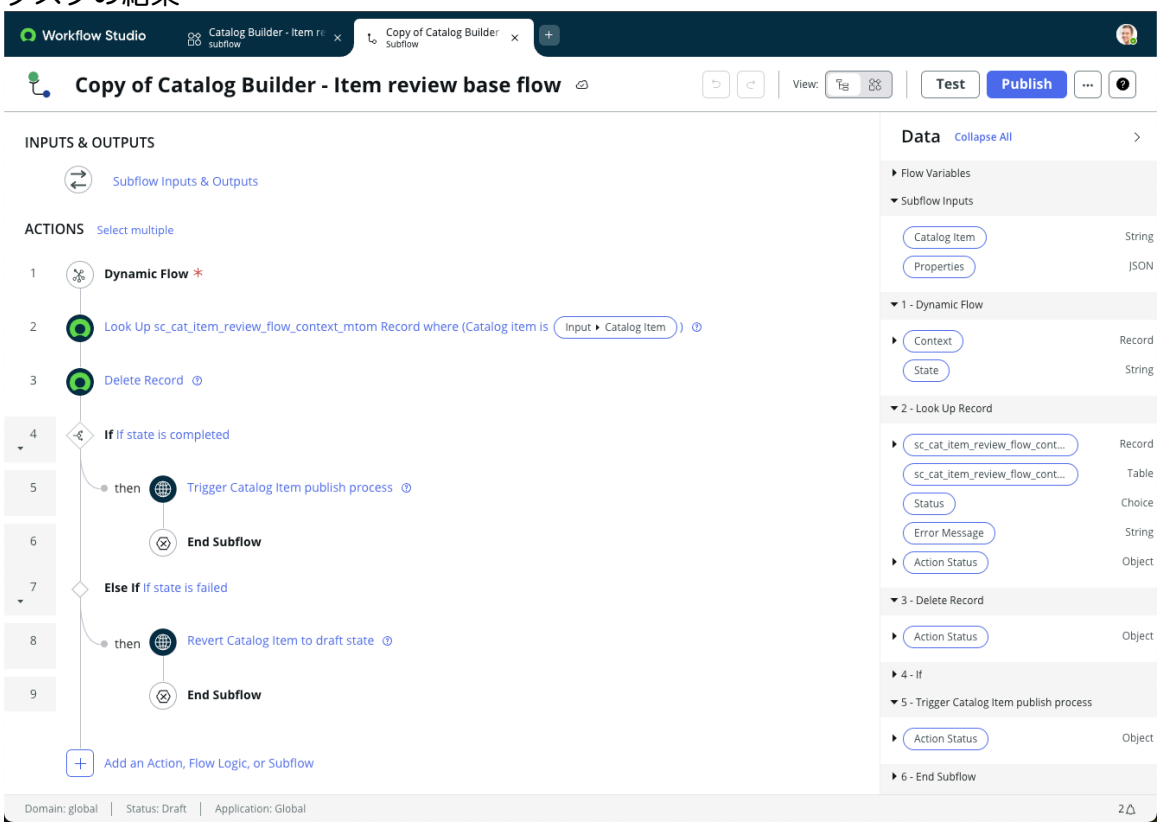
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [新しいフロー名] に、コピーしたサブフローに付ける一意の名前を入力します。



6. オプション: [アプリケーション] から、サブフローをコピーするアプリケーションスコープを選択します。
7. [コピー] を選択します。

タスクの結果



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロースタジオ で新しいサブフローが開きます。

サブフローでのディシジョンテーブルの作成

ワークフロースタジオ でフローを作成するときにディシジョンテーブルの構造を作成します。サブフローからのデータを使用して、ディシジョンテーブルの入力、条件、および結果を、すべて 1 つの便利なモーダルで作成します。

始める前に
必要なロール：admin、decision_table_admin、flow_designer、または委任開発者権限

このタスクについて
サブフローでディシジョンテーブルをインラインで作成すると、入力、条件、および結果を含むテーブルの構造のみが作成されます。実際の意思決定ルールを追加してテーブルを完成させるには、ディシジョンテーブルを独自のタブで開いて編集する必要があります。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、[サブフロー] を選択します。
3. サブフローを選択します。
4. [アクション] の下で、[フローロジック] を選択します。
5. [意思決定] を選択します。
6. [意思決定ラベル] フィールドに、意思決定の一意のラベルを入力します。
7. [ディシジョンテーブル] フィールドで、[新しいレコードを作成] (+) ボタンを選択します。
   [ディシジョンテーブルを作成 (Create decision table)] モーダルの [プロパティを設定 (Set Properties)] ページに、サブフローから 2 つの編集可能なフィールドが入力されます。

   プロパティを設定

フィールド	説明
ディシジョンテーブル名	テーブルの一意の名前。この名前は意思決定ラベルから入力されます。
アプリケーション	ディシジョンテーブルが存在するアプリケーション。アプリケーションは、サブフローが含まれているアプリケーションに基づいて入力されます。

8. [次へ] を選択します。
9. [入力を追加] を選択して、ディシジョンテーブルに入力を追加します。
   入力は、ディシジョンテーブルが意思決定を行うために検索するデータのタイプを定義する変数です。サブフローでディシジョンテーブルを作成するときは、サブフローのデータから直接入力を追加できます。追加できる入力のタイプの詳細については、「ワークフロースタジオ に意思決定テーブルを作成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: ディシジョンテーブルを開いて値を入力するときに、一部の入力を追加または調整する必要があります。

- このディシジョンテーブルに参照タイプの入力を追加する場合は、ディシジョンテーブルを独自のタブで開くときにそれを行う必要があります。
- このモーダルに選択肢タイプの入力を追加する場合、ディシジョンテーブルを独自のタブで編集し始めると、選択肢自体は表示されません。選択肢オプションは現在のスコープに基づいているため、手動で追加する必要があります。たとえば、タイプが [選択肢] の [優先度] フィールドを追加する場合、優先度のオプション ([低]、[中]、[高] など) は自動的に追加されません。ディシジョンテーブルを開いて値を入力するときに追加できます。

10. [次へ] を選択します。
11. [結果列を追加] を選択して、テーブルへの結果列の追加を開始します。
    結果は、特定の条件が満たされたときにディシジョンテーブルから返される出力です。
12. オプション: 選択した結果タイプに必要な構成を追加します。
13. [作成して開く **(Create and Open)]** を選択します。
    ディシジョンテーブルは、ワークフロースタジオ内の独自の統合タブで開きます。ここでは、入力または結果への [参照タイプ] フィルターの追加など、テーブルの任意の部分を編集できます。

    条件列は、対応する入力フィールドに基づいてディシジョンテーブルに追加されます。
14. 条件列と結果値に意思決定ルールを追加して、ディシジョンテーブルを完成させます。
15. [保存] を選択します。
16. オプション: 元のサブフローで、意思決定をレビューおよびテストして、期待どおりの結果が生成されることを確認します。
17. [完了] を選択します。

アイテムをサブフローに変換

フローの連続するアイテムを、変換されたアイテム間のデータピル参照を保持する新しいサブフローに変換します。元のフローを更新して、変換されたアイテムを新しいサブフローの呼び出しに置き換えます。

始める前に

- 必要なロール：flow_designer または admin
- ソースフローへの読み取りおよび書き込みアクセス

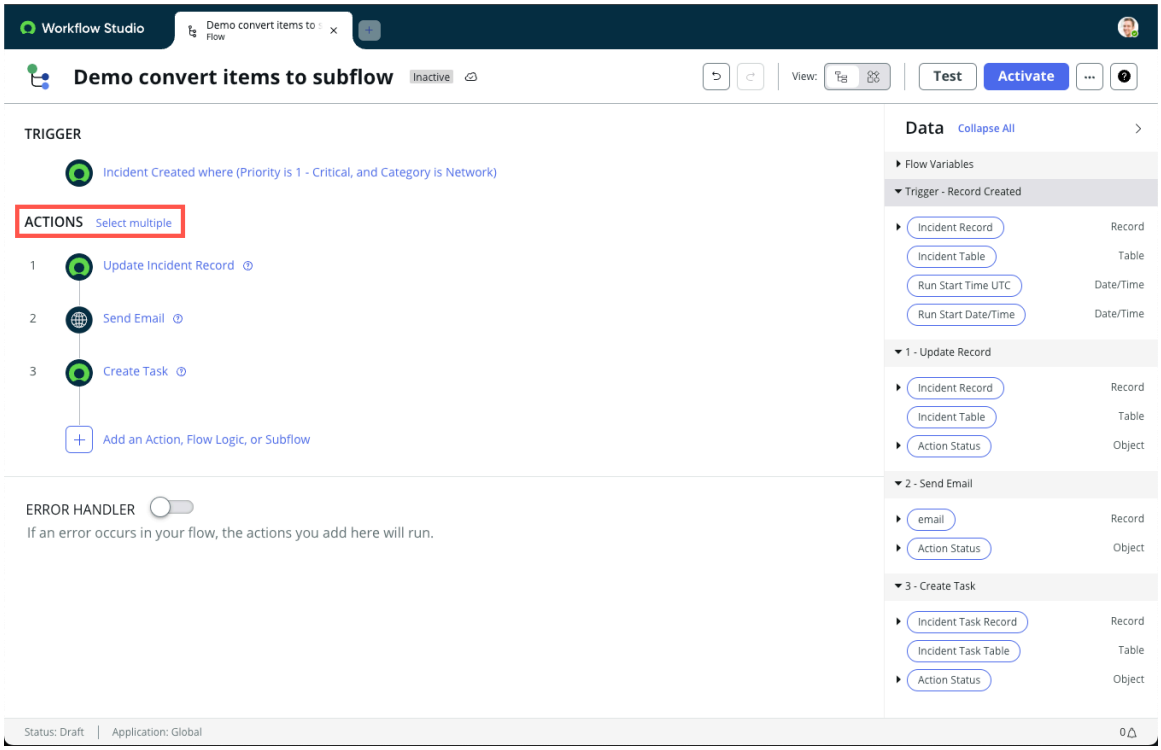
このタスクについて

アクションをサブフローに変換すると、元のフローのデータピル参照と変換関数が保持されます。フローデザイナー は、元のフローと同じアプリケーションスコープに新しいサブフローを作成します。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. 編集するフローを開きます。
3. [アクション] ヘッダーの横にある [複数選択] リンクを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



重要: [複数選択] リンクを表示するには、フローに少なくとも 2 つのアクションが含まれている必要があります。

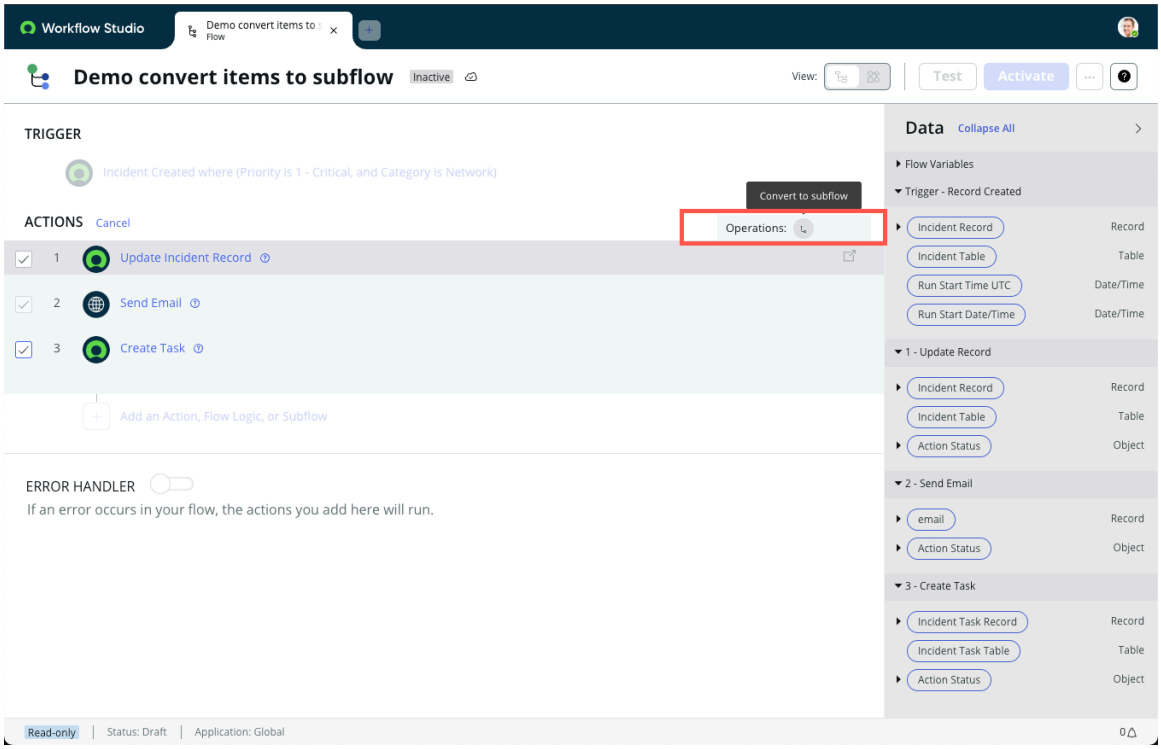
フローデザイナー では、各アクションの横にチェックボックスが表示されます。

4. 変換する 1 つのアクションまたは複数の連続するアクションを選択します。

重要: あるフローで利用可能な [フロー変数の設定] フローロジックを新しいサブフローに変換することはできません。代わりに、フロー変数を使用するサブフローでフロー変数を定義して設定する必要があります。

5. [操作] メニューから [サブフローに変換] アイコンを選択します ( )。

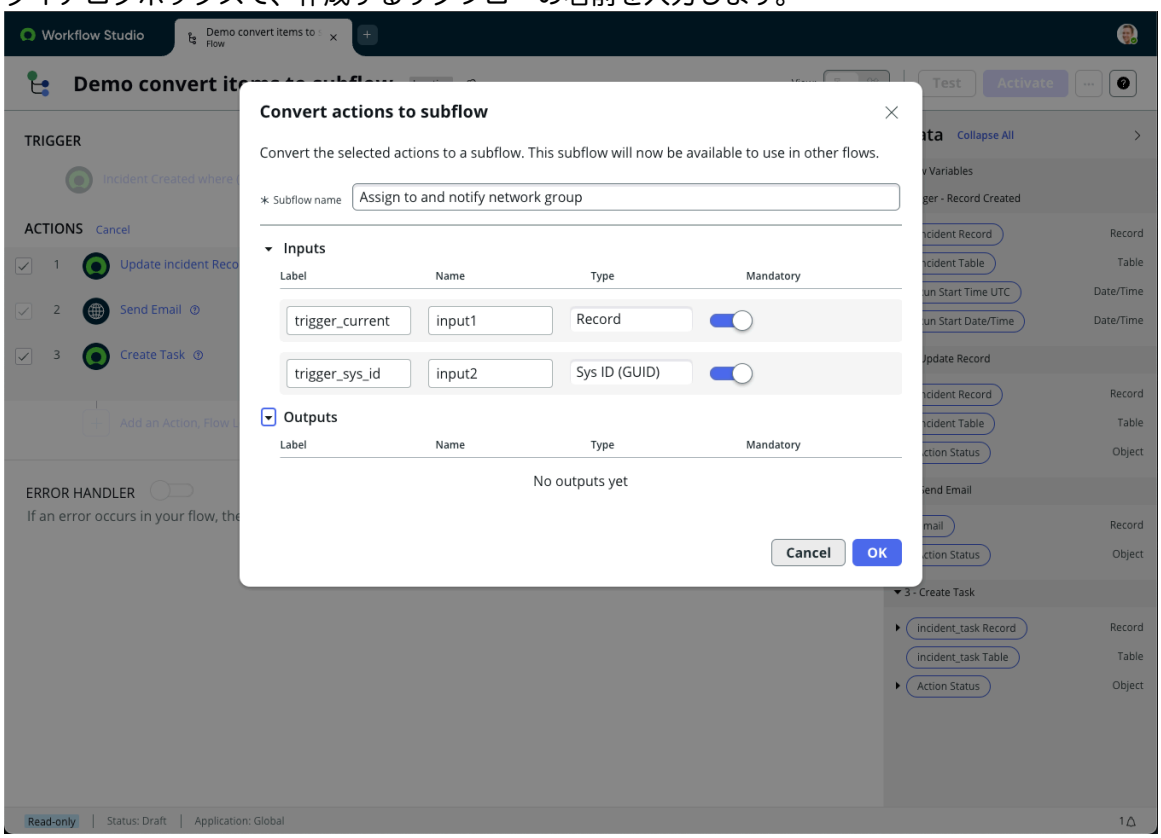
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



重要: アイテムをサブフローに変換するには、フローへの書き込みアクセス権が必要です。読み取り専用の保護されたフローは、アイテムのサブフローへの変換をサポートしていません。

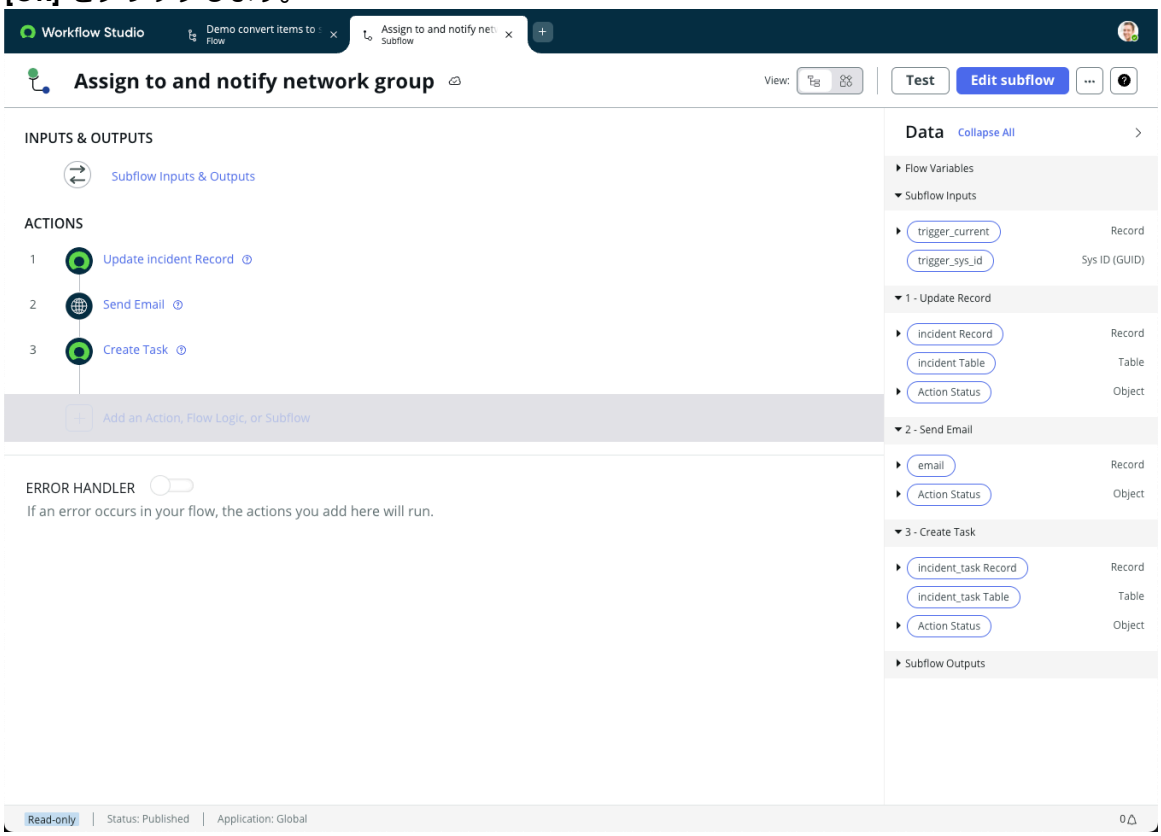
フローデザイナー に [サブフローに変換 (Convert to subflow)] ダイアログボックスが表示されます。

6. ダイアログボックスで、作成するサブフローの名前を入力します。



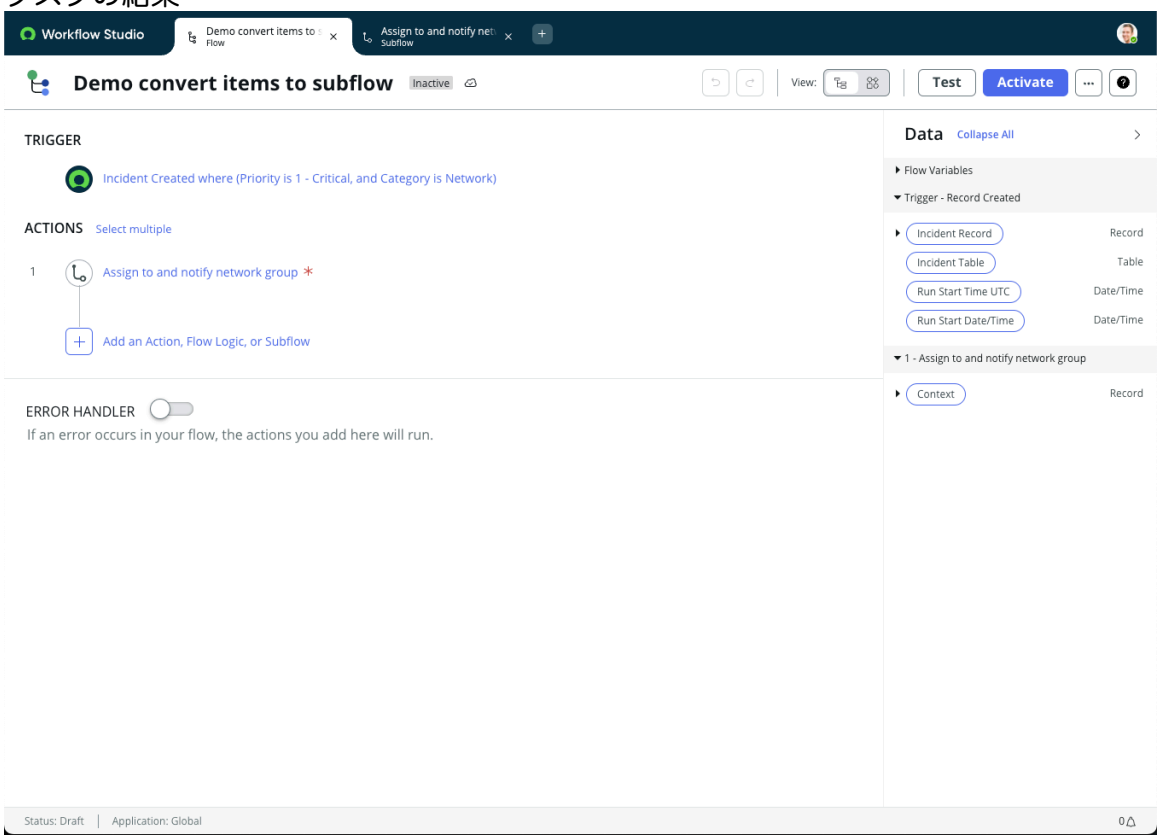
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. **[OK]** をクリックします。



選択したアクションが削除され、サブフローの呼び出しロジックブロックで置き換えられます。フローデザイナー は、元のフローと同じアクション、入力値、参照、および変換関数を含むサブフローを作成して公開します。

タスクの結果



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローデザイナー は、元のフロー内のデータピル参照を新しい場所に更新します。新しいサブフロー内のアクションへの参照には、新しいサブフロー名が含まれます。元のフロー内のアクションへの参照には、新しい連番が含まれます。

次のタスク
新しいサブフローを確認し、元のフローを更新してサブフローに必要な入力値を指定します。

テンプレート値の入力を作成

フロー作成者が、作成または更新されるレコードのフィールド値を設定できるようにします。フローにアクションまたはサブフローを追加するたびに、テンプレート値の入力を使用して、異なるフィールド値を設定します。

始める前に
テンプレート値入力は、「カタログタスクの作成」、「タスクの作成」、「レコードの作成」、「レコードの更新」など、レコードを作成または更新するサブフローアクションまたはアクションステップでのみ作成できます。

必要なロール：admin または action_designer

このタスクについて
サブフローアクションまたはアクションステップでレコードを作成または更新するときは、静的または動的な入力値を設定できます。静的入力値は、追加するすべてのフローで同じです。たとえば、緊急度を静的な値である 1 - 高に設定すると、フローが実行されるたびに緊急のカタログタスクが生成されます。動的入力値を使用すると、フロー作成者はフローの構成中に値を変更できます。たとえば、フロー作成者は、緊急度が 1 - 高のカタログタスクを作成するように 1 つのフローを設定し、別のフローでは緊急度が 4 - 低のカタログタスクを作成することができます。

手順

1. アクションデザイナー でアクションを開くか、フローデザイナー でサブフローを開き、それに対してテンプレート値を作成します。
2. 入力を作成します。

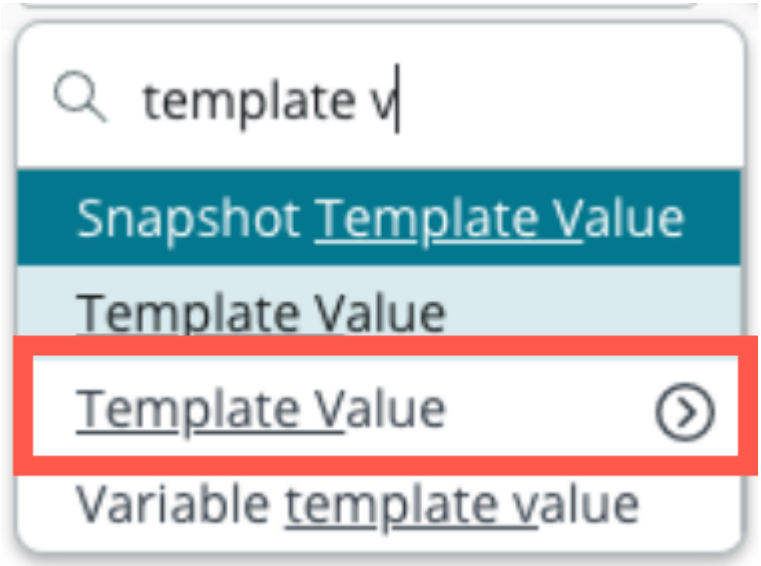
   a. [ラベル] フィールドに、フロー設計者がフィールドの目的を把握しやすいラベルを入力します。これは、フローデザイナーがサブフローまたはアクションをフローに追加するときのフィールドのラベルになります。

      Example
      たとえば、「フィールドを選択」などと入力します。

   b. [タイプ] フィールドで、テーブルアイコンのある [テンプレート値] オプションを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブルアイコンを使用して、作成または更新するレコードが含まれているテーブルを選択します。たとえば、サブフローに「カタログタスクの作成」アクションを追加する場合は、[タイプ] を [Template Value.Catalog Task [sc_task]] に設定します。



3. テンプレート値を使用するアクションステップまたはアクションを追加します。
アクションステップまたはアクションでは、レコードを作成または更新する必要があります。

   Example
   たとえば、インシデントタスクを作成するサブフローに「タスクの作成」アクションを追加します。
4. [テンプレート値] データピルを [フィールド値] フィールドまたは [フィールド] フィールドにドラッグします。
5. オプション: 動的なテンプレート値に加えて静的な値を設定するには、**[+** フィールド値の追加] を選択します。

   注: テンプレート入力からの動的な値の設定をフロー設計者に望む場合、静的な値を設定しないでください。フローでは常に、テンプレートから入力された値ではなく、サブフローまたはアクションステップからの静的な値が使用されます。静的な値を使用して、フロー設計者による変更を望まないビジネス ポリシーを適用することができます。

タスクの結果
サブフローまたはアクションをフローに追加したら、フロー作成者は、作成または更新されるレコードのフィールド値を設定できます。

動的フローおよびフロー出力の取得の開始

クラウドサービスをプロビジョニングするためのサブフローを動的に呼び出すサンプルフローを作成します。

始める前に
必要なロール：flow_designer または admin

このタスクについて
[動的フロー] フローロジックと [フロー出力の取得] フローロジックを一緒に使用する方法を理解するため、このタスクで作成するフローは、クラウドサービスのプロビジョニングに関連するサブフローを動的に実行します。このフローは次のことを行います。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. クラウドインスタンスプロビジョニング要求レコードが作成されたときにトリガーします。
2. 適切なサブフローを呼び出して、クラウドインスタンスレコードを作成します。
3. 動的に呼び出されたサブフローから出力を取得し、出力の値でクラウドインスタンスプロビジョニング要求レコードを更新します。

手順

1. [すべて **(All)]** > [システムアプリケーション] > [スタジオ]に移動します。
2. [アプリケーションを選択] 画面で [アプリケーションを作成] をクリックします。
3. ガイド付きアプリクリエーターのようこそ画面で、[始めましょう] をクリックします。
4. [名前] フィールドに「`クラウドインスタンスプロビジョニング`」と入力し、[作成] をクリックします。
5. [ロール] フィールドに「`flow_designer`」または「`admin`」と入力し、[続行] をクリックします。
6. アプリ形式のリストから [クラシック] を選択し、[続行] をクリックします。
7. [新テーブルの作成] > [テーブルを最初から作成] > [続行]を選択し、アプリケーション用に 2 つのテーブルを新しく作成します。
   - 最初のテーブルに次のフィールドを追加し、テーブルに「`クラウドインスタンス`」という名前を付けます。

フィールドラベル	フィールドタイプ	参照
所有者	参照	ユーザー [sys_user]
インスタンスタイプ	文字列	なし
インスタンス URL	URL	なし
ビルドステータス	文字列	なし

   - 2 つ目のテーブルに次のフィールドを追加し、テーブルに「`クラウドインスタンスプロビジョニング要求`」という名前を付けます。

フィールドラベル	フィールドタイプ	参照
要求されたインスタンスタイプ	文字列	なし
要求元	参照	ユーザー [sys_user]
承認ステータス	文字列	なし
承認済みインスタンス	URL	なし

8. 両方のテーブルを作成した後、[テーブルで完了しました] をクリックします。
9. [開始] > [作成] > [アプリで完了しました]を選択し、アプリケーションの作成を終了します。

サブフローテンプレートの作成

クラウドサービスをプロビジョニングするためのサブフローテンプレートのサンプルを作成します。

始める前に
必要なロール：flow_designer または admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. ビジネスロジック、プロセスの自動化、および統合で、[フローデザイナーに移動] を選択します。
2. フローデザイナー のランディングページのメインヘッダーで、[新規] > [新しいサブフロー]を選択します。
3. [サブフローのプロパティ] 画面で、[名前] フィールドに「テンプレート：クラウドインスタンスレコードの作成」と入力し、[送信] を選択します。
4. [入力および出力] でプラスアイコン (⊕) を選択し、サブフローテンプレートの入力を 2 つ作成します。

ラベル	タイプ
要求元	Reference.User
要求されたインスタンスタイプ	文字列

5. プラスアイコン (⊕) を選択し、サブフローテンプレートの出力を 1 つ作成します。

ラベル	タイプ
インスタンス URL	URL

6. 出力で、[完了] を選択します。
7. [アクション、フローロジック、またはサブフローをフローの最後に追加します] アイコン (⊕) を選択し、[アクション] を選択します。
8. ServiceNow コアアクションのリストから、[ログ] を選択します。
9. データパネルで、前に作成した [要求元] および [要求されたインスタンスタイプ] の入力のデータピルをドラッグし、両方のピルを [メッセージ] フィールドにドロップします。
10. [サブフロー] ヘッダーで [保存] を選択し、[公開] を選択してサブフローテンプレートを公開します。

Jira クラウドインスタンスプロビジョニング要求のサブフローの作成

Jira からクラウドサービスをプロビジョニングするためのサブフローのサンプルを作成します。

始める前に
必要なロール：flow_designer または admin

手順

1. [サブフロー] ヘッダーで、[その他のアクション] アイコン (⋯) を選択し、[サブフローのコピー] を選択します。
2. [サブフローのコピー] 画面で、[新しいサブフロー名] フィールドに「クラウドインスタンスレコードの作成 - Jira」と入力し、[コピー] を選択します。
3. [ログ] アクションの下に 「レコードの作成」アクション を追加します。
4. [テーブル名] フィールドで「クラウドインスタンス」を選択し、次のフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	値
所有者	データピルピッカー ( ) を選択し、[サブフロー - 入力] > [要求元]を選択します。
インスタンスタイプ	データピルピッカー ( ) を選択し、[サブフロー - 入力] > [要求されたインスタンスタイプ]を選択します。
インスタンス URL	「`https://mycompany-`」と入力します。続いてデータピルピッカー ( ) を選択し、[サブフロー - 入力] > [要求元] > [名前]を選択します。最後に、「`.atlassian.net`」と入力します。
ビルドステータス	「`処理中`」と入力します。

5. [レコードを作成] アクションで、[アクション、フローロジック、またはサブフローを追加] > [フローロジック] > [サブフロー出力の割り当て]を選択します。
6. プラスアイコンを選択して出力を追加します。
7. [名前] で [インスタンス **URL]** を選択します。
8. [データ] で、データピルピッカー ( ) を選択してから、**[2 -** レコードの作成 **- (2 - Create Record -)]** > [クラウドインスタンスレコード] > [インスタンス **URL]**を選択します。
9. [サブフロー] ヘッダーで [保存] を選択し、[公開] を選択してサブフローを公開します。

Salesforce クラウドインスタンスプロビジョニング要求のサブフローの作成

Salesforce からクラウドサービスをプロビジョニングするためのサブフローのサンプルを作成します。

始める前に

必要なロール：flow_designer または admin

手順

1. [サブフロー] ヘッダーで、[その他のアクション] アイコン ( ) を選択し、[サブフローのコピー] を選択します。
2. [サブフローのコピー] 画面で、[新しいサブフロー名] フィールドに「`クラウドインスタンスレコードの作成 - Salesforce`」と入力し、[コピー] を選択します。
3. [クラウドインスタンスレコードの作成 **(Create Cloud Instance Record)]** アクションを展開し、[インスタンス **URL]** フィールドの「`.atlassian.net`」値を「`.salesforce.com`」に置き換えます。
4. [サブフロー] ヘッダーで [保存] を選択してデータ変更警告メッセージを承認し、[公開] を選択してサブフローを公開します。

サブフローを動的に実行するフローの作成

プロビジョニングクラウドサービスサブフローを実行するためのサンプルフローを作成します。

始める前に

必要なロール：flow_designer または admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. フローデザイナー ヘッダーで、[フロー、サブフロー、またはアクションを作成] ( ) アイコンを選択し、[フロー] を選択します。
2. [フロープロパティ] 画面で、[名前] フィールドに「プロセスインスタンスプロビジョニング要求」と入力し、[送信] を選択します。
3. [トリガー] で、プラスアイコン ( ) を選択してフローにトリガーを追加し、次のフィールドに入力します。

フィールド	値
トリガー	[作成済み] を選択します。
テーブル	[クラウドインスタンスプロビジョニング要求 **[x_cloud_instance_p_cloud_instance_provisioning_request] (Cloud Instance Provisioning Request [x_cloud_instance_p_cloud_instance_provisioning_request])** 入力します。

4. [アクション] で、プラスアイコン ( ) を選択し、[フローロジック] > [動的フロー]を選択します。
5. 次のフィールドに入力します。

フィールド	値
フローのテンプレート	[テンプレート：クラウドインスタンスレコードの作成] を選択します。
フロー	「クラウドインスタンスレコードの作成 - 」と入力し、データピルピッカー ( ) を選択して、[トリガー - 作成されたレコード] > [クラウドインスタンスプロビジョニング要求レコード **(Cloud Instance Provisioning Request Record)]** > [要求されたインスタンスタイプ]を選択します。
完了待ち	フロー内の他のアクションが発生する前にサブフローを動的に実行するには、このオプションを有効にします。
要求元	データピルピッカー ( ) を選択して、[トリガー - 作成されたレコード] > [クラウドインスタンスプロビジョニング要求レコード **(Cloud Instance Provisioning Request Record)]** > [要求元]を選択します。
要求されたインスタンスタイプ	データピルピッカー ( ) を選択して、[トリガー - 作成されたレコード] > [クラウドインスタンスプロビジョニング要求レコード **(Cloud Instance Provisioning Request Record)]** > [要求されたインスタンスタイプ]を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. [動的フロー] フローロジックの下に、[フロー出力の取得] フローロジックを追加し、次のフィールドに入力します。
7. [フローのテンプレート] で [テンプレート：クラウドインスタンスレコードの作成] を選択します。
8. [コンテキスト] で、データピルピッカー ( ) を選択し、**[1 - 動的フロー - (1 - Dynamic Flow -)]** > [コンテキスト]を選択します。
9. [フロー出力の取得] フローロジックで、プラスアイコン ( ) を選択し、[アクション] > [レコードを更新]を選択して、フローに [「レコードの更新」アクション] を追加します。
10. 次のフィールドに入力します。

フィールド	
レコード	データピルピッカー ( ) を選択して、[トリガー - 作成されたレコード] > [クラウドインスタンスプロビジョニング要求レコード **(Cloud Instance Provisioning Request Record)]**を選択します。
[フィールド] > [承認済みインスタンス]	データピルピッカー ( ) を選択し、**[2 - フロー出力の取得 - (2 - Get Flow Outputs -)]** > [インスタンス **URL]**を選択します。
[フィールド] > [承認ステータス]	「承認済み」と入力します。

11. [保存] を選択します。

フローのテスト

クラウドサービスをプロビジョニングするためのサンプルフローをテストします。

始める前に

必要なロール：flow_designer または admin

手順

1. [フロー] ヘッダーで、[テスト] を選択してフローをテストします。
2. [テストフロー] 画面で、新しいレコードを作成 ( ) アイコンを選択して新しいレコードを作成します。
3. [要求元] で [リストから参照] アイコン ( ) を選択し、リストから任意のユーザーを選択します。
4. [要求されたインスタンスタイプ] に「`Jira`」または「`Salesforce`」のいずれかを入力します。入力する値によって、実行時に動的に実行されるサブフローが決まります。「`Jira`」と入力すると *`Create Cloud Instance Record - Jira`* サブフローが実行され、「`Salesforce`」を入力すると *`Create Cloud Instance Record - Salesforce`* が実行されます。
5. [送信] を選択します。
6. [テストを実行] を選択し、フローの実行が終了したら次を選択します：テストの実行が終了しました。フロー実行の詳細を表示します。**(View the flow execution details.)**
フローの各ステップの [状態] 列の値が [完了] を示し、各ステップのランタイム値が適切に入力されていれば、フローは正常に実行されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [クラウドプロビジョニング要求の処理 **(Process Cloud Provisioning Requests)]** フローのタブを選択し、[テストフロー] モーダルを閉じます。
8. [フロー] ヘッダーで [有効化] を選択して、クラウドインスタンスプロビジョニングのアプリケーションスコープ 内でフローにアクセスできるようにします。

タスクの結果
インスタンス内のユーザーが [クラウドプロビジョニング要求] テーブルに新しいレコードを作成すると、[クラウドプロビジョニング要求の処理 (Process Cloud Provisioning Requests)] フローが自動的に実行されます。このフローは、要求されたインスタンスタイプに基づいて適切なクラウドインスタンスレコードを動的に作成します。また、クラウドインスタンスプロビジョニング要求レコードに入力されるクラウドインスタンスの URL も生成されます。

サブフローをテストする

サブフロー単独の場合、またはフローに追加した場合にテストできます。サブフローのみをテストする場合は、サブフローがそのアクションで使用する入力を定義する必要があります。サブフローにはトリガーがないため、サブフローをテストすると、定義された入力値を使用してアクションが実行されます。 更新をしない限り、以降のテストでは、最初のテスト実行で定義したものと同じ入力が使用されます。

始める前に
1 つ以上のアクションを含め、「ワークフロースタジオ でサブフローを作成」を実行して保存します。フローデザイナー は、1 つ以上のアクションを含む保存済みのサブフローのみをテストします。

必要なロール：flow_designer または admin

このタスクについて
サブフローをテストするとインスタンスでレコードが作成または変更されるため、フローデザイナーは関連するデモ用データを含む非本番インスタンスでサブフローを常にテストする必要があります。

手順
1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. サブフロータブをクリックし、保存済みのサブフローを開きます。
3. [テスト] をクリックします。
   [サブフローをテスト] ダイアログが開きます。
4. アクションで使用するサブフローの入力値を定義します。
   定義した値は、将来のテスト実行時に記憶されます。
5. [テストを実行] をクリックします。

   注: サブフローをバックグラウンドで非同期的にテストするには、[バックグラウンドでテストを実行] オプションを選択します。

   [バックグラウンドでテストを実行] オプションを選択した場合、実行の詳細は、実行がバックグラウンドで非同期的に完了した後にのみ表示されます。また、実行の詳細は、実行が完了した後にのみサブフローに関連付けられます。

6. フローの実行後、[サブフローの実行が完了しました。サブフローを表示するにはここをクリックしてください。] をクリックします。
   [実行の詳細] が開きます。

次のタスク
「フロー実行の詳細」を確認してください。

サブフローが想定どおりに動作したら、サブフローを公開してフローに追加できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サブフローを公開する

サブフローを公開して、他のユーザーが利用できるようにし、有効化されたフローに追加します。

始める前に
必要なロール：flow_designer または admin
「ワークフロースタジオ でサブフローを作成」、「サブフローをテストする」の手順を実行し、想定どおりに機能していることを確認します。

このタスクについて
公開済みサブフローに変更を加えると、サブフローを再度公開するまで変更はドラフト状況のままになります。有効化されたフローで変更を利用できるようにするには、変更されたサブフローを公開する必要があります。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. サブフロー タブをクリックし、テスト済みのサブフローを開きます。
3. [公開] をクリックします。

タスクの結果
サブフローは、有効化されたフローに追加できます。サブフローを公開後に更新した場合は、もう一度 [公開] をクリックして、親フローが実行されたときに変更内容を確認する必要があります。変更内容を公開すると、サブフローを使用するすべての親フローが、現在のバージョンを使用するように自動的に更新されます。

アクションのビルド

ワークフロースタジオ は、アクションの作成に使用されるデフォルトの Now Platform プロセス自動化ビルダーです。ワークフロースタジオ は、ワークフロー エディターに代わるものです。

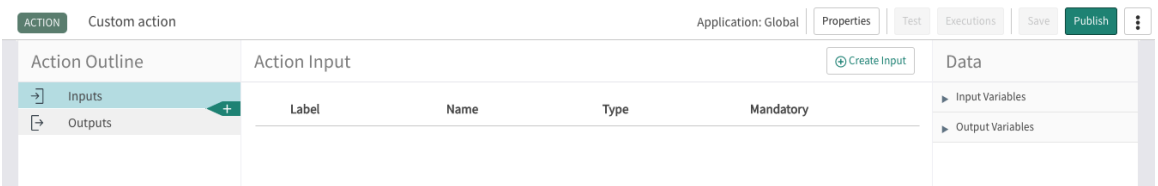
コアアクション

インスタンスに属する ServiceNow Core アクションは、アクションデザイナー インターフェイスからは表示も編集もできません。アプリケーションによっては、アプリケーション固有のアクションを含むスポークが含まれています。スポークのアクションは、通常は読み取り専用ですが、コピーやカスタマイズが可能です。

カスタム アクション

フロー設計者がフロー ロジックを手動で設定する必要があるコア アクションとは異なり、カスタム アクションはフローに追加されたときに常に同じ設定を使用します。フロー設計者が同じ設定のアクションを使用することが多い場合は、再利用可能なアクションを作成することができます。

アクションの設計環境



入力を定義し、アクションステップを追加して、アクションを作成および編集します。アクションをテストして、正常に完了したかどうかを確認し、生成されたランタイム値を確認します。アクションをコピーし、既存のアクションをテンプレートとして使用します。アクションを公開してアクティブ化します。これにより、アクティブ化されたフローを利用できるようにし、現在のアクションステップ、変数、およびシーケンスを、追加の構成変更とは別のスナップショットとして保存します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

その他のアクション

その他のアクションアイコン ( ) をクリックし、アクションのその他のオプションにアクセスします。

コピーアクション

指定アプリケーションでオープンアクションのコピーを作成します。

構成管理

[インラインスクリプトの切り替えを表示 **(Show inline script toggle)**] オプションを有効または無効にします。

コードスニペット

アクションのコードスニペットを生成します。

セキュリティを管理します。

[クライアント **API** によるコール可能 **(Callable by Client API)**] オプションを有効または無効にします。

自然言語タイトルの管理

スタイル付きまたは動的なテキストを使用してアクションのタイトルを作成または編集します。詳細については、「自然言語タイトルの管理 (Manage natural language titles)」を参照してください。

アクションのテスト

入力とアクションステップを追加した後、action_designer または admin ロールを持つユーザーはアクションをテストできます。アクションをテストするには、必要な入力を指定します。アクションをテストするとインスタンスのレコードが大幅に変更される可能性があるため、アクションデザイナーは常に、関連するデモ用データが含まれている非本番のインスタンスでアクションをテストしてください。

ロール

カスタムアクションを作成するには、action_designer ロールまたは admin ロールが必要です。

アクションステータス

すべてのアクションには、[データ] ペインにアクションステータスデータピルがあります。このオブジェクトデータピルには、アクションに関する現在のランタイムの詳細が含まれています。アクションステータスオブジェクトは、コードとメッセージから構成されています。

[アクションステータス] > [コード]

最初に一致したエラー条件または最後のステップ実行によって返されたコードを含む整数データピル。カスタムエラー条件を作成するときに、独自のコードを返すことができます。「アクションエラー評価」を参照してください。

[アクションステータス] > [メッセージ]

一致したエラー条件または最後のステップ実行によって生成されたメッセージを含む文字列データピル。カスタムエラー条件を作成するときに、独自のメッセージを返すことができます。「アクションエラー評価」を参照してください。

アクションの作成を開始する

「承認を求める」アクションを、常にマネージャーの承認を必要とする再利用可能なアクションに変換します。

フローデザイナーでフローの中にアクションを作成してフローをテストする方法を紹介します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

> **注:** アクションデザイナーはほとんどのシナリオで action_designer ロールと delegated_developer ロールを使用するように設計されていますが、このチュートリアルでは、追加のロールを必要としない機能を説明するために、admin ロールを使用してレコードを設定し、要求を承認します。

「フローの作成を開始する」の手順を完了してください。このチュートリアルでは、経費承認フロー内の「承認を求める」アクションを置き換えます。

このタスクについて
アクションは次のもので構成されます。

- 入力：アクションで使用するデータ変数。
- ステップ： 後のステップで使用できるデータを生成する前のステップの入力または結果に対する操作です。
- 出力：アクションの結果を表すデータ変数。これらの結果はフロー内の他のアクションで使用できます。

コア「承認を求める」アクションでは、フロー設計者が承認ルールを手動で設定する必要がありますが、このカスタム アクションはそれとは異なり、フローに追加するときに常に同じ承認ルールを使用します。フロー設計者が同じ設定のアクションを頻繁に使用する場合は、再利用可能なアクションを作成することもできます。たとえば、フロー設計者が常に要求マネージャーの承認と期日のオプションを使用する場合、このアクションでは自動的に要求マネージャーの承認と期日のオプションが使用されるため、フロー設定が少なくて済みます。

手順

1. スタジオ で経費入門アプリケーションを開きます。
   または、[プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動して、[新しいアクション] を選択してプラットフォームのアクションデザイナーにアクセスします。[アクション プロパティ] の [アプリケーション] フィールドで、スコープ対象のアプリケーションを選択します。
2. アクションを作成します。

   a. [アプリケーションファイルを作成] を選択します。

   b. フローデザイナーで、[アクション] を選択し、[作成] を選択します。

   c. [名前] フィールドに、「マネージャーの承認を求める」と入力します。

   d. [説明] フィールドに、「マネージャーの承認または却下に基づいて要求を承認または却下します。承認者の手動追加を許可します」と入力します。

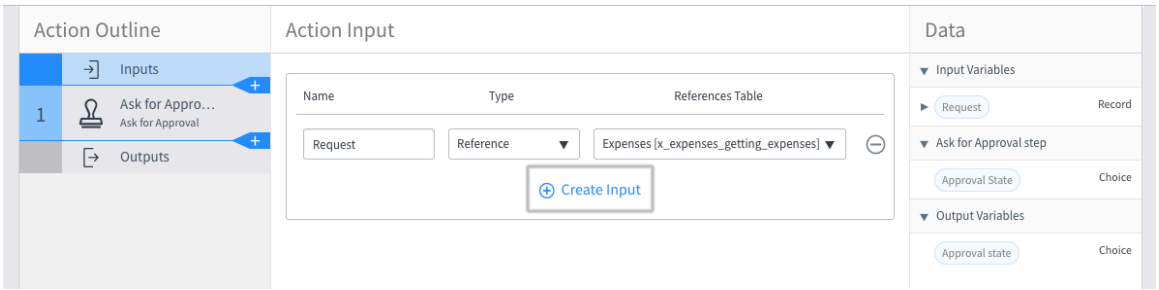
   e. [送信] を選択します。
   「マネージャーの承認を求める」アクションが「経費入門」スコープの中に作成されます。

3. 「マネージャーの承認を求める」アクションで入力を定義します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. **[+** 入力の作成] を選択し、次の値を追加します。

- 名前：要求
- タイプ：参照
- 参照テーブル：経費 **[x_expenses_getting_expenses]**



これらの入力により、経費テーブルから任意のフィールドまたはレコードを参照することができます。右側のデータ ピルを使用して、レコードまたはそのフィールドをアクション ステップに追加します。

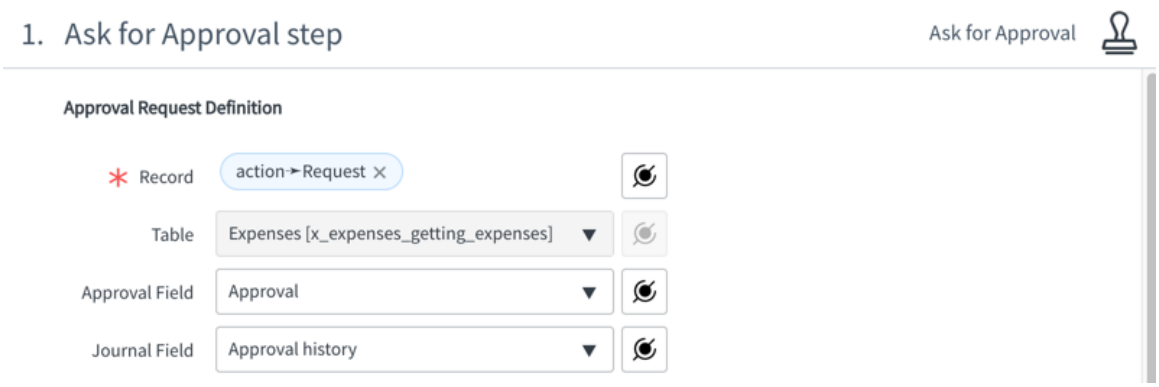
4. 「承認を求める」ステップを追加します。

a. [アクションアウトライン] の [入力] の下にある **[+]** を選択します。

b. 「承認を求める」を選択します。

c. 「承認を求める」ステップのフィールドに入力します。

- レコード： [入力変数] カテゴリで、右側のペインから [要求] データ ピルをドラッグします。
- テーブル：経費 **[x_expenses_getting_expenses]** に設定します。
- 承認フィールド：[承認] に設定します。
- ジャーナル フィールド：[承認履歴] に設定します。



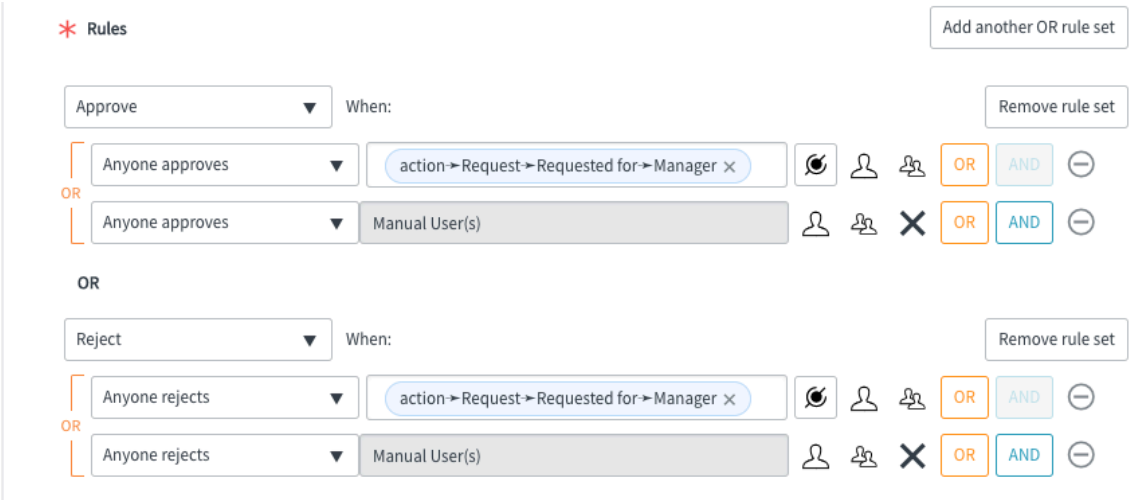
d. 「承認を求める」ステップでルールを定義します。
データ ピル ピッカーを使用するか、右側のペインからデータ ピルをドラッグして、必要なデータを選択することができます。

- [承認] 時期：[誰でも承認可能] ([アクション **->** 要求 **->** 要求元 **->** マネージャー] フィールドから)、**[OR]**
- [誰でも承認可能] ([手動ユーザー] フィールドから)。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[別の **OR** ルールセットを追加] を選択し、却下ルールを定義します。

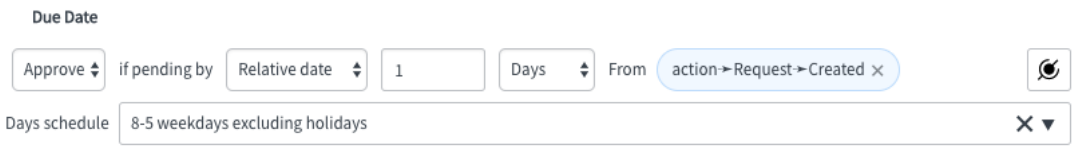
- [却下] 時期：[誰かが却下時] ([アクション **->** 要求 **->** 要求元 **->** マネージャー] フィールドから)、**[OR]**
- [誰かが却下時] ([手動ユーザー] フィールドから)。



e. 「承認を求める」ステップで期日を定義します。

- [承認] 次のユーザーによって処理待ちにされた場合 [日付 (相対)] **[1]**[日間] ([アクション **->** 要求 **->** 作成] から)。
- 日間スケジュール [休日を除く平日 **8** ～ **5** 時]。

この期日によって、要求が作成されてから 1 日以内に承認または却下されなかったすべての要求が自動的に承認されます。

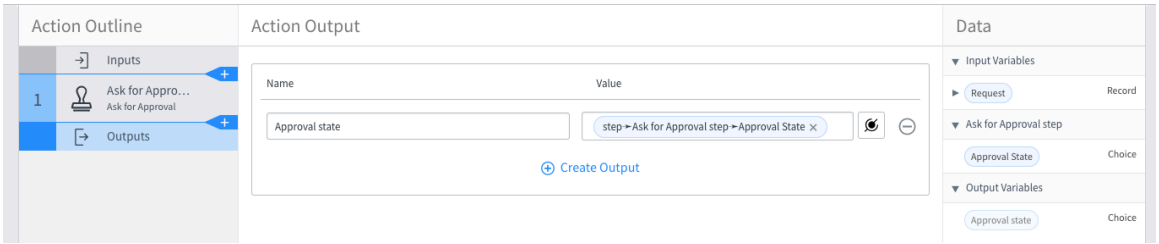


5. 「マネージャーの承認を求める」アクションで出力を定義します。
出力を追加すると、データをフローで使用できるようになります。たとえば、このアクションはレコードの承認ステータスを出力します。

a. **[+** 出力の作成] を選択し、次の値を追加します。

- 名前：承認ステータス
- 値：右側のペインで、[「承認を求める」ステップ] カテゴリを展開し、[承認ステータス] データ ピルをドラッグします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



b. [保存] を選択します。

6. フローデザイナーに表示するアプリケーションのカスタム アイコンを追加します。
アプリケーション スコープ内のすべてのアクションでこのカスタム アイコンが使用されます。

a. スタジオ で、[ファイル] > [設定]に移動します。
アプリケーション設定が開きます。

b. [ロゴ] フィールドで、[クリックして追加...] を選択します。

c. 再利用可能なアクションで使用するアイコンをアップロードします。

7. フローの中で、再利用可能なアクションをテストします。

a. 経費承認フローに戻ります。

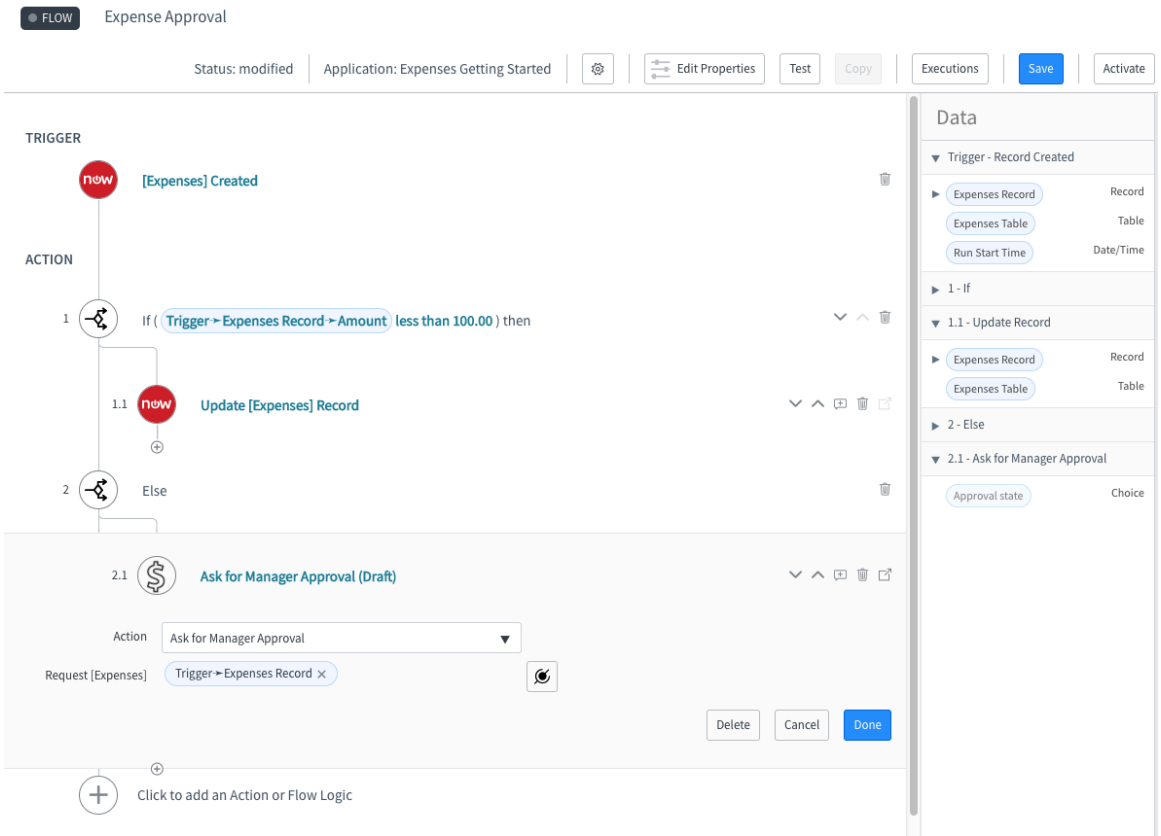
b. フローから 2.1 の「承認を求める」アクションを削除します。
このアクションを、再利用可能な「マネージャーの承認を求める」アクションに置き換えます。

c. [ドラフト アクションを表示] を True に設定します。

d. 「マネージャーの承認を求める」アクションをフローに追加します。

e. 右側のペインで、[トリガー - 作成されたレコード] カテゴリを展開し、[経費レコード] データピルを [要求 [経費]] フィールドにドラッグします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



8. [保存] を選択します。
9. 指定した上限を下回る金額のレコードを使用してフローをテストします。

   a. フローから [テスト] を選択します。
   [テスト フロー] モーダルが表示されます。

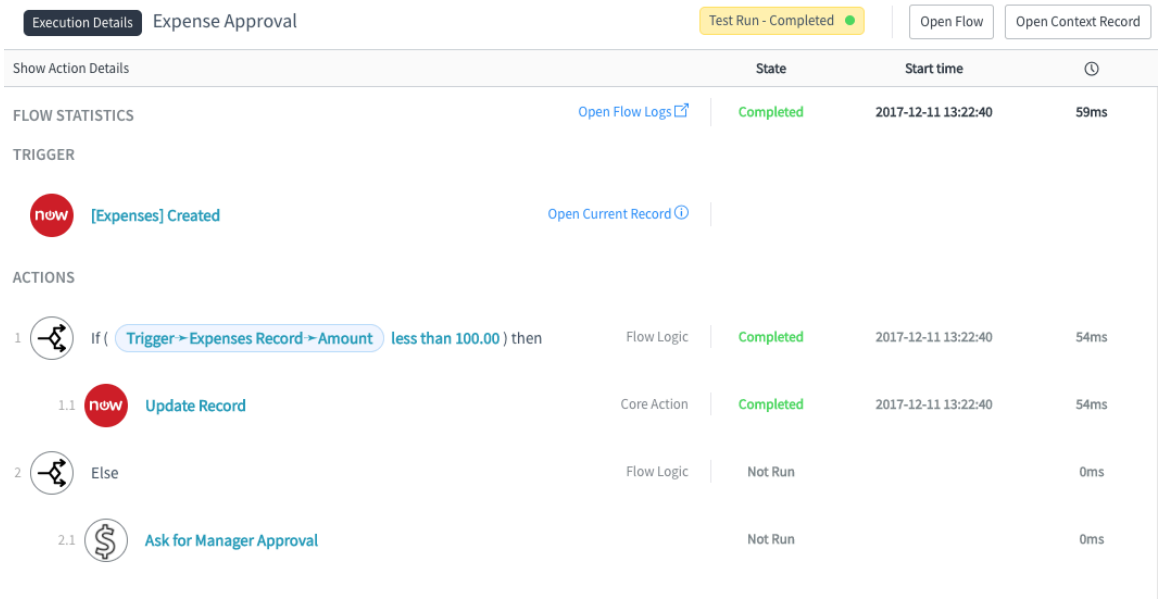
   b. [レコード] フィールドで、以前の手順で作成したレコードを選択します。このレコードの [金額] フィールドの値は上限の 100.00 より少なくなっていて、テストを実行するために使用していません。

   c. [テストを実行] をクリックします。

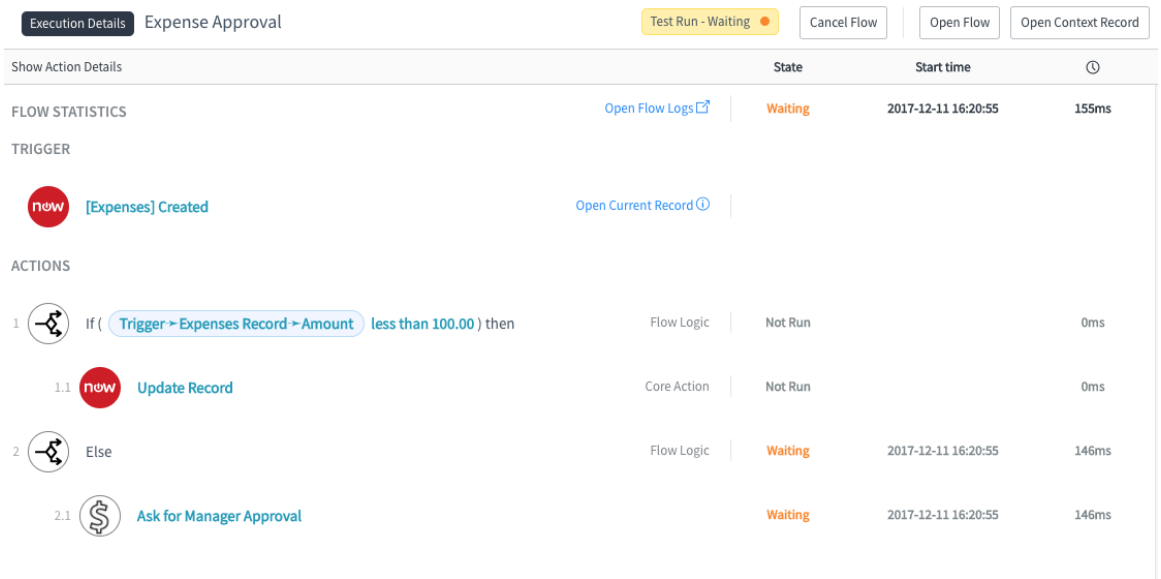
   d. フローの実行後、 [フローが実行されました。フローを表示するにはここをクリックしてください。] をクリックします。
   [実行の詳細] が開きます。

   金額が 100.00 未満であるため、最初の条件が満たされ、要求が承認されます。Else 条件は評価されません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



10. 指定した上限を超える金額を含むレコードをテストし、テストレコードに対してまだテストを実行していないことを確認します。
金額が指定した上限を超えているため、2 つ目の条件が評価されます。



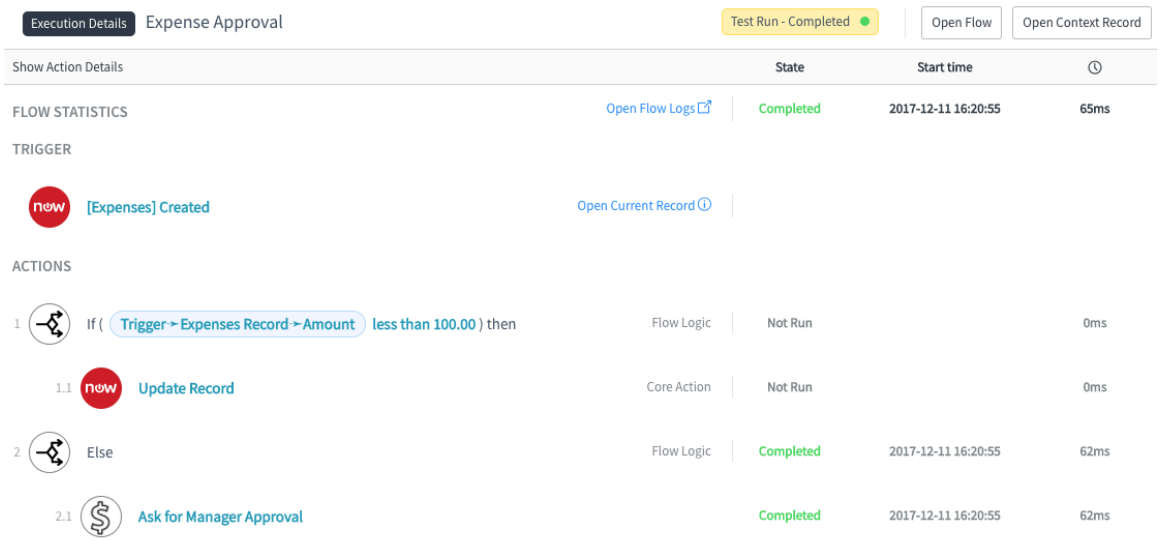
11. 要求を承認します。

    a. テスト レコードに移動し、[承認者] 関連リストの [ステータス] フィールドの値を [承認済み] に変更します。

    b. フローの [実行の詳細] に戻り、ブラウザーを更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

要求が承認されたため、フローは完了します。



12. 「マネージャーの承認を求める」アクションに移動し、[公開] を選択します。
アクションを公開すると、そのアクションを使用するすべてのフローを有効化することができます。
13. フローに移動し、[ドラフト アクションを表示] を False に設定します。
14. [アクティブ化] を選択します。
フローを有効化したことで、トリガー条件が満たされるたびに実行されるように設定されます。

タスクの結果

経費承認フローは、経費テーブルでレコードが作成されるたびに実行されます。これでフローを有効化して想定どおりに機能するようになったので、アプリケーション リポジトリーに公開して他のインスタンスに展開することができます。

ワークフロースタジオ でのアクションの作成

プロセスの 1 つ以上のステップを自動化する再利用可能なコンポーネントを作成します。

始める前に

- ガイド付きアプリケーションクリエーターでアプリケーションを設定 して フローデザイナー コンテンツを保存します。
- 必要なロール：flow_designer、action_designer、または admin

このタスクについて

アクション設計者は、アプリケーションのテーブル構造を把握し、アクションのターゲット テーブルに関連付けられている既存のビジネス ロジックを認識する必要があります。アクションを作成する前に、競合するビジネス ルールまたはワークフローを無効にしてください。

カスタムアプリケーションを作成して フローデザイナー のコンテンツを格納することで、アプリケーションリポジトリまたは ServiceNow Store を使用してコンテンツを展開 することができます。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [新規] > [アクション]を選択します。
3. アクションのプロパティを入力し、[送信] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
アクション名	アクションの一意の名前を入力します。
説明	アクションの説明。
アプリケーション	アクションのアプリケーション スコープ。
ドメイン	アクションのドメインスコープ。ドメインセパレーションの詳細については、「ドメインセパレーションの説明」を参照してください。
追加のプロパティ	
アクセス可能	スコープ対象のすべてのアプリケーションから、または指定したアプリケーション スコープ内のみから、アクセス可能です。
カテゴリ	アクションのアプリケーション スコープ内で定義されたカテゴリ。Xanadu リリース以降では、カスタムカテゴリを作成してアクションを整理できます。
保護	アクションを読み取り専用にするかどうかを選択します。自分が所有するアプリケーション スコープでアクションを作成する場合にのみ、値を選択できます。デフォルト値は「なし」です。
アクションの注釈	ワークフロースタジオでアクションのタイトルの下に表示されるヘルプテキスト。アクション作成者はこれを利用して、アクションがフロー内で使用されるときに何を実行するのかを理解できます。

空のアクションが開きます。

4. アクション ステップと出力でデータを利用できるように、アクションの入力を定義します。

   a. **[+** 入力の作成] を選択し、フィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	入力の名前。この値は、右側のペインのデータ ピルの名前として使用されます。 **注:** アクションの入力名に、次の予約済みシステム名を含めることはできません。 ▪ `sys_id` ▪ `sys_created_by` ▪ `sys_created_on` ▪ `sys_updated_on` ▪ `sys_updated_by` ▪ `sys_mod_count`
タイプ	入力のデータ タイプ。サポートされているデータ タイプについては、「ワークフロースタジオ の入力データおよび出力データ変数」を参照してください。
参照テーブル	データ タイプの参照テーブル。次のデータ タイプの場合のみ必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	▪ レコード ▪ 参照
詳細オプション	入力は、データ型に基づいて詳細なオプションを提供します。すべての入力には、ヒントを追加する、またはデフォルト値を指定するための詳細なオプションがあります。詳細なオプションを使用すると、フローにアクションを追加して設定することで、フローデザイナーを誘導できます。たとえば、選択肢の入力を作成して、フローデザイナーに事前に定義された構成オプションのリストから選択させることができます。特定のデータ型で利用可能な構成オプションの詳細については、「フィールドタイプ」を参照してください。 をクリックして詳細オプションを表示し、値を定義します。

入力は右側のペインにデータ ピルとして表示されます。データ ピルをドラッグ アンド ドロップすることで、フロー内のステップや出力に入力を追加できます。

5. アクションの入力に対して操作を実行するアクション ステップを追加します。
   a. [アクション アウトライン] の [入力] の下にある **[+]** をクリックします。
   b. 実行するステップを選択します。
   c. ステップのフィールドに入力します。
6. [このステップが失敗した場合] に対して、ステップで実行するアクションエラーの評価動作を選択します。

オプション	説明
アクションを停止し、エラーの評価に進む	現在のステップでアクションの実行を停止し、エラーの評価に進みます。ステップステータスオブジェクトには、ステップによって返されたエラー情報が含まれています。
アクションを停止せずに次のステップに進む	エラーを無視し、次のステップからアクションの実行を続行します。ステップステータスオブジェクトには、ステップによって返されたエラー情報が含まれています。アクションが引き続き実行されるかどうかに関係なく、アクションエラーの評価が実行されます。

7. アクションの出力を追加して、データをフローで使用できるようにします。
   a. **[+** 出力の作成] を選択し、フィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	出力の名前。この値は、アクションがフローに追加されたときの右側のペインのデータ ピルの名前です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: アクションの出力名に、次の予約済みシステム名を含めることはできません。 ▪ `sys_id` ▪ `sys_created_by` ▪ `sys_created_on` ▪ `sys_updated_on` ▪ `sys_updated_by` ▪ `sys_mod_count`
値	以前にアクションのステップか入力のいずれかで使用したデータ。出力に変数を追加すると、その値をフローで使用できるようになります。

8. [保存] をクリックします。
   アクションデザイナー によってアクションのドラフトが保存されます。

次のタスク
公開する準備ができるまでアクションをテストします。アクションの関連フローの参照、アクションの変更がアクションを使用するフローで機能することを確認します。

注: デフォルトでは、公開済みのアクションのみが実行されます。

ステップ入力からアクション入力を作成する

ステップ入力のデータタイプに基づいてアクション入力を作成します。ステップ入力値を新しいアクション入力にマッピングします。

始める前に
必要なロール：admin または action_designer

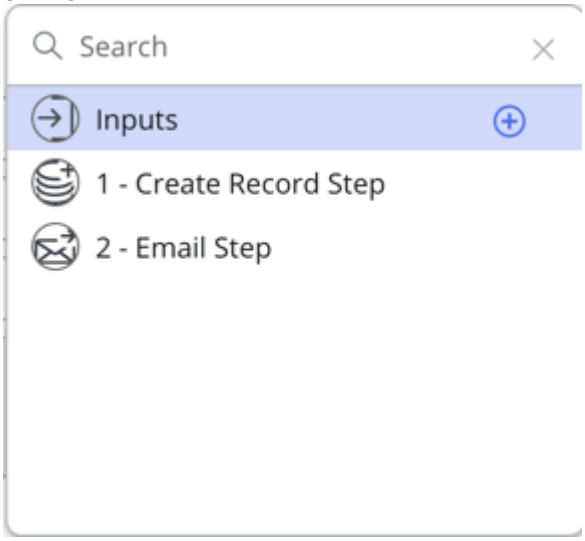
このタスクについて
ステップ入力をアクション入力のテンプレートとして使用できます。アクションデザイナーは、ステップ入力と同じデータタイプのアクション入力を作成できます。

手順

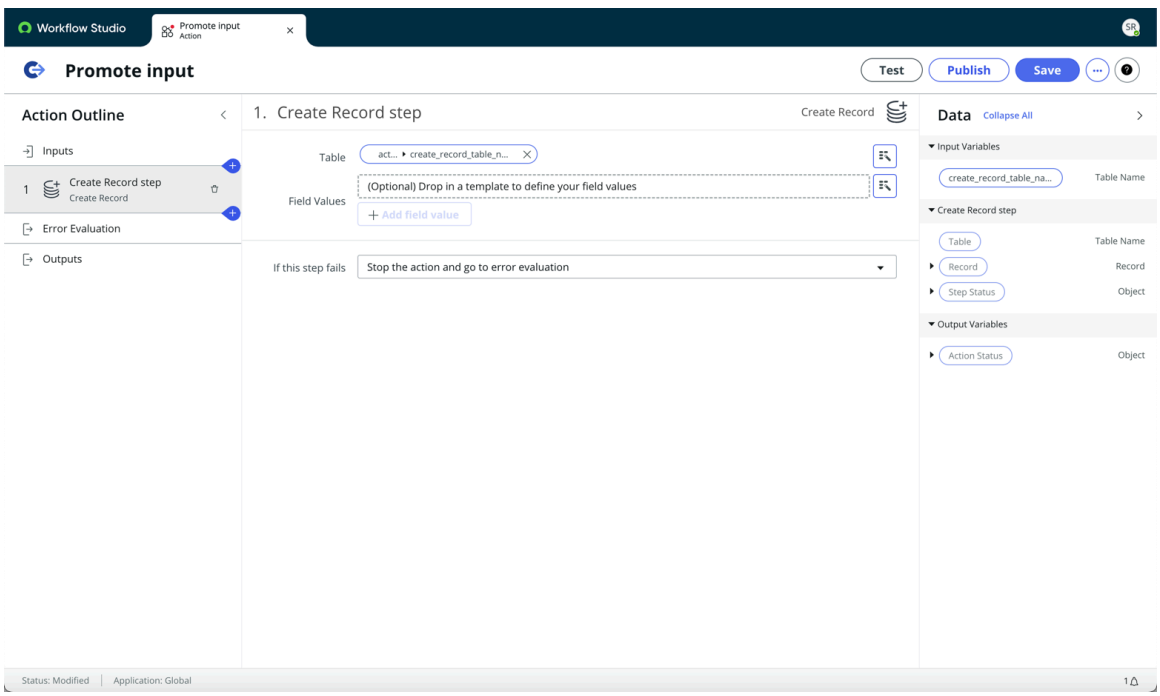
1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. **[Action** (アクション)] を選択します。
3. アクションを作成するか、既存のアクションを開きます。
4. ステップを追加するか、既存のステップを選択します。
5. アクション入力のテンプレートとして使用するステップ入力のデータピルピッカーアイコンを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. [入力] オプションの横にあるプラスアイコンを選択します。



タスクの結果
アクションデザイナーは、ステップと入力タイプの名前を付けた入力を作成します。たとえば、create_record_table_name は、レコードの作成ステップとテーブル入力用に作成された入力です。アクション入力は、ステップ入力と同じデータタイプ (テーブル名など) です。ステップ入力は新しいアクション入力にマッピングされ、アクション入力は [データ] ペインから使用できるようになります。



アクションのテスト

他のユーザーに公開する前に、アクションをテストします。

始める前に

- アクションを作成して保存します。
- 必要なロール：flow_designer、flow_operator、action_designer、または admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
アクションをテストするとインスタンスのレコードが作成または変更される可能性があるため、flow_designer ロールを持つユーザーは常に、関連するデモ用データが含まれている非本番のインスタンスでアクションをテストしてください。

手順
1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [アクション] タブをクリックし、テストするアクションを選択します。
3. [テスト] をクリックします。
   [アクションのテスト] ダイアログが表示されます。
4. アクションのフィールドに入力します。

   注: [テストアクション] ダイアログボックスのすべての必須フィールドに入力します。

5. [テストを実行] をクリックします。

   注: アクションをバックグラウンドで非同期的にテストするには、[バックグラウンドでテストを実行] オプションを選択します。

   [バックグラウンドでテストを実行] オプションを選択した場合、実行の詳細は、実行がバックグラウンドで非同期的に完了した後にのみ表示されます。

次のタスク
[アクションが実行されました。アクションを表示するには、こちらをクリックしてください (Action has been executed. To view the action, click here)] をクリックしてアクションの実行の詳細を表示します。実行の詳細については、「フロー実行の詳細」を参照してください。

注: 実行を表示するには、ユーザーに flow_operator または admin ロールが必要です。

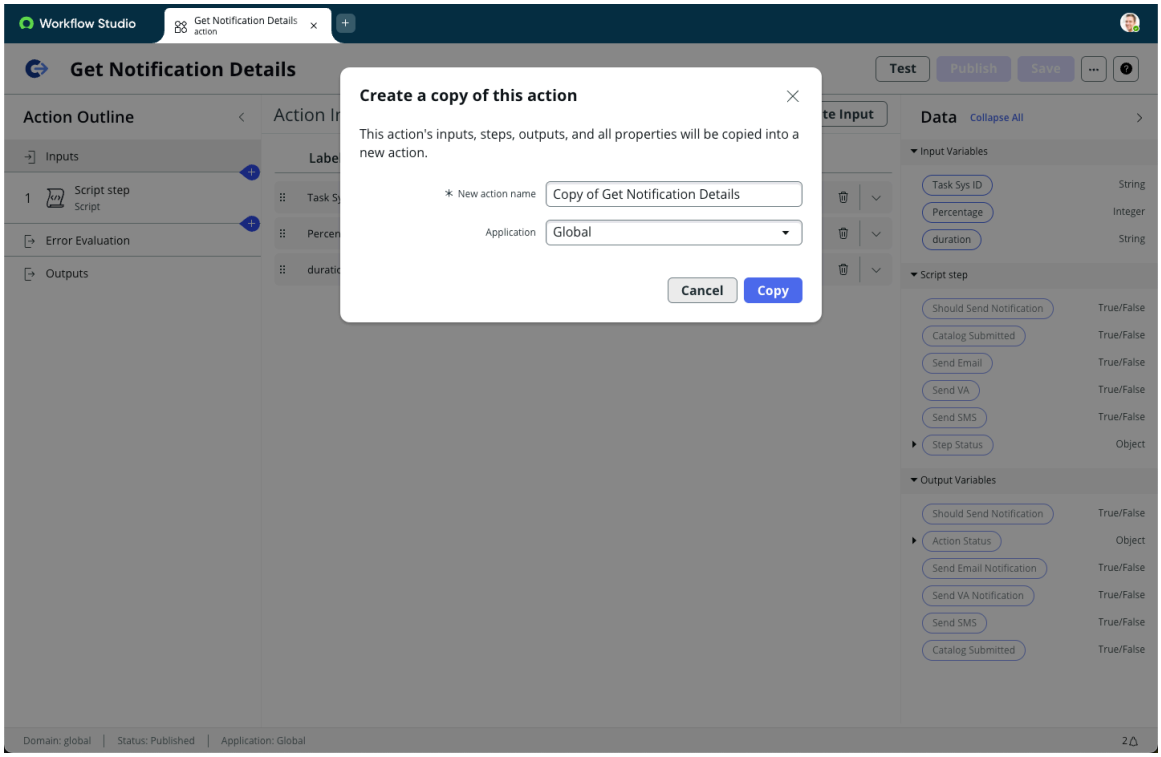
アクションのコピー
アクションをコピーして新しい名前を付け、別のアプリケーションスコープに移動します。

始める前に
必要なロール：admin または action_designer

このタスクについて
アクションをコピーして新しい名前を付けたり、別のアプリケーションスコープに移動したりすることができます。新しいアクションには、ソースアクションと同じアクションプロパティ、入力、ステップ、および出力があります。

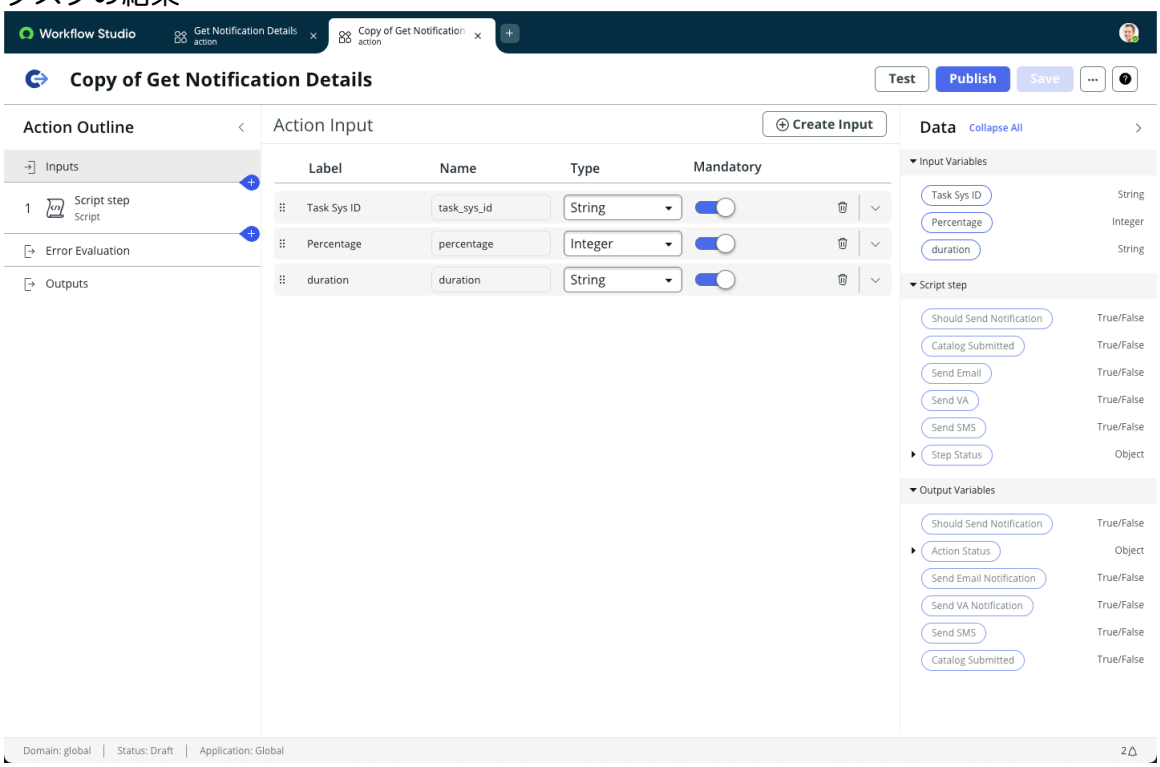
手順
1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、 [アクション] を選択します。
3. コピーするアクションを選択します。
4. その他のアクションアイコン ( ) をクリックし、[コピーアクション] を選択します。
5. [新しいアクション名] に、コピーしたアクションに付ける一意の名前を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. オプション: [アプリケーション] から、アクションをコピーするアプリケーションスコープを選択します。
7. [コピー] を選択します。

タスクの結果



ワークフロースタジオ で、新しいアクションが開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

動的入力

誰かがフローでアクションを構成するたびに、アクションの入力または入力値のリストを生成します。動的入力では、関連するアクション入力のリスト、レコードのフィールドのリスト、または選択リストで利用可能なオプションのリストを表示できます。

> **注:** 動的入力はベースシステムでは使用できません。ワークフロースタジオで動的入力を使用するには 、統合ハブ プラグインを要求する 必要があります。動的入力は、ServiceNow フローデザイナー - Introspection [com.glide.hub.flow_designer_introspection] プラグインに含まれています。

フロー設計時に動的入力によって値が取得され、アクション内の入力として動的に表示されます。このようなタイプの動的入力は、アクション作成者が使用できます。

ダイナミック選択肢

ダイナミック選択肢タイプの入力では、表示する選択値のリストを収集します。動的選択肢をビルドする方法の詳細については、「動的選択肢のデータ収集アクションの作成」を参照してください。

動的入力

動的入力タイプの入力では、表示する追加のアクション入力のリストを収集します。動的入力を使用して、任意の入力をアクションに追加します。動的入力のビルドの詳細については、「動的入力タイプの入力のためのデータ収集アクションの作成」を参照してください。

動的テンプレート

動的テンプレートタイプ入力では、動的に選択されたレコードタイプからフィールドのリストを収集します。その後フロー作成者が、フローに含めるフィールドを選択できます。フィールドのリストは動的に生成されるため、ソーステーブルでフィールドが追加または削除されたときにアクションを変更する必要はありません。動的テンプレートをビルドする方法の詳細については、「動的テンプレートのデータ収集アクションの作成」を参照してください。

動的入力を使用するための一般的な手順は 3 つあります。

1. アクション作成者が、動的データを生成するデータ収集アクションを作成します。
2. アクション作成者が、動的入力を使用してアクションを作成し、データ収集アクションを呼び出すように動的入力を構成します。
3. フロー作成者が、アクションをフローに追加し、動的に収集されたデータを使用してアクションを構成します。

データ収集アクション

データ収集アクションは、他のアクションで使用されるデータを収集します。データ収集アクションは、フローに直接追加するというよりは、動的入力から呼び出されることを意図しています。データ収集アクションは通常、REST コールを使用してサードパーティシステムからデータを収集します。すべてのデータ収集アクションは、これらの要件と制約を満たす必要があります。

- JSON タイプの出力変数を含むスクリプトステップがある。
- スクリプトステップの JSON 出力変数から派生する値を持つ JSON タイプの *`output`* という名前のアクション出力がある。

  > **注:** アクションには複数の出力を含めることができますが、含めることが可能なタイプは JSON のみです。

- スクリプトステップで JSON 出力をフォーマットして、`data` という名前のプロパティが含まれるようにする。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- データが動的選択または動的テンプレート入力を目的としている場合、JSON 出力は 5,000 を超える選択オプション、フィールドテンプレート値、またはアレイ要素項目を返してはなりません。

  注: 動的選択および動的テンプレート入力では、JSON 出力から最大 5,000 個の選択オプションまたは 5,000 個のテンプレート値のみを表示できます。

- データを収集してタイムアウトになるまで最大 300 秒 (5 分) 待機する。

  注: すべてのアクションのタイムアウト期間を変更するには、*sn_flow_designer.sync_action_execution_timeout_in_seconds* システムプロパティの値を変更します。

サポートされている動的入力データタイプ

動的入力は、限られた数の Now Platform データタイプをサポートします。サンプルの JSON を使用して、独自の動的入力をビルドできます。label プロパティと name プロパティの値は、ニーズに合わせて変更できます。type プロパティには、Now Platform データタイプ名を指定する必要があります。Now Platform フィールドのデータタイプとその構成方法の詳細については、「フィールドタイプの参照」を参照してください。

サポートされている動的入力データタイプ

入力データタイプ	JSON の例
選択肢	`{ data: [{ label: 'Choice type input', name: 'choicetype', defaultValue: 'choice_1', type: 'choice', choices: [ { label: 'Choice 1', value: 'choice_1' }, { label: 'Choice 2', value: 'choice_2' } ] }] }`
日時	`{ data: [{ label: 'Datetime type input', name: 'datetimetype', type: 'datetime', }] }`
10 進数	`{ data: [{ label: 'Decimal type input', name: 'decimaltype', type: 'decimal',`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされている動的入力データタイプ (続く)

入力データタイプ	JSON の例
	}] }

メール	{
	data: [{
	label: 'Email type input',
	name: 'emailtype',
	type: 'email',
	}]
	}

HTML	{
	data: [{
	label: 'HTML type input',
	name: 'htmltype',
	type: 'html',
	}]
	}

整数	{
	data: [{
	label: 'Integer type input',
	name: 'integertype',
	type: 'integer',
	}]
	}

Password 2	{
	data: [{
	label: 'Password2 type input',
	name: 'password2type',
	type: 'password2',
	}]
	}

参照	{
	data: [{
	label: 'Reference type input',
	name: 'referencetype',
	reference: 'sys_user',
	type: 'reference',
	}]
	}

文字列	{ data: [{

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされている動的入力データタイプ (続く)

入力データタイプ	JSON の例

	<pre>label: 'String type input',
	name: 'stringtype',
	defaultValue: 'abcdef',
	type: 'string',
	mandatory: true
	}]
	}</pre>

一般的なガイドライン

サードパーティ統合の動的入力を検討する

動的入力を使用すると、外部ソースからデータを動的にフェッチするフローを作成できます。サードパーティ統合では、動的入力によって特定のエンドポイントに関連するデータ値を提供できます。フローデザイナー を使用したサードパーティ統合の設定の詳細については、「統合ハブ」を参照してください。

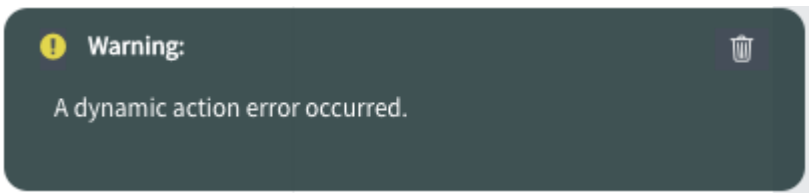
大量のデータの取得に要する時間に注意する

デフォルトでは、タイムアウトになるまでの動的入力によるデータ収集時間は最大 300 秒です。データ収集アクションでデータ収集にそれ以上の時間がかかる場合は、*sn_flow_designer.sync_action_execution_timeout_in_seconds* のシステムのプロパティをより高い値に設定します。ただし、エンドユーザーが値を入力または選択する必要があるインタラクティブフローには長いタイムアウト値を使用しないでください。

スクリプトエラーに注意する

すべてのデータ収集アクションはスクリプトステップを使用するため、スクリプティングによってエラーが発生する可能性があります。スクリプトを使用して動的入力の JSON 変数を出力すると、入力で必要な JSON 値を受信できなくなるエラーが発生する可能性があります。動的入力スクリプティングエラーが発生すると、次の警告メッセージが表示されることがあります。

スクリプティングエラーに対して表示されるメッセージ



動的入力タイプの入力を 40 個の入力値に制限する

動的入力タイプの入力は、JSON オブジェクトがメモリに格納できないほど大きくなるのを避けるため、特定の数の入力のみをレンダリングできます。動的入力を 40 個の入力値に制限すると、メモリ不足が発生したり、レンダリングエラーやデータの切り捨てなどの予期しない動作が発生したりする可能性が最小限に抑えられます。

動的テンプレートと動的選択の場合、JSON 出力を 5,000 アレイアイテムに制限する

動的選択および動的テンプレート入力では、最大 5,000 個のアレイアイテムしか表示できません。動的選択では最大 5,000 個の選択リストオプションのみを表示でき、動的テンプレートでは最大 5,000 個のフィールドテンプレート値のみを表示できます。データ収集アクションで動的テンプレートまたは動的選択のデータを収集する場合、返されるアレイアイテムの最大数を 5,000 に制限します。5,000 アレイアイテム制限により、選択またはフィールド値をレンダリングするときにインスタンスでパフォーマンスの問題が発生するのを防ぎます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

動的入力を開始するには

フローで使用可能なすべてのタイプの動的入力を使用する方法を示すアクションのサンプルを作成します。

始める前に

必要なロール：action_designer または admin

手順

1. インスタンスの認証情報レコードと接続レコードの作成。
   この接続および資格情報エイリアスから、データ収集アクションの REST ステップを構成するために必要なベース URL とユーザーアカウントが提供されます。
2. テーブル名を取得するためのデータ収集アクションの作成。
   このデータ収集アクションにより、動的選択肢入力の JSON データが得られます。
3. フィールド名を取得するためのデータ収集アクションの作成。
   このデータ収集アクションにより、動的テンプレート入力の JSON データが得られます。
4. 動的入力を追加するためのデータ収集アクションの作成。
   このデータ収集アクションにより、任意の動的入力を作成するための JSON データが得られます。
5. 動的入力をテストするカスタムアクションの作成。
   このカスタムアクションにより、さまざまなタイプの動的入力が示されます。

インスタンスの認証情報レコードと接続レコードの作成

ローカルインスタンスへの接続に必要なエイリアス、接続、および資格情報を作成します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] を選択し、[基本認証情報] を選択して、次のフィールド値を入力します。
   a. [名前]に「`Local Admin`」と入力します。
   b. [ユーザー名]に、フローデザイナーおよび REST API へのアクセス権を持つユーザーアカウントを入力します。

      Example
      たとえば、「`admin`」と入力します。

   c. [パスワード]に、アカウントのパスワードを入力します。
3. [送信] を選択して認証情報レコードを作成します。
4. [すべて] > [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
5. [新規] を選択し、次のフィールドに値を入力します。
   a. [名前]に「Local Instance」と入力します。
   b. [接続タイプ] では HTTP のデフォルト値をそのまま使用します。
   c. [送信] を選択して、[接続および資格情報エイリアス] レコードを作成します。
6. 作成したエイリアスを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example
たとえば、**[Local Instance]**を選択します。

7. [接続] 関連リストから、[新規] を選択して次のフィールド値を入力します。

   a. [名前]に「`My Instance`」と入力します。

   b. [認証情報] で、先ほど作成したベーシック認証情報レコードを選択します。

      Example
      たとえば、**[Local Admin]** 認証情報を選択します。

   c. [接続 URL] には、インスタンスのベース URL を、末尾に前方スラッシュをつけて入力します。URL の先頭にはプリフィックスの「https://」、末尾にはスラッシュ文字を追加します。

      Example
      たとえば、`https://example.service-now.com/` となります。

   d. [送信] を選択して、[HTTP(S) 接続] レコードを作成します。

タスクの結果
REST ステップを構成するときに、「Local Instance」というエイリアスを使用してローカルインスタンスに接続できます。

テーブル名を取得するためのデータ収集アクションの作成

テーブル API からテーブル名のリストを取得する、カスタムのデータ収集アクションを作成します。

始める前に
必要なロール：action_designer または admin

このタスクについて
このデータ収集アクションは次の要素で構成されています。

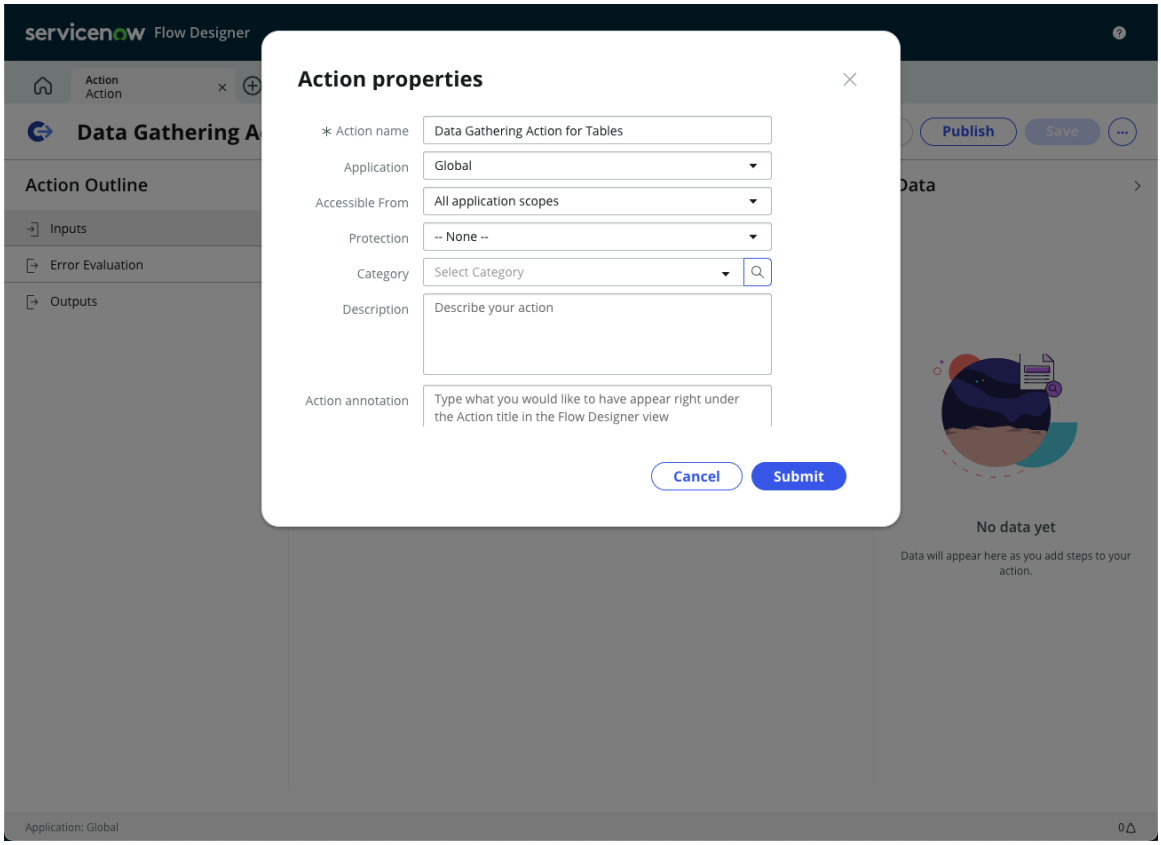
- REST テーブル API からテーブル名を収集する REST ステップ
- REST ステップの応答本文から JSON ペイロードを作成するスクリプトステップ
- テーブル名と値のペアを JSON ドキュメントとして格納する、`output` という名前のアクション出力変数

このカスタムアクションは、REST API コールを使用して、ServiceNow コアの「レコードのルックアップ」アクションおよび「複数レコードのルックアップ」アクションの機能を複製します。一般的には、カスタムアクションを作成しなくても基本的なレコード操作は実行できます。このアクションは、REST ステップとスクリプトステップを操作して動的入力のテーブルデータを収集する方法を示しています。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、 [アクション] を選択します。
3. [新規作成] > [アクション] と選択します。
   a. [アクションプロパティ] 画面の [アクション名] フィールドに、「`Data Gathering Action for Tables`」と入力します。
   b. [アプリケーション] で、[グローバル] を選択します。
   c. [送信] を選択します。

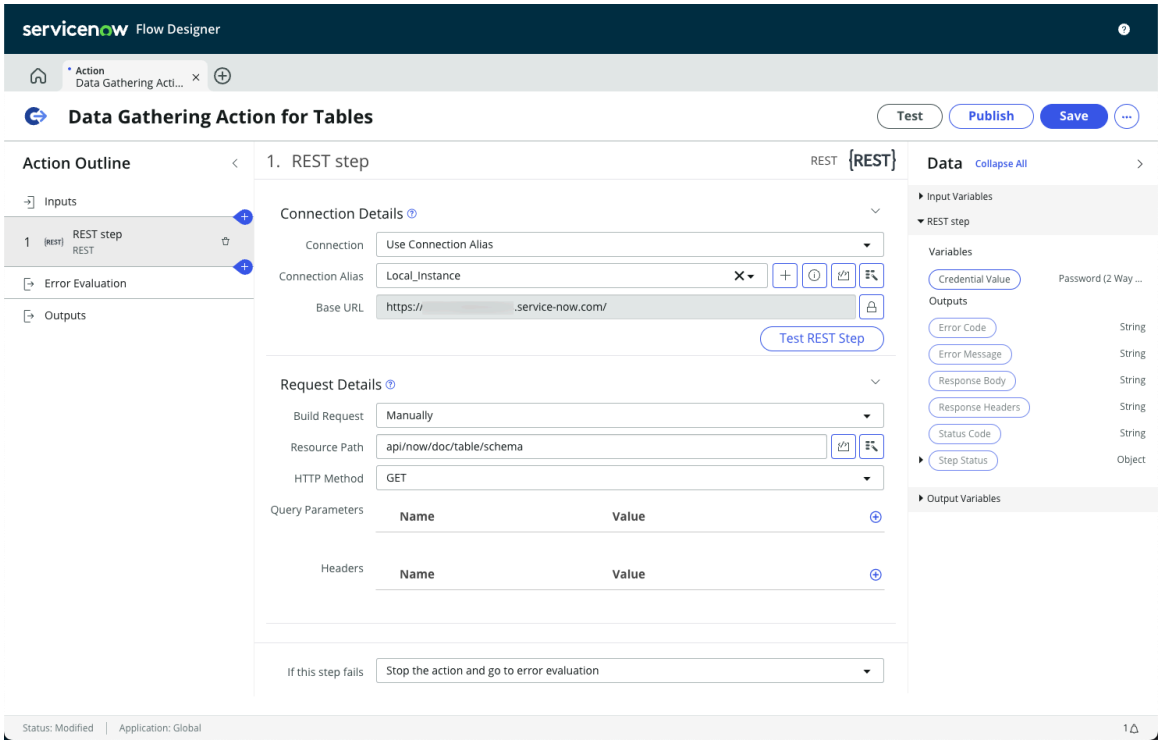
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. [アクションアウトライン] の [入力] セクションの下で、[新しいステップを追加] アイコン ( ) を選択します。
5. [統合] セクションで **[REST]** ステップを選択し、次のフィールド値を入力します。

入力	値
接続	[接続エイリアスを使用] を選択したままにします。
接続エイリアス	以前に作成したエイリアスを選択するか、[新しいレコードを作成] アイコン (+) を選択して、HTTP(S) 接続を作成します。 **注:** HTTP(s) 接続の認証情報では、ベーシック認証情報を使用する必要があります。また、[接続 **URL**] は末尾に前方スラッシュが含まれるインスタンスのベース URL である必要があります。接続および認証情報の詳細については、「接続の開始」および「認証情報の開始」を参照してください。
ビルド要求	[手動] オプションを選択したままにします。
リソースパス	「`api/now/doc/table/schema`」と入力します。
HTTP メソッド	「`GET`」と入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. [アクションアウトライン] で、REST ステップの下にある [新しいステップを追加] アイコン ( ) をクリックし、[スクリプト] ステップを選択します。

   a. [入力変数] セクションで [変数の作成] を選択します。

   b. [名前] フィールドに「`payload`」と入力します。

   c. [値] フィールドの横にあるデータピルピッカー ( ) を選択し、**[REST** ステップ] > [応答本文] を選択します。

   d. [スクリプト] フィールドに次のコードを入力します。

```
(function execute(inputs, outputs) {
  var payload = JSON.parse(inputs.payload);
  var tables = payload.result // Get the value of the result array
     .filter(function(table) { return table.value.indexOf('_') <
 0; }) // Filter the tables we want
     .map(function(table) {
       return { label: table.label, name: table.value }; // Set values
 for label and name
  });
  outputs.tables = { data: tables }; // Final, properly formatted
 output
})(inputs, outputs);
```

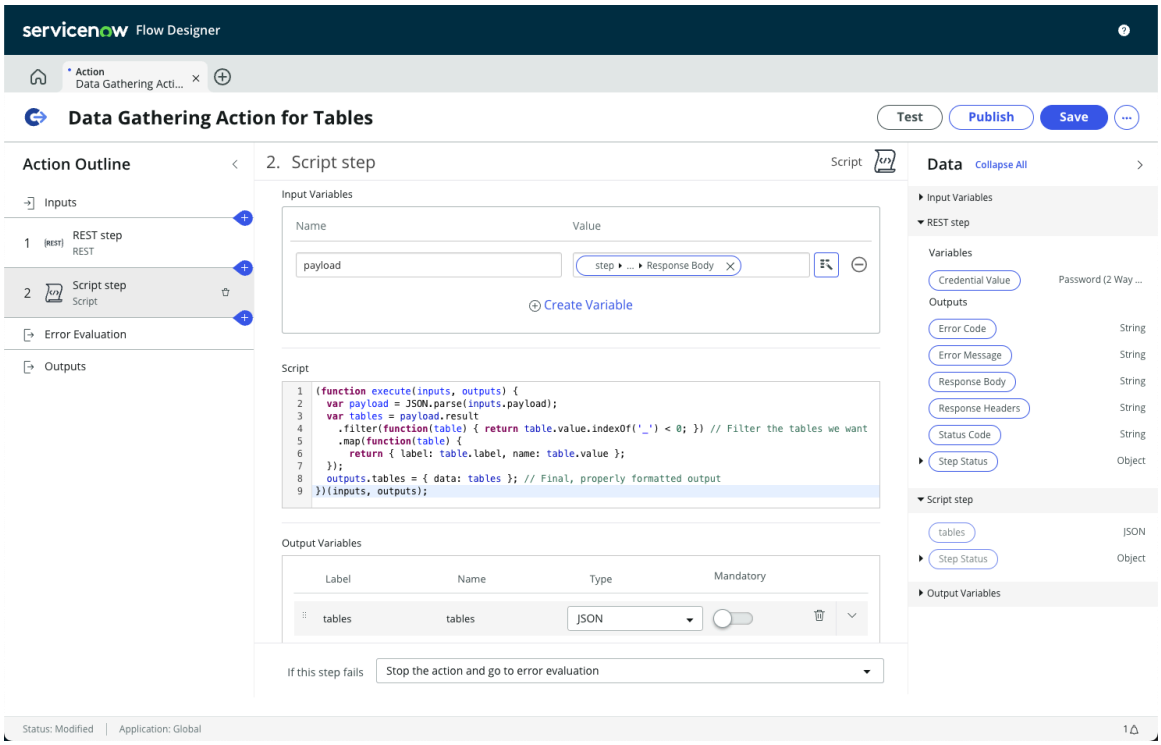
   REST API から、image、reference、rawLabel、selected、label、missing、used、および value のプロパティを含む各テーブルを説明する JSON 形式の文字列が返されます。label プロパティと value プロパティからは、動的選択肢に必要な値が得られます。動的選択肢では、各選択肢オプションにラベルと名前が必要です。このスクリプトでは、value プロパティを name プロパティにマッピングします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

e. [出力変数] セクションで [変数の作成] を選択します。

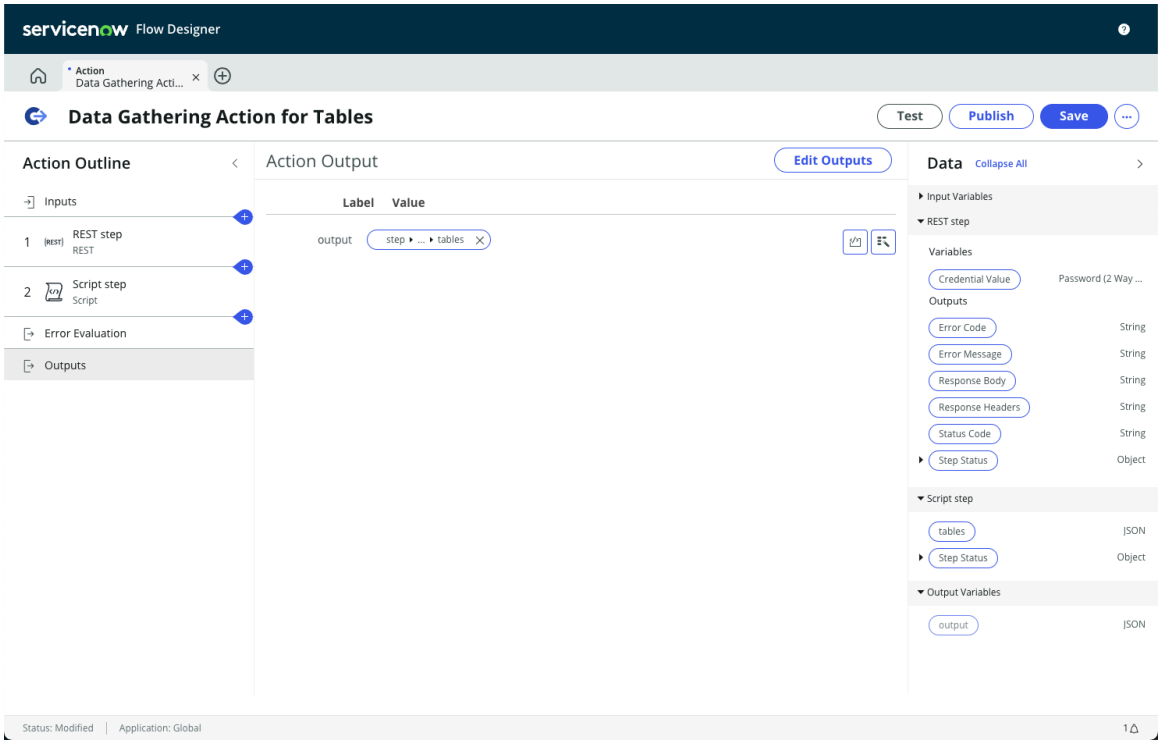
f. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「`tables`」と入力します。

g. [タイプ] フィールドで、`[JSON]` を選択します。



7. [アクションアウトライン] で、[出力] を選択します。
   a. [出力の作成] を選択します。
   b. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「`output`」と入力します。
   c. [タイプ] フィールドで、`[JSON]` を選択します。
   d. [編集モードを終了] を選択します。
   e. [値] の横にあるデータピルピッカー ( ) を選択し、[スクリプトステップ] > [テーブル] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



8. アクションヘッダーで [保存] を選択し、[テスト] を選択して、アクションをテストします。

   a. [テストを実行] を選択します。

   b. アクションの実行の詳細が表示されます。
   次の簡略化された例に示すように、[テーブル] のランタイム値が [ラベル] と [名前] に対するキーと値のペアのアレイを含む複合オブジェクトである場合、データ収集アクションは正常に実行されます。

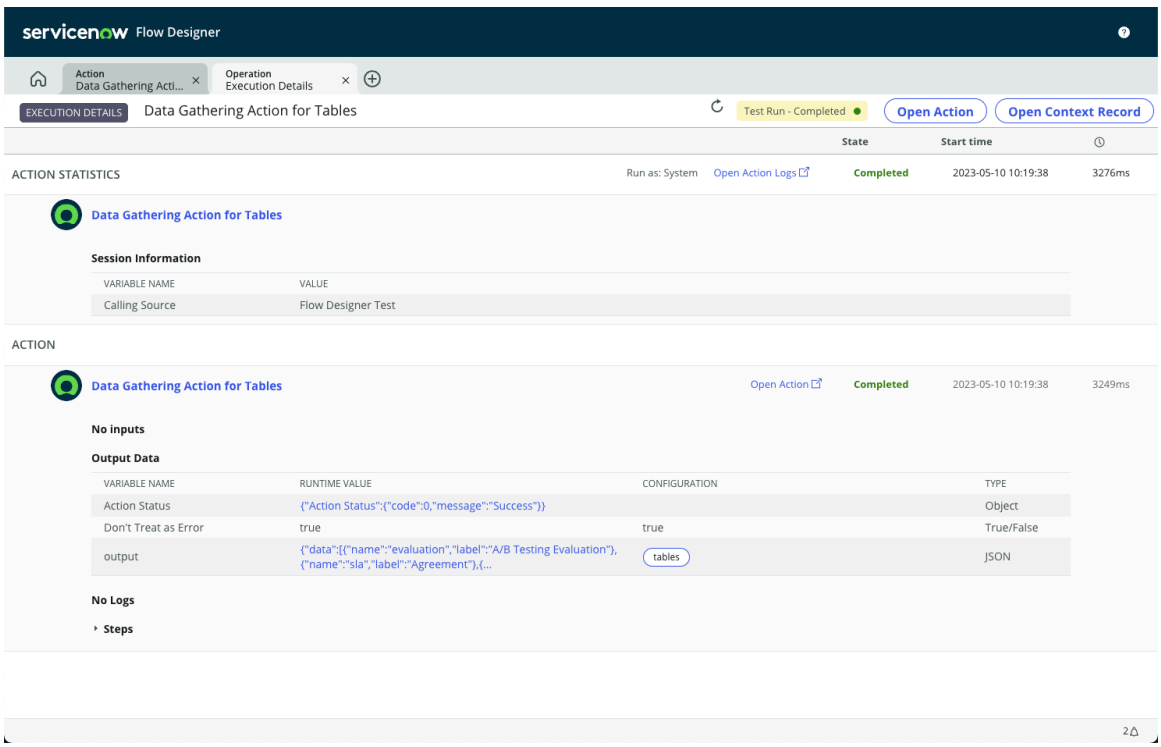
```
{
  "data": [
    {
      "name": "evaluation",
      "label": "A/B Testing Evaluation"
    },
    {
      "name": "sla",
      "label": "Agreement"
    },
    {
      "name": "announcement",
      "label": "Announcement"
    },
    {
      "name": "cmdb",
      "label": "Base Configuration Item"
    },
    {
      "name": "checklist",
      "label": "Checklist"
    },
    {
      "name": "collaborator",
      "label": "Collaborator"
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    },
    {
      "name": "conflict",
      "label": "Conflict"
    },
    {
      "name": "clone",
      "label": "Database Clone"
    },
    {
      "name": "dsl",
      "label": "DML"
    },
    {
      "name": "global",
      "label": "Global"
    },
    {
      "name": "goal",
      "label": "Goal"
    },
    {
      "name": "incident",
      "label": "Incident"
    },
    {
      "name": "interaction",
      "label": "Interaction"
    },
    {
      "name": "map",
      "label": "Map"
    },
    {
      "name": "ola",
      "label": "OLA"
    },
    {
      "name": "problem",
      "label": "Problem"
    },
    {
      "name": "question",
      "label": "Question"
    },
    {
      "name": "reminder",
      "label": "Reminder"
    },
    {
      "name": "instance",
      "label": "ServiceNow Instance"
    },
    {
      "name": "label",
      "label": "Tag"
    },
```


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    {
      "name": "task",
      "label": "Task"
    },
    {
      "name": "taxonomy",
      "label": "Taxonomy"
    },
    {
      "name": "ticket",
      "label": "Ticket"
    },
    {
      "name": "topic",
      "label": "Topic"
    },
    {
      "name": "expert",
      "label": "Wizard"
    }
  ]
}
```



9. アクションヘッダーで [公開] を選択し、グローバルスコープ内の他のフローやアクションでこのアクションを使用できるようにします。

フィールド名を取得するためのデータ収集アクションの作成

テーブルからフィールドのリストを取得するデータ収集アクションを作成します。

始める前に

必要なロール：action_designer または admin

このタスクについて

このデータ収集アクションは次の要素で構成されています。

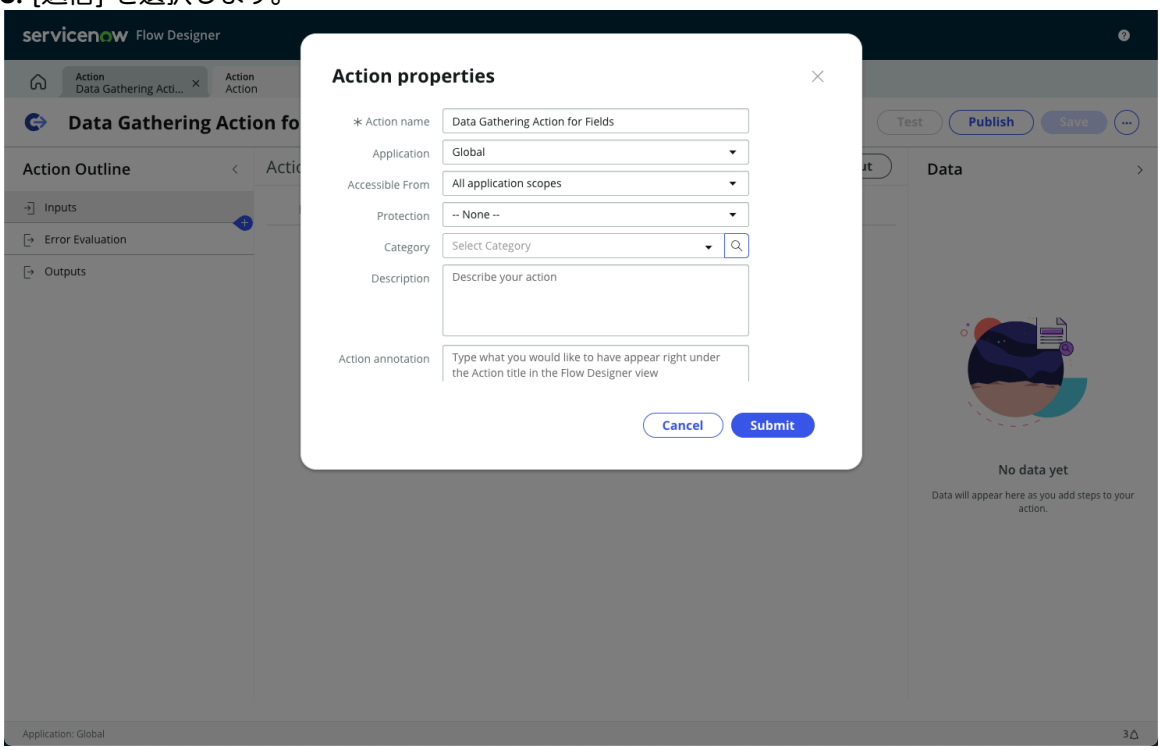
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- REST テーブル API からフィールドを収集する REST ステップ
- REST ステップの応答本文から JSON ペイロードを作成するスクリプトステップ
- フィールド名と値のペアを JSON ドキュメントとして格納する、`output` という名前のアクション出力変数

このカスタムアクションは、REST API コールを使用して、ServiceNow コアの「レコードのルックアップ」アクションおよび「複数レコードのルックアップ」アクションの機能を複製します。一般的には、カスタムアクションを作成しなくても基本的なレコード操作は実行できます。このアクションは、REST ステップとスクリプトステップを操作して動的入力のフィールドデータを収集する方法を示しています。

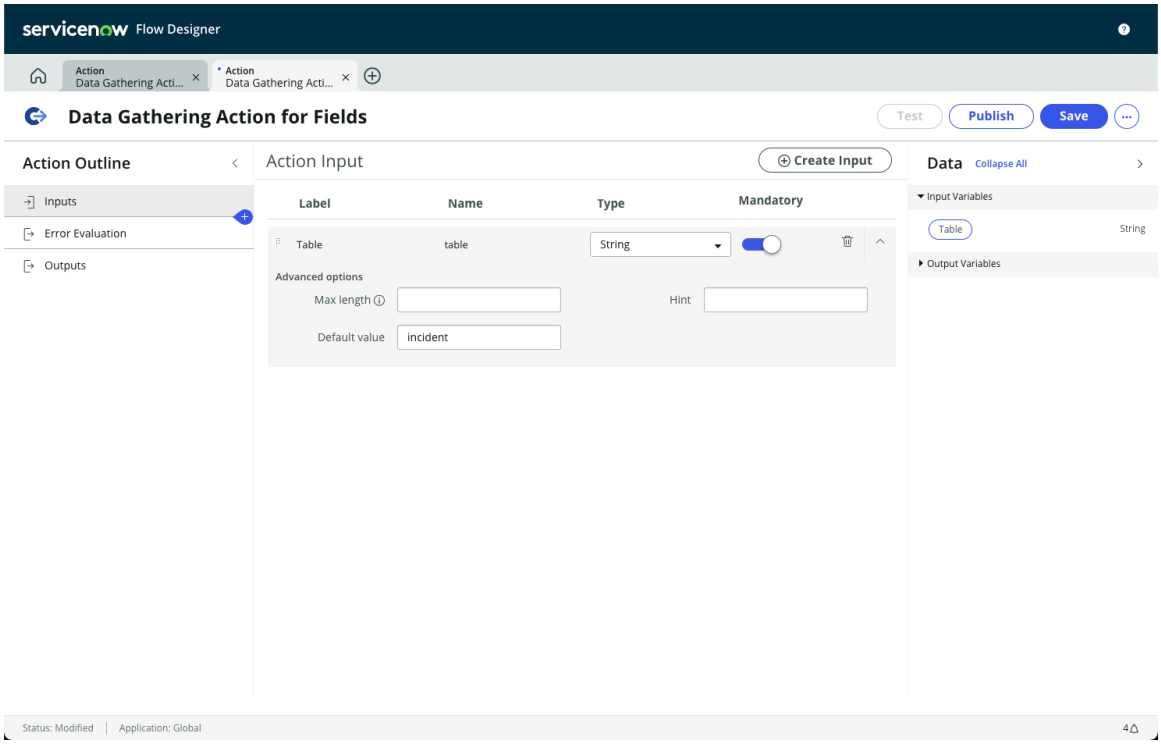
手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、 [アクション] を選択します。
3. [新規作成] > [アクション] と選択します。
   a. [アクションプロパティ] 画面の [アクション名] フィールドに、「`Data Gathering Action for Fields`」と入力します。
   b. [アプリケーション] で、[グローバル] を選択します。
   c. [送信] を選択します。



4. [アクションアウトライン] から、[入力] を選択します。
   a. [アクションの入力] ヘッダーで、[入力の作成] をクリックします。
   b. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「`Table`」と入力します。
   c. [タイプ] フィールドで、[文字列] を選択します。
   d. [必須 **(Mandatory)**] スライダーを切り替えてアクティブにします。
   e. [詳細入力を切り替え] アイコンを選択すると、詳細入力が表示されます。
   f. [デフォルト値] フィールドに「`incident`」と入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. [アクションアウトライン] の REST ステップの下で、[新しいステップを追加] アイコン ( ) を選択します。
6. [統合] セクションで [スクリプト] ステップを選択し、次のフィールド値を入力します。

   a. [入力変数] セクションで [変数の作成] を選択します。

   b. [名前] フィールドに「`table`」と入力します。

   c. [値] の横にあるデータピルピッカー ( ) を選択し、[アクション] > [テーブル] を選択します。

   d. [スクリプト] フィールドに次のコードを入力します。

```
(function execute(inputs, outputs) {
    if(!inputs.table || inputs.table === "-- None --") { // check for
 empty or no table
      outputs.table = "incident"; // set default table to incident
    } else {
      outputs.table = inputs.table; // use input value provided
    }
})(inputs, outputs);
```

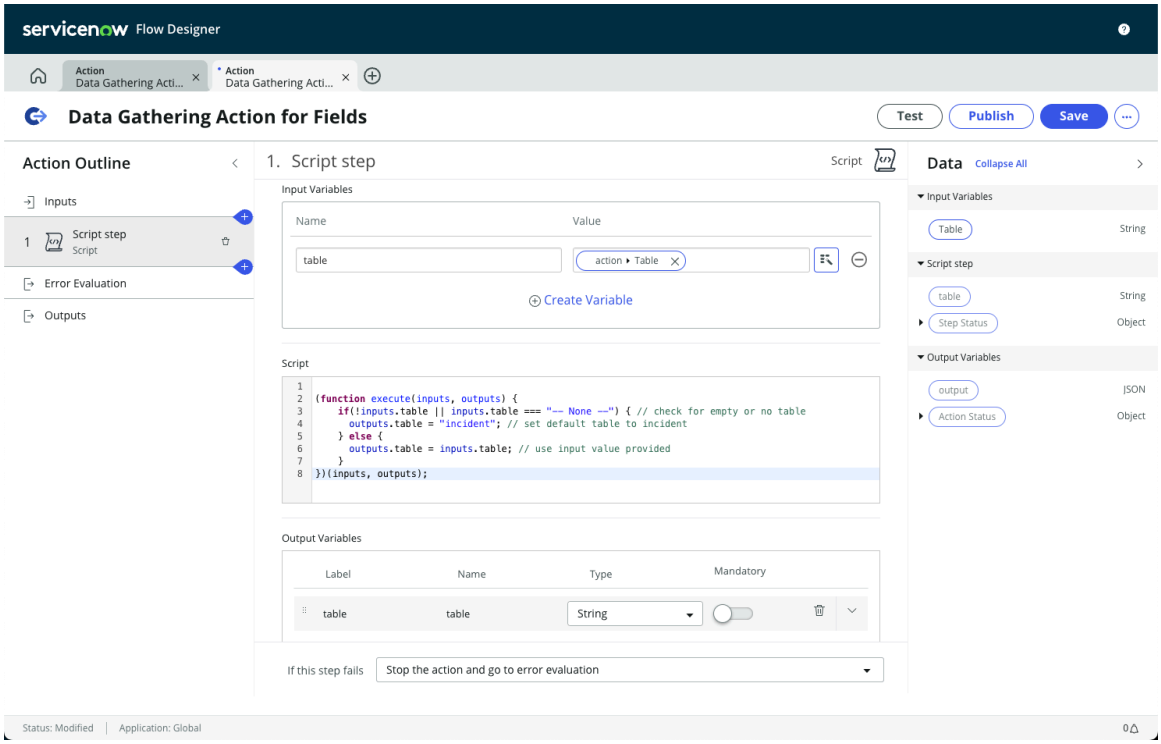
   このスクリプトによって、REST ステップに常にテーブル名が含まれるようになります。

   e. [出力変数] セクションで [変数の作成] を選択します。

   f. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「`table`」と入力します。

   g. [タイプ] フィールドで、[文字列] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

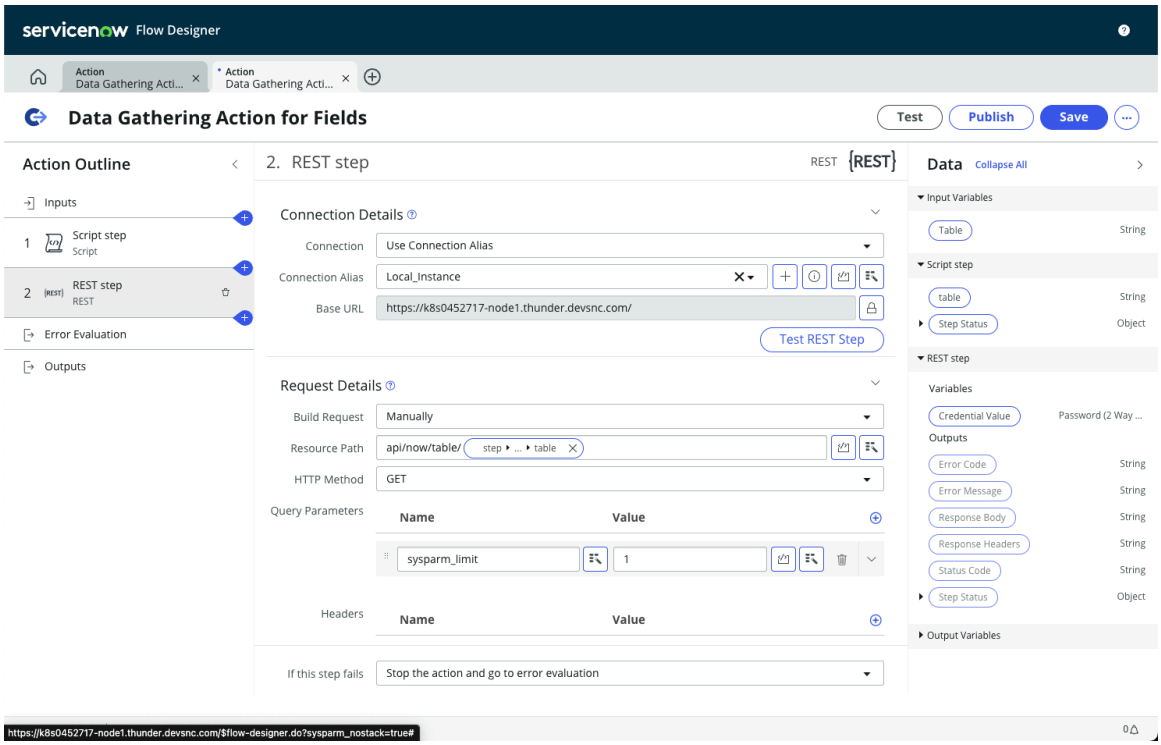


7. [アクションアウトライン] の [入力] セクションの下で、[新しいステップを追加] アイコン ( ) を選択します。
8. [統合] セクションで **[REST]** ステップを選択し、次のフィールド値を入力します。

入力	値
接続	[接続エイリアスを使用] を選択したままにします。
接続エイリアス	以前に作成したエイリアスを選択するか、[新しいレコードを作成] アイコン (+) を選択して、HTTP(S) 接続を作成します。 注: HTTP(s) 接続の認証情報では、ベーシック認証情報を使用する必要があります。また、[接続 **URL**] は末尾に前方スラッシュが含まれるインスタンスのベース URL である必要があります。接続および認証情報の詳細については、「接続の開始」および「認証情報の開始」を参照してください。
ビルド要求	[手動] オプションを選択したままにします。
リソースパス	「`api/now/table/`」と入力し、データピルピッカー ( ) を選択します。[スクリプトステップ] > [テーブル] を選択します。
HTTP メソッド	「`GET`」と入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	値
クエリパラメーター	このクエリパラメーターを追加すると、REST API がレコードを 1 つだけ返すようになります。 ◦ 名前：sysparm_limit ◦ 値：1



9. [アクションアウトライン] の REST ステップの下で、[新しいステップを追加] アイコン ( ) を選択します。
10. [統合] セクションで [スクリプト] ステップを選択し、次のフィールド値を入力します。

    a. [入力変数] セクションで [変数の作成] を選択します。

    b. [名前] フィールドに「`payload`」と入力します。

    c. [値] の横にあるデータピルピッカー ( ) を選択し、**[REST** ステップ] > [応答本文] を選択します。

    d. [スクリプト] フィールドに次のコードを入力します。

```
(function execute(inputs, outputs) {
  var payload = JSON.parse(inputs.payload);
  var fields = Object.keys(payload.result[0]) // Get first record of
 array
    .map(function(property) {
      return {
        label: property.charAt(0).toUpperCase() +
 property.slice(1).replace(/_/g, ' '), // Create label from field name
        name: property, // Set name to field name
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

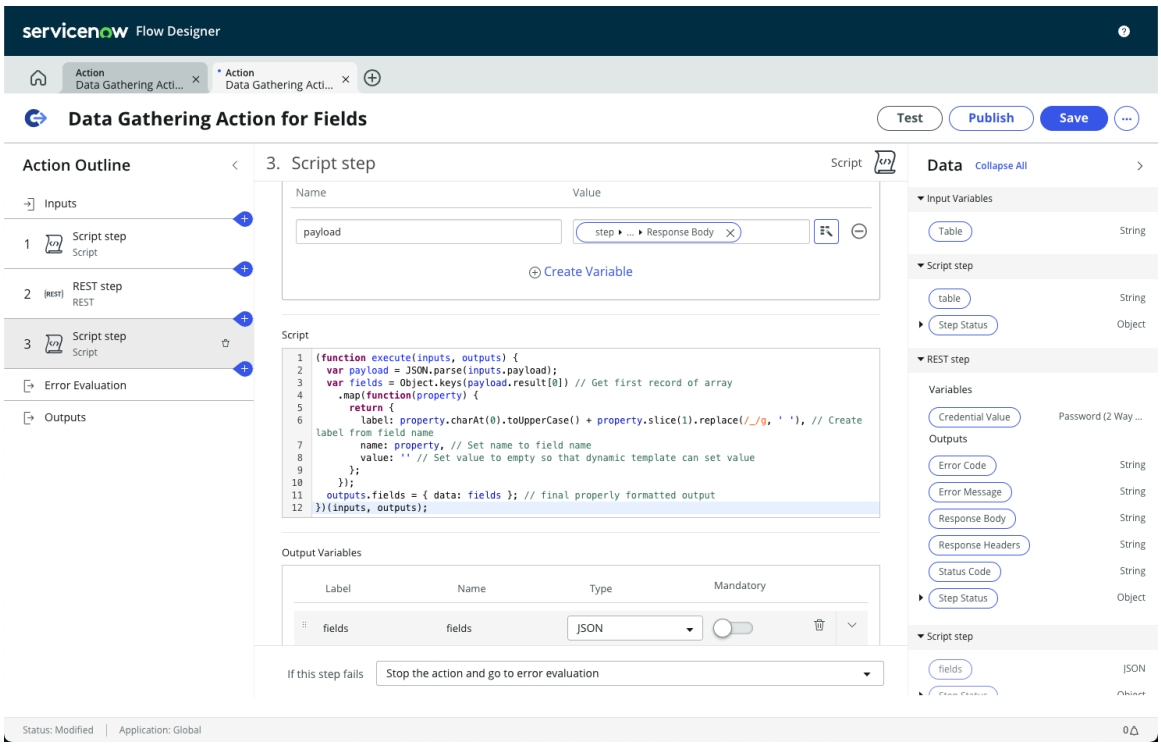
```
        value: '' // Set value to empty so that dynamic template can
 set value
      };
    });
  outputs.fields = { data: fields }; // final properly formatted
 output
})(inputs, outputs);
```

REST API から、各フィールドを名前と値のペアのセットとして説明する JSON 形式の文字列が返されます。名前はフィールド名で、値はフィールド値です。動的テンプレートで必要なのはフィールド名とラベルのみです。テンプレート値で設定できるように、フィールド値は空白にする必要があります。ラベルプロパティは、フィールド名の最初の文字を大文字にし、アンダースコアをスペースに置き換えることで計算されます。

e. [出力変数] セクションで [変数の作成] を選択します。

f. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「`fields`」と入力します。

g. [タイプ] フィールドで、**[JSON]** を選択します。



11. [アクションアウトライン] で、[出力] を選択します。

a. [アクションの出力] ヘッダーで、[出力の作成] をクリックします。

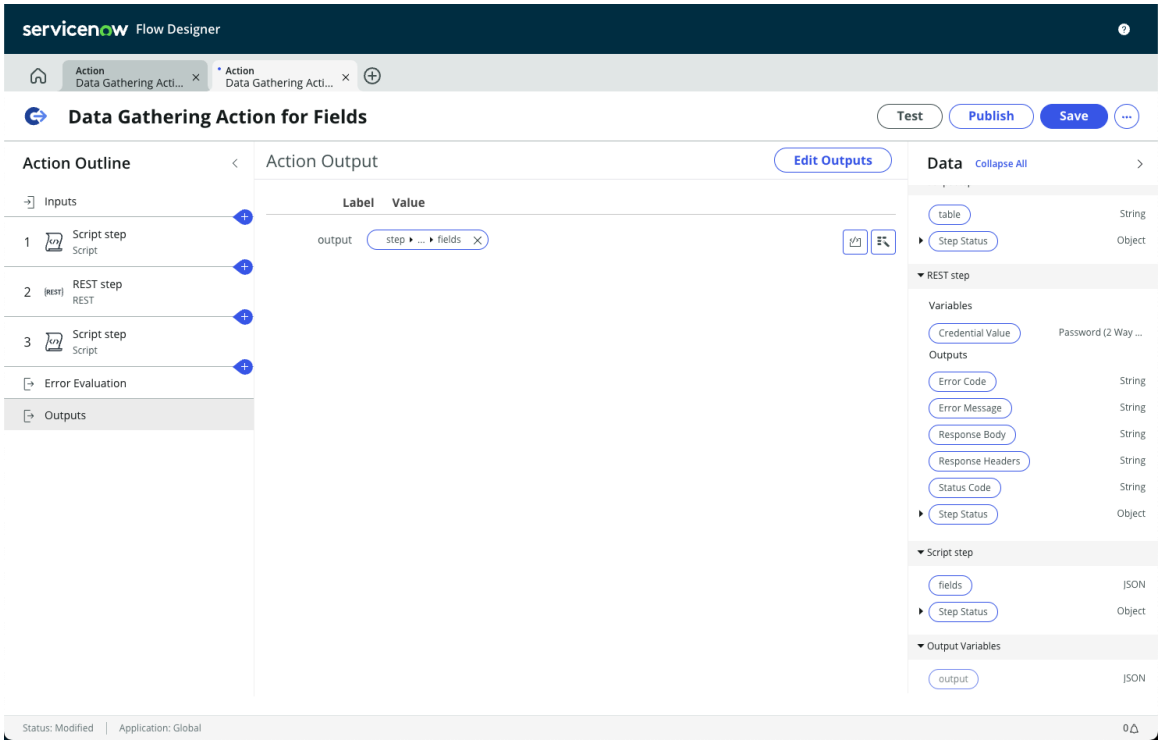
b. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「`output`」と入力します。

c. [タイプ] フィールドで、**[JSON]** を選択します。

d. [編集モードを終了] を選択します。

e. [値] フィールドの横にあるデータピルピッカー ( ) を選択し、[スクリプトステップ] > [フィールド] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



12. アクションヘッダーで [保存] を選択し、[テスト] を選択して、アクションをテストします。

    a. テストアクション画面の [テーブル] フィールドに「`incident`」と入力します。

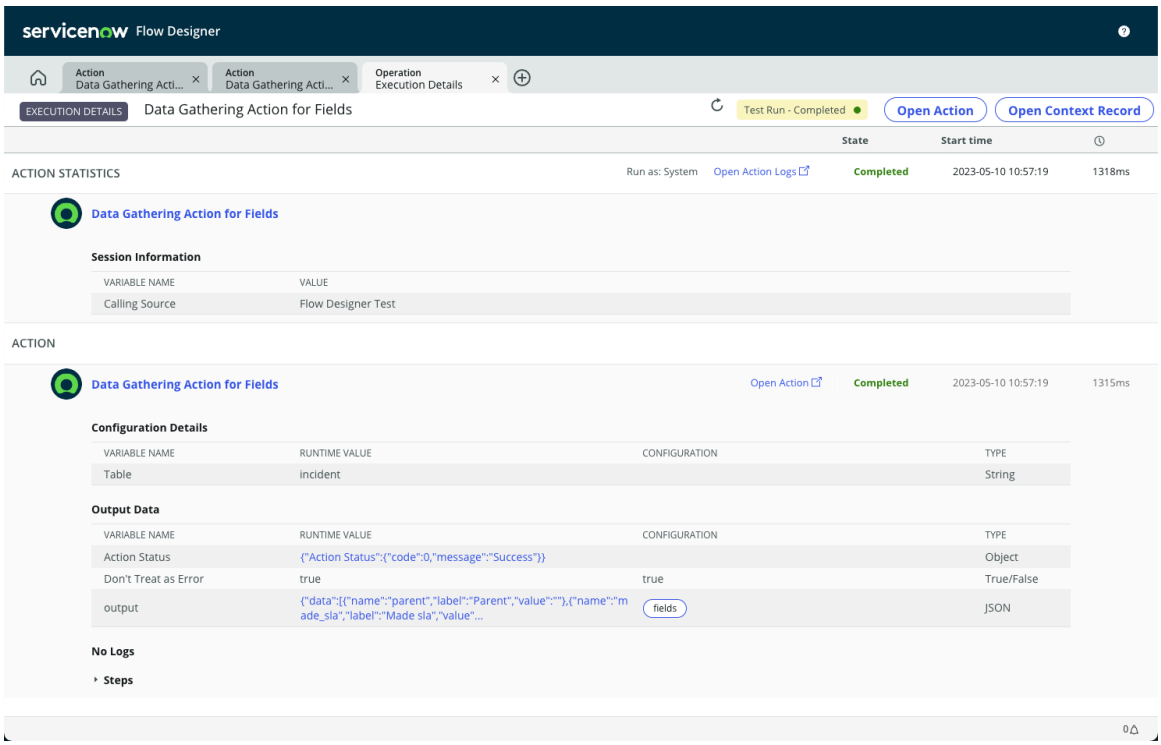
    b. [テストを実行] を選択します。

    c. アクションの実行の詳細が表示されます。
    次の簡略化された例に示すように、[出力] のランタイム値が [ラベル] と [名前]、および [値] に対するキーと値のペアのアレイを含む複合オブジェクトである場合、データ収集アクションは正常に実行されます。

```
{
    "data": [
      {
        "name": "parent",
        "label": "Parent",
        "value": ""
      },
      {
        "name": "made_sla",
        "label": "Made sla",
        "value": ""
      },
      {
        "name": "caused_by",
        "label": "Caused by",
        "value": ""
      },
      {
        "name": "watch_list",
        "label": "Watch list",
        "value": ""
      },
      {
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
        "name": "upon_reject",
        "label": "Upon reject",
        "value": ""
      },
      {
        "name": "sys_updated_on",
        "label": "Sys updated on",
        "value": ""
      },
      {
        "name": "...",
        "label": "...",
        "value": ""
      },
      {
        "name": "category",
        "label": "Category",
        "value": ""
      }
    ]
}
```

13. アクションヘッダーで [公開] をクリックすると、グローバルスコープ内の他のアクションでこのアクションを使用できるようになります。

動的入力を追加するためのデータ収集アクションの作成

参照タイプの動的入力を追加するためのデータ収集アクションを作成します。

始める前に

必要なロール：action_designer または admin

このタスクについて

このデータ収集アクションには次の要素が含まれています。

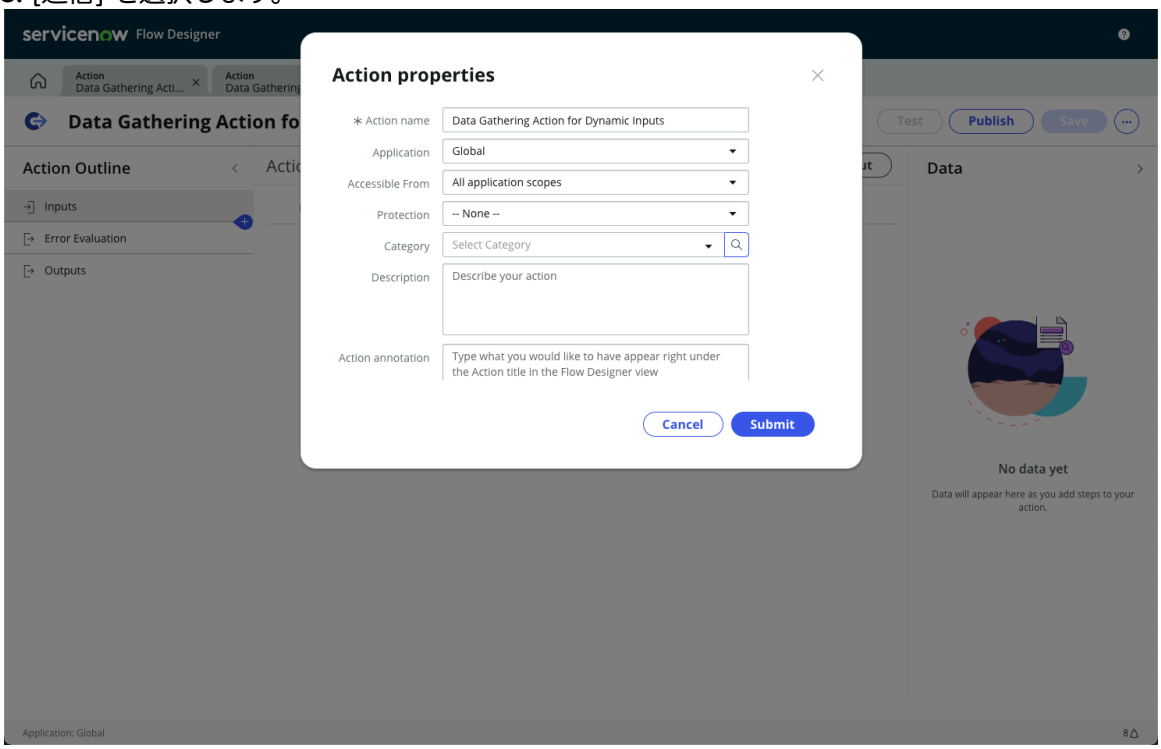
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- テーブル名を格納するアクション入力変数
- 2 つの動的入力を JSON オブジェクトとして作成するスクリプトステップ
- 動的入力を格納する `output` という名前のアクション出力変数

このカスタムアクションは、参照タイプ入力を使用して、ServiceNow コアの「レコードのルックアップ」アクションおよび「複数レコードのルックアップ」アクションの機能を複製します。通常は、カスタムアクションを作成しなくても基本的なレコード操作は実行できます。このアクションは、スクリプトステップを操作して動的入力のフィールドデータを収集する方法を示しています。

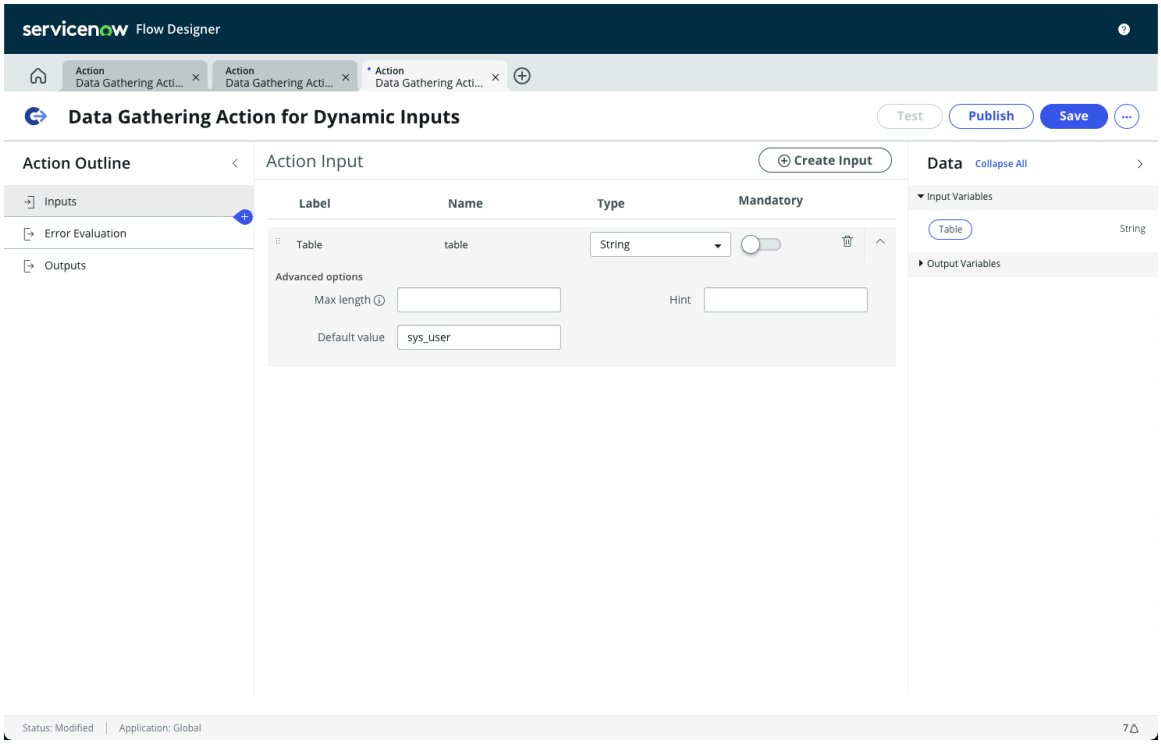
手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、 [アクション] を選択します。
3. [新規作成] > [アクション] と選択します。
   a. [アクションプロパティ] 画面の [アクション名] フィールドに、「`Data Gathering Action for Dynamic Inputs`」と入力します。
   b. [アプリケーション] で、[グローバル] を選択します。
   c. [送信] を選択します。



4. [アクションアウトライン] から、[入力] を選択します。
   a. [アクションの入力] ヘッダーで、[入力の作成] をクリックします。
   b. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「`Table`」と入力します。
   c. [タイプ] フィールドで、[文字列] を選択します。
   d. [詳細入力を切り替え] アイコン ( ) を選択します。
   e. [デフォルト値] フィールドに、「`sys_user`」と入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. [アクションアウトライン] の [入力] の下で、[新しいステップを追加] アイコン ( ) を選択します。
6. [統合] セクションで [スクリプト] ステップを選択し、次のフィールド値を入力します。

   a. [入力変数] セクションで [変数の作成] を選択します。

   b. [名前] フィールドに「`table`」と入力します。

   c. [値] の横にあるデータピルピッカー ( ) を選択し、[入力] > [テーブル] を選択します。

   d. [スクリプト] フィールドに次のコードを入力します。

```
(function execute(inputs, outputs) {
    // Define JSON for desired dynamic input type
    outputs.data = {
        data: [{
          label: 'Reference type input',
          name: 'referencetype',
          reference: inputs.table,
          type: 'reference',
        }]
      }
  })(inputs, outputs);
```

   動的入力には、タイプごとに独自の JSON 構造があります。参照フィールドの動的入力には、次のプロパティが必要です。

   label

   入力の横に表示するテキスト。たとえば、「Reference field input」などです。

   name

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

動的入力を識別して値を格納するために使用する、動的入力の内部名。たとえば、referencetype などです。

reference

参照フィールドのターゲットテーブル名。たとえば、sys_user などです。このスクリプトでは、テーブル名は変数です。

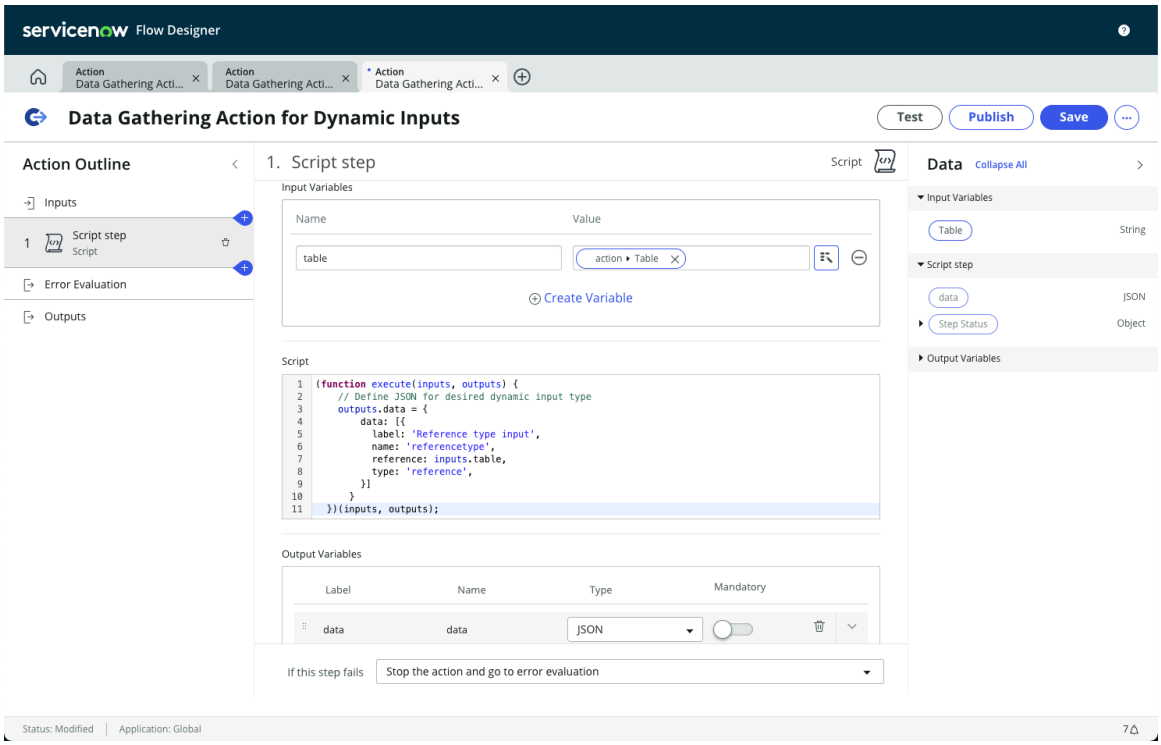
type

動的入力のデータ型。たとえば、reference などです。type プロパティによって、フローデザイナー で入力がどのように表示されるか、また入力を構成するために必要なその他のプロパティが決まります。

e. [出力変数] セクションで [変数の作成] を選択します。

f. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「`data`」と入力します。

g. [タイプ] フィールドで、**[JSON]** を選択します。



7. [アクションアウトライン] で、[出力] を選択します。

a. [アクションの出力] ヘッダーで、[出力の作成] をクリックします。

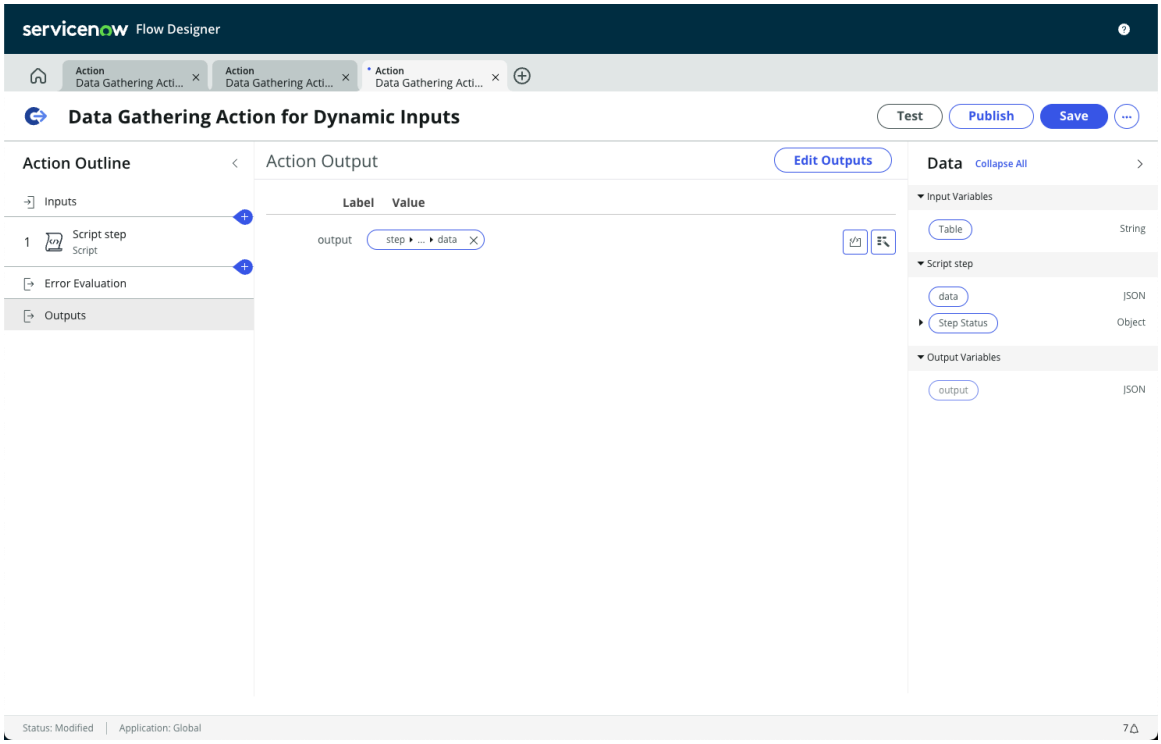
b. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「`output`」と入力します。

c. [タイプ] フィールドで、**[JSON]** を選択します。

d. [編集モードを終了] を選択します。

e. [値] フィールドの横にあるデータピルピッカー ( ) を選択し、[スクリプトステップ] > [データ] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



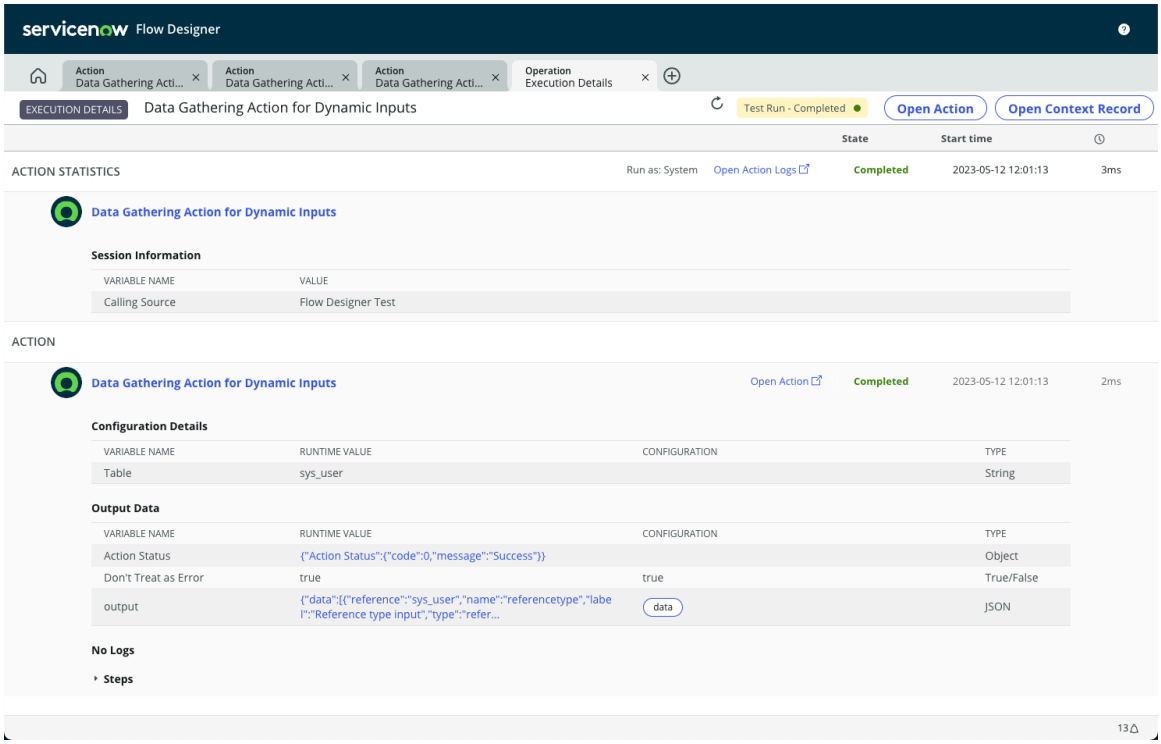
8. アクションヘッダーで [保存] を選択し、[テスト] を選択して、アクションをテストします。

   a. [テストを実行] を選択します。

   b. アクションの実行の詳細が表示されます。
   データ収集アクションが正常に実行された場合、次の例に示すように、`output` のランタイム値は JSON 文字列になります。

```
{
  "data": [
    {
      "reference": "sys_user",
      "name": "referencetype",
      "label": "Reference type input",
      "type": "reference"
    }
  ]
}
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



9. アクションヘッダーで [公開] を選択し、グローバルスコープ内の他のアクションでこのアクションを使用できるようにします。

動的入力をテストするカスタムアクションの作成

動的入力をテストするカスタムアクションを作成します。

始める前に

必要なロール：action_designer または admin

このタスクについて

このヘルパーアクションでは、REST ステップからのデータ収集を説明するため、「レコードの作成」ステップの機能について改めて説明します。一般的に、サードパーティのシステムおよびデータへの統合には動的入力を使用します。

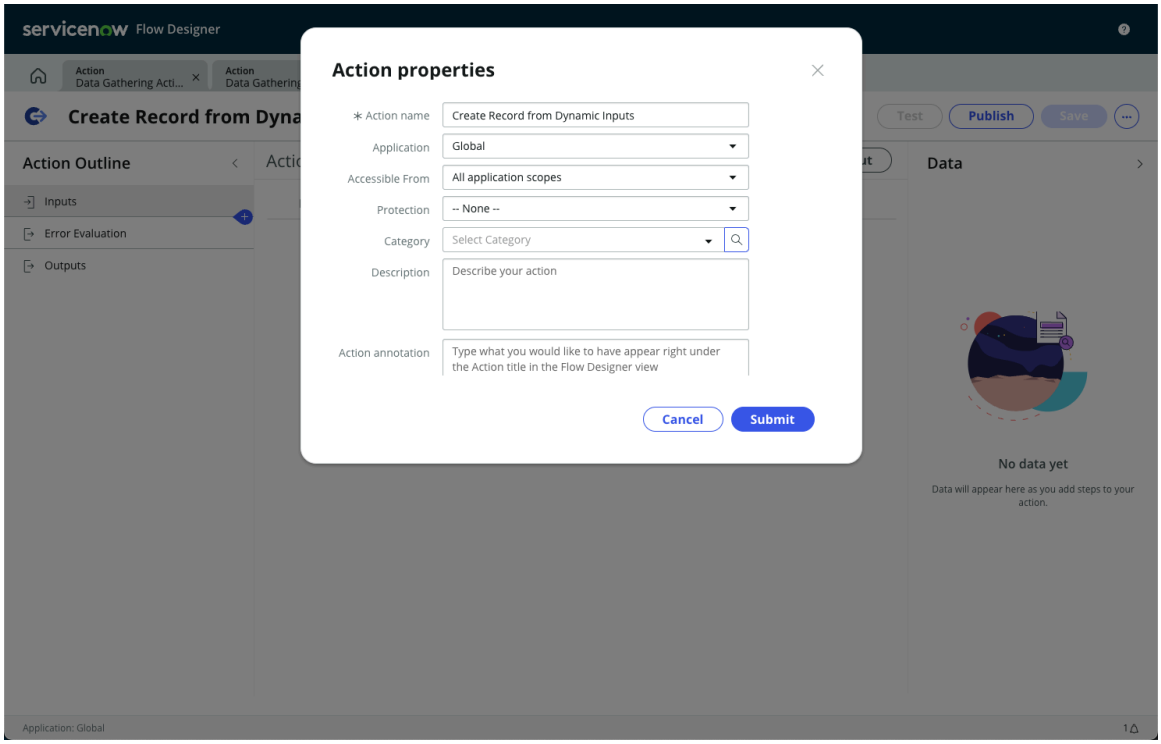
このカスタムアクションには次の要素が含まれています。

- テーブルを選択するための動的選択肢タイプの入力
- フィールド値を選択および設定するための動的テンプレートタイプの入力
- GlideRecord - グローバル からレコードを作成するためのスクリプトステップ
- 作成されたレコードの sys_id を格納する `output` という名前のアクション出力変数

手順

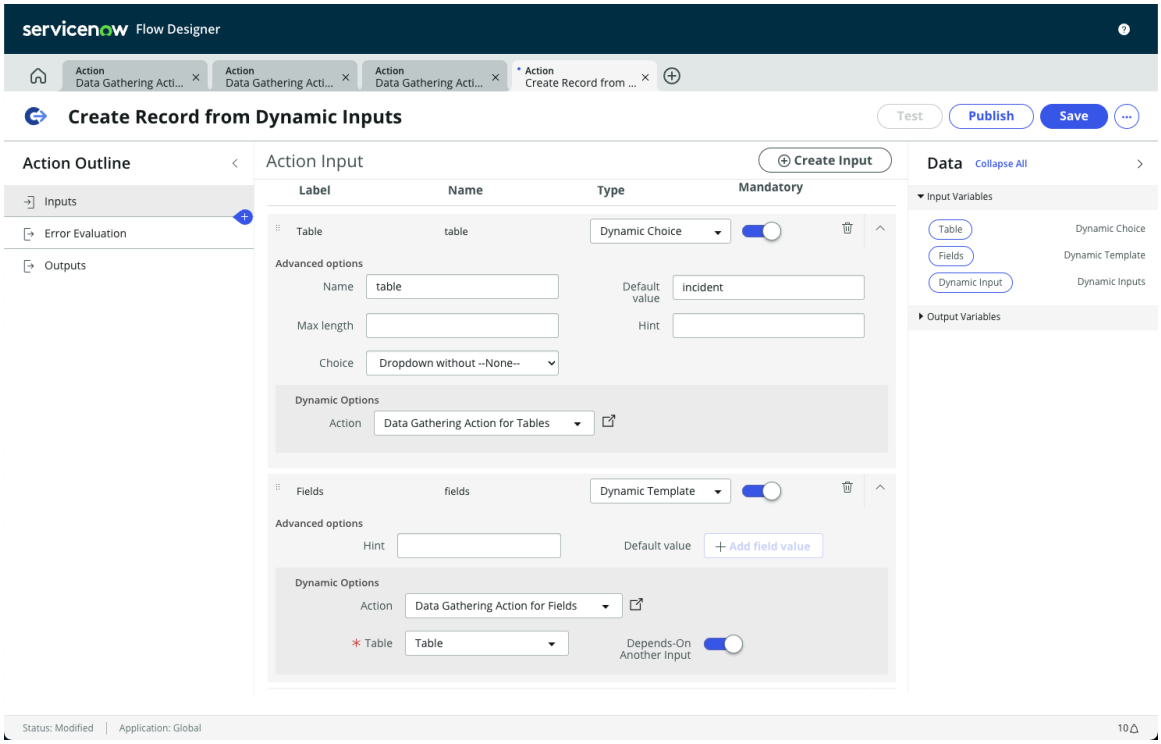
1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、 [アクション] を選択します。
3. [新規作成] > [アクション] と選択します。
   a. [アクションプロパティ] 画面の [アクション名] フィールドに、「`Create Record from Dynamic Inputs`」と入力します。
   b. [アプリケーション] で、[グローバル] を選択します。
   c. [送信] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. [アクションアウトライン] で、[入力] を選択します。
   a. [入力の作成] を選択します。
   b. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「`Table`」と入力します。
   c. [タイプ] フィールドで、[動的選択肢] を選択します。
   d. [必須] 切り替えスイッチをオンにします。
   e. [デフォルト値] フィールドに「`incident`」と入力します。
   f. [選択肢] ではデフォルト値をそのまま使用します。
   g. [動的オプション] の [アクション] フィールドで、[テーブルのデータ収集アクション **(Data Gathering Action for Fields)]** を選択します。
   h. [入力の作成] を選択して、別のアクション入力を作成します。
   i. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「`Fields`」と入力します。
   j. [タイプ] フィールドで、[動的テンプレート **(Dynamic Template)]** を選択します。
   k. [必須] 切り替えスイッチをオンにします。
   l. [動的オプション] の [アクション] フィールドで、[フィールドのデータ収集アクション**(Data Gathering Action for Fields)]** を選択します。
   m. [テーブル] フィールドの横にある [別の入力に依存] トグルスイッチをオンにします。
   n. [テーブル] フィールドで、[テーブル] 入力を選択します。
   o. [入力の作成] を選択して、別のアクション入力を作成します。
   p. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「`Dynamic Input`」と入力します。
   q. [タイプ] フィールドで、[動的入力] を選択します。
   r. [動的オプション] の [アクション] フィールドで、[動的入力のデータ収集アクション **(Data Gathering Action for Dynamic Inputs)]** を選択します。
   s. データ収集アクションで提示される sys_user のデフォルト値を使用するには、[テーブル] フィールドを空白のままにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. [アクションアウトライン] の [入力] セクションの下で、[新しいステップを追加] アイコン ( ) を選択します。
6. [統合] セクションで [スクリプト] ステップを選択し、次のフィールド値を入力します。

   a. [入力変数] セクションで [変数の作成] を選択します。

   b. [名前] フィールドに「`table`」と入力します。

   c. [値] フィールドの横にあるデータピルピッカー ( ) を選択し、[入力] > [テーブル] を選択します。

   d. [変数の作成] を選択して、別の入力変数を作成します。

   e. [名前] フィールドに「`fields`」と入力します。

   f. [値] フィールドの横にあるデータピルピッカー ( ) を選択し、[入力] > [フィールド] を選択します。

   g. [変数の作成] を選択して、別の入力変数を作成します。

   h. [名前] フィールドに「`payload`」と入力します。

   i. [値] フィールドの横にあるデータピルピッカー ( ) を選択し、[入力] > [動的入力] を選択します。

   j. [スクリプト] フィールドに次のコードを入力します。

```
(function execute(inputs, outputs) {
```

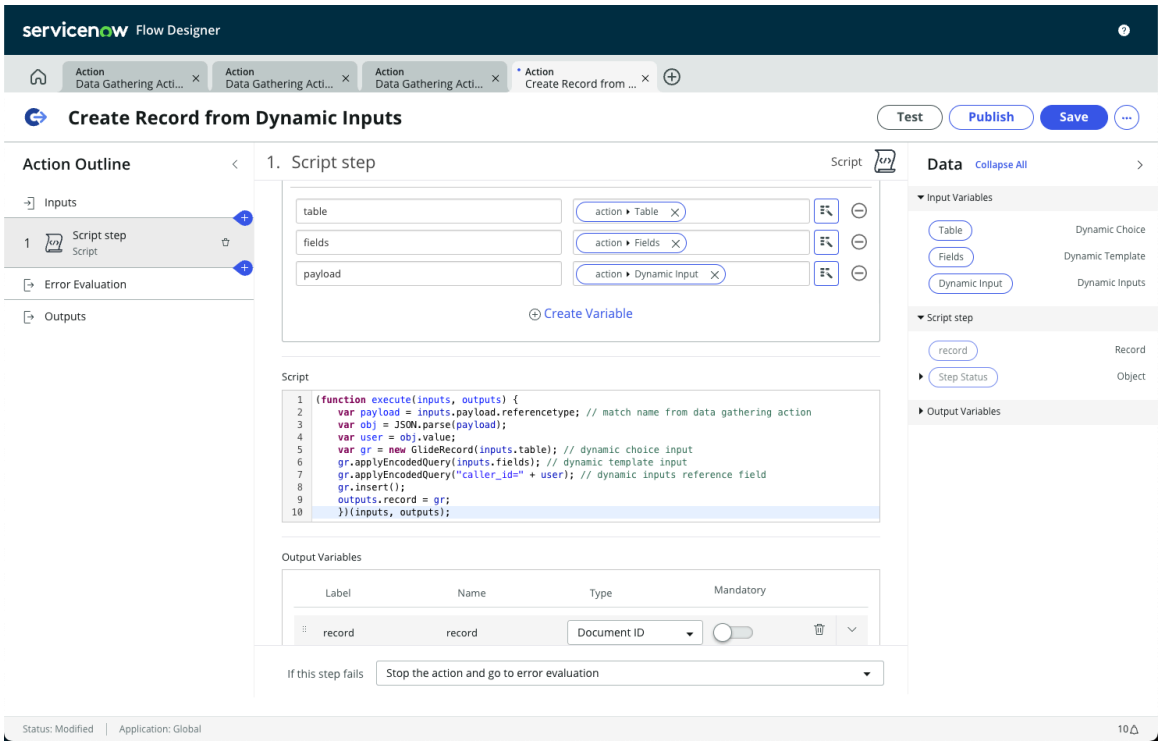
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
   var payload = inputs.payload.referencetype; // match name from
data gathering action
   var obj = JSON.parse(payload);
   var user = obj.value;
   var gr = new GlideRecord(inputs.table); // dynamic choice input
   gr.applyEncodedQuery(inputs.fields); // dynamic template input
   gr.applyEncodedQuery("caller_id=" + user); // dynamic inputs
reference field
   gr.insert();
   outputs.record = gr;
   })(inputs, outputs);
```

k. [出力変数] セクションで [変数の作成] を選択します。

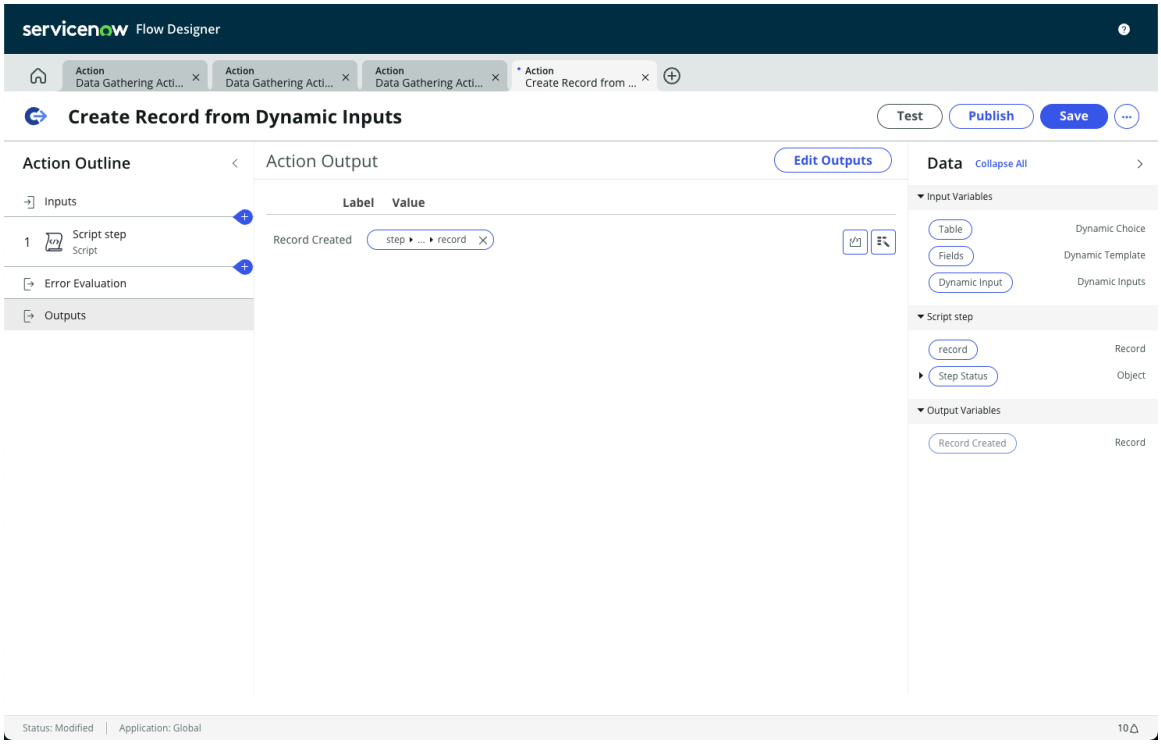
l. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「`record`」と入力します。

m. [タイプ] フィールドで [ドキュメント **ID**] を選択します。



7. [アクションアウトライン] で、[出力] を選択します。
   a. [アクションの出力] ヘッダーで、[出力の作成] をクリックします。
   b. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「`Record Created`」と入力します。
   c. [タイプ] フィールドで [ドキュメント **ID**] を選択します。
   d. [編集モードを終了] を選択します。
   e. [値] フィールドの横にあるデータピルピッカー ( ) を選択し、[スクリプトステップ] > [レコード] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



8. アクションヘッダーで [保存] を選択し、[テスト] を選択して、アクションをテストします。

   a. テストアクション画面の [テーブル] 入力で、動的に生成されたテーブルの選択肢を任意に選択します。

      Example
      たとえば、インシデントテーブルを選択します。

   b. [フィールド値を追加] を選択し、任意のフィールドを選択して任意の値を入力します。

      Example
      たとえば、[簡単な説明] フィールドを選択し、値「test」を入力します。

   c. [動的入力] セクションと [参照タイプ入力**(Reference type input)**] フィールドで、参照フィールド値を選択します。

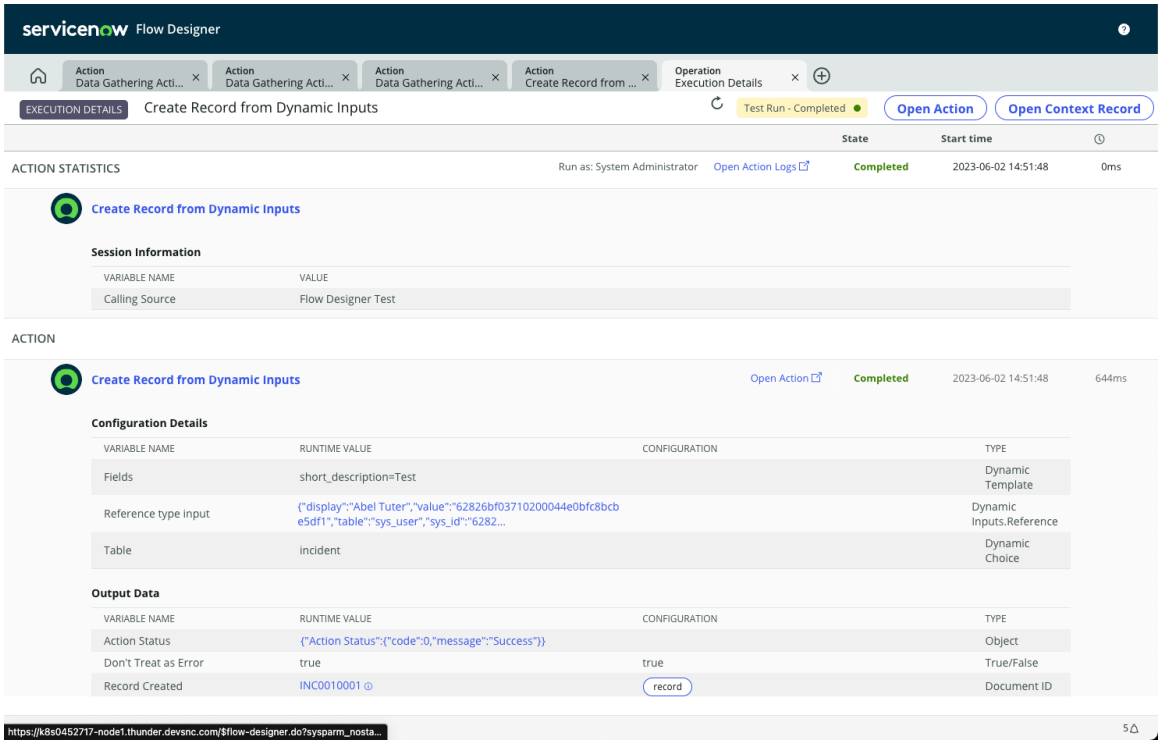
      Example
      たとえば、「Abel Tuter」というユーザーを選択します。

   d. [テストを実行] を選択します。

      注: テーブル API から作成したレコードは、通常はレコードの作成に関連するデータポリシーと必須フィールドをバイパスします。このアクションは、解説のみを目的としています。標準的な保護および検証を行ってレコードを作成するには、代わりに「レコードの作成」ステップを使用してください。

   e. アクションの実行の詳細が表示されます。
      [作成されたレコード] 出力を使用すると、[テーブル] と [フィールド] のランタイム値が入力したテスト値に一致することを確認できます。

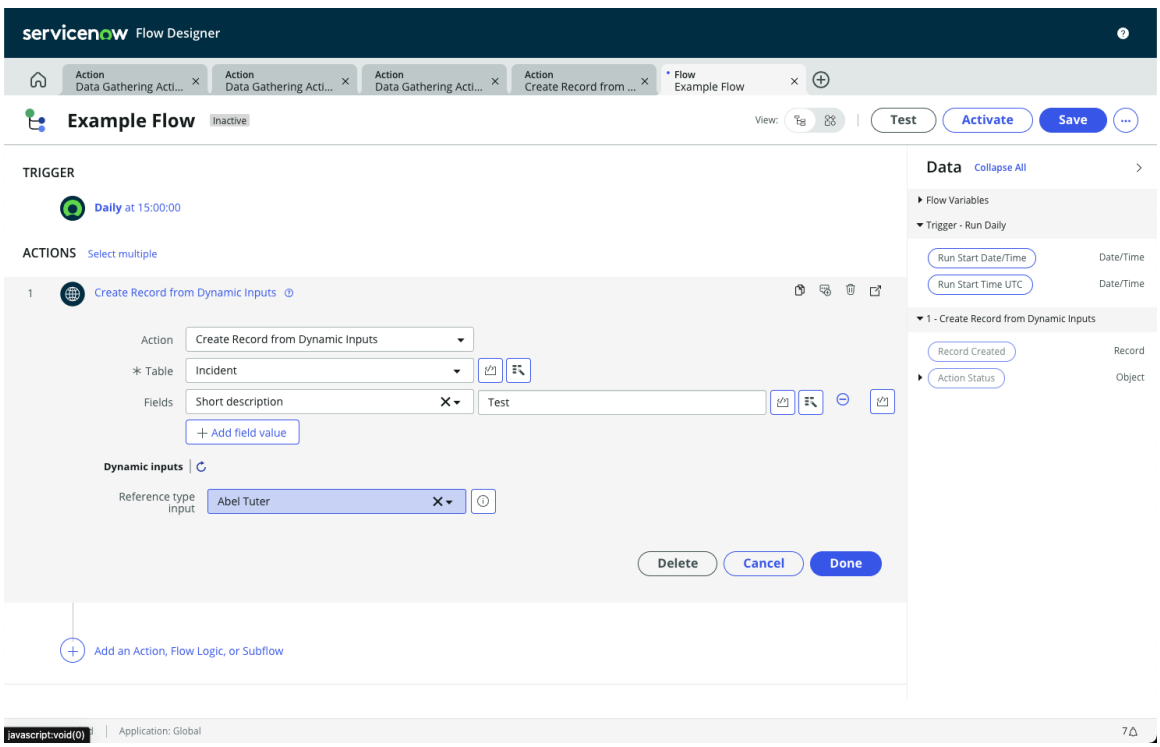
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



9. アクションヘッダーで [公開] を選択し、グローバルスコープ内の他のアクションでこのアクションを使用できるようにします。

タスクの結果

このアクションは フローデザイナー 内のフローに追加できます。このサンプルアクションでは、フロー設計時に値を割り当てることができるインスタンス内のテーブルと関連フィールドのリストが動的に生成されます。



動的選択肢のデータ収集アクションの作成

動的選択肢入力の選択オプションのリストを生成するデータ収集アクションを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 必要なロール：action_designer または admin
- REST エンドポイントの認証情報と接続を作成する

注: 動的入力はベースシステムでは使用できません。ワークフロースタジオで動的入力を使用するには 、統合ハブ プラグインを要求する必要があります。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [新規作成] > [アクション] と選択します。
3. [名前] フィールドにアクションの名前を入力し、適切な [アプリケーション] スコープを選択して、[送信] を選択します。
4. [アクションアウトライン] で、[入力] の下にある [新しいステップを追加] アイコン ( ) を選択し、**[REST]** ステップを選択します。
   HTTP メソッドの `GET` に適用可能な任意のクエリパラメーターを使用して、適切なベース **URL** とリソースパスからデータを取得する REST ステップを設定します。統合ハブ で REST ステップを使用する方法の詳細については、「REST ステップ」および「統合ハブの REST 」を参照してください。
5. [アクションアウトライン] の [REST ステップ] で、[新しいステップを追加] アイコン ( ) をクリックし、[スクリプト] ステップを選択します。

   a. [入力変数] から [変数の作成] を選択します。
   この入力変数には REST 応答の本文が格納されます。

   Example
   たとえば、入力変数 [名前] には「`payload`」と入力します。

   b. 入力変数 [値] で、REST ステップの応答の本文の出力のデータピルを選択します。

   c. [スクリプト] に、入力変数から JSON 出力を作成するスクリプトを入力します。
   入力するスクリプトでは、次のタスクを実行する必要があります。

   入力変数を JSON として解析する

   JSON - グローバル API を使用して、入力変数を文字列から JSON オブジェクトに変換できます。

   動的選択肢用にフォーマットされた新しい JSON オブジェクトを作成する

   応答の値を選択リストのオプションにマッピングするには、REST 応答のデータ構造を把握している必要があります。スクリプトで `data` という名前のプロパティを持つ動的選択肢の JSON オブジェクトを作成する必要があります。data プロパティの値は、選択リストのオプションのアレイである必要があります。選択リストの各オプションには、`label` と `name` のプロパティが文字列値に設定されている必要があります。label プロパティは、選択リスト内でオプションがどのように表示されるかを決定します。name プロパティは、オプションがシステム内でどのように格納され、参照されるかを決定します。

   たとえば、次に示す JSON オブジェクトでは、3 つの選択リストオプションを持つアレイを定義します。

```
{
    data: [
        {
            label: "Choice Option 1",
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
            name: "choice_option_1"

        },
        {
            label: "Choice Option 2",
            name: "choice_option_2"
        },
        {
            label: "Choice Option 3",
            name: "choice_option_3"
        }
    ]
}
```

> **注:** 動的選択入力では、最大 5,000 個の選択リストオプションしか表示できません。5,000 を超える選択リストオプションを返す JSON オブジェクトは、レンダリング時に切り捨てられます。

出力オブジェクトを設定する

動的選択肢の JSON オブジェクトを返すように出力オブジェクトを設定します。

d. [出力変数] から [変数の作成] を選択します。
この出力変数には、スクリプトが作成する選択リストのオプションが保存されます。

e. 出力変数タイプには、**[JSON]** を選択します。
スクリプト出力変数タイプは JSON である必要があります。

6. [アクションアウトライン] で、[出力] を選択します。

a. [出力の作成] を選択します。

b. 出力のラベルと名前に「`output`」を設定します。

c. 出力タイプを「**JSON**」に設定します。

> **注:** アクションには複数の出力を含めることができますが、含めることができる JSON タイプは 1 つのみです。

d. [編集モードを終了] を選択します。

e. [値] フィールドの横にあるデータピルピッカー ( ) を選択し、選択リストのオプションを格納するために作成した [スクリプトステップ] の出力変数を選択します。

7. [保存] を選択し、アクションをテストします。
出力のランタイム値は、`data` プロパティと選択リストオプションのアレイを持つ JSON オブジェクトである必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

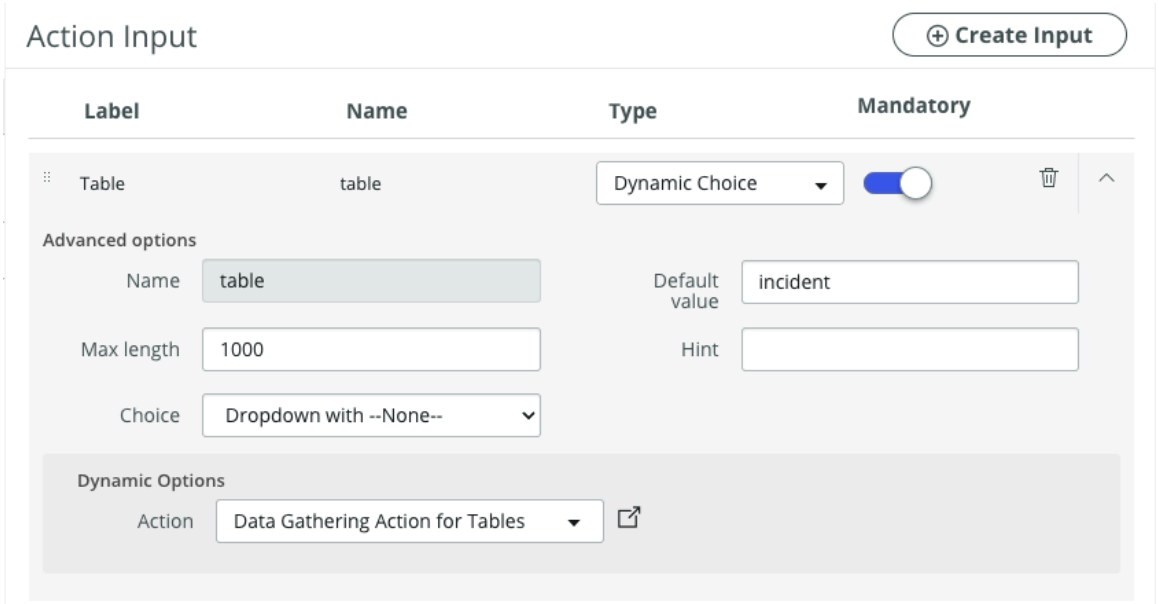
Example

Output Data

VARIABLE NAME	RUNTIME VALUE	CONFIGURATION	TYPE
Action Status	{"Action Status":{"code":0,"message":"Success"}}		Object
Don't Treat as Error	true	true	True/False
output	{"data":[{"name":"evaluation","label":"A/B Testing Evaluation"},{"name":"sla","label":"Agreement"},{...	tables	JSON

8. [公開] を選択し、同じアプリケーションスコープ内の他のフローやアクションでアクションを使用できるようにします。

タスクの結果
データ収集アクションを使用して、親アクションの動的選択肢入力に表示されるオプションを設定できるようになりました。



動的テンプレートのデータ収集アクションの作成

動的テンプレート入力のレコードフィールド値を収集するデータ収集アクションを作成します。

始める前に

- 必要なロール：action_designer または admin
- REST エンドポイントの認証情報と接続を作成する

> **注:** 動的入力はベースシステムでは使用できません。ワークフロースタジオで動的入力を使用するには 、統合ハブ プラグインを要求する 必要があります。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [新規作成] > [アクション] と選択します。
3. [アクション名] フィールドにアクションの名前を入力し、適切な [アプリケーション] スコープを選択して、[送信] を選択します。
4. オプション: [アクションアウトライン] から、[入力] を選択します。
   場合によっては、REST ステップにテーブル名または動的 URL パスを提供するための入力を作成する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example
たとえば、テーブル名を格納する文字列入力を作成するなどです。手順については、「フィールド名を取得するためのデータ収集アクションの作成」を参照してください。

5. [アクションアウトライン] の [入力] の下で、[新しいステップを追加] アイコン ( ) を選択し、**[REST]** ステップを選択します。

   a. [接続の詳細] から、接続エイリアスを選択するか、接続をインラインで定義します。
   接続エイリアスを選択すると、アクションを編集せずに接続の詳細を更新できます。

   Example
   たとえば、ローカルインスタンスへの接続エイリアスを選択するなどです。

   b. [要求の詳細] で、要求をビルドするメソッドを選択し、リソースパスを指定し、HTTP メソッドを選択して、任意のクエリパラメーターを指定します。
   データ収集アクションでは、通常、GET HTTP メソッドを使用して REST エンドポイントからデータを要求します。統合ハブ で REST ステップを使用する方法の詳細については、「REST ステップ」および「IntegrationHub の REST (REST in IntegrationHub) 」を参照してください。

6. [アクションアウトライン] の [REST ステップ] で、[新しいステップを追加] アイコン ( ) をクリックし、[スクリプト] ステップを選択します。

   a. [入力変数] から [変数の作成]を選択し、REST 応答の本文を格納する入力変数を作成します。

   b. 入力変数 [値] で、REST ステップの応答の本文の出力のデータピルを選択します。

   c. [スクリプト] に、入力変数から JSON 出力を作成するスクリプトを入力します。
   入力するスクリプトでは、次のタスクを実行する必要があります。

   入力変数を JSON として解析する

   JSON - グローバル API を使用して、入力変数を文字列から JSON オブジェクトに変換できます。

   動的テンプレート用にフォーマットされた新しい JSON オブジェクトを作成する

   応答の値をテンプレートの値にマッピングするには、REST 応答のデータ構造を把握している必要があります。スクリプトで `data` という名前のプロパティを持つ動的テンプレートの JSON オブジェクトを作成する必要があります。data プロパティの値は、テンプレート値のアレイである必要があります。各テンプレート値には、`label` プロパティ、`name` プロパティ、および空の `value` プロパティが必要です。label プロパティは、テンプレート値のオプションがアクション内でどのように表示されるかを決定します。name プロパティは、テンプレート値のオプションがシステム内でどのように格納され、参照されるかを決定します。アクションの設定時に値を動的に設定できるよう、value プロパティは空になっています。

   たとえば、この JSON オブジェクトは、インシデントテーブルのテンプレート値のアレイを定義します。

```
{
    "data": [
      {
        "name": "parent",
        "label": "Parent",
        "value": ""
      },
      {
        "name": "number",
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
        "label": "Number",
        "value": ""
      },
      {
        "name": "state",
        "label": "State",
        "value": ""
      },
      {
        "name": "active",
        "label": "Active",
        "value": ""
      },
      {
        "name": "priority",
        "label": "Priority",
        "value": ""
      },
      {
        "name": "caller_id",
        "label": "Caller id",
        "value": ""
      },
      {
        "name": "short_description",
        "label": "Short description",
        "value": ""
      },
      {
        "name": "description",
        "label": "Description",
        "value": ""
      },
      {
        "name": "sys_id",
        "label": "Sys id",
        "value": ""
      },
      {
        "name": "urgency",
        "label": "Urgency",
        "value": ""
      },
      {
        "name": "assigned_to",
        "label": "Assigned to",
        "value": ""
      },
      {
        "name": "severity",
        "label": "Severity",
        "value": ""
      },
      {
        "name": "category",
        "label": "Category",
        "value": ""
```


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
        }
      ]
}
```

注: 動的テンプレート入力では、最大 5,000 個のフィールドテンプレート値しか表示できません。5,000 を超えるフィールドテンプレート値を返す JSON オブジェクトは、レンダリング時に切り捨てられます。

出力オブジェクトを設定する

動的テンプレートの JSON オブジェクトを返すように出力オブジェクトを設定します。

d. [出力変数] から [変数の作成] を選択します。
この出力変数には、スクリプトが作成するテンプレート値が保存されます。

e. 出力変数タイプには、**[JSON]** を選択します。
スクリプト出力変数タイプは JSON である必要があります。

7. [アクションアウトライン] で、[出力] を選択します。

a. [出力の作成] を選択します。

b. 出力のラベルと名前に「`output`」を設定します。

c. 出力タイプを「**JSON**」に設定します。

注: アクションには複数の出力を含めることができますが、含めることができる JSON タイプは 1 つのみです。

d. [編集モードを終了] を選択します。

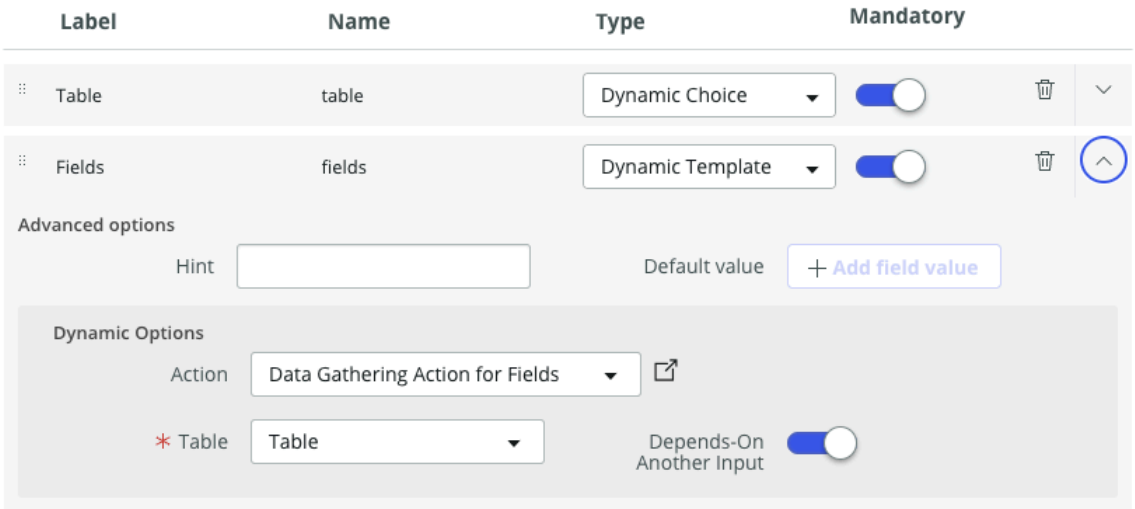
e. [値] フィールドの横にあるデータピルピッカー ( ) を選択し、テンプレート値を格納するために作成したスクリプトステップの出力変数を選択します。

8. [保存] をクリックし、アクションをテストします。
実行の詳細で、[出力] のランタイム値に `data` プロパティが適切な形式で含まれている場合、データ収集アクションは正常に実行されます。

9. [公開] をクリックし、同じアプリケーションスコープ内の他のフローやアクションでアクションを使用できるようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
データ収集アクションを使用して、親アクションの動的テンプ
レート入力に表示されるオプションを設定できるようになりまし



た。

動的入力タイプの入力のためのデータ収集アクションの作成

動的入力タイプの入力を使用して任意のアクション入力を作成するためのデータ収集アクションを作成します。

始める前に

必要なロール：admin

> **注:** 動的入力はベースシステムでは使用できません。ワークフロースタジオで動的入力を使用するには 、統合ハブ プラグインを要求する 必要があります。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [新規作成] > [アクション] と選択します。
3. [アクション名] フィールドにアクションの名前を入力し、適切な [アプリケーション] スコープを選択して、[送信] を選択します。
4. オプション: [アクションアウトライン] から、[入力] を選択します。
   場合によっては、動的入力にデータを提供するための入力を 1 つ以上作成する必要があります。

   Example
   たとえば、テーブル名を格納する文字列入力を作成するなどです。手順については、「動的入力を追加するためのデータ収集アクションの作成」を参照してください。
5. [アクションアウトライン] の [入力] セクションで、[新しいステップを追加] アイコン ( ) をクリックし、[スクリプト] ステップを選択します。

   a. オプション: [入力変数] から [変数の作成]を選択し、アクションの入力値を格納する入力変数を作成します。

      Example
      たとえば、テーブル名を格納する入力変数を作成し、一致するアクション入力にマッピングします。

   b. [スクリプト] に、入力変数から JSON 出力を作成するスクリプトを入力します。
      入力するスクリプトでは、次のタスクを実行する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション入力用にフォーマットされた新しい JSON オブジェクトを作成する

動的入力を作成するには、アクション入力のデータ構造を理解している必要があります。スクリプトで `data` という名前のプロパティを持つ JSON オブジェクトを作成する必要があります。data プロパティの値は、動的入力のアレイである必要があります。動的入力には、それぞれ独自の必須プロパティとオプションプロパティが必要です。

このスクリプト例では、data という名前の出力変数を設定します。利用可能な動的入力のタイプごとにプロパティがあります。

```
(function execute(inputs, outputs) {
  outputs.data = {
    data: [{
      label: 'Choice type input',
      name: 'choicetype',
      defaultValue: 'choice_1',
      type: "choice",
      choices: [
          { label: "Choice 1", value: "choice_1" },
          { label: "Choice 2", value: "choice_2" }
      ]
    }, {
      label: 'Datetime type input',
      name: 'datetimetype',
      type: 'datetime',
    }, {
      label: 'Decimal type input',
      name: 'decimaltype',
      type: 'decimal',
    }, {
      label: 'Email type input',
      name: 'emailtype',
      type: 'email',
    }, {
      label: 'HTML type input',
      name: 'htmltype',
      type: 'html',
    }, {
      label: 'Integer type input',
      name: 'integertype',
      type: 'integer',
    }, {
      label: 'Password2 type input',
      name: 'password2type',
      type: 'password2',
    }, {
      label: 'Reference type input',
      name: 'referencetype',
      reference: 'sys_user',
      type: 'reference',
    }, {
      label: 'String type input',
      name: 'stringtype',
      defaultValue: 'abcdef',
      type: 'string',
      mandatory: true
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    }]
  }
})(inputs, outputs);
```

注: メモリ不足になり、レンダリングエラーやデータの切り捨てなどの予期しない動作が発生する危険性があるため、動的入力タイプの入力では 40 個の入力値しかサポートできません。

出力オブジェクトを設定する

動的入力を JSON オブジェクトとして返すように出力オブジェクトを設定します。参照フィールドタイプのアクション入力の出力を作成する場合の例については、「動的入力を追加するためのデータ収集アクションの作成」を参照してください。

c. [出力変数] から [変数の作成] を選択します。
この出力変数には、スクリプトが作成する動的入力が保存されます。

d. 出力変数タイプには、**[JSON]** を選択します。
スクリプト出力変数タイプは JSON である必要があります。

6. [アクションアウトライン] で、[出力] を選択します。

a. [出力の作成] を選択します。

b. 出力のラベルと名前に「`output`」を設定します。

c. 出力タイプを「**JSON**」に設定します。

注: アクションには複数の出力を含めることができますが、含めることができる JSON タイプは 1 つのみです。

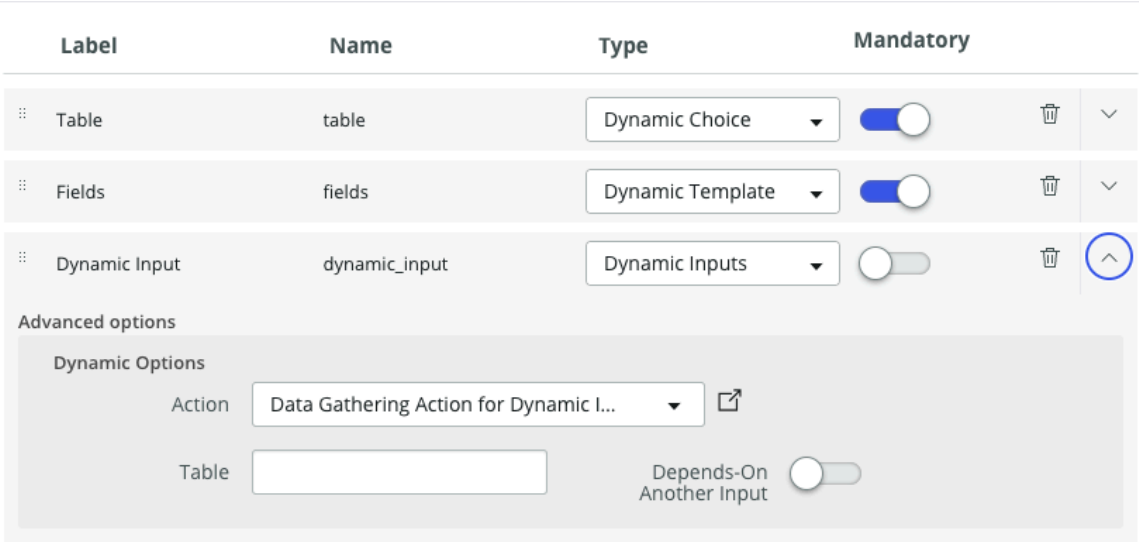
d. [編集モードを終了] を選択します。

e. [値] フィールドの横にあるデータピルピッカー ( ) を選択し、動的入力を格納するために作成したスクリプトステップの出力変数を選択します。

7. [保存] をクリックし、アクションをテストします。
実行の詳細で、[出力] のランタイム値に `data` プロパティが適切な形式で含まれている場合、データ収集アクションは正常に実行されます。
8. [公開] をクリックし、同じアプリケーションスコープ内の他のフローやアクションでアクションを使用できるようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
データ収集アクションを使用して、任意のアクション入力を親アクションに追加できるようになりまし



た。

動的入力構成オプション

ここで説明するオプションを使用して動的入力を構成します。

一般的な入力オプション

オプション	説明
ラベル	アクションがフローに追加されたときにアクション入力に表示されるラベルを入力します。
名前	システムレコードとスクリプトで入力を参照するために使用する名前を入力します。
タイプ	いずれかの動的データタイプを選択します。 • ダイナミック選択肢 • 動的入力 • 動的テンプレート

動的選択肢の詳細オプション

オプション	説明
名前	システムレコードとスクリプトで入力を参照するために使用する名前を入力します。
デフォルト値	選択リストのデフォルトとして使用する文字列値を入力します。
最大長	1 つの選択肢またはテンプレートフィールド値の最大文字数を入力します。
ヒント	選択リストに表示するヒントを入力します。
選択肢	次の選択リストのオプションのいずれかを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	• 「-- なし --」のあるドロップダウン • 「-- なし --」のないドロップダウン
アクション	選択リストの値を生成するデータ収集アクションを選択します。たとえば、レコードを選択リストのオプションに変換するアクションなどです。

動的入力の詳細オプション

オプション	説明
アクション	追加のアクション入力を生成するデータ収集アクションを選択します。たとえば、サービスカタログの変数を追加のアクション入力に変換するアクションなどです。

動的テンプレートの詳細オプション

オプション	説明
ヒント	フィールドを動的に表示するレコードに表示するヒントを入力します。
デフォルト値	アクションのデフォルトとして使用するフィールドとフィールド値を選択します。
アクション	レコードのテンプレート値を生成するデータ収集アクションを選択します。たとえば、サードパーティのレコードやサービスのフィールドを表示するアクションなどです。

動的出力

フロー設計時に、動的に生成されたデータピルとしてアクションとサブフローの出力にアクセスします。また、データ収集アクションをビルドして Now Platform と統合ハブの出力から複合オブジェクトを生成できます。

注: 動的出力はベースシステムでは使用できません。ワークフロースタジオ で動的入力を使用するには、統合ハブ プラグインを要求する 必要があります。動的出力は、ServiceNow フローデザイナー - Introspection [com.glide.hub.flow_designer_introspection] プラグインに含まれています。

フロー設計時に動的出力によって複合オブジェクトのスキーマ値が取得され、データピルとしてデータパネルに表示されます。

動的出力は、表示されたデータを収集するデータ収集アクションをポイントする必要があります。たとえば、データ収集アクションでは、統合ハブスポーク の一部としてサードパーティシステムから値を取得できます。フローデザイナー で動的出力を使用するには、以下の手順を実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. アクションデザイナーはデータ収集アクションを作成します。
2. アクションデザイナーは、子データ収集アクションをポイントする動的出力を使用して親アクションを作成します。
3. フローデザイナーは親アクションをフローに追加します。

データ収集アクション

データ収集アクションは、他のアクションで使用されるデータを収集します。データ収集アクションは、フローに直接追加するというよりは、動的入力から呼び出されることを意図しています。データ収集アクションは通常、REST コールを使用してサードパーティシステムからデータを収集します。すべてのデータ収集アクションは、これらの要件と制約を満たす必要があります。

- JSON タイプの出力変数を含むスクリプトステップがある。
- スクリプトステップの JSON 出力変数から派生する値を持つ JSON タイプの *output* という名前のアクション出力がある。

  注: アクションには複数の出力を含めることができますが、含めることが可能なタイプは JSON のみです。

- スクリプトステップで JSON 出力をフォーマットして、`data` という名前のプロパティが含まれるようにする。
- データが動的選択または動的テンプレート入力を目的としている場合、JSON 出力は 5,000 を超える選択オプション、フィールドテンプレート値、またはアレイ要素項目を返してはなりません。

  注: 動的選択および動的テンプレート入力では、JSON 出力から最大 5,000 個の選択オプションまたは 5,000 個のテンプレート値のみを表示できます。

- データを収集してタイムアウトになるまで最大 300 秒 (5 分) 待機する。

  注: すべてのアクションのタイムアウト期間を変更するには、*sn_flow_designer.sync_action_execution_timeout_in_seconds* システムプロパティの値を変更します。

動的オブジェクト

動的オブジェクトは、複合オブジェクトまたは複合オブジェクトのアレイのいずれかです。アクションデザイナーは、ハードコーディングするのではなく、データ収集アクションを使用してオブジェクト構造を動的にビルドします。動的オブジェクトをビルドする方法の詳細については、「動的オブジェクトのデータ収集アクションの作成」を参照してください。

一般的なガイドライン

サードパーティ統合の動的出力を使用する

動的出力を使用して、フロー設計時に外部システムのデータをイントロスペクトしてフェッチします。たとえば、特定のエンドポイント API とやり取りするサービスエンドポイントまたは呼び出しアクションを指定できます。フローデザイナー を使用したサードパーティ統合の設定の詳細については、「統合ハブ」を参照してください。

大量のデータの取得に要する時間に注意する

デフォルトでは、システムで停止されるまでの動的出力によるデータ収集時間は最大 300 秒です。データ収集アクションでデータ収集にそれ以上の時間がかかる場合は、*sn_flow_designer.sync_action_execution_timeout_in_seconds* のシステムのプロパティをより高い値に設定します。エンドユーザーが値を入力または選択

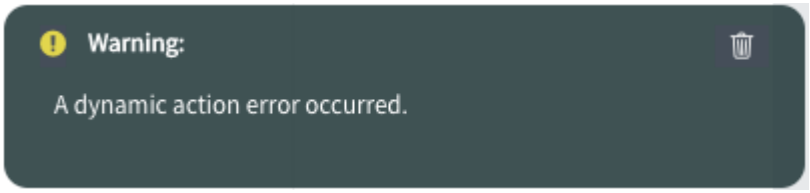
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

することが想定されるインタラクティブフローに長いタイムアウト値は避けてください。

スクリプトエラーに注意する

すべてのデータ収集アクションはスクリプトステップを使用するため、スクリプティングによってエラーが発生する可能性があります。スクリプトエラーにより、出力で必要な JSON 値を受信できない場合があるため、JSON 変数を出力するために使用されるスクリプトを確認します。動的出力スクリプティングエラーが発生すると、次の警告メッセージが表示されることがあります。

スクリプティングエラーに対して表示されるメッセージ



動的出力を開始するには

フローで使用するための動的出力をビルドするサンプルアクションを作成します。

始める前に

必要なロール：action_designer または admin

手順

1. 動的出力の接続および認証情報レコードの作成
   この接続および資格情報エイリアスから、データ収集アクションの REST ステップを構成するために必要なベース URL とユーザーアカウントが提供されます。
2. レコードスキーマを取得するためのデータ収集アクションの作成
   このデータ収集アクションは、単一のレコードをレコード動的出力の JSON オブジェクトに変換します。
3. レコードスキーマのアレイを取得するためのデータ収集アクションの作成
   このデータ収集アクションは、レコードリストをレコード動的出力用のオブジェクトの JSON アレイに変換します。
4. 動的出力をテストするカスタムアクションの作成
   このカスタムアクションは、2 つのタイプの動的出力データを示します。1 つの動的出力は、単一のレコードの 1 つのオブジェクトを生成します。別の動的出力は、レコードリストのオブジェクトのアレイを生成します。

動的出力の接続および認証情報レコードの作成

REST ステップがローカルインスタンスへの接続に使用するエイリアス、接続、および認証情報を作成します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] を選択し、[基本認証情報] を選択して、次のフィールド値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [名前]に「`Local Admin`」と入力します。

b. [ユーザー名]に、フローデザイナーおよび REST API へのアクセス権を持つユーザーアカウントを入力します。

Example
たとえば、「`admin`」と入力します。

c. [パスワード]に、アカウントのパスワードを入力します。

3. [送信] を選択して認証情報レコードを作成します。
4. [すべて] > [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
5. [新規] を選択し、次のフィールドに値を入力します。
   a. [名前]に「Local Instance」と入力します。
   b. [接続タイプ] では HTTP のデフォルト値をそのまま使用します。
   c. [送信] を選択して、[接続および資格情報エイリアス] レコードを作成します。
6. 作成したエイリアスを選択します。

Example
たとえば、**[Local Instance]**を選択します。

7. [接続] 関連リストから、[新規] を選択して次のフィールド値を入力します。

a. [名前]に「`My Instance`」と入力します。

b. [認証情報] で、先ほど作成したベーシック認証情報レコードを選択します。

Example
たとえば、**[Local Admin]** 認証情報を選択します。

c. [接続 URL] には、インスタンスのベース URL を、末尾に前方スラッシュをつけて入力します。URL の先頭にはプリフィックスの「https://」、末尾にはスラッシュ文字を追加します。

Example
たとえば、`https://example.service-now.com/` となります。

d. [送信] を選択して、[HTTP(S) 接続] レコードを作成します。

レコードスキーマを取得するためのデータ収集アクションの作成

テーブルスキーマを検索して JSON オブジェクトに変換するためのデータ収集アクションを作成します。

始める前に
必要なロール：action_designer または admin

このタスクについて
このタスクでは、インスタンスのレコードのスキーマを収集するデータ収集アクションを作成します。目標は、動的出力として使用する複雑なオブジェクトを作成することです。このデータ収集アクションは、以下で構成されています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 選択したテーブルのテーブルスキーマデータを収集する REST ステップ。REST ステップの応答本文は JSON 形式です。
- REST ステップの JSON 応答本文を動的オブジェクトに変換するスクリプトステップ。動的オブジェクトは JSON の名前と値のペアで構成され、テーブルの各フィールドにエントリがあります。
- 動的出力を保存するための、タイプが JSON の `output` という名前の出力変数。

注: このタスクでは、インスタンスの 統合ハブ プラグインを要求する ときにインストールされるデモアクションを再作成します。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、 [アクション] を選択します。
3. [新規] を選択し、[新しいアクション] を選択します。
   a. アクションのプロパティ画面の [名前] フィールドに、「`ServiceNow オブジェクトスキーマを取得（動的）`」と入力します。
   b. [送信] を選択します。
4. [アクションアウトライン] で、[入力] を選択します。
   a. [アクションの入力] ヘッダーで、[入力の作成] をクリックします。
   b. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「`Table`」と入力します。
   c. [タイプ] フィールドで、[文字列] を選択します。
   d. 入力を必須にするには、[必須 **(Mandatory)**] スライダーを切り替えてアクティブにします。
5. [アクションアウトライン] で、[入力] の下にある [新しいステップを追加] アイコン ( ) を選択し、**[REST** ステップ] を選択します。
6. [REST ステップ] ヘッダーの下で、次のフィールドに入力します。

フィールド	値
接続	[接続エイリアスを使用] オプションを選択したままにします。
接続エイリアス	新規レコードを作成アイコン ( ) を選択して新しい HTTP(s) 接続 を作成するか、インスタンスの既存の接続を使用します。HTTP(s) 接続の認証情報では、ベーシック認証情報 を使用する必要があります。また、[接続 **URL]** は末尾に前方スラッシュが含まれるインスタンスのベース URL である必要があります。接続および認証情報の詳細については、「接続の開始 」および「認証情報の開始 」を参照してください。
ビルド要求	[手動] オプションを選択したままにします。
リソースパス	「`api/now/processflow/table/`」と入力し、データピルピッカー ( ) を選択します。[入力] > [テーブル] を選択します。次に、「`/schema`」と入力します。
HTTP メソッド	「`GET`」と入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	値
クエリパラメーター	プラスアイコン ( ) を選択し、新しいクエリパラメーターを追加します。次に、[名前] フィールドに「`get_choices`」と入力し、[値] フィールドに「`true`」と入力します。

7. [アクションアウトライン] で、REST ステップの下にある新しいステップの追加アイコン ( ) を選択し、[スクリプト] ステップを選択します。

   a. [入力変数] セクションで [変数の作成] を選択します。

   b. [名前] フィールドに「`payload`」と入力します。

   c. [値] フィールドの横にあるデータピルピッカー ( ) を選択し、**[REST ステップ]** > [応答本文] を選択します。

   d. [スクリプト] フィールドに次のコードを入力します。

```
(function execute(inputs, outputs) {
  var payload = JSON.parse(inputs.payload);

  var columns = payload.result.data.columns;
  var schema = columns.map(function(column) {
    var value = {
      label: column.label,
      name: column.name,
      type: getCOType(column.definition.base_type),
    };
    if (column.definition.type === 'choice') {
      value.type = 'choice';
      value.choices = column.definition.choices;
    }
    if (column.definition.base_type === 'GUID') {
      value.children = [
        { label: 'Link', name: 'link', type: 'string' },
        { label: 'Value', name: 'value', type: 'string' },
      ];
    }
    return value;
  });
  outputs.schema = {
    data: {
      type: 'object',
      children: schema,
    },
  };

  function getCOType(type) {
    if (type === 'GUID') return 'reference';
    return type;
  }
})(inputs, outputs);
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

e. [出力変数] セクションで [変数の作成] を選択します。

f. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「スキーマ」と入力します。

g. [タイプ] フィールドで、[JSON] を選択します。

8. [アクションアウトライン] で、[出力] を選択します。
   a. [アクションの出力] ヘッダーで、[出力の作成] を選択します。
   b. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「output」と入力します。
   c. [タイプ] フィールドで、[JSON] を選択します。
   d. [アクションの出力] ヘッダーで、[編集モードを終了] を選択します。
   e. [値] フィールドの横にあるデータピルピッカー ( ) を選択し、[スクリプトステップ] > [スキーマ] を選択します。
9. アクションヘッダーで [保存] を選択し、[テスト] を選択して、アクションをテストします。
   a. テストアクション画面の [テーブル] フィールドに「インシデント」と入力します。
   b. [テストを実行] をクリックします。
   c. アクション実行の詳細を確認します。
   [フィールド] のランタイム値が次の簡略化された例に示すような形式の複合オブジェクトである場合、データ収集アクションは正常に実行されます。

```
{
       "data": {
           "type": "object",
           "children": [
               {
                   "name": "active",
                   "label": "Active",
                   "type": "boolean"
               },
               {
                   "name": "activity_due",
                   "label": "Activity due",
                   "type": "datetime"
               }, ...
```

10. アクションヘッダーで [公開] を選択し、グローバルスコープ内の他のフローやアクションで *Get ServiceNow Object Schema (Dynamic)* アクションを使用できるようにします。

レコードスキーマのアレイを取得するためのデータ収集アクションの作成

レコードリストからオブジェクトのアレイを生成するためのデータ収集アクションを作成します。

始める前に

必要なロール：action_designer または admin

このタスクについて

このタスクでは、インスタンスのレコードのスキーマを収集するデータ収集アクションを作成します。目標は、動的出力として使用する複雑なオブジェクトを作成することです。このデータ収集アクションは、以下で構成されています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 選択したテーブルのテーブルスキーマデータを収集する REST ステップ。REST ステップの応答本文は JSON 形式です。
- REST ステップの JSON 応答本文を動的オブジェクトに変換するスクリプトステップ。動的オブジェクトは、オブジェクトの JSON アレイで構成され、各ソースレコードはアレイの 1 つのオブジェクトに変換されます。
- 動的出力を保存するための、タイプが JSON の `output` という名前の出力変数。

注: このタスクでは、インスタンスの 統合ハブ プラグインを要求する ときにインストールされるデモアクションを再作成します。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、 [アクション] を選択します。
3. [新規] を選択し、[新しいアクション] を選択します。
   a. アクションのプロパティ画面の [名前] フィールドに、「`ServiceNow Array.Object スキーマを取得（動的）`」と入力します。
   b. [送信] を選択します。
4. [アクションアウトライン] で、[入力] を選択します。
   a. [アクションの入力] ヘッダーで、[入力の作成] をクリックします。
   b. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「`Table`」と入力します。
   c. [タイプ] フィールドで、[文字列] を選択します。
   d. 入力を必須にするには、[必須 **(Mandatory)**] スライダーを切り替えてアクティブにします。
5. [アクションアウトライン] で、[入力] の下にある新しいステップを追加アイコン ( ) を選択し、**[REST]** ステップを選択します。
6. [REST ステップ] ヘッダーの下で、次のフィールドに入力します。

フィールド	値
接続	[接続エイリアスを使用] を選択したままにします。
接続エイリアス	新規レコードを作成アイコン ( ) を選択して新しい HTTP(s) 接続 を作成するか、インスタンスの既存の接続を使用します。HTTP(s) 接続の認証情報では、ベーシック認証情報 を使用する必要があります。また、[接続 **URL**] は末尾に前方スラッシュが含まれるインスタンスのベース URL である必要があります。
ビルド要求	[手動] オプションを選択したままにします。
リソースパス	「`api/now/processflow/table/`」と入力し、データピルピッカー ( ) を選択します。[入力] > [テーブル] を選択します。最後に、「`/schema`」と入力します。
HTTP メソッド	「`GET`」と入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	値
クエリパラメーター	プラスアイコン (⊕) を選択し、新しいクエリパラメーターを追加します。次に、[名前] フィールドに「`get_choices`」と入力し、[値] フィールドに「`true`」と入力します。

7. [アクションアウトライン] で、REST ステップの下にある [新しいステップの追加] アイコン (⊕) を選択し、[スクリプト] ステップを選択します。

   a. [入力変数] セクションで [変数の作成] を選択します。

   b. [名前] フィールドに「`payload`」と入力します。

   c. [値] フィールドの横にあるデータピルピッカー (⊕) を選択し、**[REST ステップ]** > [応答本文] を選択します。

   d. [スクリプト] フィールドに次のコードを入力します。

```
(function execute(inputs, outputs) {
  var payload = JSON.parse(inputs.payload);

  var columns = payload.result.data.columns;
  var schema = columns.map(function(column) {
    var value = {
      label: column.label,
      name: column.name,
      type: getCOType(column.definition.base_type),
    };
    if (column.definition.type === 'choice') {
      value.type = 'choice';
      value.choices = column.definition.choices;
    }
    return value;
  });
  outputs.schema = {
    data: {
      type: 'array.object',
      attributes: {
        child_type: 'object',
      },
      children: schema,
    },
  };

  function getCOType(type) {
    if (type === 'GUID') return 'string';
    return type;
  }
})(inputs, outputs);
```

   e. [出力変数] セクションで [変数の作成] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

f. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「スキーマ」と入力します。

g. [タイプ] フィールドで、[JSON] を選択します。

8. [アクションアウトライン] で、[出力] を選択します。
   a. [アクションの出力] ヘッダーで、[出力の作成] をクリックします。
   b. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「出力」と入力します。
   c. [タイプ] フィールドで [JSON] を選択します。
   d. [編集モードを終了] を選択します。
   e. [値] フィールドの横にあるデータピルピッカー ( ) を選択し、[スクリプトステップ] > [スキーマ] を選択します。
9. アクションヘッダーで [保存] を選択し、[テスト] を選択して、アクションをテストします。
   a. テストアクション画面の [テーブル] フィールドに「incident」と入力します。
   b. [テストを実行] を選択します。
   c. アクション実行の詳細を確認します。
   次の簡略化された例に示すように、[フィールド] 出力のランタイム値が [ラベル]、[名前]、および [値] に対するキーと値のペアのアレイを含む複合オブジェクトである場合、データ収集アクションは正常に実行されます。

```
{
       "data": {
           "type": "array.object",
           "children": [
               {
                   "name": "active",
                   "label": "Active",
                   "type": "boolean"
               },
               {
                   "name": "activity_due",
                   "label": "Activity due",
                   "type": "datetime"
               }, ...
```

10. アクションヘッダーで [公開] を選択し、グローバルスコープ内の他のアクションで *Get ServiceNow Array.Object Schema (Dynamic)* アクションを使用できるようにします。

動的出力をテストするカスタムアクションの作成

[テーブル] 入力の値が変更されると動的に更新される [レコード (Record)] と [レコード (Records)] の 2 つのアクション出力を動的に生成するサンプルアクションを作成します。

始める前に

必要なロール：action_designer または admin

このタスクについて

このカスタムアクションは、2 つのデータ収集アクションを使用して動的出力を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. メインヘッダーで、フロー、サブフロー、またはアクションの作成アイコン ( ) をクリックし、[アクション] を選択します。
   a. アクションのプロパティモーダルの [名前] フィールドに、「`ServiceNow レコードを取得（動的)`」と入力します。
   b. [送信] を選択します。
2. [アクションアウトライン] で、[入力] を選択します。
   a. [アクションの入力] ヘッダーで、[入力の作成] をクリックします。
   b. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「`Table`」と入力します。
   c. [タイプ] フィールドで、[動的選択肢] を選択します。
   d. 入力を必須にするには、[必須] スライダーを切り替えてアクティブにします。
   e. [詳細入力を切り替え] アイコン ( ) を選択して、[テーブル] 入力の詳細オプションを表示します。
   f. [デフォルト値] フィールドに、「`インシデント`」と入力します。
   g. [動的オプション] の [アクション] フィールドで、**[ServiceNow** テーブルを取得 **- 動的]** を選択します。
   h. [入力の作成] を選択して、別のアクション入力を作成します。
   i. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「`NumberOfRecords`」と入力します。
   j. [タイプ] フィールドで、[整数] を選択します。
   k. 入力を必須にするには、[必須] スライダーを切り替えてアクティブにします。
   l. [詳細入力を切り替え] アイコン ( ) を選択して、[テーブル] 入力の詳細オプションを表示します。
   m. [デフォルト値] フィールドに、「`3`」と入力します。
3. [アクションアウトライン] で、[入力] の下にある新しいステップを追加アイコン ( ) を選択し、**[REST]** ステップを選択します。
4. [REST ステップ] ヘッダーの下で、次のフィールドに入力します。

フィールド	値
接続	[接続エイリアスを使用] を選択したままにします。
接続エイリアス	新規レコードを作成アイコン ( ) を選択して新しい HTTP(s) 接続を作成 するか、インスタンスの既存の接続を使用します。HTTP(s) 接続の認証情報では、ベーシック認証情報 を使用する必要があります。また、[接続 **URL]** は末尾に前方スラッシュが含まれるインスタンスのベース URL である必要があります。
ビルド要求	[手動] オプションを選択したままにします。
リソースパス	「`api/now/table/`」と入力し、データピルピッカー ( ) を選択します。[入力] > [テーブル] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	値
HTTP メソッド	「GET」と入力します。
クエリパラメーター	プラスアイコン ( ) を選択し、新しいクエリパラメーターを追加します。次に、[名前] フィールドに「sysparm_limit」と入力します。[値] フィールドの横にあるデータピルピッカー ( ) を選択し、[入力] > **[NumberOfRecords]** を選択します。

5. [アクションアウトライン] で、[入力] の下にある新しいステップを追加アイコン ( ) を選択し、[スクリプト] ステップを選択します。

   a. [入力変数] セクションで [変数の作成] を選択します。

   b. [名前] フィールドに「payload」と入力します。

   c. [値] フィールドの横にあるデータピルピッカー ( ) を選択し、**[REST** ステップ] > [応答本文] を選択します。

   d. [スクリプト] フィールドに次のコードを入力します。

```
(function execute(inputs, outputs) {
  var response = JSON.parse(inputs.payload);
  var records = response.result;
  outputs.record = records[0];
  outputs.records = JSON.stringify(records);
})(inputs, outputs);
```

   e. [出力変数] セクションで [変数の作成] を選択します。

   f. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「record」と入力します。

   g. [タイプ] フィールドで **[JSON]** を選択します。

   h. [必須] スライダーを切り替えてアクティブにします。

   i. [変数の作成] をクリックして、スクリプトステップの別の出力変数を作成します。

   j. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「レコード」と入力します。

   k. [タイプ] フィールドで、[JSON] を選択します。

   l. 入力を必須にするには、[必須] スライダーを切り替えてアクティブにします。

6. [アクションアウトライン] で、[出力] を選択します。
   a. [アクションの出力] ヘッダーで、[出力の作成] を選択します。
   b. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「レコード」と入力します。
   c. [タイプ] フィールドで、[動的オブジェクト **(Dynamic Object)]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. 詳細入力を切り替えアイコン ( ) をクリックして、[レコード] 出力の詳細オプションを表示します。

e. [動的オプション] で、**[ServiceNow Array.Object** スキーマを取得 (動的)] を [アクション] として選択します。

f. テーブル入力を別の入力に依存させるには、[別の入力に依存 **(Depends-On Another Input)]** スライダーを切り替えてアクティブにします。

g. [テーブル] フィールドで、[テーブル] を選択します。

h. [アクションの出力] ヘッダーで、[編集モードを終了] を選択します。

i. [値] フィールドの横にあるデータピルピッカー ( ) を選択し、[スクリプトステップ] > [レコード] を選択します。

j. [アクションの出力] ヘッダーで、[出力を編集] > [出力の作成] を選択して別のアクション出力を作成します。

k. [ラベル] フィールドと [名前] フィールドに「`record`」と入力します。

l. [タイプ] フィールドで、[動的オブジェクト `(Dynamic Object)`] を選択します。

m. 詳細入力を切り替えアイコン ( ) をクリックして、[レコード] 出力の詳細オプションを表示します。

n. [動的オプション] の [アクション] フィールドで、**[ServiceNow** オブジェクトスキーマを取得 (動的)] を選択します。

o. テーブル入力を別の入力に依存させるには、[別の入力に依存 **(Depends-On Another Input)]** スライダーを切り替えてアクティブにします。

p. [テーブル] フィールドで、[テーブル] を選択します。

q. [アクションの出力] ヘッダーで、[編集モードを終了] を選択します。

r. [値] に対して、データピルピッカー ( ) を選択し、[スクリプトステップ] > [レコード] を選択します。

7. [アクション] ヘッダーで [保存] を選択し、[テスト] を選択して、アクションをテストします。

   a. テストアクション画面の [テーブル] 入力で、動的に生成された任意の選択値を選択します。

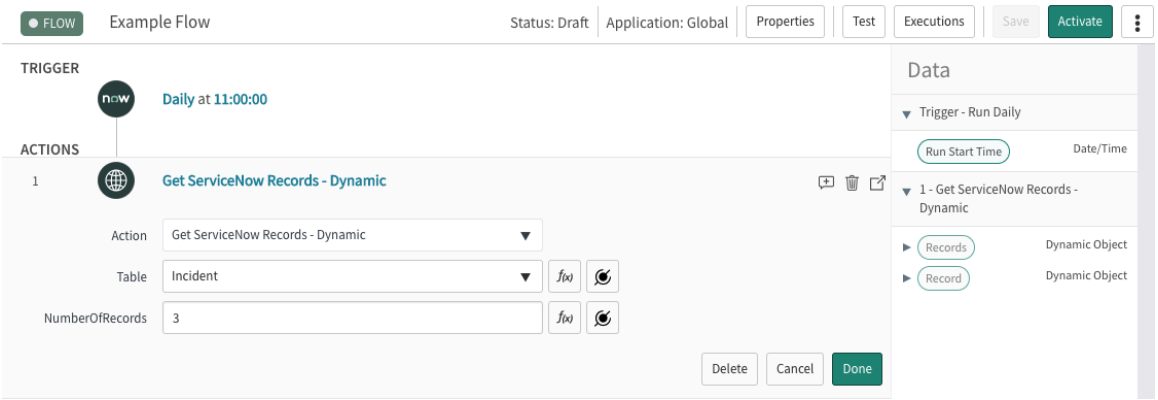
   b. [テストを実行] を選択します。

   c. アクション実行の詳細を確認します。
   [レコード `(Record)`] のランタイム値が適切にフォーマットされた複合オブジェクトであり、[レコード `(Records)`] のランタイム値が適切にフォーマットされた複合オブジェクトアレイである場合、アクションは正常に実行されます。

8. [アクション] ヘッダーで [公開] を選択し、グローバルスコープ内のフローで *`Get ServiceNow Records (Dynamic)`* アクションを使用できるようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果



Get ServiceNow Records (Dynamic) アクションをフローに追加できるようになりました。このサンプルアクションは、[レコード (Record)] と [レコード (Records)] の 2 つのアクション出力を動的に生成します。これらの出力は、データパネルでデータピルとしてアクセスできます。[テーブル] 入力の値が変更されると、データピルが動的に更新されます。

動的オブジェクトのデータ収集アクションの作成

出力値を収集するアクションを作成します。次に、値を動的オブジェクトとして親アクションに渡します。

始める前に

必要なロール：action_designer または admin

> **注:** 動的出力はベースシステムでは使用できません。ワークフロースタジオ で動的入力を使用するには、統合ハブ プラグインを要求する 必要があります。

このタスクについて

これらのステップにより、動的出力の汎用データ収集アクションを作成できます。動的出力のデータ収集アクションの実例については、「動的出力を開始するには」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、 [アクション] を選択します。
3. [新規] > [新しいアクション **(New Action)]**を選択します。
4. [名前] フィールドにアクションの名前を入力し、適切な [アプリケーション] スコープを選択して、[送信] を選択します。
5. [アクションアウトライン] で、[入力] の下にある新しいステップを追加アイコン ( ) を選択し、**[REST]** ステップを選択します。
   HTTP メソッドの GET に適用可能な任意のクエリパラメーターを使用して、適切なベース URL とリソースパスからデータを取得する REST ステップを設定します。統合ハブ で REST ステップを使用する方法の詳細については、「REST ステップ」および「統合ハブの REST 」を参照してください。
6. [アクションアウトライン] で、REST ステップの下にある新しいステップの追加アイコン ( ) を選択し、[スクリプト] ステップを選択します。
   このスクリプトステップでは、REST ステップの応答本文を親アクションに対する動的オブジェクト出力のスキーマを定義する形式に変換する必要があります。スクリプトステップは次の条件を満たしている必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- JSON 出力変数を 1 つ含めること。スクリプトステップには他の出力変数を含めることができるが、含めることができる JSON タイプは 1 つのみである。
- `data` という名前のプロパティが含まれるように JSON 出力変数を書式設定すること。複合オブジェクト出力の場合、`data` プロパティは次の例のような形式である必要がある。

```
{
       data: {
           type: "object",
           //Required

           children: [
           //Required - This is a collection of field definitions

               {
                   name: "Name 1",
                   //Required - Unique name

                   label: "Label 1",
                   //Required - Display name

                   type: "string"
                   //Required - Supported field type (See the Note
 below)

               },

               {
                   name: "Name 2",
                   label: "Label 2",
                   type: "string"
               }
           ]
       }
   }
```

複合オブジェクトアレイ出力の場合、`data` プロパティは次の例のような形式である必要がある。

```
{
       data: {
           type: "object",
           //Required

           attributes: { child_type: "object" }
           //Required - Indicates that the array's children are of
 type object

           children: [
           //Required - This is a collection of field definitions

               {
                   name: "Name 1",
                   //Required - Unique name

                   label: "Label 1",
                   //Required - Display name
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
                    type: "string"
                    //Required - Supported field type (See the Note
below)
                },

                {
                    name: "Name 2",
                    label: "Label 2",
                    type: "string"
                }
            ]
        }
    }
```

注: `type` プロパティでサポートされているアクションデータタイプは次のとおりです。

- 文字列
- 整数
- 日付と時刻
- 選択
- ブール
- オブジェクト
- `array.string`
- `array.integer`
- `array.datetime`
- `array.choice`
- `array.boolean`
- `array.object`

7. [アクションアウトライン] で、[出力] を選択します。

   a. タイプが [動的出力] の出力を作成します。

      注: データタイプのオプションとして [動的出力] が表示されない場合は、 統合ハブ サブスクリプションがありません。

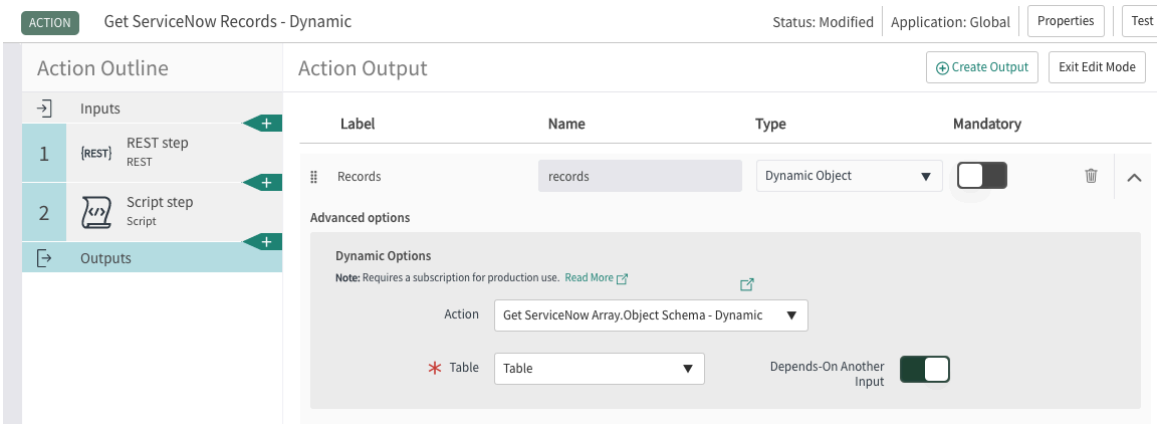
   b. [動的オプション] の [アクション] オプションでデータ収集アクションを選択します。
   動的出力データ収集アクションの例については、「動的出力を開始するには」を参照してください。

   c. オプション: 必要に応じて、[他の入力に応じて **(Depends On Another input)]** オプションを設定し、入力を選択します。

   動的オブジェクトタイプの出力を作成します。

8. [保存] を選択し、アクションをテストします。
   実行の詳細で、[出力] のランタイム値に `data` プロパティが適切な形式で含まれている場合、データ収集アクションは正常に実行されます。
9. [公開] を選択し、同じアプリケーションスコープ内の他のフローやアクションでアクションを使用できるようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



データ収集アクションを使用して、親アクションの動的オブジェクトに対するスキーマ値を設定できるようになりました。

動的出力構成オプション

これらのオプションを使用して、親アクションの動的出力を構成します。

動的出力構成

動的出力オプション

オプション	説明
ラベル	アクションの出力データピル内に表示されるラベルを入力します。
名前	動的オブジェクトのわかりやすい名前を入力します。
アクション	JSON 出力として値を生成するデータ収集アクションを選択します。
別の入力に依存 (Depends-on Another Input)	このオプションを有効にして、親アクションからの入力値がデータ収集アクションに入力として渡されるようにする必要があります。有効になっている場合は、親アクションから依存入力を選択します。

アクションエラー評価

アクションを有効化してステップの失敗を検出し、実行を継続します。特定のエラー状態が発生するタイミングを特定して、独自のアクションステータスコード、ステータスメッセージ、エラー状態を返します。

メリット

アクションエラー評価を有効にすると、次のメリットが得られます。

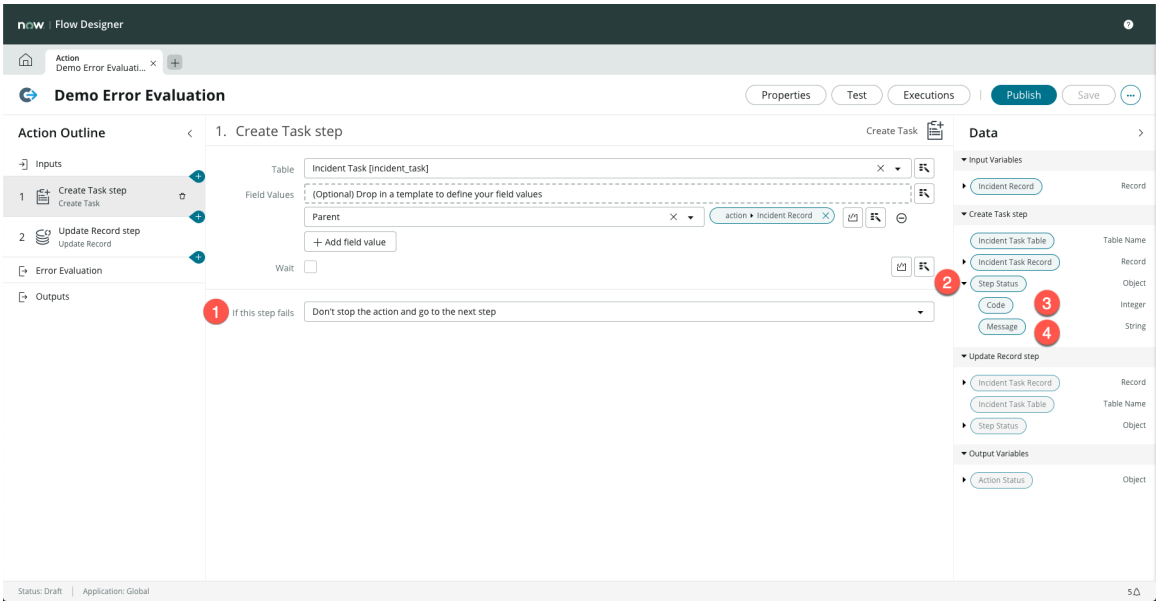
- ステップの失敗をキャッチしてアクションの実行を継続できます。アクションに追加する各ステップの失敗動作を指定します。
- 独自のエラー条件を作成します。アクションがエラーステータスを返すタイミングと、返されるステータスコードとメッセージを指定します。
- フローデザイナーにより多くのエラー処理情報とオプションを提供します。独自のアクションステータスコードとメッセージを使用して問題を特定し、是正処置の詳細を提供します。

アクションエラー評価ステップコンポーネント

各ステップには、これらのエラー評価コンポーネントが用意されています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エラー評価ステップコンポーネント



1. [このステップが失敗した場合] オプション

   次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。このオプションはステップステータスに影響しません。

2. ステップステータス

   ステップに関するランタイムの詳細を含むオブジェクトデータピル。アクションの各ステップはステップステータスを返します。

3. [ステップステータス] > [コード]

   ステップでエラーが発生したかどうかを示す整数データピルです。何らかの理由でエラーが生成された場合、ステップは値 1 を返します。たとえば、必須の入力データが欠落しているか、間違ったデータタイプで出力を返す場合、ステップはエラーを生成する可能性があります。ステップは、正常に実行されると値 0 を返します。これらのコードはカスタマイズできません。

4. [ステップステータス] > [メッセージ]

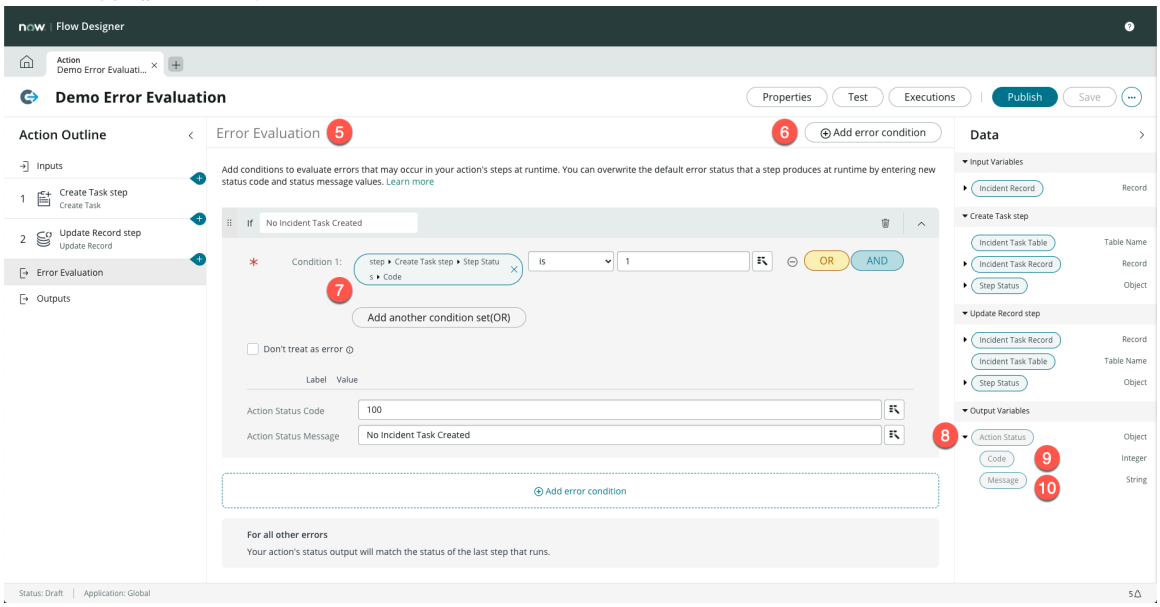
   ステップまたはシステム操作によって生成されたエラーメッセージを含む文字列データピル。このステップステータスメッセージはカスタマイズできません。

アクションエラー評価構成コンポーネント

アクションエラー評価はこれらの構成コンポーネントで構成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エラー評価構成コンポーネント



5. [エラーの評価 (Error Evaluation)] セクション

   考えられるエラー条件が含まれるセクション。 アクションが実行されると、すべての利用可能なエラー条件が評価されて、一致する可能性があるものが検索されます。アクションは、最初に一致したエラー条件で指定されたアクションステータスを返します。一致するエラー条件がない場合、アクションステータスは最後に実行されたステップのステップステータスに設定されます。

   注: データストリームアクションに [エラーの評価 (Error Evaluation)] セクションはありません。

6. [エラー条件を追加 (Add error condition)] オプション

   エラー条件を追加するオプション。各エラー条件は else if フローロジックブロックと同等です。true にできるエラー条件は一度に 1 つのみです。

7. エラー条件の構成

   エラー条件を設定するために使用できるオプションは次のとおりです。

   - このエラー条件を識別するために使用するラベル
   - このエラー条件と一致するために満たす必要がある条件
   - アクションをフローに戻すエラーステータス
   - アクションをフローに戻すアクションステータスコード
   - アクションをフローに戻すアクションステータスメッセージ

8. アクションステータス

   アクションに関するランタイムの詳細を含むオブジェクトデータピル。アクションは常にアクションステータスを返します。

9. [アクションステータス] > [コード]

   最初に一致したエラー条件または最後のステップ実行によって返されたコードを含む整数データピル。カスタムエラー条件を作成するときに、独自のコードを返すことができます。

10. [アクションステータス] > [メッセージ]

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

一致したエラー条件または最後のステップ実行によって生成されたメッセージを含む文字列データピル。カスタムエラー条件を作成するときに、独自のメッセージを返すことができます。

フローとアクションのエラー処理に関するリソース

アクションとフローでエラー処理を使用する方法の詳細については、ServiceNow® Community の投稿「Flow and Action Error Handling Overview: Why and how to test for errors - Workflow Automation CoE (フローとアクションのエラー処理について：エラーをテストする理由と方法 - ワークフローオートメーション CoE)」を参照してください。

- 「Flow and Action Error Handling Level 1: Retry and Action Error Evaluation - Workflow Automation CoE (フローとアクションのエラー処理レベル 1：再試行とアクションのエラー評価 - ワークフローオートメーション CoE)」
- 「Flow and Action Error Handling Level 2: Flow Logic - Workflow Automation CoE (フローとアクションのエラー処理レベル 2：フローロジック - ワークフローオートメーション CoE)」
- 「Flow and Action Error Handling Level 3: Flow Error Handling - Workflow Automation CoE (フローとアクションのエラー処理レベル 3：フローのエラー処理 - ワークフローオートメーション CoE)」
- 「Flow and Action Error Handling Level 4: Good Practices and Summary - Workflow Automation CoE (フローとアクションのエラー処理レベル 4：推奨プラクティスとまとめ - ワークフローオートメーション CoE)」

一般的なガイドライン

アクションエラー評価によるメリットを得るには、次の一般的なガイドラインに従います。

独立したステップのみの実行継続を許可する

ステップが後続のステップで必要なデータを返さない場合は、ステップの実行継続を許可します。ステップが後続のステップで必要なデータを提供する場合、後続のステップを正常に実行できないことがわかります。

エラー条件が 10 を超えないようにする

作成できるエラー条件の数に制限はありませんが、各エラー条件は評価する必要があります。アクションで評価する必要があるエラー条件が多いほど、アクションの実行が低速になる可能性があります。

特定のステップの失敗を識別する

ステップステータスを使用して特定のステップがいつ失敗したかを識別できます。特定のステップを識別することは、アクションにタイプが同じステップの複数のインスタンスが含まれている場合に役立ちます。また、フローエラーハンドラーが失敗に対して具体的な是正処置を実行できるように、特定のステップを識別することもできます。

特定のエラー条件を一般的なエラー条件の前に配置する

アクションが一致するエラー条件を検出すると、エラーの評価は停止します。一般的なエラー条件を最初に配置すると、アクションが特定のエラー条件に一致しなくなる可能性があります。

わかりやすいエラー条件ラベルを使用する

エラー条件を編集する必要なく識別できるようになります。デフォルトでは、エラー条件は編集時にのみ表示できます。

エラー条件を追加

特定の条件が満たされた際にカスタム状況情報を返すアクションを有効化します。フローでカスタムアクションのステータスをエラーと見なすか成功した実行と見なすのかを指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 必要なロール：flow_designer、action_designer、 または admin
- ワークフロースタジオ でのアクションの作成

このタスクについて
アクションは常にアクションステータスオブジェクトを返します。 アクションが実行されると、すべての利用可能なエラー条件が評価されて、一致する可能性があるものが検索されます。アクションは、最初に一致したエラー条件で指定されたアクションステータスを返します。一致するエラー条件がない場合、アクションステータスは最後に実行されたステップのステップステータスに設定されます。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [アクション] タブを選択し、編集するカスタムアクションを選択します。
3. [アクションアウトライン] から、[エラーの評価 **(Error Evaluation)]** を選択します。
4. 定義する各エラー条件の [エラー条件を追加 **(Add error condition)]** を選択します。
   アクションデザイナーは、構成の If ブロックを追加します。
5. 各エラー条件を構成します。

フィールド	説明
条件	エラー条件の説明。このラベルを使用して、条件ビルダーが表示されていないときにエラー条件を識別できます。各エラー条件は else if フローロジックブロックと同等です。true にできるエラー条件は一度に 1 つのみです。
条件 N (Condition N)	エラー条件の一致基準を指定する条件ビルダー。一致基準を定義する条件または条件セットを追加できます。 条件ごとに、評価するアクションデータピルを選択します。評価するデータピルごとに、演算子と一致する値を選択します。 **注:** アクションデザイナーには選択したデータピルのタイプで使用可能な演算子と値のみが表示されます。
エラーとして扱わない (Don't treat as error)	フローに戻ったときにアクションステータスをエラーまたは成功としてレポートするオプション。
アクションステータスコード	アクションがアクションステータスオブジェクトの一部として返す整数値。この整数値は、フローエラーハンドラーの一部として使用できます。
アクションステータスメッセージ	アクションがアクションステータスオブジェクトの一部として返す文字列値。この文字列値は、フローエラーハンドラーの一部として使用できます。

6. アクションで評価する順序でエラー条件を上から下に並べます。
7. [保存] を選択します。

タスクの結果
カスタムアクションは、各エラー条件の一致条件を評価します。アクションは、最初に一致したエラー条件のアクションステータスコードとアクションステータスメッセージを返します。一致するエ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ラー条件がない場合、アクションステータスは最後に実行されたステップのステップステータスに設定されます。

再試行ポリシー

ステップでネットワーク障害や要求レート制限などの断続的な問題が発生した際は、失敗した要求を自動で再試行します。ステップを手動で再トリガーする必要がないように、再試行ポリシーを設定します。

機能

再試行ポリシーは次のとおりです。

- ヘッダー、ステータス、応答本文、エラー、および HTTP メソッドに基づいて、接続タイムアウトまたは失敗した要求をサポートするために作成されます。
- 指定された接続エイリアスを使用するすべてのアクションに適用されます。
- アクションステップに直接適用されます。

再試行ポリシーを使用して以下を定義します。

- ステップを再試行するために満たす必要がある条件。
- ステップを再試行する前に待機する時間間隔。
- ステップが停止するまでの最大再試行回数。

デフォルトの再試行ポリシーを接続および資格情報エイリアスに関連付け、再試行ポリシーをすべての HTTP 接続に適用します。

注: JDBC、REST、SOAP ステップの再試行ポリシーのみ作成できます。

再試行ポリシーの作成

ステップでネットワーク障害や要求レート制限などの断続的な問題が発生した際は、失敗した要求を自動で再試行します。ステップを手動で再トリガーする必要がないように、再試行ポリシーを設定します。

始める前に

- 必要なロール：connection_admin または credential_admin

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [再試行ポリシー] > [新規作成]に移動します。
2. フォームのフィールドに入力します。

再試行ポリシーフォーム

フィールド	説明
名前	再試行ポリシーを一意に識別する名前。
接続タイプ	**HTTP**
条件	再試行ポリシーをトリガーするために満たす必要がある条件。再試行ポリシーをトリガーする条件には、**is**、**is not**、**contains**、**contains not** 演算子があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
再試行戦略	◦ 指数バックオフ **(Exponential Backoff)**：後続の再試行の時間間隔を指数関数的に増やすオプション。乗数は 2 です。 ◦ 固定間隔 **(Fixed Interval)**：この時間間隔を過ぎると再試行が必要になる固定時間間隔を指定するオプション。 ◦ 「Retry-After」ヘッダーを優先 **(Honor "Retry-After" Header)**：HTTP 要求の「Retry After」ヘッダー値で返された日付と時刻の値に基づいて再試行を指定するオプション。ヘッダーの詳細については、「RFC 7231、セクション 7.1.3：Retry-After」を参照してください。 **注:** 「Retry-After」ヘッダーを優先 **(Honor "Retry-After" Header)**は、REST ステップと SOAP ステップのみをサポートします。
間隔 (秒)	この時間間隔を過ぎると再試行が必要になる時間間隔 (秒)。このフィールドは、[指数バックオフ] および [固定間隔] の再試行戦略にのみ適用されます。 **注:** [再試行戦略] が [指数バックオフ **(Exponential Backoff)**] の場合、最大試行回数に達するまで再試行するたびに時間間隔が指数関数的に増加します。
カウント	再試行の最大回数。このフィールドは、[指数バックオフ] および [固定間隔] の再試行戦略にのみ適用されます。値を指定しない場合、最大再試行回数は *glide.fdih.retry.max_count* システムのプロパティに指定された値に基づきます。*glide.fdih.retry.max_count* システムのプロパティのデフォルト値は 0 です。システムのプロパティの詳細については、「利用可能なシステムのプロパティ」を参照してください。
最大経過時間 (秒)	再試行が停止されるまでの最大累積時間 (秒)。このフィールドは、**[Retry-After** ヘッダーを優先] が、[再試行戦略] から選択されている場合にのみ表示されます。 **注:** 最大再試行時間が *glide.fdih.retry.max_time_in_seconds* プロパティに指定されている場合、システムプロパティ値がこのフィールド値よりも優先されます。また、最大経過時間がシステムプロパティ値に等しいか、それを超えていることを確認します。

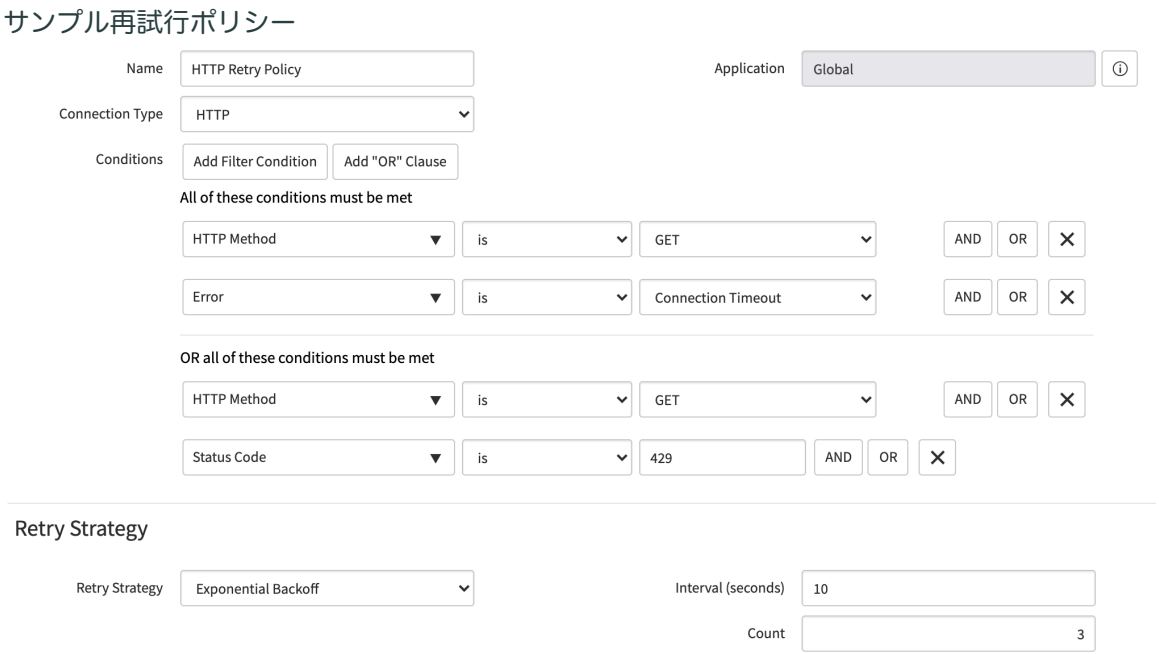
3. オプション: 次の属性を持つグローバルシステムプロパティを作成します。
プロパティの作成方法の詳細については、「システムプロパティを追加する」を参照してください。このシステムプロパティを使用して、再試行ポリシーの最大時間を秒単位で指定できます。

フィールド	値
名前	`glide.fdih.retry.max_time_in_seconds`
タイプ	整数
値	デフォルト値：`86400` (秒) 最大サポート時間：`604800` (秒)

4. [送信] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: [再試行戦略] が [指数バックオフ (Exponential Backoff)] の再試行ポリシー



この例では、次のいずれかの条件が満たされたときに再試行するようにポリシーが定義されています。

- **[HTTP** メソッド] が **[GET]** で、[エラー] が [接続タイムアウト]
- **[HTTP** メソッド] が **[GET]** で、[ステータスコード] が **[429]**

条件が満たされると、最大 3 回の再試行が実行されます。再試行の時間間隔は指数関数的に増加します。この例の時間間隔は 10 秒、20 秒、および 40 秒です。

次のタスク

- 必要なエイリアスがない場合は、接続および資格情報エイリアスを作成 します。
- 再試行ポリシーを [デフォルトの再試行ポリシー **(Default Retry Policy)]** として、必要な接続および資格情報エイリアスにアサインします。

  注: デフォルトの再試行ポリシーが提供され、[デフォルトの再試行ポリシー **(Default Retry Policy)]** として選択されます。再試行ポリシーを作成した場合は、必要なポリシーを [デフォルトの再試行ポリシー **(Default Retry Policy)]** として選択できます。

- 接続および資格情報エイリアスの接続関連リストに HTTP(s) 接続を作成します。詳細については、「接続および認証情報 」を参照してください。
- [システムログ] > [送信 **HTTP** 要求] に移動して、再試行の詳細を確認および表示します。

アクションの会話設定を構成する

会話設定を構成して、対話型インターフェースでアクションを使用できるようにします。

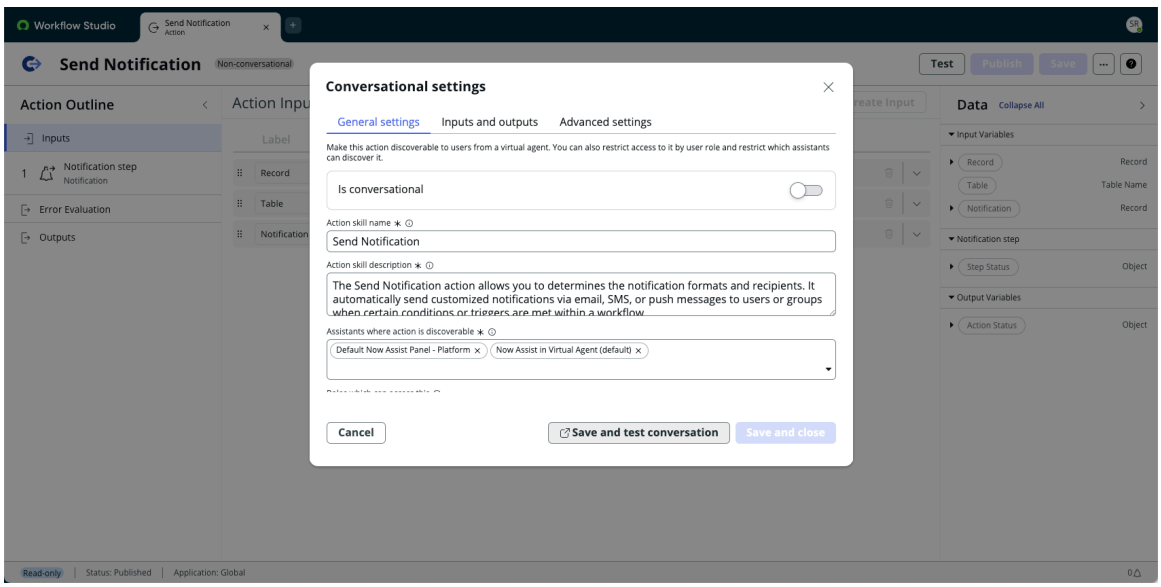
始める前に

必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

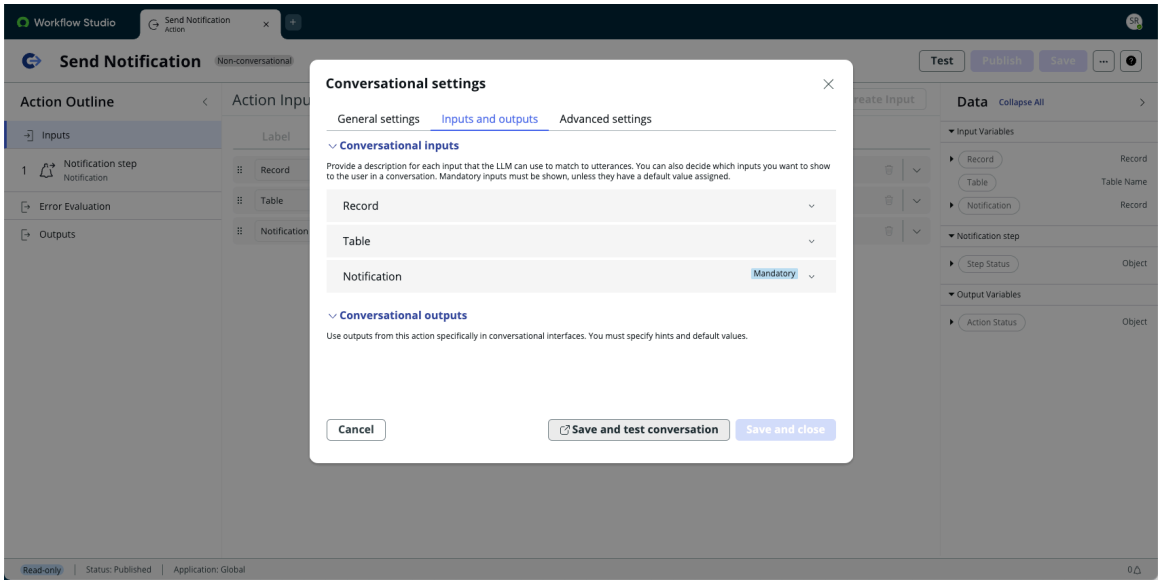
1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、 [アクション] を選択します。
3. すべてのアクションのリストから、構成するアクションを選択します。
4. その他のアクションアイコン ( ) をクリックし、[会話設定 **(Conversational settings)]** を選択します。
5. 全般設定を構成します。



フィールド	説明
会話型である	アクションを対話型インターフェースで使用できるようにするためのオプション。有効にすると、会話からアクションを呼び出すことができます。
サブフロースキル名 (Subflow skill name)	利用可能なトピックのリストで、仮想エージェントが表示するスキルの名前。
サブフロースキルの説明 (Subflow skill description)	このアクションを呼び出すために誰かが会話で使用する可能性がある検索用語とキーワード。スキルの説明が良いほど、発話に対して AI 検索の一致が向上します。
サブフローが検出可能な場合のアシスタント (Assistants where subflow is discoverable)	このアクションを検出可能な場合の仮想アシスタントのリスト。
これにアクセスできるロール (Roles which can access this)	仮想エージェントからこのアクションにアクセスするために必要なロール。

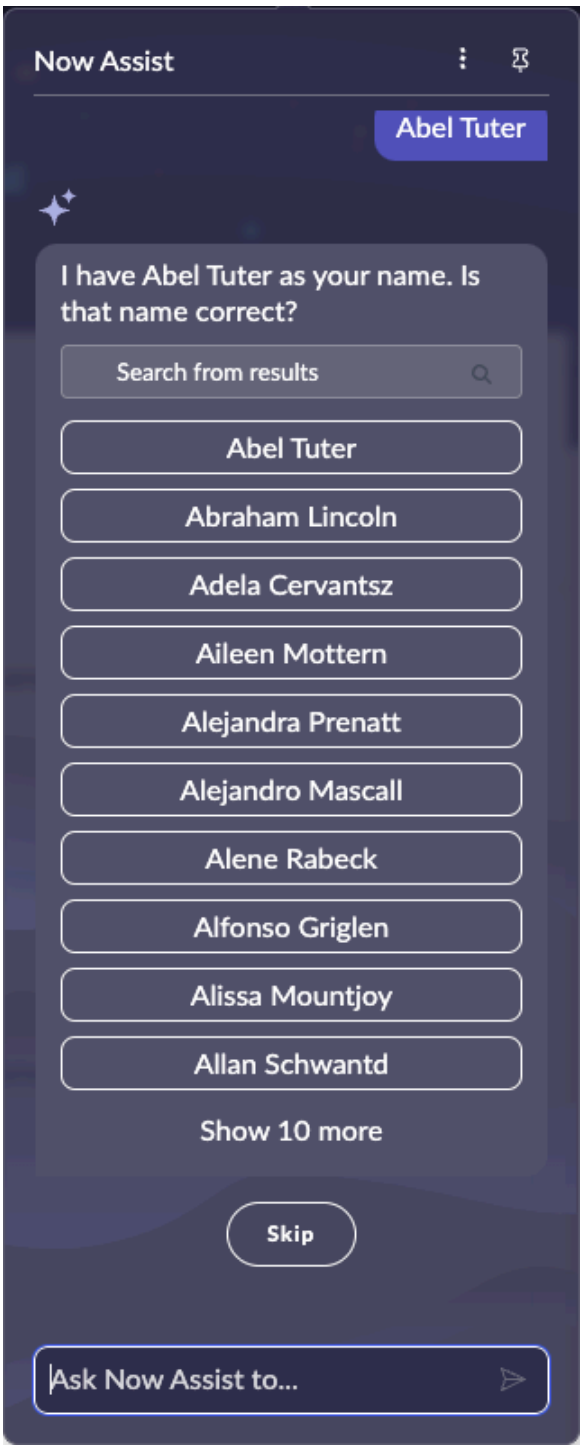
6. サブフローの入力および出力を構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



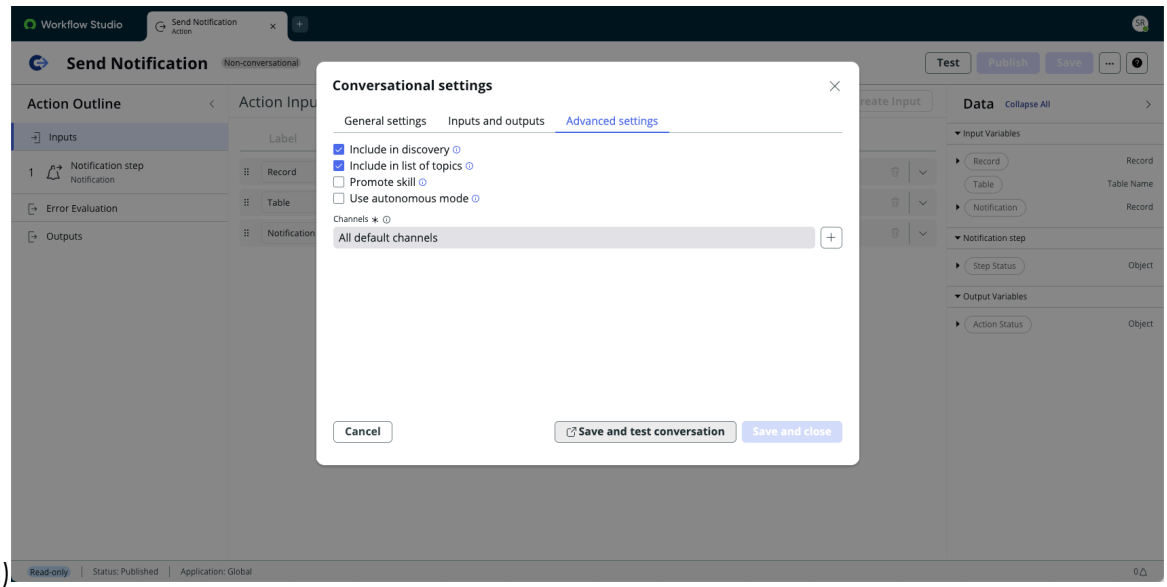
フィールド	説明
会話型入力	対話型インターフェースで利用可能なアクション入力のリスト。
この入力についての説明	この入力を設定するために誰かが会話で使用する可能性がある検索用語とキーワード。入力の説明が良いほど、発話に対して AI 検索の一致が向上します。必須入力の説明を入力する必要があります。
参照で上書き (Override with reference)	選択したテーブルと参照フィールドから既存の値を検索して挿入するオプション。このオプションを使用すると、手動で値を入力する代わりに、既存のレコード値のリストから選択できます。実行時に、リストから選択した値が入力に使用されます。 このオプションは、メール、GUID、整数、長整数、長整数文字列、文字列、および文字列 (完全な UTF8) データタイプの入力で使用できます。 **注:** ドキュメント ID および参照データタイプは、テーブルの参照フィールドで定義されている表示値のリストによって自動的に上書きされるため、有効なオプションではありません。表示値と参照フィールドの詳細については、「表示値」を参照してください。 このオプションをオンにすると、[テーブル] および [参照フィールド] オプションが表示されます。
テーブル	既存の値のリストを表示するために使用する参照フィールドを含むテーブル。たとえば、ユーザー [sys_user] テーブルには、ユーザーを名前で選択するための文字列フィールドが含まれます。
参照フィールド	既存のレコード値をオプションのリストとして表示するフィールド。この入力には、参照フィールドのデータタイプに基づいてオプションのリストが表示されます。選択する参照フィールドのデータタイプは、入力のデータタイプと一致する必要があります。意味のある値と一意の値の両方を含むフィールドを選択します。たとえば、ユーザー名の文字列入力がある場合は、ユーザー [sys_user] テーブルから name などの文字列フィールドを選択します。会話では、`Abel Tuter` や `Beth Anglin` など、選択できる文字列ユーザー名のリストが入力に表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: 各テーブルには Sys ID 値を格納する一意のフィールドが既に存在するため、このオプションは GUID データタイプの入力には使用できません。  表示値と参照フィールドの詳細については、「表示値」を参照してください。
会話型出力	対話型インターフェースで利用可能なアクション出力のリスト。
この出力について説明	この出力を設定するために誰かが会話で使用する可能性がある検索用語とキーワード。出力の説明が良いほど、発話に対して AI 検索の一致が向上します。必須出力の説明を入力する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. オプション: 会話の詳細設定を構成します。



(Optional)

フィールド	説明
ディスカバリーに含む	このアクションを仮想エージェントから検出可能にするためのオプション。
トピックのリストに含む	利用可能なトピックのリストにこのアクションを含めるためのオプション。
スキルを昇格	利用可能なすべてのスキルを表示するように求められたときに、このアクションをリストの上位に表示するためのオプション。
自律モードを使用	確認を求めずに、レコードを作成、表示、更新、または削除するオプション。
チャネル	このアクションを使用できるデフォルトチャネルのリスト。

8. **[Save and close** (保存して閉じる)] を選択します。

複合データ

グラフィカルインターフェイスを使用して、複合的な構造化データのコレクションを操作します。設計ユーザーが構造化データの構成を理解して、個々の要素を追加、削除、または構成できるようにします。

複合データを使用すると、構造化データを JavaScript Object Notation (JSON) や拡張マークアップ言語 (XML) などの機械可読形式でエンコードして保存できます。フローデザイナー インターフェイスを使用して、構造化データの構成を表示して把握したり、データ構造を作成したりすることができます。たとえば、名、姓、メールアドレスなど、ユーザーレコードから検索する情報で構成される連絡先データ構造を作成できます。

これらの フローデザイナー インターフェイスから複合データを作成できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

複合データの使用例

フローデザイナーインターフェイス	使用例
アクションの入力および出力	レコードデータからオブジェクトを生成するアクションを作成します。アクションが検索するレコードデータを使用してオブジェクトを設定します。次のフォームを参照してください。 レコードからオブジェクトを生成するカスタムアクションの作成
スクリプトステップの入力変数および出力変数	レコードリストからオブジェクトのアレイを作成するスクリプトを記述します。「レコードリストからオブジェクトのアレイを生成するカスタムアクションの作成」を参照してください。 JSON ドキュメントを解析してオブジェクトタイプの出力にするスクリプトを記述します。
サブフローの入力および出力	オブジェクトを入力として受け入れ、それを使用して外部サービスを呼び出すサブフローを作成します。
XML パーサーステップ ターゲットフィールド構成	XML パーサーステップを使用して、XML ペイロードを解析して複合データオブジェクトにします。
REST API トリガーの本文フィールド	受信 REST API 要求を解析して複合データオブジェクトにし、その値をフローで使用します。「REST API トリガー」を参照してください。

メリット

複合データには次のようなメリットがあります。

- コードを記述せずにデータを解析およびフォーマットできます。たとえば、応答メッセージを解析したり、要求メッセージをフォーマットしたりするデータ変数を作成できます。
- 任意のデータ構造を作成できます。たとえば、既存のインタラクションとインシデントレコードの情報を組み合わせた問題データ構造を作成したり、カスタムデータ連携をサポートするデータ構造を作成したりできます。
- データ構造の構成を表示できます。たとえば、問題データ構造は、問題について連絡する相手を説明するユーザーオブジェクトと、問題を解決するために行われた作業を説明する履歴オブジェクトで構成されている場合があります。ユーザーオブジェクトにリストされているメールアドレスへのパスを使用して通知アクションを設定し、ステータスへのパスを使用して問題をエスカレートするサブフローを呼び出すか、履歴オブジェクトからカウントを再割り当てすることができます。
- API 呼び出しからのデータ構造へのアクセスを許可できます。たとえば、スクリプトからアクションまたはサブフローを呼び出し、事前定義されたデータ構造を入力値として使用できます。
- データ構造をテンプレートとして保存して再利用できます。たとえば、ユーザーオブジェクトをテンプレートデータ構造として保存し、他のアクションやフローで再利用できるようにします。

データ構造

データ構造は、階層に編成された関連するデータ要素のコレクションです。データ構造内の各要素には、階層内に独自のデータタイプと一意の位置があります。

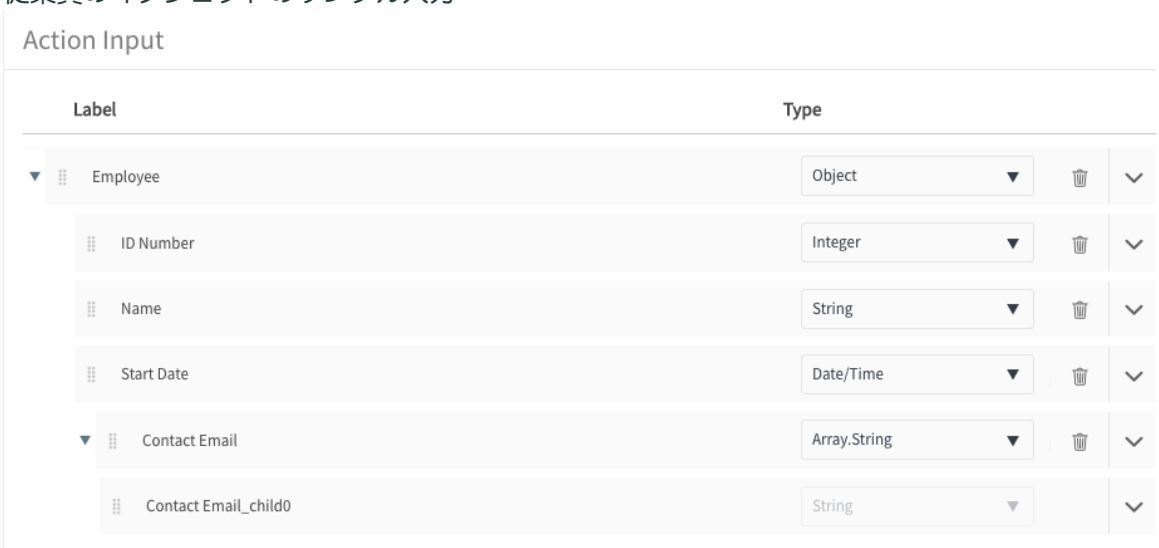
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[エディター] ペインには、インデント付きのデータ構造階層が表示されます。インデントレベルで、要素が階層内の親、子、または兄弟であるかどうかを識別します。親要素の下にはインデントされた子があり、兄弟には同じインデントレベルの要素があります。

注: フローデザイナー インターフェイスでは、子レベルの階層をいくつでも作成できますが、それらを表示するには水平方向にスクロールしなければならない場合があります。

たとえば、このデータ構造は、[従業員] の親要素と、[ID 番号]、[名前]、[開始日]、[連絡先メール] の 4 つの子要素で構成されます。[連絡先メール] 要素は、1 つの子を持つ親要素でもあります。

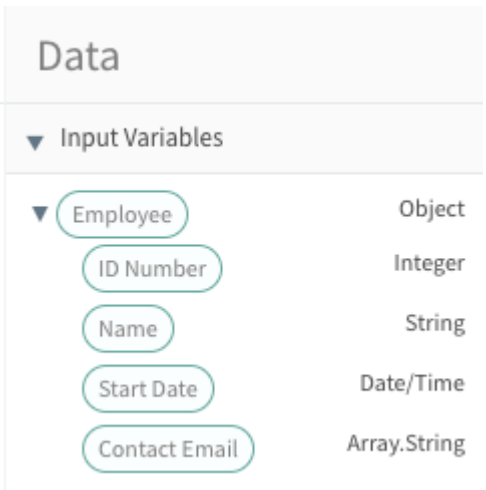
従業員のオブジェクトのサンプル入力



データパネルには、レコード変数の場合と同様に、データ構造階層が折りたたみおよび展開可能なデータピルのツリーとして表示されます。親要素には、階層を折りたたんだり展開したりするための矢印アイコンがあります。

たとえば、データパネルから見た [従業員] データ構造は次のとおりです。

従業員のオブジェクトのサンプルデータピル



データパネルまたはデータピッカーを使用して、データ構造から特定の値を選択できます。データ構造は、ドット連結したり、構造内の特定の要素に移動したりできるという点で、レコードのデータピルに似ています。データ要素を選択すると、他のデータ要素の選択と同様に、フローデザイナー にそのデータ要素へのパスがデータピルとして表示されます。たとえば、[開始日] データ要素を選択した場合、パスは [入力 -> 従業員 -> 開始日] になります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

要素データパスは、XPath または JPath と同じように使用できます。データピルパスをこれらのパス表記のいずれかに変換することができる場合もあります。

複合データ型

1 つ以上の「アレイ」または「オブジェクト」変数を使用してデータ構造をビルドします。これらの変数データ型のみが子変数をサポートします。

アレイ変数には、あるタイプのアイテムの値が含まれています。親変数は常にアレイデータ型であり、存在する子変数は常に 1 つのみとなります。これは、アレイでサポートされているデータ型の 1 つのインスタンスです。入力または出力が同じデータ型の値を複数受け入れる場合は、アレイ変数を作成します。

たとえば、[連絡先メール] アレイを作成して、特定のユーザーに関連付けられているすべてのメールアドレスをリストすることができます。

連絡先メールアレイのサンプルデータ構造

コンポーネントラベル	データタイプ	サンプルデータ
連絡先メール	Array.String	beth.anglin@example.com and beth@anglin.com
連絡先メール_child0	文字列	

オブジェクト変数には、それぞれ独自のデータ型と値を持つ任意の数と配置の子変数が含まれます。オブジェクト変数をネストすると、あるテーブルの関連レコードが別のテーブルにあるテーブルスキーマに似た複雑なデータ構造を作成できます。入力または出力が 1 つ以上の関連プロパティを受け入れる場合はオブジェクト変数を作成します。

たとえば、[従業員] オブジェクトを作成して、会社で働く人々に関する情報を定義することができます。

従業員オブジェクトのサンプルデータ構造

コンポーネントラベル	データタイプ	サンプルデータ
従業員	オブジェクト	
ID 番号	整数	20190304000101
名前	文字列	Beth Anglin
開始日	日付/時刻	2019 年 3 月 4 日
連絡先メール	Array.String	beth.anglin@example.com and beth@anglin.com

次の変数データ型のみが親になることができます。

親のデータ型

データタイプ	説明
Array.Array	アレイのコンテナです。アレイ型の読み取り専用の子アイテムを追加します。
Array.True/False	true/false 値のコンテナです。True/False 型の読み取り専用の子アイテムを追加します。
Array.Choice	選択値のコンテナです。選択型の読み取り専用の子アイテムを追加します。
Array.Date/Time	日付/時刻値のコンテナです。日付/時刻型の読み取り専用の子アイテムを追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

親のデータ型 (続く)

データタイプ	説明
Array.Integer	整数値のコンテナです。整数型の読み取り専用の子アイテムを追加します。
Array.Object	オブジェクトのコンテナです。オブジェクト型の読み取り専用の子アイテムを追加します。これには、[子アイテムを追加] オプションが表示されます。
Array.String	文字列値のコンテナです。文字列型の読み取り専用の子アイテムを追加します。
オブジェクト	その他のデータ要素のコンテナです。[子アイテムを追加] オプションを表示します。

アレイ変数とオブジェクト変数は、これらの子のデータ型のみをサポートします。

- アレイ
- True/False
- 選択肢
- 日付/時刻
- 整数
- オブジェクト
- 文字列

注: アレイ変数とオブジェクト変数のデータ型は Glide 要素ではありません。これらのアイテムと Now Platform タイプの間には完全な互換性がない場合があります。

詳細オプション

オブジェクト変数には、データ構造を保存およびロードするための詳細オプションがあります。これらのオプションを使用すると、ある場所で定義されたデータ構造を別の場所で再利用できます。詳細オプションの詳細については、「アクション変数データ型 (action variable data types)」を参照してください。

データ構造テンプレート

データ構造テンプレートを使用すると、オブジェクト変数を複数のアクションまたはサブフローで再利用できます。たとえば、応答を解析するデータ構造を作成し、後で同じデータ構造を再利用して要求をフォーマットすることができます。テンプレートは、子変数のリストとその構造をオブジェクト内に格納します。各オブジェクト変数には、テンプレートとして保存するための [詳細オプション] があります。

テンプレートを適用すると、元の構造のコピーが作成されます。テンプレートの適用後に行った変更は、テンプレートには影響せず、テンプレートを使用する他のアクションにも影響しません。

アレイデータピル

アレイデータを含むオブジェクトでは、**For Each** フローロジックの処理が必要になる場合があります。たとえば、メールアドレスのアレイを含むユーザーオブジェクトには、各メールアドレスに通知を送信する **For Each** フローロジックループが必要です。

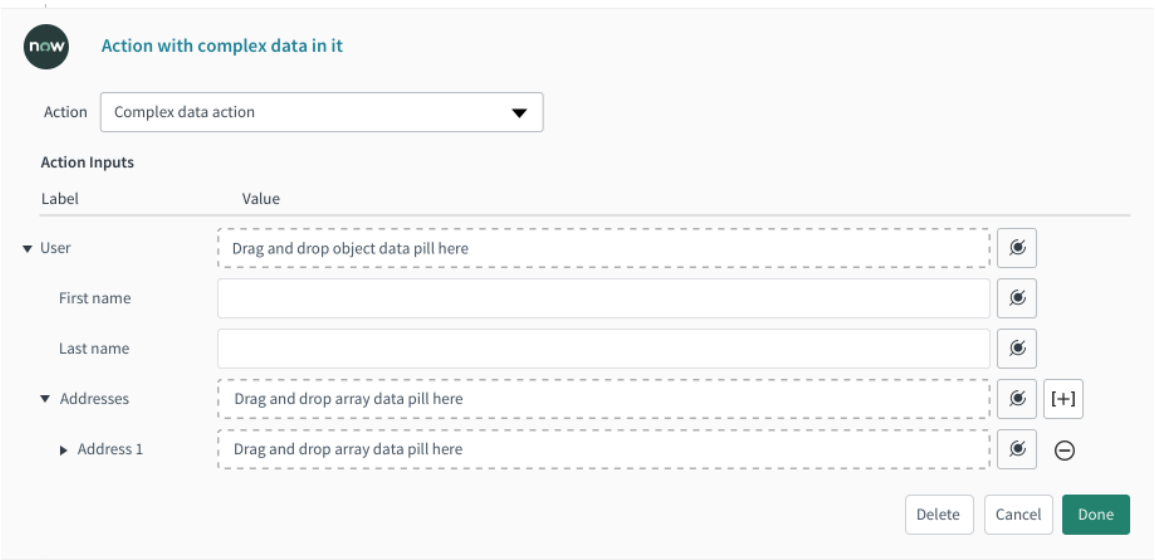
オブジェクトデータピル

オブジェクトデータピルを入力値として受け入れるアクションを設計できます。たとえば、ユーザーオブジェクトを入力として受け入れる通知アクションを作成できます。ユーザーオブジェクトが名、姓、および住所の値で構成されている場合、通知アクションはこれらすべての値にアクセスできま

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

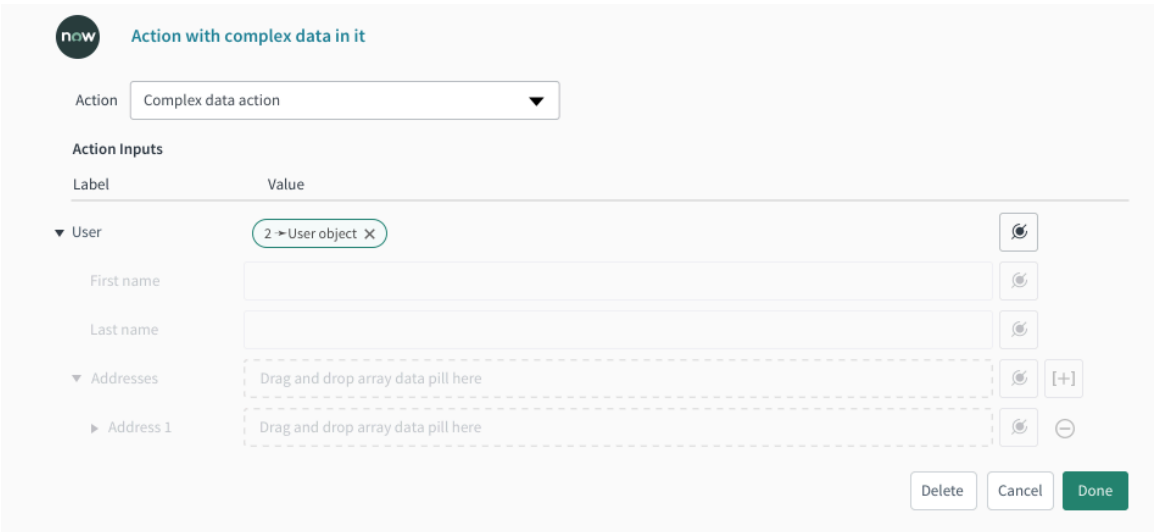
す。オブジェクトデータピルを使用してアクション入力を構成するには、フローの早い段階でオブジェクトを作成する必要があります。

オブジェクトデータピルを受け入れるサンプルアクション



オブジェクトデータピルまたはその子要素を使用して、入力を構成できます。オブジェクトデータピルを使用して入力値を設定すると、フローデザイナー によってオブジェクトの子要素がすべて読み取り専用になり、アクションではオブジェクトによって提供された値が使用されます。たとえば、あるアクションがユーザーオブジェクトを生成し、別のアクションがそのオブジェクトで指定されたユーザーに通知を送信するフローを作成できます。

オブジェクトデータピルを使用するように構成されたサンプルアクション



オブジェクトの子要素を構成する場合は、オブジェクトの各子要素にデータピルを手動で指定する必要があります。たとえば、以前のアクションのレコード値を使用してユーザーオブジェクトを手動で設定できます。

スクリプトのサポート

スクリプトから複合データを作成して参照します。データストリーム、REST ステップ応答、または複数のレコードの検索ステップからソースデータが取得される場合は、スクリプトを使用します。複合データを使用するスクリプティングの詳細については、「複合データのスクリプトサポート」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

更新セットのサポート

更新セットは、それらが定義されているフロー、サブフロー、またはアクションの一部として複合オブジェクトを含みます。親フロー、サブフロー、またはアクションが変更されると、それに関連する複合データが自動的にキャプチャされます。

一般的なガイドライン

再利用可能かつメンテナンス可能なデータ構造を作成するには、次の一般的なガイドラインに従います。

階層内の子レベルの数を最低限にする

データ構造の子レベルが多いほど、階層からデータ変数を表示して選択することが難しくなります。任意の数の子レベルを持つデータ構造をビルドできますが、7 つを超える子レベルを持つデータ構造をナビゲートして把握することは困難になります。最高のユーザーエクスペリエンスを得るには、水平方向にスクロールして表示および設定する必要があるほど子レベルが多いデータ構造を作成しないでください。

レコードデータのタイプごとに個別のオブジェクトを作成する

ほとんどの フローデザイナー データは、インスタンスからのものか外部システムからのものかを問わずレコードデータです。この設計メソッドにより、オブジェクトの内容とデータの出所を確実に把握できます。

レコードデータ構造を再作成する

レコードデータを送受信するオブジェクトをビルドする場合は、これらのレコードのデータベースディクショナリーエントリを確認し、一致するオブジェクトデータ構造を作成します。たとえば、インシデントおよび構成アイテムテーブルからのデータをオブジェクトに含める必要があるとします。インシデントテーブルの [簡単な説明] フィールド用に文字列要素を作成し、構成アイテムテーブルの [クラス] フィールド用に文字列要素のアレイを作成することができます。

さまざまなタイプのレコードを結合するオブジェクトを作成する

複数のタイプのレコードの情報が必要な場合は、必要なすべての情報を含むオブジェクトを作成します。その後、そのオブジェクトを使用することで フローデザイナー でデータのフォーマットや解析を行うことができます。

データ構造の作成

複数のデータ変数を、1 つの単位として処理し、単位を構成する個々のアイテムを識別する構造に整理します。

始める前に

- 必要なロール：action_designer、flow_designer、 または admin
- ガイド付きアプリケーションクリエーターでアプリケーションを設定 して フローデザイナー コンテンツを保存します。
- ワークフロースタジオ でのアクションの作成 または ワークフロースタジオ でサブフローを作成

このタスクについて

データ構造は、階層に編成された関連するデータ要素のコレクションです。データ構造内の各要素には、階層内に独自のデータタイプと一意の位置があります。

手順

1. データ変数を作成します。

アクションまたはサブフローの入力	[入力の作成] をクリックします

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクションまたはサブフローの出力	[出力の作成] をクリックします
XML パーサーステップ	次のフォームを参照してください。 XML パーサーステップ

2. [タイプ] を [オブジェクト] に設定します。
   データ構造階層の最上位はオブジェクト変数である必要があります。
3. [子アイテムを追加] アイコンをクリックします。
   フローデザイナー により、オブジェクトリストの最後に子データ変数が追加されます。

   注: 既存の変数の間に子アイテム変数を挿入するには、2 つの変数の間にマウスポインターを合わせ、表示される [アイテムを挿入] アイコン ( ) をクリックします。

   注: 子変数と兄弟変数の間にマウスポインターを合わせると、[子を追加] アイコン ( ) が表示されます。アイコンの左側をクリックして新しい兄弟変数を子の親に追加するか、右側をクリックして現在の変数の下に別の子変数を追加します。

4. 子変数の [ラベル] と [タイプ] を設定します。
   データ構造階層に別の分岐を追加するには、[タイプ] を [オブジェクト] に設定します。
5. 階層内のデータ変数ごとに手順 3 ～ 4 を繰り返します。

次のタスク
データ構造を使用して、アクション、ステップ、またはサブフローの入力を設定します。データ構造を再利用できる場合は、テンプレートとして保存します。

データ構造の保存

後で再利用できるように、オブジェクト変数内に子変数のデータ構造を保存します。

始める前に
- 必要なロール：action_designer、flow_designer、 または admin
- ガイド付きアプリケーションクリエーターでアプリケーションを設定 して フローデザイナー コンテンツを保存します。
- ワークフロースタジオ でのアクションの作成 または ワークフロースタジオ でサブフローを作成

手順
1. データ構造の作成。
2. 保存するオブジェクト変数の [詳細] オプションを展開します。
3. [テンプレートとして保存] をクリックします。
   フローデザイナー によりポップアップダイアログが表示されます。
4. テンプレートの名前を入力します。
5. [保存] をクリックします。
   テンプレート名が既に存在する場合、フローデザイナー により既存のテンプレートを上書きすることを確認するダイアログが表示されます。

次のタスク
別のアクションまたはサブフローでデータ構造をロードします。データ構造を更新して保存します。

データ構造のロード

オブジェクト変数内に子変数のデータ構造をロードします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 必要なロール：action_designer、flow_designer、 または admin
- ガイド付きアプリケーションクリエーターでアプリケーションを設定 して フローデザイナー コンテンツを保存します。
- ワークフロースタジオ でのアクションの作成 または ワークフロースタジオ でサブフローを作成

手順

1. データ変数を作成します。
2. [タイプ] から [オブジェクト] を選択します。
3. データ構造を置換するオブジェクト変数の [詳細] オプションを展開します。
4. [構造] から [テンプレートから開始] を選択します。
   フローデザイナー により [テンプレート] フィールドが表示されます。
5. [テンプレート] から、ロードするテンプレートを含むテンプレートを選択します。
   オブジェクト変数に既存のデータ構造がない場合、フローデザイナー によりオブジェクト変数にデータ構造がロードされます。オブジェクト変数に既存のデータ構造がある場合、フローデザイナー により既存の構造を置き換えることを確認するダイアログが表示されます。

レコードからオブジェクトを生成するカスタムアクションの作成

ユーザーレコードからオブジェクトを生成します。アクション出力を使用してレコード値からオブジェクトを作成する方法について説明します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
この例を使用して、次の操作と手順のデモンストレーションを確認します。

- [ユーザーレコード] フィールドの [名]、[姓]、および [メール] のアクション入力を作成します。
- アクションの入力値に一致するユーザーレコードをルックアップします。
- 連絡先オブジェクトのアクション出力を作成します。
- 連絡先オブジェクトをテンプレートとして保存します。
- 連絡先オブジェクトの値を [ユーザーレコード] フィールドの値にマッピングします。
- サンプルユーザーでアクションをテストします。

手順

1. 作業を保存するアプリケーションを作成します。
   ガイド付きアプリケーションクリエーター を使用します。

   Example
   たとえば、「`My Application`」を作成します。
2. [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
   フローデザイナー のランディングページが表示されます。
3. [新規] > [アクション]を選択します。
   [アクションプロパティ] ダイアログが表示されます。
4. 次のサンプル値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	値
名前	ユーザーから連絡先オブジェクトを作成
アプリケーション	自分のアプリケーション
アクセス可能	すべてのアプリケーションスコープ

5. [送信] を選択します。
   アクションデザイナー インターフェイスが表示されます。
6. [アクションアウトライン] から[入力] > [入力の作成]を選択します。
   新しいアクション入力が表示されます。
7. 次の値を使用してアクション入力を構成します。

フィールド	値
ラベル	名
タイプ	文字列
必須	true

8. [アクションアウトライン] から[入力] > [入力の作成]を選択します。
   新しいアクション入力が表示されます。
9. 次の値を使用してアクション入力を構成します。

フィールド	値
ラベル	姓
タイプ	文字列
必須	true

10. [アクションアウトライン] から[入力] > [入力の作成]を選択します。
    新しいアクション入力が表示されます。
11. 次の値を使用してアクション入力を構成します。

フィールド	値
ラベル	メールアドレス
タイプ	文字列
必須	False

12. [アクションアウトライン] から[出力] > [出力の作成]を選択します。
    新しいアクション出力が表示されます。
13. 次の値を使用してアクション出力を構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ラベル	名前	タイプ	必須
contact	contact	オブジェクト	False

14. 連絡先オブジェクトの行から [子アイテムを追加] を選択します。
15. 次の値を使用して子アイテムを構成します。

ラベル	名前	タイプ	必須
名	first_name	文字列	true

16. 連絡先オブジェクトの行から [子アイテムを追加] を選択します。
17. 次の値を使用して子アイテムを構成します。

ラベル	名前	タイプ	必須
姓	last_name	文字列	true

18. 連絡先オブジェクトの行から [子アイテムを追加] を選択します。
19. 次の値を使用して子アイテムを構成します。

ラベル	名前	タイプ	必須
メールアドレス	email_address	文字列	False

20. 連絡先オブジェクトの行から [詳細入力を切り替え] を選択します。
21. [詳細オプション] から [テンプレートとして保存] を選択します。
    [テンプレートとして保存] ダイアログが表示されます。
22. [名前を入力] に「`contact`」と入力します。
23. [保存] をクリックします。
24. [編集モードを終了] を選択します。
    作成した出力フィールドが表示されます。
25. 次の値を使用して出力を構成します。

ラベル	値
名	[ステップ ->「レコードのルックアップ」ステップ -> レコード -> 名]
姓	[ステップ ->「レコードのルックアップ」ステップ -> レコード -> 姓]
メールアドレス	[ステップ ->「レコードのルックアップ」ステップ -> レコード -> メール]

> **注:** データピルは、データパネルまたは [データピルピッカー] ボタンから選択できます。

26. [保存] を選択します。
27. [テスト] を選択します。
    [アクションのテスト] ダイアログが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

28. 次のテスト値を入力します。

入力	値
名	Abel
姓	Tuter

29. [テストを実行] を選択します。
指定されたテスト値を使用してアクションが実行されます。
30. 次を選択します：アクションが実行されました。**(Action has executed.)** アクションを表示するには、ここをクリックしてください。**(To view the action, click here.)**
アクション実行の詳細が表示されます。
31. アクションの出力データのランタイム値を確認します。
JSON 形式で出力データが表示されます。

Example
たとえば、ユーザー「Abel Tuter」の JSON 形式の連絡先オブジェクトのサンプルです。

```
{
    "contact": {
        "email_address": "abel.tuter@example.com",
        "last_name": "Tuter",
        "first_name": "Abel"
    }
}
```

タスクの結果
ユーザーレコードをルックアップし、それを連絡先オブジェクトに変換するカスタムアクションが作成されました。

次のタスク
独自のロジックを使用できるようにアクションをカスタマイズします。

リスト内の各レコードのオブジェクトを生成するカスタムフローの作成

リスト内の各ユーザーレコードのオブジェクトを生成します。フローロジックを使用してレコードリストを反復処理する方法について説明します。

始める前に

- 必要なロール：admin
- レコードからオブジェクトを生成するカスタムアクションの作成

このタスクについて
この例を使用して、次の操作と手順のデモンストレーションを確認します。

- 日次スケジュールで実行されるフローを作成します。
- 入力として提供された部門でフィルタリングされたユーザーレコードをルックアップします。
- 以前にルックアップした各ユーザーレコードに対して実行するフローロジックを追加します。
- 以前に作成したカスタムアクションを使用して、各ユーザーレコードの連絡先オブジェクトを作成します。
- ユーザーレコードごとにログメッセージを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
   フローデザイナー のランディングページが表示されます。
2. [新規] > [フロー]を選択します。
   [フロープロパティ] ダイアログが表示されます。
3. 次のサンプル値を入力します。

フィールド	値
名前	ユーザーから連絡先オブジェクトを作成
アプリケーション	自分のアプリケーション
実行方法	セッションを開始するユーザー

4. [送信] を選択します。
   フローデザイナー インターフェイスが表示されます。
5. [クリックすると、トリガーを追加できます] > [日付] > [日次]を選択します。
6. [完了] を選択してトリガーを閉じます。
7. [クリックすると、アクション、フローロジック、またはサブフローを追加できます] > [アクション] > **[ServiceNow** コア] > [複数のレコードの検索]を選択します。
   アクションがフローに追加されます。
8. [テーブル] で [ユーザー **[sys_user]]** を選択します。
9. [条件] に次の値を追加します。
   - [部門] [次の値に等しい] [開発] **[AND]**
   - [メール] [は空でない]
10. 次のフィールド値を設定します。

フィールド	値
順番	名前
ソート	a 〜 z
結果の最大数	1000

11. [完了] を選択してアクションを閉じます。
12. [クリックすると、アクション、フローロジック、またはサブフローを追加できます] > [フローロジック] > **[For Each]**を選択します。
    フローロジックがフローに追加されます。
13. [アイテム] で **[1 ->** ユーザーレコード] を選択します。

    注: アクション 1 [ユーザーレコード] データピルは、データパネルまたは [データピルピッカー] ボタンから選択できます。

14. [完了] を選択してフローロジックを閉じます。
15. プラスアイコンを選択して、For Each フローロジックに子アイテムを追加します。
16. [アクション] > [自分のアプリケーション] > [連絡先オブジェクトを作成 **(Create Contact Object)]**を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

17. **[userRecord [User]]** で **[2 ->** ユーザーレコード] を選択します。

    注: アクション 2 [ユーザーレコード] データピルは、データパネルまたは [データピルピッカー] ボタンから選択できます。

18. [完了] を選択してフローロジックアクションを閉じます。
19. プラスアイコンを選択して、For Each フローロジックに子アイテムを追加します。
20. [アクション] > **[ServiceNow** コア] > [ログ]を選択します。
21. [メッセージ] で **[2.1 ->** 連絡先] を選択します。

    注: アクション 2.1 [連絡先] データピルは、データパネルまたは [データピルピッカー] ボタンから選択できます。

22. [完了] を選択してフローロジックアクションを閉じます。
23. [保存] を選択します。

複合データのスクリプトサポート

スクリプトから複合データを作成して参照します。データストリーム、REST ステップ応答、または複数のレコードの検索ステップからソースデータが取得される場合は、スクリプトを使用します。

次のソースからデータを取得する場合は、スクリプトを使用して複合データを作成します。

スクリプトを必要とするデータソース

データソース	複合データの作成/マッピング元
データストリームアクション応答ストリーム	スクリプトパーサーステップ
REST ステップ応答	スクリプトステップ
「複数レコードのルックアップ」ステップ	

データストリームアクション応答ストリーム

データストリームアクションは、パーサースクリプトを使用して、ストリームアイテム値を複合オブジェクト値にマッピングします。パーサースクリプトを記述する場合は、データストリーム形式に適した JavaScript メソッドを使用してください。たとえば、JSON - スコープ付き クラスを使用して、JSON データストリームを解析またはエンコードします。

パーサースクリプトは、データストリームの入力オブジェクトと出力オブジェクト、および targetObject プロパティにアクセスできます。複合データを作成するための応答ストリームの解析の詳細については、「データストリームアクション」を参照してください。

REST ステップ応答

REST ステップ応答は、スクリプトステップで解析することによって 1 つ以上の複合オブジェクトに変換できます。スクリプトステップから応答にアクセスするには、入力スクリプト変数を作成し、それを前の REST ステップからの応答ペイロードにマッピングする必要があります。スクリプト入力変数の作成の詳細については、「スクリプトステップ」を参照してください。

REST 応答値を複合オブジェクト値にマッピングするスクリプトを記述します。REST 応答スクリプトを記述する場合は、JSON parse() メソッドなどの応答形式に適した JavaScript メソッドを使用してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: 複合データを文字列入力のソースとして使用すると、フローデザイナー によって自動的に JSON 文字列に変換されます。

複合データから REST 要求を作成するためにスクリプトステップを使用する必要はありません。前のアクションまたはステップで複合データを生成し、それを REST ステップの文字列入力にマッピングすることができます。実行時に、アクションまたはフローは複合データを JSON 表現に変換します。

たとえば、動的入力を開始するには でデータ収集アクションに使用されるスクリプトステップを参照してください。テーブル名およびフィールド名を取得するためのデータ収集アクションは、どちらもスクリプトステップを使用して REST 応答を JSON オブジェクトに解析します。どちらのデータ収集アクションでも、複合データを JSON オブジェクトとして格納する出力変数が作成されます。

「レコードのルックアップ」ステップ

フローでは、**For Each** フローロジックを使用してレコードリストを処理できますが、アクションにはスクリプトステップが必要です。スクリプトステップにより、**For Each** フローロジックは `For` ループや `While` ループなどの JavaScript に置き換わります。

スクリプトステップからレコードデータにアクセスするには、入力スクリプト変数を作成し、それを前のルックアップステップからのレコードデータにマッピングする必要があります。スクリプト入力変数の作成の詳細については、「スクリプトステップ」を参照してください。

ユーザーレコードリストを連絡先オブジェクトのアレイに変換するアクションの例については、「レコードリストからオブジェクトのアレイを生成するカスタムアクションの作成」を参照してください。

注: [複数のレコードの検索] アクションでは、レコードデータを複合データに変換するためのスクリプトステップは必要ありません。レコードをオブジェクトに変換し、**For Each** フローロジックをカスタムアクションに適用するカスタムアクションを作成できます。スクリプトを使用せずに複合オブジェクトを作成する例については、「レコードからオブジェクトを生成するカスタムアクションの作成」と「リスト内の各レコードのオブジェクトを生成するカスタムフローの作成」を参照してください。

ドット連結オブジェクト構造

構造のパスをドット連結することで、オブジェクトの構造から要素を参照することができます。複合データパスはすべてデータソースの名前で始まります。これは、入力のグローバルオブジェクト、出力のグローバルオブジェクト、またはスクリプトで作成したアレイまたはオブジェクトの名前です。

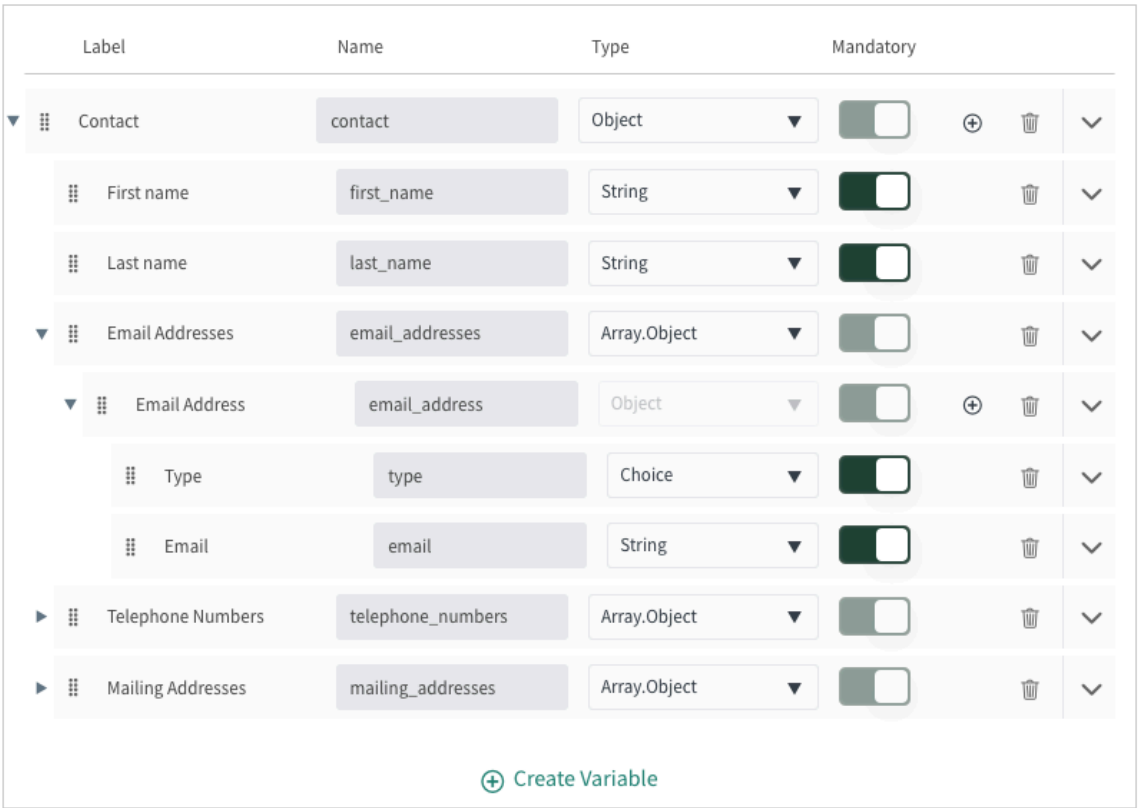
パスの次は、ピリオド文字 (ドットとも呼ばれます) で区切られた、参照される各構造要素の名前です。構造要素の名前をリストすることは、テーブル構造を特定の参照フィールドにリストする参照フィールドをドット連結することと同じです。

注: ドット連結パスには、ラベルではなく構造要素の名前が常にリストされます。

たとえば、連絡先オブジェクトを出力変数として定義するとします。オブジェクトの構造は次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

連絡先オブジェクトのサンプル



構造内での場所	ラベル	名前	タイプ
親	連絡先	contact	オブジェクト
子	名	first_name	文字列
子	姓	last_name	文字列
子	メールアドレス	email_addresses	Array.Object
孫	メールアドレス	email_address	オブジェクト
曾孫	タイプ	type	選択肢
曾孫	メール	email	文字列
子	電話	telephone_number	Array.Object
子	郵送先	mailing_address	Array.Object

[名] 構造要素へのドット連結パスは `outputs.contact.first_name` になり、[メール] 構造要素へのパスは `outputs.contact.email_addresses[0].email` になります。これは、アレイの個々の要素をその JavaScript インデックス値で指定する必要があるためです。

注: ドット連結パスでは、アレイ内の繰り返される要素の名前が省略されます。たとえば、オブジェクトのアレイはオブジェクト要素名を指定する必要はありません。ただし、オブジェクトは他の要素のコンテナであるため、ドット連結パス内でオブジェクトの子要素を指定できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

一般的なガイドライン

複合データを使用してスクリプトを作成する場合は、次の一般的なガイドラインを念頭に置いてください。

文字列入力を使用して複合データを JSON 文字列に変換する

複合データを文字列入力にマッピングすると、フローデザイナー によって自動的に JSON 文字列に変換されます。スクリプトを記述する代わりに、文字列入力を REST ステップに追加し、前のアクションまたはステップからの複合データにマッピングすることができます。

オブジェクトをテンプレートとして保存する

オブジェクトをテンプレートとして保存して、他のアクション、フロー、およびスクリプトステップで再利用できるようにします。

以前のデータにアクセスするためのスクリプト入力変数を作成する

アクション入力または前のステップからアクセスするデータのスクリプト入力変数を作成します。スクリプト入力変数を入力またはステップデータピルにマッピングします。たとえば、スクリプト入力変数を、前のステップで検索したユーザーレコードリストにマッピングします。

複合データを格納するスクリプト出力変数を作成する

スクリプトで作成した任意の複合データを格納するスクリプト出力変数を作成します。スクリプト出力変数は、スクリプトで定義された値と一致する必要があります。たとえば、複数の連絡先オブジェクトを格納するオブジェクトの連絡先アレイを作成します。連絡先オブジェクトをテンプレートとして保存し、再利用できるようにします。

アクション出力をスクリプト出力変数にマッピングする

カスタムアクションで複合データを出力する場合は、アクション出力を追加し、スクリプトステップ出力変数のデータピルにマッピングします。たとえば、連絡先アレイを作成し、前に保存した連絡先オブジェクトテンプレートをロードします。アクション出力を、スクリプトステップによって生成された連絡先アレイにマッピングします。

レコードリストからオブジェクトのアレイを生成するカスタムアクションの作成

ユーザーレコードリストからオブジェクトのアレイを生成します。スクリプトステップを使用してレコードリストを反復処理する方法について説明します。

始める前に

必要なロール：admin または flow_designer

このタスクについて

この例を使用して、次の操作と手順のデモンストレーションを確認します。

- 部門レコードのアクション入力を作成します。
- 部門アクション入力の最大 3 つのユーザーレコードを検索します。
- ユーザーレコードリストを処理するスクリプトステップを設定します。
- ユーザーレコードリストを含むスクリプト入力変数を作成します。
- 空の連絡先アレイを作成するスクリプトを記述します。
- ユーザーレコードリストを反復処理するスクリプトを記述します。
- 連絡先オブジェクトを作成し、ユーザーレコードフィールドの値を連絡先オブジェクトにマッピングするスクリプトを記述します。
- 連絡先アレイに現在の連絡先オブジェクトを設定するスクリプトを記述します。
- 連絡先アレイと子連絡先オブジェクトのスクリプト出力変数を作成します。
- 連絡先オブジェクトをテンプレートとして保存します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 生成されたオブジェクトの連絡先アレイをデータピルとして出力します。
- サンプル部門でアクションをテストします。

手順

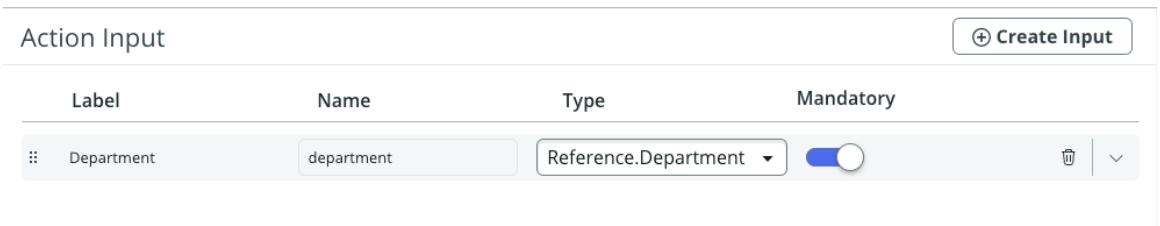
1. オプション: 作業を保存するアプリケーションを作成します。
   App Engine Studio を使用して、アプリケーションを計画、作成、および展開できます。カスタムアクションの構築に関する詳細については、「App Engine Studio でのアプリのビルド」を参照してください。

   Example
   たとえば、`My Application` というアプリケーションを作成します。
2. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
3. ホームページで、 [アクション] を選択します。
4. [新規] > [アクション]を選択します。
   [アクションプロパティ] ダイアログが表示されます。
5. 次のサンプル値を入力します。

フィールド	値
名前	オブジェクトの連絡先アレイを作成
アプリケーション	グローバル
アクセス可能	すべてのアプリケーションスコープ

> 注: カスタムアクションを保存および展開するアプリケーションを作成した場合は、グローバルではなくそのアプリケーションを使用します。

6. [アクションを構築] を選択します。
   アクションデザイナー インターフェイスが表示されます。
7. [アクションアウトライン] から[入力] > [入力の作成]を選択します。
   新しいアクション入力が表示されます。
8. 次の値を使用してアクション入力を構成します。

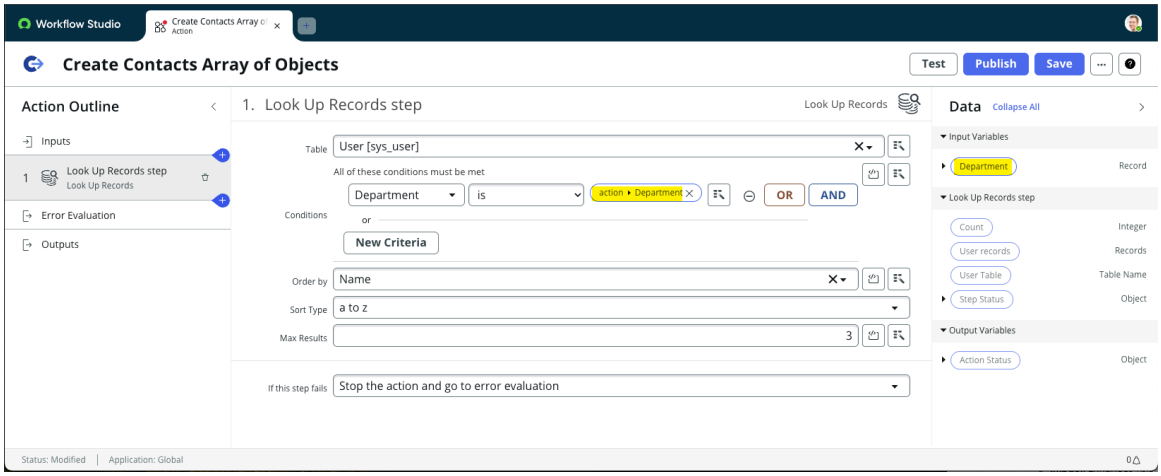


フィールド	値
ラベル	部門
タイプ	Reference.Department [Reference.cmn_department]
必須	True

9. [アクションアウトライン] から [新しいステップを追加] を選択します。
   利用可能なステップのリストが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

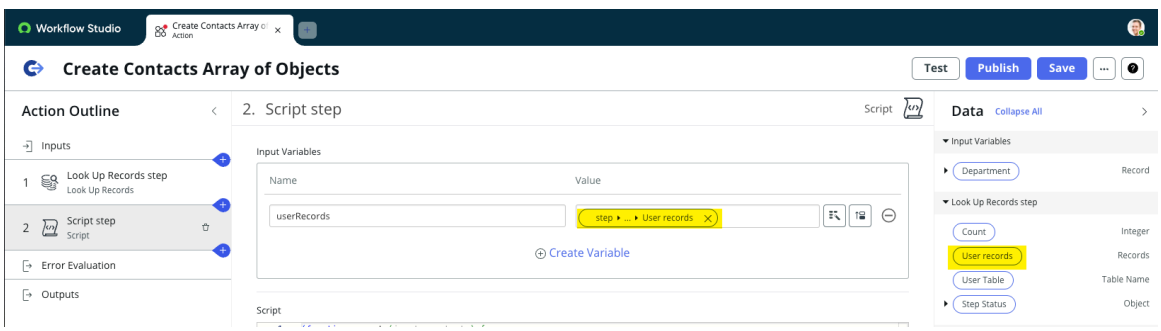
10. [複数のレコードの検索] を選択します。
11. 次の値を使用してステップを構成します。



フィールド	値
テーブル	ユーザー [sys_user]
条件	[部門] [次の値に等しい] [アクション -> 部門] 注: [入力変数] から部門データピルを選択します。
順番	名前
ソートタイプ	a ～ z
結果の最大数	3

注: この例では、デモンストレーションの目的で [結果の最大数] の設定を 3 レコードに制限しています。

12. [アクションアウトライン] から [新しいステップを追加] を選択します。
利用可能なステップのリストが表示されます。
13. [スクリプト] を選択します。
14. [入力変数] セクションから [変数の作成] を選択します。
15. 次の値を使用して入力変数を構成します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	値
名前	userRecords
値	[ステップ ->「レコードの検索」ステップ -> ユーザーレコード] 注: [複数レコードのルックアップ] ステップでユーザーレコードデータピルを選択します。

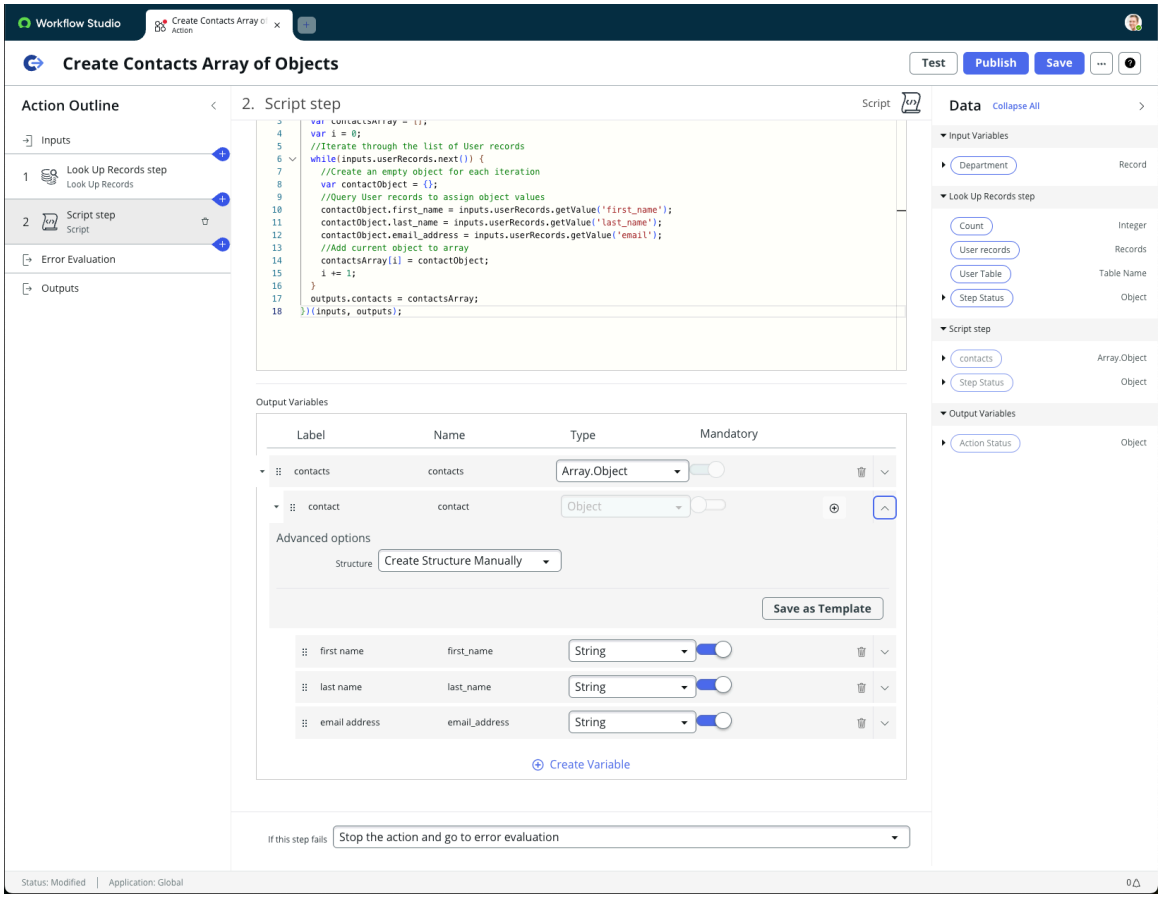
注: [ユーザーレコード] データピルは、データパネルまたは [データピルピッカー] ボタンから選択できます。

16. [スクリプト] に次のテキストを入力します。

```
(function execute(inputs, outputs) {
  //Create an empty array
  var contactsArray = [];
  var i = 0;
  //Iterate through the list of User records
  while(inputs.userRecords.next()) {
    //Create an empty object for each iteration
    var contactObject = {};
    //Query User records to assign object values
    contactObject.first_name =
 inputs.userRecords.getValue('first_name');
    contactObject.last_name = inputs.userRecords.getValue('last_name');
    contactObject.email_address = inputs.userRecords.getValue('email');
    //Add current object to array
    contactsArray[i] = contactObject;
    i += 1;
  }
  outputs.contacts = contactsArray;
})(inputs, outputs);
```

17. [出力変数] から [変数の作成] を選択します。
18. 次の値を使用してアクション出力を構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



Label (ラベル)	名前	タイプ	必須
contacts	contacts	Array.Object	True

19. contacts の Array.Object を展開し、子オブジェクトの名前を `contact` に変更します。
20. contact オブジェクトの行から [子アイテムを追加] アイコン ⊕ を選択します。
21. 次の値を使用して子アイテムを構成します。

ラベル	名前	タイプ	必須
名	first_name	文字列	True

22. contact オブジェクトの行から [子アイテムを追加] アイコン ⊕ を選択します。
23. 次の値を使用して子アイテムを構成します。

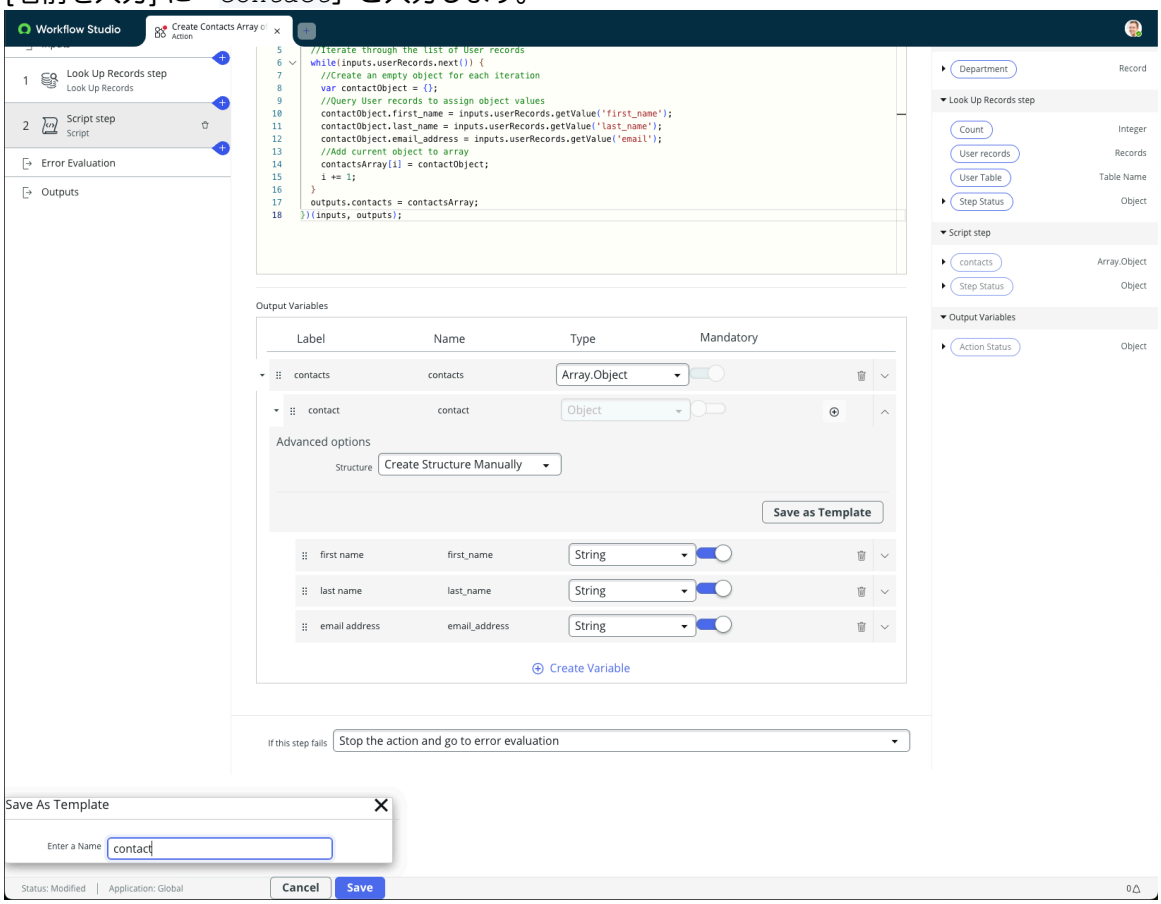
ラベル	名前	タイプ	必須
姓	last_name	文字列	True

24. contact オブジェクトの行から [子アイテムを追加] アイコン ⊕ を選択します。
25. 次の値を使用して子アイテムを構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

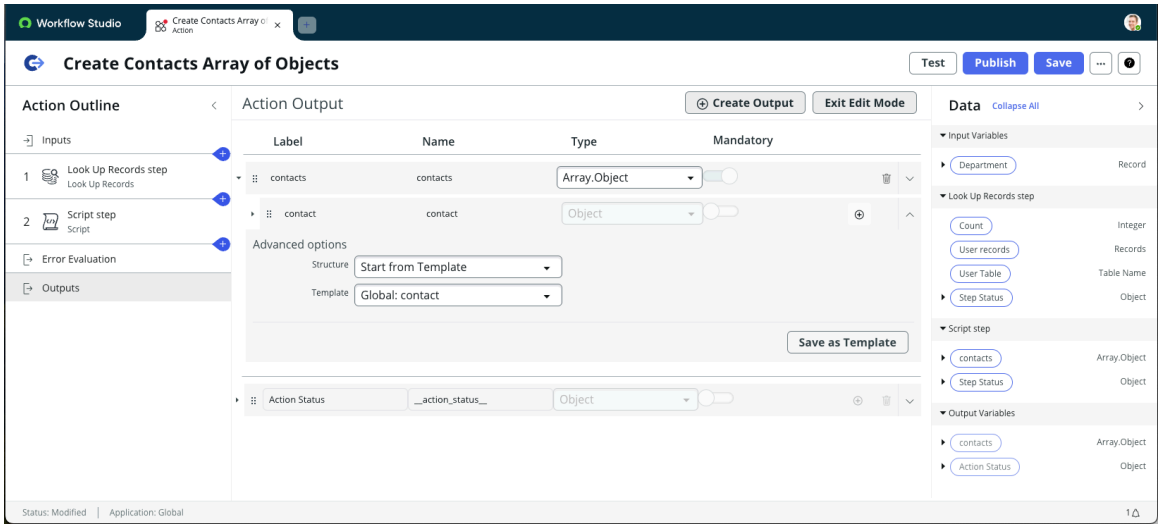
ラベル	名前	タイプ	必須
メールアドレス	email_address	文字列	True

26. 連絡先オブジェクトの行から [詳細入力を切り替え] を選択します。
27. [詳細オプション] から [テンプレートとして保存] を選択します。
    [テンプレートとして保存] ダイアログが表示されます。
28. [名前を入力] に「`contact`」と入力します。



29. [保存] をクリックします。
30. [アクションアウトライン] から[出力] > [出力の作成]を選択します。
31. 次の値を使用してアクションアウトラインを構成します。

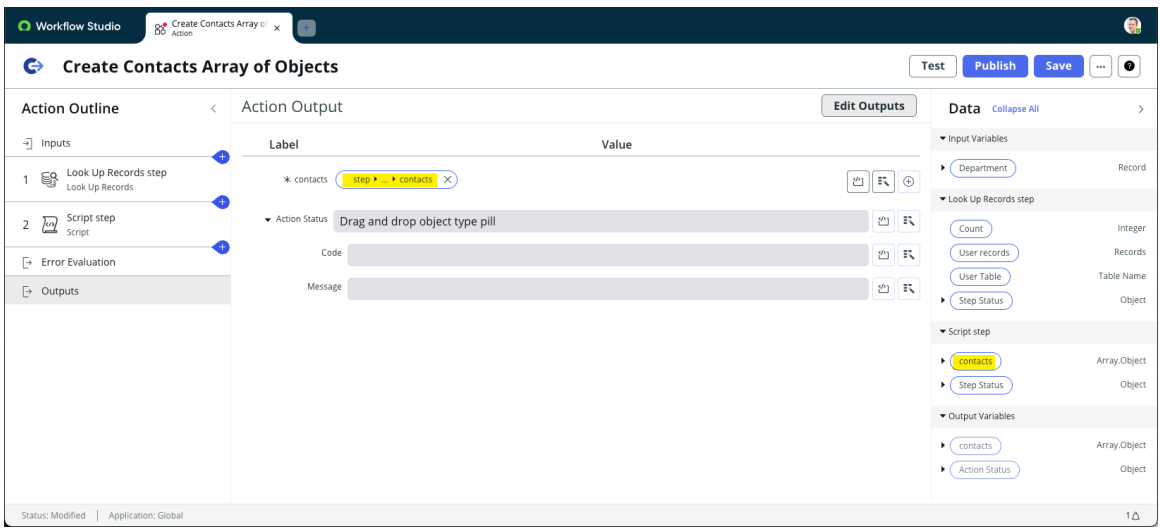
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



Label (ラベル)	名前	タイプ	必須
contacts	contacts	Array.Object	True

32. 連絡先の Array.Object を展開します。
33. 連絡先オブジェクトの行から [詳細入力を切り替え] を選択します。
34. [詳細オプション] から [構造] > [テンプレートから開始]を選択します。
    [テンプレート] が表示されます。
35. [テンプレート] で、以前に保存したテンプレートを選択します。

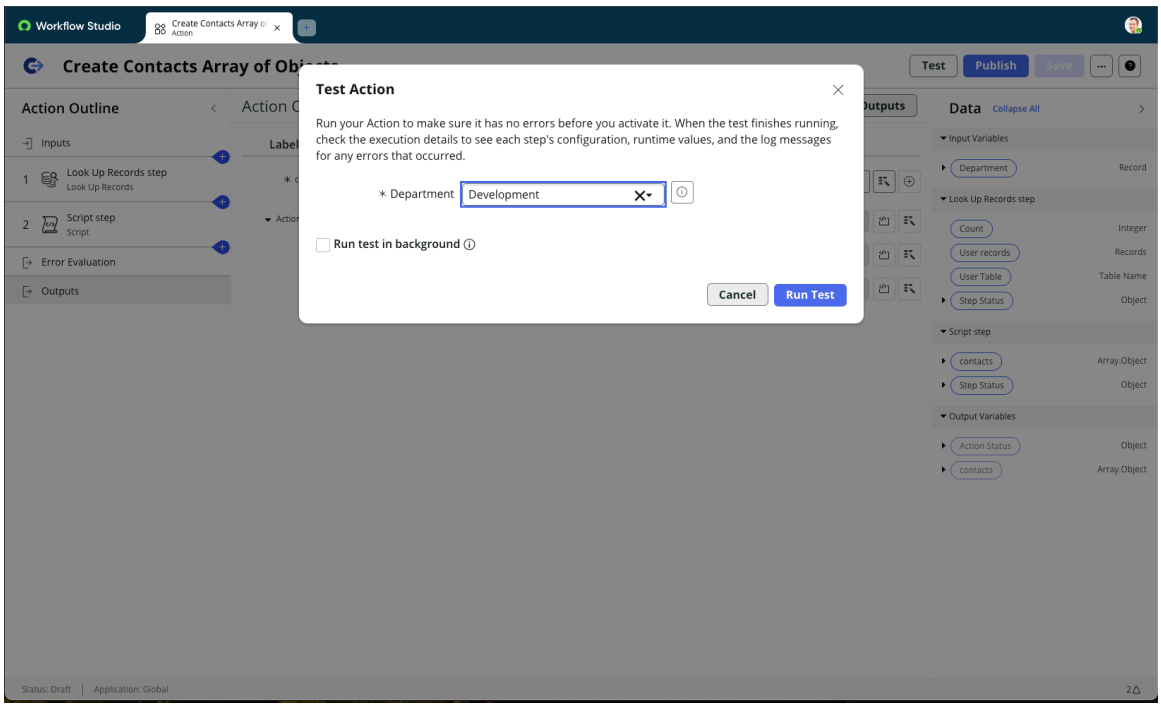
    Example
    この例では、**[Global: contact]** を選択します。
36. [編集モードを終了] を選択します。
    作成した出力フィールドが表示されます。
37. **contacts** の場合は、[ステップ **->** スクリプトステップ **-> contacts]** を選択します。



注: スクリプトステップ **contacts** データピルは、データパネルまたは [データピルピッカー] ボタンから選択できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

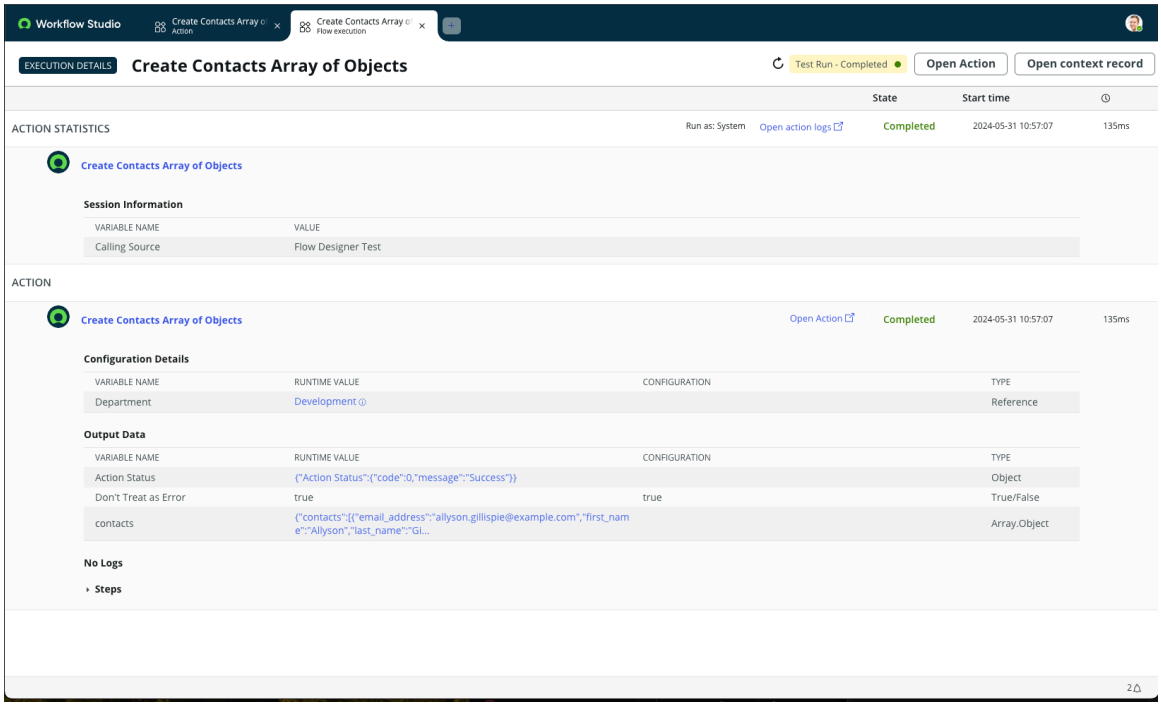
38. [保存] をクリックします。
39. [テスト] を選択します。
    [アクションのテスト] ダイアログが表示されます。
40. 次のテスト値を入力します。



入力	値
部門	開発

41. [テストを実行] を選択します。
    指定されたテスト値を使用してアクションが実行されます。
42. 次を選択します：テストの実行が終了しました。**(Your test has finished running.)** アクションの実行の詳細を表示します。
    アクション実行の詳細が表示されます。
43. アクションの出力データのランタイム値を確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



実行の詳細には出力データが JSON 形式の文字列として表示されますが、実際の出力データタイプはオブジェクトのアレイです。出力の文字列バージョンが必要な場合は、JSON クラスを使用してオブジェクトを文字列に変換できます。JSON オブジェクトを文字列に変換する方法の詳細については、「スコープ対象の JSON - stringify(オブジェクト jsonObject)」を参照してください。

Example
この例では、連絡先オブジェクトには、開発部門の 3 人のユーザーの名、姓、およびメール情報を含む連絡先オブジェクトのアレイが含まれています。

```
{
    "contacts":
        "contact": [
            {
                "email_address": "allyson.gillispie@example.com",
                "first_name": "Allyson",
                "last_name": "Gillispie"
            },
            {
                "email_address": "alva.pennigton@example.com",
                "first_name": "Alva",
                "last_name": "Pennigton"
            },
            {
                "email_address": "andrew.och@example.com",
                "first_name": "Andrew",
                "last_name": "Och"
            }
        ]
    }
}
```

タスクの結果
特定の部門のユーザーをルックアップし、それらのユーザーを連絡先オブジェクトのアレイに変換するカスタムアクションが作成されました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
独自のロジックを使用できるようにこのアクションをカスタマイズします。

レコードリストから文字列のアレイを生成するためのカスタムアクションの作成

ユーザーロールレコードリストから文字列のアレイを生成します。スクリプトステップを使用してレコードリストを反復処理する方法について説明します。

始める前に
必要なロール：admin または flow_designer

このタスクについて
この例を使用して、次の操作とステップのデモンストレーションを確認します。

- ロールレコードのアクション入力を作成します。
- ロールアクション入力を含む最大 3 つのユーザーロールレコードを検索します。
- ユーザーロールレコードリストを処理するスクリプトステップを構成します。
- ユーザーロールレコードリストを含むスクリプト入力変数を作成します。
- 空のユーザーアレイを作成するスクリプトを記述します。
- ユーザーロールレコードリストを反復処理するスクリプトを記述します。
- ユーザーアレイに現在のユーザーフィールド値を入力するスクリプトを記述します。
- ユーザーアレイと子ユーザー文字列のスクリプト出力変数を作成します。
- 生成された文字列のユーザーアレイをデータピルとして出力します。
- 3 つのサンプルユーザーでアクションをテストします。

手順

1. オプション: 作業を保存するアプリケーションを作成します。
   App Engine Studio を使用して、アプリケーションを計画、作成、および展開できます。カスタムアクションの構築に関する詳細については、「App Engine Studio でのアプリのビルド」を参照してください。

   Example
   たとえば、`My Application` というアプリケーションを作成します。
2. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
3. ホームページで、 [アクション] を選択します。
4. [新規] > [アクション]を選択します。
   [アクションプロパティ] ダイアログが表示されます。
5. 次のサンプル値を入力します。

フィールド	値
名前	文字列のロールアレイを持つユーザーを作成する
アプリケーション	グローバル
アクセス可能	すべてのアプリケーションスコープ

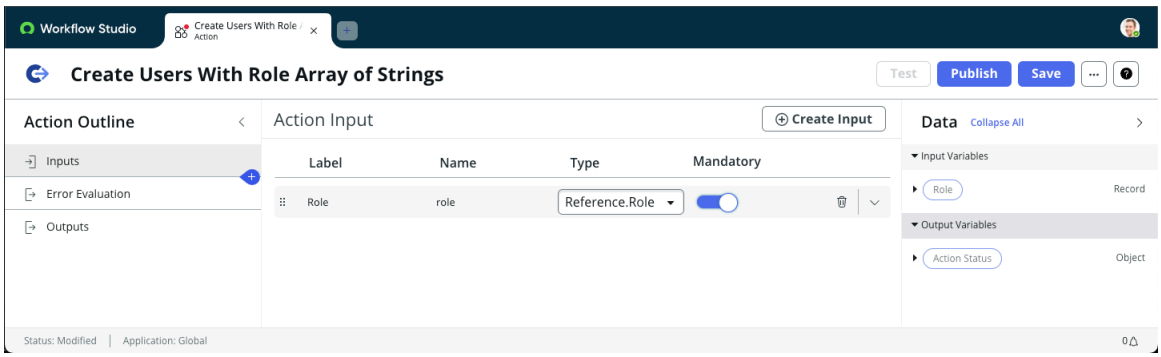
   注: カスタムアクションを保存および展開するアプリケーションを作成した場合は、グローバルではなくそのアプリケーションを使用します。

6. [アクションを構築] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

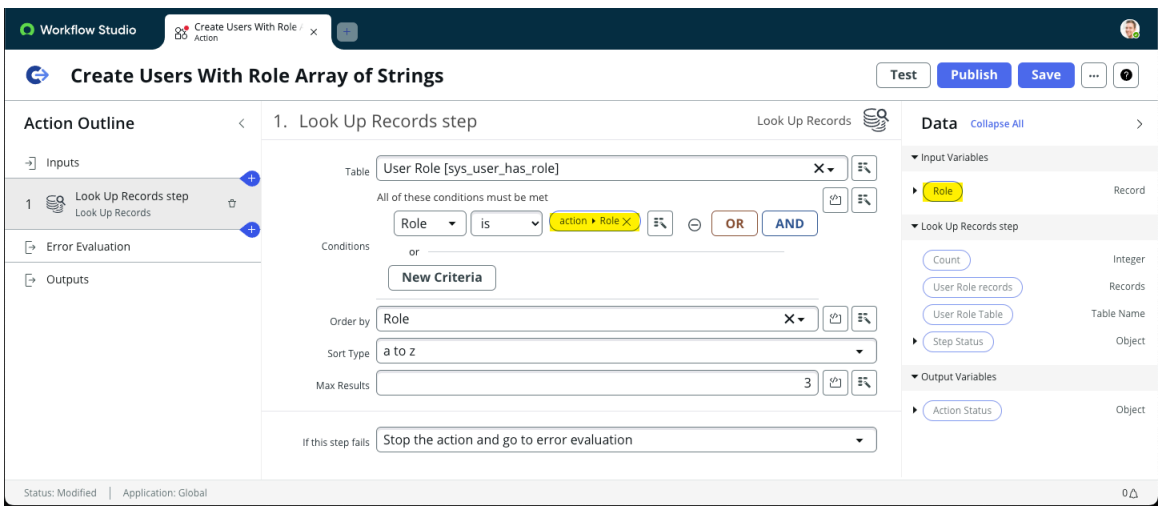
アクションデザイナー インターフェイスが表示されます。

7. [アクションアウトライン] から[入力] > [入力の作成]を選択します。
   新しいアクション入力が表示されます。
8. 次の値を使用してアクション入力を構成します。



フィールド	値
ラベル	ロール
タイプ	Reference.Role [Reference.sys_user_role]
必須	True

9. [アクションアウトライン] から [新しいステップを追加] を選択します。
   利用可能なステップのリストが表示されます。
10. [複数のレコードの検索] を選択します。
11. 次の値を使用してステップを構成します。



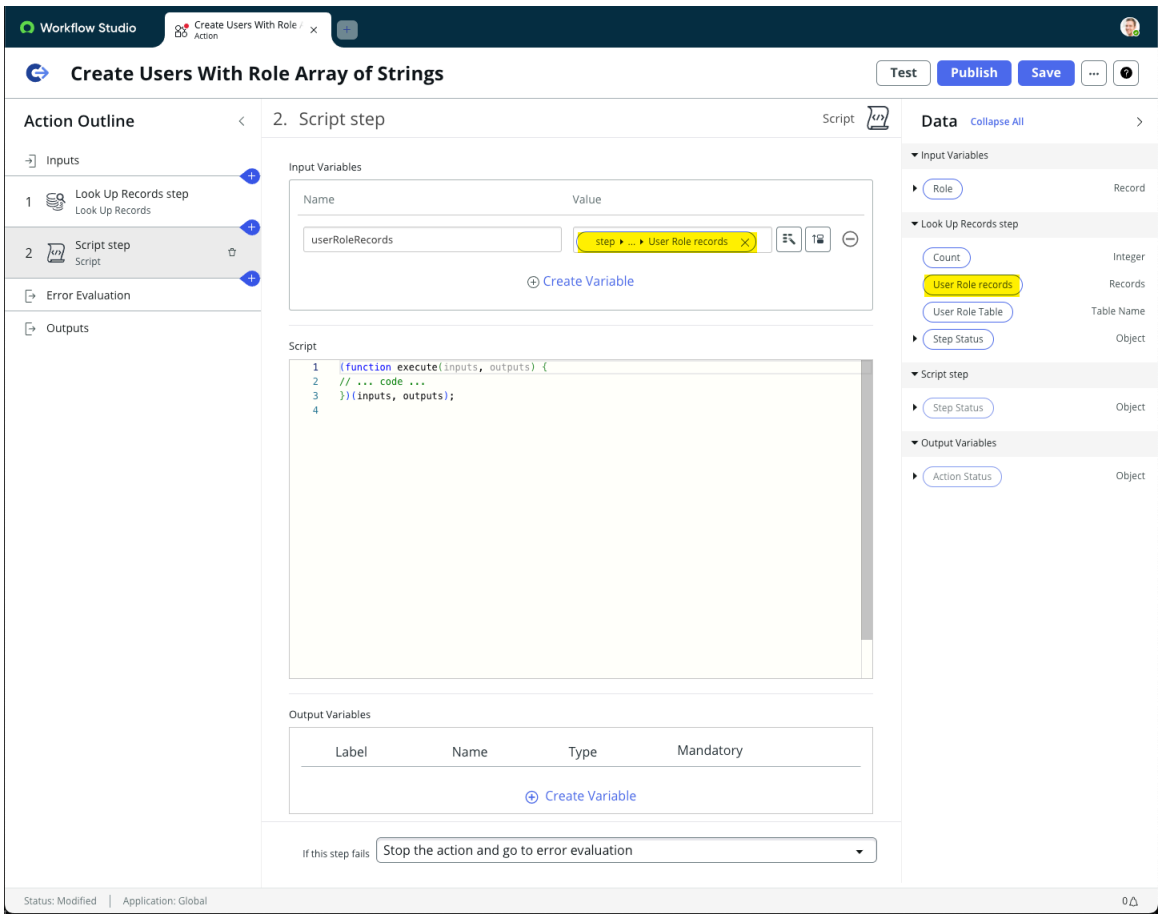
フィールド	値
テーブル	ユーザーロール [sys_user_has_role]
条件	[ロール][次の値に等しい][アクション->ロール] 注: [入力変数] からロールデータピルを選択します。
順番	ロール

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	値
ソートタイプ	a ～ z
結果の最大数	3

> **注:** この例では、デモンストレーションの目的で [結果の最大数] の設定を 3 レコードに制限しています。

12. [アクションアウトライン] から [新しいステップを追加] を選択します。
利用可能なステップのリストが表示されます。
13. [スクリプト] を選択します。
14. [入力変数] セクションから [変数の作成] を選択します。
15. 次の値を使用して入力変数を構成します。



フィールド	値
名前	userRoleRecord
値	[ステップ->複数レコードのルックアップステップ->ユーザーロールレコード] **注:** [複数レコードのルックアップ] ステップからユーザーロールレコードデータピルを選択します。

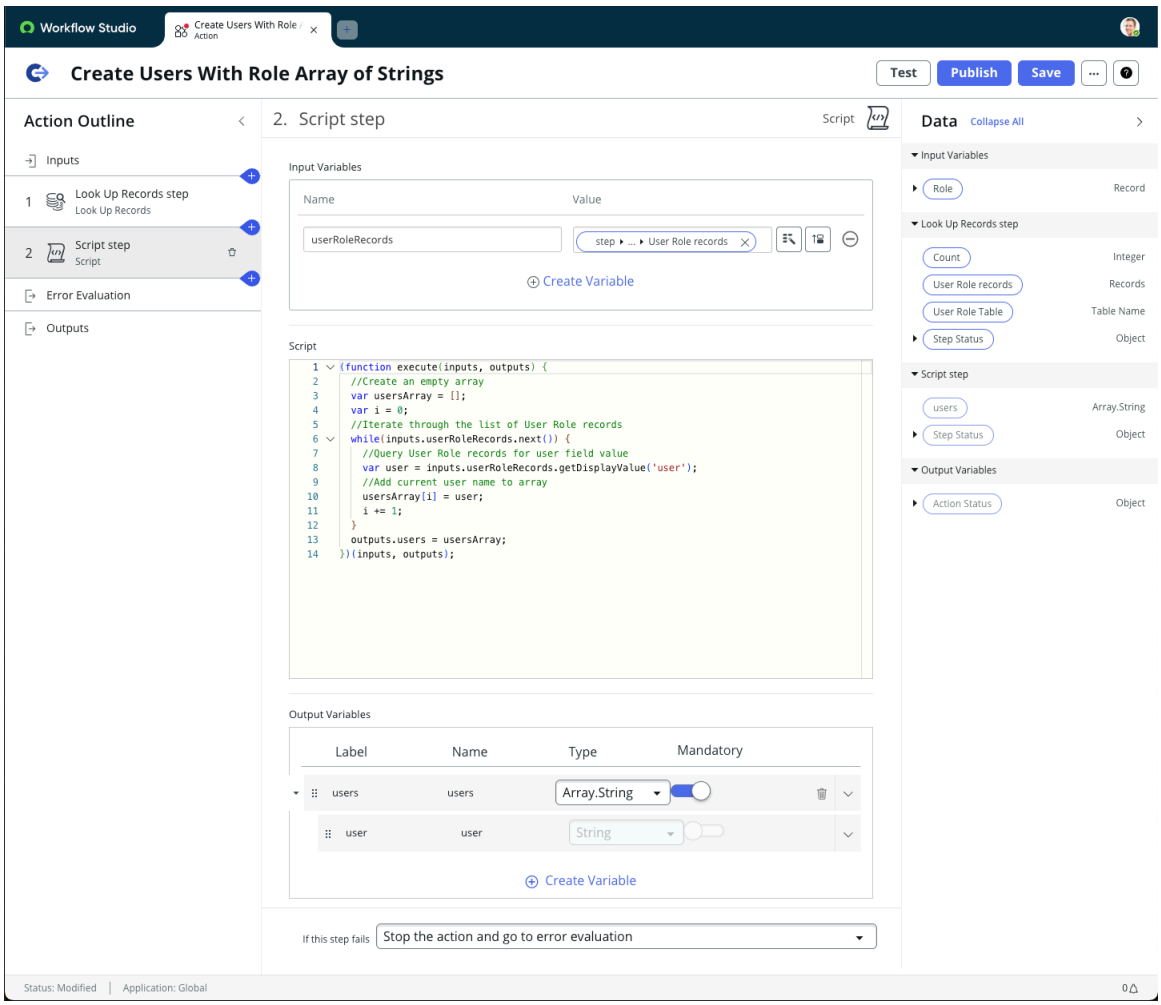
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: ユーザーロールレコードデータピルは、データパネルまたは [データピルピッカー] ボタンから選択できます。

16. [スクリプト] に次のテキストを入力します。

```
(function execute(inputs, outputs) {
  //Create an empty array
  var usersArray = [];
  var i = 0;
  //Iterate through the list of User Role records
  while(inputs.userRoleRecords.next()) {
    //Query User Role records for user field value
    var user = inputs.userRoleRecords.getDisplayValue('user');
    //Add current user name to array
    usersArray[i] = user;
    i += 1;
  }
  outputs.users = usersArray;
})(inputs, outputs);
```

17. [出力変数] から [変数の作成] を選択します。
18. 次の値を使用してアクション出力を構成します。



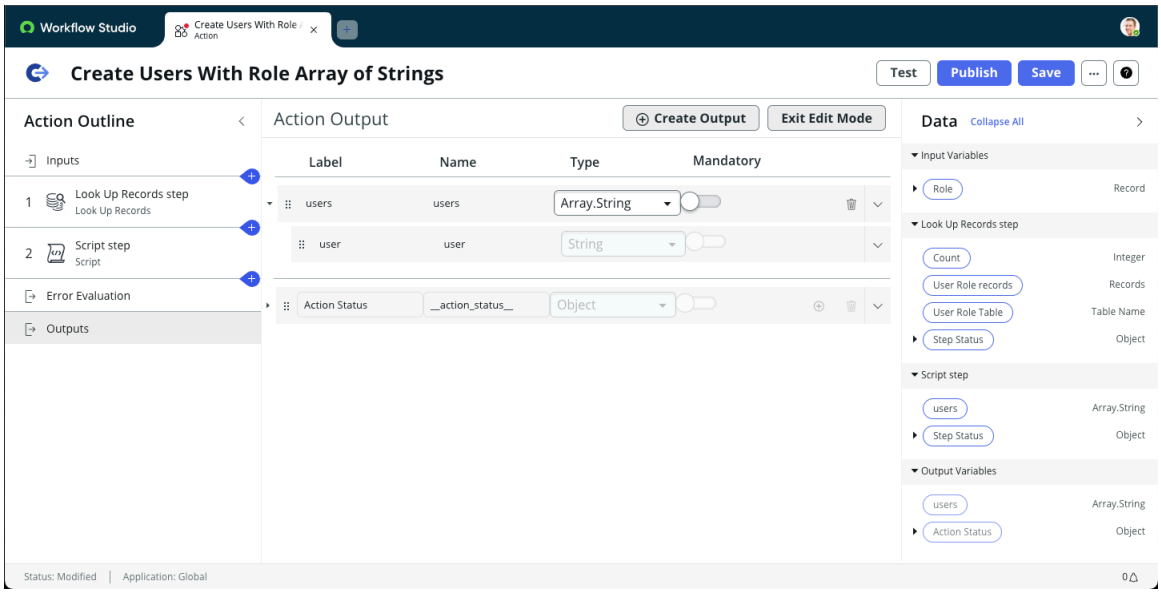
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ラベル	名前	タイプ	必須
ユーザー	ユーザー	Array.String	True

19. users Array.String を展開し、子文字列の名前を `user` に変更します。
20. 次の値を使用して子アイテムを構成します。

ラベル	名前	タイプ	必須
user	user	String	False

21. [アクションアウトライン] から[出力] > [出力の作成]を選択します。
22. 次の値を使用してアクション出力を構成します。



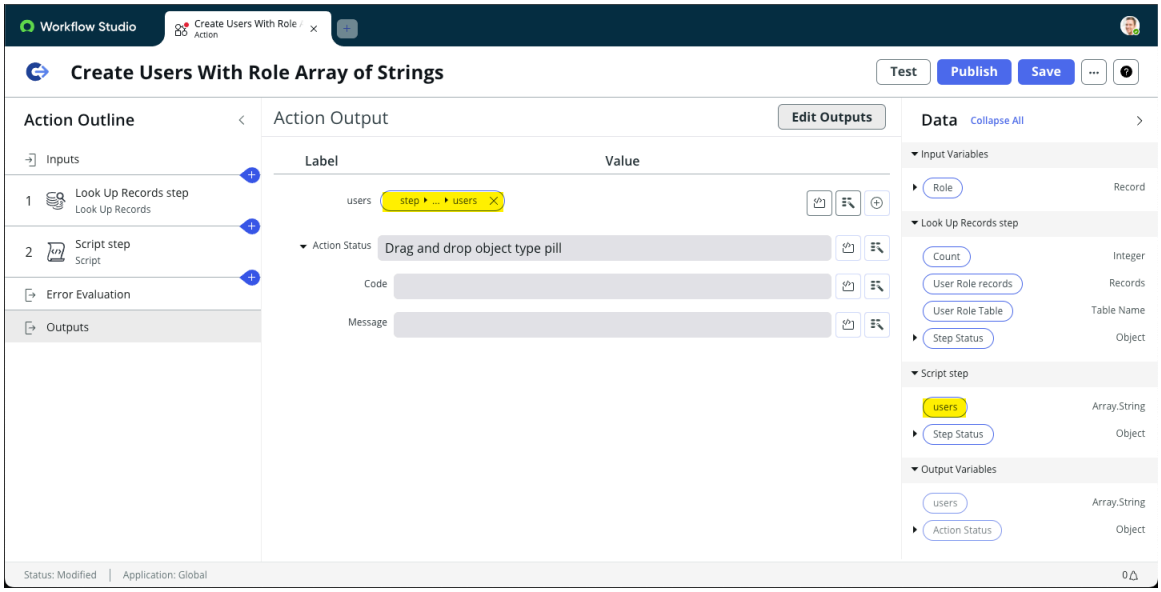
ラベル	名前	タイプ	必須
ユーザー	ユーザー	Array.String	True

23. users Array.String を展開し、子文字列の名前を `user` に変更します。
24. 次の値を使用して子アイテムを構成します。

ラベル	名前	タイプ	必須
user	user	String	False

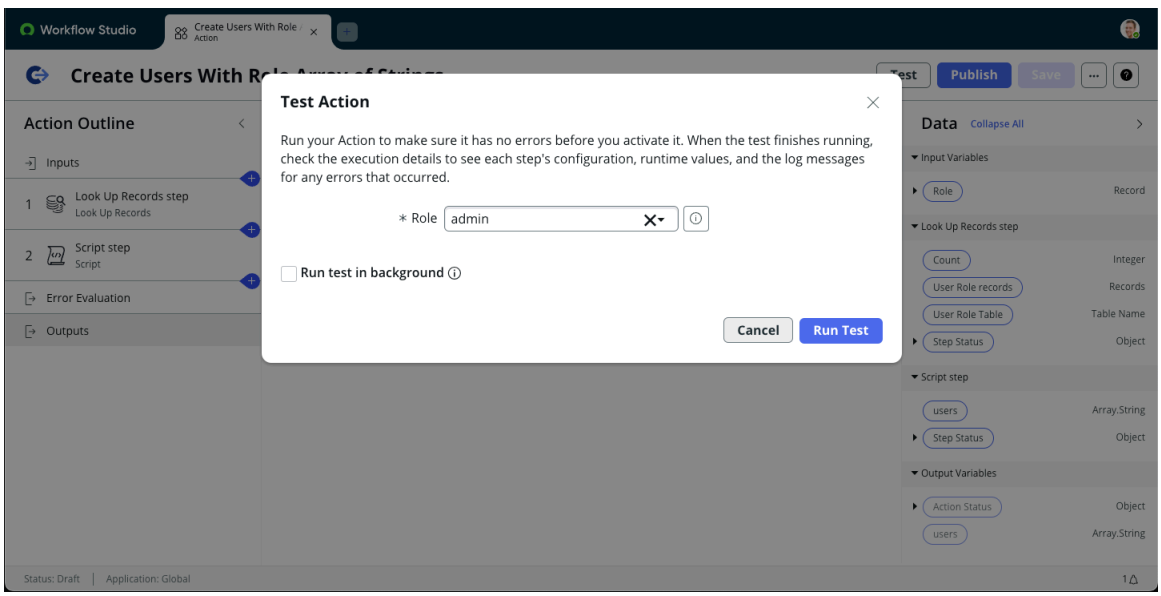
25. [編集モードを終了] を選択します。
作成した出力フィールドが表示されます。
26. **users** の場合は、[ステップ->スクリプトステップ->**users]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注: スクリプトステップ **users** データピルは、データパネルまたは [データピルピッカー] ボタンから選択できます。

27. [保存] をクリックします。
28. [テスト] を選択します。
    [アクションのテスト] ダイアログが表示されます。
29. 次のテスト値を入力します。



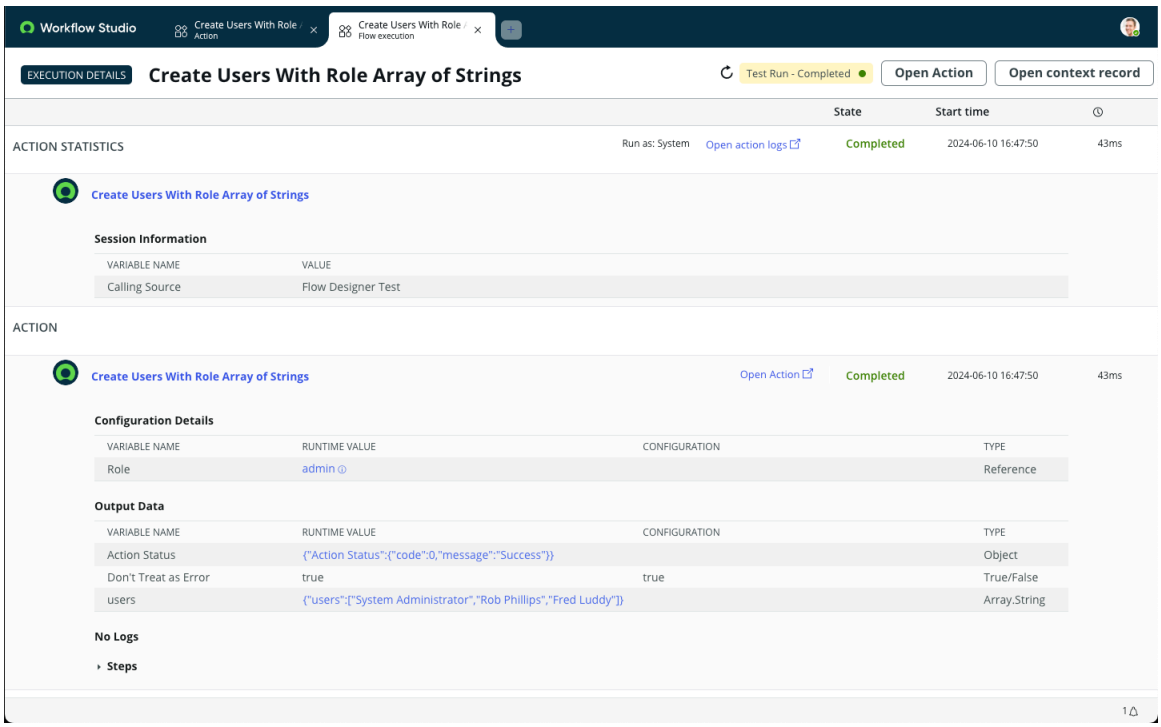
入力	値
ロール	admin

30. [テストを実行] を選択します。
    指定されたテスト値を使用してアクションが実行されます。
31. 次を選択します：テストの実行が終了しました。**(Your test has finished running.)** アクションの実行の詳細を表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション実行の詳細が表示されます。

32. アクション出力データのランタイム値を確認します。



JSON 形式で出力データが表示されます。

Example
この例では、users アレイには admin ロールを持つ 3 人のユーザーが含まれています。

```
{
    "users": [
        "System Administrator",
        "Rob Phillips",
        "Fred Luddy"
    ]
}
```

タスクの結果
特定のロールのユーザーをルックアップし、それらのユーザーをユーザー名文字列のアレイに変換するカスタムアクションが作成されました。

次のタスク
独自のロジックを使用できるようにこのアクションをカスタマイズします。

プレイブックのビルド

フロー、アクション、およびサブフローをプレイブックでリンクすることで、企業間のビジネスプロセスを完全に自動化します。

プレイブックはトリガーとアクティビティで構成され、アクティビティはステージに編成されます。

トリガー

トリガーは、プレイブックに実行を開始するように指示するレコード操作です。各トリガーには、満たす必要があるタイプと条件があります。トリガーは、インタラクティブなレコード操作またはユー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ザーが行ったレコード操作に対してのみ起動されます。詳細については、「トリガー」を参照してください。

ステージ

ビジネスプロセスのステージごとにアクティビティをグループ化し、企業間ワークフローに適した順序でアクティビティを順序付けします。ステージの詳細については、「ステージとアクティビティ」を参照してください。

アクティビティ

アクティビティはビジネスプロセスの 1 つのステップを表し、アクティビティのレコードはアクティビティ定義と呼ばれます。アクティビティインスタンスとアクティビティ定義の詳細については、「概要」および「アクティビティ定義」を参照してください。

プロセスオートメーションデザイナー の使用開始

組織の自動化プロセスを設計するための基本を学びます。Now Platform®でワークフロースタジオ プロセスオートメーションデザイナーがどのように機能するかの概要を理解します。

プロセスオートメーションデザイナー

ワークフロースタジオのプロセスオートメーションデザイナーは、Now Platform では手動の企業間ワークフローを指します。プラットフォームでワークフロースタジオ プレイブックを作成することで、これらのワークフローをデジタル化できます。ワークフロースタジオのプレイブックには、プレイブックと関連するプロセス実行という 2 つの側面があります。

プロセスオートメーションデザイナー

プレイブックは、プレイブックオーナーが、フローデザイナーコンテンツの複数のインスタンスを一貫したビジネスプロセスになるように構成して整理する場所です。プレイブックはトリガーと一連のステージで構成され、ステージは一連のアクティビティで構成されます。

プロセス実行

プロセス実行は、プレイブックの単一のランタイムインスタンスです。

プレイブックのビルド

プロセスオートメーションデザイナーでビジネスプロセスを設計する場合は、プレイブックを作成します。

各プレイブックは、トリガー、ステージ、アクティビティで構成されます。トリガーは、満たされるとプレイブックの実行を開始する条件を定義します。ステージとアクティビティは、ビジネスプロセス全体のステージと個々のステップを表します。プロセスオートメーションデザイナーの設計環境では、これらのステージとプロセスオートメーションデザイナーを、ビジネスプロセスの実行方法を反映するシーケンスに整理できます。

プレイブックの作成が完了したら、トリガーされたときに実行されるようにプロセス定義をアクティブ化します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プレイブック実行時の処理内容

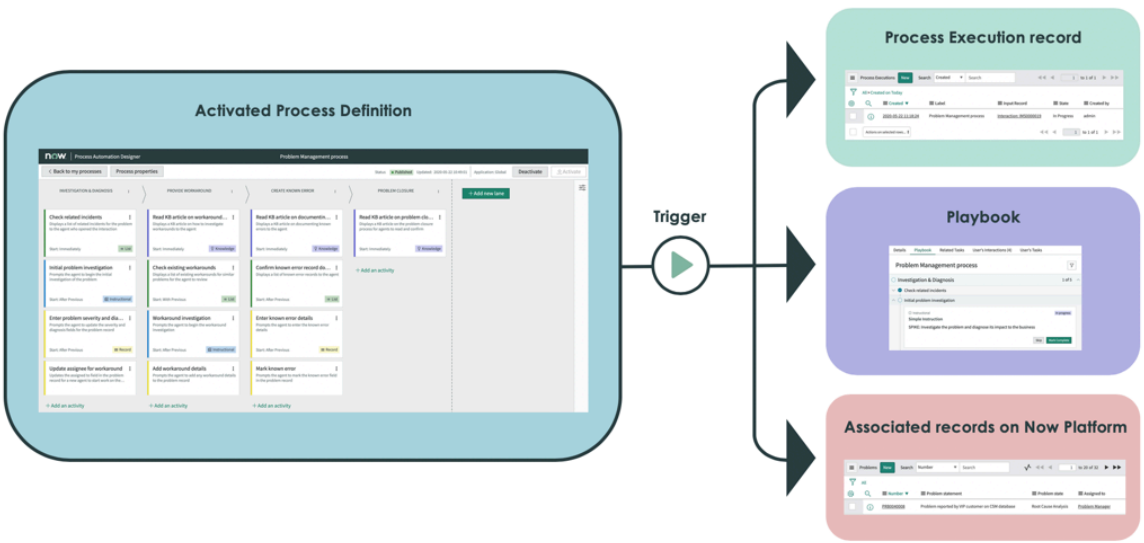
アクティブ化されたプレイブックがトリガーされると、プロセス実行が作成されます。これは、プレイブックの単一の実行中のインスタンスを表します。

プレイブックの実行が開始されると、プロセス実行が作成されます。プロセスの実行が完了するまで、プレイブックの各アクティビティが実行されます。各アクティビティが実行されると、Now Platform で自動レコード操作が実行されます。

アドミニストレーターがプレイブックのプレイブックエクスペリエンスを設定している場合、エージェントと履行者はプレイブックを実行できます。エージェントまたは履行者は、プレイブックの各アクティビティを実行します。これはワークスペースのレコードに関連付けられています。

要約すると、プレイブックは次の場合に実行されます。

1. システムによってプロセス実行が作成される。
2. プレイブックエクスペリエンスが構成され、プレイブックがエージェントに対してレンダリングされます。
3. プロセスの実行に関連付けられているレコードの自動操作が Now Platform で発生する。



プロセスオートメーションデザイナー に関する詳細

ワークフロースタジオのプロセスオートメーションデザイナーを使用してビジネスプロセスのデジタル化を開始する準備ができている場合は、次のリソースを確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 最初の自動化プロセスを設計する
- プレイブック を作成

自動化プロセスを設計する

手動ビジネスプロセスの例を、Now Platform® で実行される適切に設計された自動化プロセスに変換します。

始める前に

- Now Platform App Engine のサブスクリプションを使用して、**App Engine** のプロセスオートメーションデザイナー**[com.glide.pad.license]** プラグインを有効にします。詳細については、「プレイブックのアクティブ化」を参照してください。
- 「プレイブックユーザーエクスペリエンスの構成」の手順に従います。
- 現在のアプリケーションが [グローバル] に設定されていることを確認します。詳細については、「アプリケーションピッカー」を参照してください。
- 必要なロール：admin または playbook.admin

このタスクについて

次の手順では、ワークフロースタジオでプロセスオートメーションデザイナーを使用して Now Platform で手動ビジネスプロセスをデジタル化する方法をステップごとに説明します。この例では、プロセスオートメーションデザイナー を使用して、サービスデスクエージェントが VIP ユーザーとのチャットインタラクションを処理する方法を標準化および自動化できます。

この例の手動ビジネスプロセスは、次のステージで構成されています。

1. *Identify and Log*：サービスデスクエージェントが VIP ユーザーがメッセージングアプリケーションでユーザーとチャットしているときに直面している問題を認識します。サービスデスクエージェントが、この問題を追跡するインタラクションレコードを作成します。
2. *Classify and Diagnose*：サービスデスクエージェントが、インシデントレコードをインタラクションに関連付け、インシデントの優先度を [高] に設定します。次に、エージェントがインシデントのアサイン先ユーザーを入力します。
3. *Communicate Work in Progress*：アサイニーが、インシデントレコードのステータスを [対応中] に更新し、インシデントが進行したときに VIP ユーザーにメールを送信します。
4. *Resolve*：インシデントが解決されると、アサイニーが解決情報を VIP ユーザーにメールで送信します。

手順

1. *Handle Interactions with VIPs* という名前のプレイブックを作成します。

   a. [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] > [プレイブック] に移動します。

   b. メインヘッダーで、[新しいプロセスを作成] をクリックします。

   c. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	アクション
ラベル	`Handle Interactions with VIPs` と入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	アクション
説明	`This process defines how Service Desk agents can handle interaction records that are created for VIP users.` と入力します。
アプリケーション	[グローバル] を選択します。

d. [トリガーを選択] をクリックします。

e. [プロセスを実行する独自のトリガー条件を定義する **(Define your own trigger conditions for when your process runs)]** オプションをクリックします。

f. トリガーオプションのリストから、[レコードの作成 **(Record Create)]** を選択します。

g. [トリガー条件を設定] をクリックします。

h. [テーブル] リストで、[インタラクション **[interaction]]** を選択します。

i. 条件ビルダー を使用して、次の条件をトリガーに追加します。
[Opened for->VIP] [is] [True].

j. [デザイナーに移動] をクリックします。

プロセスオートメーションデザイナー 設計環境が表示されます。

2. プロセスの各ステージにステージを追加します。

a. **[+** ステージを追加] をクリックして、最初のステージをプロセスに追加します。

b. ステージのプロパティパネルの [ラベル] フィールドに、`Classify and Diagnose` と入力します。

> 注: *`Identify and Log`* ステージはこのプロセスをトリガーするため、ステージとして追加しないでください。

c. [説明] フィールドに、`Associate an incident with the interaction` と入力します。

d. [開始時期 **(When to start)]**フィールドで、[即座] を選択したままにして、[保存] をクリックします。

e. **[+** ステージを追加] をクリックして、別のステージをプロセスに追加します。

f. ステージのサイドパネルの [ラベル] フィールドに、`Communicate Work in Progress` と入力します。

g. [説明] フィールドに、`Notify VIP of work in progress` と入力します。

h. [開始時期 **(When to start)**] フィールドで、[前回の後] を選択したままにして、[保存] をクリックします。

i. **[+** ステージを追加] をクリックして、最後のステージをプロセスに追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

j. ステージのサイドパネルの [ラベル] フィールドに、`Resolve` と入力します。

k. [説明] フィールドに `Resolve incident and share resolution details` と入力します。

l. [開始時期 **(When to start)**] フィールドで、[前回の後] を選択したままにして、[保存] をクリックします。

3. *`Create incident from interaction`* アクティビティを [分類と診断 **(Classify and Diagnose)**] ステージに追加します。
   a. [分類と診断 **(Classify and Diagnose)**] ステージで、**[+** アクティビティを追加] をクリックします。
   b. アクティビティピッカーで、[一般的なアクティビティ] を選択し、[非インタラクティブ] の [レコードの作成の自動化] を選択します。
   c. アクティビティプロパティパネルの [ラベル] フィールドに、`Create incident from interaction` と入力します。
   d. [開始時期 **(When to start)**]フィールドで、[即座] を選択したままにして、[保存] をクリックします。
   e. [インタラクションからインシデントを作成 **(Create incident from interaction)**] アクティビティカードをクリックします。
   f. アクティビティのプロパティパネルで、[アクティビティを設定する] をクリックします。
   g. [アクティビティを設定する] 画面で、[入力] の下の [変数] セクションに移動します。
   h. [テーブル名] リストで、[インシデント **[incident]**] を選択します。
   i. [フィールド] リストから [アサイン先] を選択します。
   j. [アサイン先] フィールドの隣にあるデータピルピッカーアイコン ( ) を選択します。
   k. [コンテキスト] > [入力レコード **-** インタラクション **(Input Record - interaction)**] > [アサイン先] を選択して、インタラクションレコードの [アサイン先]フィールドにドット連結します。
   l. [フィールド] リストで、[影響度] を選択し、**[2 -** 中] を選択します。
   m. [フィールド] で、[緊急度] を選択し、**[1 -** 高] を選択します。
   n. [フィールド] リストで、[簡単な説明]を選択します。
   o. [コンテキスト] > [入力レコード **-** インタラクション **(Input Record - interaction)**] > [簡単な説明] を選択して、インタラクションレコードの [簡単な説明] フィールドにドット連結します。
   p. [フィールド] リストで、[問い合わせユーザー]を選択します。
   q. [コンテキスト] > [入力レコード **-** インタラクション **(Input Record - interaction)**] > [オープン対象者] を選択して、インタラクションレコードの [オープン対象者]フィールドにドット連結します。
   r. **[** ユーザー入力待ち] フィールドで、[いいえ] を選択したままにします。
   s. [作成後に表示するフィールド] フィールドに `priority` と入力します。
   t. [更新] をクリックして、アクティビティの入力の更新を終了します。
   [インタラクションからのインシデントの作成 **(Create incident from interaction)**] アクティビティは、プロセスの実行時にインタラクションレコードの [アサイン先] フィールドと [簡単な説明] フィールドをインシデントレコードに自動的にマッピングします。
4. [アサイニーが更新するのを待機 **(Wait for assignee to update)**] アクティビティを [対応中の作業の連絡 **(Communicate Work in Progress)**] ステージに追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [対応中の作業の連絡 **(Communicate Work in Progress)]** ステージで、**[+** アクティビティを追加] をクリックします。

b. アクティビティピッカーで、[一般的なアクティビティ] を選択し、[インタラクティブ] の [条件待ち] を選択します。

c. アクティビティのプロパティパネルの [ラベル] フィールドに、`Wait for assignee to update` と入力します。

d. [開始時期 **(When to start)]**フィールドで、[即座] を選択したままにして、[保存] をクリックします。

e. [アサイニーが更新するのを待機 **(Wait for assignee to update)]** アクティビティカードをクリックします。

f. アクティビティのプロパティパネルで、[アクティビティを設定する] をクリックします。

g. [アクティビティを設定する] 画面で、[入力] の下の [変数] セクションに移動します。

h. [レコード] フィールドの隣にあるデータピルピッカーアイコン ( ) を選択します。

i. [アクティビティ] > **[1:1 - automated_create_record]** > [出力] > [レコード] を選択して、アクティビティのレコード出力から [インタラクションからのインシデントの作成 **(Create incident from interaction)]** にドット連結します。

j. [テーブル] リストで、[インシデント **[incident]]** を選択します。

k. 条件ビルダー を使用して、次の条件をアクティビティーに追加します。
[更新者]**[is]**[アクティビティ] > **[1:1 - automated_create_record]** > [出力] > [レコード] > [アサイン先]。

l. [更新] をクリックして、アクティビティの入力の更新を終了します。

[アサイニーが更新するのを待機 **(Wait for assignee to update)]** アクティビティは、インシデントレコードの [アサイン先] ユーザーがレコードを更新するまでプロセスを一時停止します。

5. *`Send update to VIP`*アクティビティを [対応中の作業の連絡 **(Communicate Work in Progress)]** ステージに追加します。

a. [対応中の作業を連絡 **(Communicate Work in Progress)]** ステージで、**[+** アクティビティを追加] を選択します。

b. アクティビティピッカーで、[一般的なアクティビティ] を選択し、[デフォルト] の [説明] を選択します。

c. アクティビティのプロパティパネルの [ラベル] フィールドに、`Send update to VIP` と入力します。

d. [開始時期 **(When to start)]**フィールドで、[前回の後 **(After Previous)]** を選択したままにして、[保存] を選択します。

e. **[VIP** に更新を送信 **(Send update to VIP)]** アクティビティカードをクリックします。

f. アクティビティのプロパティパネルで、[アクティビティの設定] を選択します。

g. [アクティビティを設定する] 画面で、[入力] の下の [変数] セクションに移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

h. [メッセージ] フィールドに、`Notify the VIP user that work on their issue is in progress` と入力します。

i. [ユーザー入力待ち] フィールドの値は [はい] のままにします。

j. [更新] をクリックして、アクティビティの入力の更新を終了します。
[VIP に更新を送信 (Send update to VIP)] アクティビティは、インシデントレコードのアサイニーが更新を行うと、VIP ユーザーにメールを送信するようにエージェントに指示します。

6. *`Wait for incident resolution`* アクティビティを [解決] ステージに追加します。

a. [解決] ステージで、**[+** アクティビティを追加] を選択します。

b. アクティビティピッカーで、[一般的なアクティビティ] を選択し、[インタラクティブ] の [条件待ち] を選択します。

c. アクティビティプロパティパネルの [ラベル] フィールドに、`Wait for incident resolution` と入力します。

d. [開始時期 **(When to start)]**フィールドで、[即座] を選択したままにして、[保存] をクリックします。

e. [インシデントの解決待ち **(Wait for incident resolution)]** アクティビティカードをクリックします。

f. アクティビティのプロパティパネルで、[アクティビティを設定する] をクリックします。

g. [アクティビティを設定する] 画面で、[入力] の下の [変数] セクションに移動します。

h. [レコード] フィールドの隣にあるデータピルピッカーアイコン ( ) を選択します。

i. [アクティビティ] > **[1:1 - automated_create_record]** > [出力] > [レコード] を選択して、*`Create incident from interaction`* アクティビティのレコード出力にドット連結します。

j. [テーブル] フィールドで、[インシデント**[incident]]**を選択します。

k. 条件ビルダー を使用して、次の条件をアクティビティーに追加します。
[ステータス] **[is]** [解決済み]。

l. [更新] を選択して、アクティビティの入力の更新を終了します。

[インシデントの解決待ち **(Wait for incident resolution)]** アクティビティは、インシデントのステータスが [解決済み]になるまでプロセスを一時停止します。

7. *`Share resolution details with VIP`*アクティビティを [解決] ステージに追加します。

a. [解決] ステージで、**[+** アクティビティを追加] を選択します。

b. アクティビティピッカーで、[一般的なアクティビティ] を選択し、[デフォルト] の [説明] を選択します。

c. アクティビティプロパティパネルの [ラベル] フィールドに、`Share resolution details with VIP` と入力します。

d. [開始時期 **(When to start)**] フィールドで、[前回の後] を選択したままにして、[保存] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

e. [解決の詳細を **VIP** と共有 **(Share resolution details with VIP)]** アクティビティカードをクリックします。

f. アクティビティのプロパティパネルで、[アクティビティを設定する] をクリックします。

g. [アクティビティを設定する] 画面で、[入力] の下の [変数] セクションに移動します。

h. [メッセージ] フィールドに、`Provide the Resolution Notes from the Incident record in an email to the VIP user` と入力します。

i. [ユーザー入力待ち] フィールドの値は [はい] のままにします。

j. [更新] をクリックして、アクティビティの入力の更新を終了します。
[解決の詳細を **VIP** と共有 **(Share resolution details with VIP)]** アクティビティは、問題解決の詳細を VIP ユーザーに送信するようにエージェントに求めます。

8. メインヘッダーで、[有効化] をクリックして、トリガーされたときにプロセスが実行されるようにします。

9. 有効化されたプロセスをプレイブックとして表示します。

a. プロセスオートメーションデザイナー タブを閉じて、プレイブックエクスペリエンス に移動します。

b. サイドメニューで、[リスト] アイコン ( ) をクリックします。

c. [リスト] タブの [インタラクション] で [自分のインタラクション] をクリックします。

d. フォームヘッダーで [新規] をクリックします。

e. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	アクション
タイプ	[チャット] を選択します。
オープン対象者	VIP ユーザーを選択します。
アサイン先	インシデントレコードを更新できるユーザーを選択します。
簡単な説明	`Testing out the Handle Interactions with VIPs playbook` と入力します。

f. フォームヘッダーで [保存] をクリックします。

g. コンテキストサイドパネルで、プレイブックアイコン ( ) をクリックします。

タスクの結果

プロセスがプレイブックとして表示されます。ここでエージェントと履行者が、自動化されたビジネスプロセスのタスク指向のビューを取得できます。エージェントは、設定したアクティビティを段階的に実行して、レコードがプロセス全体のどこにあるかを確認できます。

トリガー

トリガーは、いつプレイブックの実行を開始するかを指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロセスオートメーションデザイナーでは、トリガーは、プレイブックの実行を開始するタイミングを示します。各トリガーには、タイプとアクティブ化されたプレイブックの実行を開始する条件があります。

ワークフロースタジオでプレイブックを作成するときにトリガーを選択できます。まず、トリガータイプを定義するトリガーを追加します。次に、条件やその他のオプションを設定してトリガーを絞り込み、ビジネスプロセスに適した方法でトリガーが起動されるようにします。詳細については、「プロセス定義の作成」を参照してください。

ユースケースに適したトリガーがない場合は、代わりに独自のトリガー定義を作成できます。詳細については、「トリガー定義の作成」を参照してください。

トリガーの仕組み

トリガータイプ

トリガー定義 [sys_pd_trigger_definition] レコードでは、トリガーがいつ発生するかを決定するトリガータイプを選択できます。これらのトリガータイプは、Now Platform® で発生する可能性があるレコード操作を表します。インスタンスでは、デフォルトで次のトリガータイプを使用できます。

レコードの作成
: プレイブックは、ユーザーが Now Platform で任意の場所にレコードを作成したときに実行されます。

レコードが更新されました
: プレイブックは、ユーザーが Now Platform の任意の場所で既存のレコードを更新したときに実行されます。

レコードが作成または更新される
: プレイブックは、ユーザーが Now Platform の任意の場所でレコードを作成するか既存のレコードを更新したときに実行されます。

注: トリガーは、インタラクティブなレコード操作またはユーザーが行ったレコード操作に対してのみ起動されます。非インタラクティブなレコード操作ではトリガーが起動しません。詳細については「非インタラクティブなセッション」を参照してください。

実行条件

プレイブックにトリガーを追加した後、トリガーをいつどのように発生させるかを決定する条件やその他のオプションを設定できます。

オプション	アクション
条件	条件ビルダーを使用して、プレイブックを実行するときのフィールド条件を作成します。「条件ビルダー」を参照してください。
プロセスを実行 (Run my process)	プレイブックを実行するときのオプションを選択します。次のオプションが含まれます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	• **1 回**：トリガー入力レコードの有効期間中にプレイブックを 1 回トリガーします。 • それぞれ一意の変更の場合：フローが現在実行中でも、非システムフィールドに対するすべての一意な更新に関するプレイブックをトリガーします。レコードに対するすべての変更の履歴が保存され、変更が一意であるかどうかが判断されます。たとえば、インシデントレコードの [ステータス] フィールドが [処理中] から [保留中] に変更されると、プレイブックが実行可能になります。ただし [ステータス] フィールドが [処理中] に戻ると、プレイブックは実行できません。 **注:** [それぞれ一意の変更の場合] を実行するトリガーを持つプロセスオートメーションデザイナーは、非インタラクティブセッションで実行するときに再帰を生じる可能性があります。このようなプレイブックがトリガーレコードに変更を加えると、変更がプレイブックトリガー条件を満たし、再帰が生じます。 • 現在実行されていない場合のみ：プロセスが現在実行されていない場合、すべての一意の変更に対してプレイブックをトリガーします。 • 更新ごと：すでに実行されたかまたは現在実行中のプロセス実行があるかどうかに関係なく、入力レコードが更新されるたびにプレイブックをトリガーします。
拡張済みに対して実行	選択したテーブルから拡張されたテーブルでプレイブックをトリガーするには、このオプションを選択します。たとえば、このオプションを有効にして構成アイテム [cmdb_ci] テーブルを選択すると、サーバー [cmdb_ci_server]、コンピューター [cmdb_ci_computer]、およびその他の拡張テーブルでレコード操作が行われたときにプレイブックが実行されます。詳細については、「テーブル拡張とクラス」を参照してください。

デザインの検討

トリガーを操作するときは、次の設計上の考慮事項を参照してください。

同じテーブルのレコードトリガーに一意のフィルター条件を作成する

プレイブックが互いに上書きされないようにするには、同じテーブルで実行されているプレイブックごとに一意のフィルター条件を作成します。同じテーブルの複数のプレイブックに同じフィルターがある場合、プレイブックが実行される順序を知る方法はありません。

フローデザイナー フローで使用されるトリガーの重複を避ける

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロセスオートメーションデザイナー トリガーは フローデザイナートリガーを上書きしません。どちらのアプリケーションでも、トリガー条件が満たされると、自動化プロセスが実行されます。

インポートおよび更新セットによって追加または更新されたレコードを無視する

レコードトリガーは、更新セットの適用または XML ファイルのインポートによって追加または更新されたレコードを無視します。これらの操作は、個々のレコードではなく、アプリケーションまたはテーブル全体に適用されます。

トリガー定義の作成

プレイブックの実行を開始するタイミングを決定するトリガーのタイプを定義します。

始める前に

- 現在のアプリケーションを、プレイブックを実行するアプリケーションに設定してください。詳細については、「アプリケーションピッカー」を参照してください。
- 必要なロール：admin、pd_admin、または pd_trigger_author

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [プロセス自動化管理] > [トリガー定義]に移動します。
2. コンテキストヘッダーで、[新規] をクリックします。
3. トリガー定義フォームの [ラベル] フィールドに、トリガー定義のラベルを入力します。
   このラベルは、作成プレイブック時にトリガーオプションとして表示されます。
4. [トリガータイプ] フィールドの隣にある、[リストから参照] アイコン ( ) をクリックします。
5. [トリガータイプ] リストで、トリガー定義に使用するトリガータイプを選択します。
   次のオプションが含まれます。

   レコードの作成

   プレイブックは、ユーザーが Now Platform で任意の場所にレコードを作成したときに実行されます。

   レコードが更新されました

   プレイブックは、ユーザーが Now Platform の任意の場所で既存のレコードを更新したときに実行されます。

   レコードが作成または更新される

   プレイブックは、ユーザーが Now Platform の任意の場所でレコードを作成するか既存のレコードを更新したときに実行されます。

   注: トリガーは、インタラクティブなレコード操作またはユーザーが行ったレコード操作に対してのみ起動されます。非インタラクティブなレコード操作ではトリガーが起動しません。詳細については「非インタラクティブなセッション」を参照してください。

6. [次へ] をクリックして次のステップに進みます。
7. [テーブル] リストで、レコード操作でプレイブックをトリガーするテーブルを選択します。
8. [条件] で、 条件ビルダー を使用して、 プレイブック をトリガーするときのフィールド条件を追加します。
9. 選択したテーブルを拡張するテーブルのプレイブックをトリガーするには、[拡張済みに対して実行] チェックボックスをオンにします。
   詳細については、「テーブル拡張とクラス」を参照してください。
10. [更新] をクリックして、トリガー定義の作成を完了します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
トリガー定義がトリガー定義 [sys_pd_trigger_definition] テーブルに追加されます。プレイブックを作成する場合に、プリセットトリガーを選択できるようになりました。

プレイブックでトリガーを追加して構成する

トリガーを追加して構成することで、プレイブックのビルドを開始します。

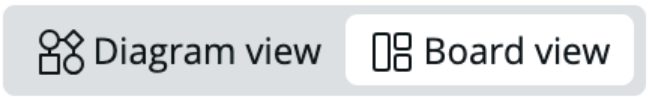
始める前に
必要なロール：playbook.admin または pd_author

トリガー を見直します。

必要に応じてトリガー定義を作成します。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] > [プレイブック] > に移動します。
2. ビルドに使用するビューを選択します。
   ビルダーはデフォルトで [ダイアグラムビュー] に表示されますが、[ボードビュー] を選択してビューを切り替えることができます。プレイブックのビルド中にいつでもビューを切り替えることができます。



3. トリガーの構成モーダルを開きます。

ビュー	ステップ
図	[開始] を選択して、このプレイブックをトリガーするレコード操作を選択します。
ボード	[その他のアクション] メニュー] ( ) を開き、[プロパティ] を選択します。

4. **注:** トリガーなしでプレイブックをアクティブ化することはできないため、通知トレイにエラーが表示されます。

   [スケジュール] タブで、プレイブックをトリガーする方法を選択します。

   - プロセスを実行する独自の条件を定義します：プレイブックを実行するタイミングについて独自のカスタム条件を作成する場合は、このオプションを選択し、トリガータイプを選択してから、[トリガー条件を設定] を選択します。次の画面で、プレイブックをトリガーする [テーブル]とプレイブックを実行する [条件] を選択します。最後に、テーブル拡張とクラス でトリガーを実行することを選択できます。トリガーへの条件の追加が完了したら、[完了] をクリックします。
   - 既存のトリガーを選択：プレイブックに必要なすべての条件を持つトリガーを使用する場合は、このオプションを選択します。次に、リストから既存のトリガーを選択し、[完了] を選択します。

   注: プロセスオートメーションデザイナーは、顧客が使用できる任意のテーブルからトリガーできます。

   トリガーが設定されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
ステージを追加して構成します。

ステージとアクティビティ

プロセスオートメーションデザイナー では、アクティビティはビジネスプロセス全体の中の 1 つのステップを表します。多くのアクティビティを、プロセスのステージにまとめて順序付けることができます。

ステージ

ビジネスプロセスのステージごとにアクティビティをグループ化し、企業間ワークフローに適した順序でアクティビティを順序付けします。ステージは、論理的な方法でグループ化された多数の一連のアクティビティで構成されています。設計環境のプロセスオートメーションデザイナーボードビューで、**[+** ステージを追加] をクリックしてプレイブックにステージを追加できます。ダイアグラムビューで、コネクタ (行) の **[+]** アイコンを選択してステージを追加します。

アクティビティ

プロセスオートメーションデザイナー では、アクティビティはビジネスプロセス全体の中の 1 ステップを表します。システムでは、アクティビティはアクティビティ定義の 1 つのインスタンスです。アクティビティインスタンスとアクティビティ定義の詳細については、「プレイブックユーザーエクスペリエンス」および「アクティビティ定義」を参照してください。

プレイブックへのアクティビティの追加

設計環境の プロセスオートメーションデザイナー ボードビューで、**[+** アクティビティを追加] を選択してアクティビティピッカーを開きます。ダイアグラムビューで、コネクタ (行) の **[+]** アイコンを選択してアクティビティピッカーを開きます。 アクティビティピッカーで、追加するアクティビティを検索するか、[一般的なアクティビティ] のリストからアクティビティを選択できます。カスタムアプリケーションのアクティビティを選択するには、まずアプリケーションを選択してから、ピッカー内の結果のリストからアクティビティを選択します。

さらに、自動化資産のみを使用してアクティビティを追加できます。

ユースケースに適したアクティビティがない場合は、独自のアクティビティ定義を作成してアクティビティピッカーに追加できます。詳細については、「アクティビティ定義の作成」を参照してください。

インタラクティブアクティビティおよび非インタラクティブアクティビティ

アクティビティのカテゴリは次のとおりです。

インタラクティブアクティビティ

インタラクティブアクティビティが実行されると、次のように処理されます。プレイブックの実行時にユーザーに入力を求めます。詳細については、「インタラクティブアクティビティ」を参照してください。

非インタラクティブアクティビティ

非インタラクティブアクティビティが実行されると、次のように処理されます。完全にバックグラウンドで実行されます。そのため、ユーザー入力は不要です。詳細については、「非インタラクティブアクティビティ」を参照してください。

オプションのアクティビティ

オプションのアクティビティは、プレイブック の実行中にエージェントと履行者が挿入できます。詳細については、「オプションのアクティビティ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ステージとアクティビティの詳細

アクティビティを選択すると、サイドパネルが開きます。サイドパネルの [詳細] タブで、名前、説明、開始ルールをプレイブックのステージとアクティビティに追加できます。[追加オプションの表示/非表示を切り替え(show or hide additional options)] ボタンをクリックして、現在選択しているステージまたはアクティビティの追加プロパティを表示または非表示にします。各ステージとアクティビティの基本的な詳細は次のとおりです。

ラベル

ステージまたはアクティビティの表示名を入力できます。この名前は プレイブック 実行時に表示されます。

注: 長い名前はシステムによって切り捨てられるため、ステージとアクティビティの名前は簡潔にしてください。

説明

必要に応じて、アクティビティまたはステージの説明を入力します。この説明は、この説明はプロセスオートメーションデザイナー内部にのみ表示され、プレイブックの実行時には表示されません。

開始ルール

[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。

- プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。
- 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。

[スケジュール] > [開始ルール]で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。

- ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。
- 特定のアクティビティの後**(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。

実行条件

アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。

アクティビティ入力

サイドパネルの [自動化] タブには、各アクティビティで以下の入力を設定可能です。

- アクティビティのデフォルトの入力と出力を変更するには、[自動化] フィールドの横にある [リンクを開く] アイコン ( ) を選択して、フローデザイナー でソースフローを開いて編集します。

  プロセスオートメーションデザイナー のアクティビティのデフォルトの入力と出力を操作する方法の詳細については、「アクティビティ自動化プランとしてアクションを作成する」を参照してください。

  注: フローデザイナー および アクションデザイナー にアクセスするには、適切なユーザーロールが必要です。詳細については、「ワークフロースタジオ フローへのユーザーアクセス」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 入力は、アクティビティを実行し、その機能を適切に実行するために提供するデータです。たとえば、アプリケーションの却下を顧客に通知するレコードのアクティビティには、メールアドレス、件名、本文などのメッセージ入力があります。
- [自動化] タブの下部に、予測される出力が表示されます。

アクティビティ入力の静的および動的な値の作成

アクティビティ入力に動的データを追加できます。データピルピッカーアイコン ( ) をクリックし、アクティビティの実行時に使用する動的な値を含むデータピルに移動またはドット連結します。入力レコードのフィールドから動的データを選択できます。アクティビティの開始ルールが [特定のアクティビティの後 **(After specific activities)]** の場合は、プレイブック内の他のアクティビティの出力から動的データを選択することもできます。Now Platform の関連フィールドおよびレコードへのドット連結の詳細については、「ドット連結を使用した関連テーブルのフィールドの選択」を参照してください。

注: 参照のフィールドではドット連結することができますが、ドキュメント ID またはシステム ID ではできません。

インタラクティブアクティビティの入力は、通常、エージェントが操作できるように Playbook でレンダリングするデータを提供します。非インタラクティブアクティビティの入力は Playbook でレンダリングできますが、実行するためのユーザー入力は必要ありません。詳細については、「インタラクティブアクティビティ」と「非インタラクティブアクティビティ」を参照してください。

デザインの検討

ステージとアクティビティを操作するときは、次の設計上の考慮事項を参照してください。

プレイブックを設計するときは、Now Platform 状況モデルを考慮する

一部のレコードタイプには、ライフサイクルを記述する状況モデルが既に存在します。既存の状況モデルをプレイブックの設計のテンプレートとして使用します。詳細については、「状況管理」を参照してください。

プレイブックでのステージの追加と構成

プレイブックでステージを追加および構成します。

始める前に

必要なロール：playbook.admin または pd_author

ステージとアクティビティ を見直します。

手順

1. ステージを追加します。

ビュー	ステップ
図	**a.** トリガーの後ろにある **[+]** アイコンを選択して、プレイブックの最初のステージを追加します。 **b.** ミニピッカーで、点線の正方形のアイコンを選択します。
ボード	ボードビューで、**[+** ステージを追加] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいステージが表示され、[ステージプロパティ] パネルが開きます。

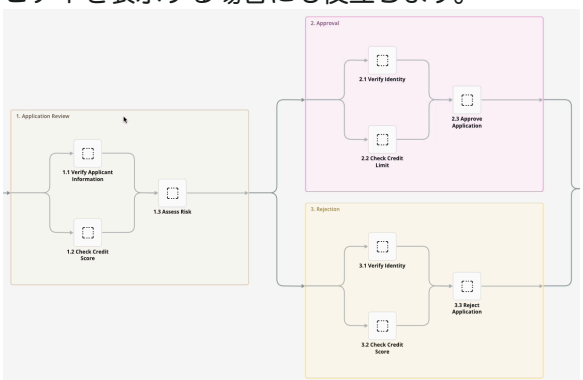
2. 次のフィールドに入力します。

a. ステージの基本的な詳細を入力します。

必須入力	
ラベル	ステージの一意のユーザー向けの名前を入力します。この名前は、プレイブックの実行時にエージェントと履行者に表示されます。
説明	必要に応じて、ステージに関する詳細を入力します。
実行条件	ステージの開始後、ステージは特定の条件が満たされた場合にのみ実行されます。
開始ルール	ステージの実行を開始するタイミングを選択します。次のオプションが含まれます。 ▪ プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 ▪ 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。

b. オプション: さらに詳細に制御するために、アクティビティの他のオプションを表示します。

⚠ **警告:** アクティビティの詳細プロパティフィールドを変更すると、自動化が壊れる可能性があります。変更を行う前に、プレイブックとそのアクティビティのフローを理解しておいてください。

オプション	説明
表示順序	同時に複数のステージが実行されている場合は、プレイブックの実行中に表示されるステージの順序を定義します。 **注:** ワークフロースタジオでは、これは、ダイアグラムビューで並列アクティビティを表示する場合にも役立ちます。 

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
遅延から開始	開始ルールと条件が満たされたステージを実行するまでの待機時間を指定します。詳細については、「遅延入力プロパティから開始」を参照してください。

3. [保存して閉じる] をクリックして、ステージのプレイブックへの追加を終了します。
   前のステップで説明したように、プレイブックへのステージの追加を続行し、フィールドに入力することができます。ボードビューで、[ステージアクション] メニュー を使用して、既存のステージの間にステージを追加します。
   ステージが作成されます。

次のタスク
アクティビティを追加して構成します。

アクティビティ定義

アクティビティ定義は、プレイブック内のアクティビティがプレイブックの実行時に必要なデータを取得する方法を記述します。

アクティビティ定義は、プレイブックがトリガーされたときにアクティビティを適切に実行できるように、アクティビティのデフォルトの設定と値を提供します。各アクティビティ定義には、基本的な構成の詳細に加えて、自動化プランとアクティビティエクスペリエンスが含まれています。

アクティビティ定義 [sys_pd_activity_definition] テーブルには、ワークフロースタジオのプレイブックに追加できるアクティビティの定義がリストされています。アクティビティ定義にアクセスするには、**[Process Automation]** > **[Process Automation 管理 (Process Automation Administration)]** > [トリガー定義] に移動します。

フィールド

各アクティビティ定義レコードには、次の基本フィールドがあります。

フィールド	説明
ラベル	ワークフロースタジオ でユーザーに表示するアクティビティの名前。
テーブル	アクティビティが入力としてアクセスできるレコードを含むテーブル の名前。通常、このテーブルはタスク [task] テーブルまたはグローバル [global] テーブルのいずれかです。
アプリケーション	アクティビティを実行できるアプリケーションスコープ。
アクセス可能	次のオプションが含まれます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	• すべてのアプリケーションスコープ - ユーザーは、任意のアプリケーションスコープからこのアクティビティにアクセスできます。 • このアプリケーションスコープのみ - ユーザーは、[アプリケーション] フィールドで指定したアプリケーションスコープからのみこのアクティビティにアクセスできます。
説明	アクティビティのオプションの説明。
必要なロール	このアクティビティ定義を使用するアクティビティへのアクセスが許可されているユーザーロールのリスト。

自動化プラン

各アクティビティ定義には自動化プランがあります。アクティビティ定義の自動化プランでは、次の項目を指定します。

- アクティビティの自動化を推進する フローデザイナー フローまたはアクション
- アクティビティの入力 (アクティビティがプレイブックを実行するために必要なデータ)

アクティビティデザイナーは、各アクティビティ入力の可視化を設定できます。

標準のモーダルに含める (Include in standard modal)

プロパティパネルからの入力を非表示にします。プレイブック設計者は、[詳細プロパティを表示 **(Show advanced properties)]** オプションを選択した場合にのみ、標準モーダルからの入力を表示できます。

標準のモーダルおよび構成パネルに含める (Include in standard modal and configuration panel)

プロパティパネルの入力を表示します。プレイブック設計者は、[詳細プロパティを表示 **(Show advanced properties)]** オプションを選択した場合にも、標準モーダルからの入力を表示できます。

アドミニストレーターにのみ表示

admin または playbook.admin ロールを持たないユーザーからの入力を非表示にします。

アクティビティエクスペリエンス

各アクティビティには、オプションのアクティビティエクスペリエンスもあります。アクティビティエクスペリエンスは、エクスペリエンスタイプ、関連付けられたレコード、アクティビティの関連付けられたプレイブックカードにレンダリングするデータの詳細を指定します。アクティビティエクスペリエンスの構成は、プレイブックユーザーエクスペリエンスが関連付けられているプレイブックに追加するアクティビティにのみ適用されます。詳細については、「プレイブックエクスペリエンスの設定」を参照してください。

エクスペリエンスタイプ

エクスペリエンスタイプは、アクティビティが実行時にプレイブックカードとしてどのようにレンダリングされるかを記述するデータまたはプロパティを定義します。たとえば、レコードエクスペリエンスタイプは、アクティブ化されたプレイブックの実行時に、アクティビティがプレイブックカードのタイトル、タグライン、説明、フッター、サービスレベルアグリーメント (SLA) 情報を表示できることをシステムに通知します。詳細については、「UI レイアウト」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連レコード

「関連コード」は、実行時にプレイブックカード内でレンダリングできるデータのレコードを定義します。関連レコードは動的です。つまり、プレイブックが進むにつれて頻繁に変更されます。この動的な性質のため、データピルピッカー ( ) を使用して、関連レコードを自動化プランで指定された基になるサブフローまたはアクション内の出力レコードデータにマッピングできます。

プレイブックカードにレンダリングするデータ

プレイブックカードにレンダリングするデータは、[関連レコード (Associated Record)] セクションの下のセクションで指定できます。このユーザー向けビューでレンダリングされるフィールドに動的データを追加するには、データフィールドの隣にあるデータピルピッカー ( ) を使用して、適切なデータピルに移動またはドット連結します。データピルは、アクティビティ定義の自動化プランで指定されたサブフローまたはアクション内のデータを指す必要があります。

> **注:** アクティビティエクスペリエンスには、プレイブックカード内に表示するデータを指定できる多くのセクションが含まれています。これらのセクションは、選択したエクスペリエンスタイプによって異なります。たとえば、レコードエクスペリエンスタイプには [詳細]、[フォーム]、[添付ファイル]、[機能] セクションがあり、ナレッジエクスペリエンスタイプには [ナレッジ]、[詳細]、[機能] セクションがあります。詳細については、「UI レイアウト」を参照してください。

プレイブックカードにレンダリングするアクション

[プレイブックエクスペリエンスアクション割り当てマップ] 関連リストを使用して、アクティビティの プレイブックカードにレンダリングするプレイブックアクションを指定できます。プレイブックアクションは、プレイブックカードのフッターにボタンとして表示されます。プレイブックアクションは、サーバースクリプトの実行、クライアントアクションのディスパッチ、または UI コンポーネントのレンダリングを行うことができます。詳細については、「カスタムプレイブックアクション」を参照してください。

プレイブックアクションをアクティビティ定義に追加するには、[プレイブックエクスペリエンスアクション割り当てマップ] 関連リストで [新規] を選択します。次に、[アクションのアサイン] リストからプレイブックアクションを選択します。次に、[プレイブックエクスペリエンス] リストからプレイブックアクションを表示するプレイブックユーザーエクスペリエンスを選択し、[送信] をクリックします。

デザインの検討

アクティビティ定義を操作するときは、次の設計上の考慮事項を参照してください。

アクティビティの自動化プランでトリガーされた フローデザイナー フローを呼び出さないようにする

プロセスオートメーションデザイナー 外で意図せずフローを実行しないようにするため、アクティビティ自動化プランではサブフローまたはアクションのみを使用できます。または、フローのトリガーを、まだ実行されていない場合にのみ実行するように設定することもできます。詳細については、「ワークフロースタジオ フロートリガータイプ」を参照してください。

アクティビティ定義でデフォルトの入力値を指定する

アクティビティ定義のデフォルトの入力値を事前設定することで、プレイブックオーナーがプレイブックを作成するために必要な時間と複雑さが軽減されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティビティ定義の作成

アクティビティを実行するアクションまたはサブフローを指定します。アクティビティをプレイブックに追加するときにプレイブックデザイナーに設定させる入力を構成します。アクティビティの実行時にエンドユーザーに提供するエクスペリエンスを選択します。

始める前に

- アクティビティの自動化プランとして使用するフローデザイナー サブフローまたはアクションを作成します。例については、「アクティビティ自動化プランとしてアクションを作成する」を参照してください。
- 現在のアプリケーションを、アクティビティを実行するアプリケーションに設定してください。詳細については、「アプリケーションピッカー」を参照してください。
- 必要なロール：admin、playbook.admin または pd_content_author

手順

1. 新しいアクティビティ定義の作成を開始するには、次のいずれかを実行します。
   - **[Process Automation]** > **[Process Automation 管理 (Process Automation Administration)]** > [アクティビティ定義] に移動します。次に、コンテキストヘッダーで、[新規] をクリックします。
   - プレイブック を作成 の手順に従ってください。次に、プロセスオートメーションデザイナー アクティビティ設計スペースで、[アクティビティを追加] > [新しいアクティビティを作成] をクリックします。

   [アクティビティ定義] フォームビューが表示されます。
2. [アクティビティ定義] フォームフィールドに入力します。

フィールド	アクション
ラベル	アクティビティの一意の名前を入力します。 この名前は、プレイブックビルダーとプレイブックランタイムの両方のワークフロースタジオ プロセスオートメーションデザイナーに表示されます。
テーブル	[アクティビティが入力としてアクセスできるレコードを含むテーブル] を選択します。ワークフロースタジオ プロセスオートメーションデザイナービルダーでアクティビティに入力を追加すると、このテーブルから動的レコードデータにドット連結することができます。「Dot-walking to data in related tables (関連テーブルのデータへのドット連結)」を参照してください。 **注:** プレイブックのトリガー入力レコードに指定されたテーブルは、設計時にアクティビティ定義テーブルを上書きします。「トリガー」を参照してください。
説明	必要に応じて、アクティビティに関する詳細を入力します。
アクセス可能	次のいずれかのオプションを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	アクション
	◦ すべてのアプリケーションスコープ - 任意のアプリケーションスコープのプレイブックにこのアクティビティを追加できます。 ◦ このアプリケーションスコープのみ - [アプリケーション] フィールドで指定したものと同じアプリケーションスコープからのみプレイブックにこのアクティビティを追加できます。
必要なロール	このアクティビティ定義を使用するアクティビティへのアクセスを許可するロールを追加します。

3. [フローまたはアクション] フィールドの横にある [自動化プラン] セクションで、[リストからドキュメントを参照] アイコン (アイコン) をクリックします。
[ドキュメントを選択] 画面が表示されます。
4. [テーブル名] リストで、次のいずれかのオプションを選択します。
   ◦ フローデザイナー サブフローを使用してアクティビティを自動化するには、[フロー] を選択します。
   ◦ フローデザイナー アクションを使用してアクティビティを自動化するには、[アクションタイプ] を選択します。

   注: 公開されたアクションまたはサブフローは、アクティビティ定義の自動化プランにのみ使用できます。

5. [ドキュメント] フィールドの隣にある、[リストからドキュメントを参照] アイコン ( ) をクリックします。
[フローまたはアクションタイプ (Flows or Action Types)] 画面が表示されます。
6. リストから、アクティビティを自動化するために使用するサブフローまたはアクションを選択します。
7. **[OK]** を選択します。
8. リストから、アクティビティが プレイブック のユーザー向けビューにレンダリングされるときに使用するプロパティとコンポーネントの UI レイアウトを選択します。
詳細については、「UI レイアウト」を参照してください。
9. [送信] をクリックして、アクティビティ定義レコードを保存および作成します。
[アクティビティ定義] リストビューが表示されます。
10. リストの [ラベル] 列で、アクティビティ定義を選択します。
[アクティビティ定義] フォームビューが表示されます。
11. [自動化プラン] セクションを選択します。
アクションまたはサブフローに使用可能な変数が表示されます。ワークフロースタジオ プロセスオートメーションデザイナービルダーは、各アクションまたはサブフロー入力の変数を表示します。
12. 変数ごとに、各変数のデフォルト値を設定します。
アクティビティをプレイブックに追加するときにプレイブックデザイナーに値を設定させる場合は、変数を空白のままにします。
13. 変数ごとに、表示される場所を選択します。

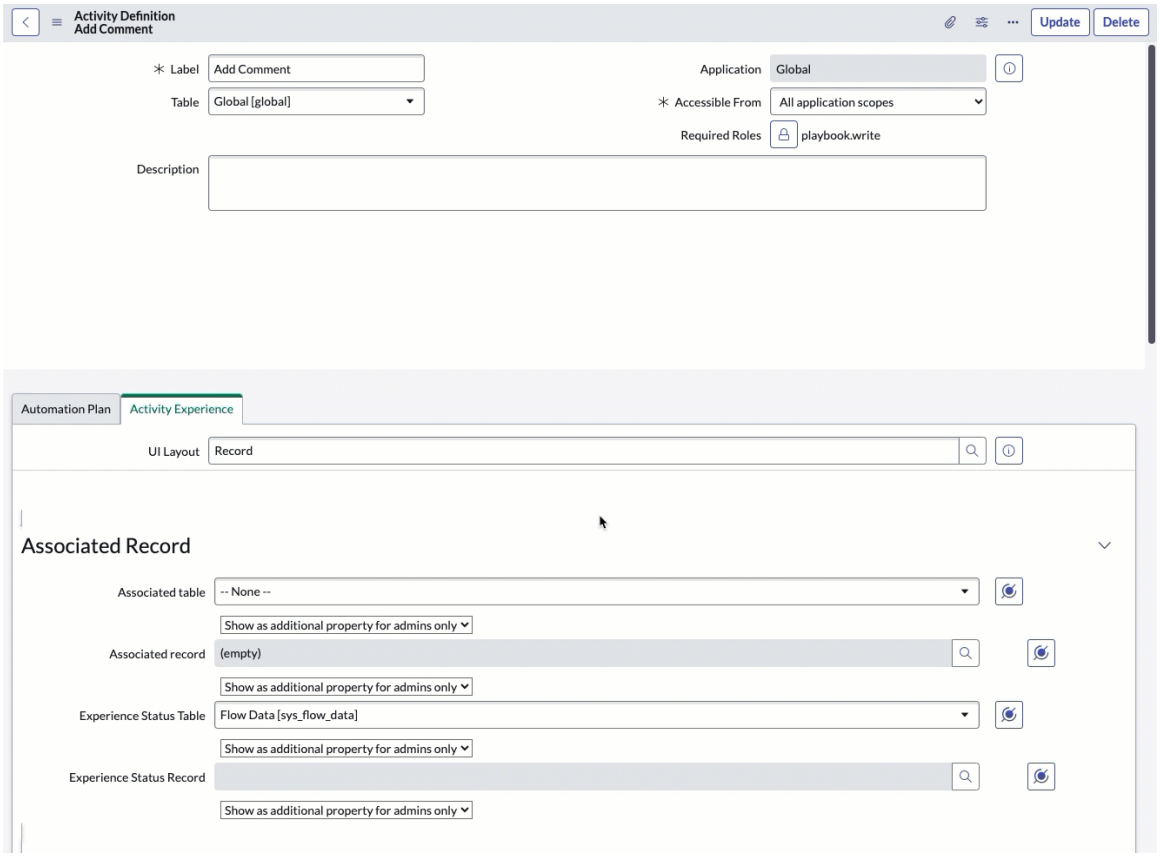
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

可視化	説明
標準のモーダルに含める (Include in standard modal)	詳細プロパティモーダルからの入力としてのみ変数を表示します。
標準のモーダルおよび構成パネルに含める (Include in standard modal and configuration panel)	プロパティパネルと詳細プロパティモーダルの入力としてのみ変数を表示します。
アドミンの表示のみ (Admin visibility only)	admin ロールまたは playbook.admin ロールを持つユーザーに対してのみ詳細プロパティモーダルからの入力として変数を表示します。

プレイブック設計者は、自分がアクセスできる変数の値のみを設定できます。

14. [アクティビティエクスペリエンス] タブを選択します。
15. **[UI** レイアウト] フィールドの横にあるリストアイコン ( ) を選択します。
[アクティビティ UI レイアウト] リストが表示されます。
16. 使用する UI レイアウトを選択します。
17. アクティビティ定義のヘッダーを右クリックして、[保存] を選択します。
18. [関連レコード] セクションで、[関連テーブル **(Associated table)]** フィールドと [関連レコード **(Associated record)]** フィールドの値を選択します。
これらの値は通常、アクティビティの自動化プランで指定された フローデザイナー サブフローまたはアクションのレコードとテーブル名の出力です。たとえば、[関連レコード] フィールドの横にあるデータピルピッカーアイコン ( ) をクリックし、**[VL]** > [コメントを追加] > [出力] > [タスク] > [承認]を選択して [テーブル名] 出力にドット連結できます。
システムはレコードをアクティビティに関連付け、アクティビティの実行時にどのレコードのデータを出力するかがわかるようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



19. 実行時にプレイブックでレンダリングされるデフォルトのアクティビティデータを設定する場合は、[アクティビティエクスペリエンス] の他のセクションにそのデータの値を入力します。[アクティビティエクスペリエンス] に表示されるセクションとフィールドは、選択した UI レイアウトによって異なります。詳細については、「UI レイアウト」を参照してください。
20. [更新] をクリックして、アクティビティ定義の作成を完了します。

タスクの結果

ワークフロースタジオ プロセスオートメーションデザイナーの設計環境のアクティビティピッカーからカスタムアクティビティを選択できるようになりました。アクティビティに適切なアプリケーションスコープを選択して、ピッカーで表示します。

アクティビティ自動化プランとしてアクションを作成する

プロセスオートメーションデザイナー からアクティビティとして設定して実行するアクションの例を作成します。

始める前に

必要なロール：

- このタスクには、ワークフロースタジオ環境でフローを作成するための知識が必要です。詳細については、「フローのビルド」を参照してください。
- このタスクには、サーバー側スクリプティングに関する知識が必要です。詳細については、「Server-side scripting (サーバー側スクリプティング)」を参照してください。
- admin

このタスクについて

各アクティビティ定義には、フローデザイナー コンテンツを実行するための自動化プランが必要です。自動化プランは、アクションまたはサブフローを実行するときに使用する入力値をワークフロースタジオ プロセスオートメーションデザイナービルダーに示します。自動化プランでは、静的なデ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フォルト値を指定することも、プレイブックオーナーに、プレイブックにアクティビティを追加するときに動的な値を指定するように求めることもできます。

この例では、アクティビティの自動化プランとして使用する再利用可能な フローデザイナー アクションを作成します。作成するアクションは、タスク [task] レコードを親レコードに関連付けます。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー]の順に移動します。
2. メインヘッダーで、**[+** 新規] > [アクション] をクリックします。
   [アクションプロパティ] 画面が表示されます。
3. [アクションプロパティ] 画面で、次のフィールドに入力します。

フィールド	アクション
名前	`Associate Record with Parent` と入力します。
アプリケーション	[グローバル] を選択したままにします。
アクセス可能	[すべてのアプリケーションスコープ] を選択したままにします。

4. [送信] をクリックします。
   フローデザイナー 設計環境が表示されます。
5. [アクションアウトライン] で、[入力] をクリックします。
6. [アクション入力] ヘッダーで、**[+** 入力の作成] をクリックし、次のフィールドに入力します。

フィールド	アクション
ラベル	「レコード」と入力します。
名前	「レコード」と入力します。
タイプ	**[Reference.Task[task]]** を選択します。

7. [アクション入力] ヘッダーで、**[+** 入力の作成] をクリックし、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
ラベル	`Parent Record` と入力します。
名前	「レコード」と入力します。
タイプ	**[Reference.Task[task]]** を選択します。

8. [新しいステップを追加] アイコン (アイコン) をクリックします。
   [追加するステップを選択] 画面が表示されます。
9. [ServiceNow データ] で、[レコードの更新] ステップを選択します。
   [レコードの更新] ステップが [入力] の下の [アクションアウトライン] に表示されます。
10. [レコード] フィールドで、[データピルピッカー] アイコン ( ) をクリックし、[入力] > [レコード] にドット連結します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

11. [フィールド値] で、**[+ フィールド値の追加 (Add Field Value)]** をクリックし、リストから [親] を選択します。
12. [親] フィールドの隣にある [データピルピッカー] アイコン ( ) をクリックし、[入力] > [親レコード] にドット連結します。
13. [アクションアウトライン] で、[出力] をクリックします。
14. [アクション出力] で、**[+ 出力の作成]** をクリックし、次のフィールドに入力します。

フィールド	アクション
ラベル	「レコード」と入力します。
名前	「レコード」と入力します。
タイプ	**[Reference.Task[task]]** を選択します。

15. [アクション出力] ヘッダーで、**[+ 出力の作成]** をクリックし、次のフィールドに入力します。

フィールド	アクション
ラベル	`Parent Record` と入力します。
名前	「レコード」と入力します。
タイプ	**[Reference.Task[task]]** を選択します。

16. [アクションの出力] ヘッダーで、[編集モードを終了] をクリックします。
17. [レコード] 出力の [値] 列の隣にある [データピルピッカー] アイコン ( ) をクリックし、[入力] > [レコード] にドット連結します。
18. [親レコード] 出力の [値] 列の隣にある [データピルピッカー] アイコン ( ) をクリックし、[入力] > [親レコード] にドット連結します。
19. メインヘッダーで、[保存] > [公開] をクリックして、アクティビティ定義の自動化プランに追加できるアクションを作成します。

タスクの結果

これで、カスタム フローデザイナー アクションをカスタムアクティビティ定義の自動化プランに追加できるようになりました。

次のタスク

アクティビティ定義の作成 を実行するときに、カスタムアクションを自動化プランに追加します。

UI レイアウト

UI レイアウトは、プレイブックエクスペリエンス でアクティビティをカードとしてレンダリングするときに使用するプロパティとコンポーネントを示します。

アクティビティ定義を作成するときは、アクティビティ定義を関連付ける UI レイアウトを選択する必要があります。プロセスオートメーションデザイナーには、デフォルトでインスタンスで利用可能な次の UI レイアウトが用意されています。

- レコードを作成
- アンケート
- 説明

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ナレッジ
- リスト
- レコード
- レコードジェネレータ

アクティビティに関連付けられた UI レイアウトによって、アクティビティ定義の [アクティビティエクスペリエンス] に表示されるセクションとフィールドは異なります。これらのセクションとフィールドでは、プレイブックエクスペリエンス実行時にレンダリングされるアクティビティデータを設定できます。

注: [レコードジェネレータ] を除くすべての UI レイアウトには、[関連レコード] セクションが表示されます。アクティビティ定義の [関連レコード] セクションを設定または編集する方法の詳細については、「アクティビティ定義の作成」を参照してください。

レコードを作成

[レコードを作成] UI レイアウトを選択すると、アクティビティ定義の [アクティビティエクスペリエンス] セクションに次のセクションが表示されます。

関連レコード

次のフィールドが表示されます。

- 関連テーブル
- 関連レコード
- エクスペリエンスステータステーブル
- エクスペリエンスステータスレコード

詳細

次のフィールドが表示されます。

- キャッチコピー
- アイコン
- タイトル
- 説明
- 処理待ちステータスのタイトル
- 処理待ちステータスの説明
- レコードフィールド
- フッター

フォーム

次のフィールドが表示されます。

- フォームビュー
- フォームのフィールド
- テンプレートフィールド

添付ファイル

次のフィールドが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 添付ファイルソース
- 添付ファイルは読み込み専用

機能

次のフィールドが表示されます。

- SLA の表示
- チェックリストの表示
- 自動化

アプリケーションに付属する [レコードを作成] アクティビティは、この UI レイアウトを使用します。

アクティビティ定義内

ワークフロースタジオでは、フィールドはサイドパネルの [UI レイアウト] タブで構成されます。

ワークフロースタジオ内

実行中のプレイブックに、構成が反映されます。

実行中のプレイブック内

アンケート

[アンケート] UI レイアウトを選択すると、アクティビティ定義の [アクティビティエクスペリエンス] セクションに次のセクションが表示されます。

関連レコード

次のフィールドが表示されます。

- 関連テーブル
- 関連レコード
- エクスペリエンスステータステーブル
- エクスペリエンスステータスレコード

詳細

次のフィールドが表示されます。

- キャッチコピー
- アイコン
- タイトル
- 説明
- 処理待ちステータスのタイトル
- 処理待ちステータスの説明
- レコードフィールド
- フッター

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フォーム

次のフィールドが表示されます。

- フォームビュー
- フォームのフィールド

添付ファイル

次のフィールドが表示されます。

- 添付ファイルソース
- 添付ファイルは読み込み専用

機能

次のフィールドが表示されます。

- SLA の表示
- チェックリストの表示
- 自動化

説明

[説明] UI レイアウトを選択すると、アクティビティ定義の [アクティビティエクスペリエンス] セクションに次のセクションが表示されます。

関連レコード

次のフィールドが表示されます。

- 関連テーブル
- 関連レコード
- エクスペリエンスステータステーブル
- エクスペリエンスステータスレコード

詳細

次のフィールドが表示されます。

- キャッチコピー
- アイコン
- タイトル
- 説明
- フッター

機能

次のフィールドが表示されます：[自動化]

ナレッジ

[ナレッジ] UI レイアウトを選択すると、アクティビティ定義の [アクティビティエクスペリエンス] セクションに次のセクションが表示されます。

関連レコード

次のフィールドが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 関連テーブル
- 関連レコード
- エクスペリエンスステータステーブル
- エクスペリエンスステータスレコード

ナレッジ

次のフィールドが表示されます。

- ナレッジテーブル
- ナレッジレコード

詳細

次のフィールドが表示されます。

- タイトル
- フッター

機能

次のフィールドが表示されます：[自動化]

リスト

[リスト] UI レイアウトを選択すると、アクティビティ定義の [アクティビティエクスペリエンス] セクションに次のセクションが表示されます。

関連レコード

次のフィールドが表示されます。

- 関連テーブル
- 関連レコード
- エクスペリエンスステータステーブル
- エクスペリエンスステータスレコード

詳細

次のフィールドが表示されます。

- キャッチコピー
- アイコン
- タイトル
- 説明
- レコードフィールド

リストの詳細

次のフィールドが表示されます。

- リストタイトル
- テーブル
- リストクエリ
- UI ビュー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 列
- 最大列数
- 行数

機能

次のフィールドが表示されます：[自動化]

レコード

[レコード] UI レイアウトを選択すると、アクティビティ定義の [アクティビティエクスペリエンス] セクションに次のセクションが表示されます。

関連レコード

次のフィールドが表示されます。

- 関連テーブル
- 関連レコード
- エクスペリエンスステータステーブル
- エクスペリエンスステータスレコード

詳細

次のフィールドが表示されます。

- キャッチコピー
- アイコン
- タイトル
- 説明
- 処理待ちステータスのタイトル
- 処理待ちステータスの説明
- レコードフィールド
- フッター

フォーム

次のフィールドが表示されます。

- フォームビュー
- フォームのフィールド

添付ファイル

次のフィールドが表示されます。

- 添付ファイルソース
- 添付ファイルは読み込み専用

機能

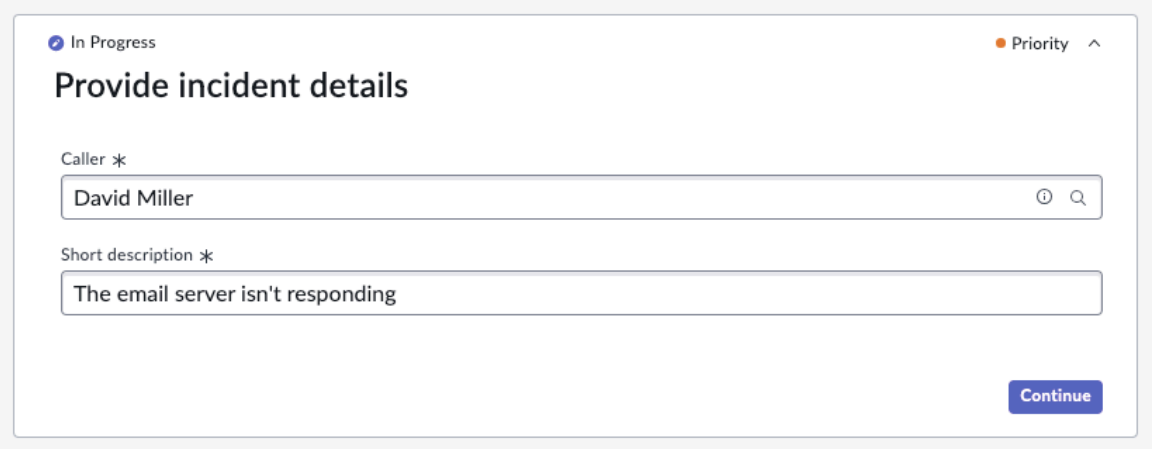
次のフィールドが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- SLA の表示
- チェックリストの表示
- 自動化

レコードジェネレータ

[レコードジェネレータ] UI レイアウトを使用したアクティビティは、実行時にレコードを作成し、ユーザーをそのレコードにリダイレクトします。たとえば、このアクティビティでは、エージェントが [続行] ボタンを選択すると、レコードが作成され、エージェントはその新しいレコードに移動します。



[レコードジェネレータ] UI レイアウトを選択すると、アクティビティ定義の [アクティビティエクスペリエンス] セクションに次のセクションが表示されます。

- テンプレートフィールド
- プロセス定義のスコープ対象の名前
- 関連テーブル
- フォームビュー

ガイド付きデシジョン

注: [ガイド付きディシジョン] UI レイアウトは、 は App Engine または カスタマーサービス管理 (CSM) のサブスクリプションで利用できます。プロセスオートメーションデザイナー でこのアクティビティを有効にする方法の詳細については、「カスタマーサービス管理 (CSM) 向け プロセスオートメーションデザイナー の有効化」を参照してください。

[ガイド付きディシジョン] UI レイアウトを選択すると、アクティビティ定義の [アクティビティエクスペリエンス] セクションに次のフィールドが表示されます。

- ディシジョンツリー実行
- 意思決定ツリー

プレイブックでのアクティビティの追加と構成

プレイブックでアクティビティを追加および構成します。

始める前に
必要なロール：playbook.admin または pd_author

ステージとアクティビティ を見直します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. アクティビティを追加します。

ビュー	ステップ
図	a. 最初のステージの **[+]** アイコンを選択します。 b. ミニピッカーで、正方形のアイコン (□) を選択してアクティビティを追加します。 c. アクティビティピッカーで、追加するアクティビティを検索します。 注: 最初にアプリケーションを選択して、表示されるリストからアクティビティを選択します。
ボード	a. 最初のステージで **[+** アクティビティを追加] を選択します。 b. アクティビティピッカーで、追加するアクティビティを検索します。 注: 最初にアプリケーションを選択して、表示されるリストからアクティビティを選択します。

新しいアクティビティがステージに表示され、[アクティビティのプロパティ] パネルが表示されます。

2. [詳細] タブで、アクティビティの詳細を入力します。

a. アクティビティの基本的な詳細を入力します。

必須入力

ラベル	アクティビティの一意のユーザー向けの名前を入力します。この名前は、プレイブックの実行時にエージェントと履行者に表示されます。
説明	必要に応じて、アクティビティに関する詳細を入力します。
開始ルール	アクティビティの実行を開始するタイミングを選択します。次のオプションが含まれます。 ▪ ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 ▪ 特定のアクティビティの後**(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. オプション: さらに詳細に制御するために、アクティビティの他のオプションを表示します。

> ⚠ **警告:** アクティビティの詳細プロパティフィールドを変更すると、自動化が壊れる可能性があります。変更を行う前に、プレイブックとそのアクティビティのフローを理解しておいてください。

オプション	説明
表示順序	このアクティビティがプレイブックの実行時に表示される順番を定義します。
実行条件	アクティビティの開始後、アクティビティは特定の条件が満たされた場合にのみ実行されます。
遅延から開始	開始ルールと条件が満たされたアクティビティを実行するまでの待機時間を指定します。詳細については、「遅延入力プロパティから開始」を参照してください。
再起動ルール	プレイブックの再起動時にこのアクティビティが実行する内容を選択します。 ◦ 再起動時にスキップ **(Skip on restart)**：実行が再起動による場合は、このアクティビティをスキップします。 ◦ 常に実行：最初の実行を含め、このアクティビティを常に実行します。 ◦ 初回実行時にスキップ **(Skip on first run)**：初回実行中はこのアクティビティをスキップします。 詳細については、「プロセスオートメーションデザイナーの再起動を有効にして構成する」を参照してください。

3. [自動化] タブを開きます。
[自動化]、[入力]、および [出力] セクションが表示されます。

   自動化

   アクティビティを推進するアクション、サブフロー、またはフローを表示または開きます。

   入力

   アクティビティを推進するアクション、サブフロー、またはフローの入力を構成します。すべてのアクティビティでユーザー入力が必要なわけではありません。

   出力

   アクティビティを推進するアクション、サブフロー、またはフローの出力します。

4. [入力] セクションで、アクティビティの入力の値を定義します。

   ハードコードされた値を使用するか、データピルにドット連結して ( )、前のアクティビティまたはプレイブックトリガーのデータを使用するように入力を構成します。

5. **[UI** レイアウト] タブを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティビティに関連付けられた UI レイアウトによって、アクティビティ定義の [アクティビティエクスペリエンス] に表示されるセクションとフィールドは異なります。これらのセクションとフィールドでは、プレイブックエクスペリエンス実行時にレンダリングされるアクティビティデータを設定できます。

> **注:** [レコードジェネレータ] を除くすべての UI レイアウトには、[関連レコード] セクションが表示されます。アクティビティ定義の [関連レコード] セクションを設定または編集する方法の詳細については、「アクティビティ定義の作成」を参照してください。

6. [保存して閉じる] をクリックして、アクティビティの詳細を保存します。
前のステップで説明したように、プロセスオートメーションデザイナービルダー内では、いつでもステージにアクティビティを追加できます。
7. オプション: 追加するアクティビティがアクティビティピッカーにない場合は、アクティビティ定義を作成します。

   a. ステージの下にある **[+** アクティビティを追加] をクリックします。
   アクティビティピッカーが表示されます。

   b. [新しいアクティビティを作成] ボタンをクリックします。

   c. 次のフィールドに入力します。

オプション	説明
ラベル	アクティビティの一意のユーザー向けの名前を入力します。この名前は、プレイブックの実行時にエージェントと履行者に表示されます。
アクセス可能	アクティビティがアクセス可能になる範囲です。[アクセス可能] フィールドを [すべてのアプリケーションスコープ **(All application scopes)]** に設定すると、他のアプリケーションがアクティビティにアクセス可能になります。アクセスを制限するには、フィールドを [このアプリケーションスコープのみ] に設定します。
テーブル	必要に応じて、アクティビティに関連付けられたテーブルに設定します。
アプリケーション	このアクティビティを使用できるアプリケーションを示す読み取り専用フィールドです。
説明	必要に応じて、アクティビティに関する詳細を入力します。
自動化プラン	アクティビティを自動化するために使用するサブフローまたはアクションを選択します。
アクティビティエクスペリエンス	必要に応じて、アクティビティのエクスペリエンスタイプを設定します。これは、実行時にプレイブックカードのユーザー向けビューでアクティビティをレンダリングする方法を定義するのに役立ちます。

8. [送信] をクリックして、アクティビティ定義の作成を完了します。
アクティビティが定義されています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
エージェントと履行者のプレイブックエクスペリエンスを設定します。

自動化資産

アクティビティピッカーにすべての自動化資産を含めて、アクティビティ定義を作成しなくても、サブフロー、フロー、またはアクションを直接プレイブックに追加します。

ユースケース

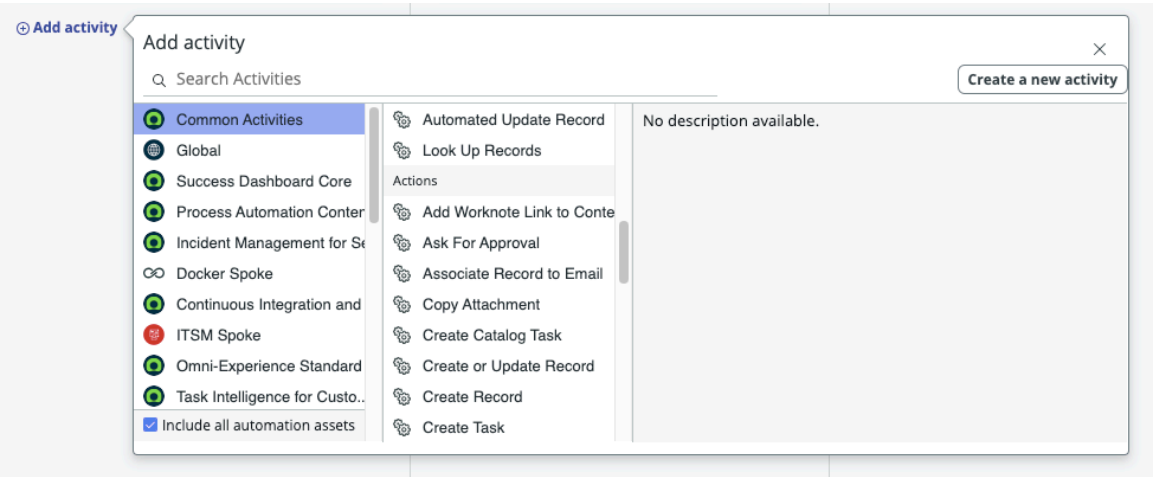
次のような場合にプレイブックで自動化資産を使用します。

- 自動化のみを必要とするアクティビティが必要。
- アクティビティは再利用可能である必要はない。
- UI は必要ない。

再利用可能な UI またはアクティビティが必要な場合は、 アクティビティ定義を作成します。

資産タイプ

アクティビティを追加するときに、アクティビティピッカーで [すべての自動化資産を含める] を選択して、フロー、サブフロー、およびアクションを追加します。



フロー、サブフロー、またはアクションを追加すると、使用できないアクティビティ定義がバックグラウンドで作成されます。

遅延入力プロパティから開始

開始ルールと条件が満たされたアクティビティまたはステージを実行するまでの待機時間を指定します。自動プレイブック中にアクションを実行する時間をユーザーに提供します。アクションを完了するために特定の日時を待つ時間をユーザーに提供します。

ロールと可用性

この入力は、すべてのステージと、プレースホルダーアクティビティを除く共通アクティビティで使用できます。admin、playbook.admin、pd_author、または pd_content_author を持つユーザーは、この入力のプロパティを構成できます。

入力プロパティ

アクティビティまたはステージのプロパティパネルを開いて他のオプションを表示し、[遅延で開始] オプションを有効にして、次の入力プロパティを設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
期間タイプ	選択肢	待機期間を指定するオプション。次のオプションがあります。 • 明示的な期間：特定の時間 (5 分間など) 待ちます。 • 相対期間：選択した期間データピルまたは日付/時刻値から特定の時間 (プレイブック開始後 5 分など) 待ちます。 • パーセンテージ期間：アクティビティまたはステージの開始から指定した終了時間までの期間の特定の割合 (50% など) を待機します。 **注:** パーセンテージ値は **0** ～ **100** のみで設定する必要があります。
待機	テンプレート値	期間の値を設定するオプション。値を手動で設定するか、データピルピッカー ( ) から期間データピルを選択して設定します。 • 明示的な期間：待機期間 (時間、分、および秒)。 • 相対期間：特定の時間の前後の待機時間 (時間、分、秒)。[相対期間] を選択して、特定の日付からの待機期間を指定します。 **注:** 過去の日付は待機時間に影響しません。 最大 999 時間の待機値を入力できます。 **注:** 実際の待機時間は、インスタンスの処理時間に応じて変化することがあります。プレイブックは、常にこのフィールドに指定した時間待機しますが、キューのその他の作業により、待機時間が延びることがあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
パーセンテージ待ち	整数	指定された終了日から、アクティビティまたはステージを実行するまで待機する時間の割合。終了日を手動で入力するか、データピルピッカー ( ) から日付/時刻データピルを選択できます。過去の終了日を選択した場合、待機時間は **0** に設定されます。このフィールドは、[期間タイプ] を [パーセンテージ期間] に設定した場合にのみ使用できます。
次のスケジュール中	Reference.Schedule [cmn_schedule]	業務時間内に発生する終了日の計算に使用されるスケジュール。たとえば、平日の 8 ～ 5 時のスケジュール中に発生する 10 時間に対して計算される終了日は、常に将来の 1 営業日以上になります。このフィールドを空白のままにすると、計算される終了日はスケジュールに従いません。スケジュール作成の詳細については、「スケジュールの定義」を参照してください。

オプションのアクティビティ

エージェントと履行者がプレイブックを使用するときにアクティビティを追加できるようにします。

概要

アドミニストレーターは、ワークフロースタジオ プロセスオートメーションデザイナービルダーでオプションのアクティビティを有効にして追加し、エージェントと履行者はプレイブックエクスペリエンスでオプションのアクティビティを追加および完了します 。

たとえば、セキュリティインシデントのプレイブックがある場合、プレイブックアドミニストレーターはウイルススキャンのオプションアクティビティを追加できます。アクティビティが実行されると、オプションのウイルススキャンアクティビティは親セキュリティインシデントレコードを取得し、親レコードに関連付けられた構成管理データベース (CMDB)資産に対してサードパーティのウイルススキャン統合を実行します。セキュリティアナリストは、状況の評価に基づいて、実行時にウイルススキャンを実行するかどうかを決定できます。

オプションのアクティビティの操作フロー：

1. オンにして、ワークフロースタジオでオプションのアクティビティをプレイブックに追加します。
2. オプションのアクティビティは、他のアクティビティと同様に構成されます。「自動化プロセスの設計」を参照してください。
3. エージェントは、プレイブックエクスペリエンスでオプションアクティビティを追加します。

オプションアクティビティのプレイブックへの追加

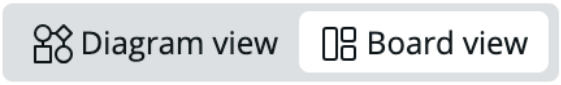
プロセスオートメーションデザイナー アドミニストレーターは、プレイブックの実行時にプレイブックエクスペリエンスエージェントと履行者が追加および完了することを選択できるオプションのアクティビティを プレイブック に追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：playbook.admin または pd_author

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] > [プレイブック] に移動します。
2. オプションのアクティビティを追加するプレイブックを開きます。
3. [ボードビュー]に切り替えます。



4. 右上隅の [オプションのアクティビティ] をオンにします。

   オプションのアクティビティのスイムレーンが開きます。
5. オプションアクティビティを追加します。
   グローバルなオプションのアクティビティは、エージェントまたは履行者がプレイブックのどこにでも挿入できますが、ステージ固有のオプションのアクティビティは、特定のステージにのみ挿入できます。
6. 通常のアクティビティを構成するのと同じ方法でアクティビティを設定します。

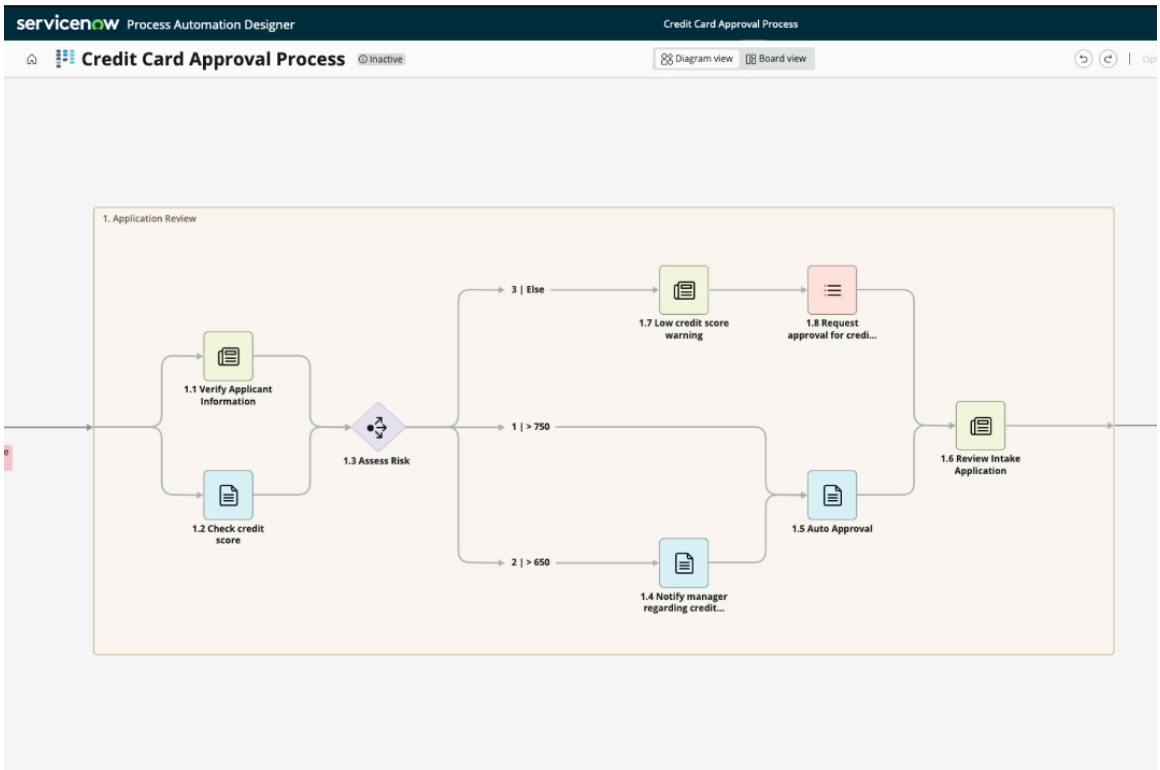
意思決定アクティビティ

エージェントがプレイブックでたどることができるさまざまなパスに対して、さまざまな条件で分岐を作成および定義します。

始める前に
必要なロール：playbook.admin

このタスクについて
意思決定アクティビティを追加して意思決定ツリーを作成し、プレイブックエクスペリエンス内のエージェントが実行時に if-then 状況をトラブルシューティングできるようにします。分岐は、エージェントがたどることができるさまざまな条件を持つさまざまなパスです。クレジットカードの承認プレイブックの例：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



この例では、エージェントは、クレジットカード申請者のリスクを評価するための意思決定アクティビティ中に、さまざまなクレジットスコアに対して異なるアクションを実行できます。

現在、ステージに対する意思決定はサポートされていませんが、さまざまなステージを作成して異なる実行条件を設定することにより、同じ結果を得ることができます。

手順

1. ダイアグラムビューで、その横に意思決定アクティビティを挿入するオブジェクトにカーソルを合わせ、**[+]** アイコンを選択してアクティビティを追加します。

   注: 意思決定アクティビティはダイアグラムビューでは追加しかできませんが、ボードビューでは変更および表示できます。

   ミニピッカーが表示されます。

2. ダイアモンドアイコン (◇) を選択して、意思決定を追加します。
   意思決定が 2 つの分岐とともに追加され、構成用のサイドパネルが開きます。
3. [詳細] タブで、次のフィールドに入力します。

意思決定の詳細

ラベル	アクティビティの一意の名前を入力します。この名前はプレイブック実行時にユーザーに表示されます。
説明	必要に応じて、アクティビティに関する詳細を入力します。
開始ルール	アクティビティの実行を開始するタイミングを選択します。次のオプションが含まれます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

	◦ ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 ◦ 特定のアクティビティの後**(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
表示順序	このアクティビティがプレイブックの実行時に表示される順番を定義します。
実行条件	アクティビティの開始後、アクティビティは特定の条件が満たされた場合にのみ実行されます。
遅延から開始	開始ルールと条件が満たされたアクティビティを実行するまでの待機時間を指定します。ユーザーにアクションを完了するための特定の時間を提供します。詳細については、「遅延入力プロパティから開始」を参照してください。
再起動ルール	プレイブックの再起動時にこのアクティビティが実行する内容を選択します。 ◦ 再起動時にスキップ **(Skip on restart)**：プレイブックの実行が再起動による場合は、このアクティビティをスキップします。 ◦ 常に実行：最初の実行を含め、このアクティビティを常に実行します。 ◦ 初回実行時にスキップ **(Skip on first run)**：初回実行中はこのアクティビティをスキップします。 詳細については、「プレイブックの再起動」を参照してください。

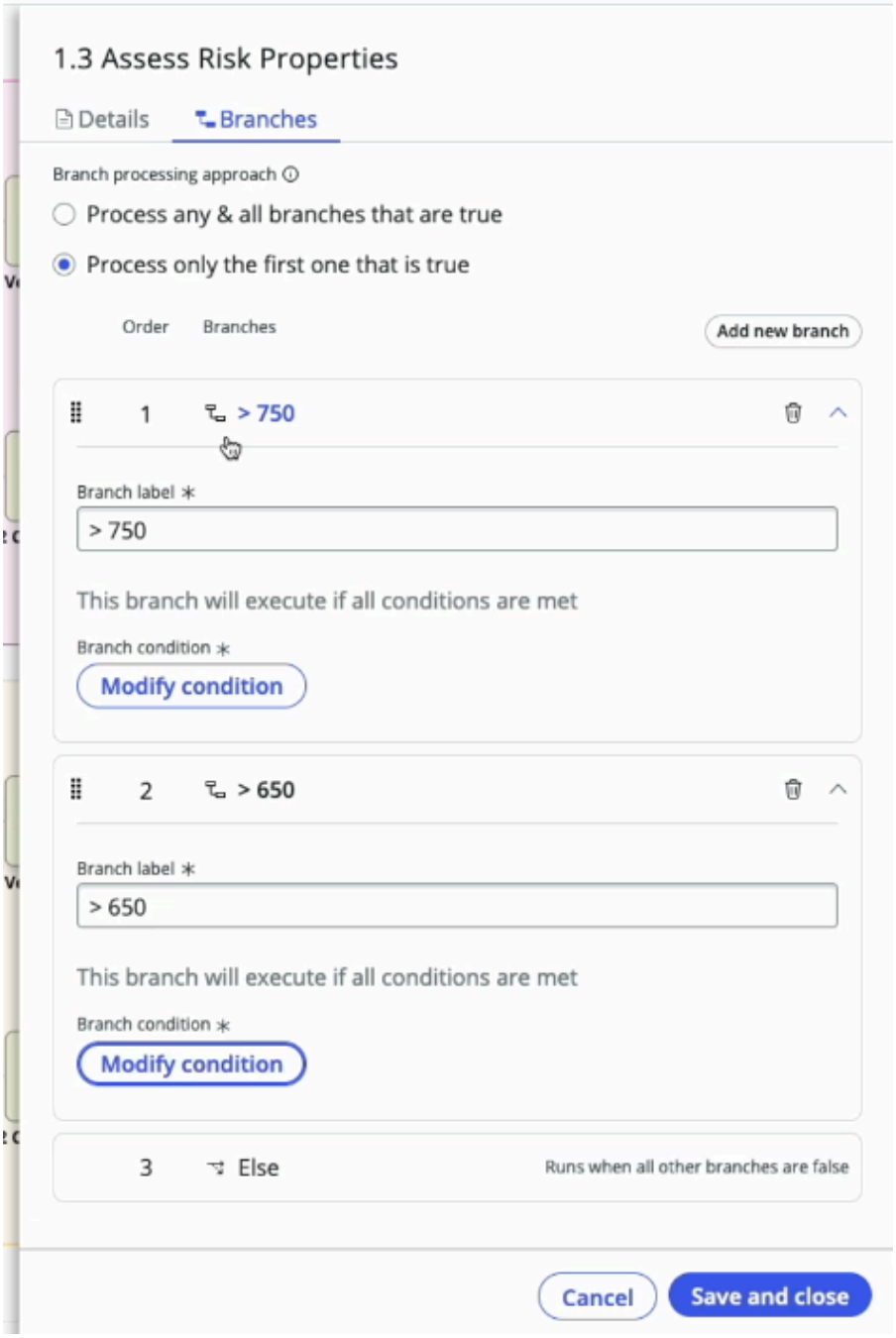
4. [分岐] タブで、新しい分岐を選択して構成を開始します。

   a. 分岐に一意のラベルを付けます。

   b. [条件を追加] ボタンを選択します。
   条件ビルダー が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: 分岐はサイドパネルでのみ追加できます。

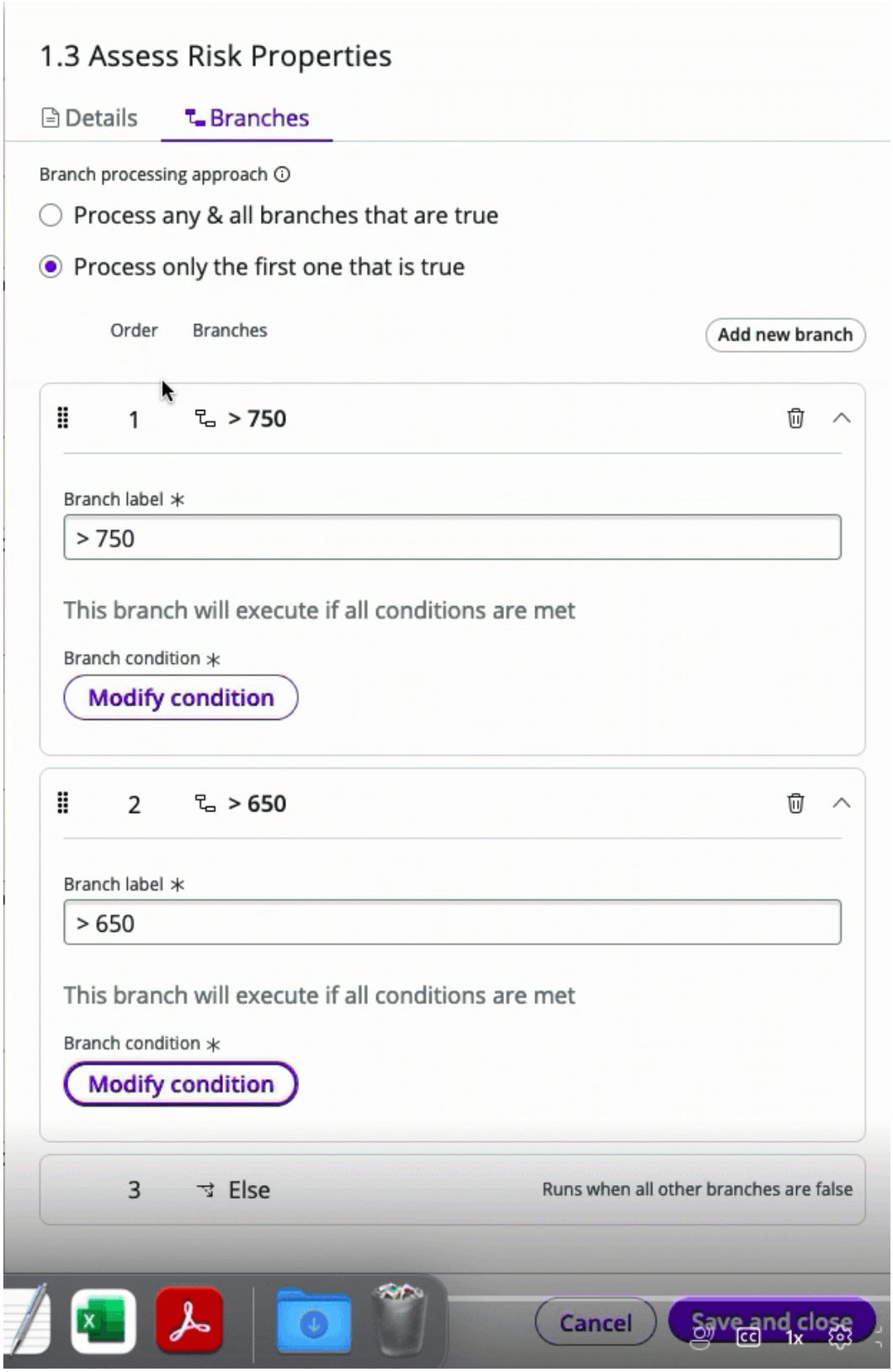


c. フィールド、演算子、および値を選択または入力します。

5. 必要に応じて分岐を追加します。
   分岐はサイドパネルからのみ追加できます。
6. 2 つ以上の分岐を追加する場合は、条件が満たされたすべての分岐を処理するか、条件が満たされた最初の分岐のみを処理するかを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. **[true** である最初のもののみを処理します] を選択した場合は、評価する分岐を一番上にドラッグアンドドロップします。



タスクの結果
意思決定分岐を追加して構成しました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アンケートアクティビティ

プレイブックの実行中にユーザーからの入力を収集し、後でプレイブックで使用します。

アンケートアクティビティは [ユーザーデータの収集] アクティビティに代わるものですが、データ定義を作成する必要はありません。次の場合は、アンケートアクティビティを使用します。

- まだテーブルがない、
- 収集したデータについてレポートを作成する必要がない、
- および、プレイブックの外部でデータを使用する必要がない。

収集したデータを保存するテーブルがすでにある場合は、ユーザーフォームアクティビティを使用します。

ロールと使用可用性

このアクティビティは共通アクティビティとして利用できます。admin、playbook.admin、pd_author、または pd_author を持つユーザーは、このアクティビティを プレイブック に追加できます。

プレイブックの実行中に、データ定義を使用して次のことを行うことができます。

- 出荷先を収集し、出荷ラベルを生成するときにその住所を参照する。
- ユーザーに「はい」または「いいえ」の質問をし、ユーザーの応答に基づいてその後のアクティビティを決定する。

一般的なプロパティ

これらのプロパティは、プロセスオートメーションデザイナー内のすべてのアクティビティに共通です。

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「ドット連結の例」を参照してください。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		イミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール] で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。

アンケート

[アンケート] タブでは、次のことができます。

- エージェントが回答する質問を追加し、
- 既存のアンケートを編集します。

質問の追加または構成の詳細については、「新しいアンケートの作成」を参照してください。

入力

これらの入力の多くは、プロセスオートメーションデザイナー内のアクティビティに共通です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティビティの必要な入力を設定した後に、追加の入力を設定することもできます。サイドパネルで、[他のオプションを表示] を選択して、これらの詳細入力を表示します。詳細については、「アクティビティエクスペリエンス」を参照してください。

入力	タイプ	説明
このプロセスステップのアサイン先グループ	Reference.Group [sys_user_group]	このプレイブックアクティビティの実行を許可されたアサイン先グループ。[アサイン先グループ] または [アサイン先] の値を設定しない場合、すべてのユーザーが収集されたデータを読み取り、編集できます。[アサイン先グループ] および [アサイン先] フィールドにより、アクセスして実行できるユーザーが制限されます。個々のユーザーのみを指定するには、[アサイン先] フィールドを使用します。同じユーザーを両方のフィールドに指定する必要はありません。 **注:** デフォルトでは、これらのフィールドはトリガーレコードの [アサイン先グループ] および [アサイン先] フィールドにマップされます。これは、親レコードで作業するようにアサインされたユーザーは、収集されたデータを送信、表示、編集するアクセス権をデフォルトで持っていることを意味します。
このプロセスステップにアサインされました	Reference.User [sys_user]	このプレイブックアクティビティの実行を許可されたユーザー。[アサイン先グループ] または [アサイン先] の値を設定しない場合、すべてのユーザーが収集されたデータを読み取り、編集できます。[アサイン先グループ] および [アサイン先] フィールドにより、アクセスして実行できるユーザーが制限されます。個々のユーザーのみを指定するには、[アサイン先] フィールドを使用します。同じユーザーを両方のフィールドに指定する必要はありません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		注: デフォルトでは、これらのフィールドはトリガーレコードの [アサイン先グループ] および [アサイン先] フィールドにマップされます。これは、親レコードで作業するようにアサインされたユーザーは、収集されたデータを送信、表示、編集するアクセス権をデフォルトで持っていることを意味します。

出力

これらの出力は、プレイブック内の他のアクティビティにデータを提供できます。アクティビティを設定するときに、アクティビティ入力としてこのデータにアクセスできます。

出力	タイプ	説明
レコード	Reference.Flow データ	収集されたデータを含むレコードへの参照。ピルピッカーを使用して [出力] > [レコード] > [変数]にドット連結し、収集されたすべてのデータを表示します。ピルピッカーの詳細については、「ドット連結の例」を参照してください。

アンケートの作成

エージェントが回答する新しいアンケートを作成して挿入します。

始める前に

必要なロール：admin、playbook_admin、playbook_author、または playbook_content_author

アンケートアクティビティの入力と出力について理解します。

手順

1. ダイアグラムビューで、その横にアンケートアクティビティを挿入するオブジェクトにカーソルを合わせ、**[+]** アイコンを選択してアクティビティを追加します。
   ミニピッカーが表示されます。
2. アンケート アイコン [インラインアイコン画像を挿入] を選択して、アンケートを追加します。
   アンケートアクティビティが追加され、構成用のサイドパネルが開きます。
3. [詳細] タブで、次のフィールドに入力します。

ラベル	アクティビティの一意の名前を入力します。この名前はプレイブック実行時にユーザーに表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

説明	必要に応じて、アクティビティに関する詳細を入力します。
開始ルール	アクティビティの実行を開始するタイミングを選択します。次のオプションが含まれます。 ◦ ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 ◦ 特定のアクティビティの後**(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
表示順序	このアクティビティがプレイブックの実行時に表示される順番を定義します。
実行条件	アクティビティの開始後、アクティビティは特定の条件が満たされた場合にのみ実行されます。
遅延から開始	開始ルールと条件が満たされたアクティビティを実行するまでの待機時間を指定します。ユーザーにアクションを完了するための特定の時間を提供します。詳細については、「遅延入力プロパティから開始」を参照してください。
再起動ルール	プレイブックの再起動時にこのアクティビティが実行する内容を選択します。 ◦ 再起動時にスキップ **(Skip on restart)**：プレイブックの実行が再起動による場合は、このアクティビティをスキップします。 ◦ 常に実行：最初の実行を含め、このアクティビティを常に実行します。 ◦ 初回実行時にスキップ **(Skip on first run)**：初回実行中はこのアクティビティをスキップします。 詳細については、「プレイブックの再起動」を参照してください。

4. [アンケート] タブで、[新しいアンケート] を選択します。
5. 質問を追加します。

> **注:** キャンバスで、アクティビティにカーソルを合わせると、アンケートを編集するための追加のアクションが表示されます。

並列分岐

アクティビティおよびステージの別の分岐と並行して実行される、アクティビティおよびステージの分岐を追加します。

始める前に

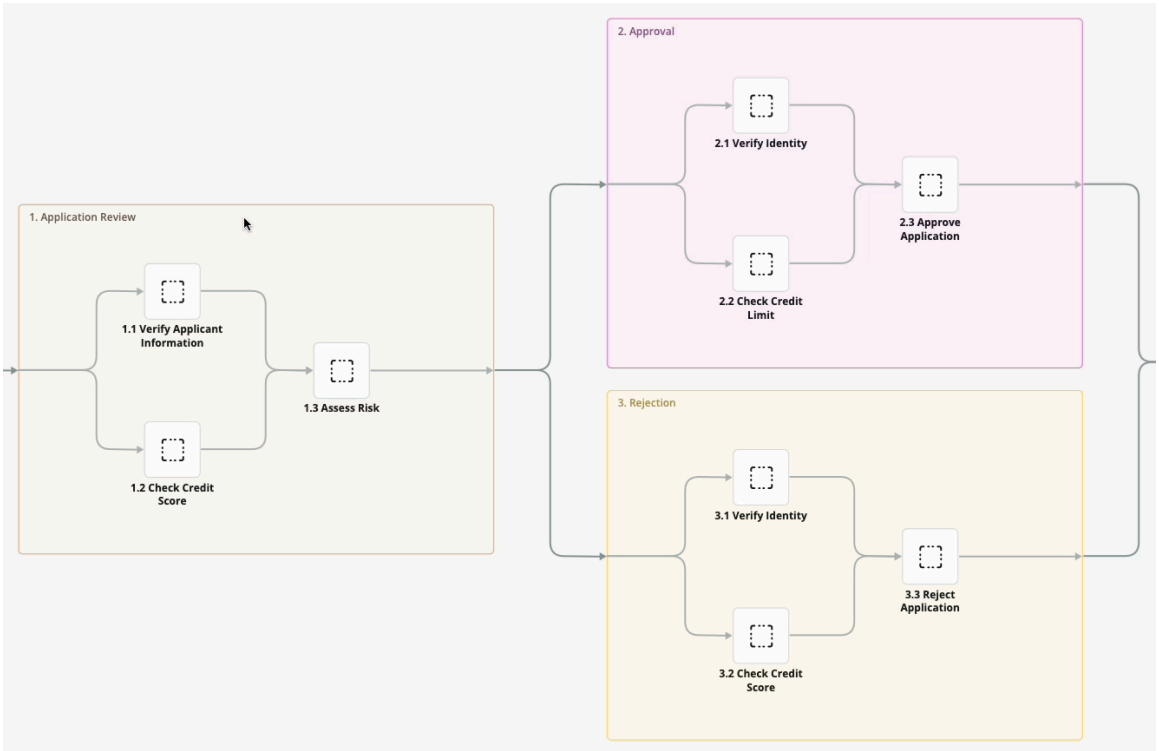
必要なロール：playbook.admin または pd_author

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

並列アクティビティでは、意思決定アクティビティなどの分岐が作成されます。意思決定アクティビティとは異なり、並列上のアクティビティとステージは他の分岐と同じ条件で実行できます。このクレジットカードの承認プレイブックの例：

並列アクティビティとステージ



この例では、エージェントはクレジットスコアを確認すると同時に情報または ID を確認します。すべてのアクティビティとすべてのステージが実行されます。

手順

1. ダイアグラムビューで、その横に並列アクティビティを挿入するオブジェクトにカーソルを合わせ、**[+]** アイコンを選択してアクティビティを追加します。
   ミニピッカーが表示されます。

2. 並列アイコン を選択し、並列分岐を追加します。
   並列分岐が追加されます。

次のタスク

ステージまたはアクティビティの他の分岐と同時に実行されるステージまたはアクティビティを追加して構成します。

アクティビティへの動的入力の追加

選択したカタログアイテム、選択したディシジョンテーブル、REST API 応答など、別の入力の値に基づいて特定のフィールドのセットを表示するようにアクティビティを設定します。

始める前に

必要なロール：playbook.admin、pd_author、action_designer、flow_designer、admin

他のワークフロースタジオコンポーネントについてよく理解してください。動的入力は、アクションとサブフローで作成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. Now Platform で、アクティビティに追加する動的入力フィールドの新しいデータ定義を作成します。
2. ワークフロースタジオで、データ収集アクションを作成します。
3. 引き続き、ワークフロースタジオで、動的入力を使用して、最初のアクションを使用するためのサブフローまたは別のアクションを作成します。このサブフローまたは新しいアクションは、アクティビティに追加するフィールドを表す JSON スキーマを作成します。
4. Now Platform では、動的入力とサブフローまたはアクションを使用してアクティビティ定義を作成します。

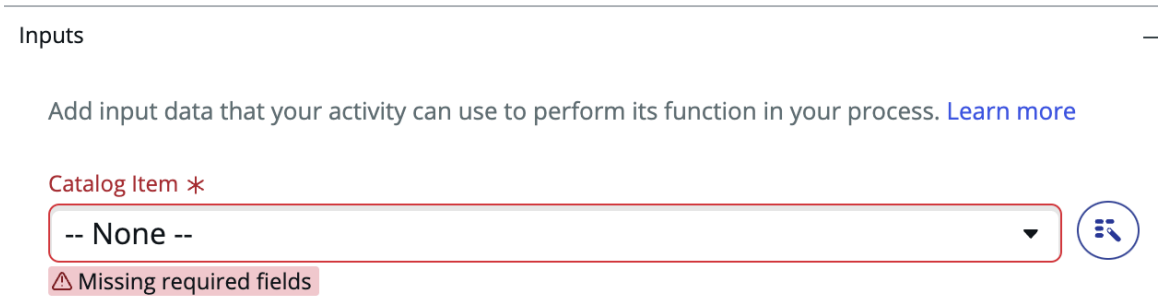
アクティビティ定義が作成されると、プロセスオートメーションデザイナー作成者は動的入力を使用してアクティビティを追加および構成できます。

このタスクについて
動的入力は、別の入力に基づいて変化する入力です。ワークフロースタジオ プロセスオートメーションデザイナーでは、別の入力に基づいて複数の動的入力を表示できます。

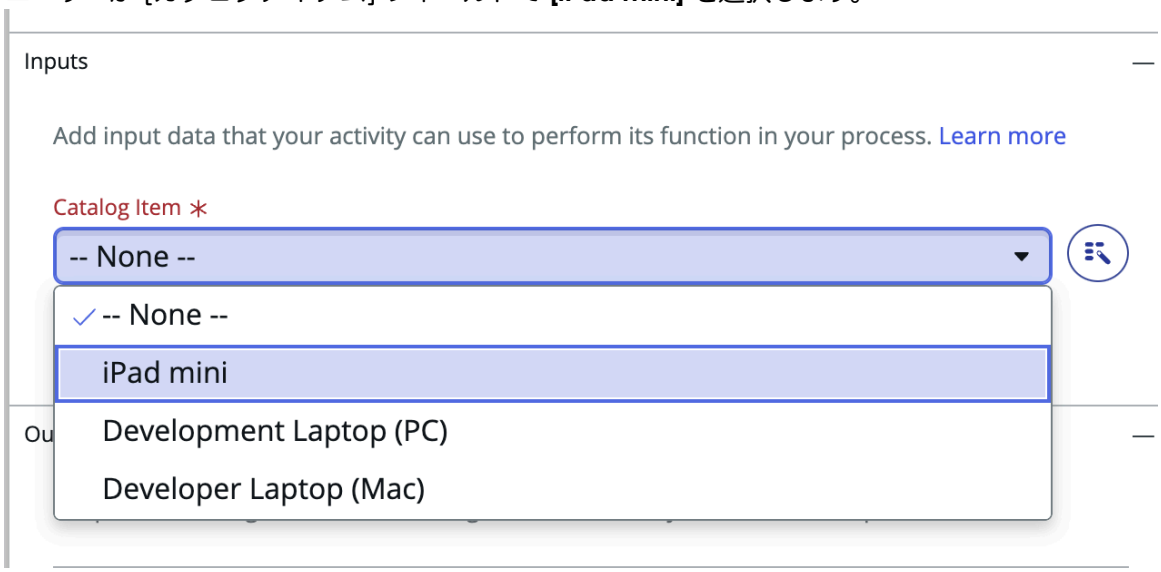
例

ユーザーがカタログアイテムを要求したときに、選択したカタログアイテムに基づいてカタログ変数のリストを動的に表示できます。

1. 必要な最初の入力は [カタログアイテム] フィールド用です。

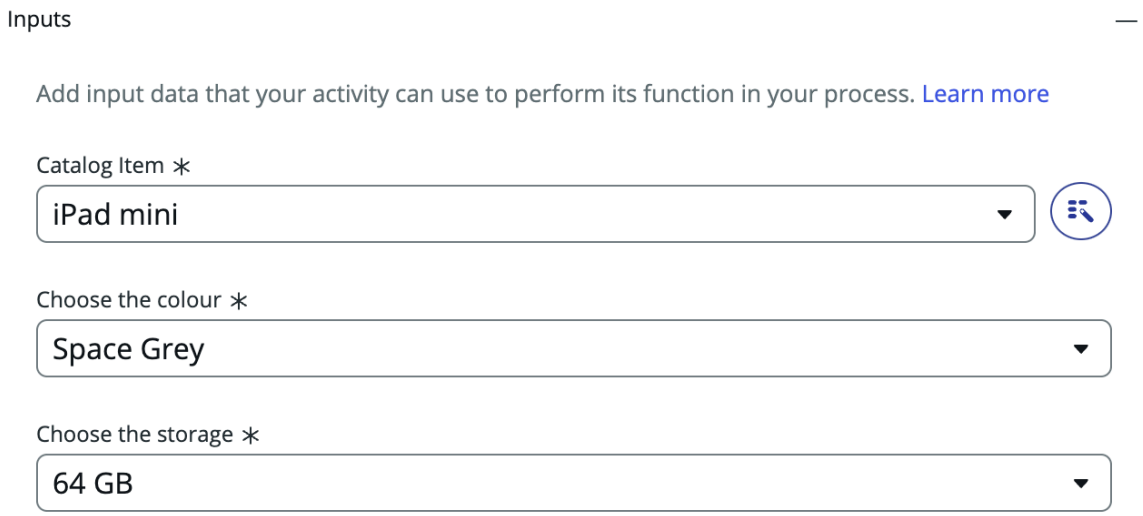


2. ユーザーが [カタログアイテム] フィールドで **[iPad mini]** を選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. ユーザーがカタログアイテムとして iPad mini を選択したことに応答して、色とストレージのオプションの 2 つの追加フィールドが表示されます。



手順

1. [すべて] > [ワークフロースタジオ]に移動し、[アクション] を選択します。
2. 入力を追加するアクションを作成します。
   入力が [スクリプトステップ] > [入力変数]セクションに表示されます。[スクリプト] セクションの JSON に新しい入力が含まれている必要があります。
3. [出力] セクションで、[出力を編集] をクリックし、[名前] フィールドの値が **[output]** で、**[JSON]** が [タイプ] ドロップダウンフィールドで選択されていることを確認します。
4. 新しい入力を使用してサブフローを作成します。
5. [すべて]] > [プロセス自動化管理] > [アクティビティ定義] に移動します。
6. 新しい入力を追加するアクティビティ定義を開くか作成します。
7. [自動化プラン] タブで、新しい入力を使用して作成したアクションまたはフローが基礎となるフローまたはアクションであること、および新しい入力が [変数] セクションに表示されていることを確認します。
8. 新しい入力の表示を、[追加のプロパティとして表示 **(Show as additional property)]** から [常に表示] に変更します。
9. 変更内容を保存します。
   アクティビティ定義が作成されると、プロセスオートメーションデザイナー作成者は動的入力を使用してアクティビティを追加および構成できます。

プロセスオートメーションデザイナー 入力 ワークフロースタジオ

プロセスオートメーションデザイナーは、組織の企業間プロセスの Now Platform® 表現です。Now Platform でデジタル化されたビジネスプロセスを実行するプレイブックを作成して有効化します。

ワークフロースタジオで設計する各プレイブックには、トリガー、一連のステージ、一連のアクティビティがあります。

[プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] > [プレイブック] に移動して、プロセスオートメーションデザイナーのリストを表示できます。プレイブックを開いて編集できます。リストにプレイブックがない場合は、[新規] をクリックして [プレイブック] を選択すると、新しいプレイブックを作成できます。プレイブックの作成の詳細については、「プロセス定義の作成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ

プレイブックを作成したら、プレイブックを開き、ヘッダーの右上隅にある [その他のアクション] メニューの [プロパティ] を選択して、プロパティにアクセスします。[追加プロパティ] モーダルでは、次の情報を編集できます。

フィールド	説明
ラベル	ワークフロースタジオおよびプレイブックエクスペリエンスに表示されるプレイブックの名前
説明	プレイブックが実行する処理の説明。
条件	プレイブックを実行するために満たす必要のある条件。
トリガーを実行	プレイブックに対してトリガーを実行できる回数を定義するオプション。次の選択肢があります。 • **1** 回：トリガー入力レコードの有効期間中にプレイブックを 1 回トリガーします。 • それぞれ一意の変更の場合：フローが現在実行中でも、非システムフィールド に対するすべての一意な更新に関するプレイブックをトリガーします。レコードに対するすべての変更の履歴が保存され、変更が一意であるかどうかが判断されます。たとえば、インシデントレコードの [ステータス] フィールドが [処理中] から [保留中] に変更されると、プレイブックが実行可能になります。ただし [ステータス] フィールドが [処理中] に戻ると、プレイブックは実行できません。 **注:** [それぞれ一意の変更の場合] を実行するトリガーを持つプロセスオートメーションデザイナーは、非インタラクティブセッションで実行するときに再帰を生じる可能性があります。このようなプレイブックがトリガーレコードに変更を加えると、変更がプレイブックトリガー条件を満たし、再帰が生じます。 • 現在実行されていない場合のみ：プロセスが現在実行されていない場合、すべての一意の変更に対してプレイブックをトリガーします。 • 更新ごと：すでに実行されたかまたは現在実行中のプロセス実行があるかどうかに関係なく、入力レコードが更新されるたびにプレイブックをトリガーします。
拡張済みに対して実行	入力テーブルを拡張するテーブルでレコード操作が発生したときにプレイブックをトリガーするオプション。たとえば、選択したテーブルがタスク [task] テーブルで、このオプションを選

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	択した場合、問題 [problem] レコードが作成または更新されたときにプレイブックがトリガーされます。詳細については、「テーブル拡張とクラス」を参照してください。

注: プレイブックを作成した後は、トリガーの入力テーブルまたはトリガータイプを変更することはできません。詳細については、「トリガー」を参照してください。

デザインの検討

プレイブックを操作するときは、次の設計上の考慮事項を参照してください。

フローデザイナー、ワークフロー、およびビジネスルールで使用されているビジネスロジックの重複を避ける

ビジネスルール、フロー、ワークフローなどの個別のビジネスロジックは、統合されたプレイブックに置き換えます。作業の重複を避けるために、置き換える外部ビジネスロジックは必ず非アクティブ化してください。

インポートおよび更新セットによって追加または更新されたレコードを無視する

レコードトリガーは、更新セットの適用または XML ファイルのインポートによって追加または更新されたレコードを無視します。これらの操作は、個々のレコードではなく、アプリケーションまたはテーブル全体に適用されます。

プレイブック を作成

プレイブックオーナーがフローデザイナーコンテンツの複数のインスタンスを Now Platform® で自動ビジネスプロセスに構成および整理できるようにします。

始める前に

- 適切なアプリケーションのプレイブックのアクティブ化。
- 作成するプレイブックに対してアプリケーションが使用するテーブルと関係について理解します。
- 必ず以下を実行してください。Now Platform での操作 (フロー、サブフロー、アクションなど) を自動化するには、自社で使用しているすべての機能をよく理解しておいてください。
- ServiceNow® Process Automation の使用を開始する方法を学習します。
- 必要なロール：admin、playbook.admin、または playbook.write。

このタスクについて

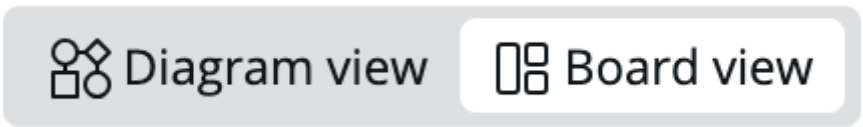
手順

1. [すべて] > [ワークフロースタジオ] > [プレイブック] に移動します。
   ワークフロースタジオランディングページが表示されます。プロセスオートメーションデザイナーはデフォルトで表示されますが、フロー、サブフロー、アクション、意思決定に切り替えることができます。
2. 右上隅にある [新規] をクリックし、ドロップダウンメニューから [プレイブック] を選択します。
   新規プレイブックのプロセスオートメーションデザイナービルダーの詳細画面が新しいタブで開きます。
3. 次のフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	アクション
プレイブック名	プレイブックの一意のユーザー向けの名前を入力します。この名前は、プレイブックの実行時にエージェントと履行者に表示されます。
説明	必要に応じて、プレイブックに関する詳細を入力します。
アプリケーション	プレイブックを実行するアプリケーションスコープを選択します。[グローバル] を選択すると、任意のアプリケーションスコープでプレイブックを実行できます。詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。

ビルダーはデフォルトで [ダイアグラムビュー] に表示されますが、[ボードビュー] を選択してビューを切り替えることができます。プレイブックのビルド中にいつでもビューを切り替えることができます。



4. トリガーを構成します。
5. ステージを追加します。
6. アクティビティを追加します。
7. 手動のプレイブックに従って、ステージとアクティビティの追加を続行します。
   プロセスオートメーションデザイナー を使用してデジタル化されたプロセス全体を設計する方法の例については、「自動化プロセスを設計する」を参照してください。
8. オプション: 追加する必要があるアクティビティがアクティビティピッカーにない場合は、アクティビティ定義を作成します。
9. オプション: 意思決定アクティビティを追加します。
10. オプション: 並列アクティビティを追加します。
11. オプション: オプションアクティビティを追加します。
12. 適切なすべてのステージとアクティビティをプレイブックに追加したら、ヘッダーの [有効化] を選択します。
    トリガーされたときに実行されるように、プレイブックを有効化して公開します。

    注: プレイブックを有効化した後に変更を加えると、変更は保存されますが、プレイブックは無効になります。プレイブックの新しい変更を公開するには、もう一度 [有効化] をクリックする必要があります。詳細については、「プレイブックのステータスとアクティブ化ステータス」を参照してください。

タスクの結果

プレイブックのトリガー条件が満たされると、プレイブックが実行されます。その結果、プロセス実行レコードが作成され、プレイブックエクスペリエンスのユーザー向け構成がレンダリングされます。プレイブックとしてレンダリングされる手動ビジネスプロセスをデジタル化する方法の例については、「自動化プロセスを設計する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
エージェントと履行者のプレイブックエクスペリエンスを設定します。

プレイブックのバリアント

複数のシナリオで 1 つのプレイブックを使用します。

プレイブックを複製して変更したり、複雑な実行条件や分岐を使用する 1 回限りのワークアラウンドに依存したりする代わりに、複数のユースケースに対してベースプレイブックの上にさまざまなバリエーションを作成します。

特定の要因に基づいて変更される類似のビジネスプロセスがある場合は、プレイブックのバリアントの使用を検討してください。例：

- さまざまな場所 (地域、国、自治体、組織など) のプロセスと要件。
  - 地域によって異なり、米国は 30 日、EMEA は 45 日で、国によってさらに異なる可能性がある、銀行の SLA。
  - ネットワークごとに差異があるカード異議申し立て：Visa、Mastercard、Discover など。
- 業界、部門、役職ごとに異なる採用フローの管理。
- さまざまなユーザーやロールのビジネスプロセスと要件。
- さまざまな種類のビジネスのライセンスや許可など、さまざまな種類のアプリケーションに関するビジネスプロセスと要件。

開始するには、「プレイブックバリアントの作成」を参照してください。

一般的なガイドライン

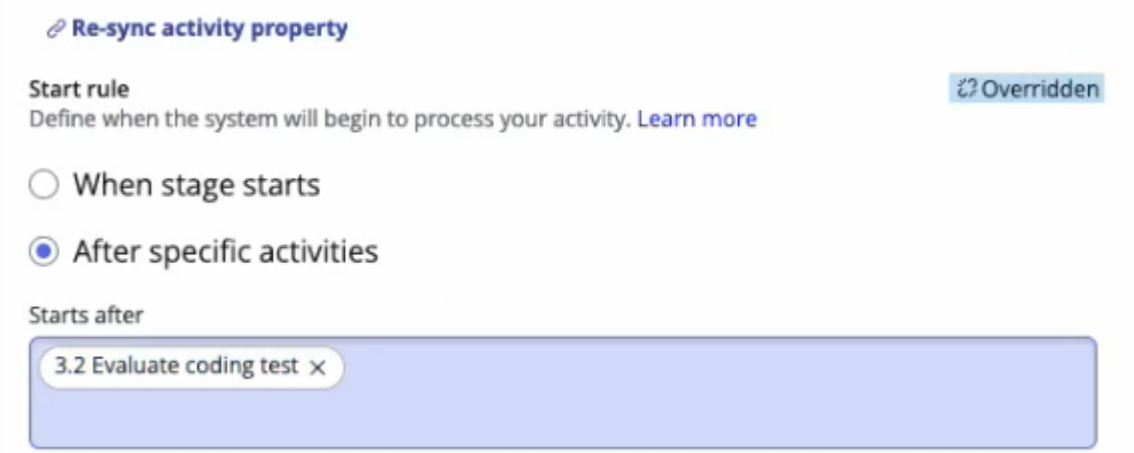
プレイブックのバリアントをより効果的に作成、実行、トラブルシューティング、および監視します。これらのガイドラインを使用して、プレイブックバリアントのパフォーマンスを最適化します。

バリアントの順序を設定する

プレイブックのバリアントは、すべてのレベルでトップダウンで評価されます。条件を満たす最初のバリアントが実行されます。バリアントが評価したい順序になっていることを確認します。

プロパティの上書きに注意する

バリアントに変更を加えると、親バリアントから継承された関連アクティビティ構成 (開始ルールや表示順序など) が上書きされる場合があります。上書きされたリンクとラベルは、親バリアントまたはプレイブックと同期されなくなったプロパティの隣に表示されます。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

すべてのプロパティをチェックして、希望どおりに構成されていることを確認します。必要に応じて、プロパティが親と同じになるように再同期します。

ディシジョンアクティビティを含むプレイブックのバリアントを作成しない

ディシジョンアクティビティは、現在プレイブックのバリアントではサポートされていません。

ステージのプロパティを変更する場合、バリアントを作成しない

ステージの上書きは、現在プレイブックのバリアントではサポートされていません。

プレイブックバリアントの作成

さまざまなユースケース向けにプレイブックのバリエーションを作成します。

始める前に

必要なロール：admin または playbook.admin

手順

1. [すべて] > [ワークフロースタジオ]に移動します。
2. バリアントを作成するプレイブックを開きます。
3. バリアントアイコン ( ) を選択して、左側のバリアントパネルを開きます。
4. [バリアントの追加 **(Add a variant)]** を選択します。
5. 次のフィールドに入力します。

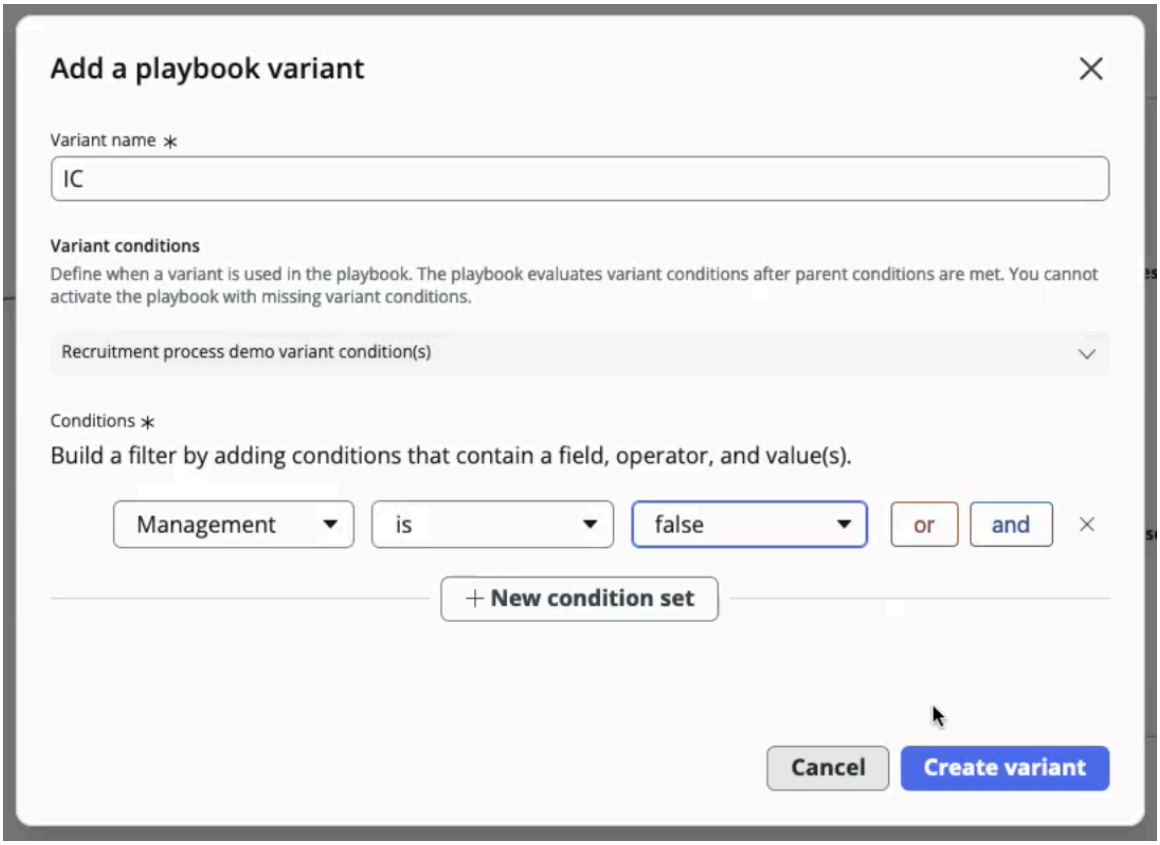
オプション	説明
バリアント名	プレイブックユーザー向けの一意のバリアント名を入力します。この名前は、このバリアントの実行時にエージェントと履行者に表示されます。
条件	条件ビルダーで、フィールド、演算子、および値を選択または入力します。 注: 条件ビルダーの詳細については、「条件ビルダー」を参照してください。 必要に応じて、このバリアントを実行する条件をさらに追加します。

Example

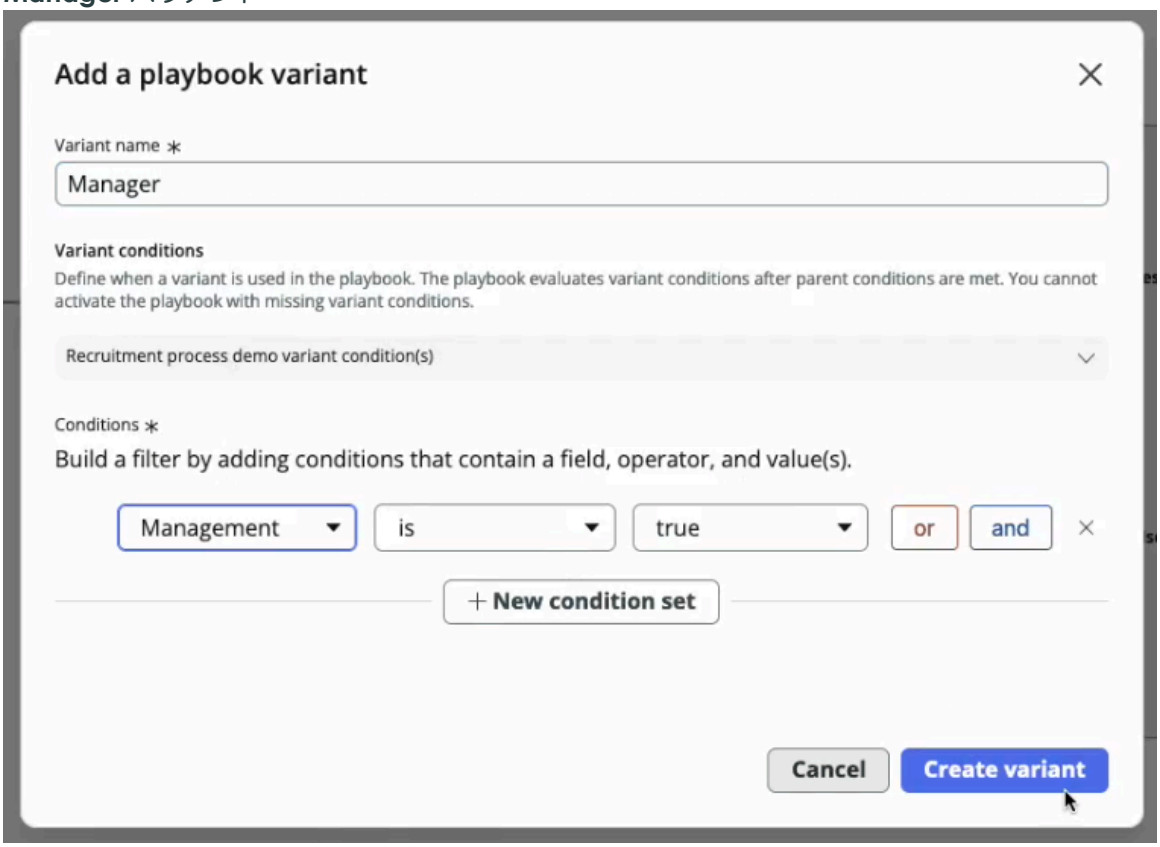
この例では、一般社員 (IC) とマネージャー向けに、ベース採用プロセスプレイブックの異なるバージョンを作成します。条件ビルダーで、バリアントが管理ロール用かどうかを指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

IC バリアント



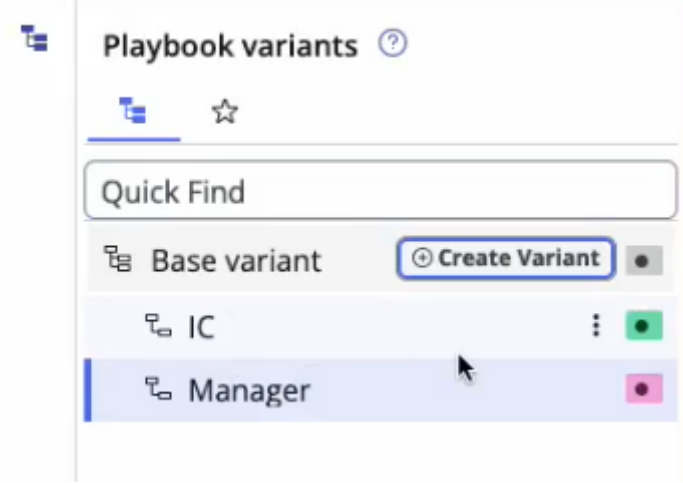
Manager バリアント



6. [バリアントの作成] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ベース採用プレイブックには、IC 用とマネージャー用の 2 つの新しいバリエーションがあります。



キャンバスの境界線の色は、開いているバリアントの色に対応しています。

重要: バリアントの順序は重要です。バリアントは、パネルにリストされている順序で上から下に評価されます。バリアントの並べ替えの詳細については、「プレイブックバリアントの並べ替え」を参照してください。

7. バリアントに変更を加えるときは、必要に応じて、すべてのアクティビティプロパティが構成されていることを確認してください。
アクティビティのプロパティを親プレイブックと異なるものにする必要がある場合は、プロパティを上書きします。

親プレイブックと同じアクティビティはグレー表示されます。アクティビティを変更または追加すると、フルカラーで表示されます。

注: より一般的なガイドラインについては、「一般的なガイドライン」を参照してください。

8. オプション: 子バリアントをバリアントに追加します。

a. **注:** 子バリアントは最高で 6 レベルまでネストできます。

バリアントパネルでバリアントにカーソルを合わせ、ケバブメニューを選択してアクションメニューを開きます。

b. [子バリアントの追加 **(Add child variant)**] を選択します。

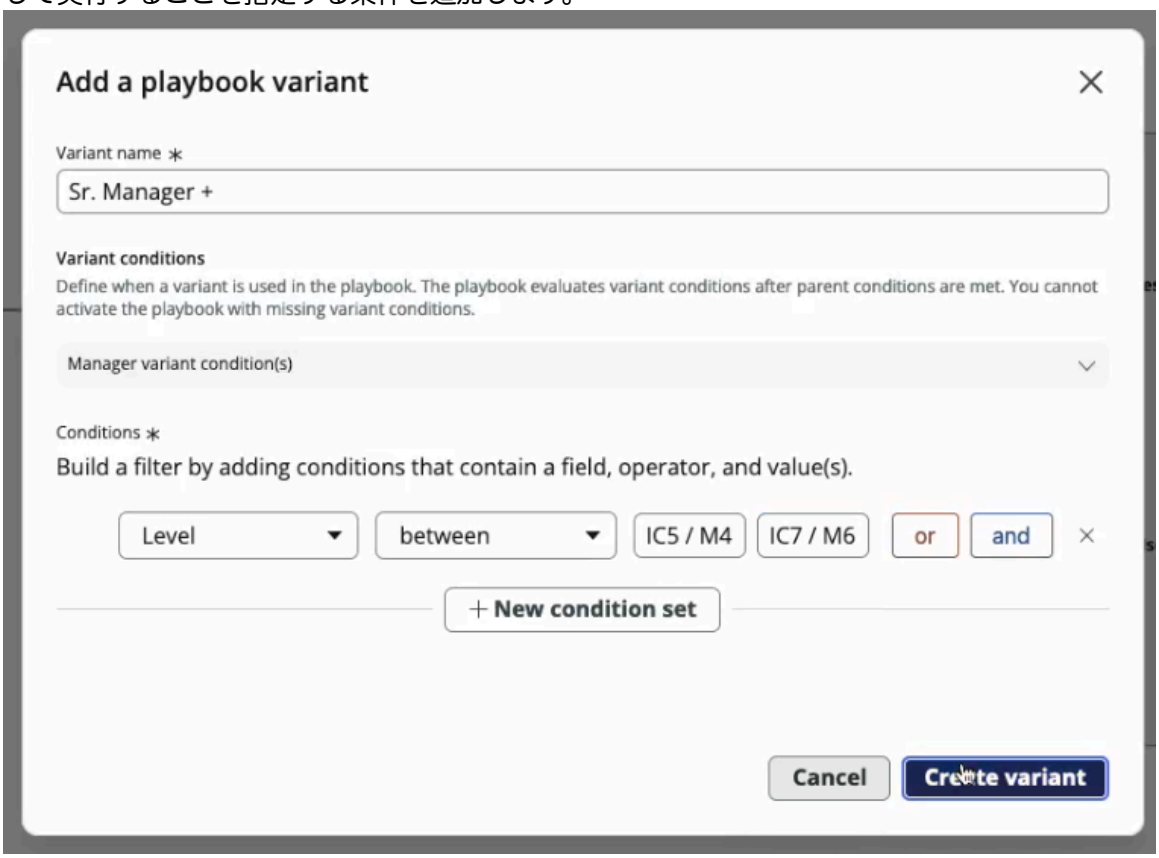
c. 次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
バリアント名	プレイブックユーザー向けの一意のバリアント名を入力します。この名前は、このバリアントの実行時にエージェントと履行者に表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

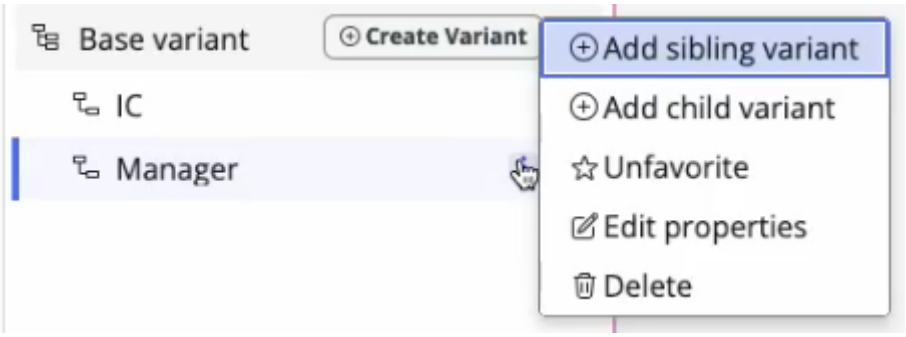
フィールド	説明
条件	(Optional) 条件ビルダーで、フィールド、演算子、および値を選択または入力します。条件ビルダーの詳細については、「条件ビルダー」を参照してください。 必要に応じて、このバリアントを実行する条件をさらに追加します。 注: 子バリアントは、親バリアントの条件を自動的に継承します。

Example
この例では、シニアマネージャー以上の採用向けに Manager バリアントの子バリアントを作成します。この特定の Manager の子バリアントをレベル M4 から M6 のマネージャーロールに対して実行することを指定する条件を追加します。



9. オプション:
   ステップ 8 に従って、別のバリアント (兄弟バリアント) と同じレベルのバリアントを追加しますが、代わりに [兄弟バリアントを追加 **(Add sibling variant)]** オプションを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



10. オプション: プレイブックバリアントの条件を編集します。
    a. バリアントパネルでバリアントにカーソルを合わせ、ケバブメニューを選択してアクションメニューを開きます。
    b. [プロパティの編集] を選択します。
11. オプション: バリアントをお気に入りとして保存するには、「プレイブックのバリアントをお気に入りとして保存する」を参照してください。

次のタスク
プレイブックバリアントを並べ替えます。バリアントの並べ替えの詳細については、「プレイブックバリアントの並べ替え」を参照してください。

プレイブックバリアントの並べ替え

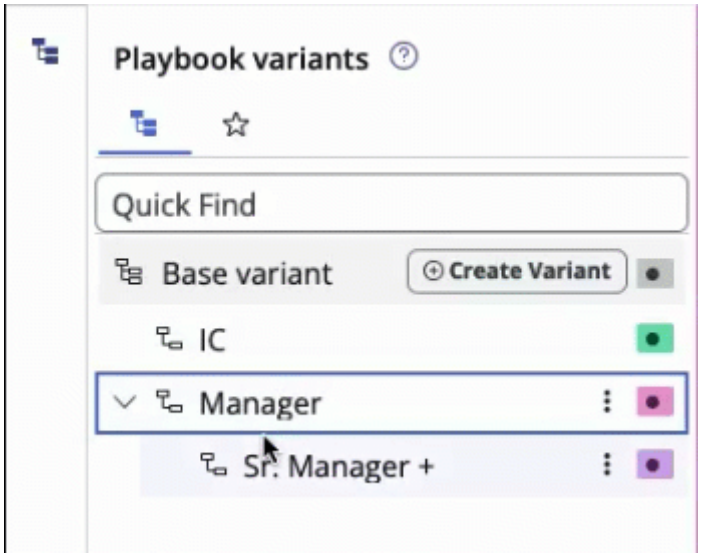
プレイブックバリアントが評価される順序を変更します。

始める前に
必要なロール：admin または playbook.admin

このタスクについて
プレイブックのバリアントは、すべてのレベルでトップダウンで評価されます。条件を満たす最初のバリアントが実行されます。

手順
1. [すべて] > [ワークフロースタジオ]に移動します。
2. バリアントを並べ替えるプレイブックを開きます。
3. バリアントアイコン ( ) を選択して、左側のバリアントパネルを開きます。
4. バリアントをレベル内の新しい場所にドラッグアンドドロップします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



バリアントを別のレベルに移動することはできません。兄弟レベルでのみ並べ替えることができます。

プレイブックのバリアントをお気に入りとして保存する

プレイブックのバリアントをお気に入りとして保存し、すばやく参照できるようにします。

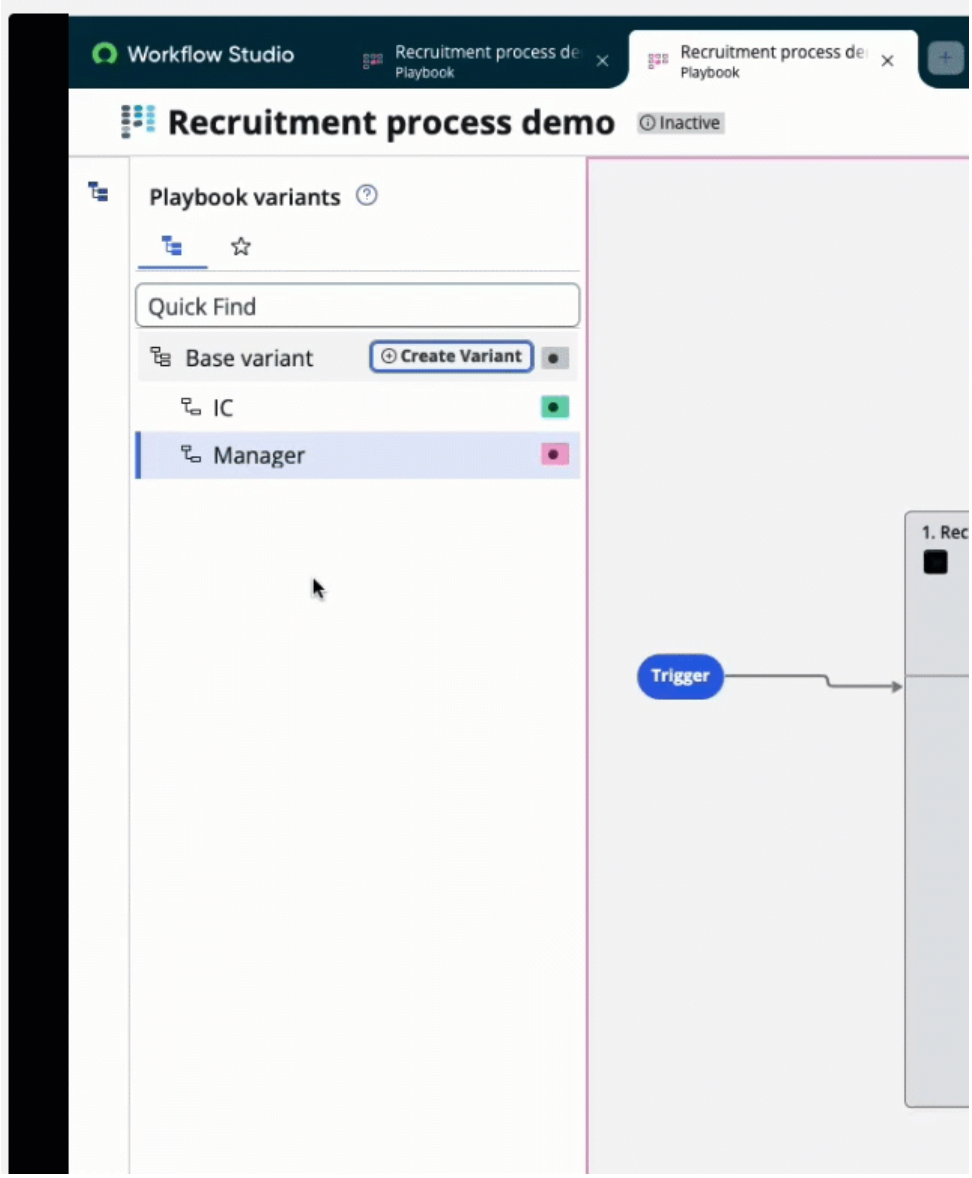
始める前に

必要なロール：admin または playbook.admin

手順

1. [すべて] > [ワークフロースタジオ]に移動します。
2. お気に入りとして保存するバリアントを含むプレイブックを開きます。
3. バリアントアイコン ( ) を選択して、左側のバリアントパネルを開きます。
4. バリアントパネルでバリアントにカーソルを合わせ、ケバブメニューを選択してアクションメニューを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. バリアントを[お気に入り] として設定します。

ヒント: [クイック検索 **(Quick Find)]** 検索バーでバリアントを検索することもできます。

プレイブックのテスト

テストトリガーデータを使用してプレイブックを実行することで、プレイブックが予想どおりに機能することを確認します。プレイブックをアクティブにする前にすべてのエラーを特定して解決します。

始める前に

- ガイド付きアプリケーションクリエーターでアプリケーションを設定して プロセスオートメーションデザイナーコンテンツを保存します。
- プレイブック を作成
- 必要なロール：admin、playbook.admin、または pd_operator ロールは、プレイブックをテストするためのアクセス権と、プロセス実行レコードを表示するためのアクセス権をユーザーに付与します。
- 実行時にプレイブックをプレビューするには、プレイブックエクスペリエンスプラグインが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 必要なプラグイン：プレイブックエクスペリエンス (sn_playbook_exp) プラグインは、プレイブックをテストするためのアクセス権と、実行時にプレイブックをプレビューするためのアクセス権をユーザーに付与します。ユーザーには、プロセス実行レコードを表示するためのロールが必要です。

このタスクについて
プレイブックをテストすると、通常のプレイブックトリガーがバイパスされ、指定したサンプルデータでプロセスが実行されます。テストを実行するたびに、インスタンスのレコードが作成または変更されます。不要なレコードの変更を避けるには、関連するデモデータを含む非本番インスタンスでプレイブックをテストします。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] > [プレイブック] に移動します。
   プロセスオートメーションデザイナー のランディングページが表示されます。
2. テストするプレイブックを開きます。
   プレイブックの詳細画面が表示されます。
3. **[Test** (テスト)] を選択します。
   [プロセスをテスト] モーダルが表示されます。モーダルの内容は、プレイブックが使用するトリガーレコードのタイプによって異なります。
4. テストに使用するプレイブックトリガーレコードを選択します。

   注: テストでは、プレイブックのトリガー条件は無視されます。テスト用に既存のレコードを選択できます。選択する既存のレコードがない場合は、テストレコードを作成できます。

   プレイブックは、選択したテストレコードがプレイブックトリガー条件を満たしているかのように実行されます。
5. オプション: テストレコードを作成します。

   a. [プロセスをテスト] モーダルで、[新しいレコードを作成] を選択します。
      新しいブラウザータブに Now Platform の [レコードの作成] フォームが開きます。

   b. 新しいレコード値を入力します。
      レコードのフィールドは、プレイブックがどのテーブルからトリガーされるかによって異なります。

   c. [送信] を選択します。
      指定した値のレコードが作成されます。

   d. プロセスオートメーションデザイナービルダーで [プロセスをテスト] モーダルが開いているワークフロースタジオブラウザータブに戻ります。

   e. [プロセスをテスト] モーダルを閉じるかキャンセルします。

   f. 手順 2 ～ 4 を繰り返し、作成したテストレコードを選択します。

   注: テーブルにレコードがない場合にのみ、[新しいレコードを作成] オプションが表示されます。

6. **[Run Test** (テストを実行)] を選択します。
   システムは、テストデータとして選択したレコードを使用してプレイブックを実行します。テストが完了すると、プロセス実行の詳細と Playbook プレビューを表示するオプションが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [プロセス実行の詳細] を表示し、プレイブックのステータス、アクティビティの実行、生成されたログメッセージに関する情報を確認します。

   注: このオプションは、admin、playbook.admin、または pd_operator ロールを持つユーザーのみに表示されます。

   システムは新しいタブに [プロセス実行] フォームを開きます。

8. [プレイブックプレビュー] を表示するには：

   a. プレイブックエクスペリエンスのタイプを選択します。

   b. [ビュー] を選択します。

   注: このオプションは、プレイブックエクスペリエンスプラグインが有効になっているインスタンスのみに表示されます。

   新しいタブにサンプルのプレイブックが開きます。

9. プレイブック内のエラーを特定して解決します。
10. リリースの準備ができるまで、プレイブックを更新してテストします。

次のタスク
プレイブックを本番インスタンスに公開して有効にします。

再起動

エージェントと履行者に、プレイブック、ステージ、またはアクティビティを再起動する機能を提供します。

ワークフロースタジオ プロセスオートメーションデザイナービルダーでは、プロセスオートメーションデザイナーアドミニストレーターがプレイブックエクスペリエンスエージェントと履行者による再起動を有効にします。プロセスオートメーションデザイナーは、最初から、または実行時に特定のアクティビティやステージから再起動できます。プロセスオートメーションデザイナーアドミニストレーターは、エージェントの再起動時に各アクティビティとステージの実行内容も定義します。

ワークフロースタジオ

ワークフロースタジオでは、プロセスオートメーションデザイナーアドミニストレーターは、プレイブックの再起動を有効にし、再起動中にアクティビティまたはステージが実行する内容のルールを定義します。

- 再起動時にスキップ **(Skip on restart)**：ステージまたはアクティビティは、 プレイブックの最初の実行中にのみ実行されます。再起動時には実行されません。

  注: 元の実行と結果のレコードが引き続き関連しているため、この設定は、再起動による実行中に新しいタスクまたはレコードが作成されないようにする場合に役立ちます。

- 常に実行：ステージまたはアクティビティは、最初の実行中か再起動による実行中かにかかわらず、常に実行されます。
- 初回実行時にスキップ **(Skip on first run)**：ステージまたはアクティビティは再起動時にのみ実行されます。最初の実行中は実行されません。

プレイブックエクスペリエンス

実行中に、エージェントと履行者は、プレイブックを最初から、 または特定のステージやアクティビティから再起動できます。

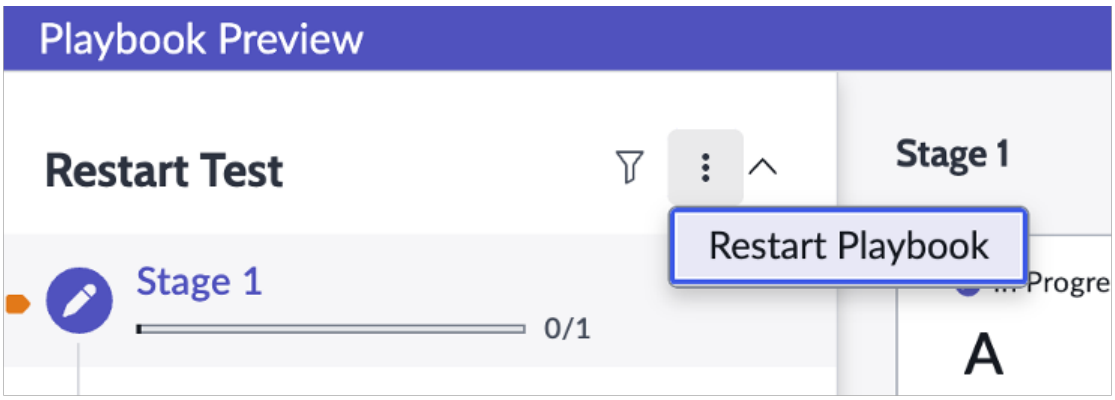
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: アクティブ状況のプロセスオートメーションデザイナーは再起動できます。

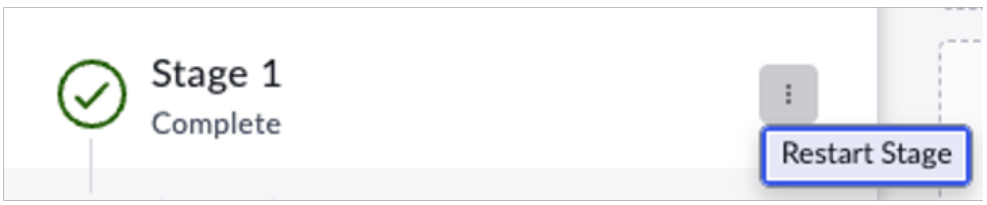
- キューに格納
- 保留中のキャンセル
- 処理中

ターミナルステータスのプロセスオートメーションデザイナーは再起動できません。

- 完了
- エラー
- キャンセル



アクティビティとステージの場合はその逆になります。アクティビティとステージは再起動する前に完了しているか、エラーステータスになっている必要があります。



デザインの検討

プレイブック、ステージ、およびアクティビティの再起動を構成するときは、次の設計上の考慮事項に従ってください。

最後のステージとアクティビティ

並列するステージまたはアクティビティがない場合は、プレイブックの最後のステージまたはアクティビティを [初回実行時にスキップ **(Skip on first run)**] に設定しないでください。最後のステージまたはアクティビティが実行される前にプレイブックが再起動されると、最後のステージまたはアクティビティは実行されません。

ステージ

初回実行時にスキップするように構成されているすべてのアクティビティを 1 つのステージにグループ化することは避けてください。そうしないと、初回実行時にステージが完全に非表示になります。ステージが表示されるようになるには、ステージを 2 回実行する必要があります。

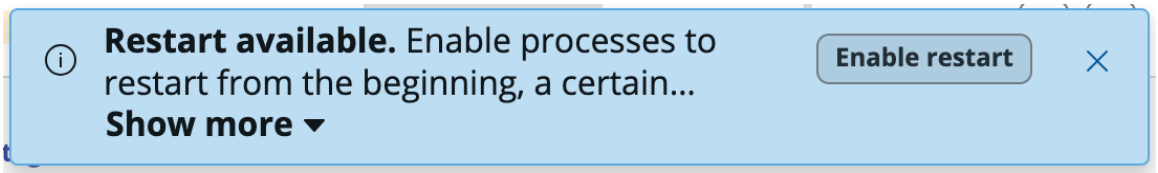
プロセスオートメーションデザイナーの再起動を有効にして構成する

プレイブック プレイブックエクスペリエンスのエージェントと履行者が最初から、または特定のステージやアクティビティからプレイブックを再開できるように設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：pd_author

プロセスオートメーションデザイナー 25.1.2 ServiceNow Store アプリへのアップグレード後に初めてワークフロースタジオで既存のプレイブックを開くと、プレイブックの再起動を有効にするよう通知するバナーメッセージが表示されます。以下のタスクを実行する前に、再起動機能を有効にする必要があります。



このメッセージは、既存のプレイブックに対してのみ表示されます。再起動は新しいプレイブックに対して自動的に有効になり、他の機能は変更されません。

注: 再起動を有効にすると、無効にできなくなります。エージェントがプレイブックまたはプレイブック内のアクティビティとステージを再起動できないようにする場合は、次のタスクを実行しないでください。

手順

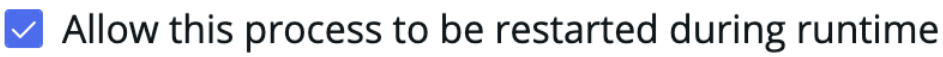
1. プレイブック全体の再起動を有効にします。

   a. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動し、[プレイブック] を選択します。
   プロセスオートメーションデザイナー リストが表示されます。

   b. 再起動を有効にするプレイブックを開きます。
   プロセスオートメーションデザイナービルダーが表示されます。

   c. 右上で、[その他のアクション] メニュー] ( ) を開き、[プロパティ] を選択します。
   [追加プロパティ] モーダルが表示されます。

   d. [全般] タブの下部で、[このプロセスを実行時に再起動できるようにする] チェックボックスをオンにします。

   エージェントはプレイブック全体を再起動できるようになりました。

   注: プレイブック全体を再起動できない場合でも、アクティビティとステージの再起動を有効にできます。

2. 各ステージとアクティビティの再起動ルールを定義します。

   注: ステージの再起動設定は、そのアクティビティには適用されません。各アクティビティにも、独自の再起動設定があります。

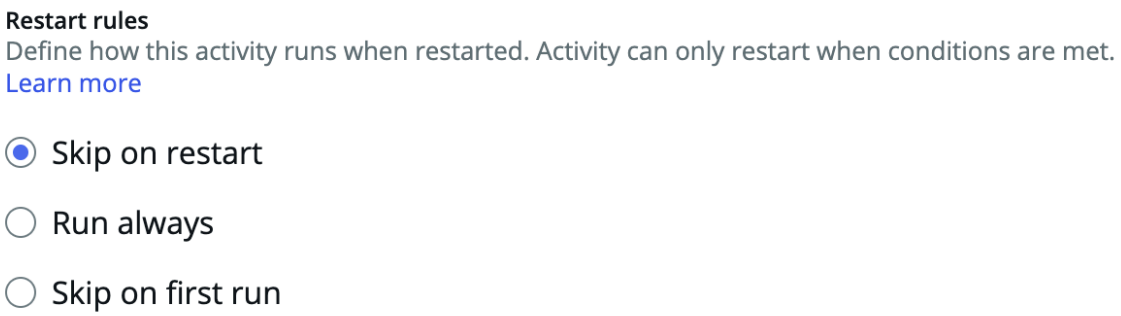
   a. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] > [プレイブック] に移動します。
   プロセスオートメーションデザイナー リストが表示されます。

   b. ステージまたはアクティビティの再起動設定を構成するプレイブックを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロセスオートメーションデザイナービルダーが表示されます。

c. 再起動設定を構成するステージまたはアクティビティを開きます。



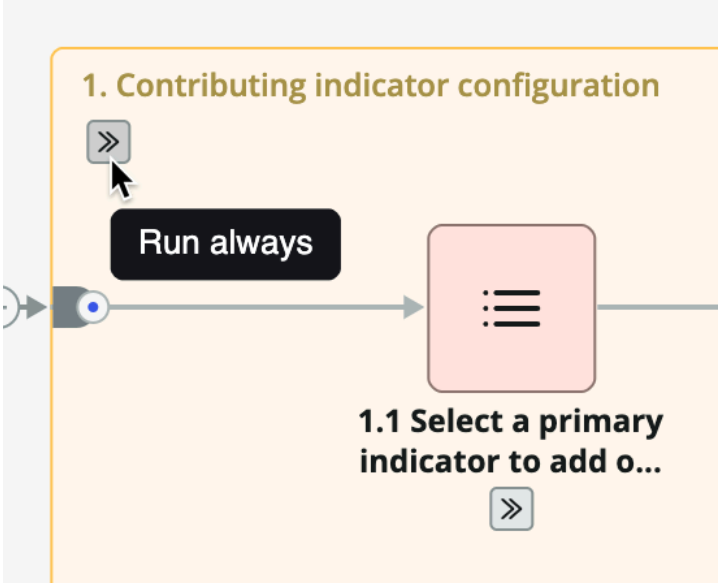
d. 再起動時にステージまたはアクティビティで実行する処理を選択します。

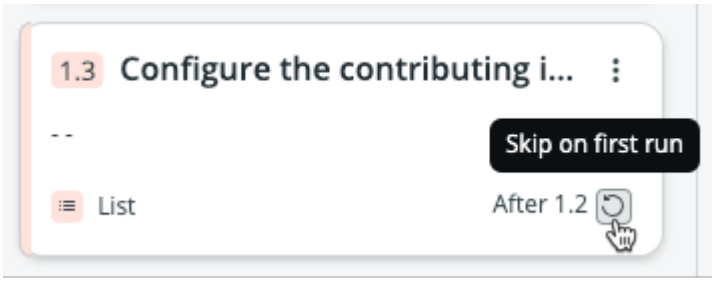
ルール	説明
再起動時にスキップ	ステージまたはアクティビティは、プレイブックの最初の実行中にのみ実行されます。再起動による実行中は実行されません。 **注:** 元の実行と結果のレコードが引き続き関連しているため、この設定は、再起動による実行中に新しいタスクまたはレコードが作成されないようにする場合に役立ちます。
常に実行	ステージまたはアクティビティは、最初の実行中か再起動による実行中かにかかわらず、常に実行されます。
初回実行時にスキップ (Skip on first run)	ステージまたはアクティビティは、再起動による実行中にのみ実行されます。最初の実行中は実行されません。

再起動ルールが適用されます。

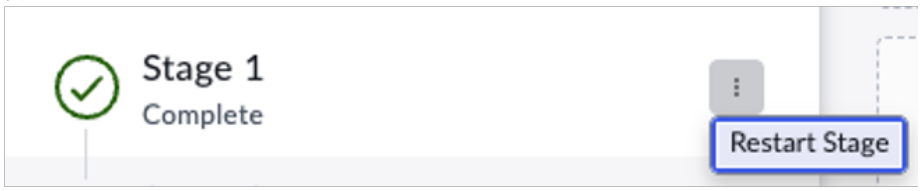
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

◦ 再起動の設定は、ワークフロースタジオ プロセスオートメーションデザイナービルダーのダイアグラムビューとボードビューの両方に反映されます。

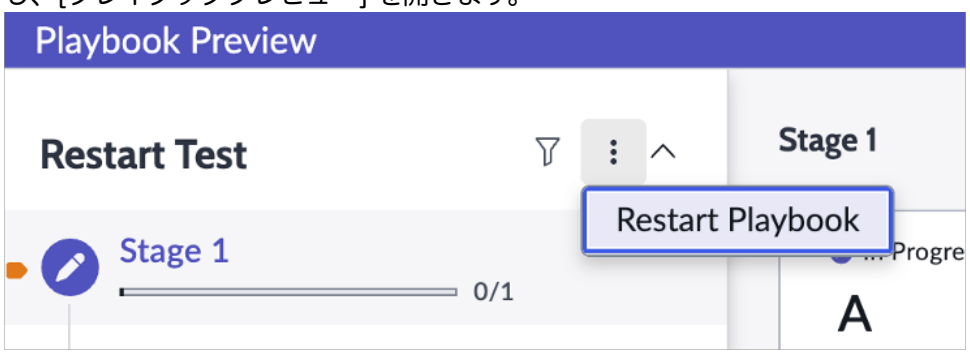




◦ 再起動ボタンがプレイブックのコンテキストメニューに追加されます。



3. オプション:
再起動オプションを使用してプレイブックをテストするには、右上隅にある [テスト] を選択し、[プレイブックプレビュー] を開きます。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロセスオートメーションデザイナーの複製

元のプレイブックと同じトリガー、ステージ、アクティビティ、およびエクスペリエンスの構成を使用して、既存のプロセスのコピーを作成します。重複した プレイブック を編集して、機能するバリエーションをすばやく作成します。

始める前に

- 適切なアプリケーションのプレイブックのアクティブ化。
- 作成するプレイブックに対してアプリケーションが使用するテーブルと関係について理解します。
- 必ず以下を実行してください。Now Platform での操作 (フロー、サブフロー、アクションなど) を自動化するには、自社で使用しているすべての機能をよく理解しておいてください。
- ServiceNow® Process Automation の使用を開始する方法を学習します。
- 必要なロール：admin または playbook.admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] > [プレイブック] に移動します。
   プロセスオートメーションデザイナービルダーが表示されます。
2. 複製するプレイブックを選択します。
3. 複製するプレイブックの横にあるチェックボックスをオンにします。
   一度に複製できるプレイブックは 1 つだけです。
   [複製] ボタンが表示されます。
4. [複製] を選択します。
   選択したプレイブックのコピーが作成され、新しいプレイブックの [プレイブックを複製] モーダルが開きます。
5. プレイブックのプロパティを入力します。

オプション	説明
ラベル	プレイブックの一意のユーザー向けの名前を入力します。この名前はプレイブック実行時に表示されます。
アプリケーション	プレイブックを実行するアプリケーションスコープを選択します。[グローバル] を選択すると、任意のアプリケーションスコープでプレイブックを実行できます。詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。
説明	必要に応じて、プレイブックに関する詳細を入力します。
トリガータイプ	トリガーを起動する要因を指定します。
テーブル	レコード操作でプレイブックをトリガーするテーブル。このフィールドは編集できません。

6. 新しいプレイブックに合わせてプレイブックのステージとアクティビティを編集します。
7. **[Save** (保存)] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プレイブックの翻訳の追加

実行時にプレイブックを複数の言語で利用できるようにして、世界中のビジネスプロセスをサポートします。

始める前に

- 必要なロール：admin または playbook.admin
- プレイブックのカスタム翻訳を有効にするには、アプリのバージョン 27.1 以降をインストールします。
- 翻訳するプレイブックをアクティブ化します。
- カスタムコンテンツの翻訳全般に関する詳細については、「カスタムコンテンツの翻訳」を参照してください。

このタスクについて

UI メッセージレコードは、プラットフォームでシステムメッセージが翻訳されるのと同様に、実行時にプレイブックのテキストをさまざまな言語に翻訳するために使用されます。メッセージテーブル [sys_ui_message] に関する全般的な詳細については、「メッセージテーブル」を参照してください。

翻訳を作成できるプレイブックのテキストは次のとおりです。

- プレイブックラベル
- ステージラベル
- アクティビティラベル
- アクティビティの説明
- HTML と文字列 アクティビティ UI レイアウトのプロパティ

> **注:** メールやレコードの作成に使用されるテキストなどの自動入力は翻訳されません。プレイブックエクスペリエンス内で実行時に表示されるテキストのみが翻訳可能です。

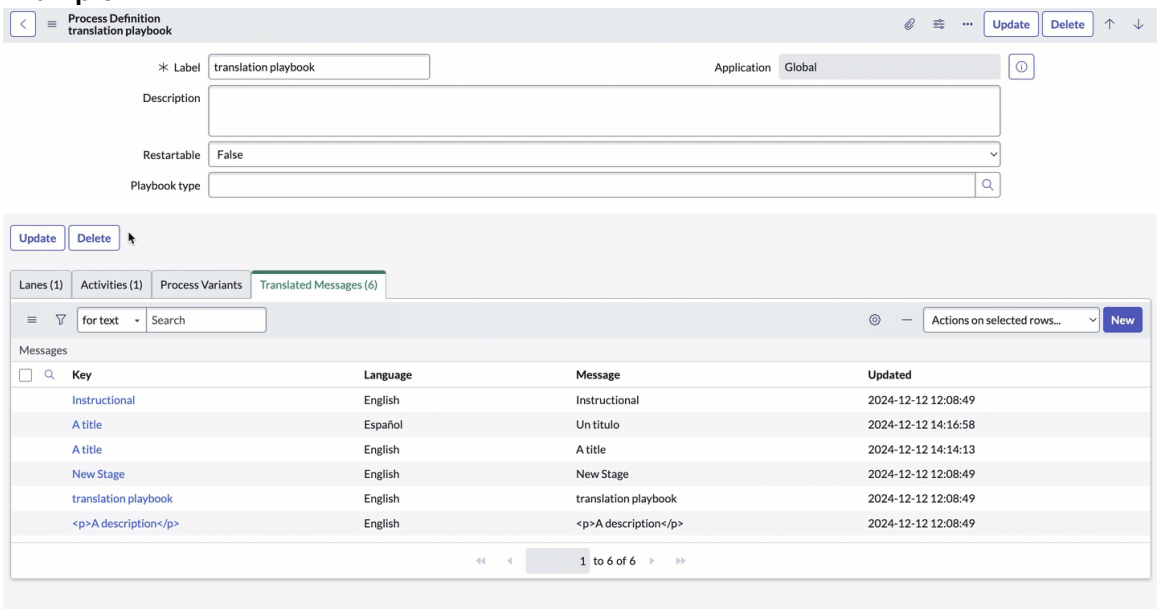
手順

1. ワークフロースタジオに移動し、プレイブックを開き、プレイブックをアクティブ化します。
2. [すべて] メニューを開きます。
3. フィルターバーに「**sys_pd_process_definition.list**」と入力します。
4. 翻訳を追加するプレイブックを選択します。
5. [翻訳されたメッセージ **(Translated Messages)**] タブを開きます。
   すべてのプレイブックテキストがここにリストされます。
6. 翻訳するテキストを開きます。
7. [言語] ドロップダウンから、翻訳先の言語を選択します。
8. [メッセージ] フィールドに、翻訳されたテキストを入力します。
9. フォームヘッダーを右クリックし、コンテキストメニューを開き、[挿入] を選択します。
   翻訳されたテキストが保存されます。

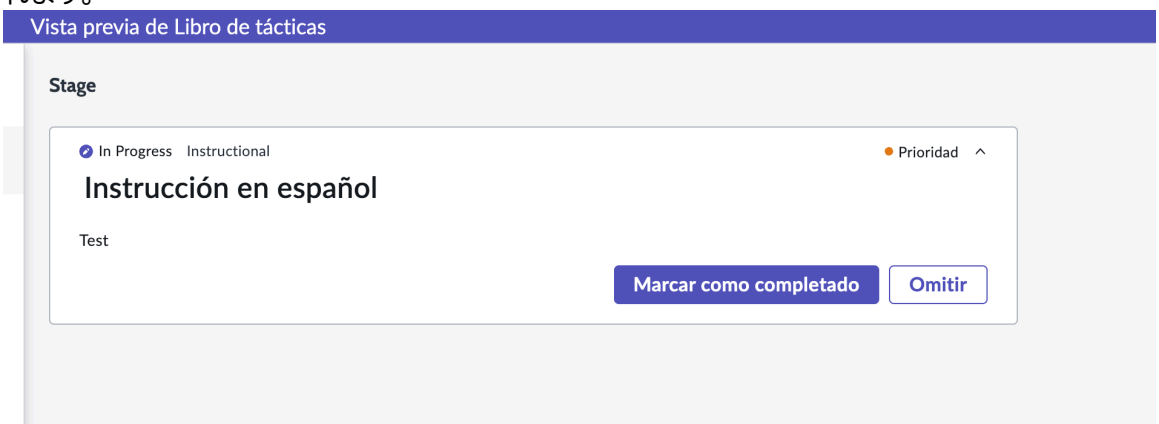
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

10. 手順 1 ～ 8 を繰り返して、さらに翻訳を追加します。

Example



タスクの結果
プレイブックの実行時に、翻訳されたコンテンツがユーザーセッション言語でエージェントに表示されます。



プレイブックの設計

プレイブックエクスペリエンスアドミニストレーターは、実行時にプレイブックのレイアウトと機能を構成します。

概要

プレイブックエクスペリエンスアドミニストレーターが実行時にプレイブックの UI を設定する方法は多数あります。プレイブックは、次の場所に設計して埋め込むことができます。

- UI ビルダー (構成可能ワークスペース)
- 従来のワークスペース
- サービスポータル
- ServiceNow モバイルプラットフォーム

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プレイブックエクスペリエンスのカスタマイズ

統合された UI ビルダー 機能からベースシステムのモジュール式コンポーネントやテンプレートなどを使用して プレイブックエクスペリエンス のレイアウトをカスタマイズします。

プレイブックエクスペリエンスアプリのモジュール式コンポーネントを使用して、エージェントと履行者向けのカスタムエクスペリエンスをビルドします。開発プロセスの迅速化のため、提供されたコンポーネントにプリセットで自動入力したいページに、カスタムレイアウト UI コントローラーを追加します。

注: UI ビルダーを使用して独自のカスタムコンポーネントを作成することもできますが、プリセットではカスタムコンポーネントにデータを自動入力できません。

コンポーネント

プレイブックエクスペリエンスで次のモジュール式コンポーネントを表示する方法を決定します。

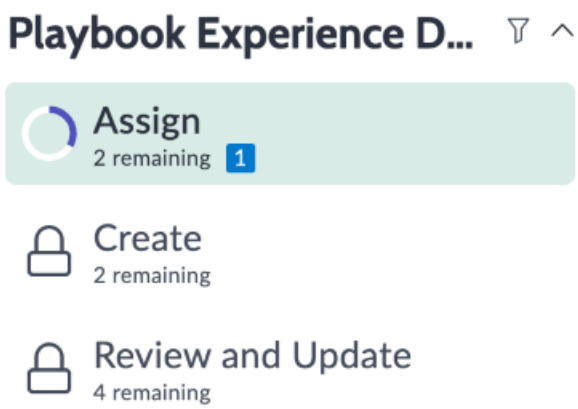
プレイブックステージピッカー

プレイブック のステージは、水平にも垂直にも表示できます。

- 垂直方向では以下のものが表示されます。
  - 親レコードのすべてのプレイブック
  - 各プレイブックのステージ
  - 各ステージで完了する必要がある残りのアクティビティ数
  - ステージごとの進行中のアクティビティ数

  この例では、プレイブックエクスペリエンスデモ という名前のプレイブックと、[アサイン]、 [作成]、 [レビューおよび更新] という名前のステージが表示されています。[アサイン] ステージには完了すべきアクティビティが 2 つあり、1 つが進行中です。[作成] と [レビューおよび更新] ステージには、横に青色の番号がないため、進行中のアクティビティはありません。

  垂直ステージピッカー

- 水平方向では、選択した プレイブック のステージのみが表示されます。ステージのアクティビティを表示するには、ステージを選択します。

  水平ステージピッカー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ステージ数が 5 を超えるプレイブックはページネーションされます。

注: 水平ステージピッカーには作業中のプレイブックとそのステージのみが表示されるため、次の場合を除き、プレイブック間の移動はできません。

- プレイブック テンプレートを使用する
- UI ビルダー を使用して独自のドロップダウンコンポーネントを作成する

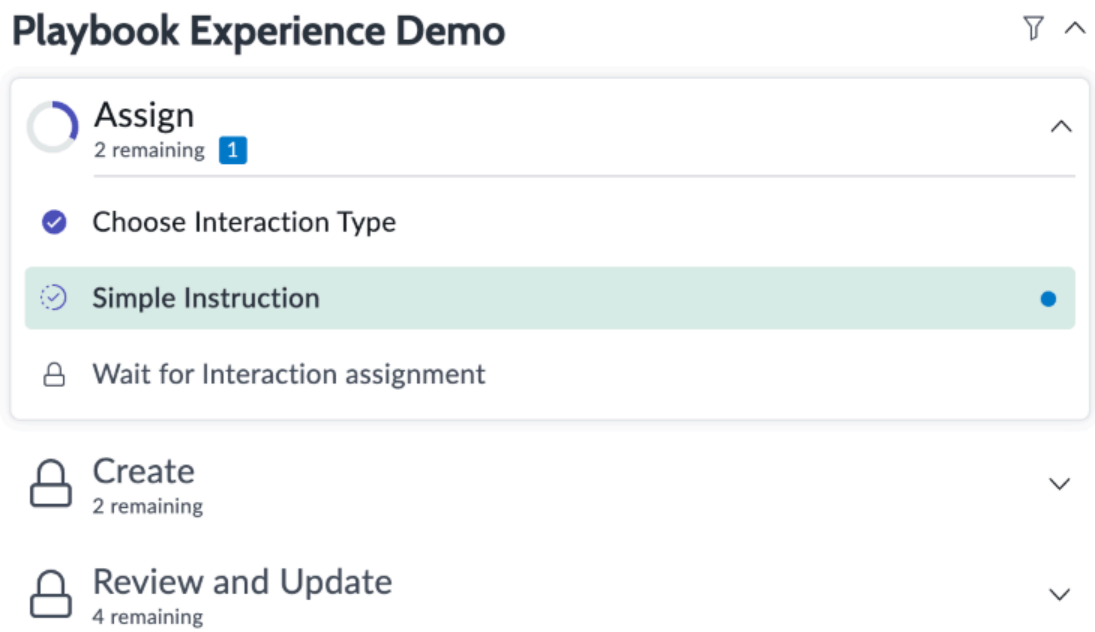
すべての プレイブック テンプレートにはプレイブック間を移動するためのドロップダウンコンポーネントが含まれており、[プレイブックピッカー] プリセットを選択すると自動的に設定されます。

プレイブックアクティビティピッカー

アクティビティピッカーで、アクティビティ間を移動できます。

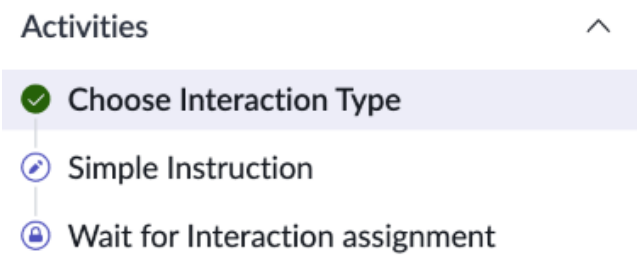
垂直ステージピッカーを使用している場合、アクティビティピッカーをオンにすると、各ステージを展開してそのステージのアクティビティを表示できます。

ステージが垂直に表示されているときのアクティビティピッカー



水平ステージピッカーを使用している場合、アクティビティピッカーをオンにすると、現在のステージのアクティビティのリスト全体を展開したり折りたたんだりできます。

ステージが水平に表示されているときのアクティビティピッカー



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

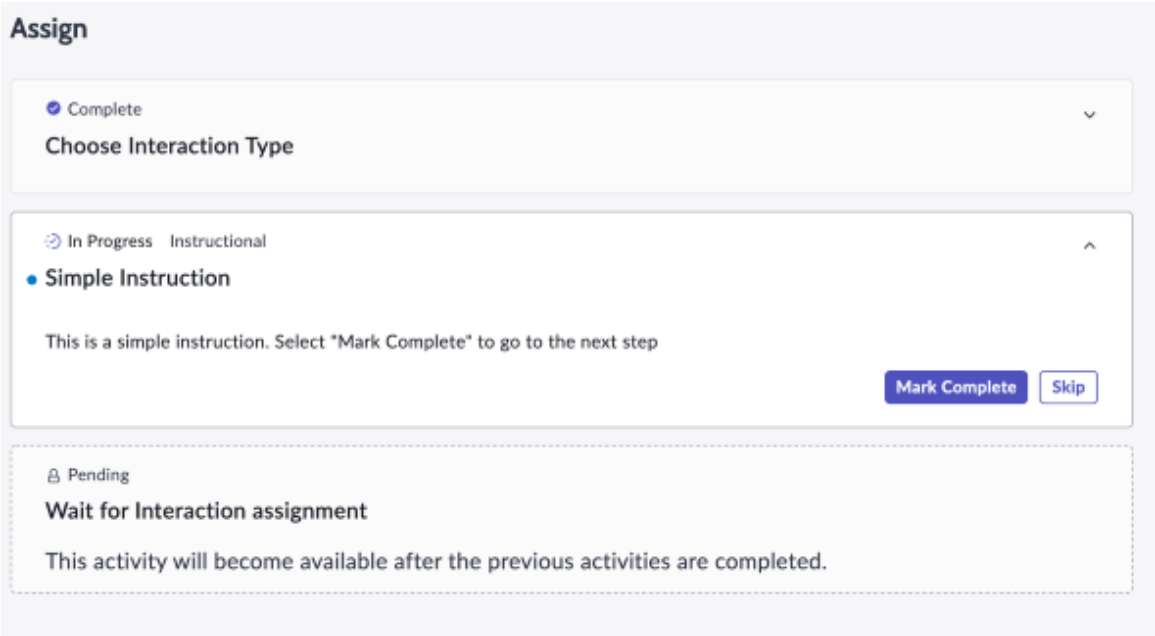
[ステージフラグを表示] フラグのオンとオフを切り替えます。

プレイブックアクティビティビューアー

アクティビティビューアーでは、ステージのアクティビティを管理します。このスペースでのアクティビティの表示方法は次のように変更できます。

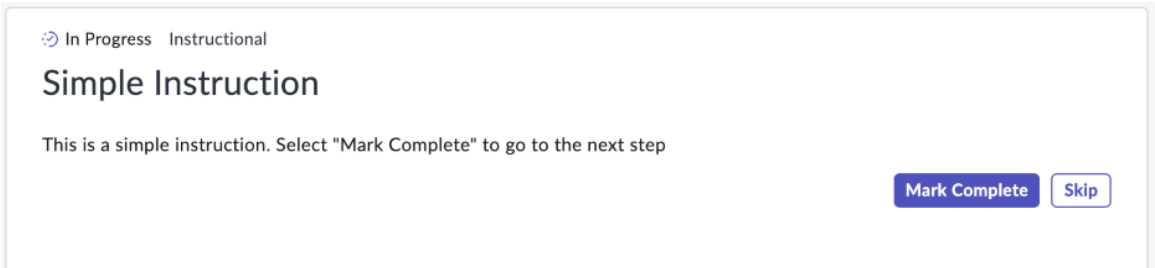
- スタックビューには、積み重ねられたステージ内のすべてのアクティビティが表示されます。

プレイブックスタックビュー



- 集中ビューには、選択された 1 つのアクティビティが表示されます。

プレイブックの集中ビュー

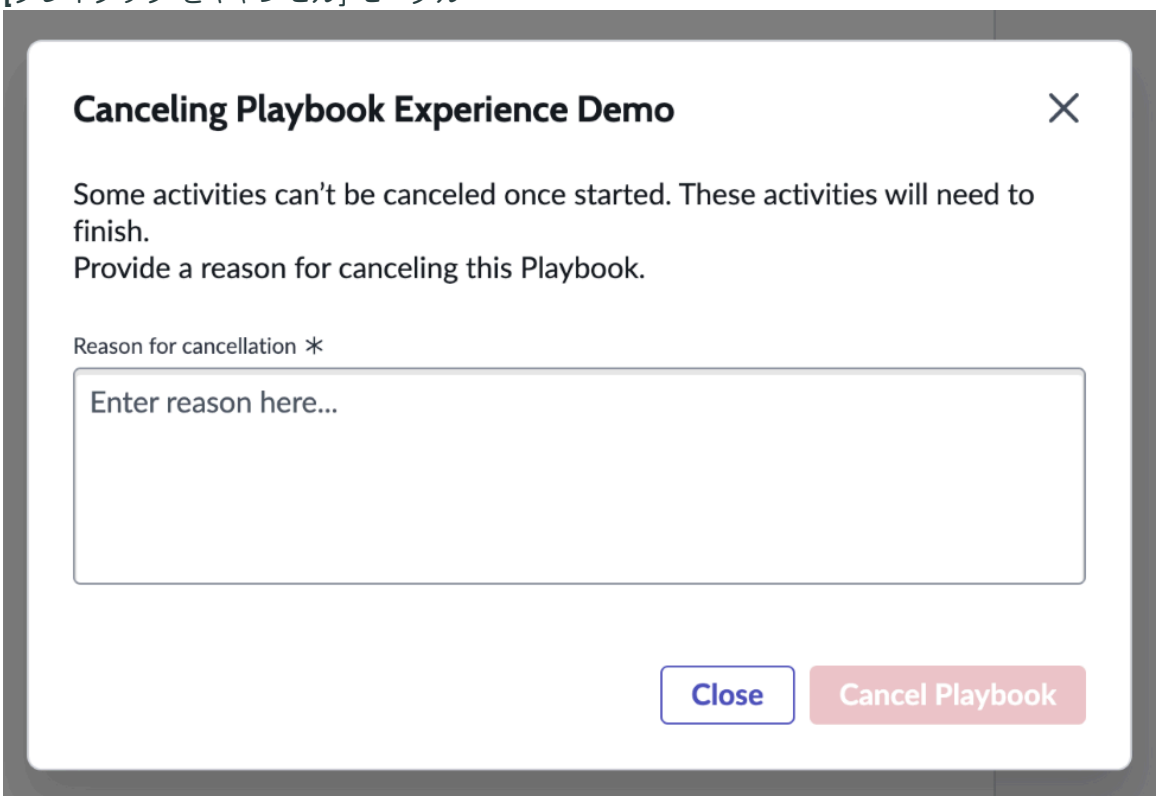


プレイブックモーダル

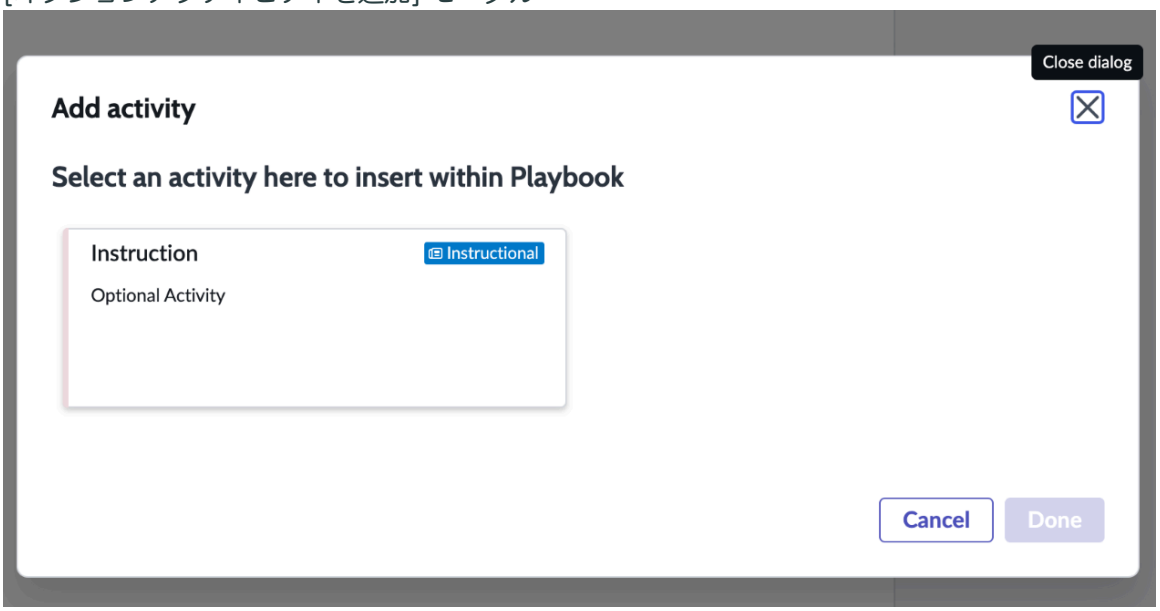
プレイブックをキャンセルしてオプションのアクティビティを追加する場合は、[プレイブックモーダル] コンポーネントをページに追加する必要があります。テンプレートを使用する場合、コンポーネントは既に含まれています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[プレイブック をキャンセル] モーダル



[オプションアクティビティを追加] モーダル



カスタマイズされたプレイブックエクスペリエンスのコンポーネントの設定を開始するには、「カスタムレイアウトの開始」を参照してください。

提供された UI ビルダー バンドル

各コンポーネントを個別に追加することが最適でない場合は、レイアウト全体を新規または既存のUI ビルダー テンプレートに追加することもできます。

- 垂直フォーカス
- 水平フォーカス

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 垂直スタック
- 垂直スタック

各レイアウトには、次のコンポーネントが含まれています。

- UI コントローラー
- プリセット
- アクティビティビューアー
- アクティビティピッカー
- モーダル
- プレイブックピッカー
- ステージピッカー
- クライアントスクリプト

既存または新規の UI ビルダー ページにバンドルを追加するには、「UI ビルダー ページへのカスタムレイアウトバンドルの追加」を参照してください。新しいエクスペリエンスを作成していて、標準レコードページにバンドルを追加する場合は、「UI ビルダー 標準レコードページへのカスタムレイアウトバンドルの追加」を参照してください。

カスタムレイアウトの開始

UI ビルダー ページを設定し、プレイブックエクスペリエンス でカスタムレイアウト用のモジュール式プレイブックカスタムレイアウトのコンポーネントの構成を開始します。

始める前に

- カスタムレイアウトを適用する プレイブック がない場合は、プレイブックをビルドします。詳細については、「プレイブックのビルド」を参照してください。
- ServiceNow Store から最新バージョンの プレイブックエクスペリエンス およびプレイブックエクスペリエンスコンポーネントアプリをインストールします。「プレイブックエクスペリエンスアプリ」を参照してください。

必要なロール：ui_builder_admin、admin

このタスクについて

UI ビルダー ページを作成した後、必要に応じて プレイブックエクスペリエンス ページをカスタマイズできます。ページテンプレートには、コンポーネントプリセットで使用できるコントローラー (プレイブック テンプレートなど) が含まれています。詳細については、「コントローラーを使用した UI ビルダー ページへのデータのバインド (高度な機能)」を参照してください。

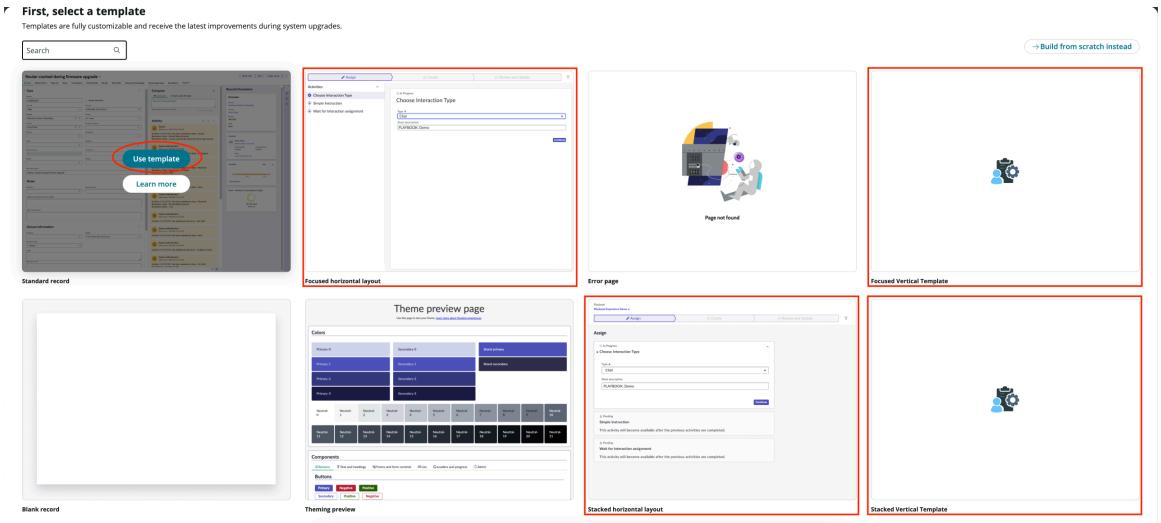
手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー] に移動します。
2. 作業する **UI** ビルダー エクスペリエンスを開くか、新しいエクスペリエンスを作成します。
   プレイブックエクスペリエンスビルダーエクスペリエンスは、プレイブックエクスペリエンス をカスタマイズするために作られています。エクスペリエンスの作成方法の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. **[UI** ビルダー] エクスペリエンスでは、次のことができます。
   - ページを最初から作成する、
   - [標準レコード] テンプレートからページを作成する、
   - または、プレイブックエクスペリエンステンプレートからページを作成する。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プレイブックエクスペリエンステンプレートを使用すると、バージョン 25.2 時点でのレコードジェネレータを含むプレイブックカスタムレイアウト UI コントローラーとコンポーネントが既にすべてのページに追加されているため、開発プロセスの速度が向上します。コントローラーは、提供されたすべてのコンポーネントにデータを自動的に入力します。

注: テンプレートを使用する場合でも、カスタムコンポーネントを作成して追加することができます。



4. プレイブックエクスペリエンス テンプレートを使用している場合は、ページを作成します。

a. ページの詳細を設定します。

名前	ページの名前。
URL パス	ユーザーがページにアクセスするために移動する URL パス。

b. ページのテストパラメーターを確認します。

テーブル	プレイブックの親テーブルの名前。
sysID	レコードの Sys_id。存在しないレコードの場合、値は **-1** です。
向上	ロードするエクスペリエンス。
selectedPlaybook	エージェントまたは履行者が含まれるプレイブック。
selectedStage	エージェントまたは履行者が含まれるステージ。
selectedActivity	エージェントまたは履行者が含まれるアクティビティ。

c. デフォルトのページバリアントをセットアップします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	ページバリアントの名前。
対象者	ページバリアントを表示できるユーザー。次のように定義できます。 ▪ ロール ▪ グループ ▪ ユーザー ▪ 会社 ▪ 部門 ▪ ロケーション ▪ スクリプト
条件	ページのバリアントを表示するタイミングを決定する条件。

d. 作成したばかりのデフォルトのページバリアントを開きます。

新しい プレイブックエクスペリエンス レイアウトには、データが設定されたコントローラーとコンポーネントが既に含まれていますが、いくつか設定を行う必要があります。残りの設定を行うには、ステップ 6 に進みます。

5. [標準レコード] テンプレートを使用した場合、またはページを最初から作成した場合は、プレイブックカスタムレイアウト UI コントローラーをページに追加します。

a. 新しいページの下隅から、データアイコン ( ) を選択します。

b. [+ 追加] を選択します。

c. 「プレイブック」を検索します。

d. [データリソース] で [プレイブックカスタムレイアウト **UI** コントローラー **(Playbook Custom Layout UI Controller)]** を選択し、[追加] をクリックします。

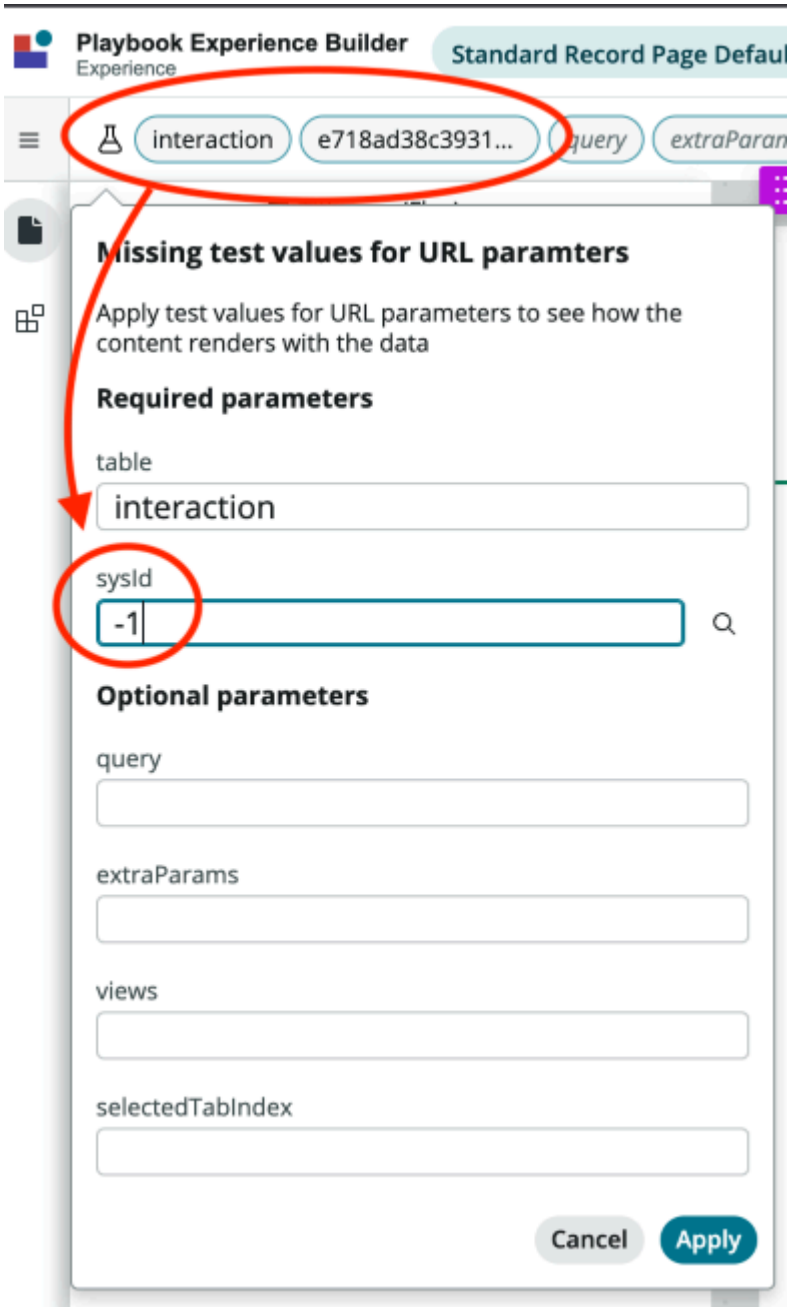
e. [データリソース] パネルを終了します。

6. 追加したプレイブックカスタムレイアウト UI コントローラーを構成します。

a. ユーザーが標準の新しいレコードフォームではなく、このカスタマイズされたプレイブックエクスペリエンスで新しいレコードを作成できるようにするには、左上のテスト値ピルを選択します。
テスト値のポップオーバーが開きます。

b. [sysID] テスト値が **-1** に設定されていることを確認し、[適用] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



プレビューを開くと、レコードジェネレーターフォームを使用できます。レコードジェネレーターフォームをテストし、新しいレコードが作成されることを確認できます。

c. テーブル名やオプションのパラメーターを更新することもできます。

d. オプション: 代わりにテスト値をハードコーディングする場合は、[データ] > [データリソース] パネル > [ローカルデータリソースインスタンス]に戻り、**[UI** コントローラーレコードページ] を選択します。

e. コントローラーの [構成] タブで、[親 **SysID]** または [親テーブル] を追加します。テスト値のポップオーバーでは、これらは **[sysID]** フィールドと [テーブル] フィールドです。[親テーブル **]** フィールドには「**context.props.table**」、[親 **SysID]** フィールドには「**context.props.sysId**」と入力できます。

> 注: 入力するテーブルまたはレコードに プレイブック が含まれていることを確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

f. 使用する プレイブックエクスペリエンス を追加します。

g. オプション: 必要に応じて他のフィールドに値を入力します。

アクティビティビューモード	プレイブックアクティビティをスタックモードまたは集中モードでレンダリングするために使用される表示モード
レコードジェネレータークエリ	レコードジェネレーターに指定されたクエリをオプションで上書きするエンコードされたクエリ文字列
選択されたプレイブックコンテキスト **ID**	ディープリンク用に選択したプレイブックのオプションのコンテキスト ID
選択されたステージコンテキスト **ID**	ディープリンク用に選択したステージのオプションのコンテキスト ID
選択されたアクティビティコンテキスト **ID**	ディープリンク用に選択したアクティビティのオプションのコンテキスト ID

h. オプション: [出力] 列で、ハードコーディングする値を選択できます。

コントローラーが構成され、プレイブック コンポーネントを追加する準備ができました。

7. プレイブック のコンポーネントを追加します。

a. コンポーネントツリーで、[メインタブ] を選択します。
[メインタブ] パネルが右側に開きます。

b. [メインタブ] パネル で、**[+** 追加] を選択します。
「このタブをどのようにビルドしますか？」と尋ねるモーダルが表示されます。

c. [空のコンテナーから開始] を選択して [次へ] をクリックします。
[タブの設定] モーダルが表示されます。

d. タブに名前とアイコンを付け、[作成] をクリックします。
タブがコンポーネントツリーに追加され、空白のキャンバスが表示されます。

e. コンポーネントツリーの新しいタブで、**[+** コンポーネントを追加] を選択して、「サイズ変更可能 (resizable)」を検索します。

f. [サイズ変更可能なペイン] コンポーネントを選択して名前を付け、[作成] をクリックします。

g. コンポーネントツリーで、新しく作成した [サイズ変更可能なペイン] コンポーネントを開きます。
新しい [サイズ変更可能なペイン] のパネルが右側に表示されます。

h. 必要に応じて設定し、右上隅の [保存] をクリックします。

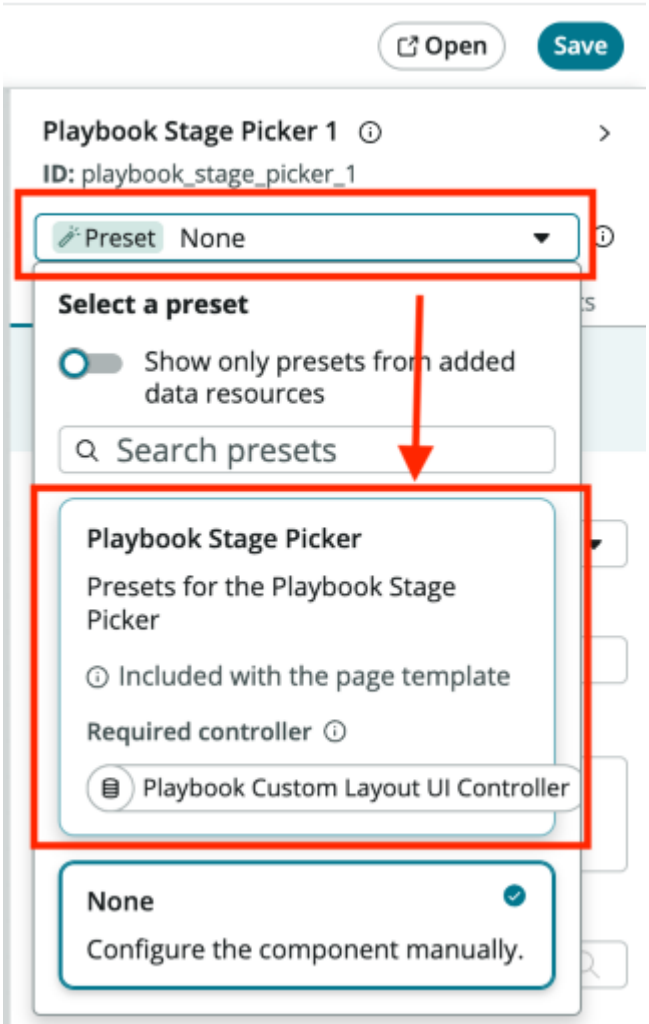
i. ステージピッカーを追加するには、コンポーネントツリーで先ほどの新しい [サイズ変更可能なペイン] コンポーネントを見つけて、左側の下にある **[+** コンポーネントを追加] を選択します。

j. コンポーネントツリーで、新しいステージピッカーを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

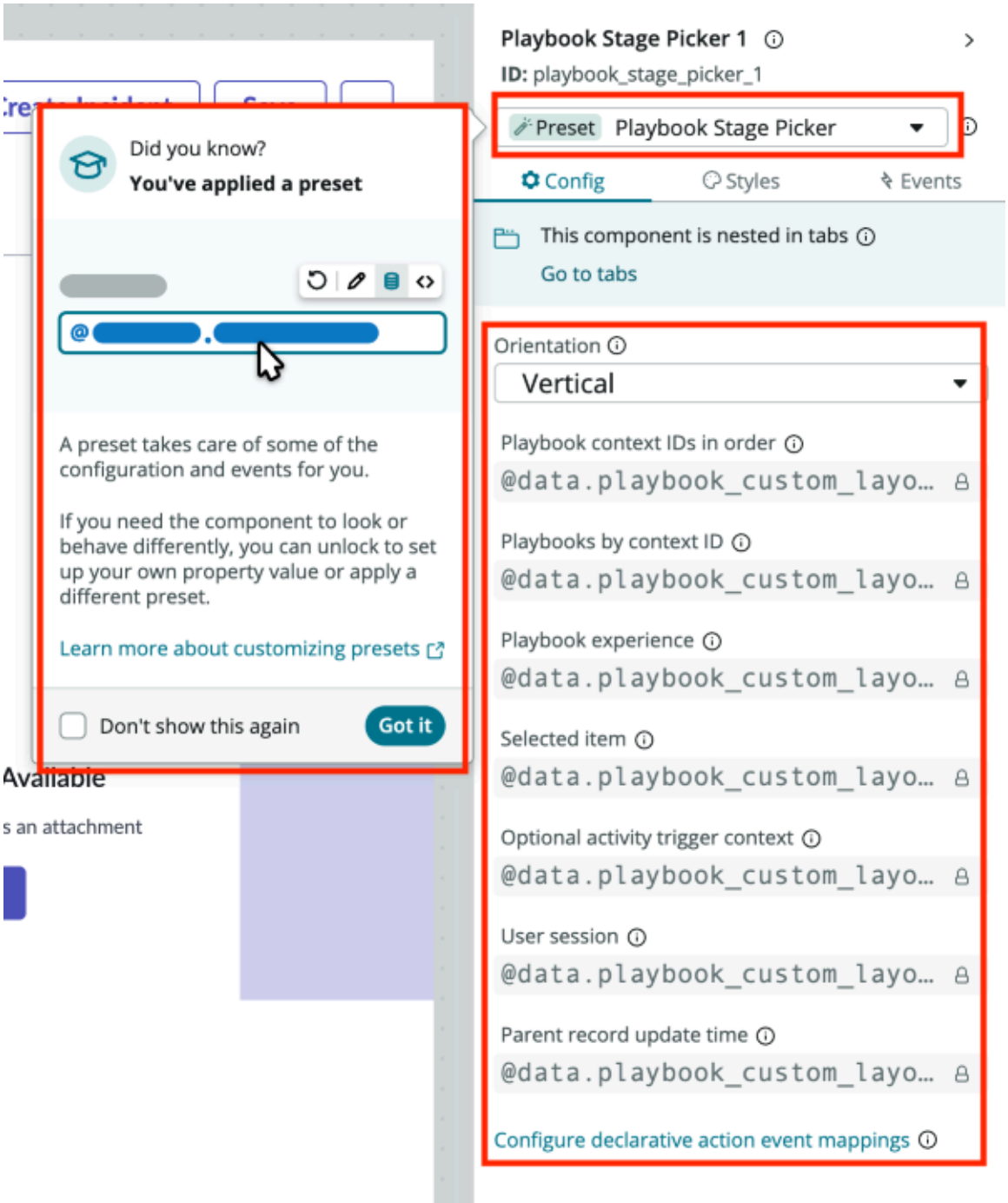
新しいステージピッカーのパネルが右側に表示されます。

k. プレイブックカスタムレイアウト UI コントローラーからこのコンポーネントのプリセットを選択し、右上隅の [保存] をクリックします。



確認メッセージが表示され、ステージピッカーパネルの [イベント] タブにコンポーネント入力とイベントが自動的に入力されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



l. プレイブックアクティビティビューアーを追加するには、コンポーネントツリーで [サイズ変更可能なペイン] コンポーネントを見つけて、右の下にある **[+** コンポーネントを追加] を選択します。

m. 手順 7j と 7k を繰り返します。

n. プレイブックモーダルを追加するには、コンポーネントツリーのメインタブで作成したタブを見つけて、 **[+** コンポーネントを追加] を選択します。

o. [プレイブックモーダル] に対してステップ 7j と 7k を繰り返します。

p. プレイブックステージピッカーに戻り、ステージピッカーの向きを決定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

q. 右上隅の [開く] をクリックして、プレイブック のレイアウトをプレビューします。

r. UI ビルダー に戻ります。

s. コンポーネントツリーのステージピッカーに戻り、右側に開いたパネルでステージピッカーの向きを決定します。

関連情報

UI ビルダー

UI ビルダー ページへのカスタムレイアウトバンドルの追加

プレイブックカスタムレイアウトバンドルを、最初から作成した新規または既存の UI ビルダー ページに追加します。

始める前に
必要なロール：admin、ui_builder_admin

このタスクについて
テンプレートはページレベルであり、まったく新しいページを作成するときに使用することを目的としています。バンドルは、新規または既存のページに追加できるテンプレートのようなものです。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動し、[プレイブックエクスペリエンスビルダー] を選択します。
   プレイブックエクスペリエンスビルダーエクスペリエンスは、プレイブックエクスペリエンス をカスタマイズするために作られています。エクスペリエンスの作成方法の詳細については、「 UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する 」を参照してください。
2. [ページとバリアント] の横にある **[+]** ボタンを選択して、新しいページを作成します。
3. [新規ページの作成] を選択します。

   [テンプレートを選択してください] 画面が表示されます。

4. [代わりに最初から作成します] を選択します。
5. ページの詳細を設定します。

名前	ページの名前。
URL パス	ユーザーがページにアクセスするために移動する URL パス。

6. [続行] を選択します。
7. ページのテスト URL パラメーターを追加します。

   注: すべてのプレイブックでは、少なくとも 1 つのテーブルと sysId をコントローラーにハードコードするか、URL を介して指定する必要があります。

テーブル	プレイブックの親テーブルの名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

sysID	レコードの Sys_id。存在しないレコードの場合、値は **-1** です。

8. デフォルトのページバリアントをセットアップします。

名前	ページバリアントの名前。
対象者	ページバリアントを表示できるユーザー。次のように定義できます。 ◦ ロール ◦ グループ ◦ ユーザー ◦ 会社 ◦ 部門 ◦ ロケーション ◦ スクリプト
条件	ページのバリアントを表示するタイミングを決定する条件。

ページとデフォルトバリアントが作成されます。

9. 新しいページバリアントを開きます。
10. コンテンツツリーで [本文] の下の **[+** コンポーネントを追加] を選択します。
ツールボックスが開きます。
11. ツールボックスの検索バーに「bundle」と入力します。
利用可能なバンドルが表示されます。
12. ページに追加するバンドルを選択します。

タスクの結果
バンドルとそのすべてのコンポーネント、プリセット、およびコントローラーを新しい UI ビルダーページに追加しました。

次のタスク
テスト値とコントローラー入力を編集します。

UI ビルダー 標準レコードページへのカスタムレイアウトバンドルの追加

プレイブックカスタムレイアウトバンドルを新規または既存の UI ビルダー 標準レコードページに追加します。

始める前に
必要なロール：admin、ui_builder_admin

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 右上の **[+** 作成] を選択して、新しいエクスペリエンスを作成します。
3. エクスペリエンスのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
名前	この名前は、内部でエクスペリエンスを追跡するために使用されます。エクスペリエンス名は、[browser (ブラウザー)] タブからユーザーも確認できます。
URL パス	URL パスは、ユーザーがエクスペリエンスにアクセスするために使用するプリフィックスです。デフォルトでは、エクスペリエンス名と一致します。このパスは、UI ビルダー で今すぐまたは後で編集できます。 サポートされている文字には、数字 (0 ～ 9)、文字 (A ～ Z、a ～ z)、記号 ($-_!*(),) などがあります パスをスラッシュ (/) で終わらせることはできません。
アプリシェル UI	**[UXR Base Experience Shell]** を選択します。 アプリシェルはページコンテンツのラッパーであり、Web ページの機能に似ています。アプリシェルでは、会社のロゴ、ユーザー設定、検索アイコンなどを表示できます。アプリシェルオプションの詳細については、「アプリシェルを使用した UI エクスペリエンスの定義」を参照してください。
ランディングパス	ランディングパスは、ユーザーがエクスペリエンスホームページにアクセスするために使用するプリフィックスです。デフォルトでは、エクスペリエンス名と一致します。ページをホームページとして指定するには、一致するパスを持つページを作成する必要があります。
ロール	これらのロールがアサインされているユーザーのみがエクスペリエンスにアクセスできます。このフィールドを空のままにすると、ログインしているすべてのユーザーがデフォルトでエクスペリエンスを利用できるようになります。

4. **[Create** (作成)] を選択します。
5. 新しい UI ビルダー エクスペリエンスで、[新しいページの作成] を選択します。

   [テンプレートを選択してください] 画面が表示されます。
6. [標準レコード] テンプレートを選択し、[テンプレートを使用] を選択します。
7. ページの詳細を設定します。

名前	ページの名前。
URL パス	ユーザーがページにアクセスするために移動する URL パス。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. [続行] を選択します。
9. ページのテスト URL パラメーターを追加します。

   注: すべてのプレイブックでは、少なくとも 1 つのテーブルと sysId をコントローラーにハードコードするか、URL を介して指定する必要があります。

   必要なパラメーター

テーブル	プレイブックの親テーブルの名前。
sysID	レコードの Sys_id。存在しないレコードの場合、値は **-1** です。

   オプションのパラメーター

クエリ	レコードジェネレーターに指定されたクエリをオプションで上書きするエンコードされたクエリ文字列。
extraParams	ページに追加のパラメーターを渡します。
ビュー	プレイブックアクティビティをスタックモードまたは集中モードでレンダリングするために使用される表示モード。
selectedTabIndex	デフォルトでページが開くタブ。

10. デフォルトの ページバリアント を設定します。

名前	ページバリアントの名前。
対象者	ページバリアントを表示できるユーザー。次のように定義できます。 ◦ ロール ◦ グループ ◦ ユーザー ◦ 会社 ◦ 部門 ◦ ロケーション ◦ スクリプト
条件	ページのバリアントを表示するタイミングを決定する条件。

    ページとデフォルトバリアントが作成されます。
11. 成功メッセージで、[エディターで開く] を選択して、UIB エディターで新しいページを開きます。
12. コンポーネントツリーで、[メインタブ] を選択します。
    [メインタブ] パネルが右側に開きます。
13. [構成] タブの [タブ] セクションで、**[+** 追加] を選択します。
    「このタブをどのようにビルドしますか？」と尋ねるモーダルが表示されます。
14. [空のコンテナーから開始] を選択して [次へ] をクリックします。
    [タブの設定] モーダルが表示されます。

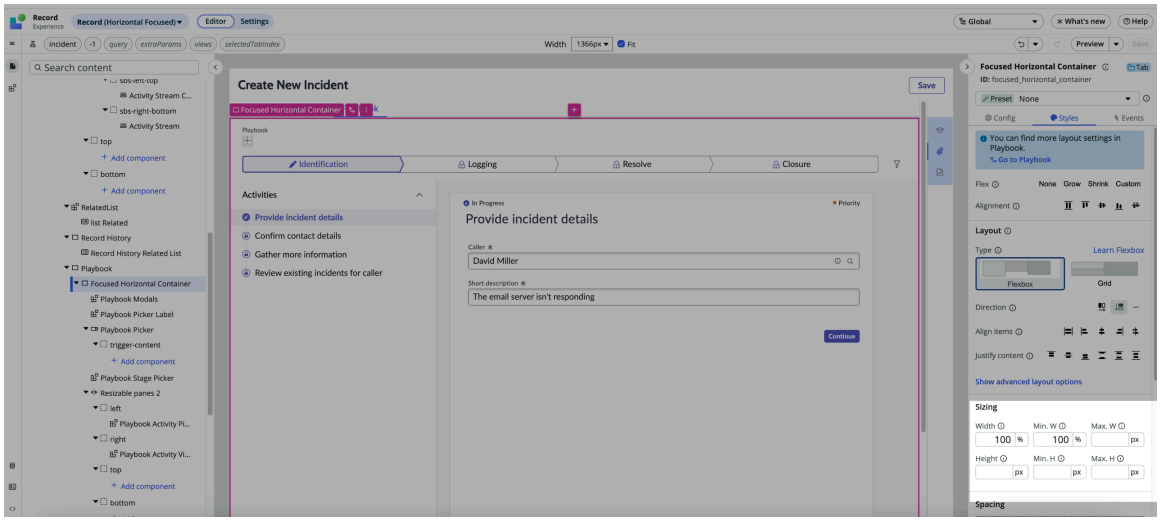
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

15. タブに名前とアイコンを付け、[作成] をクリックします。
    タブがコンポーネントツリーに追加され、空白のキャンバスが表示されます。
16. コンポーネントツリーの新しいタブで、**[+ コンポーネントを追加]** を選択します。
    ツールボックスが開きます。
17. ツールボックスの検索バーに「bundle」と入力します。
    利用可能なバンドルが表示されます。
18. ページに追加するバンドルを選択します。

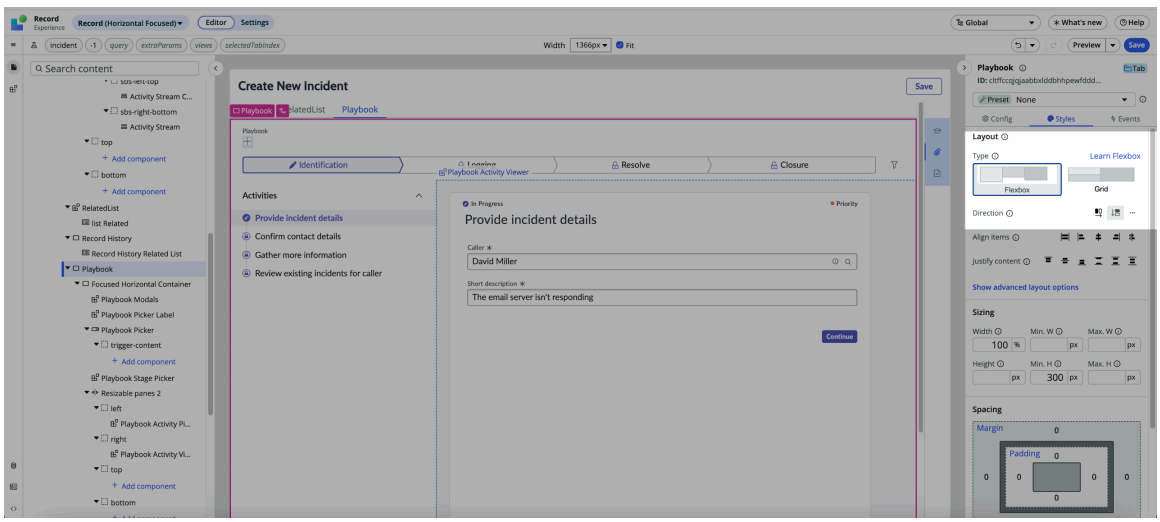
タスクの結果
バンドルとそのすべてのコンポーネント、プリセット、およびコントローラーを新しい UI ビルダー標準レコードページに追加しました。

Trouble?

バンドルコンテナの幅がコンポーネントの min-width に設定されている場合は、コンテナの **min-width** を **100%** に設定します。



または、新しいバンドルタブの **flex-direction** を **column** に設定することもできます。



次のタスク
テスト値とコントローラー入力を編集します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ガイド付きアクティビティビューの有効化

プレイブックを通じてエンドユーザーをステップバイステップでガイドします。

始める前に

- 必要なロール：admin または playbook.admin
- UI ビルダーでプレイブックエクスペリエンスのカスタマイズを開始する方法をよく理解してください。詳細については、「プレイブックエクスペリエンスのカスタマイズ」を参照してください。

このタスクについて

一度に 1 つのアクティビティで、プレイブックを通じてエンドユーザーをガイドします。多くのエンドユーザーが特定の領域で問題に直面していて、作業を完了するための説明アクティビティ (または最終説明用の KB アクティビティ) につながる一連の質問をエンドユーザーに提示する場合は、[ガイド付き **(Guided)]** アクティビティビューの使用を検討してください。従業員セルフサービス要求には、休暇や福利厚生の要求など、[ガイド付き **(Guided)]** アクティビティビューを使用した、すぐに利用可能なプレイブックがあり、従業員センター から利用できます。

注:

次の構成と機能は、 [ガイド付き **(Guided)]** アクティビティビューではサポートされていません。

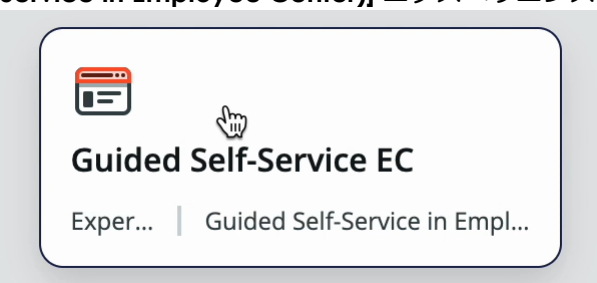
- 並列アクティビティ
- Optional activities (オプションのアクティビティ)
- プレイブックエクスペリエンスリスト [sys_playbook_experience.list] にある[ガイド付きセルフサービスエクスペリエンス **(Guided Self-Service Experience)]** プレイブックエクスペリエンスレコードの[保留中のアイテムのヴィジビリティ]構成

  注: [ガイド付き **(Guided)]** セルフサービスプレイブックの実行中にエンドユーザーが行っている現在のアクティビティ以外に保留中のアクティビティがないため、このプロパティは関係しません。

- フィルターを含む、ステージピッカーコンポーネント

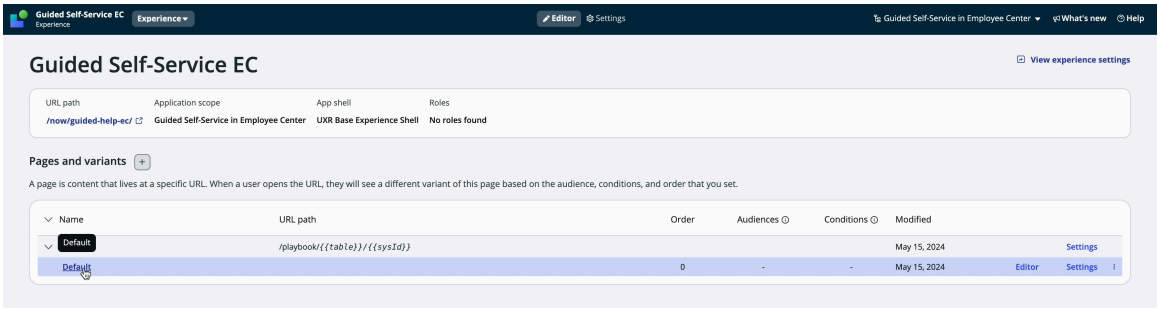
手順

1. [すべて] > **[UI** ビルダー]に移動し、[従業員センターのガイド付きセルフサービス **(Guided Self-Service in Employee Center)]** エクスペリエンスを開きます。

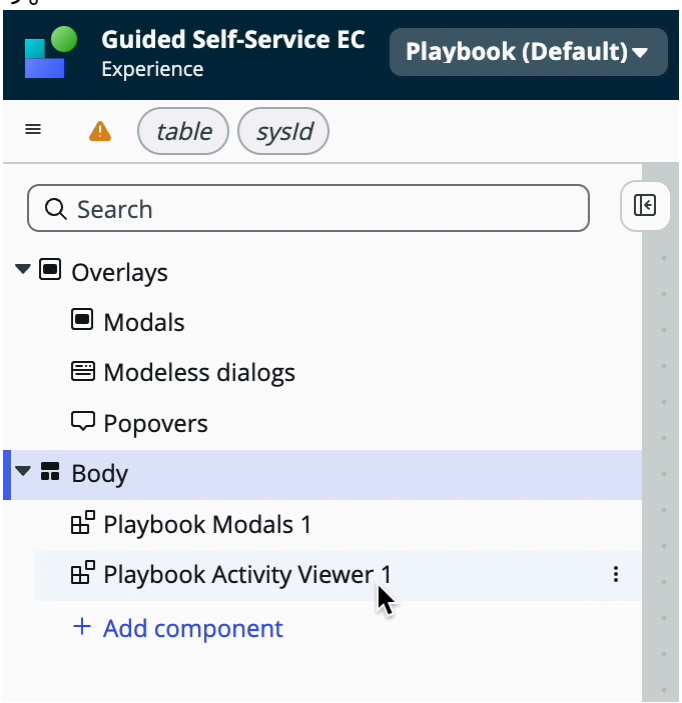


2. ガイド付きアクティビティビューを有効にするページを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



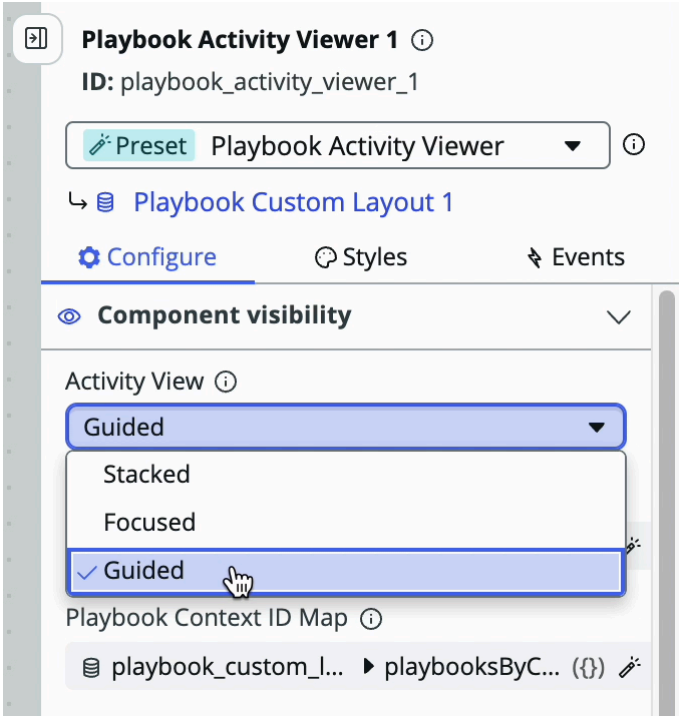
3. コンポーネントツリーの [本文 **(Body)**] で、[プレイブックアクティビティビューアー] を開きます。



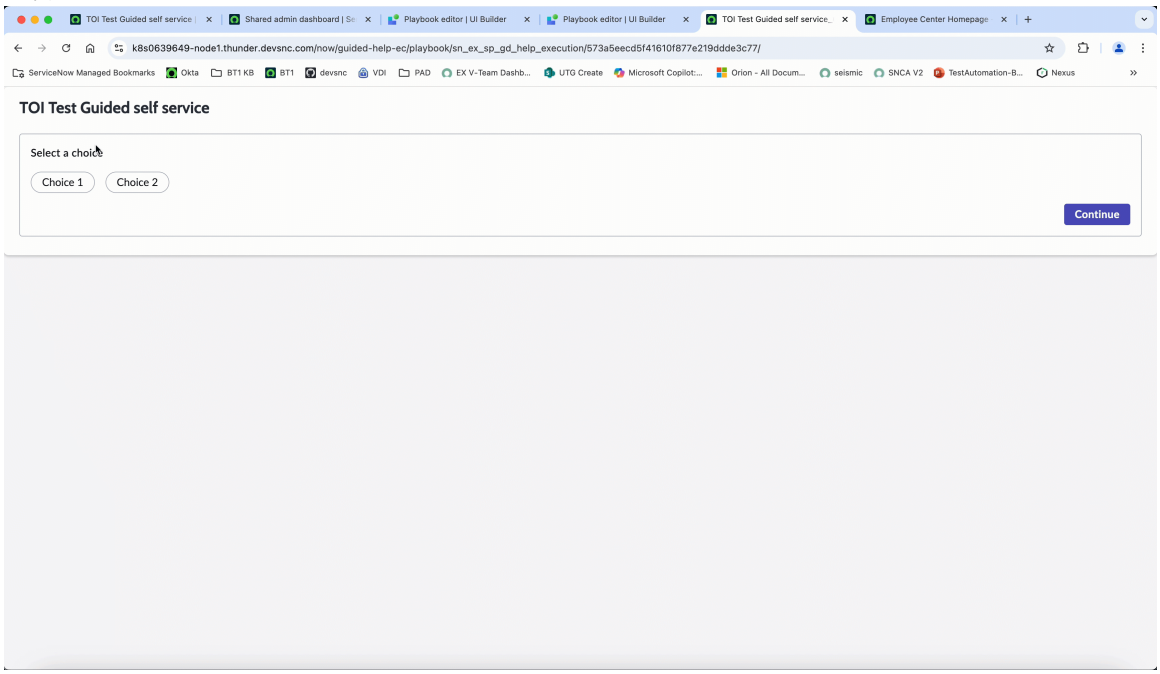
右側に [プレイブックアクティビティビューアー] パネルが開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [プレイブックアクティビティビューアー] パネルの [構成 **(Configure)**] タブで、[アクティビティビュー **(Activity View)**] ドロップダウンを開き、[ガイド付き **(Guided)**] を選択します。



タスクの結果
プレイブックを実行しているエンドユーザーの場合、結果は一度に 1 つのアクティビティを実行するプレイブックになります。構成されている場合、ユーザーは引き続きプレイブックとアクティビティを再起動できます。



プレイブックコンポーネントのリフロー

すぐに利用可能なスタンドアロンおよびカスタムレイアウトのプレイブックエクスペリエンスコンポーネントにリフローを適用して、ズーム時にウィンドウのサイズを変更したときに UI が調整されるようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リフローは、ブラウザー設定を使用してページとコンテンツを最大 400% 拡大できる構成可能ワークスペースの機能です。プレイブックでリフローが有効になっている場合、ブラウザーの 200% ズームに拡大するとプレイブックがコンパクトモードに変わり、縮小するとコンパクトモードを終了します。

プレイブックエクスペリエンスコンポーネントでリフローを機能させるには、「プレイブックコンポーネントにリフローを適用」を参照してください。

リフローの詳細については、「構成可能ワークスペースのリフロー」を参照してください。

プレイブックコンポーネントにリフローを適用

すぐに利用可能なスタンドアロンおよびカスタムレイアウトのプレイブックエクスペリエンスコンポーネントにリフローを適用して、ズーム時にウィンドウのサイズを変更したときに UI が調整されるようにします。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. sys_ux_auto_reflow_rule レコードを作成します。
   a. [すべて] メニューを開きます。
   b. フィルターバーに、「**sys_ux_auto_reflow_rule.list**」と入力します。

   [UX 自動リフロールール] リストが作成され、表示されます。

   プレイブックスタンドアロンおよびカスタムレイアウトコンポーネントにはそれぞれルールがあります。特定のUI ビルダーページサイズ未満の場合、これらのルールはデフォルトのリフローエンジンを使用して、**[UX Macroponent** 定義] リスト (**sys_ux_macroponent.list**) の macroponent プロパティと特定の CSS 値を上書きします。プレイブックエクスペリエンスで提供されるルールでは、ストアアプリは 640px のページ幅を使用してコンポーネントの **compactMode** プロパティを切り替え、同様に 100vh の高さを使用してコンポーネントのサイズをスペースに合わせて変更します。

   スタンドアロンコンポーネントを使用している場合は、これで完了です。カスタムレイアウトコンポーネントで作業する場合は、次のステップに進みます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. [すべて] > **[UI** ビルダー] に移動します。
3. リフローを適用するレイアウトをプレイブックエクスペリエンスビルダーで開きます。
4. 左下隅にある [データ] アイコンを選択し、[プレイブックカスタムレイアウト] UI コントローラーを開きます。
5. [アクティビティビューモード **(Activity View Mode)]** フィールドで、**stagePickerVisible** 出力プロパティの値を **true** に更新します。
6. リフロールールを適用するコンポーネントを選択します。
7. [イベント] タブで、[コンパクトモードの変更 **(Compact Mode Changed)]** イベントハンドラーを追加します。
   これにより、**compactMode** 出力プロパティの値を true または false に変更することで、リフロールールに従ってコンパクトモードのオンとオフが自動的に切り替わります。次に、これが他のプレイブックの他のコンポーネントに適用されるため、すべてが自動的にサイズ変更されます。
8. オプション: [サイズ変更可能なペイン] を選択します。

   a. ペインの位置を更新して、左右の向きで表示するか、上下のペインとして表示します。

   b. [構成] タブで、スクリプト化されたプロパティ値 [デフォルトで表示されるペイン] フィールドを開きます。

   c. **if(!api.data.playbook_custom_layout.compactMode) return** の値を更新し、コンパクトモードではないときに、「左」/「上」ペインのみ、「右」/「下」ペインのみ、または「両方」のペインが表示されるようにします。

   d. コンパクトモードの場合は、ステージが選択されたときに、**return (api.data.playbook_custom_layout. selectedItem || ()).stageContextId ?** の最初の値を「左」/「上」または「右」/「下」アクティビティペインを表示するように更新します。
   2 番目の値は、ステージが選択されていないときに表示するペインを示します。

プレイブックレコードジェネレーター

プレイブックレコードジェネレーターを使用して、プレイブックエクスペリエンスを使ったレコード作成プロセスをガイドします。

プロセスオートメーションデザイナー では、プロセスを開始する前にレコードを作成または更新する必要があります。プレイブックレコードジェネレーターを使用すると、ユーザーが Playbook Experience (プレイブックエクスペリエンス) を使用して新しいレコードを作成できます。その後、ユーザーが新しいレコードタブを開いたときに標準の新しいレコードフォームの代わりにレコードジェネレータープレイブックエクスペリエンスコンポーネントを表示するようにワークスペースまたは UI ビルダー ページを構成できます。

プレイブックレコードジェネレーターは、プロセスオートメーションデザイナー で作成済みの指定されたプロセス定義における最初のステップとして、レコードジェネレーターアクティビティを挿入します。このレコードジェネレーターアクティビティには、新しいレコードフォームが含まれています。ユーザーがフォームを送信すると、新しく作成されたレコードにリダイレクトされます。このレコードには実行中のプロセスが含まれています。実行中のプロセスにより、残りのレコード作成がガイドされます。新しいレコードフォームが送信された後にプロセス定義が実行されていない場合、プレイブックでは、レコードの作成前にユーザーに表示されたプロセス定義が手動でトリガーされます。ユーザーは、レコードが作成される前後は Playbook Experience (プレイブックエクスペリエンス) 内にとどまり、シームレスなガイド付きレコード作成エクスペリエンスに備えることができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

管理者は、レコードジェネレーターアクティビティの名前、フォームビュー、およびレコードが作成される前にユーザーに表示されるプロセス定義を指定できます。必要に応じてフォームの送信に使用する宣言アクションを構成することもできます。

プレイブックの実行

エージェントまたは履行者としてのプロセスオートメーションデザイナーの使用。

バージョン情報 プレイブックエクスペリエンス

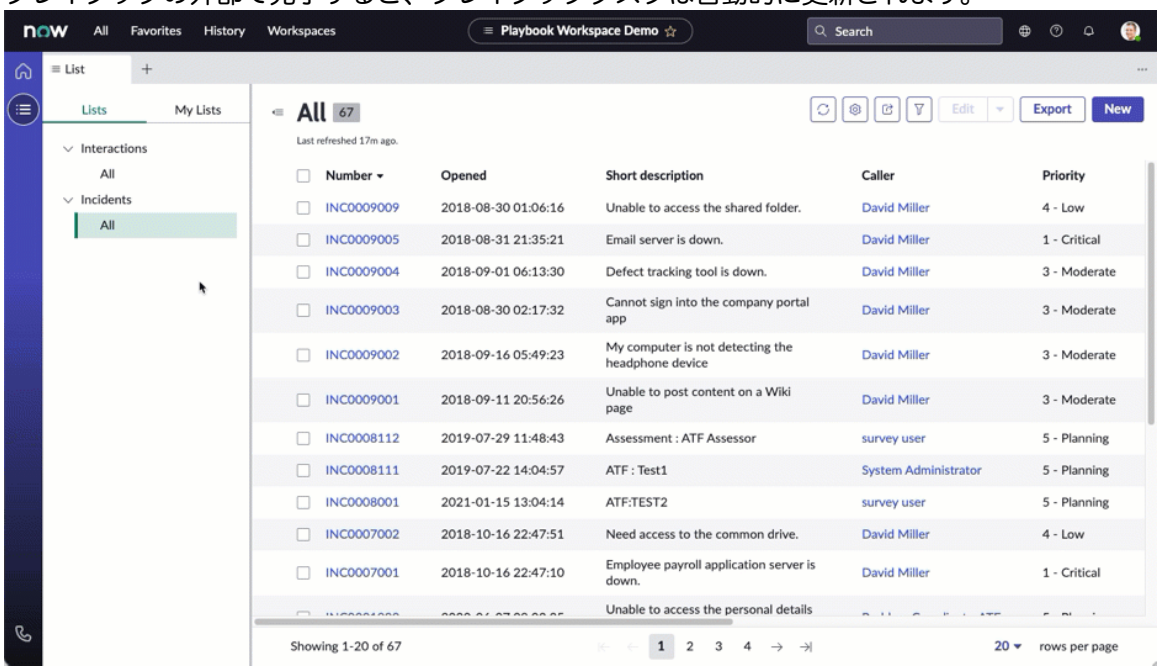
ワークスペース の中から、ビジネスワークフローをリアルタイムで操作します。エージェントはプレイブックエクスペリエンスを使用して、レコードの更新や添付ファイルのアップロード、複数のワークフローアクティビティでのタスクの完了などを行うことができます。

プレイブックエクスペリエンスの概要

プレイブックは、ワークフロースタジオでアドミンによって構築され、UI ビルダーなどでアドミンによってカスタマイズされ、ワークスペース、構成可能なワークスペース、 サービスポータルなどに埋め込まれます。実行時に履行者のプレイブックエクスペリエンスは、ビジネス間のワークフローの可視化と、これらのワークフローを完了するために使用される実行可能なタスクを提供します。

- プレイブックは、サイドパネルや、プレイブックで構成されたレコードの関連アイテムに表示されます。
- ビジネスワークフローの完了のために実行すべきアクティビティが表示されます。これまでに実行した作業と、プレイブックを完了するために実行すべき作業を確認できます。アクティビティを折りたたむと関連するアクティビティが表示されます。再度展開することもできます。
- 通常、アクティビティは順番に実行されます。アクティビティに戻って後から完了することは可能です。アクティビティを完了して次のアクティビティに進むか、プレイブックを完了します。

プレイブックの外部で完了すると、プレイブックタスクは自動的に更新されます。



プレイブック UI

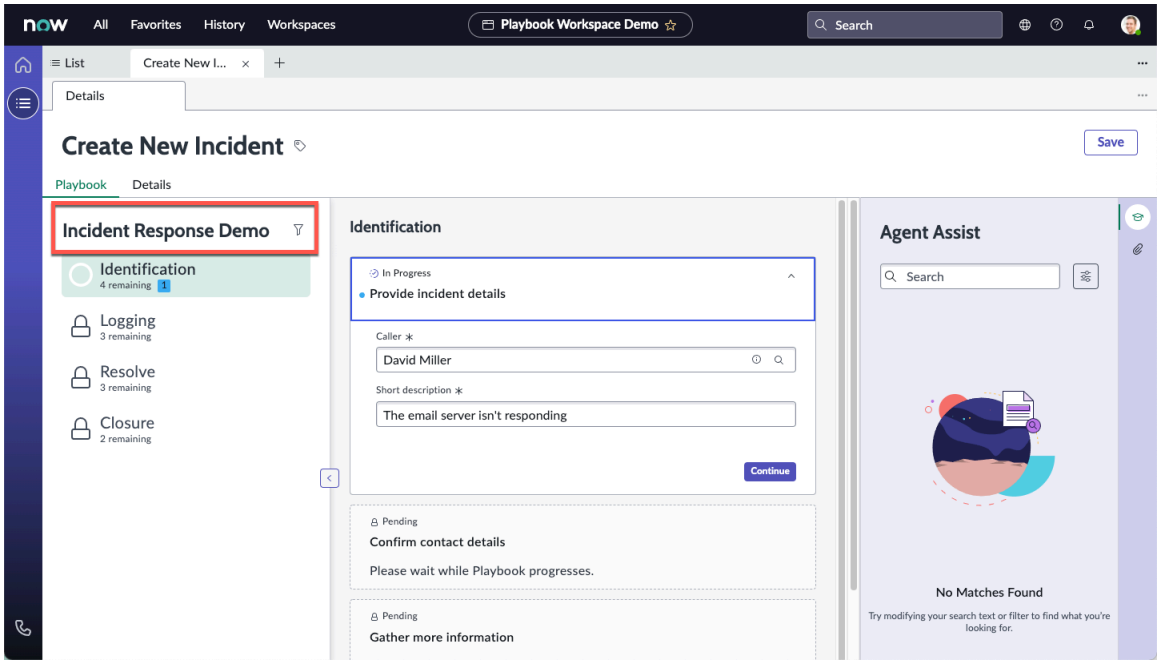
プレイブックには便利な UI 機能が含まれています。

ヘッダー

プレイブックのタイトルを表示します。レコードに添付されたプレイブックそれぞれにヘッダーがあります。プレイブックのヘッ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

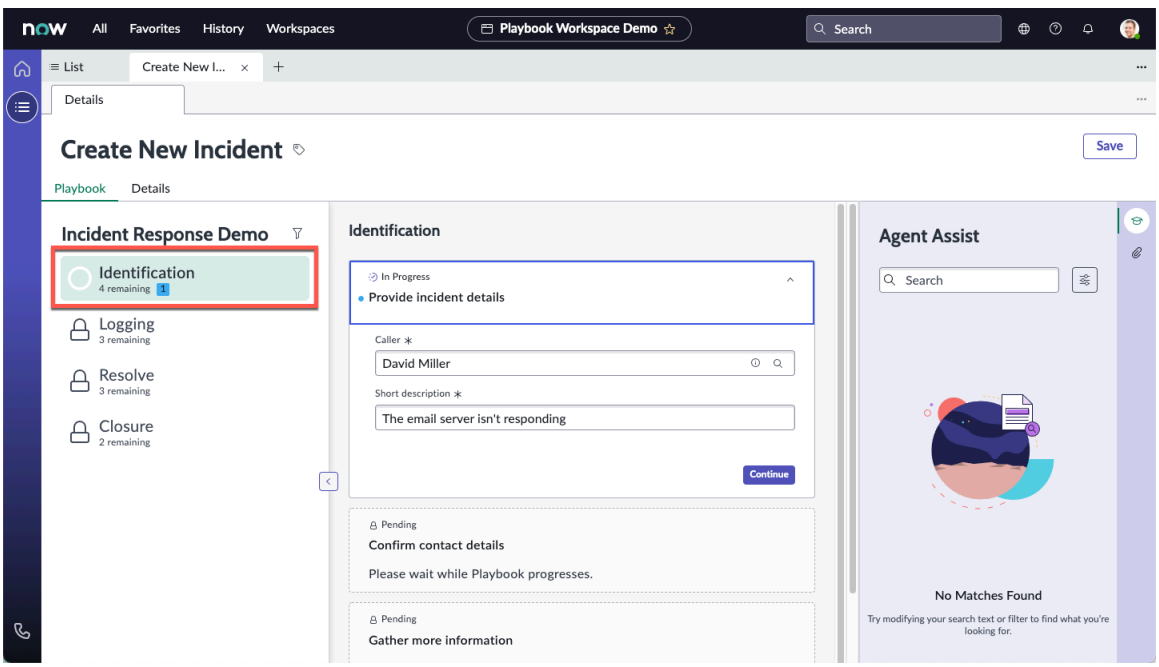
ダーを選択すると、その下にネストされたステージが展開されま



す。

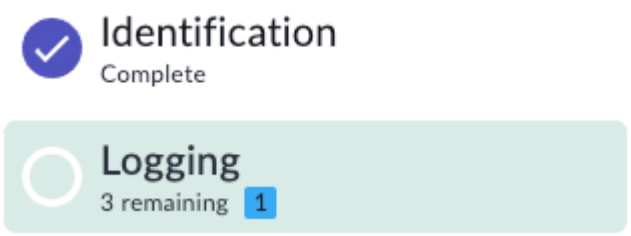
ステージ

ステージのタイトルをクリックすると、そのステージのアクティビティが表示されます。デフォルトでは、ステージ内の最初のカードを除き、すべてのアクティビティカードが折りたたまれています。

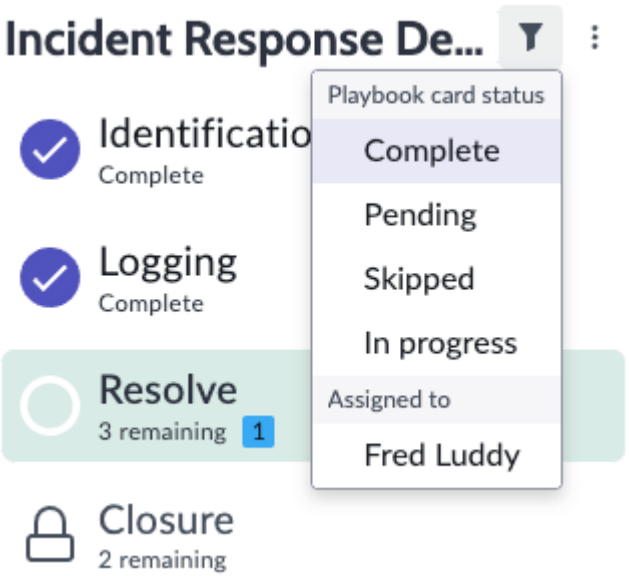


アクティビティが完了すると、ステージの進捗状況が更新されます。プレイブックのヘッダー内のチェックマークは、ステージが完了したことを示します。

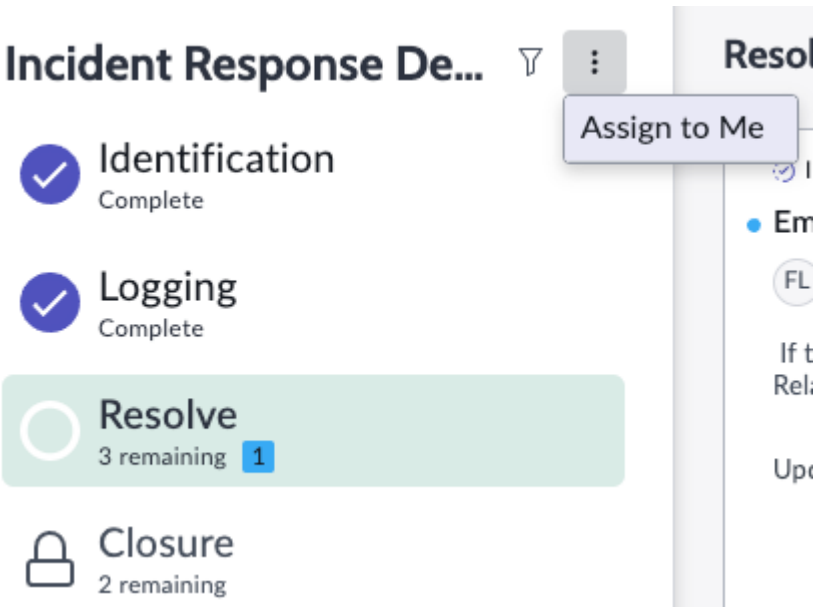
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ステージフィルター ( ) を使用して、プレイブックをフィルタリングします。



省略記号のアクションメニューアイコン ( ) を使用して、プレイブックおよびステージレベルで選択したアクションを実行します。

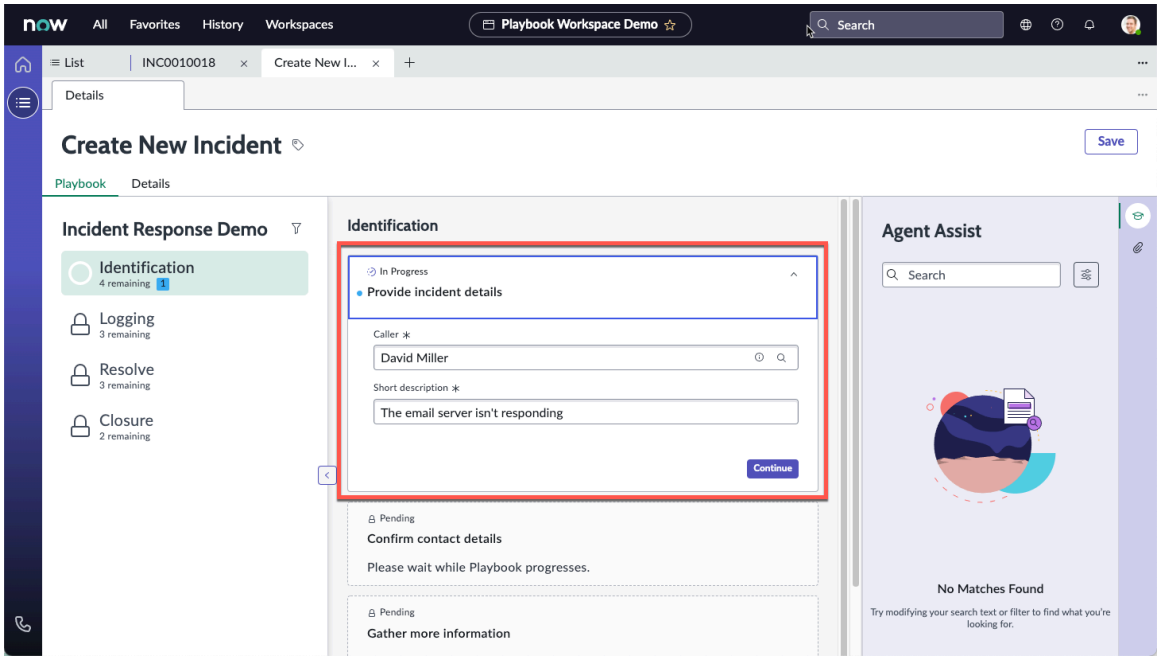


アクティビティカード

プレイブックアクティビティカードには、ステータス、SLA タイマー、フォームデータ、および添付ファイルを含む可能性があるアクティビティに関する詳細が表示されます。プレイブックアクティビティカードを使用して、フォームへの入

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カ、チェックリストの記入、および添付ファイルの追加を行い、タスクを完了しま



す。

プレイブックへのアクティビティの追加

プレイブックが利用可能であれば、事前に選択したオプションのアクティビティを追加します。

始める前に

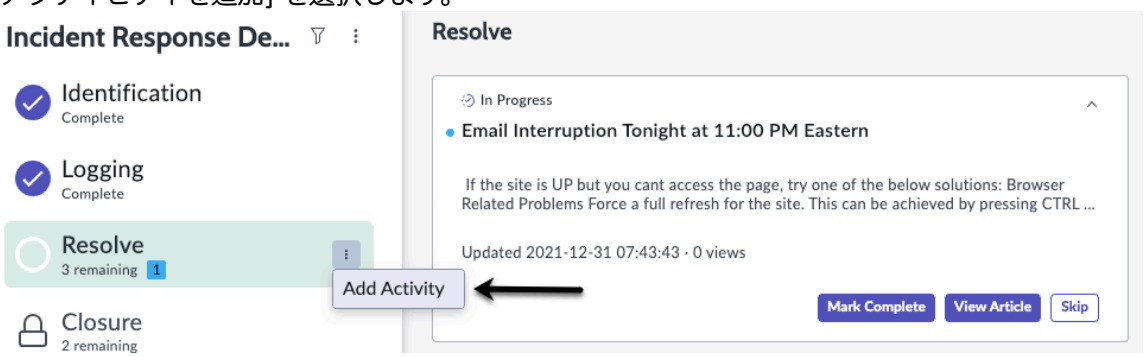
必要なロール：agent

このタスクについて

実行中のプレイブックにオプションのプレイブックアクティビティを追加して完了します。この例では、オプションのアクティビティをプレイブックに追加する方法を示します。プレイブックのアドミニストレーターはオプションのアクティビティを事前に設定する必要があります。オプションのアクティビティをステージの最初のアクティビティとして、または 2 つの完了したアクティビティの間に挿入することはできません。オプションのアクティビティには、どのステージにも追加できるものもあれば、単一のステージにのみ追加できるものもあります。プレイブックにオプションのアクティビティが構成されていない場合、オプションのアクティビティは一切使用できません。

手順

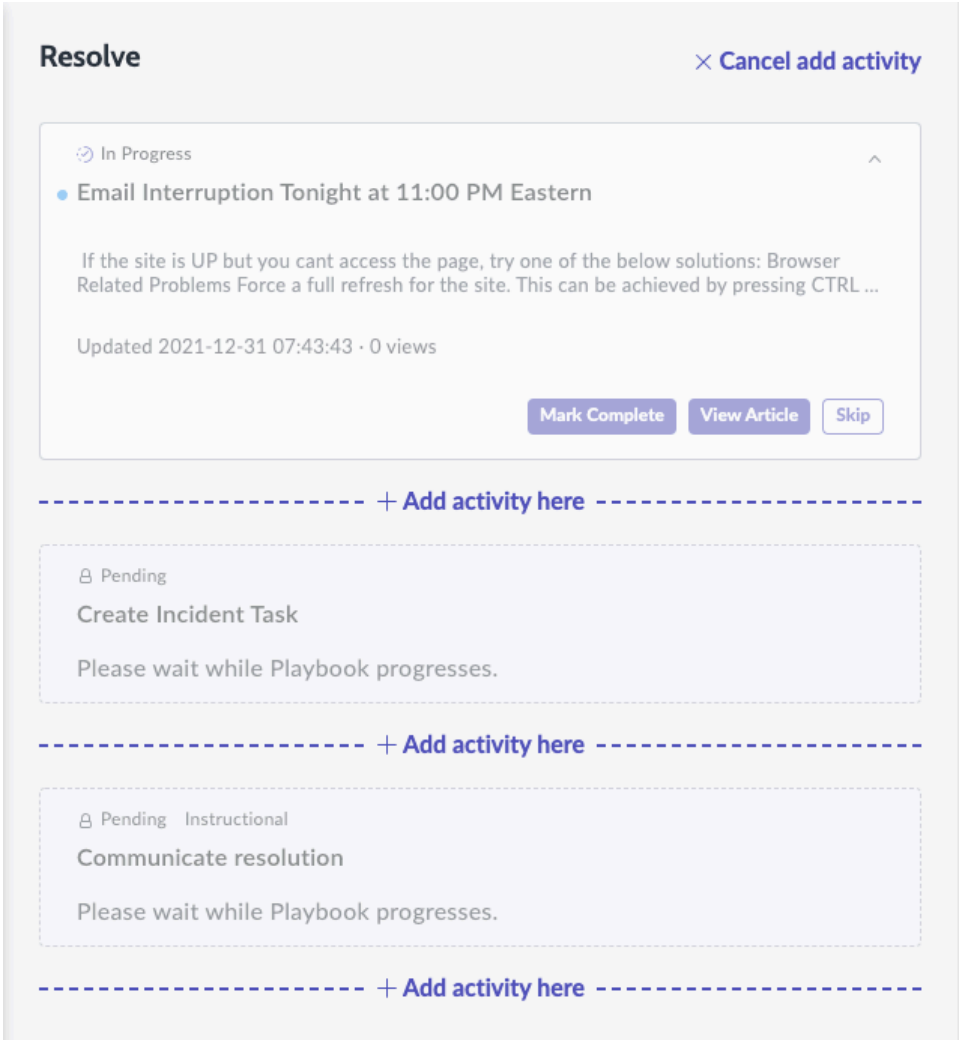
1. ワークスペースでプレイブックを開きます。
2. アクションメニューアイコン (⋮) を選択します。
3. [アクティビティを追加] を選択します。



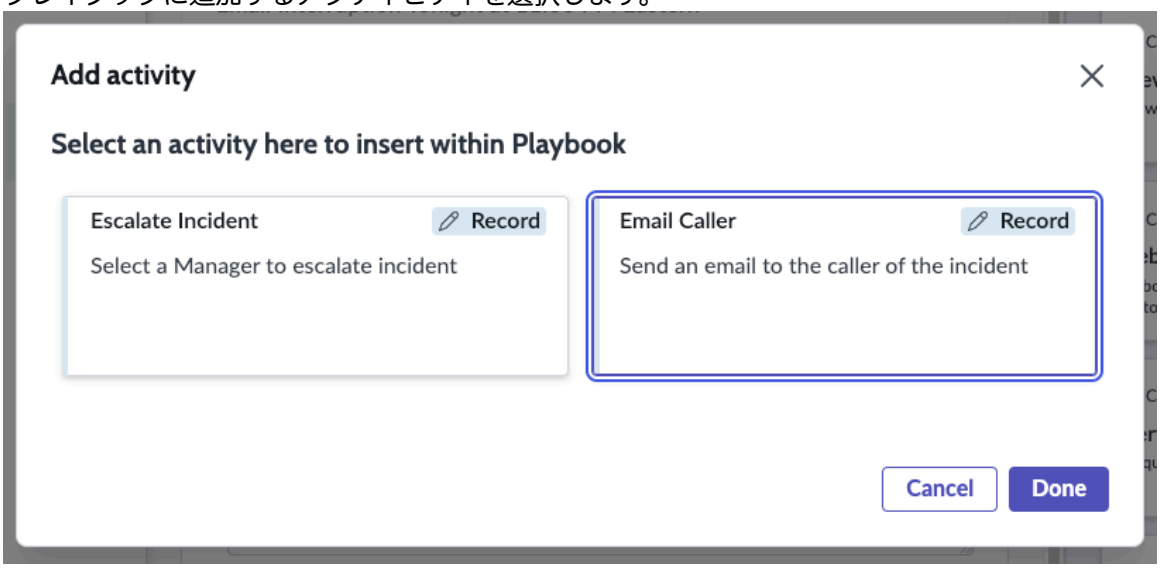
注: このステージで利用可能なオプションのアクティビティがない場合、[アクティビティを追加] は表示されません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. プレイブックにアクティビティを追加する場所で、[+ ここにアクティビティを追加] を 選択します。



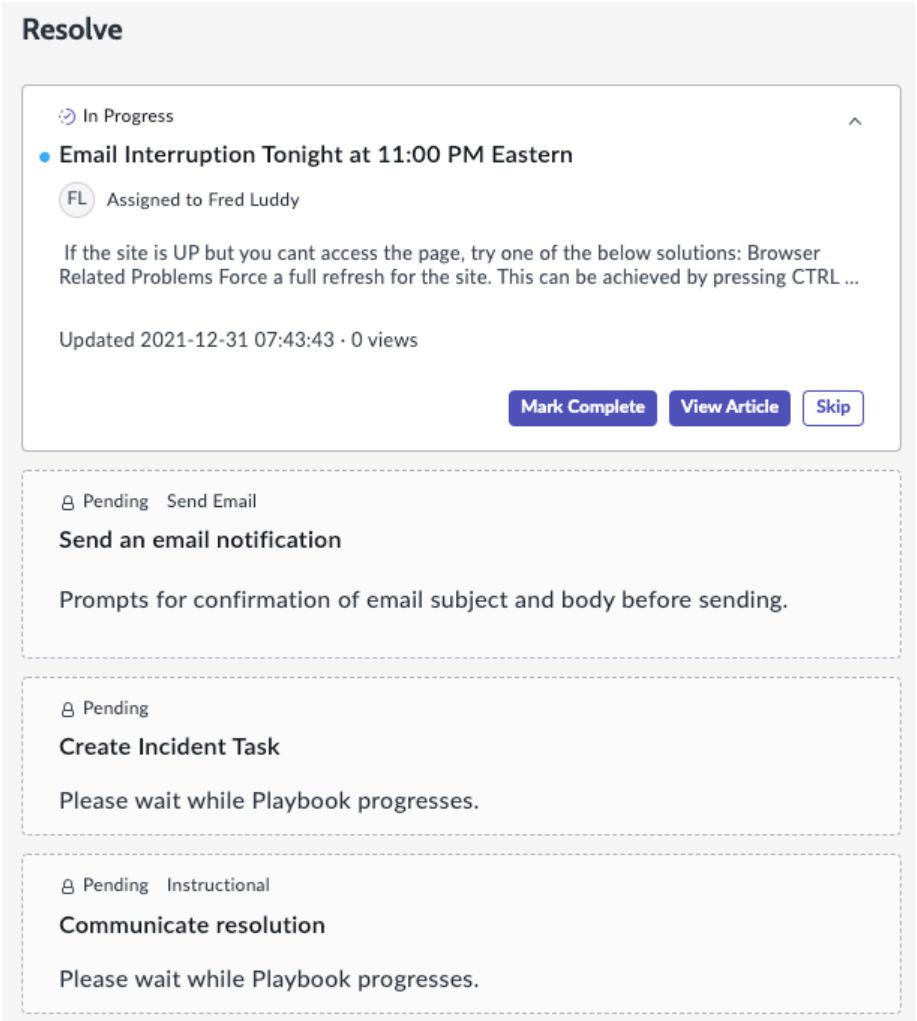
5. プレイブックに追加するアクティビティを選択します。



6. [完了] を選択します。
選択したオプションのアクティビティがプレイブックに表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
選択したオプションのアクティビティがプレイブックに表示されます。



プレイブックの再起動

プレイブックを最初から再起動し、アクティビティまたはステージを再起動します。

始める前に

必要なロール：agent または pd_restarter

プレイブックアドミンがプレイブックで再起動を有効にしている場合は、プレイブック、ステージ、またはアクティビティのアクションメニューに再起動アクションが表示されます。アドミンが ワークフロースタジオ でプレイブックの再起動を有効にして構成する場合は、「プロセスオートメーションデザイナーの再起動を有効にして構成する」を参照してください。

ステージまたはアクティビティが再起動可能に構成されていない場合、この手順のすべてのボタンは表示されません。

> **注:** プレイブック内の一部のアクティビティは、いったん起動すると再起動できません。[キャンセル]、[完了]、または [エラー] ステータスのプレイブックも再起動できません。アクティビティとステージの場合はその逆になります。アクティビティとステージは再起動する前に完了しているか、エラーステータスになっている必要があります。

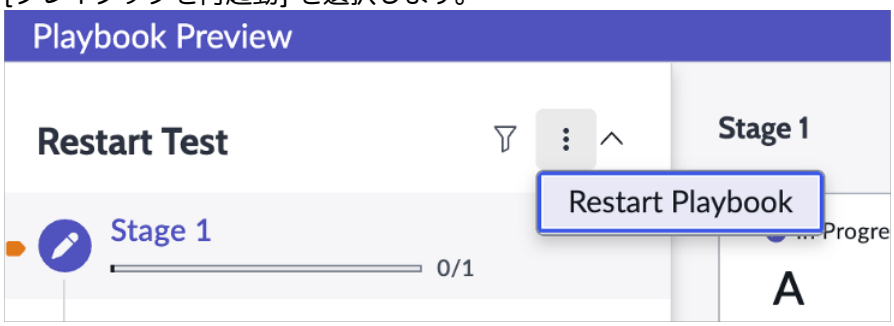
手順

プレイブックの再起動

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. 注: [完了]、[エラー]、または [キャンセル] ステータスのプロセスオートメーションデザイナーは再起動できません。

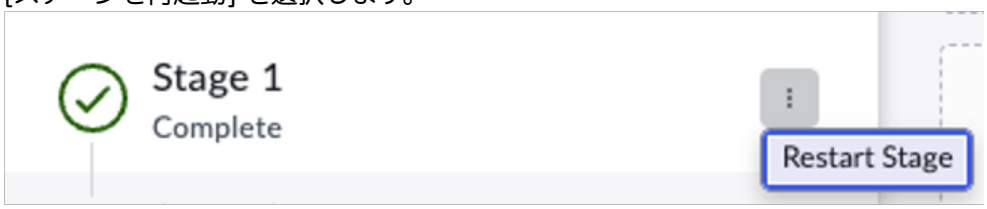
   プレイブックを開きます。
2. プレイブック全体を再起動するには：
   a. コンテキストサイドパネルでプレイブックの名前にカーソルを合わせると、コンテキストメニュー⋮が開きます。
   b. [プレイブックを再起動] を選択します。



ステージを再起動

3. プレイブックを開きます。
4. 注: ステージとアクティビティは再起動する前に完了しているか、エラーステータスになっている必要があります。ステージまたはアクティビティを再起動する際は、以下が必要になる場合があります。
   - その後のすべての再起動可能なステージとアクティビティを再度完了する。
   - 再起動可能なステージとアクティビティを再度完了するために情報を再入力する。

   ステージを再起動するには：
   a. コンテキストサイドパネルでステージの名前にカーソルを合わせると、コンテキストメニュー⋮が開きます。
   b. [ステージを再起動] を選択します。



アクティビティを再起動

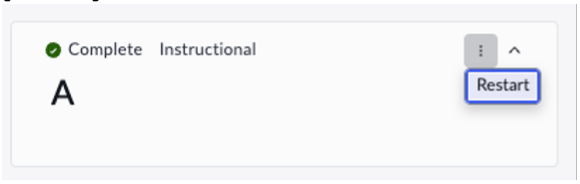
5. プレイブックを開きます。
6. 注: ステージとアクティビティは再起動する前に完了しているか、エラーステータスになっている必要があります。ステージまたはアクティビティを再起動する際は、以下が必要になる場合があります。
   - その後のすべての再起動可能なステージとアクティビティを再度完了する。
   - 再起動可能なステージとアクティビティを再度完了するために情報を再入力する。

   アクティビティを再起動するには：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. アクティビティカードで、コンテキストメニューを開きます。

b. [再起動] を選択します。



Playbook のキャンセル

プレイブックが有効でなくなったら、プレイブックをキャンセルしてビジネスワークフローを停止します。

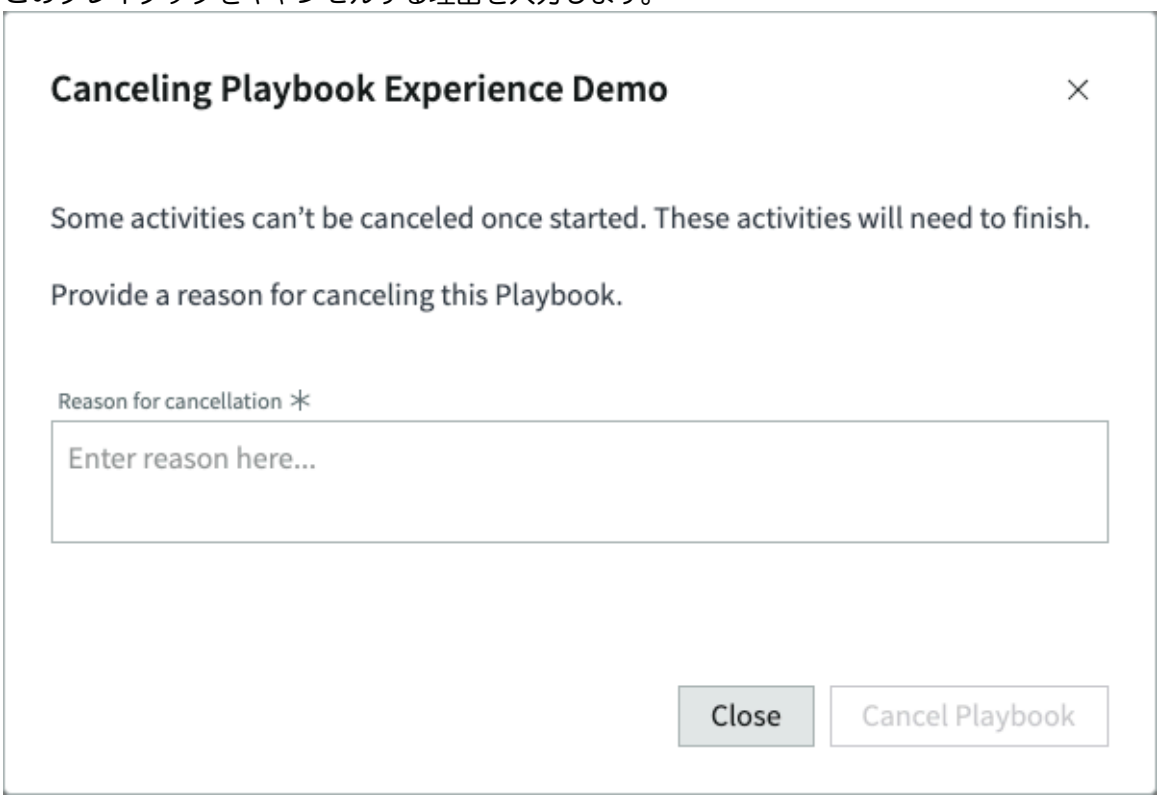
始める前に
必要なロール：agent または pd_cancel

プレイブックアドミンがプレイブックエクスペリエンスにキャンセルアクションを追加した場合、通常は プレイブックアクションメニューの下にキャンセルアクションがあります。自分がアドミンで、プレイブックエクスペリエンスにキャンセルアクションを追加する場合は、「プレイブックキャンセルアクションの追加」を参照してください。

注: プレイブック内の一部のアクティビティは、いったん開始するとキャンセルできません。

手順

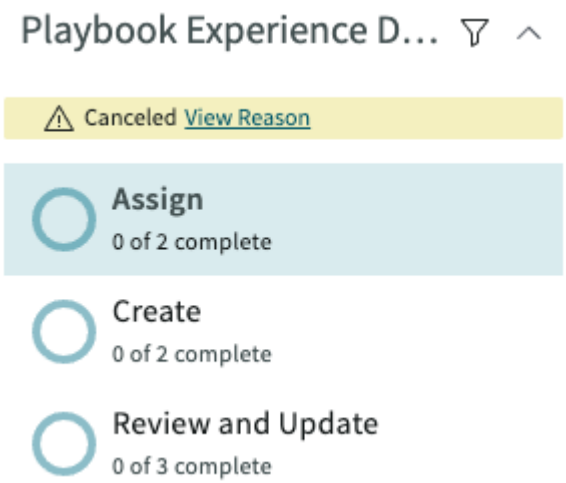
1. ワークスペースで プレイブックを開きます。
2. プレイブックのヘッダーにある省略記号のアクションメニューアイコン (⋮) をクリックします。
3. [プレイブックをキャンセル] をクリックします。
4. このプレイブックをキャンセルする理由を入力します。



5. [プレイブックをキャンセル] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プレイブックのヘッダーの下に、プレイブックがキャンセルされたことを確認するキャンセルバナーが表示されます。

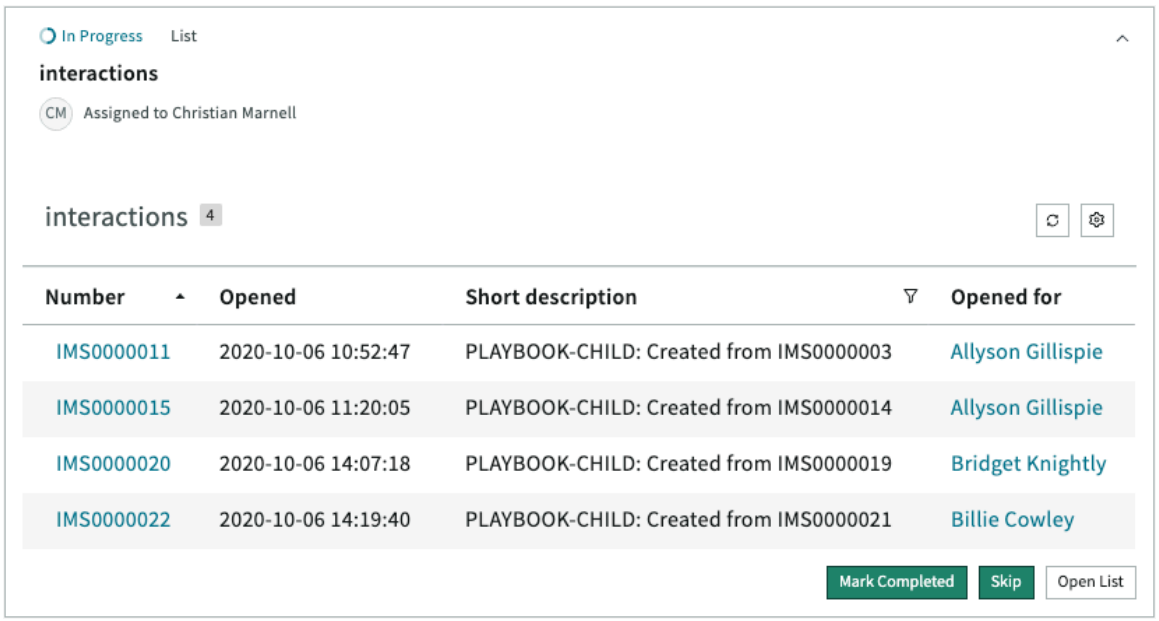


プレイブック内で完全なリストを開く

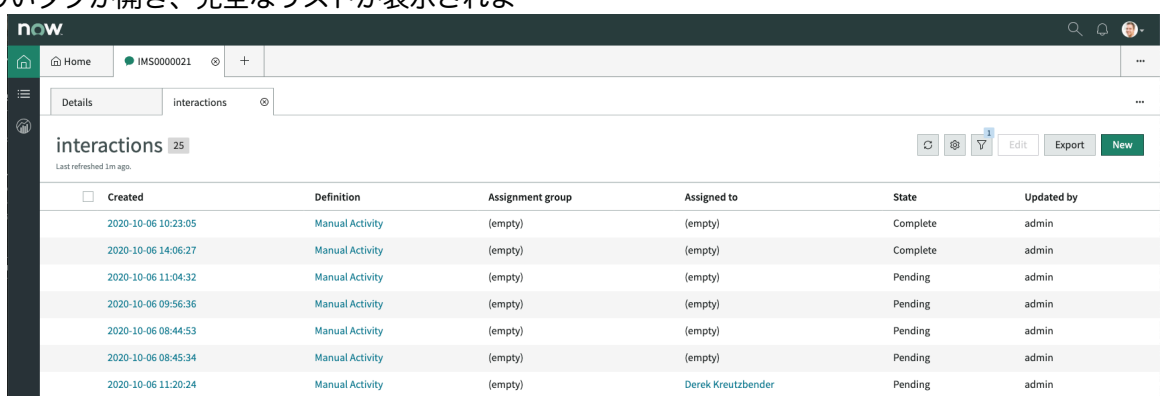
プレイブックカード内で完全なリストを開いて、リストのアイテムを表示および更新します。

プレイブック内の完全なリストを開くには、[リストを開く] アイコン (Open List) をクリックします。

カードビュー



新しいタブが開き、完全なリストが表示されます。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プレイブック内でのアクティビティストリームの使用

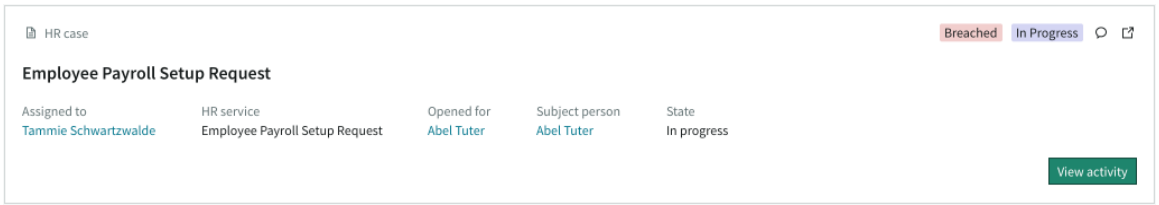
プレイブック内でアクティビティストリームを使用して、コメントやメモを追加したり、親レコードや関連レコードの通信とタスクの履歴を表示したりします。

アクティビティには、レコードのアクティビティストリームを表示するためのボタン、アイコン、またはドロップダウンアイテムを含めることができます。

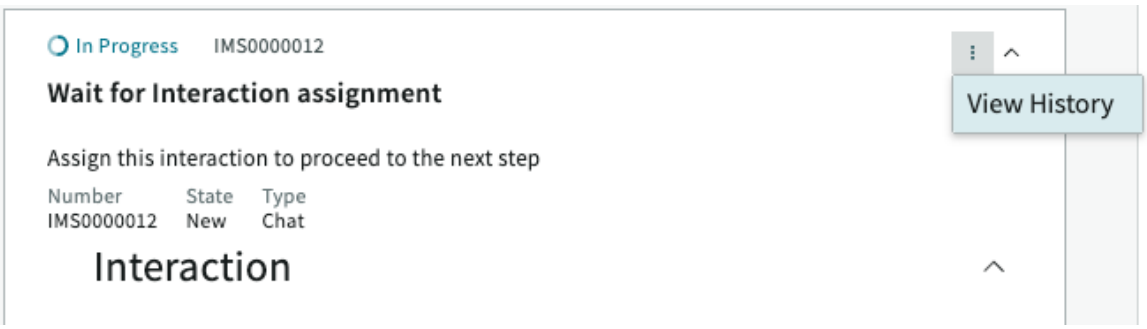
プレイブックのアクティビティストリームの例

プレイブック内でアクティビティストリームを開くには、[アクティビティの表示] ボタンをクリックするか、ドロップダウンリストから [履歴を表示] を選択します。

アクティビティストリームのボタン



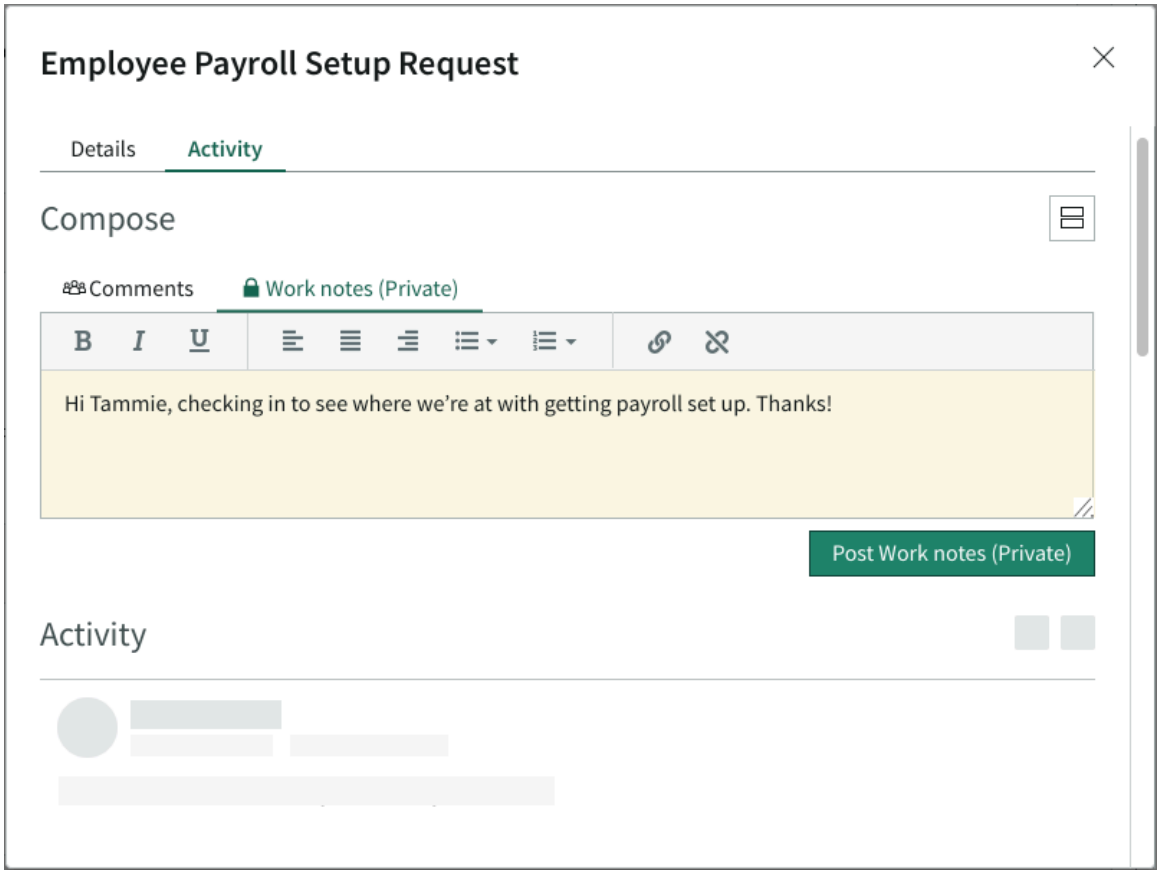
アクティビティストリームのドロップダウン



アクティビティストリームモーダル

親レコードや関連レコードに関連するコメントと作業メモのタブを表示できます。[作成] テキストボックスを使用して、新しいコメントや作業メモを投稿できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[アクティビティ] セクションまで下にスクロールすると、以前のアクティビティを表示できます。

プレイブック機能の拡張

プロセスオートメーションデザイナーを使用して、自動化機能を他の ServiceNow® 製品に拡張します。

コネクトアプリケーション

Now Platform® の機能とアプリケーションに登録すると、プロセスオートメーションデザイナー のコンテンツが追加されます。

注: 統合のアクティブ化の詳細については、「プレイブックのアクティブ化」を参照してください。

統合	利用可能なコンテンツ
App Engine Studio	App Engine Studio からプレイブックをビルドします。
フローデザイナー	• フローとアクションを呼び出します。 • フローを使用してプレイブックデータを収集します。
カスタマーサービス管理 (CSM) 用 Playbook の構成	カスタマーサービス管理向けプレイブックを作成します。
フィールドサービス管理 (FSM)	Playbooks for Field Service Management を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プレイブックエクスペリエンス

複雑なプレイブックを使用してエージェントと履行者を最初から最後までガイドし、カスタマーエクスペリエンスとタスク解決を改善します。ワークフロースタジオでプレイブックをビルドし、プレイブックエクスペリエンスを設計して従来のワークスペース、UI ビルダー、ServiceNow モバイルプラットフォーム、サービスポータルなどに埋め込みます。

プレイブック の埋め込み

UI ビルダー のページ、構成可能ワークスペース、ServiceNow® モバイル、または従来のワークスペースに プレイブック を追加します。

ServiceNow® モバイルへの プレイブック の埋め込み

モバイルへのプレイブックの追加は構成可能なワークスペースの場合とまったく同じですが、追加の手順がひとつあります。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [ワークスペースエクスペリエンス] > [アクション & コンポーネント] > [関連アイテム] または [コンテキストサイドパネル] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

アクションのアサインフォーム

フィールド	説明
アクションラベル	[関連アイテム] または [コンテキストサイドパネル] タブのラベル。
アクション名	アイテムの一意の名前。この名前は上書きできます。
実装方法	**[UI コンポーネント]** を選択します。
UI コンポーネントを指定	アクションに関連付けられた UI コンポーネント。「`now-playbook-experience`」と入力します。
アイコン	他のコンポーネントと区別するためにコンテキストサイドパネルに表示されるアイコン。 **注:** このフィールドは、コンテキストサイドパネルに対してのみ使用できます。
アプリケーション	アクションのアサインのアプリケーション。
ワークスペース	関連アイテムまたはコンテキストサイドパネルを特定のワークスペースに制限するオプション。たとえば、エージェントワークスペースや HR ワークスペースなどです。
テーブル	関連アイテムまたはコンテキストサイドパネルを表示するテーブルを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
表示	このフォームビューが親レコードで選択されている場合にのみプレイブックを表示するためのフィールド。
アクティブ	アクションのアサインをアクティブ化するオプション
順序	同じ名前の一致するアクションに関連して、このアクションの優先順位を決定する整数。 数値が小さいほど、他のアクションよりも選択される可能性が高くなります。一般的には百ごとの数を使用します。例：100、200、300、400。
ツールヒント	マウスが [関連アイテム] タブまたは [コンテキストサイドパネル] アイコンをポイントしたときに表示されるメッセージ。
説明	アクションのアサインの説明。この説明は [アクションのアサイン] リストに表示され、フォームでのコンテキストを提供します。

4. [詳細ビュー] 関連リンクをクリックします。
5. [コンポーネント属性] タブをクリックします。
6. フォームのフィールドに入力します。

コンポーネント属性フォーム

属性の名前	説明
playbookExperienceId	関連付けられたプレイブックエクスペリエンス ID。プレイブックエクスペリエンスレコードの sys_id をコピーして貼り付けます。 **注:** プレイブックエクスペリエンス ID が指定されていない場合は、デフォルトでグローバルのプレイブックエクスペリエンスが使用されます。
parentSysId	関連付けられた親 sys_id。「`{{sysId}}`」と入力すると、表示されているレコードの parentSysId が自動的に取得されます。
parentTable	関連付けられた親テーブル。「`{{table}}`」と入力すると、表示されているレコードの parentSysId が自動的に取得されます。
compactMode	コンパクトモードでプレイブックを表示するオプション。通常、コンテキストサイドパネルの場合は true に設定され、関連アイテムの場合は false に設定されます。
recordGeneratorQuery	現在、エージェントワークスペースではサポートされていません。
isNewParentRecord	{ `{isNewRecord}}` に設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: フォームに属性がない場合は、別の **UI** コンポーネントを選択します。**UI** コンポーネントを **now-playbook-experience** に戻すと、属性が表示されます。

7. [更新] を選択します。
8. [条件] タブをクリックします。
9. フォームのフィールドに入力します。

[条件] フォーム

フィールド	説明
スクリプト条件	アクションのアサインのスクリプト条件。「`sn_playbook.PlaybookExperience.parentRecordCont` と入力します。スクリプト条件を使用すると、レコードがプロセスの実行をトリガーした場合にのみプレイブックを表示できます。
クライアント条件	ユースケースに基づいて競合を制限する条件を選択します。
レコード条件	ユースケースに基づいて競合を制限する条件を選択します。
必要なロール	プレイブックへのアクセスを制限するロール。
作成アクセス権が必要	作成アクセス権を要求するオプション。
読み取りアクセス権が必要	読み取りアクセス権を要求するオプション。
書き込みアクセスが必要	書き込みアクセス権を要求するオプション。
削除アクセス権が必要	削除アクセス権を要求するオプション。

10. [更新] を選択します。

サービスポータルでの プロセスオートメーションデザイナー

プレイブックを使用して、ビジネスプロセスを通じて サービスポータル ユーザーをガイドします。

ウィジェットの使用

ポータルプレイブックウィジェットは、サービスポータル ユーザーが実行できるプレイブックを追加します。

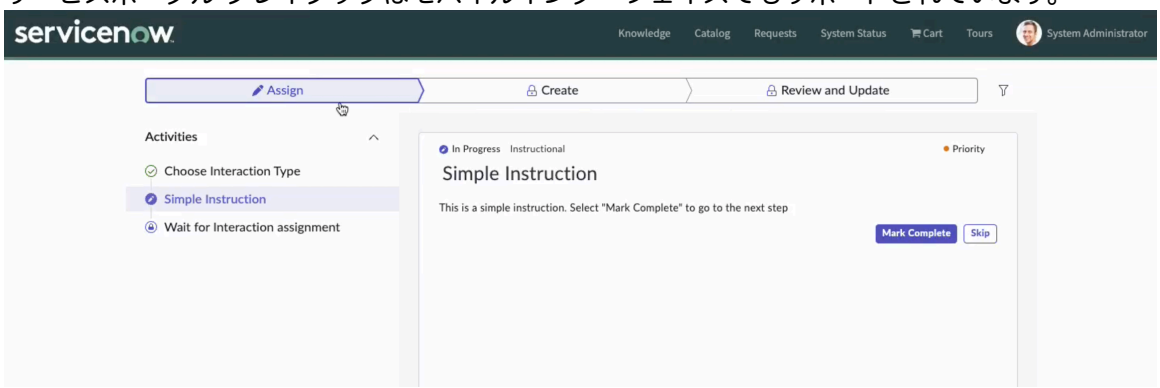
コンシューマーグレードのユーザーエクスペリエンスを実現するために、サービスポータル ユーザーにプレイブックエクスペリエンスを提供します。ポータルの要求は、サービスポータル で利用可能にしたプレイブックを含むカタログアイテムとして表示されます。サービスポータル にプレイブックを埋め込むと、次のことが可能になります。

- ビジネスプロセス中のアクティビティ用の機能豊富なユーザーインターフェイス
- 長いビジネスプロセスに関するガイダンス
- ビジネスプロセスの前のステップに戻って編集する
- ビジネスプロセス用に長時間実行されているプレイブックを保存し、後で再開する
- エージェントとチームがビジネスプロセスに入るためのシームレスな移行
- ビジネスプロセスのどの段階にいるかを可視化

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 特定のユーザーのタスクを可視化
- ビジネスプロセス全体に対する単一のアドミンエクスペリエンス。

サービスポータル プレイブックはモバイルインターフェイスでもサポートされています。



ユースケース

ビジネスアカウントオンボーディング

1 つ以上の連絡先を持つ新規または既存の事業顧客をオンボーディングするとともに、電信送金、トレジャリサービスなどの要求されたサービスをオンボーディングします。コンプライアンスを促進し、価値実現までの時間を短縮します。

ローンまたは住宅ローンのアプリケーション

コンシューマー向けプログラムと企業向けプログラムの両方に対応する新しいクレジットカードアプリケー所とローンアプリケーションを取り込みます。お客様は、アプリケーションを保存し、その後に戻ってアプリケーションを再開する機能を必要としています。

保険請求

保険契約者は、ポータルを介して自動車事故または家屋の損害について、新しい個人の自動車または住宅の請求を提出します。

新しい保険契約の見積もりの要求

対物賠償保険と営利損害保険を含む中小企業向け保険契約の見積もりを要求する事業顧客。顧客は要求の入力を開始でき、エージェントには顧客に代わって残りの契約を入力する機能が必要です。

ライセンス要求

政府ポータルを介して政府機関にビジネスライセンスや個人ライセンス (釣り、運転、狩猟) などの新しいライセンスを要求する構成員。これらのアプリケーションは通常、サービスや州によって異なり、要求を通じて構成員をガイドする必要があります。

顧客ケース

正しい問題を選択し、インスタンス、再現するステップ、最適な連絡時期など、必要なすべての詳細を入力するためのガイダンスが必要なユーザーによってログに記録されたケース。ケースの迅速な解決を可能にします。

ライフサイクル

サービスポータル プレイブックの一般的なライフサイクルをまとめると、次のようになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ビジネスプロセスアドミニストレーターは、ワークフロースタジオ でプレイブックをビルドします。ワークフロースタジオ でのプレイブックのビルドの詳細については、「プレイブックのビルド」を参照してください。
- アドミニストレーターは、プレイブックを サービスポータル ページに追加し、同時に Now Platform® を通じてプレイブックランタイムエクスペリエンスをカスタマイズします。サービスポータル へのプレイブックの埋め込みと、Now Platform® でのさらなるカスタマイズの詳細については、「サービスポータル へのプレイブックの埋め込み」を参照してください。
- サービスポータル アドミニストレーターと開発者は、プレイブックポータルページをカスタマイズします。サービスポータル デザイナーを使用してプレイブックポータルページをカスタマイズする方法の詳細については、「サービスポータル でのプレイブックのカスタマイズ」を参照してください。
- サービスポータル エンドユーザー (要求者とも呼ばれます) は、プレイブックを起動して実行します。サービスポータル でのプレイブックの起動と実行の詳細については、「サービスポータル でのプレイブックの実行」を参照してください。

テーマ間のマッピングの設定

サービスポータル テーマと UI ビルダー で使用される UXF テーマの間のマッピングを設定して、プレイブックが サービスポータル で想定どおりに実行されるようにします。

始める前に

必要なロール：admin、または snc_internal もしくは snc_external のいずれかを持つ portal admin

このタスクについて

ポータルプレイブックウィジェットは、システムプロパティ **ux_portal_theme_to_uib_theme_mapping** を使用して、ポータルページのテーマと UXF テーマの間のマッピングを処理します。

手順

1. [すべて] > [システムプロパティ] > [すべてのプロパティ]に移動します。
2. 右上隅にある [新規] を選択します。
3. 次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
名前	名前に サービスポータル プロパティを指定します。システムプロパティに **ux_portal_theme_to_uib_theme_mapping** という名前を付けます。サービスポータルテーマの sys ID です。たとえば、サービスポータルに La Jolla テーマを使用する場合、そのテーマの sys ID は a7a6e78277002300a6e592718a10617a です。名前として「**ux_portal_theme_to_uib_theme_mapping.a7a6e78277002** と入力します。
値	サービスポータル テーマをマッピングするシステム UX テーマとシステム UX スタイルを指定するには、[システム **UX** テーマの **Sys ID]**, [システム **UX** スタイルの **sys ID]** のカンマ区切りの文字列を入力します。たとえば、サービスポータル テーマをダークモードで Polaris UX テーマにマッピン

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	グする場合、Polaris UX テーマの sysId は 31bf91ae07203010e03948f78ad30095 で、ダークシステム UX スタイルの sys ID は e09ef7ae07103010e03948f78ad3002c です。値として「**31bf91ae07203010e03948f78ad30095**, **e09ef7ae07103010e03948f78ad3002c**」と入力します。 **注:** この文字列の 2 番目の値は、常にオプションの sys_ux_style です。最初の値は常に sys_ux_theme です。

4. フォームコンテキストメニューで、[保存] を選択します。

タスクの結果
サービスポータル テーマと UXF テーマ間のマッピングが保存されます。サービスポータル でプレイブックを起動して、変更を確認します。

注: マッピングをオフにするには、マッピングを削除する必要があります。

次のタスク
サービスポータル ページにプレイブックを埋め込み、Now Platform® で サービスポータル プレイブックランタイムエクスペリエンスをカスタマイズします。

サービスポータル でのプレイブックランタイムエクスペリエンスのカスタマイズの詳細については、「サービスポータル へのプレイブックの埋め込み」を参照してください。

サービスポータル へのプレイブックの埋め込み

プレイブックコンテンツアイテムを作成して、サービスポータル ユーザーが起動して実行できるプレイブックを追加します。

始める前に
- 必要なロール：admin、または portal admin
- サービスポータル 用にカスタマイズするプレイブックがまだない場合は、ワークフロースタジオ でビルドします。ワークフロースタジオ でのプレイブックのビルドの詳細については、「プレイブックのビルド」を参照してください。
- 使用するレコードジェネレーターがまだない場合は、作成します。プレイブックレコードジェネレーターの作成の詳細については、「プレイブックレコードジェネレーターをセットアップする」を参照してください。
- ポータルテーマと UXF テーマが大きく異なる場合は、それらの間のマッピングを設定する必要があります。ポータルテーマと UXF テーマの間のマッピングを設定するには、「テーマ間のマッピングの設定」を参照してください。

このタスクについて
プレイブックコンテンツアイテムでは、アドミンはポータルページを指す URL を指定します。

手順

[すべて] > [プレイブックエクスペリエンス] > [プレイブックコンテンツアイテム]に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プレイブックコンテンツアイテムフォームビュー

フィールド	説明
名前	プレイブックの名前を入力します。
アクティブ	ユーザーが サービスポータル でプレイブックを実行できないようにするには、このボックスをオフにします。
カタログ	このプレイブックを追加するカタログを入力します。デフォルトはありませんが、プレイブックはカタログに追加しないと検索できません。
カテゴリ	このプレイブックを含めるカタログカテゴリを入力します。デフォルトはありませんが、プレイブックのカタログを選択しないと、プレイブックは検索できません。
アイコン	アイテムがサービスカタログに表示される際に名前の横に表示される小さな画像をアップロードします。サポートされているファイル形式は、jpg、png、bmp、gif、jpeg です。
アプリケーション	サービスポータル プレイブック を実行するアプリケーションスコープを選択します。[グローバル] を選択すると、任意のアプリケーションスコープでプレイブックを実行できます。詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。
画像	アイテムを示す画像をアップロードします。サポートされているファイル形式は、jpg、png、bmp、gif、jpeg です。
簡単な説明	プレイブックに関する詳細を入力します。
テーブル	プレイブックが開く親テーブルを入力します。指定しない場合、デフォルトはインシデントテーブルになります。
レコード ID	レコードジェネレーターテーブルで開くレコードの親 Sys ID を入力します。レコードジェネレーターを使用する場合は、-1 のままにします。指定しない場合、デフォルトは -1 です。
プレイブックエクスペリエンス	サービスポータル ユーザー用のプレイブック構成を含むプレイブックエクスペリエンスレコードを選択します。指定しない場合、デフォルトはグローバルプレイブックエクスペリエンスです。
プレイブックエクスペリエンスレコードジェネレーター	表示するプレイブックを含むレコードジェネレーターを選択します。
ポータルページ	プレイブックを開く サービスポータル ページを入力します。指定しない場合、すぐに利用可能なプレイブックポータルページでプレイブックが起動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
タイトル	ポータルプレイブックウィジェットの UI ビルダー ページでタイトルプロパティを使用するコンポーネントのタイトルを追加します。
メタ	サービスポータル ホーム画面検索用のプレイブックアイテムにタグを追加します。

Trouble?

プロセスの実行に関連していると思われる問題については、実行されたプロセスに関連する sys_pd_context の実行ログを確認します。これらは、ナビゲーター内の [今日の実行] モジュールで確認できます。

フローデザイナーに関連する問題については、フローデバッガオプションを使用してデバッグします。フローデバッガオプションの詳細については、[フローのデバッグにリンクされている記事] を参照してください。

その他の問題の場合：

- sys_pd_context レコードの実行時間の前後のインスタンスログを確認し、関連していると思われるエラー (レコード監視、フロー例外、または関連性があると思われるその他の例外) がないか確認します。
- プレイブックのバージョンが次のようになっていることを確認します。
  - now-playbook-experience バージョン 25.1.4 以降
  - playbook-experience バージョン 25.1.2 以降
- すぐに利用可能なポータルプレイブックウィジェットを使用していることを確認します。

次のタスク
サービスポータルデザイナーでランタイムプレイブックエクスペリエンスをカスタマイズします。

ポータルプレイブックウィジェット

ポータルプレイブックウィジェットを探索します。

ウィジェットについて

プレイブックウィジェットは、アドミニストレーターがプレイブックイベントの送信先を指定できる iFrame です。iFrame の URL は、UI ビルダー プレイブックポータルページです。ウィジェットは、プレイブックがセッションストレージ API を介してリッスンしているイベントを処理するため、サービスポータル 内のモーダルでレコードやリストを開くなど、ポータルでアクションを実行するタイミングを認識します。

すぐに利用可能なコンポーネントは、サービスポータル ユーザーに必要なあらゆる プレイブックエクスペリエンス に合わせてビルドされています。すぐに利用可能な UI ビルダー プレイブックポータルページ、サービスポータル プレイブックウィジェット、またはプレイブックコンテンツアイテムを直接編集することはお勧めしません。すぐに利用可能なコンポーネントを変更すると、技術的な問題が発生する可能性があります。

たとえば、プレイブックページのインスタンスで機能する UXF クライアントアクションが必要な場合は、代わりにプレイブックウィジェットをクローンすることをお勧めします。

> **注:** 代わりに独自のウィジェットをクローンまたは作成する方法の詳細については、「カスタムウィジェットの開発」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プレイブックサービスポータルウィジェットのクローン作成

[すべて] > [サービスポータル] > [ウィジェット]に移動し、プレイブックウィジェットを見つけます

注: プレイブックウィジェットをクローンする場合は、すべてのすぐに利用可能なアクションと構成プロパティがクローンされたウィジェットにコピーされていることを確認してください。

フォームフィールド

フィールド	説明
名前	クローンされたウィジェットの名前を入力します。
ID	ウィジェット ID は、デフォルトでウィジェット名に基づいて自動的に作成されますが、任意の名前に変更できます。
説明	ウィジェットの詳細を示すオプションの説明を追加します。
アプリケーション	ウィジェットを実行するアプリケーションスコープを選択します。[グローバル] を選択すると、任意のアプリケーションスコープで プレイブック を実行できます。詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。
公開	ウィジェットが公開されている場合に選択します。オフにすると、ウィジェットはプライベートになり、snc_internal または snc_external ロールを持つ認証済みユーザーのみがウィジェットを表示できます。
ロール	ウィジェットへのアクセスを特定のロールに制限します。
本文 HTML テンプレート	Angular JS の双方向バインディングを利用して、コントローラー変数をマークアップにバインドします。 **危険:** 高度なコーディング知識があり、AngularJS とプラットフォーム API をしっかりと理解している場合にのみ、HTML テンプレートを変更してください。 iFrame URL は、 UI ビルダー ページの URL です。[HTML テンプレート] フィールドの詳細については、「カスタムウィジェットの開発」を参照してください。 **警告:** クローンされたウィジェットの iFrame URL が、すぐに利用可能なウィジェットの iFrame URL と異なることを確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フォームフィールド (続く)

フィールド	説明
CSS	ウィジェット CSS を構成します。実際のウィジェットで CSS を構成すると、そのウィジェットのすべてのインスタンスに影響します。[CSS] フィールドの詳細については、「カスタムウィジェットの開発」を参照してください。
サーバースクリプト	サーバー側のロジックをスクリプト化します。これは主に、サーバー側の API を介して Glide プラットフォームとやり取りする場合に役立ちます。 危険: サーバースクリプトには、ServiceNow API を使用してレコードデータを操作する知識が必要です。 [サーバースクリプト] フィールドの詳細については、「カスタムウィジェットの開発」を参照してください。
クライアントコントローラー	Angular では、HTML テンプレートに Angular 固有の要素と属性が含まれています。モデルとクライアントコントローラーからの情報をテンプレートと組み合わせて、ブラウザでユーザーに表示される動的ビューをレンダリングします。ディレクティブのスコープにあるコントローラへの参照の識別子名 危険: クライアントスクリプトには、ServiceNow API および AngularJS の両方を使用してクライアント コントローラーを作成する知識が必要です。
controllerAs	HTML テンプレートは、基本バインディングに controllerAs 構文を使用します。
リンク	リンク機能を使用して、DOM を直接操作します。 危険: リンク機能には、AngularJS の知識が必要です。 [リンク] フィールドの詳細については、「カスタムウィジェットの開発」を参照してください。
プレビューあり	オプションを選択すると、ウィジェットエディターでウィジェットのプレビューが有効になります。
デモデータ	ウィジェットエディターでウィジェットをプレビューするときにデータを提供する。
データテーブル	データソースとして使用するテーブルを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フォームフィールド (続く)

フィールド	説明
フィールド	インスタンスオプションとして表示するフィールドを選択します。
オプションスキーマ	サービスポータル管理者がウィジェットを構成できるようにします。[オプションスキーマ] フィールドの詳細については、「」 および「ウィジェット オプション スキーマ」を参照してください。
ドキュメント	サービスポータル ドキュメントリンクを選択します。

UI ビルダー プレイブックエクスペリエンスポータルページ構成とイベントプロパティにエラーがないか確認します (例：メンテナンスユーザーとして [レコードを開く] イベントを無効にしている)。

サービスポータル でのプレイブックのカスタマイズ

サービスポータル デザイナーを使用して、サービスポータル ユーザーのプレイブックランタイムエクスペリエンスをカスタマイズします。

始める前に

- 必要なロール：admin、または snc_internal もしくは snc_external のいずれかを持つ portal admin
- デフォルトのレコードジェネレーターやその他の既存のレコードジェネレーターを使用しない場合は、レコードジェネレーターを作成します。

  注: サービスポータル の主な違いは、レコードプロデューサーの代わりにプレイブックレコードジェネレーターが使用されることです。サービスポータル 要求者は、レコードジェネレーターの情報を入力し、[次へ] または [続行] 宣言アクションを使用して次のアクティビティに移動します。

  プレイブックレコードジェネレーターの詳細については、「プレイブックレコードジェネレーターをセットアップする」を参照してください。

手順

1. サービスポータルデザイナーでプレイブックウィジェットを編集するには、[すべて] > [サービスポータル] > [サービスポータル設定]に移動します。
2. [ページエディター] を選択します。
3. プレイブックを検索して選択します。
4. [デザイナーの [プレイブック] (プレイブック) ページを編集] を選択します。
5. ウィジェットを選択し、編集アイコンを選択します。

データパラメーター

フィールド	説明
プレイブック UIB ページ URL (Playbook UIB Page URL)	UI ビルダー ページの URL を入力します。指定しない場合、デフォルトの [プレイブックエクスペリエンスポータル] ページを指します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
レコードを開くウィジェット (Open Record Widget)	ユーザーがレコードを開いたときに使用するウィジェットの Sys ID。指定しない場合、フォームウィジェットが使用されます。
レコードを開くがポップアップ (Open Record is Pop Up)	有効にすると、フォーム内に参照ピッカーが表示されます。
リストを開くウィジェット (Open List Widget)	ユーザーがリストを開くときに使用するウィジェットの Sys ID。指定しない場合、インスタンス定義のデータテーブルが使用されます。
追加パラメーター	ウィジェットから UI ビルダー ページに任意のデータを渡します。

プレゼンテーションパラメーター

フィールド	説明
高さ	プレイブックの高さを入力します。指定しない場合、高さは 850px に設定されます。
レコードモーダルを開くタイトル (Open Record Modal Title)	ユーザーがレコードを開くたびに表示されるモーダルにタイトルを追加します。指定しない場合、タイトルはありません。
レコードモーダルを開くメッセージ (Open Record Modal Message)	ユーザーがレコードを開くたびに表示されるメッセージをモーダルに追加します。指定しない場合、メッセージは表示されません。
レコードモーダルを開くボタン (Open Record Modal Buttons)	ユーザーがレコードを開くたびに表示されるモーダルにボタンを追加します。指定しない場合、ボタンはありません。JSON 形式で入力します。
レコードモーダルを開くビュー (Open Record Modal View)	開いているレコードに表示するフォームビュー。
レコードモーダルを開くサイズ (Open Record Modal Size)	ユーザーがレコードを開くときに表示されるモーダルのサイズを選択します。選択肢は次のとおりです。 ◦ sm - small (sm - 小) ◦ md - medium (md - 中) ◦ lg - large (lg - 大) 指定しない場合、既定値は large (大) です。
リストモーダルを開くタイトル (Open List Modal Title)	ユーザーがリストを開くたびに表示されるモーダルにタイトルを追加します。指定しない場合、タイトルはありません。
リストモーダルを開くメッセージ (Open List Modal Message)	ユーザーがリストを開くたびに表示されるメッセージをモーダルに追加します。指定しない場合、メッセージは表示されません。
リストモーダルを開くボタン (Open List Modal Buttons)	ユーザーがリストを開くたびに表示されるモーダルにボタンを追加します。指定しない場合、ボタンはありません。JSON 形式で入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
リストモーダルを開くビュー (Open List Modal View)	開いているリストに表示するフォームビュー。
リストモーダルを開くサイズ (Open List Modal Size)	ユーザーがリストを開くときに表示されるモーダルのサイズを選択します。選択肢は次のとおりです。 ◦ sm - small (sm - 小) ◦ md - medium (md - 中) ◦ lg - large (lg - 大) 指定しない場合、既定値は large (大) です。
アクティビティビュー	アクティビティビューをスタックまたは集中の間で変更します。
プレイブックエクスペリエンス ID	サービスポータル ユーザーに必要なプレイブック構成を含むプレイブックエクスペリエンスレコード ID を入力します。プレイブックの実行中に URL に何も設定されていない場合、これがデフォルトのプレイブックエクスペリエンスです。ここで何も指定しない場合、デフォルトでグローバルプレイブックエクスペリエンスになります。
レコードモーダルを開き送信時に URL の更新を防止 (Open Record Modal Prevent URL Update on Submit)	レコードモーダルのフォームから新しいレコードが送信されるたびに、サービスポータル で実行中のプレイブックの URL が更新されないようにします。

Trouble?

ポータルページに公式のプレイブックウィジェットを使用していることを確認します。

サービスポータル でのプレイブックの実行

サービスポータル 要求者としてプレイブックを起動します。

始める前に

必要なロール：snc_internal または snc_external

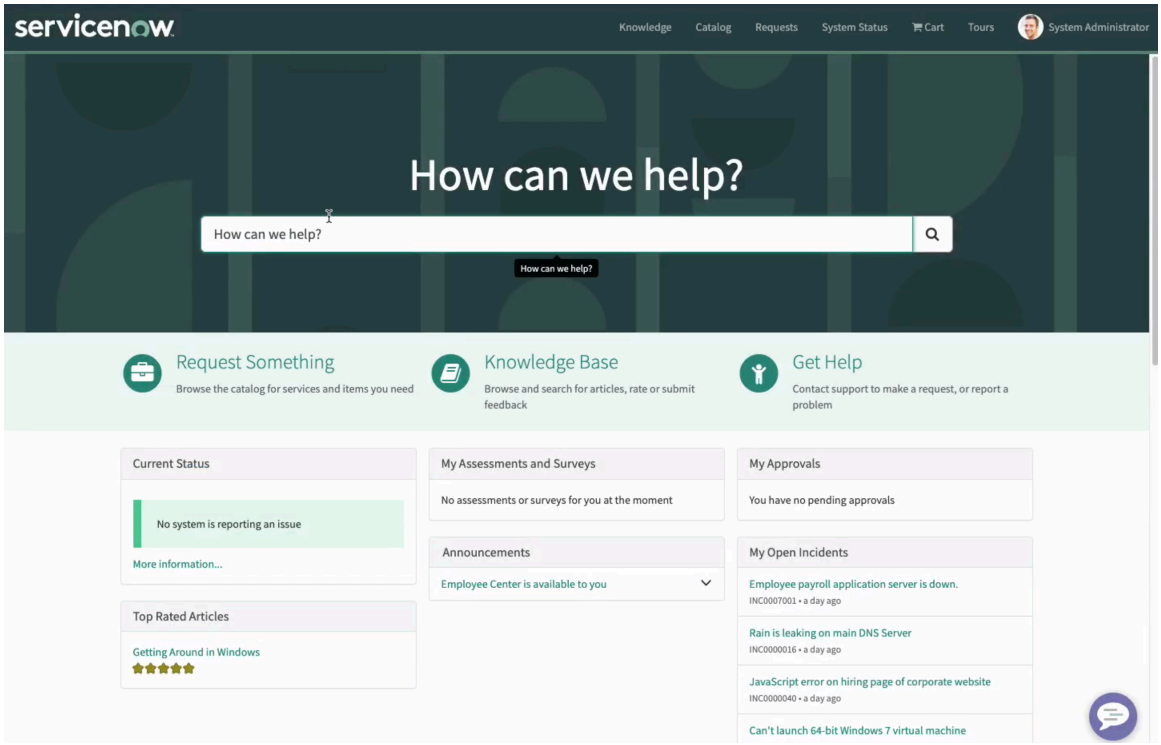
このタスクについて

プロセス全体の現在の状況をより簡単に追跡し、必要に応じてプレイブックを一時停止および再開できます。

手順

1. サービスポータル インスタンスに移動します。
2. ホーム画面で、プレイブックを検索して選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



プレイブックが起動します。

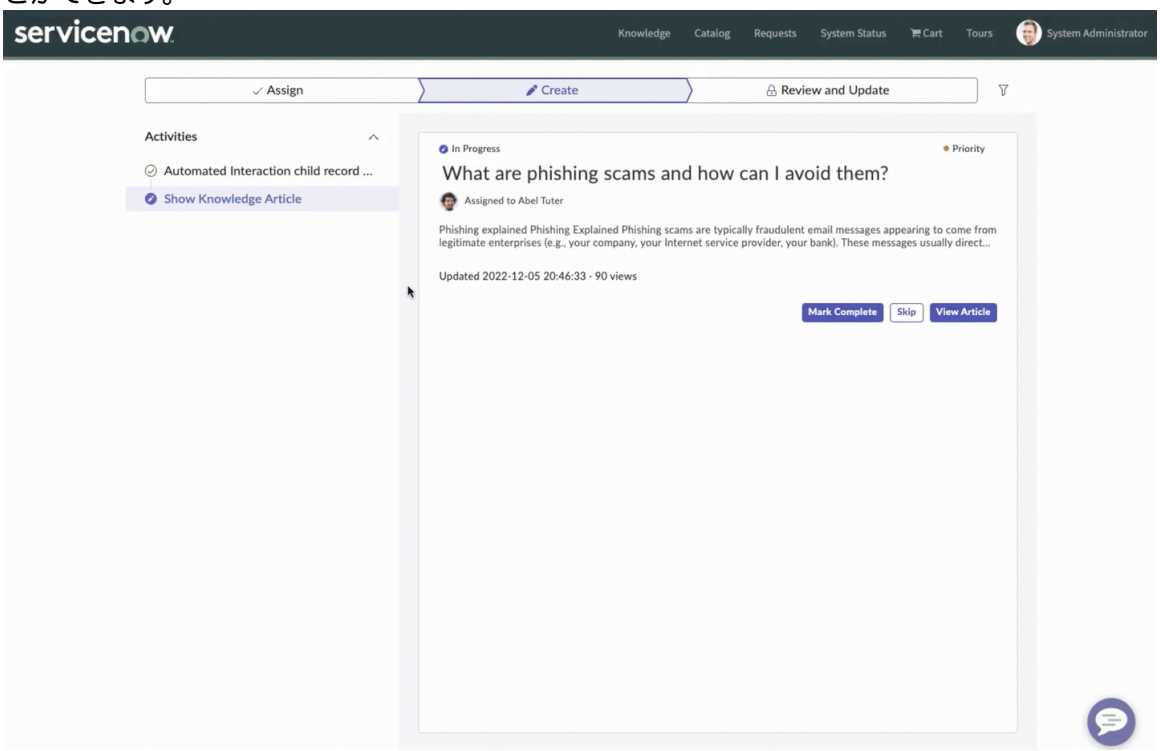
3. オプション:
URL では、次のプロパティをプレイブックに適用できます。

プロパティ	説明	例
layoutType	プレイブックをカスタムレイアウトに設定します。指定しない場合、デフォルト (スタンドアロン) レイアウトがデフォルトになります。	layoutType=custom
テーブル	プレイブックが開く親テーブルを入力します。指定しない場合、デフォルトはインシデントテーブルになります。	table=incident
sys_id	レコードジェネレーターテーブルで開くレコードの親 Sys ID を入力します。レコードジェネレータを使用する場合は、-1 のままにします。-1 のままにすると、レコードが生成されると値が変更されます。	sys_id=-1
playbookExperienceid	サービスポータル ユーザーに必要なプレイブック構成を含むプレイブックエクスペリエンスレコード ID を入力します。指定しない場合、デフォルトでグローバルプレイブックエクスペリエンス	playbookExperienceid=9809a560f220010292(

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ	説明	例
	に設定され、レコード ID は 9809a560f2200102920c912d4767e1a になります。	

4. プレイブックを進めていくと、情報アイコンを使用してナレッジベース記事やユーザーレコードを表示するときなど、サービスポータル を離れることなくモーダル内のレコードやリストを開くことができます。



Trouble?

エラー

エラー	説明
404：お探しのページが見つかりませんでした	テーブルまたは sysId が URL にないか、URL が正しくありません。
構成エラー	プレイブックでプロセスが見つかりません。たとえば、テーブルはインタラクションですが、このテーブルには Sys ID が存在しません。
利用可能なプレイブックがありません (There are not playbooks available)	テーブルに有効なレコードがありますが、レコードがプレイブックを表示するための条件を満たしていません。たとえば、プレイブックを開始するには、インタラクションレコードのタイプがチャットで、「PLAYBOOK:」の簡単な説明で始まる必要がある場合があります。
利用可能なアクティビティがありません	ここには、プレイブックのこの特定のステージで表示するアクティビティはありません。アクティビティは、ユーザーロールまたは実行条件

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エラー (続く)

エラー	説明
	に基づいて、プロセスから非表示にすることができます。
フィルターされた結果がありません	プレイブックフィルターを使用すると、特定のステージの結果を表示できません。

クライアント側の問題については、ブラウザのインスペクターを使用してランタイムの問題を示す可能性があるローカルブラウザーの console.logs を確認してください。

ディシジョンテーブルの使用

ワークフロースタジオ でディシジョンテーブルを使用すると、ワークフローやアプリケーションで使用するディシジョンテーブルを作成、変更、テスト、および更新できます。ワークフロースタジオでは、意思決定テーブルを作成し、Excel で変更することもできます。

ワークフロースタジオ に意思決定テーブルを作成

ワークフロースタジオ にディシジョンテーブルを作成し、ビジネスロジックを一連の [if-then] 意思決定ルールに埋め込みます。ビジネスロジックが複雑な場合や、複数の場所で再利用できる場合は、ディシジョンテーブルを使用します。

始める前に

必要なロール：admin、decision_table_admin、または委任開発者権限。詳細については、「Delegate developers using App Engine Studio (App Engine Studio を使用して開発者を委任する)」を参照してください。

このタスクについて

フロー、サブフロー、 Playbook、 およびスクリプトで使用するディシジョンテーブルを作成できます。ディシジョンテーブルを作成し、それらのオブジェクトの 1 つから、またはコードを記述するプラットフォーム上の他の任意の場所から参照します。Xanadu リリースの時点では、フローまたはプレイブックでディシジョンテーブルの構造を直接作成し、後でテーブルに入力することもできます。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. ディシジョンテーブルを選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

プロパティフォーム

フィールド	説明
ディシジョンテーブル名	ディシジョンテーブルの名前。
説明	ディシジョンテーブルの説明。
アプリケーション	ディシジョンテーブルのアプリケーションスコープ。
アクセス可能	ディシジョンテーブルを使用できるスコープ。使用可能な値は、[アプリケーションスコープのみ] または [すべてのアプリケーションスコープ] です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ドラフト作成を有効にする	公開前にドラフトモードで意思決定テーブルを作成して、使用可能にするオプション。この機能を使用すると、公開後にディシジョンテーブルをドラフトモードで変更し、変更を加えて公開しなおすこともできます。

5. [ディシジョンテーブルのビルド **(Build decision table)]** を選択します。
6. [入力を追加] を選択します。

   注: テーブルに 30 を超える入力を追加すると、テーブルの作成中にアプリケーションのパフォーマンスに悪影響を与える可能性があることに注意してください。

7. フォームのフィールドに入力します。

   入力定義

フィールド	説明
ラベル	入力のヘッダー。
タイプ	入力に使用されるデータのタイプ。 入力タイプが [参照] の場合、「参照」というタイトルの新しい列が入力セクションに表示され、参照テーブルが表示されます。この入力タイプを使用すると、ディシジョンテーブルに複数の条件列を追加できます。 利用可能な入力タイプは次のとおりです。 ◦ 選択 ◦ 通貨 ◦ 日付 ◦ 日付/時刻 ◦ 10 進数 ◦ 期日 ◦ 整数 ◦ 長 ◦ 参照 ◦ 文字列 ◦ 文字列 (完全な UTF-8) ◦ True/False
必須	テーブルを使用するときに入力フィールドを必須にするためのオプション。
参照フィルターを追加	入力タイプが [参照] で、[評価するデータ] が [参照レコード] になっているリンクされた条件列で、参照レコードのリストをフィルタリングするオプション。このフィールドを使用して、フィルター条件ステートメントを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	詳細については、「ディシジョンテーブルでの参照入力と結果のフィルタリング」を参照してください。

注: 選択入力タイプの場合、既存の選択リストを選択できるかどうかは、ディシジョンテーブルと同じアプリケーションスコープ内のテーブルに存在する選択リストによって異なります。たとえば、グローバルスコープ内にディシジョンテーブルを作成する場合は、グローバルスコープのテーブルにある既存の選択リストを使用できます。ただし、カスタムスコープでディシジョンテーブルを作成する場合は、同じカスタムスコープ内のテーブルにある既存の選択リストのみが使用可能です。

8. [条件列の追加] を選択します。
9. フォームのフィールドに入力します。

新しい条件列フォーム

フィールド	説明
条件列ラベル	条件列のラベル。
説明	条件列の簡単な概要。
入力	条件列にリンクされた入力。 複数のフィールドを評価するために、[参照] 入力タイプで複数の条件を追加できます。
テーブル	データタイプが [参照] の場合、参照テーブルの名前が表示されます。
評価するデータ	入力タイプが [参照] の条件列の場合は、条件列が参照レコードを評価するのか、参照テーブルのフィールドを評価するのかを指定します。
条件タイプ	条件列に対して選択されたデータタイプ。
デフォルトの演算子	条件列の各行がユーザー指定の値を評価する際の方法。[True] または [False] を除くすべての入力データタイプには、デフォルトの演算子が必要です。 演算子の詳細については、「フィルターとクエリに使用できる演算子」を参照してください。

10. **[Done** (完了)] を選択します。
11. オプション: 条件列をさらに追加します。
    a. 最後の条件列に移動し、プラスアイコン (+) を選択して、[条件列を追加]を選択します。
    b. 条件列をポイントし、プラスアイコン (+) を選択します。
    c. 入力の右側にある [条件列を追加] ボタンを選択します。
12. [結果列を追加] を選択します。
13. フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しい結果列 **(New result column)**] フォーム

フィールド	説明
結果列ラベル (Result column label)	結果列のラベル。
説明	結果列の簡単な概要。
結果タイプ	結果列に使用されるデータのタイプ。 利用可能な結果タイプは次のとおりです。 ◦ 選択 ◦ 通貨 ◦ 日付 ◦ 日付/時刻 ◦ 10 進数 ◦ 期日 ◦ 期間 ◦ 整数 ◦ 長 ◦ 参照 ◦ 文字列 ◦ 文字列 (完全な UTF-8) ◦ True/False
参照フィルターを追加	結果タイプが [参照] の場合に、結果列の参照レコードのリストをフィルタリングするオプション。このフィールドを使用して、フィルター条件ステートメントを作成します。詳細については、「ディシジョンテーブルでの参照入力と結果のフィルタリング」を参照してください。

注: [通貨] および [True/False] の結果タイプには、いくつかの重要な例外があります。

- 代替となる結果が指定されていない場合 (通貨タイプの場合は 0.00、true/false タイプの場合は false)、通貨タイプおよび true/false タイプの結果列のセルはデフォルト値を返します。
- 複数通貨モードを使用するインスタンスでは、使用可能なインスタンス通貨を使用して通貨の結果を指定できます。ただし、結果値は保存時に必ずセッション通貨に変換されます。
- 単一通貨モードを使用するインスタンスでは、単一インスタンス通貨を使用して通貨の結果のみを指定できます。

14. **[Done** (完了)] を選択します。
15. オプション: 次のいずれかの方法を使用して、結果列を追加して、ディシジョンテーブルで複数の結果を有効にします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 最初の結果列に移動し、プラスアイコン (+) を選択して、[結果列を追加]を選択します。
- 最後の結果列に移動し、プラスアイコン (+) を選択します。
- 結果列をポイントし、プラスアイコン (+) を選択します。

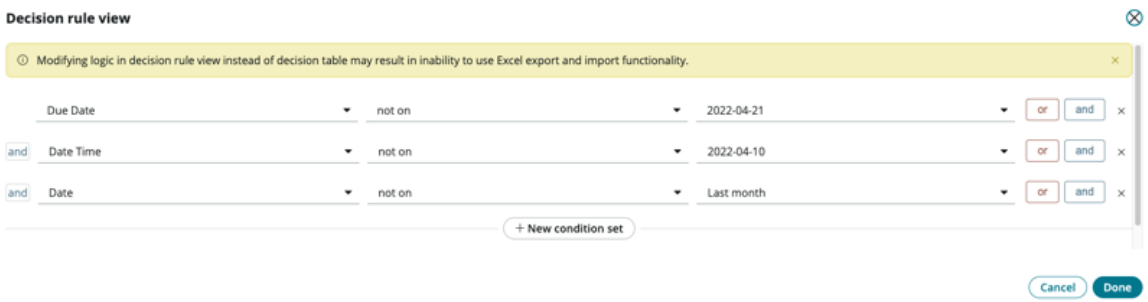
16. 条件ごとに、条件列の空のボックスをクリックして演算子を選択し、値を入力します。

演算子の詳細については、「フィルターとクエリに使用できる演算子」を参照してください。

17. オプション: 意思決定ルールビューでディシジョンテーブルの条件を変更するには、行番号の左側にある [意思決定ルールの行メニューオプション] アイコン (⋮) を選択し、[意思決定ルールビューで開く] を選択します。

(Optional) 意思決定ルールビューは、テーブル構造に適合しない可能性がある複雑な条件をサポートします。

意思決定ルールビュー



注: 意思決定ルールビューを使用すると、複雑な条件が作成される可能性があります。詳細な行を含むテーブルは Excel で編集できますが、詳細な行は読み取り専用です。詳細については、「Excel での意思決定テーブルの管理」を参照してください。可能な場合は、複雑な意思決定を複数の簡素化された意思決定ルール行に分割します。

a. オプション: 必要に応じて条件を編集します。

b. オプション: [完了] を選択して変更をコミットします。

18. 結果ごとに、結果列の空のボックスをクリックし、結果値を入力します。

19. オプション: [新しい意思決定行を追加] を選択し、条件と目的の結果を入力して、意思決定ルールを追加します。

20. [保存] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

21. [公開] を選択します。
    公開するかどうかを確認するモーダルが表示されます。公開してからこのテーブルを編集したい場合は、テーブルのドラフトを作成する必要があります。公開済みのディシジョンテーブルの編集の詳細については、「ドラフト作成を使用した意思決定テーブルの編集」を参照してください。
22. [公開] を選択します。

ディシジョンテーブルを複製

ワークフロースタジオ で既存のテーブルを複製することで、類似のディシジョンテーブルを作成する時間を節約できます。

始める前に

必要なロール：admin、decision_table_admin、または委任開発者

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、[ディシジョンテーブル] を選択します。
3. 複製するディシジョンテーブルを開きます。
4. ディシジョンテーブルのメニューオプションアイコン ( ) を選択し、[ディシジョンテーブルを複製 **(Duplicate Decision Table)]** を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

[このテーブルを複製] フォーム

フィールド	説明
新しいディシジョンテーブル名	ディシジョンテーブルの名前。このフィールドには、<元のテーブル名> の複製が事前に入力されています。
アプリケーション	ディシジョンテーブルのアプリケーションスコープ。
複製するバージョン	複製するテーブルのバージョン。このフィールドは、元のテーブルでドラフトの作成が有効になっていて、ドラフトと公開済みバージョンがある場合にのみ使用できます。[ドラフト] または [公開済み] を選択できます。
意思決定行を含める	意思決定行と元のテーブルの構造を含めるオプション。 このオプションは、300 行以下のテーブルに制限されます。テーブルの行数が 300 を超える場合、この機能は使用できず、構造のみを複製することができ、行を複製することはできません。

6. [複製] を選択します。

ドラフト作成を使用した意思決定テーブルの編集

ワークフロースタジオ で公開された意思決定テーブルの編集は、ドラフトの作成が有効になっているときに行います。ドラフトの作成が有効でないと、意思決定テーブルはアクティブになり、作成後すぐに使用可能になります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin、decision_table_admin、decision_rule_author、または decision_result_editor

このタスクについて
公開済みのディシジョンテーブルを変更するには、ドラフトを作成し、必要な変更を加えて、ドラフトを公開する必要があります。

> **重要:** ディシジョンテーブルの古いバージョンは保持されないため、ドラフトを公開すると、以前に公開されたバージョンに戻って再度アクセスすることはできません。この新しい公開バージョンがライブバージョンです。

ドラフトの作成は、すべての新しい意思決定テーブルではデフォルトで有効になっています。既存のテーブルでは、ドラフトの作成は可能ですが、デフォルトで有効になっていません。

既存のテーブルのドラフト作成を有効にするには、ディシジョンテーブルに未保存の変更がないことを確認し、ディシジョンテーブルのプロパティを開いて、[ドラフト作成を有効にする] を選択します。この変更を行うと、ディシジョンテーブルは公開済みステータスに移行するため、さらに変更を加えるには新しいドラフトを作成する必要があります。

手順
1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、[ディシジョンテーブル] を選択します。
3. 公開済みのディシジョンテーブルを選択します。
4. [ドラフトを作成] を選択します。
   この操作により、必要に応じて編集して再公開可能なドラフトバージョンのテーブルが作成されます。公開済みのバージョンは利用可能で、意思決定を実行するときに使用されるバージョンスクリプト、プレイブック、およびフローとなります。

   [ビュー] トグルを切り替えることで、テーブルのドラフトバージョンと公開済みバージョンの両方を表示できます。
5. ディシジョンテーブルを変更します。
6. [保存] を選択します。
7. このバージョンを新しい公開済みバージョンにし、元の公開済みバージョンに置き換えて元に戻せないようにするには、[公開] を選択します。
8. [公開] を選択します。

ワークフロースタジオ でのディシジョンテーブル構造の変更
ワークフロースタジオ でディシジョンテーブルの入力や列を変更して、ビジネスロジックを進化させます。

ディシジョンテーブルの入力を変更
ラベルを変更し、タイプと関連プロパティを変更し、必須のトグルを切り替えて、入力を変更します。

始める前に
必要なロール：admin、decision_table_admin、または委任開発者権限。詳細については、「Delegate developers using App Engine Studio (App Engine Studio を使用して開発者を委任する)」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、[ディシジョンテーブル] を選択します。
3. ディシジョンテーブルを選択します。
4. 変更する入力を選択します。
5. 入力を変更します。
   - ラベルを変更するには、その [ラベル] を選択して新しい名前を入力し、**Enter** キーを押します。
   - 入力タイプを変更するには、[タイプ] リストから別の入力タイプを選択します。

     注: 入力タイプを変更できるのは、入力が条件列にリンクされていない場合のみです。

   - 入力タイプのプロパティを変更するには、当該のプロパティのフィールドを選択して値を更新します。
6. [保存] を選択します。

ディシジョンテーブルでの参照入力と結果のフィルタリング

結果のリストを絞り込み、ワークフロースタジオ のディシジョンテーブルで [参照タイプ入力] フィールドと [結果] フィールドに表示する必要がある情報のみを表示します。

始める前に
必要なロール：admin または decision_table_admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、[ディシジョンテーブル] を選択します。
3. ディシジョンテーブルを選択します。
4. 入力または結果のフィルターを作成します。

アクション	説明
参照タイプの入力のフィルターの作成	**a.** [入力を追加] を選択します。 **b.** [ラベル] フィールドで、入力のラベルを追加します。たとえば、「参照入力」などです。 **c.** [タイプ] フィールドで、[参照] を選択します。 [参照] 列が表示され、参照テーブルが列に表示されます。 **d.** [テーブル] フィールドで、参照するテーブルを選択します。たとえば、`sys_user` などです。
参照タイプの結果のフィルターの作成	**a.** [結果列を追加] を選択します。 **b.** [結果列ラベル] フィールドに、フィールドの名前を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション	説明
	c. [結果タイプ] フィールドで、[参照] を選択します。 d. [結果テーブル] フィールドで参照するテーブルを選択します。

5. [参照フィルターを追加] を選択します。
6. フィールド、演算子、および値を含む条件を追加して、フィルターを作成します。
   [新しい条件セット **(New condition set)]** を選択し、**[or]** または **[and]** で他の条件を追加して条件同士をつなぐことで、より複雑なフィルターを作成することができます。
7. [完了] を選択します。
8. オプション: [参照入力] 行の [条件列を追加] を選択して、作成したフィルターが適用された状態でリンクされた参照条件列を追加します。
9. オプション: [評価するデータ] セクションで、[参照レコード] を選択します。
   フィルタリングされた入力によって、[評価するデータ] が [参照レコード] になっているリンクされた条件列のセル内のレコードのリストがフィルタリングされます。フィルタリングされた結果列によって、対応する結果列のセル内のレコードのリストがフィルタリングされます。
10. [保存] を選択します。

既存の参照フィルターを更新する

ワークフロースタジオ のディシジョンテーブルで、[参照タイプ] の入力または結果に対する既存のフィルターを変更します。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、[ディシジョンテーブル] を選択します。
3. ディシジョンテーブルを選択します。
4. 変更する入力または結果を選択します。
5. 結果列ヘッダーをポイントし、[列プロパティを編集] アイコン ( ) を選択します。
6. [参照フィルターを変更] を選択します。
7. 変更を行い、[完了] を選択します。
8. [保存] を選択します。

ディシジョンテーブルから入力を削除

ワークフロースタジオ のディシジョンテーブルから不要になった入力を削除します。入力を削除すると、関連するすべての条件列も削除されます。

始める前に
ディシジョンテーブルから入力を削除すると、その入力を通してデータをやり取りするフロー、プレイブック、またはスクリプトが機能しなくなる可能性があります。このため、ディシジョンテーブルから何か削除する前に、ディシジョンテーブルがどこで使用されているかを把握しておく必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール：admin、decision_table_admin、または委任開発者権限。詳細については、「Delegate developers using App Engine Studio (App Engine Studio を使用して開発者を委任する)」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、[ディシジョンテーブル] を選択します。
3. ディシジョンテーブルを選択します。
4. 入力行の最後で、[入力メニューオプション] アイコン (⋮) を選択し、[削除] を選択します。
5. [保存] を選択します。

ディシジョンテーブルの条件列の変更

条件列を変更するには、ワークフロースタジオ のディシジョンテーブルで、ラベルの名前を変更するか、説明を編集するか、入力タイプまたはデフォルトの演算子を更新します。

始める前に
必要なロール：admin、decision_table_admin、または委任開発者権限。詳細については、「Delegate developers using App Engine Studio (App Engine Studio を使用して開発者を委任する)」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、[ディシジョンテーブル] を選択します。
3. ディシジョンテーブルを選択します。
4. 条件列ヘッダーをポイントし、[列プロパティを編集] アイコン ( ) を選択します。
5. 変更を行い、[完了] を選択します。

   注: *Choice* タイプの入力があり、入力タイプを他のタイプに切り替えた場合、そのアクションによって条件列からすべての値が削除されます。

6. [保存] を選択します。

ディシジョンテーブルの結果列の変更

ワークフロースタジオ でディシジョンテーブルのソーステーブルを変更して、意思決定で評価されるデータを変更します。

始める前に
必要なロール：admin、decision_table_admin、委任開発者権限。詳細については、「Delegate developers using App Engine Studio (App Engine Studio を使用して開発者を委任する)」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、[ディシジョンテーブル] を選択します。
3. ディシジョンテーブルを選択します。
4. 結果列ヘッダーをポイントし、[列プロパティを編集] アイコン ( ) を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. 既存の結果テーブルを新しいソーステーブルに置き換えます。

   注: 結果テーブルを変更すると、現在のディシジョンテーブルの結果値が削除されます。

6. [完了] を選択します。
7. [保存] を選択します。

ワークフロースタジオ でのディシジョンテーブルルールの変更

ワークフロースタジオ で、ディシジョンテーブルの行、デフォルトの結果の値、またはコンテンツを変更して、ビジネスロジックを進化させます。

デフォルトの結果値の定義

ワークフロースタジオ のディシジョンテーブルでデフォルトの結果値を定義して、ビジネスロジックの変更を考慮します。デフォルトの結果を定義すると、入力データが意思決定ルールに適合しない場合のシナリオが考慮されます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
[デフォルトの結果 (Default result)] 行に値が定義されていない場合、または行の値を消去した場合は、デフォルトの結果は返されません。

注: デシジョンビルダーバージョン 4 より前に作成された意思決定テーブルにはデフォルトの結果を設定できますが、値は自動的に設定されません。[デフォルトの結果 (Default result)] 行は、デフォルトの回答が指定されたデシジョンビルダーの外部で作成された意思決定テーブルと互換性があります。decision_result_editor ロールを持っている場合、デシジョンビルダーの以前のバージョンで作成された意思決定テーブルの初期のデフォルト結果を設定するには、アドミニストレーターまたはより高いレベルの権限を持つユーザーが必要です。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、[ディシジョンテーブル] を選択します。
3. ディシジョンテーブルを選択します。
4. ディシジョンテーブルに少なくとも 1 つの結果列を定義します。
   結果列が定義されると、[デフォルトの結果 (Default result)] 行がテーブルの下部に表示されます。
5. 結果が必要な列にデフォルトの結果を定義します。

   注: 列にデフォルトの結果値があり、通貨または true/false の結果タイプを持つ他の結果列がある場合、それらの結果列は自動的にデフォルトの結果を指定します。行の省略記号メニューを使用して、すべてのデフォルトの結果値をクリアできます。ただし、別の列にデフォルト値を追加すると、通貨と true/false の結果タイプの列にデフォルト値が自動入力されます。

6. [保存] を選択します。

ディシジョンテーブルでの意思決定ルールの変更

ワークフロースタジオ で条件と結果を変更して、ディシジョンテーブルの意思決定ルールを更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

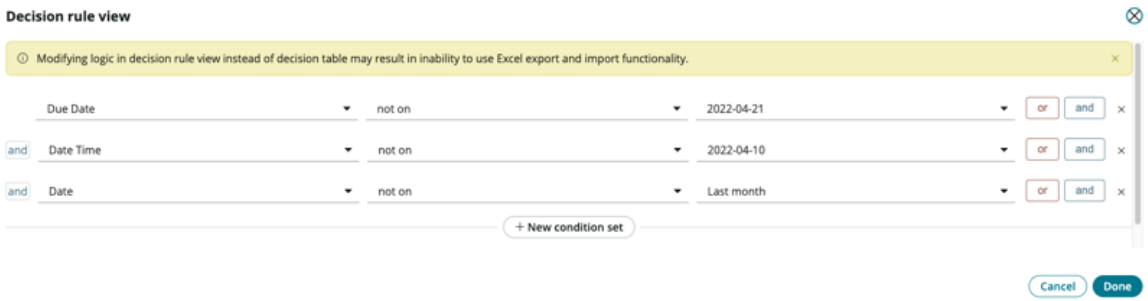
始める前に
必要なロール：admin、decision_table_admin、または委任開発者権限。詳細については、「Delegate developers using App Engine Studio (App Engine Studio を使用して開発者を委任する)」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、[ディシジョンテーブル] を選択します。
3. ディシジョンテーブルを選択します。
4. 編集するセルを選択します。
   - 条件を次のいずれかの方法で変更します。
     - 演算子を選択し、別の演算子に置き換えます。
     - 条件値を選択し、新しい値を入力します。
     - 演算子と条件値の両方を更新します。
   - 結果を変更するには、結果値を選択して、新しい値を入力します。
5. オプション: 意思決定ルールビューでディシジョンテーブルの条件を変更するには、行番号の左側にある [意思決定ルールの行メニューオプション] アイコン (⋮) を選択し、[意思決定ルールビューで開く] を選択します。

   (Optional) 意思決定ルールビューは、テーブル構造に適合しない可能性がある複雑な条件をサポートします。

   意思決定ルールビュー

   注: 意思決定ルールビューを使用すると、複雑な条件が作成される可能性があります。詳細な行を含むテーブルは Excel で編集できますが、詳細な行は読み取り専用です。詳細については、「Excel での意思決定テーブルの管理」を参照してください。可能な場合は、複雑な意思決定を複数の簡素化された意思決定ルール行に分割します。

   a. オプション: 必要に応じて条件を編集します。
   b. オプション: [完了] を選択して変更をコミットします。
6. [保存] を選択します。

ディシジョンテーブルの行を複製

ワークフロースタジオ でディシジョンテーブルの行を戦略的に複製することで、意思決定ルールを作成する時間と労力を節約できます。

始める前に
必要なロール：admin、decision_table_admin、または decision_rule_author

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

ディシジョンテーブルの作成の効率を最大化し、時間を節約するために、行を複製するための最適な方法を計画します。たとえば、最初の条件が同じ行が 5 つある場合は、最初の行に条件を入力し、行を複製します。行は、完成後の任意の時点でいつでも複製できます。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、[ディシジョンテーブル] を選択します。
3. ディシジョンテーブルを開きます。
4. 複製する行の左端にある、この行の下にある意思決定行の複製アイコン ( ) を選択します。

ディシジョンテーブルの意思決定行を並べ替え

ワークフロースタジオ のディシジョンテーブルで行を並べ替えて、意思決定ルールが評価される順序を決定または変更します。[ランク] 列で行に別の番号を入力すると、大きなテーブルの行をすばやく並べ替えることができます。

始める前に

必要なロール：admin、decision_table_admin、または委任開発者権限。詳細については、「Delegate developers using App Engine Studio (App Engine Studio を使用して開発者を委任する)」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、[ディシジョンテーブル] を選択します。
3. ディシジョンテーブルを選択します。
4. 次のいずれかの方法を使用して、行を並べ替えます。

オプション	説明
ランク番号を変更して並べ替える	a. [ランク] 列で、数値をダブルクリックして編集します。 b. 行の新しい値を入力し、**Enter** キーを押します。 注: 番号を変更しても **Enter** キーを押さないと、ランクは変更されません。 この方法は、大きなディシジョンテーブルの行を並べ替える場合に最も効果的です。
行をドラッグアンドドロップして並べ替える	a. 意思決定行をポイントし、左端にある行ドラッグアンドドロップグリッパーアイコン ( ) を選択します。 b. 行を新しい場所にドラッグして並べ替えます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	一度に表示できるのは 20 行のみであるため、この方法は小さなディシジョンテーブルの行を並べ替える場合に最も効果的です。

5. [保存] を選択します。

意思決定テーブルの使用

ワークフロースタジオに組み込まれている意思決定テーブルは、フローロジックを使用したフローで実行されるか、API 呼び出しを使用したスクリプトで実行されます。

意思決定テーブルは ワークフロースタジオ に組み込まれていますが、実際の意思決定は他のアプリケーションで行われます。意思決定アクションをこれらのアプリケーションから分離しておくと、必要に応じて意思決定を呼び出して再利用することができます。

フロー内の意思決定テーブル

フローデザイナーでは、意思決定は [意思決定] フローロジックの一部として実行されます。詳細については、「Make a decision フローロジック」を参照してください。

API の意思決定テーブル

スクリプトでは、ディシジョンテーブルは、DecisionTableAPI の GetDecision() メソッドまたは GetDecisions() メソッドを使用したディシジョンテーブルへの API 呼び出しを使用して実行されます。詳細については、「DecisionTableAPI - スコープ付き、グローバル」を参照してください。

Excel での意思決定テーブルの管理

構築する意思決定テーブルが大きい場合、または Now Platform の外部で意思決定テーブルを拡張する場合は、それらを Excel で管理します。意思決定テーブルを Excel ファイルにエクスポートし、ダウンロードしたファイルを編集して行を追加および編集してから、そのファイルを ワークフロースタジオ にインポートします。

ディシジョンテーブルの Excel へのエクスポート

入力、条件列、および結果列を作成して保存した後、[エクスポート] を選択して、ディシジョンテーブルを `.xlsx` 形式で Excel にエクスポートします。エクスポートされたファイルには 2 つのワークシートが含まれています。1 つはディシジョンテーブルで、もう 1 つは意思決定行をビルドしてインポートエラーを防ぐ方法が記載されています。

Excel で意思決定テーブルを編集すると、大きなテーブルをより迅速にビルドできます。また、構造的なセットアップを開発者にアサインし、ルールの作成を Excel で入力できる他のユーザーに委任することもできます。

注: Excel にエクスポートする際にディシジョンテーブルに詳細な行がある場合、これらの行は読み取り専用であり、Excel で編集することはできません。テーブルの残りの部分を Excel で編集し、ワークフロースタジオ にインポートし直すことができます。

Excel でのディシジョンテーブルの変更

ディシジョンテーブルを Excel にエクスポートすると、意思決定ルールを追加、削除、編集、または並べ替えることができます。ディシジョンテーブルをビルドするには、次の指示に従います。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 演算子と値の列を使用して条件をビルドします。
  - [演算子] セルごとに、ドロップダウンリストから関連する演算子を選択します。演算子リストは、条件列のフィールドタイプに固有です。
  - [値] セルごとに、手順シートの形式ガイダンスに従って条件値を入力または選択します。
  - 日付、期日、日付/時刻、参照、または選択条件を作成する場合は、ドロップダウンリストから値を選択できます。
- 結果値を指定します。
  - [結果] セルごとに、結果値を入力します。
  - 参照または選択結果については、ドロップダウンリストから結果値を選択します。

Excel でディシジョンテーブルを変更するときは、次の制限を考慮します。

- 意思決定ルールの追加、削除、編集には Excel を使用しますが、Excel を使用して条件列や結果列を追加または変更しないでください。
- 条件 列と 結果 列のセルのみを編集します。インポート中、これらの列の右側に入力されているデータは無視されます。
- エクスポートされたファイル内のヘッダーは保持し、決して変更しないでください。
- エクスポートされた元のファイルのみを Excel で変更します。エクスポートされたファイルの内容をコピーして新しい Excel ファイルに貼り付けないでください。ただし、元のファイルの名前は変更できます。
- 空の行がないことを確認します。空の行が 5 行連続した後のエントリは無視されます。

ワークフロースタジオ への **Excel** ファイルのインポート

注: インポートオプションは、ディシジョンテーブルを Excel にエクスポートした後でのみ使用できます。

インポートプロセスでは、Excel ファイルのすべての変更が検証されてから、変更が ワークフロースタジオ にインポートされます。インポートすると、次の結果が生じる可能性があります。

- インポート成功 **(Successful Import)**：Excel ファイルのインポートに成功しました。[インポート] ウィンドウが自動的に閉じ、インポートされたデータでディシジョンテーブルが更新されます。続行する前に変更内容を保存します。
- インポート失敗：Excel ファイルのインポートに失敗しました。エラーの詳細と修正方法が含まれている `Error.xlsx` ファイルをダウンロードします。エラーの修正後、インポートプロセスに従い、エラー修正済みファイルをインポートします。

エクスポートおよびインポート履歴の表示

[履歴] サイドバーでディシジョンテーブルのエクスポートおよびインポート履歴を表示します。各エントリには、ファイルをインポートまたはエクスポートしたユーザーの名前とタイムスタンプが表示されます。

履歴タイプに基づいて、次の関連する Excel ファイルをダウンロードできます。エクスポートされたファイル (エクスポート成功)、インポートされたファイル (インポート成功)、またはエラーファイル (インポート失敗) です。インポートウィンドウで [キャンセル] を選択すると、履歴レコードは作成されません。

制限事項

Excel でディシジョンテーブルを変更できない場合のシナリオは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ディシジョンテーブルに条件列が含まれていない場合。
- ディシジョンテーブルに未保存の変更がある場合。
- ディシジョンテーブルにサポートされていないフィールドタイプを含む条件列がある場合。
- ディシジョンテーブルに非アクティブな入力に関連する条件列がある場合。

注: ローカリゼーションフレームワークはディシジョンテーブルに統合されています。ただし、[Excel での編集 (Edit in Excel)] 機能はローカリゼーションをサポートしていないため、英語を使用しないインスタンスではこの機能を使用できません。

ディシジョンテーブルでの関連オブジェクトの表示

フロー、サブフロー、プレイブックなどのディシジョンテーブルに関連するオブジェクトを表示して開きます。

始める前に

表示される関連オブジェクトは、セキュリティ制約によって決まります。表示されるはずの関連オブジェクトが表示されない場合は、アドミニストレーターに連絡してサポートを受けてください。

必要なロール：なし

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、[ディシジョンテーブル] を選択します。
3. ディシジョンテーブルを開きます。
4. ディシジョンテーブルのメニューオプションアイコン ( ) を選択し、[関連するオブジェクトを参照 **(See Related Objects)]** を選択します。
   関連オブジェクトのリストが開き、フロー、プレイブック、およびサブフローでディシジョンテーブルが使用されている場所が示されます。ロールによっては、[セキュリティ制約により非表示になっているオブジェクトの数 **(Number of objects hidden by security constraints)]** の横に数字の付いた空の (または完全ではない) リストが表示される場合があります。
5. オプション: 関連オブジェクトを選択してワークフロースタジオで開きます。

ワークフロースタジオ での意思決定テーブルのテスト

意思決定テーブルを公開する前に ワークフロースタジオ でテストして、ルールによって所定の入力データのセットに期待される結果が出ることを確認します。

始める前に

テストできるのは保存された意思決定テーブルのみです。1 つ以上の入力と結果を含むテーブルを作成し、それを保存してテストするか、保存されている既存のテーブルをテストすることができます。

必要なロール：admin、decision_table_admin、decision_table_reader、変更マネージャー、または委任開発者

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、[ディシジョンテーブル] を選択します。
3. ディシジョンテーブルを選択します。
4. [テスト] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. テーブルでドラフトの作成が有効で、テーブルが既に公開されている場合は、[テスト対象] ドロップダウンリストから、ドラフトバージョンをテストするか公開済みバージョンをテストするかを選択します。
6. [実行方法] ドロップダウンリストから、入力が条件に一致する最初の意思決定のみを返すか、入力が条件に一致するすべての意思決定を返すかを選択します。
7. テストする入力データを入力します。
8. [テスト] を選択します。

タスクの結果

テストの結果が表示されます。結果が 1 つも表示されない場合もあれば、入力データが条件に一致する 1 つまたはすべての意思決定が表示される場合もあります。テストパラメーターと入力を変更し、もう一度 [テスト] を選択することで、テーブルで追加のテストを実行できます。

ディシジョンテーブルのコードスニペットの作成

任意のスクリプトからディシジョンテーブルを実行するために、ワークフロースタジオで公開されたディシジョンテーブルのコードスニペットを作成し、ハードコードされたロジックを意思決定に簡単に置き換えられるようにします。

始める前に

ドラフト作成を有効にしている場合、テーブルのコードスニペットをコピーできるようにするために、ディシジョンテーブルを公開する必要があります。ドラフト作成が有効になっていない場合は、この機能にアクセスするにはディシジョンテーブルを保存してください。

ディシジョンテーブルのコードスニペットをコピーする機能を使用すると、API ドキュメントを使用してコードを作成しなくても、テーブルをスクリプトにすばやく挿入できます。ディシジョンテーブル API に関する詳細については、「DecisionTableAPI - スコープ付き、グローバル」を参照してください。

必要なロール：なし

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、[ディシジョンテーブル] を選択します。
3. 公開済みのディシジョンテーブルを開きます。
4. ディシジョンテーブルのメニューオプションアイコン ( ) を選択し、[コードスニペットを作成] を選択します。
   2 つのコードスニペットが生成されます。最初のコードスニペットは、ディシジョンテーブルの入力と仕様に一致する最初の結果のみを返す GetDecision() API を呼び出します。2 番目のコードスニペットは、入力に一致するすべての結果のリストを返す GetDecisions() API を呼び出します。
5. 必要なコードスニペットに応じて、[一致する最初の意思決定を返します] または [一致するすべての意思決定を返します] のいずれかを選択します。
6. [コードをコピー] を選択します。
7. オプション: 他のコードスニペットをコピーする場合は、**[OK]** を選択して確認メッセージを閉じ、他のオプションからコードをコピーします。
8. ディシジョンテーブルを呼び出すスクリプトにコードスニペットを挿入し、各入力変数に使用するデータを定義します。

クラシック環境で作成された意思決定テーブルおよび複合型ロジックを含む意思決定の変更

ワークフロースタジオ は、クラシック環境で作成された意思決定テーブルをサポートします。ただし、クラシック環境の一部のデータタイプと条件は、ワークフロースタジオ では完全にはサポート

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

されていません。サポート対象外のフィールドタイプや複合型の条件ロジックを含む意思決定の場合は、意思決定ルールビューを使用してこれらの条件式を変更します。

クラシック環境で作成されたディシジョンテーブルを初めて開くと、ワークフロースタジオ により、条件基準で評価されたすべての一意のフィールドの条件列が自動的に作成されます。

- テーブルと互換性のある意思決定ルールがテーブルに含まれている場合、セルごとに 1 つの条件が表示されます。
- 意思決定ルールにサポート対象外のフィールドタイプや複合型のロジックが含まれている場合、条件列のすべての条件が単一の条件式に結合されます。この式は、意思決定ルールの条件を変更するために使用できる条件ビルダーへのハイパーリンクです。詳細については、「条件ビルダー」を参照してください。
- 意思決定を複合型として定義している条件式の要素を削除すると、サポートされる形式で意思決定が表示されます。

次のセクションでは、複合型の条件付きロジックの概要を説明します。

複合型ロジックを含む意思決定

一部の意思決定ルールは ワークフロースタジオ でサポートされていない場合があります。そのような意思決定は、次のとおりです。

- 条件式に OR 条件を含む意思決定
- 同じ非参照入力を評価する複数の基準を含む意思決定
- 同じ参照フィールドやレコードを評価する複数の基準を含む意思決定
- サポートされていない入力データタイプを評価する意思決定
- 非アクティブな入力を評価する意思決定

サポートされていない入力データタイプを持つ意思決定テーブル

入力にサポートされていないデータタイプがある場合、入力ラベルと [必須] トグルスイッチのみを変更できます。入力データタイプは読み取り専用であり、新しい条件列を追加することはできません。

サポートされていない条件を含む意思決定テーブル

条件列にサポートされていないデータタイプがある場合でも、ラベルと説明は変更できます。入力とデフォルト演算子は読み取り専用です。

- サポートされていない条件列では、値のないセルは非アクティブになります。ユーザーは意思決定ルールビューを使用して値を入力する必要があります。
- サポートされていない条件列に値が入力された場合、その結果生じる意思決定行はサポートされていない意思決定になります。

ディシジョンテーブルの削除

不要になった意思決定テーブルをワークフロースタジオで意思決定テーブルのリストから削除します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、[ディシジョンテーブル] を選択します。
3. ディシジョンテーブルがある行の左端をポイントし、チェックボックスをオンにして、[削除] を選択します。
4. [削除] を選択します。

ディシジョンテーブルのフィルター条件

ディシジョンテーブルの条件をフィルタリングして、必要なデータを絞り込みます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、[ディシジョンテーブル] を選択します。
3. ディシジョンテーブルのリストから、目的のディシジョンテーブルを選択します。
4. [ディシジョンテーブル] で、 を選択してフィルタリングオプションを表示します。
5. [値でフィルター **(Filter by Value)]** フィールドで、ドロップダウンリストから目的の条件を選択します。
6. 適切な条件値を入力し、 [適用] を選択してフィルターを実行します。

タスクの結果
フィルターを適用すると、設定した条件と値で絞り込まれたデータを含むでテーブルが表示されます。

拡張参照レコードの使用

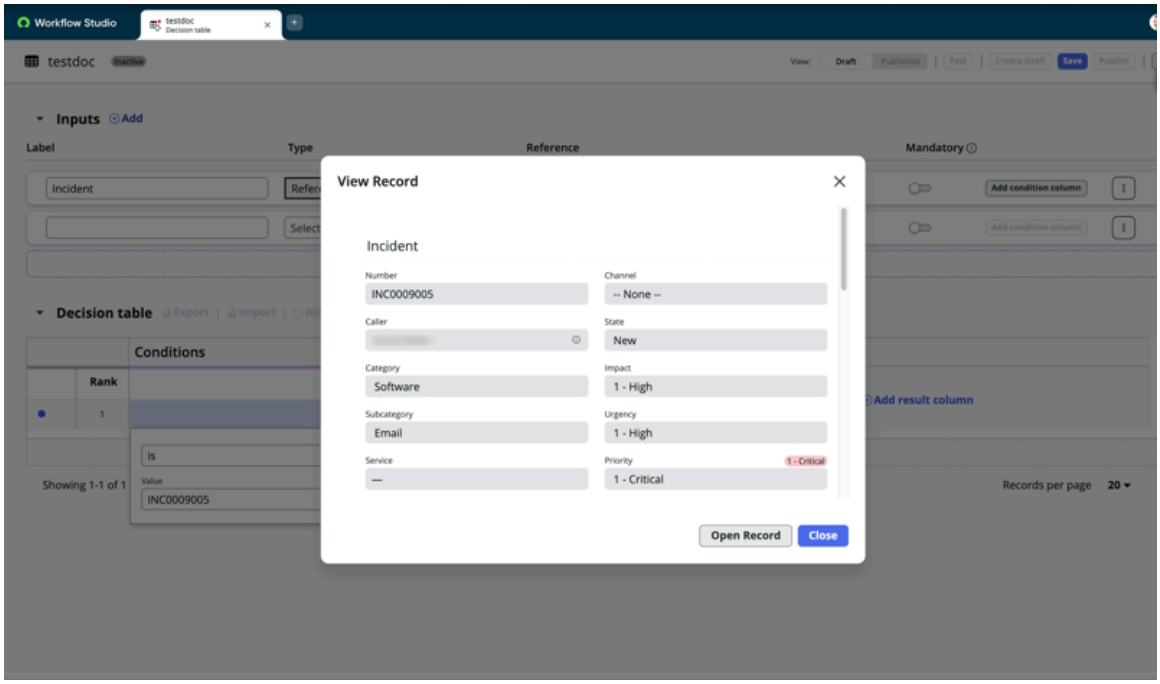
現在のディシジョンテーブルで他のレコードを参照する際、別の画面に切り替えることなく、レコードを表示および管理します。

始める前に
入力インターフェイスで使用できる参照タイプのラベルが必要です。

必要なロール：admin

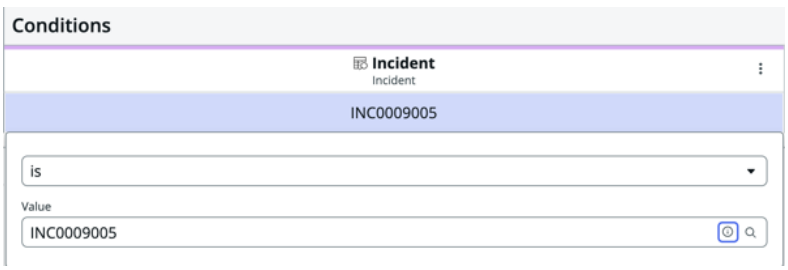
このタスクについて
現在のディシジョンテーブルインスタンスの詳細な参照レコードを表示できます。これらのレコードを開いて変更することもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. ホームページで、[ディシジョンテーブル] を選択します。
3. ディシジョンテーブルのリストから、目的のディシジョンテーブルを選択します。
4. [ディシジョンテーブル] で、参照タイプの列を選択します。
5. 適切な条件値を選択します。
   たとえば、スクリーンショットでは、 [インシデント **(Incident)**] というラベルの付いた列の条件には [次の値に等しい `(=) (is)`] が設定され、値には `[INC0009005]` が設定されています。この値を設定すると、スクリーンショットのような [値] フィールドに情報アイコン が表示されます。



6. アイコンを選択すると、レコードの詳細が表示されます。

行をアクティブまたは非アクティブに設定する

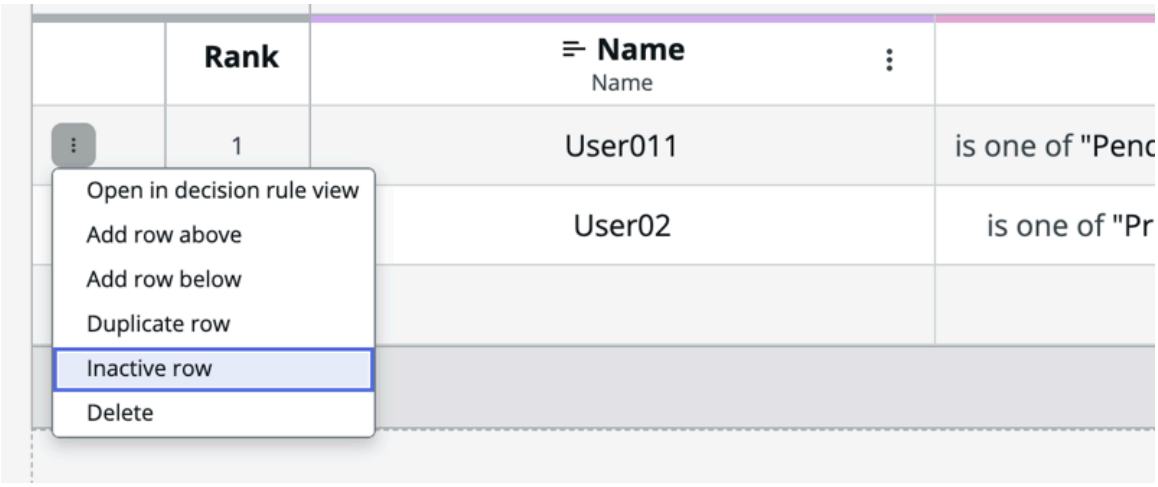
ディシジョンテーブルの行をアクティブに設定すると、ディシジョンテーブルの実行時にその行の条件とルールが含まれ、行を非アクティブに設定すると、ディシジョンテーブルの実行時にロジックが除外されます。この機能を使用すると、条件を削除せず、ディシジョンテーブルを実行するときに、条件を使用するかスキップできます。

この機能は、ディシジョンテーブルの行をアクティブまたは非アクティブとしてマークするのに役立ちます。仕組みは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

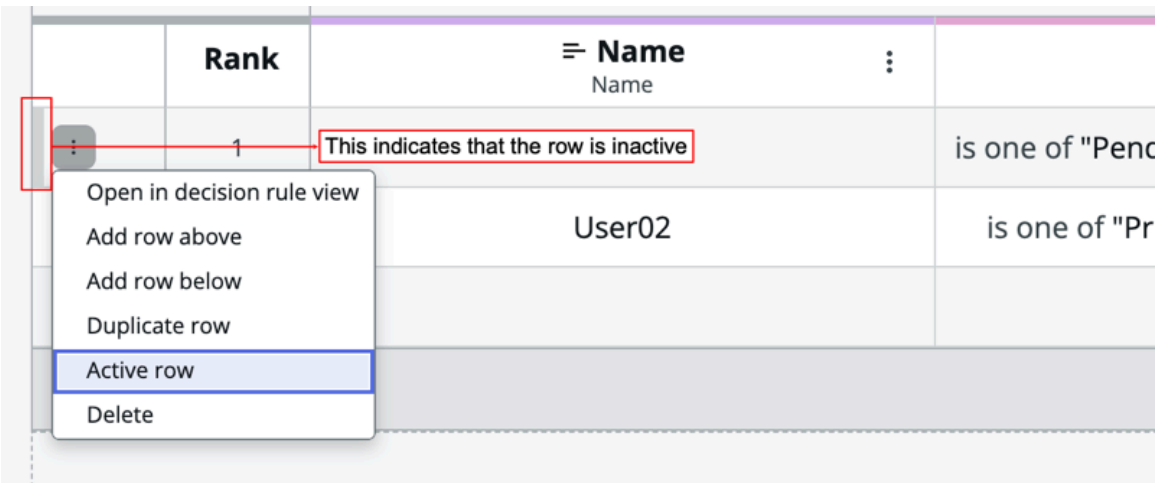
- 行を非アクティブとしてマーク：行を非アクティブとしてマークすると、ディシジョンテーブルで指定された条件を実行するときに、行のルールとロジックが除外されます。この機能を使用すると、特定のルールを削除せずに一時的に無効にできるため、変更のテストや問題のトラブルシューティングが容易になります。

  注:
  - デフォルトでは、行はアクティブの状態に設定されています。
  - 複数の行をアクティブまたは非アクティブにできます。 ⋮ [非アクティブな行 **(Inactive row)]** > [アクティブな行 **(Active row)]**を選択できます。



- 行をアクティブとしてマーク：行をアクティブとしてマークすると、ディシジョンテーブルで指定された条件を実行するときに、行のルールとロジックが含まれます。これは、ディシジョンテーブルの実行中に行の条件が満たされていることを検証するのに役立ちます。

  注: 非アクティブな行は、スクリーンショットに示すように、行の先頭に表示される灰色のカラーバンドで識別できます。



スポークジェネレーターを使用したスポークのビルド

スポークと呼ばれるカスタム統合を開発するための一連の再利用可能なアクションを作成することで、統合タスクを自動化します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして、利用可能なすべてのアプリを表示し、要求をストアに送信する方法について確認したり、スポークジェネレーター (sn_spoke_builder) をダウンロードしてインストールしたりします。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョンの履歴リリースノート」を参照してください。

アプリの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、依存プラグイン ServiceNow 統合ハブプロフェッショナルパックインストーラー (com.glide.hub.integrations.professional) がインストールされていることを確認してください。

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

できること

統合ハブ のカスタムスポークにより、サードパーティのアプリケーションとのインバウンド統合とアウトバウンド統合の両方が実現します。この統合のことを「スポーク」と呼びます。スポークは、設定が簡単で、スクリプトを作成しなくても強力なアクションをすばやく追加することができます。この機能には、統合ハブ サブスクリプションが必要です。詳細については「法務スケジュール - 統合ハブ の概要」を参照してください。

必要なサードパーティのアプリケーションにカスタムスポークをビルドするには、OpenAPI 仕様または Postman コレクション、サードパーティ API ドキュメントのドキュメントスニペットをインポートするか、または手動でスポークを作成します。

必要なユーザーロール

- admin ロールを持つユーザーは、次の操作を実行できます。
  - [スポーク] タブを表示する。
  - 新規スポークを作成する。
  - OpenAPI 仕様をインポートする。
  - 接続エイリアスを作成する。
  - アクションを公開し、アクションをドラフトとして保存する。
  - スポークアクティビティログを確認する。
- action_designer および fd_read_actions ロールを持つユーザーは、次の操作を実行できます。
  - [スポーク] タブを表示する。
  - スポーク内アクションを表示する。
- action_designer ロールを持つユーザーは、アクションを手動で追加できます。

  注: fd_read_actions ロールのみを持つユーザーは、アクションの表示のみ可能です。

- flow_operator または flow_designer を持つユーザーは、フローとサブフローを表示できます。

OpenAPI 仕様のサイズの制限

デフォルトでは、システムは最大 10 MB の OpenAPI 仕様をインポートできます。インポートサイズを増やすには、*glide.rest.openapi.max_request_size* システムプロパティを更新します。最大値は 100 MB です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

OpenAPI 仕様の制限事項

OpenAPI 仕様をインポートして作成されたスポークアクションには、OpenAPI ステップが含まれています。これらの OpenAPI ステップの制限事項を必ず確認してください。

要求本文メディアタイプ

要求本文は、JSON のメディアタイプのみをサポートしています。

> **注:** OpenAPI スキーマに additionalProperties プロパティがある場合、またはプロパティがひとつもない場合は、文字列タイプの出力オブジェクトが作成されます。

OpenAPI 3.0 コンポーネント

OpenAPI 3.0 では、API をさらに詳細に記述するための新しいコンポーネントが Swagger 2.0 に追加されています。OpenAPI ステップの OpenAPI サポートは、これらのコンポーネントの一部をサポートしていますが、すべてをサポートしているわけではありません。現在、OpenAPI ステップはこれらのコンポーネントをサポートしていません。

- スキーマオブジェクト：oneOf、anyOf、additionalProperties プロパティ
- 識別子オブジェクト
- 情報オブジェクト：termsOfService、連絡先、ライセンスフィールド
- サンプルオブジェクト
- リンクオブジェクト
- コールバックオブジェクト
- セキュリティスキームオブジェクト
- セキュリティ要件オブジェクト
- タグオブジェクト
- 外部ドキュメントオブジェクト
- サーバーオブジェクト
- 仕様拡張
- 再帰参照

これらのコンポーネントの詳細については、OpenAPI ドキュメントを参照してください。「OpenAPI 仕様」を参照してください。

サポートされる操作の最大数

API 操作の数は、デフォルトで 500 に制限されています。ただし、システムプロパティ *glide.rest.openapi.max_operation_limit* を使用すると、操作の数を 1 ～ 1000 の範囲で設定できます。

アプリバージョン

スポークジェネレーター v4.0.3 が最新バージョンです。

OpenAPI 仕様のインポートによるスポークの作成とアクションのビルド

OpenAPI 仕様をインポートすることで、統合を自動化し、再利用可能なアクションを生成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- ServiceNow Store からスポークジェネレーターアプリをインストールします。
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [新規作成] > [スポーク] をクリックします。
3. [スポーク情報 (Spoke Info)] 画面で、スポークを新しいスコープに作成するか既存のスコープに作成するかを指定します。

   a. 新しいスコープでスポークを作成する場合は、統合のロゴとして画像を選択し、フィールドに入力します。

   ここでは、例として Zoom との統合について説明します。

フィールド	説明
スポーク名	カスタムスポークを識別する名前
説明	カスタムスポークの説明

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SPOKE INFO

Let's get started on your new spoke

Add a name and description that define your spoke. You can also add a thumbnail image.

Choose how you want to build your spoke

- (•) Create a spoke in new scope
- ( ) Create a spoke in existing scope

Spoke name * ⓘ

Zoom spoke

App scope name ⓘ

x_snc_zoom_spoke

Description * ⓘ

ServiceNow integration with Zoom.

⊗ Remove image

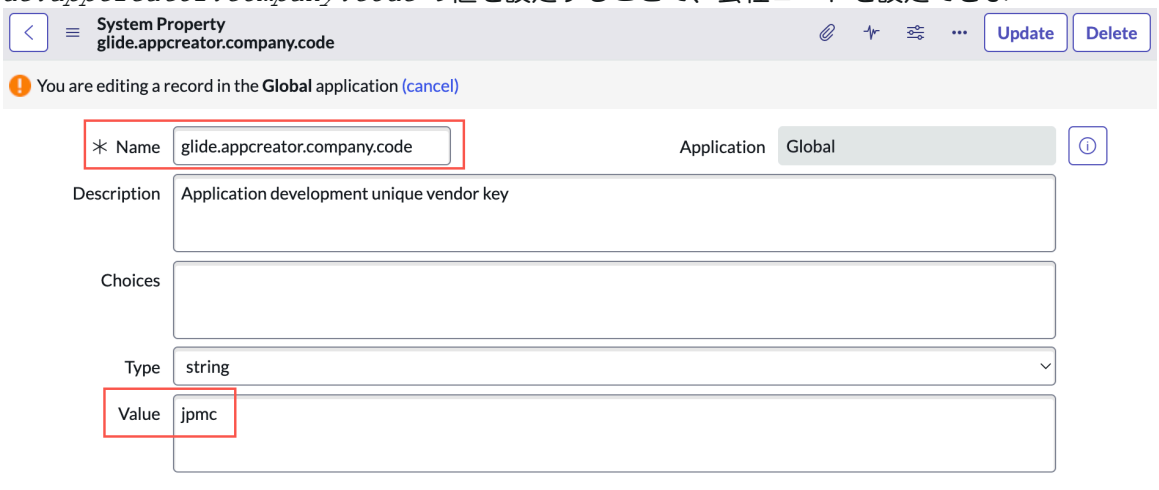
Cancel

Continue

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

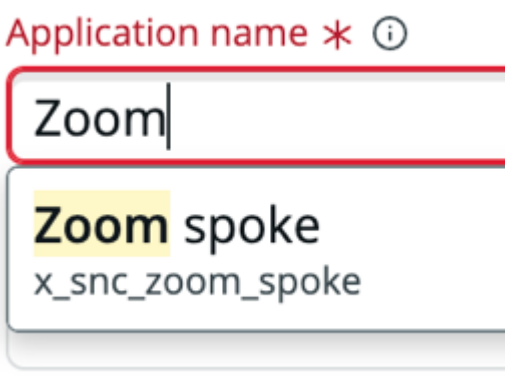
[アプリスコープ名] の値は、`x_<company-code>_<spoke-name>_<spoke>` の形式です。デフォルトでは、<company-code> は `snc` です。システムプロパティ *`glide.appcreator.company.code`* の値を設定することで、会社コードを設定できます。



この構成値は、値 [アプリスコープ名] が生成されるときに使用されます。

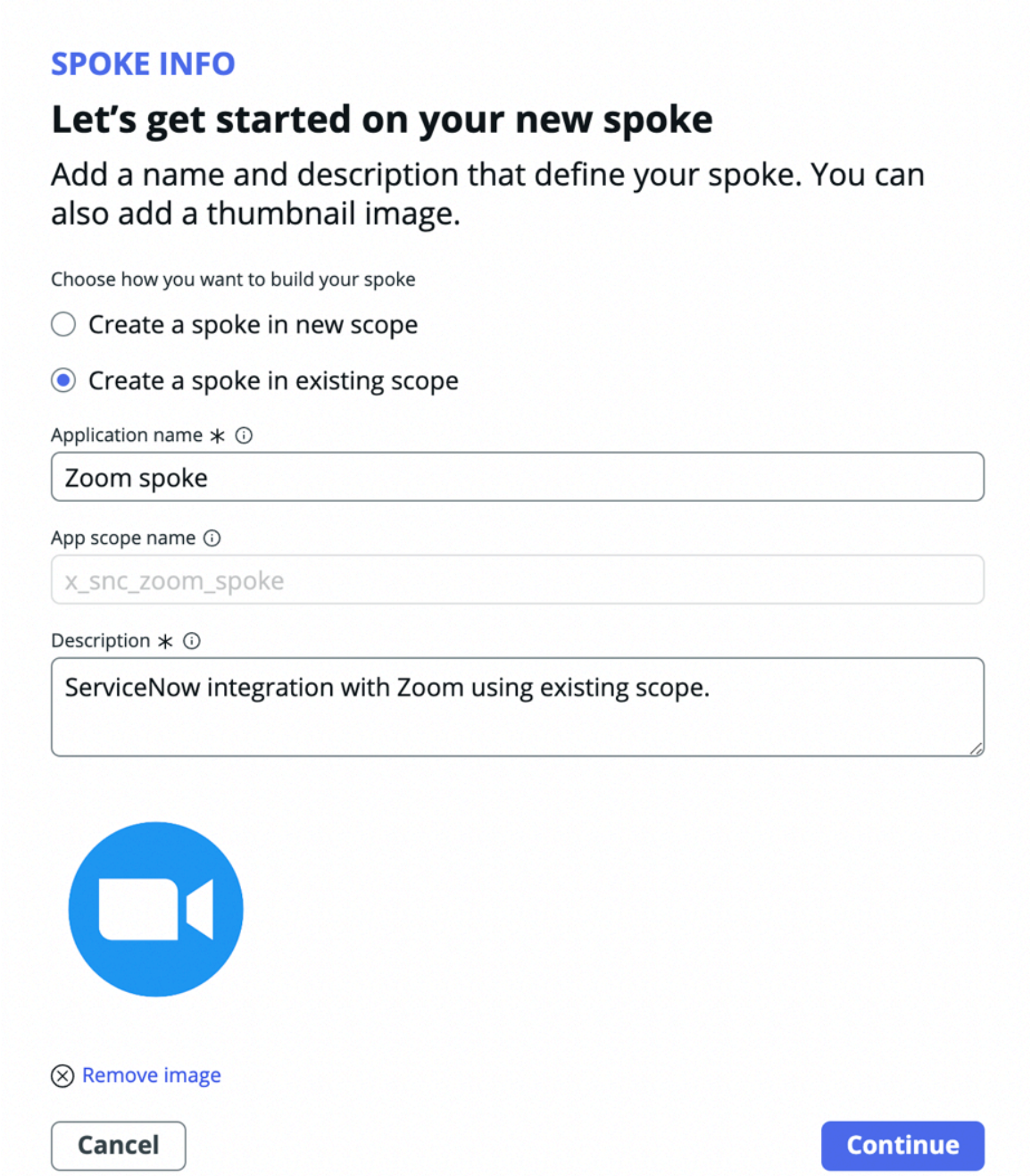
b. 既存のスコープでスポークを作成する場合は、統合のロゴとして画像を選択し、フィールドに入力します。

ここでは、例として AWS との統合について説明します。

フィールド	説明
アプリケーション名	既存のアプリケーション名またはスコープ。 
アプリスコープ名	選択したアプリケーション名に基づいて自動入力されるスコープ名。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

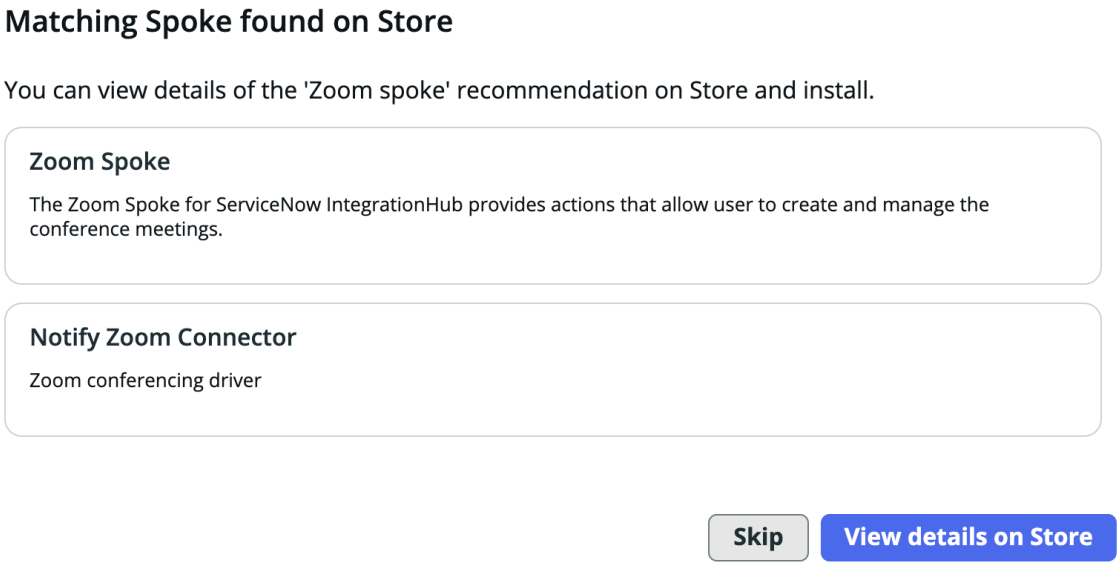
フィールド	説明
説明	カスタムスポークの説明



4. [続行] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

指定した名前と説明に基づいて、ストアに一致するスポークが存在する場合は、スポークの詳細が表示されま



す。

a. [ストアの詳細を表示 **(View details on Store)]** をクリックすると、一致するスポークの詳細が表示されます。
一致するスポークの詳細が新しいブラウザータブに表示されます。

b. ストアからスポークをインストールします。
詳細については、「ServiceNow Store アプリケーションのインストール」を参照してください。

c. スポークをインストールしたら、[フローデザイナー] タブに移動します。
[ストアからスポークをインストールしましたか `(Have you installed a spoke from the Store?)`] というメッセージが表示されます。

d. これらのオプションのいずれかを選択し、[続行] をクリックします。

オプション	説明
はい、インストールされているスポークを表示します **(Yes, view the installed spoke.)**	[統合] の下の [スポーク] ダッシュボードにリダイレクトするオプション。
いいえ、カスタムスポークを作成します **(No, I will build custom spoke.)**	スポークの作成を続行するオプション。
いいえ、スポークの作成を終了します **(No, I want to exit spoke creation.)**	現在のタブを閉じるオプション。

5. カスタムスポークをビルドする場合は、[スキップ] をクリックします。

> **注:** 次の手順は、[いいえ、カスタムスポークを作成します **(No, I will build custom spoke.)]** オプションを選択している場合にも適用できます。

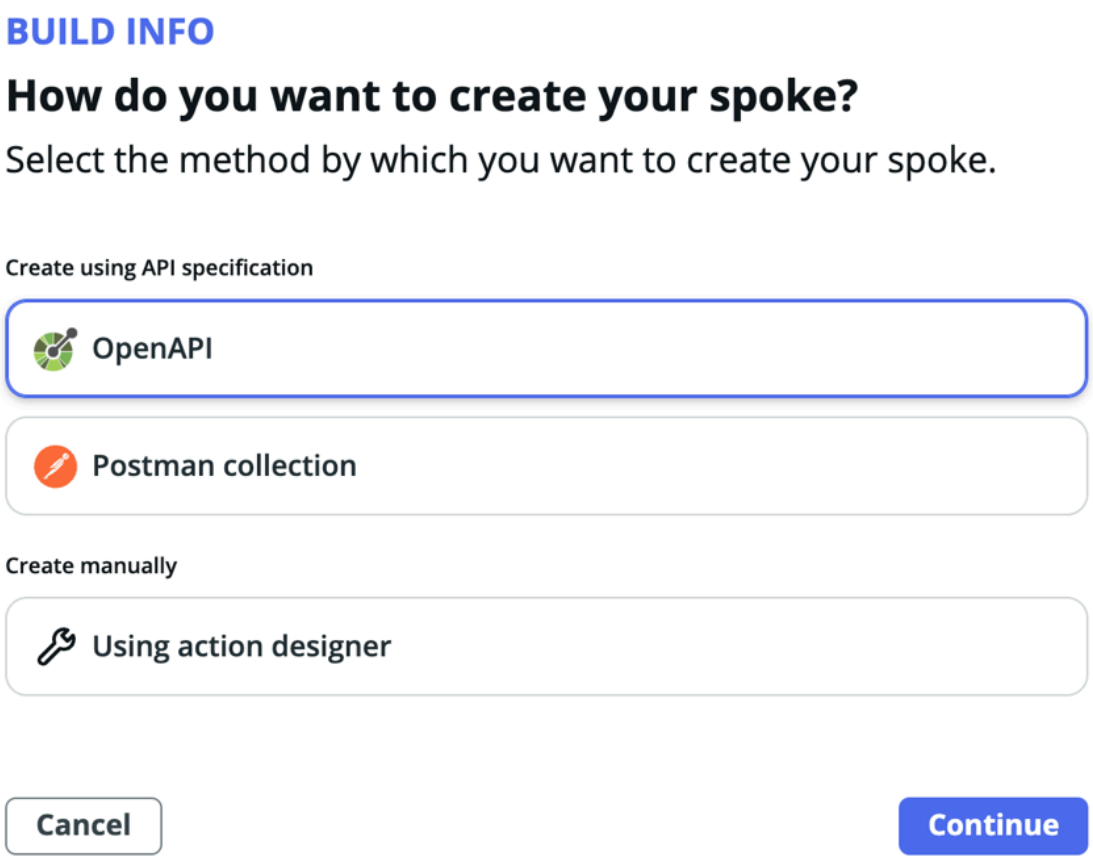
スポークが作成され、確認メッセージが表示されます。

6. [ビルド情報] 画面で、スポークのビルドに使用する方法を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

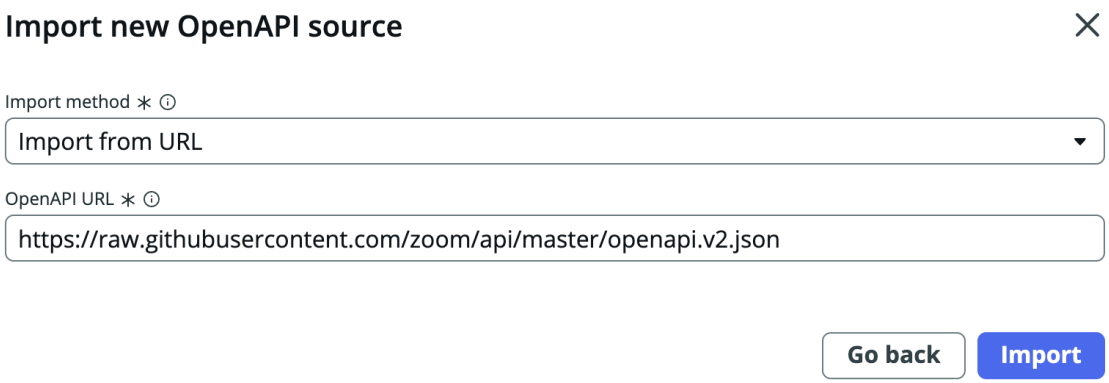
OpenAPI 仕様または Postman Collection を使用してスポークをビルドすることを選択できます。

7. **[OpenAPI** 仕様] を選択し、[続行] をクリックして OpenAPI 仕様をインポートします。



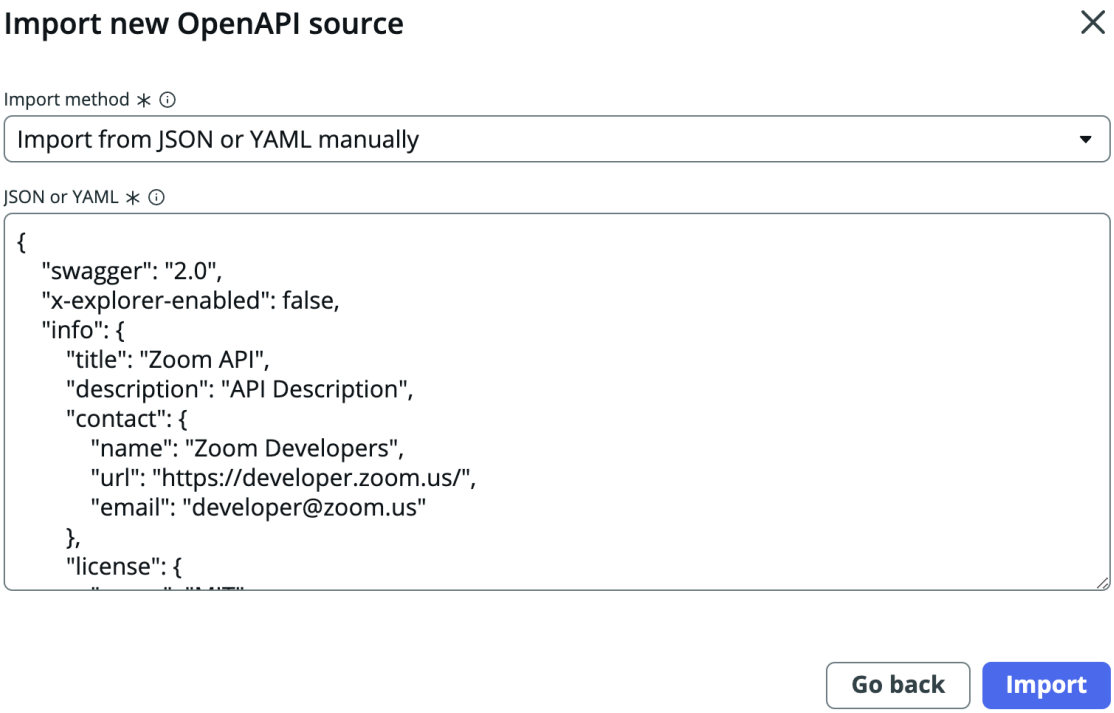
8. **[OpenAPI** ソース] で、[新規のインポート **(Import new)]** をクリックします。
9. [新しい OpenAPI ソースをインポート(Import new OpenAPI source)] 画面で、次の 2 つのステップのいずれかを実行します。

   a. URL を使用してインポートする場合は、[インポート方法 **(Import method)]** で **[URL** からインポート**(Import from URL)]** を選択し、**[OpenAPI URL]** で URL を指定します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

b. JSON または YAML コードを使用して手動でインポートする場合は、[インポート方法 **(Import method)]** で **[JSON** または **YAML** から手動でインポート**(Import from JSON or YAML manually)]** を選択し、**JSON** または **YAML** でコードを指定します。



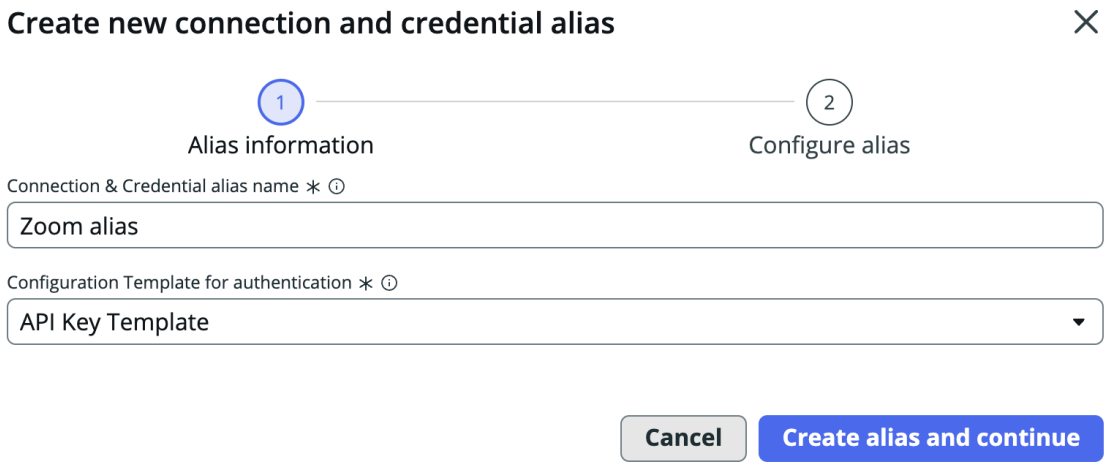
10. [インポート] をクリックします。
OpenAPI ソースがインポートされます。

11. [接続および資格情報エイリアス] で、[新規作成] をクリックします。

12. [新しい接続および資格情報エイリアスを作成 (Create new connection and credential alias)] 画面で、フィールドに入力し、エイリアス情報を入力します。

フィールド	説明
接続および認証情報名 (Connection & Credential name)	接続および資格情報エイリアスレコードを識別するための名前です。
認証用の構成テンプレート (Configuration Template for authentication)	この統合に必要な認証メカニズムです。認証メカニズムと OpenAPI ソースの間に互換性があることを確認します。 **注:** 構成テンプレートは、指定した OpenAPI 仕様に基づいて自動入力されます。デフォルトのオプションを使用して続行することも、要件に応じて変更することもできます。

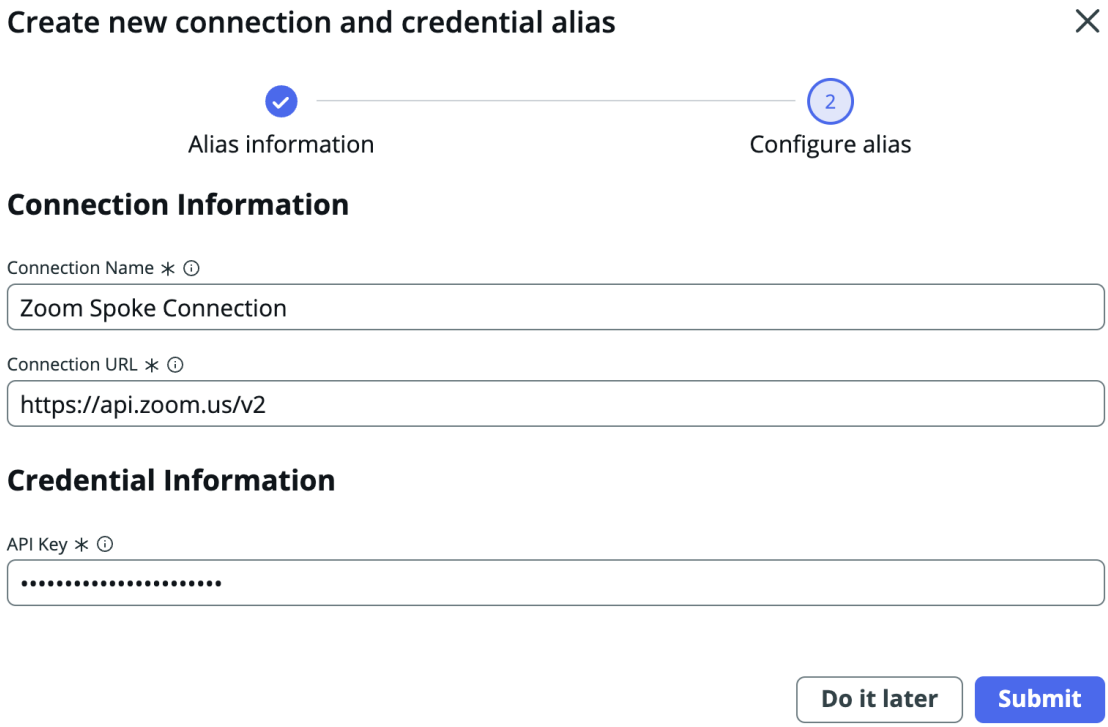
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



13. [エイリアス作成して続行 **(Create alias and continue)**] をクリックします。
14. 同じ画面で、フィールドに入力してエイリアスを構成します。

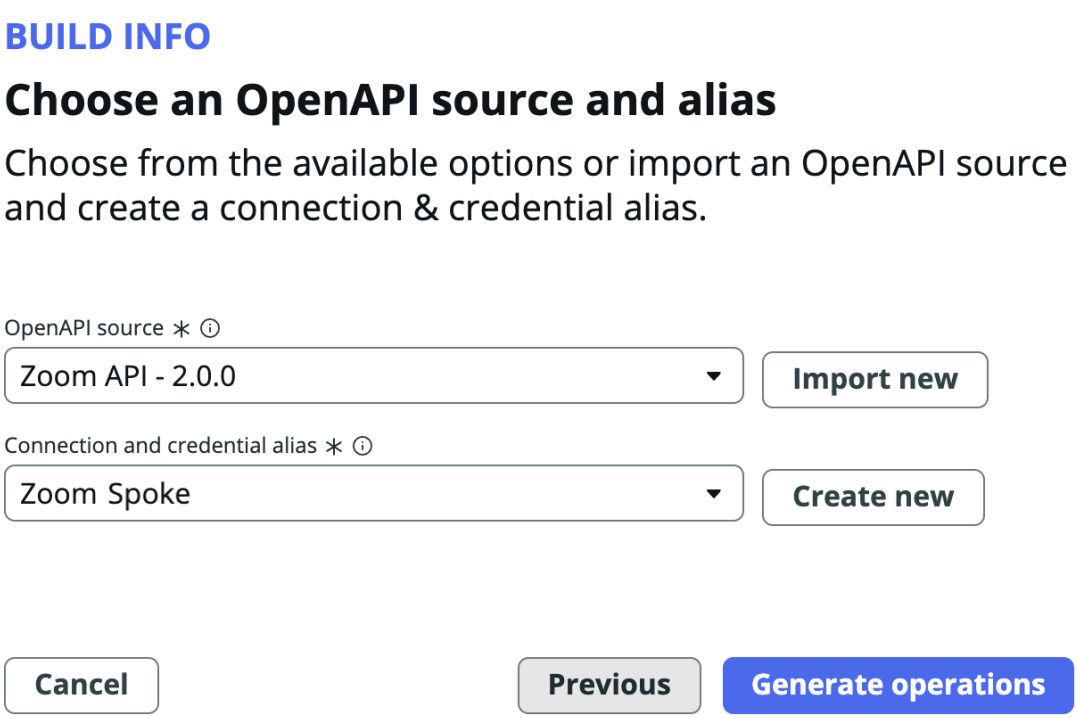
フィールド	説明
接続情報	
接続名	接続レコードを識別する名前です。
接続 URL	サードパーティのインスタンスまたはサーバーに接続するためのベース URL。この URL は、指定した OpenAPI 仕様に基づいて自動入力されます。
認証情報	
選択した構成テンプレートに基づいて、関連する認証情報フィールドが表示されます。認証情報レコードを設定するために必要な値を指定します。	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



エイリアスレコードを後で設定する場合は、[後で行う] をクリックします。

15. **[Submit** (送信)] をクリックします。
    接続エイリアスレコードが作成されます。
16. [操作を生成**(Generate operations)]** をクリックします。

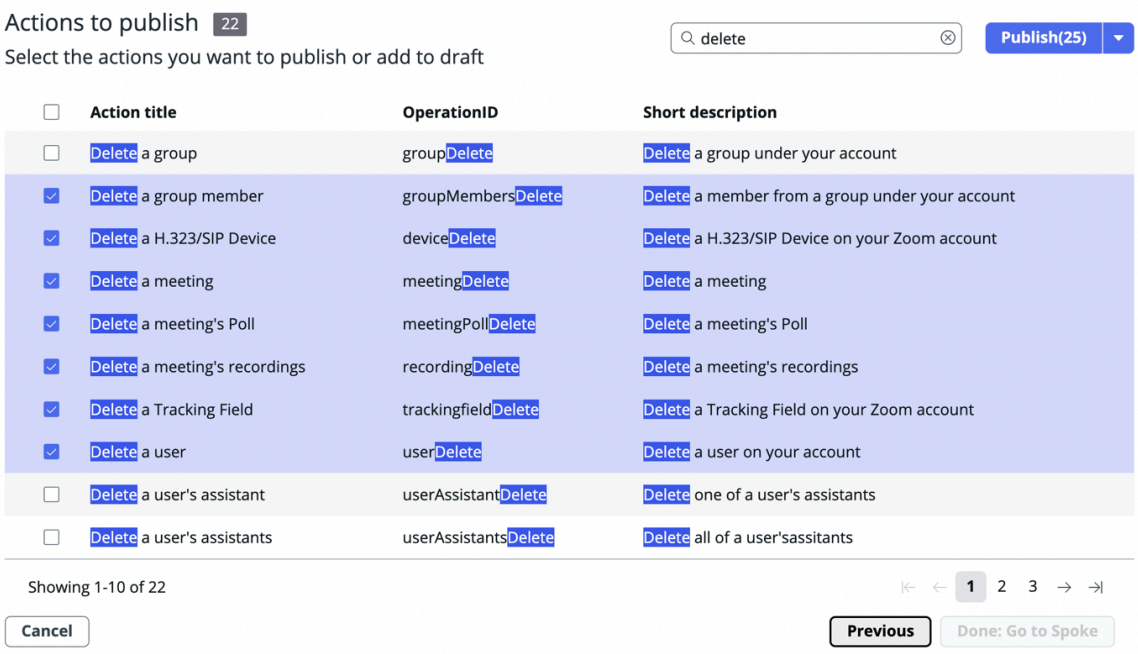


OpenAPI 仕様を使用して実行できるすべての操作が一覧表示されます。

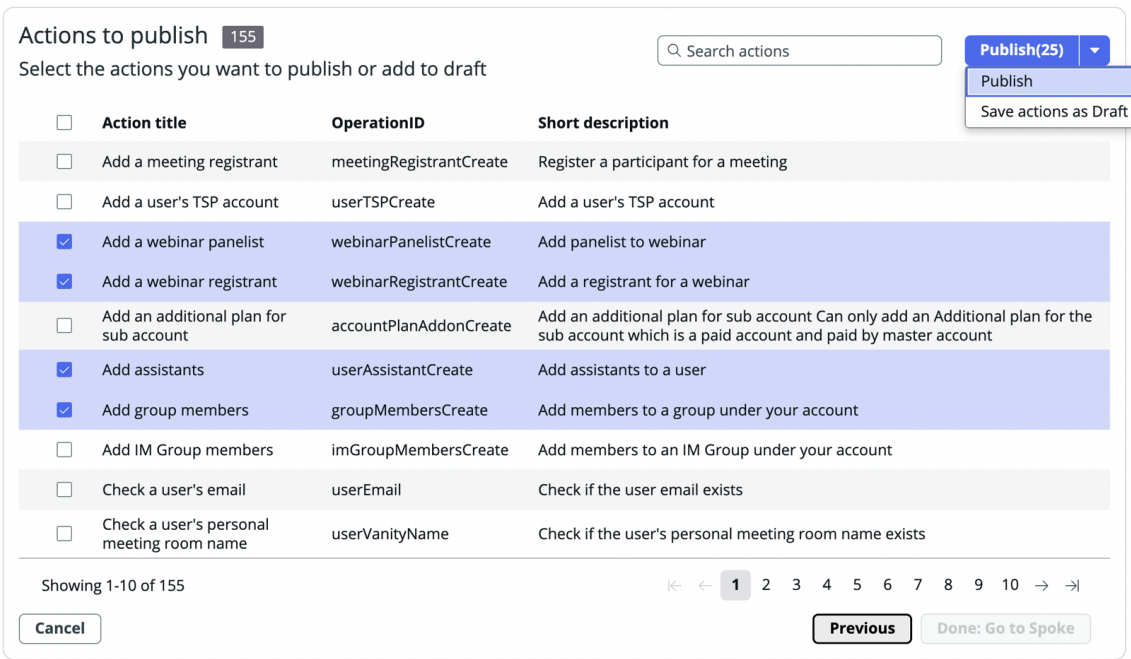
17. 必要な操作を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

検索バーに必要な用語を入力することで、必要なアクションを検索できます。指定した検索用語に一致するアクションが表示されます。



18. [公開] をクリックします。
または、[アクションをドラフトとして保存 **(Save actions as Draft)]** を選択してアクションをドラフトとして保存すると、要件に応じて変更したり、後から公開したりすることができます。



19. [完了：スポークに移動] をクリックして [スポーク] ページに移動し、公開ステータスを表示します。
    - OpenAPI ステップを含むアクションが作成されます。OpenAPI ステップの詳細については、「REST ステップでの OpenAPI サポート」を参照してください。
    - アクションの入力および出力がマッピングされます。
    - アクションが公開され、スポーク詳細ページの [アクション] > [公開済] に一覧表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

公開されたアクションの使用を開始することで、要件に応じてフローまたはサブフローを作成できます。

- アクションをドラフトとして保存した場合は、スポーク詳細ページの [アクション] > [ドラフト] で、これらのドラフトアクションにアクセスできます。
- スポークアクティビティに関するランタイム情報を表示するには、スポークの詳細ページで [スポークアクティビティログ] をクリックします。スポークアクティビティが実行されるたびに、その情報がスポークアクティビティログとして生成されます。アクティビティログを表示するには、必要な番号をクリックします。スポークアクティビティログのすべての操作には、次のいずれかのステータス値があります。

ステータス	説明
新規	操作のイベントが作成され、この操作がまもなく実行されます。
エラー	操作の実行に失敗しました。
processing	操作の実行が進行中です。
成功	操作が正常に実行されました。

スポークの詳細ページでフローとサブフローを作成し、それらを統合で使用できます。詳細については、「フローのビルド」と「サブフローのビルド」を参照。

スポークのアクティビティログとともに、利用可能なフロー、サブフロー、およびアクションの詳細をスポークの詳細ページで表示することもできます。

Postman Collection のインポートによるスポークの作成とアクションの構築

Postman Collection をインポートすることで、統合を自動化し、再利用可能なアクションを生成します。

始める前に

- ServiceNow Store からスポークジェネレーターアプリをインストールします。
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [新規作成] > [スポーク] をクリックします。
3. [スポーク情報 (Spoke Info)] 画面で、スポークを新しいスコープに作成するか既存のスコープに作成するかを指定します。

   a. 新しいスコープでスポークを作成する場合は、統合のロゴとして画像を選択し、フィールドに入力します。

   ここでは、例として Notion との統合について説明します。

フィールド	説明
スポーク名	カスタムスポークを識別する名前
説明	カスタムスポークの説明。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SPOKE INFO

Let's get started on your new spoke

Add a name and description that define your spoke. You can also add a thumbnail image.

Choose how you want to build your spoke

- (•) Create a spoke in new scope
- ( ) Create a spoke in existing scope

Spoke name * ⓘ

Notion Spoke

App scope name ⓘ

x_snc_notion_spoke

Description * ⓘ

ServiceNow integration with Notion.

⊗ Remove image

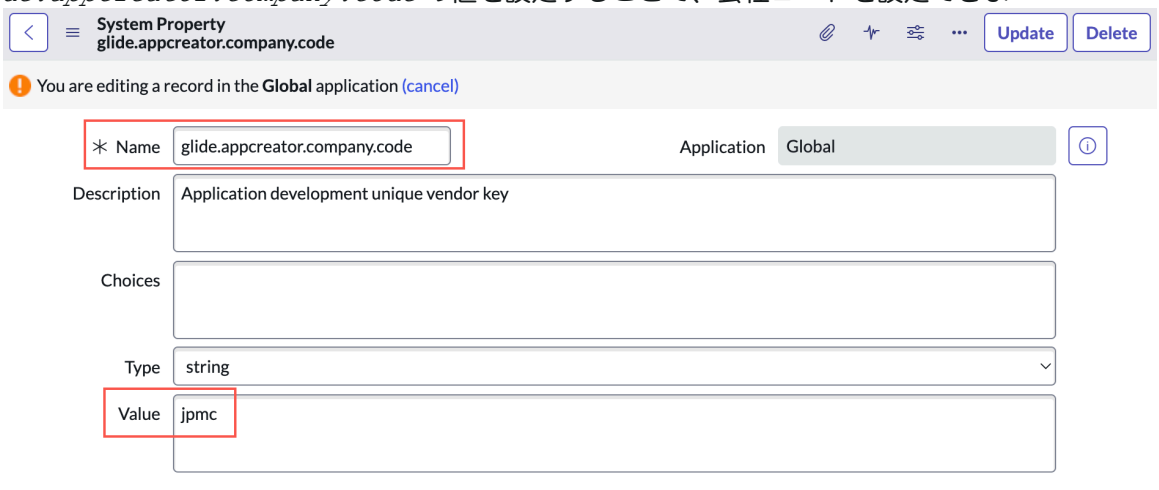
Cancel

Continue

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

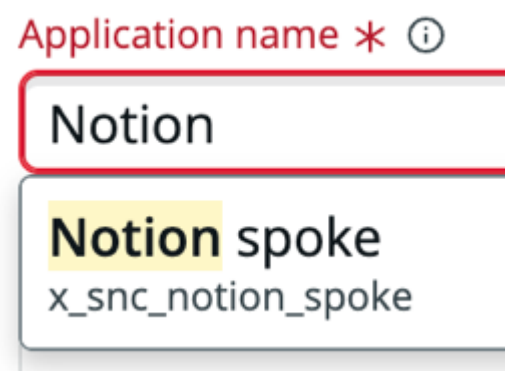
[アプリスコープ名] の値は、`x_<company-code>_<spoke-name>_<spoke>` の形式です。デフォルトでは、<company-code> は `snc` です。システムプロパティ *`glide.appcreator.company.code`* の値を設定することで、会社コードを設定できます。



この構成値は、値 [アプリスコープ名] が生成されるときに使用されます。

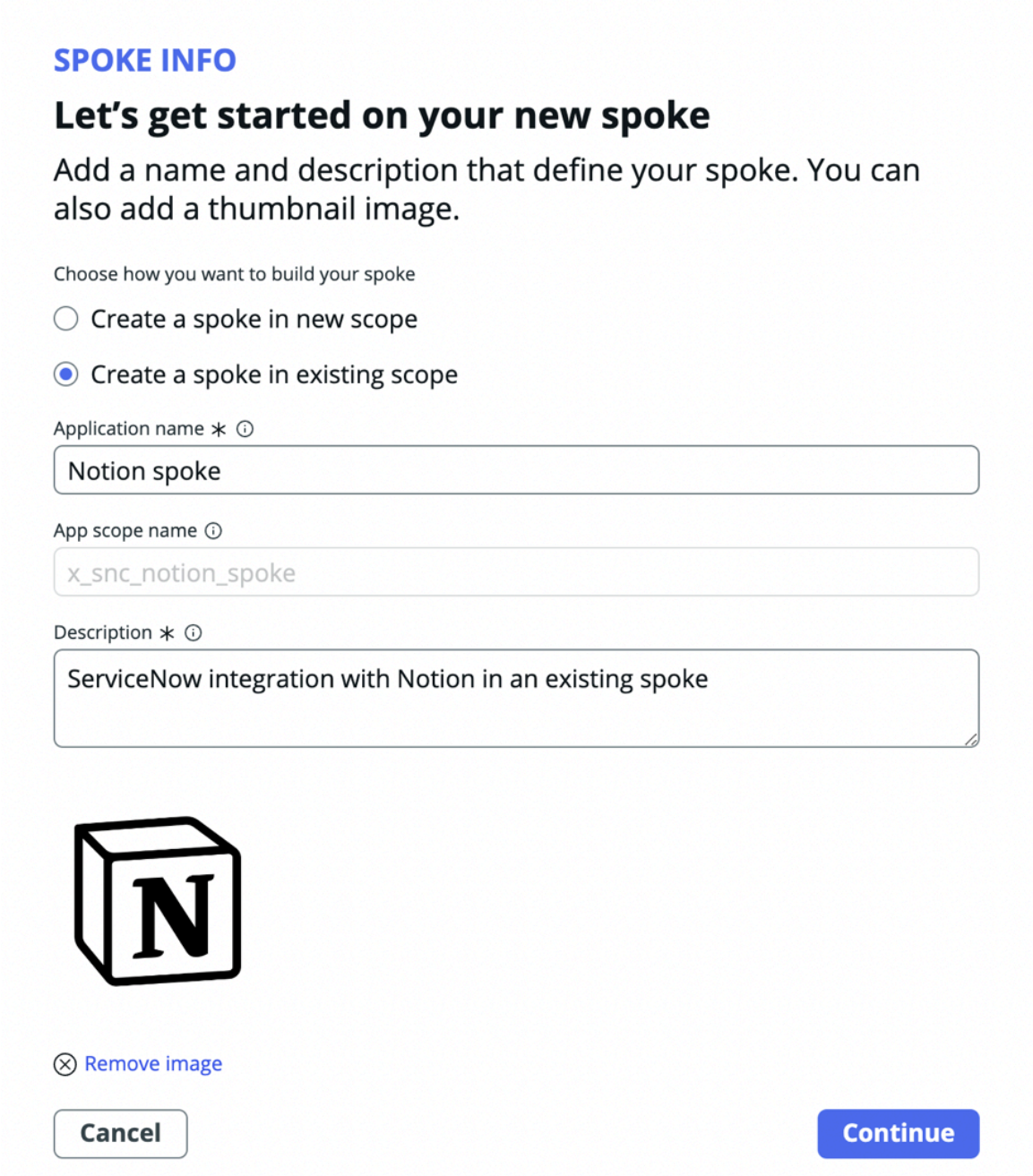
b. 既存のスコープでスポークを作成する場合は、統合のロゴとして画像を選択し、フィールドに入力します。

ここでは、例として AWS との統合について説明します。

フィールド	説明
アプリケーション名	既存のアプリケーション名またはスコープ。 
アプリスコープ名	選択したアプリケーション名に基づいて自動入力されるスコープ名。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

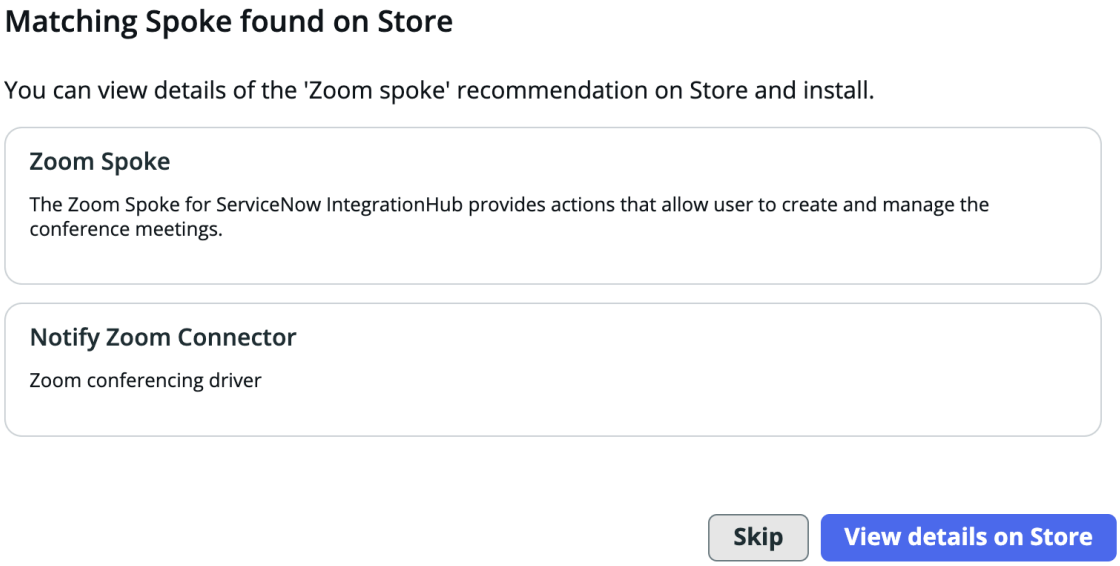
フィールド	説明
説明	カスタムスポークの説明。



4. [続行] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

指定した名前と説明に基づいて、ストアに一致するスポークが存在する場合は、スポークの詳細が表示されま



す。

a. [ストアの詳細を表示 **(View details on Store)]** をクリックすると、一致するスポークの詳細が表示されます。
一致するスポークの詳細が新しいブラウザータブに表示されます。

b. ストアからスポークをインストールします。
詳細については、「ServiceNow Store アプリケーションのインストール」を参照してください。

c. スポークをインストールしたら、[フローデザイナー] タブに移動します。
[ストアからスポークをインストールしましたか `(Have you installed a spoke from the Store?)`] というメッセージが表示されます。

d. これらのオプションのいずれかを選択し、[続行] をクリックします。

オプション	説明
はい、インストールされているスポークを表示します **(Yes, view the installed spoke.)**	[統合] の下の [スポーク] ダッシュボードにリダイレクトするオプション。
いいえ、カスタムスポークを作成します **(No, I will build custom spoke.)**	スポークの作成を続行するオプション。
いいえ、スポークの作成を終了します **(No, I want to exit spoke creation.)**	現在のタブを閉じるオプション。

5. カスタムスポークをビルドする場合は、[スキップ] をクリックします。

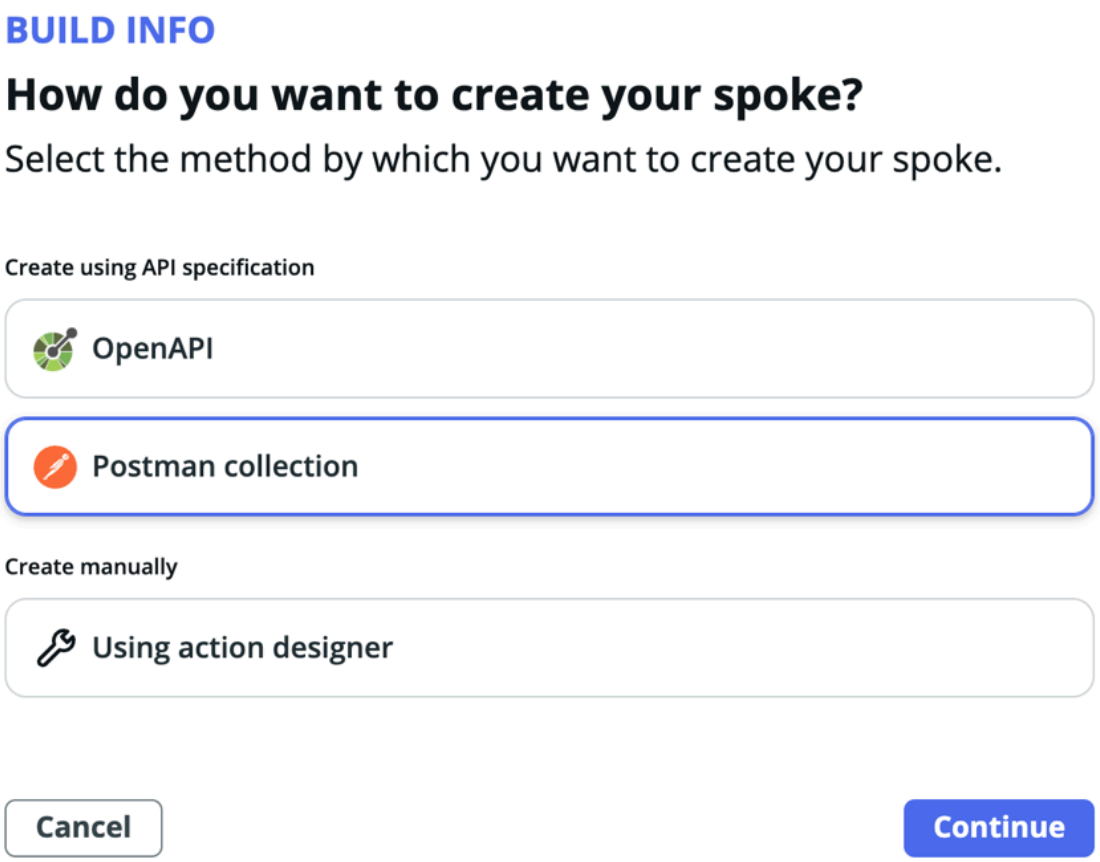
> **注:** 次の手順は、[いいえ、カスタムスポークを作成します **(No, I will build custom spoke.)]** オプションを選択している場合にも適用できます。

スポークが作成され、確認メッセージが表示されます。

6. [ビルド情報] 画面で、スポークのビルドに使用する方法を選択します。
OpenAPI 仕様または Postman Collection を使用してスポークを構築することを選択できます。

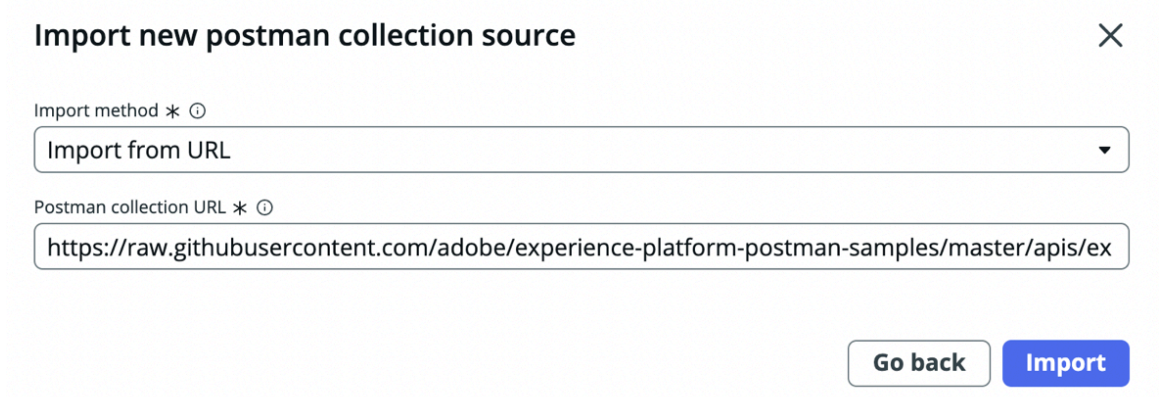
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. **[Postman Collection]** を選択し、[続行] をクリックして Postman Collection をインポートします。



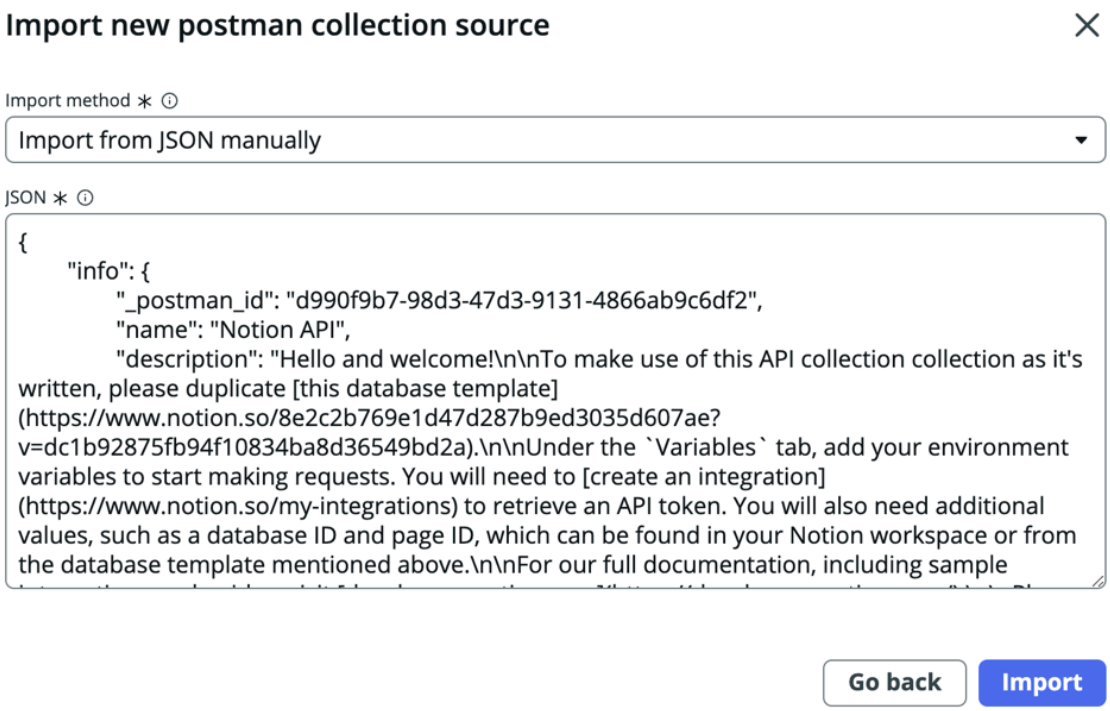
8. **[Postman Collection** ソース **(Postman collection source)]** で、[新規インポート] をクリックします。
9. [新しい Postman Collection ソースをインポート(Import new postman collection source)] 画面で、次の 2 つのステップのいずれかを実行します。

   a. URL を使用してインポートする場合は、[インポート方法 **(Import method)]** で **[URL** からインポート] を選択し、**[Postman Collection URL]** で URL を指定します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

b. JSON コードを使用して手動でインポートする場合は、[インポート方法 **(Import method)]** で **[JSON** から手動でインポート**(Import from JSON manually)]** を選択し、**JSON** でコードを指定します。



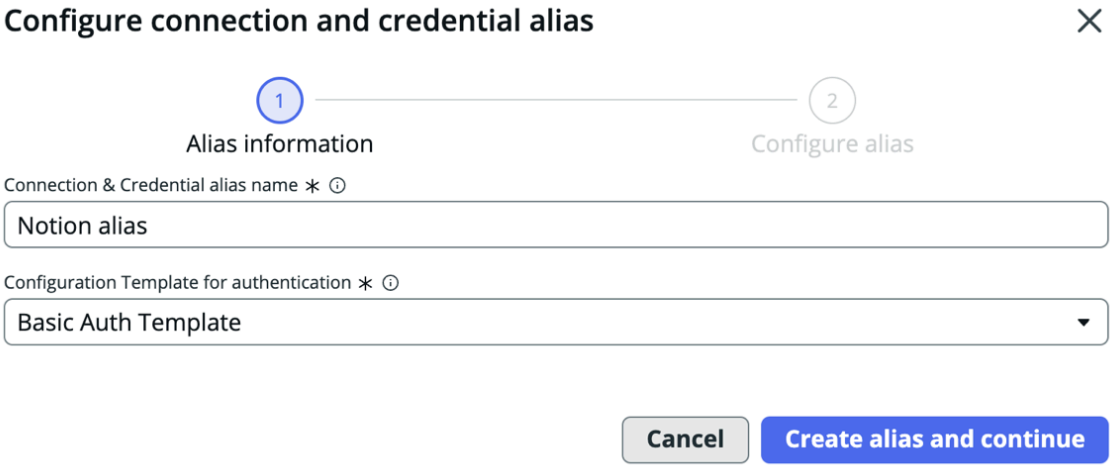
10. [インポート] をクリックします。
Postman Collection ソースがインポートされます。

11. [接続および資格情報エイリアス] で、[新規作成] をクリックします。

12. [新しい接続および資格情報エイリアスを作成 (Create new connection and credential alias)] 画面で、フィールドに入力し、エイリアス情報を入力します。

フィールド	説明
接続および認証情報名 (Connection & Credential name)	接続および資格情報エイリアスレコードを識別するための名前です。
認証用の構成テンプレート (Configuration Template for authentication)	この統合に必要な認証メカニズムです。認証メカニズムと OpenAPI ソースの間に互換性があることを確認します。 **注:** 構成テンプレートは、指定した OpenAPI 仕様に基づいて自動入力されます。デフォルトのオプションを使用して続行することも、要件に応じて変更することもできます。

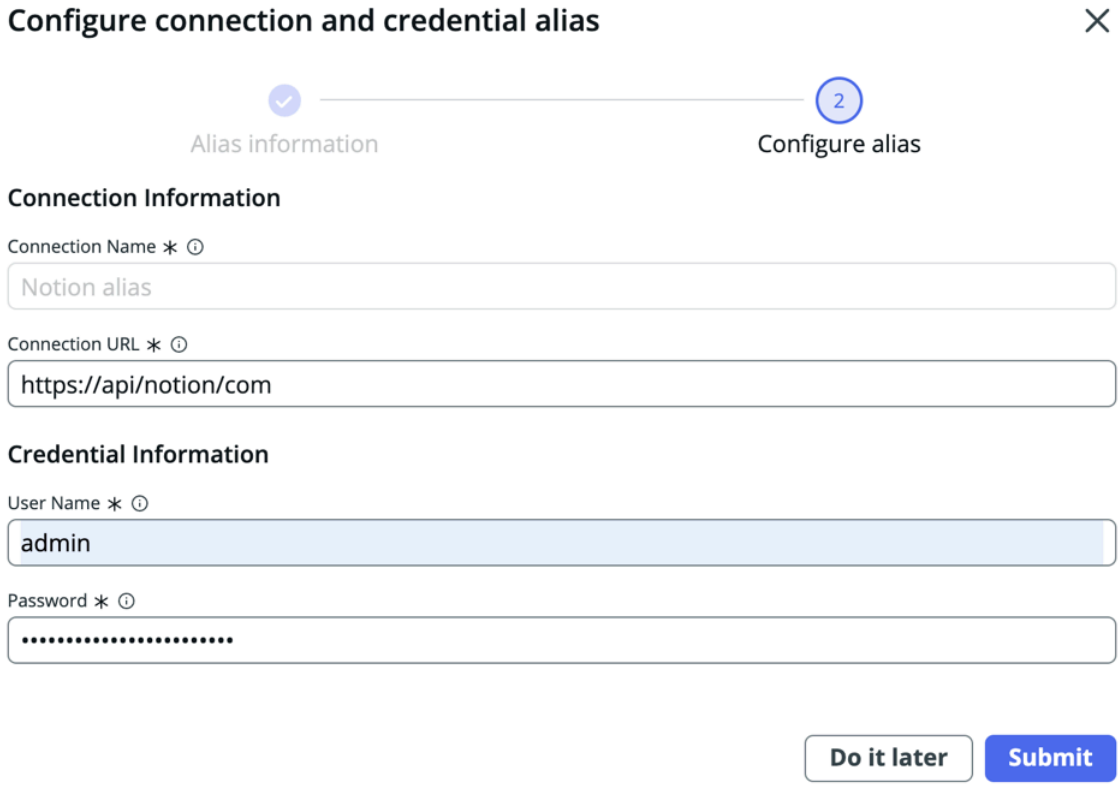
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



13. [エイリアス作成して続行 **(Create alias and continue)**] をクリックします。
14. 同じ画面で、フィールドに入力してエイリアスを構成します。

フィールド	説明
接続情報	
接続名	接続レコードを識別する名前です。
接続 URL	サードパーティのインスタンスまたはサーバーに接続するためのベース URL。この URL は、指定した Postman Collection ソースに基づいて自動入力されます。
認証情報	
選択した構成テンプレートに基づいて、関連する認証情報フィールドが表示されます。認証情報レコードを設定するために必要な値を指定します。	

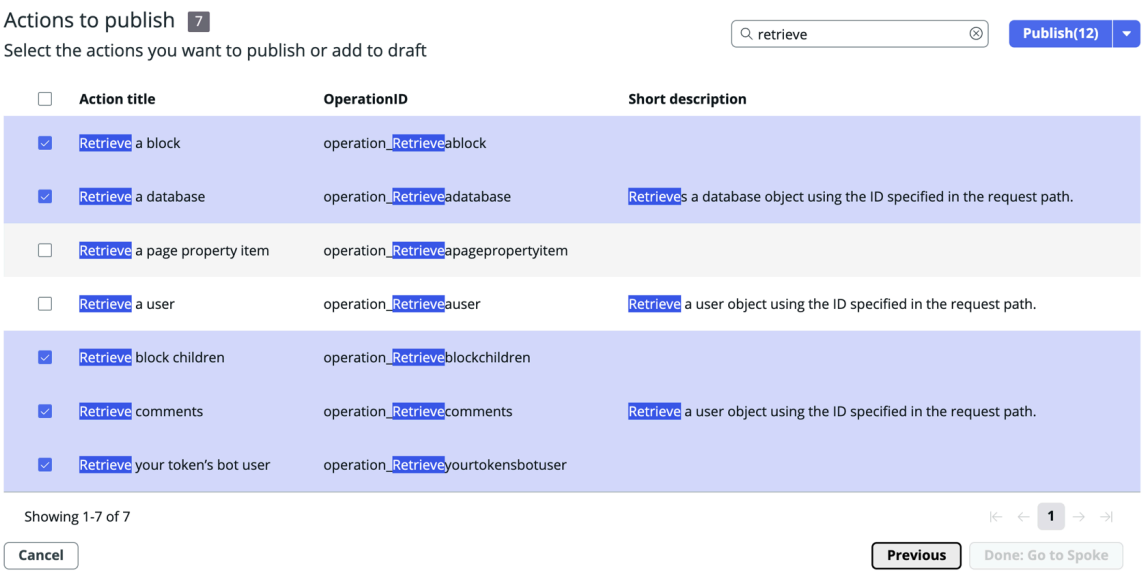
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



エイリアスレコードを後で設定する場合は、[後で行う] をクリックします。

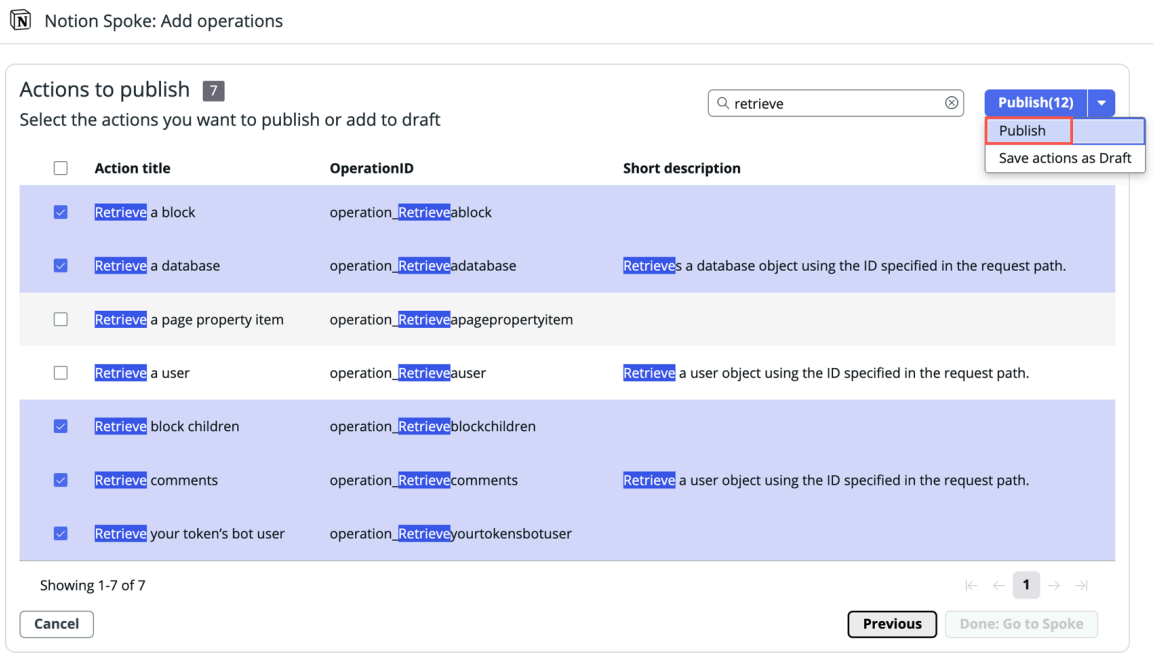
15. **[Submit** (送信)] をクリックします。
    接続エイリアスレコードが作成されます。
16. [操作を生成**(Generate operations)]** をクリックします。
    OpenAPI 仕様を使用して実行できるすべての操作が一覧表示されます。
17. 必要な操作を選択します。

    検索バーに必要な用語を入力することで、必要なアクションを検索できます。指定した検索用語に一致するアクションが表示されます。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

18. [公開] をクリックします。
    または、[アクションをドラフトとして保存 **(Save actions as Draft)]** を選択してアクションをドラフトとして保存すると、要件に応じて変更したり、後から公開したりすることができます。



19. [完了：スポークに移動] をクリックして [スポーク] ページに移動し、公開ステータスを表示します。
    - OpenAPI ステップを含むアクションが作成されます。OpenAPI ステップの詳細については、「REST ステップでの OpenAPI サポート」を参照してください。
    - アクションの入力および出力がマッピングされます。
    - アクションが公開され、スポーク詳細ページの [アクション] > [公開済] に一覧表示されます。

    公開されたアクションの使用を開始することで、要件に応じてフローまたはサブフローを作成できます。

    - アクションをドラフトとして保存した場合は、スポーク詳細ページの [アクション] > [ドラフト] で、これらのドラフトアクションにアクセスできます。
    - スポークアクティビティに関するランタイム情報を表示するには、スポークの詳細ページで [スポークアクティビティログ] をクリックします。スポークアクティビティが実行されるたびに、その情報がスポークアクティビティログとして生成されます。アクティビティログを表示するには、必要な番号をクリックします。スポークアクティビティログのすべての操作には、次のいずれかのステータス値があります。

ステータス	説明
新規	操作のイベントが作成され、この操作がまもなく実行されます。
エラー	操作の実行に失敗しました。
processing	操作の実行が進行中です。
成功	操作が正常に実行されました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの詳細ページでフローとサブフローを作成し、それらを統合で使用できます。詳細については、「フローのビルド」と「サブフローのビルド」を参照。

スポークのアクティビティログとともに、利用可能なフロー、サブフロー、およびアクションの詳細をスポークの詳細ページで表示することもできます。

Now Assist を使用してスポークを作成し、アクションをビルドする

スポークジェネレーターの Now Assist を使用して、必要なサードパーティ API ドキュメントスニペットを入力として提供することで、スポークとアクションを作成します。

機能

API ドキュメントから必要なスニペットをコピーして貼り付けることで、必要なサードパーティアプリケーションのカスタムスポークをビルドできます。この機能は、必要なサードパーティアプリケーションに OpenAPI 仕様も Postman コレクションもない場合に便利です。この機能には、統合ハブサブスクリプションが必要です。詳細については「法務スケジュール - 統合ハブ の概要」を参照してください。

サポート対象のバージョン

スポーク生成スキルは、次のバージョン以降のリリースでサポートされています。

- Xanadu パッチ 3
- スポークジェネレーター v4.0.0
- フローデザイナー v26.2.5
- ワークフロースタジオ v26.2.6

スキルバージョン

スポーク生成スキル v1.0.4 が最新バージョンです。

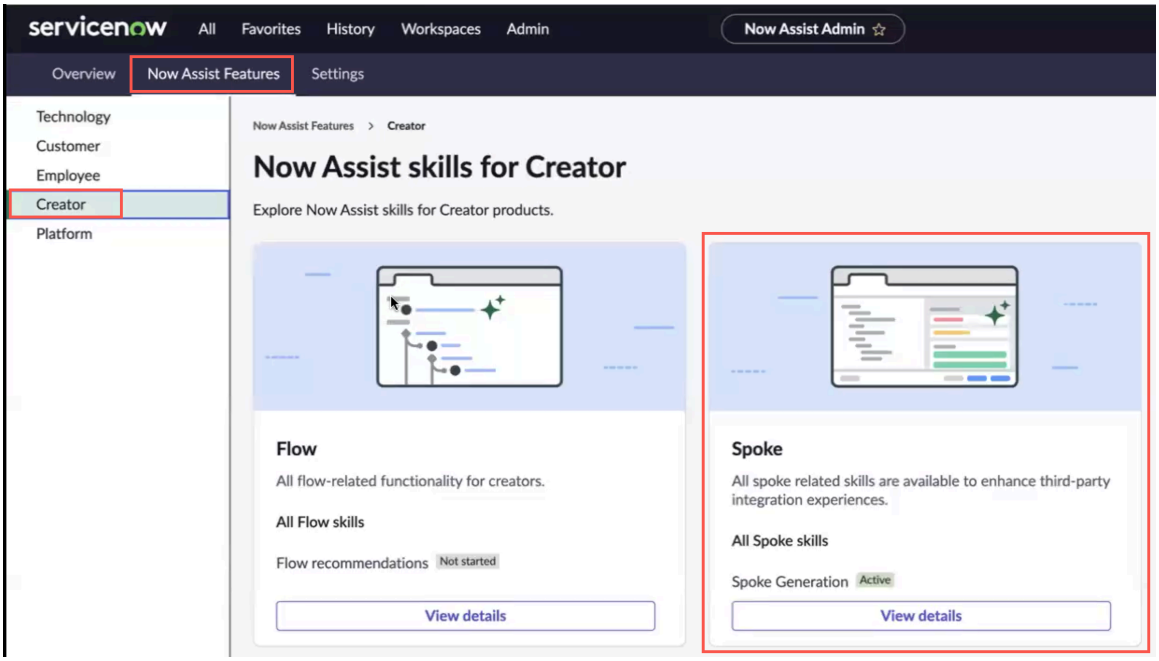
スポーク生成スキルのアクティブ化

スポーク生成スキルは、スポークをビルドするための生成 AI 機能を提供します。このスキルは、クリエーターの Now Assist (sn_now_creator) アプリケーションとともにインストールされます。ServiceNow Store の Web サイトからこのアプリケーションをインストールできます。

クリエーターの Now Assist (sn_now_creator) アプリケーションをインストールした後、Now Assist アドミンコンソールから クリエーターの Now Assist機能のスポーク生成スキルをアクティブ化します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Now Assist アドミンコンソールのスポーク生成スキル



- Now Assist アドミンコンソールの詳細については、「Now Assist アドミン コンソール」を参照してください。
- 必要なスキルをアクティブ化する手順については、「Now Assistスキルのアクティブ化」を参照してください。

重要: Now Assist の一部の製品/機能は現在、FedRAMP、NSC DOD IL5、オーストラリアの IRAP で保護されたデータセンターのお客様、セルフホスト型のお客様、またはその他の制限された環境のお客様は利用できません。詳細については、Now Support ナレッジベース 記事「KB0743854」を参照してください。将来のリリースで可用性の更新を確認してください。

重要: 現在、一部の地域のお客様は一部の Now Assist 製品/機能をご利用いただけません。詳細については、Now Support ナレッジベースの記事「KB1699552」を参照してください。将来のリリースで可用性の更新を確認してください。

AI の制限事項

このアプリケーションは、データ内のパターンに基づいて予測を生成する急速に進化している研究分野である人工知能 (AI) と機械学習を使用しています。その結果、このアプリケーションは必ずしも正確、完全、または適切な情報を生成するとは限りません。さらに、このアプリケーションがユースケースに合わせて完全にトレーニングまたはテストされているという保証はありません。これらの問題を軽減するために、自身のユースケースに適した精度、損害、適切性についてこのアプリケーションの使用をテストおよび評価し、出力に対する人間による監視を採用し、意思決定の目的のために AI で生成された出力のみに依存しないようにすることは、ユーザーの責任です。これは、医療、ファイナンス、法務、雇用、セキュリティ、インフラストラクチャなど、結果が影響を与える分野にこのアプリケーションを展開することを選択した場合に特に重要です。お客様は、「ServiceNow AI Acceptable Use Policy」に従うことに同意していただきます。その利用規定は、ServiceNow によって更新される場合があります

データ処理

このアプリケーションでは、ServiceNow 顧客の個々のインスタンスから一元化された ServiceNow 環境にデータを転送する必要があります。この環境は、インスタンスが存在するデータセンターとは異なるデータセンターリージョンに配置されている可能性があり、場合によっては Microsoft Azure などのサードパーティクラウドプロバイダーにも転送されます。このデータは、コアコンプライアンスポータル から利用可能なポリシーを含む、ServiceNow の内部ポリシーと手順に従って処理されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データコレクション

ServiceNow は、このアプリケーションの入力、出力を収集して使用し、出力を編集して、ServiceNow モデルや AI 製品などの ServiceNow テクノロジーを開発および改善します。さらに、このアプリケーションは ：コード生成用の Now Assist が呼び出されるスクリプト (および関連するスクリプトレコード) に関する情報。 お客様は、「 Now Assistオプトアウトに関するページ 」の説明に従って、いつでも将来のデータコレクションをオプトアウトできます。

詳細については、Now Assistドキュメント を参照してください。

クリエーターの **Now Assist** のインストール

スポーク生成スキルを使用するには、クリエーターの Now Assist アプリケーションをインストールします。

始める前に

- 必要なロール：admin
- 依存関係、ライセンスやサブスクリプションの要件、およびリリースの互換性については、ServiceNow Store の クリエーターの Now Assist アプリケーションリストを確認してください。
- Xanadu パッチ 3 以降にアップグレードします。このリリースの詳細については、「利用可能なパッチとホットフィックス」を参照してください。

必要なロール：admin

手順

1. ServiceNow Store の クリエーターの Now Assist アプリケーションに移動します。

   重要: クリエーターの Now Assist では別のサブスクリプションが必要です。

2. クリエーターの Now Assist アプリケーションページで、[アプリを要求] を選択します。
3. 承認を取得した後で、インスタンスで、[すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション]に移動します。
4. フィルター基準と検索バーを使用して、クリエーターの Now Assist アプリケーション (sn_now_creator) を検索します。
5. [インストール] を選択します。

次のタスク

クリエーターの Now Assist を構成して、スポーク生成スキルをオンにします。

スポーク生成スキルをオンにする

生成 AI を使用してスポークを作成するには、フロー生成スキルをオンにします。

始める前に

必要なロール：admin

重要: スポーク生成スキルには、クリエーターの Now Assist の個別のサブスクリプションが必要です。

手順

1. [すべて] > *Now Assist* アドミン > [機能]に移動します。
2. ワークフローリストで、[作成者] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. スポークカードで、[詳細を表示] を選択します。
4. [利用可能なすべてのスポークスキル (All available Spoke skills)] で、[オンにする] をクリックします。

タスクの結果
スポークジェネレーターの Now Assist を使用して、スポークとアクションを作成できるようになりました。

Now Assist のスポーク生成スキルを使用したスポークの作成とアクションのビルド

必要なサードパーティ API ドキュメントスニペットを入力として指定することで、統合を自動化し、再利用可能なアクションを生成します。

始める前に
必要なロール：admin。

手順
1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [新規作成] > [スポーク] をクリックします。
3. [スポーク情報 (Spoke Info)] 画面で、スポークを新しいスコープに作成するか既存のスコープに作成するかを指定します。

   a. 新しいスコープでスポークを作成する場合は、統合のロゴとして画像を選択し、フィールドに入力します。

   ここでは、例として 360Learning との統合について説明します。

フィールド	説明
スポーク名	カスタムスポークを識別する名前
説明	カスタムスポークの説明。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SPOKE INFO

Let's get started on your new spoke

Add a name and description that define your spoke. You can also add a thumbnail image.

Choose how you want to build your spoke

- (•) Create a spoke in new scope
- ( ) Create a spoke in existing scope

Spoke name * ⓘ

360Learning

App scope name ⓘ

x_snc_360learning

Description * ⓘ

ServiceNow integration with 360Learning

⊗ Remove image

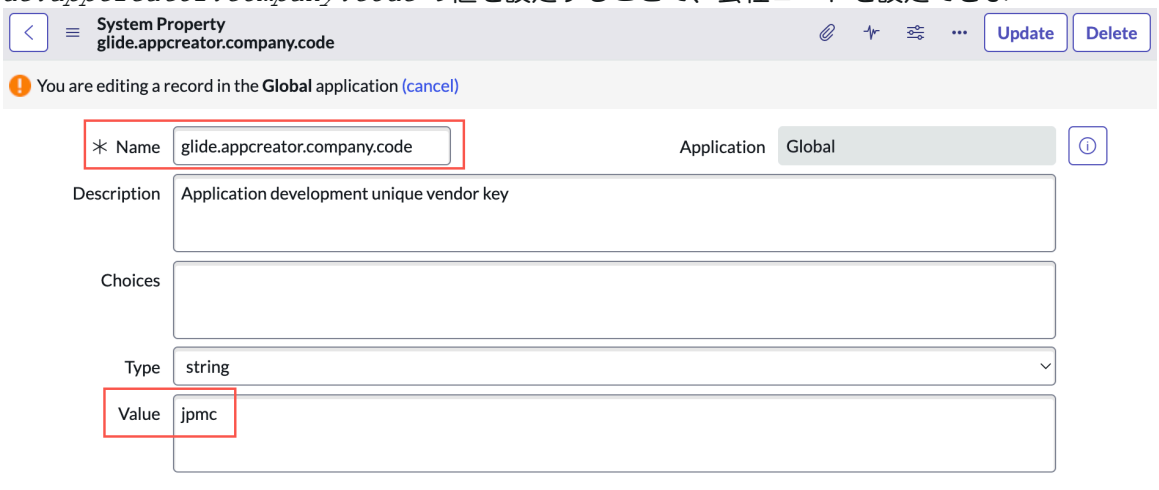
Cancel

Continue

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

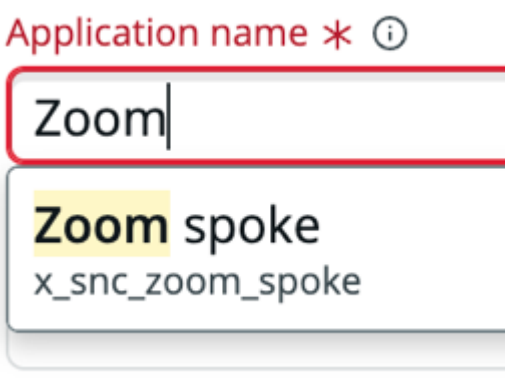
[アプリスコープ名] の値は、`x_<company-code>_<spoke-name>_<spoke>` の形式です。デフォルトでは、<company-code> は `snc` です。システムプロパティ *`glide.appcreator.company.code`* の値を設定することで、会社コードを設定できます。



この構成値は、値 [アプリスコープ名] が生成されるときに使用されます。

b. 既存のスコープでスポークを作成する場合は、統合のロゴとして画像を選択し、フィールドに入力します。

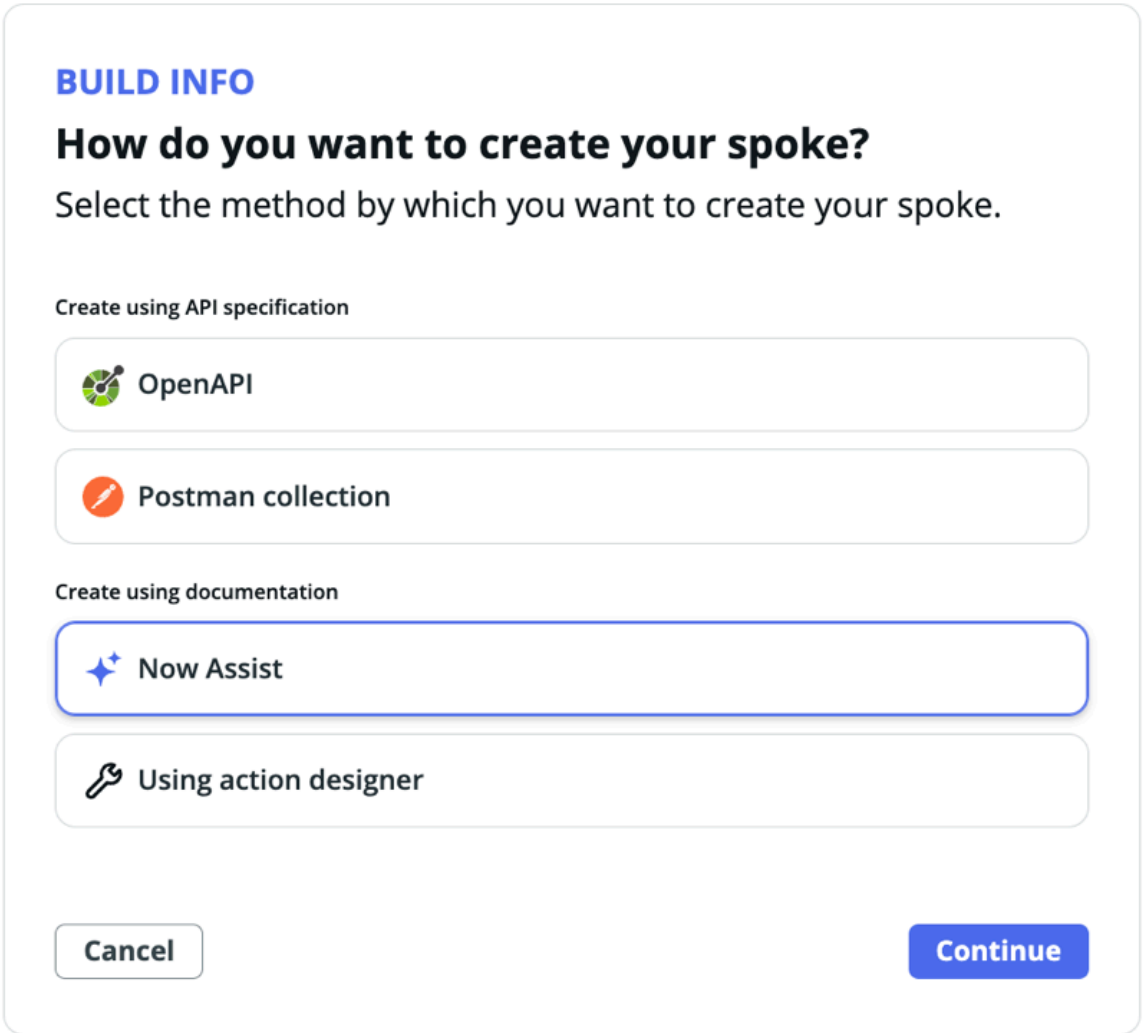
ここでは、例として 360Learning との統合について説明します。

フィールド	説明
アプリケーション名	既存のアプリケーション名またはスコープ。 

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
アプリスコープ名	選択したアプリケーション名に基づいて自動入力されるスコープ名。
説明	カスタムスポークの説明。

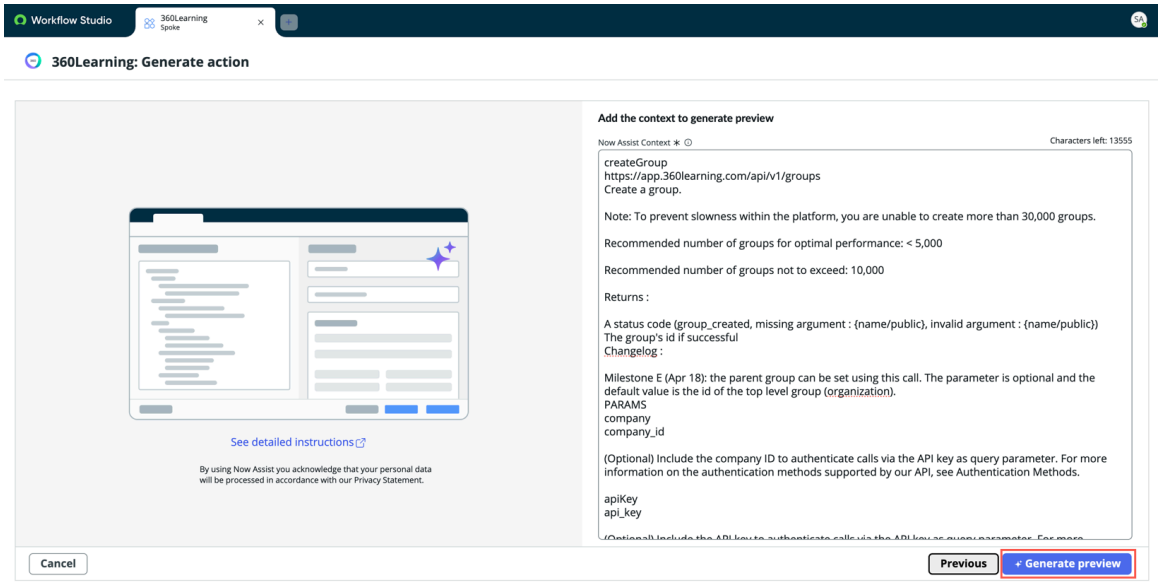
4. [続行] をクリックします。
5. [ビルド情報] 画面で、スポークのビルドに使用する方法を選択します。
6. **[Now Assist]** を選択して [続行] をクリックし、必要なサードパーティ API ドキュメントスニペットを指定して、再利用可能なアクションを生成します。



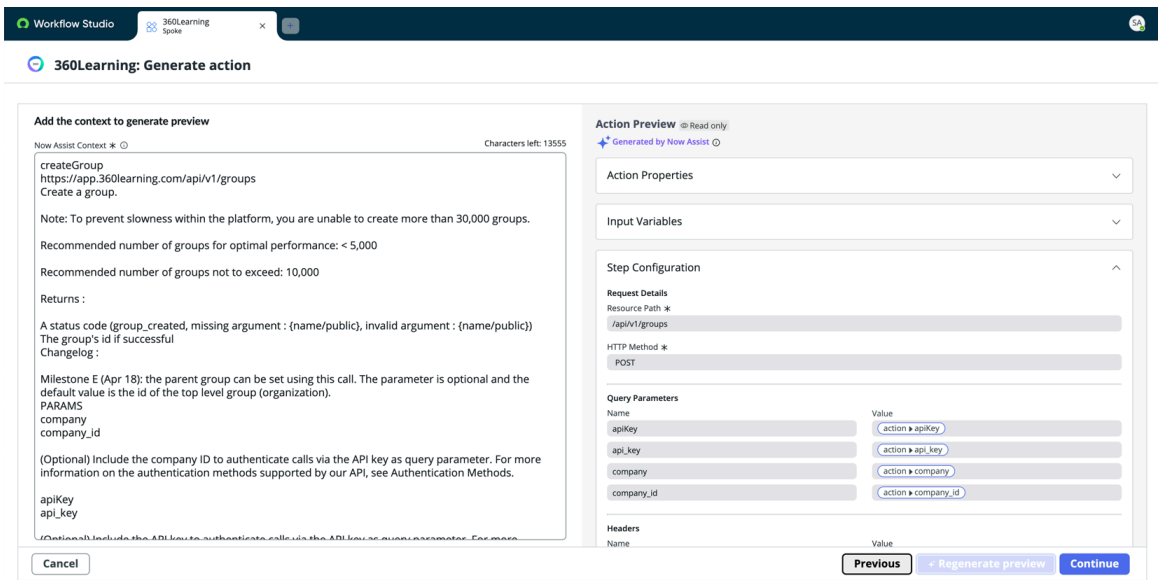
7. [アクションの生成] 画面で、必要なコンテンツを 360Learning API ドキュメントから **[Now Assist** コンテキスト] に貼り付けます。
この例では、createGroup アクションに関連するドキュメントをコピーして、**[Now Assist** コンテキスト] に貼り付けます。

> **注:** 一度に 1 つのアクションに関連するドキュメントのみを貼り付けるようにしてください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

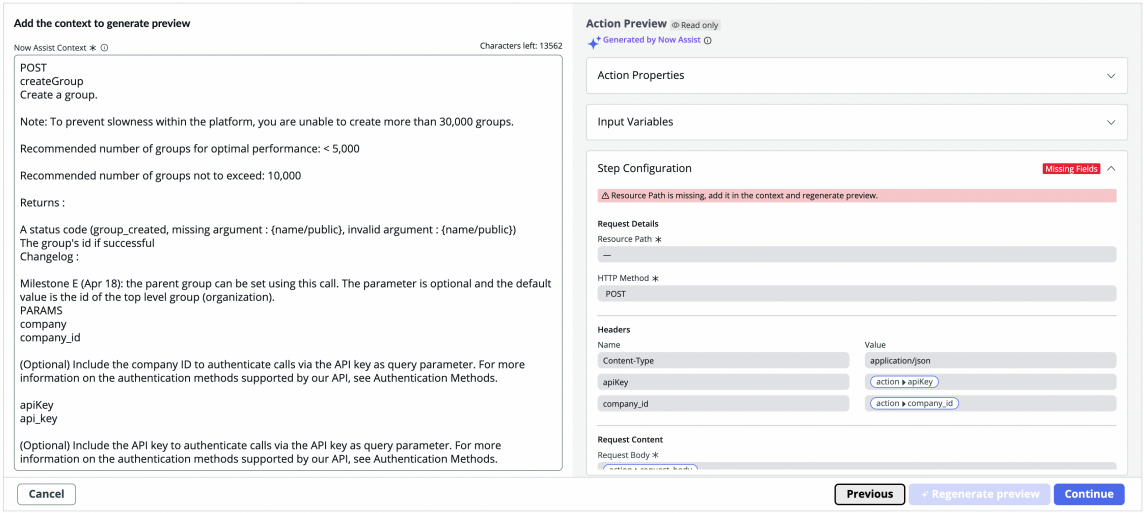


8. [プレビューを生成] をクリックします。
アクションのプレビューが生成されます。アクションのプロパティ、入力、出力、およびステップの詳細が表示されます。



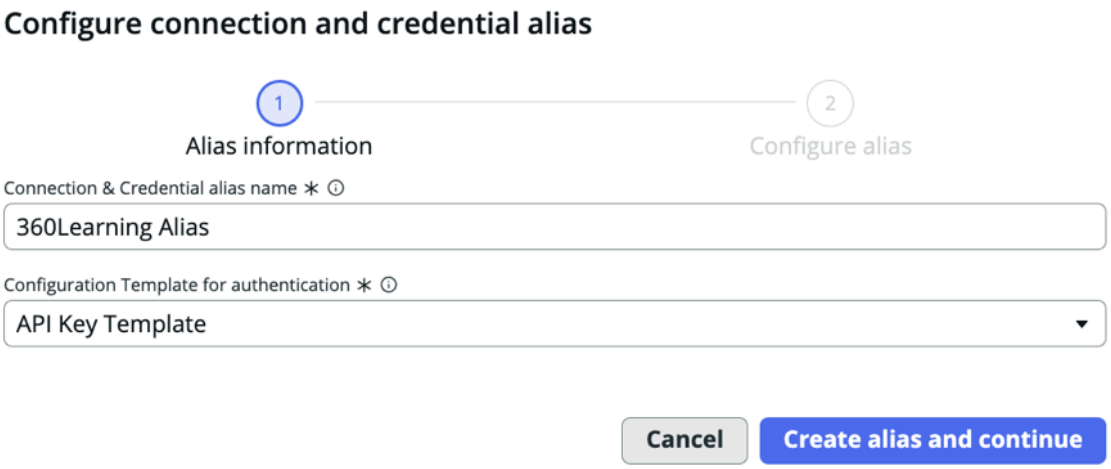
9. オプション: 生成されたアクションを変更する場合は、 **[Now Assist** コンテキスト] で指定したコンテンツを適宜変更し、[プレビューを再生成] をクリックします。
[Now Assist コンテキスト]で指定したコンテンツに足りないフィールドがある場合、エラーメッセージが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



10. [続行] をクリックします。
11. [接続とカテゴリを選択] 画面の [接続および資格情報エイリアス] で、[新規作成] をクリックします。
12. [新しい接続および資格情報エイリアスを作成 (Create new connection and credential alias)] 画面で、フィールドに入力し、エイリアス情報を入力します。

フィールド	説明
接続および認証情報名 (Connection & Credential name)	接続および資格情報エイリアスレコードを識別するための名前です。
認証用の構成テンプレート (Configuration Template for authentication)	この統合に必要な認証メカニズムです。認証メカニズムとサードパーティアプリケーションの間に互換性があることを確認します。



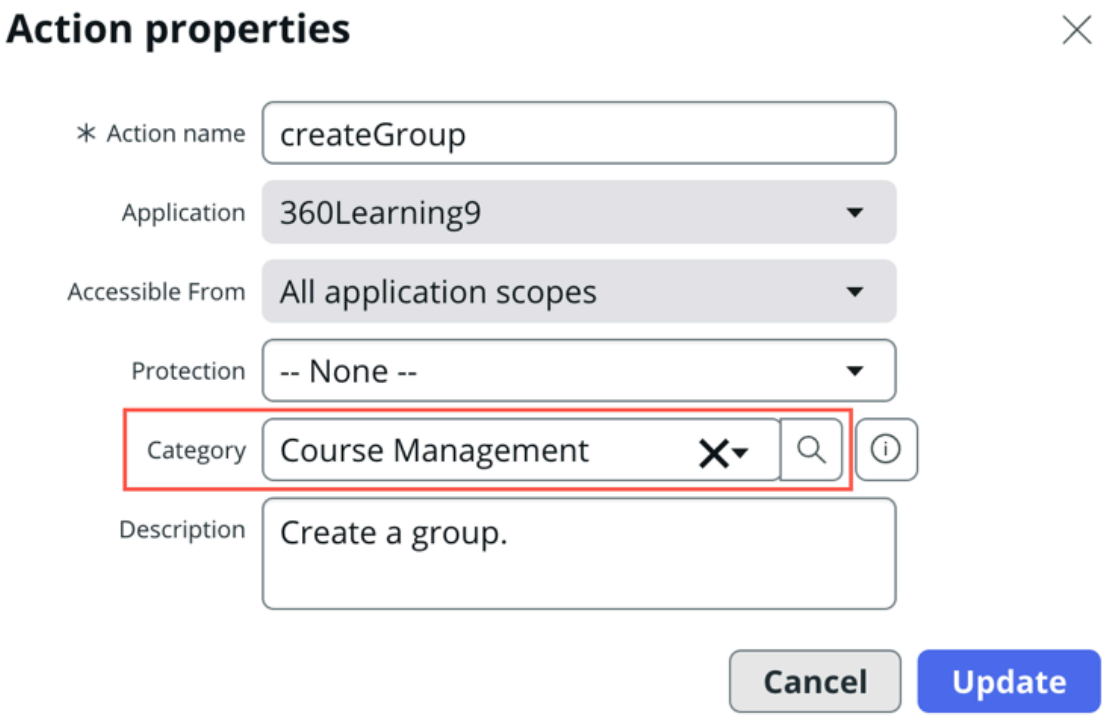
13. [エイリアス作成して続行 **(Create alias and continue)]** をクリックします。
14. [接続および資格情報エイリアスの構成] 画面で、フィールドに入力し、エイリアスを構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
接続情報	
接続名	接続レコードを識別する名前です。
接続 URL	サードパーティのインスタンスまたはサーバーに接続するためのベース URL。
認証情報	
選択した構成テンプレートに基づいて、関連する認証情報フィールドが表示されます。認証情報レコードを設定するために必要な値を指定します。	

エイリアスレコードを後で設定する場合は、[後で行う] をクリックします。

15. **[Submit** (送信)] をクリックします。
接続エイリアスレコードが作成されます。
16. オプション: [接続とカテゴリを選択] 画面で次の操作を行います。
    - 新しいスポークの場合は、カテゴリを空のままにします。必要に応じて、後でアクションのプロパティを更新できます。

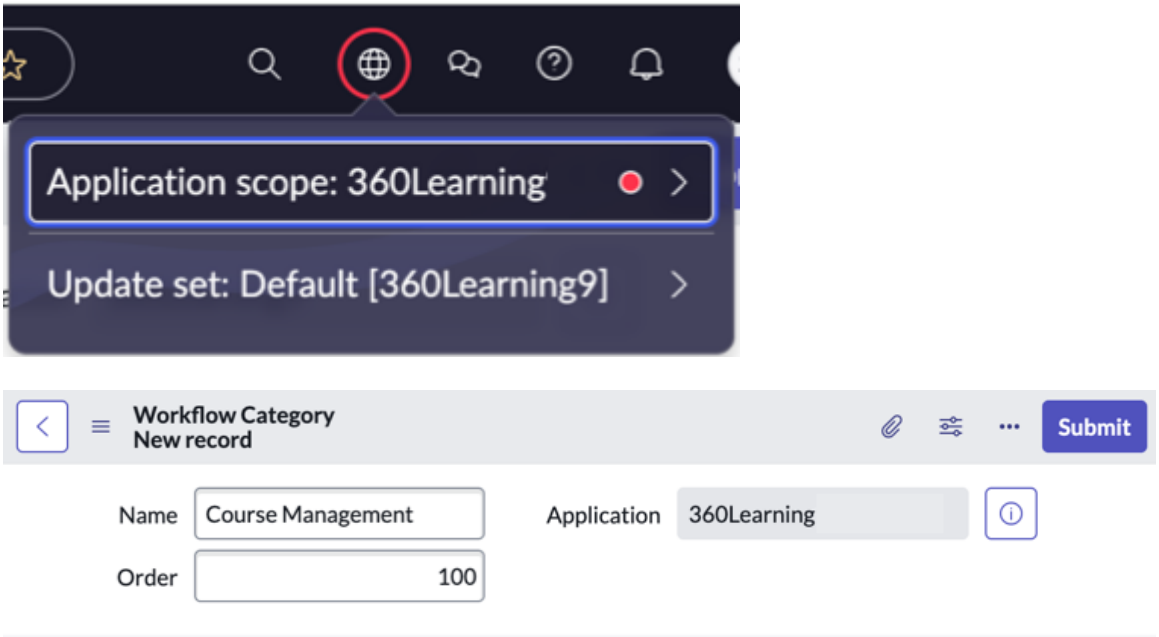


(Optional)

    - 既存のスポークには、既存のカテゴリをアサインします。

      (Optional) カテゴリを利用できない場合は、アクションカテゴリ [sys_hub_category] テーブルに、統合に必要なアクションカテゴリを作成します。カテゴリがスポークと同じアプリケーションスコープで作成されていることを確認する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



17. [公開] をクリックします。

> **注:** 不足しているフィールドがある場合、アクションを公開できません。代わりに、[アクションをドラフトとして保存] をクリックして、アクションをドラフトとして保存できます。

アクションが作成されます。別のスポークアクションを作成、または [スポーク] ページに移動できます。

アクションをドラフトとして保存した場合は、スポークの詳細ページの [アクション] > [ドラフト **(Draft)**]で、これらのドラフトアクションにアクセスできます。

手動でのスポークの作成とアクションのビルド

統合を自動化し、再利用可能なアクションを手動で生成します。

始める前に

- ServiceNow Store からスポークジェネレーターアプリをインストールします。
- 必要なロール：admin または action_designer

> **注:** action_designer ロールを持つユーザーは、OpenAPI 仕様をインポートしてアクションを追加することはできません。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [新規作成] > [スポーク] をクリックします。
3. [一般情報] 画面で、統合の対象のロゴの画像を選択し、フィールドに入力します。

フィールド	説明
スポーク名	カスタムスポークを識別する名前
説明	カスタムスポークの説明

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [作成して続行] をクリックします。
   スポークが作成され、確認メッセージが表示されます。
5. [ビルド情報] 画面で、スポークのビルドに使用する方法を選択します。
6. [手動] を選択し、[続行] をクリックします。
   スポークの詳細ページが表示されます。
7. [新しいアクション] をクリックしてアクションを作成します。
   - 必要な OpenAPI 仕様をインポートしてアクションを作成する場合は、**[OpenAPI** 仕様から] を選択します。必要な操作の選択とアクションの作成については、「OpenAPI 仕様のインポートによるスポークの作成とアクションのビルド」を参照してください。
   - アクションを手動で作成する場合は、[手動] を選択します。[アクションプロパティ] 画面が表示されます。アクションはアクションデザイナーで作成して公開する必要があります。詳細については、「アクションのビルド」を参照してください。

カスタムスポークへのアクションの追加

再利用可能なアクションをカスタムスポークに追加して、統合を自動化します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [スポーク] タブをクリックします。
3. 必要なスポークのタイルをクリックします。
4. スポークの詳細ページで、[新しいアクション] をクリックします。
   - OpenAPI 仕様をインポートしてアクションを作成するには、**[OpenAPI** 仕様から] をクリックします。必要な操作の選択とアクションの作成については、「OpenAPI 仕様のインポートによるスポークの作成とアクションのビルド」を参照してください。
   - アクションを手動で作成するには、[手動] をクリックします。[アクションプロパティ] 画面が表示されます。アクションはアクションデザイナーで作成して公開する必要があります。詳細については、「アクションのビルド」を参照してください。

公開されたアクションを使用して、要件に応じてフローまたはサブフローを作成できます。

ワークフロースタジオ参照

ワークフロースタジオのプロパティおよびコンポーネントワークフローアプリケーションに関する追加情報を確認します。

プロセスオートメーションデザイナー 参照

プロセスオートメーションデザイナーの使用時に参照できるガイド、リスト、テーブルなどと、それらに関連するコンポーネント。

プロセスオートメーションデザイナー のシステムプロパティ

プロセスオートメーションデザイナー のシステムプロパティを確認します。これらのプロパティを構成して、システムが プロセスオートメーションデザイナー イベントを処理する方法を制御できます。

プロセスオートメーションデザイナー のシステムプロパティは、システムが プロセスオートメーションデザイナー イベントをどのように処理するかについての詳細な設定オプションを提供します。プロセスオートメーションデザイナー のシステムプロパティを設定するには、システムのプロパティ [sys_properties] テーブルにアクセスします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

以下は、プロセスオートメーションデザイナー の設定に関連するシステムプロパティです。

プロパティ	説明
com.glide.event_manager.process_automation.count_limit	イベントハンドラーが単一のトランザクションで処理できる Process Automation イベントの数
sn_agent_workspace.default_view_editable_table	実行時にプレイブックカード内でのワークスペースによるレンダリングを許可する、カンマ区切りリストのデフォルトのテーブルビュー

プロセスオートメーションデザイナー ロール

ユーザーに 1 つ以上のプロセスオートメーションデザイナーロールを付与して、ユーザーがトリガー、プレイブック、およびアクティビティ定義を作成できるようにします。

ロール

ユーザーごとのサブスクリプション管理の詳細については、「サブスクリプション管理 でのユーザーごとのサブスクリプションの管理」を参照し、アカウント担当者にお問い合わせください。

システムアドミニストレーターは、委託開発権限を割り当てるかロールを直接割り当てて、ユーザーに プロセスオートメーションデザイナー に対するアクセス権を付与できます。プロセスオートメーションデザイナー では、次のユーザーロールを使用できます。

ロール	説明
playbook.admin	ユーザーは次のことができます。 • トリガー定義を作成、更新、削除する。 • ワークフロースタジオ を起動して、プレイブックを作成、アクティブ化、編集、削除する。 • アクティビティ定義を作成、編集、削除する。 • プロセスオートメーションデザイナー と プレイブックエクスペリエンス によって共有されるエクスペリエンスアクティビティタイプ (sys_pd_activity) テーブルとエクスペリエンスアクティビティプロパティ (sys_pd_activity_type_prop) テーブルを表示する。 • プレイブックの翻訳を追加する。
pd_author	ユーザーは次のことができます。 • ワークフロースタジオ を起動して、プレイブックを作成、アクティブ化、編集、削除する。 • すべてのアクティビティ定義を表示する。 • プロセスオートメーションデザイナー と プレイブックエクスペリエンス によって共有されるエクスペリエンスアクティビティ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロール	説明
	タイプ (sys_pd_activity) テーブルとエクスペリエンスアクティビティプロパティ (sys_pd_activity_type_prop) テーブルを表示する。
pd_content_author	ユーザーは次のことができます。 • アクティビティ定義を作成、編集、削除する。 • トリガー定義を作成、編集、削除する。 • プロセスオートメーションデザイナー と プレイブックエクスペリエンス によって共有されるエクスペリエンスアクティビティタイプ (sys_pd_activity) テーブルとエクスペリエンスアクティビティプロパティ (sys_pd_activity_type_prop) テーブルを表示する。
pd_trigger_author	ユーザーがトリガー定義を作成、更新、削除できるようにします。
pd_operator	ユーザーがプロセス実行、アクティビティ実行、実行ログの表示のみをできるようにします。
pd_shared.user	プロセスオートメーションデザイナー および プレイブックエクスペリエンスで共有されるエクスペリエンスアクティビティタイプ (sys_pd_activity) テーブルとエクスペリエンスアクティビティプロパティ (sys_pd_activity_type_prop) テーブルを表示できるようにします。
pd_shared.admin	プロセスオートメーションデザイナー および プレイブックエクスペリエンスで共有されるエクスペリエンスアクティビティタイプ (sys_pd_activity) テーブルとエクスペリエンスアクティビティプロパティ (sys_pd_activity_type_prop) テーブルを編集できるようにします。
pd_cancel	playbook.admin ロールまたは親レコードへの書き込みアクセス権なしで実行中のプレイブックをキャンセルできるようにします。たとえば、プレイブックをキャンセルする機能をエージェントマネージャーに付与しても、エージェントには付与しない場合などです。
pd_restarter	アクティブなプレイブックを再起動できるようにします。
playbook.write	ユーザーは次のことができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロール	説明
	• ワークフロースタジオ を起動して、プレイブックを作成、アクティブ化、編集、削除する。 • プロセスオートメーションデザイナー と プレイブックエクスペリエンス によって共有されるエクスペリエンスアクティビティタイプ (sys_pd_activity) テーブルとエクスペリエンスアクティビティプロパティ (sys_pd_activity_type_prop) テーブルを表示する。
playbook.activity_def_read	すべてのアクティビティ定義を表示できるようにします。

注: ユーザーに プロセスオートメーションデザイナー ロールを付与しても、フローデザイナー設計環境へのアクセスが自動的に許可されるわけではありません。フローデザイナー へのアクセスをユーザーに許可すると、アクティビティ定義を作成するときに役立つ場合があります。フローデザイナー ロールの詳細については、「user access to Flow Designer (フローデザイナーへのユーザーアクセス)」を参照してください。

プレイブックのステータスとアクティブ化ステータス

プロセスオートメーションデザイナービルダーのメインヘッダーにプレイブックのステータスを表示します。このステータスは、プレイブックがアクティブか非アクティブかを示します。

プロセスオートメーションデザイナービルダーのメインヘッダーの *Status* ラベルは、プレイブックに加えられた設定の変更の状況を示します。ステータスは、プレイブックが有効か無効も示します。プレイブックがアクティブな場合は、プレイブックエクスペリエンスでエンドユーザー向けビューを作成できます。

プレイブックのステータスは次のとおりです。

ドラフト

プレイブックは非アクティブです。加えた変更は、ドラフトのプレイブックに自動的に保存されます。

公開済み

プレイブックがアクティブであり、プレイブックエクスペリエンスでエンドユーザー向けビューを作成できます。[有効化] を選択した後に行った変更はすべて自動的に保存されます。ただし、これらの変更は、もう一度 [有効化] を選択するまで、公開されたプレイブックで有効化されません。

プレイブックのステータスとアクティブ化状況フロー

新しいプレイブックを作成すると、そのステータスが [ドラフト] に設定されます。プレイブックを有効にすると、そのステータスが [公開済み] に変わります。有効にした後に変更を加えた場合、プレイブックを再度有効にするまで新しい変更は公開されません。

プロセス実行

プロセス実行は、プレイブックの単一のランタイムインスタンスです。 プロセス実行レコードは、現在のステータスや入力レコードなど、プレイブックに関するランタイム情報を提供します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロセス実行は、プレイブックのランタイム実行を表します。プレイブックがトリガーされるたびに、 レコードがプロセス実行 [sys_pd_context] テーブルに自動的に作成されます。

進行中のプロセス実行のレコードにアクセスするには、**[Process Automation]** > **[Process Automation 管理 (Process Automation Administration)]** > [アクティブプロセス] に移動します。または、[プロセス自動化] > [プロセス自動化管理] > [今日の実行] に移動して、今日実行されたすべてのプレイブックのプロセス実行を確認することもできます。

フィールド

各プロセス実行レコードには、デフォルトで次の情報が含まれています。

プロセス実行レコードフィールド

フィールド	説明
名前	このプロセスの実行をトリガーしたプレイブックの名前
作成完了	プレイブックがトリガーされた日時
入力レコード	このプロセスの実行をトリガーしたテーブル名とレコード番号
状況	プロセス実行全体の現在のステータス。詳細については、「プロセス実行の状況」を参照してください。

プロセス実行の状況

プロセス実行レコードは、次のいずれかの状況になります。

状況	説明
キューに格納	プレイブックがトリガーされましたが、システムはまだプロセス実行の実行を開始していません。
処理中	プレイブックがトリガーされ、現在プロセス実行が実行されています。プレイブック内の 1 つ以上のアクティビティのステータスが [準備完了] または [処理中] です。
完了	プレイブックがトリガーされ、プロセス実行が完了しました。プレイブック内のすべてのアクティビティのステータスは、[スキップ] または [完了] です。
エラー	プレイブックがトリガーされましたが、アクティビティのステータスが [エラー] です。エラーは、アクティビティ定義の自動化計画で指定されたアクション、サブフロー、またはフローの実行に失敗した場合に発生する可能性があります。
キャンセル	admin または playbook.admin ロールを持つユーザーがプロセスの実行を明示的にキャンセルし、実行が停止しました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティビティの実行

アクティビティ実行レコードは、アクティビティの現在のステータスや関連するレコードなど、プレイブックのアクティビティに関するランタイム情報を提供します。

アクティビティの実行は、アクティビティのランタイム実行を表します。プレイブックのいずれかがトリガーされるたびに、トリガーされたプレイブック内で実行される各アクティビティのレコードを自動的に作成します。

進行中のプレイブック実行のアクティビティ実行レコードにアクセスするには、[プロセス自動化] > [プロセス自動化管理] > [アクティブなプロセス] に移動します。または、[プロセス自動化] > [プロセス自動化管理] > [今日の実行] に移動して、今日実行されたすべてのプレイブックのアクティビティ実行を確認することもできます。リストからプレイブック実行レコードを選択します。次に、関連するアクティビティ実行レコードを [アクティビティの実行] 関連リストで表示できます。

フィールド

デフォルトでは、[アクティビティの実行] 関連リストの各レコードには、次のフィールドが含まれています。

アクティビティの実行フィールド

フィールド	説明
ラベル	アクティビティの名前
ステージ	アクティビティが実行されるステージ
状況	アクティビティの実行状況。「アクティビティの実行状況」を参照してください。
アクティビティタイプ	アクティビティのエクスペリエンスタイプ。「エクスペリエンスタイプ」を参照してください。
関連レコード	データが プレイブックカードにレンダリングされるレコード。
実行インデックス	1 から始まる、アクティビティが実行される順番。

アクティビティの実行状況

アクティビティの実行状況は、トリガーされたプレイブック内のアクティビティのステータスを示します。プレイブックカードにレンダリングされるアクティビティは、このステータスをエージェントに表示できます。アクティビティ実行レコードは、次のいずれかの状況になります。

状況	説明
保留中	プレイブックがトリガーされましたが、アクティビティの実行は先行するアクティビティの完了を待機してから、実行を開始します。
準備完了	プレイブックがトリガーされ、アクティビティがまもなく実行を開始します。
処理中	プレイブックがトリガーされ、アクティビティ実行が実行されています。
完了	プレイブックがトリガーされ、アクティビティ実行が完了しました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

状況	説明
スキップ	プレイブックがトリガーされましたが、ユーザーがこのアクティビティの実行をスキップして次のアクティビティに進むことを選択しました。また、アクティビティに false と評価される条件が含まれている場合、アクティビティはスキップされます。
エラー	プレイブックがトリガーされましたが、アクティビティの自動化プランまたはアクティビティエクスペリエンスに関するエラーが発生しました。エラーは、アクティビティの自動化プラン内の基になるアクションまたはサブフローの実行に失敗した場合に発生する可能性があります。
キャンセル	admin、flow_designer、または action_designer ロールを持つユーザーが、アクティビティの自動化プラン内の基になるアクションまたはサブフローを明示的にキャンセルしました。

タスクの作成アクティビティ

以前に収集または生成されたデータからタスクレコードを作成します。

ロールと使用可用性

このアクティビティは共通アクティビティとして利用できます。admin、playbook.admin、pd_author、または pd_author を持つユーザーは、このアクティビティを プレイブック に追加できます。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「 ドット連結の例 」を参照してください。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール]で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
アサイン先	Reference.User [sys_user]	アクティビティに関連付けられているタスクの完了を担当するユーザー。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
簡単な説明	文字列	完了すべきタスクのサマリー。
ユーザー入力待ち	選択肢	エンドユーザーが手動でアクティビティを完了するかスキップするまで、プレイブックを一時停止するオプション。このフィールドを編集できるのは、playbook.admin ロールを持つユーザーのみです。デフォルトでは、アクティビティは完了する前にユーザーのアクションまたはデータを待機します。

詳細入力

アクティビティの必要な入力を設定した後に、追加の入力を設定することもできます。サイドパネルで、[他のオプションを表示] を選択して、これらの詳細入力を表示します。詳細については、「アクティビティエクスペリエンス」を参照してください。

入力	タイプ	説明
このプロセスステップのアサイン先グループ	Reference.Group [sys_user_group]	このプレイブックアクティビティの実行を許可されたアサイン先グループ。[アサイン先グループ] または [アサイン先] の値を設定しない場合、すべてのユーザーが収集されたデータを読み取り、編集できます。[アサイン先グループ] および [アサイン先] フィールドにより、アクセスして実行できるユーザーが制限されます。個々のユーザーのみを指定するには、[アサイン先] フィールドを使用します。同じユーザーを両方のフィールドに指定する必要はありません。 **注:** デフォルトでは、これらのフィールドはトリガーレコードの [アサイン先グループ] および [アサイン先] フィールドにマップされます。これは、親レコードで作業するようにアサインされたユーザーは、収集されたデータを送信、表示、編集するアクセス権をデフォルトで持っていることを意味します。
このプロセスステップにアサインされました	Reference.User [sys_user]	このプレイブックアクティビティの実行を許可されたユー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		ザー。[アサイン先グループ] または [アサイン先] の値を設定しない場合、すべてのユーザーが収集されたデータを読み取り、編集できます。[アサイン先グループ] および [アサイン先] フィールドにより、アクセスして実行できるユーザーが制限されます。個々のユーザーのみを指定するには、[アサイン先] フィールドを使用します。同じユーザーを両方のフィールドに指定する必要はありません。 **注:** デフォルトでは、これらのフィールドはトリガーレコードの [アサイン先グループ] および [アサイン先] フィールドにマップされます。これは、親レコードで作業するようにアサインされたユーザーは、収集されたデータを送信、表示、編集するアクセス権をデフォルトで持っていることを意味します。
タスクテーブル	テーブル名	タスクを作成するタスクテーブル拡張の名前。このタスクが完了すると、アクティビティも完了します。
フィールド値	選択肢	タスクに追加するフィールド。
追加フィールド	テンプレート値	タスクレコードの作成時にアサインするフィールド値。
作成後に表示するフィールド	文字列	作成されたレコードに表示するフィールドのカンマ区切りリスト。
タスクの完了待ち	True/False	作成されたタスクレコードが完了するまでプレイブックを一時停止します。

出力

これらの出力は、プレイブック内の他のアクティビティにデータを提供できます。アクティビティを設定するときに、アクティビティ入力としてこのデータにアクセスできます。

出力	タイプ	説明
テーブル	テーブル名	新しいレコードを含むテーブル。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力	タイプ	説明
レコード	Reference.Task[task]	作成されたレコードへの参照。

手順アクティビティ

プレイブックを通じてエンドユーザーをガイドする簡単なメッセージを表示します。

ロールと使用可用性

このアクティビティは共通アクティビティとして利用できます。admin、playbook.admin、pd_author、または pd_author を持つユーザーは、このアクティビティを プレイブック に追加できます。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「 ドット連結の例 」を参照してください。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール]で、アクティビティの実行開始

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
メッセージ	文字列	エンドユーザーに表示するメッセージテキスト。
ユーザー入力待ち	選択肢	エンドユーザーが手動でアクティビティを完了するかスキップするまで、プレイブックを一時停止するオプション。このフィールドを編集できるのは、playbook.admin ロールを持つユーザーのみです。デフォルトでは、アクティビティは完了する前にユーザーのアクションまたはデータを待機します。

出力

これらの出力は、プレイブック内の他のアクティビティにデータを提供できます。アクティビティを設定するときに、アクティビティ入力としてこのデータにアクセスできます。

出力	説明
レコード	アクティビティに関連付けられたレコードへの参照。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザーフォームアクティビティ

このアクティビティを使用して、エンドユーザーにレコードを表示します。このアクティビティでは、テーブルとレコード、およびプレイブックでエンドユーザーに表示する希望のフォームビューを選択する必要があります。エンドユーザーは、それに応じてこのレコードを操作できます。実行時にフォームを表示して、プレイブックの入力値を収集します。

ロールと使用可用性

このアクティビティは共通アクティビティとして利用できます。admin、playbook.admin、pd_author、または pd_author を持つユーザーは、このアクティビティを プレイブック に追加できます。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「ドット連結の例」を参照してください。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール]で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
キャッチコピー	文字列	エンドユーザーに表示するヘッダータグライン。
レコードフィールド	参照	フォームに必要な追加のレコードフィールド。 **注:** このフィールドは、プレイブックの実行中には編集できません。
関連テーブル	テーブル名	アクティビティまたはプレイブックデータを含むテーブル。
関連レコード	参照	表示するレコードへの参照。
フォームビュー	文字列	データ収集に使用するフォームビュー。フォームビューを指定しない場合は、デフォルトのビューが使用されます。[新しいタブ] ボタン ( ) を使用して、フォームビルダーで新しいワークフロースタジオタブでフォームビューを開いて編集します。 **注:** ワークスペースでは、多くのフォームビューはサポートされていません。
フォームのフィールド	文字列	フォームのカード上に表示するフィールド名のカンマ区切りリスト。
添付ファイルソース	選択肢	エンドユーザーが実行時にアップロードできる添付ファイルを含む添付ファイルレコード。

詳細入力

アクティビティの必要な入力を設定した後に、追加の入力を設定することもできます。サイドパネルで、[他のオプションを表示] を選択して、これらの詳細入力を表示します。詳細については、「アクティビティエクスペリエンス」を参照してください。

入力	タイプ	説明
アサイン先グループ	Reference.Group [sys_user_group]	アクティビティに関連付けられているタスクの完了を担当するグループ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
アサイン先	Reference.User [sys_user]	アクティビティに関連付けられているタスクの完了を担当するユーザー。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
表示順序	選択肢	このアクティビティカードがプレイブックの実行時に表示される順番。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
再起動ルール	選択肢	再起動中のアクティビティまたはステージの実行内容： • 再起動時にスキップ **(Skip on restart)**：ステージまたはアクティビティは、 プレイブックの最初の実行中にのみ実行

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		されます。再起動時には実行されません。 注: 元の実行と結果のレコードが引き続き関連しているため、この設定は、再起動による実行中に新しいタスクまたはレコードが作成されないようにする場合に役立ちます。 • 常に実行：ステージまたはアクティビティは、最初の実行中か再起動による実行中かにかかわらず、常に実行されます。 • 初回実行時にスキップ **(Skip on first run)**：ステージまたはアクティビティは再起動時にのみ実行されます。最初の実行中は実行されません。 プレイブック、ステージ、およびアクティビティの再起動を有効にして構成する方法の詳細については、「プロセスオートメーションデザイナーの再起動を有効にして構成する」を参照してください。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
エクスペリエンスステータステーブル	テーブル名	[エクスペリエンスステータスレコード] を含むテーブル。デフォルトでは、このアクティビティの基礎となるフロー、サブフロー、またはアクションによって作成されたフローデータレコードを含むテーブルに設定されます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
エクスペリエンスステータスレコード	参照	このアクティビティのステータスにマッピングするステータスのフローデータレコード。アクティビティカードのステータス

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		に加えられた変更は、フローデータレコードにマッピングされ、フローデータレコードからアクティビティカードにマッピングされます。デフォルトでは、これはこのアクティビティの基礎となるフロー、サブフロー、またはアクションによって作成されたデータレコードです。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
アイコン	Reference.Icon [st_sys_design_system_icon]	アクティビティカードにアイコンを表示します。 アイコン名の入力を開始し、表示するアイコンを選択します。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
タイトル	文字列	アクティビティカードでエンドユーザーに表示されるタイトル。テキストを入力するか、またはピルピッカーを使用することができます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
説明	参照	アクティビティカードでエンドユーザーに表示される詳細。これは文字列フィールドではありません。ピルピッカーを使用して、アクティビティカードに表示する説明を選択します。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
保留中ステータスのタイトル	文字列	保留中のアクティビティについてエンドユーザーに表示されるタイトル。テキストを入力する

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		か、またはピルピッカーを使用することができます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
保留中ステータスの説明	文字列	保留中のアクティビティでエンドユーザーに表示する詳細。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
添付ファイルは読み取り専用	True/False	有効な場合、エンドユーザーが既存の添付ファイルの名前の変更または削除を実行できないようにします。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
フッター	文字列	エンドユーザーに表示するフッターテキスト。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
添付ファイルを表示	True/False	ユーザーフォームに添付ファイルを含めるオプション。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
SLA の表示	True/False	タスクの SLA カウントダウンの詳細を表示するオプション。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
チェックリストの表示	True/False	レコードチェックリストアイテムを表示するオプション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。

出力

これらの出力は、プレイブック内の他のアクティビティにデータを提供できます。アクティビティを設定するときに、アクティビティ入力としてこのデータにアクセスできます。

出力	タイプ	説明
テーブル	テーブル名	アクティビティに関連付けられたテーブルの名前。
レコード	Reference.Task[task]	アクティビティに関連付けられたレコードへの参照。

プレースホルダーアクティビティ

プロセスオートメーションデザイナー でアクティビティカードを表示して、今後のアクティビティの内容を示します。

ロールと使用可用性

このアクティビティは共通アクティビティとして利用できます。admin、playbook.admin、pd_author、または pd_author を持つユーザーは、このアクティビティを プレイブック に追加できます。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「ドット連結の例」を参照してください。

入力	タイプ	説明
編集	選択肢	プレースホルダーを置き換えるために選択できるアクティビティ。
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。この入力を使用して、このプレースホルダーを置き換えるために必要なアクティビティを記述することができます。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要が

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		ある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール]で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。

出力

このアクティビティは出力を生成しません。

デザインの検討

プレースホルダーアクティビティを追加して、アクティビティ設定をスキップします

プレイブック設計者は、プレースホルダーアクティビティを使用して、設定を行うことなくアクティビティやプレイブックの意図を伝えることができます。プレイブック設計者は、設定を別の時間に延期することも、プレイブックデータモデルをより詳しく理解している別のユーザーに設定を委任することもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プレースホルダーアクティビティを編集して、他のアクティビティに置き換える

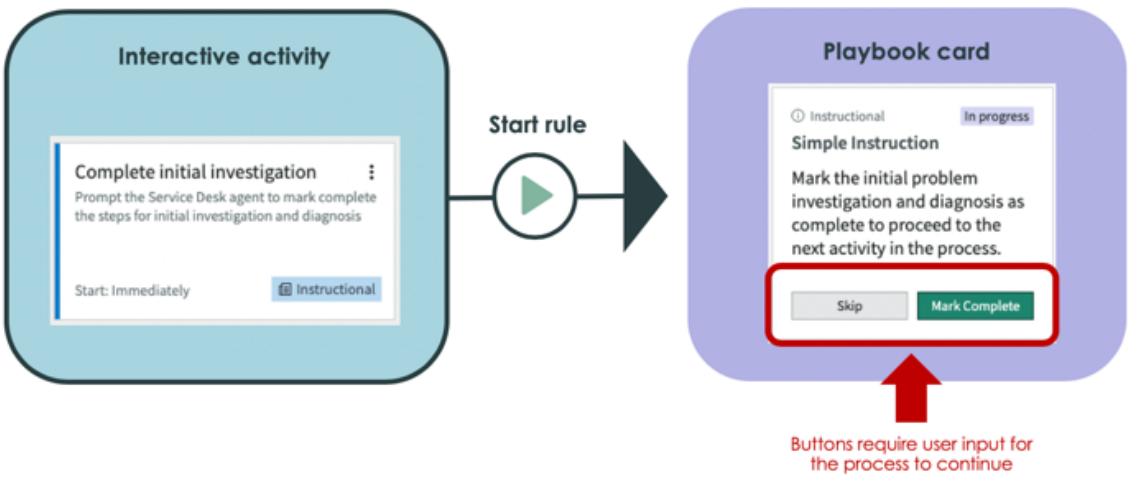
プレースホルダーアクティビティは、プレイブック設計者がプレイブックを作成するのに役立ちますが、実行時に出力を生成したりプレイブックを進めたりすることはありません。プレースホルダーアクティビティを別のアクティビティタイプに置き換えて設定する準備ができたら、プレースホルダーアクティビティを編集します。

インタラクティブアクティビティ

インタラクティブアクティビティプレイブックの実行時にユーザーに入力を求めます。

インタラクティブアクティビティを完了するには、ユーザー入力が必要です。エージェントは、プレイブックの実行中にアクティビティカード内で入力できます。たとえば、アクティビティでユーザーがレコードの作業メモを入力する必要がある場合、プレイブックカードに作業メモ情報を追加するよう プレイブックエージェントに求めるように、アクティビティ入力を設定できます。

インタラクティブアクティビティ



インタラクティブアクティビティは、プレイブックエクスペリエンスでのユーザー入力を必要とするアクティビティカードに変わります。プレイブックエージェントは、プレイブックの実行を継続できるように、これらのカードとやり取りする必要があります。

インタラクティブアクティビティを使用してプレイブックを設計する方法については、「自動化プロセスを設計する」を参照してください。

Adobe Sign アクティビティ

エージェントと履行者が プレイブック の実行中に オートメーションエンジン の Adobe Sign スポークを介して電子署名を収集できるようにします。

ロールと使用可用性

- これらのアクティビティは ServiceNow Store でアプリケーションとして利用できます。playbook.admi または pd_author ロールを持つユーザーは、これらのアクティビティを プレイブック に追加できます。
- オートメーションエンジン の Adobe Sign スポークへのアクセス権が必要です。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「 ドット連結の例 」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール]で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
グループレコード	選択肢	グループの接続および資格情報エイリアスを表すレコード。
添付ファイル	選択肢	署名するファイルまたはドキュメント
参加者のメール	文字列	署名者のメールアドレスのリスト
メール本文	文字列	署名者に表示されるメッセージ

出力

署名済みのレビュー可能なドキュメント。

高度な手順アクティビティ

プレイブックを通じてエンドユーザーをガイドする詳細な手順を表示します。

ロールと使用可用性

このアクティビティは共通アクティビティとして利用できます。admin、playbook.admin、pd_author、または pd_author を持つユーザーは、このアクティビティを プレイブック に追加できます。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「 ドット連結の例 」を参照してください。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール]で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
タイトル	文字列	エンドユーザーに表示されるタイトル。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
説明	文字列	エンドユーザーへのメッセージに表示する詳細。
ユーザー入力待ち	選択肢	エンドユーザーが手動でアクティビティを完了するかスキップするまで、プレイブックを一時停止するオプション。このフィールドを編集できるのは、playbook.admin ロールを持つユーザーのみです。デフォルトでは、アクティビティは完了する前にユーザーのアクションまたはデータを待機します。

詳細入力

アクティビティの必要な入力を設定した後に、追加の入力を設定することもできます。サイドパネルで、[他のオプションを表示] を選択して、これらの詳細入力を表示します。詳細については、「アクティビティエクスペリエンス」を参照してください。

入力	タイプ	説明
アサイン先グループ	Reference.Group [sys_user_group]	アクティビティに関連付けられているタスクの完了を担当するグループ。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
アサイン先	Reference.User [sys_user]	アクティビティに関連付けられているタスクの完了を担当するユーザー。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
キャッチコピー	文字列	エンドユーザーに表示するヘッダータグライン。
フッター	文字列	エンドユーザーに表示するフッターテキスト。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力

これらの出力は、プレイブック内の他のアクティビティにデータを提供できます。アクティビティを設定するときに、アクティビティ入力としてこのデータにアクセスできます。

出力	タイプ	説明
レコード	Reference.Task [task]	アクティビティに関連付けられたレコードへの参照。

テンプレートアクティビティからのチェックリストタスク

エージェントにタスクチェックリストのすべてのアイテムを完了するように求めます。

このアクティビティの主な入力は、[入力] セクションの [チェックリストのテンプレート] フィールドです。この入力を提供する前に、以下のことを実行する必要があります：

- チェックリストを作成、および
- ターゲットタスクテーブルのチェックリストテンプレートを作成します。

ロールと可用性

このアクティビティは共通アクティビティとして利用できます。admin、playbook.admin、pd_author、または pd_author を持つユーザーは、このアクティビティを プレイブック に追加できます。

一般的なプロパティ

これらのプロパティは、プロセスオートメーションデザイナー内のすべてのアクティビティに共通です。

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「ドット連結の例」を参照してください。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		イミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール] で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。

入力

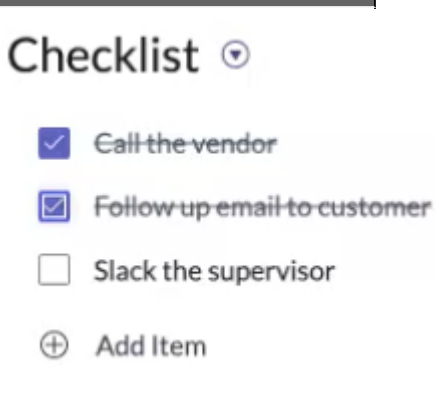
アクティビティの必要な入力を設定した後に、追加の入力を設定することもできます。サイドパネルで、[他のオプションを表示] を選択して、これらの詳細入力を表示します。詳細については、「アクティビティエクスペリエンス」を参照してください。

入力	タイプ	説明
アサイン先グループをスキップ	Reference.Group [sys_user_group]	[スキップ可能] が有効になっている場合にこのアクティビティをスキップできるグループ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		注: [スキップ可能] が有効で、[アサイン先グループをスキップ] または [アサイン先をスキップ] を指定しない場合、すべてのユーザーがこのアクティビティをスキップできます。
アサイン先をスキップ	Reference.User [sys_user]	[スキップ可能] が有効になっている場合にこのアクティビティをスキップできるユーザー。 注: [スキップ可能] が有効で、[アサイン先グループをスキップ] または [アサイン先をスキップ] を指定しない場合、すべてのユーザーがこのアクティビティをスキップできます。
チェックリストのテンプレート	Reference.Checklist Template [checklist_template]	実行ごとに作成するチェックリストのテンプレート。この入力を提供する前に、以下のことを実行する必要があります： • チェックリストを作成、および • ビジュアルタスクボードタスクのチェックリストテンプレートの作成
タスク	Reference.Task [task]	チェックリストアクティビティに関連付けるレコードへの参照。チェックリストは、関連するタスクレコードにも表示されます。 注: 特定のタスクレコードがチェックリストに関連付けられている場合、プレイブックを再度実行してもチェックリストの状態は変わりません。特定のタスクレコードを指定しない場合、実行ごとに新しいプライベートタスクレコードが作成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		
SLA の表示	True/False	タスクの SLA カウントダウンの詳細を表示するオプション。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
スキップ可能	True/False	エージェントがチェックリストをスキップしてプレイブックを続行できるようにするオプション。

出力

これらの出力は、プレイブック内の他のアクティビティにデータを提供できます。アクティビティを設定するときに、アクティビティ入力としてこのデータにアクセスできます。

出力	タイプ	説明
チェックリストタスク	Reference.Task [task]	このアクティビティが完了したときに更新されるタスクレコード。

UI レイアウト

プレイブックの実行中にアクティビティがどのようにレンダリングされるかを指定するプロパティを設定します。

チェックリストタスクアクティビティ

エージェントにタスクチェックリストのすべてのアイテムを完了するように求めます。

このアクティビティの主な入力は、[入力 (Inputs)] セクションの [チェックリストオーナー **(Checklist Owner)]** フィールド、[チェックリストアイテム] フィールド、および [チェックリスト名] フィールドです。

ロールと可用性

このアクティビティは共通アクティビティとして利用できます。admin、playbook.admin、pd_author、または pd_author を持つユーザーは、このアクティビティを プレイブック に追加できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

一般的なプロパティ

これらのプロパティは、プロセスオートメーションデザイナー内のすべてのアクティビティに共通です。

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「ドット連結の例」を参照してください。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール]で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

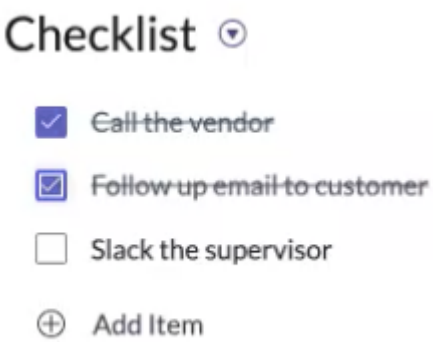
入力	タイプ	説明
		• 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。

入力

アクティビティの必要な入力を設定した後に、追加の入力を設定することもできます。サイドパネルで、[他のオプションを表示] を選択して、これらの詳細入力を表示します。詳細については、「アクティビティエクスペリエンス」を参照してください。

入力	タイプ	説明
アサイン先グループをスキップ	Reference.Group [sys_user_group]	[スキップ可能] が有効になっている場合にこのアクティビティをスキップできるグループ。 **注:** [スキップ可能] が有効で、[アサイン先グループをスキップ] または [アサイン先をスキップ] を指定しない場合、すべてのユーザーがこのアクティビティをスキップできます。
アサイン先をスキップ	Reference.User [sys_user]	[スキップ可能] が有効になっている場合にこのアクティビティをスキップできるユーザー。 **注:** [スキップ可能] が有効で、[アサイン先グループをスキップ] または [アサイン先をスキップ] を指定しない場合、すべてのユーザーがこのアクティビティをスキップできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
チェックリストオーナー	Reference.User [sys_user]	このチェックリストを所有するユーザー。
チェックリストアイテム	文字列	チェックリストに表示するアイテム。
チェックリスト名	文字列	表示するチェックリストの名前。
タスク	Reference.Task [task]	チェックリストアクティビティに関連付けるレコードへの参照。チェックリストは、関連するタスクレコードにも表示されます。 **注:** 特定のタスクレコードがチェックリストに関連付けられている場合、プレイブックを再度実行してもチェックリストの状態は変わりません。特定のタスクレコードを指定しない場合、実行ごとに新しいプライベートタスクレコードが作成されます。 
SLA の表示	True/False	タスクの SLA カウントダウンの詳細を表示するオプション。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
スキップ可能	True/False	エージェントがチェックリストをスキップしてプレイブックを続行できるようにするオプション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力

これらの出力は、プレイブック内の他のアクティビティにデータを提供できます。アクティビティを設定するときに、アクティビティ入力としてこのデータにアクセスできます。

出力	タイプ	説明
チェックリストタスク	Reference.Task [task]	このアクティビティが完了したときに更新されるタスクレコード。

UI レイアウト

プレイブックの実行中にアクティビティがどのようにレンダリングされるかを指定するプロパティを設定します。

ユーザーデータ収集アクティビティ

プレイブックの実行中にユーザーからの入力を収集し、後でプレイブックで使用します。

> **重要:** 26.1 リリースの時点で、[ユーザーデータの収集] アクティビティはアクティビティピッカーで使用できなくなりました。アクティビティはどこで使用されても引き続き機能しますが、新しいアクティビティの場合は、代わりに [アンケート] アクティビティを使用してください。[アンケート] アクティビティでは、データ定義を作成する必要はありません。[アンケート] アクティビティの詳細については、「アンケートアクティビティ」を参照してください。

以下の場合に、ユーザーデータ収集アクティビティを使用します。

- まだテーブルがない、
- 収集したデータについてレポートを作成する必要がない、
- および、プレイブックの外部でデータを使用する必要がない。

収集したデータを保存するテーブルがすでにある場合は、ユーザーフォームアクティビティを使用します。

このアクティビティの主な入力は、[入力] セクションの下にある [データコレクションのユーザーフォーム] フィールドです。この入力を提供するには、最初にデータ定義を作成する必要があります。

ロールと可用性

このアクティビティは共通アクティビティとして利用できます。admin、playbook.admin、pd_author、または pd_author を持つユーザーは、このアクティビティを プレイブック に追加できます。

プレイブックの実行中に、データ定義を使用して次のことを行うことができます。

- 出荷先を収集し、出荷ラベルを生成するときにその住所を参照する。
- ユーザーに「はい」または「いいえ」の質問をし、ユーザーの応答に基づいてその後のアクティビティを決定する。

一般的なプロパティ

これらのプロパティは、プロセスオートメーションデザイナー内のすべてのアクティビティに共通です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「ドット連結の例」を参照してください。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール]で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。

入力

これらの入力の多くは、プロセスオートメーションデザイナー内のアクティビティに共通です。このアクティビティの主な入力は、[データコレクションのユーザーフォーム] フィールドです。

アクティビティの必要な入力を設定した後に、追加の入力を設定することもできます。サイドパネルで、[他のオプションを表示] を選択して、これらの詳細入力を表示します。詳細については、「アクティビティエクスペリエンス」を参照してください。

入力	タイプ	説明
このプロセスステップのアサイン先グループ	Reference.Group [sys_user_group]	このプレイブックアクティビティの実行を許可されたアサイン先グループ。[アサイン先グループ] または [アサイン先] の値を設定しない場合、すべてのユーザーが収集されたデータを読み取り、編集できます。[アサイン先グループ] および [アサイン先] フィールドにより、アクセスして実行できるユーザーが制限されます。個々のユーザーのみを指定するには、[アサイン先] フィールドを使用します。同じユーザーを両方のフィールドに指定する必要はありません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		注: デフォルトでは、これらのフィールドはトリガーレコードの [アサイン先グループ] および [アサイン先] フィールドにマップされます。これは、親レコードで作業するようにアサインされたユーザーは、収集されたデータを送信、表示、編集するアクセス権をデフォルトで持っていることを意味します。
このプロセスステップにアサインされました	Reference.User [sys_user]	このプレイブックアクティビティの実行を許可されたユーザー。[アサイン先グループ] または [アサイン先] の値を設定しない場合、すべてのユーザーが収集されたデータを読み取り、編集できます。[アサイン先グループ] および [アサイン先] フィールドにより、アクセスして実行できるユーザーが制限されます。個々のユーザーのみを指定するには、[アサイン先] フィールドを使用します。同じユーザーを両方のフィールドに指定する必要はありません。 注: デフォルトでは、これらのフィールドはトリガーレコードの [アサイン先グループ] および [アサイン先] フィールドにマップされます。これは、親レコードで作業するようにアサインされたユーザーは、収集されたデータを送信、表示、編集するアクセス権をデフォルトで持っていることを意味します。
データコレクションのユーザーフォーム	選択肢	データの収集に使用される入力フォームのタイプ。プレイブック作成者は、プレイブックの実行中にエージェントまたは履行者に収集してもらいたいデータを `sys_flow_data_definition` テーブルで定義します。情報が収集されると、情報はレコードテーブルではな

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		く、sys_flow_data テーブルに保存され、後でプレイブックの実行時に使用できるようになります。エージェントまたは履行者に収集してもらうデータを定義するには、「データ定義を作成する」を参照してください。
ユーザー入力待ち	選択肢	エンドユーザーが手動でアクティビティを完了するかスキップするまで、プレイブックを一時停止するオプション。このフィールドを編集できるのは、playbook.admin ロールを持つユーザーのみです。デフォルトでは、アクティビティは完了する前にユーザーのアクションまたはデータを待機します。

出力

これらの出力は、プレイブック内の他のアクティビティにデータを提供できます。アクティビティを設定するときに、アクティビティ入力としてこのデータにアクセスできます。

出力	タイプ	説明
レコード	Reference.Flow データ	収集されたデータを含むレコードへの参照。ピルピッカーを使用して [出力] > [レコード] > [変数]にドット連結し、収集されたすべてのデータを表示します。ピルピッカーの詳細については、「ドット連結の例」を参照してください。

UI レイアウト

プレイブックの実行中にアクティビティがどのようにレンダリングされるかを指定するプロパティを設定します。

レコード作成アクティビティ

プレイブックを一時停止し、エンドユーザーにフォームビューでレコードを作成するように求めます。 このアクティビティを使用して、エンドユーザーがレコードを作成できるようにします。このアクティビティでは、レコードを作成する希望のテーブルと、エンドユーザーがレコードを作成するときに表示される希望のフォームビューを構成する必要があります。

ロールと使用可用性

このアクティビティは共通アクティビティとして利用できます。admin、playbook.admin、pd_author、または pd_author を持つユーザーは、このアクティビティを プレイブック に追加できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「 ドット連結の例 」を参照してください。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール]で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
テーブル	テーブル名	新しいレコードを挿入するテーブル。
レコードビューの作成	文字列	レコードの作成に使用されるフォームビュー。フォームビューを指定しない場合は、デフォルトのビューが使用されます。[新しいタブ] ボタン ( ) を使用して、フォームビルダーで新しいワークフロースタジオタブでフォームビューを開いて編集します。 注: ワークスペースでは、多くのフォームビューはサポートされていません。
テンプレートフィールド	テンプレート値	レコードの作成中に設定するフィールド値。

出力

これらの出力は、プレイブック内の他のアクティビティにデータを提供できます。アクティビティを設定するときに、アクティビティ入力としてこのデータにアクセスできます。

出力	タイプ	説明
テーブル	テーブル名	新しいレコードを含むテーブル。
レコードビューを作成する	文字列	レコードの作成に使用されるフォームビュー。
レコードの作成	Sys ID	このアクティビティが作成したレコードの一意の識別子。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デザインの検討

実行時にプレイブックにレンダリングするアクティビティのフォームビューを作成します。

ユーザーがレコードを作成するために必要なフィールドのみを表示するには、フォームビューを使用します。ビューには、必須フィールドまたは他のビジネスロジックによって検証されるフィールドが表示されます。「ビューの管理」を参照してください。

インタラクティブアクティビティの前に非インタラクティブアクティビティを実行する

[レコードを作成] アクティビティはユーザーからデータをインタラクティブに収集しますが、プレイブックが依存アクティビティを開始できないようにします。たとえば、[レコードの作成] アクティビティは、他のステージにある可能性がある [前回の後] アクティビティが開始されないようにします。可能な場合は、非インタラクティブアクティビティが、それをブロックする可能性があるインタラクティブアクティビティの前に実行されるようにプレイブックを設計します。

子ケース作成アクティビティ

エージェントと履行者が プレイブック の実行中に子ケースを作成できるようにします。

ロールと使用可用性

これらのアクティビティは ServiceNow Store でアプリケーションとして利用できます。playbook.admi または pd_author ロールを持つユーザーは、これらのアクティビティを プレイブック に追加できます。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「 ドット連結の例」を参照してください。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		• プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール] で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
親	選択肢	子ケースの親レコード。
アサイン先グループ	選択肢	子ケースがアサインされるユーザーグループ。
アサイン先	選択肢	子ケースがアサインされるユーザー。
簡単な説明	文字列	子ケースのサマリー。
説明	文字列	子ケースについて表示する詳細情報。
優先度	選択肢	子ケースの優先順位付けレベル。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
ユーザーからデータを収集	True/False	エンドユーザーが手動でアクティビティを完了するかスキップするまで、プレイブックを一時停止するオプション。このフィールドを編集できるのは、playbook.admin ロールを持つユーザーのみです。デフォルトでは、アクティビティは完了する前にユーザーのアクションまたはデータを待機します。

出力

子ケースレコード。

子タスク作成アクティビティ

エージェントと履行者が プレイブック の実行中に子タスクを作成できるようにします。

ロールと使用可用性

これらのアクティビティは ServiceNow Store でアプリケーションとして利用できます。playbook.admi または pd_author ロールを持つユーザーは、これらのアクティビティを プレイブック に追加できます。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「ドット連結の例」を参照してください。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		• プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール] で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
親	選択肢	子タスクの親レコード。
アサイン先グループ	選択肢	子タスクがアサインされるユーザーグループ。
アサイン先	選択肢	子タスクがアサインされるユーザー。
簡単な説明	文字列	子タスクのサマリー。
説明	文字列	子タスクについて表示する詳細情報。
優先度	選択肢	子タスクの優先順位付けレベル。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
ユーザーからデータを収集	True/False	エンドユーザーが手動でアクティビティを完了するかスキップするまで、プレイブックを一時停止するオプション。このフィールドを編集できるのは、playbook.admin ロールを持つユーザーのみです。デフォルトでは、アクティビティは完了する前にユーザーのアクションまたはデータを待機します。

出力

子タスクレコード。

DocuSign アクティビティ

エージェントと履行者が プレイブック の実行中に オートメーションエンジン の DocuSign スポークを介して電子署名を収集できるようにします。

ロールと使用可用性

- これらのアクティビティは ServiceNow Store でアプリケーションとして利用できます。playbook.admi または pd_author ロールを持つユーザーは、これらのアクティビティを プレイブック に追加できます。
- オートメーションエンジン の DocuSign スポークへのアクセス権が必要です。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「ドット連結の例」を参照してください。

ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

		イミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール] で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
添付ファイル	選択肢	署名するファイルまたはドキュメント
メール件名	文字列	署名者に送信されるメールの件名。
メール本文	文字列	署名者に表示されるメッセージ
署名者	選択肢	署名要求の送信先を指定する sys_user テーブルのユーザーレコード。
DocuSign アカウント	文字列	署名要求の送信元を指定する sn_docusign_spoke_accounts

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

		テーブルのアカウントレコード。

出力

署名済みのレビュー可能なドキュメント。

ガイド付きデシジョンアクティビティ

ガイド付きデシジョンフレームワークから意思決定ツリーを選択して、エージェントにタスクの進め方を示します。

ロールと使用可用性

このアクティビティは は App Engine または カスタマーサービス管理 (CSM) のサブスクリプションで利用できます。プロセスオートメーションデザイナー でこのアクティビティを有効にする方法の詳細については、「カスタマーサービス管理 (CSM) 向け プロセスオートメーションデザイナー の有効化」を参照してください。 です。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「 ドット連結の例 」を参照してください。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定した

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		ステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール] で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。

詳細入力

アクティビティの必要な入力を設定した後に、追加の入力を設定することもできます。サイドパネルで、[他のオプションを表示] を選択して、これらの詳細入力を表示します。詳細については、「アクティビティエクスペリエンス」を参照してください。

入力	タイプ	説明
意思決定ツリー	参照	ワークスペース Playbook で意思決定入力とガイダンスをエージェントに表示する意思決定ツリー [ga_decision_tree] レコード。ガイド付きディシジョンフレームワークの設定方法の詳細については、「ガイド付きディシジョン の構成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
タスク	参照	トリガーとなるケース [sn_customerservice_case] レコード。

出力

このアクティビティの出力はありません。

PaCE アクティビティを呼び出す

プロセスオートメーションデザイナー で ポリシーアズコードエンジン (PaCE) アクティビティを有効にして、プレイブックプロセスを開発します。

ロールと使用可用性

これらのアクティビティは、自動的に PaCE にバンドルされるアプリケーションの一部として利用できます。admin、pd_admin、pd_author、または pd_content_author を持つユーザーは、これらのアクティビティをプレイブックに追加できます。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「ドット連結の例」を参照してください。

名前	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。
開始時期	選択肢	アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • 即時：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 前の終了前 **(Before previous)**：指定されたアクティビティの実行が終了する前にアクティビティが開始されます。 • 前の終了後 **(After previous)**：指定したアク

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	タイプ	説明
		ティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。
サービス	文字列	PaCE API を呼び出す呼び出しサービス。
カテゴリ	文字列	カテゴリタイプ。
ポリシータグ	文字列	ポリシーのタグ名。
ドキュメント ID	Array.Object	ドキュメント ID の名前。
データ	JSON	考えられるすべての発信者入力を含むポリシー固有のデータ。
オプション	オブジェクト	ポリシーのオプション。

出力

出力はフローデザイナーで構成でき、自動化プランによって設定されます。

ラベル	タイプ
ルート実行 ID	Sys ID (GUID)
エラーとして扱わない	True/False (真/偽)
応答	JSON
アクションステータス	文字列

Microsoft Teams アクティビティ

エージェントと履行者が プレイブック の実行中に オートメーションエンジン の Microsoft Teams スポークを介してダイレクトメッセージを送信して Microsoft Teams チャネルに投稿できるようにします。

ロールと使用可用性

- これらのアクティビティは ServiceNow Store でアプリケーションとして利用できます。playbook.admi または pd_author ロールを持つユーザーは、これらのアクティビティを プレイブック に追加できます。
- オートメーションエンジン の Microsoft Teams スポークへのアクセス権が必要です。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「ドット連結の例」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティを実行するために満たさなければならない基準。前のアクティビティの出力データを使用して、このアクティビティの実行条件を作成できます。
開始時期	選択肢	アクティビティ実行のタイミングを指定するオプション。次のオプションがあります。 • [前回を含む]：アクティビティは、前のアクティビティと同じタイミングで実行されます。 • [前回の後]：アクティビティは、前のアクティビティの実行が完了した後にのみ実行されます。 • [即時]：アクティビティは、他のアクティビティを待機せずにすぐに実行されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
チャットのタイプ	選択肢	Microsoft Teams チャネルに投稿するか、ダイレクトメッセージにするかを選択します。
メッセージ	文字列	エンドユーザーに表示するメッセージテキスト。
チーム ID	文字列	Microsoft Teams メッセージの送信者。
チャネル名	文字列	メッセージが投稿される Microsoft Teams チャネル。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
送信先メンバー (To member)	文字列	メッセージが送信される Microsoft Teams ユーザー。

出力

Microsoft Teams チャネルに投稿されたメッセージ、またはダイレクトメッセージとして送信されたメッセージ。

マルチレベル承認要求アクティビティ

エージェントと履行者が プレイブック の実行中に承認要求を第 1 レベルと第 2 レベルのマネージャーに送信できるようにします。

ロールと使用可用性

これらのアクティビティは ServiceNow Store でアプリケーションとして利用できます。playbook.admi または pd_author ロールを持つユーザーは、これらのアクティビティを プレイブック に追加できます。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「 ドット連結の例 」を参照してください。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定した

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		ステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール] で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
アサイン先	選択肢	第 1 レベルおよび第 2 レベルのマネージャーによる承認の要求が生成される対象の個々のユーザー。
期日	日付/時刻	承認の期日。
コメント	文字列	承認者が承認要求にコメントを追加するためのオプション。
テーブル	選択肢	関連レコードを選択するテーブル。
レコード	選択肢	承認要求の関連レコード。

出力

承認要求のステータス。

アドホック承認要求アクティビティ

エージェントと履行者が プレイブック の実行中に、承認要求を完了すべきユーザーを指定できるようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールと使用可用性

これらのアクティビティは ServiceNow Store でアプリケーションとして利用できます。playbook.admi または pd_author ロールを持つユーザーは、これらのアクティビティを プレイブック に追加できます。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「ドット連結の例」を参照してください。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール]で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		ガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
承認者	選択肢	承認要求を受け取る個々のユーザー。
承認者グループ	選択肢	承認要求を受け取るユーザーグループ。
テーブル	選択肢	関連レコードを選択するテーブル。
レコード	選択肢	承認要求の関連レコード。

出力

- 承認要求のレコード。
- 承認要求の状況。

マネージャー承認要求アクティビティ

エージェントと履行者が プレイブック の実行中に承認要求をマネージャーに送信できるようにします。

ロールと使用可用性

これらのアクティビティは ServiceNow Store でアプリケーションとして利用できます。playbook.admi または pd_author ロールを持つユーザーは、これらのアクティビティを プレイブック に追加できます。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「 ドット連結の例 」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール]で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
テーブル名	選択肢	関連レコードを選択するテーブル。
レコード	選択肢	承認要求の関連レコード。
承認者	選択肢	承認要求を受け取る個々のユーザー。
期日	日付/時刻	承認の期日。
コメント	文字列	承認者が承認要求にコメントを追加するためのオプション。

出力

承認要求のレコード。

メール送信アクティビティ

以前に収集または生成されたデータからメールを作成します。 このアクティビティを使用してメールを送信します。このアクティビティでは、プレイブック作成者がメールの送信先、件名、および本文を定義する必要があります。このアクティビティでは、エンドユーザーがメールを送信する前に確認できるように、事前に定義されたメールの内容をエンドユーザーに表示します。

ロールと使用可用性

このアクティビティは共通アクティビティとして利用できます。admin、playbook.admin、pd_author、または pd_author を持つユーザーは、このアクティビティを プレイブック に追加できます。

入力

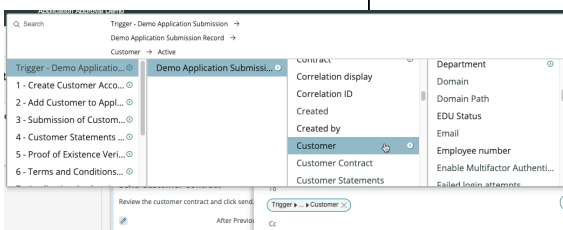
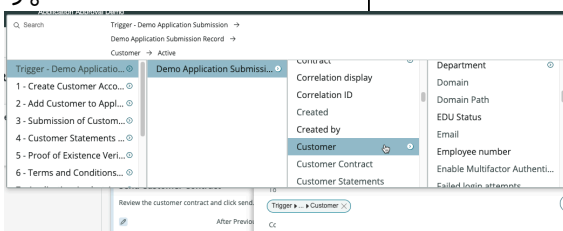
アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「ドット連結の例」を参照してください。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		のデータを使用して、条件を作成できます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール]で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
移動先	ユーザーのリスト	メールの受信者リスト。このフィールドを設定するには、次の 3 つの方法があります。 • 毎回同じアドレスにメールを送信する場合は、メールアドレスを文字列として入力します。 • メールアドレスの値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して、受信者のメールアドレスを見つける場所を示します。たとえば、クレジットカードの申請者ごとにメールアドレスが異なるため、却下されたことを自動的に申請者に通知する場合は、ピルピッカーを使用します。 申請者のメールアドレスはトリガーで見つかるので、トリガーから (アプリケーションが送信されたときに) 顧客レコードを選択します。  • プレイブックエクスペリエンスでは、プレイブックの実行中にエージェントまたは履行者にこの情報の入力を求める場合は、このフィールドを空白のままにすることができます。  注: このフィールドは、プレイブックの実行中に編集できます。
Cc	ユーザーのリスト	メールの Cc 受信者リスト。
件名	文字列	メールの件名。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
本文	HTML	メールの本文。
ユーザー入力待ち	選択肢	エンドユーザーが手動でアクティビティを完了するかスキップするまで、プレイブックを一時停止するオプション。このフィールドを編集できるのは、playbook.admin ロールを持つユーザーのみです。デフォルトでは、アクティビティは完了する前にユーザーのアクションまたはデータを待機します。
キャッチコピー	文字列	エンドユーザーに表示するアクティビティタグライン。
レコードフィールド	参照	メールに必要な追加のレコードフィールド。 **注:** このフィールドは、プレイブックの実行中には編集できません。
フッター	文字列	メールのフッターコンテンツ。フッターを文字列として入力するか、ピルピッカーを使用して、メールの下部に表示するデータ（タイムスタンプなど）を参照できます。 **注:** このフィールドは、プレイブックの実行中には編集できません。
フォームビュー	文字列	メールの送信に使用するフォームビュー。フォームビューを指定しない場合は、デフォルトのビューが使用されます。[新しいタブ] ボタン ( ) を使用して、フォームビルダーで新しいワークフロースタジオタブでフォームビューを開いて編集します。 **注:** ワークスペースでは、多くのフォームビューはサポートされていません。
フォームのフィールド	参照	プレイブックアクティビティカードに必要な追加フィールド。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		注: このフィールドは、プレイブックの実行中には編集できません。

詳細入力

アクティビティの必要な入力を設定した後に、追加の入力を設定することもできます。サイドパネルで、[他のオプションを表示] を選択して、これらの詳細入力を表示します。詳細については、「アクティビティエクスペリエンス」を参照してください。

入力	タイプ	説明
アサイン先	Reference.User [sys_user]	アクティビティに関連付けられているタスクの完了を担当するユーザー。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
アサイン先グループ	Reference.Group [sys_user_group]	アクティビティに関連付けられているタスクの完了を担当するグループ。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
宛先のメールアドレス	文字列	メールアドレスをカンマで区切って列挙
Cc のメールアドレス	文字列	Cc されたメールアドレスのカンマ区切りのリスト。
Bcc	ユーザーのリスト	メールの Bcc 受信者リスト。
Bcc のメールアドレス	文字列	Bcc されたメールアドレスのカンマ区切りのリスト。
ターゲットレコード	Reference.Task [task]	システムがメールを添付するレコードへの参照。
テーブル	テーブル名	アクティビティまたはプレイブックデータを含むテーブル。

出力

これらの出力は、プレイブック内の他のアクティビティにデータを提供できます。アクティビティを設定するときに、アクティビティ入力としてこのデータにアクセスできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力	タイプ	説明
オートメーション	True/False	フローが自動的に完了するか、ユーザー入力を要求するか。**True** に設定すると、プレイブックエクスペリエンス のアクティビティカードに自動タスクのキャッチコピーが表示されます。
レコード	Reference.Task[task]	作成されたレコードへの参照。
メール	Reference.Notification[sysevent_email_action]	新しく作成されたメール通知レコードへの参照

ナレッジ記事表示アクティビティ

ナレッジ記事をエンドユーザーに表示します。

ロールと使用可用性

このアクティビティは共通アクティビティとして利用できます。admin、playbook.admin、pd_author、または pd_author を持つユーザーは、このアクティビティを プレイブック に追加できます。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「ドット連結の例」を参照してください。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		• プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール] で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
タイトル	文字列	エンドユーザーに表示されるタイトル。
ナレッジ記事	Reference.Knowledge [kb_knowledge]	エンドユーザーに表示するナレッジ記事。
ユーザー入力待ち	選択肢	エンドユーザーが手動でアクティビティを完了するかスキップするまで、プレイブックを一時停止するオプション。このフィールドを編集できるのは、playbook.admin ロールを持つユーザーのみです。デフォルトでは、アクティビティは完

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		了する前にユーザーのアクションまたはデータを待機します。

詳細入力

アクティビティの必要な入力を設定した後に、追加の入力を設定することもできます。サイドパネルで、[他のオプションを表示] を選択して、これらの詳細入力を表示します。詳細については、「アクティビティエクスペリエンス」を参照してください。

入力	タイプ	説明
アサイン先グループ	Reference.Group [sys_user_group]	アクティビティに関連付けられているタスクの完了を担当するグループ。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
アサイン先	Reference.User [sys_user]	アクティビティに関連付けられているタスクの完了を担当するユーザー。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。

出力

これらの出力は、プレイブック内の他のアクティビティにデータを提供できます。アクティビティを設定するときに、アクティビティ入力としてこのデータにアクセスできます。

出力	タイプ	説明
レコード	Reference.Task[task]	アクティビティに関連付けられたレコードへの参照。

レコードリスト表示アクティビティ

一連の条件に一致するリストレコードを表示します。

ロールと使用可用性

- このアクティビティは共通アクティビティとして利用できます。admin、playbook.admin、pd_author、または pd_author を持つユーザーは、このアクティビティを プレイブック に追加できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「 ドット連結の例 」を参照してください。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール]で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
テーブル	テーブル名	エンドユーザーに表示するレコードを含むテーブル。
表示するフィールド	文字列	リストの列として表示するフィールドのカンマ区切りリスト。
ユーザー入力待ち	選択肢	エンドユーザーが手動でアクティビティを完了するかスキップするまで、プレイブックを一時停止するオプション。このフィールドを編集できるのは、playbook.admin ロールを持つユーザーのみです。デフォルトでは、アクティビティは完了する前にユーザーのアクションまたはデータを待機します。

詳細入力

アクティビティの必要な入力を設定した後に、追加の入力を設定することもできます。サイドパネルで、[他のオプションを表示] を選択して、これらの詳細入力を表示します。詳細については、「アクティビティエクスペリエンス」を参照してください。

入力	タイプ	説明
アサイン先グループ	Reference.Group [sys_user_group]	アクティビティに関連付けられているタスクの完了を担当するグループ。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
アサイン先	Reference.User [sys_user]	アクティビティに関連付けられているタスクの完了を担当するユーザー。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
条件	条件ビルダー	レコードリストが満たすべき基準。

出力

これらの出力は、プレイブック内の他のアクティビティにデータを提供できます。アクティビティを設定するときに、アクティビティ入力としてこのデータにアクセスできます。

出力	タイプ	説明
レコード	Reference.Task [task]	アクティビティに関連付けられたレコードへの参照。
フィールド	文字列	リストの列として表示するシステムフィールド名のカンマ区切りリスト。

Slack アクティビティ

エージェントと履行者が プレイブック の実行中に オートメーションエンジン の Slack スポークを介してダイレクトメッセージを送信して Slack チャネルに投稿できるようにします。

ロールと使用可用性

- これらのアクティビティは ServiceNow Store でアプリケーションとして利用できます。playbook.admi または pd_author ロールを持つユーザーは、これらのアクティビティを プレイブック に追加できます。
- オートメーションエンジン の Slack スポークへのアクセス権が必要です。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「ドット連結の例」を参照してください。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		のデータを使用して、条件を作成できます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール]で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
チャネル/メンバー ID	文字列	メッセージが送信される Slack チャネルまたはメンバー。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
メッセージ	文字列	エンドユーザーに表示するメッセージテキスト。
ブロック	文字列	エンドユーザーへのメッセージに含めるコードブロック。
ユーザー名	文字列	Slack メッセージの送信者。
アイコン	文字列	送信者の Slack ユーザープロファイルアイコン。
ユーザーからデータを収集	True/False	エンドユーザーが手動でアクティビティを完了するかスキップするまで、プレイブックを一時停止するオプション。このフィールドを編集できるのは、playbook.admin ロールを持つユーザーのみです。デフォルトでは、アクティビティは完了する前にユーザーのアクションまたはデータを待機します。

出力

Slack チャネルに投稿されたメッセージ、またはダイレクトメッセージとして送信されたメッセージ。

2 ステップの手順アクティビティ

現在のアクティビティステータスに基づいて、エンドユーザーに異なるメッセージを表示します。初期ステータスメッセージ、スキップされたステータスメッセージ、および完了ステータスメッセージを指定できます。

ロールと使用可用性

- このアクティビティは共通アクティビティとして利用できます。admin、playbook.admin、pd_author、または pd_author を持つユーザーは、このアクティビティを プレイブック に追加できます。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「 ドット連結の例 」を参照してください。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		のデータを使用して、条件を作成できます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール]で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
初期メッセージ	文字列	アクティビティステータスが [処理中] の場合にエンドユー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		ザーに表示するメッセージテキスト。
完了メッセージ	文字列	アクティビティステータスが [完了] の場合にエンドユーザーに表示するメッセージテキスト。
スキップされたメッセージ	文字列	アクティビティステータスが [スキップ] の場合にエンドユーザーに表示するメッセージテキスト。

詳細入力

アクティビティの必要な入力を設定した後に、追加の入力を設定することもできます。サイドパネルで、[他のオプションを表示] を選択して、これらの詳細入力を表示します。詳細については、「アクティビティエクスペリエンス」を参照してください。

入力	タイプ	説明
アサイン先グループ	Reference.Group [sys_user_group]	アクティビティに関連付けられているタスクの完了を担当するグループ。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
アサイン先	Reference.User [sys_user]	アクティビティに関連付けられているタスクの完了を担当するユーザー。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。

出力

これらの出力は、プレイブック内の他のアクティビティにデータを提供できます。アクティビティを設定するときに、アクティビティ入力としてこのデータにアクセスできます。

出力	タイプ	説明
レコード	Reference.Task[task]	アクティビティに関連付けられたレコードへの参照。

レコード更新アクティビティ

指定したフィールド値を持つレコードを更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールと使用可用性

- このアクティビティは共通アクティビティとして利用できます。admin、playbook.admin、pd_author、または pd_author を持つユーザーは、このアクティビティを プレイブック に追加できます。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「ドット連結の例」を参照してください。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール]で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		ガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
テーブル	テーブル名	更新するレコードを含むテーブル。
レコード	参照	更新するレコードへの参照。
フィールド	テンプレート値	レコードの更新中に変更するフィールド値。
ユーザー入力待ち	選択肢	エンドユーザーが手動でアクティビティを完了するかスキップするまで、プレイブックを一時停止するオプション。このフィールドを編集できるのは、playbook.admin ロールを持つユーザーのみです。デフォルトでは、アクティビティは完了する前にユーザーのアクションまたはデータを待機します。

詳細入力

アクティビティの必要な入力を設定した後に、追加の入力を設定することもできます。サイドパネルで、[他のオプションを表示] を選択して、これらの詳細入力を表示します。詳細については、「アクティビティエクスペリエンス」を参照してください。

入力	タイプ	説明
アサイン先グループ	Reference.Group [sys_user_group]	アクティビティに関連付けられているタスクの完了を担当するグループ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
アサイン先	Reference.User [sys_user]	アクティビティに関連付けられているタスクの完了を担当するユーザー。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
更新後に表示するフィールド	文字列	更新されたレコードに表示するフィールドのカンマ区切りリスト。

出力

これらの出力は、プレイブック内の他のアクティビティにデータを提供できます。アクティビティを設定するときに、アクティビティ入力としてこのデータにアクセスできます。

出力	タイプ	説明
テーブル	テーブル名	更新されたレコードを含むテーブル。
レコード	ドキュメント ID	更新されたレコードへの参照。

デザインの検討

プレイブックにレンダリングするアクティビティのフォームビューを作成する

ユーザーがレコードを更新するために必要なフィールドのみを表示するには、フォームビューを使用します。ビューには、必須フィールドまたは他のビジネスロジックによって検証されるフィールドが表示されます。「ビューの管理」を参照してください。

インタラクティブアクティビティの前に非インタラクティブアクティビティを実行する

[レコードを更新] アクティビティはユーザーからデータをインタラクティブに収集しますが、プレイブックが依存アクティビティを開始できないようにします。たとえば、[レコードを更新] アクティビティは、他のステージにある可能性がある [前回の後] アクティビティが開始されないようにします。可能な場合は、非インタラクティブアクティビティが、それをブロックする可能性があるインタラクティブアクティビティの前に実行されるようにプレイブックを設計します。

承認要求表示アクティビティ

プレイブックエクスペリエンス 内からの承認要求のリストを表示します。

ロールと使用可用性

これらのアクティビティは ServiceNow Store でアプリケーションとして利用できます。playbook.admi または pd_author ロールを持つユーザーは、これらのアクティビティを プレイブック に追加できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「ドット連結の例」を参照してください。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール]で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
テーブル	選択肢	承認要求を選択するテーブル。
条件	条件ビルダー	承認要求のリストが満たすべき基準。

詳細入力

アクティビティの必要な入力を設定した後に、追加の入力を設定することもできます。サイドパネルで、[他のオプションを表示] を選択して、これらの詳細入力を表示します。詳細については、「アクティビティエクスペリエンス」を参照してください。

入力	タイプ	説明
順番	文字列	レコードリストをソートするために使用するフィールド。
ソートタイプ	選択肢	レコードをアルファベット順またはアルファベットの逆順にソートするオプション。
結果の最大数	整数	エンドユーザーに表示する結果の最大数。

条件待ちアクティビティ

レコードのフィールド値が条件のセットに一致するまで、プレイブックを一時停止します。

ロールと使用可用性

- このアクティビティは共通アクティビティとして利用できます。admin、playbook.admin、pd_author、または pd_author を持つユーザーは、このアクティビティを プレイブック に追加できます。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「 ドット連結の例 」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール]で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
レコード	参照	条件が一致するまでプレイブックを一時停止するレコードへの参照。
テーブル	テーブル名	更新するレコードを含むテーブル。
条件	テンプレート値	プレイブックを続行するためにレコードが満たす必要がある基準。

詳細入力

アクティビティの必要な入力を設定した後に、追加の入力を設定することもできます。サイドパネルで、[他のオプションを表示] を選択して、これらの詳細入力を表示します。詳細については、「アクティビティエクスペリエンス」を参照してください。

入力	タイプ	説明
タイムアウト有効化	選択肢	指定された期間が経過しても条件が満たされない場合に、[条件待ち] アクティビティをタイムアウトにするオプション。
期間	日付/時刻	アクティビティがタイムアウトになってステータスが [スキップ] に設定されるまでの待機時間。この入力では、 [タイムアウト有効化] の入力を設定する必要があります。
スケジュール	選択肢	期間の値を計算するために使用されるスケジュール。この入力では、 [タイムアウト有効化] の入力を設定する必要があります。

出力

条件待ちアクティビティには出力がありません。

非インタラクティブアクティビティ

非インタラクティブアクティビティ 完全にバックグラウンドで実行されます は Now Platform® 上にあり、ユーザー入力を必要としません。

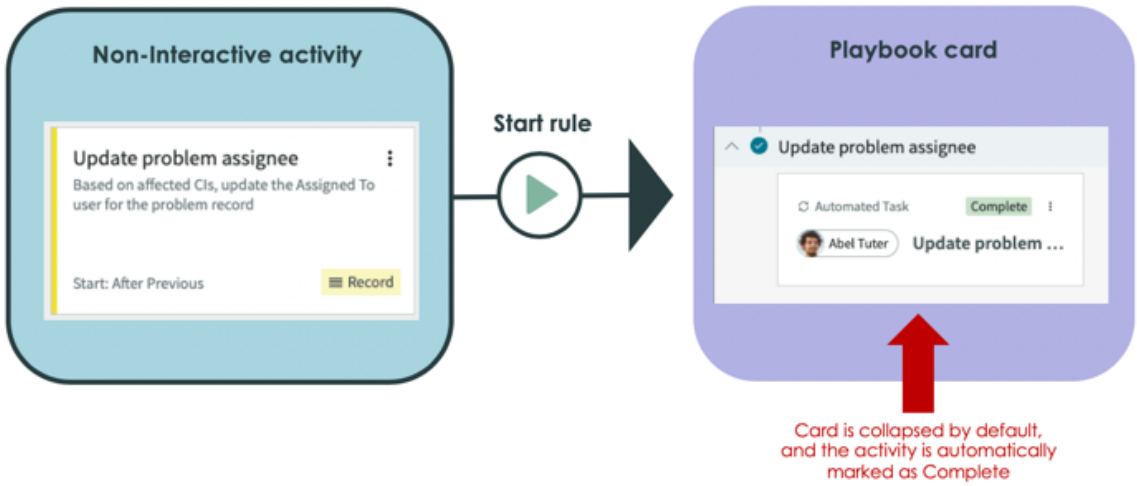
非インタラクティブアクティビティは、Now Platform に対する完全に自動化された操作であり、完了するためにユーザー入力を必要としません。非インタラクティブアクティビティもプレイブックにレンダリングされますが、エージェントに情報が表示されるだけです。アクティビティが Now

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Platform で完全に自動化された操作になるように、インタラクティブアクティビティのアクティビティ入力を設定します。

非インタラクティブアクティビティが実行されると、自動的に完了に進むか、スキップされます。たとえば、アクティビティがレコードのアサイン先ユーザーを自動的に更新する場合、プレイブックカードは新しく更新されたアサイン先ユーザーの名前を プレイブックエージェントに表示できますが、カードのステータスは自動的に [完了] に設定されます。

非インタラクティブアクティビティ



非インタラクティブアクティビティは、プレイブックで折りたたまれて完了とマークされたアクティビティカードに変わります。プレイブックは、プレイブックエージェントからの入力なしで実行を続行します。

非インタラクティブアクティビティを使用してプレイブックを設計する方法については、「自動化プロセスを設計する」を参照してください。

自動レコード作成アクティビティ

ユーザー入力を求めるプレイブックを一時停止せずにレコードを作成します。アクティビティが実行されると、すぐにレコードが作成され、プレイブック内の次のアクティビティに進みます。レコードは、データポリシー、ビジネスルール、辞書定義された必須項目など、サーバー側の検証ルールを満たす必要がありますが、UI ポリシーは無視します。

ロールと使用可用性

- このアクティビティは共通アクティビティとして利用できます。admin、playbook.admin、pd_author、または pd_author を持つユーザーは、このアクティビティを プレイブック に追加できます。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「 ドット連結の例 」を参照してください。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール]で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
テーブル名	テーブル名	新しいレコードを作成するテーブル。
フィールド	テンプレート値	レコードの作成中に設定するフィールド値。

出力

これらの出力は、プレイブック内の他のアクティビティにデータを提供できます。アクティビティを設定するときに、アクティビティ入力としてこのデータにアクセスできます。

出力	タイプ	説明
テーブル名	テーブル名	新しいレコードを含むテーブル。
レコード	Reference.Task [task]	作成されたレコードへの参照。

自動メール送信アクティビティ

ユーザー入力を求めるプレイブックを一時停止することなく、以前に収集または生成されたデータからメールを作成します。アクティビティが実行されると、すぐにメールが送信され、プレイブック内の次のアクティビティに進みます。

ロールと使用可用性

このアクティビティは共通アクティビティとして利用できます。admin、playbook.admin、pd_author、または pd_author を持つユーザーは、このアクティビティを プレイブック に追加できます。

入力

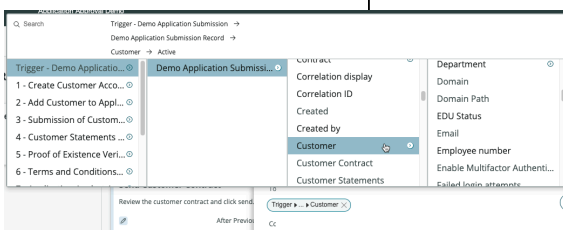
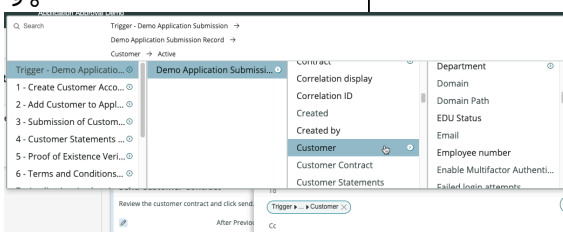
アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「ドット連結の例」を参照してください。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール]で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
移動先	ユーザーのリスト	メールの受信者リスト。このフィールドを設定するには、次の 3 つの方法があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		• 毎回同じアドレスにメールを送信する場合は、メールアドレスを文字列として入力します。 • メールアドレスの値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して、受信者のメールアドレスを見つける場所を示します。たとえば、クレジットカードの申請者ごとにメールアドレスが異なるため、却下されたことを自動的に申請者に通知する場合は、ピルピッカーを使用します。 申請者のメールアドレスはトリガーで見つかるので、トリガーから (アプリケーションが送信されたときに) 顧客レコードを選択します。  • プレイブックエクスペリエンスでは、プレイブックの実行中にエージェントまたは履行者にこの情報の入力を求める場合は、このフィールドを空白のままにすることができます。  **注:** このフィールドは、プレイブックの実行中に編集できます。
Cc	ユーザーのリスト	メールの Cc 受信者リスト。
件名	文字列	メールの件名。
本文	HTML	メールの本文。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細入力

アクティビティの必要な入力を設定した後に、追加の入力を設定することもできます。サイドパネルで、[他のオプションを表示] を選択して、これらの詳細入力を表示します。詳細については、「アクティビティエクスペリエンス」を参照してください。

入力	タイプ	説明
宛先のメールアドレス	文字列	メールアドレスをカンマで区切って列挙
Cc のメールアドレス	文字列	Cc されたメールアドレスのカンマ区切りのリスト。
Bcc	ユーザーのリスト	メールの Bcc 受信者リスト。
Bcc のメールアドレス	文字列	Bcc されたメールアドレスのカンマ区切りのリスト。
ターゲットレコード	Reference.Task [task]	システムがメールを添付するレコードへの参照。
テーブル	テーブル名	アクティビティまたはプレイブックデータを含むテーブル。

出力

これらの出力は、プレイブック内の他のアクティビティにデータを提供できます。アクティビティを設定するときに、アクティビティ入力としてこのデータにアクセスできます。

出力	タイプ	説明
レコード	Reference.Task[task]	作成されたレコードへの参照。
メール	Reference.Notification[sysevent_email_action]	新しく作成されたメール通知レコードへの参照

自動レコード更新アクティビティ

ユーザー入力を求めるプレイブックを一時停止することなくレコードを更新します。アクティビティが実行されると、すぐにレコードが更新され、プレイブック内の次のアクティビティに進みます。レコードは、データポリシー、ビジネスルール、辞書定義された必須項目など、サーバー側の検証ルールを満たす必要がありますが、UI ポリシーは無視します。

ロールと使用可用性

- このアクティビティは共通アクティビティとして利用できます。admin、playbook.admin、pd_author、または pd_author を持つユーザーは、このアクティビティを プレイブック に追加できます。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「 ドット連結の例 」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール]で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
レコード	参照	更新するレコードへの参照。
テーブル	テーブル名	更新するレコードを含むテーブル。
フィールド	テンプレート値	レコードの更新中に変更するフィールド値。

出力

これらの出力は、プレイブック内の他のアクティビティにデータを提供できます。アクティビティを設定するときに、アクティビティ入力としてこのデータにアクセスできます。

出力	タイプ	説明
テーブル	テーブル名	更新されたレコードを含むテーブル。
レコード	Reference.Task[task]	更新されたレコードへの参照。

ユーザーフォームのオートコンプリート

実行時にフォームを表示して、プレイブック の入力値を収集します。

ロールと使用可用性

このアクティビティは共通アクティビティとして利用できます。admin、playbook.admin、pd_author、または pd_author を持つユーザーは、このアクティビティを プレイブック に追加できます。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「 ドット連結の例 」を参照してください。

入力	タイプ	説明
完了条件	条件ビルダー	アクティビティを完了してレコードを保存するために満たす必要がある基準。

詳細入力

アクティビティの必要な入力を設定した後に、追加の入力を設定することもできます。サイドパネルで、[他のオプションを表示] を選択して、これらの詳細入力を表示します。詳細については、「アクティビティエクスペリエンス」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明

出力

これらの出力は、プレイブック内の他のアクティビティにデータを提供できます。アクティビティを設定するときに、アクティビティ入力としてこのデータにアクセスできます。

レコード検索アクティビティ

一連の条件に一致するシステムレコードを検索します。

ロールと使用可用性

- このアクティビティは共通アクティビティとして利用できます。admin、playbook.admin、pd_author、または pd_author を持つユーザーは、このアクティビティを プレイブック に追加できます。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「ドット連結の例」を参照してください。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定した

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		ステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール] で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 **注:** このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
テーブル	テーブル名	レコードを検索するテーブル。
条件	条件ビルダー	レコードリストが満たすべき基準。

詳細入力

アクティビティの必要な入力を設定した後に、追加の入力を設定することもできます。サイドパネルで、[他のオプションを表示] を選択して、これらの詳細入力を表示します。詳細については、「アクティビティエクスペリエンス」を参照してください。

入力	タイプ	説明
順番	文字列	レコードリストをソートするために使用するフィールド。
ソートタイプ	選択肢	レコードをアルファベット順またはアルファベットの逆順にソートするオプション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
結果の最大数	整数	エンドユーザーに表示する結果の最大数。

出力

これらの出力は、プレイブック内の他のアクティビティにデータを提供できます。アクティビティを設定するときに、アクティビティ入力としてこのデータにアクセスできます。

出力	タイプ	説明
レコード	レコード	指定した条件を満たすレコードへの参照
カウント	整数	見つかったレコードの数

[意思決定 - 最初の一致 **(Make a Decision-First Match)]** アクティビティ

ディシジョンテーブルでルールを実行します。このアクティビティは実行されるとすぐに終了し、プロセスの実行を続行します。アクティビティは、ルールのランクに基づいて、最初に一致した意思決定ルールの結果を返します。すべての一致ルールから結果を返すには、ディシジョンテーブルをサブフローに追加します。

ロールと使用可用性

このアクティビティは共通アクティビティとして利用できます。admin、playbook.admin、pd_author、または pd_author を持つユーザーは、このアクティビティを プレイブック に追加できます。

入力

アクティビティのプロパティパネルを開き、次の入力の値を追加するようにアクティビティを設定します。入力値が異なる場合は、ピルピッカーを使用して値を取得する場所を示します。ピルピッカーの詳細については、「 ドット連結の例 」を参照してください。

注: 実行するディシジョンテーブルを選択する必要があります。追加の入力と出力は、ディシジョンテーブルに基づいて動的になります。

入力	タイプ	説明
ラベル	文字列	アクティビティおよびプレイブックカードとして表示するタイトル。
説明	文字列	アクティビティの使用状況または結果について表示する情報。
実行条件	条件ビルダー	アクティビティまたはステージを実行するために満たす必要がある条件。前のアクティビティのデータを使用して、条件を作成できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
		注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
開始ルール	選択肢	[スケジュール] > [開始ルール]で、ステージの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • プロセスの開始時期：プレイブックが開始されるとすぐにステージの実行が開始されます。 • 特定のステージの後**(After specific stages)**：指定したステージの実行が終了した後にステージの実行が開始されます。 [スケジュール] > [開始ルール]で、アクティビティの実行開始タイミングに関する開始ルールを選択します。 • ステージ開始時 **(When stage starts)**：ステージの実行が開始されるとすぐにアクティビティの実行が開始されます。プレイブックがトリガーされるとステージの実行が開始されます。 • 特定のアクティビティの後 **(After specific activities)**：指定したアクティビティの実行が終了した後にアクティビティの実行が開始されます。
遅延から開始	True/False	アクティビティまたはステージを実行する前に一定時間待機するオプション。有効にすると、この入力には 遅延入力プロパティから開始 が表示されます。 注: このフィールドを表示するには、[他のオプションを表示] を選択します。
テーブル名	テーブル名	新しいレコードを作成するテーブル。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	タイプ	説明
フィールド	テンプレート値	レコードの作成中に設定するフィールド値。

出力

これらの出力は、プレイブック内の他のアクティビティにデータを提供できます。アクティビティを設定するときに、アクティビティ入力としてこのデータにアクセスできます。

出力	タイプ	説明
テーブル名	テーブル名	新しいレコードを含むテーブル。
レコード	Reference.Task [task]	作成されたレコードへの参照。

フロー、サブフロー、およびアクションの参照

アクション、フローロジック、プロパティなどの ワークフロースタジオ フローコンポーネントの詳細を取得します。

コンポーネントタイプ別の利用可能な参照

ワークフロースタジオ コンポーネント	利用可能な参照
フロー	• フローのタイプとフローを使用するタイミング • ワークフロースタジオ フロートリガータイプ • ワークフロースタジオ アクション • ワークフロースタジオ フローロジック • フローのユーザー設定
サブフロー	• フローのタイプとフローを使用するタイミング • ワークフロースタジオ アクション • ワークフロースタジオ フローロジック • フローのユーザー設定
アクション	• ワークフロースタジオ の入力データおよび出力データ変数 • ワークフロースタジオ のステップ • サポートされる サービスカタログ 変数タイプ
すべて	• ワークフロースタジオ フロー、サブフロー、およびアクションに関する一般的なガイドライン • 変換関数

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンポーネントタイプ別の利用可能な参照 (続く)

ワークフロースタジオ コンポーネント	利用可能な参照
	• ワークフロースタジオ フロー統合 • ワークフロースタジオ フローシステムプロパティ

ワークフロースタジオ フロー、サブフロー、およびアクションに関する一般的なガイドライン

ワークフロースタジオ コンポーネントをより効果的に作成、実行、トラブルシューティング、および監視します。これらのガイドラインを使用して、ワークフロースタジオ コンポーネントのパフォーマンスを最適化します。

ワークフロースタジオ の概要

ワークフローの作成、構成、および監視を単一のページエクスペリエンスに統合します。プレイブック、フロー、アクション、ディシジョンテーブル、統合を 1 つの設計環境に統合します。

アプリケーション開発

アクションまたはフローを設計するときは、次の一般的なガイドラインに従います。

標準の Now Platform アプリケーション開発機能を使用して、フローデザイナーのコンテンツを作成、管理、保護、および展開してください。フローデザイナーおよびアクションデザイナーは、通常は次のアプリケーション開発タスクを実行します。

- フローやアクションを格納するカスタムアプリケーションを作成します。
- アプリケーションのアクセス許可を設定して、アプリケーションデータへのアクセスを共有または制限します。
- フローデザイナーへのアクセスをアプリケーション開発者に許可します。
- カスタムアプリケーションをアプリケーションリポジトリに公開して、フローやアクションを他のインスタンスに展開します。

フロー

フローは、短いモジュール型の再利用可能な作業の集合にする必要があります。実行に 1 時間以上かかる場合は、長すぎる可能性があり、より効率的にすることができます。

フローに適用される一般的なガイドラインはすべてサブフローにも適用されます。

競合するビジネスロジックや重複するビジネスロジックを回避する

自動化は、フローデザイナー、ビジネスルール、ワークフロー、および統合ハブを使用して作成できます。フローデザイナー の使用を開始する前に、既存の Now Platform の自動化がどのように機能するかを理解してください。フローデザイナー フローおよびアクションに置き換える前に、自動化を無効にします。「アーキテクチャの概要」を参照して、フローデザイナー が Now Platform 内でどのように機能するかを確認してください。

必要に応じて、フロー、サブフロー、およびアクションのドキュメントを確認してください。

フローにトリガーまたは変数の入力が必要かどうかを判断する

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローは常にトリガー条件が満たされたときに実行され、トリガーは常にフローの入力として同じデータを提供します。フローを開始するために代わりに変数の入力が必要な場合は、サブフローを作成します。

ビジネスロジックを再利用する

一連の再利用可能な操作をサブフローとして作成し、それを複数のフローで使用できます。

ロールで保護されたデータにアクセスしてユーザー情報を保持するにはフローロールを付与

フローロールは、フローの権限をシンプルに保つのに役立ちます。システムユーザーとしてフローを実行する代わりに、フローロールを使用してユーザー情報を保持し、データへのアクセスを許可します。フローロールを追加すると、ユーザーが開始したフローに通常含まれない追加のデータにアクセスすることもできます。付与されたロールはフローにのみ適用されます。フローを開始したユーザーには適用されません。

フローのタイミングを制御するにはフローロジックまたはスケジュールベースのトリガーを使用

フローロジックまたはスケジュールベースのトリガーは、フローのパフォーマンスを最適化するのに役立ちます。フロー内で待機するために、`gs.sleep()` メソッドを使用しないでください。`gs.sleep()` メソッドを使用すると、スレッドで他の作業を実行できなくなります。特定の時間にフローを実行するには、スケジュールベースのトリガーを使用します。特定の期間フローを一時停止するには、[期間が終わるまで待機] または [条件待ち] フローロジックを使用します。

依存関係を回避する

ブランチが別のブランチからの出力を待機する必要がある場合、互いに依存する並列ブランチはフローを停止します。フロー内で並列ブランチを作成する代わりに、サブフローを呼び出して結果をメインフローに返します。

スコープループカウンター

スクリプトループには最大反復数がないため、有効な終了条件がない場合はループが無限に実行されます。

有効な終了条件があることを確認するには、インラインスクリプトまたはアクション内のスクリプトステップでスコープループカウンターを使用します。`for (i=0; i< length; i++)` :`for (var i=0; i< length; i++)` に `var` を追加します。

For Each および Do Until ループの反復回数を 1000 に制限

1000 以上のループがある反復では、実行の詳細とコンテキストレコードを保存する必要があるため、メモリの問題が発生する可能性があります。

- [レコードを検索] の最大レコード数を設定します。
- プロパティ sn_flow_designer.max_iterations は変更しないでください。デフォルトは 1000 です。
- ネストされたループの場合、各ループには独自の最大反復回数があります。
- 大量のデータ処理の場合は、小さなバッチに分割することを検討してください。
- 一括インポートの場合は、同時インポート を検討してください。

実行を高速化するための QuickAPI の使用 (ビジネスルールの代替)

- QuickAPI は非常に高速に実行されますが、デバッグ機能は少なくなります。
- フォアグラウンドの QuickAPI 実行は、フローを呼び出したユーザーとしてユーザーセッションで実行されます。
- バックグラウンドの QuickAPI 実行は、バックグラウンドスレッドで実行され、「システム」ユーザーセッションで実行されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フロー自体からフローを呼び出す代わりに Do Until ループを使用する

フローがフロー自体を呼び出す直接再帰は許可されず、エラーが発生します。フロー A がフロー B を呼び出す間接再帰は、フロー A を最大 3 回まで呼び出すことができます。フローを再帰的に呼び出す代わりに、 Do Until フローロジックを使用して、特定の条件が満たされるまでレコードの作業を続行します。

バックグラウンドでフローを実行する

バックグラウンドでフローを実行すると、フローの実行が完了するまでユーザーセッションを一時停止することなく、UI スレッドを解放できます。デフォルトでは、フローはバックグラウンドで非同期的に実行されます。バックグラウンドでフローを実行すると、フローの実行中にユーザーが UI で作業を続けることができます。

大きな出力を収集した後に待機するフローロジックを回避する

大きなペイロードを取得した直後に使用すると、メモリの問題を防ぐことができます。大きなペイロードをメモリに格納する代わりに、ペイロードを処理するアクションを追加します。取得されたペイロードを早く処理するほど、システムは他のアクションを処理するために早くメモリを解放できます。

環境間の切り替えを最小限に抑える

フロー内のインスタンスと MID サーバーのステップ間で切り替えを頻繁に行うと、処理が遅れる可能性があります。遅延のリスクを最小限に抑えるには、インスタンスと MID の切り替えを 1 回のみに制限します。

フローによって生成された sys_complex_object レコードを更新セットに含める

複雑なデータスキーマが見つからないと、実行の問題が発生する可能性があります。フローによって生成された sys_complex_object レコードを更新セットに含めたことを確認してください。更新セットを手動でビルドするのではなく、アプリケーションリポジトリを使用して 1 つのインスタンスから別のインスタンスにフローを転送することを検討してください。

カスタムトリガーが必要な場合はスクリプトからフローを呼び出す

ビジネスニーズを満たす既存のトリガーがない場合は、カスタムトリガー条件が満たされたときにフローを開始するスクリプトを作成できます。不要なトリガーを使用するフローを作成するのではなく、トリガーのないサブフローを作成することを検討してください。スクリプト条件が満たされた場合にのみ、スクリプトを使用して必要なサブフロー入力を提供します。フローではなくサブフローを呼び出すことで、フローのトリガー条件が満たされてフローが予期せず実行される可能性を回避できます。

古いリリースのインスタンスに新しいリリースのフローを展開することは避けてください

ワークフロースタジオ では、以前のリリースで実行されているインスタンスへの新しいリリースフローの展開はサポートされていません。

危険: フローデータモデルはリリース間で変更される可能性があるため、以前のリリースのインスタンスで実行した際、新しいフローが実行されなかったり、予期しない結果が生じたりする可能性があります。展開する前に、同じリリースバージョンになるようにインスタンスをアップグレードしてください。

本番環境でフローレポートをオフにする

フローレポートを無効にして、フローの実行に必要なメモリ量を最小限に抑えます。フローレポートには、[実行の詳細] ページの構成とランタイム情報が保存されます。これらのレポートはトラブルシューティングに役立ちますが、メモリとデータベースの両方に大量のデータを保持する必要があります。デフォルトでは、フローレポートは無効になっており、フローまたはアクションを手動でテストする場合にのみ実行の詳細が生成されます。代わりに、レポートをオフにしているときも使用できるログファイルを使用できます。

ネストされたループを使用してフローで消費するメモリ量を削減する

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レポートが有効になっている場合は、com.snc.process_flow.reporting.iteration.lastn を値「1」に設定して、前のループ反復で消費されるメモリ量を減らします。レポートする反復が多いほど、より多くのメモリが必要になります。

サブフロー

フローに適用される一般的なガイドラインはサブフローにも適用されます。

フローの代わりにサブフローを使用する理由は次のとおりです。

フローにトリガーまたは変数の入力が必要かどうかを判断する

フローは、トリガー条件が満たされたときに常に実行されます。トリガーは常にフローの入力として同じデータを提供します。フローを開始するために代わりに変数の入力が必要な場合は、サブフローを作成します。

ビジネスロジックを再利用する

一連の再利用可能な操作をサブフローとして作成し、それを複数のフローで使用できます。

呼び出しごとに異なる入力値を設定する

サブフローを呼び出すたびにサブフローの入力値の設定を変えます。たとえば、さまざまなレコードタイプを実行の入力として受け入れるようにサブフローを設計します。レコードタイプごとに特定のフローを書き込む代わりに、この汎用レコードサブフローを再利用します。

大規模なフローのパフォーマンスと読みやすさを向上させる

フローが 25 アクションを超える場合は、サブフローを使用します。sn_flow_designer.max_actions システムのプロパティで指定されているアクションの最大数は 50 ですが、最高のパフォーマンスを得るにはフローを 25 アクションに制限します。

入力と出力をサブフローで渡す

入力と出力を渡す場合は、サブフローを呼び出します。開始時にサブフローで使用できる入力を指定する場合、またはサブフローの終了後に親フローで使用できる出力を指定する場合は、サブフローを使用します。

単一のイベントで複数のフローをトリガーする場合と並列サブフローを使用する場合の比較

- 相互に関連する出力があるか、すべてが利用可能な場合に何らかのアクションを実行する必要がある場合は並列サブフローを使用します。そうでない場合は、複数のフローをトリガーする方が簡単です。
- 並列サブフローを設定するには、待機なしで各サブフローを起動し、[条件待ち] を使用して各サブフローが終了する (完了、エラー、キャンセル) まで待機します。

類似の機能を持つサブフローが複数ある場合は動的フローを使用する

動的フローでは、テンプレートを適用して複数の類似したサブフローの入力を処理することで、プロセスを区分化できます。区分化により、統合ハブ スポークのサブフローなど、類似の機能を実行するサブフローを区別できます。

エラー処理プロセスで 10 個のアイテムの制限を回避する

エラー処理プロセスを強制的に 10 個のアイテム制限内に収まるようにするのではなく、さらに多くのアイテムを含めることができるサブフローを呼び出します。サブフロー出力を使用して、他のフローの自動化をトリガーすることもできます。

是正処置を実行する

複数のフローで同じ一連のアクションを再作成するのではなく、再利用可能なサブフローを作成して、レコードデータのエラーを修正します。フローエラーによってレコー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ドデータが望ましくない状態になった場合は、サブフローを使用してこれらのレコードを修正します。エラーハンドラーを使用して、そのようなレコードデータをサブフロー出力として特定することができます。

トリガー

レコードトリガーを作成するときは、次の一般的なガイドラインに従います。

フローにトリガーまたは変数の入力が必要かどうかを判断する

フローは、トリガー条件が満たされたときに常に実行されます。トリガーは常にフローの入力として同じデータを提供します。フローを開始するために代わりに変数の入力が必要な場合は、サブフローを作成します。

条件を追加して、フローを開始するレコード値を指定します。

必要なときにのみフローを開始することで、フローを開始して一時停止し、特定のレコード条件が適用されるまでフローの再開を待機するよりもシステムリソースの消費が少なくなります。[条件待ち] アクションで始まるフローを作成する代わりに、レコードトリガーの一部として待機条件を含めるようにフローを再設計します。

同じテーブルのレコードトリガーに一意の条件を作成する

フローが互いに上書きされないようにするには、同じテーブルで実行されているフローごとに一意の条件を作成します。同じテーブルの複数のフローに同じフィルターがある場合、フローが実行される順序を知る方法はありません。条件を使用すると、より正確で少ない数のレコードセットが返されるため、フローのパフォーマンスの最適化にも役立ちます。

インポートおよび更新セットによって追加または更新されたレコードを無視する

レコードトリガーは、更新セットの適用または XML ファイルのインポートによって追加または更新されたレコードを無視します。これらの操作は、個々のレコードではなく、アプリケーションまたはテーブル全体に適用されます。

サービスカタログテーブルのレコードトリガーをサービスカタログアプリケーショントリガーに置き換える

フローデザイナーは、レコードトリガーのオプションとしてサービスカタログテーブルを表示しなくなりました。代わりに、サービスカタログアプリケーショントリガータイプを使用するフローを作成します。

待機条件

条件を待機するフローを作成するときは、次の一般的なガイドラインに従います。

待機条件の代わりにレコードトリガーを使用してフローを開始する

特定のレコード条件が満たされたときにのみフローを実行する場合は、フローを開始して一時停止するのではなく、レコードトリガーを使用してフローを作成します。待機中のフローは、フロートリガーよりも多くのシステムリソースを消費します。

再開条件が発生し得ないフローをキャンセルする

終了フローのフローロジック でフロー停止条件を指定することで、フローが無期限に待機しないようにします。システムリソースを解放するために、再開条件が満たされ得ないフローをキャンセルすることもできます。たとえば、関連するインシデントがクローズされている場合に、インシデントレコードの更新を待機しているフローをキャンセルします。

待機条件を現在のテーブルに存在するフィールドに制限する

[条件待ち] アクションは、レコードが属するテーブルのフィールドに対する変更のみを監視できます。このアクションでは、関連レコードまたはカタログ変数のフィールドの変更を検出できません。たとえば、アクションがインシデントレコードの変更を待機している場合、カタログアイテムや変更タスクレコードなどの関連レコードへの変更を

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

検出することはできません。これらのフィールドは実際には関連レコードに属しているため、別のレコードにドット連結するような待機条件をビルドすることは避けてください。カタログ変数に依存する待機条件をビルドすることは避けてください。

ステージのあるフローまたはサブフロー

ステージを使用してフローまたはサブフローを作成する場合は、次の一般的なガイドラインに従います。

For Each フローロジックに依存するステージの定義を避ける

フローデザイナーでは **[For Each]** ブロック内にステージを追加できません。**[For Each]** ブロックの前後にのみステージを追加できます。

異なるフローまたはサブフローでの同じレコードのステージの作成を避ける

ステージフィールドには、テーブルのレコードで実行する最後のフローまたはサブフローからのステージ情報が常に表示されます。複数のフローまたはサブフローが同じレコードで実行される場合、理論的には、1 つのフローまたはサブフローで定義されたステージが別のフローまたはサブフローのステージを上書きする可能性があります。複数のフローまたはサブフローが互いのステージを上書きしないようにするには、フローまたはサブフローごとに一意のトリガー条件または開始条件を定義します。

フローまたはサブフローの外部からのステージフィールドの更新を避ける

フローまたはサブフローを使用してステージを管理する場合は、フローまたはサブフローの外部からレコードステージフィールドを直接更新しないでください。ステージフィールドの値を手動で更新すると、予期しない結果または望ましくない結果が生じる可能性があります。

テーブルの各フローに一意のトリガー条件があることを確認する

各フローに一意のトリガー条件を追加すると、フローはそれらの条件でのみ実行され、あるフローのステージが別のフローのステージを上書きすることを防ぐことができます。一意のトリガー条件を指定すると、レコード変更を生成できるフローの実行回数が制限され、フローのトラブルシューティングが容易になります。

エラーステージを使用してユーザーに通知する

フローのエラーステータスは、フローの実行には影響しません。フローはエラーステージに達しても引き続き実行されます。条件付きフローロジックブロックを使用してエラーステージを設定し、現在のステージのステータスがエラーであることをユーザーに伝えます。たとえば、必要な限度内で承認されていない承認がある場合、ユーザーにエラーを通知することができます。

エラーステージを使用してフローの処理を停止する

条件付きフローロジックブロックを使用して、フローがエラーステージに移行するタイミングを特定します。フローロジックを使用して、フローの処理を停止するか、何らかの修復アクションを実行します。たとえば、フローがエラーステータスになったときに、レコードのステータスやアサインを変更することができます。

Do the following in parallel フローロジック

パス間のデータ依存関係の作成を避ける

フローは任意の順序でパスを実行できるため、別々のパス間でデータの依存関係を作成しないようにしてください。たとえば、1 つのパスでレコードを作成し、別のパスで同じレコードを更新しないようにしてください。レコード更新パスが、レコード作成パスの前に実行される場合があります。

パス間でデータを共有しない

どのパスが最初に出力値の提供を完了するかをシステムが判断できないため、フローデザイナー ではパス間でデータピルをドラッグすることはできません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

動的フローのフローロジック

類似の機能を持つサブフローが複数ある場合は動的フローを使用する

動的フローでは、テンプレートを適用して複数の類似したサブフローの入力を処理することで、プロセスを区分化できます。区分化により、統合ハブ スポークのサブフローなど、類似の機能を実行するサブフローを区別できます。

動的に呼び出されるサブフローの入力がテンプレートフローの入力と一致することを確認する

動的フローの入力がフローテンプレートの入力と一致しない場合、システムはエラーをスローし、メインフローを正しく実行できません。

フロー出力の取得時に正しいコンテキストを使用する

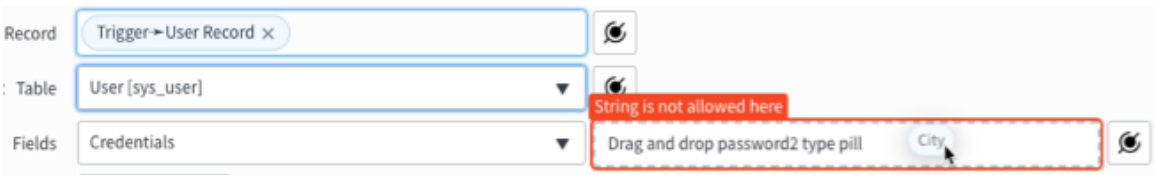
コンテキストレコードはフローの実行を一意に識別します。動的フローを複数回実行する場合は、複数のコンテキストレコードから選択できます。フロー内で動的フローを複数回使用する場合は、フロー出力を取得するたびに適切な実行から適切なコンテキストレコードを選択していることを確認してください。

Password2 データピル

パスワード (双方向暗号化) データを含むフローの設計時には、次の一般的なガイドラインに従います。

既存のパスワード (双方向暗号化) データピルを使用して値をアサインします。

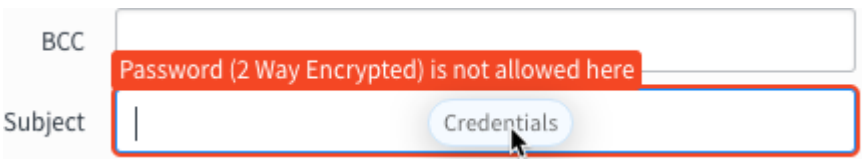
password2 変数に値を割り当てるには、既存の password2 データピルを選択する必要があります。その他のフィールドタイプから値を選択することはサポートされません。フローデザイナー では、無効なデータピルタイプが選択された場合に、警告メッセージが表示されます。



注: パスワード (双方向暗号化) の値を手動で入力することはできません。

パスワード (双方向暗号化) 変数を有効なフィールドタイプにのみ使用する

フローデザイナー で、無効なフィールドタイプの値として Password2 データピルが選択されないようにします。フィールドが互換性のないタイプである場合、システムは警告メッセージを表示します。



フローデザイナー では、Password2 データピルを次のフィールドタイプにのみドラッグできます。

- メール本文のフィールド
- HTML フィールド
- Password2 フィールド
- PowerShell 入力変数
- REST フィールド

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 変数
- REST ペイロード本文
- クエリパラメーター
- ヘッダー
- REST マルチパートフォームの値
- フォーム URL エンコードの値

• SOAP フィールド
- ヘッダー
- エンベロープ

注: パスワード (双方向暗号化) 変数を条件として使用することはできません。

ユーザーが、アクションとフローの保存、公開、またはテストを行ったら、フローデザイナーは検証チェックを実行します。このチェックでは、制限付きフィールドタイプにデータピルがドロップされた場合にアラートが表示され、アクションまたはフローの実行が阻止されます。アクションまたはフローを更新して無効なデータピルを削除してから、アクションを再試行してください。

復号化のための暗号化モジュールを設定する

有効な暗号化モジュールアクセス権を持つユーザーのみが、password2 変数のコンテンツを復号化して表示できます。暗号化アルゴリズムと、暗号化されたデータにアクセスできるロールを指定するには、「KMF による Password2 暗号化 」を参照してください。

[SLA パーセンテージタイマー] アクション

[サービスレベルアグリーメント (SLA) パーセンテージタイマー] アクションを含むフローを作成するときは、次の一般的なガイドラインにいます。

SLA タスクトリガーのあるフローにのみ [SLA パーセンテージタイマー] アクションを追加する

[SLA パーセンテージタイマー] アクションは、フローが SLA タスクトリガーから開始された場合にのみ実行できます。[SLA パーセンテージタイマー] アクションを含むサブフローは有効にできません。

予想されるステータス値に対する条件付きフローロジックを作成する

[ステータス] フィールドの値をフローロジックの条件として使用します。[完了]、[修理]、[スキップ] など、予想される [ステータス] 値に対するフローロジックをビルドします。たとえば、SLA パーセンテージタイマーのステータスが [完了] になったときに通知を送信する **[If]** フローロジックブロックを追加します。

各 [SLA パーセンテージタイマー] アクションに一意の累積 [待機] 割合値を割り当てる

各 [SLA パーセンテージタイマー] アクションは、[待機] 割合値を使用して独自のスケジュールされた終了日時を計算します。複数の [SLA パーセンテージタイマー] アクションを作成する場合は、各アクションに固有の累積 [待機] 割合値を指定します。たとえば、完了率の値が異なる 3 つのアクションを作成します (25%、50%、75% 完了など)。3 つのアクションすべてを 25% などの同じ完了率の値に設定すると、タイマーは同時に完了します。

既存のフローをコピーしてカスタマイズする

デフォルトの SLA フローをコピーし、独自のロジックでコピーをカスタマイズすることで、開発時間を短縮します。SLA 定義から実行するカスタマイズされたフローを選択します。「SLA 定義の作成 」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

動的入力

サードパーティ統合の動的入力を検討する

動的入力を使用すると、外部ソースからデータを動的にフェッチするフローを作成できます。サードパーティ統合では、動的入力によって特定のエンドポイントに関連するデータ値を提供できます。フローデザイナー を使用したサードパーティ統合の設定の詳細については、「統合ハブ」を参照してください。

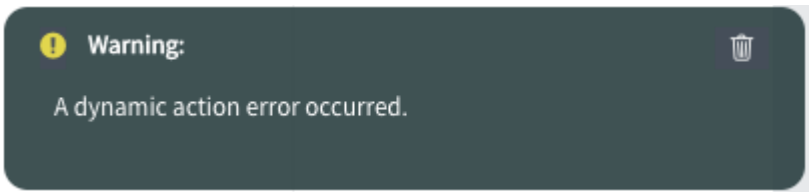
大量のデータの取得に要する時間に注意する

デフォルトでは、タイムアウトになるまでの動的入力によるデータ収集時間は最大 300 秒です。データ収集アクションでデータ収集にそれ以上の時間がかかる場合は、*sn_flow_designer.sync_action_execution_timeout_in_seconds* のシステムのプロパティをより高い値に設定します。ただし、エンドユーザーが値を入力または選択する必要があるインタラクティブフローには長いタイムアウト値を使用しないでください。

スクリプトエラーに注意する

すべてのデータ収集アクションはスクリプトステップを使用するため、スクリプティングによってエラーが発生する可能性があります。スクリプトを使用して動的入力の JSON 変数を出力すると、入力で必要な JSON 値を受信できなくなるエラーが発生する可能性があります。動的入力スクリプティングエラーが発生すると、次の警告メッセージが表示されることがあります。

スクリプティングエラーに対して表示されるメッセージ



動的入力タイプの入力を 40 個の入力値に制限する

動的入力タイプの入力は、JSON オブジェクトがメモリに格納できないほど大きくなるのを避けるため、特定の数の入力のみをレンダリングできます。動的入力を 40 個の入力値に制限すると、メモリ不足が発生したり、レンダリングエラーやデータの切り捨てなどの予期しない動作が発生したりする可能性が最小限に抑えられます。

動的テンプレートと動的選択の場合、JSON 出力を 5,000 アレイアイテムに制限する

動的選択および動的テンプレート入力では、最大 5,000 個のアレイアイテムしか表示できません。動的選択では最大 5,000 個の選択リストオプションのみを表示でき、動的テンプレートでは最大 5,000 個のフィールドテンプレート値のみを表示できます。データ収集アクションで動的テンプレートまたは動的選択のデータを収集する場合、返されるアレイアイテムの最大数を 5,000 に制限します。5,000 アレイアイテム制限により、選択またはフィールド値をレンダリングするときにインスタンスでパフォーマンスの問題が発生するのを防ぎます。

動的出力

サードパーティ統合の動的出力を使用する

動的出力を使用して、フロー設計時に外部システムのデータをイントロスペクトしてフェッチします。たとえば、特定のエンドポイント API とやり取りするサービスエンドポイントまたは呼び出しアクションを指定できます。フローデザイナー を使用したサードパーティ統合の設定の詳細については、「統合ハブ」を参照してください。

大量のデータの取得に要する時間に注意する

デフォルトでは、システムで停止されるまでの動的出力によるデータ収集時間は最大 300 秒です。データ収集アクションでデータ収集にそれ以上の時間がかかる場合は、*sn_flow_designer.sync_action_execution_timeout_in_seconds* のシ

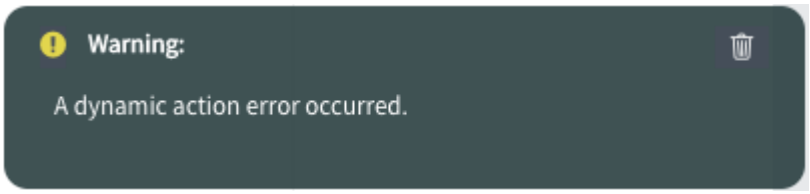
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ステムのプロパティをより高い値に設定します。エンドユーザーが値を入力または選択することが想定されるインタラクティブフローに長いタイムアウト値は避けてください。

スクリプトエラーに注意する

すべてのデータ収集アクションはスクリプトステップを使用するため、スクリプティングによってエラーが発生する可能性があります。スクリプトエラーにより、出力で必要な JSON 値を受信できない場合があるため、JSON 変数を出力するために使用されるスクリプトを確認します。動的出力スクリプティングエラーが発生すると、次の警告メッセージが表示されることがあります。

スクリプティングエラーに対して表示されるメッセージ



List.[Table] データ

リストレコードをフィルターするための参照修飾子を追加する

参照修飾子を追加し、リスト変数を有効なオプションとして表示するレコードをフィルターします。参照修飾子は必須のリストフィルターとして機能し、これにより参照修飾子の条件に一致するレコードのみがリスト変数に表示されます。たとえば、アクティブなインシデントレコードのみを表示するには、参照修飾子の条件として [アクティブ] [次の値に等しい]**[true]** を追加します。

ServiceNow Store の対象アクションのデフォルトレコードを選択しない

すべてのインスタンスが選択したレコードにアクセスできることがわかっている場合を除き、リストのデフォルトレコードを選択しないでください。スポーク開発者は通常、カスタムアクションをインストールする顧客のデータにアクセスできません。ServiceNow Store でカスタムアクションを公開する場合は、デフォルトレコードをデモデータとして提供する必要が生じる場合があります。

For Each フローロジックでリスト変数を使用する

リスト変数を使用して、For Each フローロジック内で処理するレコードを指定できます。For Each フローロジックは、データに存在するすべての non-record sys_id を無視します。たとえば、リスト変数にメールアドレスが含まれている場合、フローロジックはそれを無視します。

承認ルール

デフォルト値の入力

デフォルト値としての承認ルールを作成または選択します。

変換関数

有効なタイプの入力のデータピルに変換関数を適用する

変換関数を適用する前に、入力のデータピルのタイプを確認してください。無効なデータピルタイプに変換関数を適用すると、システムは変換をスキップします。変換関数によってシステムで解析できない結果が生成された場合にも、エラーが発生します。たとえば、文字列を日付に変換する際に、変換によって有効な日付が生成されない場合、システムはエラーをスローします。

同じデータピルを使用して、複数の入力に適用された変換関数を確認する

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

変換関数は、実行時に特定の入力用に新しい値を作成し、元のデータピルは変更されません。したがって、複数のアクションまたはステップで同じデータピルを使用する場合は、変換関数を個々の入力に適用する必要があります。

フロー実行の詳細で最終的に変換された値を確認する

フロー実行の詳細には最終的に変換された値のみが表示され、適用された各変換の値は表示されません。

変換関数をテストして予期した結果が得られることを確認する

変換関数がデータピルの予期したランタイム値を生成することを確認します。詳細については、「フローのテスト」および「アクションのテスト」を参照してください。

インラインスクリプト

再利用可能かつメンテナンス可能なインラインスクリプトを作成するには、次の一般的なガイドラインに従います。

再利用不可能な短いロジック用のインラインスクリプトを記述する

インラインスクリプトを使用して、特定の入力およびユースケースのデータをフォーマットまたは変更します。再利用可能なロジックの場合は、代わりにアクションまたはサブフローを作成します。

利用可能な変換関数の確認

フローデザイナー は、データ変換とフォーマットの操作のための標準的な変換関数のリストを提供します。カスタムスクリプトソリューションを記述して管理するのではなく、既存の変換関数が利用可能な場合はそれを選択してください。

インラインスクリプトからのスクリプトインクルードの呼び出し

インラインスクリプトからスクリプトインクルードを呼び出すと、記述するコードの量を削減でき、また共通コードを 1 つの場所に保持することもできます。スクリプトインクルードを呼び出すには、クラスコンストラクターを使用します。スクリプトインクルードの作成の詳細については、「スクリプトインクルード」を参照してください。

```
var si = new MyScriptInclude();
si.functionOne();
```

インラインスクリプトではなく、再利用可能なコードのカスタムアクションまたはサブフローを作成する

ソースデータのデータ型の変更など、再利用可能または複合データロジックのカスタムアクションまたはサブフローを作成します。また、コードに慣れていないフローデザイナー向けにカスタムアクションやサブフローを提供することもできます。

アクションとフローの機能を複製しないようにする

アクションとフローの機能を複製するインラインスクリプトは記述しないでください。たとえば、レコード操作を実行するインラインスクリプトを記述するのではなく、レコードベースラインを作成および更新するアクションを使用します。

データ型を変更しないようにする

インラインスクリプトが入力または出力で想定されているものと同じデータ型の情報を提供することを確認して、ランタイムエラーを回避します。

var キーワードで変数を宣言して変数を作成する

「`var`」キーワードを使用して変数を宣言し、適切な JavaScript スコープ内に留まるようにします。値を割り当てて変数を作成すると、JavaScript によってその変数がグローバルオブジェクトに添付され、変数値がローカルスコープ外で存続してエラーが発生する可能性があります。

For Each フローロジックとフローデータオブジェクトを使用してレコード出力を処理する

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インラインスクリプトは、For Each フローロジックから [複数のレコードの検索] アクションの [レコード] 出力にのみアクセスできます。[複数のレコードの検索] アクションをフローに追加して、レコード出力を生成します。For Each フローロジックをフローに追加して、レコード出力の各レコードを処理します。fd_data オブジェクトとアイテムオブジェクトを使用して、For Each フローロジックへのインラインスクリプト参照を作成します。たとえば、この参照では、For Each フローロジックがフローアウトライン「`fd_data._2__for_each.item`」の 2 番目のアイテムであると想定しています。

先行入力候補を使用して、フローおよびアクションデータへの参照を生成します。

fd_data オブジェクトを使用してフローおよびアクションデータへの参照を作成します。「`fd_data`」と入力すると、スクリプトエディターに既存のフローとアクションデータの先行入力候補が表示されます。フローおよびアクションデータへの参照をビルドする候補を選択します。

> **注:** [アイテム] オブジェクトを使用する For Each フローロジックのレコードデータを参照してください。

スコープループカウンター

スクリプトループには最大反復数がないため、有効な終了条件がない場合はループが無限に実行されます。

有効な終了条件があることを確認するには、インラインスクリプトまたはアクション内のスクリプトステップでスコープループカウンターを使用します。`for (i=0; i< length; i++)` に `var` を追加し、`for (var i=0; i< length; i++)` を取得します。

複合データ

再利用可能かつメンテナンス可能なデータ構造を作成するには、次の一般的なガイドラインに従います。

階層内の子レベルの数を最低限にする

データ構造の子レベルが多いほど、階層からデータ変数を表示して選択することが難しくなります。任意の数の子レベルを持つデータ構造をビルドできますが、7 つを超える子レベルを持つデータ構造をナビゲートして把握することは困難になります。最高のユーザーエクスペリエンスを得るには、水平方向にスクロールして表示および入力しなければならないほど子レベルが多いデータ構造を作成しないでください。

レコードデータのタイプごとに個別のオブジェクトを作成する

ほとんどの フローデザイナー データは、インスタンスからのものか外部システムからのものかを問わずレコードデータです。この設計メソッドにより、オブジェクトの内容とデータの出所を確実に把握できます。

レコードデータ構造を再作成する

レコードデータを送受信するオブジェクトをビルドする場合は、これらのレコードのデータベースディクショナリーエントリを確認し、一致するオブジェクトデータ構造を作成します。たとえば、インシデントおよび構成アイテムテーブルからのデータをオブジェクトに含める必要があるとします。インシデントテーブルの [簡単な説明] フィールド用に文字列要素を作成し、構成アイテムテーブルの [クラス] フィールド用に文字列要素のアレイを作成することができます。

さまざまなタイプのレコードを結合するオブジェクトを作成する

複数のタイプのレコードの情報が必要な場合は、必要なすべての情報を含むオブジェクトを作成します。その後、そのオブジェクトを使用して、フローデザイナー でデータのフォーマットや解析を行うことができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

複合データを使用したスクリプティング

複合データを使用してスクリプトを作成する場合は、次の一般的なガイドラインを念頭に置いてください。

文字列入力を使用して複合データを JSON 文字列に変換する

複合データを文字列入力にマッピングすると、フローデザイナー によって自動的に JSON 文字列に変換されます。スクリプトを記述する代わりに、文字列入力を REST ステップに追加し、前のアクションまたはステップからの複合データにマッピングすることができます。

オブジェクトをテンプレートとして保存する

オブジェクトをテンプレートとして保存して、他のアクション、フロー、およびスクリプトステップで再利用できるようにします。

以前のデータにアクセスするためのスクリプト入力変数を作成する

アクション入力または前のステップからアクセスするデータのスクリプト入力変数を作成します。スクリプト入力変数を入力またはステップデータピルにマッピングします。たとえば、スクリプト入力変数を、前のステップで検索したユーザーレコードリストにマッピングします。

複合データを格納するスクリプト出力変数を作成する

スクリプトで作成した任意の複合データを格納するスクリプト出力変数を作成します。スクリプト出力変数は、スクリプトで定義された値と一致する必要があります。たとえば、複数の連絡先オブジェクトを格納するオブジェクトの連絡先アレイを作成します。連絡先オブジェクトをテンプレートとして保存し、再利用できるようにします。

アクション出力をスクリプト出力変数にマッピングする

カスタムアクションで複合データを出力する場合は、アクション出力を追加し、スクリプトステップ出力変数のデータピルにマッピングします。たとえば、連絡先アレイを作成し、前に保存した連絡先オブジェクトテンプレートをロードします。アクション出力を、スクリプトステップによって生成された連絡先アレイにマッピングします。

フローデザイナーとドメインセパレーション

フローデザイナー でドメインセパレーションを使用する場合は、次の一般的なガイドラインに従います。

テナントフロー、アクション、およびサブフローがドメインに対して適切に実行されていることを確認する

テナントは フローデザイナー のコンテンツを上書きできないため、TOP ドメインのサービスプロバイダー (SP) アドミニストレーターは、ドメインで正しく実行されるように、テナントを作成して管理する必要があります。ドメイン固有のフローを作成することもできますが、階層の上位のドメインから作業しているユーザーが複数の子ドメインフローをトリガーする可能性があります。たとえば、TOP ドメインで作業しているユーザーは、ACME や INITECH などの子ドメインでフローをトリガーできます。

> **注:** フロー作成者は、階層内の現在のドメインと親ドメインから利用可能な フローデザイナー のコンテンツのみを表示できます。フローデザイナー は包含ドメインから表示されるコンテンツを表示しません。

各フロー、アクション、およびサブフローに一意の名前を指定する

すべてのドメインが フローデザイナー コンテンツを共有するため、TOP ドメイン内の SP アドミニストレーターに各フロー、アクション、およびサブフローに一意の名前を付けるように依頼します。これにより、あるドメイン向けのフローと別のドメインのフローの名前が重複しないようにします。たとえば、「`インシデントの検証 - TOP`」、「`インシデントの検証 - ACME`」、「`インシデントの検証 - INITECH`」のように、フロー名にドメインを追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローとアクションに現在のドメインまたは親ドメインからのアーティファクトのみが含まれていることを確認する

フローデザイナー は、現在のドメインまたは親ドメインで利用できないアーティファクトを含むフローがアクティブ化されるのを防ぎます。たとえば、ACME ドメインに属するドメイン固有のフローを作成する場合、兄弟ドメイン INITECH に属するアクションまたはサブフローを含めることはできません。

属するドメインの フローデザイナー のコンテンツを編集する

親ドメインのユーザーは、子ドメインのフロー、アクション、およびサブフローを表示できません。これらを編集するには、属しているドメインに変更する必要があります。たとえば、TOP ドメインのアドミニストレーターは ACME ドメインからのフローを表示できません。それらを表示および編集するには、アドミニストレーターが ACME ドメインに切り替える必要があります。

展開

古いリリースのインスタンスに新しいリリースのフローを展開することは避けてください

ワークフロースタジオ では、以前のリリースで実行されているインスタンスへの新しいリリースフローの展開はサポートされていません。

危険: フローデータモデルはリリース間で変更される可能性があるため、以前のリリースのインスタンスで実行した際、新しいフローが実行されなかったり、予期しない結果が生じたりする可能性があります。展開する前に、同じリリースバージョンになるようにインスタンスをアップグレードしてください。

フローエラー処理

フローエラー処理によるメリットを得るには、次の一般的なガイドラインに従います。

エラー処理アイテムをフローのメインセクションに追加しないようにする

通常、アクションまたはサブフローがメインセクションでエラーを返すと、フローは実行を停止します。停止したフローは、エラーが返された時点を過ぎてアクションまたはサブフローを実行することはできません。エラー処理アクションとサブフローを [エラーハンドラー] セクションに追加すると、エラーが発生した場合にエラー処理アクションとサブフローが確実に実行されるようになります。

エラーステータス情報をキャプチャする

エラーステータスオブジェクトには、エラーを生成したアクションに関する情報が含まれています。この情報を使用して、エラーの原因や、修正が必要な可能性があるレコードデータを特定することができます。

サブフローエラーメッセージを非表示にする

サブフローのエラーハンドラーを有効にして、エラーが親フローにカスケードされないようにすることができます。サブフローの [エラーハンドラー] セクションを空のままにすると、常に [完了 (エラーを取得)] ステータスが生成されます。

サブフローを使用して 10 個のアイテム制限を回避する

エラー処理プロセスを強制的に 10 個のアイテム制限内に収まるようにするのではなく、さらに多くのアイテムを含めることができるサブフローを呼び出します。サブフロー出力を使用して、他のフローの自動化をトリガーすることもできます。

サブフローを使用して是正処置を行う

複数のフローで同じ一連のアクションを再作成するのではなく、再利用可能なサブフローを作成して、レコードデータのエラーを修正します。フローエラーによってレコードデータが望ましくない状態になった場合は、サブフローを使用してこれらのレコードを修正します。エラーハンドラーを使用して、そのようなレコードデータをサブフロー出力として特定することができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクションエラー評価

アクションエラー評価によるメリットを得るには、次の一般的なガイドラインに従います。

独立したステップのみの実行継続を許可する

ステップが後続のステップで必要なデータを返さない場合は、ステップの実行継続を許可します。ステップが後続のステップで必要なデータを提供する場合、後続のステップを正常に実行できないことがわかります。

エラー条件が 10 を超えないようにする

作成できるエラー条件の数に制限はありませんが、各エラー条件は評価する必要があります。アクションで評価する必要があるエラー条件が多いほど、アクションの実行が低速になる可能性があります。

特定のステップの失敗を識別する

ステップステータスを使用して特定のステップがいつ失敗したかを識別できます。特定のステップを識別することは、アクションにタイプが同じステップの複数のインスタンスが含まれている場合に役立ちます。また、フローエラーハンドラーが失敗に対して適切な是正処置を実行できるように、特定のステップを識別することもできます。

特定のエラー条件を一般的なエラー条件の前に配置する

アクションが一致するエラー条件を検出すると、エラーの評価は停止します。一般的なエラー条件を最初に配置すると、アクションが特定のエラー条件に一致しなくなる可能性があります。

わかりやすいエラー条件ラベルを使用する

エラー条件を編集する必要なく識別できるようになります。デフォルトでは、エラー条件は編集時にのみ表示できます。

フローアドミニストレーター

本番環境でフローレポートをオフにする

フローレポートを無効にして、フローの実行に必要なメモリ量を最小限に抑えます。フローレポートには、[実行の詳細] ページの構成とランタイム情報が保存されます。これらのレポートはトラブルシューティングに役立ちますが、メモリとデータベースの両方に大量のデータを保持する必要があります。デフォルトでは、フローレポートは無効になっており、フローまたはアクションを手動でテストする場合にのみ実行の詳細が生成されます。代わりに、レポートをオフにしているときも使用できるログファイルを使用できます。

ネストされたループを使用してフローで消費するメモリ量を削減する

レポートが有効になっている場合は、com.snc.process_flow.reporting.iteration.lastn を値「1」に設定して、前のループ反復で消費されるメモリ量を減らします。レポートする反復が多いほど、より多くのメモリが必要になります。

フロー実行の詳細で最終的に変換された値を確認する

フロー実行の詳細には最終的に変換された値のみが表示され、適用された各変換の値は表示されません。

フロー優先度

フロー優先度を設定するときは、デザインに関する次の検討事項に従ってください。

すべてのフローを高い優先度で実行するように設定しない

すべてのフローの優先度を高く設定するのではなく、複数の優先度を組み合わせて設定します。ワーカースレッドは、フロー間の相対的な優先度で作業を選択します。すべて

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

のフローが高い優先度で実行されている場合、待機すべき優先度の低いフローはありません。

一時停止する必要があるフローにはフロー優先度を設定しない

一時停止する必要のあるフローは、デフォルトである中程度の優先度のままにしておきます。フローの実行を再開すると、その優先度の値が失われるためです。

ビジネスクリティカルなフローには高い優先度を使用する

優先度の高いフローは、ビジネス価値が高く、実行頻度が低く、実行時間が短いフローに限定します。他のフローを実行できるワーカースレッドの数が制限されるため、大量のフローを高い優先度に設定しないでください。高優先度のフローを長時間実行すると、他のフローの実行に使用可能なワーカースレッドが減る可能性もあります。

ボリュームの大きなフローには低い優先度を使用する

他の時間的制約のあるフローが最初に実行されるように、ボリュームの大きなフローは低い優先度で実行します。優先度の低いフローには時間的制約がないようにしてください。

時間的制約のあるフローには中程度の優先度を使用する

他のフローと比較して時間的な制約が高いフローには、デフォルトのフロー優先度を使用します。

関連情報

https://learning.servicenow.com/

ワークフロースタジオ アクション

アクションを任意のフローに追加することで、プロセス アナリストはコードを記述しなくても Now Platform の機能を自動化できるようになります。

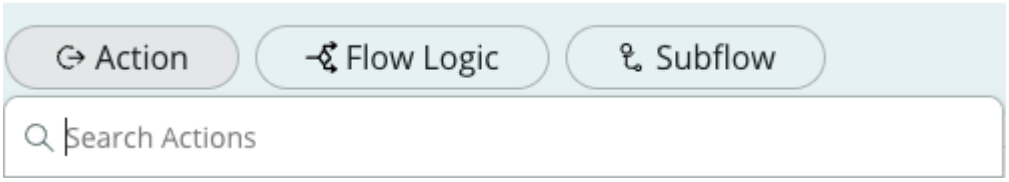
「アクション」は、コードを書かなくてもプロセスアナリストが Now Platform 機能を自動化できるようにする再利用可能な操作です。たとえば、[レコードを作成] アクションによって、プロセスアナリストは、特定の条件が発生したときに特定の値を持つ特定のテーブルにレコードを生成することができます。[レコードを作成] のような ServiceNow コアアクションでは、Now Platform テーブルとフィールドに精通している必要があります。アクションデザイナーは、アプリケーション固有のアクションを作成して、構成の詳細をあらかじめ設定することができます。たとえば、[インシデントタスクを作成] アクションを作成すると、アクションが使用されるたびにプロセスアナリストが正しいテーブルとフィールドの構成を使用するようになります。関連するスポークを有効化することによって、アプリケーション固有のアクションを追加できます。

ワークフロースタジオでは、プロセス アナリストは、アクションをフローに追加し、設定オプションを定義します。

検索アクション

[検索アクション] フィルターを使用して、名前またはスポークでアクションを検索できます。データを入力すると、ワークフロースタジオ には検索条件に一致するアクションとスポークのリストが表示されます。

[検索アクション] フィルター

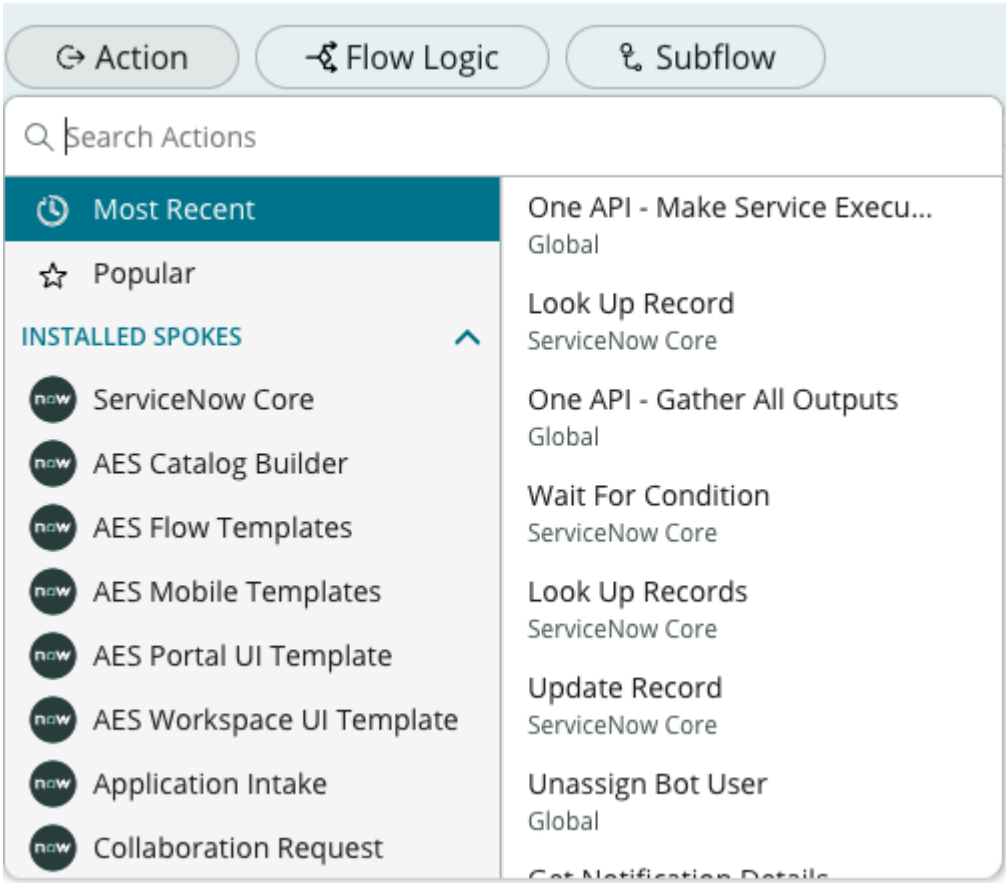


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

最新

[最新] オプションを使用すると、 最近選択したアクションのリストを表示できます。各アクションのアクション名が表示され、アクション名の下にアクションが属するスポークが表示されます。情報アイコンを使用すると、説明、入力、出力などのアクションに関する詳細情報を表示できます。

最新のアクション



人気

[人気] オプションを使用して、組織が頻繁に使用するアクションのリストを表示できます。システムでは、人気のあるアクションのリストを生成するために、7 日ごとにスケジュール済みジョブが実行されます。

インストールされたスポーク

ワークフロースタジオ には、インストールされた各スポークのアクションが表示されます。スポーク名を選択すると、スポークで利用可能なアクションのリストが表示されます。すべてのインスタンスには ServiceNow Core スポークがあります。

ServiceNow コアアクションは、インストールされているスポークに関係なく、どのフローにも実行可能なアクションです。ワークフロースタジオフローの設計環境から ServiceNow コアアクションを表示したり編集したりすることはできません。たとえば、[承認の要求 **(Ask for Approval)]** アクションは、プロセスアナリストが Now Platform 承認を使用できるようにする ServiceNow コアアクションです。ワークフロースタジオ は Now Platform プロセスを自動化する一連の ServiceNow コアアクションを提供します。関連するスポークを有効化することによって、アプリケーション固有のアクションを追加できます。

作成したカスタムアクションは、それが属するスポーク内で見つかります。または、[検索アクション] フィルターを使用して、名前でアクションを検索します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

作業メモリンクをコンテキストアクションに追加する

現在のフローコンテキストレコードへのリンクを含むジャーナルフィールドエントリーを追加します。このリンクを使用して、現在のフローのフロー実行に関する詳細を表示します。ジャーナルフィールドを含む任意のレコードに、フローコンテキストリンクを追加できます。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

入力

フローに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップすることも、ピルピッカーから選択することもできます。

テーブル

データタイプ：*Table Name*

リンクで更新するレコードを含むテーブル名。

レコード

データタイプ：*Record*

フロー実行の詳細へのリンクを追加するレコード。「レコードのルックアップ」アクション を使用して適切なレコードを検索できます。

ジャーナルフィールド

データタイプ：*Field Name*

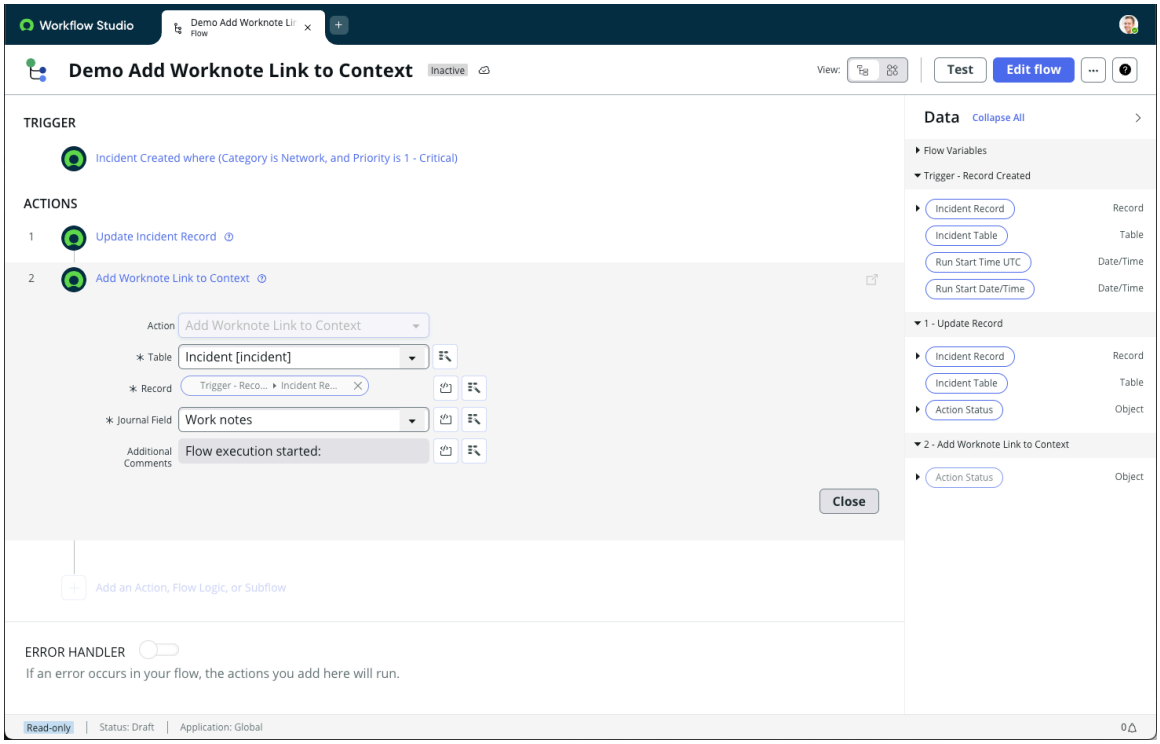
フロー実行の詳細へのリンクを挿入するジャーナルフィールド。たとえば、タスクレコードの作業メモフィールドなどです。

出力

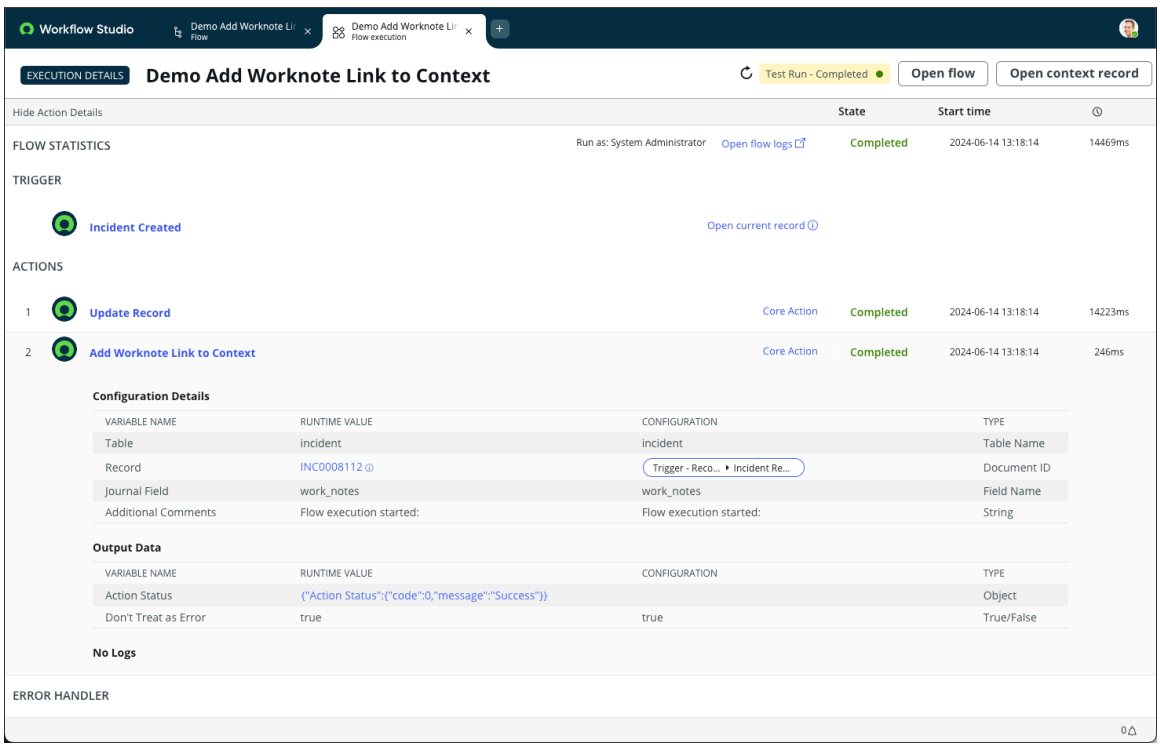
このアクションには出力がありません。代わりに、選択したレコードを更新して、このアクションを実行したフローのフロー実行の詳細への直接リンクを追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: インシデントレコードへのリンクの追加

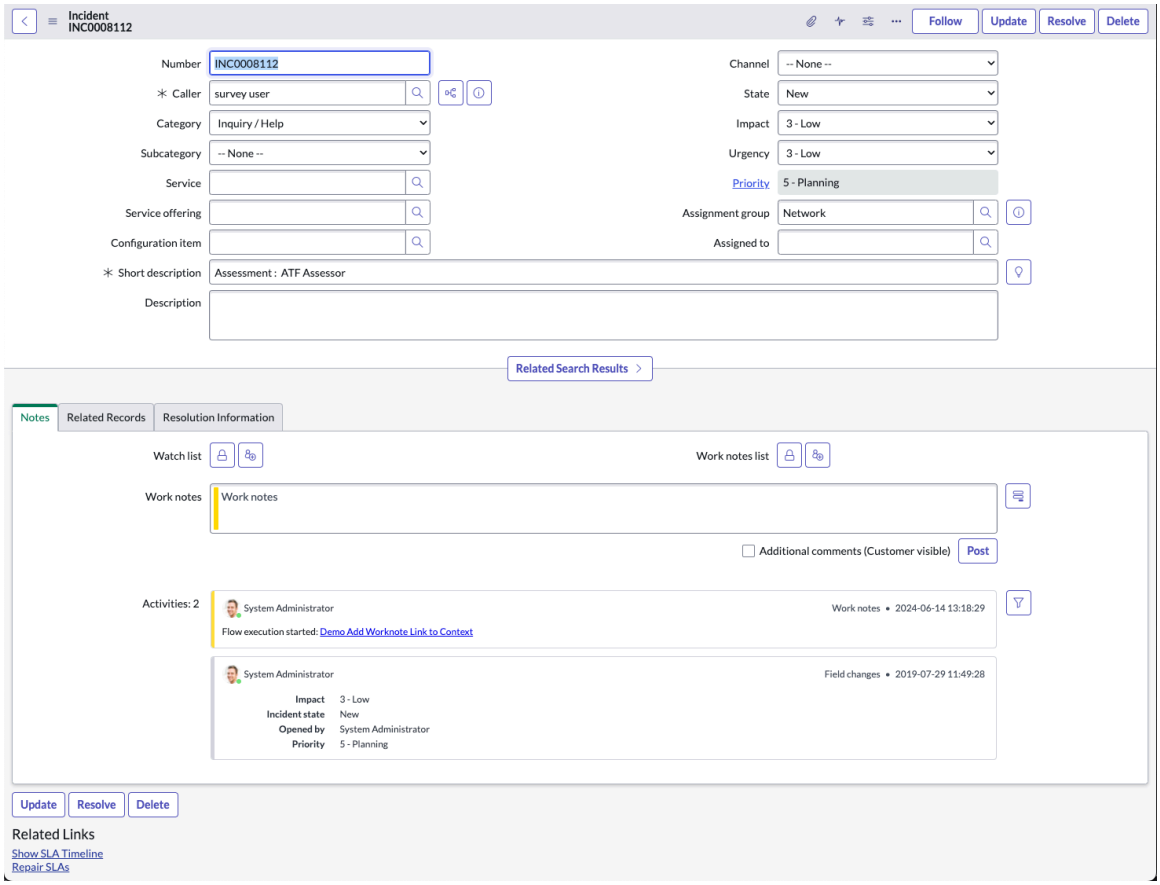


この例では、ネットワークカテゴリで優先度 1 のインシデントが作成されるとフローが実行されます。[レコードの更新] アクションにより、インシデントがネットワークアサイン先グループにアサインされます。[作業メモリンクをコンテキストに追加] アクションは、トリガーインシデントレコードを更新します。このアクションにより、[作業メモジャーナル] フィールドへのリンクが追加されます。



実行の詳細は、トリガーインシデントレコード INC008112 が更新され、作業メモフィールドへのリンクが追加されたことを示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



インシデントレコードの作業メモフィールドには、テキストメッセージと、フローのフロー実行の詳細へのリンクが含まれています。

「承認を求める」アクション

承認フィールドを含むレコードの承認を要求します。承認、却下、またはキャンセルのルールセットを構成できます。期日が承認に追加されている場合には、承認者が指定された時間までに応答しないと、承認が自動的に承認、却下、またはキャンセルされます。

クラシックの承認 は、ユーザーまたはグループがタスクを承認または却下できるようにするプラットフォーム機能です。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

入力

フローに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップすることも、ピルピッカーから選択することもできます。

レコード

データタイプ：*Record*

承認するレコードへの参照。レコードに承認フィールドが含まれている場合、フローデザイナー は [承認フィールド] の入力を自動的に設定します。

テーブル

データタイプ：*Table Name*

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認要求に関連付けられたレコードのテーブル名。選択するテーブルは、承認ステータスフィールドを保持することで、承認をサポートする必要があります。たとえば、タスクテーブルとその拡張には承認フィールドが含まれています。

承認理由

データタイプ：*String*

承認の理由を含むテキスト文字列。このフィールドは、監査と規制コンプライアンスに使用できます。この情報は、承認 [sysapproval_approver] テーブルに保存されます。たとえば、個人またはグループからの特定の承認要求が必要な理由をリストできます。

承認フィールド

データタイプ：*Field Name*

承認要求の結果を含むフィールド。

ジャーナルフィールド

データタイプ：*Field Name*

承認要求に関連付けられた履歴とコメントを保存するフィールド。

ルール

データタイプ：*Approval Rules*

どのユーザーが要求を承認または却下できるか、および承認または却下後に何が実行されるかを決定するための承認と却下のルール。

承認ルールまたは却下ルールには次のものがあります。

- 誰でも承認可能
- すべてのユーザーによる承認
- すべて応答済みで誰でも承認可能
- 承認しているユーザーの割合
- 承認するユーザーの数

承認ルールの横にあるフィールドに、目的の承認者を追加します。承認者を追加するには：

- 個々のユーザーまたはグループを選択します。
- レコードからフィールドをドラッグまたは選択します。
- 手動承認者 を選択すると、手動承認者が承認または却下を処理できるようになります。手動承認者は、手動で承認者関連リストに追加されたユーザーで、これにより要求を承認できます。たとえば、内容領域専門家をタスクに手動で追加して、要求を承認することができます。手動承認者の追加について詳しくは、「承認者関連リストを使用した承認の生成」を参照してください。

注: デフォルトでは、[承認を求める] は非アクティブなユーザーとグループの承認レコードを生成します。この動作により、特定のユーザーまたはグループが後で非アクティブになった場合でも、フローまたはアクションは引き続き機能できます。非アクティブなエンティティの承認を生成する動作を変更する場合は、com.glide.hub.flow.approval.allow_inactive_entity システムプロパティを設定します。「ワークフロースタジオ フローシステムプロパティ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

別の OR ルールセットを追加して、却下ルールを定義します。承認を定義するときに、一致する承認がない場合に実行される却下ルールを含めます。このような却下ルールは、フローが待機状態のままになるのを防ぎます。たとえば、承認を誰でも承認できる場合は、誰もそれを承認しない場合に備えて、時間ベースの却下ルールを作成します。

> **注:** 却下ルールのない承認ルール (またはその逆) を設定し、予想される承認ステータスが満たされない場合、ランタイム値はキャンセルされます。

インラインスクリプトを使用して承認ルールを指定する方法については、ServiceNow コミュニティのブログ投稿「Scripted Approvals in Flow Designer with Flow Variables (フロー変数を使用したフローデザイナーのスクリプト化された承認)」を参照してください。

期日

データタイプ： *Schedule Date/Time*

フローが永久的に承認待ち状態になるのを防ぐための承認ステータスの期日。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

承認ステータス

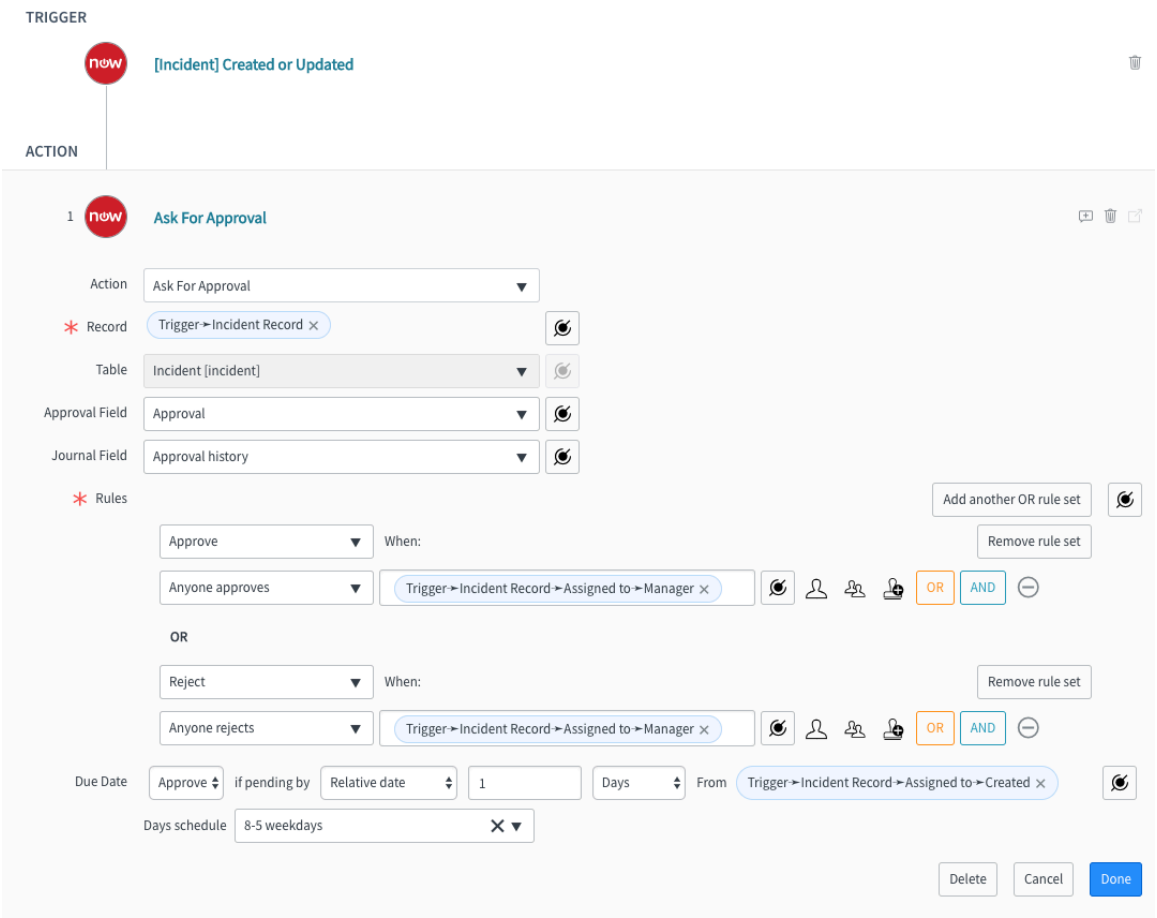
データタイプ：*Choice*

承認要求の完了ステータス。フロー実行の詳細ページには、次のいずれかの値が表示されます。

- 未要求 [not requested]
- 要求済み [requested]
- 承認済み [approved]
- 却下 [rejected]
- キャンセル [cancelled]
- 不要 [not_required]
- スキップ [skipped]

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例



一般的なガイドライン

承認を求めるときは、次のガイドラインに従ってください。

[次を並列で操作 (Do the following in parallel)] フローロジックの承認を求めるアクションを複製しない

ワークフロースタジオ では、[次を並列で操作 (Do the following in parallel)] フローロジックを使用した、同じレコードに対する複数の承認要求の作成はサポートされていません。同じレコードに対して承認を要求すると、分岐間に依存関係ができます。どの分岐が最初に完了するかわからないため、予期しない結果が生じる可能性があります。

[レコードをメールに関連付け] アクション

レコードをメール [sys_email] レコードに関連付けて、メールによってどのレコードが影響を受けるかを追跡できるようにします。

ロールと使用可能性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド

フィールド	説明
メールレコード	ターゲットレコードが関連付けるメール [sys_email] レコード
ターゲットレコード	メールレコードに関連付けるレコード

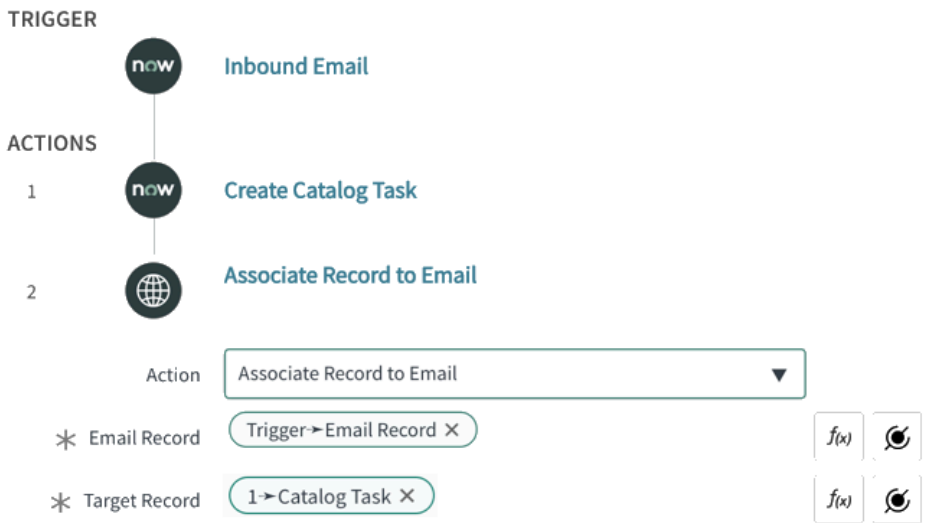
出力

このアクションでは、メール [sys_email] レコードの [ターゲット] フィールドを更新します。

例

次の例では、プロセスオーナーが受信メールトリガーの下に [レコードをメールに関連付け] アクションを追加します。ユーザーがフローに [カタログタスクを作成] アクションも追加しました。ユーザーが、[メールレコード] フィールドで、フローをトリガーしたメールにレコードを関連付けるよう選択します。ユーザーが、[ターゲットレコード] フィールドで、[カタログタスクの作成] アクションで作成されたカタログタスク [sc_task] レコードを関連付けるよう選択します。

[メールに関連付け] アクションの使用



「カタログ タスクの作成」アクション

要求アイテム [sc_req_item] テーブルの要求アイテムに関連付けられたカタログタスク [sc_task] テーブルにレコードを作成します。 フローで使用するデータとしてカタログ タスク レコードを追加します。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

入力

フローに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップすることも、ピルピッカーから選択することもできます。

テーブル

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データタイプ：*Table Name*

レコードを作成するタスクテーブルの拡張。たとえば、カタログタスク [sc_task] やインシデントタスク [incident_task] などです。

要求されたアイテム [Requested Item]

データタイプ：*Record*

このカタログタスクが満たす、要求されたアイテム [sc_req_item] テーブルからの、要求されたアイテム レコード。

Short Description (簡単な説明)

データタイプ：*String*

カタログタスクの簡単な説明。

フィールド

データタイプ：*Template Value*

カタログタスクに設定するフィールド値。アクションをサブフローに追加する場合は、フロー設計者がフィールド値を動的に設定できるようにすることが可能です。「テンプレート値の入力を作成」を参照してください。

待機

データタイプ：*True/False*

タスクレコードがアクティブでなくなるまでフローを一時停止するかどうかを示すフラグ。True/False データピルをこの入力にドラッグアンドドロップすることで、待機条件を追加できます。条件フィールドが true の場合、フローはタスクレコードの完了のみを待機します。

テンプレート カタログ アイテム [Catalog Item]

データタイプ：*Record*

カタログ変数のスラッシュバケットの入力に使用するカタログアイテム [sc_cat_item] レコード。この入力はデータピル値をサポートしていません。

カタログ変数

データタイプ：*Slush Bucket*

カタログタスクに表示するカタログ変数のリスト。これらの変数は、カタログタスク履行者により多くの情報を提供します。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

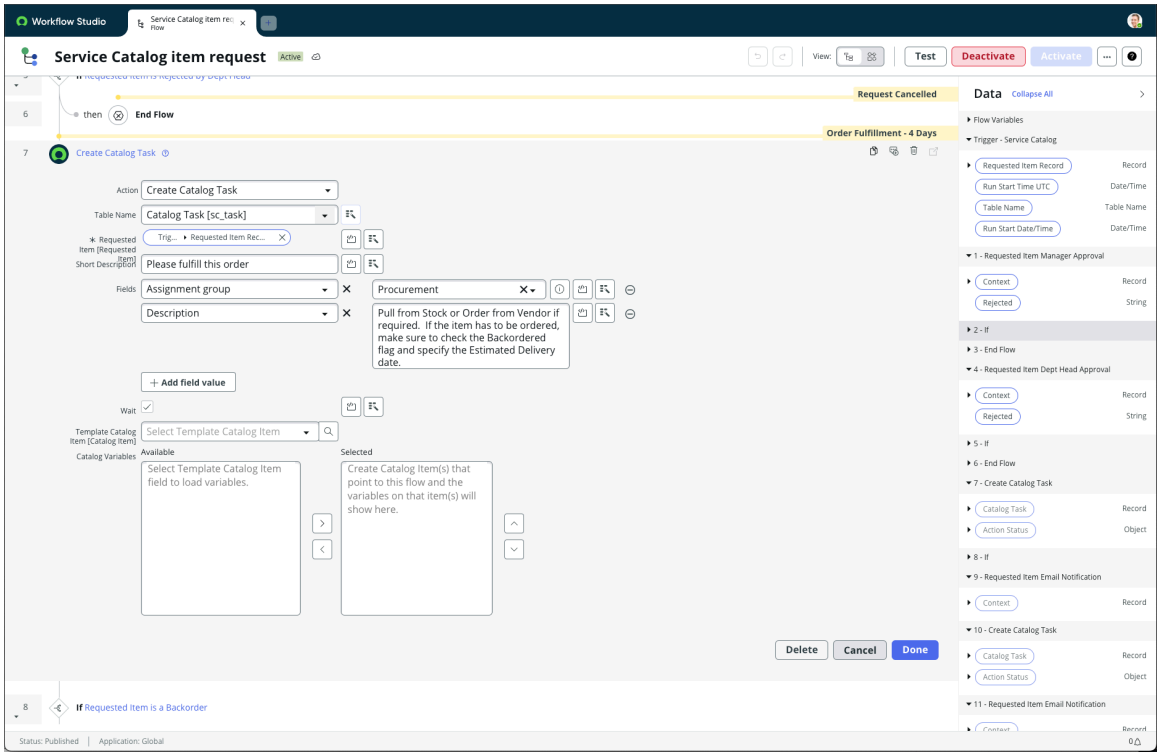
カタログタスク

データタイプ：*Record*

作成されたカタログタスクレコードへの参照。

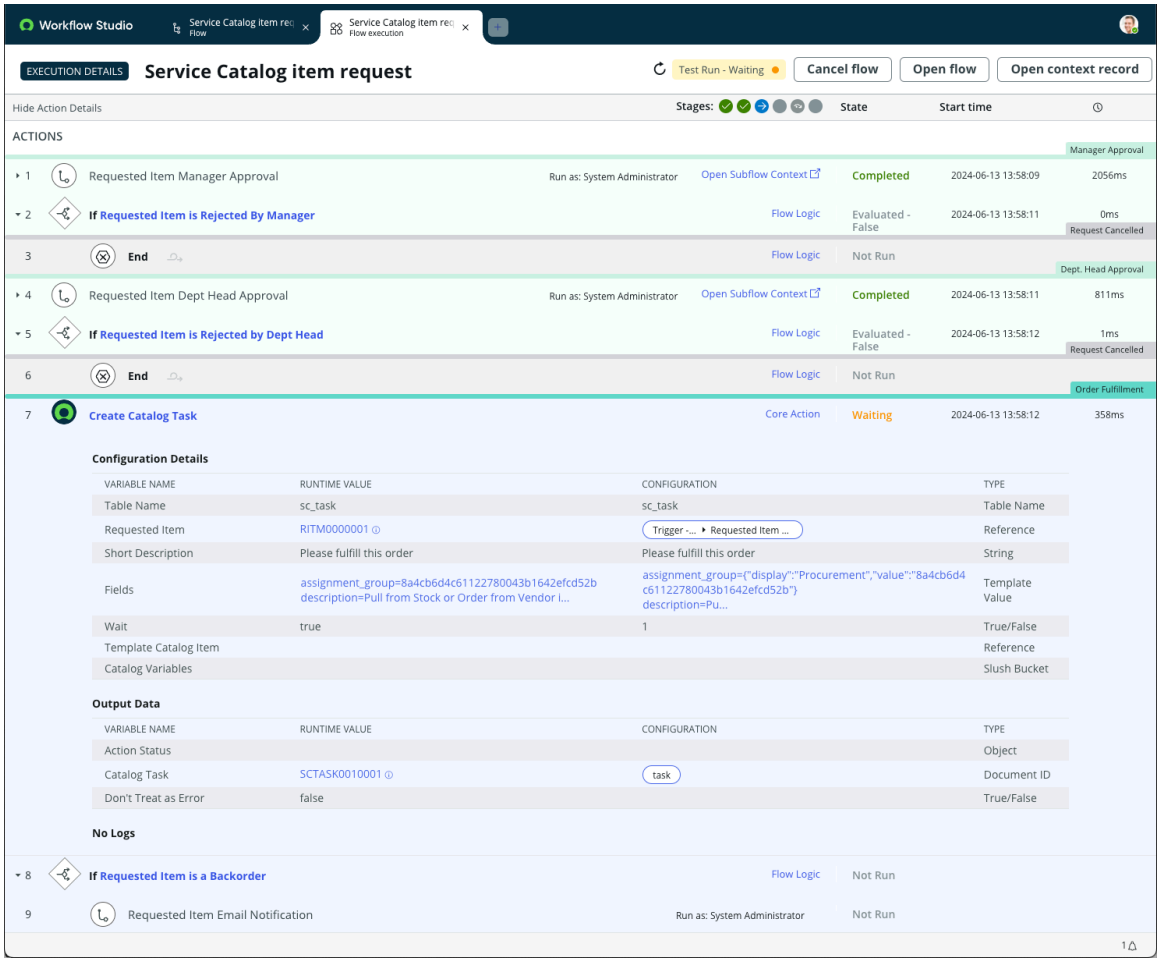
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: フローを使用したカタログアイテム要求の処理



この例では、サービスカタログアイテム要求フローは、最初にマネージャーと部門長の承認を要求します。承認された要求のみが [カタログタスクを作成] アクションを実行します。[要求アイテム] の入力は、フローの実行をトリガーした要求アイテムを使用します。[フィールド] 入力は、タスクの簡単な説明、アサイン先グループ、および説明の値を設定します。待機入力が選択されているため、カタログタスクの履行中はフローが一時停止します。また、テンプレートカタログアイテムが選択されていないため、このタスクで使用できるカタログ変数はありません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



この例では、フロー実行の詳細に、要求アイテムレコード番号とカタログタスクレコード番号が表示されます。[待機] 入力が選択されたため、アクションステータスが待機中としてリストされます。フローは、カタログタスクがクローズされるまで待機してから続行します。

[フローデータを作成] アクション

ワークスペース プレイブックとやり取りするエージェントからデータを収集します。このデータを使用して、プロセスオートメーションデザイナー を使用するプロセスオーナーが再利用可能なアクティビティを作成します。

ロールと使用可能性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

入力

入力	タイプ	説明
定義	Reference.Data Definition[sys_flow_data_definition]	フローのデータ収集に使用されるデータ定義レコードへの参照。各データ定義レコードには、データを保存するためのフローデータ変数のセットがあります。たとえば、[タスクデータ定義を作成 (Create Task Data Definition record)] レコード

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

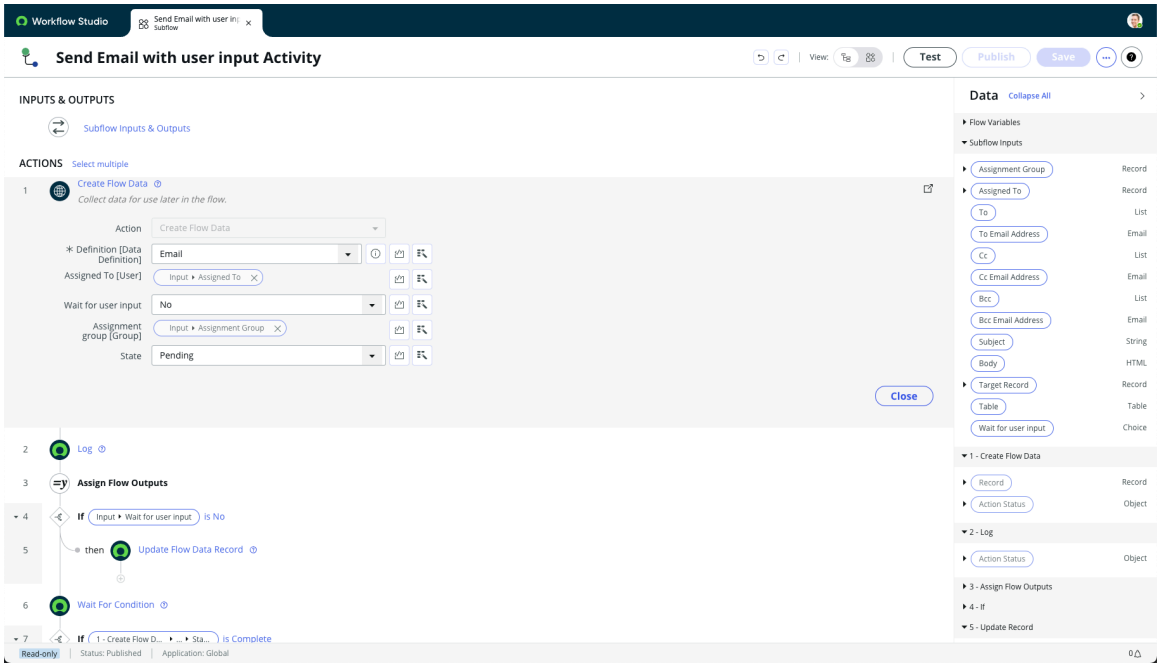
入力	タイプ	説明
		は、タスクレコードのデータを収集します。
アサイン先	Reference.User[sys_user]	プロセスオートメーションデザイナー アクティビティに関連付けられているタスクの完了を担当するユーザー。
アサイン先グループ	Reference.Group[sys_user_group]	プロセスオートメーションデザイナー アクティビティに関連付けられているタスクの完了を担当するユーザーグループです。
ユーザー入力待ち	Choice (選択肢)	実行時にプレイブックで入力のためにアクティビティを一時停止するかどうかをプロセスオートメーションデザイナーユーザーに確認するオプション。次のオプションが含まれます。 • はい：アクティビティを一時停止し、エンドユーザーに入力を求める • いいえ：エンドユーザーによる入力のためにアクティビティを一時停止しない

出力

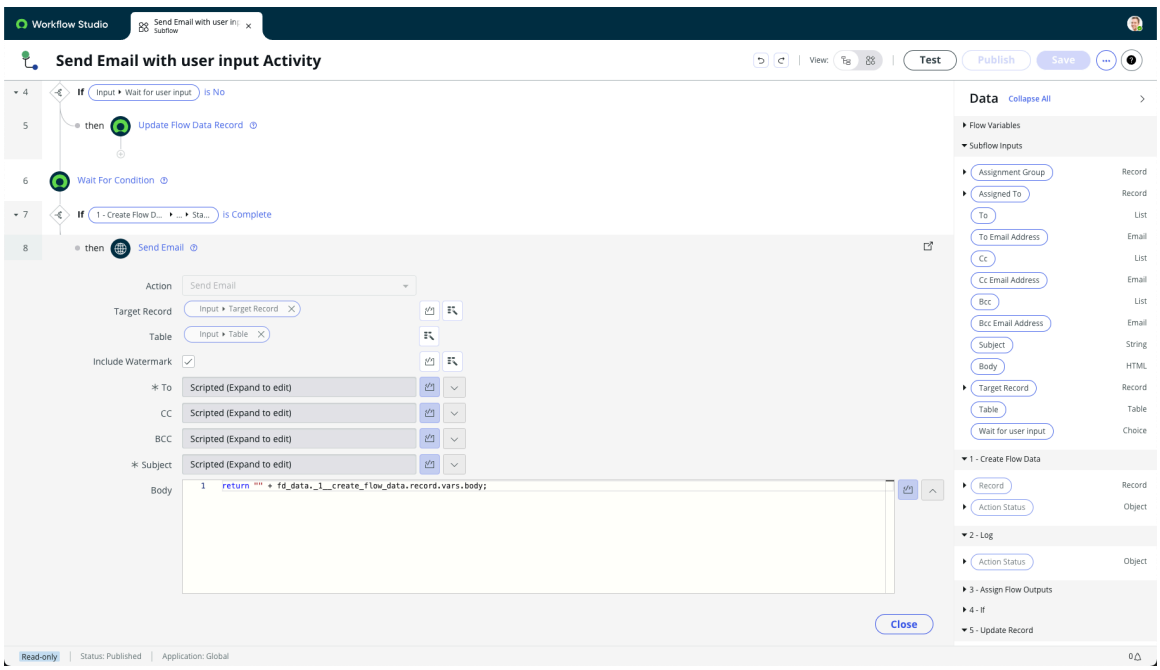
出力	タイプ	説明
レコード	Reference.Flow Data[sys_flow_data]	実行時にプレイブックアクティビティでエンドユーザーによる入力から作成された [フローデータ] レコードへの参照です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: ユーザー入力アクティビティを使用してメールを送信



[ユーザー入力アクティビティを使用してメールを送信] は、メールの作成と送信に必要な情報を収集するサブフローです。このサブフローは、対応するプロセスオートメーションデザイナーアクティビティのデータを提供します。サブフローでは、[フローデータを作成] アクションを使用して、アクティビティを実行しているユーザーから情報を収集します。この例では、メールの件名と本文の変数を含むメールデータ定義レコードを使用するように [フローデータを作成] アクションを設定します。アクションはさらに、[アサイン先] と [アサイン先グループ] のサブフロー入力を使用して、フローデータを入力できるユーザーを決定するように構成されています。



サブフローは、[フローデータを作成] レコードが [完了] ステータスになるまで待機してからメールを送信します。[メール送信] アクションは、[フローデータを作成] アクションの本文変数をメールの本文として使用するように構成されています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

「レコードの作成」アクション

任意のテーブルでレコードを作成します。レコードのフィールドを動的に追加および設定することができます。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

入力

フローに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップすることも、ピルピッカーから選択することもできます。

テーブル

データタイプ：*Table Name*

レコードを作成するテーブル。

フィールド

データタイプ：*Template Values*

レコードのために設定するフィールド値。たとえば、簡単な説明を特定の値に設定するには、[簡単な説明] を選択して目標値を設定します。

テンプレート値入力の作成の詳細については、「テンプレート値の入力を作成」を参照してください。

重要: システムでは、タスクレコードの追加コメントや作業メモといった複数のジャーナルフィールドの更新をサポートしていません。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

テーブル

データタイプ：*Table Name*

レコードが作成されたテーブル。

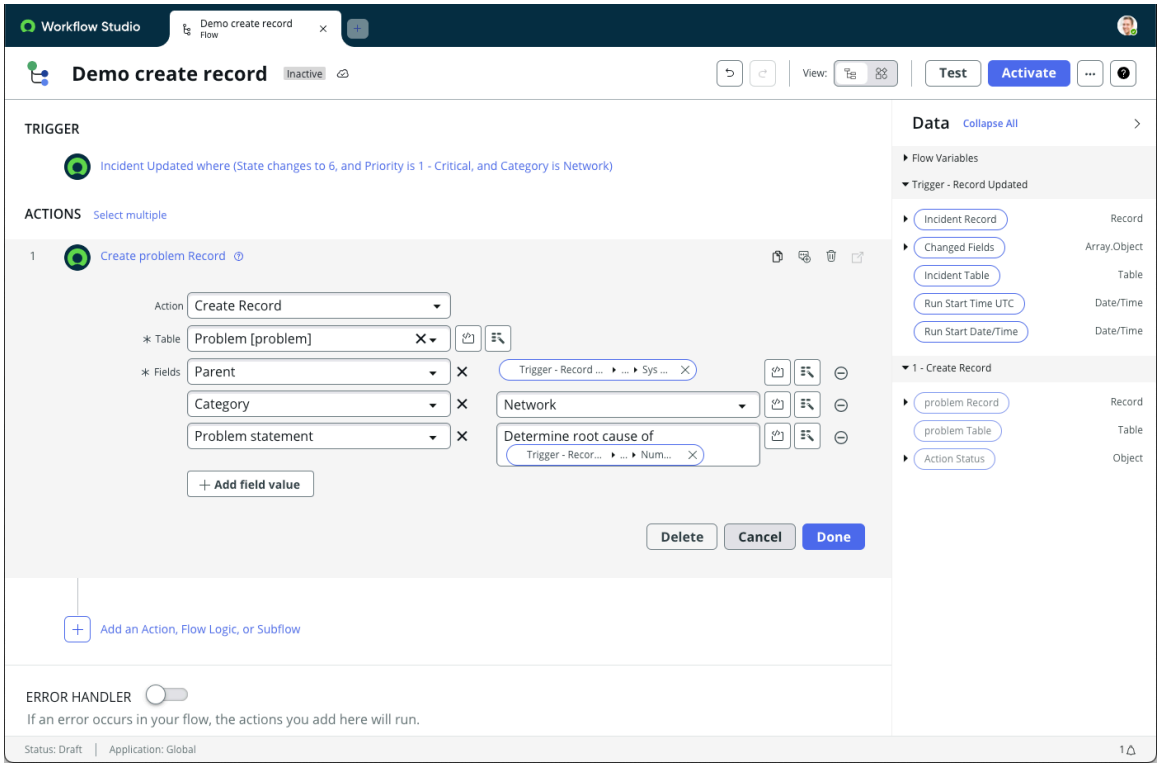
レコード

データタイプ：*Record*

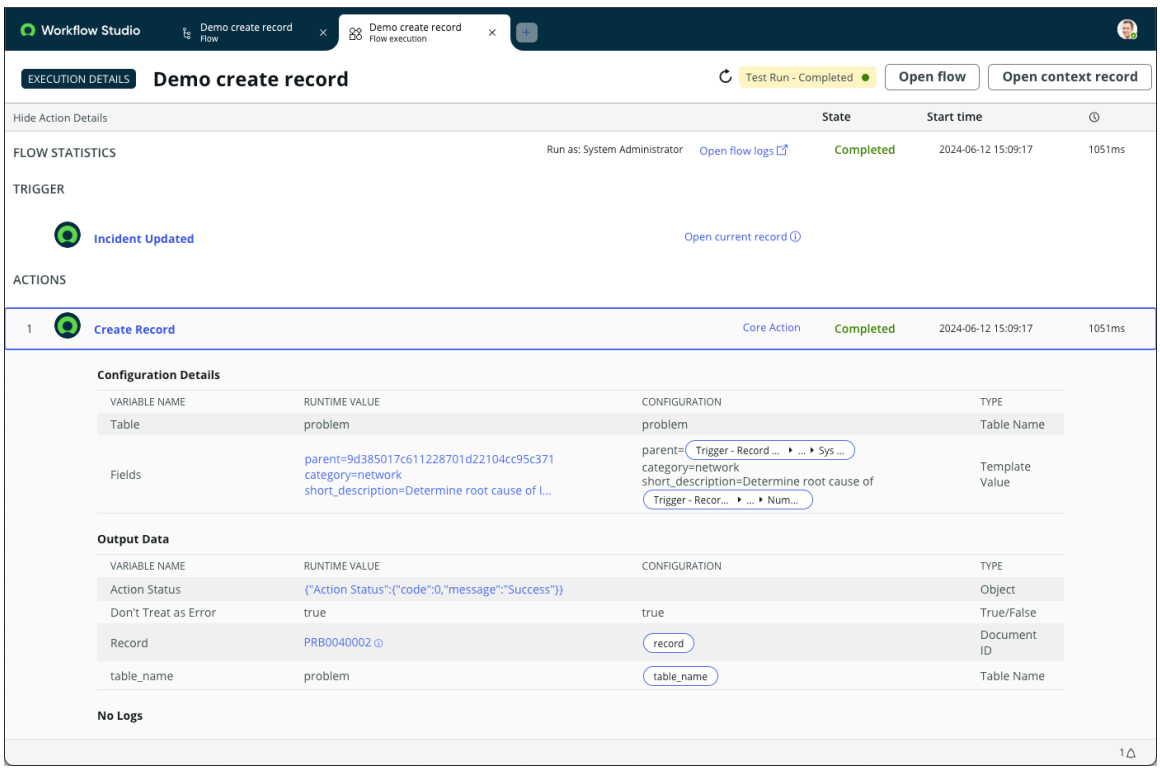
作成されたレコードへの参照。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: インシデントレコードから問題レコードを作成します。



この例では、優先度 1 のネットワークインシデントが解決済みステータスに変わるとフローが実行されます。[レコードを作成] アクションでは、[親] がトリガーインシデントの Sys ID、[カテゴリ] が [ネットワーク]、[問題の説明] が「トリガーインシデント番号の原因の特定」に設定されている問題レコードを作成します。



この例では、アクションによって、INC0000002 から作成された問題レコード PRB00400002 が作成されます。レコードランタイム値を使用して、新しいレコードを開くことができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[レコードを作成または更新] アクション

単一の操作を使用して、ServiceNow テーブルのレコードを作成または更新します。存在するレコードを更新するか、指定された値を使用してレコードを作成します。

既存のレコードの識別

[レコードを作成または更新] アクションは、一意の識別子として選択したフィールドで一致する値を検索することによって、既存のレコードを識別します。たとえば、[簡単な説明] フィールドと [優先度] フィールドがインシデントを一意に識別するように指定できます。アクションは、[簡単な説明] フィールドと [優先度] フィールドが一致するインシデントを検出すると、新しいレコードを作成するのではなく、一致するレコードを更新します。

注:

- 一意の識別子としてフィールドが選択されていない場合、アクションは指定されたフィールド値でレコードを作成します。
- 複数のレコードが一意の識別子の値と一致する場合、アクションはいずれのレコードも更新せず、フロー実行の詳細にエラーメッセージを表示します。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

入力

フローに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップすることも、ピルピッカーから選択することもできます。

テーブル

データタイプ：*Table Name*

レコードを作成または更新するテーブル。

フィールド

データタイプ：*Template Values*

レコードのために設定または更新するフィールド値。たとえば、簡単な説明を特定の値に設定するには、[簡単な説明] を選択して目標値を設定します。

重要: システムでは、タスクレコードの追加コメントや作業メモといった複数のジャーナルフィールドの更新をサポートしていません。

サブフローにアクションを追加する場合は、「テンプレート値の入力を作成」ことが可能です。フィールド値を動的に設定すると、サーバー側の検証ルールはトリガーされますが、UI ポリシーをトリガーすることはできません。

一意性を決定

データタイプ：*True/False*

レコードをいつ更新または作成するかを決定する一意の識別子としてフィールドを選択するオプション。受信したフィールド値が既存のレコードフィールド値と一致する場合は、レコードが更新されます。受信したフィールド値が既存のレコードフィールド値と一致しない場合は、レコードが作成されます。このオプションは、必要なテーブル名とフィールドが選択されている場合に表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

レコード

データタイプ：*Record*

作成または更新されたレコードへの参照。

テーブル

データタイプ：*Table Name*

レコードが作成または更新されたテーブル。

ステータス

データタイプ：*Choice*

アクションの完了ステータス。フロー実行の詳細ページには、次のいずれかの値が表示されます。

- 作成済み [created]：アクションによってレコードが作成されました。
- 更新 [updated]：アクションによってレコードが更新されました。
- エラー [error]：アクションによってエラーが発生しました。

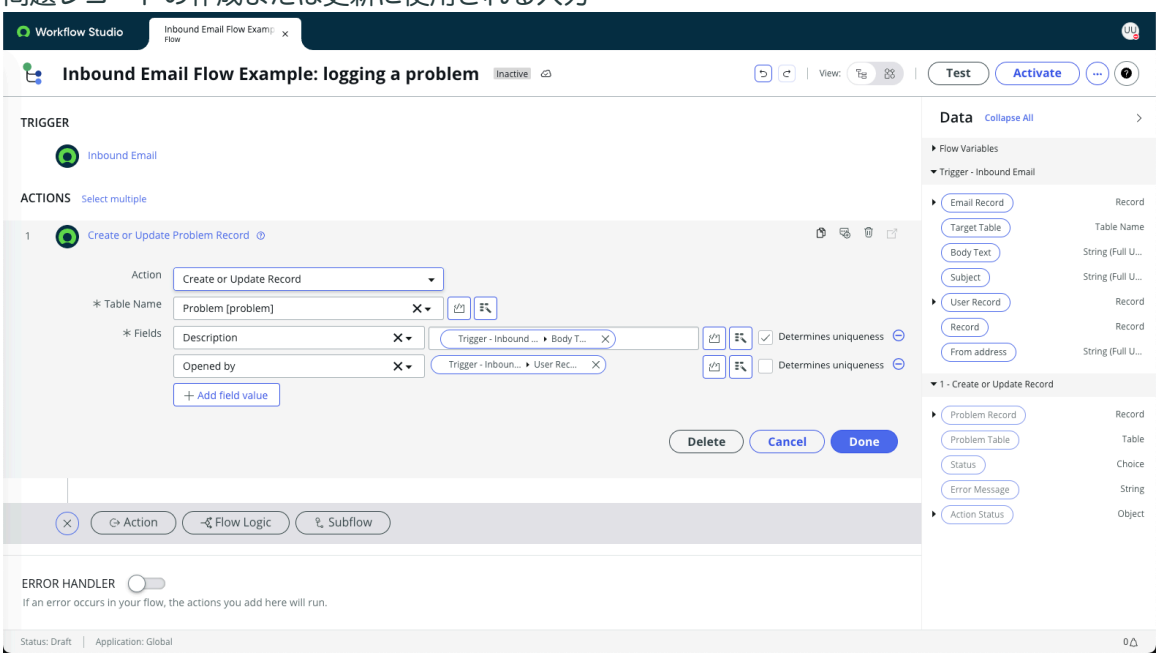
エラーメッセージ

データタイプ：*String*

レコード操作が失敗した際に生成されるエラーメッセージ。

Example: 受信メールから問題レコードを更新する

問題レコードの作成または更新に使用される入力



「タスクの作成」アクション

タスクテーブルの拡張にタスクレコードを作成します。タスクテーブルを選択した後、フィールドを動的に選択してアクションを構成できます。[親] フィールドを定義すると、タスクが親レコードに関連付けられます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

入力

フローに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップすることも、ピルピッカーから選択することもできます。

テーブル

データタイプ：*Table Name*

レコードを作成するタスクテーブルの拡張。たとえば、カタログタスク [sc_task] やインシデントタスク [incident_task] などです。

フィールド値

データタイプ：*Template Values*

レコードのために設定するフィールド値。たとえば、簡単な説明を特定の値に設定するには、[簡単な説明] を選択して目標値を設定します。

待機

データタイプ：*True/False*

タスクレコードがアクティブでなくなるまでフローを一時停止するかどうかを示すフラグ。True/False データピルをこの入力にドラッグアンドドロップすることで、待機条件を追加できます。条件フィールドが true の場合、フローはタスクレコードの完了のみを待機します。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

テーブル

データタイプ：*Table Name*

タスクレコードが作成されたテーブル。

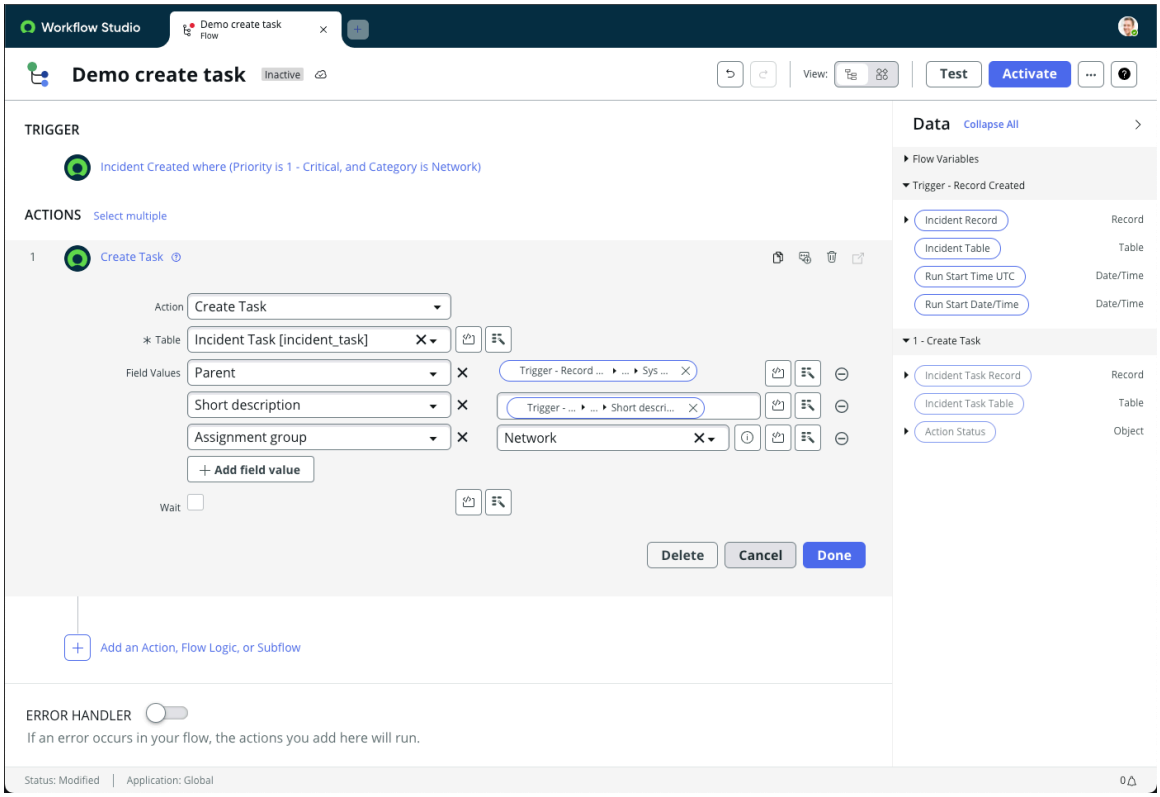
タスク

データタイプ：*Record*

作成されたタスクレコードへの参照。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: インシデントからインシデントタスクを作成



この例では、優先度の高いネットワークインシデントが作成されるとフローが開始されます。フローによって、[親] フィールドがトリガーインシデントに設定され、[簡単な説明] がインシデントの簡単な説明を継承し、[アサイン先グループ] が [ネットワーク] に設定されているインシデントタスクレコードが作成されます。フローにはこれ以上アクションがないため、インシデントタスクが完了するまでフローを一時停止するための [待機] オプションを選択する必要はありません。

添付ファイルのコピーアクション

添付ファイル [sys_attachment] テーブルからターゲットレコードに添付ファイルをコピーします。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

入力

フローに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップすることも、ピルピッカーから選択することもできます。

ソース添付ファイルのレコード [添付ファイル]

データタイプ：*Record*

コピーする添付ファイルを含む添付ファイルレコード。添付ファイル [sys_attachment] テーブルから手動でレコードを選択するか、添付ファイルレコードを検索できます。添付ファイルのルックアップアクション を使用して、特定のソースレコード内の特定のファイル名を持つ添付ファイルの Sys ID 値を 1 つ以上提供できます。[添付ファイルを検索] アクションを使用する場合は、「レコードのルックアップ」アクション を使用して、[添付ファイルを検索] アクションによって返された Sys ID 値を使用可能なレコードデータピルに変換する必要もあります。[添付ファイルを検索] ア

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クションの Sys ID 出力をレコードデータピルに変換する図については、セクションの例を参照してください。

ターゲットレコード

データタイプ：*Record*

添付ファイルのコピーを追加するレコード。「レコードのルックアップ」アクションを使用して、適切なターゲットレコードを検索できます。

テーブル

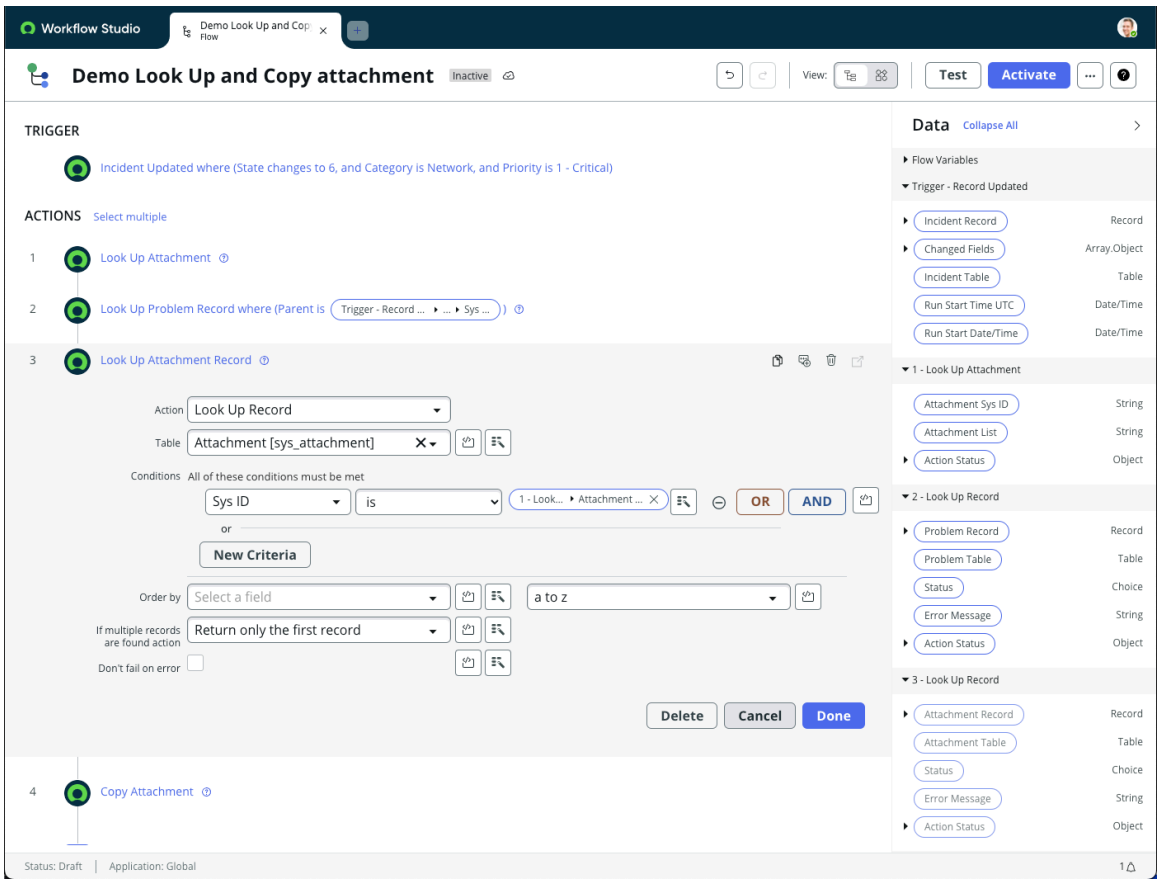
データタイプ：*Table Name*

ターゲット レコードを含むテーブル。ターゲットレコードのデータピルを選択すると、この入力値が設定されます。

出力

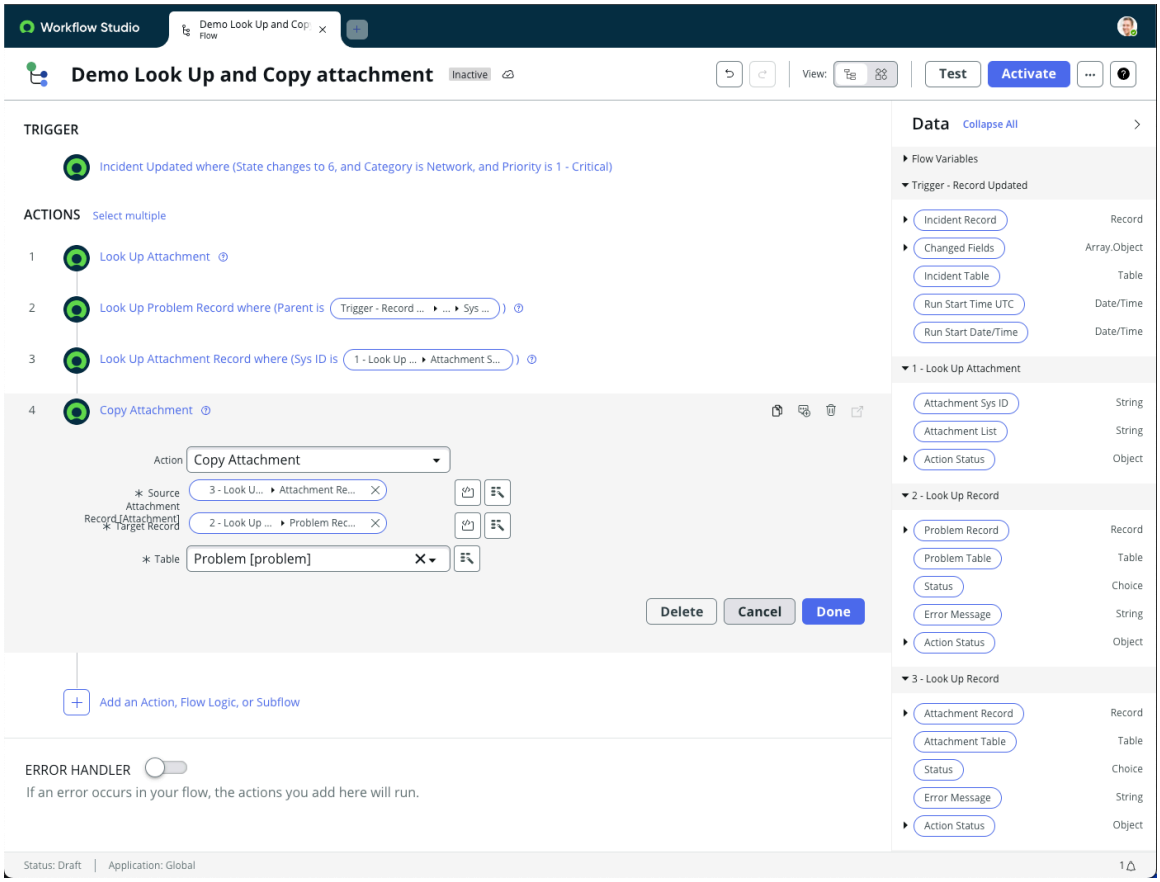
このアクションには出力がありません。

Example: インシデントレコードから問題レコードに添付ファイルをコピーする



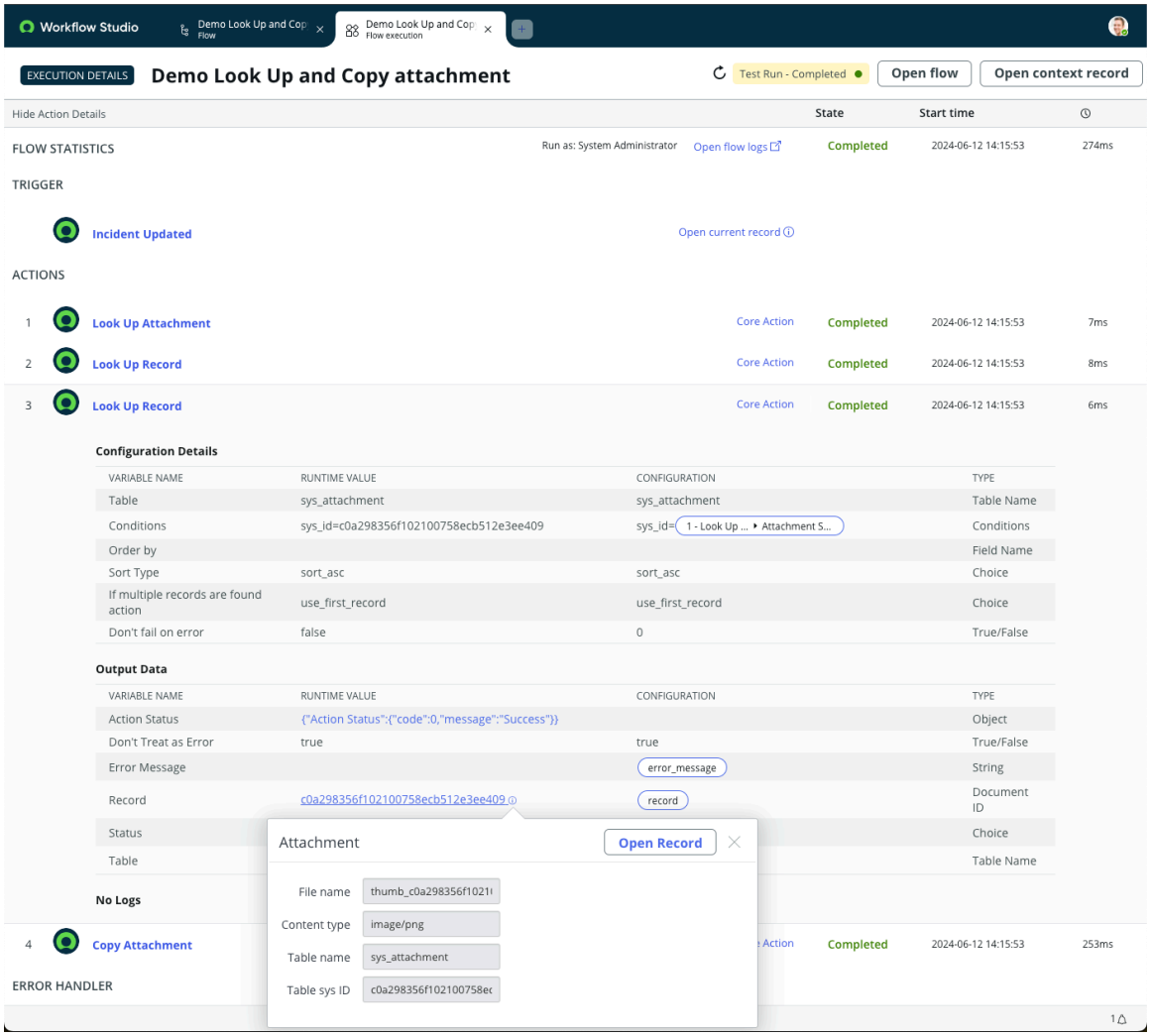
この例では、トリガーインシデントレコードから関連する問題レコードに添付ファイルをコピーします。この例では、コピーするソース添付ファイルが 1 つだけであることを前提としています。複数の添付ファイルをコピーする必要がある場合は、For Each フローロジックを追加します。フローは最初に [添付ファイルを検索] アクションを使用して、トリガーインシデント内の添付ファイルを検索します。このアクションによって生成された Sys ID 値は、ステップ 3 の [レコードの検索] アクションで入力として使用されます。次に、フローはインシデントレコードに関連付けられた問題レコードを検索します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



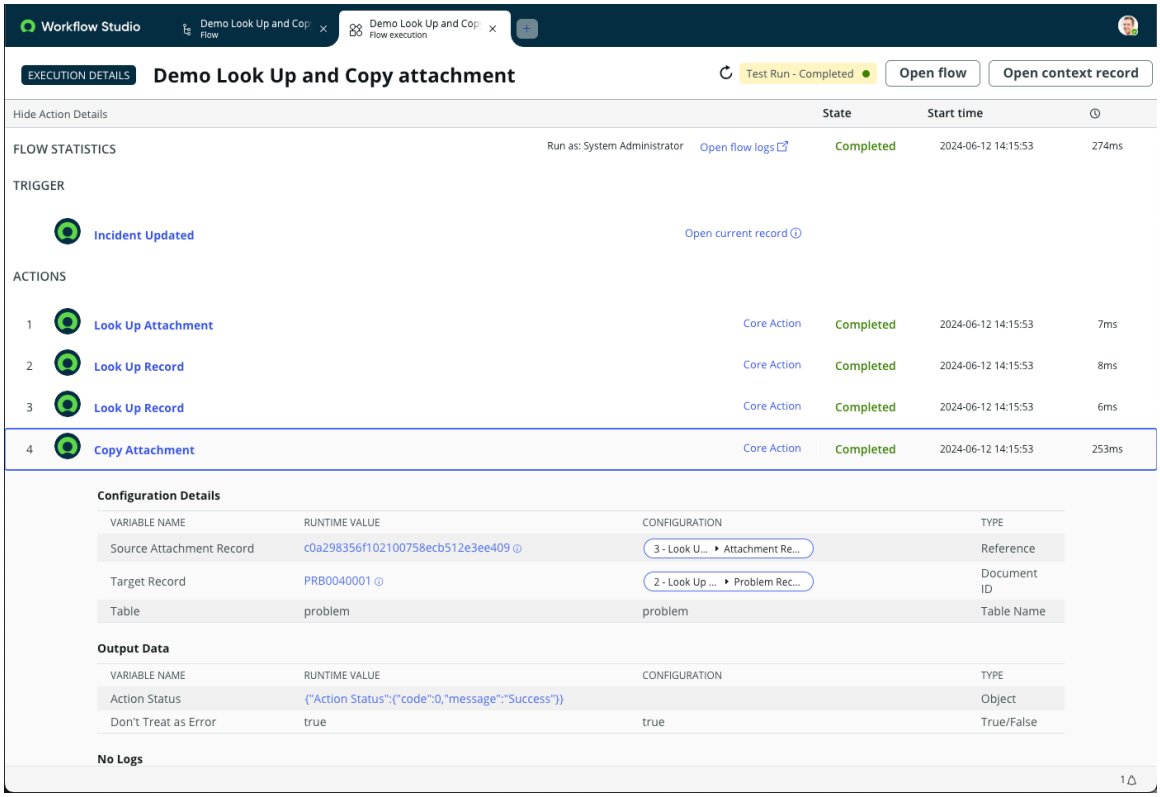
この例では、[添付ファイルの検索] アクションの文字列出力を直接使用できないため、[ソース添付ファイルのレコード] 入力は添付ファイル [sys_attachment] テーブルの [レコードの検索] アクションから値を取得します。[ターゲットレコード] の入力は、問題 [problem] テーブルの [レコードの検索] アクションからの値を取得します。テーブル入力は、ターゲットレコードデータピルから値を継承します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



フローステップ 3 の実行の詳細は、[レコードの検索] アクションで特定の添付ファイルレコードが見つかったことを示しています。このレコードは、フローステップ 4 [添付ファイルをコピー] の入力として使用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



フローステップ 4 の実行の詳細は、両方の入力値が [レコードの検索] アクションの出力データピルを使用していることを示しています。[ソース添付ファイルのレコード] の入力では、フローステップ 3 のデータピルが使用され、そのランタイム値は特定の添付ファイルレコードです。[ターゲットレコード] の入力はフローステップ 2 のデータピルを使用し、そのランタイム値は特定の問題レコードです。

添付ファイルの削除アクション

レコードに関連する、1 つまたはすべての添付ファイルを削除し、添付ファイルレコードを添付ファイル [sys_attachment] テーブルから削除します。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

フィールド

フィールド	説明
ソースレコード	1 つまたはすべての添付ファイルレコードを削除するデータパネルからレコードデータピルをドラッグします。
テーブル	[ソースレコード] テーブルから自動的に入力されます。
添付ファイル名	選択したレコードに関連する、1 つの添付ファイルを削除するには、添付ファイルの名前を入力します。 **注:** 同じ名前の添付ファイルがレコードに複数ある場合は、一致するすべての添付ファイルが削除されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
すべての添付ファイルを削除しますか?	選択したレコードに関連する、すべての添付ファイルを削除します。

「レコードの削除」アクション

任意のテーブルのレコードを削除します。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

フィールド

フィールド	説明
レコード	削除するレコードです。レコード データ ピルをドラッグアンドドロップするか、データ ピル ピッカーを使用してレコードを選択します。

[レコードの添付ファイルを取得] アクション

フロー内のデータピルとして提供されたソースレコードに関連付けられている添付ファイルのリストとカウントにアクセスします。フローロジックまたはスクリプティングを使用して、アクションが返す添付ファイルのリスト内の各添付ファイルを処理します。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

入力

フローに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップすることも、ピルピッカーから選択することもできます。

ファイル名

データタイプ：*String*

添付ファイルのファイル名の一部または全体を含む検索文字列。この入力をクエリフィルターとして使用して、リストされたファイル名を持つ 1 つ以上の添付ファイルを検索できます。この入力を空のままにすると、アクションは、ソースレコードに関連付けられたすべての添付ファイルを返します。

ソースレコード

データタイプ：*Document ID*

添付ファイルを取得するレコード。通常、この入力ではデータパネルのデータピルを使用します。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

添付ファイルリスト

データタイプ：*Records*

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

添付ファイルレコードの Sys ID 値が見つかりました。

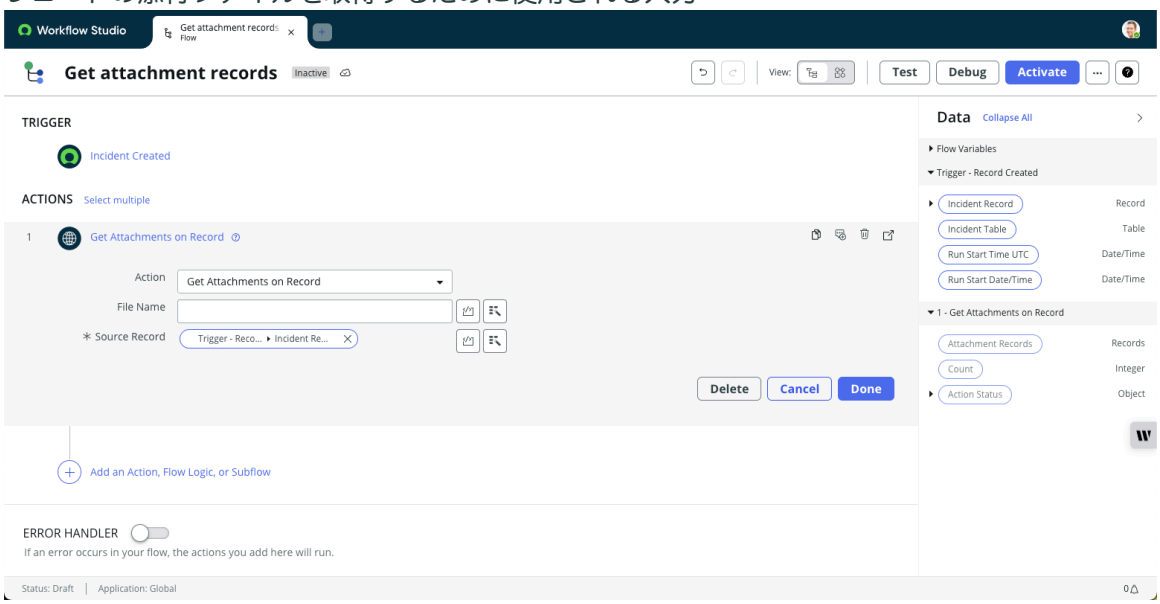
カウント

データタイプ：*Integer*

添付ファイルレコードの数。

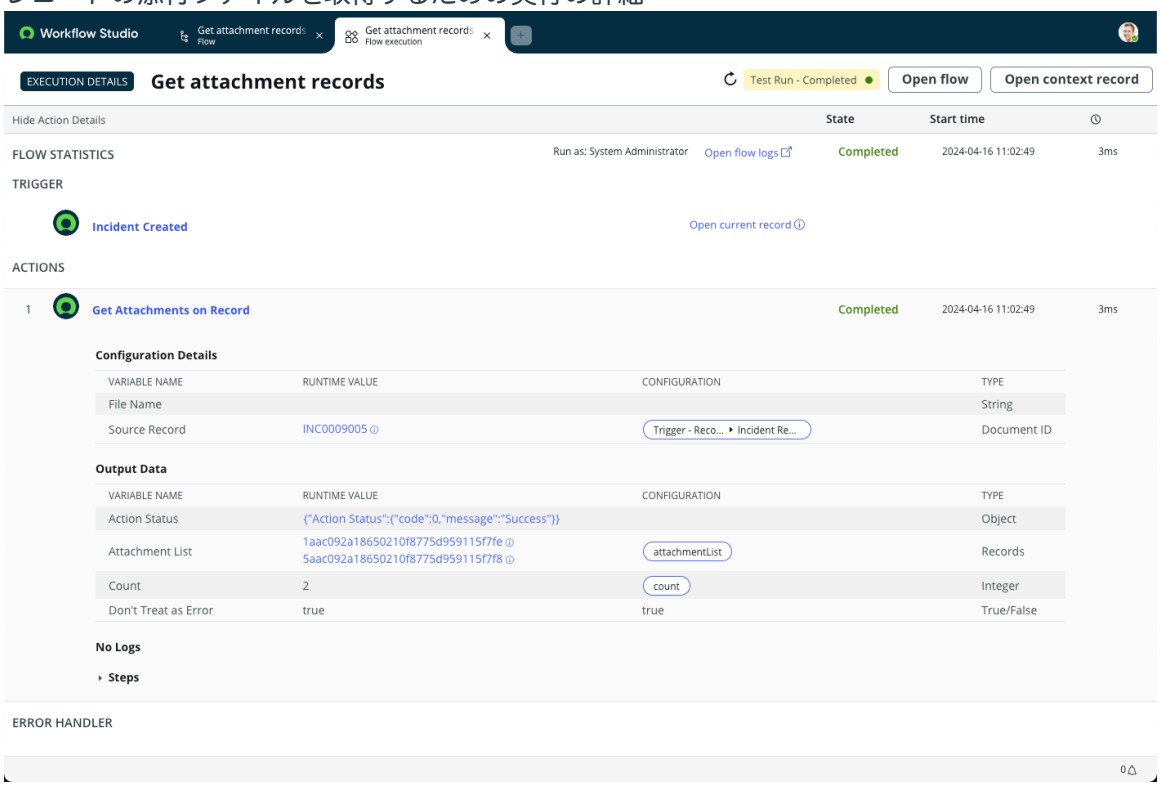
Example: インシデントレコードから添付ファイルを取得する

レコードの添付ファイルを取得するために使用される入力



この例は、インシデントレコードからすべての添付ファイルを取得する方法を示しています。[ファイル名] の入力を空のままにすると、すべての添付ファイルレコードが返されます。

レコードの添付ファイルを取得するための実行の詳細



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この例では、インシデントレコードに 2 つの添付ファイルが含まれていました。

「カタログ変数の取得」アクション

[カタログ変数の取得] アクションを使用して、複数のテンプレートカタログアイテムと変数セットから変数を選択します。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

入力

フローに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップすることも、ピルピッカーから選択することもできます。

送信された要求

データタイプ：*Record*

カタログ変数値を取得する要求アイテム [sc_req_item] テーブルからの要求アイテムレコード。

テンプレートカタログアイテムおよび変数セット [カタログアイテムおよび変数セット]

データタイプ：*Record*

カタログ変数のスラッシュバケットの入力に使用するカタログアイテム [sc_cat_item] レコード。この入力はデータピル値をサポートしていません。

カタログ変数

データタイプ：*Slush Bucket*

要求アイテムレコードから値を取得するカタログ変数のリスト。選択した各カタログ変数は、データペインにデータピルとして表示されます。 [利用可能] リストに表示されるフロー固有の変数を定義できます。フロー固有の変数を定義する方法については、「フローのサービスカタログ変数を作成する」を参照してください。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

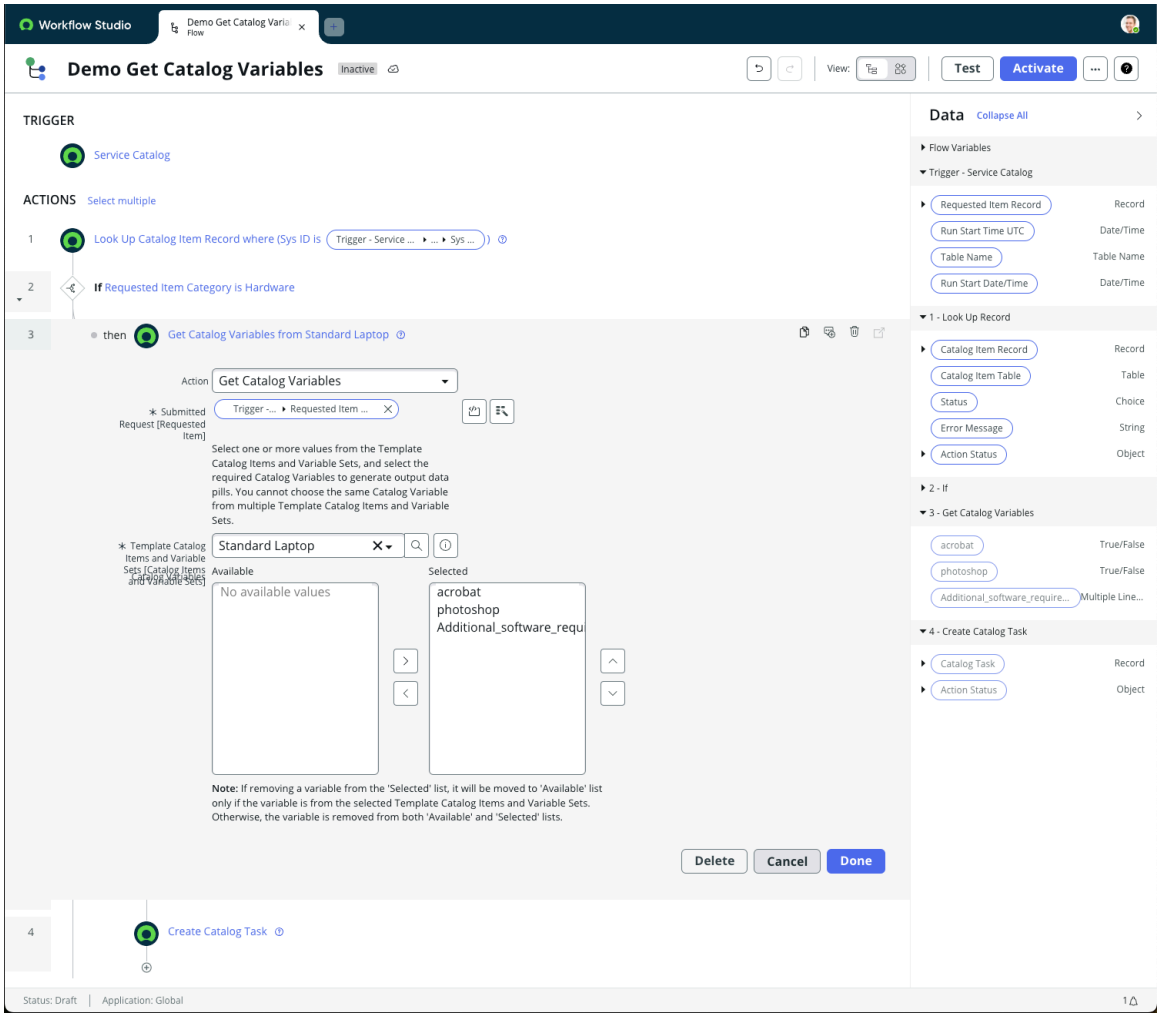
カタログ変数

データタイプ：*Varies by catalog variable type*

データペインには、[カタログ変数] の入力から選択されたカタログ変数ごとに個別のデータピルが表示されます。サポートされているサービスカタログタイプのリストについては、「サポートされる サービスカタログ 変数タイプ」を参照してください。

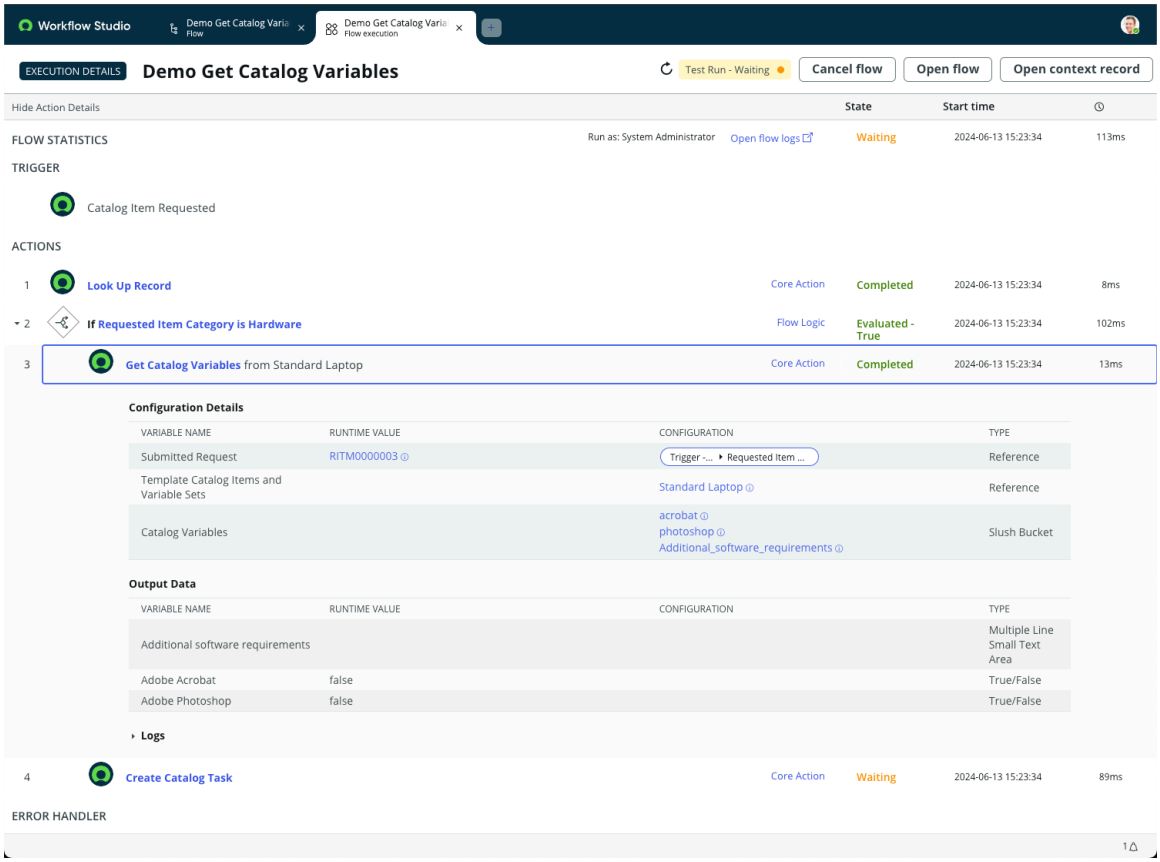
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: ハードウェアアイテムのカタログ変数を取得する



この例では、誰かがサービスカタログからアイテムを要求するとフローが実行されます。最初のフローステップでは、要求アイテムのカタログアイテムレコードを検索します。If フローロジックは、カタログアイテムのカテゴリ値 (Sys ID) を使用して、要求の対象がハードウェアカテゴリのアイテムであるかどうかを判断します。[カタログ変数を取得] アクションは、[送信された要求] の入力としてトリガーレコードを使用します。[テンプレートカタログアイテムおよび変数セット] の入力では、[ノートパソコン (標準仕様)] カタログアイテムで指定された変数を使用します。使用可能な 3 つのカタログ変数がすべて選択され、データペインにデータピルとして表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



フロー実行の詳細には、[送信された要求] がノートパソコン (標準仕様) の要求にリンクしていることが示されます。3 つのカタログ変数のうち、文字列変数は空で、2 つのブール変数は false です。

[メールヘッダーを取得] アクション

フロー内のデータピルとしてメールヘッダーの値にアクセスします。

ロールと使用可用性

フローデザイナー コアアクションとして利用可能です。プロセス アナリストは flow_designer ロールを使用して、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義します。

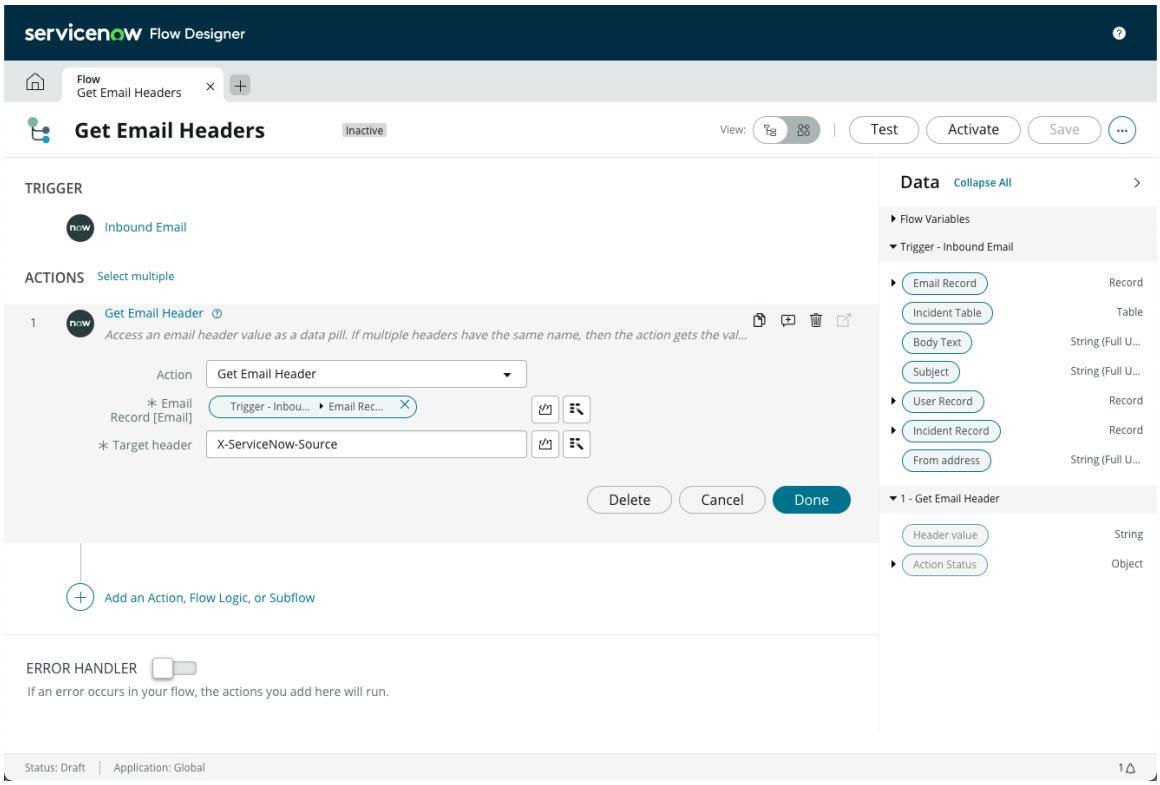
フィールド

フィールド	説明
メールレコード	メール [sys_email] テーブルからのレコードです。
ターゲットヘッダー	メールレコードからのヘッダーです。アクションが完了すると、ヘッダー値がデータピルとしてフローに追加されます。 **注:** 複数のヘッダーが同じ名前の場合、アクションは最初に表示されるヘッダーの値を取得します。 この入力には、メールヘッダー名に一致する文字列値が必要です。ServiceNow では、いくつかの専用メールヘッダーを提供しています。 • X-ServiceNow-Source • X-ServiceNow-SysEmail-Version

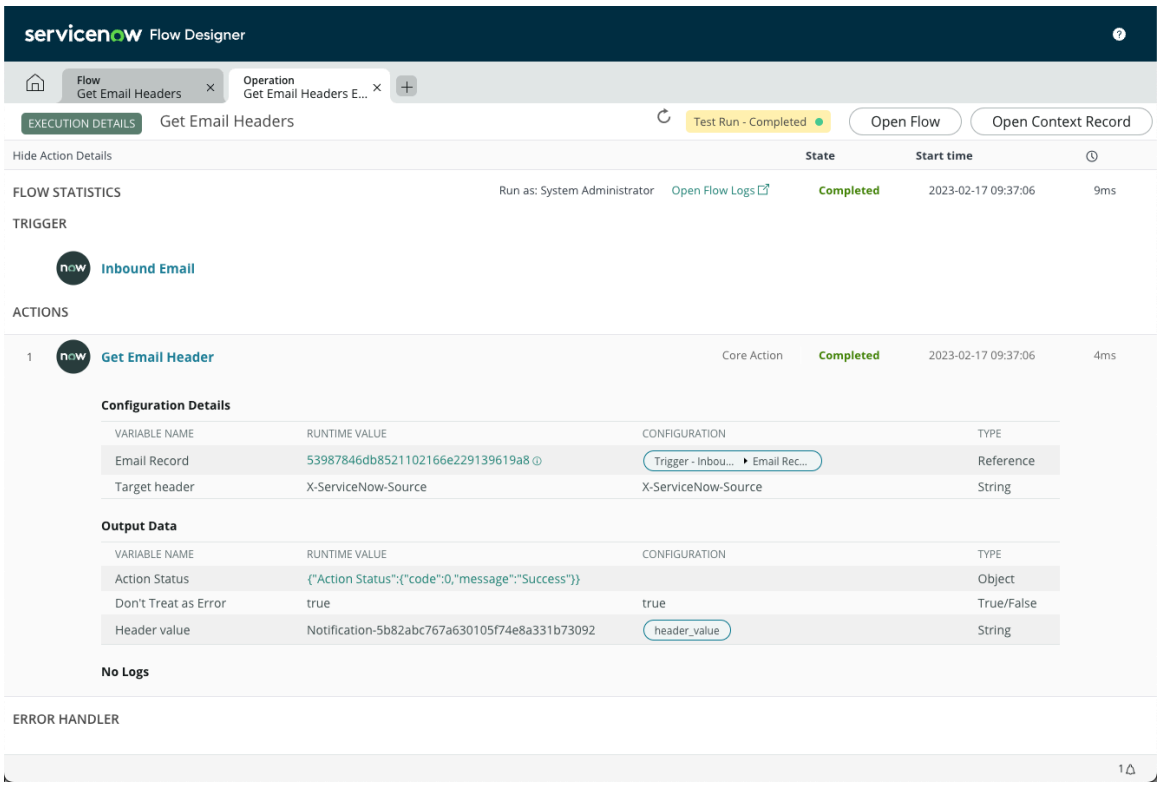
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例

次の例では、プロセスオーナーが受信メールトリガーの下に [メールヘッダーを取得] アクションを追加します。[メールレコード] フィールドで、フローをトリガーしたメールからメールヘッダーを取得するよう選択します。[ターゲットヘッダー] フィールドで、メールから X-ServiceNow-Source ヘッダーを取得するよう選択します。



サンプルメールレコードを使用してフローをテストすると、ヘッダー値がデータピルとして生成されます。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[メールから最新の応答テキストを取得] アクション

フロー内の他のアクションに、最新の返信または転送メッセージをメールチェーンで提供します。

ロールと使用可用性

- ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

入力

アクションに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップすることも、ピルピッカーから選択することもできます。

入力	データタイプ	説明
メールレコード	レコード	最新の返信または転送メッセージをフロー内の他のアクションに提供するメールレコードです。リストからメール [sys_email] レコードを選択するか、[データ] パネルからメール [sys_email] レコードデータピルを追加します。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

出力	データタイプ	説明
最新の応答テキスト	文字列	アクションの入力用に選択したメール [sys_email] レコードの最新の返信または転送メッセージの本文テキストです。 **注:** このアクションの入力に [タイプ] が [新規] のメール [sys_email] レコードを選択した場合、最新の応答テキスト出力はメールの本文全体になります。

「ログ」アクション

フローデザイナーログテーブル sys_flow_log にメッセージを記録します。

ロールと可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

フロー実行の詳細でログを表示できます。詳細については、「フロー実行の詳細」と「フローデザイナー データ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド

フィールド	説明
ログレベル	ログメッセージの重要度。 • エラー • 警告 • Info
ログメッセージ	フローログ [sys_flow_log] テーブルに表示するメッセージ。テキストを入力するか、データピルをフィールドにドラッグします。 注: フローデザイナー の設計環境では、ログメッセージに入力できるテキスト文字数は 255 文字のみです。この長さの制限は、直接入力されたテキストにのみ適用されます。データピル値は 255 文字を超えてもかまいません。255 文字を超える値をログに記録するには、データピル値を使用するか、GlideSystem -log(String message, String source) メソッドをスクリプトから呼び出します。

一般的なガイドライン

フローをテストして、有用なログ記録情報が生成されていることを確認する

フローをテストして、その実行の詳細を確認します。ログアクションに有用なデータが保存されていることを確認します。

データピルを使用して動的データを記録する

1 つ以上のデータピルをログアクションに追加して、動的に生成された値を保存します。データピルが、ログアクションの前に実行されたアクションとフローロジックに基づいていることを確認します。

添付ファイルのルックアップアクション

レコードに関連する添付ファイルを検索し、添付ファイルのシステム ID をデータピルとして返します。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

入力

フローに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップすることも、ピルピッカーから選択することもできます。

ファイル名

データタイプ：*String*

検索する添付ファイルの名前。レコードのすべての添付ファイルを検索するために、この入力を空のままにすることができます。

ソースレコード

データタイプ：*Record*

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

検索する 1 つ以上の添付ファイルを含むレコード。「レコードのルックアップ」アクション を使用して、適切なソースレコードを検索できます。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

添付ファイルの Sys ID

データタイプ：*String*

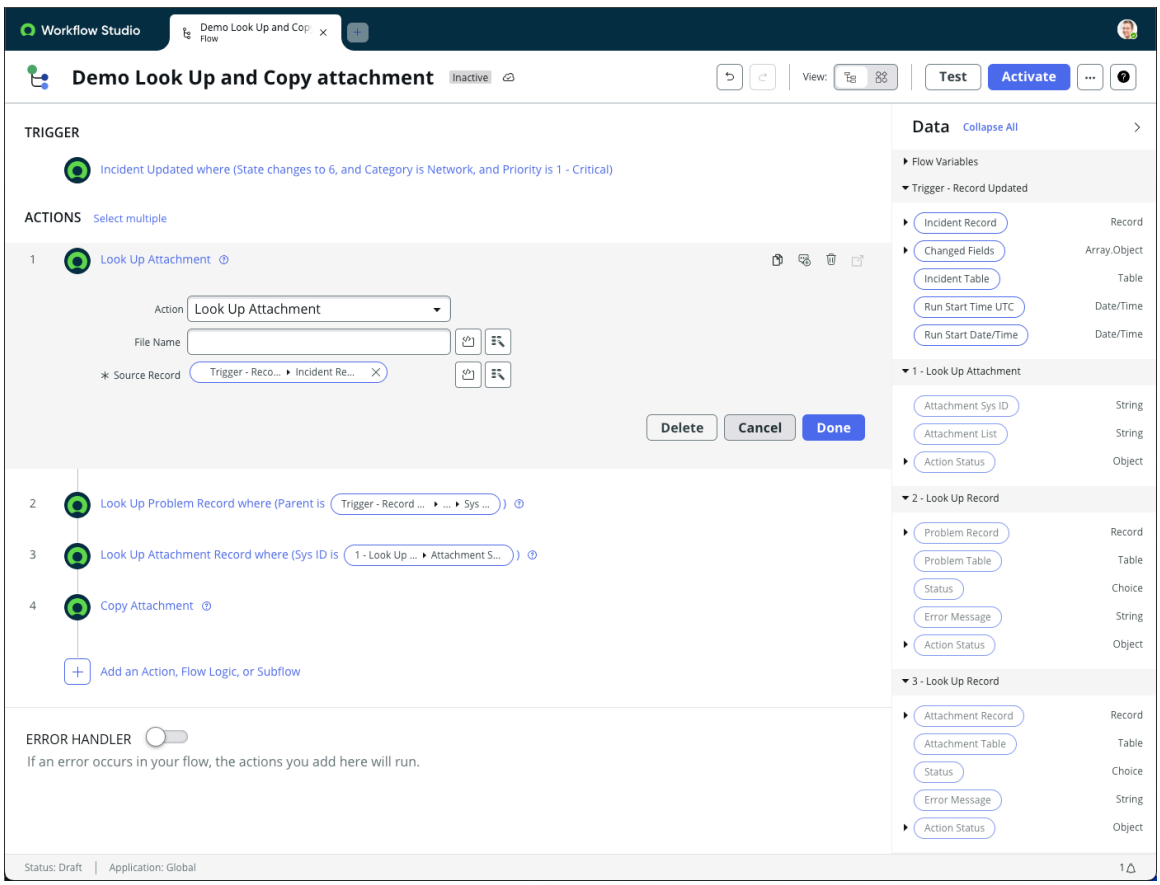
最初に一致した添付ファイルの Sys ID。「レコードのルックアップ」アクション を使用して、この文字列値をレコード出力に変換できます。

添付ファイルリスト

データタイプ：*String*

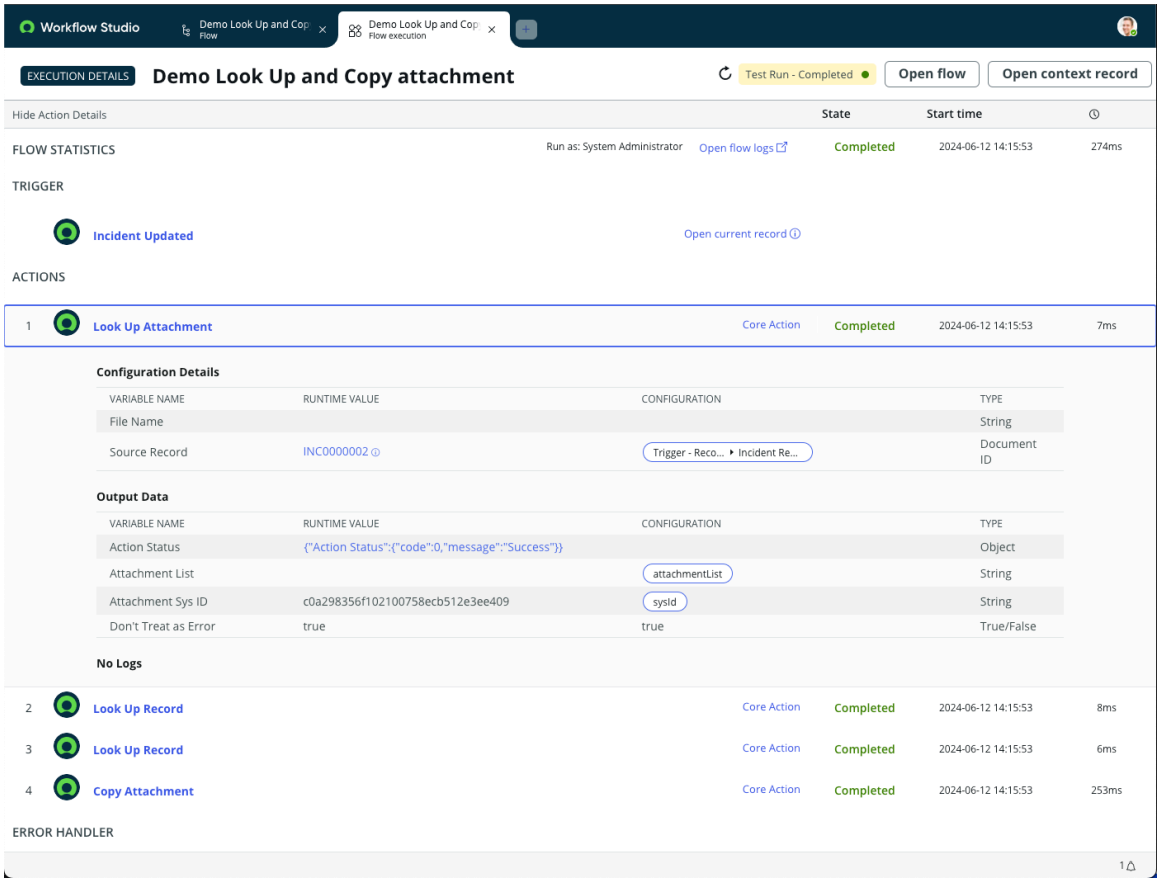
検索クエリに一致するすべての添付ファイルを含む JSON 形式の文字列。一致する各アイテムは、添付ファイルの Sys ID、ファイル名、およびファイルサイズ (バイト単位) を含むオブジェクトとしてフォーマットされます。必要に応じて、カスタムアクションを使用してこのオブジェクトを解析できます。

Example: インシデントレコードから添付ファイルを検索



この例では、関連する問題レコードにコピーできるように、インシデントレコードから添付ファイルを検索します。ソースレコード内のすべての添付ファイルを検索するために、[ファイル名] の入力は空です。[ソースレコード] の入力では、インシデントトリガーレコードデータピルが使用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



この例では、フロー実行の詳細には、トリガーインシデントに添付ファイルが 1 つだけあることが示されています。[添付ファイルの Sys ID] の出力には、添付ファイルレコードの Sys ID が文字列値としてリストされます。ソースレコードに関連付けられた添付ファイルが 1 つしかなかったため、[添付ファイルリスト] の出力は空です。

トリガーインシデントレコードに検索クエリに一致する添付ファイルが 2 つ以上ある場合、アクションは [添付ファイルリスト] の出力に JSON 文字列を入力します。

```
[
  {
    "sys_id": "a8008849db7e4210497c1a481396193c",
    "file_name": "Root Cause Analysis",
    "file_size_in_bytes": "48955"
  },
  {
    "sys_id": "c0a298356f102100758ecb512e3ee409",
    "file_name": "Pasted Image",
    "file_size_in_bytes": "97236"
  }
]
```

[メールの添付ファイルを検索] アクション

メールに添付されているファイルを検索して、ファイルに対してアクションを実行できるようにします。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド

フィールド	説明
メールレコード [Email]	メール [sys_email] テーブルからのレコードです。たとえば、フロートリガーからメールレコードを選択します。メールレコードを選択すると、関連するメールの添付ファイル [sys_email_attachment] レコードとそのフィールドがデータピルとして使用できるようになります。

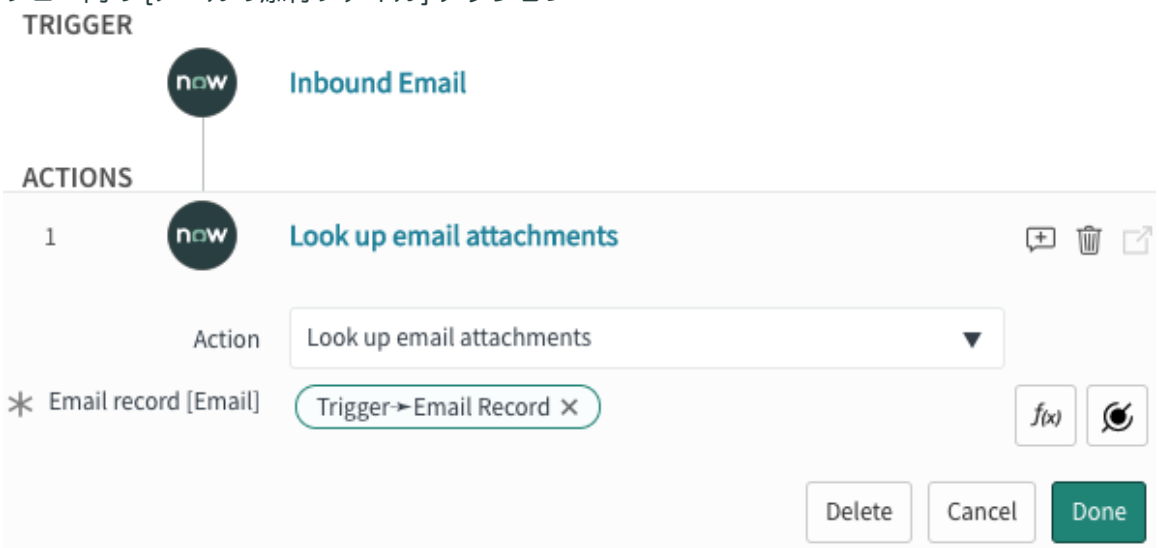
出力

このアクションにより、メールの添付ファイル [sys_email_attachment] レコードリストが生成されます。このリストには、指定されたメールレコードに関連付けられている添付ファイルが表示されます。添付ファイルに対してアクションを実行するには、[メールの添付ファイル] レコードピルの下の各添付ファイルピルに対して実行されるフローロジックを追加します。詳細については、「フローロジックごと」を参照してください。

例

次の例では、プロセスオーナーが受信メールトリガーの下に [メールの添付ファイルを検索] アクションを追加します。[メールレコード **[Email]]** フィールドで、フローをトリガーしたメールの添付ファイルを検索するよう選択します。

フロー内の [メールの添付ファイル] アクション



「レコードのルックアップ」アクション

定義された条件に基づいてテーブルからレコードを検索します。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

フィールド

フィールド	説明
テーブル	リストからテーブルを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
条件	返されるレコードが満たす必要がある条件。 参照フィールドの値を検索する条件をビルドする場合は、システム ID 値を明示的に指定するデータピルを使用します。条件の形式が [参照フィールド][次の値に等しい][参照タイプデータピル->システム **ID]** であることを確認します。たとえば、変更テーブルとインシデントテーブルの両方に、ユーザーテーブルへの参照フィールドが含まれます。要求者が問い合わせユーザーである変更レコードをインシデントレコードから検索するには、条件 [要求者][次の値に等しい][トリガー->インシデントレコード->問い合わせユーザー->システム **ID]** を作成します。
順番	定義された条件に複数のレコードが一致する場合に結果をソートする方法を決定します。結果をソートするために使用するフィールドを選択します。
ソートタイプ	アルファベット順に昇順または降順でソートするかどうかを選択します。
複数のレコードが見つかった場合	定義された条件に複数のレコードが一致する場合に返す情報を決定します。 • 最初のレコードのみを返す • ステップを失敗させる
エラーがあっても続行する (Don't fail on error)	検索でレコードが見つからない場合にフローを失敗させるかどうかを決定します。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

レコード

データタイプ：*Record*

Conditions 入力で指定した条件に基づいて検出されたレコード。

テーブル

データタイプ：*Table*

返されたレコードに関連付けられたテーブル名。

ステータス

データタイプ：*Choice*

レコードが正常に見つかった場合は 0、エラーがあった場合は 1。

エラーメッセージ

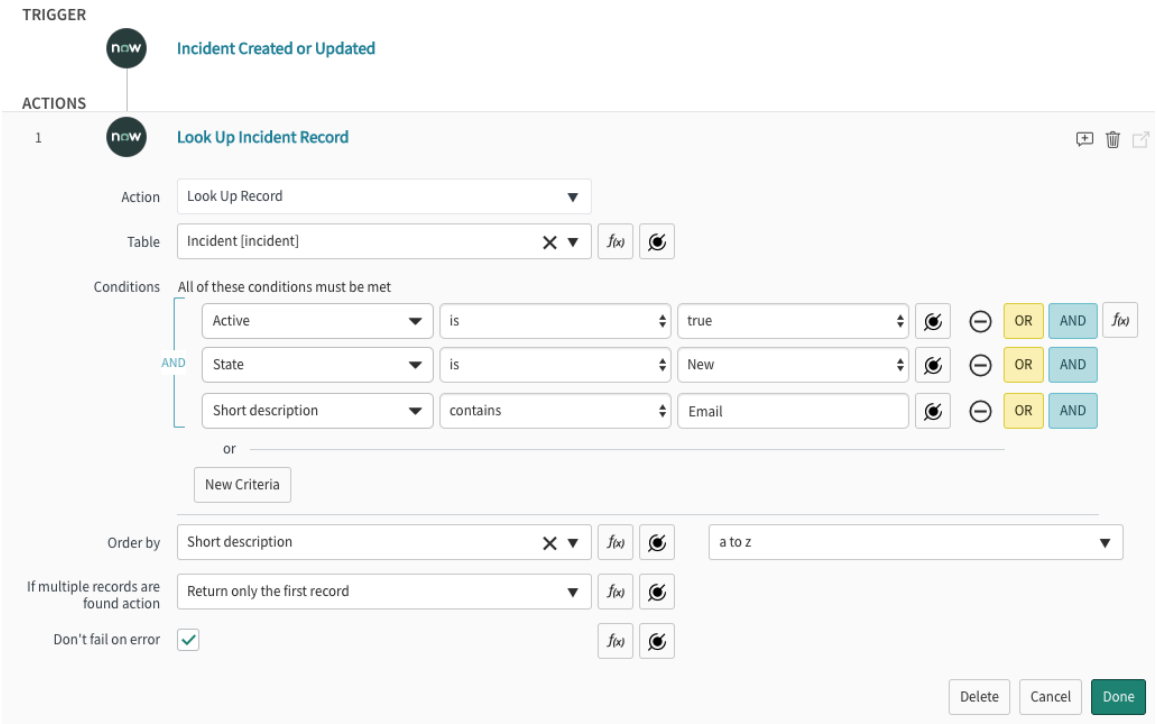
データタイプ：*String*

レコードが見つからなかった理由の詳細を含むメッセージ。

注: この出力の値は、*Status* 出力の値が 1 の場合にのみ設定されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例



「複数レコードのルックアップ」アクション

定義された条件を使用して、任意のテーブルで複数のレコードを検索します。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

入力

フローに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグするか、ピルピッカーから選択します。

テーブル

データタイプ：*Table Name*

検索するレコードを含むテーブル名。

条件

データタイプ：*Conditions*

レコードの検索に使用するフィールド名とフィールド値。インラインスクリプトを使用して条件を指定する場合は、GlideRecord クラスおよび GlideQueryCondition クラスを使用してクエリをビルドすることを検討してください。「GlideRecord - グローバル」および「GlideQueryCondition - グローバル」を参照してください。

順番

データタイプ：*Field Name*

結果をソートするために使用するフィールド。

ソートタイプ

データタイプ：*Choice*

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アルファベット順に昇順または降順でソートするためのオプション。

結果の最大数

データタイプ：*Integer*

アクションが返すことができるレコード結果の最大数。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

レコード

データタイプ：*Records*

指定したルックアップ条件に基づいて見つかったレコードのシステム ID のリスト。詳細については、「レコード.[テーブル] データ型」を参照してください。

テーブル

データタイプ：*Table Name*

レコードリストを含むテーブル。

カウント

データタイプ：*Integer*

アクションによって返されたレコードの数。

一般的なガイドライン

[レコードを検索] アクションを操作するときは、次の一般的なガイドラインを使用してください。

For Each フローロジックでレコードを処理する

For Each フローロジックを使用してレコードリストを反復処理します。For Each フローロジックの使用の詳細については、「For Each フローロジック」を参照してください。

結果の最大数を設定してパフォーマンスを向上させる

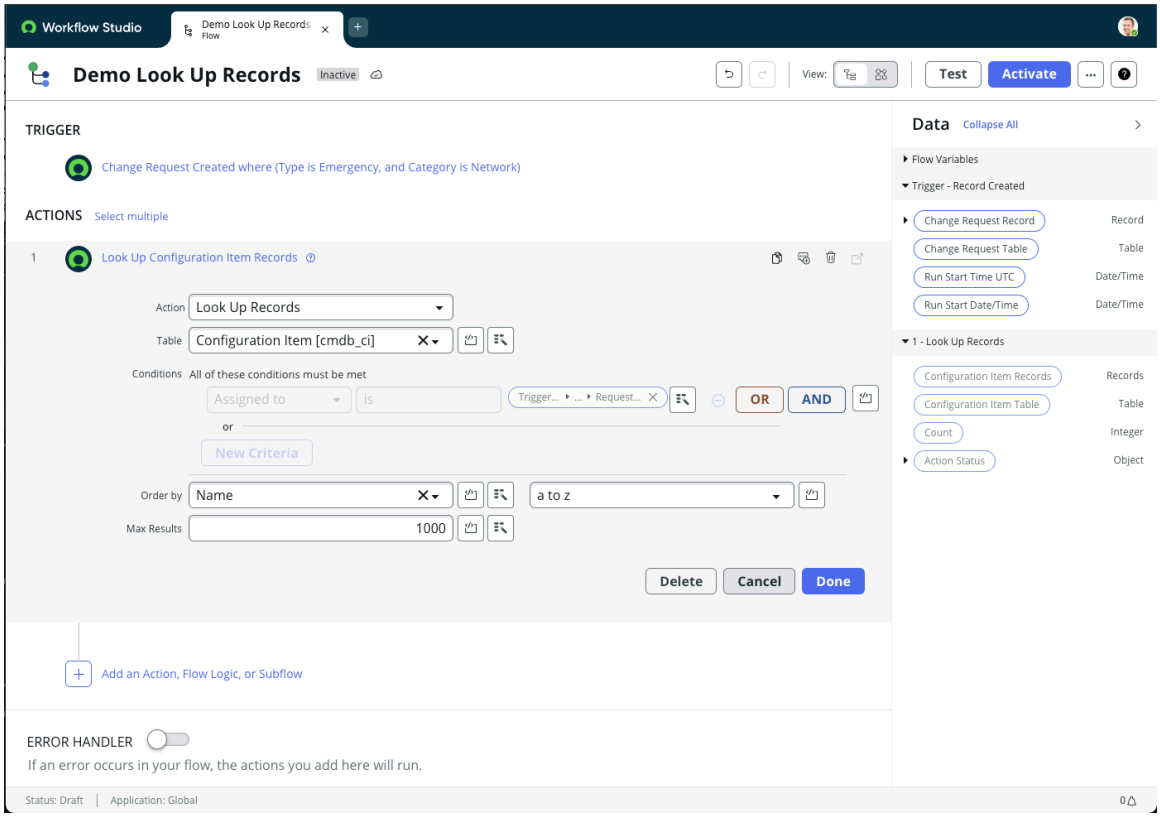
フローのパフォーマンスを向上させるには、[結果の最大数] 入力を 1,000 レコード以下に設定します。システムが検索する必要があるレコードが多いほど、それらの識別と処理に必要なシステムリソースが増大します。

条件を使用してレコードをフィルタリング

条件を使用して、アクションから返されるレコードの数を制限します。指定できる条件が具体的であればあるほど、フローのパフォーマンスは向上します。

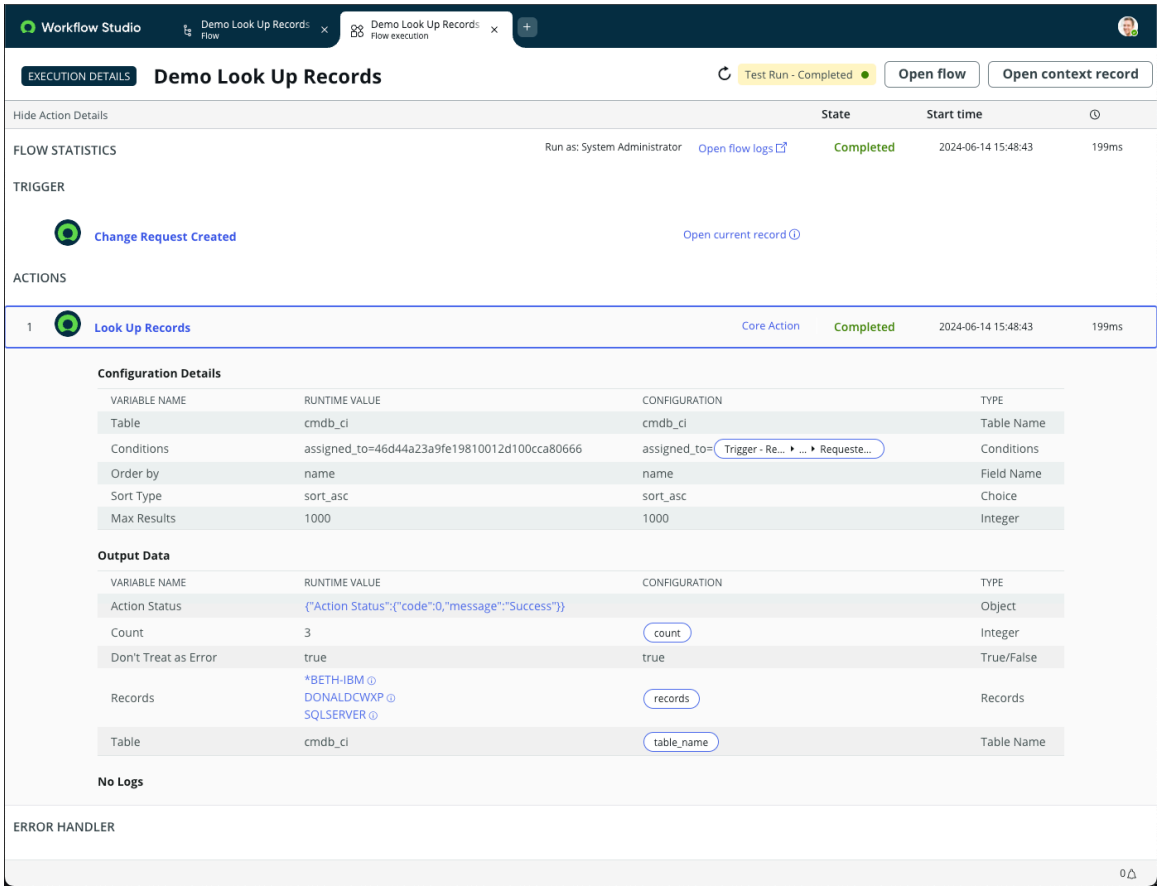
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: 変更要求ユーザーにアサインされた構成アイテムを検索



この例では、[ネットワーク] カテゴリで緊急の変更要求がオープンされると、フローが開始されます。[レコードの検索] アクションは、構成アイテム [cmdb_ci] テーブルをテーブルの入力として使用します。[条件] の入力は、変更要求の要求者にアサインされた構成アイテムを検索します。[順番] の入力では、[名前] フィールドを使用してアルファベットの昇順のソートを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



実行の詳細では、[カウント] の出力には、変更要求の要求者にアサインされた 3 つの構成アイテムが示されます。[レコード] の出力では、実行の詳細ページに構成アイテムが名前で表示されますが、データピルには一連の Sys ID 値が含まれています。[テーブル] の出力は構成アイテム [cmdb_ci] テーブルです。

添付ファイルの移動アクション

添付ファイル [sys_attachment] テーブルのレコードをターゲットレコードに関連付けます。その他すべての関連レコードから、その添付ファイルを削除します。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

注: データポリシー、ビジネスルール、辞書定義された必須項目など、サーバー側の検証ルールが適用されます。UI ポリシーは適用されません。

フィールド

フィールド	説明
ソース添付ファイルのレコード [Attachment]	添付ファイル [sys_attachment] テーブルから添付ファイルレコードを選択します。
ターゲットレコード	[ソース添付ファイルのレコード] の添付先データパネルからレコードデータピルをドラッグします。
テーブル	[ソースレコード] テーブルから自動的に入力されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[メール添付ファイルをレコードに移動] アクション

添付ファイルをメールからレコードに移動し、ユーザーがレコードを表示したときにファイルを使用できるようにします。

ロールと使用可能性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

入力

フローに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップすることも、ピルピッカーから選択することもできます。

メールレコード

データタイプ：*Record*

移動する 1 つ以上の添付ファイルを含むメール [sys_mail] レコード。有効なメールレコードを保持するには、メール受信を有効にする必要があります。メールのサービスとセットアップの詳細については、「メール管理」を参照してください。

ターゲットレコード

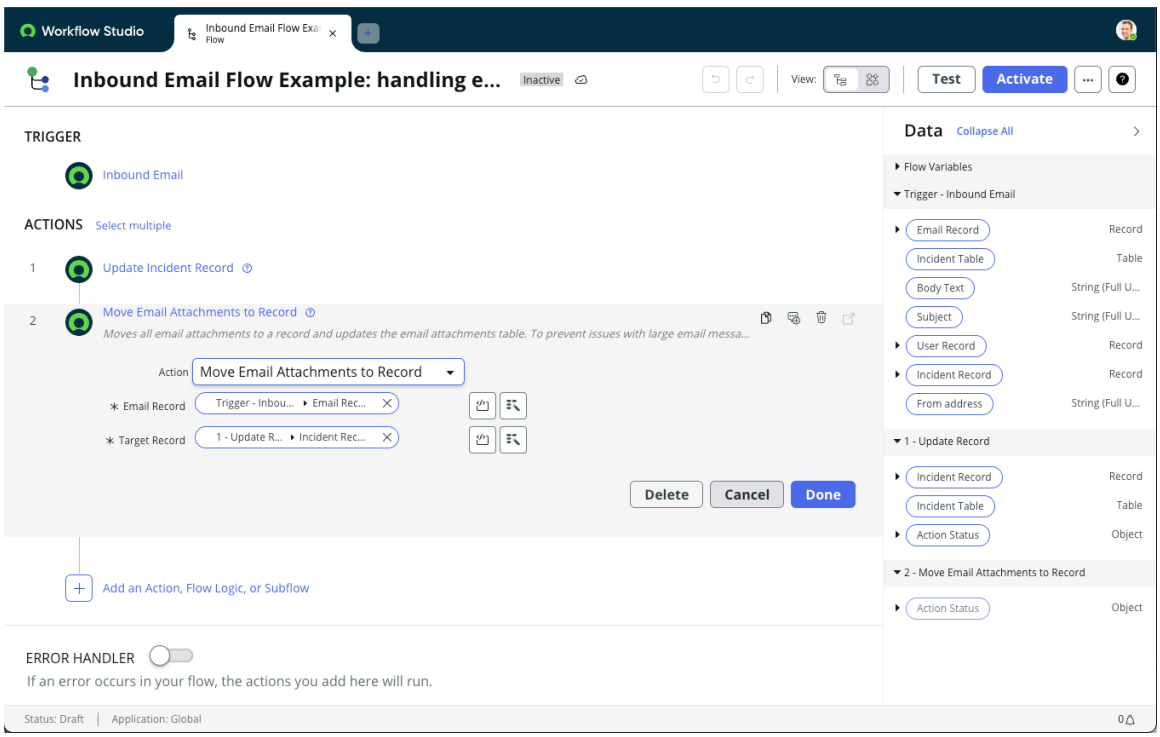
データタイプ：*Record*

1 つ以上の添付ファイルの移動先となるレコード。「レコードのルックアップ」アクション を使用して、適切なターゲットレコードを検索できます。

出力

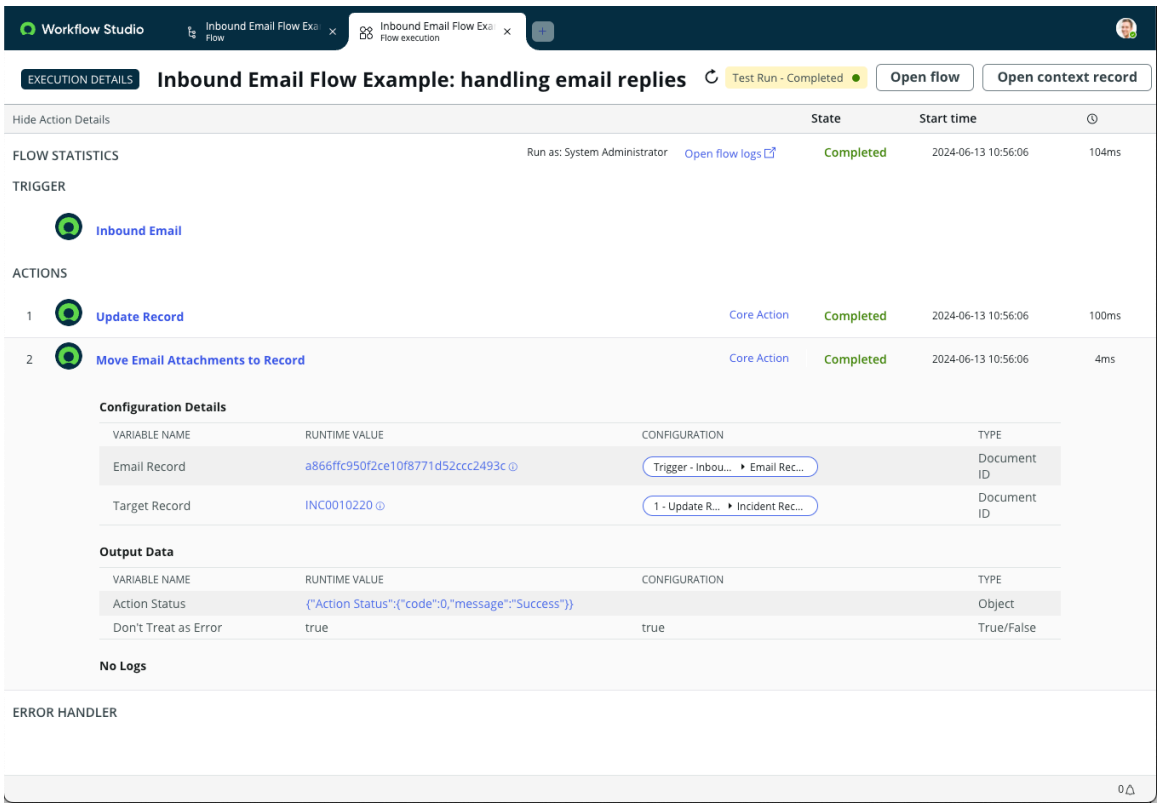
このアクションには出力がありません。代わりに、ソースのメール添付ファイル [sys_email_attachment] レコードを更新して、添付ファイルをターゲットレコードに移動します。

Example: メール添付ファイルをインシデントレコードに移動



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この例では、受信メールフロー処理のサンプルフローを拡張して、[メール添付ファイルをレコードに移動] アクションを追加します。この例では、メールを受信するようにインスタンスを事前に設定しており、添付ファイル付きのメールレコードが 1 つ以上あることを前提としています。[メールレコード] の入力では、フローをトリガーするメールのデータピルが使用されます。[ターゲットレコード] の入力では、フローステップ 1 で更新されたインシデントレコードのデータピルが使用されます。



この例では、メールレコードは複数の添付ファイルを含む受信メールでした。ランタイム値は、受信したメールレコードへの Sys ID 参照です。ターゲットレコードはインシデントレコード INC0010220 で、フローステップ 1 でメールによって更新されました。

[レコードプロデューサー] アクション

レコードプロデューサーカタログアイテム [sc_cat_item] からタスクレコードを作成します。タスクレコードは、カタログアイテムの変数値から値を継承します。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

入力

アクションに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップすることも、ピルピッカーから選択することもできます。

入力	データタイプ	説明
カタログアイテム	レコード	タスクレコードの作成に使用されるカタログアイテムへの参照。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	データタイプ	説明
カタログアイテム入力	文字列	選択したカタログアイテムに関連付けられているカタログ変数。[サービスカタログ] > [カタログ定義] > [レコードプロデューサー]からカタログアイテムに関連付けられているカタログ変数を表示できます。
エラーがあっても続行する (Don't fail on error)	True/False	エラー時に失敗するかどうかを示すカタログ変数。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

出力	データタイプ	説明
テーブル	テーブル名	タスクレコードが作成されたテーブル。
レコード	レコード	作成されたタスクへの参照。
エラーメッセージ	文字列	レコード操作が失敗した際に生成されるエラーメッセージ。
ステータス	選択肢	アクションの完了ステータス。フロー実行の詳細ページには、これらの数値のいずれかが表示されます。 • 成功 [0]：アクションは成功しました。 • エラー [1]：アクションによってエラーが発生しました。

エラーメッセージ

このアクションでエラーが発生した場合、次のエラーメッセージが [実行の詳細] ページに表示されます。

エラーメッセージ	説明
レコードの生成に失敗しました。詳細については、ログを確認してください。	このエラーは通常、1 つ以上のレコードを他のテーブルに挿入するロジックがフローまたはアクションに含まれている場合に発生します。このロジックが存在する場合、[レコードプロデューサー] アクションはテーブルへのレコードの挿入を中止します。

デザインの検討

[レコードプロデューサー] アクションを含むフローを作成するときは、次のデザインの検討に従ってください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

文字列置換変換関数を使用して、文字列データピルから引用符をエスケープする

複雑な文字列変数は、システムに格納されるときに JSON 形式に変換されます。JSON 形式のエラーを防ぐために、文字列置換変換関数を使用して、カタログ変数に使用する文字列データピルに存在する引用符をエスケープできます。「文字列変換関数」を参照してください。

変換関数を使用してデータピルを検証する

データピルを使用してアクション入力にデータを提供する場合はいつでも、変換関数を使用してデータを検証できます。利用可能な変換機能のリストについては、「変換関数」を参照してください。

「メールの送信」アクション

フロー内のアクションとして、指定したユーザーまたはグループにメールを送信します。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

入力

フローに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップすることも、ピルピッカーから選択することもできます。

Target Record (ターゲットレコード)

データタイプ：*Document ID*

メールが関連付けられているレコード。ユーザーがメールに返信すると、返信メールコンテンツでターゲットレコードが更新されます。

Table (テーブル)

データタイプ：*Table Name*

ターゲット レコードを含むテーブル。

終点

データタイプ：*String*

メールのメインの受信者。ユーザーのメールアドレスのリストをカンマまたは空白で区切って入力します。メールアドレスを含むデータピルを、ユーザーレコードやグループレコードなどのフィールドにドラッグすることもできます。たとえば、インシデントにアサインされたグループにメールを送信する場合は、データパネルから [アサイン先グループ] データピルをドラッグします。

グループにメールを送信するには、グループのメールアドレスを指定する必要があります。グループメンバーにメールを送信するには、グループの [含めるメンバー] オプションを有効にする必要があります。

注: メール受信者の数は、glide.email.smtp.max_recipients システムプロパティで設定された最大数以下である必要があります。この値の設定については、「SMTP 受信者の数量を最小化する (セキュリティセンター 1.3 で更新)」を参照してください。

CC

データタイプ：*String*

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このメールにコピーされた追加の受信者。ユーザーのメールアドレスのリストをカンマまたは空白で区切って入力します。メールアドレスを含むデータピルをフィールドにドラッグすることもできます。

BCC

データタイプ：*String*

送信者にのみ表示されるこのメールの追加の受信者 (BCC)。ユーザーのメールアドレスのリストをカンマまたは空白で区切って入力します。メールアドレスを含むデータピルをフィールドにドラッグすることもできます。

件名

データタイプ：*String*

メールの件名。テキストを入力するか、データピルをフィールドにドラッグすることができます。

本文

メッセージ本文の内容。テキストを入力するか、データピルをフィールドにドラッグすることができます。エディターの書式設定オプションは、インラインスタイルを追加します。メール本文に関連付けられたスタイルシートはありません。この HTML 入力に独自のインラインスタイルシートを追加できます。

> **注:** フローデザイナーは、メールメッセージ本文の ${URI} パラメーターをサポートしていません。レコードへのリンクを作成するには、データピルを使用するか、代わりに通知ステップを作成します。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。アクションまたはフローの他の場所で入力として使用できます。

電子メール

データタイプ：*Record*

メールレコードが作成されました。

インスタンスメールの構成

メールメッセージを送受信するためのインスタンスの構成については、「メール管理の構成」を参照してください。

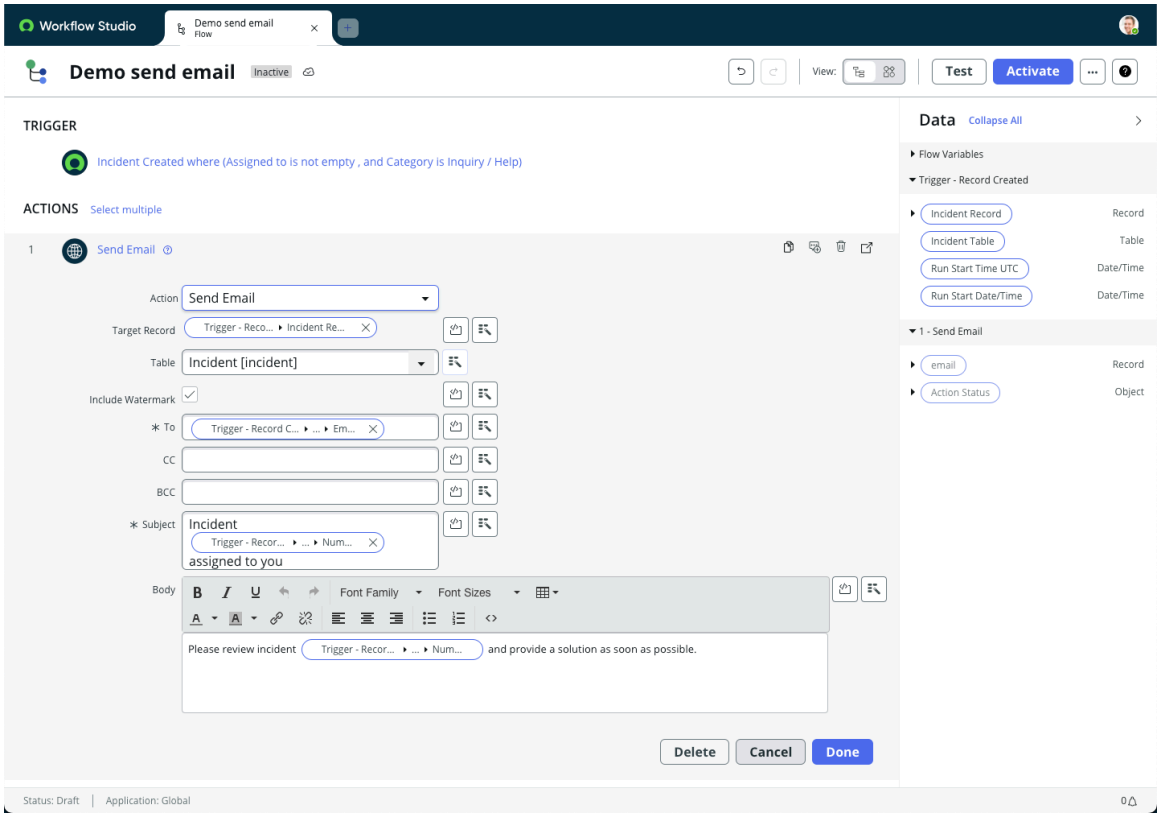
「メールのテスト」アクション

アクションをテストするときにメールが生成されたことを確認するには、メール [sys_email] テーブルのメールレコードを確認します。[ヘッダー] フィールドは、メールが正常に生成されたかどうかを示します。

例：
ACL 制限は [メール送信] アクションに適用されます。セッションを開始するユーザーとして実行されるようにフローを構成した場合は、ユーザーがメールにアクセスできることを確認します。[メール送信] アクションのアクセス制御をテストするには、典型的なメール送信者を代理操作してフローを手動でトリガーします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: インシデント作成時にメールを送信



この例では、[アサイン先] フィールドが空でないインシデントレコードが作成されたときは常に、およびインシデントカテゴリが問い合わせ/ヘルプであるときに、システムからメールが送信されます。インシデントトリガーレコードは、メール送信アクションで使用される値を提供します。たとえば、メールはアサイン先ユーザーのメールアドレスに送信され、メールの件名と本文の両方がインシデント番号を参照します。

[通知を送信] アクション

事前定義されたコンテンツを含むメール通知を、事前定義された受信者に送信します。通知 [sysevent_email_action] レコードを選択または作成して、メール通知を設定します。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

入力

レコード

データタイプ：*Record*

関連する通知 [sysevent_email_action] を送信するレコードへの参照。

テーブル

データタイプ：*Table Name*

関連する通知を送信するレコードのテーブル。この入力は、レコードを選択すると自動的に入力されます。

通知

データタイプ：*Record*

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

送信する通知 [sysevent_email_action] への参照。選択したレコードのタイプに関連する通知がない場合は、[すべて] > [システム通知] > [メール] > [通知]から通知を作成する必要があります。

出力

このアクションには出力はありませんが、入力値で指定された通知を送信します。

一般的なガイドライン

[通知を送信 (Send notifications)] アクションを使用する場合は、一般的なガイドラインを使用してください。

メール通知を送信するために [通知を送信 (Send notifications)] アクションを選択する

事前定義されたコンテンツを含むメール通知を、事前定義された受信者に送信する場合、このアクションを選択します。メール通知作成の詳細については、「メール通知を作成する」を参照してください。

他のタイプの通知に統合ハブスポークアクションを使用する

統合ハブスポークアクションを使用して、 Microsoft Teams などの外部サービスを介して通知を送信します。使用可能な統合スポークとそのアクションのリストについては、「統合ハブ の利用可能なスポーク」を参照してください。

[SMS 送信] アクション

インスタンスのメールサーバーを使用して、指定したユーザーまたはグループにメールベースの SMS テキストメッセージを送信します。受信者は、メッセージを受信するように SMS デバイスを構成する必要があります。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

フィールド

フィールド	説明
受信者	SMS テキストメッセージの受信者です。データパネルからピルをドラッグして、ユーザーまたはグループを指定します。
メッセージ	SMS テキストメッセージのコンテンツです。テキストを直接入力することも、データパネルからピルをドラッグすることもできます。

入力

フローに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップすることも、ピルピッカーから選択することもできます。

受信者

データタイプ：*String*

SMS テキストメッセージの受信者です。データパネルからピルをドラッグして、ユーザーまたはグループを指定します。

メッセージ

データタイプ：*String*

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SMS テキストメッセージのコンテンツです。テキストを直接入力することも、データパネルからピルをドラッグすることもできます。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

メール

データタイプ：*Record*

SMS メッセージ用に作成されたメールレコード。

[SLA パーセンテージタイマー] アクション

タスク SLA レコードが特定のパーセント値に到達したときに識別し、SLA パーセントに基づいて他のアクションまたはフローロジックを実行します。たとえば、SLA パーセントタイマーが完了したときに通知を送信します。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

フィールド

フィールド	説明
パーセンテージ	終了時間を計算するために使用される合計 SLA 期間の正の整数によるパーセンテージ。たとえば、50% のパーセンテージである場合、合計 SLA 期間の 50% である終了日時値が計算されます。SLA で 24 時間以内にタスクを完了することが要求される場合、その SLA の 50% は 12 時間です。

スケジュールされた終了日時

[スケジュールされた終了日時] 出力のデータピルには、計算によって見積もられた [SLA パーセンテージタイマー] アクションの終了時刻が表示されます。算出される終了日は、入力されたタスク SLA のレコードと入力パーセンテージによって決まります。この日付/時刻値は、タスク SLA レコードの経過時間フィールドの値とは無関係です。

- 終了日が将来の日付である場合、システムイベントが作成され、その将来の日付でもアクションを実行し続けます。システムはスケジュールされた終了日を待つ間、フローとアクションを一時停止します。
- 終了日が過去の日付である場合、[SLA パーセンテージタイマー] アクションの [ステータス] が直ちに設定されます。

ステータス

[ステータス] データピルには、SLA パーセンテージタイマーの結果が含まれています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SLA パーセンテージタイマーのステータスの説明

ステータス	説明
完了	タイマーアクションがスケジュールされた終了日時に達しました。フロー設計者は、このアクションステータスに対して特定のフローロジックをビルドできます。
一時停止	タイマーがスケジュールされた終了日時より前に一時停止されました。タイマーの実行が再開されると、フローデザイナー はスケジュールされた終了日時値を新しく生成します。フロー設計者は、このアクションステータスに対して特定のフローロジックをビルドできます。
修理	フローが修理モードで実行されており、スケジュールされた終了日時が過去の日時になっています。フロー設計者は、このアクションステータスに対して特定のフローロジックをビルドできます。
スキップ	スケジュールされた終了日時が過去の日時であるため、タイマーが実行されませんでした。フロー設計者は、このアクションステータスに対して特定のフローロジックをビルドできます。
待機中	タイマーは実行中であり、スケジュールされた終了日時にまだ達していません。

フローデザイナー は、SLA ステータスが SLA 条件 に一致したとき、または特定の UI アクションが選択されたときにアクションステータスを設定します。

SLA ステータスに設定されたアクションステータス

SLA ステータス	アクションステータスの設定	フロー実行のステータス
SLA が添付され、スケジュールされた終了日時が将来の日付になった場合	アクションステータスを [待機中] に設定します。	フローは、SLA タイマーが完了するか、キャンセルされるか、一時停止されるまで待機します。
SLA が添付され、スケジュールされた終了日時が過去の日付になった場合	• フローが修理モードで開始された場合は、アクションステータスを [修理] に設定します。 • それ以外の場合は、アクションステータスを [スキップ] に設定します。	フローは、フローシーケンスの次のアクションまたはフローロジックを実行します。
SLA がキャンセルされた場合	アクションステータスを null 値に設定します。	フローは [キャンセル] の状態で停止します。
SLA が一時停止された場合	アクションステータスを [一時停止] に設定します。	フローは、SLA タスクフローがキャンセルまたは再開されるまで待機します。
SLA がスケジュールされた終了日時に達した場合	アクションステータスを [完了] に設定します。	フローは、フローシーケンスの次のアクションまたはフローロジックを実行します。
SLA が再開された場合	アクションステータスを [待機中] に設定します。	フローは、SLA タイマーが完了するか、キャンセルされるか、一時停止されるまで待機します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SLA ステータスに設定されたアクションステータス (続く)

SLA ステータス	アクションステータスの設定	フロー実行のステータス
SLA が停止した場合	アクションステータスを null 値に設定します。	フローは [キャンセル] の状態で停止します。

合計時間

[合計時間] データピルには、アクションが実行された合計秒数がリストされます。合計時間は、アクションの開始時刻とアクションが [完了] ステータスに達した時刻から計算されます。[完了] 以外のステータス値では、[合計時間] が null 値で生成されます。

一般的なガイドライン

[サービスレベルアグリーメント (SLA) パーセンテージタイマー] アクションを含むフローを作成するときは、次の一般的なガイドラインにいます。

SLA タスクトリガーのあるフローにのみ [SLA パーセンテージタイマー] アクションを追加する

[SLA パーセンテージタイマー] アクションは、フローが SLA タスクトリガーから開始された場合にのみ実行できます。[SLA パーセンテージタイマー] アクションを含むサブフローは有効にできません。

予想されるステータス値に対する条件付きフローロジックを作成する

[ステータス] フィールドの値をフローロジックの条件として使用します。[完了]、[修理]、[スキップ] など、予想される [ステータス] 値に対するフローロジックをビルドします。たとえば、SLA パーセンテージタイマーのステータスが [完了] になったときに通知を送信する **[If]** フローロジックブロックを追加します。

各 [SLA パーセンテージタイマー] アクションに一意の累積 [待機] 割合値を割り当てる

各 [SLA パーセンテージタイマー] アクションは、[待機] 割合値を使用して独自のスケジュールされた終了日時を計算します。複数の [SLA パーセンテージタイマー] アクションを作成する場合は、各アクションに固有の累積 [待機] 割合値を指定します。たとえば、完了率の値が異なる 3 つのアクションを作成します (25%、50%、75% 完了など)。3 つのアクションすべてを 25% などの同じ完了率の値に設定すると、タイマーは同時に完了します。

既存のフローをコピーしてカスタマイズする

デフォルトの SLA フローをコピーし、独自のロジックでコピーをカスタマイズすることで、開発時間を短縮します。SLA 定義から実行するカスタマイズされたフローを選択します。「SLA 定義の作成 」を参照してください。

カタログアイテム要求アクションを送信する

サービスカタログ 要求 [sc_request] で要求済みアイテム [sc_req_item] を作成します。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

入力	説明
カタログアイテム	要求されたカタログアイテムの名前です。 選択したカタログアイテムに応じて、入力を動的に追加できます。たとえば、要求されたカタログアイテムが新しいメールアカウントの場合、[優先メールアドレス] フィールドが表示されます。 注: 次の サービスカタログ変数タイプはサポートされていません。 • リストコレクター • 複数選択肢をルックアップ • 選択ボックスをルックアップ
数量	要求アイテムの数です。
特別な指示	アイテム要求に関する特別な指示を説明するテキストです。
配送先	要求されたアイテムを配送する場所です。
要求元	アイテムが要求されているユーザーです。
エラーがあっても続行する (Don't fail on error)	アクションによってエラーが発生した場合にフローを失敗にさせるかどうかを決定するオプションです。
完了待ち	続行する前にアクションが完了するまでフローを強制的に待機させるオプションです。
タイムアウト有効化	フローが続行する前にアクションの完了を待機する時間を制限するオプション。 注: [タイムアウト有効化] オプションを使用して、このアクションの実行が続行されないようにします。続行するための条件が満たされない場合、タイムアウト値は、システムが [条件待ち] アクションをスキップしてフロー内の次のアイテムに進むタイミングを指定します。タイムアウトを有効にするには、 [期間] の値を設定する必要があります。特定の作業スケジュールに基づいて期間の終了日を計算する場合は、 [スケジュール] を選択することもできます。 このフィールドは、[完了待ち] オプションを選択した場合にのみ表示されます。
期間	[タイムアウト有効化] オプションが選択されている場合にフローが続行する前に待機する時間。待機時間を時、分、秒単位で入力します。このフィールドを空白のままにすると、フローは待機しません。 このフィールドは、[完了待ち] オプションを選択した場合にのみ表示されます。
スケジュール	[タイムアウト有効化] オプションが選択されている場合にタイムアウト期間を計算するために使用されるスケジュール。たとえば、平日の午前 8 時～午後 5 時のスケジュール

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

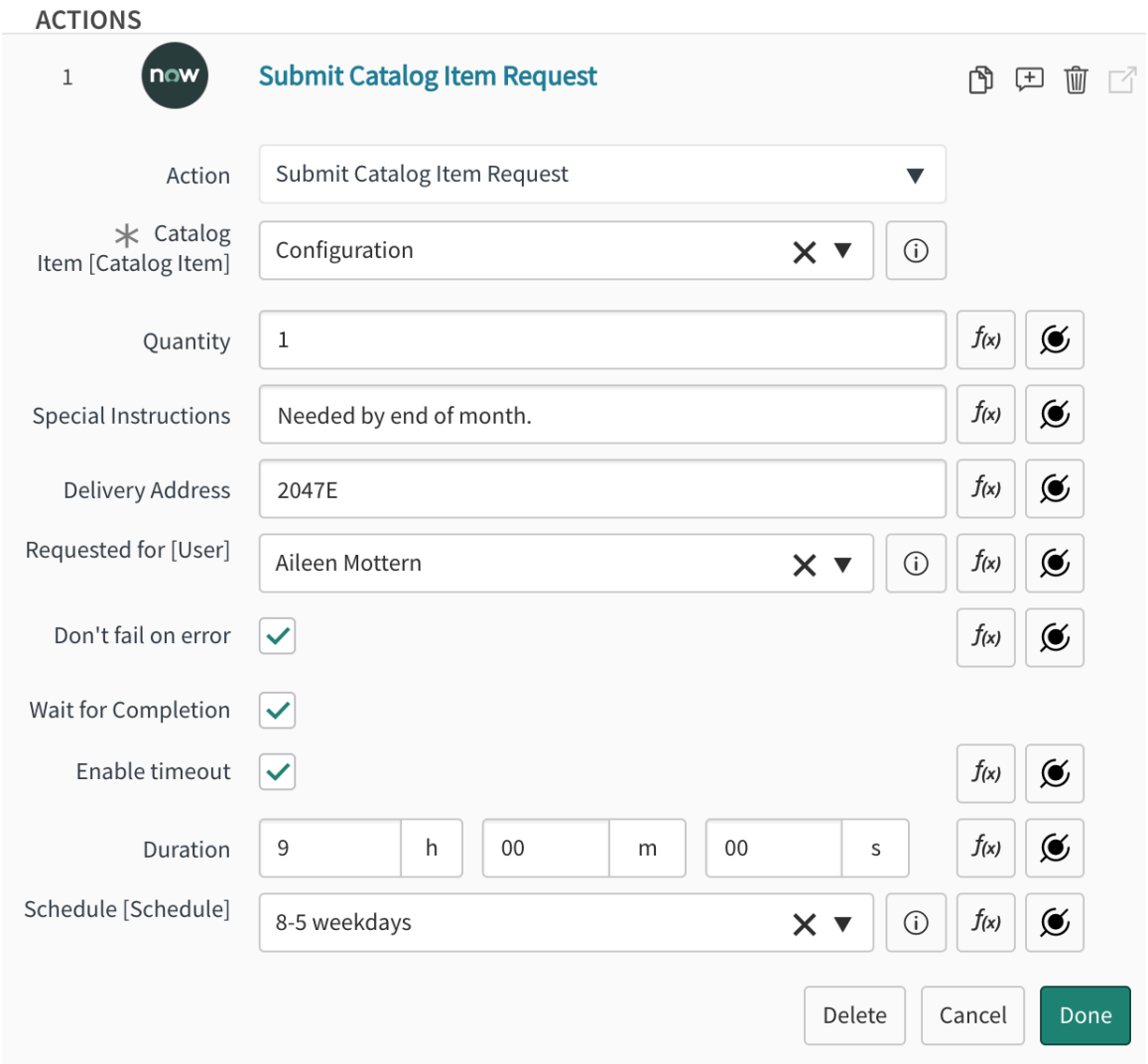
入力	説明
	の一部として 10 時間待機すると、フローは 1 営業日以上待機することになります。このフィールドを空白のままにすると、タイムアウトはスケジュールなしで実行されます。 このフィールドは、[完了待ち] オプションを選択した場合にのみ表示されます。

出力

フィールド	説明	データタイプ
エラーメッセージ	アクションでエラーが生成された場合に表示されるメッセージ	文字列
要求済みアイテム	要求済みアイテムのドキュメント ID	ドキュメント ID
ステータス	アクションの完了ステータス (数値) • 0 (成功) • 1 (エラー) • 2 (タイムアウト)	選択肢

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例



デザインの検討

[カタログアイテム要求を送信] アクションを含むフローを作成するときは、次のデザインの検討を行ってください。

文字列置換変換関数を使用して、文字列データピルから引用符をエスケープする

複雑な文字列変数は、システムに格納されるときに JSON 形式に変換されます。JSON 形式のエラーを防ぐために、文字列置換変換関数を使用して、カタログ変数に使用する文字列データピルに存在する引用符をエスケープできます。「文字列変換関数」を参照してください。

変換関数を使用してデータピルを検証する

データピルを使用してアクション入力にデータを提供する場合はいつでも、変換関数を使用してデータを検証できます。利用可能な変換機能のリストについては、「変換関数」を参照してください。

[複数のレコードを更新] アクション

単一のアクションとして複数のレコードをルックアップして更新します。このアクションを使用すると、リストのレコードを個別にルックアップして、For Each フローロジックでリストを処理する必要がなくなります。テンプレートでフィールド値を設定するか、データピルを使用してフィールド値を追加して構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールと使用可用性

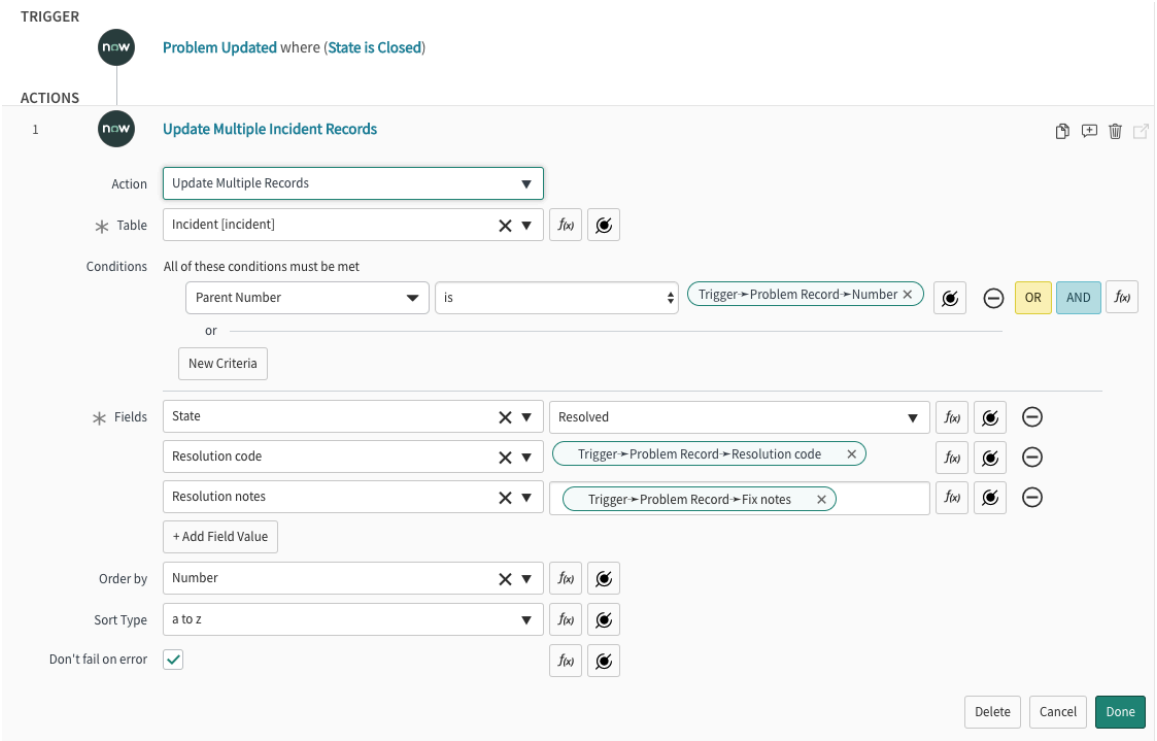
ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

フィールド

フィールド	説明
テーブル	検索して更新するレコードを含むテーブルを選択します。
条件	レコードの検索に使用するフィルター条件を定義します。
フィールド値	レコード内のフィールドの静的値または動的値を設定します。たとえば、簡単な説明を静的値に設定するには、[簡単な説明] を選択して目標値を設定します。 動的値を追加するには、「テンプレート値の入力を作成」を参照してください。 **重要:** システムでは、タスクレコードの追加コメントや作業メモといった複数のジャーナルフィールドの更新をサポートしていません。
順番	定義された条件に一致するレコードが複数ある場合に、レコードをソートするために使用するフィールドを選択します。
ソートタイプ	レコードをアルファベット順に昇順または降順でソートするかどうかを決定します。
エラーがあっても続行する (Don't fail on error)	エラーが発生したときにフローの実行を続行するかどうかを指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例



出力

フィールド	説明	データタイプ
カウント	更新されたレコードの数。更新されたレコードがない場合、カウントは 0 です。	整数
エラーメッセージ	アクションでエラーが生成された場合に表示されるメッセージ	文字列
ステータス	アクションの完了ステータス (数値) • 0 (成功) • 1 (エラー)	選択肢

「レコードの更新」アクション

テーブル内の既存のレコードを更新します。レコードのフィールドを動的に追加および設定することができます。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

入力

フローに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグするか、ピルピッカーから選択します。

レコード

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データタイプ：*Record*

更新するレコード。レコードデータピルをドラッグアンドドロップするか、データピルピッカーを使用してレコードを選択します。

> ⚠ **警告:** スクリプトを使用してレコードを選択する場合は、一致するレコードを確認する条件を必ず追加します。一部の GlideRecord メソッドでは、メソッドクエリで結果が生成されない場合は、常にレコードのリストが返されます。条件チェックを行わないと、アクションによってテーブル内のすべてのレコードが更新される可能性があります。たとえば、このスクリプトは If 条件を使用して、レコードが存在することを検証します。レコードが存在する場合は、Sys ID 値が返されます。レコードが存在しない場合は、null の結果が返されます。
>
> ```
> var configurationItem = new GlideRecord('cmdb_ci');
> if (configurationItem.get(fd_data.trigger.cmdb_ci.sys_id))
> return configurationItem;
> else
> return null;
> ```

テーブル

データタイプ：*Table Name*

更新するレコードに関連付けられたテーブル。

フィールド値

データタイプ：*Template Value*

更新するレコードのフィールドの値。[フィールド値の追加] を選択して、フィールドを選択して値を設定するためのオプションを表示します。たとえば、簡単な説明を特定の値に設定するには、[簡単な説明] を選択して目標値を設定します。

サブフローにアクションを追加する場合は、「テンプレート値の入力を作成」ことが可能です。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

レコード

データタイプ：*Record*

更新されたレコード。

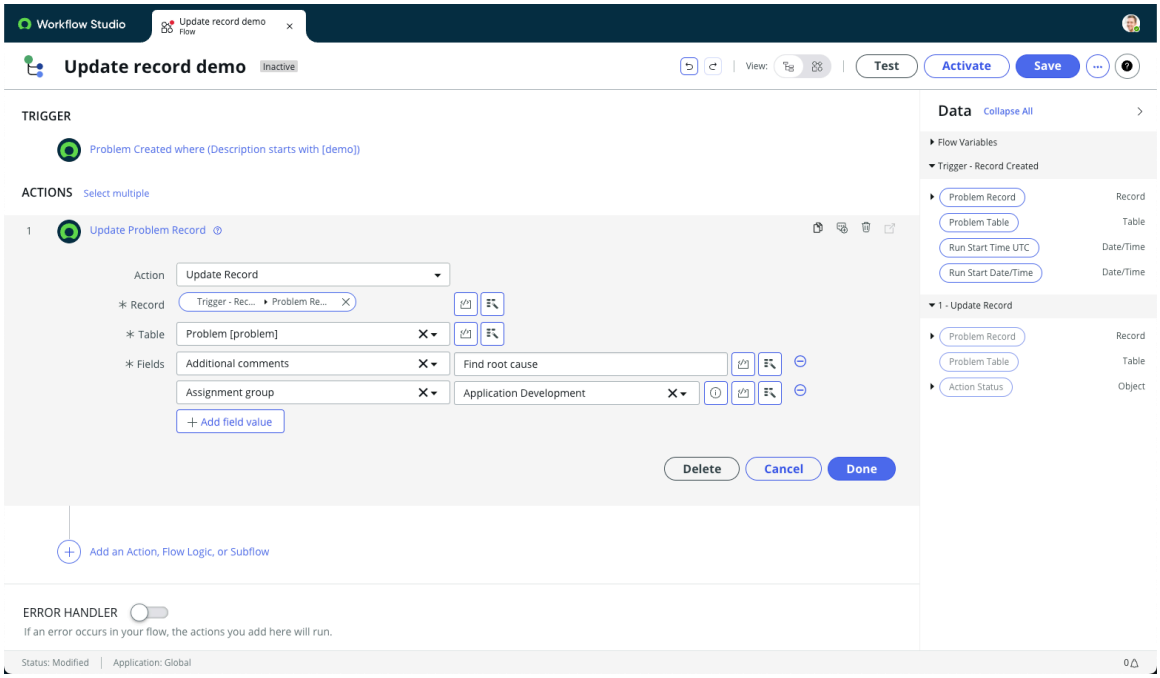
テーブル名

データタイプ：*Table Name*

更新されたレコードに関連付けられたテーブル。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: トリガーレコードの更新



この例では、[レコードを更新 (Update Record)] アクションで、トリガー問題レコードから提供された値を更新します。このアクションにより、問題レコードの [追加コメント] フィールドと [アサイン先グループ] フィールドの両方が更新されます。

「条件待ち」アクション

レコード値が特定の条件セットに一致するまでフローを一時停止します。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

入力

フローに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップすることも、ピルピッカーから選択することもできます。

レコード

データタイプ：*Record*

アクションが変更を監視するフィールド値を持つレコード。このレコードは、フロートリガー、サブフロー入力、または前のフローステップの出力から取得できます。

注: このレコードが削除されると、フローは待機を停止して実行を続行します。

テーブル

データタイプ：*Table Name*

監視するレコードに関連付けられたテーブル。この読み取り専用の値は、選択したレコードに関連付けられたテーブルに設定されます。選択したテーブルに対して [条件待ち] がサポートされていることを確認します。サポートされていないテーブルのリストについては、「サポートされていないテーブル」セクションを参照してください。

条件

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データタイプ：*Conditions*

フローの実行を再開するために必要なレコード値。たとえば、条件が [ステータス] [次の値に等しい] [クローズ済み] である場合、フローは条件が満たされるまで一時停止します。条件が満たされると、フローは次のフローステップに進みます。レコードが属するテーブルのフィールド値に適用される条件のみを選択します。有効な条件の作成の詳細については、「条件の評価」を参照してください。

注: 特定の期間に依存する条件については、代わりに「Wait for a duration フローロジック」を使用することを検討してください。

タイムアウト有効化

データタイプ：*True/False*

フローが続行する前にアクションの完了を待機する時間を制限するオプション。

注: [タイムアウト有効化] オプションを使用して、このアクションの実行が続行されないようにします。続行するための条件が満たされない場合、タイムアウト値は、システムが [条件待ち] アクションをスキップしてフロー内の次のアイテムに進むタイミングを指定します。タイムアウトを有効にするには、 [期間] の値を設定する必要があります。特定の作業スケジュールに基づいて期間の終了日を計算する場合は、 [スケジュール] を選択することもできます。

期間

データタイプ：*Duration*

[タイムアウト有効化] オプションが選択されている場合にフローが続行する前に待機する時間。待機時間を時、分、秒単位で入力します。このフィールドを空白のままにすると、フローは待機しません。

スケジュール

データタイプ：*Choice*

[タイムアウト有効化] オプションが選択されている場合にタイムアウト期間を計算するために使用されるスケジュール。たとえば、平日の午前 8 時～午後 5 時のスケジュールの一部として 10 時間待機すると、フローは 1 営業日以上待機することになります。このフィールドを空白のままにすると、タイムアウトはスケジュールなしで実行されます。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

ステータス

データタイプ：*Choice*

アクションの完了ステータス (数値)

- 0 (成功)
- 1 (エラー)

条件評価

[条件待ち] アクションは、選択した [レコード] のフィールドに変更がある場合にのみ待機条件を評価します。次の基準を満たすものが有効な待機条件となります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 各条件が、レコードが属するテーブルのフィールドを評価すること。

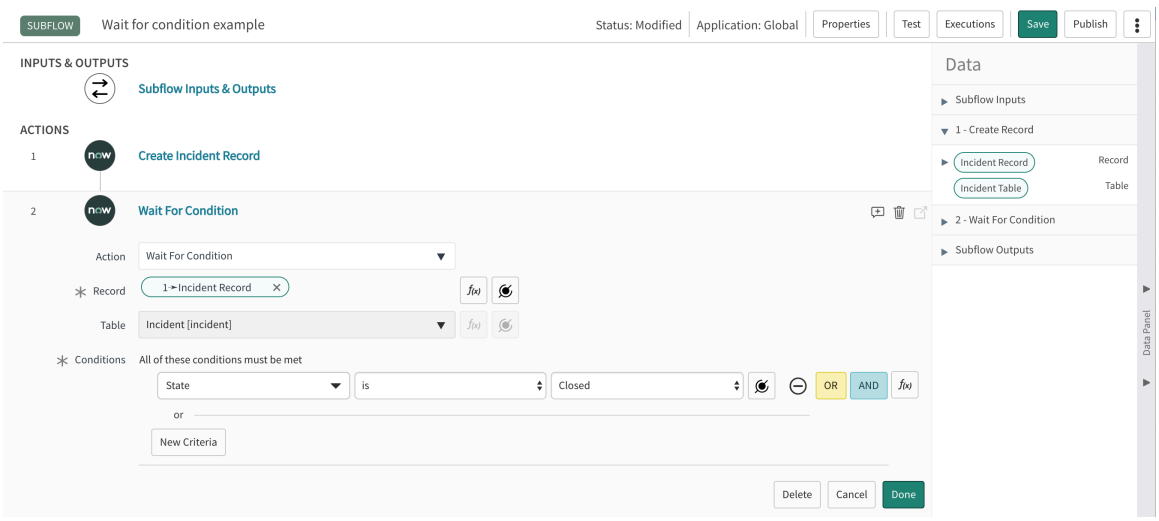
  注: 別のテーブルにドット連結したり、関連レコードのカタログアイテム変数に依存したりするような条件を作成しないでください。

- 各条件が、相対時間ではなくフィールド値の変更を指定すること。

  注: 特定の期間に依存する条件については、代わりに「Wait for a duration フローロジック」を使用することを検討してください。

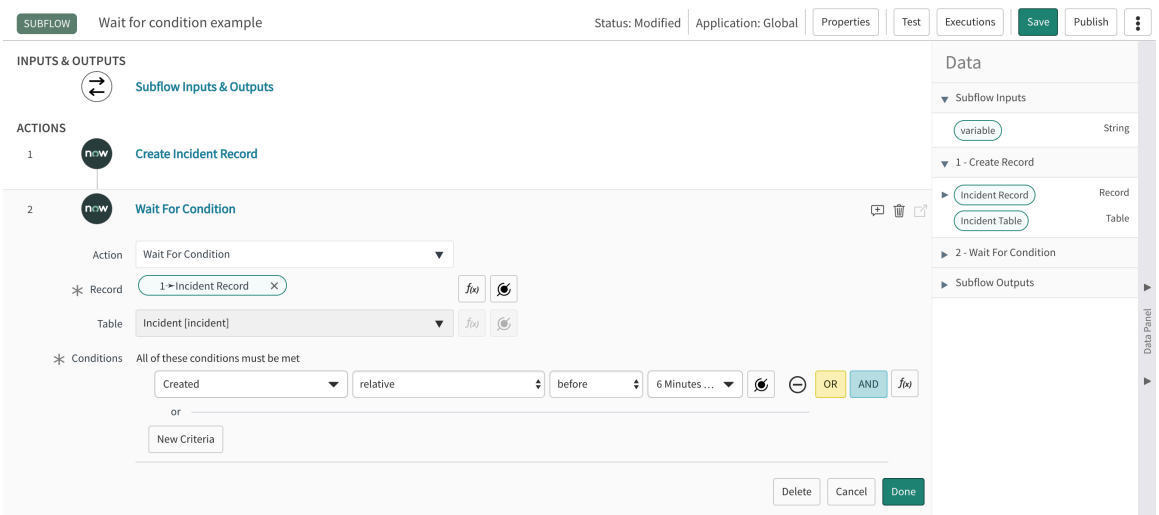
有効な待機条件

この例では、[状態] フィールドがインシデントテーブルに属し、条件がフィールド値の [クローズ済み] への変更であるため、待機条件は有効です。



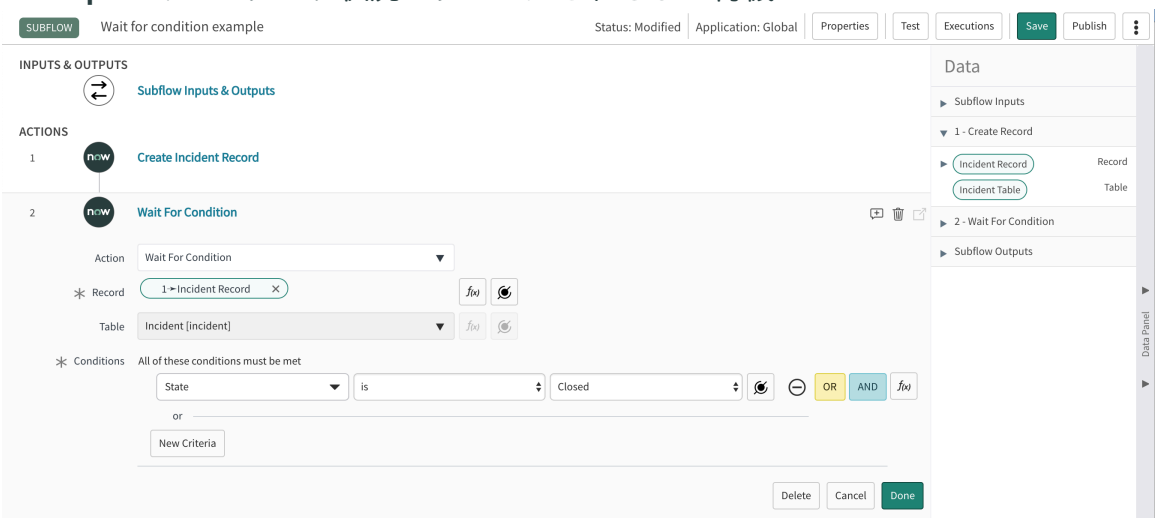
無効な待機条件

この例では、待機条件が [作成日時] からの相対時間であるため、無効です。時間間隔に依存する条件を持つアクションは基準を満たさないため、実行されません。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: インシデント状況がクローズされるまで待機



この例では、サブフローが [条件待ち] アクションへの入力としてインシデントレコードを提供します。インシデントテーブルのフィールド値を使用しているため、条件は有効です。

一般的なガイドライン

条件を待機するフローを作成するときは、次の一般的なガイドラインに従います。

待機条件の代わりにトリガー条件を追加してフローを開始する

特定のレコード条件が満たされたときにのみフローを実行する場合は、フローを開始して一時停止するのではなく、レコードトリガーを使用してフローを作成します。待機中のフローは、フロートリガーよりも多くのシステムリソースを消費します。

再開条件が発生し得ないフローをキャンセルする

終了フローのフローロジック でフロー停止条件を指定することで、フローが無期限に待機しないようにします。システムリソースを解放するために、再開条件が満たされ得ないフローをキャンセルすることもできます。たとえば、関連するインシデントがクローズされている場合に、インシデントレコードの更新を待機しているフローをキャンセルします。

フロー再開の条件を 1 つ以上指定する

条件待ちアクションには、フローの実行を再開するための条件が少なくとも 1 つ必要です。特定の時間にわたってフローを一時停止する場合は、代わりに Wait for a duration of time フローロジックを使用します。

待機条件を現在のテーブルに存在するフィールドに制限する

[条件待ち] アクションは、レコードが属するテーブルのフィールドに対する変更のみを監視できます。他のテーブルのフィールドにドット連結する条件は作成しないでください。このアクションでは、関連レコードまたはカタログ変数のフィールドの変更を検出できません。たとえば、アクションがインシデントレコードの変更を待機している場合、カタログアイテムや変更タスクレコードなどの関連レコードへの変更を検出することはできません。別のレコードにドット連結する待機条件をビルドする代わりに、値を監視する関連レコードを検索し、そのレコードを条件待ちアクションの入力として使用します。カタログ変数に依存する待機条件をビルドすることは避けてください。

条件データピルを使用して動的条件を指定する

フローデザイナーが条件を動的に適用できるようにするには、条件タイプの入力を定義し、入力データピルを [条件] フィールドにドラッグアンドドロップします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされていないテーブル

システムは、次のテーブルの [条件待ち] をサポートしていません。

テーブルカテゴリ	テーブル名
監査	システム監査 [sys_audit]、削除レコードの監査 [sys_audit_delete]、リレーションシップ変更の監査 [sys_audit_relation]、監査ロール [sys_audit_role]、リレーションシップ変更の監査 [sys_audit_relation]、削除レコードの監査 [sys_audit_delete]
メール	メール [sys_email]、メールアカウント [sys_email_account]、メールログ [sys_email_log]
イベント	イベント [sysevent]、通知 [sysevent_email_action]、文房具 [sysevent_email_style]、メールテンプレート [sysevent_email_template]、受信メールアクション [sysevent_in_email_action]、イベントの表示 [sysevent_pattern]、イベント登録 [sysevent_registration]、スクリプトアクション [sysevent_script_action]
インポートセット	インポートセット [sys_import_set]、インポートセット行 [sys_import_set_row]、インポートセット行エラー [sys_import_set_row_error]、変換履歴 [sys_import_set_run]、コンピューター [imp_computer]、通知 [imp_notification]、場所 [imp_location]、ユーザー [imp_user]
JRobin	JRobin データベース [jrobin_database]、Jrobin シャード [jrobin_shard]、グラフライン [jrobin_graph_line]、Jrobin シャードフラグメント [jrobin_shard_location]、メンバー [jrobin_graph_set_member]、ラウンドロビンアーカイブ [jrobin_archive]、ラウンドロビンデータソース [jrobin_datasource]、ラウンドロビン定義 [jrobin_definition]、ラウンドロビングラフ [jrobin_graph]、ラウンドロビングラフセット [jrobin_graph_set]
ログ	ログエントリー [syslog]、サービスポータルのログエントリー [sp_log]
MID サーバー	MID サーバープロパティ [ecc_agent_property]、MID サーバーログ [ecc_agent_log]、キュー [ecc_queue]、構成 [ecc_queue_config]、ECC キュー統計情報 (ECC エージェントごと) [ecc_queue_stats_by_ecc_agent]
パフォーマンスアナリティクス	ジョブログ [pa_job_logs]

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブルカテゴリ	テーブル名
Record Watcher	レスポンダー [sys_rw_action]、チャネルレスポンダー [sys_rw_amb_action]
レポート	サマリーセット [sys_report_summary]、レポートサマリー行 [sys_report_summary_line]
スケジュール済みジョブ	スケジュールアイテム [sys_trigger]、ブロードキャストメッセージ [sys_broadcast_message]、ブロードキャストメッセージの関係 [sys_broadcast_message_m2m]、進捗ワーカー [sys_progress_worker]、進捗ワーカードメイン [sys_progress_worker_domain]
SSO	SSO プロパティ [sso_properties]、ダイジェストトークンプロパティ [digest_properties]、SAML 更新 1 プロパティ [saml2_update1_properties]、SSO フェデレーション [sso_fedation]
システムキャッシュ	キャッシュのフラッシュ [sys_cache_flush]、キャッシュエントリ [sys_db_cache]
システムクローン	ServiceNow インスタンス [instance]、セキュリティトークンのクローン [clone_token]、保持されるデータ [clone_preserved_data]
システム辞書	辞書エントリの上書き [sys_dictionary_override]
システムイベント	イベントプロセッサー [sys_event_processor]
システムフィールド	フィールドクラス [sys_glide_object]
システムパフォーマンス	コンポーネントステータス [sys_status]、クラスターメッセージ [sys_cluster_message]、ノードステータス [sys_cluster_state]
テキストインデックス	Ts 添付ファイル [ts_attachment]、テキストインデックス属性マップ [ts_attribute_map]、Ts チェーン [ts_chain]、チェーンサマリー [ts_chain_summary]、テキストインデックス列属性マップ [ts_column_attribute_map]、テキストインデックス構成 [ts_configuration]、テキストインデックス構成属性 [ts_configuration_attribute]、Ts 削除ドキュメント [ts_deleted_doc]、Ts ドキュメント [ts_document]、Ts フィールド [ts_field]、テキスト検索グループ [ts_group]、日本語のユーザートークン [ts_japanese_token_dictionary]、Ts フェーズ [ts_phrase]、グローバル検索 [ts_query]、ナレッジ検索 [ts_query_kb]、テキスト検索統計情報 [ts_search_stats]、テキスト検索サマリー [ts_search_summary]、ストップワード [ts_stop]、同義語ディクショナリー [ts_synonym_dictionary]、同義語セット [ts_synonym_set]、テキスト検索テーブル [ts_table]、テキストインデックステーブル

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブルカテゴリ	テーブル名
	属性マップ [ts_table_attribute_map]、サービスカタログ検索 [sc_ts_query]、Ts 単語 [ts_word]、Ts 単語ルート [ts_word_roots]
更新セット	更新セット [sys_update_set]、更新バージョン [sys_update_version]、顧客アップデート [sys_update_xml]、更新セットログ [sys_update_set_log]
アップグレード	システムアップグレード [sys_upgrade_history]、アップグレード詳細 [sys_upgrade_history_log]、システムアップグレードメトリクス [sys_upgrade_metric]、アップグレード変更ログ [sys_upgrade_blame]、アップグレードマニフェスト [sys_upgrade_manifest]、アップグレードステータス [sys_upgrade_state]
利用状況アナリティクス	アプリケーションの利用状況データ [ua_app_usage]、利用状況アナリティクスカウント構成 [usageanalytics_count_cfg]、アプリケーションメタデータ [ua_app_metadata]、テーブルの利用状況アナリティクスカウント [usageanalytics_count]、サブスクリプション [license_details]、サブスクリプションのロール [role_has_license]
ユーザー	ユーザーセッション [sys_user_session]、ユーザートークン [sys_user_token]、ユーザー設定 [sys_user_preference]、ナビゲーター履歴 [sys_ui_navigator_history]
ワークフロー	ワークフロー実行 [wf_workflow_execution]、ワークフロー履歴 [wf_history]、ワークフロー実行アクティビティ [wf_executing]、ワークフロー待機コマンド [wf_command]、ワークフローコンテキスト [wf_context]、ワークフロー移行履歴 [wf_transition_history]

[メッセージを待機] アクション

フロー API から特定のメッセージを受信するまでフローを一時停止します。フローの実行を再開する文字列メッセージを指定します。またオプションで、特定の時間が経過してもメッセージが受信されない場合にフローを再開するタイムアウト値を指定します。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

入力

アクションに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグするか、ピルピッカーから選択します。

メッセージ

データタイプ：*String*

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローが sendMessage() API からの受信を待機しているテキスト文字列。アクションでこのメッセージを使用してフローの実行を再開します。sendMessage() API の詳細については、「FlowAPI:sendMessage(文字列 contextSysID, 文字列メッセージ, 文字列ペイロード)」を参照してください。

タイムアウト有効化

データタイプ：*True/False*

フローが続行する前にアクションの完了を待機する時間を制限するオプション。

注: [タイムアウトを有効化] オプションを使用して、フローが無限に待機しないようにします。メッセージが受信されない場合、システムが [メッセージを待機] アクションをスキップしてフロー内の次のアイテムに進むことができるタイミングを、タイムアウト値で指定します。タイムアウトを有効にするには、 [期間] の値を設定する必要があります。

期間

データタイプ：*Duration*

[タイムアウト有効化] オプションが選択されている場合にフローが続行する前に待機する時間。待機時間を時、分、秒単位で入力します。このフィールドを空白のままにすると、フローは待機しません。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

ペイロード

データタイプ：*String*

sendMessage() API によって返されるテキスト文字列。親フローは、ペイロード値を他のアクションまたはフローロジックの入力として使用できます。

状況

データタイプ：*Choice*

アクションの完了ステータス (数値)

- 0 (成功)
- 1 (エラー)

一般的なガイドライン

メッセージを待機するフローを作成するときは、次の一般的なガイドラインに従います。

このアクションを使用して、ワークフローイベント待ちアクティビティを変換する

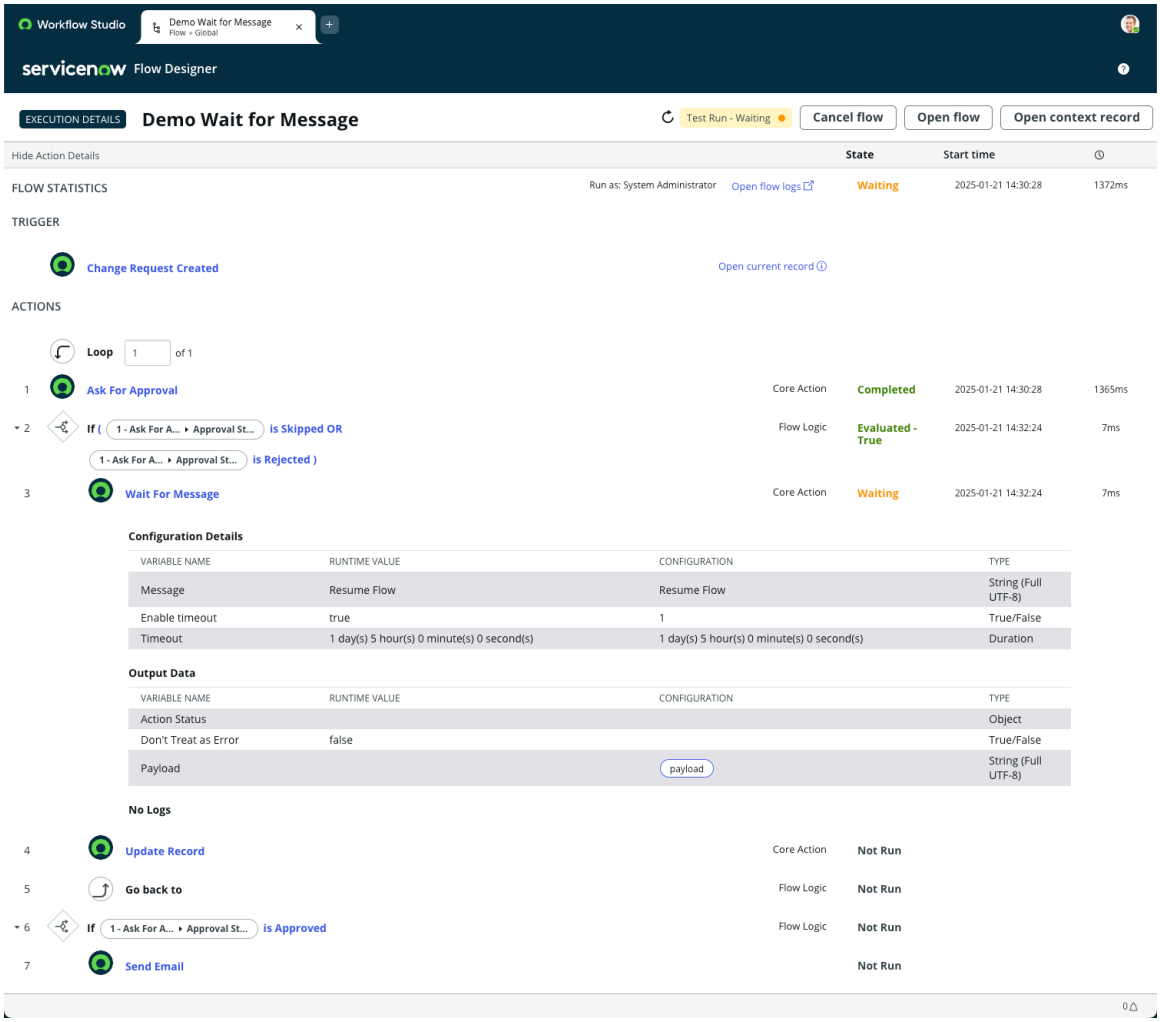
[WF イベント待ち] アクティビティを使用するクラシックワークフローを、[メッセージを待機] アクションを使用するフローに変換します。イベント名は、フローを再開するメッセージテキストとして使用できます。

sendMessage() メソッドを使用してメッセージを作成する

sendMessage() メソッドを使用して、待機中のフローのメッセージを作成します。フローでメッセージを生成して実行を再開する場合は、メッセージを生成するスクリプトステップを使用してカスタムアクションを作成します。または、メッセージを生成するイベントなど、フローの外部で実行されるスクリプトロジックを作成します。sendMessage() API の詳細については、「FlowAPI:sendMessage(文字列 contextSysID, 文字列メッセージ, 文字列ペイロード)」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

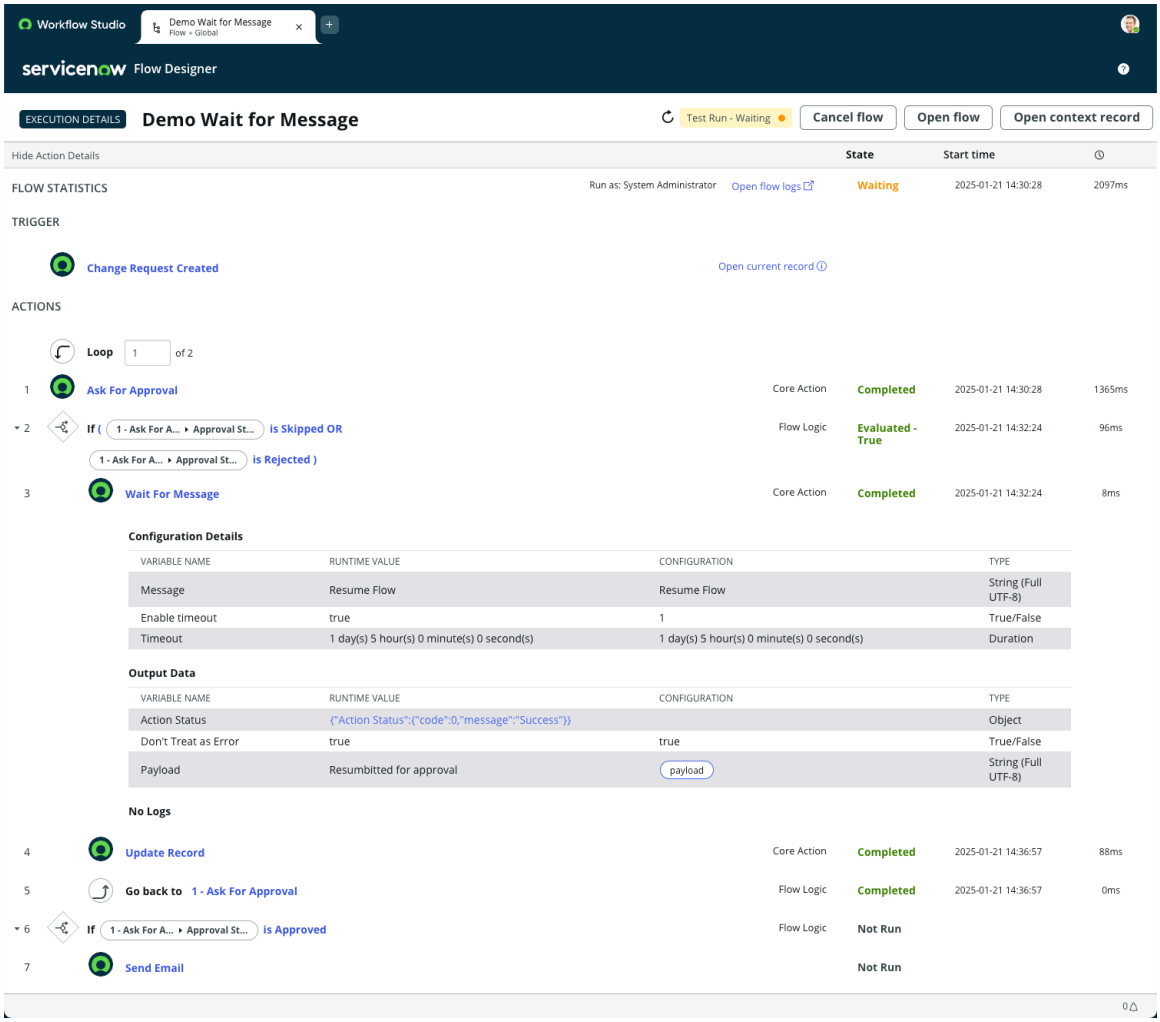
Example: Go back to フローロジックを実行するメッセージを待機する



このフローの例では、承認ステータスによって [メッセージを待機] アクションを実行するかどうかが決定されます。承認ステータスがスキップまたは却下された場合、フローは sendMessage() API からのメッセージを待ってから続行されます。このロジックを使用して、却下された承認要求を修正し、承認のために再送信できます。

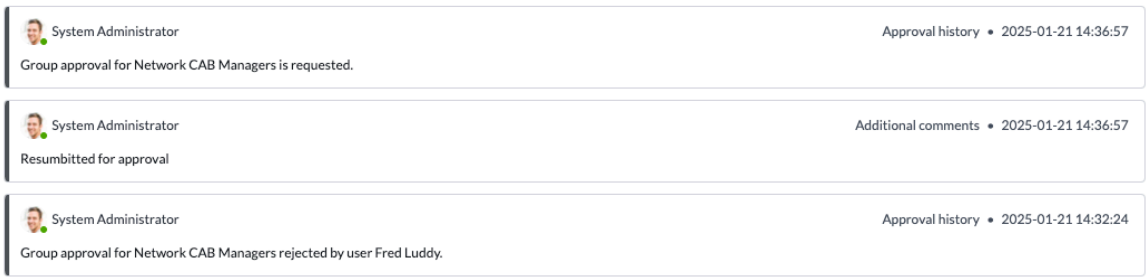
この例では、Fred Luddy が承認を却下し、詳細情報を要求しています。フローを再開するには、誰かが Fred のコメントに対応し、sendMessage() API を実行して適切なメッセージ「`Resume Flow`」を送信する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



変更要求を修正した後、誰かが sendMessage() API を実行して「`Resume Flow`」というメッセージを送信し、また「`Resubmitted for approval`」のペイロード値をフローに送信しました。sendMessage() API の詳細については、「FlowAPI:sendMessage(文字列 contextSysID, 文字列メッセージ, 文字列ペイロード)」を参照してください。

API メッセージ値が [メッセージを待機] アクションの条件と一致したため、フローの実行が再開されました。この場合、フローは Go back to フローロジックブロックを使用して [承認を求める] アクションを再実行しました。



こちらは、変更要求のアクティビティログです。ペイロード値 `Resubmitted for approval` が [追加コメント] フィールドに追加されました。

ワークフロースタジオ フローロジック

フローとサブフローで、条件付きアクションまたは反復アクションを指定できます。フローロジックの要素を組み合わせて、スクリプトをほとんどまたはまったく使用せずにグラフィカルインターフェイスでワークフローを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローロジックでは次のオプションが提供されています。

フローロジックのオプション	説明
サブフロー出力のアサイン	サブフローの実行が完了したときに返されるデータを指定します。親フローのデータとして、または別のプロセスの入力として、サブフローの出力を使用します。
ワークフローの呼び出し	公開済されたアクティブなワークフローをフローから実行します。フローデータをワークフロー入力として使用できます。たとえば、現在のレコードをワークフロー入力として指定できます。
Do the following until (次を特定の項目まで操作)	終了条件が満たされるまで、1 つ以上のアクションを繰り返し適用します。フローデータを使用して終了条件を指定できます。
Do the following in parallel (次を並列で操作)	分離されたフローロジックブロック内の別々のパスでアクションとサブフローを実行します。
動的フロー	ランタイムデータを使用して、フローまたはサブフローを動的に識別して実行します。動的に呼び出されるフローまたはサブフローに必要な入力を提供するテンプレートをビルドします。
終了フロー	現在のフローの実行を停止します。終了条件を指定するには、フローのブランチ内で [終了フロー (End Flow)] を使用します。たとえば、特定の If フローロジックブロックに達したときにフローを終了します。
For each	レコードリスト内の各レコードに 1 つ以上のアクションを適用します。
フロー出力の取得	このフローロジックを使用してフローコンテキストにアクセスし、動的フロー出力のランタイム値を取得します。
条件	条件のリストが満たされた場合にのみ、1 つ以上のアクションを選択的に適用します。
意志決定	複数の条件付きパスが必要な状況では、ネストされた If、Else If、または Else フローロジックの代わりに、ディシジョンテーブルブランチロジックを使用できます。たとえば、必要な自動車保険の種類を決定する場合は、ディシジョンテーブルに年齢、事故歴、車種などを追加入力して、保険の適用範囲のレベルを決定できます。このロジックにより、時間が短縮され、ネストされた if 条件や switch case 文より可読性の高い形式になります。
フロー変数の設定	フローデータをデータピルとして格納する 1 つ以上のフロー変数に値をアサインします。データピルを参照してフロー変数の値にアクセスします。
試してください	フローロジックブロック内でエラーが発生した場合でも、フローの実行を継続できるようにし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローロジックのオプション	説明
	ます。フローロジックブロック内のエラーに応じて一連のアクションを実行します。
期間の待機	自動化プロセス中に操作する時間をユーザーに与えたり、特定の日時まで操作の完了を待機するには、このフローロジックを使用します。

フローロジックの入力

各フローロジックオプションには、その動作を決定するために使用される 1 つ以上のフィールドが表示されます。たとえば、**[Call Workflow]** フローロジックには、実行するワークフローを選択できる入力があります。これらの入力を使用してフローの動作を定義し、必要に応じてオプションの機能を有効にします。利用可能な入力のリストと、それらの入力でその要素の機能を制御する方法については、フローロジックオプションのドキュメントを参照してください。

フローロジックの出力

フローロジックオプションには出力もある場合があります。これらはフローロジックによって返される情報を表します。たとえば、[意思決定] フローロジックには、フローが到達した決定を表す意思決定回答レコードを含む出力があります。出力の定義を確認するには、フローロジックオプションのドキュメントを参照してください。

サブフロー出力フローロジックのアサイン

サブフローの実行が完了したときに返されるデータを指定します。親フローのデータとして、または別のプロセスの入力として、サブフローの出力を使用します。

重要: このフローロジックは、既に作成されたフロー出力の値を設定します。フロー出力の作成手順については、「サブフローのビルド」を参照してください。

入力

フィールド	説明
名前	出力の名前。フローで使用可能な出力のリストから選択します。
データ	出力の値。文字列の値を入力するか、スクリプトを入力するか、データピルを使用します。出力の値は、他の出力を含めて、フローの初期のデータピルを参照できます。他のデータピルを参照して出力の値を設定する場合は、出力割り当ての順序を維持する必要があります。参照される値は、常に、その参照される値を使用する出力の前に来る必要があります。順序を変更すると、null 値が生成される場合があります。 空白の値を割り当てるには、このフィールドを空のままにします。 **注:** フロー出力の値は、上から下に割り当てられた順序で設定されます。同じ出力の値を複数回設定すると、フローは最後に設定された値のみを使用します。

出力

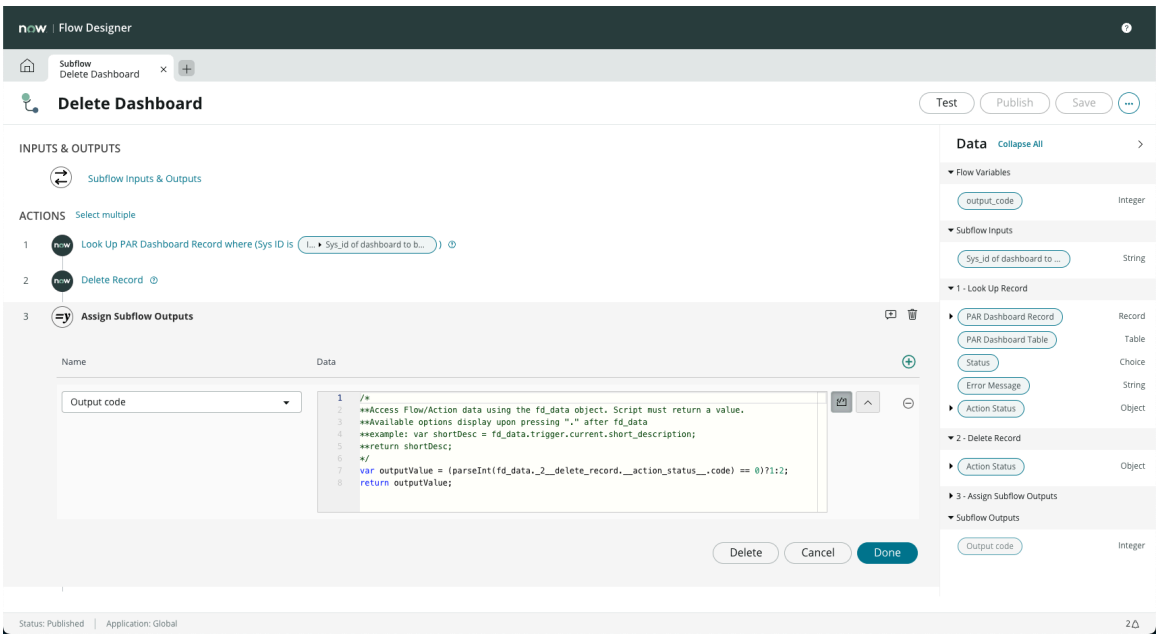
このフローロジックは独自の出力を生成しませんが、[データ] ペインの [サブフロー出力] セクションに値を設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: レコードの削除アクションの出力コードの設定

この例では、フローがダッシュボードのシステム ID を使用してレコードを検索し、レコードを削除して、削除操作のアクションステータスコードを返します。サブフローは [出力コード] フロー変数の出力値を割り当てます。

サブフロー出力のフローロジックの入力のアサイン



デザインの検討

サブフローから出力値を割り当てる際は、次の設計上の考慮事項に従ってください。

ループ内でサブフロー出力値をアサインしない

サブフローの出力は、サブフローの完了時に生成される静的な値であることを意図しています。サブフローの実行中に、ループがサブフローの出力値にアクセスすることはできません。ループ内でサブフロー出力値をアサインすると、ループが最後の値セットしか受け取らないなど、予期しない結果が生じる可能性があります。For Each または Do until ループ内で変化する動的な値を生成する必要がある場合は、代わりにフロー変数を使用します。

Call a Workflow フローロジック

公開済されたアクティブなワークフローをフローから実行します。フローデータをワークフロー入力として使用できます。たとえば、現在のレコードをワークフロー入力として指定できます。

入力

入力	説明
ワークフローの選択	選択して実行できる、公開されていてアクティブなワークフローです。選択したワークフローにより、それに関連するレコードが決まります。ワークフローに入力がある場合、フローデザイナー はその入力を追加フロー入力として表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	説明
	注: • ワークフローが フローデザイナー 外で実行されることを防ぐには、修正して開始条件を削除します。 • 要求アイテムテーブルで実行されるワークフローは選択できません。代わりに、サービスカタログトリガーを使用して新しいフローを作成します。
待機?	ワークフローが完了するまで待機させてからフローを継続するよう、true に設定したワークフローです。完了を待機するワークフローのみが、特定の出力値をフローに返すことができます。ワークフローとは別にフローの実行を継続するには、false に設定します。 **注:** ワークフローの終了前にワークフローがキャンセルされるかコンテキストレコードが削除された場合、フローは待機を止めて実行を継続します。
現在	ワークフローが処理する現行レコードです。関連ワークフローテーブルから、レコードを含むデータピルを選択します。

出力

フロー実行の詳細には、フローの実行中に生成されたワークフロー出力値のみが表示されます。ワークフローの終了を待機するようにフローを設定すると、フロー実行の詳細には、すべてのワークフロー出力値が表示されることがあります。フローが待機しない場合、フロー実行の詳細には、**Call a Workflow** フローロジックの完了前に生成されたワークフロー出力値のみが表示されます。ワークフローの終了前に **Call a Workflow** が完了した場合、ワークフロー出力値の更新は停止し、最後に既知となった値のみが表示されます。

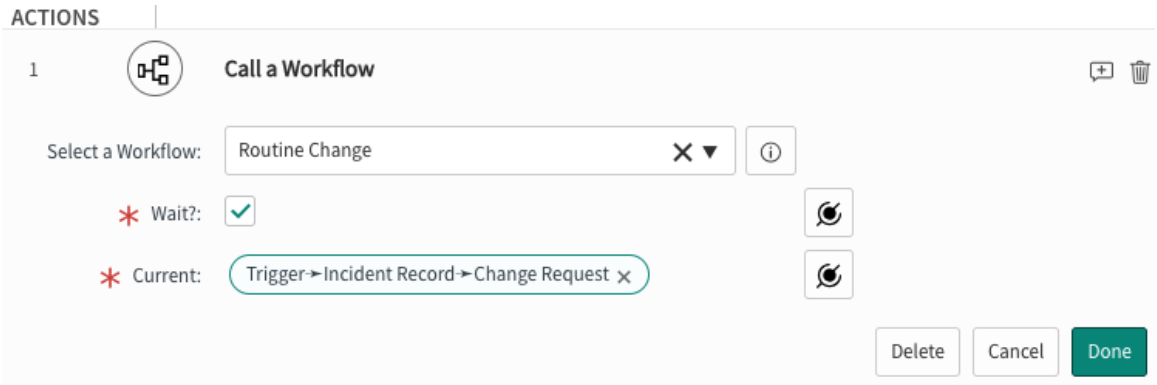
出力	説明
状況	ワークフローのステータスです。この値は、ワークフローコンテキストレコードから取得されます。ワークフローが正常に実行されると、ステータスは [完了] になります。ワークフローがキャンセルされると、ワークフローのステータスは [キャンセル] に設定されます。ワークフローの終了前にコンテキストレコードが削除されると、ワークフローのステータスは [無効] に設定されます。
コンテキスト	ワークフローコンテキストレコードの参照です。
結果	ワークフローの結果を含む文字列です。この値は、ワークフローコンテキストレコードから取得されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力	説明
値を返す	ワークフローの return_value を含む文字列です。この値は、ワークフローコンテキストレコードから取得されます。

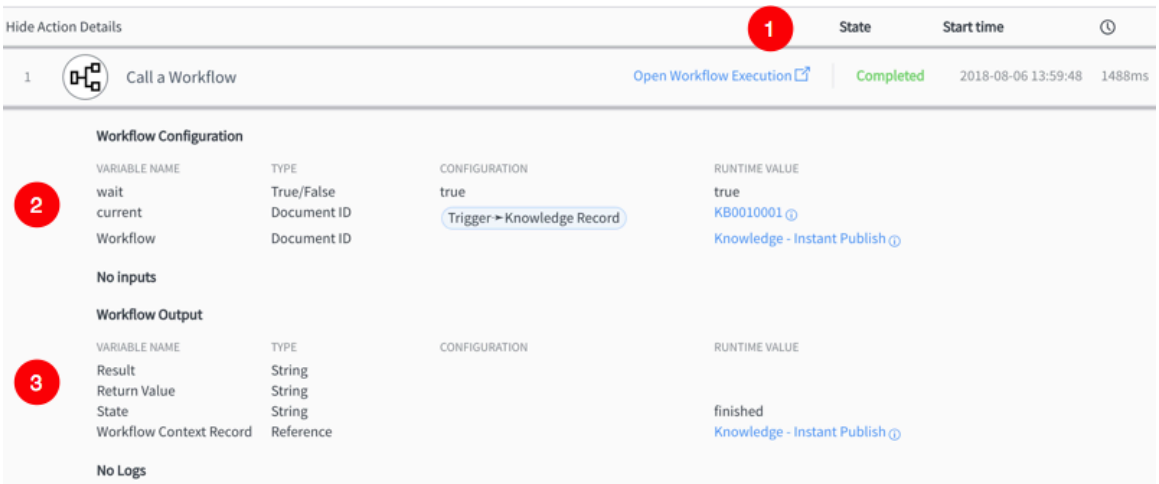
Example: ルーチン変更ワークフローの呼び出し

この例では、フローが [ルーチン変更] ワークフローを呼び出します。[待機?] オプションがオンであるため、このワークフローが完了するまで、フローは一時停止します。[現在] フィールドは、このフローをトリガーしたレコードを表すデータピルを使用して入力されます。



実行の詳細

ワークフローの実行詳細を呼び出す



1. ヘッダーには、ワークフローエディターにワークフローの進行状況を表示するリンク、フローロジックの状態、開始時刻、実行時間が表示されます。
2. [ワークフローの構成] セクションには、このフローのフローロジックの構成方法、および生成されたランタイム値が表示されます。
3. [ワークフローの出力] セクションには、フローの実行中にワークフローによって生成された出力が表示されます。

注: ワークフローの終了前にワークフローをキャンセルするかコンテキストレコードを削除すると、フローロジックのステータスは [完了] に設定されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Do the following until フローロジック

終了条件が満たされるまで、1 つ以上のアクションを繰り返し適用します。フローデータを使用して終了条件を指定できます。

1 つまたは複数のアクションを繰り返し適用するループを作成するには、**Do the following until** フローロジックを使用できます。このフローロジックには、ループを停止するタイミングを指定する条件が必要です。

注: フローロジックの Do the following 分岐の内からデータピル値を設定すると、データピル値は同じ分岐内の他のアクションでのみ使用できます。フローロジック分岐の外から Do the following 分岐の内で設定されたデータピル値を参照すると、null 値が生成されます。

入力

条件のラベル

データタイプ：*String*

フローに表示する条件のテキスト説明です。

条件

データタイプ：*Conditions*

ループを終了する条件です。たとえば、インシデントのステータスが変更されたときにループを終了することができます。フローの開始時に終了条件が true の場合、ループは 1 回実行されてから停止します。

ヒント: フロー変数を使用して、ループの実行回数などのカスタム条件を確認できます。

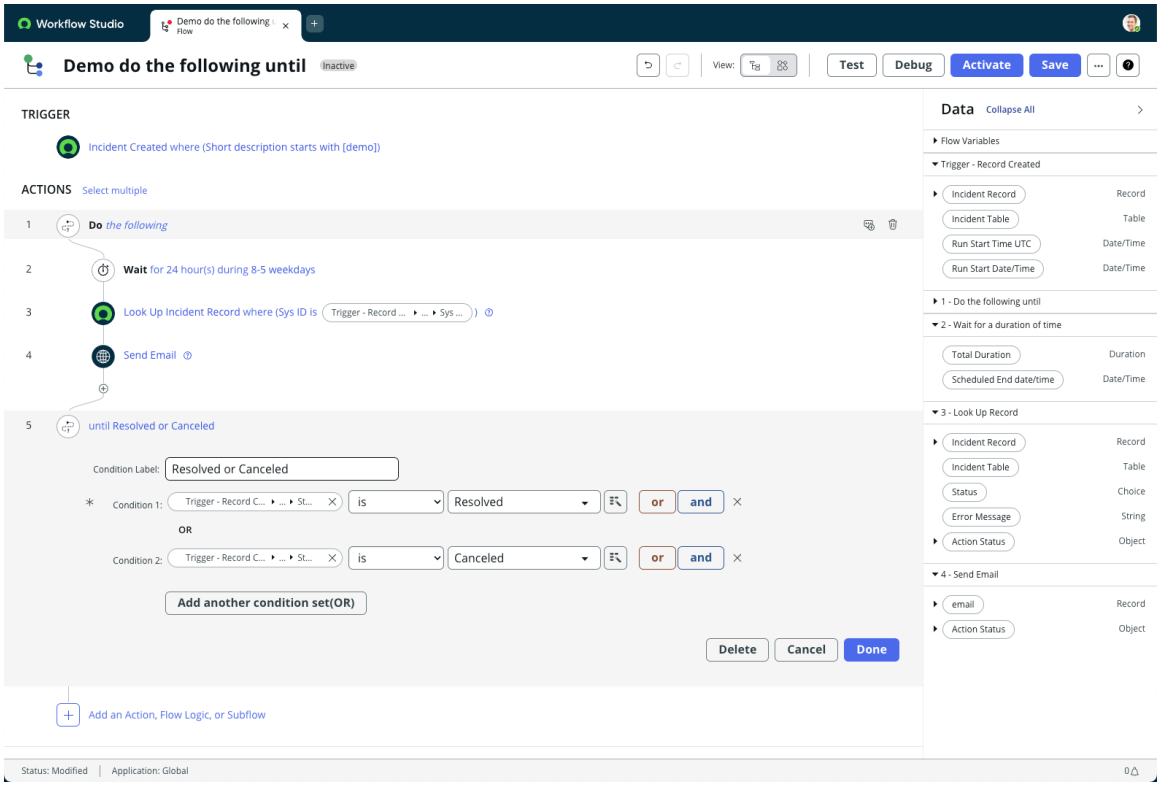
出力

このフローロジックでは、出力は生成されません。

Example: インシデントが解決するまで毎日メールを送信する

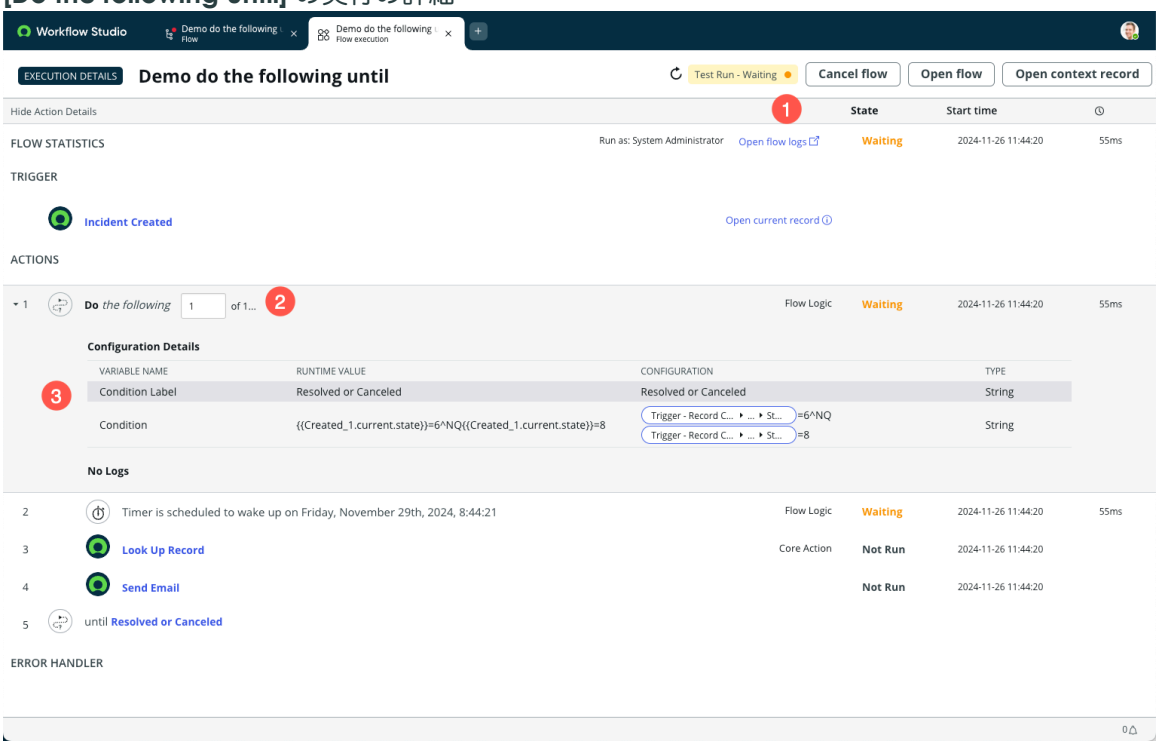
この例では、インシデントがクローズ状態またはキャンセル状態になるまで、このフローによってインシデントに関する日次メールが送信されます。「次の操作を実行」分岐内には、インシデントレコードを検索するステップがあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



実行の詳細

[Do the following until] の実行の詳細



1. ヘッダーには、フローロジックの状態、開始時刻、ランタイムが表示されます。
2. このフローロジックでは、条件が満たされるまでアクションまたはサブフローを複数回実行できます。反復とその値を選択するには、矢印アイコンを使用します。
3. [アクション] セクションには、このループの反復中に実行されるアクション、フロー、またはサブフローの詳細が表示されます。

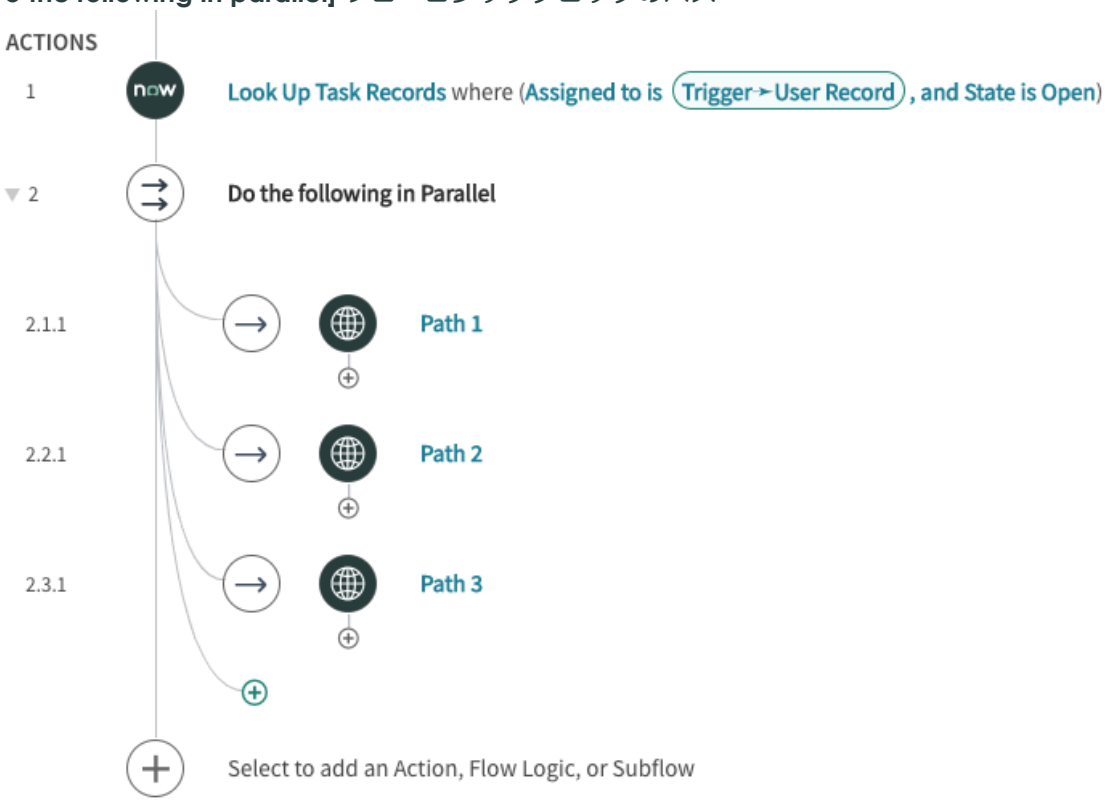
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Do the following in parallel フローロジック

分離されたフローロジックブロック内の別々のパスでアクションとサブフローを実行します。

このフローロジックを使用すると、アクションとサブフローを別々のパスで実行できます。[Do the following in parallel] フローロジックブロック内のいずれかのアクションを待機する必要がある場合、ブロック内のすべてのパスの処理が完了するまで他のアクションが実行されます。

[Do the following in parallel] フローロジックブロックのパス



注: フロー実行コンテキストは単一のスレッドで実行されるため、Do the following in parallel フローロジックブロックのパスは複数のスレッドでは実行されません。 ただし、インスタンスのリソースをより多く消費する場合でも、別々のコンテキスト内でフローを実行することがあります。同じフロー内の別々のフローコンテキストでサブフローを実行するには「動的フロー」を参照してください。

入力

[Do the following in parallel] フローロジックにはフィールド入力はありません。その代わりに、アクションまたはサブフローを持つパスを作成するためのプラス (⊕) アイコンが表示されます。

各パス内のアクションとサブフローは、フローロジックブロック内のすべてのタスクが完了するまで実行されます。

出力

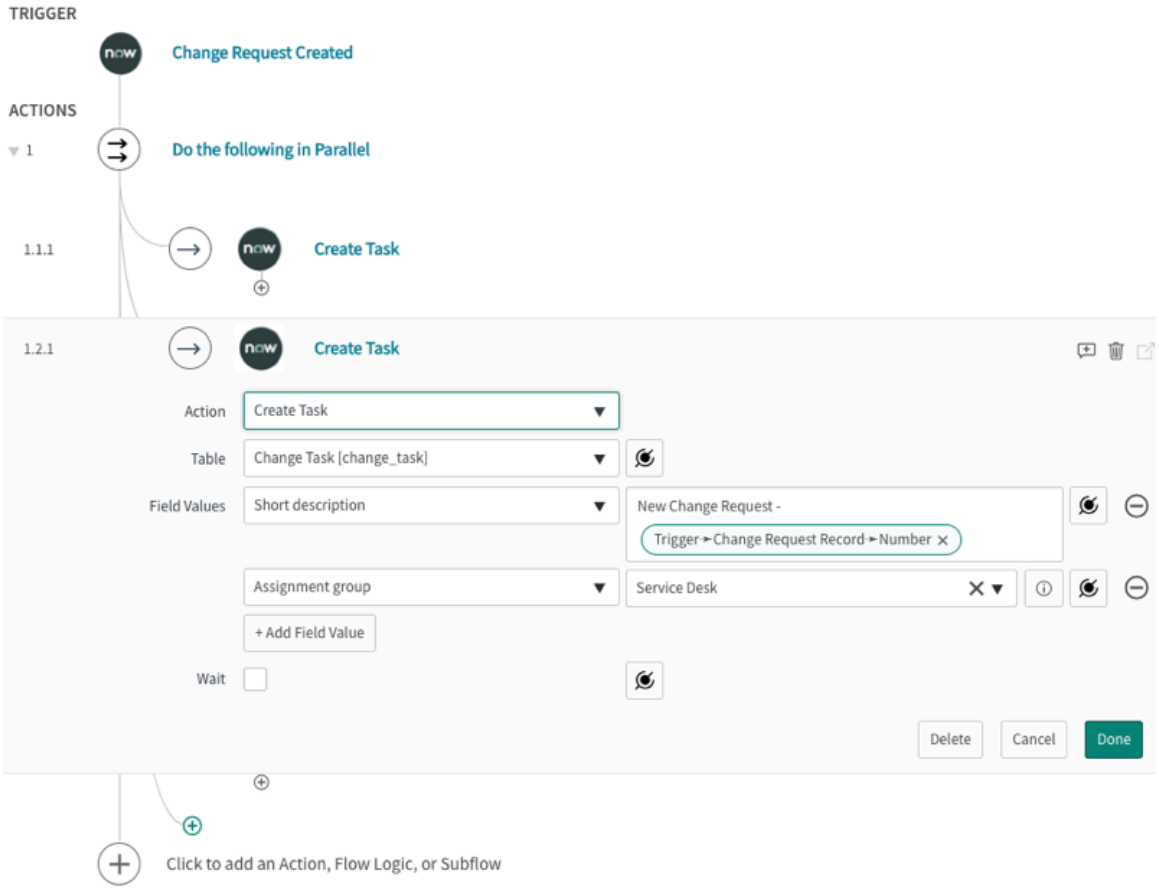
このフローロジックに出力はありませんが、各パスのアクションとサブフローには出力が含まれる可能性があります。フローの実行中、パスからの出力は、同じパスのその他のアクションにしかアクセスできません。[Do the following in parallel] フローロジックが完了した後、その最終出力にフローの残りの部分がアクセスできるようになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: 変更要求の作成時に 2 つのタスクを並行して作成する

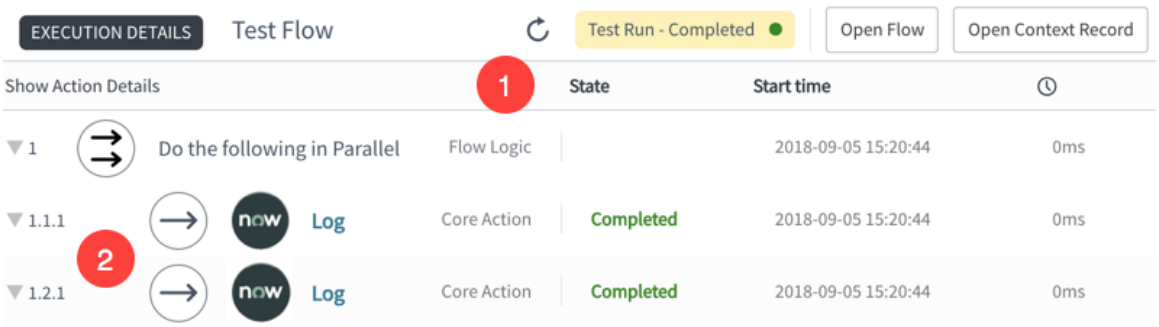
この例では、新しい変更要求が作成されると、フローがトリガーされます。**[Do the following in parallel]** が使用されて 2 つのタスクが別のパスに作成され、別々のグループに割り当てられます。このフローでは、トリガー元の変更要求の [数値] フィールドデータピルが使用され、タスクレコードの簡単な説明にその数値が表示されます。

[Do the following in parallel] フローロジックの入力



実行の詳細

Do the following in parallel の実行の詳細



1. ヘッダーには、フローロジックの状態、開始時刻、ランタイムが表示されます。
2. [構成詳細] セクションには、フローロジックブロックの各パスの状態、開始時刻、ランタイムが表示されます。

一般的なガイドライン

パス間のデータ依存関係の作成を避ける

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローは任意の順序でパスを実行できるため、別々のパス間でデータの依存関係を作成しないようにしてください。たとえば、1 つのパスでレコードを作成し、別のパスで同じレコードを更新しないようにしてください。レコード更新パスが、レコード作成パスの前に実行される場合があります。

パス間でデータを共有しない

どのパスが最初に出力値の提供を完了するかをシステムが判断できないため、フローデザイナー ではパス間でデータピルをドラッグすることはできません。

動的フローのフローロジック

ランタイムデータを使用して、フローまたはサブフローを動的に識別して実行します。動的に呼び出されるフローまたはサブフローに必要な入力を提供するテンプレートをビルドします。

動的フローフローロジックは、フロー設計時に指定したデータを使用して、実行時にフローまたはサブフローを呼び出します。複数のフローの名前または目的が類似している場合は、動的フローを使用して実行するフローを選択できます。

動的フローを使用するには、フローデザイナーは次のことを行います。

1. テンプレートとして使用するフローまたはサブフローを作成して公開します。
2. 動的フローを親フローに追加します。
3. 動的フローのフローテンプレートを選択します。
4. 動的フローのフロー名を入力します。
5. フローテンプレートで指定された必要な入力を入力します。

動的フローテンプレート

動的フローのテンプレートは、フローまたはサブフローにすることができます。テンプレートの入力は、動的に呼び出すフローやサブフローの入力と一致する必要があります。入力は、各フローやサブフローで同じ [ラベル] および [名前] フィールド値を持つ場合に一致します。

テンプレートをビルドしたら、それをコピーして、類似した名前で同じように実行されるフローまたはサブフローを作成することを検討してください。必ず、動的フローで生成できる標準の命名規則を使用して、各フローまたはサブフローに名前を付けてください。動的フローのテンプレート作成の詳細については、「動的フローの開始とフロー出力の取得 (Get started with Dynamic Flow and Get Flow Outputs)」を参照してください。

入力

動的フローフローロジックをフローに追加するたびに、次の入力が表示されます。

入力	説明
フローのテンプレート	動的フローが入力をコピーして表示するテンプレートです。テンプレートの入力は、実行するサブフローの入力と一致する必要があります。
フロー	実行するフローまたはサブフローの名前またはシステム ID です。フロー名はフローの内部名ではなく表示名である必要があります。たとえば、`my_dynamic_flow` ではなく、`マイ動的フロー`といった名前を入力します。文字列を入力してデータピル値と連結することにより、フローまたはサブフローの名前を動的に生成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	説明
	scope-name.flow-name 形式を入力することで、別のアプリケーションスコープに関連付けられているフローまたはサブフローを呼び出すことができます。フローまたはサブフローを実行するユーザーは、指定したアプリケーションスコープにアクセスできる必要があります。アプリケーションスコープを指定しない場合、動的フローは親フローのスコープで実行されます。 **注:** システムがフローまたはサブフローを見つけることができない場合、[動的フロー] フローロジックのステップをスキップし、エラーメッセージをログに記録します。
完了待ち	動的フローの実行が終了してから次のアクションに進むまで、親フローを強制的に待機させるオプションです。

注: [フローのテンプレート] を選択すると、継承された入力がさらに表示されます。

フロー出力の取得

動的フローの出力は、コンテキストとして名付けられたレコードタイプデータピルとしてデータパネルに表示されます。これらのフローコンテキストを使用して、[フロー出力の取得] フローロジックで動的フロー出力のランタイム値を導出できます。[フロー出力の取得] を使用するには、フローデザイナーは次のことを行います。

1. 動的フローをフローに追加します。
2. 動的フローの後に [フロー出力の取得] を追加します。
3. データピルピッカー ( ) をクリックし、[動的フロー] > [コンテキスト]を選択して、[コンテキスト] の入力値を指定します。

フロー出力の取得の使用の詳細については、「動的フローの開始とフロー出力の取得 (Get started with Dynamic Flow and Get Flow Outputs)」を参照してください。

一般的なガイドライン

類似の機能を持つサブフローが複数ある場合は動的フローを使用する

動的フローでは、テンプレートを適用して複数の類似したサブフローの入力を処理することで、プロセスを区分化できます。区分化により、統合ハブ スポークのサブフローなど、類似の機能を実行するサブフローを区別できます。

動的に呼び出されるサブフローの入力がテンプレートフローの入力と一致することを確認する

動的フローの入力がフローテンプレートの入力と一致しない場合、システムはエラーをスローし、メインフローを正しく実行できません。

フロー出力の取得時に正しいコンテキストを使用する

コンテキストレコードはフローの実行を一意に識別します。動的フローを複数回実行する場合は、複数のコンテキストレコードから選択できます。フロー内で動的フローを複数回使用する場合は、フロー出力を取得するたびに適切な実行から適切なコンテキストレコードを選択していることを確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

終了フローのフローロジック

現在のフローの実行を停止します。終了条件を指定するには、フローのブランチ内で [終了フロー (End Flow)] を使用します。たとえば、特定の If フローロジックブロックに達したときにフローを終了します。

終了フローロジックは、**If**、**Else If**、**Else** フローロジックブロックなどの条件付きフローロジックブロック内に含めることができます。特定の条件が満たされたときにフロー実行を停止するには、このフローロジックを使用します。終了フローロジックを使用した後にはアクションまたはフローロジックを追加できません。フローが終了フローのフローロジックに達すると、**Wait for a duration** ロジックも含めて、フローのすべての分岐が終了します。終了フローのフローロジックを使用すると、並行して実行されるすべての分岐の進行も停止します。

入力

このフローロジックに入力はありません。

出力

このフローロジックには出力はありません。このフローロジックがフローまたはサブフローを終了すると、ステータスが [完了] に設定されます。終了するサブフローは、[サブフローを終了] フローロジックの前に [サブフロー出力のアサイン] フローロジックがあった場合にのみ、出力値を親フローに返すことができます。

一般的なガイドライン

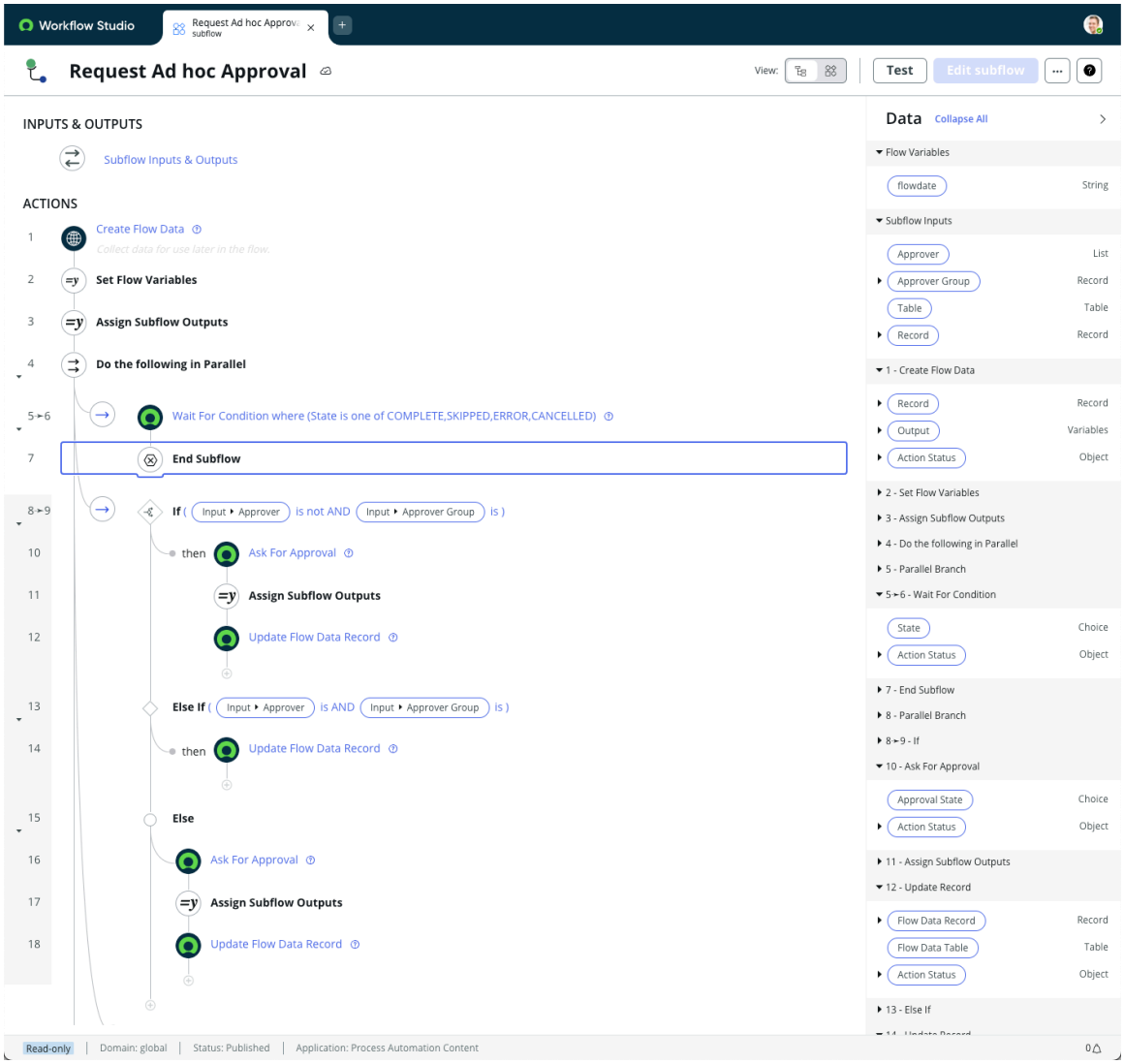
[終了フロー] または [サブフローを終了] フローロジックを追加するときは、一般的なガイドラインを使用してください。

[サブフローを終了] フローロジックの前の [サブフロー出力のアサイン]
: サブフローが常に出力値を親フローに返す必要がある場合は、[サブフローを終了] フローロジックの前に [サブフロー出力のアサイン] フローロジックを使用します。デフォルトでは、終了したサブフローは出力値を返しません。

終了したサブフローを処理するための親フローの設計
: 終了分岐を持つサブフローを呼び出す場合は、呼び出し元のフローが受信不可のサブフロー出力を処理できることを確認してください。フロー間でデータを渡すかどうかは、フローとサブフロー作成者が担当します。

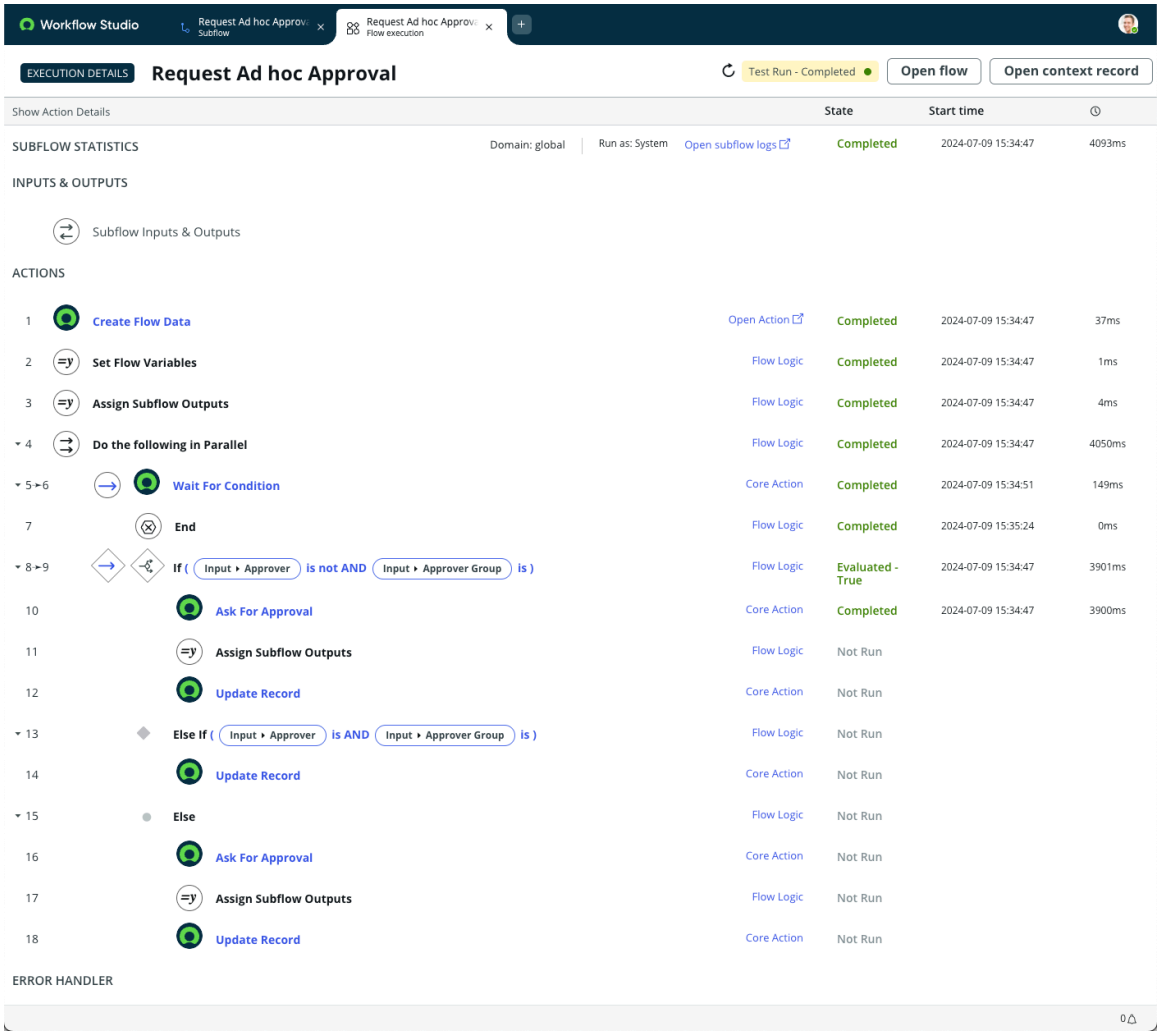
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: [アドホック承認を要求] サブフロー



このサブフローの例では、プロセスオートメーションデザイナー アクティビティからの任意の承認の追加をサポートしています。ステップ 5 ～ 6 の待機条件は、キャンセル、完了、エラー、スキップなどの終了ステータスについてフローデータレコードをチェックします。フローデータレコードがこれらのいずれかのステータスになると、サブフローは出力をアサインせずに終了します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



サブフローがこの分岐に到達すると、サブフローは停止し、ステータスが [完了] に設定されます。他の分岐のアクションは実行されません。

Exit Loop フローロジック

If フローロジックの条件が満たされたら、フローロジックループを終了します。フローロジックループの後の次のステップからフローの実行を続行します。このフローロジックはブレークとも呼ばれます。

有効な Exit Loop の配置

Exit Loop フローロジックを追加できるのは、フローの特定の部分のみです。Exit Loop フローロジックは、親の For Each または Do the following until フローロジックブロックの分岐内にある必要があります。

- If フローロジックブロックの Then 分岐
- Else If フローロジックブロックの Then 分岐
- Else フローロジックブロックの Then 分岐

入力

このフローロジックに入力はありません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力

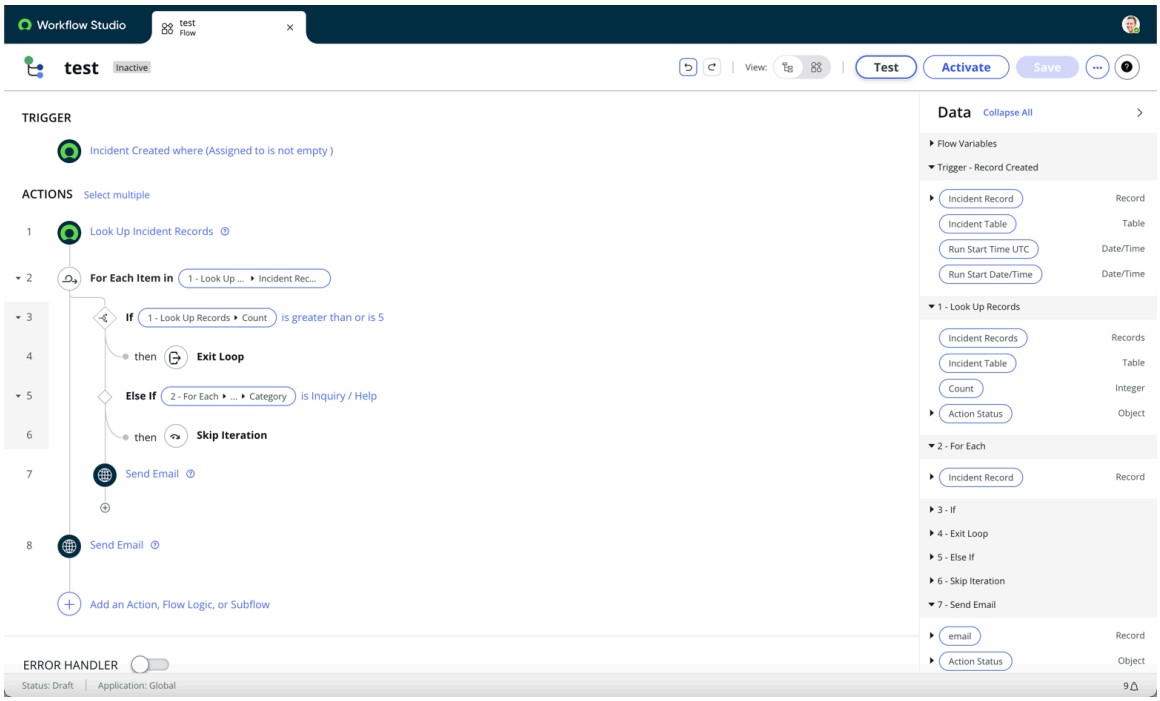
このフローロジックには出力はありません。

実行の詳細

フローがループを終了すると、Exit Loop フローロジックブロックのステータスが [完了] になります。For Each または Do the following until フローロジックブロックの残りのステップは実行されません。

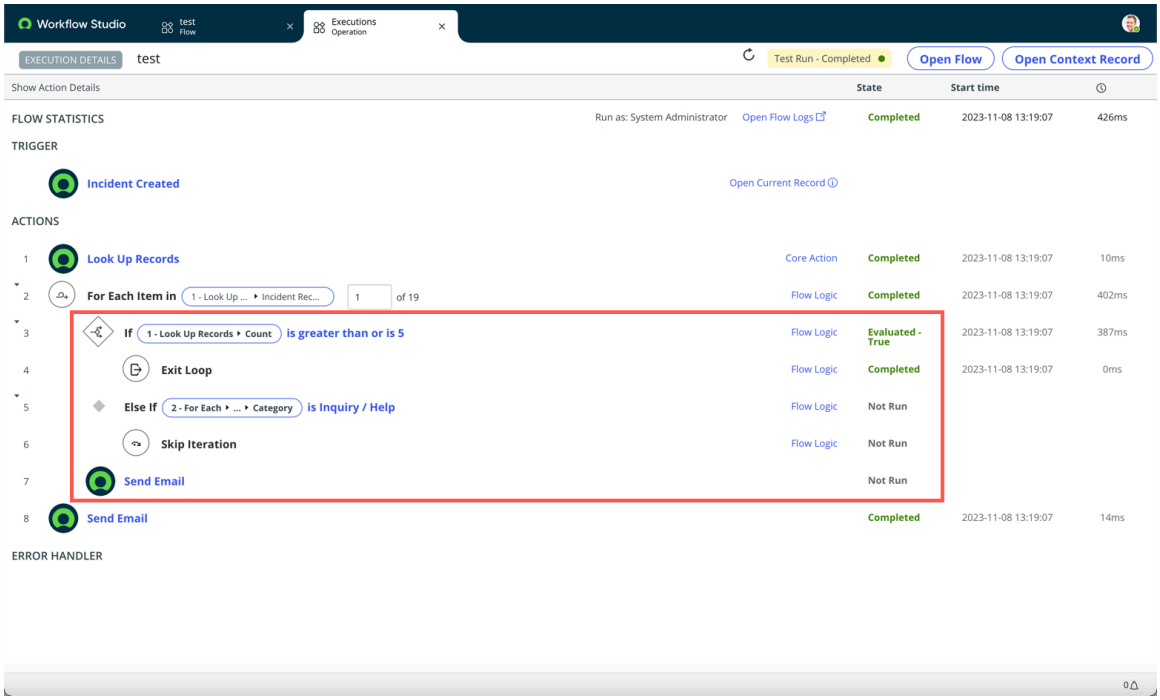
Example: インシデント数に基づいてループを終了する

この例では、フローによってユーザーにアサインされたインシデントのリストを生成します。フローでは、ユーザーにアサインされたインシデントごとにメールが送信されます。インシデントのリストが 5 以上の場合、フローは For Each フローロジックループを終了し、メールを送信しません。



この例では、ユーザーにアサインされているインシデントが 19 件あり、終了条件を満たしています。For Each フローロジックカウンターの最初のアイテムには、ステータスが [完了] の Exit Loop フローロジックが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



For Each フローロジック

レコードリスト内の各レコードに 1 つ以上のアクションを適用します。

[For Each] フローロジックは、1 つ以上のアクションをレコードリストに適用します。このフローでは、フローロジック内に含まれるアクションがリスト内の各レコードに適用されます。

> **注:** フローロジックの For each item 分岐の内からデータピル値を設定すると、データピル値は同じ分岐内の他のアクションでのみ使用できます。フローロジック分岐の外から For each 分岐の内で設定されたデータピル値を参照すると、null 値が生成されます。

特に For Each ロジックブロックに反復ごとに複合アクションが含まれている際は、多数のレコードの反復処理はリソースを集中的に使用する可能性があります。パフォーマンスの問題を回避するには、*com.snc.process_flow.reporting.level* システムプロパティを使用してレポートをオフにします。詳細については、「ワークフロースタジオ フローシステムプロパティ」を参照してください。

入力

アイテム

データタイプ：*Records*

順番に処理するレコードを指定する Sys ID 値のリストまたはレコードデータピル。[複数のレコードの検索] アクションを使用して、レコードリストを生成できます。詳細については、「「複数レコードのルックアップ」アクション」を参照してください。

> **注:** アイテムを特定の順序で処理する場合は、この入力のアイテムの初回のソートを事前に実行しておく必要があります。たとえば、[順番] オプションを使用して、[複数のレコードの検索] アクションの結果をソートします。

出力

[テーブル名] レコード

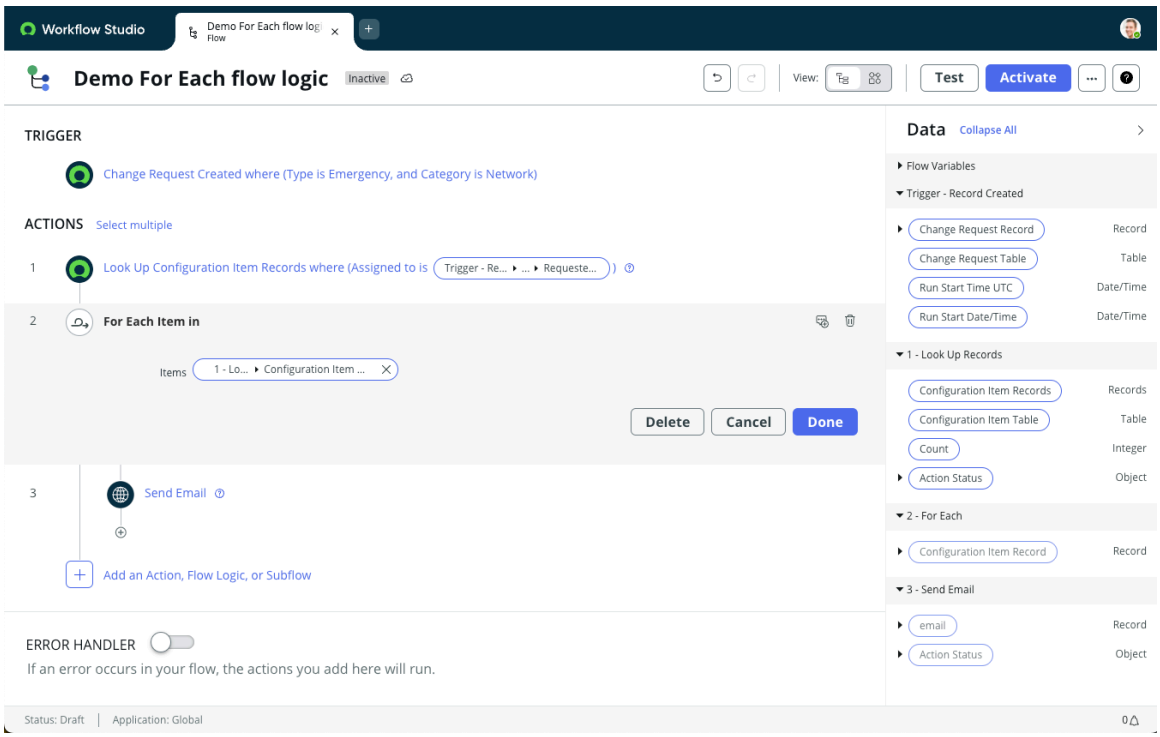
データタイプ：*Record*

ループの現在のレコードです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

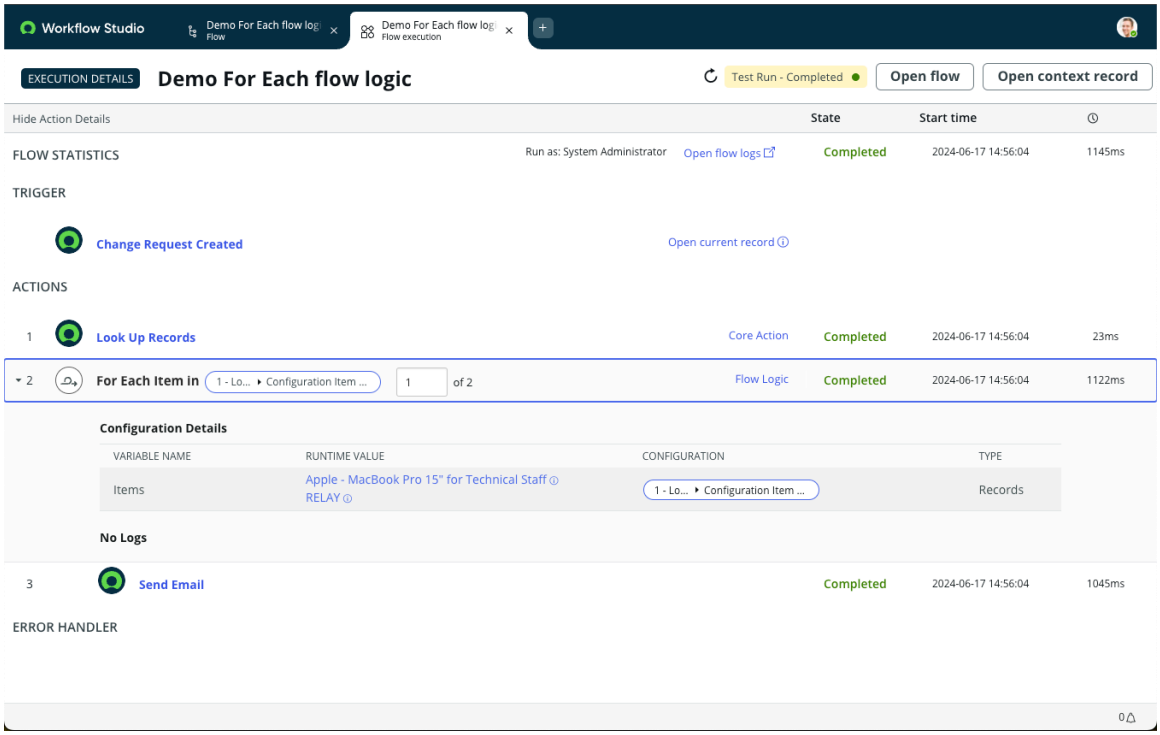
注: デフォルトでは、すべてのフローループは、ループの最初と最後の反復の実行の詳細のみを保存します。ループのすべての反復についてレポートするには、ループ実行の詳細を収集するフローごとにフロー実行設定レコードを作成します。フロー実行設定の詳細については、「フロー実行の設定」を参照してください。

Example: 変更によって影響を受ける可能性がある構成アイテムごとにメールを送信する



この例では、変更要求レコードが作成されると、フローが開始します。このフローでは、[複数のレコードの検索] アクションを使用して、変更要求の要求者にアサインされた [構成アイテム] レコードを検索します。このフローでは、For Each フローロジックを使用して、変更要求の影響を受ける可能性のある各構成に関するメールを送信します。[複数のレコードの検索] アクションの出力には、処理するレコードのリストが含まれています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



フロー実行の詳細には、ループの各反復に使用される構成アイテムレコードが示されます。

一般的なガイドライン

これらの一般的なガイドラインは、For Each フローロジックで使用します。

追加するアイテムが 1,000 を超えないようにする

レコード数が 1,000 を超えるリストを反復処理しないでください。フローのパフォーマンスを最適化するために、レコードリストを小さく保ちます。1,000 を超えるレコードを含むリストを反復処理するには、リストを小さなセクションに分割し、複数のフローを使用します。

For Each フローロジックに依存するステージの定義を避ける

フローデザイナーでは **[For Each]** ブロック内にステージを追加できません。**[For Each]** ブロックの前後にのみステージを追加できます。

ネストされた For Each ループを避ける

多数のレコードを処理するネストされた For Each ループは避けてください。ループがネストされた場合は、フローが 1 時間より長く実行されないようにするフロートランザクションクォータのルールによって停止するまでフローが実行されることがあります。トランザクション割り当ての詳細については、「トランザクション割り当て」を参照してください。

Go back to フローロジック

フロー内の前のステップに戻り、一連のアクションを繰り返します。

ファミリーリリースの要件

Washington DC ファミリーリリース以降に作成された新しいフローにのみ、Go back to フローロジックを追加できます。Washington DC ファミリーリリースより前のバージョンで作成されたフローは、Go back to フローロジックをサポートしていません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

有効な **Go back to** の配置

Go back to フローロジックを追加できるのは、フローの特定の部分のみです。

- Go back to フローロジックは、親フローロジックブロックの分岐内にある必要があります。
  - If、Else If、または Else フローロジックの Then 分岐
  - Make a decision フローロジックの Answer 分岐
  - Try フローロジックの Catch 分岐
- Go back to フローロジックは、Error handler セクションの外にある必要があります。

有効な **Go back to** ターゲットステップ

Go back to フローロジックでは、有効な return ターゲットステップのみを選択できます。有効なターゲットステップは、次の条件をすべて満たす必要があります。

1. ターゲットは、Go back to フローロジックの前のステップでなければなりません。
2. ターゲットをフローの別の分岐内のステップにすることはできません。
3. ターゲットを、Go back to フローロジックと同じ分岐内のステップにすることはできません。
4. 非分岐フローロジックブロックに子 Go back to フローロジックも含まれている場合を除き、ターゲットを非分岐フローロジックブロック内のステップにすることはできません。
5. ターゲットは、Do the following in parallel フローロジックを除き、非分岐フローロジックブロックの外のステップにすることができます。

> ⚠ **警告:** 親フローロジックブロックの外にあるターゲットステップを選択すると、現在のループが終了し、ループ反復回数がリセットされます。Go back to ループと親フローロジックブロックの別々のループ反復カウンターが表示されます。すべてのループは、ループの最大反復回数プロパティ (*sn_flow_designer.max_iterations*) によって制限されます。

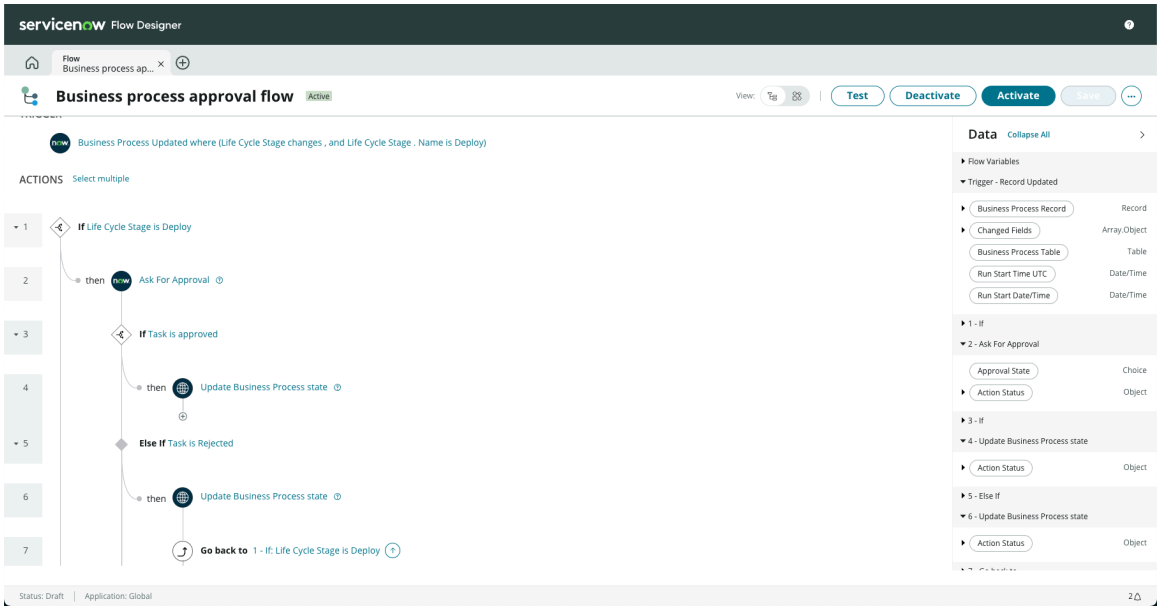
入力

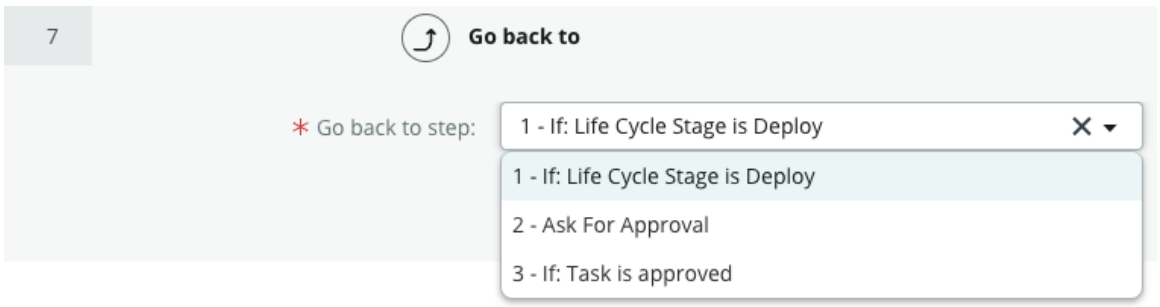
入力	説明
Go back to ステップ	Go back to ステップのターゲットの条件を満たすフロー内のステップ。

Example: フローの最初に戻る

この例では、トリガーレコードの承認タスクが却下されると、フローが最初のステップに戻ります。有効な Go back to ターゲットには、ステップ 1、2、および 3 が含まれます。ステップ 4 は、別の分岐内のステップであるためルール 2 に違反します。ステップ 5 と 6 は、フローの同じ分岐内のステップであるという点でルール 3 に違反しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。





出力

このフローロジックには出力はありません。

一般的なガイドライン

Go back to フローロジックを追加するときは、次の一般的なガイドラインを使用してください。

フローの構造が完了したら、Go back to フローロジックを追加します。

Go back to フローロジックが正しく機能するかどうかは、固定された一連のステップに依存しています。フローに有効なターゲットステップが含まれるまで、Go back to フローロジックを追加するのは待ってください。

Go back to ステップの重複作成を避ける

フローは、条件が満たされた最初の Go back to フローロジックを使用します。このフローでは、最初の Go back to フロー以降のすべての Go back to フローロジックのステップは無視されます。

無限ループの作成を避ける

Go back to ループごとに、フローを再開するか、エラーをスローするかの条件を指定します。エラー条件および再開条件により、ループの最大反復回数 (*sn_flow_designer.max_iterations* プロパティ) に達するまで、フローは実行されません。If フローロジックを使用して、ループ終了条件を確認できます。たとえば、フローが Go back to フローロジックを実行した回数をカウントするフロー変数を作成します。フロー変数が制限に達したら、フローを終了します。

Go back to フローロジックを削除して移動する

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Go back to フローロジックを追加した後は、別の場所に移動することはできません。現在の場所から削除し、別の有効な場所に追加することしかできません。

If フローロジック

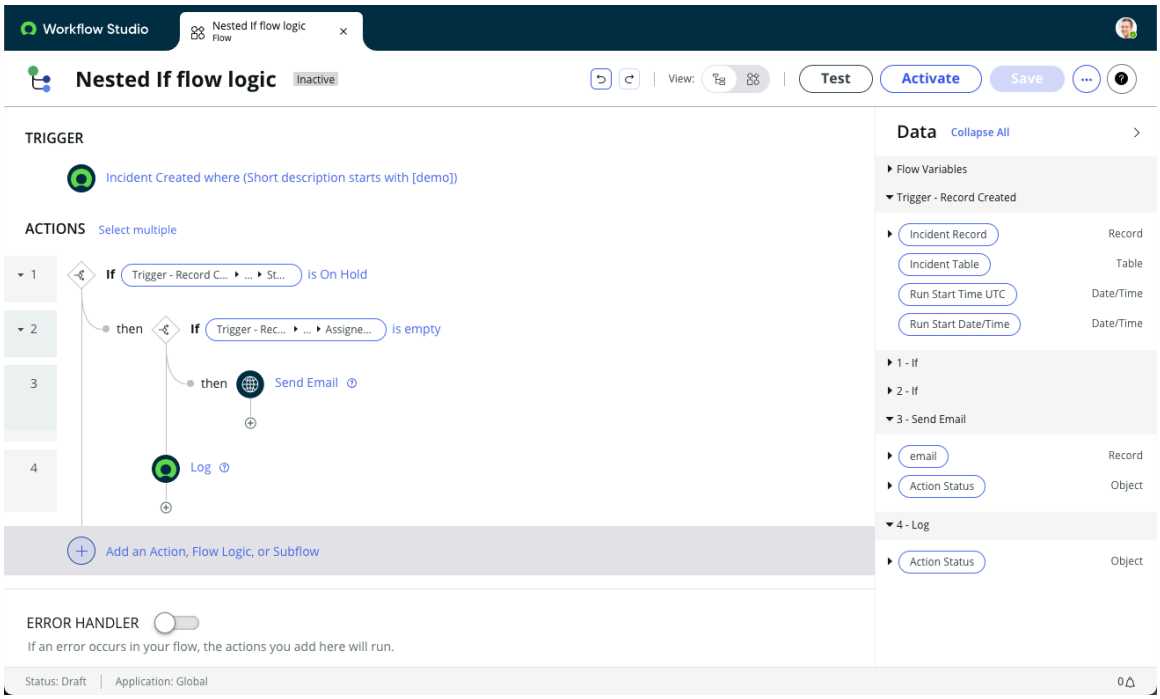
条件のリストが満たされた場合にのみ、1 つ以上のアクションを選択的に適用します。

このフローロジックを使用するには、現在のレコードに基づく条件を指定します。アクションまたはサブフローは、If フローロジック内のフローに追加できます。このフローでは、条件が true に評価されると、このフローロジック内のアクションを実行します。タスクのステータスや緊急度の値など、レコード内のデータに基づいて条件を作成します。

注: If フローロジックの Then 分岐の内からデータピル値を設定すると、データピル値は同じ分岐内の他のアクションでのみ使用できます。フローロジック分岐の外から Then 分岐の内で設定されたデータピル値を参照すると、null 値が生成されます。

ネストされた If フローロジックブロック

子の If フローロジックブロックを親の If フローロジックブロックに追加できます。子の If フローロジックブロックを親フローロジックブロックの Then 分岐に追加します。



入力

入力	説明
条件のラベル	分岐条件を説明するラベル。ラベルを使うと、長くて複雑な条件データピル値よりも読みやすくなります。
条件	分岐を実行する条件このフローでは、条件が true と評価されると、Then 分岐の内容を実行します。

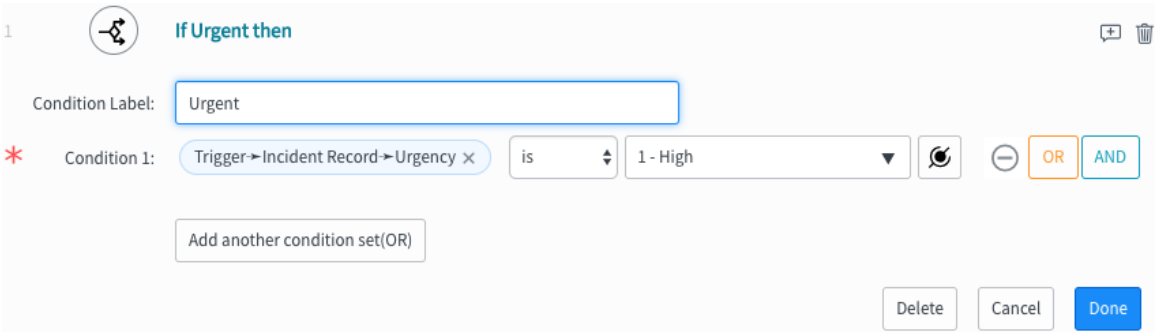
出力

このフローロジックには出力はありません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

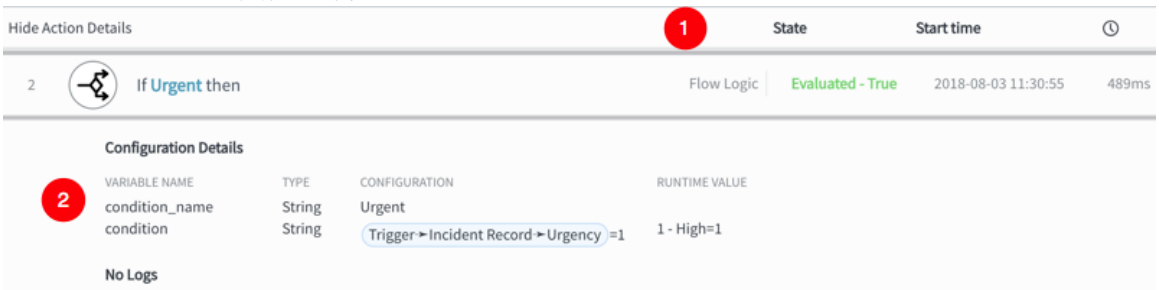
Example: インシデントの緊急度が高い場合にアクションを実行する

この例では、インシデントレコードの緊急度の値が高いと、アクションがトリガーされます。



実行の詳細

If フローロジックの実行の詳細



1. ヘッダーには、フローロジックの状態、開始時刻、ランタイムが表示されます。
2. [構成詳細] セクションには、各変数のタイプ、構成、およびランタイム値など、フローで使用される変数に関する詳細が表示されます。分岐条件が満たされたかどうかを確認するには、条件変数を使用します。

一般的なガイドライン

効果的な If フローロジックブロックを作成するときは、これらの一般的なガイドラインを使用してください。

Then 分岐の外でデータピル値を参照しない

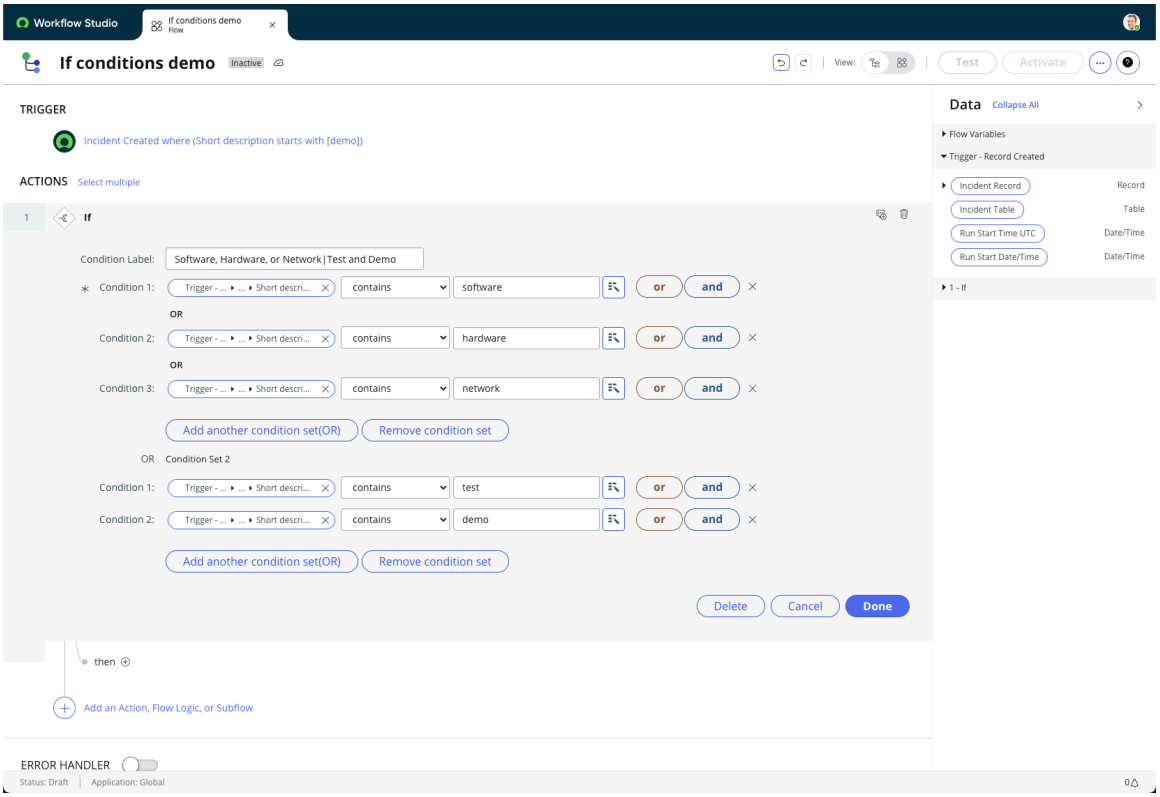
If フローロジックの Then 分岐の内からデータピル値を設定すると、データピル値は同じ分岐内の他のアクションでのみ使用できます。フローロジック分岐の外から Then 分岐の内で設定されたデータピル値を参照すると、null 値が生成されます。

独自の条件セット内の一致条件タイプをグループ化する

同じフィールド値に対して異なるタイプの条件を混在させると、予期しない結果が生じる可能性があります。たとえば、インシデントの簡単な説明に関する複数の OR 条件のグループに AND 条件を追加すると、If 条件が true と評価されない状況が発生する可能性があります。同じフィールドに対する同様の条件タイプは、条件グループを使用してグループ化します。たとえば、インシデントの簡単な説明に関するすべての OR 条件を 1 つの条件セットにグループ化し、インシデントの簡単な説明に関するすべての AND 条件を別の条件セットにグループ化します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

一致条件を条件セットにグループ化する例



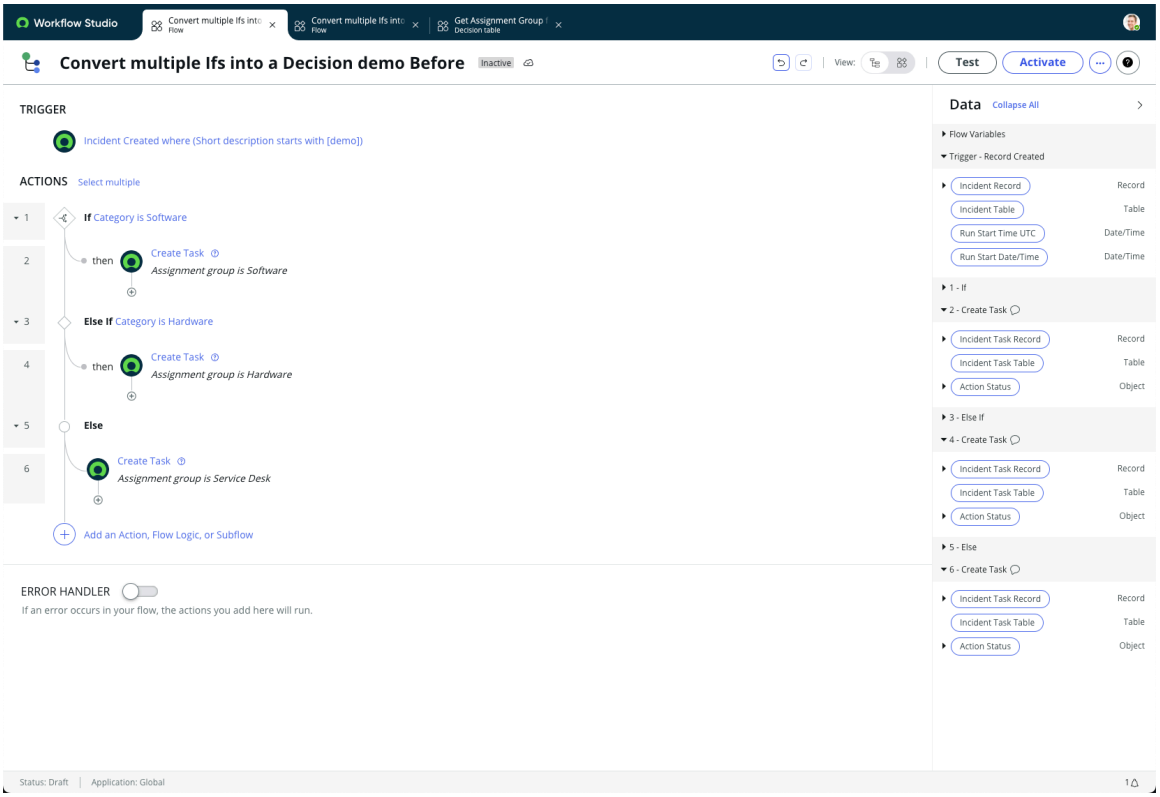
複数の If フローロジックブロックを Make a decision フローロジックブロックに置き換える

条件によってのみ異なる If フローロジックブロックを重複して作成するのではなく、ディシジョンテーブルを使用して回答を生成します。たとえば、インシデントカテゴリを使用して、インシデントタスクレコードのアサイン先グループを設定するとします。カテゴリ値ごとに重複する If フローロジックブロックを作成するのではなく、Make a decision フローロジックを使用して、アサイン先グループに回答を提供します。

以下は、それぞれがインシデントタスクレコードを作成する 3 つの If フローロジックブロックを使用するフローの例です。これらの If フローロジックブロックの唯一の違いは、インシデントカテゴリの条件です。

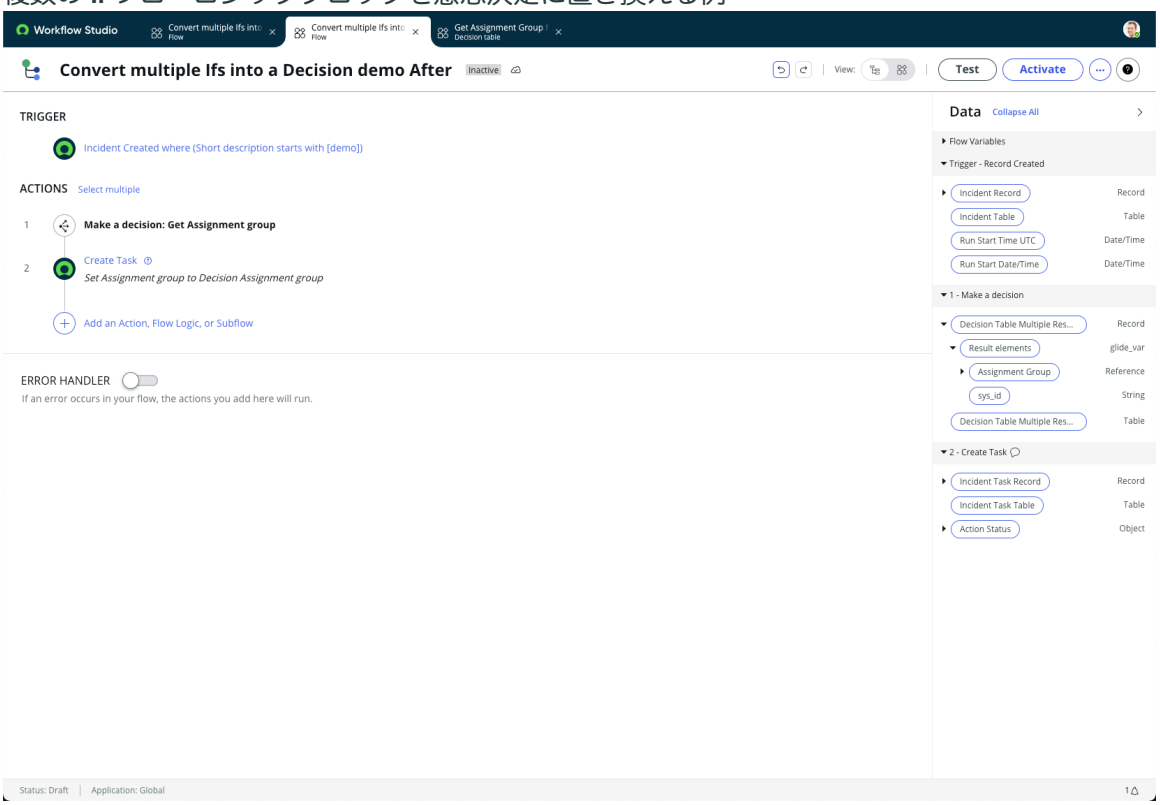
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

同じアクションを実行する複数の **If** フローロジックブロックの例



以下は、単一の Make a decision フローロジックブロックを使用して、インシデントカテゴリからインシデントタスクのアサイン先グループを決定するフローの例です。[タスクの作成] アクションは、意思決定の出力を入力として使用します。

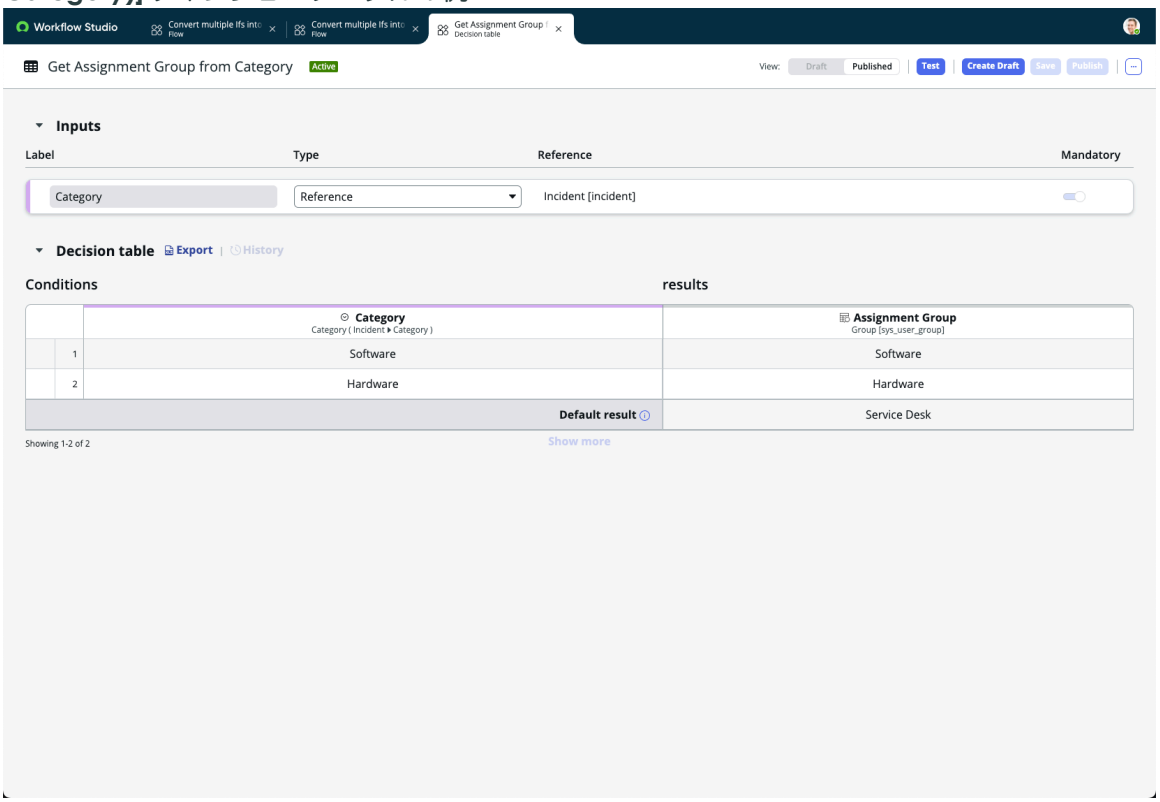
複数の **If** フローロジックブロックを意思決定に置き換える例



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インシデントレコード値を入力として使用するディシジョンテーブルの例を次に示します。[条件] 列は 2 つのインシデントカテゴリ値で構成されます。[結果] 列は、各条件値に使用するアサイン先グループで構成されます。

[カテゴリからアサイン先グループを取得 **(Get Assignment Group from Category)]** ディシジョンテーブルの例



Make a decision フローロジック

複数の条件付きパスが必要な状況では、ネストされた If、Else If、または Else フローロジックの代わりに、ディシジョンテーブルブランチロジックを使用できます。たとえば、必要な自動車保険の種類を決定する場合は、ディシジョンテーブルに年齢、事故歴、車種などを追加入力して、保険の適用範囲のレベルを決定できます。このロジックにより、時間が短縮され、ネストされた if 条件や switch case 文より可読性の高い形式になります。

[意思決定] フローロジックでは、その分岐パスの外部ディシジョンテーブルを作成する必要があります。ディシジョンテーブルの回答ごとに、フロー内に個別の分岐パスが生成されます。意思決定テーブルは、任意の数の入力を受け入れ、任意の数の意思決定に対応します。単一または複数の回答を返し、回答を分岐パスまたはレコードデータピルとして表示するように、[Make a decision] フローロジックを設定することができます。意思決定テーブルに関する詳細については、ディシジョンテーブルの探索を参照してください。

注:

- [分岐を使用] チェックボックスをオフにすると、分岐がない場合にのみ、他のフローコンポーネントで意思決定データピルがサポートされます。
- 意思決定データピルは、[分岐を使用] チェックボックスがオンになっている場合にのみ回答分岐で使用できます。☒
- Make a decision フローロジックの answer 分岐の内からデータピル値を設定すると、データピル値は同じ分岐内の他のアクションでのみ使用できます。フローロジック分岐の外から answer 分岐の内で設定されたデータピル値を参照すると、null 値が生成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

入力	説明
意思決定ラベル	意思決定を説明するラベルです。たとえば、必要な保険の適用範囲のレベルを決定する場合は、「お勧めの保険」ラベルを作成できます。この値により、デフォルトのアクションのラベルは上書きされます。
ディシジョンテーブル	ディシジョンテーブル [sys_decision] レコードへの参照です。このレコードは、フローで利用可能な意思決定の入力回答を提供します。新しいディシジョンテーブルを作成するには、[新しいレコードを作成] アイコン (+) を選択します。
実行	フローを実行する意思決定回答です。 • 一致する最初の意思決定：最初に一致する意思決定回答のみを実行します。このオプションでは、次の出力が生成されます。 ◦ 回答レコード ◦ 回答のテーブル • 一致するすべての意思決定を実行します：一致するすべての意思決定回答を実行します。このオプションでは、次の出力が生成されます。 ◦ 回答のテーブル ◦ 順序付けされた ID ◦ 回答レコード ◦ カウント **注:** フローが一致する意思決定回答を表示する方法を指定するには、[分岐を使用] オプションを設定します。
分岐を使用	考えられる各意思決定回答をそれぞれの分岐フローロジックブロックに表示するオプションです。分岐フローロジックブロックを使用して、条件が特定のディシジョンテーブルの回答に一致した場合に、度のコンテンツが実行されるかを指定します。各分岐フローロジックブロックは、各回答の [If] フローロジックブロックと同等です。 分岐フローロジックブロックの代わりに 1 つ以上の回答レコードを返す場合は、分岐を無効にします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	説明
	⚠ **警告:** [分岐を使用] オプションをオフにして確定すると、フローは各分岐のフローロジックブロックを削除し、[それ以外は含む] チェックボックスを削除します。[分岐を使用] チェックボックスを再度選択しても、削除された分岐フローロジックブロックは復元されません。
それ以外の場合を含む	利用可能な回答のリストに [それ以外の場合] 分岐を追加するオプションです。このオプションは、[分岐を使用] が選択されている場合にのみ使用できます。この分岐を使用して、ディシジョンテーブルで回答が生成されない場合に実行するアクションとサブフローを指定できます。[それ以外の場合] 分岐は、[Else] フローロジックブロックと同等です。 **注:** ディシジョンテーブルのデフォルトの回答を指定した場合、ディシジョンは常に回答を選択するため、この分岐は実行されません。
ディシジョンテーブルの入力	ディシジョンテーブルに関連付けられている意思決定の入力 [sys_decision_input] レコードのリスト。フローには、レコードごとに個別の入力が表示されます。たとえば、受注単位と販売場所の意思決定入力がある場合、それぞれのレコードの入力が表示されます。

出力

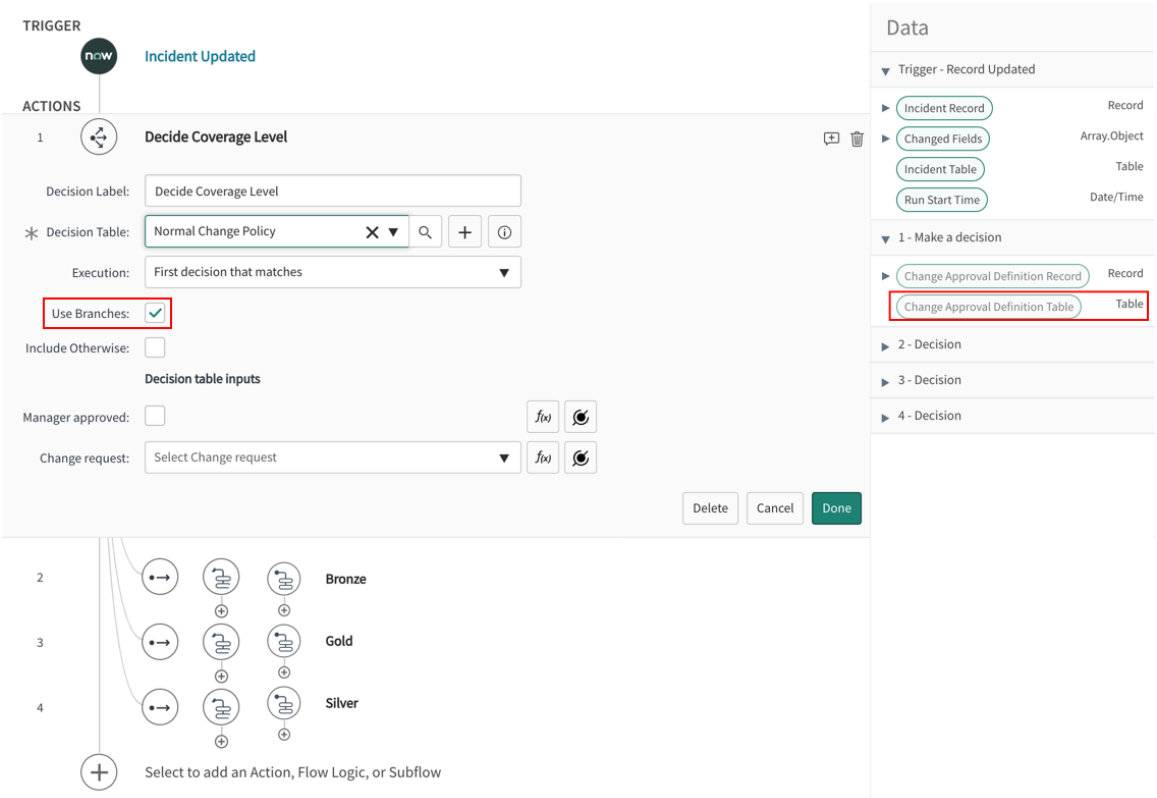
フィールド	説明	データタイプ
回答のテーブル	回答レコードを含むテーブルです。各意思決定 [sys_decision_question] テーブルレコードは、一致する回答レコードを参照します。	テーブル名
順序付けされた ID	ディシジョンテーブルによって生成された一致する回答レコード sys_id 値のリスト。[分岐を使用] オプションが False で、[実行] オプションが [一致するすべての意思決定を実行します] の場合にのみ、フローがこの出力を生成します。この出力は、[For Each] フローロジックブロックまたは [レコードの検索] アクションの入力として使用できます。フローは、意思決定 [sys_decision_question] テーブルにリストされている	リスト

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明	データタイプ
	[順序] 値でリストをソートします。	
回答レコード	ディシジョンテーブルによって返された回答レコードです。[実行] が [一致する最初の意思決定] の場合、単一のレコードを返します。[実行] が [一致するすべての意思決定を実行します] の場合にレコードリストを返します。	1 つまたは複数のレコード
カウント	ディシジョンテーブルによって返された回答レコード数です。[実行] が [一致するすべての意思決定を実行します] の場合にのみ表示されます。	整数

Example: 意思決定フローロジックを使用して保険の補償範囲を決定する

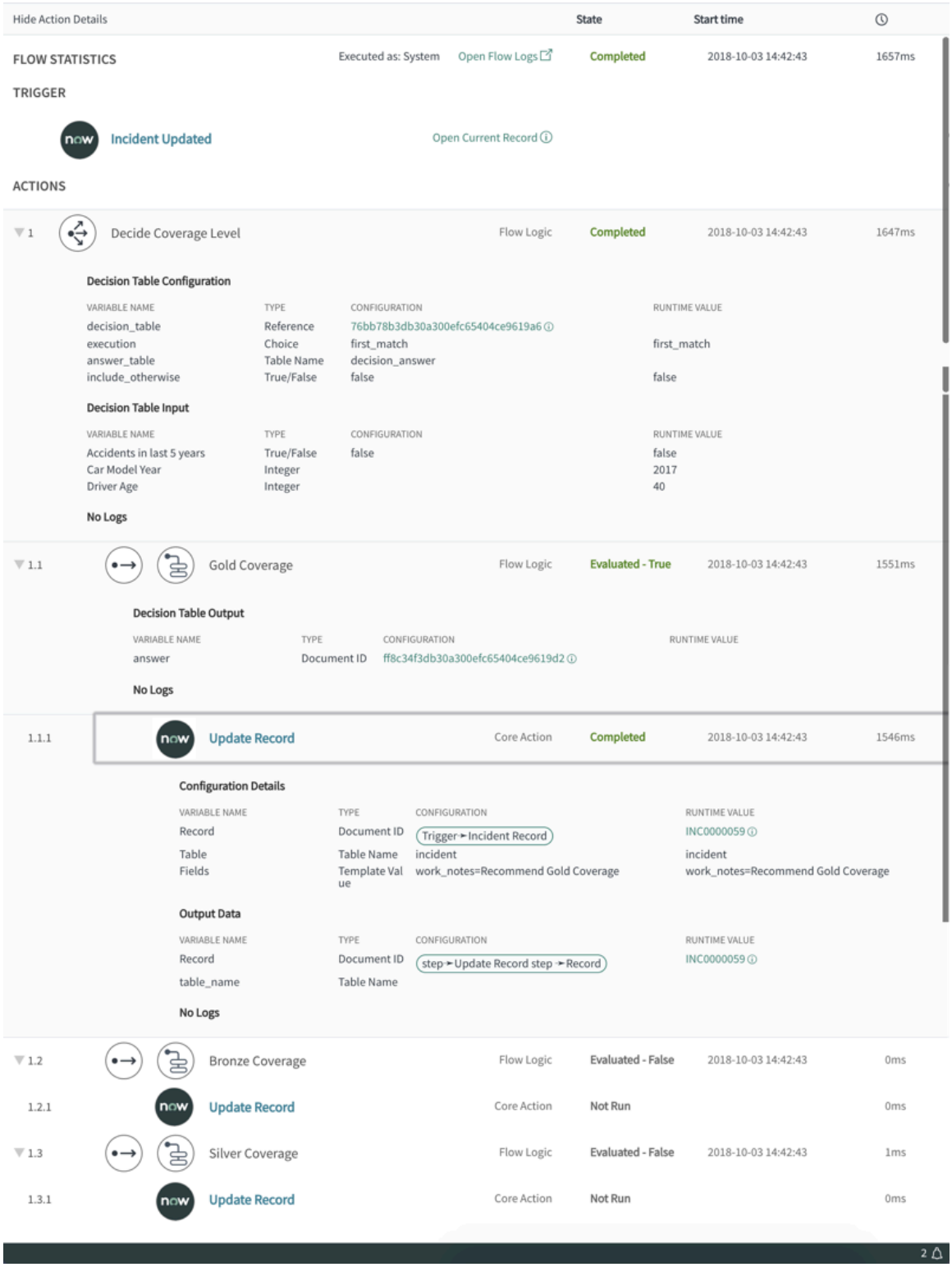
この例では、[保険補償] ディシジョンテーブルの意思決定がフローで使用されます。アドミニストレーターは、3 件の入力に基づいて保険の補償範囲を決めるように、このディシジョンテーブルを構成しました。このフローは、そのディシジョンテーブルで使用されたすべての入力を表示します。これらの入力を手動で入力するか、画面の右側のデータペインから入力にデータピルをドラッグできます。このセクションの下には、ディシジョンテーブルの回答ごとの分岐が表示されます。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

実行の詳細

意思決定フローの実行の詳細



[フロー実行の詳細] タブには、フローロジックのランタイム情報が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. ヘッダーには、フローロジックの状態、開始時刻、ランタイムが表示されます。
2. アクションには、ディシジョンテーブルの構成および入力に関する詳細が表示されます。
3. ディシジョンテーブルで可能な各回答は、分岐として表示されます。ステータスフィールドには、分岐が評価されたかどうか、および評価結果が表示されます。このセクションには、分岐内で実行されたアクションの詳細も表示されます。true に評価された分岐は、緑色でハイライトされます。

[フロー変数の設定] フローロジック

フローデータをデータピルとして格納する 1 つ以上のフロー変数に値をアサインします。データピルを参照してフロー変数の値にアクセスします。

重要: このフローロジックは、既に作成されたフロー変数の値を設定します。フロー変数の作成手順については、「フロー変数の作成」を参照してください。

入力

フィールド	説明
名前	変数の名前です。フローで使用可能な変数のリストから選択します。
データ	変数の値です。文字列の値を入力するか、スクリプトを入力するか、データピルを使用します。変数の値は、他の変数を含めて、フローの初期のデータピルを参照できます。他のデータピルを参照して変数の値を設定する場合は、変数割り当ての順序を維持する必要があります。参照される値は、常に参照される値を使用する変数の前に来る必要があります。順序を変更すると、null 値が生成される場合があります。 空白の値を割り当てるには、このフィールドを空のままにします。 **注:** フロー変数の値は、上から下に割り当てられた順序で設定されます。同じ変数の値を複数回設定すると、フローは最後に設定された値のみを使用します。 スクリプトを入力するには、[[変数] のスクリプトをオンに切り替え] アイコンを選択します。スクリプトエディターにスクリプトを入力します。インラインスクリプトの詳細については、「インラインスクリプト」を参照して ください。

出力

このフローロジックは出力を生成しませんが、フロー変数の値を変更します。

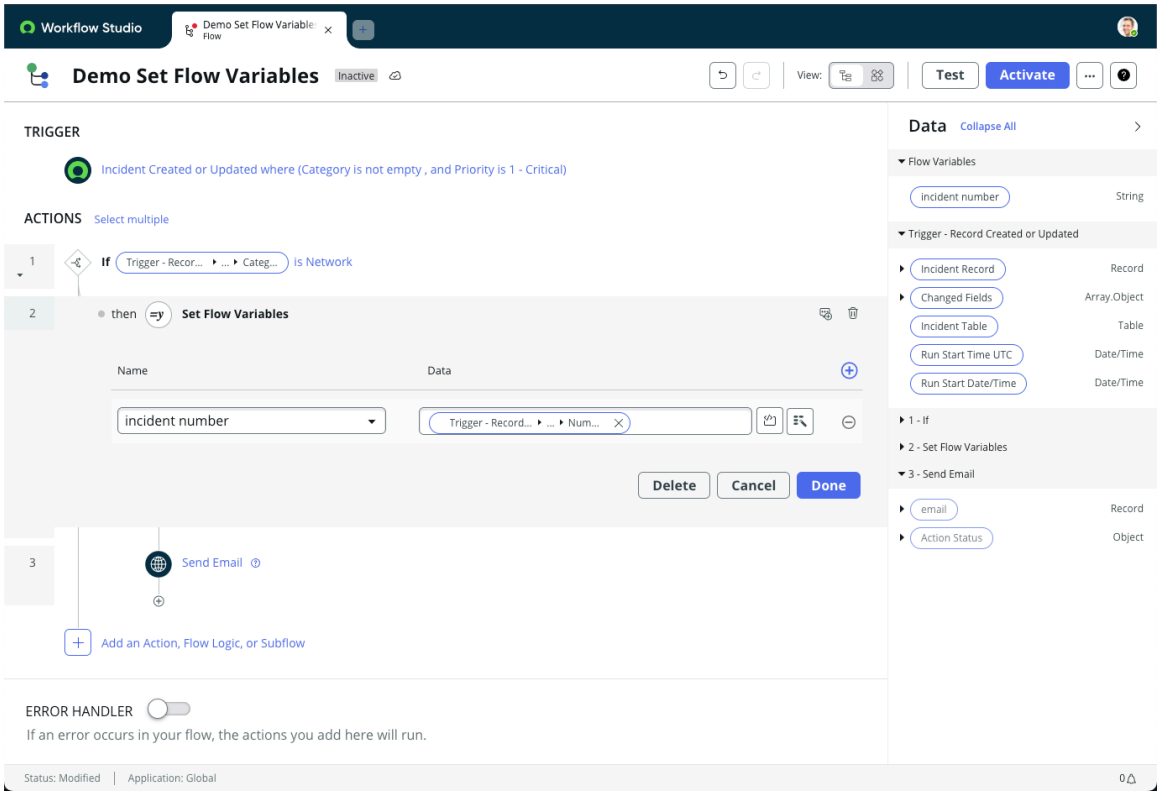
使用法

フロー変数は、フローデータを特定のデータタイプのデータピルとして保存します。フロー変数データピルには、[データ] ペインの [フロー変数] セクションからアクセスできます。フロー変数値を使用するには、他のデータピルと同様に、[データ] ペインまたはピルピッカーからデータピルを選択します。

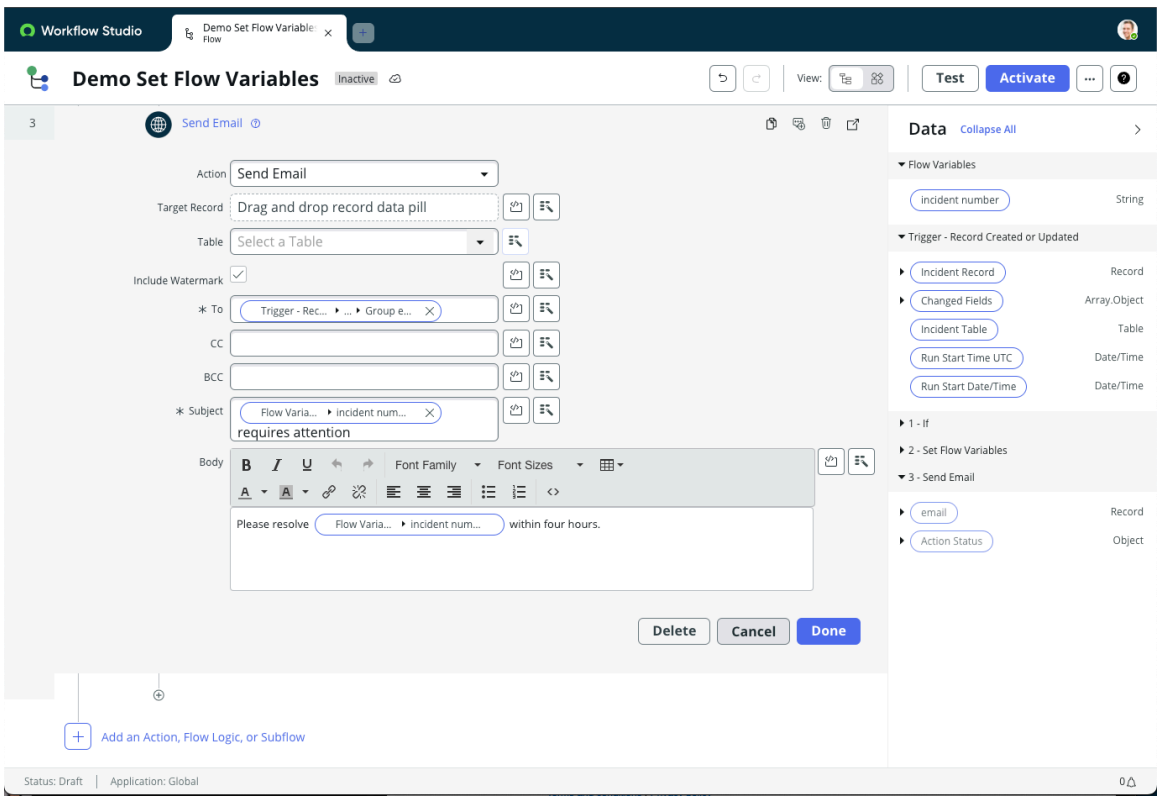
Example: インシデント番号変数の値をフローデータピル値に設定する

この例では、フローでインシデントレコードのカテゴリがチェックされます。カテゴリがネットワークであると、フロー変数を使用してレコード番号が保存されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



フローの後半で、[メール送信] アクションは、メールの件名および本文の一部としてインシデント番号フロー変数を使用します。

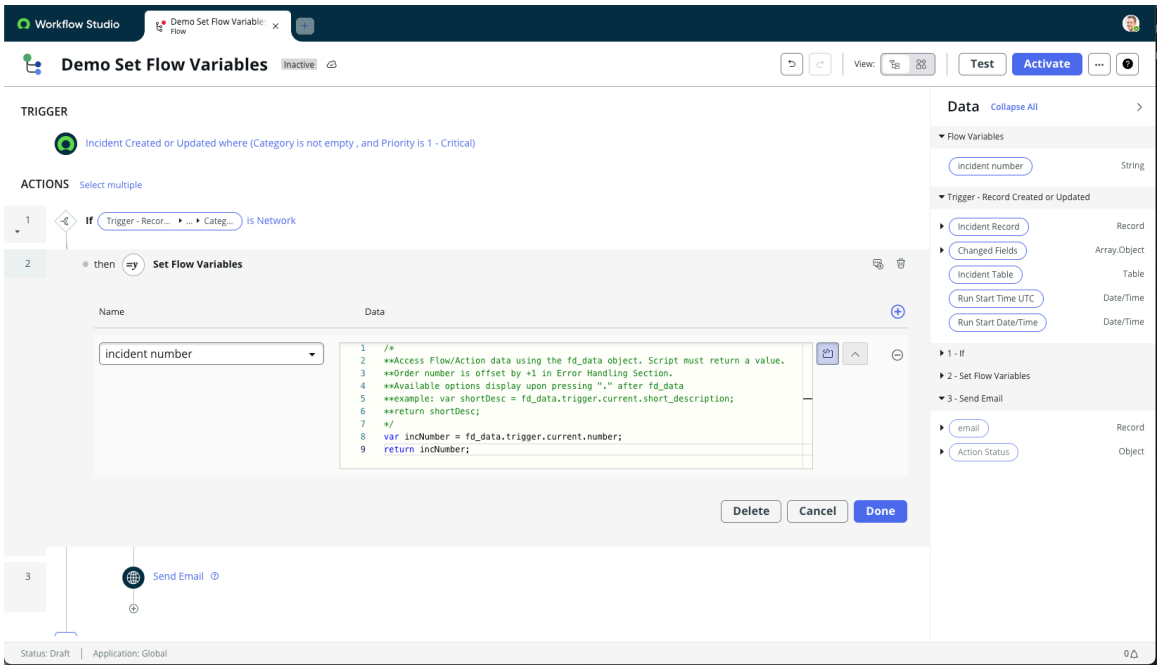


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: スクリプトを使用したインシデント番号変数値の設定

この例では、フローでインシデントレコードのカテゴリがチェックされます。カテゴリがネットワークであると、フロー変数を使用してレコード番号が保存されます。この例では、フロー変数はデータピル値ではなくスクリプトから設定されます。

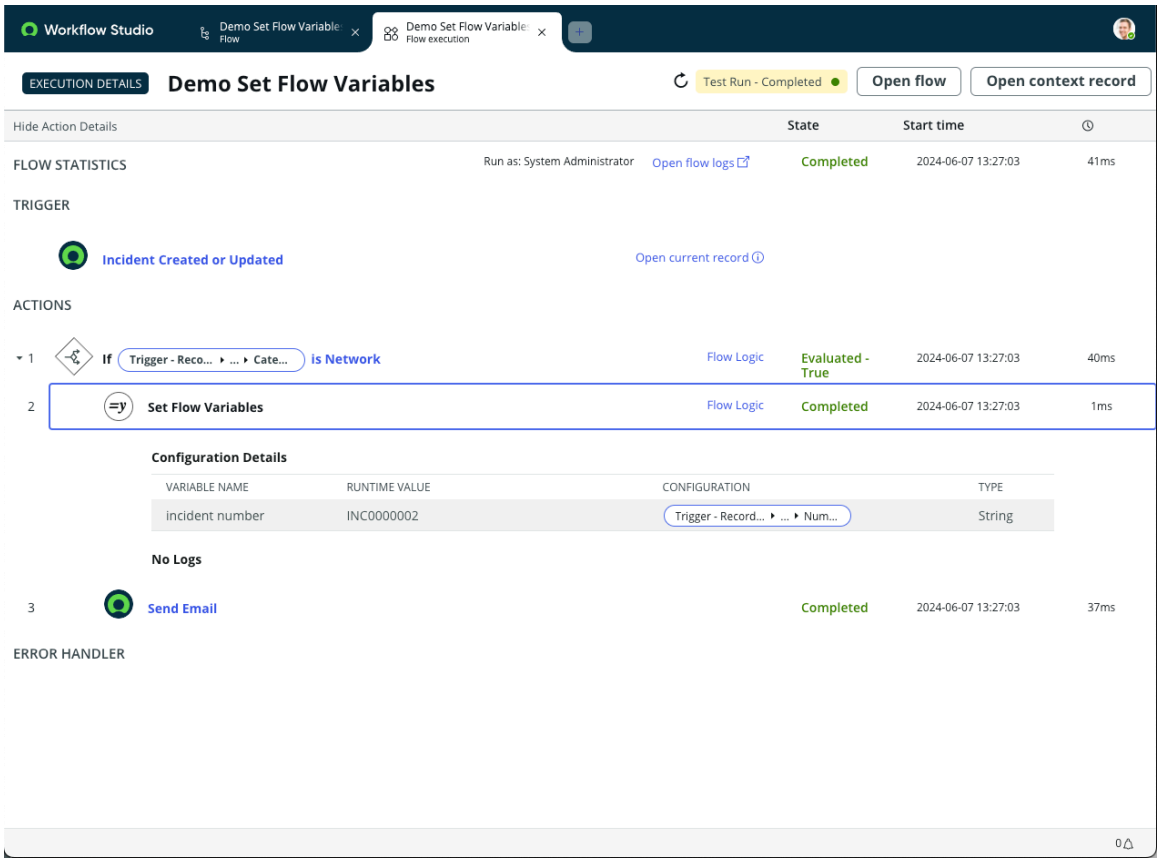
```
/*
**Access Flow/Action data using the fd_data object. Script must return a
 value.
**Order number is offset by +1 in Error Handling Section.
**Available options display upon pressing "." after fd_data
**example: var shortDesc = fd_data.trigger.current.short_description;
**return shortDesc;
*/
var incNumber = fd_data.trigger.current.number;
return incNumber;
```



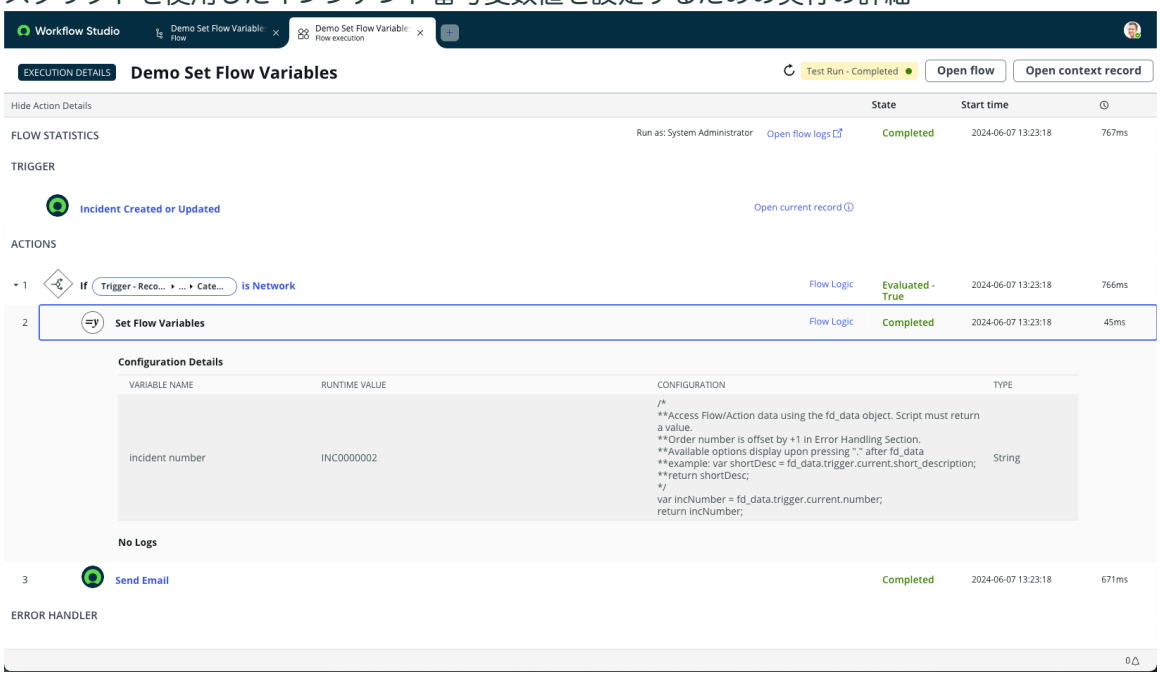
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

実行の詳細

インシデント番号変数値をデータピル値に設定するための実行の詳細



スクリプトを使用したインシデント番号変数値を設定するための実行の詳細



Skip Iteration フローロジック

If フローロジックの条件が満たされた場合に、フローロジックループの現在の反復をスキップします。リスト内の次のアイテムを使用してフローロジックループの実行を続行します。このフローロジックは続行とも呼ばれます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

有効な Skip Iteration の配置

Skip Iteration フローロジックを追加できるのは、フローの特定の部分のみです。Skip Iteration フローロジックは、For Each フローロジックや Do the following until フローロジックなどの親のループフローロジックブロックの分岐内にある必要があります。さらに、フローロジックループは、反復をスキップするための一連の条件を定義する必要があります。Skip Iteration フローロジックは、Then 分岐内でのみ追加できます。

- If フローロジックブロックの Then 分岐
- Else If フローロジックブロックの Then 分岐
- Else フローロジックブロックの Then 分岐

入力

このフローロジックに入力はありません。

出力

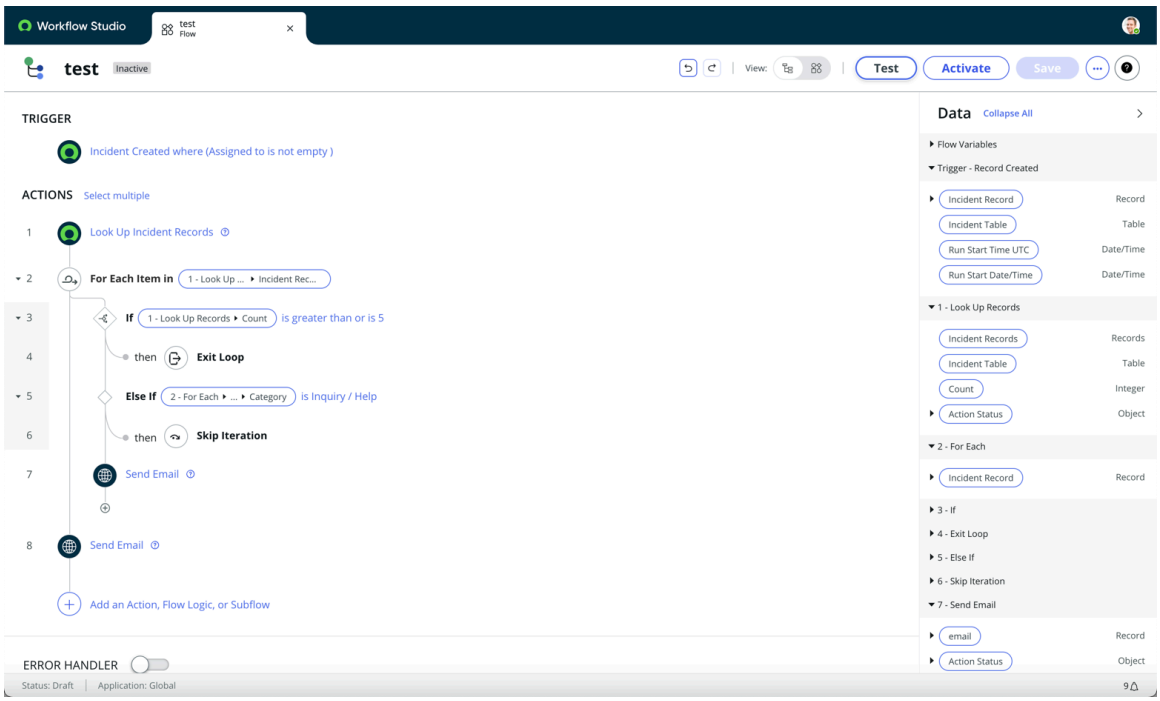
このフローロジックには出力はありません。

実行の詳細

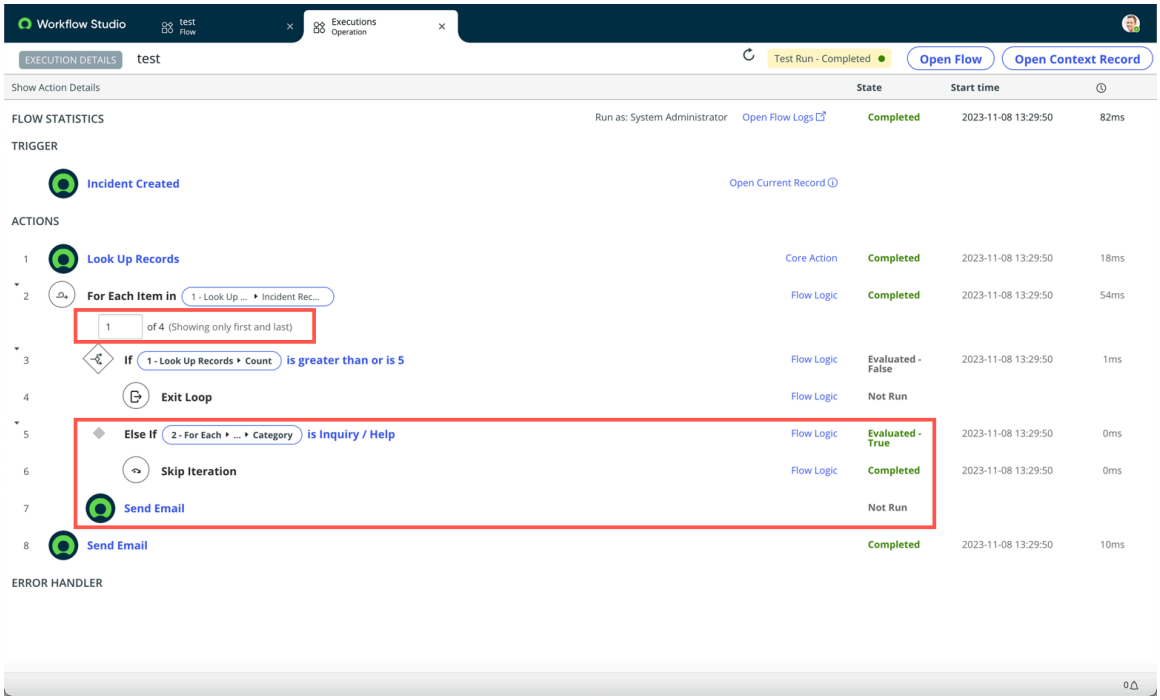
フローが反復をスキップすると、スキップされたアイテムの Skip Iteration フローロジックのステータスが [完了] になります。同じ For Each または Do the following until フローロジックループの後続のステップは、スキップされたアイテムのステータスが [未実行 (Not Run)] になります。

Example: インシデントが照会カテゴリの場合に反復をスキップする

この例では、フローによってユーザーにアサインされたインシデントのリストを生成します。フローでは、ユーザーにアサインされたインシデントごとにメールが送信されます。現在のインシデントレコードが [照会/ヘルプ] カテゴリにある場合、フローは現在のアイテムをスキップします。フローは、For Each フローロジックループ内の次のインシデントレコードから続行されます。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



この例では、最初のアイテムは、反復をスキップ条件を満たす [照会] カテゴリのインシデントです。フローでは、この反復の [メール送信] アクションは実行されません。

Try フローロジック

フローロジックブロック内でエラーが発生した場合でも、フローの実行を継続できるようにします。フローロジックブロック内のエラーに応じて一連のアクションを実行します。

入力

Try フローロジックにはフィールド入力がありません。代わりに、プラス (⊕) アイコンが表示され、一連のアクション、フローロジック、またはサブフローを追加して、実行とエラーの評価を試みることができます。Try ブロックには複数のアイテムを追加できます。エラーが発生すると、フローは、フローロジックブロックのエラーセクション内で、一連のアクション、フローロジック、またはサブフローを実行します。

出力

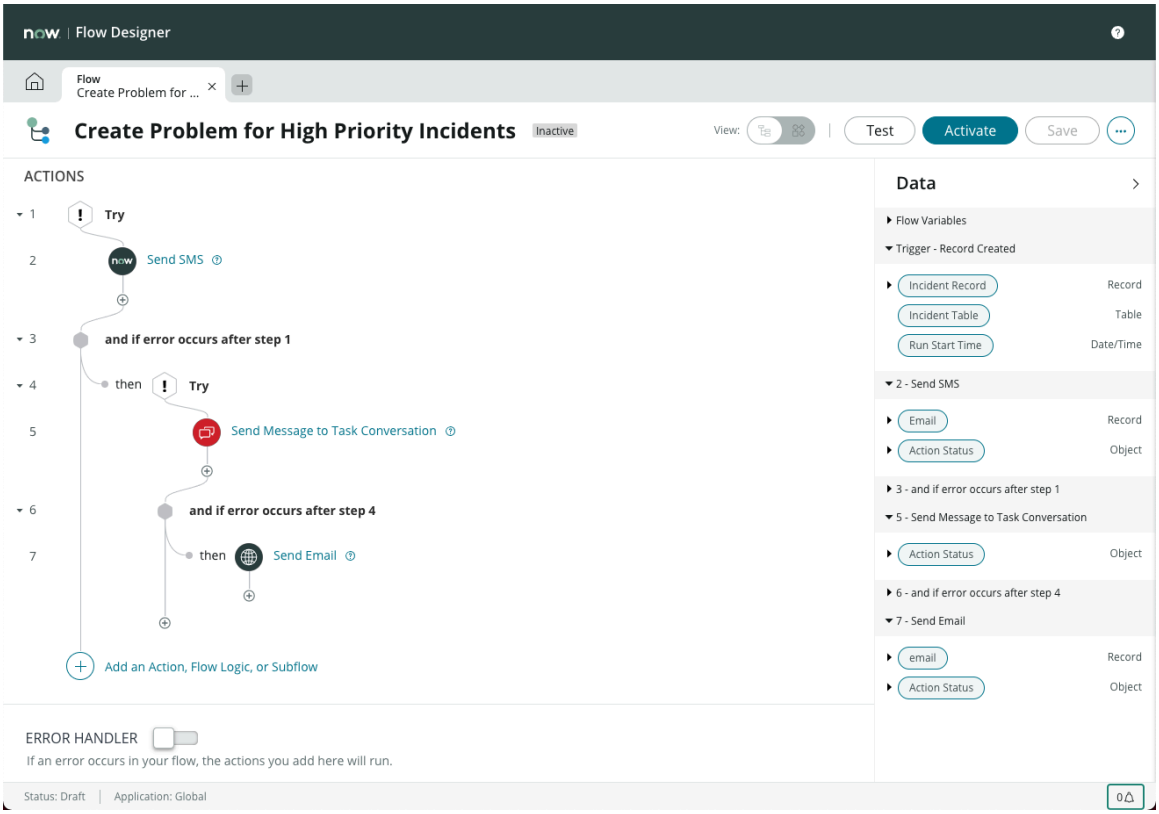
このフローロジックに出力はありませんが、Try ブロック内のアクション、フローロジック、およびサブフローには出力が含まれる可能性があります。Try フローロジックブロック内でエラーが発生すると、失敗したアクションは [完了 (エラーを取得)] のアクションステータスを返します。このアクションステータスを使用して、どのアイテムが失敗したかを判断し、Catch ブロックで条件付きロジックをビルドできます。たとえば、Try ブロックの [レコードを作成] アクションのステータスが [完了 (エラーを取得)] の場合、異なる値を持つ Catch ブロックで [レコードを作成] アクションを実行します。

Example: 最優先インシデントの問題レコードを作成

この例では、最優先のネットワークインシデントが作成された場合に、フローは、考えられる 3 つの通知のいずれかを送信しようとします。フローは最初に SMS メッセージの送信を試行し、それが失敗した場合はコネクトメッセージの送信を試行します。コネクトメッセージが失敗すると、メールが送信されます。

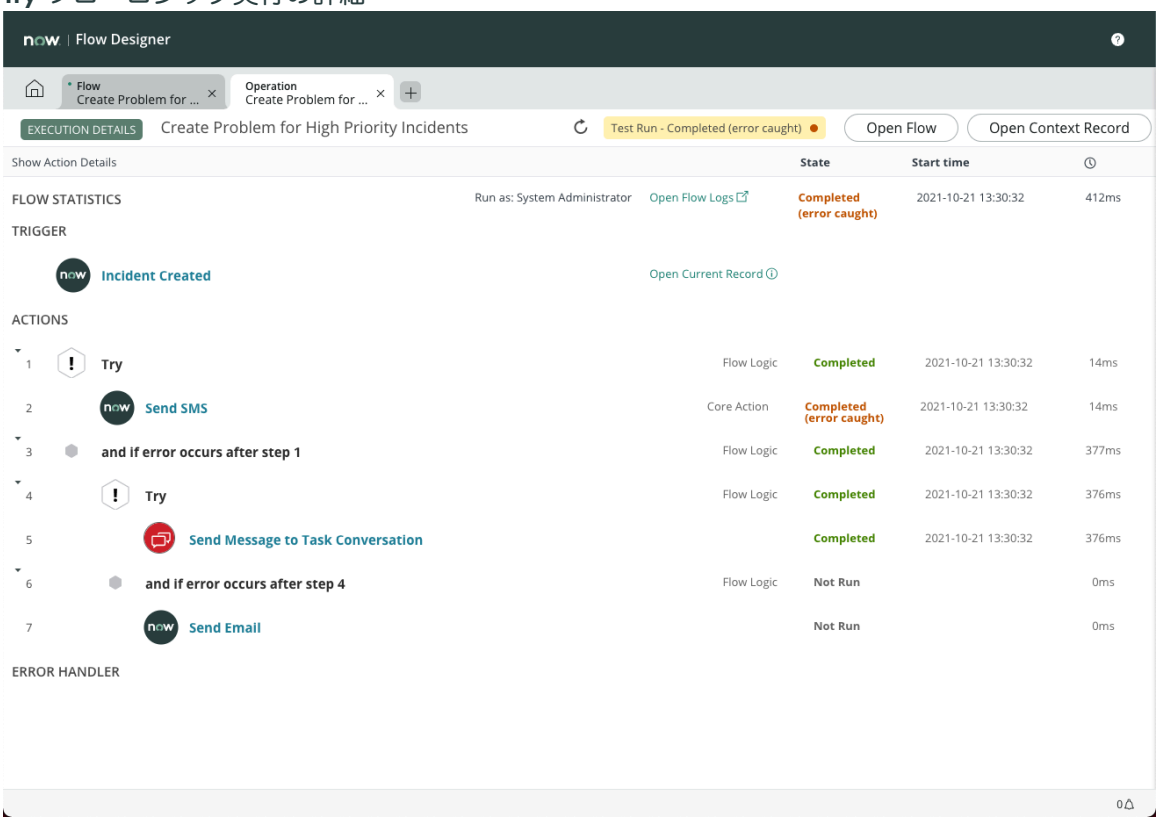
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

複数の通知方法のフローロジックを試行



実行の詳細

Try フローロジック実行の詳細



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローとアクションのエラー処理に関するリソース

アクションとフローでエラー処理を使用する方法の詳細については、ServiceNow® Community の投稿「Flow and Action Error Handling Overview: Why and how to test for errors - Workflow Automation CoE (フローとアクションのエラー処理について：エラーをテストする理由と方法 - ワークフローオートメーション CoE)」を参照してください。

- 「Flow and Action Error Handling Level 1: Retry and Action Error Evaluation - Workflow Automation CoE (フローとアクションのエラー処理レベル 1：再試行とアクションのエラー評価 - ワークフローオートメーション CoE)」
- 「Flow and Action Error Handling Level 2: Flow Logic - Workflow Automation CoE (フローとアクションのエラー処理レベル 2：フローロジック - ワークフローオートメーション CoE)」
- 「Flow and Action Error Handling Level 3: Flow Error Handling - Workflow Automation CoE (フローとアクションのエラー処理レベル 3：フローのエラー処理 - ワークフローオートメーション CoE)」
- 「Flow and Action Error Handling Level 4: Good Practices and Summary - Workflow Automation CoE (フローとアクションのエラー処理レベル 4：推奨プラクティスとまとめ - ワークフローオートメーション CoE)」

Wait for a duration フローロジック

自動化プロセス中に操作する時間をユーザーに与えたり、特定の日時まで操作の完了を待機するには、このフローロジックを使用します。。

入力

入力	説明
期間タイプ	• 明示的な期間：特定の時間 (5 分間など) 待ちます。 • 相対期間：選択した期間データピルまたは日付/時刻値から特定の時間 (フロー開始後 5 分など) 待ちます。 • パーセンテージ期間：フローロジックの開始から指定された終了時間までの一定割合の期間を入力して指定します。 **注:** パーセンテージ値は **0** ～ **100** のみで設定する必要があります。
待機	この値は手動で設定するか、データピルピッカー ( ) から期間データピルを選択して設定できます。たとえば、[レコードの検索] アクションを使用して SLA 定義レコードを選択し、[期間] フィールドの値を返します。 • 明示的な期間：待機期間 (時間、分、および秒)。 • 相対期間：特定の時間の前後の待機時間 (時間、分、秒)。[相対期間] を選択して、特定の日付からの待機期間を指定します。 **注:** 過去の日付は待機時間に影響しません。 最大 999 時間の待機値を入力できます。 **注:** 実際の待機時間は、インスタンスの処理時間に応じて変化することがあります。フローは、常にこのフィールドに指定した時間待機しますが、キューのその他の作業により、待機時間が延びることがあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力	説明
パーセンテージ待ち	フローロジックの開始から指定された終了時間までの期間のパーセンテージとして表される待期期間。終了時間に過去の日付を選択した場合、待機時間は **0** に設定されます。このフィールドは [期間タイプ] リストから [パーセンテージ期間] を選択すると表示されます。
次のスケジュール中	[スケジュールされた終了日時] の値を計算するために使用するスケジュールを、選択した待機期間から選択します。たとえば、平日の午前 8 時～午後 5 時のスケジュールの一部として 10 時間待機すると、フローは 1 営業日以上待機することになります。このフィールドを空白のままにすると、タイマーはスケジュールなしで実行されます。スケジュール作成の詳細については、「スケジュールの定義」を参照してください。

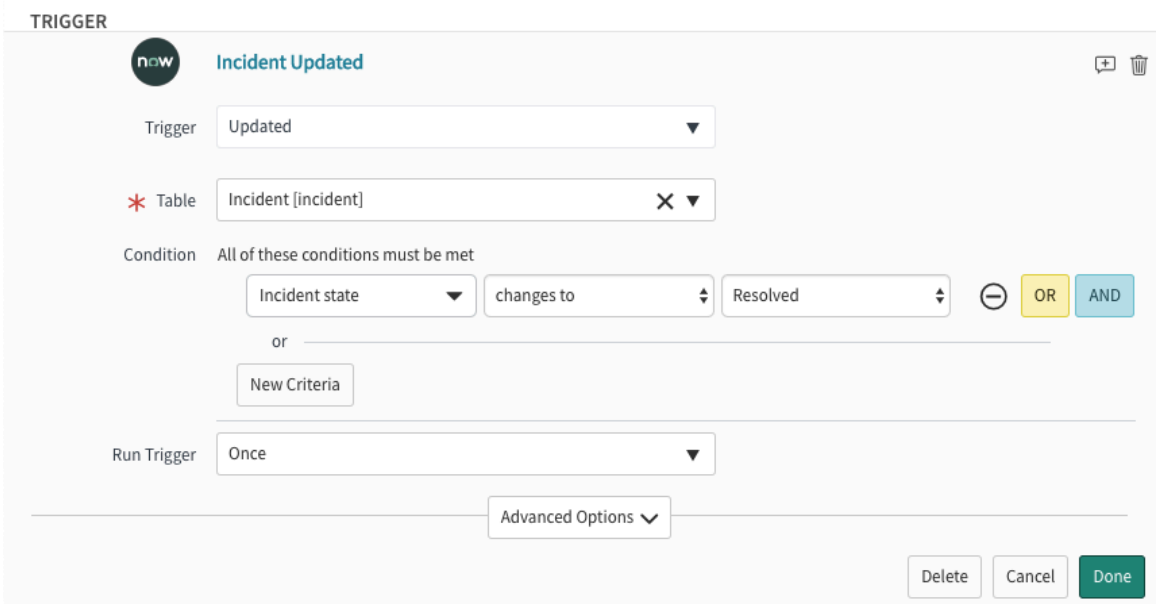
出力

出力	説明
期間	フローの合計実行時間 (ミリ秒単位) です。このデータピルは期間のフィールドにドラッグできます。
日付/時刻	フローの完了日時です。このデータピルは日付/時刻のフィールドにドラッグできます。

Example: 解決済みステータスが 10 日間続いている場合にインシデントをクローズする

この例では、インシデント状況が [解決済み] に変更されるとフローが開始されます。

フロートリガー

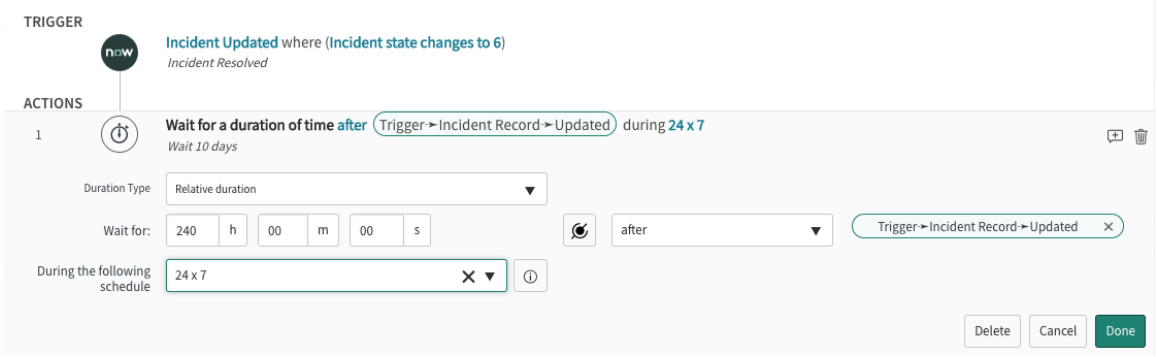


Example: レコードの最終更新後 10 日間待機する

この例では、フローはインシデントレコードが解決されてから 10 日間待機します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

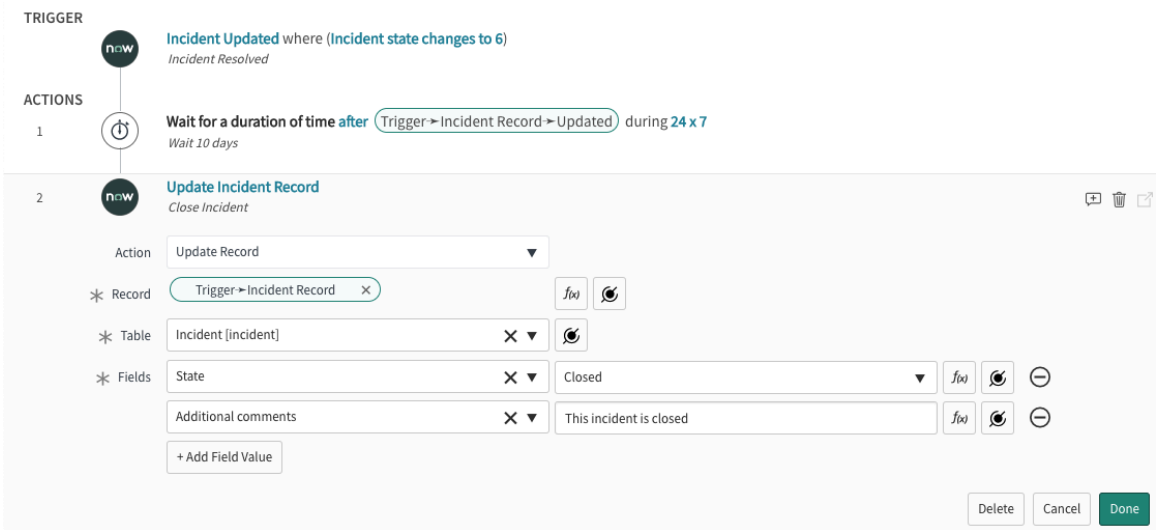
Wait for Duration フローロジック



Example: 10 日後にレコードを更新する

この例では、インシデントレコードが解決されてから 10 日後にフローがインシデントレコードをクローズします。

インシデントをクローズするために使用するアクション

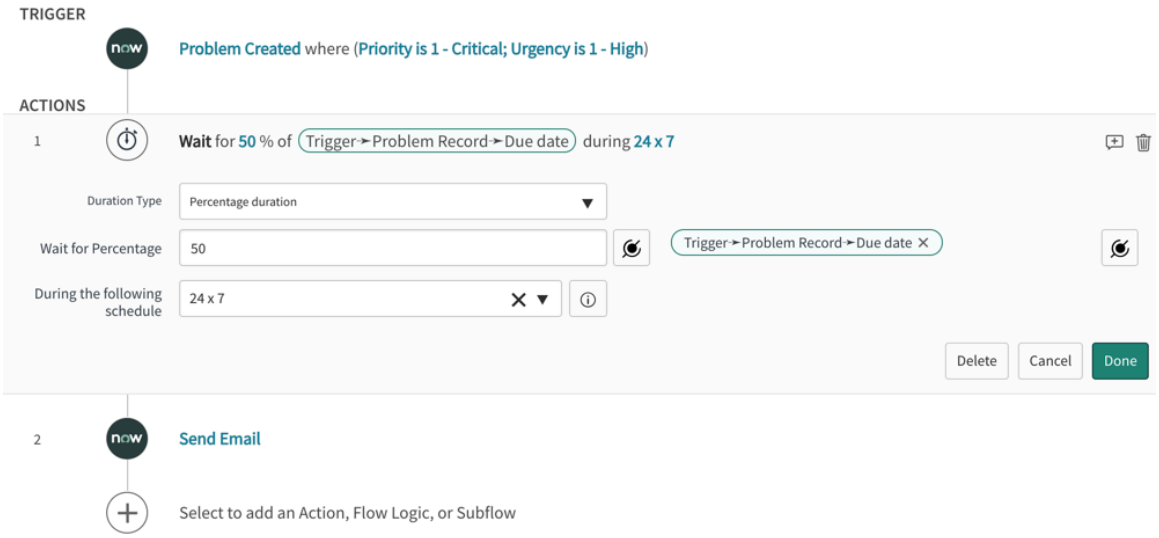


Example: フローロジックの開始から期日までの時間の 50% の期間待機する

この例では、重大な問題が作成され、問題レコードの作成から問題期日までの期間の 50% が経過すると、フローから関連するマネージャーに通知メールが送信されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Wait for percentage time duration フローロジック



相対期間タイプ

期間タイプが [相対期間] であるとき、このフローロジックは、最初に相対日時、次にスケジュール、最後に期間を評価します。過去に設定されたスケジュール、日付、および時刻は、待機時間に影響しません。次の表は、このシナリオでフローが待機時間を処理する方法の例です。

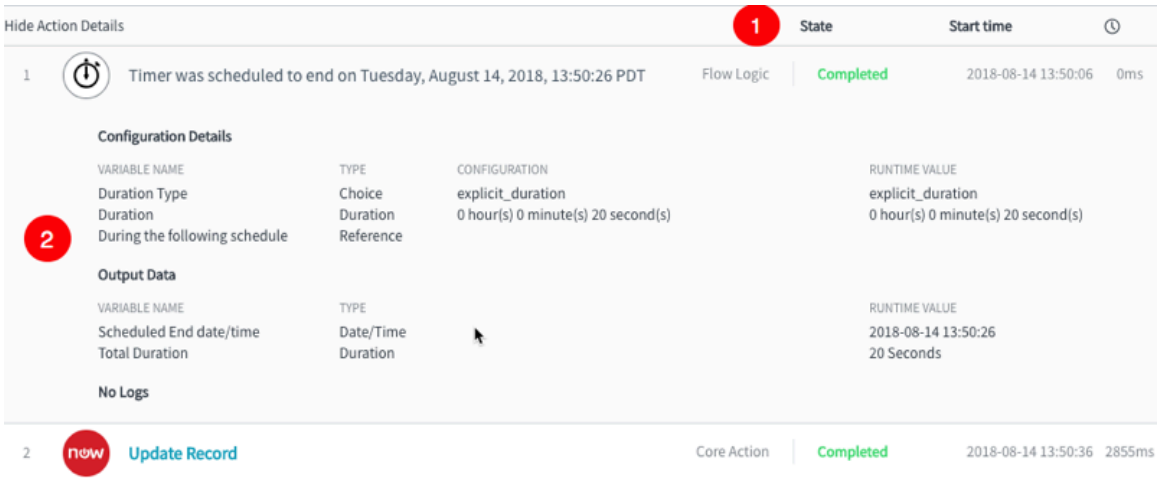
期間の設定	相対日時	スケジュール	効果
0 に設定	なし	なし	期間はすぐに終了します。
0 より大きい	過去の日付	なし	期間はすぐに終了します。
0 より大きい	後日	なし	フローは、その日時まで待機してから、その期間待機します。
0 より大きい	過去の日付	後日	フローはスケジュールを待機してから、その期間待機します。
0 より大きい	後日	過去の日付	フローは、その日時まで待機してから、その期間待機します。
0 より大きい	後日	後日	フローは、後日まで待機してからスケジュールを待機し、最後にその期間待機します。

タイマーは、選択したスケジュールの次のインスタンスを待機します。たとえば、月曜日から金曜日の午前 8 時から午後 5 時のスケジュールを設定して、タイマーが土曜日に開始される場合、タイマーは月曜日の午前 8 時まで待機してからスタートします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

実行の詳細

Wait for a duration フローロジックの実行の詳細



1. ヘッダーには、フローロジックの状態、開始時刻、ランタイムが表示されます。

   注: ヘッダーのランタイム値には、フローロジックの実行にかかる時間のみが表示され、フローで指定した待機時間は含まれません。

2. [構成詳細] セクションには、各変数のタイプ、構成、およびランタイム値など、フローで使用される変数に関する詳細が表示されます。

ワークフロースタジオ フロー統合

追加のサブスクリプションとスポークでワークフロースタジオフローの機能を拡張します。

Now Platform の統合

Now Platform の機能とアプリケーションに登録すると、ワークフロースタジオ のフローコンテンツが追加されます。

統合	利用可能なコンテンツ
App Engine Studio	• App Engine Studio からフローをビルドします。 • フローテンプレートからフローを作成します。
統合ハブ	• アクションデザイナー から統合ステップにアクセスします。 • 統合スポークをインストールします。
プロセスオートメーションデザイナー	• フローデザイナー からフローとアクションを呼び出します。 • フローを使用してプロセスデータを収集します。
ロボティックプロセスオートメーション (RPA) ハブ	Microsoft Windows システムでロボットを動かすフローをビルドします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローデザイナー のスポーク

スポークをインストールして、アプリケーション固有のコンテンツを フローデザイナー に追加します。

スポーク

スポークをインストールして、アプリケーション固有のコンテンツを フローデザイナー に追加します。

スポークは、特定のアプリケーションまたはレコードタイプ専用の フローデザイナー コンテンツが含まれるスコープ付きアプリケーションです。たとえば、**[ITSM** スポーク] には、[タスクの作成] アクションなど、タスクレコードの管理のためのアクションが含まれます。スポークは、親アプリケーションが有効化されたときに有効になります。たとえば、**[ITSM** スポーク] は、インシデント、問題、変更アプリケーションが有効化されたときに有効になります。開発者がスコープ付きアプリケーションに フローデザイナー コンテンツを追加する必要があるため、スポークを作成するにはアプリケーション開発に精通している必要があります。

利用可能なデフォルトのスポーク

スポーク	説明	プラグイン	一緒に含まれるもの
Benchmarks Spoke	読み取り専用のベンチマーク推奨事項エバリュエーター フローの読み取り専用アクションを提供します。	[com.sn_bm_client.spoke]	Benchmarks アプリケーション。
コネクトスポーク	会話の作成を自動化するアクション、会話にユーザーを追加するアクション、および会話にメッセージを送信するアクションを提供します。これらのアクションはコネクト API バージョン 3 以降で機能します。	[com.glide.connect_v3_flow_actions]	Now Platform
カスタマーサービススポーク	フローデザイナーがカスタマーサービス管理 (CSM) のビジネスプロセスを作成するときに使用するアクションを提供します。	[com.snc.customer_service.spoke]	カスタマーサービス管理 (CSM) アプリケーション
外部関連ファイルスポーク	外部関連ファイルスポークは、サードパーティシステムにファイルの情報を保存することで、情報を管理できるようにします。	[com.sn.external.files]	Now Platform
フィールドサービススポーク	フロー設計者がフィールドサービス管理 (FSM) のビジネスプロセスを作成するときに使用するアクションを提供します。	[com.snc.field_service.spoke]	フィールドサービス管理 アプリケーション

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

利用可能なデフォルトのスポーク (続く)

スポーク	説明	プラグイン	一緒に含まれるもの
ITSM スポーク	ITSM に関連するフローとアクションを提供します。ITSM アプリケーションスイートが必要です。	[com.snc.itsm.spoke]	IT Service Management アプリケーション
フローデザイナーの機械学習ソリューション	トレーニング済みの 予測インテリジェンス ソリューションから予測を行うアクションを提供します。	[com.snc.ml_flowdesigner]	予測インテリジェンス
ロボティックプロセス自動化 (RPA) Spoke	フローデザイナーが、有人自動化プロセスへのユーザーのアサイン、キューへの作業キューアイテムの追加、作業アイテムの更新、プロセスジョブと特定のプロセスジョブの実行状況のフェッチ、特定のボットプロセスのトリガー、および有人自動化プロセスからのユーザーのアサイン解除を行うための RPA アクションを提供します。	[com.sn_rpa_foundation]	ロボティックプロセスオートメーション (RPA) ハブ
Security Operations スポーク	フローデザイナーが セキュリティインシデントレスポンス フローテンプレートを管理するための Security Operations アクションを提供します。	[com.snc.secops.spoke]	セキュリティオペレーション アプリケーション
ビジュアルタスクボード (VTB) スポーク	フローデザイナーにボード、レーン、カード、ボードメンバー、およびアサイニーを管理するための VTB アクションを提供します。	[com.glide.ui.vtb.ah]	Now Platform

統合ハブ サブスクリプションでは追加のスポークを使用できます。統合ハブ のスポークのリストを表示するには、「統合ハブ利用可能なスポーク」を参照してください。統合ハブ のサブスクリプションの要求の詳細については、「要求統合ハブ」を参照してください。

Benchmarks Spoke

読み取り専用のベンチマーク推奨事項エバリュエーター フローの読み取り専用アクションを提供します。

Benchmarks スポークは、Benchmarks アプリケーションの推奨事項機能向けに作成されています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション	説明	アクションの入力	アクションの出力
推奨事項アクティビティ レコードを作成	推奨事項アクティビティ レコードを作成または更新します。	推奨事項	適用外
推奨事項の評価を削除	指定した月の推奨事項の評価を削除します。	アクティビティ レコード	適用外
推奨事項の条件を評価	推奨事項で指定された条件とスクリプトを評価します。	• レコード数 • しきい値 • 方向 • 推奨事項 • アクティビティ レコード	• 結果 • スコア

コネクトスポーク

会話の作成を自動化するアクション、会話にユーザーを追加するアクション、および会話にメッセージを送信するアクションを提供します。これらのアクションはコネクト API バージョン 3 以降で機能します。

アクション	説明
タスクの会話にグループ ユーザーを追加	タスクの会話を作成し、グループのすべてのユーザーを追加します。
タスクの会話にユーザーを追加	タスクの会話を作成し、ユーザーを追加します。
タスクの会話にメッセージを送信	タスクの会話のすべてのユーザーにメッセージを送信します。

カスタマーサービススポーク

フローデザイナーがカスタマーサービス管理 (CSM) のビジネスプロセスを作成するときに使用するアクションを提供します。カスタマーサービス管理 (CSM) [com.sn_customerservice] プラグインが必要です。

アクション	説明
ケースを取得	ケース番号を使用してケースレコードを取得します。複数のレコードが見つかった場合、最初のレコードのみが返されます。
ケースを作成	1 つまたは複数の属性を使用してケースを作成します。このアクションは、ケース テーブル (sn_customerservice_case) の構造を反映し、ケース テーブルに存在するフィールドを公開します。
クイックケースを作成	顧客、説明、チャネル、優先度、カテゴリの各属性を使用してケースを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション	説明
ケースにタスクを作成	ケースタスクを作成し、オプションでケースに関連付けます。
ケースを更新	ケース参照および更新するフィールドを提供することにより、ケースを更新します。
ケースをアサイン	一致ルールを使用してケースをアサインしますこのアクションを使用するには、ケースをリソース (アサイン先グループ、エージェント) と照合するための一致ルールを最初に定義する必要があります。
ケースをエスカレート	ケースのエスカレーションを要求します。このアクションはエスカレーションを自動的には承認しません。承認は、選択したエスカレーションテンプレートに基づいて行われます。
アカウントをエスカレート	アカウントのエスカレーションを要求します。このアクションはエスカレーションを自動的には承認しません。承認は、選択したエスカレーションテンプレートに基づいて行われます。
タスクに作業メモを追加	タスクまたはタスク拡張オブジェクト (ケースまたはケースタスクなど) に作業メモを追加します。
タスクにコメントを追加	タスクまたはタスク拡張オブジェクト (ケースまたはケースタスクなど) にコメントを追加します。

外部関連ファイルスポーク

外部関連ファイルスポークは、サードパーティシステムにファイルの情報を保存することで、情報を管理できるようにします。

外部関連ファイルスポークテーブル

テーブル	説明
外部プロバイダー [sn_ext_files_spoke_provider]	外部プロバイダーに関する情報が格納されます。例：Box サービス、DocuSign サービス
外部関連ファイル [sn_external_related_files]	サードパーティシステムのファイルに関するメタデータ情報が格納されます。このテーブルは拡張可能です。 **注:** テーブルを拡張する場合は、必ずスコープ対象のアプリケーションのデータ分離を実行してください。 • 特定のサードパーティシステムのファイルのメタデータ情報を格納するには、外部関連ファイルテーブルへの参照フィールドを含む列を持つテーブルを作成します。参照フィールドの詳細については、「参照フィールドタイプ」を参照してください。 • 特定の ServiceNow テーブルと外部関連ファイルテーブル間の関係を確立するには、定義済みの関連リストを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

外部関連ファイルスポークアクション

アクション	説明
外部ファイルレコードを作成	外部関連ファイルテーブルにレコードを作成します。
外部ファイルレコードを更新	外部関連ファイルテーブルのレコードを更新します。
外部ファイルレコードを削除	外部関連ファイルテーブルのレコードを削除します。

外部関連ファイルスポークユーザーロール

ロール	説明
sn_ext_files_spoke.doc_reader	外部関連ファイルテーブルおよび外部プロバイダーテーブルのレコードを読み取ります。
sn_ext_files_spoke.file_admin	• 外部関連ファイルテーブルのレコードを読み取り、更新、および削除します。 • 外部プロバイダーテーブルのレコードを読み取ります。
sn_ext_files_spoke.provider_admin	外部プロバイダーテーブルのレコードを読み取り、更新、および削除します。

フィールドサービススポーク

フロー設計者がフィールドサービス管理 (FSM) のビジネスプロセスを作成するときに使用するアクションを提供します。

アクション	説明
作業指示書を取得	作業指示書番号を使用して作業指示書レコードを取得します。複数のレコードが見つかった場合、最初のレコードのみが返されます。
作業指示書を作成	作業指示書を作成し、オプションでケースに関連付けます。
作業指示書を更新	作業指示参照および更新するフィールドを提供することにより、作業指示を更新します。
作業指示書タスクを取得	作業指示書タスク番号を使用して作業指示書タスクレコードを取得します。複数のレコードが見つかった場合、最初のレコードのみが返されます。
作業指示書タスクを作成	作業指示書タスクを作成し、オプションで作業指示に関連付けます。
作業指示書タスクを更新	作業指示タスク参照および更新するフィールドを提供することにより、作業指示タスクを更新します。
タスクに作業メモを追加	タスクまたはタスク拡張オブジェクト (作業指示書または作業指示書タスクなど) に作業メモを追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ITSM スポーク

ITSM に関連するフローとアクションを提供します。ITSM アプリケーションスイートが必要です。

アクション	説明
コメントを追加	タスクレコードにコメントを追加します。
作業メモを追加	タスクレコードに作業メモを追加します。
変更承認ポリシーの適用 (Apply Change Approval Policy)	変更承認ポリシーレコードに従ってユーザーとグループの承認を作成することで、変更要求の承認プロセスを制御します。複数のアクションをフローで使用し、そのフローの各アクションで同じまたは異なる変更承認ポリシーを参照することができます。
CI サポート グループにインシデントをアサイン	インシデント レコードを更新して CI サポート グループにアサインします。
フローからの変更タスクのキャンセル (Cancel Change Tasks from Flow)	フローから作成された、関連するすべての処理待ちでオープンな変更タスクをキャンセルします。
ユーザー承認の変更の確認 (Check Change for User Approval)	指定されたユーザーが既に変更要求を承認しているかどうかを確認します。
要求に応じてカタログ タスクを作成	要求レコードからカタログ タスクレコードを作成します。
要求アイテムのカタログ タスクを作成	要求アイテム レコードからカタログ タスクレコードを作成します。
変更要求で変更タスクを作成	変更要求レコードから変更タスクレコードを作成します。
緊急変更要求を作成	緊急タイプの変更要求レコードを作成します。
インシデントから緊急要求を作成	インシデント レコードから緊急タイプの変更要求レコードを作成します。
[インシデントの作成]	インシデント レコードを作成します。
インシデントでインシデント タスクを作成	インシデント レコードからインシデント タスクレコードを作成します。
インシデントから通常の変更要求を作成	インシデント レコードから通常タイプの変更要求レコードを作成します。
機能停止の作成	構成アイテムの cmdb_ci 機能停止レコードを作成します。[タスク] フィールドは、ソースがタスクレコードである場合にのみ入力されます。ソースがアラートレコードなどのタスク以外のレコードの場合、[タスク] フィールドは空です。
インシデントから問題を作成	インシデント レコードから問題レコードを作成します。
要求を作成	要求レコードを作成します。
標準的な変更要求を作成	標準タイプの変更要求レコードを作成します。詳細については、「IT Service Management」を参照してください。

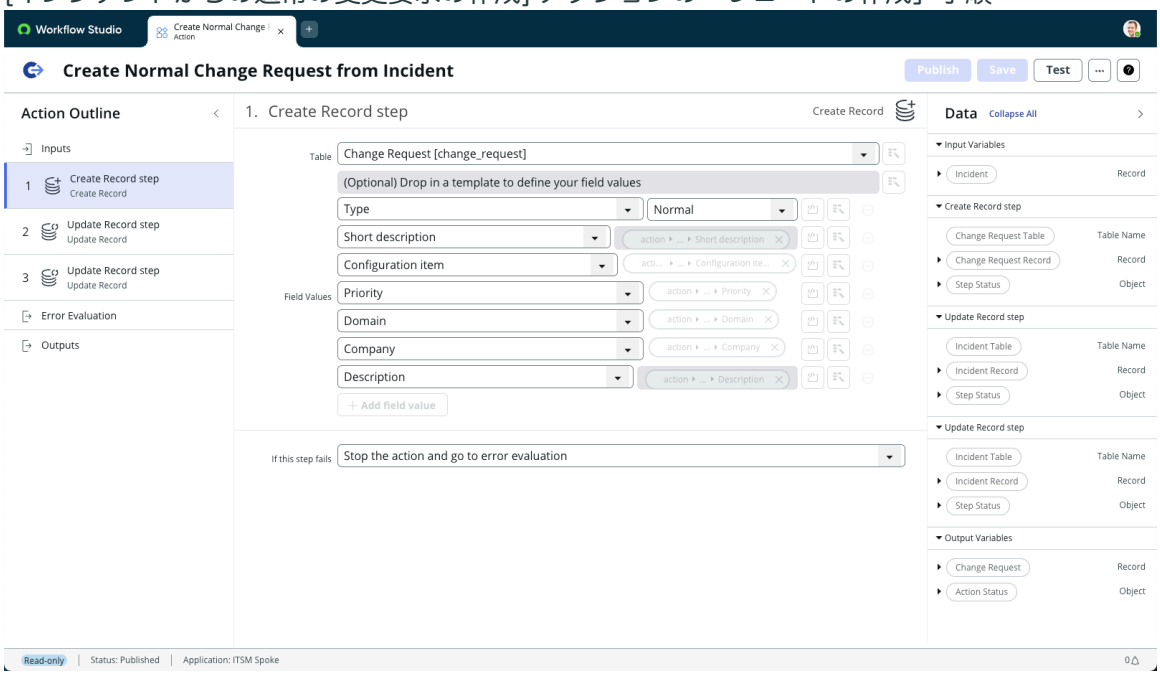
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション	説明
タスクの作成	タスク テーブル レコードの子タスクレコードを作成します。たとえば、インシデント レコードのインシデント タスクレコードを作成します。
タスクと機能停止の関係性を作成 (Create Task Outage Relationship)	cmdb_ci 機能停止レコードとタスクレコードがアクションへの入力であるタスクと機能停止の関係性レコードを作成します。
インシデントから標準的な変更要求を作成	インシデント レコードから標準タイプの変更要求レコードを作成します。
変更承認を無視 (Disregard Change Approvals)	関連する承認待ちをすべて不要に設定します。
受託者を更新	タスク テーブル レコードの [アサイン先] フィールドを更新します。
アサイン先グループを更新	タスク テーブル レコードの [アサイン先グループ] フィールドを更新します。

データマッピング

admin ロール、flow_designer ロール、または action_designer ロールを持つユーザーは、ITSM スポークアクションの手順を開いて表示できます。ITSM データタイプ間のデータマッピングを表示するには、ITSM スポークアクションの「レコードの作成」手順を確認します。ほとんどの ITSM スポークデータは、タスク [task] テーブルの拡張に格納されます。これは、多くのデータタイプが共通のフィールドを共有していることを意味します。

[インシデントからの通常の変更要求の作成] アクションの「レコードの作成」手順



たとえば、[インシデントからの通常の変更要求の作成] アクションでは、[簡単な説明]、[構成アイテム (CI)]、[優先度]、[ドメイン]、[会社]、および [説明] に共通のタスクテーブルフィールドを使用して、インシデントから変更要求を作成します。

フローデザイナーの機械学習ソリューション

トレーニング済みの 予測インテリジェンス ソリューションから予測を行うアクションを提供します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

予測インテリジェンス サブスクリプション

このスポークには 予測インテリジェンス のサブスクリプションが必要です。詳細については、「予測インテリジェンス のインストール」を参照してください。

主な機能

フローデザイナーの予測インテリジェンス は、インスタンスで機械学習ソリューションを作成するために使用できる 4 つのフレームワークを提供します。各フレームワークは、データの結果を予測、推奨、および整理するためにシステムをトレーニングする、異なるソリューションタイプを提供します。

- 分類フレームワーク
- 類似性フレームワーク
- クラスタリングフレームワーク
- 回帰フレームワーク

スポークの要件

- ソリューションをトレーニングする sharedservice.worker ユーザー
- 予測インテリジェンス フレームワーク用の事前トレーニング済みソリューション

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- 予測インテリジェンス (com.glide.platform_ml) プラグイン
- 予測インテリジェンスレポート生成 (com.glide.platform_ml_pa) プラグイン

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

フローデザイナーの予測インテリジェンス は、スクリプトを記述または管理する必要なく、既存のモデルを使用して予測を行うアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

アクション	説明
分類バッチ予測	複数の入力レコードを使用して、アクティブな分類ソリューション定義から予測値を取得します。
分類予測	単一の入力レコードを使用して、アクティブな分類ソリューション定義から予測値を取得します。
PI 信頼性チェック	予測インテリジェンスの出力値 (数値) をユーザーが指定した数値と比較します。例：予測の信頼性の値を指定した値と比較します。
回帰バッチ予測	複数の入力レコードを使用して、アクティブな回帰ソリューション定義から予測値を取得します。
回帰予測	単一の入力レコードを使用して、アクティブな回帰ソリューション定義から予測値を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション	説明
類似性予測	類似性ソリューション定義でユーザーが指定したテーブルに存在する類似レコードを取得します。

スポークユーザーロール

フローデザイナーの予測インテリジェンス には、データへのアクセスを制御する次のユーザーロールが用意されています。

ユーザーロール	説明
ml_admin	すべての 予測インテリジェンス 機能へのアクセスを許可します。

関連情報

ML アクションによりフローデザイナーで予測インテリジェンスを使用する

ロボティックプロセス自動化 (RPA) Spoke

ロボティックプロセス自動化 では、フローデザイナーは、アクションを使用して、有人自動化プロセスへのユーザーのアサインとアサイン解除、キューへの作業アイテムの追加、作業アイテムの更新、プロセスジョブのフェッチ、プロセスジョブのステータスの取得、およびボットプロセスのトリガーを行うことができます。

RPA アクション

アクション	説明	アクションの入力	アクションの出力
キューに作業アイテムを追加アクション	RPA ハブ アプリケーションの指定されたキューに作業アイテムを追加し、作業アイテム ID を返します。	• キュー名：レコード • 名前：文字列 • コンテンツ：文字列 • タイプ：文字列 • 優先度：String.Choice • ステージ：文字列 • **SLA**：日付/時刻 [コンテンツ] フィールド (要求コンテンツと応答コンテンツ) の上限は 8000 文字です。 関連付けられた作業キューフォームの [作業アイテム名が機密かどうか **(Is Work Item Name Sensitive)**] チェックボックスがオンになっている場合、[要求コンテンツ] フィールドのデータは暗号化されます。暗号化された機密データは作業アイテムに保存されるため、RPA デスクトップデザ	• アクションステータス：オブジェクト • **WorkItemID**：GUID • **IsNameExists**：ブール • ステータス：文字列 • メッセージ：文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA アクション (続く)

アクション	説明	アクションの入力	アクションの出力
		インスタジオまたはロボットに渡すことができます。	
有人自動化プロセスにユーザーをアサインするアクション	有人自動化プロセスにユーザーをアサインします。	• プロセス名：レコード • ユーザー名：レコード	• アクションステータス：オブジェクト • ステータス：文字列 • メッセージ：文字列
アテンド型ロボット にユーザーをアサインするアクション	アテンド型ロボットにユーザーをアサインします。	ユーザー名：レコード	• アクションステータス：オブジェクト • ステータス：文字列 • メッセージ：文字列
ボットプロセスアクションのライフサイクルステージステータスを変更	廃棄されていないボットプロセスのライフサイクルステージステータスを変更します。 ボットプロセスが [ビルド] ライフサイクルステージステータスの場合、必要なロールがあれば [公開済み] ステータスに更新できますが、[メンテナンス中] に更新することはできません。 ボットプロセスが [公開済み] ライフサイクルステージステータスの場合、必要なロールがあれば [メンテナンス中] ステータスに更新することもその逆に更新することもできます。	• プロセス名：レコード • ライフサイクルステージステータス：選択肢	• 結果：文字列 • メッセージ：文字列 • アクションステータス：オブジェクト
作成されたジョブをフェッチするアクション	RPA ハブ でプロセスジョブをフェッチします。	• プロセス番号：文字列 • ロボット：アレイ[文字列]	• アクションステータス：オブジェクト • 結果：文字列 • ジョブ：アレイ[文字列]

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA アクション (続く)

アクション	説明	アクションの入力	アクションの出力
			• **startedRobots**：アレイ[文字列] • **pendingRobots**：アレイ[文字列]
実行状況をフェッチするアクション	RPA ハブ で特定のプロセスジョブの実行状況をフェッチします。	プロセスジョブ番号：文字列	• アクションステータス：オブジェクト • **ProcessJob**：オブジェクト ◦ プロセス名：文字列 ◦ ロボット名：文字列 ◦ ステータス：文字列 ◦ 開始日時：日付/時刻 ◦ 完了日時：日付/時刻 ◦ メッセージ：文字列 • ステータス：文字列 • メッセージ：文字列
作業アイテムのステータスをフェッチするアクション	特定の作業キューアイテムのステータスを非同期でフェッチします。	作業キューアイテム **ID**：GUID	• アクションステータス：オブジェクト ◦ コード：整数 ◦ メッセージ：文字列 • 作業アイテム：オブジェクト ◦ **sysId**：文字列 ◦ 名前：文字列 ◦ タイプ：文字列 ◦ 優先度：文字列 ◦ ステータス：文字列 ◦ **lockedBy**：文字列 ◦ **additionalComments**：文字列 ◦ **requestContent**：文字列 ◦ **responseContent**：文字列 ◦ **deferredTill**：日付/時刻 ◦ **sla**：日付/時刻 ◦ **created**：日付/時刻

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA アクション (続く)

アクション	説明	アクションの入力	アクションの出力
			◦ **startedOn**：日付/時刻 ◦ **completedOn**：日付/時刻 ◦ **lastStartedTime**：日付/時刻 • ステータス：文字列 • メッセージ：文字列
プロセスの開始アクション	RPA ハブで特定のボットプロセス をトリガーし、ステータスを返します。	• プロセス名：レコード • ロボット：アレイ[文字列] ロボットプールがボットプロセスにアサインされている場合、このフィールドのエントリを無視します。 [処理の開始] フローデザイナー アクションを呼び出すと、ライフサイクルステージステータスが [メンテナンス中] のロボットは、失敗したロボットとして扱われます。	• アクションステータス：オブジェクト • 結果：文字列 • ロボット：アレイ[文字列] • プロセス：文字列 • 失敗したロボット：アレイ[オブジェクト]
プロセスの停止アクション	ボットプロセスを停止します。グレースフルストップが有効になっている場合、このアクションはボットプロセスを緩やかに停止します。	• プロセス名：レコード • ロボット：アレイ[文字列] • グレースフルストップを待機 **(Wait For Graceful Stop)**：True / False このチェックボックスがオンになっている場合、ボットプロセスは適切に停止する必要があります。 ボットプロセスの停止の詳細については、「RPA ハブ での無人のボットプロセスの停止」を参照してください。 グレースフルストップの詳細については、「RPA ハブ でのグレースフルストップ機能の使用」を参照してください。	• 結果：文字列 • アクションステータス：オブジェクト • ロボット：アレイ[文字列] • プロセス：文字列 • 失敗したロボット：アレイ[オブジェクト]

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA アクション (続く)

アクション	説明	アクションの入力	アクションの出力
		ロボットプールの詳細については、「RPA ハブ のロボットプール」を参照してください。	
有人自動化プロセスからユーザーのアサインを解除するアクション	有人自動化プロセスからユーザーのアサインを解除します。	• プロセス名：レコード • ユーザー名：レコード	• ステータス：文字列 • メッセージ：文字列 • アクションステータス：オブジェクト
アテンド型ロボット からユーザーのアサインを解除するアクション	アテンド型ロボットからユーザーのアサインを解除し、アテンド型ロボットを廃止します。	ユーザー名：レコード	• アクションステータス：オブジェクト • ステータス：文字列 • メッセージ：文字列
プロセスパラメーターの更新アクション	プロセスパラメーターの [値] フィールドを更新します。	• プロセス：レコード • パラメーター名：文字列 • 値：文字列	• ステータス：文字列 • アクションステータス：オブジェクト • メッセージ：文字列
作業アイテムアクションの更新	作業キューアイテムを更新します。	• キュー名：レコード • **WorkItemID**：文字列 • ステージ：文字列 • **DefferedTill**：日付/時刻 • 名前：文字列 • 優先度：選択肢 • ステータス：選択肢 • 要求コンテンツ：文字列 • タイプ：文字列 • 注釈：文字列 • **SLA**：日付/時刻 • 応答コンテンツ：文字列 [要求コンテンツ] と [応答コンテンツ] フィールドの上限は 8000 文字です。 関連付けられた作業キューフォームの [作業アイテム名が機密かどうか **(Is Work**	• **IsNameExist**：True/False • ステータス：文字列 • メッセージ：文字列 • アクションステータス：オブジェクト

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA アクション (続く)

アクション	説明	アクションの入力	アクションの出力
		Item Name Sensitive)] チェックボックスがオンになっている場合、[要求コンテンツ] フィールドのデータは暗号化されます。暗号化された機密データは作業アイテムに保存されるため、RPA デスクトップデザインスタジオまたはロボットに渡すことができます。	
パッケージバージョン のハッシュコードの検証	RPA ハブ でパッケージバージョンのハッシュコードを検証し、手動でアップロードされた自動化 zip ファイルのハッシュコードを関連するパッケージバージョンレコードで検証します。 ハッシュコードの検証の詳細については、「RPA ハブ でのパッケージバージョンのハッシュコードの確認」を参照してください。	パッケージバージョン：レコード	• アクションステータス：オブジェクト • メッセージ：文字列 • **isAttachmentValid**：True/False

RPA サブフロー

サブフロー	説明	サブフローの入力	サブフローの出力
パッケージバージョンの添付ファイルのインポートサブフロー	パッケージバージョン用にパッケージバージョンの添付ファイルを自動的にインポートします。パッケージの添付ファイル (自動化 zip ファイル) を下位 (非本番) 環境から上位 (本番) 環境に自動で移行するためにインポートします。 RPA ハブ でのパッケージバージョンの添付ファイルのインポートの詳細については、「RPA ハブ でのパッケージバージョンの添付ファイルのインポート」を参照してください。	• メール：メール • パッケージバージョン：レコード	添付ファイルが正常にアップロードされた後、または添付ファイルのアップロード中にエラーが発生した場合は、この添付ファイルのインポートアクションを実行したユーザーにメール通知が送信されます (入力として電子メールが提供されている場合)。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA サブフロー (続く)

サブフロー	説明	サブフローの入力	サブフローの出力
プロセスサブフローを開始	RPA ハブで特定のボットプロセス をトリガーします。プロセスジョブの詳細を返します。	• プロセス名：レコード • ロボット：アレイ[文字列] ロボットプールがボットプロセスにアサインされている場合、このフィールドのエントリを無視します。 プロセスジョブが [実行中] ステータスでない場合、プロセスジョブに関連付けられているロボットは、[プロセスの開始] サブフロー出力で [失敗] として扱われます。	• 失敗したロボット：アレイ[オブジェクト] • 停止したロボット：アレイ[文字列] • 処理待ちのロボット：アレイ[文字列] • プロセスジョブ：アレイ[文字列] • 結果：文字列 • メッセージ：文字列
プロセスサブフローを停止	RPA ハブ で特定のボットプロセスをトリガーして停止します 。ロボットの詳細とプロセスジョブのステータスを返します。グレースフルストップが有効になっている場合、このサブフローはボットプロセスを適切に停止します。	• グレースフルストップ **(Graceful Stop)**：True / False • プロセス名：レコード • ロボット：アレイ[文字列]	• 失敗したロボット：アレイ[オブジェクト] • 停止したロボット：アレイ[文字列] • 処理待ちのロボット：アレイ[文字列] • プロセスジョブ：アレイ[文字列] • メッセージ：文字列 • 結果：文字列

Security Operations スポーク

フローデザイナーが セキュリティインシデントレスポンス フローテンプレートを管理するための Security Operations アクションを提供します。

セキュリティインシデントレスポンスフローテンプレート

セキュリティインシデントレスポンスフローテンプレートは、ワークフロースタジオを使用して作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: 各フローは、セキュリティインシデントの [カテゴリ] が設定または変更されたときにトリガーされます。

テンプレート	説明
セキュリティインシデント - 機密データエクスポージャーフローテンプレート	機密データの暴露の処理用に設計された一連のタスクを実行します。
セキュリティインシデント - サービス拒否フローテンプレート	サービス拒否 (DoS) 攻撃の処理用に設計された一連のタスクを実行します。
セキュリティインシデント - 失われた機器フローテンプレート	紛失した機器の処理用に設計された一連のタスクを実行します。
セキュリティインシデント - 悪意のあるソフトウェアフローテンプレート	ネットワーク上の悪意のあるソフトウェアの処理用に設計された一連のタスクを実行します。
セキュリティインシデント - フィッシングフローテンプレート	ネットワーク上のスピアフィッシング メールの処理用に設計された一連のタスクを実行します。
セキュリティインシデント - ポリシー違反フローテンプレート	セキュリティポリシー違反の処理用に設計された一連のタスクを実行します。
セキュリティインシデント - 偵察フローテンプレート	ネットワーク上の偵察の処理用に設計された一連のタスクを実行します。
セキュリティインシデント - 不正サーバーまたはサービスフローテンプレート	ネットワークに影響を与える不正なサーバーやサービスからの活動の処理用に設計された一連のタスクを実行します。
セキュリティインシデント - スパムフローテンプレート	ネットワーク上のスパムメールの処理用に設計された一連のタスクを実行します。
セキュリティインシデント - 不正アクセスフローテンプレート	ネットワークへの不正アクセスの処理用に設計された一連のタスクを実行します。
セキュリティインシデント - Web/BBS の改ざんフローテンプレート	使用しているいずれかの BBS または Web サイトを標的とした破壊行為の処理用に設計された一連のタスクを実行します。

ビジュアルタスクボード (VTB) スポーク

フローデザイナーがボード、レーン、カード、ボードメンバー、およびアサイニーを管理するための VTB アクションを提供します。

ボード管理アクション

アクション	説明	アクションの入力	アクションの出力
フリーフォームの VTB アクションを作成	任意のタスク タイプに対応するフリーフォームの VTB を作成します。デフォルトのレーンは、To Do、実行中、完了です。これらのレーンは、レーンを追加、レーンの名前を変更、レーンを並べ替え、およびレーンを削除の各アク	• 名前 • ボードオーナー • デフォルトビュー • ラベルの表示 • ピッカーの表示 • 背景色	ボードレコード

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ボード管理アクション (続く)

アクション	説明	アクションの入力	アクションの出力
	ションを使用して変更できます。		
柔軟な VTB アクションを作成	単一のタスクテーブルにバインドされた柔軟な VTB を作成します。デフォルトのレーンは、To Do、実行中、完了です。これらのレーンは、レーンを追加、レーンの名前を変更、レーンを並べ替え、およびレーンを削除の各アクションを使用して変更できます。	• 名前 • タスクテーブル • フィルター • ボードオーナー • デフォルトビュー • ラベルの表示 • ピッカーの表示 • 背景色	ボードレコード
ガイド付き VTB アクションを作成	レーンの派生元であるフィールドとともに単一のタスクテーブルにバインドされたデータ駆動型 VTB を作成します。	• 名前 • タスクテーブル • ランドフィールド • フィルター • ボードオーナー • デフォルトビュー • ラベルの表示 • ピッカーの表示 • 背景色	ボードレコード
VTB メンバーアクションを追加	VTB にユーザーを追加します。VTB のメンバーだけがボードにアクセスできます。どの VTB メンバーも他のメンバーを削除できます。	• ボードレコード • ユーザーレコード	適用外
VTB メンバーアクションを削除	VTB からユーザーを削除します。VTB のメンバーだけがボードにアクセスできます。どの VTB メンバーも他のメンバーを削除できます。	• ボードレコード • ユーザーレコード	適用外

レーン管理アクション

アクション	説明	アクションステップ	状況
VTB レーンを追加	フリーフォームまたは柔軟な VTB にレーンを追加します。このアクションは、設定されたフィールドに基づく固定レーンに制約されているガイ	• ボードレコード • レーン名	VTB レーンレコード

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レーン管理アクション (続く)

アクション	説明	アクションステップ	状況
	ド付きボードには適用されません。		
VTB レーンの名前を変更	フリーフォームまたは柔軟な VTB の既存のレーンの名前を変更します。	• レーンレコード • 新規レーン名	適用外
VTB レーンを並べ替え	任意の VTB のレーンを並べ替えます。	• レーンレコード • 新規レーン名	適用外
VTB レーンを削除	フリーフォームまたは柔軟な VTB から既存のレーンを削除します。	レーンレコード	適用外

カード管理アクション

フロー/アクション	説明	アクションステップ	状況
VTB カードを作成	フリーフォームボードにタスクの VTB カードを作成します。	• レーンレコード • タスクレコード	カードレコード
VTBカードをアサイン	VTB カードにユーザーをアサインします。	• カードレコード • ユーザーレコード	適用外
VTB カードを移動	VTB カードをあるレーンから別のレーンに移動します。 **注:** 柔軟なボードでは、「レコードを更新」アクションを使用して、基本タスクの状況を変更します。ガイド付きボードでは、このアクションにより、カードに関連付けられたタスクのフィールドが変更されます。	• カードレコード • レーンレコード	適用外
VTB カードから受託者を削除	カードから受託者を削除します。	カードレコード	適用外

関連情報

ビジュアルタスクボード

ワークフロースタジオ フローシステムプロパティ

フローの処理方法を設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これらのプロパティはフローデザイナーで利用可能です。

フローデザイナーのシステムプロパティを設定するには、[プロセス自動化] > [プロパティ]に移動するか、システムプロパティ [sys_properties] テーブルに移動します。

フローデザイナーのプロパティ

プロパティ	説明
データを取得するときに返されるレコードの最大数 sn_flow_designer.action_picker_limit	ルックアップアクションまたはステップが返すことができるレコードの最大数を指定します。フローデザイナー はこの制限を超えるレコードを無視します。 • タイプ：整数 • デフォルト値：1000 • 場所：[プロセス自動化] > [プロパティ] • その他の情報： アーキテクチャの概要
True に設定してステージ列に期間を表示する com.glide.hub.flow_engine.stage_display.show_duration	ステージを持つフローに期間を表示するかどうかを指定します。 • タイプ：true | false • デフォルト値：true • 場所：[プロセス自動化] > [プロパティ] • その他の情報： フローおよびサブフローのステージ
フローデザイナーおよびアクションデザイナーで、選択ユーザーが入力値を入力するスクリプトを作成するためのオプションを許可します。 sn_flow_designer.input_scripts_enabled	入力値を計算するインラインスクリプトを書き込む権限を制御します。 • タイプ：true | false • デフォルト値：true • 場所：[プロセス自動化] > [プロパティ] • その他の情報： インラインスクリプト
フローログに複製するシステムログエントリーのログレベルを指定します。指定したレベル以上のログエントリーのみが複製されます。 com.glide.hub.flow_engine.listener_trace.threshold	フローデザイナーがシステムログエントリーをフローログに複製するために必要となるしきい値を指定します。これらのメッセージは、フロー実行の出力に応じて Now Platform によって生成されます。たとえば、フローレコード操作によってトリガーされたビジネスルールによって生成されたメッセージなどです。指定したレベル以上のログエントリーのみが複製されます。次の選択肢があります。 なし システムログエントリはフローログに複製されません。 DEBUG

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローデザイナーのプロパティ (続く)

プロパティ	説明
	Now Platform によって生成されたすべてのメッセージ (情報メッセージ、警告、エラーを含む) が複製されます。このオプションは、最も低いログレベルです。 INFO Now Platform によって生成された情報メッセージ、警告、エラーメッセージが複製されます。 警告 Now Platform によって生成された警告とエラーの両方が複製されます。 ERROR Now Platform によって生成されたエラーのみが複製されます。このオプションは、最も高いログレベルです。 • タイプ：選択 • デフォルト値：ERROR • 場所：[プロセス自動化] > [プロパティ]
com.glide.hub.flow_engine.log_level	sys_flow_log テーブルに書き込むためにフローデザイナー実行エンジンによって生成されるメッセージのレベルを指定します。これらのメッセージは、フローエンジンがフローのアクションとフローロジックを実行するときに生成されます。たとえば、[レコードを作成] アクションを実行して生成されたメッセージなどです。指定したレベル以上のログエントリのみが書き込まれます。次の選択肢があります。 DEBUG フローエンジンによって生成されたすべてのメッセージ (情報メッセージ、警告、エラーを含む) がログされます。このオプションは、最も低いログレベルです。 INFO フローエンジンによって生成された情報メッセージ、警告、エラーがログされます。 警告

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローデザイナーのプロパティ (続く)

プロパティ	説明
	フローエンジンによって生成された警告とエラーの両方がログされます。 ERROR フローエンジンによって生成されたエラーのみがログされます。このオプションは、最も高いログレベルです。 ログレベルは、ログメッセージが sys_flow_log テーブルに追加された場合にどうするかを決定します。 • タイプ：選択 • デフォルト値：警告 • 場所：[プロセス自動化] > [プロパティ] • その他の情報： フロー実行の詳細
ループがフローデザイナーで実行する最大反復数です。 sn_flow_designer.max_iterations	ループが停止されるまでに実行可能な最大回数を指定します。ループは、この値を超えて反復すると実行を停止し、無限ループが防止されます。このプロパティは、Do the following until と Go back to フローロジックにのみ適用されます。 • タイプ：整数 • デフォルト値：1000 • 場所：[プロセス自動化] > [プロパティ] • その他の情報： アーキテクチャの概要 注: この値を変更しても、既に進行中のフローに適用されません。
システム ログでフロー エンジンのデバッグ メッセージを有効にします。 com.glide.hub.flow_engine.debug	システム ログへのフローデザイナーのデバッグ メッセージの記録を有効または無効にします。デバッグ メッセージにはすべて、先頭に フローデザイナー とうい文字列プリフィックスが付きます。 • タイプ：true | false • デフォルト値：false • 場所：[プロセス自動化] > [プロパティ] • その他の情報： アーキテクチャの概要
トランザクション中にフローまたはサブフローを間接的にトリガーできる回数	フローまたはサブフローで許される間接的な再帰の最大回数を指定します。この制限に達した後、フローデザイナーは、以降

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローデザイナーのプロパティ (続く)

プロパティ	説明
com.glide.hub.flow_engine.indirect_recursion_limit	の間接的な再帰からの呼び出しまたはトリガー条件の一致をすべて無視します。値を 1 以上の任意の整数に設定します。1 未満のプロパティ値は無視され、代わりに 1 回の制限が適用されます。間接的な再帰をすべて防ぐには、値を 1 に設定します。 • タイプ：整数 • デフォルト値：3 • 場所：[プロセス自動化] > [プロパティ] • その他の情報： アーキテクチャの概要
フローに許可されるアクションの最大数。 sn_flow_designer.max_actions	フローまたはサブフローに含めることができるアクションの最大数を指定します。最大アクション数に達した後、フローデザイナー ではさらにアクションを追加することができなくなります。最大アクション数を増やすとパフォーマンスに影響を及ぼすので注意してください。たとえば、実行されるアクションの数を増やした場合、フローが 1 時間より長く実行されないようにするデフォルトのトランザクション クォータ ルールと競合する可能性があります。 • タイプ：整数 • デフォルト値：50 • 場所：[プロセス自動化] > [プロパティ] • その他の情報： アーキテクチャの概要
アクションに許可される最大ステップ数。 sn_flow_designer.max_action_steps	アクションに含めることができる最大ステップ数を指定します。最大ステップ数に達した後、フローデザイナーではさらにステップを追加することができなくなります。最大ステップ数を増やすとパフォーマンスに影響を及ぼすので注意してください。たとえば、実行されるステップの数を増やした場合、フローが 1 時間より長く実行されないようにするデフォルトのトランザクション クォータ ルールと競合する可能性があります。 • タイプ：整数 • デフォルト値：20 • 場所：[プロセス自動化] > [プロパティ] • その他の情報： アーキテクチャの概要

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローデザイナーのプロパティ (続く)

プロパティ	説明
フローエンジンによって生成されたレポートデータのレベル。 com.snc.process_flow.reporting.level	フローデザイナー が実行の詳細を生成するタイミングと、詳細に含める情報を指定します。次のオプションが含まれます。 オフ フロー実行の詳細は生成されません。テストの実行時にのみ、実行の詳細が生成されます。 注: アクションまたはフローをテストすると、トレースレベルで実行の詳細が生成されます。 基本：ランタイム状況と期間のみ フロー、サブフロー、およびアクションが実行されるたびに、ランタイム実行の詳細が生成されます。これらの基本的なアイテムについて、ランタイムステータスと期間を確認できます。また、フロートリガー、サブフロー入力、サブフロー出力について、構成とランタイム値の確認もできます。 完全：アクションの構成とランタイム値 (デバッグのみ) フロー、サブフロー、アクションが実行されるたびに、構成とランタイム実行の詳細が生成されます。すべてのアイテムについて、ランタイムステータス、期間、入力値、および出力値を確認できます。カスタムアクションの場合は、ステップのランタイムステータス、期間、入力値、および出力値を確認できます。また、フロートリガー、サブフロー、アクション、およびカスタムアクションの一部になっているステップについて、構成値の確認もできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローデザイナーのプロパティ (続く)

プロパティ	説明
	重要: fd_read_operations_all ロールを持つユーザーのみが、フロー実行の詳細でレコード値などの構成およびランタイム情報を表示できます。このロールを持たないユーザーには、ステータスと期間に関する基本的な詳細のみが表示されます。 トレース：すべての値 (テストとサポートのみ) フロー、サブフロー、アクション、およびステップが実行されるたびに、構成とランタイム実行の詳細が生成されます。すべてのアイテムについて、ランタイムステータス、期間、入力値、および出力値を確認できます。また、フロートリガー、サブフロー、アクション、およびステップについて、構成値の確認もできます。 **重要:** fd_read_operations_all ロールを持つユーザーのみが、フロー実行の詳細でレコード値などの構成およびランタイム情報を表示できます。このロールを持たないユーザーには、ステータスと期間に関する基本的な詳細のみが表示されます。アクションまたはフローをテストすると、トレースレベルで実行の詳細が生成されます。 レポートレベルにより、フロー実行の詳細が生成された場合にどうするかが決まります。レポートがオフになっている場合にフローが実行されると、レポートレベルが後で変更されても、フローの実行の詳細は使用できません。レポートが有効な場合にフローが実行されると、レポートレベルが後で変更されても、そのフローの実行の詳細は常に使用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローデザイナーのプロパティ (続く)

プロパティ	説明
	• タイプ：選択 • デフォルト値：オフ • 場所：[プロセス自動化] > [プロパティ] • その他の情報： フロー実行の詳細
Do Until ループおよび For Each ループについてレポートする最近の反復の数です。 com.snc.process_flow.reporting.iteration.lastn	Xanadu リリースの時点で、このプロパティは削除されており、フロー実行の詳細でレポートする最近の反復の数を指定することはできなくなりました。デフォルトでは、すべてのフローループは、ループの最初と最後の反復の実行の詳細のみを保存します。ループのすべての反復についてレポートするには、ループ実行の詳細を収集するフローごとにフロー実行設定レコードを作成します。フロー実行設定の詳細については、「フロー実行の設定」を参照してください。 • タイプ：削除されたプロパティ • デフォルト値：最初と最後のループの反復のみ • 場所：プロパティページから削除されました • その他の情報： フロー実行の設定
フロー実行の詳細のステップ設定でランタイム値を切り捨てる com.snc.process_flow.reporting.serialized.val_size_limit	フロー実行の詳細に書き込む必要があるランタイム値のバイト数を指定します。ランタイム値の切り捨てを防ぐには、値をゼロ以下の整数に設定します。ランタイム値の切り捨てを防ぐと、追加のシステムリソースが必要となり、システムパフォーマンスが影響を受ける可能性があります。 • タイプ：整数 • デフォルト値：16384 • 場所：システム プロパティ [sys_properties] テーブル • その他の情報： フロー実行の詳細
アクションあたりの最大入力数 sn_flow_designer.max_action_vars	アクションに追加できる最大入力数を指定します。最大入力数に達すると、フローデザイナー ではさらに入力を追加することができなくなります。最大アクション入力数を増やすとパフォーマンスに影響するためご注意ください。たとえば、より多くのアクション入力を処理すると、アクションが 1 時間を超えて実行され、デフォルトのト

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローデザイナーのプロパティ (続く)

プロパティ	説明
	ランザクションクォータのルールによって停止するリスクがあります。 • タイプ：整数 • デフォルト値：20 • 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル
スクリプトステップあたりのスクリプト変数の最大数 sn_flow_designer.max_script_variables	スクリプトステップに追加できる入力変数および出力変数の最大数を指定します。最大数に達すると、フローデザイナー ではさらにスクリプト変数を追加することができなくなります。スクリプト変数の最大数を増やすとパフォーマンスに影響するためご注意ください。たとえば、より多くのスクリプト変数を処理すると、スクリプトステップが 1 時間を超えて実行され、デフォルトのトランザクションクォータのルールによって停止するリスクがあります。 • タイプ：整数 • デフォルト値：20 • 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル
[意思決定] フローロジックで許可される分岐の最大数 sn_flow_designer.max_decision_branches	[意思決定] フローロジックで [分岐を使用] オプションが選択されている場合に使用する 分岐の最大数を指定します。 • タイプ：整数 • デフォルト値： 100 • 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル
ユーザーがフロー変数を作成できるようにするオプション sn_flow_designer.flow_variables_enabled	ユーザーがフローのカスタム変数を作成できるようにするかどうかを指定します。 • タイプ：true | false • デフォルト値：true • 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル
人気のあるアクションの最大数	アクションピッカーに表示される、人気のあるアクションの最大数を指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローデザイナーのプロパティ (続く)

プロパティ	説明
sn_flow_designer.action_picker.popular_actions.max_number	• タイプ：整数 • デフォルト値：10 • 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル
人気のあるアクションの生成に使用する連続日数 sn_flow_designer.action_picker.popular_actions.last_num_of_days	人気のあるアクションの生成に使用する連続日数を指定します。たとえば、デフォルト値の 7 では、前週のアクション使用状況に基づいて、人気のあるアクションが生成されます。 • タイプ：整数 • デフォルト値：7 • 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル
com.glide.hub.flow.restricted_caller_access.track_flows_as_source	システムでフローおよびアクションに対する制限付きの申請者アクセス特権要求が生成されるようにします。フローおよびアクションのアクセス権限は、フローとアクションを呼び出すスクリプトインクルードおよびビジネスルールの既存のアクセス権限よりも優先されます。San Diego 以前のリリースからアップグレードされたインスタンスでは、このプロパティは非アクティブになります。フローおよびアクションに対してスクリプトベースのアクセス権限を引き続き使用する場合は、このプロパティを有効にしないでください。このプロパティを有効にするには、フローおよびアクションのアクセス権限を再生成して承認する必要があります。 • タイプ：true | false • デフォルト値：Tokyo 以降のリリースの場合は true です。San Diego 以前のリリースの場合は false です。 • 場所：システム プロパティ [sys_properties] テーブル • 詳細については、「制限付きの発信者アクセス特権の設定」を参照してください。
com.glide.cs.fdih.interactive.timeout	フローデザイナー 統合ハブ アクションワークフローがタイムアウトするまでの時間の長さ (秒単位) を指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローデザイナーのプロパティ (続く)

プロパティ	説明
	• タイプ：整数 • デフォルト値：120 • 場所：システム プロパティ [sys_properties] テーブル • 詳細：アクションワークフローのタイムアウトの指定。
com.glide.hub.pause_low_priority_flows_enabled	優先度の高いフローの実行待機中に、優先度の低いフローの一時停止を有効または無効にします。 • タイプ：true | false • デフォルト値：true • 場所：システム プロパティ [sys_properties] テーブル • 詳細：フローの優先順位
com.glide.hub.flow_engine.stage_display.show_approvers	ステージフィールドからステージにアサインされた承認者のリストを表示または非表示にします。値を true に設定すると、ステージにアサインされた承認者のリストが表示されます。値を false に設定すると、ステージにアサインされた承認者のリストが非表示になります。 • タイプ：true | false • デフォルト値：true • 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブルに追加 • その他の情報： フローおよびサブフローのステージ
com.glide.hub.flow_engine.stage_display.show_approvers_limit	ステージフィールドに表示する承認者の最大数を整数値で指定します。この値を 10 より大きく設定すると、リストビューでレンダリングエラーが発生するリスクがあります。1 つのレコードのステージフィールドが大きくなりすぎて、リスト内の他のレコードを表示できなくなることがあります。 • タイプ：整数 • デフォルト値： 5

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローデザイナーのプロパティ (続く)

プロパティ	説明
	• 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブルに追加 • その他の情報： フローおよびサブフローのステージ
com.glide.hub.flow.current_stage_status_on_cancel	フローがキャンセルされたときに現在実行中のステージに適用するステータスを指定します。次のオプションが含まれます。 • キャンセル • complete 現在のステージの後の残りのステージはすべて [キャンセル] ステータスに設定されます。たとえば、フローに 3 つのステージがあり、そのフローが現在第 1 ステージを実行しているとします。フローをキャンセルすると、ステージ 1 のステータスが [完了] に設定されます。ステージ 2 と 3 は [キャンセル] ステータスに設定されます。 • タイプ：文字列 • デフォルト値：完了 • 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブルに追加 • その他の情報： フローおよびサブフローのステージ
com.glide.hub.flow.approval.allow_inactive_entity	承認レコードを作成する非アクティブなエンティティのタイプを指定します。次のオプションが含まれます。 • 個々 • グループ • 個々、グループ • null [個々] オプションを使用して、グループのメンバーではない非アクティブなユーザーのユーザー承認レコードを作成します。このオプションでは、非アクティブなグループのグループ承認レコードも、グループメンバーのユーザー承認レコードも作成されません。 [グループ] オプションを使用して、非アクティブなグループのグループ承認レコードを作成します。このオプションでは、アク

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローデザイナーのプロパティ (続く)

プロパティ	説明
	ティブなユーザーレコードを持つグループメンバーの個々のユーザー承認レコードも作成されます。このオプションでは、非アクティブなユーザーレコードを持つグループメンバーの個々のユーザー承認レコードは作成されません。 [個々、グループ] オプションを使用して、非アクティブなユーザーのユーザー承認レコードと非アクティブなグループのグループ承認レコードを作成します。このオプションでは、アクティブなユーザーレコードを持つグループメンバーの個々のユーザー承認レコードも作成されます。非アクティブなグループメンバーは、ユーザー承認レコードを受け取りません。 null または空の値を使用すると、非アクティブなグループのグループ承認レコードの作成を防ぎ、非アクティブなユーザーのユーザー承認レコードの作成も防ぐことができます。 • タイプ：文字列 • デフォルト値：個々、グループ • 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブルに追加 • その他の情報： 「承認を求める」アクション
com.glide.hub.flow_api.default_execution_time	フロー API 呼び出しのデフォルトの実行期間をミリ秒単位で指定します。このプロパティを使用すると、スポークのフロー API 呼び出しの実行時間が長くなります。このプロパティの最大値は REST トランザクション割り当てによって制限されます。デフォルトでは、システムは 60 秒後に停止します。 • タイプ：整数 • デフォルト値：30000 (30 秒) • 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル • その他の情報： トランザクション割り当て

ワークフロースタジオ フロートリガータイプ

各トリガータイプで、フローを開始するタイミングと利用可能な初期データを定義します。トリガーには、レコード操作、日付、およびアプリケーション操作に対するものがあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レコード トリガー

レコードトリガーを使用して、レコードが作成または更新されたときにフローを開始します。

トリガー	説明
作成日時	特定のテーブルにレコードが作成されたときにフローを開始します。
更新日時	特定のテーブルでレコードが更新されたときにフローを開始します。フローを実行する時期を選択する必要があります。 • それぞれ一意の変更の場合：フローが現在実行中でも、非システムフィールドに対するすべての一意な更新に関するフローをトリガーします。 注: レコードに対するすべての変更の履歴が保存され、変更が一意であるかどうかが判断されます。たとえば、インシデントレコードの [状態] フィールドが [処理中] から [保留中] に変更されると、フローが実行可能になります。ただし [状態] フィールドが [処理中] に戻ると、フローは実行できません。 注: [それぞれ一意の変更の場合] を実行するレコードトリガーを持つフローは、非インタラクティブセッションで実行するときに再帰を生じる可能性があります。このタイプのフローがトリガーレコードに変更を加えると、変更がフロートリガー条件を満たし、再帰が生じます。 • **[1 回 (Once)]**：レコードの有効期間中に 1 回、フローをトリガーします。 • 現在実行されていない場合のみ：このレコードでフローが現在実行されていない場合に、一意のレコードの変更が発生するたびにフローをトリガーします。この動作は、以前のリリースにおける [常時 **(Always)]** と同じオプションです。 • [更新ごと **(For every update)]**：フローのコンテキストが既に実行されているか現在実行されているかに関係なく、レコードが更新されるたびにフローをトリガーします。
作成済みまたは更新済み	特定のテーブルでレコードが作成または更新されたときにフローを開始します。フローを実行する時期を選択する必要があります。 • それぞれ一意の変更の場合：フローが現在実行中でも、非システムフィールドに対するすべての一意な更新に関するフローをトリガーします。 注: レコードに対するすべての変更の履歴が保存され、変更が一意であるかどうかが判断されます。たとえば、インシデントレコードの [状態] フィールドが [処理中] から [保留中] に変更されると、フローが実行可能になります。ただし [状態] フィールドが [処理中] に戻ると、フローは実行できません。 注: [それぞれ一意の変更の場合] を実行するレコードトリガーを持つフローは、非インタラクティブセッションで実行するときに再帰を生じる可能性があります。このタイプのフローがトリガーレコードに変更を加えると、変更がフロートリガー条件を満たし、再帰が生じます。 • **[1 回 (Once)]**：レコードの有効期間中に 1 回、フローをトリガーします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

トリガー	説明
	• 現在実行されていない場合のみ：このレコードでフローが現在実行されていない場合に、一意のレコードの変更が発生するたびにフローをトリガーします。この動作は、以前のリリースにおける [常時 **(Always)**] と同じオプションです。 • [更新ごと **(For every update)**]：フローのコンテキストが既に実行されているか現在実行されているかに関係なく、レコードが更新されるたびにフローをトリガーします。

注: 承認アクションが含まれているフローでは、トリガーを一度だけ実行する必要があります。承認を更新して再送信する必要がある場合は、Go back to フローロジック を使用して再度承認を求めることを検討してください。

REST トリガー

REST トリガーを使用して、特定の REST API 要求の後にフローを開始します。

注: この機能には、統合ハブ Enterprise サブスクリプションが必要です。詳細については、「統合ハブ を要求する」を参照してください。

トリガー	説明
REST API - 非同期	受信 API 呼び出しからフローを開始するか、外部システムから Webhook を開始します。カスタムコードを記述または管理する必要なく、トリガー開始条件を構成します。 詳細については、「REST API トリガー」を参照してください。

スケジュールされたトリガー

スケジュールされたトリガーを使用して、特定の日時の後またはスケジュールされた期間で定期的にフローを開始します。スケジュールされたトリガーは、インスタンスのタイムゾーンを使用して、フローを開始するタイミングを決定します。

注: フローは非同期的に処理されるため、スケジュールされたトリガーを持つフローは、トリガー条件が満たされたときの正確な予定時刻に実行されないことがあります。たとえば、スケジュールされたフローが通常の営業時間内にトリガーされても、キュー内の他のイベントを処理しないとスケジュールされたフローを実行できないことがあります。

トリガー	説明
日次	毎日特定の時間にフローを開始します。
週次	毎週特定の時間にフローを開始します。
月次	毎月特定の時間にフローを開始します。
1 回実行	特定の時刻に 1 回フローを開始しますが、繰り返しません。過去の日付または時刻を選択した場合は、できるだけ早く実行されるようにフローがスケジュールされます。
繰り	ユーザーが定義した定期的な間隔でフローを開始します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

トリガー	説明
返し	

アプリケーション トリガー

アプリケーショントリガーを使用して、アプリケーション固有の条件が満たされたときにフローを開始します。

トリガー	説明
Kafka メッセージ	Kafka 環境のトピックにメッセージがあるときにフローを開始します。詳細については、「Kafka メッセージトリガーを使用したフローの作成」を参照してください。
メトリックベース	メトリックベース のトリガーが満たされたときにフローを開始します。メトリックベースアプリケーションが必要です。詳細については、「メトリックベース トリガーを使用してフローを作成する」を参照してください。
プロアクティブアナリティクス	プロアクティブアナリティクスの KPI スコアまたは KPI しきい値が満たされたときにフローを開始します。プロアクティブアナリティクスのパフォーマンスアナリティクスサブスクリプションが必要です。詳細については、「プロアクティブアナリティクストリガーを使用してフローを作成する」を参照してください。
サービスカタログ	サービスカタログ アイテム要求からフローを開始します。詳細については、「サービスカタログ トリガーを使用してフローを作成する」を参照してください。 **注:** サービスカタログ トリガーは、トリガー条件の一部としてカタログ変数をサポートしていません。代わりに、フローの本体でカタログ変数を取得または作成します。
SLA タスク	SLA 定義レコードからフローを開始します。詳細については、「SLA タスクトリガーを使用してフローを作成する」を参照してください。

受信メールトリガー

インスタンスがメールを受信したら、フローを開始します。

受信メールフローは、受信メールアクションよりも優先されます。受信メールトリガーを含むフローを作成する場合、メールは受信メールアクションによって処理される前に、最初に受信メールトリガーによって処理されます。

受信メールアクションでは、メールの添付ファイルの処理やメールのターゲットレコードの割り当てを完全に制御することはできません。受信メールトリガーを使用してフローを作成する場合は、[メール添付ファイルをレコードに移動] アクション および [レコードをメールに関連付け] アクション を使用してこれらのアクションを実行できます。メールの添付ファイルをより詳細に制御するために、[メールの添付ファイルを検索] アクション を使用してデータピルとして特定の添付ファイルにアクセスすることもできます。

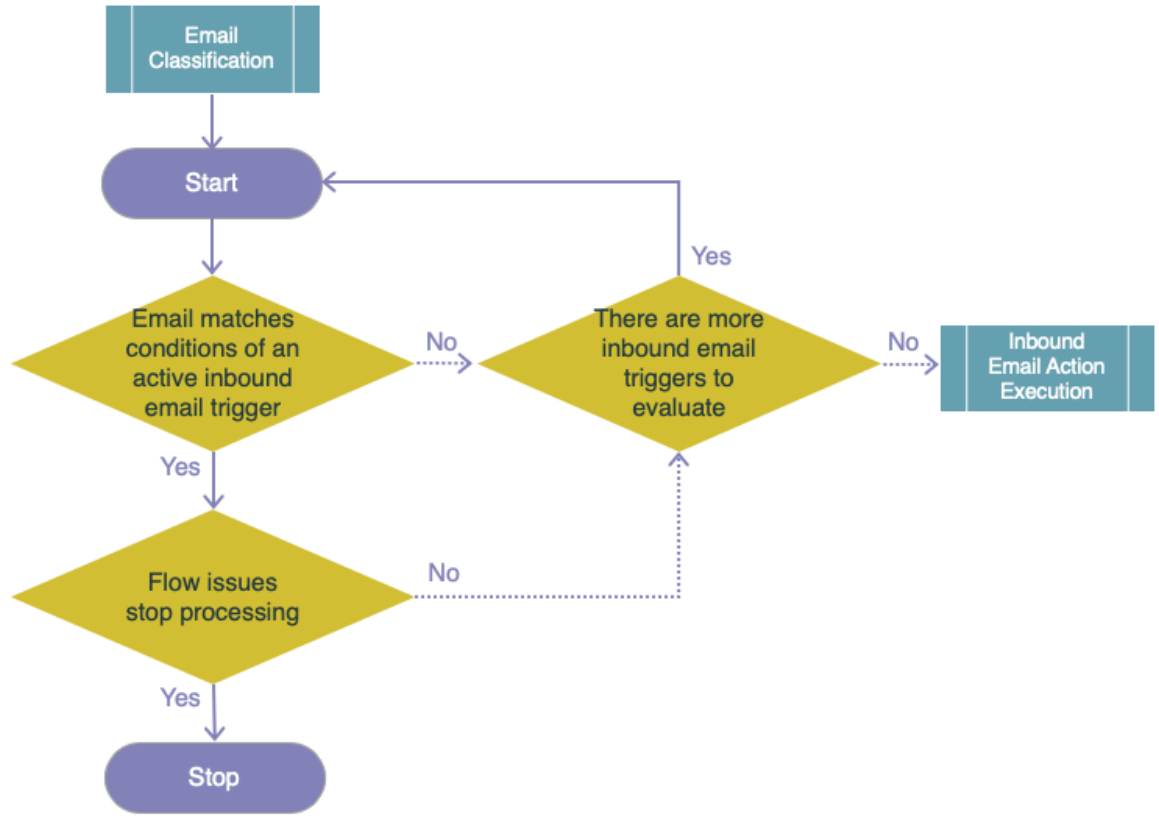
複数の受信メールアクションで受信メールを処理することはできますが、デフォルトでは複数のフローで受信メールを処理することはできません。追加の構成が必要です。受信メールアクションの処理を停止する方法については、「受信メールアクション順序の指定」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

受信メールで複数のフローを実行する方法の詳細については、「複数のトリガーによる受信メールの処理の許可」を参照してください。

次の図は、受信メールのトリガーによって受信メールがどのように処理されるかを示しています。メールが返信、転送、または新規メールとして分類されると、システムはメールをアクティブな受信メールトリガーと照合しようとします。メールが受信メールトリガーの条件を満たす場合、フローが実行されます。フローの問題が処理を停止した場合、メールの処理は終了します。フローが処理の停止を発行しない場合、システムはさらに受信メールトリガーの条件を評価します。評価できる受信メールトリガーがない場合、システムは代わりにメールをアクティブな受信メールアクションと照合しようとします。

受信メールトリガーを使用したメールの処理



重要: 受信メールフローでは、メールの送信者をセッションを開始するユーザーとして使用します。システムが送信者を認識しない場合、受信メールフローはゲストユーザーとして実行されます。セッションを開始するユーザーが受信メールフローを実行するように設定すると、フローのアクションがユーザーアクセス制御によって制限されます。何らかの理由でセッションを開始するユーザーに権限昇格が必要な場合は、受信メールフローから必要なロールで実行されるサブフローを呼び出します。 受信メールフローのアクセス制御をテストするには、典型的な受信メールユーザーを代理操作してフローを手動でトリガーします。

スポークのトリガー

スポークには、サードパーティのアプリケーションから開始する条件付きおよびイベント駆動型の外部トリガーまたは Webhook を含めることができます。Webhook は、フローにデータを提供するトリガーとして機能します。たとえば、サードパーティの問題追跡アプリケーションで P1 レベルの問題を作成すると、ServiceNow インスタンス内のインシデントデータベースレコードが更新されます。このフローを実装するには、次の手順に従い ます。

1. フローの設定
2. 外部トリガーエンドポイントの設定。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細オプション

[詳細オプション] セクションで、フローの開始に必要なユーザーセッション要件を指定します。

フローを実行する時期

フローをトリガーできるセッションのタイプ、特定のユーザーによってトリガーされたときにフローを実行するかどうか、およびフローをトリガーできるテーブルを決定します。

インタラクティブセッションドロップダウンメニューのオプション

オプション	説明
非インタラクティブ セッションに対してのみ実行	非インタラクティブセッションでのみトリガーされるフローです。「非インタラクティブセッション」を参照してください。
ユーザー インタラクティブ セッションに対してのみ実行	インタラクティブセッションでのみトリガーされるフローです。
インタラクティブ セッションおよび非インタラクティブ セッション両方に対して実行	すべてのセッションでトリガーされるフローです。

ユーザードロップダウンメニューのオプション

オプション	説明
次のユーザーによってトリガされた場合は実行されない	選択したユーザーのリストではトリガーされないフローです。ユーザーをリストに追加するには、[ユーザーを追加] アイコン () を選択します。
次のユーザーによってトリガーされた場合のみ実行	選択したユーザーのリストでのみトリガーされるフローです。ユーザーをリストに追加するには、[ユーザーを追加] アイコン () を選択します。
任意のユーザーに対して実行	任意のユーザーで実行されるフローです。

テーブルドロップダウンメニューのオプション

オプション	説明
現在のテーブルでのみ実行	選択したテーブルに対してのみトリガーされるフローです。
現在のテーブルおよび拡張テーブルで実行	選択したテーブルおよび任意の拡張テーブルに対してトリガーされるフローです。

フローを実行する場所

フローをバックグラウンドで実行するか、現在のセッションで実行するかを決定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
バックグラウンドでフローを実行 (デフォルト)	バックグラウンドで非同期的に実行されるフローです。このオプションは即時更新を必要としないフローに使用し、他のシステムプロセスを同時に実行できるようにします。
フォアグラウンドでフローを実行	現在のセッションで同期的に実行されるフローです。エンドユーザーに即時更新を提供するには、このオプションを使用します。たとえば、前のタスクがクローズされた後にフローがタスクを開く場合、ユーザーがタスクをクローズした直後に次のタスクを開くには、このオプションを使用します。 **注:** フォアグラウンドでフローを実行すると、現在のセッションスレッドがブロックされ、フローが終了するまでユーザー入力ができなくなる場合があります。スクリプトを実行するアクションなど、中断できないアクションが含まれている場合は、フローをフォアグラウンドで実行しないでください。フローを一時停止するアクションまたはフローロジックにより、セッションがブロックされることはありません。

トリガータイプごとに利用可能なデータピル

フローデザイナーは、トリガーからデータピルにアクセスできます。

トリガータイプ	利用可能なデータピル
レコード	[テーブルラベル] レコード トリガーレコードを含むオブジェクトです。 変更されたフィールド 変更されたフィールド値を含むオブジェクトのアレイです。このデータピルは、[更新済み] または [作成済みまたは更新済み]トリガータイプでのみ使用できます。 **注:** [変更されたフィールド] アレイデータピルを処理するには、[For Each フローロジック] を使用する必要があります。アレイデータピルの操作の詳細については、「複合データ」を参照してください。 [テーブルラベル] テーブル トリガーレコードを含むテーブルのシステム ID です。 実行開始日時 フローがシステムのローカルタイムゾーンで開始された日時を格納する日付/時刻オブジェクト。このデータピルを使用して、レコードの作成アクションやレコードの更新アクションなどの他のアクションやステップに日付/時刻値を渡します。 実行開始時間 UTC

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

トリガータイプ	利用可能なデータピル
	フローが世界協定時刻 (UTC) で開始された日時を格納する日付/時刻文字列。このデータピルを使用して、UTC 日付/時刻の文字列を想定する従来のフローにデータを渡します。
REST API - 非同期	パスパラメーター 受信要求内のパスパラメーターを含むオブジェクト。 クエリパラメーター 受信要求内のクエリパラメーターを含むオブジェクト。 要求ヘッダー 受信要求内のヘッダーを含むオブジェクト。 要求本文 受信要求の本文構造を定義する複合データオブジェクト。複合オブジェクトの詳細については、「複合データ」を参照してください。
日付	実行開始日時 フローがシステムのローカルタイムゾーンで開始された日時を格納する日付/時刻オブジェクト。このデータピルを使用して、レコードの作成アクションやレコードの更新アクションなどの他のアクションやステップに日付/時刻値を渡します。 実行開始時間 UTC フローが世界協定時刻 (UTC) で開始された日時を格納する日付/時刻文字列。このデータピルを使用して、UTC 日付/時刻の文字列を想定する従来のフローにデータを渡します。
SLA タスク	タスク SLA レコード トリガータスク SLA レコードを含むオブジェクトです。 sla_flow_inputs タスク SLA 定義値を含むオブジェクトです。
受信メール	メールレコード メールをトリガーするレコードを含むオブジェクトです。 [テーブルラベル] テーブル ターゲットメールに関連付けられているテーブルのシステム ID です。 本文 メールメッセージの本文を含む文字列です。 件名 メールメッセージの件名を含む文字列です。 ユーザーレコード トリガーメールを送信するユーザーを含むオブジェクトです。送信者にユーザーレコードが関連付けられていない場合、データピルにはゲストユーザーのオブジェクトがリストされます。 送信元アドレス 送信者のメールアドレスを含む文字列です。
メトリ	メトリックベーストリガー定義レコード

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

トリガータイプ	利用可能なデータピル
クスベース	メトリックベーストリガー定義をトリガーするレコードを含むオブジェクトです。 レベル メトリックベーストリガーレベルの整数値です。 メトリクスイベントの時刻 メトリクスイベントが発生した日付/時刻値です。 レコード メトリクスイベントが収集されたレコードを含むオブジェクトです。
サービスカタログ	要求アイテムレコード 要求アイテムをトリガーするレコードを含むオブジェクトです。 実行開始日時 フローがシステムのローカルタイムゾーンで開始された日時を格納する日付/時刻オブジェクト。このデータピルを使用して、レコードの作成アクションやレコードの更新アクションなどの他のアクションやステップに日付/時刻値を渡します。 実行開始時間 UTC フローが世界協定時刻 (UTC) で開始された日時を格納する日付/時刻文字列。このデータピルを使用して、UTC 日付/時刻の文字列を想定する従来のフローにデータを渡します。 テーブル名 要求されたカタログアイテムを含むテーブル名です。
Kafkaメッセージ	メッセージ Kafka トピックから受信したメッセージを含むオブジェクトのアレイ。各メッセージには次のデータピルがあります。 • ヘッダー：ヘッダーのアレイ。各ヘッダーにキーと値が含まれています。キーと値のペアからメッセージに関する追加情報が提供されます。キーと値はどちらも文字列です。 • ペイロード：メッセージのテキストを含む文字列。 • キー：メッセージの挿入順序を識別する文字列。同じキーを持つメッセージは順番に処理されます。

一般的なガイドライン

レコードトリガーを作成するときは、次の一般的なガイドラインに従います。

フローにトリガーまたは変数の入力が必要かどうかを判断する

フローは、トリガー条件が満たされたときに常に実行されます。トリガーは常にフローの入力として同じデータを提供します。フローを開始するために代わりに変数の入力が必要な場合は、サブフローを作成します。

条件を追加して、フローを開始するレコード値を指定します。

必要なときにのみフローを開始することで、フローを開始して一時停止し、特定のレコード条件が適用されるまでフローの再開を待機するよりもシステムリソースの消費が少なくなります。[条件待ち] アクションで始まるフローを作成する代わりに、レコードトリガーの一部として待機条件を含めるようにフローを再設計します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

同じテーブルのレコードトリガーに一意の条件を作成する

フローが互いに上書きされないようにするには、同じテーブルで実行されているフローごとに一意の条件を作成します。同じテーブルの複数のフローに同じフィルター条件がある場合、フローが実行される順序を知る方法はありません。条件を使用すると、より正確で少ない数のレコードセットが返されるため、フローのパフォーマンスの最適化にも役立ちます。

インポートおよび更新セットによって追加または更新されたレコードを無視する

レコードトリガーは、更新セットの適用または XML ファイルのインポートによって追加または更新されたレコードを無視します。これらの操作は、個々のレコードではなく、アプリケーションまたはテーブル全体に適用されます。

サービスカタログテーブルのレコードトリガーをサービスカタログアプリケーショントリガーに置き換える

フローデザイナーは、レコードトリガーのオプションとしてサービスカタログテーブルを表示しなくなりました。代わりに、サービスカタログアプリケーショントリガータイプを使用するフローを作成します。

フローをトリガーするユーザーがトリガー条件データにアクセスできることを確認する

通常、フローはトリガーしたユーザーとして実行されるため、ユーザーがトリガー条件で指定されたすべてのデータにアクセスできることを確認してください。一般のユーザーがアクセスできない関連テーブルにトリガー条件を作成することは避けてください。フロートリガー条件でロール制限されたデータへのアクセスが必要な場合は、そのデータへのアクセスに必要なロールを使用してフローを実行します。

ワークフロースタジオ の入力データおよび出力データ変数

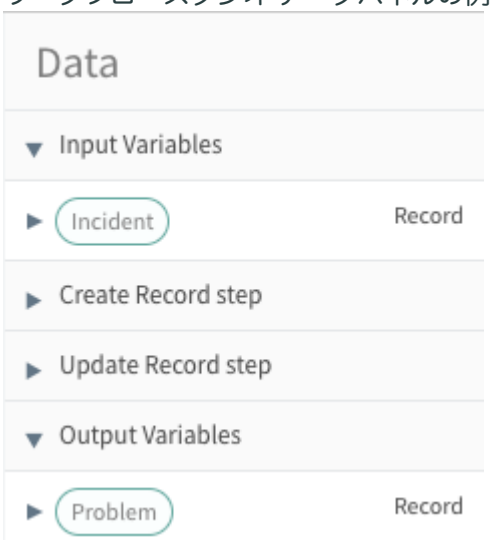
アクションとサブフローは、入力データと出力データを格納するために変数を使用します。変数のデータタイプは、格納するデータの種類とその詳細設定オプションを決定します。

アクションで利用可能なデータ変数

ワークフロースタジオ UI では、アクションの入力は、[データ] ペインの [入力変数] セクションにデータピルとして表示されます。アクションの出力は、[データ] ペインの [出力変数] セクションにデータピルとして一覧表示されます。

ワークフロースタジオ では、ステップの入力変数は [データ] ペインに表示されません。各ステップで生成された出力変数は、生成元のステップの一部として [データ] ペインに表示されます。入力変数と出力変数を使用してカスタムアクションを作成する方法の詳細については、「アクションのビルド」を参照してください。

ワークフロースタジオ データパネルの例



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

各データピルは、ラベルとデータタイプの説明で構成されます。たとえば、[インシデント] の入力変数は、[レコード] データタイプを使用してインシデントのシステム ID を格納します。[問題] の出力変数は、[レコード] データタイプを使用して問題のシステム ID を格納します。データピルを展開して、任意の子要素のコンテンツと階層を表示できます。

フローとサブフローで利用可能なデータ変数

ワークフロースタジオ UI は、フロートリガーをデータピルとして [データ] ペインに表示し、サブフローの入力をデータピルとして [データ] ペインの [サブフローの入力] セクションに表示します。サブフローの出力は、[データ] ペインの [出力変数] セクションにデータピルとして一覧表示されます。

ワークフロースタジオ では、アクションの入力変数は [データ] ペインに表示されません。各アクションで生成された出力変数は、生成元のアクションの一部として [データ] ペインに表示されます。入力変数と出力変数を使用してフローを作成する方法の詳細については、「フローのビルド」を参照してください。

サポートされる変数データタイプ

ワークフロースタジオ は、Now Platform のレコードデータと複合データを格納する変数データタイプをサポートしています。レコードデータを格納する変数は、ソースデータのNow Platform フィールドタイプ と一致するデータタイプでなければなりません。複合データの変数は、格納されている複合データのタイプ (アレイまたはオブジェクト) と一致する必要があります。

> **注:** この参照ドキュメントには、アクションとフローで使用できるすべての Now Platform データタイプがリストされているわけではありません。代わりに、参照情報は、提供されたアクションとフローで使用されるデータタイプに焦点を当てています。ServiceNow使用可能な Now Platform データタイプのリストと説明については、「フィールドタイプ 」を参照してください。

承認ルールのデータタイプ

承認要求を承認または却下するための条件を保存します。

基本オプション

オプション	説明
ラベル	フローデザイナー インターフェイスでデータ変数を識別するために使用されるラベルを表示します。ラベルは任意のテキストで構成できます。
名前	スクリプトコールでデータ変数を識別するために使用される名前を表示します。名前には、英数字とアンダースコアのみを使用できます。特殊文字を削除または置換することにより、ラベルが有効な名前に自動的に変換されます。
タイプ	データ変数によって格納されるデータのタイプを示します。
必須	アクションで設定するときにデータ変数に値を含める必要があるかどうかを示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細オプション

オプション	説明
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。
デフォルト値	フローデザイナーまたはアクションデザイナーが値を指定しない場合に使用される値を指定します。

一般的なガイドライン

デフォルト値の入力

デフォルト値としての承認ルールを作成または選択します。

Array.Boolean データタイプ

一連の true 値または false 値をアレイに格納します。

基本オプション

オプション	説明
ラベル	フローデザイナー インターフェイスでデータ変数を識別するために使用されるラベルを表示します。ラベルは任意のテキストで構成できます。
名前	スクリプトコールでデータ変数を識別するために使用される名前を表示します。名前には、英数字とアンダースコアのみを使用できます。特殊文字を削除または置換することにより、ラベルが有効な名前に自動的に変換されます。
タイプ	データ変数によって格納されるデータのタイプを示します。
必須	アクションで設定するときにデータ変数に値を含める必要があるかどうかを示します。

アレイ変数の詳細オプション

オプション	説明
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。
最大行数	フローデザイナー インターフェイスに表示するエントリーの最大数を指定します。アレイには、表示されるよりも多くの値を格納できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ブール変数の詳細オプション

オプション	説明
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。
デフォルト値	フローデザイナーまたはアクションデザイナーが値を指定しない場合に使用される値を指定します。

Array.Choice データタイプ

一連の選択リストの値をアレイに格納します。

基本オプション

オプション	説明
ラベル	フローデザイナー インターフェイスでデータ変数を識別するために使用されるラベルを表示します。ラベルは任意のテキストで構成できます。
名前	スクリプトコールでデータ変数を識別するために使用される名前を表示します。名前には、英数字とアンダースコアのみを使用できます。特殊文字を削除または置換することにより、ラベルが有効な名前に自動的に変換されます。
タイプ	データ変数によって格納されるデータのタイプを示します。
必須	アクションで設定するときにデータ変数に値を含める必要があるかどうかを示します。

アレイ変数の詳細オプション

オプション	説明
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。
最大行数	フローデザイナー インターフェイスに表示するエントリーの最大数を指定します。アレイには、表示されるよりも多くの値を格納できます。

変数の選択の詳細オプション

オプション	説明
名前	スクリプトコールでデータ変数を識別するために使用される名前を表示します。
最大長	ユーザーが選択値に入力できる最大長を指定します。このオプションを使用して、アクション設計時に保存される入力値の長さを制限します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。
選択肢	選択リストに選択なしの値があるかどうかを指定します。次のオプションが含まれます。 • 「-- なし --」のあるドロップダウン • 「-- なし --」のないドロップダウン 注: [「-- なし --」のあるドロップダウン] オプションでは、デフォルトの選択肢を選択する必要があります。
デフォルト	フローデザイナーまたはアクションデザイナーが選択肢を選択しない場合に使用される選択肢を指定します。
選択肢	選択可能な選択肢を指定します。選択肢を作成するには、追加ボタン (⊕) を使用します。各選択肢には、 [名前]、 [値]、および [順序] が必要です。選択リストの詳細については、「選択リストフィールドタイプ」を参照してください。

Array.Datetime データタイプ

一連の日付と時刻の値をアレイに格納します。

基本オプション

オプション	説明
ラベル	フローデザイナー インターフェイスでデータ変数を識別するために使用されるラベルを表示します。ラベルは任意のテキストで構成できます。
名前	スクリプトコールでデータ変数を識別するために使用される名前を表示します。名前には、英数字とアンダースコアのみを使用できます。特殊文字を削除または置換することにより、ラベルが有効な名前に自動的に変換されます。
タイプ	データ変数によって格納されるデータのタイプを示します。
必須	アクションで設定するときにデータ変数に値を含める必要があるかどうかを示します。

アレイ変数の詳細オプション

オプション	説明
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
最大行数	フローデザイナー インターフェイスに表示するエントリーの最大数を指定します。アレイには、表示されるよりも多くの値を格納できます。

Datetime 変数の詳細オプション

オプション	説明
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。
デフォルト値	フローデザイナーまたはアクションデザイナーが値を指定しない場合に使用される値を指定します。

Array.Integer データタイプ

一連の数値整数データをアレイに格納します。

基本オプション

オプション	説明
ラベル	フローデザイナー インターフェイスでデータ変数を識別するために使用されるラベルを表示します。ラベルは任意のテキストで構成できます。
名前	スクリプトコールでデータ変数を識別するために使用される名前を表示します。名前には、英数字とアンダースコアのみを使用できます。特殊文字を削除または置換することにより、ラベルが有効な名前に自動的に変換されます。
タイプ	データ変数によって格納されるデータのタイプを示します。
必須	アクションで設定するときにデータ変数に値を含める必要があるかどうかを示します。

アレイ変数の詳細オプション

オプション	説明
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。
最大行数	フローデザイナー インターフェイスに表示するエントリーの最大数を指定します。アレイには、表示されるよりも多くの値を格納できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

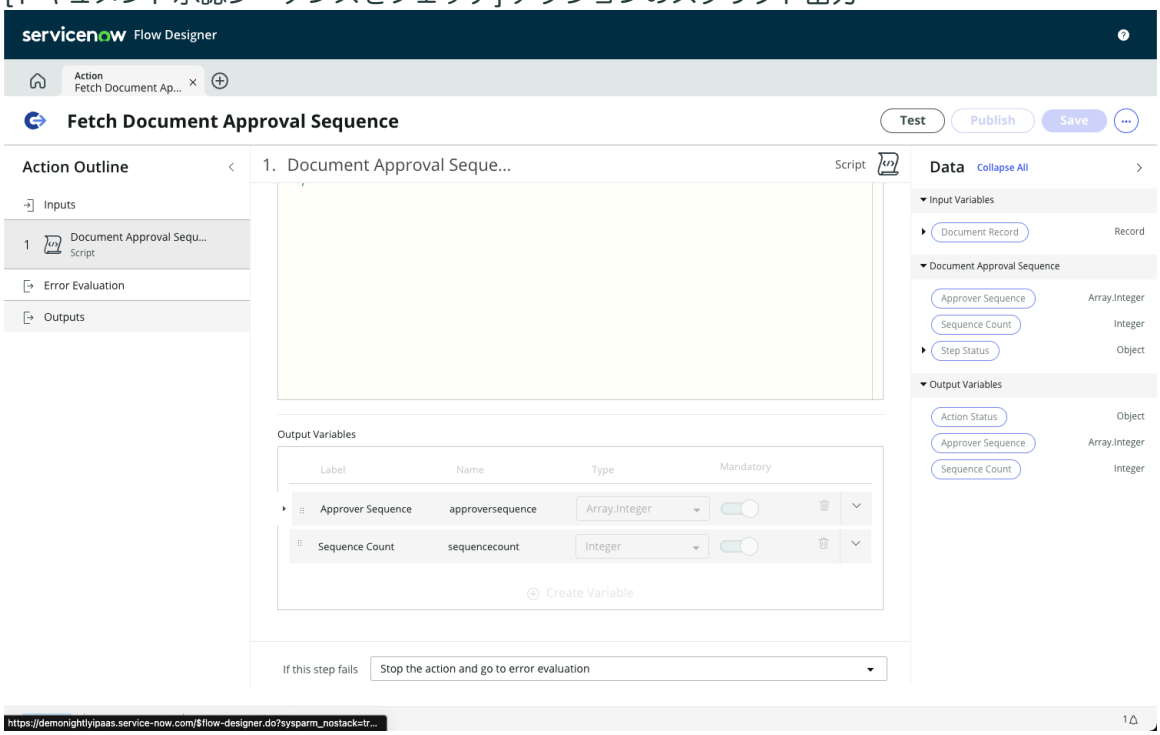
整数変数の詳細オプション

オプション	説明
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。
デフォルト値	フローデザイナーまたはアクションデザイナーが値を指定しない場合に使用される値を指定します。

例

整数の配列を使用して、スクリプトメソッド呼び出しの出力を格納できます。たとえば、[ドキュメント承認シーケンスをフェッチ] アクションでは、スクリプトステップを使用して承認シーケンスデータピルを生成します。スクリプト出力変数は、承認者のシーケンスを整数の配列として格納します。

[ドキュメント承認シーケンスをフェッチ] アクションのスクリプト出力



Array.Object データタイプ

一連の JavaScript オブジェクトをアレイに格納します。

基本オプション

オプション	説明
ラベル	フローデザイナー インターフェイスでデータ変数を識別するために使用されるラベルを表示します。ラベルは任意のテキストで構成できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
名前	スクリプトコールでデータ変数を識別するために使用される名前を表示します。名前には、英数字とアンダースコアのみを使用できます。特殊文字を削除または置換することにより、ラベルが有効な名前に自動的に変換されます。
タイプ	データ変数によって格納されるデータのタイプを示します。
必須	アクションで設定するときにデータ変数に値を含める必要があるかどうかを示します。

アレイ変数の詳細オプション

オプション	説明
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。
最大行数	フローデザイナー インターフェイスに表示するエントリーの最大数を指定します。アレイには、表示されるよりも多くの値を格納できます。

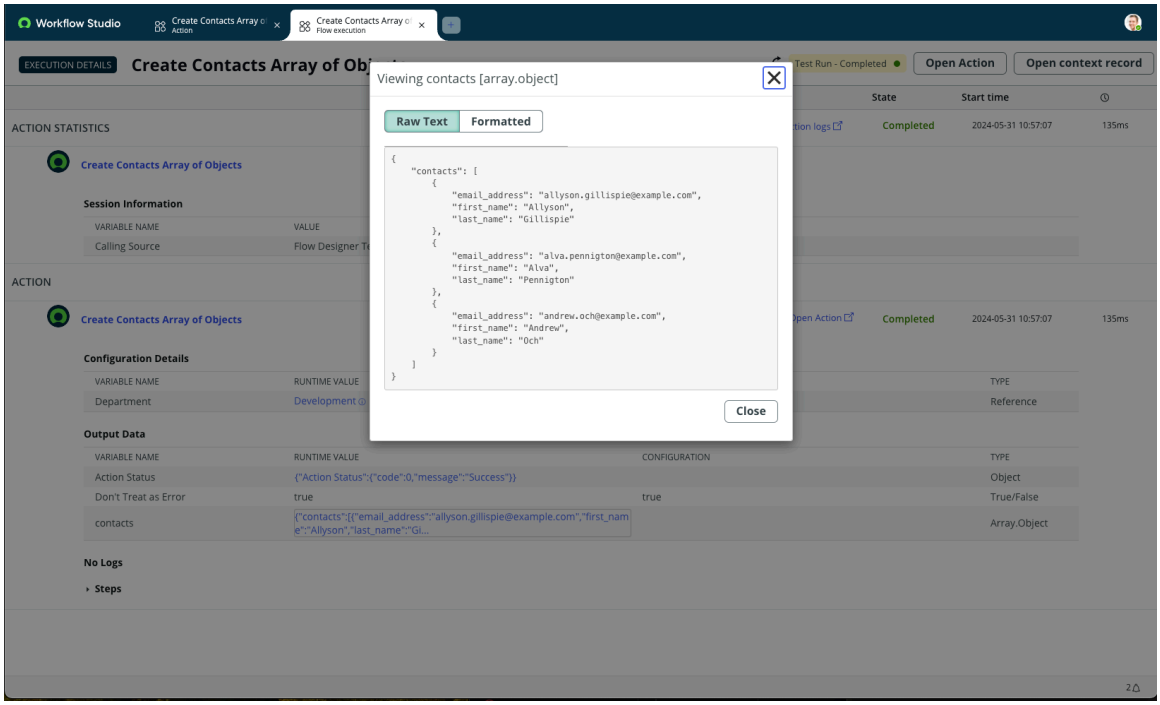
オブジェクト変数の詳細オプション

オプション	説明
構造	オブジェクト階層の構成方法を指定します。次のオプションが含まれます。 • 手動で構造を作成 • テンプレートから開始 **注:** 構造を手動で作成すると、[テンプレートとして保存] オプションが有効になります。テンプレートから開始すると [テンプレート] オプションが有効になります
テンプレートとして保存	後で再利用できるように、手動で作成されたオブジェクト構造を保存します。
テンプレート	このオブジェクトに適用する既存のオブジェクト構造を指定します。

注: 複合オブジェクト変数の使用の詳細については、「複合データ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: ユーザーリストから連絡先のリストを作成する



この例では、カスタムアクションを使用して、特定の部門のユーザーからの連絡先詳細のリストを生成します。オブジェクトのアレイを生成するカスタムアクションを作成するには、「レコードリストからオブジェクトのアレイを生成するカスタムアクションの作成」を参照してください。

この例では、連絡先アレイに開発部門の 3 人のユーザーが含まれています。

```
{
    "contacts":
        "contact": [
            {
                "email_address": "allyson.gillispie@example.com",
                "first_name": "Allyson",
                "last_name": "Gillispie"
            },
            {
                "email_address": "alva.pennigton@example.com",
                "first_name": "Alva",
                "last_name": "Pennigton"
            },
            {
                "email_address": "andrew.och@example.com",
                "first_name": "Andrew",
                "last_name": "Och"
            }
        ]
    }
}
```

Array.String データタイプ

一連の英数字テキストの値をアレイに格納します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

基本オプション

オプション	説明
ラベル	フローデザイナー インターフェイスでデータ変数を識別するために使用されるラベルを表示します。ラベルは任意のテキストで構成できます。
名前	スクリプトコールでデータ変数を識別するために使用される名前を表示します。名前には、英数字とアンダースコアのみを使用できます。特殊文字を削除または置換することにより、ラベルが有効な名前に自動的に変換されます。
タイプ	データ変数によって格納されるデータのタイプを示します。
必須	アクションで設定するときにデータ変数に値を含める必要があるかどうかを示します。

アレイ変数の詳細オプション

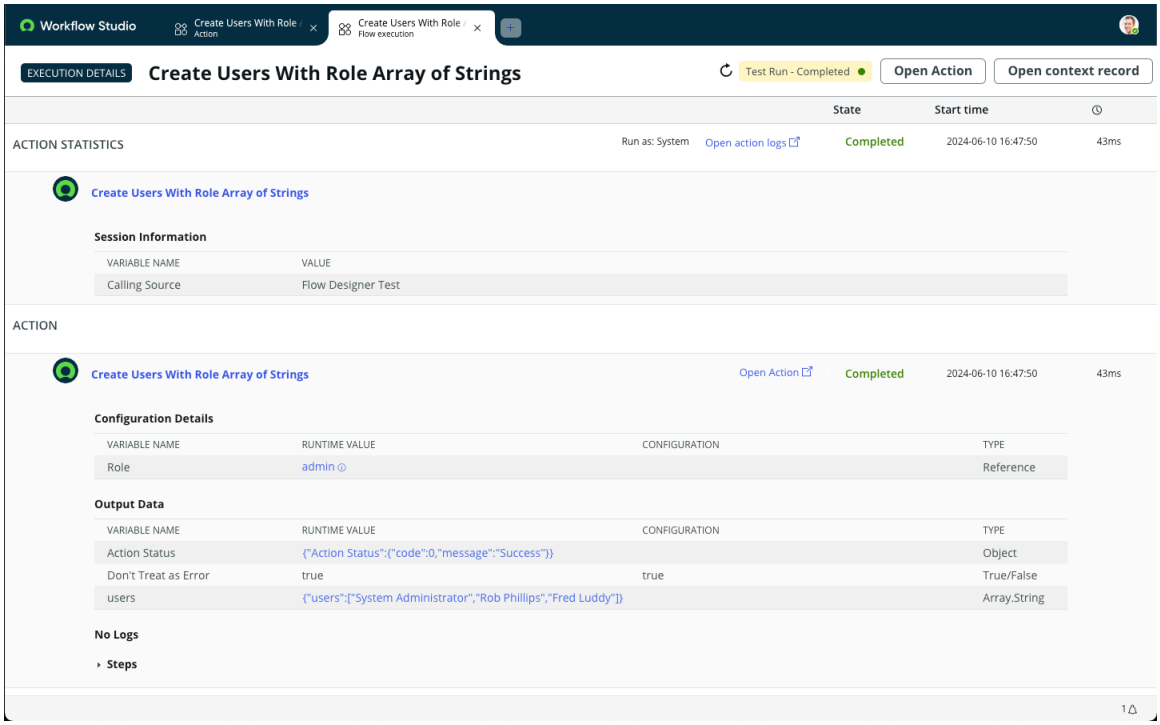
オプション	説明
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。
最大行数	フローデザイナー インターフェイスに表示するエントリーの最大数を指定します。アレイには、表示されるよりも多くの値を格納できます。

文字列変数の詳細オプション

オプション	説明
最大長	ユーザーインターフェイスから文字列値を入力するときの最大長を指定します。変数は、表示可能な長さよりも長い文字列を格納できます。
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。
デフォルト値	フローデザイナーまたはアクションデザイナーが値を指定しない場合に使用される値を指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: ユーザーロールを持つユーザーのリストの作成



この例では、カスタムアクションを使用して、特定のユーザーロールを持つユーザーのリストを生成します。文字列のアレイを生成するカスタムアクションを作成するには、「レコードリストから文字列のアレイを生成するためのカスタムアクションの作成」を参照してください。

この例では、ユーザーアレイに admin ロールを持つ 3 人のユーザーが含まれています。

```
{
    "users": [
        "System Administrator",
        "Rob Phillips",
        "Fred Luddy"
    ]
}
```

選択肢データ

特定の選択フィールドの選択リストの値を格納します。

基本オプション

オプション	説明
ラベル	フローデザイナー インターフェイスでデータ変数を識別するために使用されるラベルを表示します。ラベルは任意のテキストで構成できます。
名前	スクリプトコールでデータ変数を識別するために使用される名前を表示します。名前には、英数字とアンダースコアのみを使用できます。特殊文字を削除または置換することにより、ラベルが有効な名前に自動的に変換されます。
	データ変数によって格納されるデータのタイプを示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
タイプ	
必須	アクションで設定するときにデータ変数に値を含める必要があるかどうかを示します。

変数の選択の詳細オプション

オプション	説明
名前	スクリプトコールでデータ変数を識別するために使用される名前を表示します。
最大長	ユーザーが選択値に入力できる最大長を指定します。このオプションを使用して、アクション設計時に保存される入力値の長さを制限します。
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。
選択肢	選択リストに選択なしの値があるかどうかを指定します。次のオプションが含まれます。 • 「-- なし --」のあるドロップダウン • 「-- なし --」のないドロップダウン 注: [「-- なし --」のあるドロップダウン] オプションでは、デフォルトの選択肢を選択する必要があります。
デフォルト	フローデザイナーまたはアクションデザイナーが選択肢を選択しない場合に使用される選択肢を指定します。
選択肢	選択可能な選択肢を指定します。選択肢を作成するには、追加ボタン (⊕) を使用します。各選択肢には、 [名前]、 [値]、および [順序] が必要です。選択リストの詳細については、「選択リストフィールドタイプ」を参照してください。

条件データタイプ

特定のレコードタイプの条件セットを格納します。条件を定義するには、ソーステーブルを選択する必要があります。

基本オプション

オプション	説明
ラベル	フローデザイナー インターフェイスでデータ変数を識別するために使用されるラベルを表示します。ラベルは任意のテキストで構成できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
名前	スクリプトコールでデータ変数を識別するために使用される名前を表示します。名前には、英数字とアンダースコアのみを使用できます。特殊文字を削除または置換することにより、ラベルが有効な名前に自動的に変換されます。
タイプ	データ変数によって格納されるデータのタイプを示します。
必須	アクションで設定するときにデータ変数に値を含める必要があるかどうかを示します。

詳細オプション

オプション	説明
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。
デフォルト値	フローデザイナーまたはアクションデザイナーが値を指定しない場合に使用される値を指定します。

日付と時刻データタイプ

日付と時刻の値を格納します。

基本オプション

オプション	説明
ラベル	フローデザイナー インターフェイスでデータ変数を識別するために使用されるラベルを表示します。ラベルは任意のテキストで構成できます。
名前	スクリプトコールでデータ変数を識別するために使用される名前を表示します。名前には、英数字とアンダースコアのみを使用できます。特殊文字を削除または置換することにより、ラベルが有効な名前に自動的に変換されます。
タイプ	データ変数によって格納されるデータのタイプを示します。
必須	アクションで設定するときにデータ変数に値を含める必要があるかどうかを示します。

詳細オプション

オプション	説明
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
デフォルト値	フローデザイナーまたはアクションデザイナーが値を指定しない場合に使用される値を指定します。

添付ファイルデータタイプ

1 つの添付ファイルを、システムの添付ファイルテーブルのレコードではなく、アクションまたはフローの関連レコードの一部として保存します。

基本オプション

オプション	説明
ラベル	フローデザイナー インターフェイスでデータ変数を識別するために使用されるラベルを表示します。ラベルは任意のテキストで構成できます。
名前	スクリプトコールでデータ変数を識別するために使用される名前を表示します。名前には、英数字とアンダースコアのみを使用できます。特殊文字を削除または置換することにより、ラベルが有効な名前に自動的に変換されます。
タイプ	データ変数によって格納されるデータのタイプを示します。
必須	アクションで設定するときにデータ変数に値を含める必要があるかどうかを示します。

詳細オプション

オプション	説明
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。
デフォルト値	フローデザイナーまたはアクションデザイナーが値を指定しない場合に使用される値を指定します。

一般的なガイドライン

添付ファイルごとに 1 つの入力を作成する

保存する添付ファイルごとに個別の添付ファイル入力を作成します。添付ファイルデータタイプでは、入力ごとに 1 つの添付ファイルのみを追加できます。アクションまたはフローに関連付けられているものと同じレコードに添付ファイルが保存されます。単一の添付ファイルを保存するには、データタイプの添付ファイルのカスタムフィールドを作成する必要がある場合があります。

既存のアクションを含む添付ファイルを管理する

既存の添付ファイルアクションを使用して、レコードとメールに関連付けられた添付ファイルを管理します。添付ファイルをコピー、削除、レコードから取得、検索、および移動する既存のアクションがあります。添付ファイルを添付ファイルデータタイプとして保存すると、標準の添付ファイルアクションで添付ファイルを管理できなくなります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

整数データタイプ

数値整数データを格納します。整数は正の整数のみです。分数と小数点の値はサポートされていません。

基本オプション

オプション	説明
ラベル	フローデザイナー インターフェイスでデータ変数を識別するために使用されるラベルを表示します。ラベルは任意のテキストで構成できます。
名前	スクリプトコールでデータ変数を識別するために使用される名前を表示します。名前には、英数字とアンダースコアのみを使用できます。特殊文字を削除または置換することにより、ラベルが有効な名前に自動的に変換されます。
タイプ	データ変数によって格納されるデータのタイプを示します。
必須	アクションで設定するときにデータ変数に値を含める必要があるかどうかを示します。

詳細オプション

オプション	説明
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。
デフォルト値	フローデザイナーまたはアクションデザイナーが値を指定しない場合に使用される値を指定します。

JSON データタイプ

JSON 形式のテキスト値を格納します。JSON 値は、統合ステップまたはスクリプトによって生成できます。

基本オプション

オプション	説明
ラベル	フローデザイナー インターフェイスでデータ変数を識別するために使用されるラベルを表示します。ラベルは任意のテキストで構成できます。
名前	スクリプトコールでデータ変数を識別するために使用される名前を表示します。名前には、英数字とアンダースコアのみを使用できます。特殊文字を削除または置換することにより、ラベルが有効な名前に自動的に変換されます。
タイプ	データ変数によって格納されるデータのタイプを示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
必須	アクションで設定するときにデータ変数に値を含める必要があるかどうかを示します。

リスト変数の詳細オプション

オプション	説明
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。
デフォルト値	フローデザイナーまたはアクションデザイナーが値を指定しない場合に使用される値を指定します。

Example: JSON アレイとしての選択リストアイテム

この例は、選択リストフィールドの 3 つの選択肢を JSON 形式のテキストとして格納する方法を示しています。この例では、data 属性に値として 3 つのオブジェクトのアレイがあります。アレイ内の各オブジェクトには、label 属性と name 属性があります。

```
{
    data: [
        {
            label: "Choice Option 1",
            name: "choice_option_1"

        },
        {
            label: "Choice Option 2",
            name: "choice_option_2"
        },
        {
            label: "Choice Option 3",
            name: "choice_option_3"
        }
    ]
}
```

List.[Table] データタイプ

特定のテーブルに関連付けられたレコードシステム ID のリストを格納します。この変数は、デフォルトレコードや参照修飾子などの Now Platform リストフィールドオプションをサポートします。

基本オプション

オプション	説明
ラベル	フローデザイナー インターフェイスでデータ変数を識別するために使用されるラベルを表示します。ラベルは任意のテキストで構成できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
名前	スクリプトコールでデータ変数を識別するために使用される名前を表示します。名前には、英数字とアンダースコアのみを使用できます。特殊文字を削除または置換することにより、ラベルが有効な名前に自動的に変換されます。
タイプ	データ変数によって格納されるデータのタイプを示します。
必須	アクションで設定するときにデータ変数に値を含める必要があるかどうかを示します。

リスト変数の詳細オプション

オプション	説明
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。
デフォルト値	フローデザイナーまたはアクションデザイナーが値を指定しない場合に使用される値を指定します。
[レコードラベル] の追加	リストのデフォルト値として含めるレコードを 1 つ以上選択します。参照修飾子を使用してリストをフィルタリングすると、参照修飾子の条件に一致するレコードのみを選択できます。
参照修飾子の条件	レコードリストに適用するフィルター条件を選択します。フローデザイナーは、参照修飾子の条件に一致するレコードのみを選択できます。

一般的なガイドライン

リストレコードをフィルターするための参照修飾子を追加する

参照修飾子を追加し、リスト変数を有効なオプションとして表示するレコードをフィルターします。参照修飾子は必須のリストフィルターとして機能し、これにより参照修飾子の条件に一致するレコードのみがリスト変数に表示されます。たとえば、アクティブなインシデントレコードのみを表示するには、参照修飾子の条件として [アクティブ] [次の値に等しい]**[true]** を追加します。

ServiceNow Store の対象アクションのデフォルトレコードを選択しない

すべてのインスタンスが選択したレコードにアクセスできることがわかっている場合を除き、リストのデフォルトレコードを選択しないでください。スポーク開発者は通常、カスタムアクションをインストールする顧客のデータにアクセスできません。ServiceNow Store でカスタムアクションを公開する場合は、デフォルトレコードをデモデータとして提供する必要がある場合があります。

For Each フローロジックでリスト変数を使用する

リスト変数を使用して、For Each フローロジック内で処理するレコードを指定できます。For Each フローロジックは、データに存在するすべての non-record sys_id を無視します。たとえば、リスト変数にメールアドレスが含まれている場合、フローロジックはそれを無視します。

オブジェクトデータタイプ

JavaScript オブジェクトを格納します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

基本オプション

オプション	説明
ラベル	フローデザイナー インターフェイスでデータ変数を識別するために使用されるラベルを表示します。ラベルは任意のテキストで構成できます。
名前	スクリプトコールでデータ変数を識別するために使用される名前を表示します。名前には、英数字とアンダースコアのみを使用できます。特殊文字を削除または置換することにより、ラベルが有効な名前に自動的に変換されます。
タイプ	データ変数によって格納されるデータのタイプを示します。
必須	アクションで設定するときにデータ変数に値を含める必要があるかどうかを示します。

オブジェクト変数の詳細オプション

オプション	説明
構造	オブジェクト階層の構成方法を指定します。次のオプションが含まれます。 • 手動で構造を作成 • テンプレートから開始 注: 構造を手動で作成すると、[テンプレートとして保存] オプションが有効になります。テンプレートから開始すると [テンプレート] オプションが有効になります
テンプレートとして保存	後で再利用できるように、手動で作成されたオブジェクト構造を保存します。
テンプレート	このオブジェクトに適用する既存のオブジェクト構造を指定します。

注: 複合オブジェクト変数の使用の詳細については、「複合データ」を参照してください。

パスワード (双方向暗号化) デザインの検討

復号化可能な暗号化されたパスワードデータを格納します。

基本オプション

オプション	説明
ラベル	フローデザイナー インターフェイスでデータ変数を識別するために使用されるラベルを表示します。ラベルは任意のテキストで構成できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
名前	スクリプトコールでデータ変数を識別するために使用される名前を表示します。名前には、英数字とアンダースコアのみを使用できます。特殊文字を削除または置換することにより、ラベルが有効な名前に自動的に変換されます。
タイプ	データ変数によって格納されるデータのタイプを示します。
必須	アクションで設定するときにデータ変数に値を含める必要があるかどうかを示します。

詳細オプション

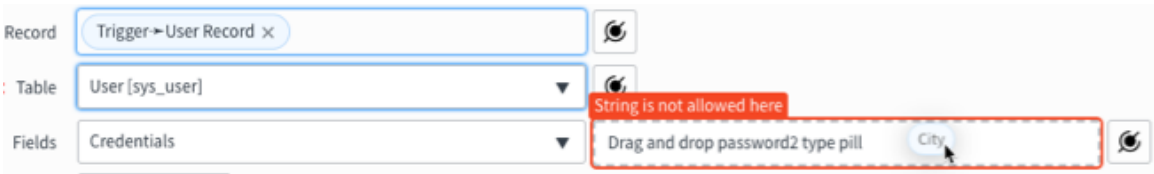
オプション	説明
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。
デフォルト値	フローデザイナーまたはアクションデザイナーが値を指定しない場合に使用される値を指定します。

一般的なガイドライン

パスワード (双方向暗号化) データを含むフローの設計時には、次の一般的なガイドラインに従います。

既存のパスワード (双方向暗号化) データピルを使用して値をアサインします。

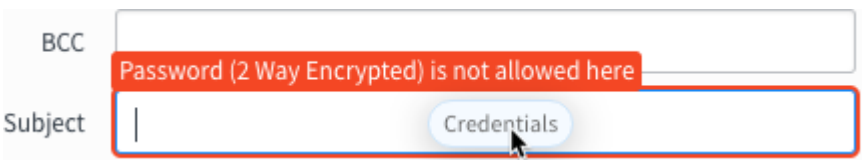
password2 変数に値を割り当てるには、既存の password2 データピルを選択する必要があります。その他のフィールドタイプから値を選択することはサポートされません。フローデザイナー では、無効なデータピルタイプが選択された場合に、警告メッセージが表示されます。



注: パスワード (双方向暗号化) の値を手動で入力することはできません。

パスワード (双方向暗号化) 変数を有効なフィールドタイプにのみ使用する

フローデザイナー で、無効なフィールドタイプの値として Password2 データピルが選択されないようにします。フィールドが互換性のないタイプである場合、システムは警告メッセージを表示します。



フローデザイナー では、Password2 データピルを次のフィールドタイプにドラッグできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- メール本文のフィールド
- HTML フィールド
- Password2 フィールド
- PowerShell 入力変数
- REST フィールド
  - 変数
  - REST ペイロード本文
  - クエリパラメーター
  - ヘッダー
  - REST マルチパートフォームの値
  - フォーム URL エンコードの値
- SOAP フィールド
  - ヘッダー
  - エンベロープ

注: パスワード (双方向暗号化) 変数を条件として使用することはできません。

ユーザーが、アクションとフローの保存、公開、またはテストを行ったら、フローデザイナーは検証チェックを実行します。このチェックでは、制限付きフィールドタイプにデータピルがドロップされた場合にアラートが表示され、アクションまたはフローの実行が阻止されます。アクションまたはフローを更新して無効なデータピルを削除してから、アクションを再試行してください。

復号化のための暗号化モジュールを設定する

有効な暗号化モジュールアクセス権を持つユーザーのみが、password2 変数のコンテンツを復号化して表示できます。暗号化アルゴリズムと、暗号化されたデータにアクセスできるロールを指定するには、「KMF による Password2 暗号化 」を参照してください。

Records.[Table] データタイプ

レコードに対する 1 つ以上の Sys ID 参照を特定のテーブルに格納します。レコードデータ形式は、GlideRecord Sys ID 値のリストを格納するため、Glide リストとも呼ばれます。

基本オプション

オプション	説明
ラベル	フローデザイナー インターフェイスでデータ変数を識別するために使用されるラベルを表示します。ラベルは任意のテキストで構成できます。
名前	スクリプトコールでデータ変数を識別するために使用される名前を表示します。名前には、英数字とアンダースコアのみを使用できます。特殊文字を削除または置換することにより、ラベルが有効な名前に自動的に変換されます。
タイプ	データ変数によって格納されるデータのタイプを示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
必須	アクションで設定するときにデータ変数に値を含める必要があるかどうかを示します。

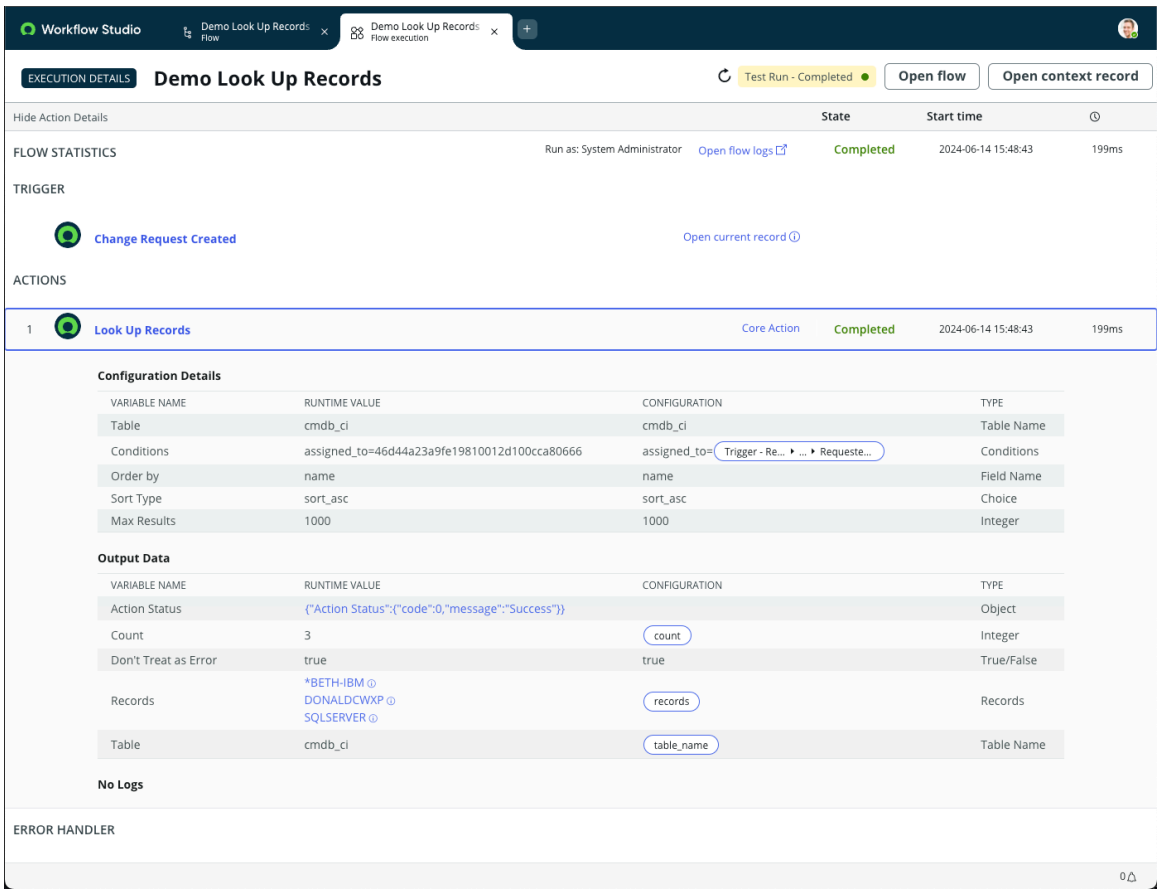
詳細オプション

オプション	説明
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。
デフォルト値	フローデザイナーまたはアクションデザイナーが値を指定しない場合に使用される値を指定します。

スクリプトのサポート

レコードデータタイプは、スクリプト内の GlideRecord クラスでサポートされており、1 つ以上の sys_id 値を含むアレイを生成できます。GlideRecord クラスとその利用可能なメソッドの詳細については、「GlideRecord - グローバル」を参照してください。

Example: [複数のレコードの検索] アクションの出力



[複数のレコードの検索] アクションでは、レコードデータタイプを使用して結果を格納します。この例では、アクションは変更要求の要求者にアサインされた構成アイテムレコードを検索しました。各構成アイテムレコードは、その Sys ID による参照です。フロー実行の詳細には、構成アイテムの表示値 (この場合は名前) が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Reference.[Table] データタイプ

レコードに対する 1 つのシステム ID 参照を特定のテーブルに格納します。

基本オプション

オプション	説明
ラベル	フローデザイナー インターフェイスでデータ変数を識別するために使用されるラベルを表示します。ラベルは任意のテキストで構成できます。
名前	スクリプトコールでデータ変数を識別するために使用される名前を表示します。名前には、英数字とアンダースコアのみを使用できます。特殊文字を削除または置換することにより、ラベルが有効な名前に自動的に変換されます。
タイプ	データ変数によって格納されるデータのタイプを示します。
必須	アクションで設定するときにデータ変数に値を含める必要があるかどうかを示します。

参照変数の詳細オプション

オプション	説明
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。
デフォルト値	フローデザイナーまたはアクションデザイナーが値を指定しない場合に使用される値を指定します。
参照修飾子の条件	ターゲットテーブルからレコードをフィルターするために使用する条件を指定します。参照修飾子の条件に一致するターゲットテーブルのレコードのみが表示されます。条件ビルダーを使用して条件を追加します。

文字列データタイプ

JavaScript のデータ規則を使用して英数字のテキスト値を格納します。

基本オプション

オプション	説明
ラベル	フローデザイナー インターフェイスでデータ変数を識別するために使用されるラベルを表示します。ラベルは任意のテキストで構成できます。
名前	スクリプトコールでデータ変数を識別するために使用される名前を表示します。名前には、英数字とアンダースコアのみを使用できます。特殊文字を削除または置換することにより、ラベルが有効な名前に自動的に変換されます。
	データ変数によって格納されるデータのタイプを示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
タイプ	
必須	アクションで設定するときにデータ変数に値を含める必要があるかどうかを示します。

文字列変数の詳細オプション

オプション	説明
最大長	ユーザーインターフェイスから文字列値を入力するときの最大長を指定します。変数は、表示可能な長さよりも長い文字列を格納できます。
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。
デフォルト値	フローデザイナーまたはアクションデザイナーが値を指定しない場合に使用される値を指定します。

テーブル名データタイプ

データベースディクショナリーで指定されたテーブル名の値を格納します。テーブル名は常に英数字の文字列です。

基本オプション

オプション	説明
ラベル	フローデザイナー インターフェイスでデータ変数を識別するために使用されるラベルを表示します。ラベルは任意のテキストで構成できます。
名前	スクリプトコールでデータ変数を識別するために使用される名前を表示します。名前には、英数字とアンダースコアのみを使用できます。特殊文字を削除または置換することにより、ラベルが有効な名前に自動的に変換されます。
タイプ	データ変数によって格納されるデータのタイプを示します。
必須	アクションで設定するときにデータ変数に値を含める必要があるかどうかを示します。

詳細オプション

オプション	説明
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
デフォルト値	フローデザイナーまたはアクションデザイナーが値を指定しない場合に使用される値を指定します。

true/false データタイプ

JavaScript のデータ規則を使用して true 値または false 値を格納します。

基本オプション

オプション	説明
ラベル	フローデザイナー インターフェイスでデータ変数を識別するために使用されるラベルを表示します。ラベルは任意のテキストで構成できます。
名前	スクリプトコールでデータ変数を識別するために使用される名前を表示します。名前には、英数字とアンダースコアのみを使用できます。特殊文字を削除または置換することにより、ラベルが有効な名前に自動的に変換されます。
タイプ	データ変数によって格納されるデータのタイプを示します。
必須	アクションで設定するときにデータ変数に値を含める必要があるかどうかを示します。

詳細オプション

オプション	説明
ヒント	データの構成方法についてフローデザイナーまたはアクションデザイナーにガイダンスを提供します。
デフォルト値	フローデザイナーまたはアクションデザイナーが値を指定しない場合に使用される値を指定します。

Variables.[Table] データタイプ

意思決定入力変数などの Glide 変数の特定のテーブルへの参照を格納します。

基本オプション

オプション	説明
ラベル	フローデザイナー インターフェイスでデータ変数を識別するために使用されるラベルを表示します。ラベルは任意のテキストで構成できます。
名前	スクリプトコールでデータ変数を識別するために使用される名前を表示します。名前には、英数字とアンダースコアのみを使用できます。特殊文字を削除または置換することにより、ラベルが有効な名前に自動的に変換されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
タイプ	データ変数によって格納されるデータのタイプを示します。
必須	アクションで設定するときにデータ変数に値を含める必要があるかどうかを示します。

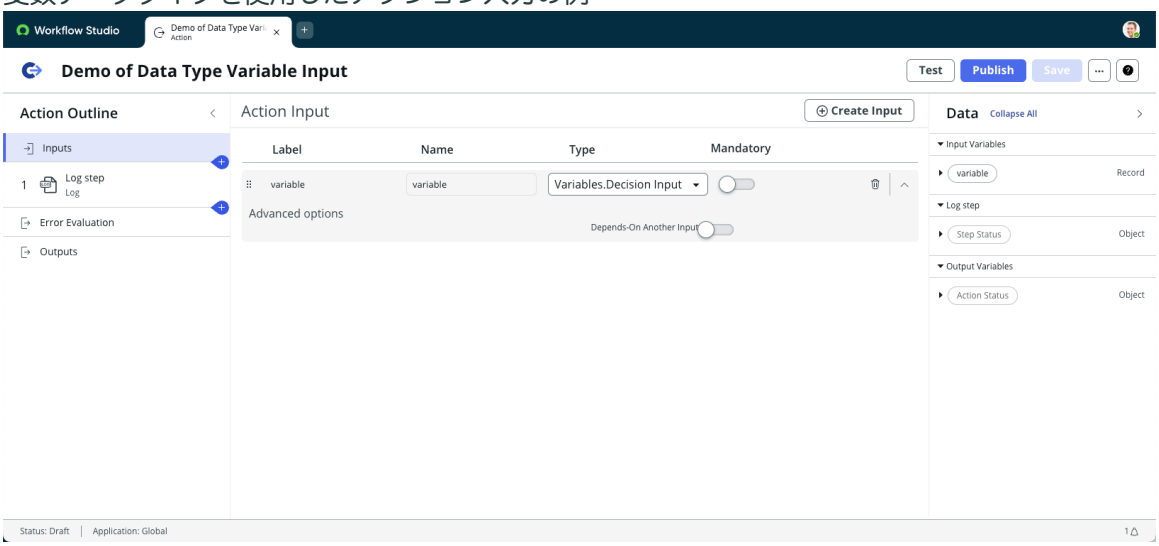
変数の詳細オプション

オプション	説明
データの定義	Glide 変数を格納するテーブルを指定します。各変数タイプには、変数とその関連データを名前と値のペアとして格納する独自のソーステーブルがあります。変数を格納する一部のテーブルでは、変数レコードの直接の追加または編集がサポートされていません。たとえば、アクションまたはサブフローの変数は、アクションまたはサブフローを作成するときに定義されます。変数を格納するテーブルを直接編集するのではなく、アクションまたはサブフローを編集して変数を変更します。
別の入力に依存	データ定義値が別の入力によって決定されるかどうかを指定します。データ定義を特定の値にハードコーディングするのではなく、このオプションを使用してデータ定義を動的に設定します。

Example: ディシジョン入力変数のログ記録

この例では、ディシジョン入力変数をログ記録します。1 つの入力変数タイプを持つアクションを作成します。ディシジョン入力 [sys_decision_input] テーブルを変数のソースとして選択します。

変数データタイプを使用したアクション入力の例

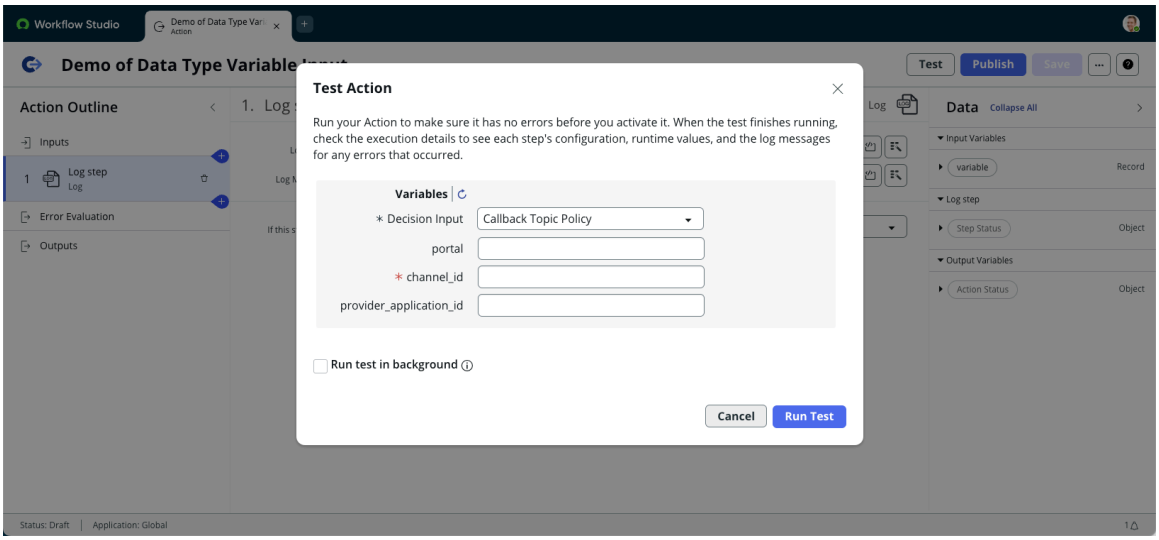


変数選択の結果を保存するログ記録のステップを追加します。アクションをテストして、使用可能なディシジョン入力の選択リストを表示します。ディシジョン入力タイプを選択して、その変数を表示します。たとえば、コールバックトピックポリシーを選択して 3 つの変数を表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- portal
- channel_id
- provider_application_id

コールバックトピックポリシーディシジョン入力の変数の例



選択したディシジョン入力ごとに、異なる変数セットが表示されます。

ワークフロースタジオ のステップ

ステップは、アクション内の単一の操作を実行します。ワークフロースタジオ を使用して、カスタムアクションにステップを追加できます。

ステップは、アクション内で再利用可能な単一の操作です。たとえば、[レコードを作成] ステップでは、アクションデザイナーがレコード作成時に使用するテーブルとフィールドの値を指定できます。ステップを設定するには、アプリケーションのテーブル、フィールド、およびビジネスロジックに関する専門分野の知識が必要です。アプリケーション開発者または IT ジェネラリストは、ワークフロースタジオアクションの設計環境のアクションにステップを追加します。ワークフロースタジオは、Now Platform プロセスを自動化する一連の ServiceNow コアステップを提供します。関連するスポークを有効化することによって、アプリケーション固有のステップを追加できます。

検索ステップ

[検索ステップ] フィルターを使用して、名前またはスポークでステップを検索できます。3 文字以上のデータを入力すると、ワークフロースタジオ には検索条件に一致するステップのリストが表示されます。

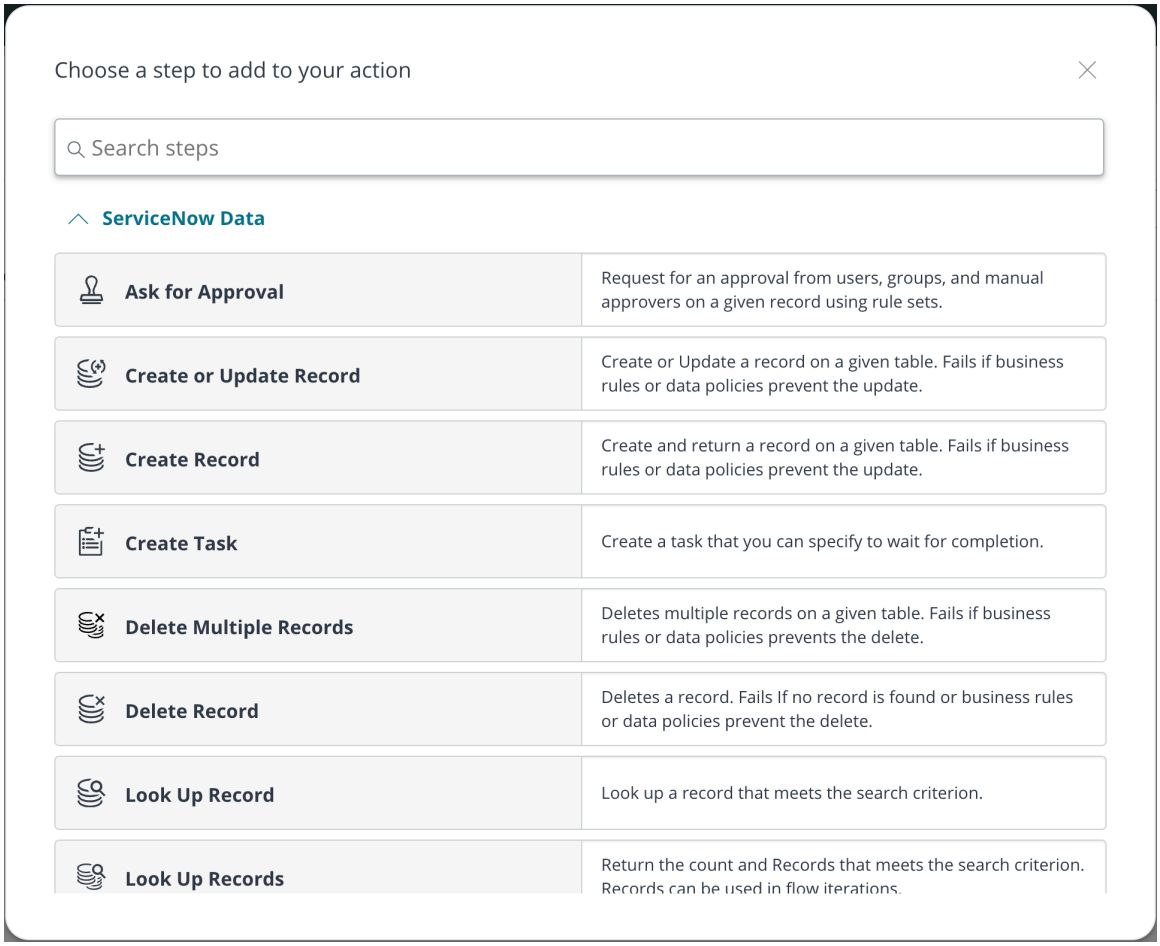
[検索アクション] フィルター

ServiceNow データ

ServiceNow データステップは、インストールされているスポークに関係なく、すべてのアクションで使用できます。次の手順を使用して、データに対するレコード操作を実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow データステップ

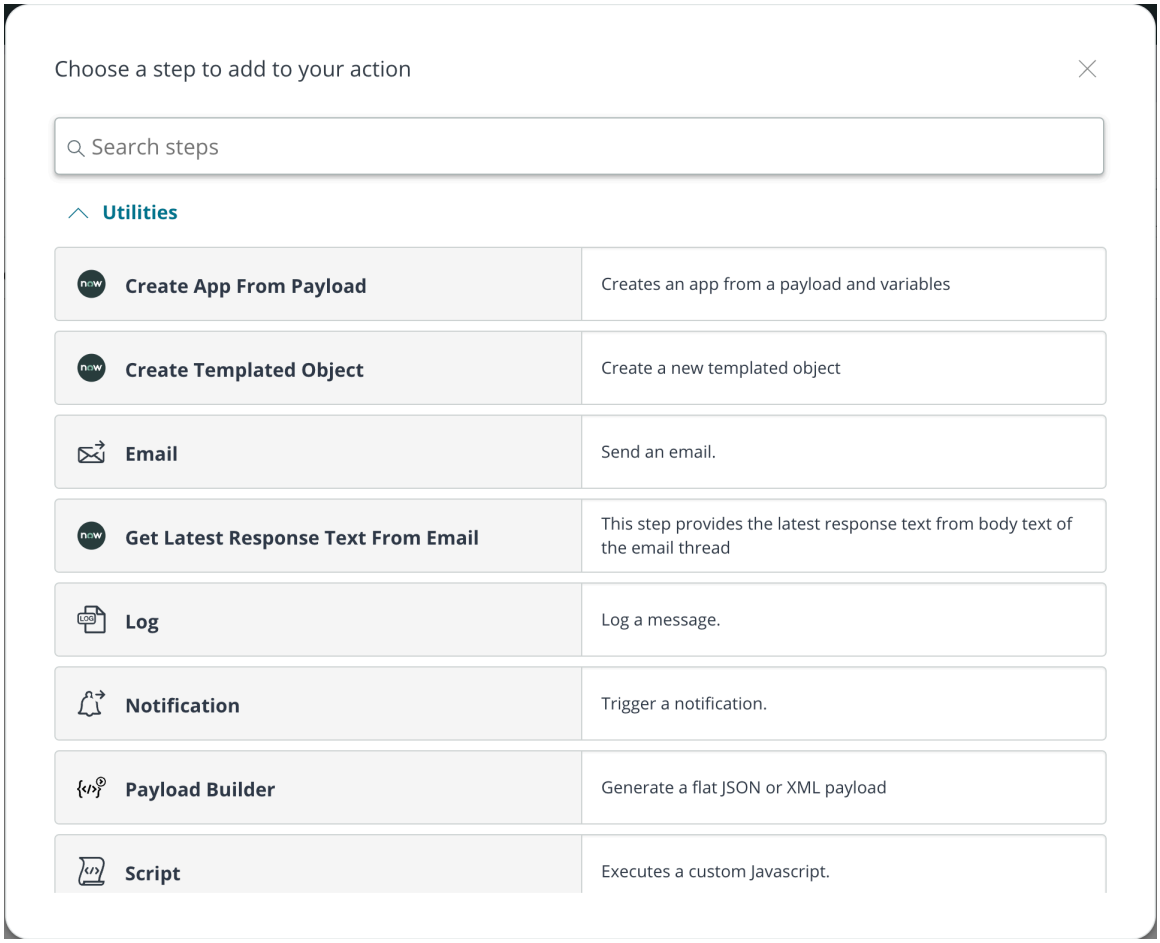


ユーティリティ

ユーティリティステップでは、ペイロードのビルド、データの圧縮、スクリプトの実行、通知の送信ができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーティリティステップ

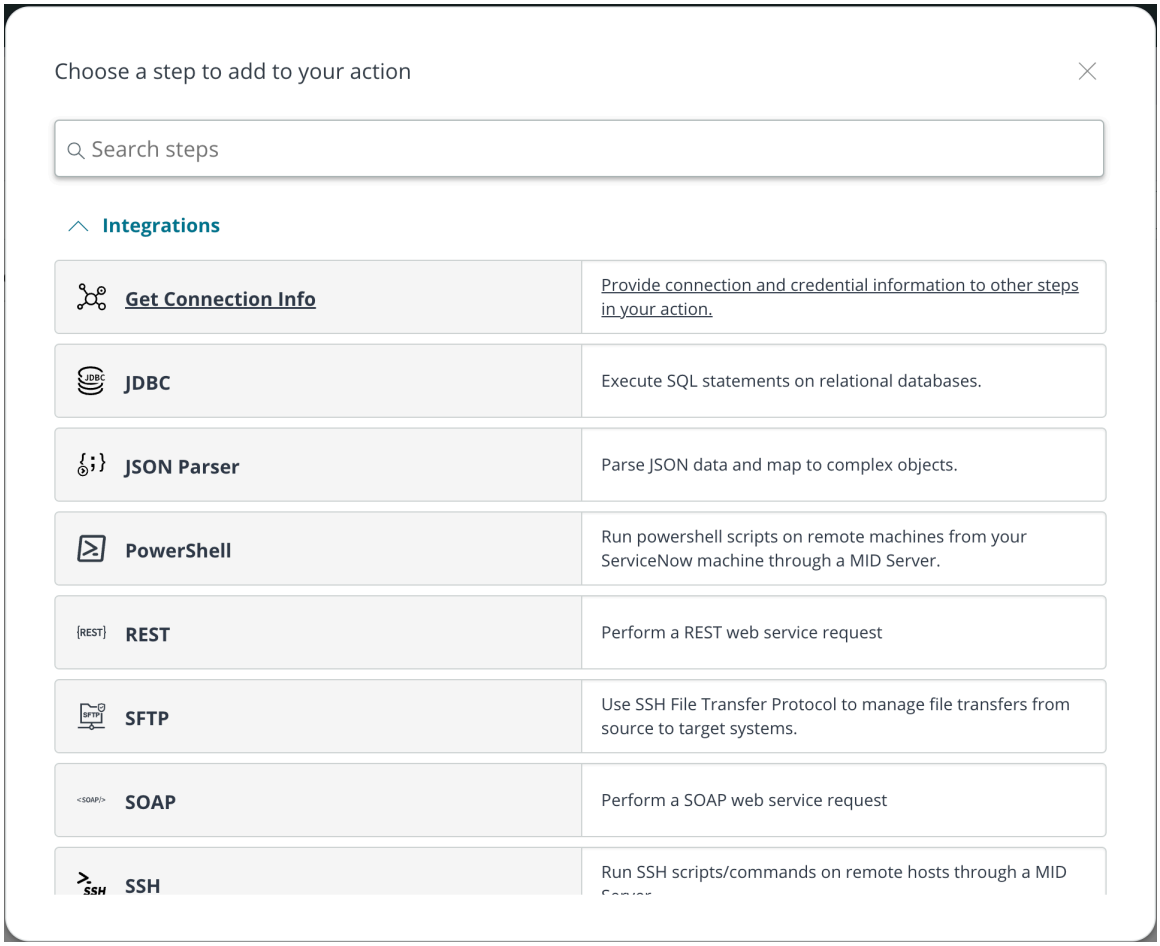


統合

統合ハブ をアクティブ化して、外部システムと統合するためのカスタムアクションをアクティブ化します。これにより、アクションデザイナーインターフェイスに統合ステップが追加されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ステップ



「承認を求める」ステップ

承認フィールドを含むレコードの承認を要求します。承認、却下、またはキャンセルのルールセットを構成できます。期日が承認に追加されている場合には、承認者が指定された時間までに応答しないと、承認が自動的に承認、却下、またはキャンセルされます。

クラシックの承認 は、ユーザーまたはグループがタスクを承認または却下できるようにするプラットフォーム機能です。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

入力

アクションに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップすることも、ピルピッカーから選択することもできます。

レコード

データタイプ：*Record*

承認するレコードへの参照。レコードに承認フィールドが含まれている場合、フローデザイナー は [承認フィールド] の入力を自動的に設定します。

テーブル

データタイプ：*Table Name*

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認要求に関連付けられたレコードのテーブル名。選択するテーブルは、承認ステータスフィールドを保持することで、承認をサポートする必要があります。たとえば、タスクテーブルとその拡張には承認フィールドが含まれています。

承認理由

データタイプ：*String*

承認の理由を含むテキスト文字列。このフィールドは、監査と規制コンプライアンスに使用できます。この情報は、承認 [sysapproval_approver] テーブルに保存されます。たとえば、個人またはグループからの特定の承認要求が必要な理由をリストできます。

承認フィールド

データタイプ：*Field Name*

承認要求の結果を含むフィールド。

ジャーナルフィールド

データタイプ：*Field Name*

承認要求に関連付けられた履歴とコメントを保存するフィールド。

ルール

データタイプ：*Approval Rules*

どのユーザーが要求を承認または却下できるか、および承認または却下後に何が実行されるかを決定するための承認と却下のルール。

承認ルールまたは却下ルールには次のものがあります。

- 誰でも承認可能
- すべてのユーザーによる承認
- すべて応答済みで誰でも承認可能
- 承認しているユーザーの割合
- 承認するユーザーの数

承認ルールの横にあるフィールドに、目的の承認者を追加します。承認者を追加するには：

- 個々のユーザーまたはグループを選択します。
- レコードからフィールドをドラッグまたは選択します。
- 手動承認者 を選択すると、手動承認者が承認または却下を処理できるようになります。手動承認者は、手動で承認者関連リストに追加されたユーザーで、これにより要求を承認できます。たとえば、内容領域専門家をタスクに手動で追加して、要求を承認することができます。手動承認者の追加について詳しくは、「承認者関連リストを使用した承認の生成」を参照してください。

注: デフォルトでは、[承認を求める] は非アクティブなユーザーとグループの承認レコードを生成します。この動作により、特定のユーザーまたはグループが後で非アクティブになった場合でも、フローまたはアクションは引き続き機能できます。非アクティブなエンティティの承認を生成する動作を変更する場合は、com.glide.hub.flow.approval.allow_inactive_entity システムプロパティを設定します。「ワークフロースタジオ フローシステムプロパティ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

別の OR ルールセットを追加して、却下ルールを定義します。承認を定義するときに、一致する承認がない場合に実行される却下ルールを含めます。このような却下ルールは、フローが待機状態のままになるのを防ぎます。たとえば、承認を誰でも承認できる場合は、誰もそれを承認しない場合に備えて、時間ベースの却下ルールを作成します。

> **注:** 却下ルールのない承認ルール (またはその逆) を設定し、予想される承認ステータスが満たされない場合、ランタイム値はキャンセルされます。

インラインスクリプトを使用して承認ルールを指定する方法については、ServiceNow コミュニティのブログ投稿「Scripted Approvals in Flow Designer with Flow Variables (フロー変数を使用したフローデザイナーのスクリプト化された承認)」を参照してください。

期日

データタイプ： *Schedule Date/Time*

フローが永久的に承認待ち状態になるのを防ぐための承認ステータスの期日。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。アクションの任意の場所で入力として使用できます。

承認ステータス

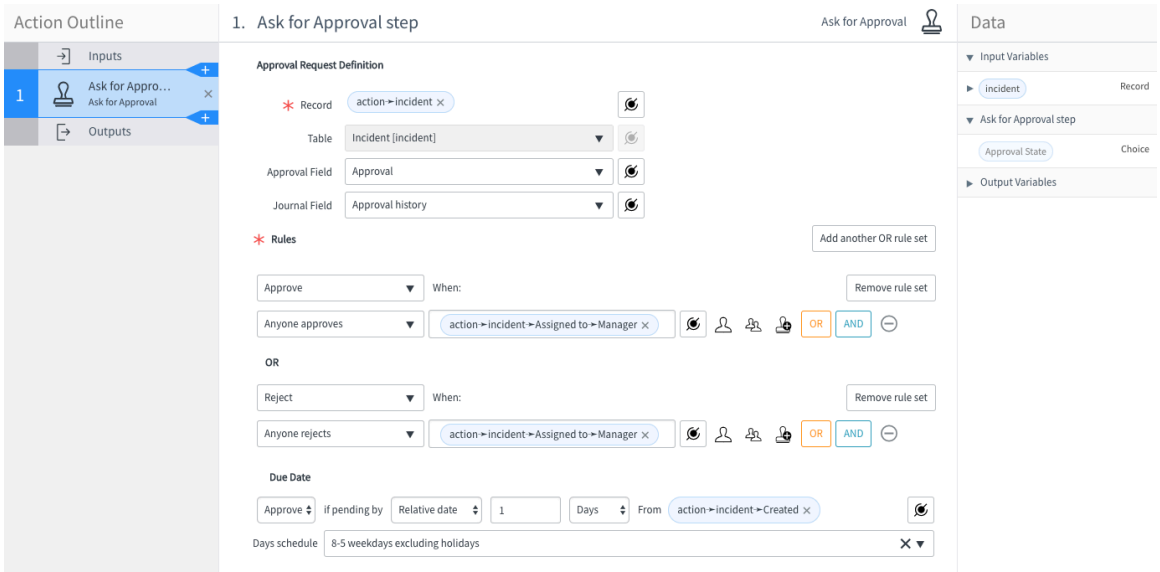
データタイプ：*Choice*

承認要求の完了ステータス。フロー実行の詳細ページには、次のいずれかの値が表示されます。

- 未要求 [not requested]
- 要求済み [requested]
- 承認済み [approved]
- 却下 [rejected]
- キャンセル [cancelled]
- 不要 [not_required]
- スキップ [skipped]

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例



「レコードの作成」ステップ

任意のテーブルでレコードを作成します。レコードのフィールドを動的に追加および設定することができます。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

入力

フローに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップすることも、ピルピッカーから選択することもできます。

テーブル

データタイプ：*Table Name*

レコードを作成するテーブル。

フィールド

データタイプ：*Template Values*

レコードのために設定するフィールド値。たとえば、簡単な説明を特定の値に設定するには、[簡単な説明] を選択して目標値を設定します。

テンプレート値入力の作成の詳細については、「テンプレート値の入力を作成」を参照してください。

> **重要:** システムでは、タスクレコードの追加コメントや作業メモといった複数のジャーナルフィールドの更新をサポートしていません。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

テーブル

データタイプ：*Table Name*

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レコードが作成されたテーブル。

レコード

データタイプ：*Record*

作成されたレコードへの参照。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

「レコードの作成」または「レコードの更新」ステップ

単一の操作を使用して、ServiceNow テーブルのレコードを作成または更新します。存在するレコードを更新するか、指定された値を使用してレコードを作成します。

既存のレコードの識別

「レコードの作成または更新」ステップは、一意の識別子として選択したフィールドで一致する値を検索することによって、既存のレコードを識別します。たとえば、[簡単な説明] フィールドと [優先度] フィールドがインシデントを一意に識別するように指定できます。ステップは、[簡単な説明] フィールドと [優先度] フィールドが一致するインシデントを検出すると、新しいレコードを作成するのではなく、一致するレコードを更新します。

注:

- 一意の識別子としてフィールドが選択されていない場合、ステップは指定されたフィールド値でレコードを作成します。
- 複数のレコードが一意の識別子の値と一致する場合、ステップはいずれのレコードも更新せず、フロー実行の詳細にエラーメッセージを表示します。

ロールと可用性

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

入力

アクションに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップするか、ピルピッカーから選択します。

テーブル

データタイプ：*Table Name*

レコードを作成または更新するテーブル。

フィールド

データタイプ：*Template Values*

レコードのために設定または更新するフィールド値。たとえば、簡単な説明を特定の値に設定するには、[簡単な説明] を選択して目標値を設定します。

重要: システムでは、タスクレコードの追加コメントや作業メモといった複数のジャーナルフィールドの更新をサポートしていません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サブフローにアクションを追加する場合は、「テンプレート値の入力を作成」ことが可能です。フィールド値を動的に設定すると、サーバー側の検証ルールはトリガーされますが、UI ポリシーをトリガーすることはできません。

一意性を決定

データタイプ：*True/False*

レコードをいつ更新または作成するかを決定する一意の識別子としてフィールドを選択するオプション。受信したフィールド値が既存のレコードフィールド値と一致する場合は、レコードが更新されます。受信したフィールド値が既存のレコードフィールド値と一致しない場合は、レコードが作成されます。このオプションは、必要なテーブル名とフィールドが選択されている場合に表示されます。

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。このオプションはステップステータスの出力に影響しません。次の選択肢があります。

- [アクションを停止せずに次のステップに進みます]：次のステップのアクションの実行を続行します。
- [エラーの評価に進みます **(Go to Error Evaluation)]**：アクションの実行を停止し、[エラーの評価] セクションに進みます。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。アクションの任意の場所で入力として使用できます。

レコード

データタイプ：*Record*

作成または更新されたレコードへの参照。

テーブル

データタイプ：*Table Name*

レコードが作成または更新されたテーブル。

エラーメッセージ

データタイプ：*String*

レコード操作が失敗した際に生成されるエラーメッセージ。

ステータス

データタイプ：*Choice*

アクションの完了ステータス。フロー実行の詳細ページには、次のいずれかの値が表示されます。

- 作成済み [created]：アクションによってレコードが作成されました。
- 更新 [updated]：アクションによってレコードが更新されました。
- エラー [error]：アクションによってエラーが発生しました。

ステップステータス

データタイプ：*Object*

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ステップに関するランタイムの詳細を含むオブジェクトデータピル。アクションの各ステップはステップステータスを返します。

ステップステータスコード (Step Status Code)

データタイプ：*Integer*

ステップでエラーが発生したかどうかを示す整数データピルです。何らかの理由でエラーが生成された場合、ステップは値 1 を返します。たとえば、必須の入力データが欠落しているか、間違ったデータタイプで出力を返す場合、ステップはエラーを生成する可能性があります。ステップは、正常に実行されると値 0 を返します。これらのコードはカスタマイズできません。

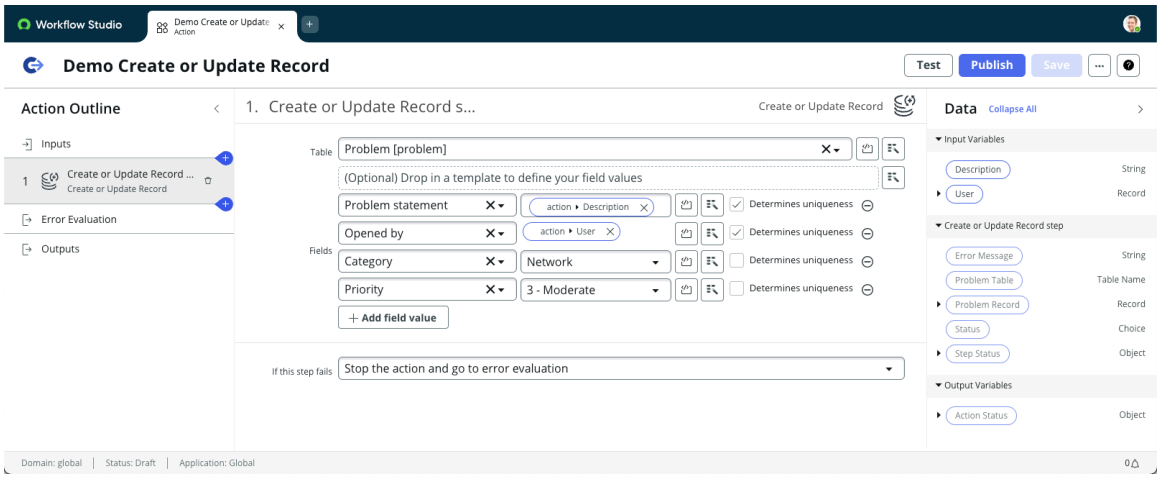
- 成功 [0]：ステップは成功しました。
- エラー [1]：ステップによってエラーが発生しました。

ステップステータスメッセージ (Step Status Message)

データタイプ：*String*

ステップまたはシステム操作によって生成されたエラーメッセージを含む文字列データピル。このステップステータスメッセージはカスタマイズできません。

Example: 問題レコードの作成または更新



このアクションには 2 つの入力があります。説明用の文字列入力と、ユーザーレコード用の参照入力があります。[レコードの作成または更新] ステップでは、これらの入力を使用して問題レコードを作成または更新します。[問題の説明] フィールドと [作成者] フィールドによって一意性が決まります。入力値が一致すると、ステップは作成操作の代わりに更新操作を実行します。

「タスクの作成」ステップ

タスクテーブルの拡張にタスクレコードを作成します。タスクテーブルを選択した後、フィールドを動的に選択してアクションを構成できます。[親] フィールドを定義すると、タスクが親レコードに関連付けられます。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

入力

フローに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップすることも、ピルピッカーから選択することもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル

データタイプ：*Table Name*

レコードを作成するタスクテーブルの拡張。たとえば、カタログタスク [sc_task] やインシデントタスク [incident_task] などです。

フィールド値

データタイプ：*Template Values*

レコードのために設定するフィールド値。たとえば、簡単な説明を特定の値に設定するには、[簡単な説明] を選択して目標値を設定します。

待機

データタイプ：*True/False*

タスクレコードがアクティブでなくなるまでフローを一時停止するかどうかを示すフラグ。True/False データピルをこの入力にドラッグアンドドロップすることで、待機条件を追加できます。条件フィールドが true の場合、フローはタスクレコードの完了のみを待機します。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

テーブル

データタイプ：*Table Name*

タスクレコードが作成されたテーブル。

タスク

データタイプ：*Record*

作成されたタスクレコードへの参照。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

複数のレコードを削除ステップ (Delete Multiple Records step)

単一の操作として複数の既存のレコードをルックアップして削除します。このアクションデザイナー手順により、最初にレコードリストを検索してから、リスト内の各レコードを削除する必要がなくなります。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド

フィールド	説明
テーブル	削除するレコードを含むテーブルを選択します。
条件	レコードの検索に使用するフィルター条件を定義します。
順番	定義された条件に一致するレコードが複数ある場合に、レコードをソートするために使用するフィールドを選択します。
ソートタイプ	レコードをアルファベット順に昇順または降順でソートするかどうかを決定します。
ビジネスルールとワークフローを実行 (Run Business Rules and Workflow)	テーブルに関連付けられているビジネスルールとワークフローを呼び出すかどうかを決定します。
エラーがあっても続行する (Don't fail on error)	エラーが発生したときにフローの実行を続行するかどうかを指定します。

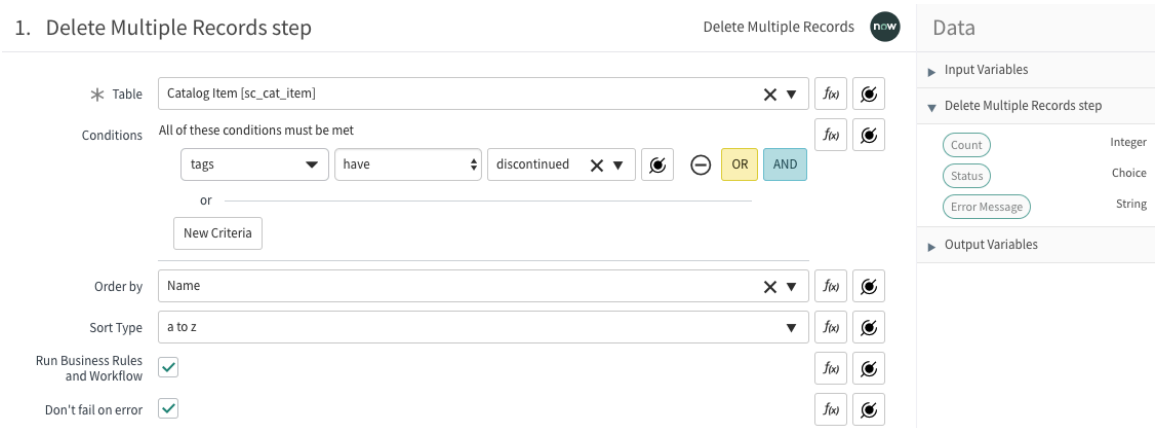
アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

例



注: この例は、図示のみを目的としています

出力

フィールド	説明	データタイプ
カウント	削除されたレコードの数。削除されたレコードがない場合、カウントは 0 です。	整数

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明	データタイプ
エラーメッセージ	ステップでエラーが生成された場合に表示されるメッセージ。	文字列
状況	ステップの完了ステータス (数値)。 • 0 (成功) • 1 (エラー)	選択肢

「レコードの削除」ステップ

任意のテーブルのレコードを削除します。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

フィールド

フィールド	説明
レコード	削除するレコードです。レコード データ ピルをドラッグアンドドロップするか、データ ピル ピッカーを使用してレコードを選択します。
テーブル	読み取り専用です。レコードに関連付けられたテーブルに設定します。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

[イベントの起動] アクション

イベント [sysevent] テーブルに、スケジュール済みイベントハンドラーによって処理されるシステムイベントレコードを作成します。フローデータを使用してイベントパラメーターを渡します。

ロールと使用可用性

ServiceNow コアアクションとして利用可能です。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、アクションをフローに追加し、構成の詳細を定義できます。

入力

アクションに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、ピルピッカーを使用してデータピルを選択することもできます。

イベント [イベント登録]

データタイプ：*Reference.Event Registration[sysevent_register]*

作成するシステムイベントのタイプを定義する [イベント登録] レコード。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レコード

データタイプ：*Record*

イベントをトリガーしたレコードの Sys ID。

テーブル

データタイプ：*Table Name*

イベントをトリガーしたレコードを含むテーブル。

パラメーター 1

データタイプ：*String*

最初のイベントパラメーターを指定するテキスト入力。

パラメーター 2

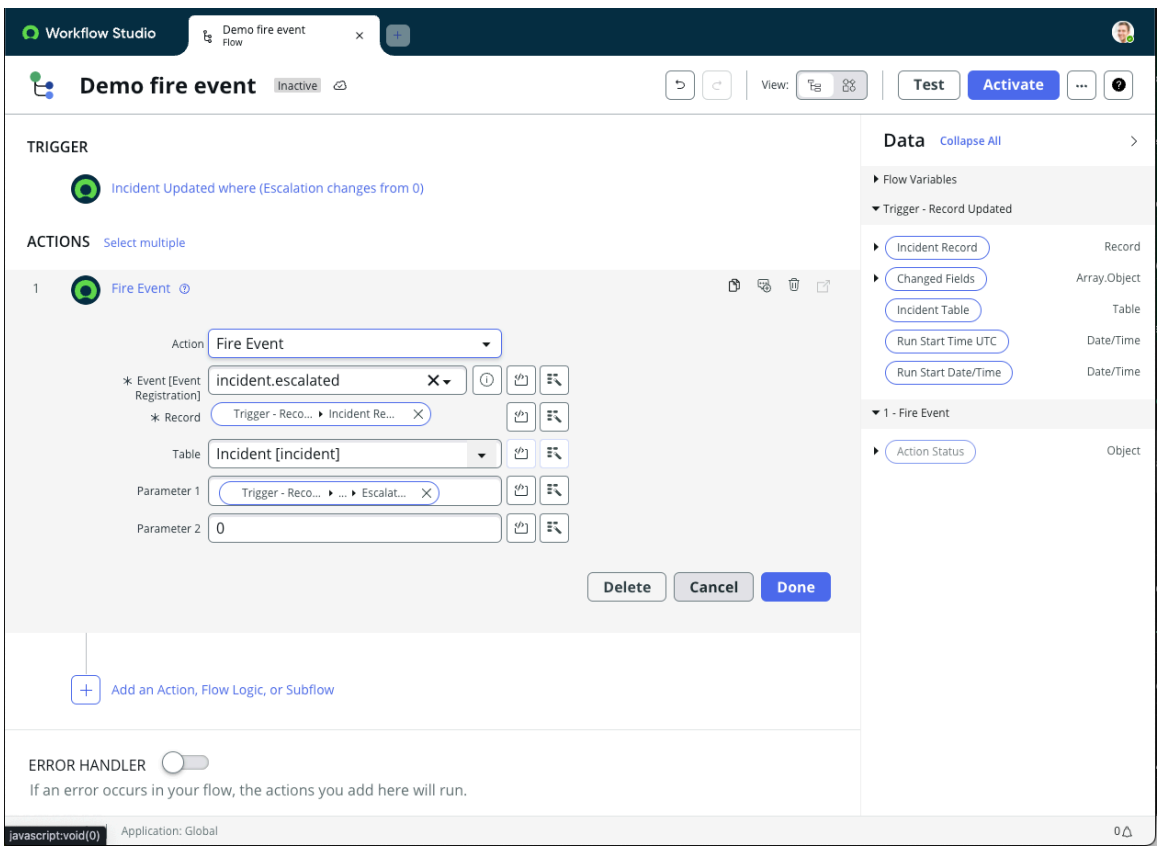
データタイプ：*String*

2 番目のイベントパラメーターを指定するテキスト入力。

出力

このアクションには出力がありません。

Example: インシデントエスカレーション済みイベントの開始



この例では、インシデントレコードが更新されて [エスカレーション] フィールドの値が変更されると、incident.escalated イベントが作成されます。incident.escalated イベントは、パラメーター 1 の値が [エスカレーション] フィールドの現在の値であり、パラメーター 2 の値が [エスカレーション] フィールドの以前の値であると想定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続情報の取得ステップ

別のステップ (REST ステップなど) からの接続および認証情報の詳細をアクションの他のステップに入力します。

> **注:** 接続情報の取得ステップはベースシステムでは利用できません。統合ハブ スターター パックインストーラー (com.glide.hub.integrations) 以降のサブスクリプションが必要です。ServiceNow® 統合ハブ のサブスクリプションパッケージの詳細については、「統合ハブ使用法とサブスクリプション」を参照してください。 必要なプラグインを有効化した後、ステップは [統合] の下に表示されます。

ロールと使用可用性

統合ハブ スターターサブスクリプションを設定すると、接続情報の取得ステップを アクションデザイナー アクションステップとして使用できるようになります。action_designer ロールを持つユーザーは、接続情報の取得ステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

入力

ステップに必要な各入力の値を提供します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップすることも、ピルピッカーから選択することもできます。

入力	データタイプ	説明
タイプ	選択肢	以下から選択します。 • 接続エイリアス：リモートシステムへの接続に必要な接続情報に関連付けます。 • 認証情報エイリアス：リモートシステムへの接続に必要な認証情報データに関連付けます。 選択するオプションに応じて、次の入力で適切な接続エイリアスまたは認証情報エイリアスを選択する必要があります。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。アクションの任意の場所で入力として使用できます。

出力	データタイプ	説明
ランタイムエイリアス ID	文字列	リモートシステムへの接続に使用される接続エイリアスまたは認証情報エイリアスレコードのシステム ID。
接続 ID	文字列	リモートシステムへの接続に使用される接続レコードのシステム ID。
接続 URL	文字列	リモートシステムへの接続に使用される URL。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力	データタイプ	説明
認証情報 ID	文字列	リモートシステムへの接続に使用される認証情報レコードのシステム ID。
認証情報の値	パスワード (2 通りの暗号化)	リモートシステムへの接続時に認証に使用される双方向暗号化パスワード。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

メールステップから最新の応答テキストを取得

アクション内の他のステップに、最新の返信または転送メッセージをメールチェーンで提供します。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

入力

ステップに必要な各入力の値を提供します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップすることも、ピルピッカーから選択することもできます。

入力	データタイプ	説明
メールレコード	レコード	最新の返信または転送メッセージをアクション内の他のステップに提供するメールレコードです。リストからメール [sys_email] レコードを選択するか、[データ] パネルからメール [sys_email] レコードデータピルを追加します。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。アクションの任意の場所で入力として使用できます。

出力	データタイプ	説明
最新の応答テキスト	文字列	ステップの入力用に選択したメール [sys_email] レコードの最新の返信または転送メッセージの本文テキストです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力	データタイプ	説明
		注: このステップの入力に [タイプ] が [新規] のメール [sys_email] レコードを選択した場合、最新の応答テキスト出力はメールの本文全体になります。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

JDBC ステップ

SQL コマンドをリレーショナルデータベースに送信するための再利用可能なアクションを作成します。

注:

- このステップには 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。詳細については、「Legal schedules - 統合ハブ overview 必要なプラグインを有効化した後、ステップは [統合] の下に表示されます。
- JDBC ステップ は、JDBC ステップ 機能を備えた ServiceNow® MID サーバー でのみ実行されます。プラグイン 統合ハブ 標準パックインストーラー (com.glide.hub.integrations.standard) 以降を有効化して、MID サーバー の JDBC 機能を使用します。

ロールと可用性

JDBC ステップ は アクションデザイナー のアクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

入力のサニタイズ

すべてのユーザー入力をエスケープして、悪意のあるユーザーが悪意のある SQL ステートメントを実行してターゲットデータベースで SQL インジェクションが発生する可能性を排除します。JDBC ステップ SQL ステートメントでデータピルを使用する場合は、最初に SQL のサニタイズ変換関数を使用してサニタイズしてください。この変換関数カテゴリは、データピルが SQL ステートメント入力にドロップされると自動的に表示されます。

SQL 操作包含リスト

デフォルトでは、次の SQL 操作を実行できます。

- SELECT
- 挿入
- 更新

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 消去
- 表示
- DESCRIBE

これらの SQL 操作のうち、JDBC ステップ で実行できる一部のみを有効にするには、MID サーバープロパティ *mid.property.jdbc_operations* を作成し、SQL 操作をカンマで区切って入力します。MID サーバー プロパティの詳細については、「MID サーバープロパティ」を参照してください。

注: 複数の SQL ステートメントを使用することはできません。出力パラメーターを持つストアドプロシージャはサポートされていません。

フィールド

フィールド	説明
接続の詳細	
接続	使用する接続のタイプ。 • [インラインで接続を定義]：アクションステップ内の接続情報を定義します。 • [接続エイリアスを使用]：接続エイリアステーブルを使用して接続情報を定義します。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。 接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアスについて」を参照してください。
接続エイリアス	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。 このフィールドは、接続リストから [接続エイリアスを使用] が選択されている場合に利用可能です。
認証情報エイリアス	アクションステップを実行するために使用される認証情報エイリアス。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報を構成する必要がなくなります。また、認証情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「 資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID 選択	特定の MID サーバーまたは MID クラスターを選択するオプション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	• **MID** サーバーの自動選択：MID サーバーを自動的に選択します。 • 特定の **MID Server**：選択した MID サーバーを使用します。 • 特定の **MID** クラスター：選択した MID クラスターを使用します。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID クラスター	使用する MID クラスターのデータピル。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** クラスター] が選択されている場合に利用可能です。
データベースタイプ	この接続のデータベース タイプ。以下から選択可能です。 • **MySQL** • **Oracle** • **SQLServer** • カスタム デフォルトの選択は [カスタム] です。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
JDBC ドライバー	DB2 Universal や Sybase などのデフォルトのデータベースタイプでない場合に、この接続に使用するドライバー。データベースタイプは [カスタム] です。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、データベースタイプリストから [カスタム] が選択されている場合に利用可能です。
接続 URL	指定したデータベースへの接続に MID サーバー が使用する URL。この URL は、フォームを保存したときに自動的に作成され、デフォルトのデータベースでは読み取り専用になります。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、データベースタイプリストから [カスタム] が選択されている場合に利用可能です。
MID アプリケーション	選択対象となるために MID サーバー がサポートする必要があるアプリケーションです。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
できること	MID サーバー の機能。**[JDBC]** を選択します。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
接続タイムアウト	ターゲットデータベースへの接続の試行中にアクティビティが待機する最大経過時間 (秒)。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。 **注:** 接続が古くなる可能性があるため、[接続タイムアウト] 値をゼロに設定しないでください。
クエリ タイムアウト	クエリを応答なしで実行できる最大経過時間 (秒)。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
JDBC 構成	
SQL ステートメント	ステップが実行する SQL ステートメント。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: ステップ SQL ステートメントでデータピルを使用する場合は、最初に前処理スクリプトステップを使用してそれらをサニタイズします。詳細については、「エスケープ関数を使用した入力のサニタイズ」を参照してください。
最大行数	SQL ステートメントから返される最大行数。デフォルト値は **1,000** です。
最大ペイロードサイズ (KB)	SQL ステートメントから返される最大許容ペイロードサイズ (KB)。デフォルトのペイロードサイズは **5120 KB** です。最大ペイロードサイズは **10 MB** です。
JDBC ステップのテスト	JDBC ステップをテストします。[JDBC ステップのテスト (Test JDBC Step)] ウィンドウにテスト結果が直接表示されます。詳細については、「JDBC ステップのテスト」を参照してください。
再試行ポリシー	
再試行ポリシーを有効化	再試行ポリシーを有効にするオプション。詳細については、「再試行ポリシー」を参照してください。
エイリアスのデフォルトポリシーを上書き	デフォルトの再試行ポリシーを上書きするオプション。接続リストの [インラインで接続を定義] が選択されている場合は、このオプションは適用されません。
再試行ポリシー	接続エイリアスに関連付けられているデフォルトの再試行ポリシー。エイリアスのデフォルトポリシーを上書きが選択されている場合は、デフォルトの再試行ポリシーを上書きして要件に基づいて別の既存の再試行ポリシーを選択できます。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

JDBC ステップのテスト

JDBC ステップを含むアクションをテストまたは公開する前に、JDBC ステップをテストしてください。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

アクションをテストする前に JDBC ステップをテストする必要があります。テストすることにより、関連する複合オブジェクト出力スキーマがテーブル列から作成され、後続のステップでデータピルとして使用できることを確認できます。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. JDBC ステップを使用してアクションを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. **[JDBC** ステップのテスト] をクリックします。
   [JDBC ステップのテスト] ポップアップウィンドウが表示されます。
4. JDBC ステップが前のステップのアクション入力または出力を入力として受け取る場合は、JDBC ステップをテストするために必要な入力値を [ステップ入力ピル **(Step input pills)]** フィールドに入力します。

   注: レコードの更新、挿入、削除時には、[ステップ入力ピル **(Step input pills)]** フィールドへの入力値は必要ありません。

5. [テストを実行] をクリックします。
   - SELECT クエリを実行すると、サンプル結果が **[JDBC** ステップのテスト] ポップアップウィンドウに表示されます。サンプル結果には、列名、列タイプ、および最初の行の値が含まれます。
   - UPDATE、INSERT、または DELETE クエリが実行されると、影響を受ける行数を示すメッセージが表示されます。
6. サンプル結果を JDBC ステップ出力として使用するには、[結果の使用] をクリックします。

   注: レコードの更新、挿入、削除時に [結果の使用] は表示されません。

7. JDBC ステップで SELECT クエリが実行されたときに別のテーブルのスキーマを取得するには、[ステップ入力ピル **(Step input pills)]** フィールドに必要な値を入力し、[テストを実行] をクリックします。

タスクの結果
JDBC ステップで SELECT クエリが実行されると、[出力] の下に **ResultSet** が表示されます。関連する複合オブジェクト出力が設定されます。複合オブジェクトの詳細については、「複合データ」を参照してください。

次のタスク
アクションをテストして公開します。

JSON Builder ステップ

別のステップで使用する JSON ペイロードを作成します。値を入力するか、データピルを使用して動的ペイロードを生成します。このステップでは、ネストされた構造のオブジェクトやアレイなど、いくつかのデータタイプがサポートされています。

ロールと使用可能性

このステップには 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。詳細については、「Legal schedules - 統合ハブ overview 必要なプラグインを有効化した後、ステップは [統合] の下に表示されます。

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

入力

アクションに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップすることも、ピルピッカーから選択することもできます。

名前

データタイプ：*String*

名前と値のペアの名前の部分です。値を入力するか、データピルを使用して動的ペイロードを生成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

値

データタイプ：*String*

名前と値のペアの値の部分です。値を入力するか、データピルを使用して動的ペイロードを生成します。複合オブジェクトピルを使用して行にオブジェクトデータタイプを入力できますが、そうすると、複合オブジェクトピルに既に存在する子がすべて削除されます。

タイプ

データタイプ：*Choice*

名前と値のペアのデータタイプです。名前または値にデータピルを使用する場合は、ピルのデータタイプがここで選択したデータタイプと一致していることを確認してください。オプションは次のとおりです。

- 文字列
- オブジェクト
- 番号
- ブール
- アレイ

アレイとオブジェクトの場合は、プラスアイコン ( ) を使用して、アレイまたはオブジェクトに名前と値のペアを追加します。

空の値の場合

データタイプ：*Choice*

名前と値のペアの値が空または null の場合の処理を指定するオプションです。

- そのまま残す **(Leave as is)**：空または null 値を空の文字列として保持します。
- プロパティを省略 **(Omit property)**：値が空または null の場合、名前と値のペアを除外します。
- **null** として設定 **(Set as null)**：空または null 値を null データタイプとして返します。
- エラーをスロー：名前と値のペアの値が空または null 値の場合、エラーを返します。

外部の構造を含める

データタイプ：*True/False*

トップレベルの JSON コンテナに中括弧を含めるオプションです。

空の構造を省略

データタイプ：*True/False*

空のペイロードを省略するオプションです。名前と値のすべてのペアで [空の値の場合] フィールドの [プロパティを省略] を選択し、ペイロード内のすべての名前と値のペアが空の値を生成した場合に、空のペイロードが発生する可能性があります。

構造

データタイプ：*Structure*

ステップによって生成される読み取り専用ペイロードです。

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。アクションの任意の場所で入力として使用できます。

出力

データタイプ：*String*

文字列としての JSON ペイロードです。ペイロードをオブジェクトとして使用する場合は、JSON パーサーステップ を使用して文字列を解析できます。

ステップステータス

データタイプ：*Object*

ステップに関するランタイムの詳細を含むオブジェクトデータピル。アクションの各ステップはステップステータスを返します。

[ステップステータス] > [コード]

データタイプ：*Integer*

ステップでエラーが発生したかどうかを示す整数データピルです。デフォルトでは、値 1 はステップでエラーが生成されたことを示します。値 0 は、ステップが正常に実行されたことを示します。これらのコードはカスタマイズできません。

[ステップステータス] > [メッセージ]

データタイプ：*String*

ステップまたはシステム操作によって生成されたエラーメッセージを含む文字列データピル。このメッセージはカスタマイズできません。

JSON ペイロードを生成

[ペイロードの **JSON** を追加 **(Add JSON for Payload)]** ボタンを使用して、JSON ペイロードを自動的に生成します。このボタンにより [ペイロードを追加 (Add Payload)] スクリプトエディターが開きます。そこで JSON ペイロードを入力すると、構造化入力に自動的に逆シリアル化できます。

JSON ペイロードジェネレーターを使用する際に注意すべき点がいくつかあります。

- JSON に空のキーがある場合でも、ペイロードは引き続き生成されます。
- スクリプトエディターに重複するキーがある場合、オブジェクト内の最後のキーエントリによって、同じ名前の以前のキーの値が上書きされます。
- ルートオブジェクトがアレイの場合、ルートアレイはルートオブジェクトにラップされます。
- アレイに複数のオブジェクトが含まれている場合、オブジェクト内のすべてのキーが 1 つの親オブジェクトに結合されます。

JSON ペイロードジェネレーターは、次をサポートしていません。

- 空のペイロード
- 非複合オブジェクトタイプ
- 無効な JSON
- 空のルートオブジェクト (空のアレイなど)
- 65,000 バイトを超えるペイロード

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: JSON ペイロードを生成すると、JSON ビルダーステップの既存の構造が上書きされます。

Kafka プロデューサーステップ

Kafka 環境のトピックにイベントを公開するアクションを作成します。

ロールと使用可用性

Kafka プロデューサーステップはアクションデザイナーのアクションステップです。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

このステップには Apache Kafka 向けストリームコネクト サブスクリプションが必要です。詳細については、「https://www.servicenow.com/now-platform/workflow-data-fabric.html」を参照してください。

このステップには、ServiceNow Stream Connect Installer [com.glide.hub.stream_connect.installer] プラグインが必要です。

フィールド

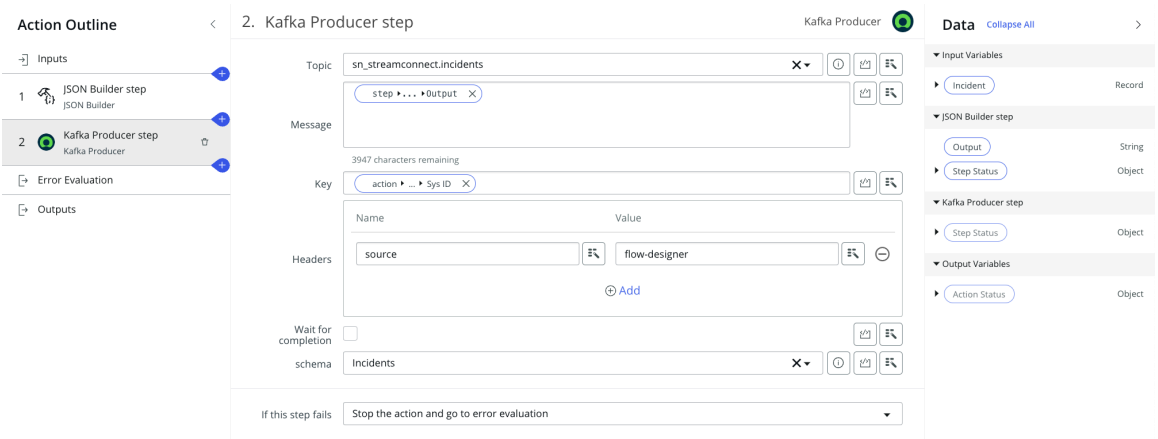
フィールド	説明
トピック	メッセージの公開先となるトピックの名前。1 つのトピックには同じタイプのメッセージが格納されます。たとえば、Payments という名前のトピックには最近の支払いに関するメッセージが格納されると考えられます。 ドロップダウンリストからトピックを選択します。
メッセージ	メッセージのテキスト。
キー	特定のパーティションのキーの名前。トピックはパーティションに分割できます。同じキーを持つメッセージは同じパーティションに格納されます。たとえば、6 月というキーを持つ支払に関するメッセージがすべて、Payments トピックの同じパーティションに保存されます。
ヘッダー	名前/値ペアのメッセージのヘッダー。[名前] フィールドと [値] フィールドの両方で、値を入力するか、データピルを使用できます。
完了待ち	フローがステップの完了を待ってから続行するように要求するオプション。
スキーマ	スキーマテーブルへの参照。リストからスキーマを選択します。スキーマの詳細については、「ストリームコネクトのスキーマ管理」を参照してください。 注: [メッセージ] フィールドで送信するメッセージは、選択したスキーマの構造に従う必要があります。
このステップが失敗した場合	エラー評価に進むか、次のステップの実行を続行するオプション。このオプションはステップステータスに影響しません。次のいずれかを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	• [アクションを停止し、エラー評価に進みます]：現在のステップでアクションの実行を停止し、エラーの評価に進みます。ステップステータスオブジェクトには、ステップによって返されたエラー情報が含まれています。 • [アクションを停止せずに次のステップに進みます]：エラーを無視し、次のステップからアクションの実行を続行します。ステップステータスオブジェクトには、ステップによって返されたエラー情報が含まれています。アクションが引き続き実行されるかどうかに関係なく、アクションエラーの評価が実行されます。

例

この例では、インシデントの作成を記録するメッセージを送信します。メッセージにはインシデント識別子、説明、およびメッセージヘッダーが含まれます。メッセージはインシデントトピックに送信され、インシデント識別子の名前がついたパーティションに格納されます。



出力

フィールド	説明	データタイプ
ステップステータス	ステップに関するランタイムの詳細を含むオブジェクトデータピル。アクションの各ステップはステップステータスを返します。	オブジェクト
[ステップステータス] > [コード]	ステップでエラーが発生したかどうかを示す整数データピルです。デフォルトでは、値 1 はステップでエラーが生成されたことを示します。値 0 は、ステップが正常に実行されたことを示します。これらのコードはカスタマイズできません。	整数
[ステップステータス] > [メッセージ]	ステップまたはシステム操作によって生成されたエラーメッセージを含む文字列データピル。このメッセージはカスタマイズできません。	文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

「ログ」ステップ

フローデザイナーログテーブル sys_flow_log にメッセージを記録します。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

フィールド

フィールド	説明
ログレベル	ログメッセージの重要度。 • エラー • 警告 • Info
ログメッセージ	フローログ [sys_flow_log] テーブルに表示するメッセージ。テキストを入力するか、データピルをフィールドにドラッグします。 注: フローデザイナー の設計環境では、ログメッセージに入力できるテキスト文字数は 255 文字のみです。この長さの制限は、直接入力されたテキストにのみ適用されます。データピル値は 255 文字を超えてもかまいません。255 文字を超える値をログに記録するには、データピル値を使用するか、GlideSystem -log(String message, String source) メソッドをスクリプトから呼び出します。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

「レコードのルックアップ」ステップ

定義された条件に基づいてテーブルからレコードを検索します。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

フィールド

フィールド	説明
テーブル	リストからテーブルを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
条件	レコードをフィルタリングするための静的条件または動的条件を設定します。アクションが実行されるたびに適用される静的条件を定義するには、条件ビルダーで条件を定義します。フローデザイナーが条件を動的に適用できるようにするには、条件タイプの入力を定義し、入力データピルを [条件] フィールドにドラッグアンドドロップします。 参照フィールドの値を検索する条件をビルドする場合は、システム ID 値を明示的に指定するデータピルを使用します。条件の形式が [参照フィールド][次の値に等しい][参照タイプデータピル->システム **ID]** であることを確認します。たとえば、変更テーブルとインシデントテーブルの両方に、ユーザーテーブルへの参照フィールドが含まれます。要求者が問い合わせユーザーである変更レコードをインシデントレコードから検索するには、条件 [要求者][次の値に等しい][トリガー->インシデントレコード->問い合わせユーザー->システム **ID]** を作成します。 [要求者][次の値に等しい][アクション->インシデント->問い合わせユーザー->システム **ID]**。ここでインシデントはインシデントレコードの入力変数です。
順番	定義された条件に複数のレコードが一致する場合に結果をソートする方法を決定します。結果をソートするために使用するフィールドを選択します。
ソートタイプ	アルファベット順に昇順または降順でソートするかどうかを選択します。
複数のレコードが見つかった場合	定義された条件に複数のレコードが一致する場合に返される内容を決定します。 • 最初のレコードのみを返す • ステップを失敗させる
エラーがあっても続行する (Don't fail on error)	レコードが見つからない場合にフローを失敗させるかどうかを決定します。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

レコード

データタイプ：*Record*

Conditions 入力で指定した条件に基づいて検出されたレコード。

テーブル

データタイプ：*Table*

返されたレコードに関連付けられたテーブル名。

ステータス

データタイプ：*Choice*

レコードが正常に見つかった場合は 1、エラーがあった場合は 0。

エラーメッセージ

データタイプ：*String*

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レコードが見つからなかった理由の詳細を含むメッセージ。

注: この出力の値は、*Status* 出力の値が 0 の場合にのみ設定されます。

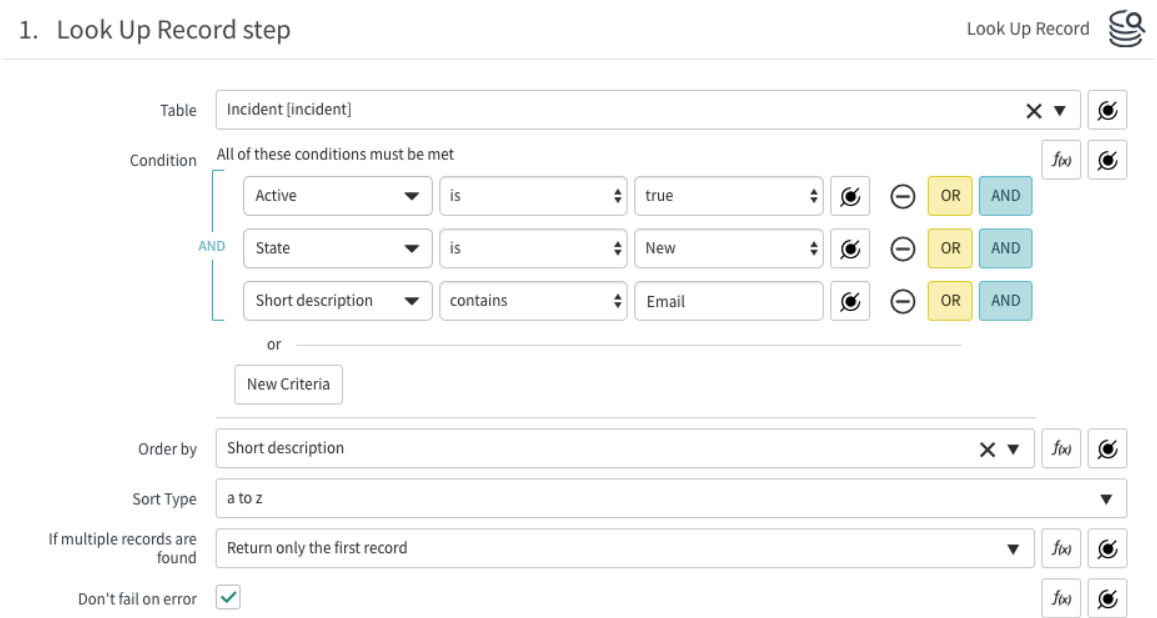
アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

例



「複数レコードのルックアップ」ステップ

定義された条件を使用して、任意のテーブルで複数のレコードを検索します。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

入力

アクションに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグするか、ピルピッカーから選択します。

テーブル

データタイプ：*Table Name*

検索するレコードを含むテーブル名。

条件

データタイプ：*Conditions*

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レコードの検索に使用するフィールド名とフィールド値。インラインスクリプトを使用して条件を指定する場合は、GlideRecord クラスおよび GlideQueryCondition クラスを使用してクエリをビルドすることを検討してください。「GlideRecord - グローバル」および「GlideQueryCondition - グローバル」を参照してください。

順番

データタイプ：*Field Name*

結果をソートするために使用するフィールド。

ソートタイプ

データタイプ：*Choice*

アルファベット順に昇順または降順でソートするためのオプション。

結果の最大数

データタイプ：*Integer*

ステップが返すことができるレコード結果の最大数。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

レコード

データタイプ：*Records*

指定したルックアップ条件に基づいて見つかったレコードのシステム ID のリスト。詳細については、「レコード.[テーブル] データ型」を参照してください。

テーブル

データタイプ：*Table Name*

レコードリストを含むテーブル。

カウント

データタイプ：*Integer*

ステップが返したレコードの数。

一般的なガイドライン

[レコードを検索] アクションを操作するときは、次の一般的なガイドラインを使用してください。

For Each フローロジックでレコードを処理する

For Each フローロジックを使用してレコードリストを反復処理します。For Each フローロジックの使用の詳細については、「For Each フローロジック」を参照してください。または、スクリプトステップを使用して、カスタムアクション内のレコードリストを処理することもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

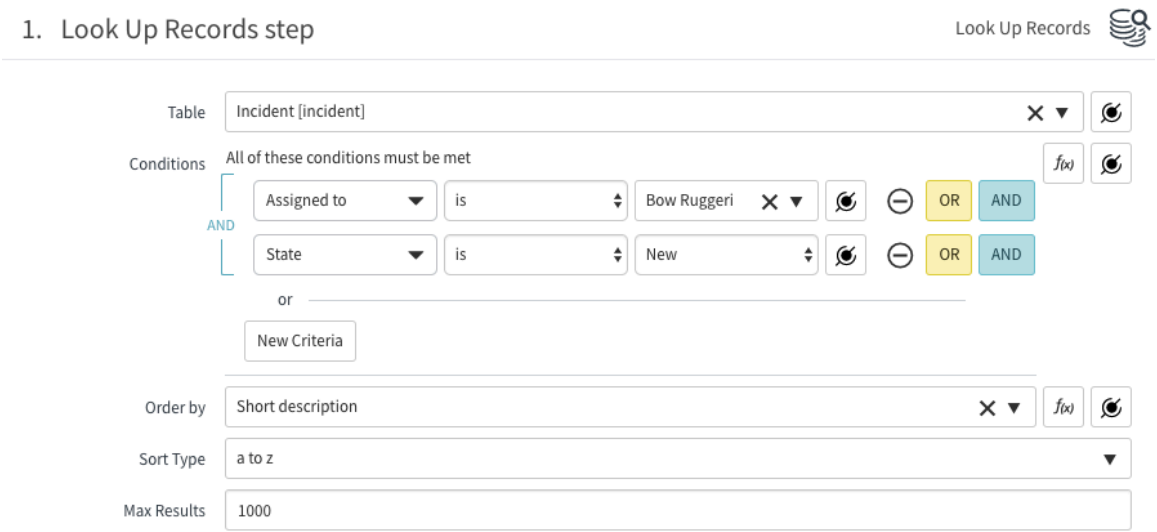
結果の最大数を設定してパフォーマンスを向上させる

アクションのパフォーマンスを向上させるには、[結果の最大数] 入力を 1,000 レコード以下に設定します。システムが検索する必要があるレコードが多いほど、それらの識別と処理に必要なシステムリソースが増大します。

条件を使用してレコードをフィルタリング

条件を使用して、ステップが返すレコードの数を制限します。指定できる条件が具体的であるほど、アクションのパフォーマンスは向上します。

例



「通知」ステップ

通知をアクション内のステップとしてトリガーします。それには、通知をトリガーするレコード (インシデント、変更要求、問題、ユーザー レコードなど) を選択し、関連付ける通知を定義します。

通知 はプラットフォーム機能です。フローデザイナーで通知をアクション ステップとしてトリガーする前に、通知がプラットフォームで使用するように設定されていることを確認してください。

- メール通知を作成する ときは、通知フォームの [送信時期] タブにある [送信条件] フィールドを [トリガー] に設定します。
- ユーザーが有効なプライマリー電子メール チャネルを使用していて、そのすべての通知が有効であることを確認します。

ロールと使用可能性

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

フィールド

フィールド	説明
レコード	入力レコードまたは前のステップのレコードをドラッグアンドドロップします。これは通知をトリガーするレコードになります。 注: 「パスワードの更新が必要」通知など、一部の通知は、特定のレコードまたはテーブルに関連付けられていません。このような通知を設定する場合は、このフィールドを空白のままにしておきます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
テーブル名	読み取り専用です。トリガーとなるレコードのテーブルに設定します。
通知	トリガーする通知を選択します。選択可能な通知は、指定したレコードのテーブルに関連付けられます。レコードを選択しない場合は、関連付けられたレコードまたはテーブルがない通知を選択できます。通知を作成する方法については、「メール通知を作成する」を参照してください。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

例

ペイロードビルダーステップ

アクションデザイナーが JSON および XML ペイロードで動的データを使用して名前/値ペアを簡単に作成できるようにします。

ロールと可用性

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

注: JSON の場合、このステップは廃止され、JSON Builder ステップに置き換えられました。

フィールド

フィールド	説明
名前と値のペア	ペイロードに含める名前と値のペア。名前と値のペアを追加するには、プラスアイコンをクリックします。データピルをいずれかのフィールドにドラッグし、動的ペイロードを生成します。 [名前] は JSON ではキーとなり、XML では要素になります。たとえば、次の名前と値のペアを作成するとします。 • 名前：`short_description` • 値：`[action]->[short_description]` 名前と値のペアが JSON として書式設定される場合は、次のようになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明

	`"short_description": "[action]->[short_description]"`
	
	名前と値のペアが XML として書式設定される場合は、次のようになります。
	
	`<short_description>[action]->[short_description]</short_description>`

空の場合省略	値が空または null である場合、名前と値のペアを除外するためのオプション。 **注:** このフィールドが表示されるのは、下向き矢印をクリックして詳細オプションを表示した後のみです。
出力の形式	ペイロードのファイル形式。 • **JSON**：JSON ドキュメントとしてペイロードを書式設定します。 • **XML**：XML ドキュメントとしてペイロードを書式設定します。
名前空間	各要素に適用する XML 名前空間。たとえば、名前空間をインシデントに設定すると、次のようになります。 `<incident:short_description>[action]->[short_description]</incident:short_description>` **注:** このフィールドは、[出力形式] が **[XML]** に設定されている場合にのみ表示されます。

外部の構造を含める	出力形式に適したトップレベルコンテナを含めるか除外するオプション。[出力形式] が JSON であるとき、中かっこで名前と値のペアを囲みます。[出力形式] が XML であるとき、指定した XML 要素に名前と値のペアが含まれます。
	
	たとえば、名前と値のペアが JSON として書式設定される場合は、次のようになります。
	
	`{`
	`  "short_description": "[action]->[short_description]"`
	`}`
	
	名前と値のペアが XML として書式設定される場合は、次のようになります。
	
	`<xml>`
	
	`<short_description>[action]->[short_description]</short_description>`
	`</xml>`

空の構造を送信	ペイロードが空の場合、有効な JSON 構造または XML 構造を送信するオプション。ペイロードに JSON または XML の構造テキストを含めるには、このオプションを有効にします。 たとえば、空の構造が JSON として書式設定される場合は、次のようになります。 `{}` 空の構造が XML として書式設定される場合は、次のようになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	`<xml></xml>` 空のペイロードを生成するには、このオプションを無効にします。 名前と値のすべてのペアに [空の場合省略] オプションを選択すると、空のペイロードが発生することがあり、ペイロードの名前と値のすべてのペアによって空の値が生成されます。
親ノード	名前と値のペアを含む XML 要素の名前。デフォルトの親ノード要素は `xml` です。 **注:** このフィールドが表示されるのは、[出力形式] を **[XML]** に設定し、[外部の構造を含める] のオプションを有効にしたときのみです。
プレビュー	ステップによって生成される読み取り専用ペイロード。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

PowerShell ステップ

MID サーバーを介して、ServiceNow インスタンスからのリモートマシン上で PowerShell スクリプトを実行します。

PowerShell は Windows .NET Framework をベースとして開発されたもので、Windows マシンとアプリケーションの管理の制御および自動化を目的としています。ServiceNow は PowerShell 3.0 ～ 5.1 をサポートしています。PowerShell 3.0 では Windows 2003 Server はサポートされていません。

注: このステップには 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。詳細については、「Legal schedules - 統合ハブ overview

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

フィールド

フィールド	説明
接続	使用する接続のタイプ。 • [インラインで接続を定義]：アクションステップ内の接続情報を定義します。 • [接続エイリアスを使用]：接続エイリアステーブルを使用して接続情報を定義します。エイリアスを使用することで、複数の環境でアク

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	ションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。 接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアスについて」を参照してください。
接続エイリアス	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。 注: このフィールドは、接続リストから [接続エイリアスを使用] が選択されている場合に利用可能です。
認証情報エイリアス	アクションステップを実行するために使用される認証情報エイリアス。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報を構成する必要がなくなります。また、認証情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「 資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。 注: このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
ホスト	アクションステップが実行されるターゲットホストの完全修飾ドメイン名を指定します。たとえば、host.domain.com です。 注: このフィールドは、[接続] が [インラインで接続を定義] である場合にのみ表示されます。
ポート	ターゲットホストが接続をリッスンする通信ポートを指定します。たとえば、5985 です。デフォルトポートを使用する場合は空白のままにします。 注: このフィールドは、[接続] が [インラインで接続を定義] である場合にのみ表示されます。
MID 選択	特定の MID サーバーまたは MID クラスターを選択するオプション。 • **MID** サーバーの自動選択：MID サーバーを自動的に選択します。 • 特定の **MID Server**：選択した MID サーバーを使用します。 • 特定の **MID** クラスター：選択した MID クラスターを使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID アプリケーション	選択対象となるために MID サーバーがサポートする必要があるアプリケーションを指定します。選択したアプリケーションをサポートする MID サーバーからアクションステップが実行されます。 このフィールドにデータピルを使用する場合、ピルは MID アプリケーションレコードではなく、MID アプリケーションの名前を参照する必要があります。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
できること	選択対象となるために MID サーバー がサポートする必要がある機能です。選択した機能をサポートする MID サーバー からアクションステップが実行されます。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
MID サーバー	MID サーバー [ecc_agent_list] レコードへの sys_id 参照を含むデータピル。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** サーバー] が選択されている場合に利用可能です。
MID クラスター	使用する MID クラスターのデータピル。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** クラスター] が選択されている場合に利用可能です。
リモート処理タイプ	MID サーバーやリモート サーバーなど、PowerShell スクリプトが実行される場所。 • [明示的なリモート処理 (最も一般的)]：リモート サーバーとの接続を確立し、リモート サーバーでスクリプトを実行します。 • [暗黙的なリモート処理 (高度)]：MID サーバーでスクリプトを実行すると同時に、必要なモジュールをリモート サーバーからインポートします。選択した場合は、[リモート名のプリフィックス] フィールドと [インポートするモジュール] フィールドを定義します。最適なパフォーマンスを得るため、ステップに必要なモジュールのみをインポートします。空白にした場合、使用可能なすべてのモジュールがサーバーからインポートされます。 • **[MID** サーバーで実行するか、スクリプトでリモートセッションを確立します]：スクリプトを MID サーバーで直接実行します。またはスクリプトの中でリモート処理の仕様を定義することができます。この値がデフォルトです。 **注:** PowerShell スクリプトコマンドまたは PowerShell スクリプトファイル内の関数を呼び出す関数がパラメーターを入力している場合、コマンドは関数パラメーターブロックを定義する必要があります。この要件は、明示的および暗黙的なリモート処理に適用されます。パラメーターブロックの追加については、https://technet.microsoft.com/ の Windows Powershell パラメーターに関する Microsoft のドキュメントを参照してください。
リモート名のプリフィックス	リモート サーバーからロードするモジュールへのファイル パス (ファイル名を除く)。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: このフィールドは、[リモート処理タイプ] が [暗黙的なリモート処理 (高度)] の場合のみ表示されます。
インポートするモジュール	定義したファイル パスにあるリモート サーバーからインポートするモジュールのカンマ区切りリスト。 **注:** このフィールドは、[リモート処理タイプ] が [明示的なリモート処理 (最も一般的)] または [暗黙的なリモート処理 (高度)] の場合のみ表示されます。
PowerShell ステップのテスト (Test PowerShell Step)	PowerShell ステップ用に設定された認証情報をテストするボタン。詳細については、「PowerShell ステップの認証情報のテスト」を参照してください。
スクリプト タイプ	PowerShell ホストで実行するスクリプトのタイプ。 • [インライン スクリプト]：ステップの [コマンド] フィールドに、実行するスクリプトを入力します。 • **[MID** サーバースクリプトファイル]：MID サーバー スクリプトファイル [ecc_agent_script_file] テーブルから、実行する PowerShell スクリプトを選択します。これはデフォルト値です。これによってスクリプトのロジックがアクションから分離されるため、アクションの変更や再展開をしなくてもスクリプトを更新することができます。
MID サーバー スクリプト	MID サーバー スクリプトファイル テーブル [ecc_agent_script_file] からの事前定義された PowerShell スクリプト。 **注:** このフィールドは、[スクリプト タイプ] が **[MID** サーバースクリプトファイル] の場合にのみ使用できます。
スクリプト パス	選択した MID サーバー スクリプトの読み取り専用パス。 **注:** このフィールドは、[スクリプト タイプ] が **[MID** サーバースクリプトファイル] の場合にのみ表示されます。
入力変数	PowerShell スクリプト変数の値を表すオプションの名前と値のペア。PowerShell スクリプトの中で、アクションの入力や他のステップからのデータを使用できます。各変数について次のフィールドを定義します。 • [名前]：スクリプト変数の名前。この変数に値を渡します。この名前を、予約済みまたは禁止されている PowerShell 変数と一致させることはできません。一部の変数名は内部処理用に予約されているため、入力変数として使用しないでください。「**PowerShell** スクリプト変数」の「予約済みの変数」を参照してください。 • [タイプ]：PowerShell 変数のタイプ。テキスト、暗号化、またはブーリアンを選択します。暗号化を選択した場合、値はこのフィールドにテキストで表示され、ECC キューに渡されるときのみ暗号化されます。 • [値]：変数にマップする値。手動で値を入力するか、データ ピルをフィールドにドラッグします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
コマンド	ターゲット ホストで実行するインライン PowerShell スクリプト。 注: このフィールドは、[スクリプト タイプ] が [インライン スクリプト] の場合にのみ表示されます。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

PowerShell スクリプト変数

[コマンド] フィールドから入力変数にアクセスするには、特殊な構文を使用して呼び出す必要があります。使用する構文はシステム プロパティの値によって異なります。[リモート処理タイプ] が **[MID サーバーで実行するか、スクリプトでリモートセッションを確立します]** の場合、入力変数に加えていくつかの予約済み変数が使用できます。

入力変数の構文

デフォルトでは、変数名の先頭に *$* 文字を付けます。たとえば、入力変数の名前が **message** の場合は、*$message* を使用してスクリプトの変数にアクセスします。

mid.powershell.command.script.parameter_passing パラメーターを false に設定している場合は、変数名の先頭に *$env:SNC_* を付けます。たとえば、入力変数の名前が **message** の場合は、*$env:SNC_message* を使用してスクリプトの変数にアクセスします。*mid.powershell.command.script.parameter_passing* パラメーターの詳細については、「MID サーバーパラメーター」を参照してください。

予約済みの変数

[リモート処理タイプ] が **[MID サーバーで実行するか、スクリプトでリモートセッションを確立します]** の場合、次の変数をスクリプトで使用できます。予約済みの変数をカスタムの入力変数名として使用することはできません。

予約済み変数	説明
$computer	接続エイリアス レコードで定義されているホスト IP アドレス。
$cred	接続レコードで定義されている認証情報が含まれている認証情報オブジェクト。この変数は、認証情報パラメーターをサポートしている PowerShell コマンドレットで使用します。たとえば、`New-PSSession -credential $cred` などと使用します。
$log_info	*mid.property.powershell.log_info* プロパティを true に設定している場合、ログ情報を PowerShell スクリプトに追加します。

次の変数名は内部処理用に予約されているため、入力変数として使用しないでください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- スクリプト
- *useCred*
- *isMid*
- *isDiscovery*
- *debug*
- *user*
- パスワード
- *executingScriptDirectory*
- *midScriptDirectory*
- *hresult*

REST ステップ

送信 REST Web サービス要求を外部システムに送信します。

注: REST ステップ 基本システムでは使用できず、ServiceNow® 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。 必要なプラグインを有効化した後、ステップは [統合] の下に表示されます。

送信 REST Web サービス は、REST アーキテクチャをサポートする Web サービス サーバー上でデータの取得、作成、更新、または削除を可能にするプラットフォーム機能です。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

フィールド

フィールド	説明
接続	使用する接続のタイプ。 • [インラインで接続を定義]：アクションステップ内の接続情報を定義します。 • [接続エイリアスを使用]：接続エイリアステーブルを使用して接続情報を定義します。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。 接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアスについて 」を参照してください。
接続エイリアス	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアク

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	ションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。 注: このフィールドは、接続リストから [接続エイリアスを使用] が選択されている場合に利用可能です。
認証情報エイリアス	アクションステップを実行するために使用される認証情報エイリアス。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報を構成する必要がなくなります。また、認証情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。 注: このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID を使用	ServiceNow® MID サーバー を使用して REST ステップ を実行するためのオプション。**[MID** アプリケーション] フィールドと [機能] フィールドを表示するには、このチェックボックスを選択します。 注: システムは、送信 Web サービスのログ記録と同じ方法で MID サーバー経由で送信された REST 要求、応答、およびパラメーターのランタイムデータをログに記録しません。代わりに、フロー実行の詳細でこのデータを表示できます。
ベース URL	REST 要求のベース URL。 • [接続エイリアスを使用] を選択した場合、このフィールドにはエイリアスに関連付けられたベース URL が表示されます。ベース URL を上書きするには、ロックアイコン () をクリックして独自の URL を入力します。 • [インラインで接続を定義] を選択した場合は、接続のベース URL を入力します。
REST ステップをテスト	REST ステップをテストするボタン。テストするには、**[REST** ステップをテスト] ボタンを選択します。必要な入力値を入力して [テストを実行] ボタンを選択します。テストの実行後、ステップの出力またはエラーメッセージがテストウィンドウの [テスト結果] セクションに表示されます。
接続タイムアウト	システムがホスト接続の成功を待機するミリ秒数。この間にステップが正常に接続されない場合、接続要求はタイムアウトします。[インラインで接続を定義] を選択した場合は、接続のタイムアウト値を入力します。システムのデフォルトの接続タイムアウト値を使用するには、このフィールドを空のままにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: 接続が古くなる可能性があるため、[接続タイムアウト] 値をゼロに設定しないでください。
MID 選択	特定の MID サーバーまたは MID クラスターを選択するオプション。 • **MID** サーバーの自動選択：MID サーバーを自動的に選択します。 • 特定の **MID Server**：選択した MID サーバーを使用します。 • 特定の **MID** クラスター：選択した MID クラスターを使用します。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、**[MID** を使用] のチェックがオンの場合に利用可能です。
MID アプリケーション	選択対象となるために MID サーバー がサポートする必要がある機能です。選択した機能をサポートする MID サーバー からアクションステップが実行されます。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、**[MID** を使用] チェックボックスがオンになっており、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
できること	選択対象となるために MID サーバー がサポートする必要がある機能です。選択した機能をサポートする MID サーバー からアクションステップが実行されます。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、**[MID** を使用] チェックボックスがオンになっており、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
MID サーバー	必要な MID サーバー のデータピル。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、**[MID** を使用] チェックボックスがオンになっており、MID 選択リストから [特定の **MID** サーバー] が選択されている場合に利用可能です。
MID クラスター	使用する MID クラスターのデータピル。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、**[MID** を使用] チェックボックスがオンになっており、MID 選択リストから [特定の **MID** クラスター] が選択されている場合に利用可能です。
ビルド要求	要求を手動で作成したり、OpenAPI 仕様をインポートしたり、REST メッセージをインポートしたりするオプション。 • 手動：アクション入力を作成し、REST ステップフォームに手動で入力します。 • **OpenAPI** 仕様から **(From OpenAPI specification)**：OpenAPI 仕様をインポートしてアクション入力を生成し、REST ステップフォームを完了します。詳細については、「REST ステップでの OpenAPI サポート」を参照してください。 • **[REST** メッセージから]：プラットフォーム REST メッセージをインポートします。詳細については、「REST ステップへの REST メッセージのインポート」を参照してください。
API ソース	要求の作成に使用する OpenAPI 仕様を選択するオプション、または **[OpenAPI** をインポート **(Import OpenAPI)]** を選択して新しい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	OpenAPI 仕様をインポートするオプション。YAML または JSON への URL を指定するかコンテンツをコピーして貼り付けて、仕様をインポートできます。 注: このフィールドは、[ビルド要求] リストから **[OpenAPI 仕様から]** を選択した場合に使用可能です。
API 操作	操作をリストから選択するオプション。利用可能な操作は、OpenAPI 仕様の **[API ソース (API Source)]** フィールドで提供されます。 注: このフィールドは、[ビルド要求] リストから **[OpenAPI 仕様から]** を選択した場合に使用可能です。
REST メッセージ	インポートする REST メッセージの名前。リストから REST メッセージを選択します。 注: このフィールドは、[ビルド要求] リストから **[REST メッセージから]** を選択した場合に使用可能です。
REST メッセージ関数	REST メッセージからインポートする関数の名前。使用可能なオプションは、選択した REST メッセージに関連付けられた HTTP メソッドによって決まります。 注: このフィールドは、[ビルド要求] リストから **[REST メッセージから]** を選択した場合に使用可能です。
REST メッセージをインポート	REST メッセージをインポートするボタン。 注: このフィールドは、**[REST メッセージ]** フィールドから REST メッセージを選択する際に使用できます。
リソース パス	リソースのパス
HTTP メソッド	要求を処理するために使用する HTTP メソッド • **GET** • **POST** • **PUT** • **PATCH** • 消去
クエリ パラメーター	REST エンドポイントに渡す名前と値のペア。これらのパラメーターは手動で作成することも、入力変数をパラメーター フィールドにドラッグして値を割り当てることもできます。 重複するクエリパラメーター名を含む REST ステップ要求をサポートします。重複するクエリパラメーター名を含む REST 要求を作成すると、フローデザイナー は定義した順序と同じ順序でクエリパラメーターを要求に追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: OpenAPI 仕様をインポートする際は、システムは仕様にあるするすべてのパラメーターとヘッダーを REST ステップに追加します。最後の REST ステップの値を確認して、要求に送信しないパラメーターを削除します。たとえば API が JSON と XML の両方のコンテンツタイプヘッダーを受け入れた場合は、システムは両方のヘッダーを REST ステップに追加します。応答で受け取るコンテンツタイプに応じて、いずれかのヘッダーを削除します。
ヘッダー	要求と一緒に送信するヘッダー。手動でヘッダーを作成するか、入力変数をパラメーター フィールドにドラッグして値を割り当てることもできます。 重複する要求ヘッダーを含む REST ステップ要求をサポートします。重複する要求ヘッダーを含む REST 要求を作成すると、ヘッダーが定義した順序と同じ順序で送信されます。 **注:** OpenAPI 仕様をインポートする際は、システムは仕様にあるするすべてのパラメーターとヘッダーを REST ステップに追加します。最後の REST ステップの値を確認して、要求に送信しないパラメーターを削除します。たとえば API が JSON と XML の両方のコンテンツタイプヘッダーを受け入れた場合は、システムは両方のヘッダーを REST ステップに追加します。応答で受け取るコンテンツタイプに応じて、いずれかのヘッダーを削除します。
要求タイプ	要求の形式。次のオプションがあります。 • [テキスト]：JSON、XML、その他のテキスト形式の要求。 • [バイナリ]：バイナリファイル形式の要求。 • [マルチパート]：複数のコンテンツタイプで構成される要求。 • **[URL** エンコードフォーム]：URL エンコードクエリの要求。 **注:** このフィールドは、**HTTP** メソッド が **POST**、**PUT**、**PATCH**、または **DELETE** の場合に編集できます。
要求本体 [テキスト]	JSON 形式または XML 形式の要求の本体。フロー実行の詳細には、応答の本体が、埋め込みテキストビューアーへのリンクか、応答が含まれている添付レコードの sys_id のどちらかとして表示されます。 **注:** このフィールドは、[要求タイプ] リストから [テキスト] を選択した場合に編集可能です。
添付ファイル	要求を含む添付ファイルレコード。前のステップでこのレコードを検索または作成して、入力変数として定義できます。スクリプトステップで JSONStreamingBuilder および XMLStreamingBuilder API を使用して作成します。 **注:** このフィールドは、[要求タイプ] リストから [バイナリ] を選択した場合に使用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
名前、パートタイプ (Part Type)、値	マルチパート要求のコンテンツ。パートごとに、フィールドを個別に使用するか、またはすべてのパートでインラインスクリプトを使用して、パートの名前、パートタイプ、および値を指定します。マルチパートの値を指定するには、スクリプト切り替えアイコン ( ) をクリックしてスクリプトを編集します。インラインスクリプトの詳細については、「インラインスクリプト」を参照して ください。 • [名前]：パートの名前。任意の有効な文字列にすることができます。 • パートタイプ：パートのタイプ。[テキスト] または [ファイル] を選択します。 ◦ [テキスト]：パートのテキスト。[テキスト] を選択すると、コンテンツタイプを指定できます。 ◦ [ファイル]：パートのファイル。[ファイル] を選択した場合、[値] はコンテンツが含まれている添付ファイルレコードの sys_id にする必要があります。前のステップでこのレコードを検索するか、レコードを入力値として定義することができます。[ファイル] を選択すると、ファイル名とコンテンツタイプを指定できます。 ▪ [ファイル名を設定]で、[添付ファイルから **(From Attachment)]** を選択して添付レコードのファイル名を使用するか、[ファイル名の入力から] を選択して独自のファイル名を入力します。 ▪ [コンテンツタイプを設定] で、[添付ファイルから **(From Attachment)]** を選択して添付レコードのコンテンツタイプを使用するか、[コンテンツタイプの入力から] を選択して独自のコンテンツタイプを入力します。 • [値]：パートのコンテンツ。テキストの場合、値はテキストコンテンツです。ファイルの場合、値はコンテンツが含まれた添付ファイルレコードの sys_id です。 **注:** これらのフィールドは、[要求タイプ] リストから [マルチパート] を選択した場合に使用できます。
名前、値	URL エンコード フォームの要求のコンテンツ。フィールドを個別に使用するか、またはすべてのパートでインラインスクリプトを使用して、URL エンコードされた要求の各パートを名前と値のペアで指定します。フォーム URL エンコードの値のインラインスクリプトを指定するには、スクリプト切り替えアイコン ( ) をクリックしてスクリプトを編集します。インラインスクリプトの詳細については、「インラインスクリプト」を参照して ください。 **注:** このフィールドは、[要求タイプ] リストから [フォーム **URL** エンコード] を選択した場合に使用できます。
再試行ポリシーを有効化	再試行ポリシーを有効にするオプション。詳細については、「再試行ポリシー」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
エイリアスのデフォルトポリシーを上書き	デフォルトの再試行ポリシーを上書きするオプション。 接続リストの [インラインで接続を定義] が選択されている場合は、このチェックボックスは適用されません。
再試行ポリシー	接続エイリアスに関連付けられているデフォルトの再試行ポリシー。エイリアスのデフォルトポリシーを上書きが選択されている場合は、デフォルトの再試行ポリシーを上書きして要件に基づいて別の既存の再試行ポリシーを選択できます。
添付ファイルとして保存	応答をレコードとして添付ファイル [sys_attachment] テーブルに保存するかどうかを指定するオプション。
添付ファイル名	REST 応答によって作成される添付ファイルの名前。たとえば、`rest-response.txt` などです。 **注:** このフィールドは、 [添付ファイルとして保存] が選択されている場合に使用できます。
添付ファイルのレコード	添付ファイルが関連付けられているターゲットレコード。レコードタイプのデータピルである必要があります。たとえば、特定のインシデント レコードなどです。前のステップでこのレコードを検索するか、レコードを入力変数として定義することができます。フロー実行の詳細には、関連するレコードの sys_id が表示されます。 **注:** このフィールドは、 [添付ファイルとして保存] が選択されている場合に使用できます。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

REST 応答サイズの制限

デフォルトでは、添付ファイルとして保存されていない REST 応答のサイズが 5 MB に制限されます。この制限を超える直接の REST 応答はエラーとなります。応答のサイズを大きくするには、応答を添付ファイルとして保存するか、応答サイズの上限を *glide.pf.rest.response_payload_max_size* システムプロパティで増やします。このシステムプロパティは最大値として 10240 KB をサポートしており、これにより REST 応答のサイズが 10 MB に制限されます。

REST 応答を解析中

REST API 呼び出しは、応答本文でデータを返します。応答本文のデータは通常、JSON または XML 形式で構造化されます。スクリプトステップを使用して、構造化データを解析して変数にし、アクションまたはフローの他の場所で使用することができます。XML 形式の応答本文を解析するためのXML パーサーステップ もあります 。

応答から抽出されたデータを取得する一般的な戦略は、次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. 応答本文を確認して、返すデータを選択します。
2. スクリプトステップで入力変数と出力変数を作成します。
   - REST ステップから応答本文で渡す入力変数を作成します。
   - 応答からデータを返す出力変数を作成します。
3. データを解析してマッピングするためのスクリプトを作成します。
   - スクリプトステップで `JSON.parse()` メソッドを使用して、JSON 応答本文を解析します。
   - 解析されたデータを出力変数にマッピングします。
4. 出力変数のアクション出力を作成して、データをフローで使用できるようにします。

詳細な例については、統合ハブの REST 開発者トレーニング の REST 応答の解析に関するセクションを参照してください。

スクリプトステップ

再利用可能なアクションの中実行するカスタムの JavaScript を追加します。ほとんどのコア アクションおよびステップは一般的な使用例に適していますが、コア ステップでは満たされない動作を実行するスクリプト ステップを作成できます。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

> **注:** 統合ハブ統合ハブ の使用とサブスクリプションについては「要求統合ハブ 」を参照してください。

フィールド

スクリプトステップには入力変数と出力変数が別々に用意されているため、JavaScript データを フローデザイナー のデータにマップできます。ステップの中で入力変数と出力変数を定義することによって、フローデザイナーのどのデータをスクリプトの中で使用できるかを定義でき、どのスクリプト変数をアクションの他のステップで使用できるかを定義できます。

フィールド	説明
必須ランタイム	スクリプトをサポートするために必要な実行時環境。次の選択肢があります。 • [インスタンス]：アクションステップは、インスタンスからスクリプトを実行します。スクリプトが ServiceNow API またはインスタンスデータにアクセスする必要がある場合は、このオプションを選択します。これがデフォルト値です。 • **[MID]**：アクション ステップは、MID サーバーからスクリプトを実行します。スクリプトが MID サーバースクリプトファイル および API にアクセスする必要がある場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、[使用する **MID** サーバーを選択] フィールドが表示されます。 • **[Vanilla (Core JavaScript)]**：アクションステップは、インスタンスまたは MID サーバーのいずれかからスクリプトを実行します。このオプションは、スクリプトがコア JavaScript API のみを必要としており、ServiceNow API またはインスタンスデータは不要な場合に選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	選択したランタイムによって、コンテキスト依存のヘルプ に表示される JavaScript のオブジェクトおよびメソッドが決まります。 注: このフィールドは、統合ハブ が有効化されている場合にのみ表示されます。
使用する MID サーバーを選択	使用する MID サーバー選択プロセスを指定します。次の選択肢があります。 • 任意の **MID**。システムは、利用可能な MID サーバーからアクションステップを実行します。 • 接続エイリアスを使用。指定した接続エイリアスを使用してアクションが実行されます。このオプションを選択すると、[接続エイリアス] フィールドが表示されます。 • インライン選択を使用。アクションで指定した接続の詳細を使用してアクションが実行されます。このオプションを選択すると、[ホスト]、**[MID** アプリケーション]、および [機能] フィールドが表示されます。 注: このフィールドは、 統合ハブ が有効になっていて、[必須ランタイム] から **[MID]** を選択した場合にのみ表示されます。
接続エイリアス	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス 」を参照してください。 「基本」接続タイプのエイリアスのみサポートされています。 注: このフィールドは、統合ハブ が有効になっていて、 [使用する **MID** サーバーを選択] から [接続エイリアスを使用] を選択した場合にのみ表示されます。
ホスト	アクションステップが実行される MID サーバーの完全修飾ドメイン名。たとえば、 mid-server.domain.com です。 注: このフィールドは、統合ハブ が有効になっていて、 [使用する **MID** サーバーを選択] から [インライン選択を使用] を選択した場合にのみ表示されます。
MID 選択	特定の MID サーバーまたは MID クラスターを選択するオプション。 • **MID** サーバーの自動選択：MID サーバーを自動的に選択します。 • 特定の **MID Server**：選択した MID サーバーを使用します。 • 特定の **MID** クラスター：選択した MID クラスターを使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	このフィールドは、[必須ランタイム] リストから **[MID]** が選択されていて、[使用する **MID** サーバーを選択] リストから [Inline Selection を使用] が選択されている場合に利用可能です。
MID クラスター	使用する MID クラスターのデータピル。このフィールドは、[必須ランタイム] リストから **[MID]** が選択されていて、[使用する **MID** サーバーを選択] リストから [Inline Selection を使用] が選択されている場合に利用可能です。
MID アプリケーション	選択対象となるために MID サーバーがサポートする必要があるアプリケーションを指定します。選択したアプリケーションをサポートする MID サーバーからアクションステップが実行されます。このフィールドは、統合ハブ を有効化し、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択され、[使用する **MID** サーバーを選択] から [インライン選択を使用] を選択した場合にのみ表示されます。
機能	選択対象となるために MID サーバー がサポートする必要がある機能です。選択した機能をサポートする MID サーバー からアクションステップが実行されます。このフィールドは、統合ハブ を有効化し、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択され、[使用する **MID** サーバーを選択] から [インライン選択を使用] を選択した場合にのみ表示されます。
特定の MID サーバー	必要な MID サーバー のデータピル。このフィールドは、統合ハブ を有効化し、MID 選択リストから [特定の **MID** サーバー] が選択され、[使用する **MID** サーバーを選択] から [インライン選択を使用] を選択した場合にのみ表示されます。
入力変数	アクションのデータを表す名前と値のペア。これにより、アクションの入力と他のステップ データをスクリプトの中で使用できます。
スクリプト	アクションの中で実行されるスクリプト。スクリプト内の入力変数と出力変数にアクセスするには、グローバル オブジェクト *inputs* および *outputs* を使用します。たとえば、`inputs.myVariable` などとします。 **注:** スクリプトステップの入力名および出力名に、次の予約済みシステム名を含めることはできません。 • *sys_id* • *sys_created_by* • *sys_created_on* • *sys_updated_on* • *sys_updated_by* • *sys_mod_count* 一般に、システムフィールドと同じ名前の変数は作成しないでください。スクリプトステップでは、このような入力変数をフィールド名と混同して間違った値を使用する可能性があります。 スクリプトステップは、*inputs* および *outputs* グローバルオブジェクトに格納されているデータを常に文字列に変換します。スクリプトステップで JSON データを処理する必要がある場合は、*inputs* グローバルオブジェクトを使用して JSON データを文字列に変換できます。また、JavaScript 変数を JavaScript オブジェクトではなく文字列として

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明

	定義することもできます。たとえば、次のスクリプトは JSON データを出力する 2 つの方法を示しています。
	`(function execute(inputs, outputs) {`
	`  outputs.json_object_1 = inputs.json_input;`
	`  var array_of_objs = '[{"name1":"value1"},`
	`{"id":"abcd"}]';`
	`  outputs.json_object_2 = array_of_objs;`
	`})(inputs, outputs);`
	デフォルトでは、フローデザイナー はインスタンスでスクリプトを実行します。MID サーバーからスクリプトを実行するには、統合ハブ のサブスクリプションが必要です。
	フローデザイナー は、スクリプトがトリガーまたは開始されたドメインからスクリプトを実行します。「ドメインセパレーションと フローデザイナー」を参照してください。
	利用可能なクラスとメソッドについては、JavaScript API のコンテキスト依存ヘルプ または API リファレンス を参照してください。

出力変数	JavaScript 出力をフローデザイナーのデータ ピルにマップします。スクリプト出力を使用するためにアクションに別のステップを追加する場合は、出力変数を定義します。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

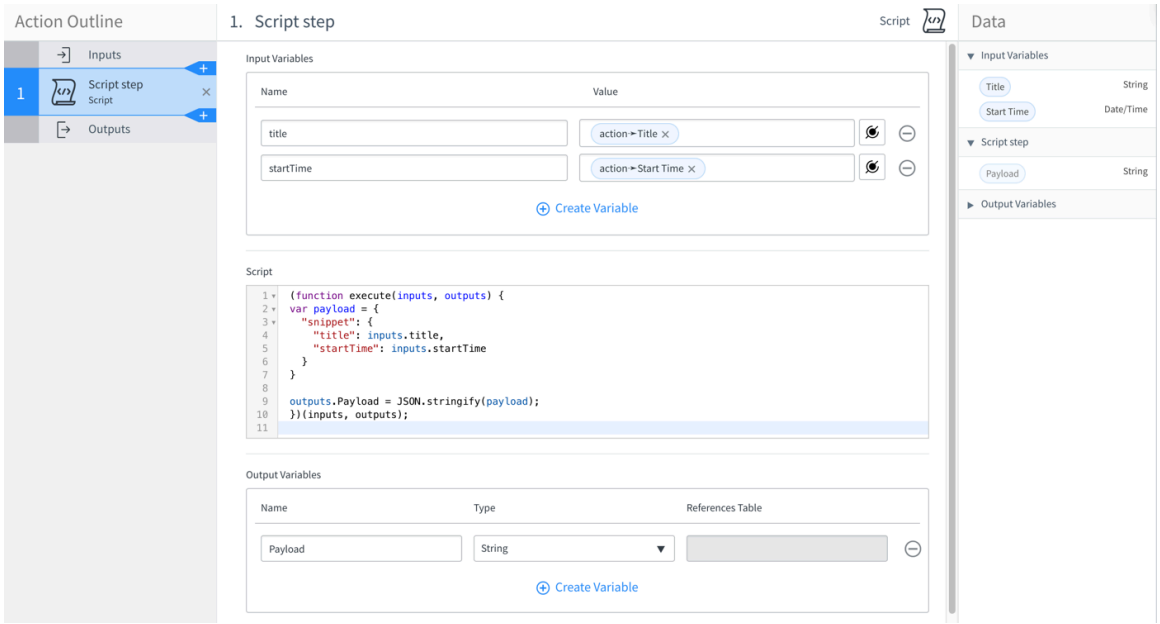
次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

例

この例で作成している JSON ペイロードは、簡単に更新または変更して後続の REST ステップに追加できます。

注: REST ステップ 基本システムでは使用できず、ServiceNow® 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ペイロードを表す出力変数を作成することにより、[ペイロード] データ ピルを REST ステップの [本体] フィールドにドラッグできます。

メール送信ステップ

フロー内のアクションとして、指定したユーザーまたはグループにメールを送信します。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

入力

フローに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップすることも、ピルピッカーから選択することもできます。

Target Record (ターゲットレコード)

データタイプ：*Document ID*

メールが関連付けられているレコード。ユーザーがメールに返信すると、返信メールコンテンツでターゲットレコードが更新されます。

Table (テーブル)

データタイプ：*Table Name*

ターゲット レコードを含むテーブル。

終点

データタイプ：*String*

メールのメインの受信者。ユーザーのメールアドレスのリストをカンマまたは空白で区切って入力します。メールアドレスを含むデータピルを、ユーザーレコードやグループレコードなどのフィールドにドラッグすることもできます。たとえば、インシデントにアサインされたグループにメールを送信する場合は、データパネルから [アサイン先グループ] データピルをドラッグします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

グループにメールを送信するには、グループのメールアドレスを指定する必要があります。グループメンバーにメールを送信するには、グループの [含めるメンバー] オプションを有効にする必要があります。

> **注:** メール受信者の数は、glide.email.smtp.max_recipients システムプロパティで設定された最大数以下である必要があります。この値の設定については、「SMTP 受信者の数量を最小化する (セキュリティセンター 1.3 で更新)」を参照してください。

CC

データタイプ：*String*

このメールにコピーされた追加の受信者。ユーザーのメールアドレスのリストをカンマまたは空白で区切って入力します。メールアドレスを含むデータピルをフィールドにドラッグすることもできます。

BCC

データタイプ：*String*

送信者にのみ表示されるこのメールの追加の受信者 (BCC)。ユーザーのメールアドレスのリストをカンマまたは空白で区切って入力します。メールアドレスを含むデータピルをフィールドにドラッグすることもできます。

件名

データタイプ：*String*

メールの件名。テキストを入力するか、データピルをフィールドにドラッグすることができます。

本文

メッセージ本文の内容。テキストを入力するか、データピルをフィールドにドラッグすることができます。エディターの書式設定オプションは、インラインスタイルを追加します。メール本文に関連付けられたスタイルシートはありません。この HTML 入力に独自のインラインスタイルシートを追加できます。

> **注:** フローデザイナーは、メールメッセージ本文の ${URI} パラメーターをサポートしていません。レコードへのリンクを作成するには、データピルを使用するか、代わりに通知ステップを作成します。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。アクションまたはフローの他の場所で入力として使用できます。

電子メール

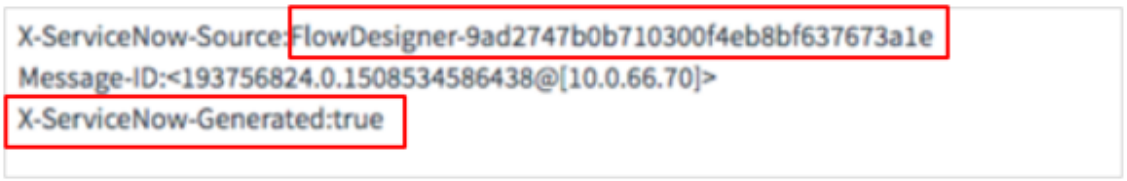
データタイプ：*Record*

メールレコードが作成されました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メール ステップのテスト

アクションをテストするときにメールが生成されたことを確認するには、メール [sys_email] テーブルのメールレコードを確認します。[ヘッダー] フィールドは、メールが正常に生成されたかどうかを示します。



例：
ACL 制限は [メール送信] アクションに適用されます。セッションを開始するユーザーとして実行されるようにフローを構成した場合は、ユーザーがメールにアクセスできることを確認します。[メール送信] アクションのアクセス制御をテストするには、典型的なメール送信者を代理操作してフローを手動でトリガーします。

SFTP ステップ

SFTP サーバー上のファイルとディレクトリーを管理し、SFTP サーバー間でファイルを移動する再利用可能なアクションを作成します。

注:

- このステップには 統合ハブ サブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。ServiceNow® 統合ハブ のサブスクリプションパッケージに関する詳細については、「統合ハブ の使用法とサブスクリプション」を参照してください。 必要なプラグインを有効化した後、ステップは [統合] の下に表示されます。
- SFTP ステップは、SSH 機能を備えた ServiceNow® MID サーバー でのみ実行されます。オートメーションエンジン Professional の 統合ハブ プラグイン (com.glide.hub.integrations.professional) を有効化して、 MID サーバー の JDBC 機能を使用します。詳細については、「統合ハブ プラグインを要求する」を参照してください。
- SFTP ステップには、SSH プライベートキー認証情報または SSH 認証情報のいずれかをサポートする認証情報レコードが必要です。このステップは、**[MID** サーバーのサービスアカウントを使用する] オプションが選択されている Windows 資格情報をサポートしていません。

ロールと使用可用性

SFTP ステップは アクションデザイナー のアクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

必須条件

SFTP ステップ (com.glide.hub.action_step.sftp_mft) プラグインの管理ファイルの転送拡張機能を有効化します。

SFTP コマンド

- ファイルをコピー
- ディレクトリーをコピー
- ディレクトリーを作成
- ファイル リストを入手
- ファイルを削除

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ファイルを削除
- ディレクトリを削除
- ファイルまたはディレクトリーの名前を変更
- ファイル属性の設定
- 添付ファイルを SFTP サーバーにコピー
- ファイルをこのインスタンスにコピー

注: SFTP コマンドは、一度に最大 10,000 ファイルに対して実行できます。

ファイルをコピー

ソース SFTP サーバーからターゲット SFTP サーバーにファイルをコピーします。

フィールド

フィールド	説明
接続	
ソース接続	ソース SFTP サーバーへの接続に使用する接続のタイプ。 • [インラインで接続を定義]：アクションステップ内の接続情報を定義します。 • [接続エイリアスを使用]：接続エイリアステーブルを使用して接続情報を定義します。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。 接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアスについて」を参照してください。
ソース接続エイリアス	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「 資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、ソース接続リストから [接続エイリアスを使用] が選択されている場合に利用可能です。
ターゲット接続	ターゲット SFTP サーバーへの接続に使用する接続のタイプ。 • [インラインで接続を定義]：アクションステップ内の接続情報を定義します。 • [接続エイリアスを使用]：接続エイリアステーブルを使用して接続情報を定義します。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。 接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアスについて」を参照してください。
ターゲット接	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
続エイリアス	合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「 資格情報、接続、およびエイリアス 」を参照してください。
ソース認証情報エイリアス	アクションステップを実行するために使用される認証情報エイリアス。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報を構成する必要がなくなります。また、認証情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス 」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。 **注:** SFTP ステップには、SSH プライベートキー認証情報または SSH 認証情報のいずれかをサポートする認証情報レコードが必要です。このステップは、**[MID** サーバーのサービスアカウントを使用する] オプションが選択されている Windows 資格情報をサポートしていません。
ホスト	コピーするファイルを含む SFTP サーバーの名前または IP アドレス。
ポート	サーバーと通信するポート番号。
MID 選択	特定の MID サーバーまたは MID クラスターを選択するオプション。 • **MID** サーバーの自動選択：MID サーバーを自動的に選択します。 • 特定の **MID Server**：選択した MID サーバーを使用します。 • 特定の **MID** クラスター：選択した MID クラスターを使用します。 このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID アプリケーション	MID サーバー を使用して SFTP ステップを実行するオプション。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
できること	MID サーバー の機能。**[SSH]** を選択します。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
MID サーバー	必要な MID サーバー のデータピル。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** サーバー] が選択されている場合に利用可能です。
MID クラスター	使用する MID クラスターのデータピル。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** クラスター] が選択されている場合に利用可能です。
コマンドの詳細	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ソースパス	コピーするソースサーバー内のファイルへの完全パス。例：`/root/doc/tempwsdl.rtf`。
ターゲットパス	コンテンツをコピーするターゲットサーバー内のファイルへの完全パス。例：`/root/doc/attribute.rtf`。この場合、tempwsdl.rtf のコンテンツがファイル attribute.rtf にコピーされます。
再試行ポリシー	
再試行ポリシーを有効化	再試行ポリシーを有効にするオプション。詳細については、「再試行ポリシー」を参照してください。
エイリアスのデフォルトポリシーを上書き	デフォルトの再試行ポリシーを上書きするオプション。接続リストの [インラインで接続を定義] が選択されている場合は、このオプションは適用されません。
再試行ポリシー	接続エイリアスに関連付けられているデフォルトの再試行ポリシー。エイリアスのデフォルトポリシーを上書きが選択されている場合は、デフォルトの再試行ポリシーを上書きして要件に基づいて別の既存の再試行ポリシーを選択できます。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

ディレクトリーをコピー

ソース SFTP サーバーからターゲット SFTP サーバーにディレクトリーをコピーします。

注: ディレクトリーのコピー中に管理ファイルの転送機能を使用する場合は、ServiceNow 統合ハブアクションステップ - MFT (com.glide.hub.action_step.mft) プラグインを有効化します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド

フィールド	説明
接続	
ソース接続	ソース SFTP サーバーへの接続に使用する接続のタイプ。 • [インラインで接続を定義]：アクションステップ内の接続情報を定義します。 • [接続エイリアスを使用]：接続エイリアステーブルを使用して接続情報を定義します。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。 接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアスについて」を参照してください。
ソース接続エイリアス	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、ソース接続リストから [接続エイリアスを使用] が選択されている場合に利用可能です。
ターゲット接続	ターゲット SFTP サーバーへの接続に使用する接続のタイプ。 • [インラインで接続を定義]：アクションステップ内の接続情報を定義します。 • [接続エイリアスを使用]：接続エイリアステーブルを使用して接続情報を定義します。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。 接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアスについて」を参照してください。
ターゲット接続エイリアス	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。
ソース認証情報エイリアス	アクションステップを実行するために使用される認証情報エイリアス。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報を構成する必要がなくなります。また、認証情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「 資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: SFTP ステップには、SSH プライベートキー認証情報または SSH 認証情報のいずれかをサポートする認証情報レコードが必要です。このステップは、**[MID** サーバーのサービスアカウントを使用する] オプションが選択されている Windows 資格情報をサポートしていません。
ホスト	コピーするファイルを含む SFTP サーバーの名前または IP アドレス。
ポート	サーバーと通信するポート番号。
MID 選択	特定の MID サーバーまたは MID クラスターを選択するオプション。 • **MID** サーバーの自動選択：MID サーバーを自動的に選択します。 • 特定の **MID Server**：選択した MID サーバーを使用します。 • 特定の **MID** クラスター：選択した MID クラスターを使用します。 このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID アプリケーション	MID サーバー を使用して SFTP ステップを実行するオプション。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
できること	MID サーバー の機能。**[SSH]** を選択します。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
MID サーバー	必要な MID サーバー のデータピル。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** サーバー] が選択されている場合に利用可能です。
MID クラスター	使用する MID クラスターのデータピル。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** クラスター] が選択されている場合に利用可能です。
コマンドの詳細	
ソースパス	コピーするソースサーバー内のファイルへの完全パス。例：`/root/doc/tempwsdl.rtf`。
ターゲットパス	コンテンツをコピーするターゲットサーバー内のファイルへの完全パス。 例：`/root/doc/attribute.rtf`。この場合、tempwsdl.rtf のコンテンツがファイル attribute.rtf にコピーされます。
ファイルを含める	削除するターゲットファイルのリスト。これは、`*.txt` などのワイルドカードを使用できるセミコロン区切りのリストです。 注: • 値が指定されていない場合、指定したディレクトリ内のサブフォルダーは削除されます。 • 値が指定されている場合、サブフォルダーは空であっても削除されません。
ファイルを除外	削除すべきではないターゲットファイルのリスト。これは、`*.txt` などのワイルドカードを使用できるセミコロン区切りのリストです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: • 値が指定されていない場合、指定したディレクトリ内のサブフォルダーは削除されます。 • 値が指定されている場合、サブフォルダーは空であっても削除されません。
サブフォルダーを含める	ソースディレクトリーのサブフォルダーをコピーするオプション。
管理ファイルの転送	
ターゲットファイル名	ターゲットファイルの名前。
ターゲットディレクトリー名	ターゲットディレクトリーの名前。
日時形式 ${DateTime}	ターゲットサーバーへのコピー時にファイル名に日付と時刻を追加する形式。
ファイル属性を保存	ターゲットディレクトリーにファイルをコピーするときにファイル属性を保持するオプション。
移動条件を適用	ファイルの移動中に条件を指定するオプション。
最小ファイルサイズ (バイト)	ファイルを移動するための最小サイズ要件。 注: このフィールドは、 [移動条件の適用] が有効になっている場合に使用できます。
最大ファイルサイズ (バイト)	ファイルを移動するための最大サイズ要件。 注: このフィールドは、 [移動条件の適用] が有効になっている場合に使用できます。
ファイルは次の値より新しい	この日付以降に作成されたファイルは移動されます。 注: このフィールドは、 [移動条件の適用] が有効になっている場合に使用できます。
ファイルは次の値より古い	この日付の前に作成されたファイルは移動されます。 注: このフィールドは、 [移動条件の適用] が有効になっている場合に使用できます。
移動順	ファイルを移動する順序。 注: このフィールドは、 [移動条件の適用] が有効になっている場合に使用できます。
ソート順	ファイルを並べ替える順序。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: このフィールドは、 [移動条件の適用] が有効になっている場合に使用できます。
重複ファイルアクション	ターゲットディレクトリーに重複ファイルが存在する場合に実行するアクション。 注: このフィールドは、 [移動条件の適用] が有効になっている場合に使用できます。
再試行ポリシー	
再試行ポリシーを有効化	再試行ポリシーを有効にするオプション。詳細については、「再試行ポリシー」を参照してください。
エイリアスのデフォルトポリシーを上書き	デフォルトの再試行ポリシーを上書きするオプション。接続リストの [インラインで接続を定義] が選択されている場合は、このオプションは適用されません。
再試行ポリシー	接続エイリアスに関連付けられているデフォルトの再試行ポリシー。エイリアスのデフォルトポリシーを上書きが選択されている場合は、デフォルトの再試行ポリシーを上書きして要件に基づいて別の既存の再試行ポリシーを選択できます。
管理ファイルの転送エラーのクリーンアップ	
失敗時に、ターゲットのファイルを削除	コピーコマンドが失敗したときにターゲット SFTP サーバーからファイルを削除するオプション。
成功時に、ファイルをソースから削除	コピーコマンドが正常に実行されたときにソース SFTP サーバーからファイルを削除するオプション。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

ディレクトリーを作成

SFTP サーバー上に新しいディレクトリーを作成します。

フィールド

フィールド	説明
接続	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ソース接続	ソース SFTP サーバーへの接続に使用する接続のタイプ。 • [インラインで接続を定義]：アクションステップ内の接続情報を定義します。 • [接続エイリアスを使用]：接続エイリアステーブルを使用して接続情報を定義します。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。 接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアスについて」を参照してください。
ソース接続エイリアス	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、ソース接続リストから [接続エイリアスを使用] が選択されている場合に利用可能です。
ソース認証情報エイリアス	アクションステップを実行するために使用される認証情報エイリアス。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報を構成する必要がなくなります。また、認証情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。 注: SFTP ステップには、SSH プライベートキー認証情報または SSH 認証情報のいずれかをサポートする認証情報レコードが必要です。このステップは、**[MID** サーバーのサービスアカウントを使用する] オプションが選択されている Windows 資格情報をサポートしていません。
ホスト	ディレクトリーを作成する SFTP サーバーの名前または IP アドレス。
ポート	サーバーと通信するポート番号。
MID 選択	特定の MID サーバーまたは MID クラスターを選択するオプション。 • **MID** サーバーの自動選択：MID サーバーを自動的に選択します。 • 特定の **MID Server**：選択した MID サーバーを使用します。 • 特定の **MID** クラスター：選択した MID クラスターを使用します。 このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID アプリケー	MID サーバー を使用して SFTP ステップを実行するオプション。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ション	
できること	MID サーバー の機能。**[SSH]** を選択します。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
MID サーバー	必要な MID サーバー のデータピル。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** サーバー] が選択されている場合に利用可能です。
MID クラスター	使用する MID クラスターのデータピル。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** クラスター] が選択されている場合に利用可能です。
コマンドの詳細	
ソースパス	作成するディレクトリーのパス。
再試行ポリシー	
再試行ポリシーを有効化	再試行ポリシーを有効にするオプション。詳細については、「再試行ポリシー」を参照してください。
エイリアスのデフォルトポリシーを上書き	デフォルトの再試行ポリシーを上書きするオプション。接続リストの [インラインで接続を定義] が選択されている場合は、このオプションは適用されません。
再試行ポリシー	接続エイリアスに関連付けられているデフォルトの再試行ポリシー。エイリアスのデフォルトポリシーを上書きが選択されている場合は、デフォルトの再試行ポリシーを上書きして要件に基づいて別の既存の再試行ポリシーを選択できます。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ファイル リストを入手

SFTP サーバー上の指定されたディレクトリーおよびそのサブディレクトリーからファイルのリストを返します。

注: この SFTP コマンドは ServiceNow® MID サーバー でのみ実行されます。

フィールド

フィールド	説明
接続	
ソース接続	ソース SFTP サーバーへの接続に使用する接続のタイプ。 • [インラインで接続を定義]：アクションステップ内の接続情報を定義します。 • [接続エイリアスを使用]：接続エイリアステーブルを使用して接続情報を定義します。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。 接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアスについて」を参照してください。
ソース接続エイリアス	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、ソース接続リストから [接続エイリアスを使用] が選択されている場合に利用可能です。
ソース認証情報エイリアス	アクションステップを実行するために使用される認証情報エイリアス。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報を構成する必要がなくなります。また、認証情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。 **注:** SFTP ステップには、SSH プライベートキー認証情報または SSH 認証情報のいずれかをサポートする認証情報レコードが必要です。このステップは、**[MID** サーバーのサービスアカウントを使用する] オプションが選択されている Windows 資格情報をサポートしていません。
ホスト	リストするファイルを含む SFTP サーバーの名前または IP アドレス。
ポート	サーバーと通信するポート番号。
MID 選択	特定の MID サーバーまたは MID クラスターを選択するオプション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	• **MID** サーバーの自動選択：MID サーバーを自動的に選択します。 • 特定の **MID Server**：選択した MID サーバーを使用します。 • 特定の **MID** クラスター：選択した MID クラスターを使用します。 このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID アプリケーション	MID サーバー を使用して SFTP ステップを実行するオプション。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
できること	MID サーバー の機能。**[SSH]** を選択します。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
MID サーバー	必要な MID サーバー のデータピル。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** サーバー] が選択されている場合に利用可能です。
MID クラスター	使用する MID クラスターのデータピル。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** クラスター] が選択されている場合に利用可能です。
コマンドの詳細	
ソースパス	リストするファイルが含まれているディレクトリーのパス。
ファイルを含める	含めるターゲットファイルのリスト。これは、`*.txt` などのワイルドカードを使用できるセミコロン区切りのリストです。
ファイルを除外	除外するターゲット ファイルのリスト。これは、`*.txt` などのワイルドカードを使用できるセミコロン区切りのリストです。
サブフォルダーを含める	サブフォルダーのファイルをリストに含めるかどうかを指定するオプション。
再試行ポリシー	
再試行ポリシー	再試行ポリシーを有効にするオプション。詳細については、「再試行ポリシー」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
を有効化	
エイリアスのデフォルトポリシーを上書き	デフォルトの再試行ポリシーを上書きするオプション。接続リストの [インラインで接続を定義] が選択されている場合は、このオプションは適用されません。
再試行ポリシー	接続エイリアスに関連付けられているデフォルトの再試行ポリシー。エイリアスのデフォルトポリシーを上書きが選択されている場合は、デフォルトの再試行ポリシーを上書きして要件に基づいて別の既存の再試行ポリシーを選択できます。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

ファイルを削除

SFTP サーバー上のファイル (サブフォルダーを含む) を構成時に削除します。

フィールド

フィールド	説明
接続	
ソース接続	ソース SFTP サーバーへの接続に使用する接続のタイプ。 • [インラインで接続を定義]：アクションステップ内の接続情報を定義します。 • [接続エイリアスを使用]：接続エイリアステーブルを使用して接続情報を定義します。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。 接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアスについて」を参照してください。
ソース接続エイリアス	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、ソース接続リストから [接続エイリアスを使用] が選択されている場合に利用可能です。
ソース認証情報エイリアス	アクションステップを実行するために使用される認証情報エイリアス。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報を構成する必要がなくなります。また、認証情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。 **注:** SFTP ステップには、SSH プライベートキー認証情報または SSH 認証情報のいずれかをサポートする認証情報レコードが必要です。このステップは、**[MID** サーバーのサービスアカウントを使用する] オプションが選択されている Windows 資格情報をサポートしていません。
ホスト	削除するファイルを含む SFTP サーバーの名前または IP アドレス。
ポート	サーバーと通信するポート番号。
MID 選択	特定の MID サーバーまたは MID クラスターを選択するオプション。 • **MID** サーバーの自動選択：MID サーバーを自動的に選択します。 • 特定の **MID Server**：選択した MID サーバーを使用します。 • 特定の **MID** クラスター：選択した MID クラスターを使用します。 このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID アプリケーション	MID サーバー を使用して SFTP ステップを実行するオプション。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
できること	MID サーバー の機能。**[SSH]** を選択します。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
MID サーバー	必要な MID サーバー のデータピル。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** サーバー] が選択されている場合に利用可能です。
MID クラスター	使用する MID クラスターのデータピル。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** クラスター] が選択されている場合に利用可能です。
コマンドの詳細	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ソースパス	削除するファイルが含まれているディレクトリーのパス。
再試行ポリシー	
再試行ポリシーを有効化	再試行ポリシーを有効にするオプション。詳細については、「再試行ポリシー」を参照してください。
エイリアスのデフォルトポリシーを上書き	デフォルトの再試行ポリシーを上書きするオプション。接続リストの [インラインで接続を定義] が選択されている場合は、このオプションは適用されません。
再試行ポリシー	接続エイリアスに関連付けられているデフォルトの再試行ポリシー。エイリアスのデフォルトポリシーを上書きが選択されている場合は、デフォルトの再試行ポリシーを上書きして要件に基づいて別の既存の再試行ポリシーを選択できます。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

ファイルを削除

SFTP サーバー上のファイル (サブフォルダーを含む) を構成時に削除します。

フィールド

フィールド	説明
接続	
ソース接続	ソース SFTP サーバーへの接続に使用する接続のタイプ。 • [インラインで接続を定義]：アクションステップ内の接続情報を定義します。 • [接続エイリアスを使用]：接続エイリアステーブルを使用して接続情報を定義します。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアスについて」を参照してください。
ソース接続エイリアス	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「 資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、ソース接続リストから [接続エイリアスを使用] が選択されている場合に利用可能です。
ソース認証情報エイリアス	アクションステップを実行するために使用される認証情報エイリアス。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報を構成する必要がなくなります。また、認証情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。 **注:** SFTP ステップには、SSH プライベートキー認証情報または SSH 認証情報のいずれかをサポートする認証情報レコードが必要です。このステップは、**[MID** サーバーのサービスアカウントを使用する] オプションが選択されている Windows 資格情報をサポートしていません。
ホスト	削除するファイルを含む SFTP サーバーの名前または IP アドレス。
ポート	サーバーと通信するポート番号。
MID 選択	特定の MID サーバーまたは MID クラスターを選択するオプション。 • **MID** サーバーの自動選択：MID サーバーを自動的に選択します。 • 特定の **MID Server**：選択した MID サーバーを使用します。 • 特定の **MID** クラスター：選択した MID クラスターを使用します。 このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID アプリケーション	MID サーバー を使用して SFTP ステップを実行するオプション。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
できること	MID サーバー の機能。**[SSH]** を選択します。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
MID サーバー	必要な MID サーバー のデータピル。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** サーバー] が選択されている場合に利用可能です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
MID クラスター	使用する MID クラスターのデータピル。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** クラスター] が選択されている場合に利用可能です。
コマンドの詳細	
ソースパス	削除するファイルが含まれているディレクトリーのパス。
削除条件を適用	ファイルを削除する条件を指定するオプション。
ファイルを含める	削除するターゲットファイルのリスト。これは、`*.txt` などのワイルドカードを使用できるセミコロン区切りのリストです。 **注:** • 値が指定されていない場合、指定したディレクトリ内のサブフォルダーは削除されます。 • 値が指定されている場合、サブフォルダーは空であっても削除されません。
ファイルを除外	削除すべきではないターゲットファイルのリスト。これは、`*.txt` などのワイルドカードを使用できるセミコロン区切りのリストです。 **注:** • 値が指定されていない場合、指定したディレクトリ内のサブフォルダーは削除されます。 • 値が指定されている場合、サブフォルダーは空であっても削除されません。
サブフォルダーを含める	サブフォルダーのファイルを削除するかどうかを指定するオプション。
再試行ポリシー	
再試行ポリシーを有効化	再試行ポリシーを有効にするオプション。詳細については、「再試行ポリシー」を参照してください。
エイリアスのデフォルト	デフォルトの再試行ポリシーを上書きするオプション。接続リストの [インラインで接続を定義] が選択されている場合は、このオプションは適用されません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ポリシーを上書き	
再試行ポリシー	接続エイリアスに関連付けられているデフォルトの再試行ポリシー。エイリアスのデフォルトポリシーを上書きが選択されている場合は、デフォルトの再試行ポリシーを上書きして要件に基づいて別の既存の再試行ポリシーを選択できます。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

ディレクトリを削除

SFTP サーバー上のディレクトリー (サブフォルダーを含む) を構成時に削除します。

フィールド

フィールド	説明
接続	
ソース接続	ソース SFTP サーバーへの接続に使用する接続のタイプ。 • [インラインで接続を定義]：アクションステップ内の接続情報を定義します。 • [接続エイリアスを使用]：接続エイリアステーブルを使用して接続情報を定義します。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。 接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアスについて」を参照してください。
ソース接続エイリアス	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、ソース接続リストから [接続エイリアスを使用] が選択されている場合に利用可能です。
ソース認証情報エ	アクションステップを実行するために使用される認証情報エイリアス。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報を構成する必要がなくなります。また、認証情報が変更された場合に、カスタムアクションを

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
イリアス	更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。 注: SFTP ステップには、SSH プライベートキー認証情報または SSH 認証情報のいずれかをサポートする認証情報レコードが必要です。このステップは、**[MID** サーバーのサービスアカウントを使用する] オプションが選択されている Windows 資格情報をサポートしていません。
ホスト	削除するディレクトリーを含む SFTP サーバーの名前または IP アドレス。
ポート	サーバーと通信するポート番号。
MID 選択	特定の MID サーバーまたは MID クラスターを選択するオプション。 • **MID** サーバーの自動選択：MID サーバーを自動的に選択します。 • 特定の **MID Server**：選択した MID サーバーを使用します。 • 特定の **MID** クラスター：選択した MID クラスターを使用します。 このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID アプリケーション	MID サーバー を使用して SFTP ステップを実行するオプション。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
できること	MID サーバー の機能。**[SSH]** を選択します。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
MID サーバー	必要な MID サーバー のデータピル。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** サーバー] が選択されている場合に利用可能です。
MID クラスター	使用する MID クラスターのデータピル。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** クラスター] が選択されている場合に利用可能です。
コマンドの詳細	
ソースパス	削除するディレクトリーのパス。
サブフォルダーを含める	サブフォルダーを削除するかどうかを指定するオプション。 注: このオプションを選択すると、すべてのサブフォルダーが削除されます。それ以外の場合は、空のサブフォルダーのみが削除されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
再試行ポリシー	
再試行ポリシーを有効化	再試行ポリシーを有効にするオプション。詳細については、「再試行ポリシー」を参照してください。
エイリアスのデフォルトポリシーを上書き	デフォルトの再試行ポリシーを上書きするオプション。接続リストの [インラインで接続を定義] が選択されている場合は、このオプションは適用されません。
再試行ポリシー	接続エイリアスに関連付けられているデフォルトの再試行ポリシー。エイリアスのデフォルトポリシーを上書きが選択されている場合は、デフォルトの再試行ポリシーを上書きして要件に基づいて別の既存の再試行ポリシーを選択できます。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

ファイルまたはディレクトリーの名前を変更

SFTP サーバー上のファイルまたはディレクトリーの名前を変更します。

フィールド

フィールド	説明
接続	
ソース接続	ソース SFTP サーバーへの接続に使用する接続のタイプ。 • [インラインで接続を定義]：アクションステップ内の接続情報を定義します。 • [接続エイリアスを使用]：接続エイリアステーブルを使用して接続情報を定義します。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。 接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアスについて」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ソース接続エイリアス	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、ソース接続リストから [接続エイリアスを使用] が選択されている場合に利用可能です。
ソース認証情報エイリアス	アクションステップを実行するために使用される認証情報エイリアス。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報を構成する必要がなくなります。また、認証情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。 **注:** SFTP ステップには、SSH プライベートキー認証情報または SSH 認証情報のいずれかをサポートする認証情報レコードが必要です。このステップは、**[MID** サーバーのサービスアカウントを使用する] オプションが選択されている Windows 資格情報をサポートしていません。
ホスト	名前を変更するファイルまたはディレクトリーを含む SFTP サーバーの名前または IP アドレス。
ポート	サーバーと通信するポート番号。
MID 選択	特定の MID サーバーまたは MID クラスターを選択するオプション。 • **MID** サーバーの自動選択：MID サーバーを自動的に選択します。 • 特定の **MID Server**：選択した MID サーバーを使用します。 • 特定の **MID** クラスター：選択した MID クラスターを使用します。 このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID アプリケーション	MID サーバー を使用して SFTP ステップを実行するオプション。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
できること	MID サーバー の機能。**[SSH]** を選択します。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
MID サーバー	必要な MID サーバー のデータピル。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** サーバー] が選択されている場合に利用可能です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
MID クラスター	使用する MID クラスターのデータピル。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** クラスター] が選択されている場合に利用可能です。
コマンドの詳細	
ソースパス	ファイルまたはディレクトリーの完全パス。
ターゲットパス	名前を変更したファイルまたはディレクトリーの完全パス。
再試行ポリシー	
再試行ポリシーを有効化	再試行ポリシーを有効にするオプション。詳細については、「再試行ポリシー」を参照してください。
エイリアスのデフォルトポリシーを上書き	デフォルトの再試行ポリシーを上書きするオプション。接続リストの [インラインで接続を定義] が選択されている場合は、このオプションは適用されません。
再試行ポリシー	接続エイリアスに関連付けられているデフォルトの再試行ポリシー。エイリアスのデフォルトポリシーを上書きが選択されている場合は、デフォルトの再試行ポリシーを上書きして要件に基づいて別の既存の再試行ポリシーを選択できます。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

ファイル属性の設定

SFTP サーバー上のファイルまたはディレクトリーの一般的なファイル属性 (タイムスタンプ、サイズ、権限、UID/GID など) を設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

最初に [ファイルリストを入手] コマンドを使用して、ファイルとその属性のリストを返すことをお勧めします。次に、ソース ホストからターゲットホストにファイルを移動した後、[ファイル属性の設定] コマンドを使用してターゲットファイル上でソースファイル属性を設定します。

フィールド

フィールド	説明
接続	
ソース接続	ソース SFTP サーバーへの接続に使用する接続のタイプ。 • [インラインで接続を定義]：アクションステップ内の接続情報を定義します。 • [接続エイリアスを使用]：接続エイリアステーブルを使用して接続情報を定義します。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。 接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアスについて」を参照してください。
ソース接続エイリアス	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、ソース接続リストから [接続エイリアスを使用] が選択されている場合に利用可能です。
ソース認証情報エイリアス	アクションステップを実行するために使用される認証情報エイリアス。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報を構成する必要がなくなります。また、認証情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「 資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。 **注:** SFTP ステップには、SSH プライベートキー認証情報または SSH 認証情報のいずれかをサポートする認証情報レコードが必要です。このステップは、**[MID** サーバーのサービスアカウントを使用する] オプションが選択されている Windows 資格情報をサポートしていません。
ホスト	削除するファイルを含む SFTP サーバーの名前または IP アドレス。
ポート	サーバーと通信するポート番号。
MID 選択	特定の MID サーバーまたは MID クラスターを選択するオプション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	• **MID** サーバーの自動選択：MID サーバーを自動的に選択します。 • 特定の **MID Server**：選択した MID サーバーを使用します。 • 特定の **MID** クラスター：選択した MID クラスターを使用します。 このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID アプリケーション	MID サーバー を使用して SFTP ステップを実行するオプション。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
できること	MID サーバー の機能。**[SSH]** を選択します。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
MID サーバー	必要な MID サーバー のデータピル。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** サーバー] が選択されている場合に利用可能です。
MID クラスター	使用する MID クラスターのデータピル。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** クラスター] が選択されている場合に利用可能です。
コマンドの詳細	
ソースパス	削除するファイルが含まれているディレクトリーのパス。
ユーザー ID	ファイルまたはディレクトリーに適用するユーザー ID 属性。UID 変数と GUID 変数は、ペアとして一緒に設定する必要があります。
グループ ID	ファイルまたはディレクトリーに適用するグループ ID 属性。UID 変数と GUID 変数は、ペアとして一緒に設定する必要があります。
権限 (chmod)	指定されたユーザーおよびグループに対して設定されたファイルまたはディレクトリーの権限。この値は、8 進表記でのみ指定する必要があります。例：`755`。 **注:** 権限番号は、[ファイル リストを入手] コマンドによって返される内部値です。
変更されたタイムスタンプ (エポック)	ファイルまたはディレクトリーが最後に変更されたときのタイムスタンプを上書きします。 **注:** • タイムスタンプはエポック形式である必要があります。 • アクセスおよび変更のタイムスタンプは、ペアとして一緒に設定する必要があります。
アクセスされたタイムスタンプ (エポック)	ファイルまたはディレクトリーが最後にアクセスされたタイムスタンプを上書きします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: • タイムスタンプはエポック形式である必要があります。 • アクセスおよび変更のタイムスタンプは、ペアとして一緒に設定する必要があります。
再試行ポリシー	
再試行ポリシーを有効化	再試行ポリシーを有効にするオプション。詳細については、「再試行ポリシー」を参照してください。
エイリアスのデフォルトポリシーを上書き	デフォルトの再試行ポリシーを上書きするオプション。接続リストの [インラインで接続を定義] が選択されている場合は、このオプションは適用されません。
再試行ポリシー	接続エイリアスに関連付けられているデフォルトの再試行ポリシー。エイリアスのデフォルトポリシーを上書きが選択されている場合は、デフォルトの再試行ポリシーを上書きして要件に基づいて別の既存の再試行ポリシーを選択できます。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

添付ファイルを SFTP サーバーにコピー

指定された添付ファイルを ServiceNow インスタンスから SFTP サーバーにコピーします。

フィールド

フィールド	説明
接続	
接続	ソース SFTP サーバーへの接続に使用する接続のタイプ。 • [インラインで接続を定義]：アクションステップ内の接続情報を定義します。 • [接続エイリアスを使用]：接続エイリアステーブルを使用して接続情報を定義します。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。 接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアスについて」を参照してください。
接続エイリアス	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、接続リストから [接続エイリアスを使用] が選択されている場合に利用可能です。
認証情報エイリアス	アクションステップを実行するために使用される認証情報エイリアス。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報を構成する必要がなくなります。また、認証情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。 **注:** SFTP ステップには、SSH プライベートキー認証情報または SSH 認証情報のいずれかをサポートする認証情報レコードが必要です。このステップは、**[MID** サーバーのサービスアカウントを使用する] オプションが選択されている Windows 資格情報をサポートしていません。
ホスト	ファイルのコピー先の SFTP サーバーの名前または IP アドレス。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
ポート	サーバーと通信するポート番号。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID 選択	特定の MID サーバーまたは MID クラスターを選択するオプション。 • **MID** サーバーの自動選択：MID サーバーを自動的に選択します。 • 特定の **MID Server**：選択した MID サーバーを使用します。 • 特定の **MID** クラスター：選択した MID クラスターを使用します。 このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID サーバー	SFTP ステップを実行する特定の MID サーバー。このフィールドは、MID 選択リストから [特定の **MID** サーバー] が選択されている場合に利用可能です。
MID クラスター	使用する MID クラスターのデータピル。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** クラスター] が選択されている場合に利用可能です。
MID アプリケーション	MID サーバー を使用して SFTP ステップを実行するオプション。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
できること	MID サーバー の機能。**[SSH]** を選択します。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
MID サーバー	必要な MID サーバー のデータピル。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** サーバー] が選択されている場合に利用可能です。
コピーする添付ファイル	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
添付ファイルレコード	SFTP サーバーにコピーする ServiceNow インスタンスのレコード。
SFTP ターゲットにコピー	
ターゲットパス	コンテンツをコピーするターゲットサーバー内のファイルへの完全パス。例：`/root/doc/`。この場合、添付ファイルはサーバー上のこのパスにコピーされます。
再試行ポリシー	
再試行ポリシーを有効化	再試行ポリシーを有効にするオプション。詳細については、「再試行ポリシー」を参照してください。
エイリアスのデフォルトポリシーを上書き	デフォルトの再試行ポリシーを上書きするオプション。接続リストの [インラインで接続を定義] が選択されている場合は、このオプションは適用されません。
再試行ポリシー	接続エイリアスに関連付けられているデフォルトの再試行ポリシー。エイリアスのデフォルトポリシーを上書きが選択されている場合は、デフォルトの再試行ポリシーを上書きして要件に基づいて別の既存の再試行ポリシーを選択できます。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

ファイルをこのインスタンスにコピー

SFTP サーバー内の指定されたファイルを ServiceNow インスタンス内の指定されたレコードに添付します。

フィールド

フィールド	説明
接続	
接続	ソース SFTP サーバーへの接続に使用する接続のタイプ。 • [インラインで接続を定義]：アクションステップ内の接続情報を定義します。 • [接続エイリアスを使用]：接続エイリアステーブルを使用して接続情報を定義します。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。 接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアスについて」を参照してください。
接続エイリアス	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用するこ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド (続く)

フィールド	説明
	とで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「 資格情報、接続、およびエイリアス 」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、接続リストから [接続エイリアスを使用] が選択されている場合に利用可能です。
認証情報エイリアス	アクションステップを実行するために使用される認証情報エイリアス。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報を構成する必要がなくなります。また、認証情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス 」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。 **注:** SFTP ステップには、SSH プライベートキー認証情報または SSH 認証情報のいずれかをサポートする認証情報レコードが必要です。このステップは、**[MID** サーバーのサービスアカウントを使用する] オプションが選択されている Windows 資格情報をサポートしていません。
ホスト	ファイルのコピー先の SFTP サーバーの名前または IP アドレス。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
ポート	サーバーと通信するポート番号。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID 選択	特定の MID サーバーまたは MID クラスターを選択するオプション。 • **MID** サーバーの自動選択：MID サーバーを自動的に選択します。 • 特定の **MID Server**：選択した MID サーバーを使用します。 • 特定の **MID** クラスター：選択した MID クラスターを使用します。 このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID サーバー	SFTP ステップを実行する特定の MID サーバー。このフィールドは、MID 選択リストから [特定の **MID** サーバー] が選択されている場合に利用可能です。
MID クラスター	使用する MID クラスターのデータピル。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** クラスター] が選択されている場合に利用可能です。
MID アプリケーション	MID サーバー を使用して SFTP ステップを実行するオプション。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド (続く)

フィールド	説明
できること	MID サーバー の機能。**[SSH]** を選択します。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
MID サーバー	必要な MID サーバー のデータピル。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** サーバー] が選択されている場合に利用可能です。
コピーする SFTP ファイル	
ソースパス	コピーするファイルが含まれているディレクトリーのパス。例：`/root/doc/`。
ファイルを含める	コピーするターゲットファイルのリスト。これは、`*.txt` などのワイルドカードを使用できるセミコロン区切りのリストです。 **注:** 値が指定されていない場合、指定したディレクトリー内のサブフォルダーがコピーされます。
ファイルを除外	コピーすべきではないターゲットファイルのリスト。これは、`*.txt` などのワイルドカードを使用できるセミコロン区切りのリストです。
最大ファイルサイズ (KB)	コピー可能なファイルの最大サイズ。
ファイルの最大数	要求でコピーできるファイルの最大数。
このターゲットレコードにファイルを添付	
ターゲットレコード	ファイルを添付する ServiceNow インスタンス内のレコード
テーブル	ターゲットレコードが保存される ServiceNow テーブル
再試行ポリシー	
再試行ポリシーを有効化	再試行ポリシーを有効にするオプション。詳細については、「再試行ポリシー」を参照してください。
エイリアスのデフォルトポリシーを上書き	デフォルトの再試行ポリシーを上書きするオプション。接続リストの [インラインで接続を定義] が選択されている場合は、このオプションは適用されません。
再試行ポリシー	接続エイリアスに関連付けられているデフォルトの再試行ポリシー。エイリアスのデフォルトポリシーを上書きが選択されている場合は、デフォルトの再試行ポリシーを上書きして要件に基づいて別の既存の再試行ポリシーを選択できます。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SSH ステップ

SSH ステップでは、ServiceNow® MID サーバー を通じて SSH コマンドを外部 *nix システムで実行します。また、このステップでは、*nix システムのスクリプトとコマンドも保存されます。

注:

- このステップには 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。詳細については、「Legal schedules - 統合ハブ overview」
- 統合ハブ は ServiceNow SSH のみをサポートしています。

ロールと使用可用性

SSH ステップは アクションデザイナー のアクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

入力のサニタイズ

すべてのユーザー入力をエスケープして、悪意のあるユーザーがターゲットサーバー上で任意のコマンドを実行する可能性を排除します。コマンドフィールドでデータピルを使用する前に、シェル引数のサニタイズ変換関数を使用して引数をサニタイズすることにより、データピルをエスケープして検証します。この変換関数カテゴリは、データピルがコマンド入力にドロップされると自動的に表示されます。

フィールド

フィールド	説明
接続の詳細	
接続	使用する接続のタイプ。 • [インラインで接続を定義]：アクションステップ内の接続情報を定義します。 • [接続エイリアスを使用]：接続エイリアステーブルを使用して接続情報を定義します。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。 接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアスについて」を参照してください。
接続エイリアス	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、接続リストから [接続エイリアスを使用] が選択されている場合に利用可能です。
認証情報エイリアス	アクションステップを実行するために使用される認証情報エイリアス。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報を構成する必要がなくなります。また、認証情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。 **注:** SSH ステップには、SSH プライベートキー認証情報または SSH 認証情報のいずれかをサポートする認証情報レコードが必要です。このステップは、**[MID** サーバーのサービスアカウントを使用する] オプションが選択されている Windows 資格情報をサポートしていません。
ホスト	ターゲットサーバーのホスト名または IP アドレス。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
ポート	サーバーと通信するポート番号。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID 選択	特定の MID サーバーまたは MID クラスターを選択するオプション。 • **MID** サーバーの自動選択：MID サーバーを自動的に選択します。 • 特定の **MID Server**：選択した MID サーバーを使用します。 • 特定の **MID** クラスター：選択した MID クラスターを使用します。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
MID アプリケーション	MID サーバー を使用して SSH ステップを実行するオプション。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
できること	MID サーバー の機能。**[SSH]** を選択します。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
MID サーバー	必要な MID サーバー のデータピル。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** サーバー] が選択されている場合に利用可能です。
MID クラスター	使用する MID クラスターのデータピル。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** クラスター] が選択されている場合に利用可能です。
SSH 構成	
作業ディレクトリ	コマンドが実行されるターゲットホスト上のオプションのターゲットディレクトリー。
コマンド	ターゲットディレクトリーで実行されるコマンド。コマンドに MID サーバー スクリプトを含めることもできます。詳細については、「詳細な SSH スクリプトオプション」を参照してください。 **注:** コマンドフィールドでデータピルを使用する前に、前処理スクリプトステップを使用して引数をサニタイズすることにより、データピルをエスケープして検証します。詳細については、「エスケープクラスと関数を使用した引数のサニタイズ」を参照してください。
長期間	コマンドの実行がデフォルトの 120 秒よりも長くかかる場合に SSH 接続タイムアウトを無効にするオプション。選択すると、エンジンは完了するまで実行スレッドからデタッチします。
Sudo モード	スクリプトを実行する権限を昇格するオプション。

詳細については、「SSH 認証情報」を参照してください。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

SSH スクリプトの詳細オプション

ターゲットホストで MID サーバー スクリプトを実行するには、スクリプトのタイプを指定して、スクリプトの名前を `${syncFile()}` パラメーターに渡します。システムでは、このパラメーターを使用して、MID サーバー スクリプトファイル [ecc_agent_script_file] テーブル内の名前付きのスクリプトを見つけ、ターゲットホストで実行します。たとえば、bash スクリプトは次のように表すことができます。

```
bash ${syncFile("<MID script name>")} argument1 argument2 argument3
```

基本スクリプト (`main_script.bash`) は、ターゲットホスト上にある別のファイル (`.my_profile`) に関する別のスクリプト (`my_include.bash`) を参照できます。`${syncFile()}` パラメーターを使用して適切に実行するには、スクリプトと参照されたファイルの両方を MID サーバー に同期する必要があります。

```
source ${syncFile(".my_profile")}
cp ${syncFile("my_include.bash")} /usr/ssmith/my_include.bash
bash ${syncFile("main_script.bash")} one two three four five six
rm /usr/ssmith/my_include.bash
```

インラインコメントのある Python の例は、次のようになります。

```
set $LIB_DIR=/usr/bin;.
# Sync a file that is referenced inside myF5CreateLBPool.py
cp ${syncFile("specialFunctions.py")} ~/specialFunctions.py
# set up environment variables
source ${syncFile(".python_profile")}
# call script that sets up dependencies on the box from remote package
 repos
python ${syncFile("setupPythonDependencies.py")} pycontrol
# call a script that requires functions from the package as well as a
 function from myIncludedFile
python ${syncFile("myF5CreateLBPool.py")} snow_pool myActualValue
# user is responsible for their own cleanup
rm ~/specialFunctions.py
```

利用可能な MID サーバー スクリプトのリストを表示するには、**[MID サーバー] > [スクリプトファイル]** に移動します。

SOAP ステップ

アクションデザイナーが外部システムへの送信 SOAP Web サービス要求を送信できるようにします。

注: SOAP ステップ 基本システムでは使用できず、ServiceNow® 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。 必要なプラグインを有効化した後、ステップは [統合] の下に表示されます。

ロールと使用可用性

- ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。
- 次の Web サービスタスクを実行するには、アクションデザイナーに web_service_admin ロールが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- WSDL の選択
- 新しい WSDL のロード
- WS セキュリティポリシーの選択

• ServiceNow® MID サーバー では、WS セキュリティポリシーはサポートされません。

フィールド

フィールド	説明
接続の詳細	
接続	使用する接続のタイプ。 • [インラインで接続を定義]：アクションステップ内の接続情報を定義します。 • [接続エイリアスを使用]：接続エイリアステーブルを使用して接続情報を定義します。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。 接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアスについて」を参照してください。
接続エイリアス	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。 **注:** このフィールドは、接続リストから [接続エイリアスを使用] が選択されている場合に利用可能です。
認証情報エイリアス	アクションステップを実行するために使用される認証情報エイリアス。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報を構成する必要がなくなります。また、認証情報が変更さ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	れた場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。 注: このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID を使用	MID サーバー を使用して SOAP ステップ を実行するオプション。**[MID** 選択]、**[MID** アプリケーション]、および [機能] フィールドを表示するには、このチェックボックスを選択します。 注: このフィールドは、接続リストから [接続エイリアスを使用] が選択されている場合に利用可能です。
エンドポイント	SOAP 要求の URL エンドポイント。[接続エイリアスを使用] を選択した場合、このフィールドは読み取り専用になり、エイリアスに関連付けられたエンドポイント URL が表示されます。[インラインで接続を定義] を選択した場合は、接続のエンドポイント URL を入力します。
SOAP ステップをテスト	SOAP ステップをテストするボタン。テストするには、**[SOAP** ステップをテスト **(Test SOAP Step)]** ボタンを選択します。必要な入力値を入力して [テストを実行] ボタンを選択します。テストの実行後、ステップの出力またはエラーメッセージがテストウィンドウの [テスト結果] セクションに表示されます。
接続タイムアウト	システムがホスト接続の成功を待機するミリ秒数。この間にステップが正常に接続されない場合、接続要求はタイムアウトします。[インラインで接続を定義] を選択した場合は、接続のタイムアウト値を入力します。システムのデフォルトの接続タイムアウト値を使用するには、このフィールドを空のままにします。 注: 接続が古くなる可能性があるため、[接続タイムアウト] 値をゼロに設定しないでください。
MID 選択	特定の MID サーバーまたは MID クラスターを選択するオプション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	• **MID** サーバーの自動選択：MID サーバーを自動的に選択します。 • 特定の **MID Server**：選択した MID サーバーを使用します。 • 特定の **MID** クラスター：選択した MID クラスターを使用します。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、**[MID** を使用] のチェックがオンの場合に利用可能です。
MID クラスター	使用する MID クラスターのデータピル。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、**[MID** を使用] チェックボックスがオンになっており、MID 選択リストから [特定の **MID** クラスター] が選択されている場合に利用可能です。
要求の詳細	
エンベロープの作成	SOAP エンベロープを作成するときに使用する方法。 • **WSDL** から **(From WSDL)**：このオプションを選択すると、**[WSDL** の選択] および [操作] フィールドが表示されます。 • 手動：WSDL テキストを手動で入力するか貼り付けるには、このオプションを選択します。
WSDL の選択	SOAP エンベロープの作成に使用する WSDL。既存の WSDL レコードを選択するか、[新しい **WSDL** をロード **(Load New WSDL)]** をクリックし、WSDL ファイルをダウンロードするか手動で入力します。選択した WSDL により、[操作]、**[SOAP** アクション]、および **[SOAP** エンベロープ] のフィールドに値が入力されます。 **注:** このフィールドは、[エンベロープの作成 (Build Envelope)] リストから **[WSDL** から **(From WSDL)]** を選択した場合に使用できます。
新しい WSDL をロードします。	WSDL ファイルをダウンロードするか手動で入力するオプション。
運用	選択した WSDL から実行する操作。各 WSDL には、利用可能な操作の独自のリストがあります。
SOAP アクション	SOAP アクションを実行する URL。[エンベロープの作成 **(Build Envelope)]** を **[WSDL** から **(From WSDL)]** に設定すると、このフィールドは読み取り専用となり、SOAP アクションを実行する URL が表示されます。[エンベロープの作

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	成 **(Build Envelope)]** を [手動] に設定した場合は、SOAP アクションを実行する URL を入力します。
要求タイプ	要求の形式。次のオプションがあります。 • [テキスト]：JSON、XML、その他のテキスト形式の要求。 • [バイナリ]：バイナリファイル形式の要求。
SOAP エンベロープ	エンドポイントに送信する XML テキスト。[エンベロープの作成 **(Build Envelope)]** を **[WSDL から (From WSDL)]** に設定すると、選択した [操作] に必要な XML が追加されます。[エンベロープの作成 **(Build Envelope)]** を [手動] に設定した場合は、使用する XML テキストを入力します。適切な SOAP エンベロープ要素には、レコードの値を入力します。たとえば、`<short_description>`要素にはインシデントの簡単な説明を入力します。 **注:** このフィールドは、[要求タイプ] が [テキスト] の場合に使用可能です。
添付ファイル	要求を含む添付ファイルレコード。前のステップでこのレコードを検索または作成して、入力変数として定義できます。スクリプトステップで JSONStreamingBuilder および XMLStreamingBuilder API を使用して作成します。 **注:** このフィールドは、[要求タイプ] が [バイナリ] の場合に使用可能です。
エンベロープをリセットします。	SOAP エンベロープのすべての手動変更を破棄するオプション。SOAP エンベロープを元のステータスに復元するには、このチェックボックスをオンにします。 **注:** このフィールドは、[エンベロープの作成 (Build Envelope)] リストから **[WSDL から (From WSDL)]** を選択した場合に使用できます。
新しい WSDL	
名前	作成する WSDL レコードの名前。
メソッドをインポートします。	WSDL を入力する方法。 • **URL** からダウンロード **(Download from URL)**：**[WSDL URL]**、[ユーザー名]、および [パスワード] フィールドを表示して、外部ソース、一般的には Web サービスプロバイダーから WSDL を取得するには、これを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	• **WSDL** コンテンツを手動で入力：**[WSDL** コンテンツ] フィールドを表示して WSDL テキストを手動で入力するか貼り付けるには、これを選択します。
WSDL の URL	SOAP Web サービスの URL。 注: このフィールドは、[インポート方法 (Import Method)] リストから **[URL** からダウンロード **(Download from URL)]** を選択すると使用可能になります。
ユーザー名	SOAP Web サービスで認証するユーザー名。 注: このフィールドは、[インポート方法 (Import Method)] リストから **[URL** からダウンロード **(Download from URL)]** を選択すると使用可能になります。
パスワード	SOAP Web サービスで認証するパスワード。ユーザーインターフェイスではパスワードが常にマスクされ、プレーンテキストでエクスポートすることが防止されます。 注: このフィールドは、[インポート方法 (Import Method)] リストから **[URL** からダウンロード **(Download from URL)]** を選択すると使用可能になります。
WSDL コンテンツ	SOAP Web サービスとそのオペレーションを説明する XML ドキュメント。 注: このフィールドは、[インポート方法 (Import Method)] リストから **[WSDL** コンテンツを手動で入力] を選択すると使用可能になります。
インポート	SOAP Web サービスの WSDL をインスタンスに追加するためのオプション。
WS-Security を使用	
WS セキュリティ ポリシーの有効化	SOAP Web サービスをセキュリティ方針に制限するためのオプション。このチェックボックスをオンにすると、[ポリシー] フィールドが表示されます。
ポリシー	Web サービス接続を制限するために使用するポリシーレコード。既存のポリシーレコードを選択します。
再試行ポリシー	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
再試行ポリシーを有効化	再試行ポリシーを有効にするオプション。詳細については、「再試行ポリシー」を参照してください。
エイリアスのデフォルトポリシーを上書き	デフォルトの再試行ポリシーを上書きするオプション。 接続リストの [インラインで接続を定義] が選択されている場合は、このチェックボックスは適用されません。
再試行ポリシー	接続エイリアスに関連付けられているデフォルトの再試行ポリシー。エイリアスのデフォルトポリシーを上書きが選択されている場合は、デフォルトの再試行ポリシーを上書きして要件に基づいて別の既存の再試行ポリシーを選択できます。
詳細オプション	
ヘッダー	HTTP ヘッダーとして SOAP メッセージに含める名前と値のペア。ヘッダーを追加するには、プラスアイコン をクリックします。HTTP ヘッダーごとに [名前] と [値] を追加します。
ヘッダー > 空の場合省略	値が空または null である場合にヘッダーを除外するオプション。 注: このチェックボックスは、下向き矢印をクリックして詳細オプションを表示した後に使用可能になります。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

SOAP 応答サイズの制限

SOAP 応答のサイズは 5 MB に制限されています。この制限を超える直接の SOAP 応答はエラーとなります。応答のサイズを大きくするには、応答サイズの上限を *glide.pf.soap.response_payload_max_size* システムプロパティで増やします。このシステム プロパティは最大値 10 MB をサポートしています。

複数のレコードを更新ステップ (Update Multiple Records step)

単一のステップとして複数のレコードをルックアップして更新します。このステップを使用すると、リストのレコードを個別にルックアップして、スクリプトステップでリストを処理する必要がなくなります。テンプレートでフィールド値を設定するか、データピルを使用してフィールド値を追加して構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

フィールド

フィールド	説明
テーブル	検索して更新するレコードを含むテーブルを選択します。
条件	レコードの検索に使用するフィルター条件を定義します。
フィールド値	レコード内のフィールドの静的値または動的値を設定します。たとえば、簡単な説明を静的値に設定するには、[簡単な説明] を選択して目標値を設定します。 動的値を追加するには、「テンプレート値の入力を作成」を参照してください。 **重要:** システムでは、タスクレコードの追加コメントや作業メモといった複数のジャーナルフィールドの更新をサポートしていません。
順番	定義された条件に一致するレコードが複数ある場合に、レコードをソートするために使用するフィールドを選択します。
ソートタイプ	レコードをアルファベット順に昇順または降順でソートするかどうかを決定します。
ビジネスルールとワークフローを実行 (Run Business Rules and Workflow)	テーブルに関連付けられているビジネスルールとワークフローを呼び出すかどうかを決定します。
システムフィールドを更新	[更新者] などのシステムフィールドを自動的に更新する場合に選択します。
エラーがあっても続行する (Don't fail on error)	エラーが発生したときにフローの実行を続行するかどうかを指定します。

アクションエラー評価

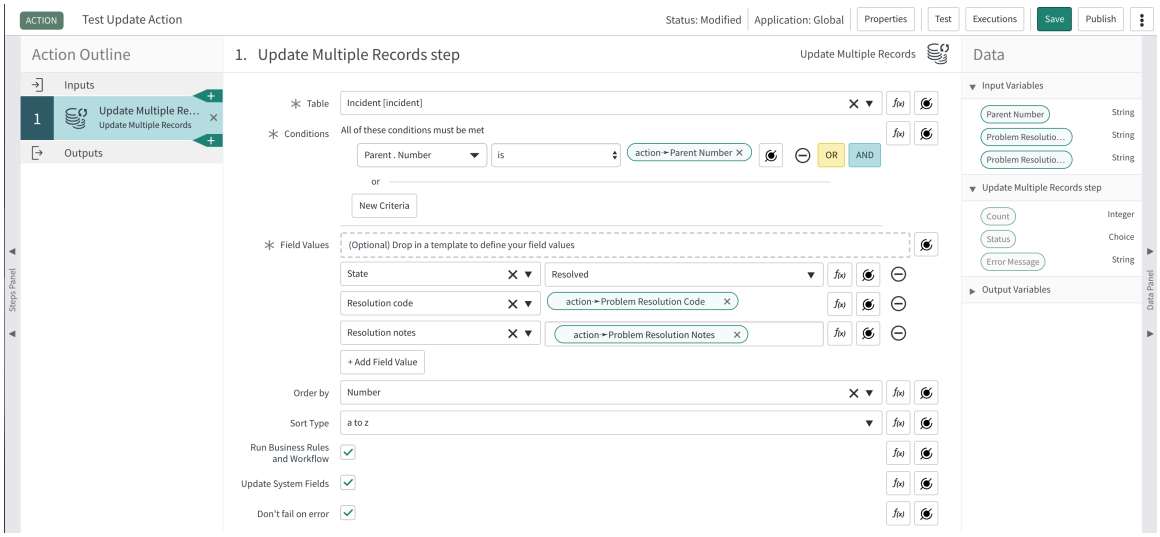
このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例



出力

フィールド	説明	データタイプ
カウント	更新されたレコードの数。更新されたレコードがない場合、カウントは 0 です。	整数
エラーメッセージ	ステップでエラーが生成された場合に表示されるメッセージ。	文字列
状況	ステップの完了ステータス (数値)。 • 0 (成功) • 1 (エラー)	選択肢

「レコードの更新」ステップ

テーブル内の既存のレコードを更新します。レコードのフィールドを動的に追加および設定できます。または、テンプレートを使用してフィールド値を設定できます。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

フィールド

フィールド	説明
レコード	更新するレコード。レコード データ ピルをドラッグアンドドロップするか、データ ピル ピッカーを使用してレコードを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明

	警告: スクリプトを使用してレコードを選択する場合は、一致するレコードを確認する条件を必ず追加します。一部の GlideRecord メソッドでは、メソッドクエリで結果が生成されない場合は、常にレコードのリストが返されます。条件チェックを行わないと、アクションによってテーブル内のすべてのレコードが更新される可能性があります。たとえば、このスクリプトは If 条件を使用して、レコードが存在することを検証します。レコードが存在する場合は、Sys ID 値が返されます。レコードが存在しない場合は、null の結果が返されます。
	`var configurationItem = new GlideRecord('cmdb_ci');`
	`if`
	`(configurationItem.get(fd_data.trigger.cmdb_ci.sys_id))`
	`return configurationItem;`
	`else`
	`return null;`

テーブル	レコードに関連付けられたテーブル。レコードを選択すると、このフィールドはレコードに関連付けられたテーブルに自動的に設定されます。
フィールド値	レコード内のフィールドの静的値または動的値を設定します。たとえば、簡単な説明を静的値に設定するには、[簡単な説明] を選択して目標値を設定します。 動的値を追加するには、「テンプレート値の入力を作成」を参照してください。 **重要:** システムでは、タスクレコードの追加コメントや作業メモといった複数のジャーナルフィールドの更新をサポートしていません。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

「条件待ち」ステップ

レコード値が特定の条件セットに一致するまでフローを一時停止します。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

フィールド

フィールド	説明
レコード	入力レコードまたは前のステップのレコードをドラッグします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: このレコードが削除されると、フローは待機を停止して実行を続行します。
テーブル	読み取り専用です。レコードに関連付けられたテーブルに設定します。選択したテーブルに対して [条件待ち] がサポートされていることを確認します。サポートされていないテーブルのリストについては、「サポートされていないテーブル」セクションを参照してください。
Conditions (状態)	フローの実行を再開するために必要なレコード値を選択します。たとえば、条件が [ステータス] [次の値に等しい] [クローズ済み] である場合、フローは条件が満たされるまで一時停止します。条件が満たされると、フローは次のステップまたはアクションに進みます。 レコードをフィルタリングするための静的条件または動的条件を設定します。アクションが実行されるたびに適用される静的条件を定義するには、条件ビルダーで条件を定義します。フローデザイナーが条件を動的に適用できるようにするには、条件タイプの入力を定義し、入力データピルを [条件] フィールドにドラッグアンドドロップします。 注: 特定の期間に依存する条件については、代わりに「Wait for a duration フローロジック」を使用することを検討してください。
タイムアウト有効化	フローが続行する前にアクションの完了を待機する時間を制限するオプション。 注: [タイムアウト有効化] オプションを使用して、このアクションの実行が続行されないようにします。続行するための条件が満たされない場合、タイムアウト値は、システムが [条件待ち] アクションをスキップしてフロー内の次のアイテムに進むタイミングを指定します。タイムアウトを有効にするには、 [期間] の値を設定する必要があります。特定の作業スケジュールに基づいて期間の終了日を計算する場合は、 [スケジュール] を選択することもできます。
期間	[タイムアウト有効化] オプションが選択されている場合にフローが続行する前に待機する時間。待機時間を時、分、秒単位で入力します。このフィールドを空白のままにすると、フローは待機しません。
スケジュール	[タイムアウト有効化] オプションが選択されている場合にタイムアウト期間を計算するために使用されるスケジュール。たとえば、平日の午前 8 時～午後 5 時のスケジュールの一部として 10 時間待機すると、フローは 1 営業日以上待機することになります。このフィールドを空白のままにすると、タイムアウトはスケジュールなしで実行されます。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされていないテーブル

システムは、次のテーブルの [条件待ち] をサポートしていません。

テーブルカテゴリ	テーブル名
監査	システム監査 [sys_audit]、削除レコードの監査 [sys_audit_delete]、リレーションシップ変更の監査 [sys_audit_relation]、監査ロール [sys_audit_role]、リレーションシップ変更の監査 [sys_audit_relation]、削除レコードの監査 [sys_audit_delete]
メール	メール [sys_email]、メールアカウント [sys_email_account]、メールログ [sys_email_log]
イベント	イベント [sysevent]、通知 [sysevent_email_action]、文房具 [sysevent_email_style]、メールテンプレート [sysevent_email_template]、受信メールアクション [sysevent_in_email_action]、イベントの表示 [sysevent_pattern]、イベント登録 [sysevent_registration]、スクリプトアクション [sysevent_script_action]
インポートセット	インポートセット [sys_import_set]、インポートセット行 [sys_import_set_row]、インポートセット行エラー [sys_import_set_row_error]、変換履歴 [sys_import_set_run]、コンピューター [imp_computer]、通知 [imp_notification]、場所 [imp_location]、ユーザー [imp_user]
JRobin	JRobin データベース [jrobin_database]、Jrobin シャード [jrobin_shard]、グラフライン [jrobin_graph_line]、Jrobin シャードフラグメント [jrobin_shard_location]、メンバー [jrobin_graph_set_member]、ラウンドロビンアーカイブ [jrobin_archive]、ラウンドロビンデータソース [jrobin_datasource]、ラウンドロビン定義 [jrobin_definition]、ラウンドロビングラフ [jrobin_graph]、ラウンドロビングラフセット [jrobin_graph_set]
ログ	ログエントリー [syslog]、サービスポータルのログエントリー [sp_log]
MID サーバー	MID サーバープロパティ [ecc_agent_property]、MID サーバーログ [ecc_agent_log]、キュー [ecc_queue]、構成 [ecc_queue_config]、ECC キュー統計情報 (ECC エージェントごと) [ecc_queue_stats_by_ecc_agent]
パフォーマンスアナリティクス	ジョブログ [pa_job_logs]

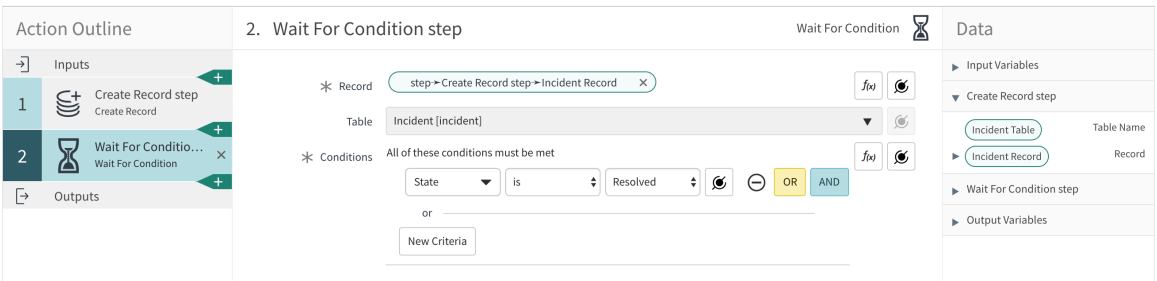
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブルカテゴリ	テーブル名
Record Watcher	レスポンダー [sys_rw_action]、チャネルレスポンダー [sys_rw_amb_action]
レポート	サマリーセット [sys_report_summary]、レポートサマリー行 [sys_report_summary_line]
スケジュール済みジョブ	スケジュールアイテム [sys_trigger]、ブロードキャストメッセージ [sys_broadcast_message]、ブロードキャストメッセージの関係 [sys_broadcast_message_m2m]、進捗ワーカー [sys_progress_worker]、進捗ワーカードメイン [sys_progress_worker_domain]
SSO	SSO プロパティ [sso_properties]、ダイジェストトークンプロパティ [digest_properties]、SAML 更新 1 プロパティ [saml2_update1_properties]、SSO フェデレーション [sso_fedation]
システムキャッシュ	キャッシュのフラッシュ [sys_cache_flush]、キャッシュエントリ [sys_db_cache]
システムクローン	ServiceNow インスタンス [instance]、セキュリティトークンのクローン [clone_token]、保持されるデータ [clone_preserved_data]
システム辞書	辞書エントリの上書き [sys_dictionary_override]
システムイベント	イベントプロセッサー [sys_event_processor]
システムフィールド	フィールドクラス [sys_glide_object]
システムパフォーマンス	コンポーネントステータス [sys_status]、クラスターメッセージ [sys_cluster_message]、ノードステータス [sys_cluster_state]
テキストインデックス	Ts 添付ファイル [ts_attachment]、テキストインデックス属性マップ [ts_attribute_map]、Ts チェーン [ts_chain]、チェーンサマリー [ts_chain_summary]、テキストインデックス列属性マップ [ts_column_attribute_map]、テキストインデックス構成 [ts_configuration]、テキストインデックス構成属性 [ts_configuration_attribute]、Ts 削除ドキュメント [ts_deleted_doc]、Ts ドキュメント [ts_document]、Ts フィールド [ts_field]、テキスト検索グループ [ts_group]、日本語のユーザートークン [ts_japanese_token_dictionary]、Ts フェーズ [ts_phrase]、グローバル検索 [ts_query]、ナレッジ検索 [ts_query_kb]、テキスト検索統計情報 [ts_search_stats]、テキスト検索サマリー [ts_search_summary]、ストップワード [ts_stop]、同義語ディクショナリー [ts_synonym_dictionary]、同義語セット [ts_synonym_set]、テキスト検索テーブル [ts_table]、テキストインデックステーブル

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブルカテゴリ	テーブル名
	属性マップ [ts_table_attribute_map]、サービスカタログ検索 [sc_ts_query]、Ts 単語 [ts_word]、Ts 単語ルート [ts_word_roots]
更新セット	更新セット [sys_update_set]、更新バージョン [sys_update_version]、顧客アップデート [sys_update_xml]、更新セットログ [sys_update_set_log]
アップグレード	システムアップグレード [sys_upgrade_history]、アップグレード詳細 [sys_upgrade_history_log]、システムアップグレードメトリクス [sys_upgrade_metric]、アップグレード変更ログ [sys_upgrade_blame]、アップグレードマニフェスト [sys_upgrade_manifest]、アップグレードステータス [sys_upgrade_state]
利用状況アナリティクス	アプリケーションの利用状況データ [ua_app_usage]、利用状況アナリティクスカウント構成 [usageanalytics_count_cfg]、アプリケーションメタデータ [ua_app_metadata]、テーブルの利用状況アナリティクスカウント [usageanalytics_count]、サブスクリプション [license_details]、サブスクリプションのロール [role_has_license]
ユーザー	ユーザーセッション [sys_user_session]、ユーザートークン [sys_user_token]、ユーザー設定 [sys_user_preference]、ナビゲーター履歴 [sys_ui_navigator_history]
ワークフロー	ワークフロー実行 [wf_workflow_execution]、ワークフロー履歴 [wf_history]、ワークフロー実行アクティビティ [wf_executing]、ワークフロー待機コマンド [wf_command]、ワークフローコンテキスト [wf_context]、ワークフロー移行履歴 [wf_transition_history]

例



出力

フィールド	説明	データタイプ
状況	アクションの完了ステータス (数値)	選択肢

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明	データタイプ
	• 0 (成功) • 1 (エラー)	

ZIP ステップ

Zip や Unzip などのアーカイブ操作を実行して、レコード内の添付ファイルを管理します。Zip ファイルの詳細を表示することもできます。

ロールと使用可用性

action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

重要: ZIP ステップは、ベースシステムでは使用できず、ServiceNow® 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。必要なプラグインを有効化した後、ステップは [統合] の下に表示されます。

メリット

Zip 操作を使用すると、次の効果が得られます。

- レコード内の添付ファイルを圧縮してファイルサイズを小さくする。
- レコード内の Zip アーカイブから特定の添付ファイルを展開する。
- Zip アーカイブを解凍する前に、添付ファイルの詳細を表示する。

Zip 操作

Zip ステップを使用して、次の操作を実行します。

- Zip 操作の詳細については、「Zip」を参照してください。
- Unzip 操作の詳細については、「Unzip」を参照してください。
- 圧縮された Zip アーカイブの内容の表示の詳細については、「Zip ファイルの詳細を取得 」を参照してください。

Zip 操作

1 つ以上のレコードの添付ファイルを 1 つの Zip アーカイブに圧縮します。また、Zip ファイルから特定の添付ファイルを削除することで、Zip アーカイブの内容を管理できます。

Zip ステップ

フィールド	説明
操作	必須レコードの添付ファイルをアーカイブする **Zip** 操作。
ソース添付ファイルのレコード	アーカイブする添付ファイルが含まれたレコード。
ターゲット Zip ファイル名	Zip アーカイブの名前。
ターゲットレコード	添付ファイルのアーカイブ先のレコード。
ターゲットテーブル	ターゲットレコードに関連付けられたテーブル。[ターゲットレコード] フィールドからレコードを選択すると、テーブルが自動的に入力されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Zip ステップ (続く)

フィールド	説明
詳細オプション	
ソースファイルを削除	添付ファイルがアーカイブされた後、ソースレコードから元の添付ファイルを削除するために使用するフィールド。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

Unzip 操作

Zip アーカイブから 1 つ以上の圧縮された添付ファイルを展開します。アーカイブ内の圧縮されたすべての添付ファイルを展開することも、特定の添付ファイルを選択して展開することもできます。

Zip ステップ

フィールド	説明
操作	レコード内の Zip アーカイブから添付ファイルを展開する **Unzip** 操作。
ソース添付ファイルのレコード	解凍する Zip アーカイブが含まれたレコード。
ターゲットレコード	Zip アーカイブ内の添付ファイルの解凍先のレコード。
ターゲットテーブル	ターゲットレコードに関連付けられたテーブル。[ターゲットレコード] フィールドからレコードを選択すると、テーブルが自動的に入力されます。
詳細オプション	
解凍するファイル	解凍するファイルを選択するためのオプション。次のオプションを使用します。 • [すべてのファイル **(All Files)**]：Zip アーカイブからすべての添付ファイルを展開します。 • [選択したファイル]：[ファイル名の正規表現] フィールドを使用して選択した特定の添付ファイルのみを展開します。 • [ファイル名の正規表現]：ソース レコード内の Zip ファイルから必要な添付ファイルを選択するための正規表現。たとえば、正規表現 `*\.png` はアーカイブ内のすべての `.png` ファイルを選択します。
ソース Zip 添付ファイルを削除	Unzip 操作が完了した後、ソース レコード内の Zip アーカイブを削除するためのフィールド。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

Zip ファイルの詳細を取得

圧縮された Zip アーカイブの内容を表示します。

Zip ステップ

フィールド	説明
操作	**[Zip** ファイルの詳細を取得] 操作では、必須レコード内の Zip アーカイブの詳細が表示されます。
Zip 添付ファイル	詳細を表示する Zip アーカイブ。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

フローのユーザー設定

フローデザイナーで利用可能なオプションを変更するには、フローのユーザー設定を有効または無効にします。

フロー設定	説明
トリガーフローを表示	サブフローピッカーからトリガーを持つフローを表示するオプション。デフォルトでは、このオプションは無効になっており、サブフローピッカーでトリガーされたフローが非表示になります。
ストアスポークを表示	アクションピッカーから ServiceNow Store の フローデザイナー コンテンツを表示するためのオプション。デフォルトでは、このオプションは有効になっており、既にインストールされている ServiceNow Store スポークから フローデザイナー コンテンツが表示されます。
インラインスクリプトの切り替えを表示	アクションの入力を構成するときにインラインスクリプトを追加または編集するためのオプション。デフォルトでは、このオプションは有効になっており、インラインスクリプトの追加や編集が可能です。
詳細接続オプ	接続エイリアスまたはインライン接続を使用するアクションの詳細接続プロパティを表示するためのオプション。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フロー設定	説明
ションを表示	
フローを図として表示	フロー図作成ビューにすべてのフローを表示するためのオプション。デフォルトでは、このオプションは無効になっており、すべてのフローが説明テキストビューで開かれます。
自動リフレッシュテスト	フローとアクションのテスト実行用に Asynchronous Message Bus (AMB) チャネルを作成するためのオプション。AMB チャネルは、待機ステータスにある実行の詳細のステータス変更をリッスンします。実行の詳細が完了すると、AMB チャネルがクローズされ、ステータスが [完了] に設定されます。デフォルトでは、このオプションは無効になっており、実行の詳細は手動で更新する必要があります。
推奨事項を表示	フローをビルドするためのフローの推奨事項を表示するオプション。フロー内の現在の位置と、前にリストされたフローコンポーネント名に基づいて、推奨事項が生成されます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。フローの推奨事項の詳細については、「フローの推奨事項」を参照してください。

関連情報

フローユーザー設定の設定

対話型サブフローとアクションのユーザーロール

担当者に 1 つ以上のユーザーロールを提供し、対話型サブフローとアクションへのアクセス権を付与します。

ロール	説明	ロールを含む	このロールを持つグループ	特別な考慮事項
仮想エージェント管理者 [virtual_agent_admin]	すべての仮想エージェントテーブル、対話型エクスペリエンス、Now Assist 管理操作への読み取り/書き込みアクセス権を付与します。	action_designer、flow_designer	なし	より分化したロールが利用可能な場合は、admin ロールを付与しないでください。
ワークフロー対話型アドミン [sn_conv_fa.conv_fa_admin]	フロー、サブフロー、アクションへの読み取りアクセス権を付与します。対話型エクスペリエンス設定への読み取り/書き込みアクセス権を付与します。	sn_conv_fa.conv_fa_designer、fd_read_actions、fd_read_flows	なし	より分化したロールが利用可能な場合は、アドミンロールを付与しないでください。
フロー/アクションデザイナー対話型ワークフロー [sn_conv_fa.conv_fa_designer]	対話型エクスペリエンス設定への読み取り/書き込みアクセス権を付与します。	なし	なし	これは、アクセスが制限された特殊なロールです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロール	説明	ロールを含む	このロールを持つグループ	特別な考慮事項
アクションデザイナー [action_designer]	ワークフロースタジオへの読み取り/書き込みアクセス権を付与します。	sn_conv_fa.conv_flow_designer	なし	これは、アクセスが制限された特殊なロールです。
フローデザイナー [flow_designer]	ワークフロースタジオのフローおよびサブフローへの読み取り/書き込みアクセス権を付与します。	sn_conv_fa.conv_flow_designer	なし	これは、アクセスが制限された特殊なロールです。

対話型サブフローとアクションについてサポートされている入力データタイプ

対話型サブフローとアクションは、限られた数の入力データタイプをサポートします。対話型インターフェイスに対応するには、アクションまたはサブフローには、サポートされているデータタイプを使用した入力のみを含める必要があります。

Now Platform データタイプ名	ワークフロースタジオデータタイプラベル
array.string	文字列のアレイ
ブール	True/False
カレンダー	カレンダー日付/時刻
選択	選択肢
日付	日付
datetime	日付/時刻
document_id	ドキュメント ID
date_time	日付/時刻
due_date	期日
email	メール
glide_date	日付
glide_time	時刻
glide_date_time	日付/時刻
GUID	Sys ID (GUID)
html	HTML
整数	整数
長整数	Long
longint	長整数文字列
reference	参照
schedule_date_time	スケジュール日付/時刻
文字列	文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Now Platform データタイプ名	ワークフロースタジオデータタイプラベル
string_full_utf8	文字列 (完全な UTF-8)
table_name	テーブル名

サポートされる サービスカタログ 変数タイプ

フローデザイナー は、1 行と複数行の両方の変数セットに対していくつかの サービスカタログ 変数タイプをサポートしています。

サポートされる変数タイプ

サービスカタログ 変数タイプ	1 行の変数セットの フローデザイナー 変数タイプ	複数行の変数セットの フローデザイナー 変数タイプ
チェックボックス	True/False	True/False
日付	日付	日付/時刻
日時	日付/時刻	日付/時刻
期間	期間	文字列
メール	メール	文字列
HTML	HTML	サポート対象外
IP アドレス	IP アドレス	文字列
ラベル	文字列	サポート対象外
リストコレクター	リスト	サポート対象外
複数選択肢をルックアップ	選択肢	文字列
選択ボックスをルックアップ	選択肢	文字列
マクロ	文字列	サポート対象外
ラベル付きマクロ	文字列	サポート対象外
マスク済み	マスクされたコード	文字列
複数行テキスト	複数行小テキストエリア	文字列
複数選択肢	選択肢	選択肢
数値スケール	整数	整数
参照	参照	文字列
選択ボックス	選択肢	選択肢
1 行テキスト	文字列	文字列
URL	URL	文字列
幅広 1 行テキスト	文字列	文字列
はい/いいえ	True/False	True/False

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細情報

サービスカタログ 変数タイプのリストについては、「サービスカタログ変数のタイプ」を参照してください。

変換関数

スクリプトを記述する必要なく、データピル値を変換します。変換関数を使用して、テキストの再フォーマット、数値計算の実行、潜在的に危険な SQL ステートメントのサニタイズ、複合的なオブジェクトの生 XML へのシリアル化を行います。

使用可能な変換関数のカテゴリには、日付と時刻、文字列、ユーティリティ、単純な数式、シェル引数のサニタイズ、SQL のサニタイズ、複合データが含まれます。変換関数の使用例を次に示します。

- CMDB にデータ連携する前に文字列から空白をトリミングします。
- 特定のタイムゾーンにローカライズする日付または時刻に日、時、分、および秒を追加します。
- 統合ハブ スポークの JDBC ステップの一部として挿入されないように SQL 値をサニタイズします。
- サードパーティデータベース内で同じ値の優先度マップから適切な値を取得します。
- REST ステップの [要求本文] フィールドの一部として複合オブジェクトを 生 XML に変換します。

注: 現在、カスタム変換関数はサポートされていません。フローデザイナー データを変換するカスタム関数の作成方法については、「インラインスクリプト」を参照してください。

変換関数の適用

フローを設計または作成するときに、データピルに変換関数を適用できます。変換関数を適用するには、データピルをポイントするかタブで移動して、表示される **f(x)** ( ) アイコンを選択します。アイコンを選択すると、[利用可能な変換 (Available Transforms)] リストが表示されます。データピルに適用する変換関数を選択し、必須フィールドに情報を入力して、[適用] を選択します。選択した変換関数が [適用された変換 (Applied Transforms)] リストに表示されます。

複数の変換関数の適用

同じデータピルに複数の変換関数を適用できます。[適用された変換 (Applied Transforms)] リストに一覧表示されているとおりに、変換関数は上から下へ順番に適用されます。たとえば、[文字列から日付 (String to Date)] 変換関数を適用してから、[時間を追加 (Add Time)] 変換関数を適用することができます。

適用された変換関数の表示

[適用された変換 (Applied Transforms)] リストを確認して、データピルに適用されている変換関数を特定できます。フローまたはアクションを設計または作成する場合は、データピルをポイントするか

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タブで移動して、**f(x)** ( ) アイコンを選択します。フロー実行の詳細で適用された変換関数を表示することもできます。

注: 適用された変換機能の出力値はフィールド値であり、表示値 ではありません。

データピルが特定のタイプの入力にドロップされると、入力に関連する変換関数カテゴリが自動的に提案されます。たとえば、SQL ステートメント内の特殊文字をエスケープし、シェルスクリプトにスクリプトが挿入されないようにし、API または操作要求を検証するための変換関数が提案されます。現在、システムでは次の入力に対して変換関数カテゴリが提案されます。

- JDBC ステップの **SQL** ステートメント入力にドロップされたデータピルには、「SQL のサニタイズ変換関数カテゴリ」が自動で表示されます。
- SSH ステップのコマンド入力にドロップされたデータピルには、「シェル引数のサニタイズ変換関数カテゴリ」が自動で表示されます。

一般的なガイドライン

有効なタイプの入力のデータピルに変換関数を適用する

変換関数を適用する前に、入力のデータピルのタイプを確認してください。無効なデータピルタイプに変換関数を適用すると、システムは変換をスキップします。変換関数によってシステムで解析できない結果が生成された場合にも、エラーが発生します。たとえば、文字列を日付に変換する際に、変換によって有効な日付が生成されない場合、システムはエラーをスローします。

同じデータピルを使用して、複数の入力に適用された変換関数を確認する

変換関数は、実行時に特定の入力用に新しい値を作成し、元のデータピルは変更されません。したがって、複数のアクションまたはステップで同じデータピルを使用する場合は、変換関数を個々の入力に適用する必要があります。

フロー実行の詳細で最終的に変換された値を確認する

フロー実行の詳細には最終的に変換された値のみが表示され、適用された各変換の値は表示されません。

変換関数をテストして予期した結果が得られることを確認する

変換関数がデータピルの予期したランタイム値を生成することを確認します。詳細については、「フローのテスト」および「アクションのテスト」を参照してください。

日付と時刻の変換関数

日付と時刻の変換関数を使用して、日付/時刻値のデータピルを再計算または再フォーマットします。

日付と時刻の変換関数には、日付/時刻または文字列入力データピルが必要です。一部の機能は、期間データピルもサポートしています。日付と時刻の変換関数を適用するときは、正しい入力データピルタイプを使用してください。日付と時刻の変換関数が不適切なデータピルタイプに適用されると、データは実行時に変換されず、代わりに入力値が返されます。フローランタイム値を確認する方法の詳細については、「フローをテストする」を参照してください。

注: ランタイム日付/時刻の値はローカライズされず、UTC (協定世界時) タイムゾーンで表示されます。詳細については、「タイムゾーン 」および「タイムゾーン表現 」を参照してください。

時間を追加 (Add Time)

入力した日付/時刻、日付、期日、または期間に日、時、分、または秒を追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
日付/時刻、日付、期日、または期間 **注:** 入力が日付または期日である場合、変換では、時間 0、分 0、および秒 0 の時間値を使用して完全な日付/時刻値が作成されます。	*Duration*：追加する時間 (日、時、分、および秒)	日付/時刻：指定した *Duration* を追加した後に変換された日付/時刻値

例

- 入力：`2019-09-12 11:00:00`
- 期間：`3 時間`
- 出力：`2019-09-12 14:00:00`

時間を減算 (Subtract Time)

入力した日付/時刻、日付、期日、または期間から日、時、分、または秒を減算します。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
日付/時刻、日付、期日、または期間 **注:** 入力が日付または期日である場合、変換では、時間 0、分 0、および秒 0 の時間値を使用して完全な日付/時刻値が作成されます。	*Duration*：減算する時間 (日、時、分、および秒) を入力	日付/時刻：指定した *Duration* を減算した後に変換された日付/時刻値

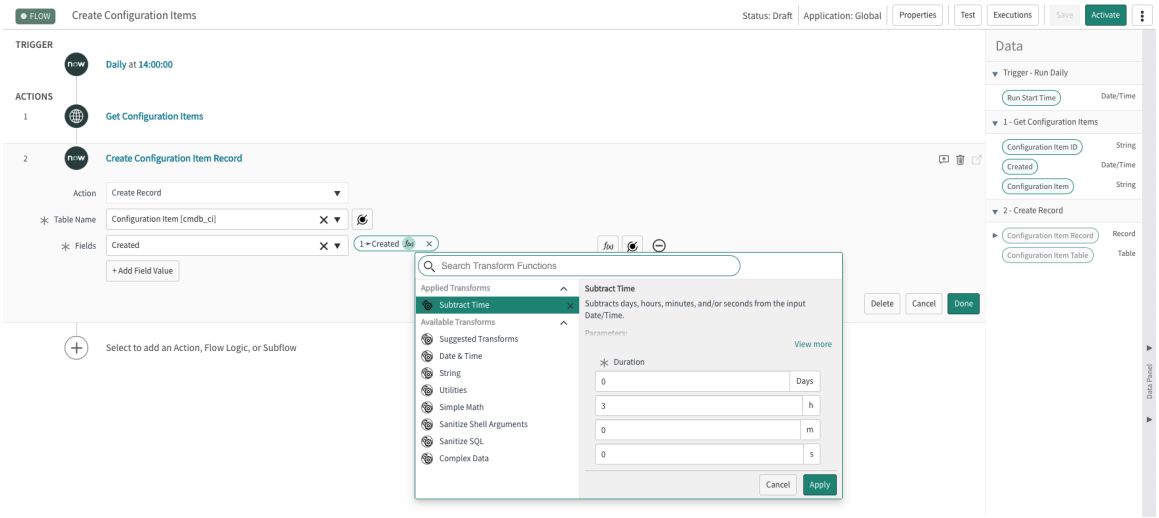
例

- 入力：`2019-09-12 11:00:00`
- 期間：`2 日、1 時間、5 分、10 秒`
- 出力：`2019-09-10 09:54:50`

この例では、フローはリモートインスタンスから CMDB 構成アイテムレコードを取得します。次に、[時間を減算 (Subtract Time)] 変換関数は、入力された日付/時刻から 3 時間を減算して [作成日] フィールドの値をローカライズします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド値のタイムゾーンのローカライズ



文字列から日付 (String to Date)

入力文字列を日付/時刻に変換します。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
Input Date Format で指定されている文字列形式	• *Input Date Format*：入力文字列の日付/時刻または日付形式 • *Custom Format*：文字列として表される有効な日付/時刻または日付形式。[カスタム形式 (Custom Format)] が *Input Date Format* として選択されている場合にのみ必要です。	日付/時刻

注:

- [カスタム形式 **(Custom Format)**] の入力の日付/時刻値が不完全な場合、変換はデフォルトの日付と時刻を使用して完全な日付/時刻値を作成します。この場合、変換のデフォルトは、現在の年、現在の月、月の 1 日目、時 0、分 0、秒 0 になります。たとえば、入力データピル値が **2019** 年 **10** 月 で、カスタム日付形式が **MMM yyyy** の場合、`2019-10-01 00:00:00` の出力が生成されます。
- 間違ったデータピルタイプまたは無効な [カスタム形式 **(Custom Format)**] を使用すると、フローは実行時にキャンセルされます。

  例

  - 入力：`'1995-11-20'`
  - 入力日付形式：`ISO 日付 (2004-06-28)`
  - 出力：`1995-11-20 00:00:00`

日付から文字列 (Date to String)

入力した日付/時刻、日付、または期日を文字列に変換します。入力する日付/時刻の [日付形式] を選択します。または、入力する日付/時刻に [カスタム形式 **(Custom Format)**] を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
日付/時刻、日付、または期日	• *Output Date Format*：入力文字列の日付/時刻または日付形式 • *Custom Format*：文字列として表される有効な日付/時刻または日付形式。[カスタム形式 (Custom Format)] が [日付形式] として選択されている場合にのみ必要です。	*Output Date Format* で指定されている文字列形式

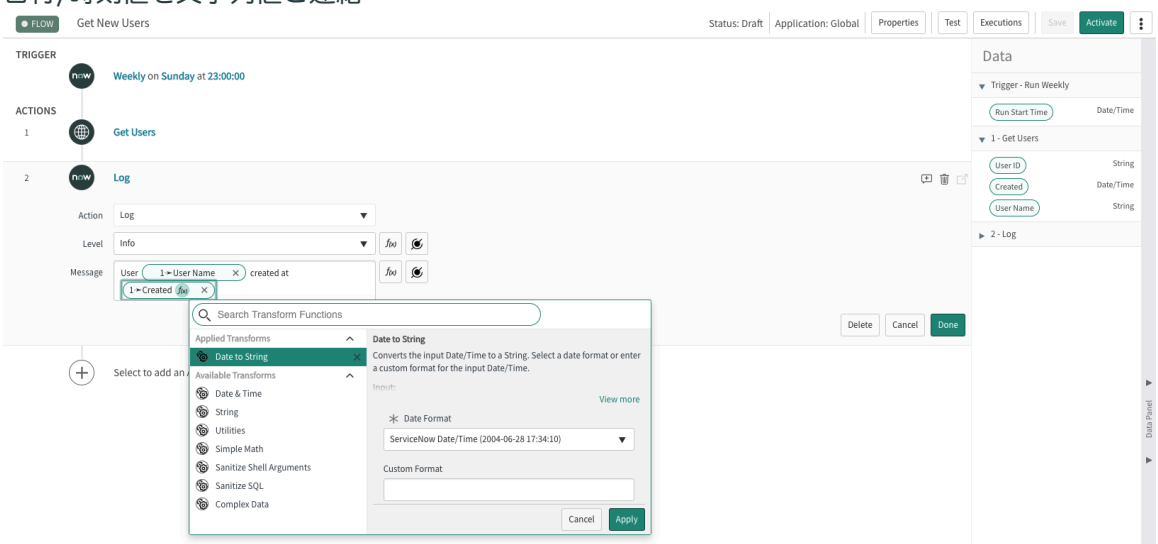
注: 間違った入力データピルタイプまたは無効な [カスタム形式 **(Custom Format)**] を使用すると、フローは実行時にキャンセルされます。

例

- 入力：`1969-12-31 14:23:57`
- 出力日付形式：カスタム（以下に入力）
- カスタム形式 (Custom Format)：`'On' MMM dd, yyyy 'at' hh:mm a`
- 出力：`'On Dec 31, 1969 at 2:23 PM'`

この例では、フローはサードパーティのデータベースからユーザー [sys_user] レコードを取得します。[日付から文字列 (Date to String)] 変換関数は、[作成日] フィールドの形式を変換し、レコードに関連付けられている日付、時刻、および名前をログに記録します。

日付/時刻値を文字列値と連結



カスタム日付形式

特定の日付と時刻パターンの文字列シーケンスを使用して、カスタム日付形式を指定できます。パターン文字列は、A から Z までの 1 つ以上の大文字と小文字で構成されます。引用符で囲まれたテキストは無視され、代わりに日付出力にコピーされます。

文字列	説明	出力形式	例
G	年代指定子	テキスト	AD

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

文字列	説明	出力形式	例
y	年	年	2019; 19
Y	年の週	年	2019; 19
M	年の月 (日付内)	月次	July; Jul; 07
L	年の月 (スタンドアロン値)	月次	July; Jul; 07
w	年の週	番号	52
W	月の週	番号	1
D	年の日	番号	365
d	月の日	番号	2
F	月の曜日	番号	3
E	曜日名	テキスト	水曜日; 水
u	週の日の番号	番号	3
a	午前または午後	テキスト	p.m.
H	0 ～ 23 の日の時間	番号	0
k	1 ～ 24 の日の時間	番号	24
K	午前または午後 0 時から 11 時までの時間	番号	0
h	午前または午後 1 時から 12 時までの時間	番号	12
m	分	番号	59
s	秒	番号	1
S	ミリ秒	番号	500
z	デフォルト形式のタイムゾーン	デフォルト形式のタイムゾーン	太平洋標準時; PST
Z	RFC 822 形式のタイムゾーン	RFC 822 形式のタイムゾーン	-0800
X	ISO 8601 形式のタイムゾーン	ISO 8601 形式のタイムゾーン	-08; -0800; -08:00

日

指定された日付/時刻から日コンポーネントを取得します。

入力データピル	出力データピル
日付/時刻	整数：指定された日付からの日。

例

- 入力： `2021-11-20 13:06:12`
- 入力日付形式：`ISO 日付 (2004-06-28)`
- 出力：`20`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

時間

指定された日付/時刻から時間コンポーネントを取得します。

入力データピル	出力データピル
日付/時刻	整数：指定された日付からの時間。

例

- 入力： `2021-11-20 13:06:12`
- 入力日付形式：`ISO 日付 (2004-06-28)`
- 出力：`13`

分

指定された日付/時刻から分コンポーネントを取得します。

入力データピル	出力データピル
日付/時刻	整数：指定された日付から分コンポーネント。

例

- 入力： `2021-11-20 13:06:12`
- 入力日付形式：`ISO 日付 (2004-06-28)`
- 出力：`06`

第 2

指定された日付/時刻から秒コンポーネントを取得します。

入力データピル	出力データピル
日付/時刻	整数：指定された日付から秒コンポーネント。

例

- 入力： `2021-11-20 13:06:12`
- 入力日付形式：`ISO 日付 (2004-06-28)`
- 出力：`12`

月次

指定された日付/時刻から月コンポーネントを取得します。

入力データピル	出力データピル
日付/時刻	整数：指定された日付から月コンポーネント。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例

- 入力： `2021-11-20 13:06:12`
- 入力日付形式：`ISO 日付 (2004-06-28)`
- 出力：`11`

週

指定された日付/時刻の週番号を評価します。

入力データピル	出力データピル
日付/時刻	整数：指定した日付の週番号。

例

- 入力： `2021-04-07 12:01:12`
- 入力日付形式：`ISO 日付 (2004-06-28)`
- 出力：`15`

年

指定された日付/時刻から年コンポーネントを取得します。

入力データピル	出力データピル
日付/時刻	整数：指定された日付から年コンポーネント。

例

- 入力： `2021-04-07 12:01:12`
- 入力日付形式：`ISO 日付 (2004-06-28)`
- 出力：`2021`

日付の差異

指定された入力日付とパラメーター日付の間の期間差を評価し、その差の期間をエポック時間 (1970-01-01 00:00:00) に追加します。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
日付/時刻、日付、または期日	日付/時刻、日付、または期日	期間：エポック時間 (1970-01-01 00:00:00) に追加された期間差。

例

- 入力：`2021-05-02 09:10:12`
- 入力日付形式：`ISO 日付 (2004-06-28)`
- パラメーター：`2021-04-07 06:02:23`
- 出力：`1970-01-26 03:07:49`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

月末

指定した日付に指定した月数を加えた後の月の最終日を評価します。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
日付	月数：指定された日付に追加する月。	整数：指定した入力日付に月数を加えた後の月の最終日。

例

- 入力：`2021-11-20`
- 入力日付形式：`ISO 日付 (2004-06-28)`
- 月数：`3`
- 出力：`2022-02-28`

文字列変換関数

文字列変換関数を使用して、文字列データピルを再フォーマットしたり、計算したりします。

文字列変換関数には、文字列入力データピルが必要です。文字列変換関数を適用するときは、正しい入力データピルタイプを使用してください。文字列変換関数が不適切なデータタイプに適用されると、データは実行時に変換されず、代わりに入力値が返されます。フローランタイム値を確認する方法の詳細については、「フローをテストする」を参照してください。

文字列を数値に変換

文字列を数値に変換します。

入力データピル	出力データピル
文字列	数値：文字列から変換された数値。

例

- 入力：`「500」`
- 出力：`500`

包含

入力文字列に指定された文字シーケンスが含まれている場合は **true** を返します。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
文字列	検索する文字。	文字シーケンスが入力文字列に存在するかどうかを示すブール値

例

- 入力：`Cheese Pizza`
- パラメーター：`Cheese`
- 出力：`true`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

含まれていない場合

入力文字列に指定された文字シーケンスが含まれていない場合は **true** を返します。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
文字列	検索する文字。	文字シーケンスが入力文字列に存在しないかどうかを示すブール値

例

- 入力：`Cheese Pizza`
- パラメーター：`Joey`
- 出力：`true`

次の値で終わる

入力文字列が指定された文字シーケンスで終了する場合は **true** を返します。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
文字列	検索する文字。	入力文字列が指定した文字シーケンスで終了するかどうかを示すブール値

例

- 入力：`Cheese Pizza`
- パラメーター：`Pizza`
- 出力：`true`

最初の文字 (First Character)

入力文字列の最初の文字を返します。

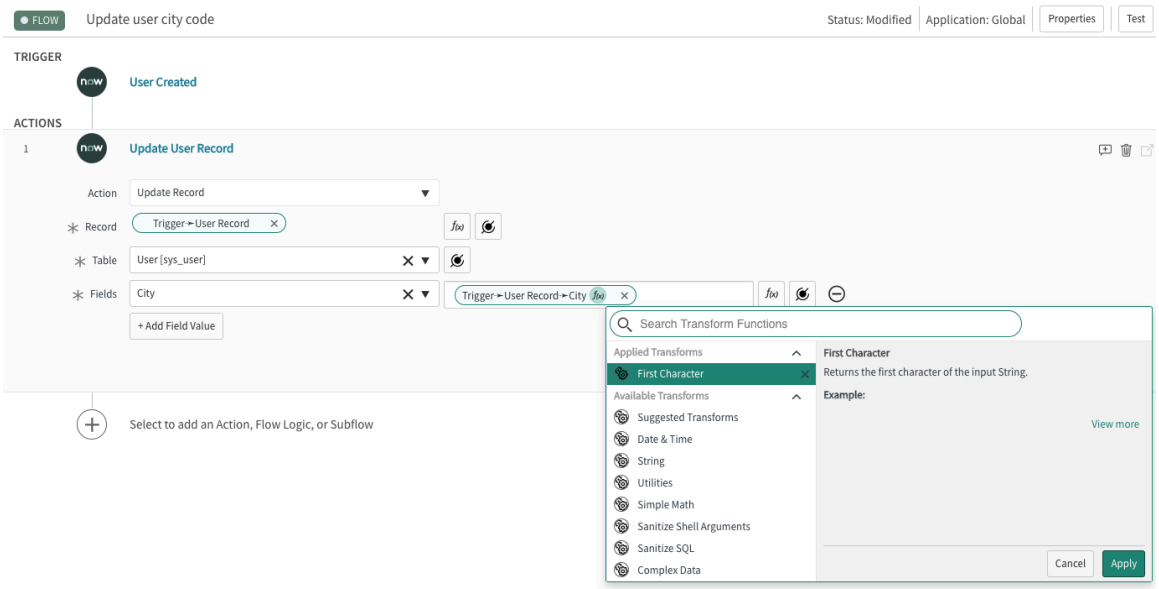
入力データピル	出力データピル
文字列	文字列：入力文字列の最初の文字として変換された文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例

- 入力：`Madrid`
- 出力：`M`

この例では、ユーザー [sys_user] レコードが作成されるとフローがトリガーされます。その後、フローは、ユーザー [sys_user] レコードの [市区町村 **(City)**] フィールドを、市区町村名の最初の文字として表されるコードで更新します。



最後の文字 **(Last Character)**

入力文字列の最後の文字を返します。

入力データピル	出力データピル
文字列	文字列：入力文字列の最後の文字として変換された文字列

例

- 入力：`Madrid`
- 出力：`d`

置換文字列 **(Replace String)**

指定された正規表現 (regex) と置換文字列に基づいて、入力文字列から置換された文字列を返します。JavaScript 正規表現形式を使用します。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
文字列	• *`Regex`*：置換のために照合する正規表現 • *`Replace String`*：置換文字列	指定されたパラメーターで置換した後に生成された文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例

- 入力：`"Example input string."`
- パラメーター：
  - 正規表現：`\"`
  - 置換文字列：`\\\"`
- 出力：`\"Example input string.\"`

サイズ

入力文字列内の合計文字数を返します。

入力データピル	出力データピル
文字列	整数

例

- 入力：`Example input string.`
- 出力：`21`

スプリット

入力文字列を分割するために指定したセパレーターに基づいて Array.String を返します。[セパレーター **(Separator)]** フィールドを空白のままにすると変換は無視され、入力文字列が返されます。[セパレーター **(Separator)]** として文字列以外のデータタイプを入力すると、指定された値が文字列に変換されます。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
文字列	*`Separator`*：入力文字列を分割する場所を指定する区切り文字を入力します。空白のままにすると入力文字列は実行時に変換されません。	Array.String：入力文字列からのサブ文字列のアレイ

例

- 入力：`Example, input, string.`
- セパレーター：`,`
- 出力：`["Example", "input", "string."]`

次の値で始まる

入力文字列が指定された文字シーケンスで開始する場合は **true** を返します。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
文字列	検索する文字。	入力文字列が指定した文字シーケンスで開始するかどうかを示すブール値

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例

- 入力：`Cheese Pizza`
- パラメーター：`Chees`
- 出力：`true`

サブ文字列

指定された [開始インデックス **(Start Index)**] と [終了インデックス **(End Index)**] に基づくサブ文字列を入力文字列から返します。入力文字列インデックスは 0 から始まります。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
文字列	• *`Start Index`*：返されるサブ文字列に含める最初の文字のインデックス • *`End Index`*：返されるサブ文字列に含める最後の文字のインデックス	文字列：入力文字列のサブ文字列として変換された文字列

例

- 入力：`Example input string`
- 開始インデックス (Start Index)：`3`
- 終了インデックス (End Index)：`6`
- 出力：`mple`

小文字にする **(To Lower Case)**

入力文字列をすべて小文字に変換します。

入力データピル	出力データピル
文字列	すべて小文字の文字列

例

- 入力：`ExamPle inpuT stRing`
- 出力：`example input string`

適切なケース **(To Proper Case)**

入力文字列の単語の大文字と小文字を変更します。各単語の最初の文字を大文字にし、単語の残りの文字を小文字にします。単語は、スペース、ハイフン、バックスラッシュ、または前方スラッシュ文字で区切られた任意の文字列と見なされます。変換関数は、単語を常に左から右に評価して最初の文字を決定します。

入力データピル	出力データピル
文字列	大文字と小文字が適切な文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例

- 入力：`exAMPle-input string/TEXT`
- 出力：`Example-Input String/Text`

To Upper Case (大文字にする)

入力文字列をすべて大文字に変換します。

入力データピル	出力データピル
文字列	すべて大文字の文字列

例

- 入力：`ExamPle inpuT stRing`
- 出力：`EXAMPLE INPUT STRING`

トリミング (Trim)

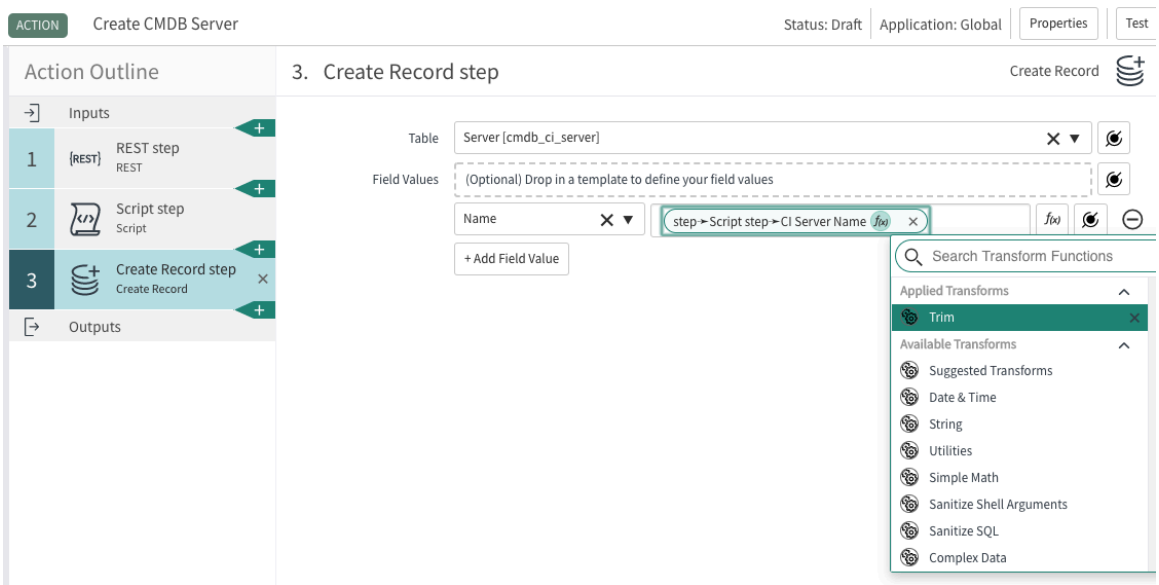
入力文字列の最初と最後から空白を削除します。入力文字列内の空白は削除しません。

入力データピル	出力データピル
文字列	文字列：空白がトリミングされた変換文字列

例

- 入力： `SQL Server APAC 1`
- 出力：`SQL Server APAC 1`

この例では、アクションによってサードパーティシステムへの REST 呼び出しが行われ、サーバーに関するデータを含む応答本文が取得されます。次に、トリミング変換関数は、サーバーの名前をサーバー [cmdb_ci_server] テーブルの新しいレコードに追加する前に不要な空白を削除します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーティリティ変換関数

ユーティリティ変換関数を使用して、アレイから複合オブジェクトを返すか、特定のキーに関連付けられた値を返します。

ユーティリティ変換関数には、アレイ、名前と値のペア、文字列、整数、または選択肢の入力データピルが必要です。ユーティリティ変換関数を適用するときは、正しい入力データピルタイプを使用してください。ユーティリティ変換関数が不適切なデータタイプに適用されると、データは実行時に変換されず、代わりに入力値が返されます。フローランタイム値を確認する方法の詳細については、「フローをテストする」を参照してください。

アレイの最初のアイテムを取得

入力アレイの最初のアイテムを複合オブジェクトとして返します。

入力データピル	出力データピル
アレイ	*Complex Object*：入力アレイで最初に見つかったアイテム

アレイのアイテムを取得

入力アレイから複合オブジェクトを返します。返す入力アレイに *Nth Item* の値を入力します。*Nth Item* は、0 から始まるアレイインデックスを表します。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
アレイ	*Nth Item*：ターゲットオブジェクトのインデックスを入力アレイに入力します。アレイインデックスは 0 から始まります。	複合オブジェクト

名前/値からアイテムを取得

名前と値のペアのマップから一致するキーに関連付けられている値を返します。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
名前/値ペア	• *Key*：対応する値を検索するために使用されるキーの名前 • *Default*：一致するキーがない場合に返される値	一致するキーに関連付けられた文字列

注: [名前/値からアイテムを取得] 変換関数を適用するときは、ランタイム値が表示値ではなくシステム値である可能性があることを考慮してください。たとえば、インシデントテーブルの [優先度] フィールドをリモートテーブルの同じフィールドにマッピングする場合、返されるランタイム値は「2 - 高」ではなく「2」になります。

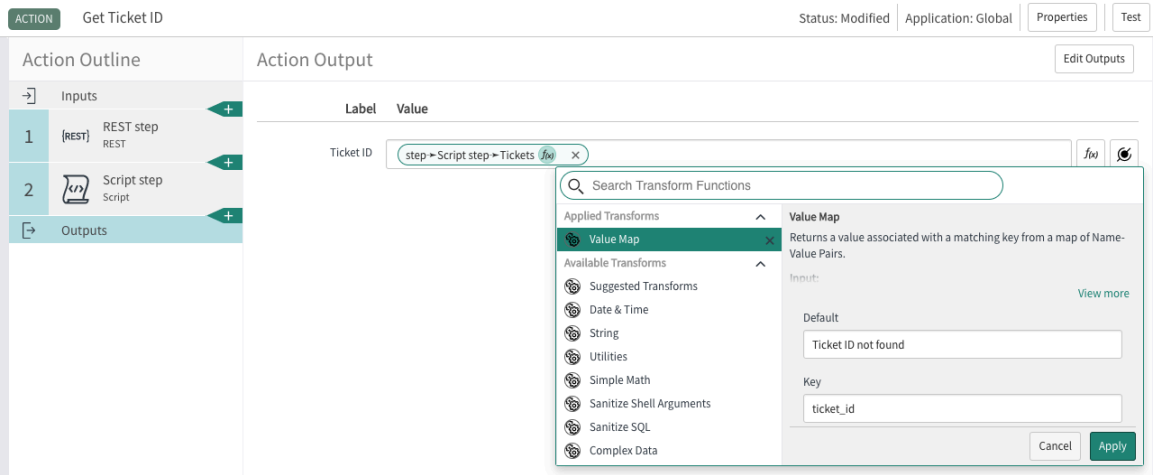
使用例：

- 入力：`"username":"abel.tuter"`
- キー：`username`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- デフォルト：`example.username`
- 出力：`abel.tuter`

この例では、アクションによってサードパーティシステムへの REST 呼び出しが行われ、GET チケットデータが名前と値のペアのマップとして取得されます。チケット ID は、このアクションの出力として提供されます。[名前/値からアイテムを取得] 変換関数は、`ticket_id` キーに関連付けられている値か、`[Ticket ID が見つからない (Ticket ID not found)]` のいずれかを返します。



アレイの最後のアイテムを取得

入力アレイの最後のアイテムを複合オブジェクトとして返します。

入力データピル	出力データピル
アレイ	*Complex Object*：入力アレイで最後に見つかったアイテム

空の場合

入力が空白の場合は **true** を返します。空の文字列の場合、文字列入力は空白です。整数入力がゼロの場合は空白です。**false** の場合、ブール値の入力は空白です。

注: この変換機能は参照入力をサポートしていません。

入力データピル	出力
任意	**true** または **false** を返します

使用例：

- 入力：`0` の整数データピル
- 出力：`true`

false の場合

入力が false 場合は **true** を返します。空の文字列の場合、文字列は false です。ゼロの場合、整数は false す。**false** の場合、ブール値の入力は false です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力データピル	出力データピル
任意	**true** または **false** を返します

使用例：

- 入力：`13` の整数データピル
- 出力：`false`

空白でない場合

入力が空白でない場合は **true** を返します。空の文字列でない場合、文字列は空白ではありません。ゼロ以外の場合、整数は空白ではありません。**true** の場合、ブール値の入力は空白ではありません。

注: この変換機能は参照入力をサポートしていません。

入力データピル	出力データピル
任意	**true** または **false** を返します

使用例：

- 入力：`13` の整数データピル
- 出力：`true`

null の場合

入力値が null の場合は **true** を返します。入力が初期化されていない場合、または null オブジェクトまたは参照である場合、入力は null です。

入力データピル	出力
任意	**true** または **false** を返します

使用例：

- 入力：`725` の整数データピル
- 出力：`false`

true の場合

入力が true の場合は **true** を返します。空の文字列でない場合、文字列は true です。ゼロ以外の場合、整数は true です。**true** の場合、ブール値の入力は true です。

入力データピル	出力データピル
任意	**true** または **false** を返します

使用例：

- 入力：`13` の整数データピル
- 出力：`true`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

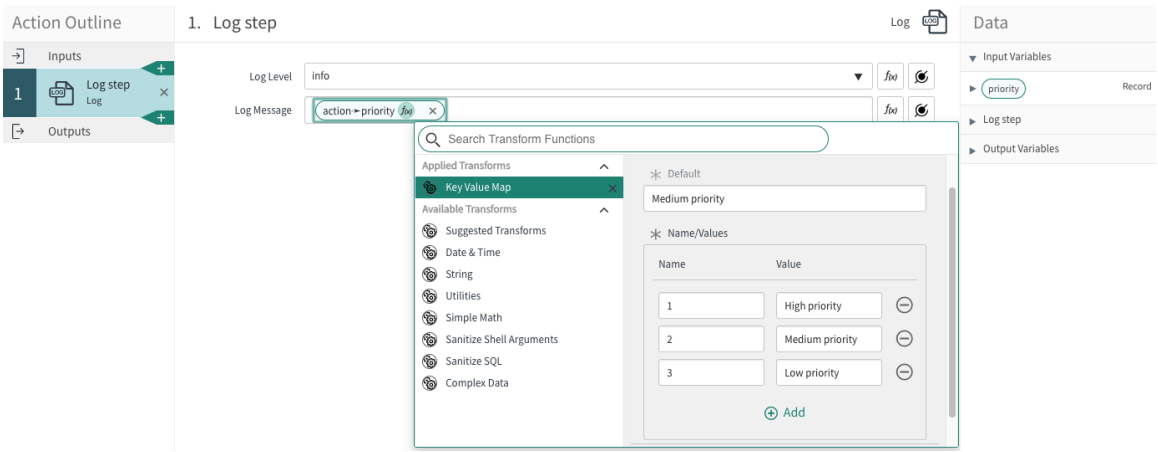
キー値マップ (Key Value Map)

一致するキーに関連付けられた値を返します。一致しない場合はデフォルト値を返します。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
文字列または整数	• *Name*：対応する値を検索するために使用されるキー • *Value*：特定のキーに一致する値 • *Default*：一致する名前がない場合に返される値	一致するキーに関連付けられた文字列

使用例：

この例では、ログアクションがレコードの優先度をメッセージとして保存します。[名前/値] セクションでは、各優先度が対応する文字列値にマップされます。フローが実行されると、レコードの優先度番号が文字列に変換され、その文字列がメッセージに記録されます。



ソート

指定したアレイを昇順または降順でソートします。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
Array.String、Array.Integer、または Array.Datetime. ：未ソートアレイ	Array.Boolean、昇順または降順	アレイ：ソート済みアレイ

注: ソート関数では、array.strings に対して大文字と小文字が区別されます。

使用例：

- 入力：`[7, 2, 3, 1, 7, 9]`
- パラメーター：昇順
- 出力：`[1, 2, 3, 7, 7, 9]`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

一意

指定されたアレイから重複する要素を削除します。

入力データピル	出力データピル
Array.String、Array.Integer、Array.Boolean、または Array.Datetime.	アレイ：重複した要素が削除された後

使用例：

- 入力：`[7, 2, 3, 2, 7, 9]`
- 出力：`[7, 2, 3, 9]`

参加

指定されたアレイの個々の要素を指定された区切り文字で連結し、連結された文字列を返します。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
Array.String、Array.Integer、Array.Boolean、または Array.Datetime.	区切り文字：連結後に個々の要素を区切る文字。	文字列：区切り文字が追加された後の文字列。

使用例：

- 入力：`[1, 2, 3]`
- パラメーター：`<`
- 出力：`1<2<3`

単純な数式変換関数

単純な数式変換関数を使用して、数値データピルに対して基本的な数学計算を実行します。

単純な数式変換関数には、Array.Number、Array.Integer、または Array.Decimal データピルが必要です。単純な数式変換関数を適用するときは、正しい入力データピルタイプを使用してください。単純な数式変換関数が不適切なデータタイプに適用されると、データはランタイム時に変換されず、代わりに入力値が返されます。フローランタイム値を確認する方法の詳細については、「フローをテストする」を参照してください。

絶対値

任意の実数に対してゼロからの距離を返す数学関数。絶対値は常に正またはゼロの値です。

入力データピル	出力データピル
数値、整数、または 10 進数	入力数値の絶対値としての数値

例

- 入力：`-3`
- 出力：`3`

追加

指定された値を入力に加算します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
数値、整数、または 10 進数	追加する数値。	パラメーターによる入力値の加算としての数値。

例

- 入力：`12`
- パラメーター：`4`
- 出力：`16`

平均

入力アレイの要素の平均値を返します。

入力データピル	出力データピル
Array.Number、Array.Integer、または Array.Decimal	入力アレイの平均値としての数値。

例

- 入力：`[10, 30, 20]`
- 出力：`20`

カウント

入力アレイの要素の数を返します。

入力データピル	出力データピル
Array.Number、Array.Integer、Array.Decimal、Array.String、または Array.Boolean	入力アレイの要素の数

例

- 入力：`[2, 10, 30]`
- 出力：`3`

除算

入力値を指定された値で除算します。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
数値、整数、または 10 進数	入力値を除算する数値。	パラメーターによる入力値の除算としての数値。

例

- 入力：`12`
- パラメーター：`4`
- 出力：`3`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

最大

入力アレイで検出された最大値を返します。

入力データピル	出力データピル
Array.Number、Array.Integer、または Array.Decimal	入力アレイの最大値としての数値

例

- 入力：`[1, -5, 20, 6]`
- 出力：`20`

中央値

入力アレイの要素の中央値を返します。

入力データピル	出力データピル
Array.Number、Array.Integer、または Array.Decimal	入力アレイの中央値としての数値。

例

- 入力：`[10, 30, 15]`
- 出力：`15`

最小

入力アレイで検出された最小値を返します。

入力データピル	出力データピル
Array.Number、Array.Integer、または Array.Decimal	入力アレイの最小値としての数値

例

- 入力：`[1, -5, 20, 6]`
- 出力：`-5`

乗算

入力値を指定された値で乗算します。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
数値、整数、または 10 進数	乗算する数値。	パラメーターによる入力値の乗算としての数値。

例

- 入力：`12`
- パラメーター：`4`
- 出力：`48`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

べき乗

指定された値のべき乗された入力値の値を返します。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
数値、整数、または 10 進数	べき乗の指数としての数値。	パラメーターによる入力値のべき乗としての数値。

例

- 入力：`2`
- パラメーター：`3`
- 出力：`8`

丸め

丸めルールと桁位置に基づいて数値を概算する数学関数。この関数は、丸める桁に 1 を加算してから、右側のすべての桁をゼロに置き換えることで切り上げます。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
数値、整数、または 10 進数	*`Number of Digits`*：左から丸める桁の位置を指定する正の整数	入力数値の丸められた値としての数値

例

- 入力：`194`
- パラメーター：`2`
- 出力：`190`

注: この関数は、パラメーターの桁の右側の桁を使用して切り上げまたは切り下げます。右の桁の値が 0 から 4 の場合、関数により切り下げられます。右の桁の値が 5 から 9 の場合、関数により切り上げられます。右側に桁がない場合、関数により切り下げられます。

平方根

正の数を計算する数学関数で、それ自体を乗算すると入力値が生成されます。この入力値は、正の実数である必要があります。

入力データピル	出力データピル
数値、整数、または 10 進数	入力数値の平方根としての数値

例

- 入力：`16`
- 出力：`4`

減算

入力から指定された値を減算します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
数値、整数、または 10 進数	入力値から減算する数値。	パラメーターによる入力値の減算としての数値。

例

- 入力：`12`
- パラメーター：`4`
- 出力：`8`

合計

入力アレイのすべての値の合計値を返します。

入力データピル	出力データピル
Array.Number、Array.Integer、または Array.Decimal	入力アレイのすべての値の合計としての数値

例

- 入力：`[1, -5, 20, 6]`
- 出力：`22`

固定

浮動小数点数を指定された小数点以下の桁数に切り捨てます。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
数値：切り捨て前の 10 進数。	桁数：切り捨てる小数点以下の桁数を指定する数値。	数値：切り捨て後の 10 進数。

例

- 入力：`1.93456`
- パラメーター：`2`
- 出力：`1.93`

シェル引数のサニタイズ変換関数

シェル引数のサニタイズ変換関数を使用して、Bash シェルスクリプティングに使用する文字列データピル内の潜在的に危険なコマンド挿入をすべて削除します。

シェル引数のサニタイズ変換関数には、文字列入力データピルが必要です。シェル引数のサニタイズ変換関数を適用するときは、正しい入力データピルタイプを使用してください。シェル引数のサニタイズ変換関数が不適切なデータタイプに適用されると、データはランタイム時に変換されず、代わりに入力値が返されます。フローランタイム値を確認する方法の詳細については、「フローをテストする」を参照してください。

注: データピルが SSH ステップに対するコマンド入力にドロップされると、シェル引数のサニタイズ変換関数カテゴリが自動的に表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Bash シェル引数のサニタイズ

Bash シェルスクリプトに危険なコマンド挿入がない文字列を返します。入力文字列を一重引用符で囲み、既存の一重引用符をエスケープして、文字列を安全な引数としてシェル関数に直接渡すことができるようにします。

入力データピル	出力データピル
文字列	文字列：Bash シェル引数が適切にエスケープされた文字列

SQL のサニタイズ変換関数

SQL のサニタイズ変換関数を使用して特殊文字をエスケープし、SQL ステートメントに使用される文字列データピルへの挿入を阻止します。

SQL のサニタイズ変換関数には、文字列入力データピルが必要です。SQL のサニタイズ変換関数を適用するときは、正しい入力データピルタイプを使用してください。SQL のサニタイズ変換関数が不適切なデータタイプに適用されると、データはランタイム時に変換されず、代わりに入力値が返されます。フローランタイム値を確認する方法の詳細については、「フローをテストする」を参照してください。

注: データピルが JDBC ステップに対する **SQL** ステートメント入力にドロップされると、SQL のサニタイズ変換関数カテゴリが自動的に表示されます。

SQL 識別子のサニタイズ

SQL 識別子 (テーブル、ビュー、列名など) のエスケープされた特殊文字/挿入された値を含む文字列を返します。入力文字列をデータベース固有の引用符で囲みます。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
文字列	*Database*：文字がエスケープされるデータベース固有のコンテキスト。選択肢には、MySQL、Oracle、PostgreSQL、および Microsoft SQL Server があります。	文字列：選択したデータベースに基づいて適切にエスケープされた SQL 識別子を含む文字列

例

- 入力：`simple_column`
- データベース：`MySQL`
- 出力：`` `simple_column` ``

注:

- 入力文字列にピリオド文字が含まれている場合、**SQL** 識別子のサニタイズはエラーを返します。ピリオドを使用して SQL 識別子を結合するには、ピリオドで連結された 2 つのデータピルを使用し、**SQL** 識別子のサニタイズを両方のピルに適用します。
- 入力データピルを引用符で囲まないでください。入力値は、データベースタイプに適用される引用符またはバッククォートのタイプで自動的に囲まれます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SQL 値のサニタイズ

SQL 値のエスケープされた特殊文字または挿入された値を含む文字列を返します。入力文字列をデータベース固有の引用符で囲みます。

入力データピル	パラメーター	出力データピル
文字列	*Database*：文字がエスケープされるデータベース固有のコンテキスト。選択肢には、MySQL、Oracle、PostgreSQL、および Microsoft SQL Server があります。	文字列：選択したデータベースに基づいて適切にエスケープされた SQL 値を含む文字列

例

- 入力：`'1'='1`
- データベース：`SQLServer`
- 出力：`''1''=''1'`

注: 入力データピルを引用符で囲まないでください。入力値は、データベースタイプに適用される引用符またはバッククォートのタイプで自動的に囲まれます。

複合データ変換関数

複合データ変換関数を使用して、複合オブジェクトデータピルを XML 形式にシリアル化します。

複合データ関数には、複合オブジェクト入力データピルが必要です。複合データ変換関数を適用するときは、正しい入力データピルタイプを使用してください。複合データ変換関数が不適切なデータタイプに適用されると、データはランタイム時に変換されず、代わりに入力値が返されます。フローランタイム値を確認する方法の詳細については、「フローをテストする」を参照してください。

XML へ

入力複合オブジェクトを XML にシリアル化します。

入力データピル	出力データピル
複合オブジェクト	XML：文字列として書式設定された XML ドキュメント

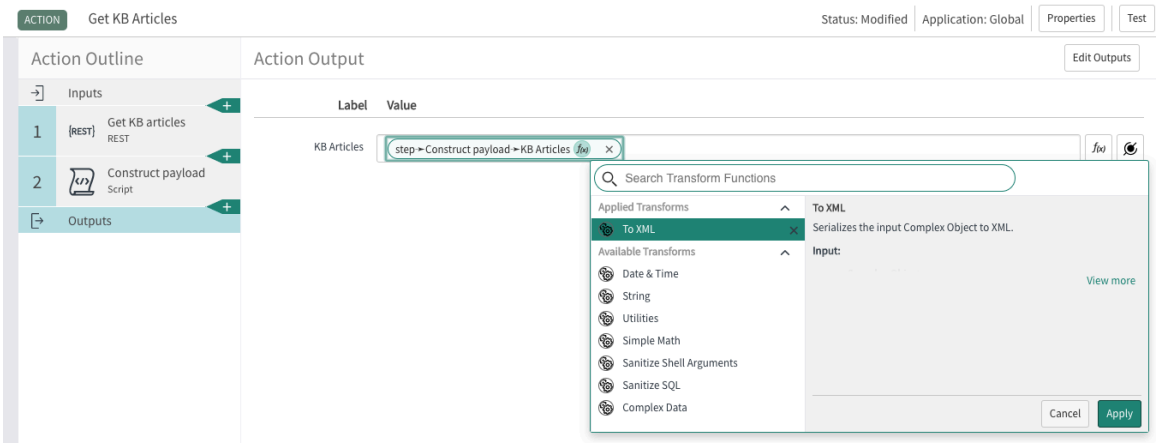
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例

- 入力：`{ "article_id": KB3843202, "article_description": "How do I reset my Active Directory password?" }`
- 出力：`<article_id>KB3843202</article_id> <article_description>How do I reset my Active Directory password?</article_description>`

この例では、アクションによってサードパーティのナレッジベースへの REST 呼び出しが行われ、KB 記事 ID と説明が取得されます。XML へ変換関数は、応答本文の JSON テキストを XML 形式に変更してから、システムのナレッジベースに統合します。

JSON テキストから XML 形式に変換されたデータ



フローのタイプとフローを使用するタイミング

ディシジョンマトリクスと基本定義 は、作成するフローのタイプを決定するのに役立ちます。

フローのタイプ

フロー

フローは「トリガー」と 1 つ以上のアクションで構成されます。

サブフロー

サブフローは、「プロパティ」、1 つ以上の入力、1 つ以上の出力、一連のアクション、および収集または作成されたデータで構成されています。

名前に反して、動的フローはフローロジックのタイプの 1 つであり、フローのタイプではありません。

異なるフローを使用する場合

異なるフローを使用する場合

次の場合	作成するもの
一連のアクションを開始するために一定の入力が必要な場合	フロー
一連のアクションを開始するために変数の入力が必要な場合	サブフロー
別のフローまたはスクリプトから呼び出してフローを開始する場合	サブフロー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

異なるフローを使用する場合 (続く)

次の場合	作成するもの
一連のアクションを他のフローで再利用する場合	サブフロー
呼び出しごとに異なるタイプの入力を設定する場合	サブフロー
サブフローが開始されたときにサブフローで使用できる入力を指定する場合。	サブフロー
サブフローが終了した後に親フローで使用できる出力を指定する場合。	サブフロー
25 以上のアクションを含む大規模なフローがあり、そのパフォーマンスと読みやすさを向上させたい場合	サブフロー
相互に関連する出力があるか、すべてが利用可能な場合に何らかのアクションを実行する必要がある場合	パラレルサブフロー
相互に関連する出力がないか、すべてが利用可能な場合に何らかのアクションを実行する必要がある場合	単一のイベントによってトリガーされる複数のフロー
レコードデータの特定のエラーを自動的に修正する場合	サブフロー
エラー処理プロセスで 10 個のアイテムの制限を回避する場合	サブフロー
サブフロー出力を使用して、他のフローの自動化をトリガーする場合	サブフロー

ディシジョンテーブルの参照

参照トピックには、ワークフロースタジオ でのディシジョンテーブルのプロパティや管理に関する追加情報が記載されています。

ディシジョンビルダー のシステムプロパティ

システムプロパティを使用して、ディシジョンビルダー で作成された意思決定テーブルの入力および意思決定の最大数に関する制限を設定します。

ディシジョンビルダー の意思決定テーブルではこれらのプロパティを利用できます。

注: これらのプロパティが入っているシステムのプロパティ [sys_properties] テーブルを開くには、ナビゲーションフィルターに「`sys_properties.list`」と入力します。

意思決定テーブルのプロパティ

プロパティ	説明
com.glide.decision_table.excel_hide_references	true に設定すると、Excel にエクスポートされた意思決定テーブルには、タイプが参照の条件または結果列のレコードのドロップダウンリストは含まれません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

意思決定テーブルのプロパティ (続く)

プロパティ	説明
	• タイプ：true/false • デフォルト値：False
com.glide.decision_table.max_inputs	モデル (sys_decision) レコードに定義できる意思決定入力の最大数。 • タイプ：整数 • デフォルト値：空。このプロパティが空のままである場合、入力の制限はありません。
com.glide.decision_table.max_questions	ディシジョンテーブル (sys_decision) レコードに定義できる意思決定質問の最大数。 • タイプ：整数 • デフォルト値：空。このプロパティが空のままである場合、入力の制限はありません。

注:

- 入力または意思決定がアドミニストレーターによって設定された上限を超えると、警告メッセージが表示されます。
- デフォルトでは、ディシジョンビルダー の意思決定テーブルには最初の 20 行が表示されます。さらに 20 行を表示するには、[さらに表示] を選択します。

ドメインセパレーションと ディシジョンビルダー

ここでは、ディシジョンビルダー に関するドメインセパレーションの概要を説明します。ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。その後、どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル：標準

- ベーシックレベルサポートを含みます。
- ビジネスロジック：サービスプロバイダー (SP) によって顧客ごとにプロセスを作成または変更できます。ユースケースには、単一のインスタンスでの複数のサービスプロバイダー顧客によるアプリケーションの正しい使用が反映されています。
- インスタンスのオーナーは、特定のアプリケーションで想定されているテナントあたりの最小実行可能製品 (MVP) ビジネスロジックとデータパラメーターを設定できる必要があります。

サンプルユースケース：アドミニストレーターは、レコードを他のテナントに対してはクローズしないが、1 つのテナントに対してクローズする場合、コメントを必須にできる必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ディシジョンビルダーのドメインセパレーション

- 意思決定テーブルは、テーブルを作成したユーザーのドメインに属します。たとえば、TOP ドメインの顧客がディシジョンテーブルを作成すると、そのディシジョンテーブルは TOP ドメインに属します。
- 親ドメインのユーザーは子ドメインの意思決定テーブルを見ることはできますが、そのテーブルの編集はテーブルが属するドメインで行う必要があります。たとえば、TOP ドメインのアドミニストレーターは ACME ドメインの意思決定テーブルを見ることはできますが、そのテーブルを編集するには ACME ドメインに切り替える必要があります。

クラシックの承認

クラシック承認は、作業を行う前にタスクに対する承認を要求する従来のプロセスです。以前のリリースでは、承認レコードを作成して承認タスクを定義し、ユーザーまたはグループを関連付けて承認または却下することができました。

アドミニストレーターは、[すべて] > [システムポリシー] > [ルール] > [承認] に移動して、従来の承認ロジックを定義できます。

重要: クラシック承認ルールは ワークフロースタジオ 「承認を求める」アクション に置き換えられました。ワークフロースタジオ を使用して、より良いレポート情報を提供する、管理しやすいワークフロー駆動型の承認ロジックを作成します。

アドミニストレーターは、[すべて] > [セルフサービス] > [自分の承認] に移動し、リストフィルターを削除することで、すべての承認要求を表示できます。

承認レコードは次のフィールドで構成されています。

承認レコードのコンポーネント

フィールド	入力値
承認者	関連レコードの承認を担当するユーザーへの参照。
状況	選択肢は次のとおりです。 • 未要求 (この状態は、承認者にこの要求を承認するよう求めていないことを示します。ステータスを [要求済み] に設定するまで要求に関するメール通知は送信されません) • 要求済み • 承認済み • 却下
承認中	任意のテーブルで承認中のレコードへの document_id 参照フィールド。
コメント	承認に関するコメントを保存するジャーナル フィールド。
承認サマライザー	フォーマッターを作成して 参照文書からの承認に関連するキーフィールドを表示するフォームに追加します。参照されているレコードがない場合、このサマライザーは表示されません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認エンジン

さまざまなアプリケーション (サービスカタログ要求や変更管理など) の承認の違いに加え、会社が承認を処理する方法の違いについては、アプリケーション内で承認を設定する際の柔軟性をサポートする必要があります。

重要: クラシック承認ルールは ワークフロースタジオ 「承認を求める」アクション に置き換えられました。ワークフロースタジオ を使用して、より良いレポート情報を提供する、管理しやすいワークフロー駆動型の承認ロジックを作成します。

この柔軟性は、各タスク テーブル (つまり、タスク テーブルを拡張するすべてのテーブル) の承認を管理するために使用される「承認エンジン」の選択によって提供されます。

各タスク テーブルには、3 種類の承認エンジン オプションが用意されています。

承認エンジン オプション

オプション	説明
承認ルール	1 つがタスク テーブルに一致するまで評価される簡単な一連のルール。一致する承認ルールは、タスクを承認するユーザーを作成するために使用されます。[システム ポリシー] > [承認] に移動して、承認ルールを設定します。
処理ガイド	承認と却下の処理方法を制御できる一連の承認ステップ。このオプションは廃止されているため、使用しないでください。
エンジンをオフにする	このタスク テーブルの両方の承認エンジンをオフにします。ワークフローを使用してテーブルの承認プロセスを管理する場合、このオプションを選択して読み込み専用にする必要があります。 **注:** 承認エンジンをオフにしないと、パフォーマンスや動作がインスタンスに影響する可能性があります。

承認エンジンの設定

システム内の各タスク テーブルの承認を管理するには、承認エンジンを設定します。

始める前に

必要なロール：なし

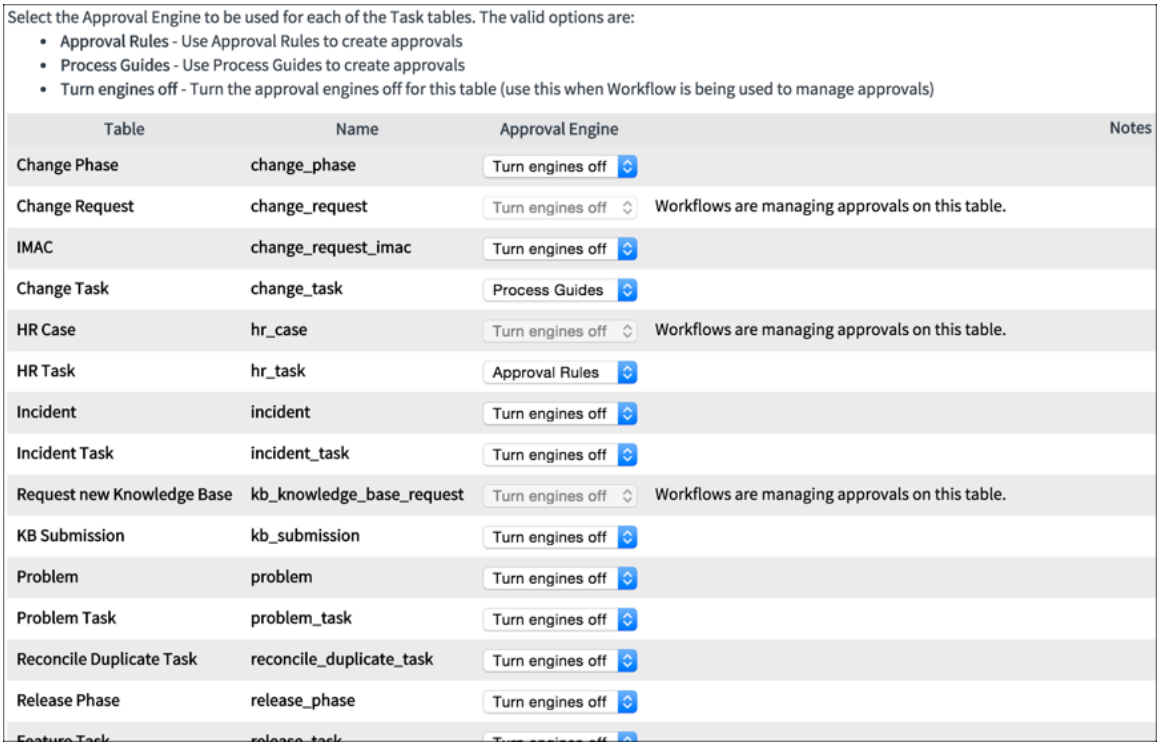
重要: クラシック承認ルールは ワークフロースタジオ 「承認を求める」アクション に置き換えられました。ワークフロースタジオ を使用して、より良いレポート情報を提供する、管理しやすいワークフロー駆動型の承認ロジックを作成します。

手順

1. [すべて] > [システムのプロパティ **(System Properties)]** > [承認エンジン]に移動します。

   システム内の各タスク テーブルの [承認エンジン] オプションとともに、次のページが表示されます。[承認エンジン] オプションがグレー アウトされ、**[Turn engines off]** (エンジンをオフにする) が表示されている場合、同じ行にある [メモ] を参照してください。承認エンジンがオフにされる最も一般的な理由は、ワークフローがテーブルで承認を管理している場合です。承認エンジンをオフにすると、さまざまな問題を生じさせる可能性があるワークフローとの競合が防止されます。テーブルで承認エンジンを使用する場合は、ワークフローを無効に設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



2. 選択リストから各タスク テーブルの承認エンジンオプションを選択します。
3. [保存] をクリックします。
これらの設定は、*glide.approval_engine.<table_name>* という名前のシステムプロパティとして保存されます。

承認ルール

多くの組織は、要求が合理的であり、組織の予算に適合していることを確認するために承認プロセスに依存しています。

重要: クラシック承認ルールは ワークフロースタジオ 「承認を求める」アクション に置き換えられました。ワークフロースタジオ を使用して、より良いレポート情報を提供する、管理しやすいワークフロー駆動型の承認ロジックを作成します。

サービスカタログでは、次のクラスの承認を使用できます。

- ゲート承認：要求の開始前に行う必要があります。たとえば、マネージャーは従業員の会社車の要求を却下することができます。ゲート承認の詳細については、「ゲーティング承認」を参照してください。
- プロセス承認：開始された実行計画プロセス内で行われます。たとえば、セキュリティグループは、従業員のマネージャーが SSN へのアクセスの要求を承認しても、それを却下することができます。プロセス承認の詳細については、「プロセスの承認」を参照してください。

注: 承認プロセスがスムーズに運用されるようにするには、適切なユーザーが正しいロールを持っていること、およびそのロールが必要なテーブルへのアクセス権を関連するすべての部門およびドメインのユーザーに対して付与することを確認します。

自動承認ルールの設定

承認ルールによって、承認状態を [未要求] 以外の状態に自動的に設定することができます。その結果、承認ルールによって一連の承認者が作成されます。また、承認状態を [要求済み] に設定して承認プロセスを開始することもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重要: クラシック承認ルールは ワークフロースタジオ 「承認を求める」アクション に置き換えられました。ワークフロースタジオ を使用して、より良いレポート情報を提供する、管理しやすいワークフロー駆動型の承認ロジックを作成します。

必須条件

必要なロール：admin

承認ルールには、次の 2 つの新しいフィールドがあります。

- [前の実行ルール]：true の場合、レコードの挿入/更新の前に承認ルールが実行されます。
- [セット状態]：このルールが適用される場合、タスク レコードの承認状態が自動的にこの値に設定されます。

  注: [セット状態] フィールドは、 [前のルール実行] チェック ボックスを有効にした場合にのみ、想定どおりに動作します。

- 以下の例では、このルールにより、タスクの状態が自動的に [承認済み] に設定されるため、タスクが自動承認されます。

承認ルール フィールド

ゲーティング承認

ゲーティング承認は、要求の開始前に要求が通過しなければならないゲートとして機能します。

すべてのゲーティング承認を満たすまで、通知は送信されず、技術者にタスクが送信されず、誰も問題の要求の作業を開始しません。

次のようにゲーティング承認を生成します。

ゲーティング承認

タイトル	説明
承認ルール	サービスカタログおよびその他のタスク テーブルに適用できます。
アイテム ベースの承認	特定のカタログ アイテムに特定の承認が必要であるとフラグを付けます。これらのアイテムの要求には、自動的にこれらの承認が必要です。

関連情報

承認ルールを使用したゲーティング承認の設定

注文されたアイテムに基づくゲーティング承認の設定

承認ルールを使用したゲーティング承認の設定

承認ルールを使用してゲーティング承認を設定できます。

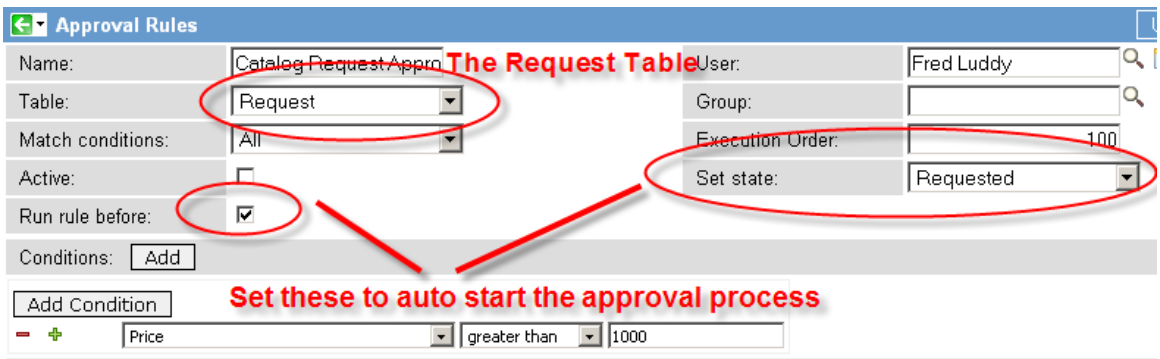
始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重要: クラシック承認ルールは ワークフロースタジオ 「承認を求める」アクション に置き換えられました。ワークフロースタジオ を使用して、より良いレポート情報を提供する、管理しやすいワークフロー駆動型の承認ロジックを作成します。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、[システム ポリシー] > [承認ルール] を選択します。
2. [新規] をクリックします。



承認ルール

フィールド	説明
名前	このルールの名前。
テーブル	このルールが適用されるタスク テーブル。ほとんどのサービスカタログ承認では、[要求] を選択します。 **注:** このリストには、承認ルールとアプリケーションスコープ にあるテーブル ビューとデータベースビューのみが表示されます。
アクティブ	ルールが有効かどうかを示すインジケーター (デフォルトは true)。
前の実行ルール	要求レコードを保存する前または後にルールが実行されるかどうかを示すインジケーター。ほとんどの承認では、このチェック ボックスをオンにします。
ユーザー	この要求を承認する必要があるユーザー (空でもよい)。
グループ	この要求を承認する必要があるグループ (空でもよい)。
セット状態	このルールの実行後のタスクにおける承認フィールドの値。ほとんどの場合、[要求済み] を選択します。
条件	ルールが適用される条件。
スクリプト	承認者が誰であるかをプログラムで指定するためのオプションのサーバー スクリプト。たとえば、1 行のスクリプト `current.requested_for.manager` の場合、ServiceNow では、現在のレコードで requested_for 参照フィールドをチェックします。次に、参照レコードでマネージャーフィールドを検索し、その人物を承認者として

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	割り当てます。その他の例については、ServiceNow によって提供されている承認ルールのスクリプト フィールドを参照してください。

注意事項および制限事項：

a. 特定のテーブルに好きなだけルールを設定することができます。複数のルールが適用される場合は、承認者も複数になります。

b. 承認者を重複させることはできません。たとえば、2 つのルールの両方で Fred Luddy さんに特定の要求を承認させる場合、Fred さんに対して作成される承認エントリーは 1 つだけです。

c. デフォルトでは、すべての要求は [未要求] の承認状態で開始します。承認通知は、要求の承認状態が [要求済み] に設定されるまで送信されません。これは、手動またはスクリプトで実行できますが、最も簡単な方法は [セット状態] を使用して要求を自動的に [要求済み] に設定することです。

注文されたアイテムに基づくゲーティング承認の設定

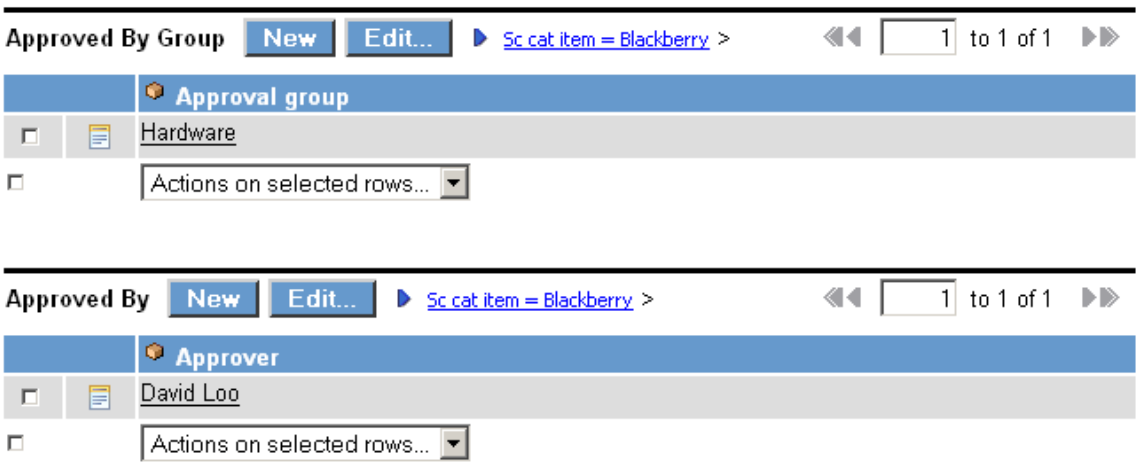
承認ルールによる承認の追加に加えて、注文されているアイテムの種類に基づいて承認を追加することもできます。

承認ルールによる承認の追加に加えて、注文されているアイテムの種類に基づいて承認を追加することもできます。たとえば、すべての Blackberry に David Loo さんによる承認が必要であることを指定することができます。

これを行うには、問題のアイテムに移動し、必要な承認者の関連リストまでスクロールします。次の 2 つのリストがあります。

- グループにより承認：このアイテムの要求を承認する必要があるグループのリスト
- 承認者：このアイテムの要求を承認する必要があるユーザーのリスト

承認リスト



上記の例では、この要求はハードウェア グループのすべてのメンバーと David Loo さんによって承認される必要があります。

注意事項および制限事項：

1. 承認ルールと同様に、エントリの重複から保護されます。したがって、ある人がハードウェアグループのメンバーであり、スタンドアロンの承認者でもある場合、その人が取得する承認要求は 1 つだけです。

2. 承認ルールの代わりにアイテムベースの承認が機能するため、両方を使用することができます (おそらく使用することになります)。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロセスの承認

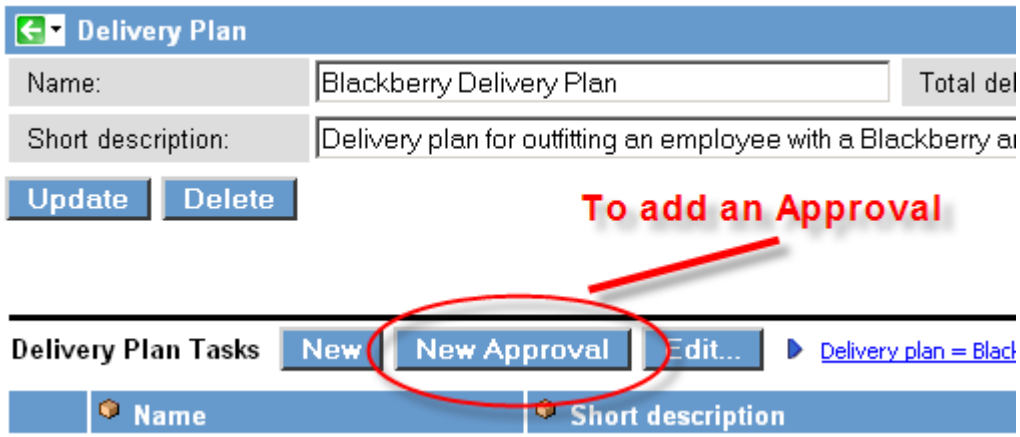
要求がそのゲーティング承認を通過すると、関連する実行計画が開始されます。

重要: クラシック承認ルールは ワークフロースタジオ 「承認を求める」アクション に置き換えられました。ワークフロースタジオ を使用して、より良いレポート情報を提供する、管理しやすいワークフロー駆動型の承認ロジックを作成します。

さらに、これらの計画により、必要な一連のタスクが作成されます。適切な時点で発生するように設定されている承認ステップを実行計画に追加することができます。

左側のナビゲーション ペインで、[サービスカタログ] > [実行計画] を選択してから、承認ステップを追加する計画を選択します。次に、[新規承認] ボタンをクリックします。

承認の追加



[承認タスク] 画面が表示されます。通常のサービスカタログ実行タスクと同様に、承認実行タスクには次のフィールドがあります。

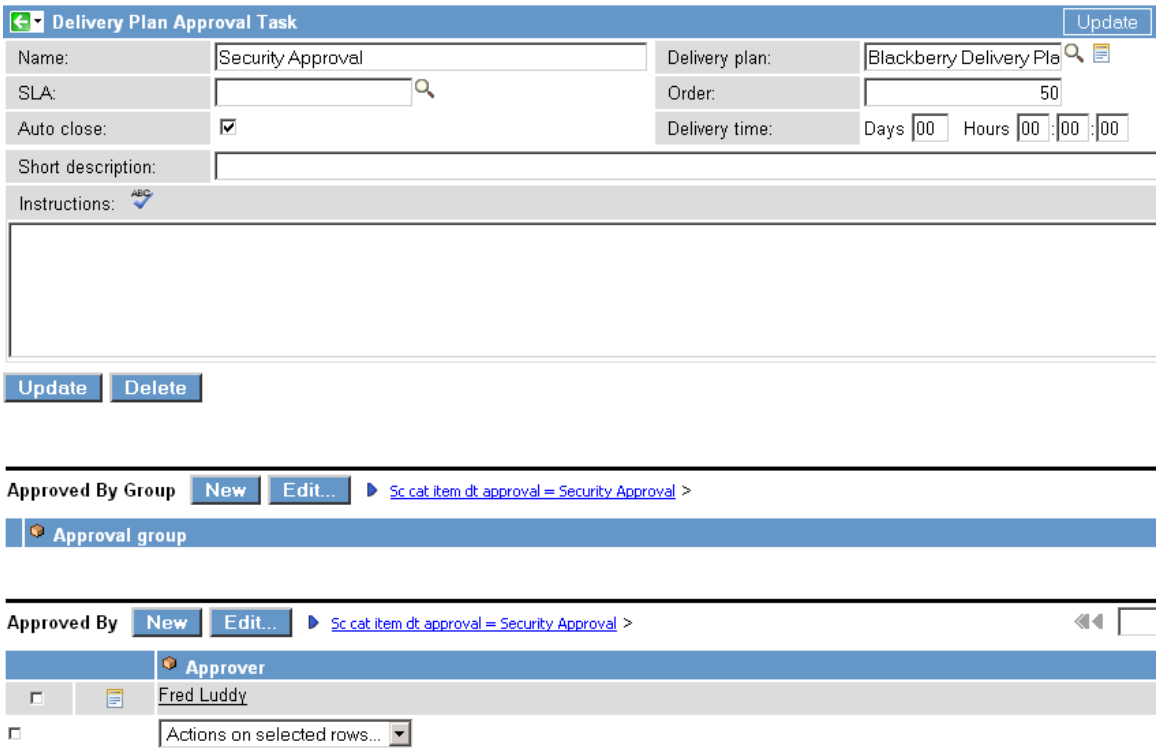
- 名前：このタスクの名前
- 順番：計画内のこのタスクの順番
- **SLA**：このタスクが適用される SLA
- 配送時間：このタスクの完了に許可された時間

タスクの作成後、タイトル バーを右クリックして [保存] を選択します。2 つの関連リストが画面の下部に表示されます。

- グループにより承認：このタスクが完了する前に要求を承認する必要があるグループのリスト
- 承認者：このタスクが完了する前に要求を承認する必要があるユーザーのリスト

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認タスク



上記の例では、このセキュリティ承認タスクは Fred Luddy さんによって承認される必要があります。

注: 処理中の承認が却下されると、その特定の品目もキャンセルされますが、要求自体は必ずしもキャンセルされるわけではありません。したがって、Blackberry とラップトップを注文し、Blackberry が却下された場合、ラップトップの要求は引き続き処理されます。

処理ガイドによる承認

処理ガイドは、実行ルールが条件によって制御される点で承認ルールと同様に機能します。

始める前に

必要なロール：なし

このタスクについて

承認タスクのデフォルト バージョンでは、問題の承認が次の人物によって承認されるように指定できます。

1. 1 人または複数の特定の人々
2. 1 つまたは複数の人々のグループ

オプションで、承認タスクの代わりに処理ガイドを使用できます。処理ガイドは、以下を可能にする点でより柔軟性があります。

1. 「任意の」または「すべての」承認
2. 連続承認

処理ガイドを実行タスクにリンクすることができます。

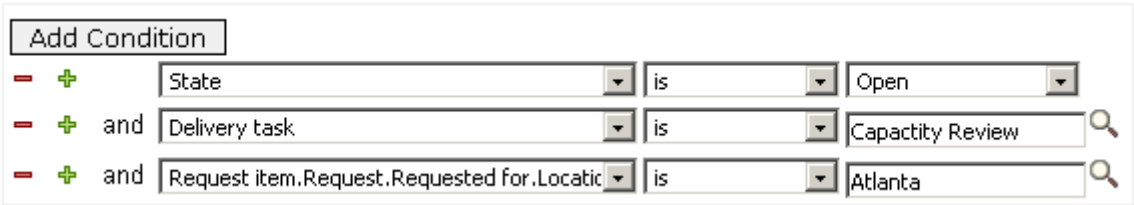
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、[システム ポリシー] > [処理ガイド] を選択します。
2. 新しいガイドを作成します。
3. テーブルを [カタログ タスク] に設定します。
4. このガイドが付随する条件を入力します。

例 1：すべての「キャパシティ レビュー」タスクに適用します。

例 2：要求者がアトランタにいるすべての「キャパシティ レビュー」タスクに適用します。



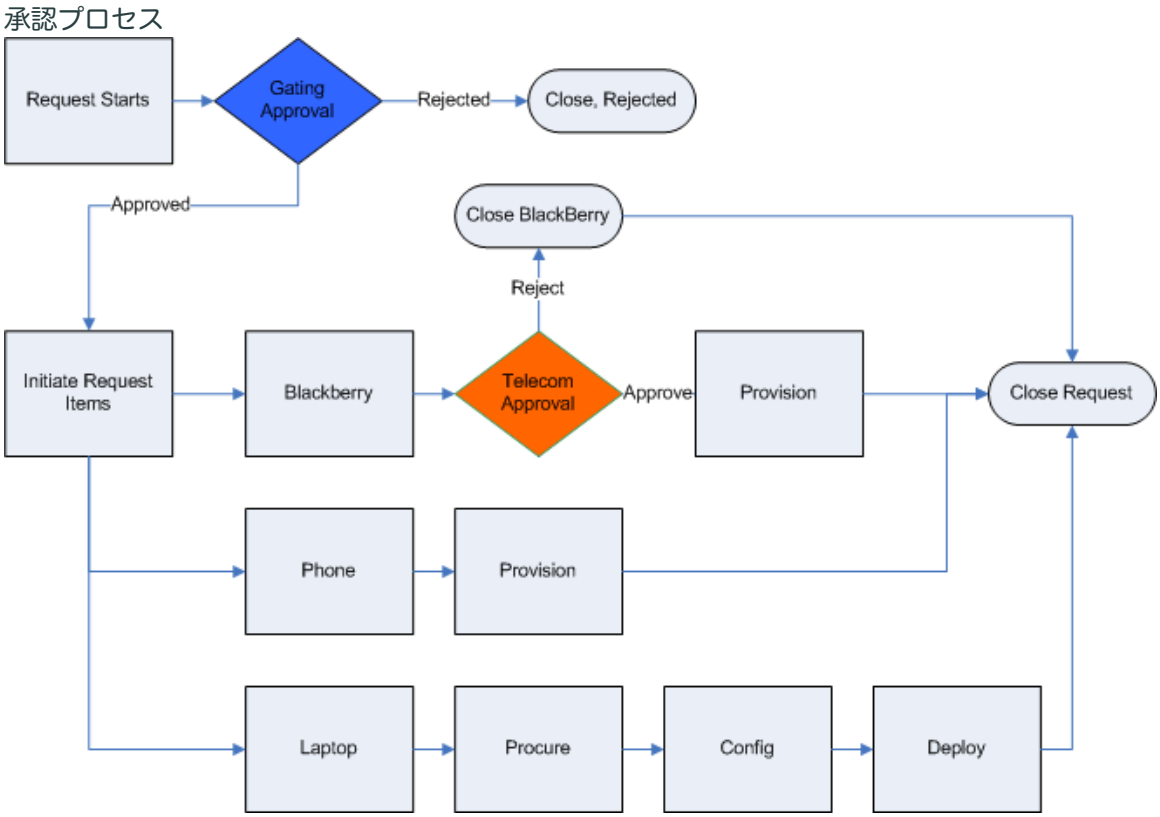
処理ガイドのヒントと秘訣：

a. すべてのカタログ タスクは、要求が初めて送信されたときに生成されますが、有効ではないタスクの状態は「保留中」です。したがって、タスクが実際に開始されるまで承認要求を送信しない場合は、条件の一部として [状態] [=] [オープン] を追加します。
b. システムには、シーケンス番号が 10,000 のカタログ タスク用の「デフォルト」の処理ガイドがあります。これは、古い前処理ガイド コードが承認に関して実行したのとまったく同じように動作します。承認はタスク関連のリストの実行に基づきます。

仮想的な承認プロセスの概略図

仮想的な承認プロセスを示す下記の図では、ゲーティング承認は青色に、処理中の承認はオレンジ色になっています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



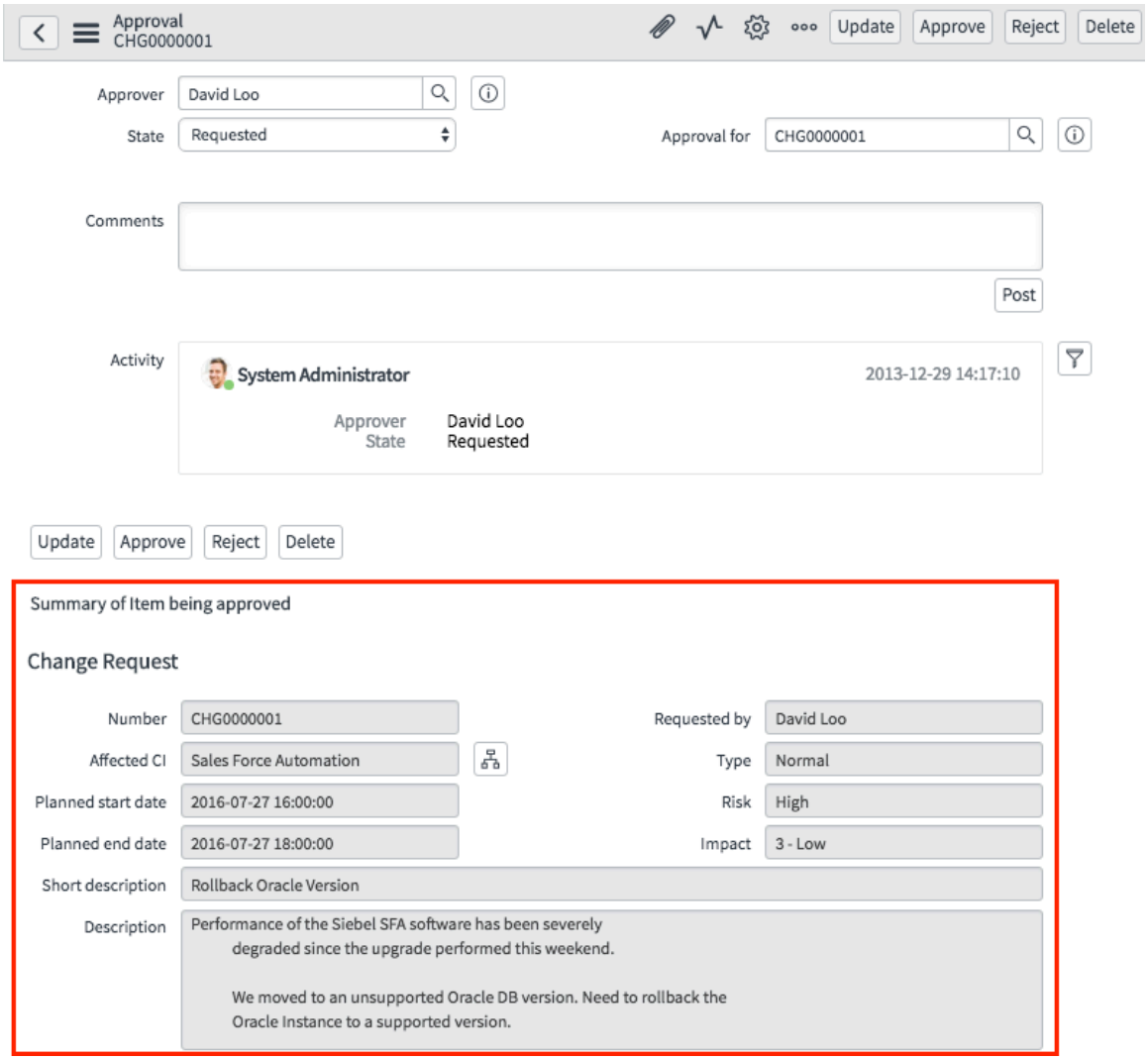
承認サマライザーフォーマッター

承認サマライザーフォーマッターにより、承認フォームの下部にサマリーが作成されます。

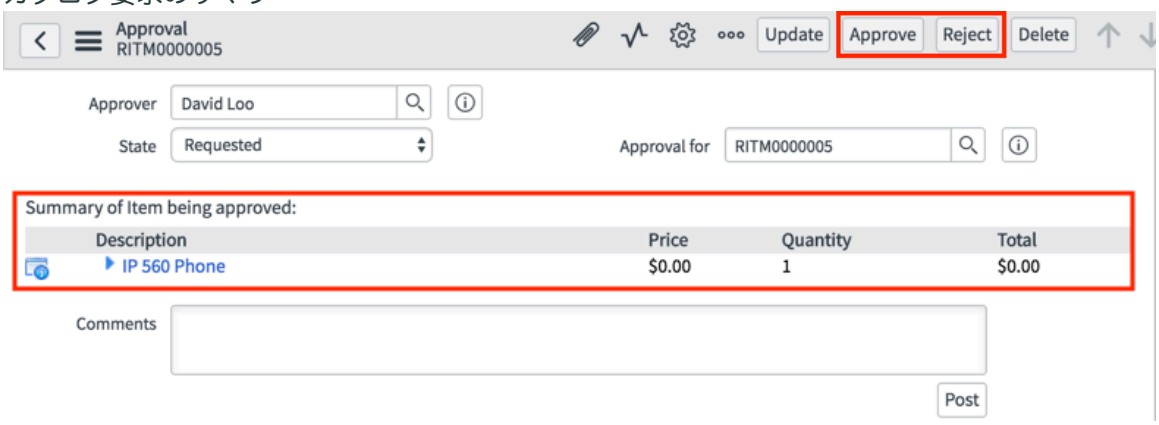
承認サマライザーには、変更要求やサービスカタログ要求など、承認中の内容に応じて異なる情報が表示されます。以下に 2 つの例を示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

変更要求のサマリー



カタログ要求のサマリー



[却下] ボタンを使用すると、承認者は、要求全体を承認する前に、複数アイテム要求で 1 つ以上のアイテムを拒否することができます。要求アイテムが拒否された場合、そのアイテムのワークフローは開始されません。その後、承認者はアイテムの [承認] を選択することができます。

注: 要求全体が承認されたら、この [却下] ボタンが非表示になっていることを確認する必要があります。要求承認後にこのボタンを使用すると、要求アイテムのワークフローがキャンセルされ、ステージが矛盾した状態になります。同様に、要求アイテムの [承認] ボタンは、要求全体が承認または却下される前にのみ表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

フォーマッターの使用

サマライザー

承認サマライザーは、マクロ [sys_ui_macro] テーブルに保存されます。

左側のナビゲーション ペインで、[システム **UI]** > **[UI** マクロ] を選択します。サマライザーでは、approval_summarizer_ + '<table_name> という命名規則を使用します (たとえば、approval_summarizer_change_request は変更要求のサマライザーで、approval_summarizer_sc_request はサービスカタログ要求のサマライザーです)。

各サマライザーは、Jelly スクリプトで記述され、内部フォームの定義に使用されます。スクリプトは、UI マクロ フォームの下部にある大きな XML フィールドに保存されます。

承認サマライザーの変更

既存の承認サマリーを変更して、補足情報を含めることができます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
これらは高度なカスタマイズであり、すべての実装に適切でない可能性があり、カスタム フォームを作成する必要があります。

手順

1. [すべて] > [システム **UI]** > **[UI** マクロ]に移動します。
2. 変更するサマライザーを開きます。
3. スクリプトを元に戻す必要がある場合は、スクリプトを別の場所にコピーしてから編集します。
4. スクリプトを変更します。
5. [更新] をクリックします。

新しいカスタム承認サマライザーの作成

承認がある新しいテーブルをインスタンスに追加した後、新しい UI マクロを作成し、それを適切なフォームに追加して、カスタムアクティビティフォーマッターを追加できます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
approval_summarizer は、グローバルスコープの承認フォームでのみ使用できます。

手順

1. [すべて] > [システム **UI]** > **[UI** マクロ]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. サマリーの命名規則 (`approval_summarizer_ <tablename>`) に従ってマクロに名前を付けます。
4. フォームの残りの部分に入力し、[送信] をクリックします。
5. アクティビティフォーマッターを作成して、それを適切なフォームに追加します。
   アクティビティフォーマッターの詳細については、「アクティビティフォーマッター」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Approval with e-signature

ログイン認証情報を再入力して、承認レコードを承認または却下します。アクティビティストリームまたは監査履歴から承認の履歴を表示します。

連邦規則集第 21 編 (CFR) パート 11 のサポート

Approval with e-signature プラグインは、Title 21 CFR Part 11 の電子署名要件について検証されています。このプラグインは、21 CFR Part 11 に準拠するために必要です。

誰かがレコードを承認するたびに、以下の情報が保存されます。

- 署名者の印字名
- 署名が行われた日時
- 署名の意味 (承認または却下)

この情報は、レコードのアクティビティストリームと監査履歴の一部として保存されます。

承認テーブル

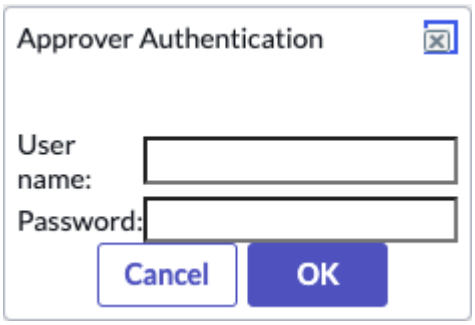
デフォルトでは、Approval with e-signature は次のテーブルをサポートしています。

- 変更要求 [change_request]
- 標準的な変更提案 [std_change_proposal]

承認テーブルを追加する場合、テーブルの承認には電子署名認証が必要です。サポートしている Approval with e-signature からテーブルを追加または削除するには、「承認テーブルの選択」を参照してください。

[承認者認証] ダイアログ

承認者は、承認ステータスを変更するためにユーザー認証情報を入力する必要があります。認証情報が不正な場合、承認は変更されません。システムは、ローカルユーザーレコードまたはアクティブなシングルサインオン統合に対してユーザー認証情報をチェックします。

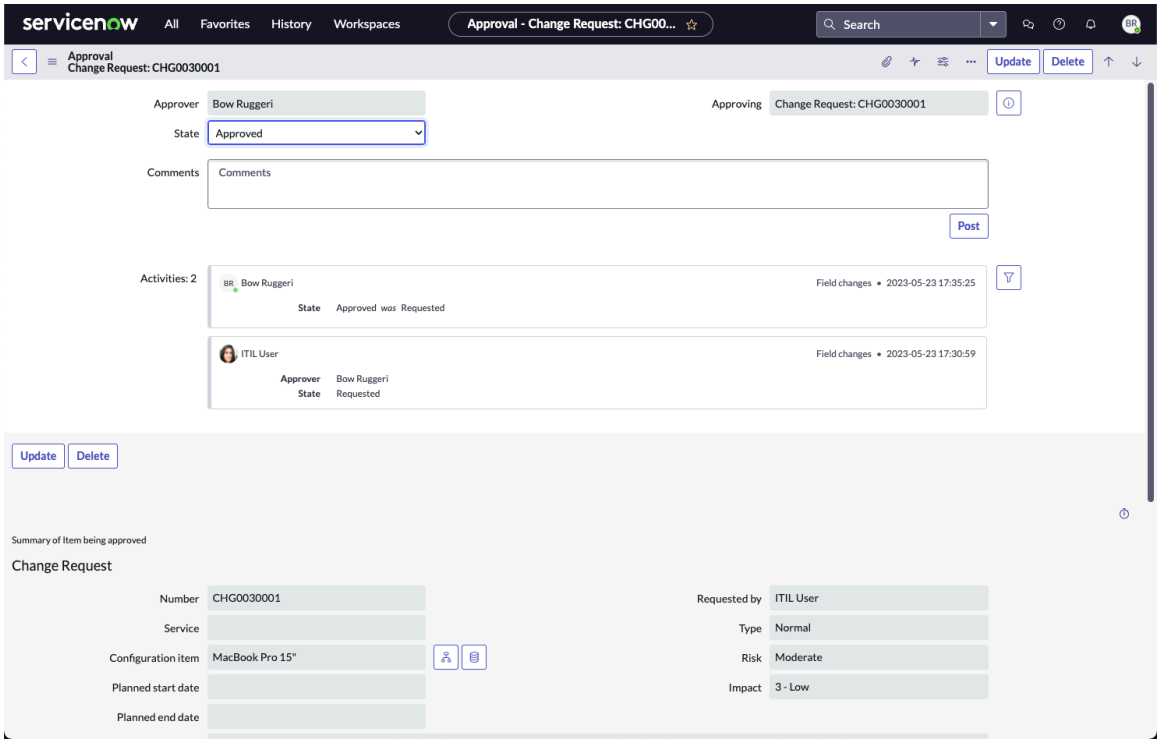


承認履歴

各承認 [sysapprover_approver] レコードには、変更を追跡するアクティビティストリームがあります。電子署名による承認は、フィールドの変更として保存されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティビティストリームの例



利用可能な承認オプション

変更要求 [change_request] テーブルは、次の承認オプションを提供します。

リストオプション

変更要求テーブルには、レコードを承認または却下するためのコンテキストメニューオプションがあります。[承認] または [却下] コンテキストメニューオプションを選択すると、[承認者認証] 確認ダイアログが表示されます。

UI アクション

変更要求フォームには、レコードを承認または却下するための UI アクションがあります。[承認] または [却下] の UI アクションを選択すると、[承認者認証] 確認ダイアログが表示されます。

変更レコードの状態

変更要求テーブルには、レコードを承認または却下するためのステータスフィールドがあります。[承認] または [却下] ステータスを選択すると、[承認者認証] 確認ダイアログが表示されます。

ユーザー認証情報のソース

Approval with e-signature では、次のタイプのユーザー認証情報ソースをサポートしています。

- ローカルユーザー [sys_user] レコードのセット。
- 複数プロバイダーのシングルサインオン (SSO) 統合によってアクセスされるリモート ID プロバイダーサービス。

Approval with e-signature を有効にする前に、ユーザー認証情報を設定する必要があります。ローカルユーザーレコードを作成するには、「ユーザーの作成」を参照してください。

Security Assertion Markup Language (SAML) 2.0 ID プロバイダーとの統合を作成するには、「複数プロバイダーのシングルサインオン (SSO)」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

電子署名による承認プラグインのアクティブ化

電子署名による承認プラグイン (com.glide.e_signature_approvals) を使用すると、ユーザーはログイン認証情報を再入力して要求を承認することができます。

始める前に
必要なロール：admin

注: 電子署名プラグインをインストールするには、コード署名の署名 (`com.glide.code_signing.signatures`) をインストールする必要があります。

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。
2. フィルター基準と検索バーを使用してプラグインを検索します。

   名前または ID でプラグインを検索できます。プラグインが見つからない場合は、ServiceNow 担当者から要求する必要があります。
3. [インストール] を選択して、インストールプロセスを開始します。

   注: ドメインセパレーションと代理アドミンがインスタンスで有効になっている場合、管理ユーザーはグローバルドメインに含まれている必要があります。それ以外の場合、次のエラーが表示されます：「別の操作が実行されているため、アプリケーションのインストールは利用できません：<プラグイン名> のプラグインの有効化 (`Application installation is unavailable because another operation is running: Plugin Activation for <plugin name>`)」

   インストールが完了するとメッセージが表示されます。プラグインとともにインストールされているコンポーネントについては、「アプリケーションとともにインストールされているコンポーネントの検索」を参照してください。

電子署名の無効化

電子署名を無効にするには、この手順を使用します。

プラグインは削除できませんが、電子署名は無効にすることができます。

1. [システム定義] > **[e-Signature** レジストリー] に移動します。
2. 電子署名が不要になったテーブルで [有効] を **[False]** に設定します。

承認テーブルの選択

デフォルトでは、Approval with E-signature プラグインを有効にすると、承認が存在するすべてのテーブルの電子署名が有効になります。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
電子署名承認は、テーブル単位で有効にすることもできます。

手順

1. [すべて] > [システム定義] > **[e-Signature** レジストリ]に移動します。
2. [新規] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [テーブル名] で、ドロップダウン リストを使用して特定のテーブルを選択します。

テーブルの説明

フィールド	入力値
テーブル	承認のために電子署名が必要なテーブル
有効	承認に電子署名を要求するオプション。電子署名要件を削除するには、このオプションをクリアします。

4. [送信] を選択します。

ローカルデータベースからの承認の設定

ユーザーは、ローカルデータベースの認証情報を使用して電子署名承認を許可できるようになります。

始める前に
必要なロール：なし

手順

1. **Approval with e-signatures** プラグインをアクティブ化します。
2. 承認ユーザーのユーザー レコードを作成します。

複数プロバイダー **SSO** を使用した **SAML 2.0** 認証の **SSO** 承認の設定

電子署名による SSO 承認では、SAML IdP および ServiceNow インスタンスの設定が必要です。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
SAML IdP は、SAML アサーション要求で forceAuthn 属性をサポートし、優先する必要があります。この IdP 設定がないと、電子署名は機能しません。SAML 2.0 認証の認証情報を使用して電子署名による承認を設定します。

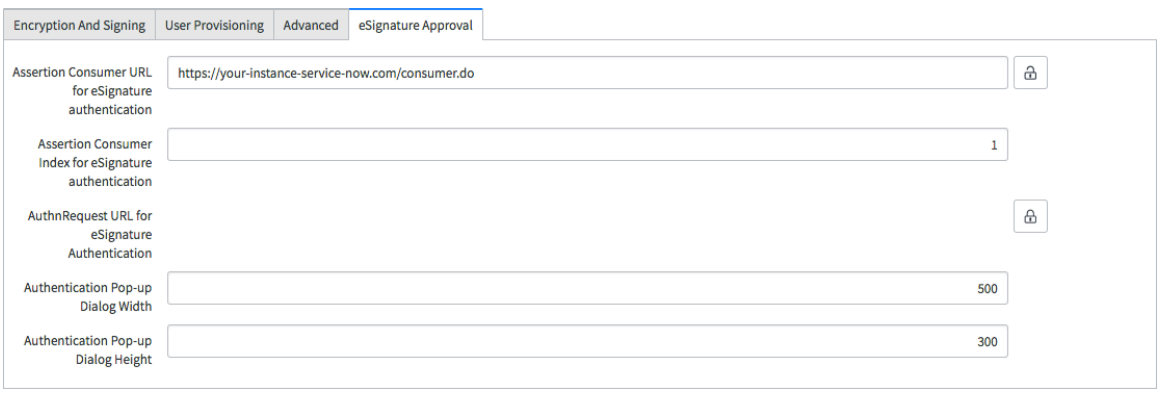
手順

1. Activate Multi-Provider SSO プラグイン を使用して、SAML 2.0 を有効にするか、SAML 2.0 にアップグレードします。
2. Approval with E-Signature プラグインをアクティブ化します。
3. [複数プロバイダー **SSO**] > **[ID** プロバイダ] に移動して、2.0 SAML IdP 設定の[詳細] タブで **[AuthnRequest** の強制] 属性がオンになっていることを確認します。
   SAML 2.0 IdP が **[AuthnRequest** の強制] 属性をサポートしている必要があります。サポートしていない場合、電子署名はサポートされません。
4. [eSignature の承認] タブで、次の電子署名の SAML プロパティを入力します。

オプション	説明
eSignature 認証用の Assertion Consumer URL	このプロパティのデフォルトは、適切な URL です。このプロパティを設定するには、ロックアイコンを選択してこのフィールドを編集可

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	能にします。編集後、そのアイコンを選択してフィールドをロックします。
eSignature 認証用の Assertion Consumer Index	サービス プロバイダーが AssertionConsumerURL の複数の URL セットを保有している場合は、eSignature で使用するためにインデックス 1 以上で始まるインデックスを設定できます。
eSignature 認証用の AuthnRequest URL	eSignature 認証用の SAML 2.0 IdP AuthnRequest URL を示す URL を入力できます。URL が Assertion Consumer URL と同じである場合は、この設定を空のままにすることができます。
認証ポップアップダイアログの幅	ユーザーが eSignature を使用して要求を承認すると、ポップアップが開き、認証情報を入力できます。この設定は、ダイアログ ボックスの幅を制御します。デフォルトは 500 です。
認証ポップアップダイアログの高さ	ユーザーが eSignature を使用して要求を承認すると、ポップアップが開き、認証情報を入力できます。この設定は、ダイアログ ボックスの高さを制御します。デフォルトは 300 です。



5. タブの下にある [メタデータを生成] ボタンを選択して、サービス プロバイダーのメタデータを再生成します。
6. サービスプロバイダーのメタデータをコピーし、SAML IdP でそれを更新します。

電子署名による承認とともにインストールされるプロパティ

電子署名による承認をインストールすると、特定のプロパティがインストールされます。

- モジュール：e-Signature レジストリ
- UI アクション：承認 (テーブル sysapproval_approver 上、アクション名なし)
- UI アクション：承認 (テーブル sysapproval_approver 上、アクション名なし)
- UI アクション：承認 (テーブル sysapproval_approver 上、アクション名 authenticated_list_approval あり)
- UI ページ：form_login_validate_dialog
- UI ページ：login_validate_dialog

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- UI ページ：saml2_esignature_login (承認者が要求を承認しようとしたときに表示される再認証ページ)
- プロパティ：「電子署名の SAML プロパティ」を参照
- クライアントスクリプト：承認者の認証
- スクリプトインクルード：User
- スクリプトインクルード：UserAuthentication
- プロセッサ：eSigSaml2AssertionConsumer

プラグインをインストールすると、`sysapproval_approver` テーブルですぐに使える 2 つの承認 UI アクションも無効になります。

承認ステータス

変更要求の承認ステータスは、すべての承認者の現在のステータスを確認することによって決定されます。

承認者が変更を却下した場合、承認ステータスは [却下] になります。すべての承認者が変更を承認した場合、承認ステータスは [承認済み] になります。すべての承認者が「未要求」ステータスになっている場合、または承認者がいない場合、変更ステータスは「未要求」になります。それ以外の場合、ステータスは「要求済み」になります。

承認者グループの 1 人だけが承認する必要がある「1 つの」承認を設定する機能など、承認を作成する際の柔軟性を高める場合は、ワークフローの使用を検討してください。

関連情報

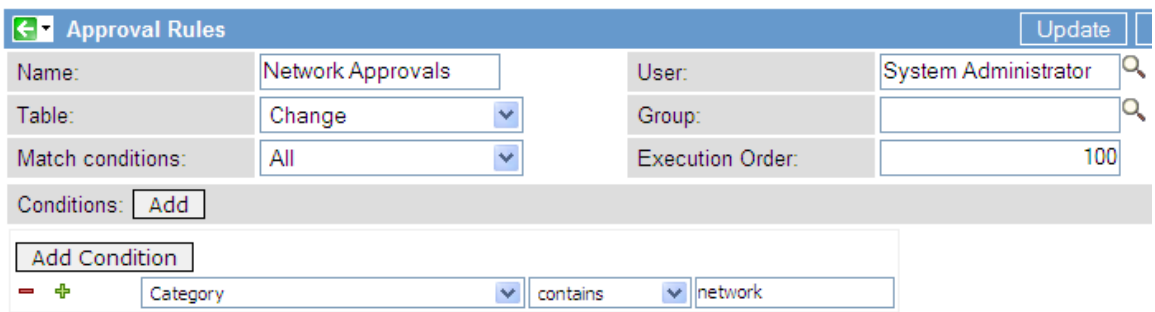
クラシックの承認

承認ルールを使用した承認の生成

特定の基準を満たした場合、個人またはグループへの承認要求が自動的に生成されます。承認要求の自動生成は、システム ポリシー機能を使用して行われます。

以下の例、[ネットワーク] カテゴリーで開かれた変更がシステムアドミニストレーターに割り当てられます。

承認ルール



承認者が承認ルールに基づいて自動的に追加されると、承認のステータスのデフォは、自動的に「要求済み」になります。

関連情報

クラシックの承認

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認者関連リストを使用した承認の生成

手動で承認者を要求に追加することができます。

追加の承認者を追加するには、要求の下部付近にある [承認者] セクションの [編集] ボタンをクリックします。承認者が手動で追加されると、その承認者のステータスのデフォルトは [未要求] になります。承認者のステータスが [要求済み] に変更されると、承認アクションを要求するメールが承認者に送信されます。

関連情報

クラシックの承認

ワークフローを使用した承認の生成

ワークフローは、承認を生成するための強力かつ柔軟な方法です。ワークフローを使用して、グループ承認とユーザー承認を作成します。

承認プロセスを微調整するために、承認または却下が行われたときに発生するアクションを含むさまざまな変数が利用可能です。ワークフロー アクティビティによって承認レコードが生成されると、承認レコードの [ワークフロー アクティビティ] フィールドにアクティビティへの参照が入力されます。ビジネス ロジックの作成時にこのフィールドを使用しないでください。詳細については、「承認およびロールバック アクティビティ」を参照してください。

注: テーブルの承認プロセスがワークフロー エンジンと承認エンジンの両方で管理される場合、競合が発生する可能性があります。一般に、テーブルの承認プロセスを管理するワークフローがある場合、そのテーブルに対して承認エンジンをオフにする必要があります。

関連情報

クラシックの承認

複数の承認者

複数の承認者が存在する場合は、ステータスが「承認済み」に変更される前にすべての承認者が要求を許可する必要があります。

承認者が要求を却下した場合、ステータスは直ちに「却下」に設定されます。

関連情報

クラシックの承認

通知の受信

指定された承認者である個人は、承認ステータスの更新などの承認通知を自動的に受信します。

承認通知は、次のときに送信されます。

- 個人が自動的に、または手動で承認者として割り当てられたとき。グループを選択した場合、グループのすべてのメンバーにメールが送信されます。デフォルトでは、承認者が受信するメールには、承認者が各自のメールシステムから直接要求を承認または却下できる「mailto」リンクが含まれます。
- 要求が承認済みステータスになると、要求に割り当てられた個人に要求が承認されたことを示すメールが送信されます。

メールに含まれる詳細とメールが送信される時点は、[システム定義] > [ビジネス ルール] および [システム ポリシー] を使用してカスタマイズすることができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Blackberry ユーザーに対する注意事項：上記の「mailto」リンクを表示して要求を承認または却下するには (つまり、「ここをクリックして CHG55555 を承認する」または「ここをクリックして CHG55555 を却下する」)、Blackberry デバイスで HTML メールをサポートするバージョン 4.5 のソフトウェアが使用されている必要があります。Blackberry デバイスでそれ以前のバージョンが使用されている場合、「mailto」リンクを表示または使用することはできません。ただし、回避策として、ユーザーはメールに返信し、メールを送信して自動承認/拒否機能を強制的に実行する前にメールの本文内にステートメント `state:approved` または `state:rejected` を追加することができます。

適切な受信メールアクションを作成する場合、承認者に簡単な「はい」または「いいえ」の回答で承認メール通知に応答させることができます。

Outlook のメールクライアント内で承認要求を埋め込む

ユーザーに送信される電子メール通知に、サービスカタログ要求に対する対話型の承認要求を埋め込みます。ユーザーは、メールクライアントから承認要求を受諾または拒否できます。

始める前に

必要なロール：admin
Outlook のアクション可能メッセージプラグイン (com.sn_ms_oam) を有効化する必要があります。

注:

- Outlook Actionable Messages (OAM) 機能は、すべての Microsoft メール製品とバージョンでサポートされているわけではありません。使用しているバージョンの Outlook が OAM をサポートしているかどうかを確認するには、Microsoft ドキュメントを参照してください。
- アクション可能メッセージは、@service-now.com メールアドレスから送信されたメールの場合のみサポートされます。カスタマイズされたメールアドレスにメールを送信する場合は、Microsoft ウェブサイトでスコープを [組織] に設定し、新しいサービスとして登録する必要があります。*`sn_ms_oam.outlookactionable.originator`* プロパティにプロバイダー ID 値を指定します。
- アクション可能メッセージは、メール送信者を検証するために、Sender Policy Framework (SPF)/DomainKeys Identified Mail (DKIM) 検証に基づいています。メール受信者が外部プロバイダー経由でメールを受信する場合は、メールがアダプティブカードとして表示されないことがあります。
- デフォルトのアクション可能メッセージテンプレートをカスタマイズすることはできません。

手順

1. [すべて] > [システム通知] > [メール] > [通知] に移動します。
2. ユーザーの承認が必要な承認通知の場合、[含まれる内容 **(What it will contain)**] タブで、既存の情報に加え次のスクリプトを [メッセージ] フィールドに追加するか、該当する場合は、設定済みのメールテンプレートの [メッセージ] フィールドに追加します。

   ```
   ${mail_script:include_approval_actionable}
   ```

   たとえば、カタログ承認要求通知および承認要求通知では、`request.itil.approve.role` および `change.itil.approve.role` メールテンプレートにスクリプトを含めることができます。

   このスクリプトには、承認のためにユーザーに送信されるメール通知の Outlook のアクション可能メッセージが含まれます。
3. [更新] をクリックします。

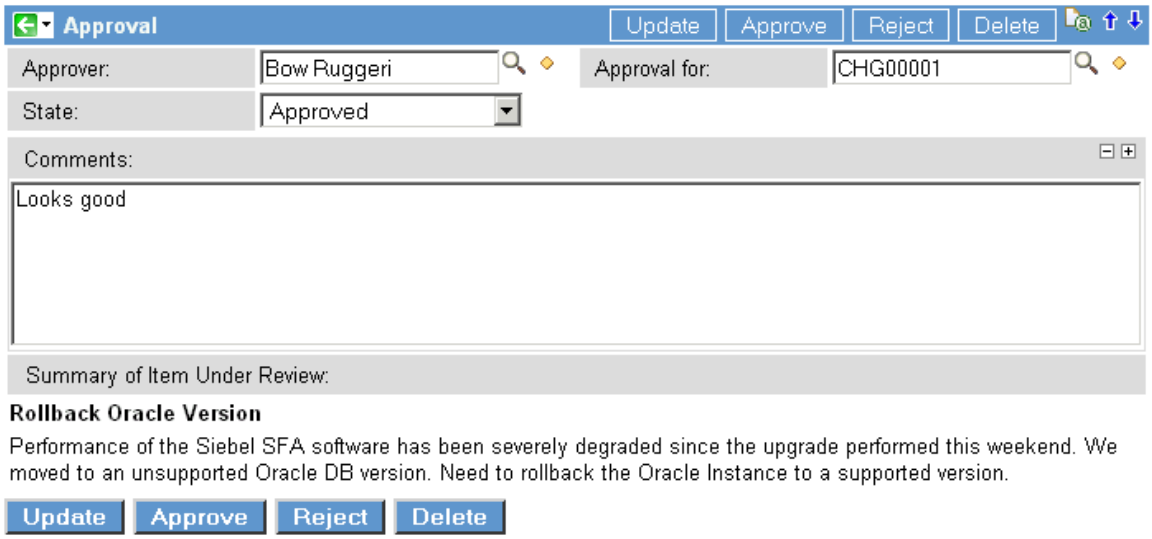
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ダイナミック承認フォーム

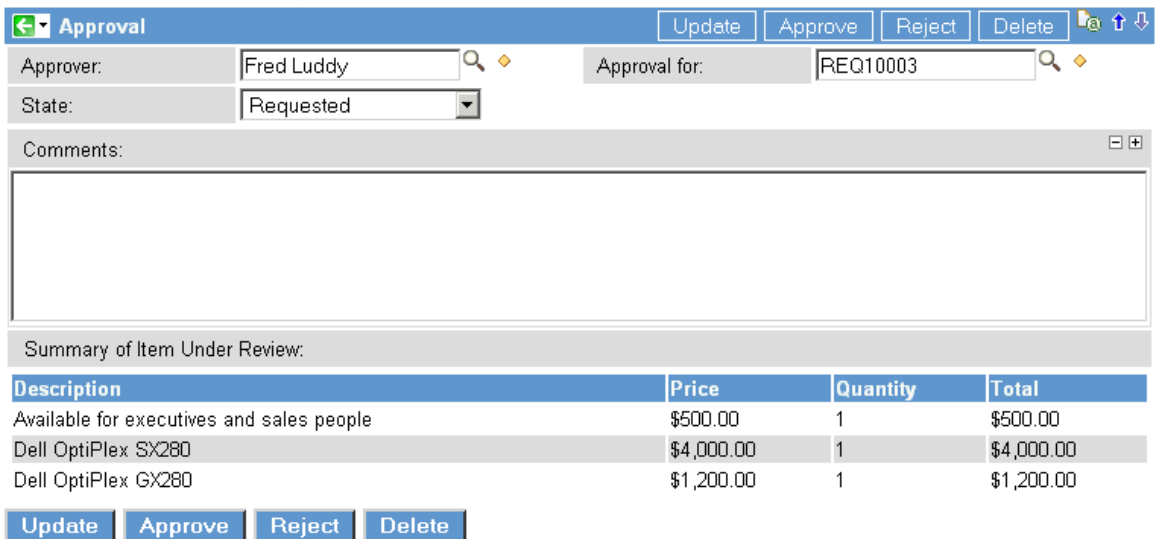
承認要求を確認すると、フォームに承認対象のアイテムのコンテキストに適したサマリーがあります。

たとえば、変更管理承認要求を確認すると、関連する変更要求の詳細が表示されます。サービスカタログ承認要求の場合、要求の詳細が表示されます。

変更要求承認の例



サービスカタログ承認の例



スクリプトおよびエンジンの実行順序

スクリプト、アサインルール、ビジネスルール、ワークフロー、エスカレーション、およびエンジンはすべて、挿入や更新などのデータベース操作に関連して有効です。多くの場合、これらのイベントの順序は重要です。

注: ブラウザで Ajax を使用したり JavaScript として実行したりするクライアントベースのコードは、常にサーバーへフォームを送信する前に実行されます。

実行順序は次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. ビジネスルールの前：1000 未満の順番でデータベース操作の前に実行するように構成されたスクリプト
2. エンジンの前：以下は、特定の順序で実行されません。
   - 承認エンジン (タスクおよび sys_approval_approver テーブル用)
   - 割り当てルールエンジン (タスクテーブル用)
   - データポリシーエンジン
   - エスカレーションエンジン
   - フィールド正規化エンジン
   - ロールエンジン - sys_user_has_role テーブルと同期してロール変更を保持 (sys_user、sys_user_group、sys_user_grmember、および sys_user_role テーブル用)
   - 実行計画エンジン (タスクテーブル用)
   - バージョン エンジンの更新 - sys_update_xml エントリが書き込まれるときにバージョン エントリを作成 (sys_update_xml テーブル用)
   - データ検索エンジンの挿入または更新
   - ワークフローエンジン (デフォルトのワークフロー用)
3. ビジネスルールの前：1000 以上の順番でデータベース操作の前に実行するように構成されたスクリプト
4. データベース操作 (挿入、更新、削除)
5. ビジネスルールの後：1000 未満の順番でデータベース操作の前に実行するように構成されたスクリプト
6. エンジンの後：以下は、特定の順序で実行されません。
   - ラベルエンジン
   - リスナーエンジン
   - テーブル通知エンジン
   - ロールエンジン - sys_user_has_role テーブルと同期してロール変更を保持 (sys_user、sys_user_group、sys_user_grmember、および sys_user_role テーブル用)
   - テキストインデックス作成エンジン
   - 同期エンジンの更新
   - ワークフローエンジン (保留ワークフロー用)
   - トリガーエンジン (すべての フローデザイナー フロー用)
7. メール通知：通知レコードの重みに基づいて、以下が実行されます。
   - 挿入、更新、または削除時に送信される通知
   - イベントベースの通知
8. ビジネスルールの後 (アクティブなレコードのみ)。1000 以上の順序のデータベース運用の後に実行するように構成されたスクリプト。

クラシックビジネスルール

ビジネスルールとは、レコードが表示、挿入、更新、または削除されるとき、またはテーブルに対してクエリが実行されるときに実行する、サーバー側スクリプトです。

ビジネスルールは、特定のサーバー側の条件が満たされたときに実行されるスクリプトです。ビジネスルール条件には、データベース操作に関連してビジネスルールを実行するタイミングと、ビジネス

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ルールが適用されるレコード操作が含まれます。クライアントスクリプトや UI アクションなど、クライアント側の条件に関してプラットフォームで利用できる他のスクリプトオプションがあります。

> **注:** ビジネスルールは、スクリプティングに依存する従来の自動化ソリューションです。新しいプロセス自動化に フローデザイナー を使用して、拡張、再利用、理解、アップグレードが容易な自動化を作成します。多くの組織が本番環境でビジネスルールを用意しているため、このドキュメントを使用して既存のビジネスルールを操作する方法を学習してください。

ビジネスルールの仕組み

ビジネスルールを構成するには、最初にビジネスルールを実行するタイミングと実行するアクションを決定する必要があります。

ビジネスルールの実行タイミング

ビジネスルールは次の 2 つの基準セットに基づいて実行されます。

- データベース操作に関連してビジネスルールを実行するタイミング。
- ビジネスルールが適用されるレコード操作。

ビジネスルールを実行するタイミングを決定するために、次のオプションが提供されています。

ビジネスルールを実行するタイミング

オプション	ルールが実行されるタイミング
前	ユーザーがフォームを送信した後で、データベース内のレコードに対してアクションが実行される前。
後	ユーザーがフォームを送信した後で、さらにデータベース内のレコードに対してアクションが実行された後。
非同期	ユーザーがフォームを送信した後と、ビジネスルールから作成されたスケジュール済みジョブがスケジューラーによって実行された後。ユーザーがフォームを送信してから、データベース内のレコードに対して何らかのアクションが実行されるまでに、システムがビジネスルールからスケジュール済みジョブを作成します。 **注:** 新しく作成されたビジネスルールはアップグレード中に実行されます。 レコードのデータに基づいて意思決定を行う非同期ビジネスルールがレコードにある場合、レコードを立て続けに複数回更新すると、ビジネスルールが順序どおりに実行されなかったり、正しく実行されなかったりする可能性があります。 複数の非同期ビジネスルールが同じレコードを更新する場合、実行順序が保証されていないため、あるスクリプトによって実行された更新が別のスクリプトによって上書きされたり、予期しない順序で更新されたりする可能性があります。このような状況では、ビジネスルールの [後] オプションまたはシステムイベントを代わりに使用できます。
表示	フォームがユーザーに提示された後で、データがデータベースから読み取られた直後。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

- 非同期ビジネスルールは、以前のバージョンのレコードにはアクセスできません。そのため、`changes()`、`changesTo()`、および `changesFrom()` `GlideElement` メソッドは非同期ルールスクリプトでは機能しません。ただし、条件ビルダーと条件フィールド (詳細ビュー) はどちらも `changes()`、`changesTo()`、および `changesFrom()` メソッドをサポートしています。
- ビジネスルールは、優先するように指定されるまで ACL を優先しません。詳細については、「ビジネスルールとアクセス制御ルール (ACL) の関係」を参照してください。

ビジネスルールを適用するレコード操作を決定するために、次のオプションが提供されています。

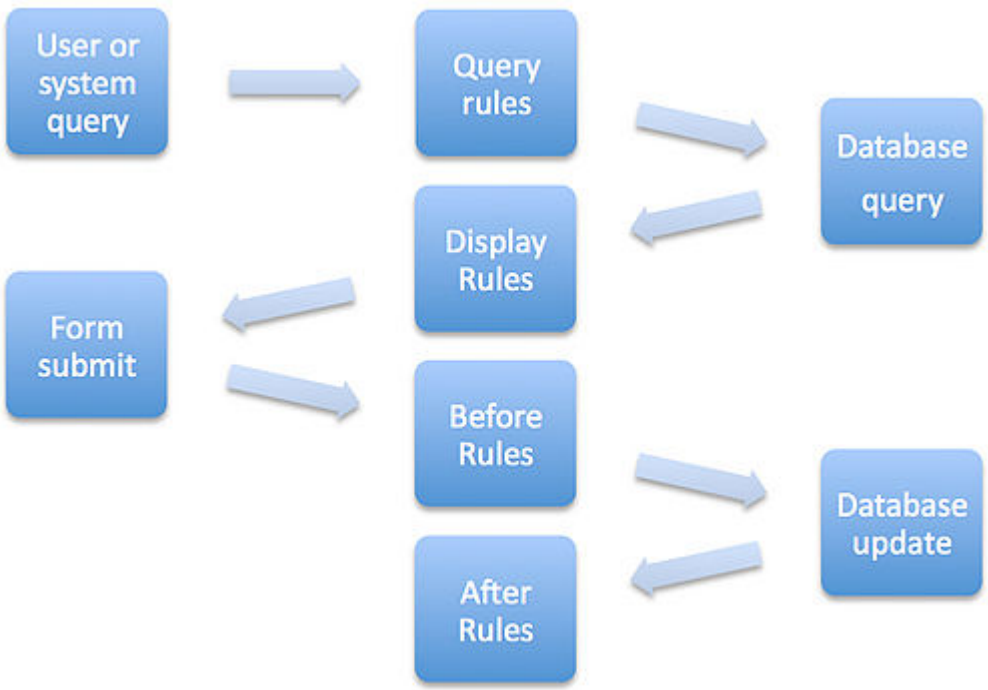
ビジネスルールが適用されるレコード操作

オプション	ルールが実行されるタイミング
挿入	ユーザーが新しいレコードを作成し、システムがそれをデータベースに挿入するとき。
更新	ユーザーが既存のレコードを変更したとき。
クエリ	レコードまたはレコードリストのクエリをユーザーがデータベースに送信したとき。通常は、ビジネスルールの前にクエリ操作を使用する必要があります。
削除	ユーザーがレコードを削除したとき。

注: ビジネスルールでは、GlideRecord API から呼び出された場合にのみレコード操作が実行されます。一部のアプリケーションは、意図的にビジネスルールの処理をバイパスして、レコード操作を直接実行します。さらに、ビジネスルールは setWorkflow() メソッドを false に設定して実行された API 呼び出しを無視します。

この画像は、さまざまなタイプのビジネスルールの実行タイミングを示しています。

ビジネスルールの処理フロー



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: ビジネスルールは、フォーム、リスト、または Web サービスからアクセスできるかどうかには関係なく、一貫してレコードに適用されます。これは、ビジネスルールと、フォームの編集時にのみ適用されるクライアントスクリプトとの間の大きな違いの 1 つです。

ビジネスルールのアクション

ビジネスルールはさまざまなアクションを実行できます。一般的なアクションのタイプは次のとおりです。

- ユーザーが更新しているフォームのフィールド値を変更します。フィールド値は、そのフィールドで使用可能な特定の値、他のフィールドからコピーされた値、およびユーザーのロールによって決定される相対値に設定できます。
- ユーザーに情報メッセージを表示します。
- 親タスクの変更に基づいて子タスクの値を変更します。
- ユーザーがフォーム上の特定のフィールドにアクセスしたり、フィールドを変更したりできないようにします。
- 現在のデータベーストランザクションを中止します。たとえば、特定の条件が満たされている場合に、ユーザーがデータベースにレコードを保存できないようにします。

アドミニストレーターは、スクリプトを作成せずにフィールド値の設定、情報メッセージの作成、トランザクションの中止を行うことができます。

再帰ビジネスルールの防止

ビジネスルールスクリプトでは `current.update()` を使用しないでください。`update()` メソッドは、挿入操作と更新操作のために同じテーブルで実行するビジネスルールをトリガーします。これにより、ビジネスルールが繰り返し呼び出されます。前のビジネスルールがすべて完了すると、前のビジネスルールに加えられた変更は自動的に保存されます。後のビジネスルールは、関連する、現行のものではないオブジェクトの更新に最適です。再帰ビジネスルールが検出されると、システムはそれを停止し、システムログにエラーを記録します。`current.update()` はシステムパフォーマンスの問題を引き起こすため、必要ありません。

false パラメーターを指定して `setWorkflow()` メソッドを使用すると、再帰ビジネスルールを防ぐことができます。`update()` および `setWorkflow()` メソッドの組み合わせは、上記の通常の前と後のガイドラインが要件を満たさない特別な状況でのみ推奨されます。

スコープ対象アプリケーションのビジネスルール

すべてのビジネスルールは、プライベートアプリケーションスコープまたはグローバルスコープのいずれかに割り当てられます。

作成できるビジネスルールのタイプとそれらのルールへのアクセス方法は、ビジネスルールのスコープと、それが実行されるテーブルのスコープによって異なります。

注: グローバルという用語は、ビジネスルールの 2 つの異なる側面、つまり、それが実行されるテーブルと、それが実行されるスコープを指します。ビジネスルールは、特定のテーブルに対して実行することも、グローバルにすることもできます。また、グローバルスコープまたはプライベートアプリケーションスコープに含めることもできます。

特定のテーブルのビジネスルール

ほとんどのビジネスルールは、[テーブル] フィールドで定義されている特定のテーブルで実行されます。同じスコープ内のテーブル、および別のアプリケーションスコープからの構成レコードを許可するテーブルに対して、ビジネスルールを作成できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスルールレコードとは異なるスコープ内のテーブルの場合は、ルールのタイプが制限されます。

- 次のいずれかのオプションを使用して、[時期] が [非同期] のルールを作成できます。
  - 、、および のデータベース操作。 は選択できない。
  - アクションとスクリプト (フィールド)。
- 次のいずれかのオプションを使用して、[時期] が [次の前] であるルールを作成できます。
  - 、、および のデータベース操作。 は選択できない。
  - アクションのみ。スクリプトを書くことはできず、データベース トランザクションを中断することはできません。
- 異なるスコープのテーブルに他のタイプのビジネスルールを作成することはできません。

特定のテーブルに対するビジネスルールに、他のビジネスルールやスクリプトからアクセスすることはできません。

グローバルビジネスルール

⚠ **警告:** グローバルビジネスルールの代わりにスクリプトインクルードを使用することを検討してください。スクリプトインクルードは要求時にのみロードされますが、グローバルビジネスルールはシステム内のすべてのページでロードされます。

グローバルビジネスルールは、[テーブル] フィールドが [グローバル] に設定されているビジネスルールですグローバルビジネスルールは、スコープ保護に応じて、複数のテーブルでアクセスでき、他のスクリプトからアクセスできます。グローバルビジネスルールの場合は、[アクセス元] フィールドを設定して、スコープの保護を定義します。

- [このアプリケーションスコープのみ]：ビジネスルールとは異なるスコープ内のアプリケーションがこのビジネスルールを呼び出すことを防止します。
- [すべてのアプリケーションスコープ]：任意のアプリケーションによるこのビジネスルールの呼び出しを許可します。

ℹ **注:** グローバルビジネスルールはドメインセパレーションをサポートしていません。

スコープ対象のビジネスルールのスクリプト

ビジネスルールでスクリプトを作成すると、以下にアクセスできます。

- ビジネスルールと同じスコープ内のすべてのスクリプトインクルードとグローバルビジネスルール。
- 異なるスコープ内のアプリケーションに呼び出しを許可するスクリプトインクルードとグローバルビジネスルール。別のスコープから関数を呼び出すには、関数のスコープを指定する必要があります。
- 一意のスコープにあるビジネスルールの場合は、スコープ対象のシステム API にのみアクセスできます。

ビジネスルールの作成

レコードが表示、挿入、更新、または削除されるとき、あるいはテーブルに対してクエリが行われるときに実行される、任意のタイプのビジネスルールを作成できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

注: これらの手順と例は、この機能を実装する方法に関する一般的なガイダンスを提供します。独自のユースケースについては、 開発者コミュニティフォーラム を参照してください。ここでは、質問をしたり、他の開発者とやり取りしたり、既存のソリューションを検索したりすることができます。

手順

1. [すべて] > [システム定義] > [ビジネスルール]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. 必要に応じてフィールドに入力します。

注: すべてのフィールドを表示するようにフォームを設定する必要があります。

ビジネスルールのフィールド

フィールド	説明
名前	ビジネスルールの名前を入力します。
テーブル	ビジネスルールが実行されるテーブルを選択します。 注: リストには、ビジネスルールのスコープ保護を満たすテーブルとデータベースビューのみが表示されます。データベースビューに対して定義されたビジネスルールは、クエリでのみ実行できます。データベースビューのビジネスルールは、挿入、更新、または削除では実行できません。
アプリケーション	このビジネスルールを含むアプリケーション。
アクセス可能	グローバルビジネスルールのスコープ保護。 注: このフィールドは、[テーブル] フィールドが [グローバル] に設定されている場合にのみ表示されます。特定のテーブルで実行されるルールには適用されません。
アクティブ	ビジネスルールを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
詳細	フォームの詳細バージョンを表示するには、このチェックボックスをオンにします。
実行タイミング	
時期	[上級] ビジネスルールの実行タイミングを選択します：データベース操作の完了に関連して、[表示]、[次の前]、[非同期]、または [次の後] から選択します。 注: 関連するスケジュール済みジョブを作成するときにこの値が使用されるため、非同期ビジネスルールに対して [順番] を設定することを検討してください。 新しく作成された非同期ビジネスルールは、アップグレード時に自動的に実行されます。 既存の非同期ビジネスルールを移行して、新しい非同期動作を使用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
順番	[上級] このビジネスルールを実行する順序を示す番号を入力します。特定のアクティビティに複数のルールがある場合、ルールはここで指定された順序 (昇順) で実行されます。
挿入	レコードがデータベースに挿入されたときにビジネスルールを実行するには、このチェックボックスをオンにします。
更新	レコードが更新されたときにビジネスルールを実行するには、このチェックボックスをオンにします。
削除	[上級] レコードがデータベースから削除されたときにビジネスルールを実行するには、このチェックボックスをオンにします。
クエリ	[上級] テーブルに対してクエリが実行されたときにビジネスルールを実行するには、このチェックボックスをオンにします。
フィルター条件	選択したテーブルのフィールド値に基づいてビジネスルールを実行する必要があるタイミングを決定するには、条件ビルダーを使用します。[条件] フィールドを使用して、スクリプトで条件をビルドすることもできます。 注: 文字列の比較に基づくフィルターでは、大文字と小文字が区別されます。
ロールの条件	テーブル内のレコードを変更するユーザーが実行するビジネスルールに対して保持している必要があるロールを選択します。
アクション	
フィールド値の設定	選択リストを使用して、選択したテーブルのフィールドの値を設定します。 ◦ フィールド ◦ 割り当てオペレーター： ▪ 次の値：厳密にそのとおりの値 ▪ 次から取得：別のフィールドの値 ▪ 次の値 (動的)： ビジネスルールを構成するユーザーまたは特定のロールを持つユーザーに関連する値 ◦ 値
メッセージの追加	このチェックボックスをオンにし、このビジネスルールが実行されたときに表示されるメッセージを入力します
アクションの中止	現在のデータベーストランザクションを中止するには、このチェックボックスをオンにします。たとえば、挿入前のビジネスルールで、条件が満たされている場合は、レコードをデータベースに挿入しません。 このオプションを選択した場合、レコードに対する追加のアクション (フィールド値の設定やスクリプトの実行など) は実行できません。[メッセージの追加] チェックボックスをオンにしてメッセージを作成することにより、引き続きユーザーにメッセージを表示できます。
詳細	
条件	ビジネスルールの実行タイミングを指定する JavaScript 条件ステートメントを作成します。このフィールドに条件ステートメントを追加することで、条件を個別に評価

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	し、条件が true の場合にのみビジネスルールを実行するようにシステムに指示します。[スクリプト] フィールドに条件ステートメントを含める場合、または条件ビルダーを使用する場合は、このフィールドを空のままにします。非同期ビジネスルールを実行する前にインスタンスで条件ステートメントを再評価するには、システムプロパティ *glide.businessrule.async_condition_check* を追加し、値を true に設定します。
スクリプト	[上級] 定義された条件が true である場合に実行されるスクリプトを作成します。 ◦ onAfter ◦ onAsync ◦ onBefore ◦ onDisplay 詳細と例については、「サンプルのビジネスルールスクリプト」を参照してください。
関連リスト：バージョン	
バージョン	ビジネスルールのすべてのバージョンを表示します。バージョンを比較したり以前のバージョンに戻したりするには、このリストを使用します。

4. [送信] をクリックします。

ビジネスルールのグローバル変数

ビジネスルールで使用するための定義済みのグローバル変数があります。

次の事前定義されたグローバル変数を使用して、ビジネスルールスクリプトでシステムを参照します。

グローバル変数	説明
current	参照されるレコードの現在の状態。この変数を使用する前に、以下の「null ポインター例外の防止」を参照して null を確認してください。
previous	実行コンテキスト中に行われた更新の前に参照されたレコードの状態。実行コンテキストは、最初の更新または削除操作で始まり、スクリプトと参照されたビジネスルールが実行された後に終了します。1 つの実行コンテキスト内でレコードに複数の更新が行われた場合、*previous* は最初の更新または削除操作の前のレコードの状態を保持し続けます。更新および削除操作でのみ使用できます。非同期操作では使用できません。この変数を使用する前に、以下の「null ポインター例外の防止」を参照して null を確認してください。
g_scratchpad	スクラッチパッドオブジェクトは表示ルールで使用でき、クライアントスクリプトからアクセスできるようにクライアントに情報を渡すために使用されます。
gs	GlideSystem 関数への参照。

変数 *current*、*previous*、*g_scratchpad* は、トランザクションに対して実行されるすべてのビジネスルールでグローバルです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

null ポインター例外の防止

場合によっては、ビジネスルールの実行時にレコードの *current* の状態または *previous* の状態がないことがあります。これは、変数が null であることを意味します。変数を使用する前に null をチェックするには、次のコードをビジネスルールに追加します。

```
if (current == null) // to prevent null pointer exceptions.
return;
```

変数の定義

ユーザー定義変数のスコープは、デフォルトでグローバルです。新しい変数が順序 100 のビジネスルールで宣言されている場合、次に実行される順序 200 のビジネスルールも変数にアクセスできます。これにより、予期しない動作が発生する可能性があります。

このような予期しない動作を防ぐために、コードは必ず関数でラップしてください。これにより変数が、関数でラップされていない他のビジネスルール内のシステム変数やグローバル変数との競合を防ぐことができます。また、*current* などの変数を使用するには、関数が呼び出されたときに使用可能になっている必要があります。

次のスクリプトは、他のコードとの競合に対して脆弱です。変数 *now_GR* が他のルールで使用されている場合、変数の値が予期せず変更される可能性があります。

```
var now_GR = new GlideRecord('incident');
now_GR.query();
while(now_GR.next()) {

   //do something

}
```

このスクリプトが関数でラップされている場合、変数はその関数内でのみ使用でき、*now_GR*という名前の変数を使用する他の関数と競合することはありません。

```
myFunction();

function myFunction() {
  var now_GR = new GlideRecord('incident');
  now_GR.query();
  while(now_GR.next()) {
    //do something
} }
```

ビジネスルールとクライアントスクリプトを使用したフィールド値の制御

フィールドにビジネスルールとクライアントスクリプトの両方を実装し、ユーザーがフォームとリストの両方を使用してレコード値を正しく設定できるようにします。また、編集が行われるときにフォームの値が即座に変更されるようにします。

クライアントスクリプトまたはビジネスルールのみを使用してフィールドの更新を制御する場合の問題は、フォームまたはリストのいずれかでフィールドが変更される可能性があるということです。クライアントスクリプトと UI ポリシーはフォームでのみ実行され (クライアントサイド)、リストの編集には適用されません。フォーム内のフィールドでクライアントスクリプトを実行している状態でのリスト編集を許可すると、正しくないデータがレコードに保存されるおそれがあります。クライアントスクリプトまたは UI ポリシーがフォームに適用されるシステムでは、リスト編集を無効にするか、適切なビジネスルールまたはアクセス制御を作成して、リストエディターでの値の設定を制御し

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ます。この副作用として、クライアントスクリプトに実装されたセキュリティ対策は簡単に回避されるようになります。ユーザーに必要とされるのはリスト内のフィールドを編集することだけです。

フォームのビジネスルールは動的ではありません。変更を表示するには、ユーザーがレコードを更新する必要があります。そのために、クライアントスクリプトを使用してフォームのフィールド値を制御することをお勧めします。

ビジネスルールとクライアントスクリプトの両方を使用してフィールド値を制御する場合、更新動作はシステム全体で同じです。これは、フォームのリストを使用して変更するかどうかでは、更新される値は異ならないことを意味します。これは、同じ機能を 2 回 (クライアントスクリプトに 1 回、ビジネスルールまたはアクセス制御に 1 回) 実装する必要があることを意味します。

例：ユーザーレコードのインポート中にビジネスルールを使用してメールアドレスを作成する

組織には、ユーザーのメールアドレスを `first.last@company.com` に設定するクライアントスクリプトがあります。アドミニストレーターがこれを行うと、ユーザーの情報を入力すると即座にメールアドレスが表示されます。次に、アドミニストレーターは、ユーザーの姓と名を含むスプレッドシートからユーザーの一括インポートを実行します。各ユーザーのメールアドレスは、フォームの編集時に自動的に設定されることが想定されています。クライアントスクリプトはフォーム (レコードへのインターフェイス) でのみ実行されるため、そのインターフェイスの外部からレコードにインポートされたデータに影響はなく、メールアドレスは作成されません。この問題を解決するために、アドミニストレーターはインポート時に実行されるビジネスルールを実装し、メールアドレスを作成します。

例：フォームで編集できないフィールドのリスト編集を防止する

組織は、アサイン先グループが [開発] の場合、インシデントフォームの [優先度] フィールドを非表示にします。これを行うためにインシデントフォームで UI ポリシーを作成しますが、ユーザーは引き続きリストエディターを使用して [優先度] フィールドを表示および編集できます。これを修正するには、アサイン先グループが [開発] のときに [優先度] フィールドへの読み取りアクセスを防止するアクセス制御を適用します。

フィールド値としての **NULL** の使用

文字列 NULL は、スクリプト内で特定のロールを持つ予約語です。

予約語はすべて大文字の NULL です。**Null** や **null** などの値を持つフィールドは受け入れ可能です。NULL は、特定のフィールドをクリアするためにのみ使用します。

インポートセットデータソースから取得された NULL フィールド値は、空のフィールド値としてステージングテーブルに挿入されます。インポートセット変換マップや、[名] フィールドまたは [姓] フィールドでは、フィールド値として NULL という用語を使用しないでください。また、参照フィールドでは NULL を使用しないでください。この値は予約語ではなく用語 NULL を含む文字列として解釈されます。

ビジネスルールの表示

表示ルールは、ユーザーがレコードフォームを要求したときに処理されます。

データベースからデータが読み込まれ、表示ルールが実行されて、フォームがユーザーに表示されます。current のオブジェクトが利用可能で、データベースから取得されたレコードを表します。フィールドの変更はまだデータベースに送信されていないため、一時的なものです。クライアントには、フォームの値はデータベースの値のように見えます。値が表示ルールから変更された形跡は示されません。これは計算フィールドと同様の概念です。

表示ルールの主な目的は共有されるスクラッチパッドオブジェクト *g_scratchpad* を使用することです。このオブジェクトはフォームの一部としてクライアントにも送信されます。この動作は、表示

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

されるレコードには通常含まれていないサーバーデータを必要とするクライアントスクリプトをビルドする場合に役立つことがあります。ほとんどの場合、これによってクライアントスクリプトはサーバーへのコールバックが必要になります。フォームが表示される前にデータを判別できる場合は、初期ロード時にクライアントにデータを提供する方が効率的です。フォームスクラッチパッドオブジェクトは、デフォルトでは空のオブジェクトであり、データの名前:値ペアを格納するためにのみ使用されます。

表示ルールからデータをフォームスクラッチパッドに入力するには、次のようにします。

```
// From display business rule
g_scratchpad.someName = "someValue";
g_scratchpad.anotherName = "anotherValue";

// If you want the client to have access to record fields not being
 displayed on the form
g_scratchpad.created_by = current.sys_created_by;

// These are simple examples, in most cases you will probably perform
 some other
// queries to test or get data
```

クライアントスクリプトからのフォームスクラッチパッドデータにアクセスするには、次のようにします。

```
// From client script
if(g_scratchpad.someName == "someValue") {
  //do something special
}
```

タスクアクティブ状況管理ビジネスルール

このビジネスルールは、[状態] フィールドの変更に基づいてアクティブなフィールドの値を変更する必要があるかどうかを判断します。

タスクアクティブ状況管理ビジネスルールは、タスクレコードの状態が変更されたときに実行されます。実行順序は 50 で、他のほとんどのタスクビジネスルールの前に実行されます。

現在のタスクテーブルで、テーブルに *close_states* 属性が定義されている場合、または上位レベルのテーブルからそれが継承されている場合は、アクティブなフィールドを変更する必要があるかどうかがルールによって決定されます。これは、前の状況値と現在の状況値を比較することによって行われます。

- 状態がアクティブ状態から非アクティブ状態に変わると、[アクティブ] フィールドは false に設定されます。
- 状態が非アクティブ状態からアクティブ状態に変わると、[アクティブ] フィールドは true に設定され、タスクを効果的に再アクティブ化または再オープンします。

タスクを非アクティブまたはアクティブとしてマークする各タスクテーブルでルールを作成するのではなく、ビジネスルールで *(current.active.changesTo([true/false])* アクションを活用することをお勧めします。

サンプルのビジネスルールスクリプト

組織の要件に役立つサンプルのビジネスルールスクリプトを検索します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: これらの手順と例は、この機能を実装する方法に関する一般的なガイダンスを提供します。独自のユースケースについては、 開発者コミュニティフォーラム を参照してください。ここでは、質問をしたり、他の開発者とやり取りしたり、既存のソリューションを検索したりすることができます。

ビジネスルールでの日付フィールドの比較

ビジネスルール内の 2 つの日付フィールドまたは 2 つの日付と時刻のフィールドを比較し、それらが正しくない場合はレコードの挿入または更新を中止できます。

たとえば、開始日を終了日より前にすることが必要になる場合があります。スクリプトの例を次に示します。

```
if ((!current.u_date1.nil()) && (!current.u_date2.nil())) {
  var start = current.u_date1.getGlideObject().getNumericValue();
  var end = current.u_date2.getGlideObject().getNumericValue();
  if (start > end) {
    gs.addInfoMessage('start must be before end');
    current.u_date1.setError('start must be before end') ;
    current.setAbortAction(true);
 } }
```

この例はグローバルスクリプトでテストされています。スコープ付きスクリプトで機能させるためには、変更が必要になる場合があります。API の変更が必要になる可能性があることに加えて、スコープ付きスクリプトではセキュリティがより厳格になります。

ビジネスルールは、挿入および更新アクションの前のルールにすることをお勧めします。サンプルのスクリプトは次のようになります。

- *u_date1* と *u_date2* は 2 つの日付フィールドの名前です。これらの名前を独自のフィールド名に置き換えます。
- 最初の行では、両方のフィールドに実際に値があることを確認します。
- 次の 2 つの行では、日付の数値を持つ変数を作成します。
- 次の 2 つの行では、エンドユーザーに対して異なるアラートメッセージを作成します。1 つはフォームの上部に、もう 1 つはフォームの *[u_date1]* フィールドの横に表示されます。
- 日付フィールドが正しくない場合、最終行で挿入または更新は中止されます。

上記の比較のより複雑な例を次に示します。開始日と終了日のペアが複数ある場合は、アレイを次のように使用できます。また、このスクリプトでは、入力日付が特定の範囲内である必要があります。このケースでは、過去は 30 日以上、将来は 365 日以内です。

```
// Enter all start and end date fields you wish to check, as well as the
 previous values
// Make sure that you keep the placement in the sequence the same for all
 pairs
var startDate = new Array(current.start_date,current.work_start);
var prevStartDate = new Array(previous.start_date,previous.work_start);
var endDate = new Array(current.end_date,current.work_end);
var prevEndDate = new Array(previous.end_date,previous.work_end);

// The text string below is added to the front of ' start must be before
 end'
var userAlert = new Array('Planned','Work');

// Set the number of Previous Days you want to check
var pd = 30;
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
// Set the number of Future Days you want to check
var fd = 365;

// You shouldn't have to modify anything below this line

var nowdt = new GlideDateTime();
nowdt.setDisplayValue(gs.nowDateTime());
var nowMs = nowdt.getNumericValue();
var pdms = nowMs;

// Subtract the product of previous days to get value in milliseconds
pdms -= pd * 24 * 60 * 60 * 1000;
var fdms = nowMs;

// Add the product of future days to get value in miliseconds
fdms += fd * 24 * 60 * 60 * 1000;
var badDate = false;

 // Iterate through all start and end date / time fields
for (x = 0; x < startDate.length; x ++) {
  if ((!startDate[x].nil()) && (!endDate[x].nil())) {
    var start = startDate[x].getGlideObject().getNumericValue();
    var end = endDate[x].getGlideObject().getNumericValue();
    if (start > end) {
      gs.addInfoMessage(userAlert[x] + ' start must be before end');
      startDate[x].setError(userAlert[x] + ' start must be before end');
      badDate = true; }
    else if ((prevStartDate[x]) != (startDate[x])) {
      if (start < pdms) {
         gs.addInfoMessage(userAlert[x] + ' start must be fewer than ' +
 pd + ' days ago');
         startDate[x].setError(userAlert[x] + ' start must be fewer than
 ' + pd  + ' days ago');
         badDate = true; } }
    else if ((prevEndDate[x]) != (endDate[x])) {
      if (end > fdms) {
         gs.addInfoMessage(userAlert[x] + ' end must be fewer than ' + fd
 + ' days ahead');
         endDate[x].setError(userAlert[x] + ' end must be fewer than ' +
 fd + ' days ahead');
         badDate  = true ;
} } } }
if (badDate == true ) {
  current. setAbortAction ( true ) ; }
```

XML ペイロードの解析

XML 形式のフィールドは、システムの *getXMLText* 関数を使用して解析できます。

ecc_event 行のペイロードなど、XML 形式でデータベースに挿入されるフィールドは、システムの *getXMLText* 関数を使用して解析できます。*getXMLText* 関数は、文字列と XPATH 式を受け取ります。例：

```
var name = gs.getXMLText("<name>joe</name>", "//name");
```

文字列「joe」を返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド「payload」に XML が含まれていると仮定すると、関数呼び出しは次のようになります。

```
var name = gs.getXMLText(current.payload, "//name");
```

XPATH の詳細については、「w3schools」を参照してください。

前のビジネスルールでのデータベースアクションの中止

前のビジネスルールスクリプトで、*setAbortAction()* メソッドを使用して現在のデータベースアクションをキャンセルまたは中止できます。

たとえば、前のビジネスルールが挿入アクション中に実行され、スクリプトに `current.setAbortAction(true)` を呼び出す条件がある場合、current に保存される新しいレコードはデータベース内には作成されません。このビジネスルールは *setAbortAction()* を呼び出した後も実行を継続し、後続のすべてのビジネスルールは正常に実行されます。このメソッドを呼び出すと、現在のオブジェクトのデータベースアクションの実行のみが防止されます。

isActionAborted() メソッドを使用して、現在のデータベースアクション (挿入、更新、削除) を中止するかどうかを決定できます。 *isActionAborted()* は新しいスレッド用に初期化され、*next()* メソッドはその値を明示的に false に設定します。

> **注:** *setAbortAction()* は、アクションが中止されるレコードと同じスコープからのみ実行できます。`current.setAbortAction` は、別のスコープで定義されているビジネスルールで実行された場合、優先されません。

ビジネスルールでトリガーされる操作の決定

複数のデータベースアクションでトリガーされるビジネスルールのスクリプトを作成できます。

イベントをトリガーしたアクションに応じてビジネスルールスクリプトを動的に分岐させる場合は、*operation()* 関数を使用できます。例：

```
if(current.operation() == "update") {
  current.updates ++; }
  if(current.operation() == "insert") {
    current.updates = 0; }
```

ビジネスルールでの **OR** 条件の使用

OR 条件は、ビジネスルール内の任意のクエリ部分に追加できます。

OR 条件は、*addOrCondition()* メソッドによってビジネスルール内の任意のクエリ部分に追加できます。次の例は、優先度が 1 または 2 のすべてのインシデントを検索するためのクエリを示しています。最初の *addQuery()* 条件は変数として定義され、**OR** 条件で使用されます。

```
var inc = new GlideRecord('incident');
var qc = inc.addQuery('priority','1');
qc.addOrCondition('priority','2');
inc.query();
while(inc.next()) {
  // processing for the incident goes here
}
```

次のスクリプトはより複雑な例で、2 つのクエリ条件変数を使用して、`(priority = 1 OR priority = 2) AND (impact = 2 OR impact = 3)` と同等の実行をします。**OR** 条件の結果は、2 つの変数 *qc1* と *qc2* を使用して実行されます。これにより、`IF` 条件や `WHILE` ループ内など、スクリプトの後半でクエリ条件オブジェクトを操作できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
var inc = new GlideRecord('incident');
var qc1 = inc.addQuery('priority','1');
qc1.addOrCondition('priority','2');
var qc2 = inc.addQuery('impact','2');
qc2.addOrCondition('impact','3');
inc.query();
while(inc.next()) {
  // processing for the incident goes here
}
```

ビジネスルールからの Glide リストの参照

Glide リストとして定義されたフィールドは、単一のフィールドに格納される値のアレイです。

ビジネスルールを記述するときに glide_list フィールドを処理する方法の例を次に示します。通常、glide_list フィールドには、他のテーブルへの参照値のリストが含まれています。

例

たとえば、タスク内の [ウォッチリスト] フィールドは、ユーザーレコードへの参照を含む glide_list です。

次のコードに、フィールドを参照する方法を示します。

```
// list will contain a series of reference (sys_id) values separated by a
 comma
// array will be a javascript array of reference values
var list = current.watch_list.toString();
var array = list.split(",");
for (var i=0; i < array.length; i++) {
   gs.print("Reference value is: " + array[i]);
}
```

出力：

```
*** Script: Reference value is: 62826bf03710200044e0bfc8bcbe5df1
*** Script: Reference value is: c2826bf03710200044e0bfc8bcbe5d45
*** Script: Reference value is: 5f74e421c0a8010e01ec0d74a7ee2cc6
*** Script: Reference value is: 06826bf03710200044e0bfc8bcbe5d57
```

また、次に示すように *getDisplayValue()* メソッドを使用して、参照値に関連付けられた表示値を取得することもできます。

```
// list will contain a series of display values separated by a comma
// array will be a javascript array of display values
var list = current.watch_list.getDisplayValue();
var array = list.split(",");
for (var i=0; i < array.length; i++) {
   gs.print("Display value is: " + array[i]);
}
```

出力：

```
*** Script: Display value is: Abel Tuter
*** Script: Display value is:  Ashley Leonesio
*** Script: Display value is:  Charles Beckley
*** Script: Display value is:  Cherie Fuhri
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

indexOf("searchString") を使用して Glide リスト内の文字列を検索する

Glide リストフィールド (ウォッチリストなど) に少なくとも 1 つの値がある場合は、*indexOf*("*searchString*") を使用してメソッドに渡される文字列の場所を返します。

フィールドが空の場合は、`undefined` が返されます。未定義の値を返さないようにするには、次のいずれかを実行します。

- フィールドを強制的に文字列にします。例：*watch_list.toString().indexOf*("*searchString*")
- *indexOf()* を使用する前に、条件がある空の Glide リストフィールドを確認します。例：if (*watch_list.nil()* || *watch_list.indexOf*("*searchString*") == -1)

ユーザーアカウントのロック

ユーザーがアクティブでない場合は、ユーザーアカウントをロックできます。

次のビジネスルールスクリプトは、ユーザーが LDAP ディレクトリでアクティブでない場合、またはユーザーがインスタンスへのセルフサービス、itil、またはアドミニストレーターアクセス権を持っていない場合に、ユーザーアカウントをロックします。

```
// Lock accounts if bcNetIDStatus != active in LDAP and user does not
// have self-service, itil or admin role
var rls = current.accumulated_roles.toString();
if(current.u_bcnetidstatus == 'active' && (rls.indexOf(',itil,') > 0 ||
  rls.indexOf(',admin,') > 0 ||
  rls.indexOf(',ess,') > 0 )) {
  current.locked_out = false; }
else {
  current.locked_out = true; }

var now_GR = new GlideRecord("sys_user");
now_GR.query();
while(now_GR.next()) {
  now_GR.update();
  gs.info("updating " + gr.getDisplayValue());
}
```

デフォルトのクエリ前ビジネスルール

データベースクエリの実行前に実行されるクエリビジネスルールを使用できます。

このクエリビジネスルールを使用して、ユーザーが特定のレコードにアクセスできないようにします。インシデントレコードへのアクセスを制限するデフォルトのビジネスルールの以下の例を考慮してください。

- 名前：incident query
- テーブル：インシデント
- タイミング：クエリ前
- スクリプト：

```
if(!gs.hasRole("itil") && gs.isInteractive()) {
  var u = gs.getUserID();
  var qc =
 current.addQuery("caller_id",u).addOrCondition("opened_by",u).addOrCondi
tion("watch_list","CONTAINS",u);
  gs.print("query restricted to user: " + u); }
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この例では、ユーザーは、itil ロールを持っているか、または **[Caller]** あるいは **[Opened by]** フィールドでリストされていない限り、インシデントレコードにアクセスできません。そのため、セルフサービスユーザーがインシデントのリストを開くと、自分が送信したインシデントしか表示されません。

注: ユーザーに表示されるレコードは、アクセス制御を使用して制限することもできます。

システムイベント

ServiceNow のシステムイベントは、プロセスを自動化し、プラットフォームの効率を維持するために重要です。ビジネスルール、通知、ワークフロー、およびその他のアクションのトリガーとして機能し、タスクをタイムリーかつ一貫して実行できます。これらのイベントを監視して応答することで、組織は運用を合理化し、応答時間を改善し、ユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。

開始するには

システムイベントの詳細

システムイベントがどのようにアクションのトリガーとして機能し、プロセスの自動化を可能にするかについて説明します。

システムイベントの構成

アクションをトリガーしてプロセスを自動化するシステムイベントを設定および管理します。

システムイベントの管理

システムイベントを外部システムやアプリケーションに接続して、シームレスなデータ交換と自動化されたワークフローを実現します。

システムイベントに関する参照情報

利用可能な事前定義されたシステムイベントとその使用方法の詳細を提供します。

トラブルシューティングとヘルプ

- システムイベントに関する質問をし、その他のリソースを調べる - ServiceNow コミュニティ
- 既知のエラーポータルで既知のエラー記事を検索する
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムイベントの詳細

イベントは、特定の条件が発生したときにログに記録し、それに応じて何らかのアクションを実行するために使用される特別なレコードです。

システムイベントの概要

システムイベントがどのようにアクションのトリガーとして機能し、プロセスの自動化を可能にするかについて説明します。

システムイベントを活用するメリットを実現するには、インスタンスで次のタスクを実行します。

- イベントの作成
- イベントのログ記録
- 自動ジョブスケジューリングの実装
- イベントの移動
- イベントの登録
- イベントの再処理
- ワークフローから通知にイベントパラメーターを渡す

システムイベントユーザー

ユーザー

ユーザー	説明
アドミニストレーター	アドミニストレーターは、システムイベントを活用して、プラットフォーム内の特定の出来事に基づいて自動化されたアクションとワークフローをトリガーし、非同期処理とレスポンシブな自動化を実現します。スクリプトまたはビジネスルールを使用してイベントを生成し、イベントレジストリに登録して、通知、スクリプトアクション、またはフローを使用して処理できます。
ビジネスアナリスト	ビジネスアナリストは、イベントを活用して特定のシステムアクティビティをキャプチャして傾向とプロセスを分析したり、ログを生成したり、分析ツールにデータを送信したりして、より適正な意思決定とプロセスの改善を実現します。
コンプライアンス責任者	コンプライアンス責任者は、イベントを使用して重要なアクティビティを記録したり、コンプライアンスレポートを生成したり、標準からの逸脱が検出されたときに是正措置を開始したりすることで、規制要件への準拠を確実に支援します。
カスタマーサポート	カスタマーサポートの従業員は、システムイベントを使用して、顧客の要求に対する自動応答をトリガーしたり、フォローアップタスクを作成したり、未解決のケースを適切なチームにエスカレーションしたりすることで、カスタマーサービスを強化します。
開発者	開発者は、システムイベントを作成および管理して、ユーザーのアクションやレコードの変更に応じてモジュールを統合し、ワークフローをトリガーし、カスタムロジックを実装して、拡張性と動的なシステム動作を確保します。
HR アドミニストレーター	HR プロフェッショナルは、システムイベントを使用して、従業員への更新通知、新規雇用時のオンボーディングワークフローの

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザー (続く)

ユーザー	説明
	生成、退職時のドキュメントレビューのトリガーなどの HR プロセスを自動化します。
ITOM/ITSM	IT サービスマネージャーは、システムイベントを使用して、SLA 違反の通知の送信、インシデントのエスカレーション、タスクワークフローのトリガーなどの ITSM プロセスを監視および自動化し、効率的な IT サービスデリバリと SLA のコンプライアンスを確保します。
マーケティングチーム	マーケティングチームは、特定の条件 (顧客とのやり取りなど) が満たされたときに、イベントを使用してプロモーションメールの送信や CRM システムの更新などのキャンペーンアクションをトリガーすることで、顧客エンゲージメントを自動化します。
運用チーム	運用チームは、サービスの再起動、CMDB レコードの更新、関連するチームへのメンテナンススケジュールの通知などの是正措置を開始するイベントをトリガーすることで、運用アラートやシステムの変更を監視して対応します。
プロジェクトマネージャー	プロジェクトマネージャーは、システムイベントを使用して、プロジェクト更新の通知をトリガーしたり、タスクの依存関係を自動的に作成したり、マイルストーンが達成されたときにステークホルダーに更新したりして、プロジェクトの追跡とコミュニケーションを改善できます。
セキュリティアナリスト	セキュリティアナリストは、システムイベントを活用して、検出された脅威や脆弱性に対応して、アラートの作成、ログの生成、封じ込めワークフローの開始など、セキュリティインシデントへの即時対応をトリガーします。

システムイベントのメリット

システムイベントのメリット

メリット	機能	ユーザー
ユーザーは、特定の条件またはアクションによってトリガーされる新しいイベントを定義して、カスタマイズされたワークフローと自動応答を実現できます。	イベントの作成	開発者、アドミニストレーター、IT サービスマネージャー
システム動作の監査、デバッグ、監視のためにイベントアクティビティをログにキャプチャし、イベントのパフォーマンスとボトルネックに関するインサイトを提供します。	イベントログ	管理者、コンプライアンス責任者、セキュリティアナリスト
特定の時間または間隔で自動的に実行されるようにジョブをスケジュールし、手動介入なしでルーチンタスクが実行されるようにします。	自動ジョブスケジューリングの実装	運用チーム、IT サービスマネージャー、アドミニストレーター
キューまたはカテゴリ間でイベントを転送し、イベント駆動型システムでの処理の優先度と負荷分散の最適化に役立ちます。	イベントの移動	アドミニストレーター、開発者
カスタムイベントまたはシステム定義のイベントをプラットフォームで登録して、特定のアク	イベントの登録	開発者、アドミニストレーター

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムイベントのメリット (続く)

メリット	機能	ユーザー
ションまたはワークフローのトリガーに使用できるようにします。		
失敗したイベントや不完全なイベントを再処理する機能を提供し、システムの信頼性を確保し、エラーの影響を最小限に抑えます。	イベントを再処理する	IT 運用チーム、開発者、アドミニストレーター
ワークフローから通知へのコンテキストデータのシームレスな転送を可能にし、受信者にとって関連性のある実用的な情報がメッセージに含まれるようにします。	ワークフローから通知にイベントパラメーターを渡す	開発者、IT サービスマネージャー、HR プロフェッショナル

次に確認すべき詳細情報

システムイベントの構成と使用に関する詳細については、以下を参照してください。

- 「システムイベントの構成」
- 「システムイベントの管理」
- 「システムイベントに関する参照情報」

システムイベント

イベントは、特定の条件が発生したときにシステムがログに記録し、その条件に応じて何らかのアクションを実行するために使用する特別なレコードです。

システムは、ビジネスルールを使用してシステム条件を監視し、イベント [sysevent] テーブル (イベントログまたはイベントキューとも呼ばれます) のイベントレコードを生成します。

イベントを生成するビジネスルールは通常、次のスクリプトロジックを使用します。

[現在のレコードの一部の条件が true] の場合、[特定のイベントをキューに追加] します。

たとえば、[インシデントイベント] ビジネスルールの条件の一部は次のとおりです。

- ユーザーがインシデントレコードにコメントを追加する場合は、*incident.commented* イベントを追加します。
- ユーザーがインシデントレコードを追加する場合は、*incident.inserted* イベントを追加します。
- ユーザーがインシデントレコードを更新する場合は、*incident.updated* イベントを追加します。

イベント生成ビジネスルールは、GlideSystem *eventQueue* メソッドを使用してイベントレコードを挿入します。このレコードには通常、次の情報が含まれています。

イベントフィールド

フィールド	説明
名前	イベントの一意の名前。ベースラインイベント名には、影響を受けるレコードとトリガーアクション (*incident.commented* など) が含まれます。
Parm1	レコード Sys ID やフィールド値など、システムの他の部分にレコード情報を渡すために使用されるイベント固有のパラメーター。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イベントフィールド (続く)

フィールド	説明
Parm2	レコード Sys ID やフィールド値など、システムの他の部分にレコード情報を渡すために使用されるイベント固有のパラメーター。
テーブル	イベントが適用されるテーブル。これは、ビジネスルールが実行されたのと同じテーブルです。
インスタンス	このイベントが適用されるレコードの Sys ID。

スケジュール済みジョブは、イベントキューを定期的に読み取り、処理のために適切なハンドラーに転送します。ハンドラーは、イベントレコードの情報を使用して、次のようなアクションを実行します。

- スクリプトアクションを実行
- ジョブをスケジュール
- 通知を送信
- ワークフローアクティビティをトリガー
- 滞留アクティビティモニターをトリガー

デフォルトでは、アプリケーションアクティビティの幅広いビューをカバーするイベントが提供されます。既存のイベントがニーズに合わない場合は、独自のイベントを作成してレコードの特定の変更を監視できます。

開発者トレーニングについては、ServiceNow® 開発者サイト の「スケジュールされたスクリプトの実行とイベントの目的」を参照してください。

[システムイベントおよびジョブダッシュボード] を使用して、システムイベント処理システムとスケジュール済みジョブ処理システムを監視します。

プラットフォームのアップグレード中のイベント処理

以下のプロパティを設定して、プラットフォームのアップグレード中に処理するイベントを決定します。

- **glide.event_processor.all_events_upgrade_safe**：プラットフォームのアップグレード中にすべてのイベントを処理する場合は **true** に設定します。デフォルト = **false**
- **glide.event_processor.upgrade_safe_events**：指定されたイベントのみが処理されることを示すイベント名のカンマ区切りリストを構成します。デフォルト = <空>

  このプロパティは、*glide.event_processor.all_events_upgrade_safe = false* の場合にのみ関連します。

イベントレジストリ

イベントレジストリには、システムが認識するイベントが一覧表示されます。登録されたイベントを使用して、スクリプトアクションや通知などの他のアクティビティを自動化します。

新しいイベントと、そのイベントを使用するビジネスルールを作成したら、それを登録する必要があります。

登録すると、メール通知とSMS 通知やスクリプトアクションなどのシステムの他の部分で、利用可能なイベントのリスト内のイベントを確認し、イベントが発生したときに対応することができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

イベントの登録

システムイベントの構成

事前に追加の構成を完了することなく、システムイベントを計画、構成、実装します。構成の概要にリストされているタスクに従って、自動ジョブスケジューリングを実装します。

構成の概要

自動ジョブスケジューリングの実装

[イベント登録] フォームの [キュー登録] リンクを使用して、メッセージ処理フレームワーク (自動ジョブスケジューリング) を実装します。

自動ジョブスケジューリングの実装

[イベント登録] フォームの [キュー登録] リンクを使用して、メッセージ処理フレームワーク (自動ジョブスケジューリング) を実装します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [パフォーマンスアナリティクス] > [システム] > [イベント登録]に移動します。
2. [新規] を選択して、新しいイベントを登録します。

   注: 既存のイベントを選択して構成を更新することもできます。

3. [イベント登録] フォームのバナーメッセージにある [キュー登録] リンクをクリックします。

   注: また、[キューレジストリ] リストページの [自動ジョブスケジューリングの無効化] ボタンを選択して自動ジョブスケジューリングを無効にすることもできます。

   新しいイベントを開始した場合は、[キューレジストリ] リストが表示されます。既存のイベントを選択した場合は、[キュー登録] の新規レコードが表示されます。
4. 新しいキューを作成するには、[新規] を選択します。
   [キュー登録] フォームが表示されます。
5. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
キュー	キューの名前
アプリケーション	アプリケーションのスコープ
自動ジョブスケジューリング	自動ジョブスケジューリングを実装するオプション
イベント処理順序	イベントの処理方法を選択するオプション

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	◦ パラレル：複数のイベントを同時に処理します ◦ 順次：一度に 1 つのイベントのみを処理します。イベントは相互に依存しており、前のイベントが完了した後にのみ処理できます 注: 処理順序を構成してキューを送信すると、キューを編集することはできなくなります。キューを削除して、新しいキューを作成できます。
ジョブ構成タイプ	ジョブ構成のタイプ 注: このフィールドは、[イベント処理順序] として [順次] を選択すると無効になります。[イベント処理順序] として [並列] を選択した場合、2 つのオプションがあります。 ◦ 定数：必要な数のジョブを作成します ◦ ノードを伴うスケール：ジョブにノード数を乗算します。このオプションは、利用可能なノードの数がわからない場合に使用できます
尺度値	ジョブの合計数は、選択したジョブ構成タイプに基づきます
ポーリング間隔	ジョブがこのキューのイベントをポーリングして処理する頻度を決定します
説明	このキューの関連情報を説明するオプションのフィールド

6. [**Submit** (送信)] をクリックします。
[キューレジストリ] リストが表示されます。また、最近のキューに加えられた更新も表示されます。
7. 最近追加したキューを選択します。
[キュー登録] フォームが表示されます。
8. [関連リスト] セクションまで下へスクロールします。
9. [キュー詳細] 関連リストで [ステータス] エントリを選択します。

   注: 新しいキューが送信されたため、[ステータス] エントリは [アクティブ] になります。

   [キュー詳細] フォームが表示されます。
10. オプション: 要件に従って、このキューのジョブの数を更新します。
すべてを構成する必要なく、要件に応じて手動でスケールアップまたはスケールダウンできるようになり、最終的には構成ミスを回避できます。
11. オプション: 自動ジョブスケジューリングなしでキューを以前の構成にロールバックする場合は、[キュー登録] フォームの [ロールバック] 関連リンクをクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: [ロールバック] 関連リンクは、自動ジョブスケジューリング構成を使用している場合にのみ表示されます。

12. オプション: このキューの既存のジョブ構成を取得する場合は、[構成を取得 **(Retrieve Configurations)]** を選択します。

    注: このプロセスは、自動ジョブスケジューリング構成を使用している場合にのみ可能です。

    提案されたキュー名のキューが手動ジョブスケジューリング構成に既に存在する場合は、既存のキューの構成が取得されます。その後、必要に応じて検証および更新できます。

システムイベントの管理

システムイベントの管理には、自動化を推進してプロセスを簡素化するための、イベントの作成、監視、処理が含まれます。アドミニストレーターと開発者は、カスタムイベントを定義してシステムに登録し、これらのイベントに応答するアクションまたはワークフローを設定できます。この機能により、効率的なタスク実行が保証され、システムのモニタリングが向上し、より堅牢なエラー処理が可能になり、運用の信頼性が強化されます。

システムイベント管理の概要

- イベントの作成

  カスタムシステムイベントを作成します。

- イベントの移動

  優先度の高いイベントをデフォルトのキューから独立したキューに移動することで、実行プロセスを迅速化します。

- ワークフローから通知にイベントパラメーターを渡す

  レコードまたは関連レコードに関する情報をワークフローから通知に送信する 2 つのイベントパラメーターを渡します。

- イベントの登録

  特定のテーブルのイベントと、イベントをトリガーするビジネスルールを登録します。

- イベントを再処理する

  テストまたは診断の目的で、イベントを再度トリガーします。

システムイベントに関する参照情報

詳細については、「システムイベントに関する参照情報」を参照してください。

イベントの作成

適切な既存のイベントがない場合は、独自のイベントを作成できます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
gs.EventQueue 関数はバックエンドと直接連携するため、gs.EventQueue() によって呼び出されるビジネスルールは呼び出されません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [システムポリシー] > [イベント] > [レジストリ]に移動し、[新規] を選択します。
2. フォームのフィールドに入力します。

イベント登録フォームの完了

フィールド	説明
イベント名	新しいイベントの名前。
テーブル	このイベントのデータベーステーブル。 注: イベントと同じスコープ内にあるテーブルビューとデータベースビューのみがリストに表示されます。
キュー	イベントがトリガーされたときに入れられるキューの名前。 小文字のみを使用し、アンダースコア (_) 以外の特殊文字は使用しないでください。たとえば、`my_queue`。「カスタムキューを使用してイベントを処理する」を参照してください。
優先度	メッセージが処理される順序。値が小さいほど優先度が高くなります。 注: com.glide.sysevent.priority.enabled システムプロパティはデフォルトで有効になっています。無効にすると、イベント処理は優先度別に実行されません。
問い合わせユーザーのアクセス	制限付き申請者アクセスの設定。 ◦申請者制限：リソースに対する呼び出しは手動で承認する必要があります。 ◦申請者追跡：リソースに対する呼び出しは自動的に承認されます。
解雇者	イベントを実行するビジネスルールの名前。このフィールドは参照専用で、どのプロセスにも使用されません。イベントを再度見つけるのに十分な情報があることを確認します。
説明	イベントの目的の簡単な説明。

3. [ビジネスルール] 関連リンクをクリックします。
4. ベースシステムテーブルのイベントを作成する場合は、テーブルの既存のイベントビジネスルールを選択します。

Example
たとえば、*sc request events* ビジネスルールを選択してカスタム要求イベントを作成します。

5. 既存のイベントビジネスルールを更新する場合は、[スクリプト] に新しい条件を追加します。

Example
次のサンプルスクリプトは、ユーザーのシステム ID が parm1 で、ユーザーのユーザー名が parm2 の *request.commented* イベントを追加します。

```
if (current.operation() != 'insert' && current.comments.changes()) {
gs.eventQueue('request.commented', current, gs.getUserID(),
 gs.getUserName());
}
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. カスタムテーブルのイベントを作成する場合は、データベース操作の後に実行される新しいビジネスルールを作成します。

Example
たとえば、次のビジネスルールは、マーケティングイベントと呼ばれるカスタムアプリケーションに対していくつかのイベントを定義します。

イベントビジネスルールのサンプル

フィールド	値
名前	出席者のイベント
テーブル	出席者 [x_snc_marketing_ev_attendee]
アプリケーション	マーケティングイベント
詳細	選択済み
時期	トランザクションの後
挿入	選択済み
更新	選択済み
削除	選択済み
スクリプト	次のようなカスタムスクリプトを追加します。 ◦現在のレコードで 1 つ以上の条件をチェックします。 ◦gs.eventQueue() メソッドを呼び出し、イベント名を指定します。 コードサンプルを参照してください。

注: [フィルター条件]、[ロールの条件]、または [条件] 値を追加する場合は、想定どおりにビジネスルールが実行されることを確認します。

```
(function executeRule(current, previous /*null when async*/) {
   //This function will be automatically called when this rule is
 processed.
        //Add event when attendee inserted
        if(current.operation() == 'insert' &&
 current.marketing_event.changes()) {
                gs.eventQueue('x_snc_marketing_ev.attendee.added',
 current,
current.marketing_event, current.email);
        }
        //Add event when marketing event changes
        if(current.operation() == 'update' &&
 current.marketing_event.changes()) {
                gs.eventQueue('x_snc_marketing_ev.attendee.deleted',
 previous,
previous.marketing_event, previous.email);
                gs.eventQueue('x_snc_marketing_ev.attendee.added',
 current,
current.marketing_event, current.email);
        }
        //Add event when attendee deleted
        if(current.operation() == 'delete') {
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
                gs.eventQueue('x_snc_marketing_ev.attendee.deleted',
 current,
              current.marketing_event, current.email);
}
})(current, previous);
```

7. イベントを登録します。

次のタスク
イベントを処理するスクリプトアクションまたは通知を作成します。

関連情報
- イベントの登録
- スクリプトアクション

イベントの移動

優先度の高いイベントをデフォルトのキューから独立したキューに移動することで、実行プロセスを迅速化します。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. [すべて] > [イベント登録] に移動します。
   登録されているイベントのリストが表示されます。
2. 移動するイベントを選択します。
   選択したイベントのイベント登録フォームが表示されます。
3. [デフォルトキューに移動] を選択して、現在のキューからイベントを移動し、そのキューの実行を迅速化します。

   注: 現在デフォルトのキューが表示されている場合は、[適応イベントキューに移動] オプションを選択できます。

   プロセッサーが一度に実行できるのは 1 つのイベントのみです。したがって、イベントをキューに移動すると、プロセッサーが利用可能な場合にのみイベントが実行されます。

4. オプション: **[System Diagnostics]** > [統計] > [適応イベント] に移動して、イベントの平均実行時間を追跡します。
   動きの遅いイベントを選択し、必要に応じてキューを変更できます。イベントを登録してイベント登録リストに表示することもできます。

ワークフローから通知にイベントパラメーターを渡す

レコードまたは関連レコードに関する情報をワークフローから通知に送信する 2 つのイベントパラメーターを渡します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [システムポリシー] > [イベント] > [レジストリ]に移動し、呼び出す新しいイベントを定義します。
2. ワークフローからイベントを呼び出すアクティビティステップを作成し、2 つの可能なパラメーターを割り当てます。
   これらのパラメーターは、要求アイテム番号の *current.number* など、ワークフローをトリガーしたレコードの参照またはフィールドにすることができます。他のテーブルのレコードにドット連結することもできます。イベントは、トリガーされる通知にパラメーター情報を送信します。
3. *event.parm1* と *event.parm2* を使用して、メールスクリプトで通知のパラメーターを取得します。
   例：

```
var string = event.parm1.toString();
template.print(string);
```

Example:
システム ID を使用する別の例では、ワークフローをトリガーしたレコード内のすべての要素にアクセスできます。たとえば、このようなスクリプトを使用して、変更または要求に関する情報をサポート担当者に送信します。

```
var id = event.parm1.toString();
var gr = new GlideRecord('sc_req_item');
gr.get('sys_id', id);
if (gr.next()){
   // Do something.
}
```

関連情報

メール通知用のスクリプティング

イベントの登録

特定のテーブルのイベントと、イベントを発生させるビジネスルールを登録できます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. イベントを登録するには、[システムポリシー] > [イベント] > [レジストリー] を参照し、[新規] をクリックします。
2. フォームのフィールドに入力します。

イベント登録フォームの完了

フィールド	説明
イベント名	新しいイベントの名前。
テーブル	このイベントのデータベーステーブル。 注: イベントと同じスコープ内にあるテーブルビューとデータベースビューのみがリストに表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
キュー	イベントがトリガーされたときに入れられるキューの名前。 小文字のみを使用し、アンダースコア (_) 以外の特殊文字は使用しないでください。たとえば、`my_queue`。「カスタムキューを使用してイベントを処理する」を参照してください。
優先度	メッセージが処理される順序。値が小さいほど優先度が高くなります。 注: com.glide.sysevent.priority.enabled システムプロパティはデフォルトで有効になっています。無効にすると、イベント処理は優先度別に実行されません。
問い合わせユーザーのアクセス	制限付き申請者アクセスの設定。 ◦申請者制限：リソースに対する呼び出しは手動で承認する必要があります。 ◦申請者追跡：リソースに対する呼び出しは自動的に承認されます。
解雇者	イベントを実行するビジネスルールの名前。このフィールドは参照専用で、どのプロセスにも使用されません。イベントを再度見つけるのに十分な情報があることを確認します。
説明	イベントの目的の簡単な説明。

イベントを再処理する

テストまたは診断の目的で、イベントを再度開始することができます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システムログ] > [イベント] に移動します。
2. イベントを開きます。
3. [関連リンク] で、[再処理イベント] をクリックします。
   イベントがイベントキューに戻ります。

システムイベントに関する参照情報

参照トピックでは、システムイベントに関する情報を提供します。

イベントログ

イベントログには、Now Platform 内で発生するすべてのシステムイベントが記録されます。

このログは、発生するすべてのイベントについて次の情報を提供します。

イベントログ

フィールド	説明
作成日時	インスタンスを実行しているマシンのロケールのイベントの日時。
名前	イベント登録にリストされているイベントの名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イベントログ (続く)

フィールド	説明
URI	イベントを生成した HTTP クエリ。
Parm1	イベントと受信者に依存するイベント固有の値。
Parm2	イベントと受信者に依存するイベント固有の値。
テーブル	このイベントで機能するデータベーステーブル。
処理済み	イベントの処理が開始された日時。この時刻は、インスタンスを実行しているマシンのロケールを反映しています。
処理時間	このイベントの処理に要した時間 (ミリ秒)。
キュー	プロセッサーキュー名。

イベント状況

イベント状況は、イベントがライフサイクルのどこにあるかを示します。

イベント状況

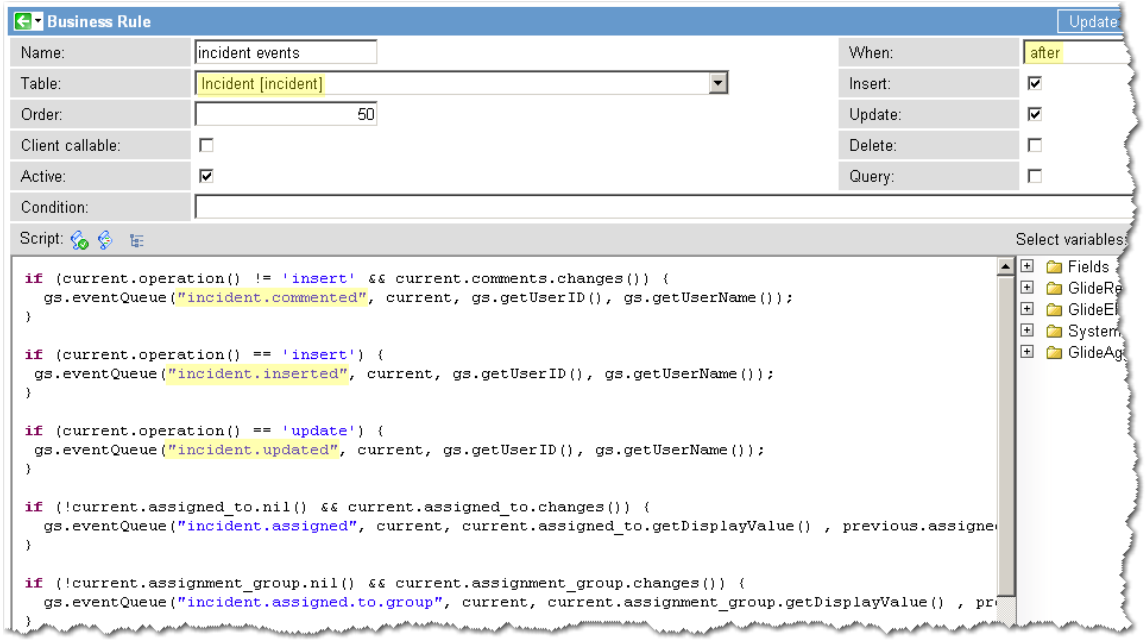
状況	説明
準備完了	システムがイベントを作成し、キューで処理を待機しています。
処理日時	イベントが正常に実行されました。イベントは、処理時に必ずしもそれ以上のアクションをトリガーするわけではありません。追加の機能では、 イベントを使用する必要があります。
エラー	処理中にイベントでエラーが発生しました。このステータスは、多くの場合、無効なイベントパラメーターが原因で発生します。イベントを再処理すると、エラーが解決する場合があります。
転送済み	イベントがイベント [sysevent] テーブルの別のシャードにローテーションされました。イベントがローテーションされると、アクティブなシャードに重複レコードが作成されて処理されます。スケジュール済みジョブは、キュー内の次のイベントを処理しますが、その前に複数のイベントを処理する必要があるため、いつ発生するかを予測できません。したがって、イベントを再処理できます。「イベントを再処理する」を参照してください。

インシデントイベントビジネスルール

インシデントイベントビジネスルールはシステムに付属しており、インシデントテーブルのさまざまなアクションによってトリガーされるいくつかのイベントを定義します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インシデントイベントビジネスルール



このビジネスルールはいくつかのイベントを定義しており、そのうちの 3 つはインシデントテーブルのレコードが挿入または更新された後にトリガーされます。最初のスクリプトは次のとおりです。

```
if (current.operation() != 'insert' && current.comments.changes()) {
gs.eventQueue("incident.commented", current, gs.getUserID(),
 gs.getUserName());
}
```

このスクリプトの条件では、既存の (挿入されていない) インシデントレコードの [コメント] フィールドを変更する必要があります。この条件が true の場合、プラットフォームは `incident.commented` イベントをイベントキューに追加します。

2 番目の条件では、イベントがキューに追加される前にレコードが挿入される必要があります。

```
if (current.operation() =='insert') {
```

3 番目の条件は、インシデントレコードが更新されるたびに true になります (最初のスクリプトで指定された [コメント] フィールドの更新を含む)。

```
if (current.operation() == 'update')
```

各スクリプトの [then] 部分である *`gs.eventQueue`* 関数は、イベントをイベントキューに追加します。このステートメントでは、括弧とともに次の構文を使用します。

```
gs.eventQueue("incident.updated", current, gs.getUserID(),
 gs.getUserName());
```

`gs.eventQueue` 関数は、次のパラメーターを受け取ります。

gs.eventQueu パラメーター

フィールド	入力値
名前	トリガーされたイベントの名前。引用符で囲まれています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

gs.eventQueu パラメーター (続く)

フィールド	入力値
レコード	スクリプト内の条件が *true* と評価されたときに参照されるレコード。通常、これは *current* として表されます。これは、ビジネスルールが適用されている現在のレコードを意味します。ビジネスルールがスケジュール済みジョブの一部としてトリガーされる場合は、代わりに GlideRecord 引数を使用します。
Parm 1	イベントとともにシステムまたはレコード情報を渡すために使用できるオプションのパラメーター。たとえば、GlideSystem API 呼び出し *`gs.getUserID()`* は、現在のレコードを操作したユーザーのシステム ID を文字列値として渡します。他のスクリプトは、`${event.parm1}` 形式を使用して、この文字列値を parm1 として参照できます。
Parm 2	イベントとともにシステムまたはレコード情報を渡すために使用できるオプションのパラメーター。たとえば、GlideSystem API 呼び出し *`gs.getUserName()`* は、現在のレコードを操作したユーザーのユーザー名を渡します。他のスクリプトは、`${event.parm2}` 形式を使用して、この文字列値を parm2 として参照できます。

注: gs.EventQueue 関数はバックエンドと直接連携するため、gs.EventQueue() によって呼び出されるビジネスルールは呼び出されません。

グローバルイベント

インスタンスには、特定の条件が発生したときにビジネスルールからトリガーされる *`global_events()`* と呼ばれるグローバル関数があります。

この関数は、インスタンスが次の場合にトリガーされます。

- 新しいレコードの挿入
- 既存レコードの更新
- 既存のレコードへのコメントの追加
- ユーザーへのレコードの割り当て
- レコードの非アクティブタイマーの超過

たとえば、`change_request` テーブルのビジネスルールに global.events(current) スクリプトを追加すると、インスタンスによって次のイベントが自動的に設定されます。

- change_request.inserted
- change_request.updated
- change_request.commented
- change_ request.assigned
- change_ request.inactive

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトアクション

スクリプトアクションを使用して、構成アイテム (CI) の変更や失敗したログイン試行の管理など、さまざまなタスクを実行するサーバー側スクリプトを作成できます。スクリプトアクションはイベントによってのみトリガーされます。

構成

新しいスクリプトアクションを作成するには、[システムポリシー **(System Policy)]** > [イベント **(Event)]** > [スクリプトアクション]に移動し、[新規 **(New)]** をクリックします。

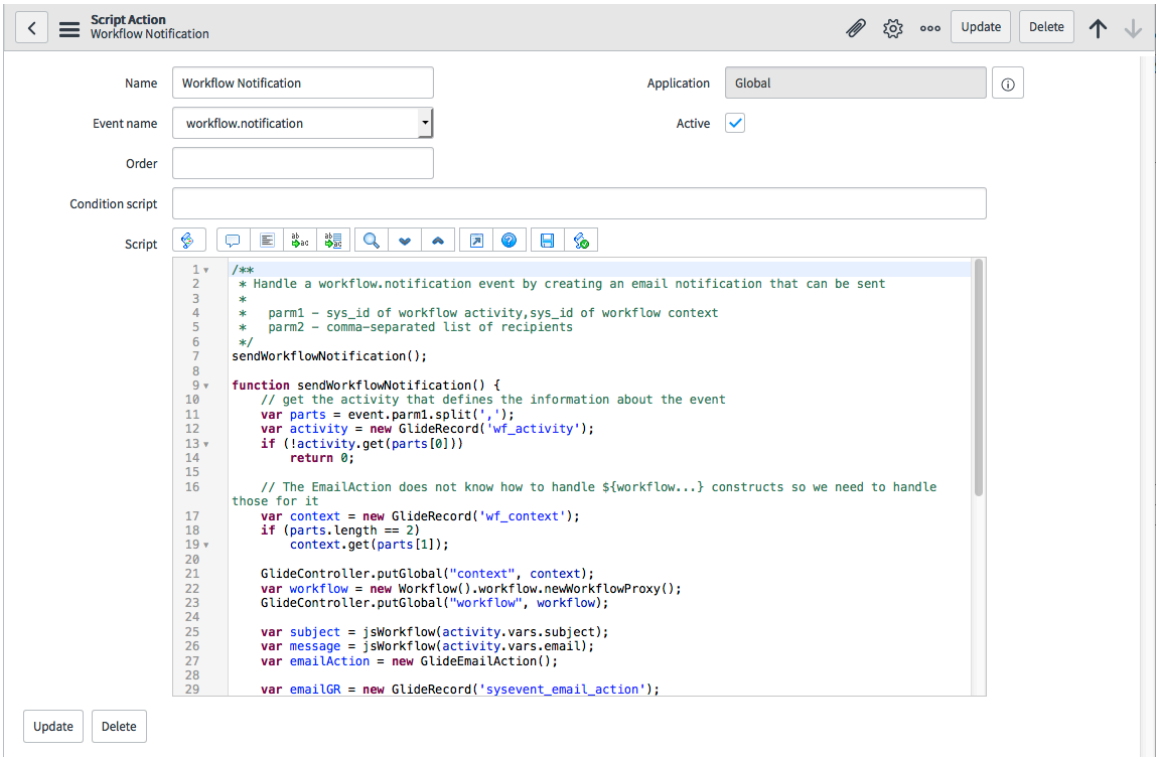
スクリプトアクション

フィールド	説明
名前	スクリプトアクションの一意の名前。
アプリケーション	スクリプトが含まれるアプリケーション。
イベント名	このスクリプトに使用するイベント。目的に合ったスクリプトアクションのイベントが見つからない場合は、新しいイベントを作成できます。
アクティブ	スクリプトアクションを有効または無効にするチェックボックス。スクリプトアクションを有効にするには、**true** を選択します。
実行順序	スクリプトが実行される順序。
条件スクリプト	スクリプトを実行する条件のステートメント。条件が true と評価された場合にのみ、[スクリプト] フィールドが解析されます。スクリプトに条件ステートメントを含める場合は、このフィールドを空のままにします。
スクリプト	定義された条件が true と評価されたときに実行されるスクリプト。このスクリプトでは、次の 2 つの追加オブジェクトを使用できます。 • `event`：GlideRecord - これが呼び出される原因となった sysevent。イベントでこの最初のパラメーターを取得する場合は、2 番目のパラメーターに `event.parm1` または `event.parm2` を使用します。イベントの日付/時刻には、`event.sys_created_on` を使用します。イベントを作成したユーザー ID (ユーザーが関連付けられている場合) を取得するには、`event.user_id` を使用します。 • `current`：`GlideRecord`- 代理でスケジュールされたイベント (インシデントなど)。

ワークフローアクティビティのメール通知を作成するスクリプトアクションのサンプル。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトアクションワークフロー



変更イベントビジネスルールのサンプルスクリプト

ベースライン変更イベントビジネスルールにはいくつかのスクリプトがあります。

このビジネスルールは、変更要求が挿入または更新された後に発生するイベントを定義します。

```
if (current.operation() == 'insert') {
 gs.eventQueue("change.inserted", current, gs.getUserID(),
 gs.getUserName());
}

if (current.operation() == 'update') {
 gs.eventQueue("change.updated", current, gs.getUserID(),
 gs.getUserName());
}

if (!current.assigned_to.nil() && current.assigned_to.changes()) {
  gs.eventQueue("change.assigned", current,
 current.assigned_to.getDisplayValue() ,
 previous.assigned_to.getDisplayValue());
}

if (current.priority.changes() && current.priority == 1) {
  gs.eventQueue("change.priority.1", current, current.priority,
 previous.priority);
}

if (current.risk.changes() && current.risk== 1) {
  gs.eventQueue("change.risk.1", current, current.risk, previous.risk);
}
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
if (current.start_date.changes() || current.end_date.changes() ||
 current.assigned_to.changes()) {
  if (!current.start_date.nil() && !current.end_date.nil()
 && !current.assigned_to.nil()) {
    gs.eventQueue("change.calendar.notify", current, current.assigned_to,
 previous.assigned_to);
  }

  // Remove from previous assigned to, due to assigned_to changing
  if (!previous.assigned_to.nil()) {
      if (!current.assigned_to.nil() && current.assigned_to.changes() &&
         (!previous.start_date.nil() && !previous.end_date.nil())) {
        gs.eventQueue("change.calendar.notify.remove", current,
 current.assigned_to, previous.assigned_to);
      }
   }
  // Remove old calendar from current assigned to, due to date changing
  else if (!current.assigned_to.nil()) {
     if ((current.start_date.changes() && !previous.start_date.nil()) ||
         (current.end_date.changes() && !previous.end_date.nil())) {
       gs.eventQueue("change.calendar.notify.remove", current,
 current.assigned_to, current.assigned_to);
     }
  }
}
```

サービスクリエーター

サービスクリエーターは、HR 部門が今後の教育のための授業料払い戻しを提供するといったサービスカタログを通じて部門がカスタムサービスを提供するのを可能にします。

発行された各サービスには、関連するレコードプロデューサのカタログアイテムがあります。アドミニストレーターとして指定されたユーザーとエディターは、これらのカタログアイテムを生成し設計します。エンドユーザーは、カタログアイテムを注文することによってサービスを要求できます。

すべてのサービスは、関連するアプリケーションとモジュールがある発行されているサービスカテゴリに属しています。ユーザーがサービスのカタログアイテムを注文すると、ServiceNowシステムは、そのサービスカテゴリのアプリケーション内に新しいタスクレコードを作成します。部門のサービス実行者として指定されたユーザーは、これらのサービス要求を満たすためのタスクを完了します。

サービスクリエーターのプロセス

サービスクリエータープロセスには、サービスカテゴリの要求と発行、エディターとサービス履行者の指定、サービスの作成と発行、サービス要求の提出と実行が含まれます。

サービスカテゴリを要求して発行する

ユーザー (通常は部門マネージャー) は、部門のサービスカテゴリを要求できます。このユーザーは、サービスカテゴリに関する名前、部署、マネージャーなどのサービスカテゴリに関する高度な情報を提供します。

カタログアドミニストレーターは、サービスカテゴリを発行する要求を承認し、ServiceNowカテゴリに関連付けられたサービス要求を管理するためのアプリケーションを作成し、アプリケーションのシステムコンポーネントを作成することができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エディターとサービス履行者を指定する

サービスカテゴリが発行されると、関連付けられたマネージャーはエディターとサービス履行者を指定します。エディターは、そのサービスカテゴリ内のサービスを作成および変更できます。サービス提供者は、サービス要求によって生成されたタスクを完了できます。

マネージャー、エディター、およびサービス履行者は、サービスカテゴリが属する部門のメンバーとします。

サービスの作成と発行

マネージャーとエディターは、サービスカテゴリ内でサービスを作成します。サービスデザインインターフェイスは、サービスの作成および変更のための作業領域を提供します。

サービスが完了すると、マネージャーはサービスをサービスカタログに発行します。

サービス要求を提出し、履行する

エンドユーザーは、サービスカタログ要求を提出することで、発行されたサービスを要求できます。この要求によって、サービスカテゴリアプリケーション内に新しいタスクレコードが作成されます。サービス履行者は、サービス要求を満たすためのタスクを完了する。

関連情報

サービスクリエーター

サービスクリエーターをアクティブ化する

サービスクリエータープラグインがまだ有効になっていない場合、アドミニストレーターはアクティブにしてアプリケーションにアクセスする必要があります。

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。
2. フィルター基準と検索バーを使用してプラグインを検索します。

   名前または ID でプラグインを検索できます。プラグインが見つからない場合は、ServiceNow 担当者から要求する必要があります。

3. [インストール] を選択して、インストールプロセスを開始します。

   注: ドメインセパレーションと代理アドミンがインスタンスで有効になっている場合、管理ユーザーはグローバルドメインに含まれている必要があります。それ以外の場合、次のエラーが表示されます：「別の操作が実行されているため、アプリケーションのインストールは利用できません：<プラグイン名> のプラグインの有効化 (`Application installation is unavailable because another operation is running: Plugin Activation for <plugin name>`)」

   インストールが完了するとメッセージが表示されます。プラグインとともにインストールされているコンポーネントについては、「アプリケーションとともにインストールされているコンポーネントの検索」を参照してください。

サービスクリエーターと共にインストール

いくつかのタイプのコンポーネントがサービスクリエーターとともにインストールされています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デモデータはサービスクリエーター とともに入手できます。デモデータは部門サービスのサービスカタログカテゴリを提供します。

新しいサービスカテゴリを作成すると、そのサービスカテゴリのコンポーネントも作成されます。

以下のコンポーネントがサービスクリエーターに追加されます：

テーブル

サービスクリエーター

テーブル	説明
サービスカテゴリー [catalog_category_request]	すべてのサービスカテゴリを保存します。
サービスカテゴリ要求ユーザー [catalog_category_request_user]	サービスカテゴリの履行者を追跡します。これらのレコードを使用して、必要に応じてロールを付与または削除します。
サービス [sc_cat_item_producer_service]	すべてのサービスを保存します。
サービスカテゴリーア プリケーションメニュー [service_category_app_menu]	各サービスカテゴリのアプリケーションメニューを保存します。
サービスカテゴリーのユーザーロール [service_category_user_role]	サービスカテゴリのエディターであるためにロールを付与されたユーザーを追跡します。

UI アクション

UI アクション	説明
カテゴリとテーブルの作成	要求されたサービスカテゴリを承認し、そのカテゴリのシステムコンポーネントを作成します。
カテゴリの公開を要求	サービスクリエーターがカテゴリを発行するように要求します。
新規サービスを作成	このサービスカテゴリに新しいサービスを作成します。
テーブル定義を表示	サービスカテゴリーのタスクテーブル定義[sys_db_object]を開きます。
タスクリストを表示	このサービスカテゴリに関連付けられたタスクのリストを表示します。

UI ポリシー

UI ポリシー	説明
期限を隠す	要求ありの状態または期限日が空の場合、サービスカテゴリフォームの期限日フィールドを非表示にします。
空白の場合カテゴリを非表示にする	サービスカテゴリフォームでカテゴリフィールドが空白の場合は非表示にします。
発行済みの表示	状態が作成済みだが未発行または発行準備が整っている場合は、[サービスカテゴリー]フォームの[発行済み] フォームのチェックボックスを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ポリシー	説明
テーブル名を非表示にする	テーブルが値を持つ場合、サービスカテゴリフォームでテーブルを表示し、テーブル名を非表示にします。
カテゴリ名を隠す	状態が要求ありまたは拒否されている場合、サービスカテゴリフォームに名前を表示しません。
テーブル名読み取り専用	サービスカテゴリフォームで状態が要求無しの場合部門とテーブルの名前を読取りのみにします。
エディターを隠す	状態が要求有りまたは拒否の場合、サービスカテゴリフォームのエディターフィールドを非表示にします。

プロパティ

プロパティ	説明
glide.citizen_developer.category.auto_publish	新しいサービスカテゴリを作成すると、部門サービスカテゴリのサブカテゴリとしてサービスカタログに自動的に追加されます。 • タイプ：true | false • デフォルト値：true • 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル
glide.citizen_developer.set_category_roles	新しいサービスのカテゴリを設定できるロールのリスト (コンマ区切り形式) • タイプ：文字列 • デフォルト値：admin および catalog_admin • 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル
glide.service_creator.auto_add_to_category	新しいサービスは部門固有のカテゴリに加えて部門サービスカタログカテゴリに自動的に追加します。 • タイプ：true | false • デフォルト値：true • 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル

スクリプトインクルード

スクリプトインクルード	説明
serviceCategoryIsUnpublished	サービスカテゴリが未発行の場合に true を返すグローバル関数です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトインクルード	説明
getMyCatalogCategories	現在のユーザーがマネージャーまたはエディターであるカテゴリのリストを返すグローバル関数です。

クライアントスクリプト

クライアントスクリプト	説明
重複カテゴリ名の確認	要求されたサービスカテゴリが既存のサービスカテゴリと同じ名前である場合に、サービスカテゴリ要求フォームに警告を表示します。
テーブル名を修正	サービスカテゴリ要求フォームで有効なテーブル名を保証します。
ドラフトサービスを非表示	必要に応じて、サービスカテゴリ要求フォームのドラフトサービス関連リストを非表示にします。
テーブル名を提案する	サービスカテゴリ要求フォームで新しいサービスカテゴリ要求に有効なテーブル名を提案します。
カテゴリ発行済み	サービスカテゴリ要求フォームで[発行済み]を選択すると、ヘルプメッセージを表示します。
履行者を非表示にする	必要に応じて、サービスカテゴリリクエストフォームで履行者関連リストを非表示にします。
エディター メッセージ	適切な場合、フィールドのヘルプメッセージを表示します。
その他のテーブルメッセージ	選択した部門の既存のサービスカテゴリテーブルに関する情報を提供します。
状態メッセージ	フィールドのヘルプメッセージを表示します。

ビジネスルール

ビジネスルール	説明
サービス問合せ	catalog_adminロールを持たないユーザが、マネージャーまたはエディターのサービスカテゴリー内でサービスレコードを見るのを制限します。
新規サービス	新しいsc_cat_item_producer_serviceレコードが作成されたときにメッセージを表示します。
テーブル名は必須	サービスカテゴリ要求が承認前に有効なテーブル名を持つことを保証します。
履行者のロールを削除する	あるカテゴリからサービスを削除したときに、サービス履行者から関連するロールを削除します。
カテゴリ要求問合せ	catalog_admin ロールを持たないユーザを、マネージャーやエディターのサービスカテゴリーレコードを表示することを制限します。
エディターのロール	サービスカテゴリエディターから関連するロールを追加および削除します。
すべてのユーザーロールを削除	適切な時にサービスカテゴリエディターから関連するロールを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスルール	説明
カテゴリ発行済み	サービスカテゴリ要求フォームで[発行済み]チェックボックスがオンになっているときに、状態をカタログに発行済みに設定します。
空白の場合はサービス名を追加する	何も提供されていない場合は、サービス名を埋めます。
部門サービスカテゴリを追加	部門サービスサービスカタログカテゴリに新しいサービスを追加します。
デフォルトの遂行ユーザー	受託人が指定されていない場合、カテゴリマネージャーをサービスタスクの受託人とします。
抹消されたドラフトサービスの数	フィールドヘルプメッセージを生成します。
カタログカテゴリ要求認可済み	新しいサービスカテゴリを使用するために必要なコンポーネントを作成します。
マネージャーロール	カテゴリマネージャーに関連するロールを付与します。
新しいサービスの処方	新しいサービスの処方を入力して、アサイン先グループまたはユーザーを設定します。
getDepartmentUsers	部門のユーザーを返します。
項目問合せの草稿	catalog_adminロールを持たないユーザを、その者がマネージャーまたはエディターであるドラフトサービスレコードを表示することを制限します。
履行者ロールの付与	サービス実施者に関連するロールを付与します。
部門名称をスクラッチパッド	フィールドヘルプメッセージを生成します。
スクラッチパッド	フィールドヘルプメッセージを生成します。
部門の他のテーブル	フィールドヘルプメッセージを生成します。
単一カテゴリから単一カタログを設定する	新しいサービスの既定のカタログを作成します。

メール通知

サービスクリエーターの電子メール通知

名前	説明
発行されたサービスカテゴリ	カテゴリの要求が承認されたときにサービスカテゴリのマネージャーに通知します。
拒否されたサービスカテゴリ	カテゴリの要求が拒否されたときにサービスカテゴリのマネージャーに通知します。
サービスカテゴリ要求挿入済み	新しいカテゴリ要求が作成されたときにカタログアドミニストレーターに通知します。
サービスカテゴリ作成済み	カテゴリが作成されると、サービスカテゴリのマネージャーに通知します。
サービスカテゴリの発行が要求された	カテゴリの発行が要求されたときにカタログアドミニストレーターに通知します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスクリエーターの電子メール通知 (続く)

名前	説明
サービスカテゴリの要求	新しいカテゴリ要求が作成されたときに、サービスカテゴリのマネージャーに通知する。

新しいサービスカテゴリと共に作成されたコンポーネント

サービスクリエーターアプリケーションを使用して新しいサービスカテゴリを発行すると、ServiceNowシステムは、そのカテゴリのサービスのコンポーネントを作成します。

これらのコンポーネントは、サービスクリエーターアプリケーションとともにインストールされるコンポーネントとは区別されます。新しいサービスカテゴリごとに、次のコンポーネントが追加されます。

新しいサービスカテゴリで作成されたテーブル

名前	説明
<部門名>タスク[<サービスカテゴリーテーブル名>]	サービスカテゴリの要求タスクレコードを格納するテーブル。このテーブルはタスクテーブルを拡張します。このテーブルの名前は、サービスカテゴリが関連付けられている部門およびサービスカテゴリレコードのそのテーブル名フィールドによって定義します。ユーザーがこのテーブルのレコードにアクセスできるように、新しいアプリケーションメニューとモジュールが作成されます。このテーブルのレコードは、新しい番号[sys_numbers]レコードを使用して番号が付けられます。

新しいサービスカテゴリで作成されたユーザーロール

ロール	説明
<service category table name>_user	サービスカテゴリの要求レコードにアクセスするために必要なユーザーロールです。サービスカテゴリのテーブル名によりロールの名前が決まります。サービスカテゴリのマネージャー、エディター、またはサービス履行者として指定されたユーザーは、自動的にこのロールを受け取ります。このロールを持つユーザーだけがサービスカテゴリのタスクレコードを割り当てられます。ACLは、このロールを持つユーザーが関連するサービスタスクテーブルにアクセスできるように作成します。

新しいサービスカテゴリで作成された電子メール通知

名前	説明
グループにコメントされたタスク	ユーザーがコメントを追加したときにサービスタスクレコードが割り当てられたことをグループに通知します。
受託人に対してコメントされたタスク	ユーザーがコメントを追加したときに割り当てられるサービスタスクレコードをユーザーに通知します。
グループに対して閉じられたタスク	レコードが閉じられたときにサービスタスクレコードが割り当てられたことをグループに通知します。
受託人のために注意されたタスク	ユーザーが作業メモを追加したときに割り当てられたサービスタスクレコードをユーザーに通知します。
グループに割り当てられたタスク	レコードがそのグループに割り当てられたときに、サービスタスクレコードが割り当てられていることをグループに通知します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいサービスカテゴリで作成された電子メール通知 (続く)

名前	説明
受託人に割り当てられたタスク	レコードがそのユーザーに割り当てられたときに割り当てられるサービスタスクレコードをユーザーに通知します。
グループに対して注意されたタスク	ユーザーが作業メモを追加したときにサービスタスクレコードが割り当てられたことをグループに通知します。
受託人に閉じられたタスク	レコードが閉じられたときに割り当てられたサービスタスクレコードをユーザーに通知します。
ユーザー用に開かれたタスク	レコードが作成されたときにサービスタスクレコードを開いたことをユーザーに通知します。
ユーザーに対して閉じられたタスク	レコードが閉じられたときにサービスタスクレコードを開いたことをユーザーに通知します。
ユーザー宛てコメントされたタスク	ユーザーがコメントを追加したときにサービスタスクレコードを開いたことをユーザーに通知します。

新しいサービスカテゴリで作成されたフォーム

名前	説明
<部門名>タスク	サービスカテゴリの要求タスクレコードを表示するためのフォーム。デフォルトでは、このフォームはサービスに関する質問と要求ユーザーが提供する回答を表示するためのフォーマッタを含むレイアウトを用います。

サービスカタログカテゴリー

名前	説明
<サービスカテゴリー名>	サービスカテゴリ内で作成された新しいサービスのデフォルトのサービスカタログカテゴリです。

サービスクリエーターのロール

サービスクリエーターアプリケーションは、特定のロールを使用します。

ユーザーごとのサブスクリプション管理の詳細については、「サブスクリプション管理 でのユーザーごとのサブスクリプションの管理」を参照し、アカウント担当者にお問い合わせください。

ロール

ロール名 [名前]	**Description** (説明)
`[service_category_user]` `[service_category_table_name_user]`	サービスカテゴリの要求レコードにアクセスします。サービスカテゴリのテーブル名により、ロールの名前が決まります。サービスカテゴリのマネージャー、エディター、またはサービス履行者として指定されたユーザーは、自動的にこのロールを受け取ります。
カタログアドミニストレーター `[catalog_admin]`	サービスカテゴリとサービスを作成、編集、発行し、テンプレート通知などの通知を作成および編集します。カタログアドミニストレーターは、主にサービスカテゴリ要求の承認を担当します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロール (続く)

ロール名 [名前]	Description (説明)
カタログマネージャー `[catalog_manager]`	サービスを作成、編集、発行し、エディターとサービス履行者を指定します。サービスカテゴリのアドミニストレーターとして指定されたユーザーは、このロールを自動的に受け取ります。
カタログ エディター `[catalog_editor]`	サービスを作成および編集します。サービスカテゴリのエディターとして指定されたユーザーは、このロールを自動的に受け取ります。

サービスを管理する

部門アドミニストレーターは、サービスクリエーターを使用して、新しいサービスカテゴリを要求し、そのカテゴリのエディターとサービス提供者を指定し、サービスを作成し発行できます。

このタスクについて

エディターはサービスを作成して変更します。サービス履行者は、サービス要求から生成されたタスクを完了します。

サービスカテゴリの要求には、通常、要求を行う部門マネージャーであるサービスカテゴリマネージャーを割り当てる必要があります。要求が提出された後、カタログアドミニストレーターはサービスカテゴリの発行要求を承認します。カテゴリが発行されると、サービスカテゴリマネージャーはサービスカテゴリエディターおよびサービス履行者を割り当て、サービスカタログで提供するサービスを作成できます。

新しいサービスカテゴリを要求するには：

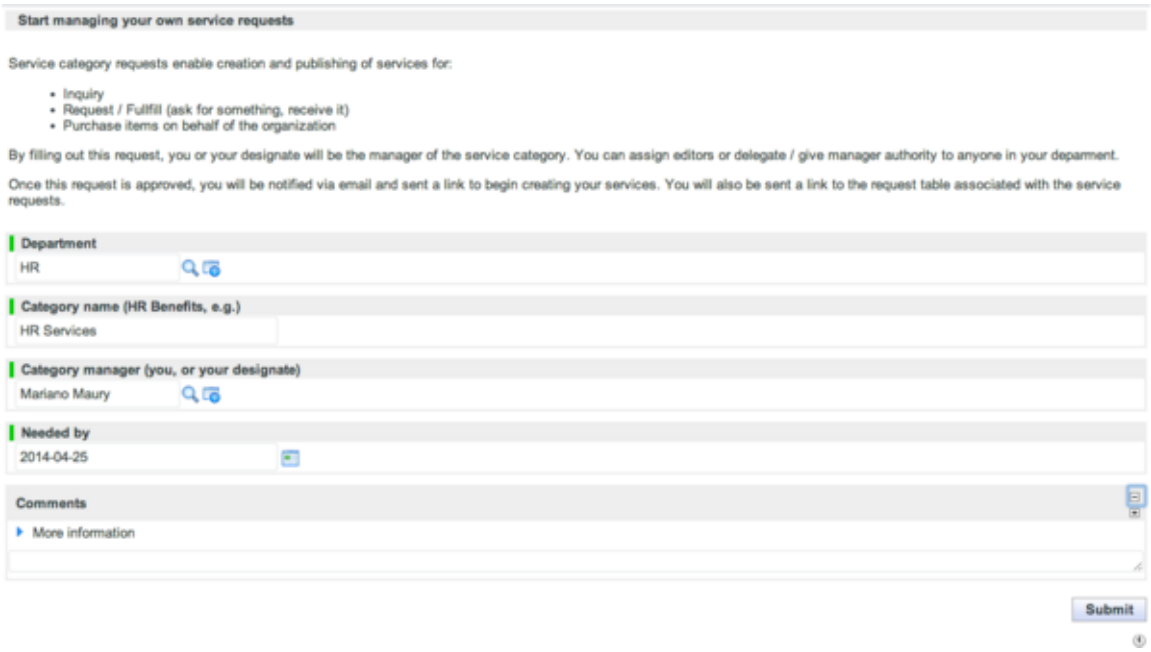
手順

1. [すべて] > [セルフサービス] > [サービスカタログ] に移動します。
2. 部門サービスカテゴリをを選択します。

   部門サービスカテゴリはサービスクリエーターが利用できるデモデータの一部です。このカテゴリが存在しない場合、カタログアドミニストレーターはサービスカテゴリリクエストカタログアイテムを既存のカテゴリに追加します。

3. サービスカテゴリリクエスト項目を選択します。
4. 必要に応じてデフォルト値を変更します(テーブルを参照ください)。
5. [送信] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



サービスの管理

フィールド	説明
部門	このカテゴリ要求する部門。デフォルトでは、この値は現ユーザーの部門です。この値を変更すると、種別名そしてカテゴリマネージャーの値も変更します。
カテゴリ名	新しいサービスカテゴリの名前。デフォルトでは、ServiceNowは部門値に基づいた名前を用います。
カテゴリマネージャー	新しいサービスカテゴリに指定されたマネージャー。デフォルトでは、ServiceNowは選択した部門のマネージャーを使用します。
要求者：	新しいサービスカテゴリが利用可能になる日付。
コメント	サービスカテゴリを説明する追加のコメント。この情報は、サービスカテゴリフォームのレコード入力として表示されます。

設計サービス

サービスクリエーターは、サービスを設計するためのインターフェイスを含みます。

このインターフェイスを使用すると、サービスカテゴリマネージャーとエディターは、サービスの作成と発行、およびサービスの詳細の編集を行えます。

すべてのサービスは、サービスカテゴリに属している必要があります。部門またはグループに既存のサービスカテゴリがない場合は、そのカテゴリのサービスを設計する前に新しいサービスカテゴリを作成する必要があります。

通知テンプレートを追加

テンプレート通知を追加します。

手順

1. [すべて] > [サービスクリエーター] > [通知テンプレート] に移動します。
2. [新規] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 提出時フィールドで、イベントが起動を選択します。
4. イベント名フィールドで、 **ccr**テンプレート を選択します。
5. その他の通知の詳細を入力します。
6. [送信] をクリックします。

新しいテンプレート通知によって、その時点以降に発行されたすべてのサービスカテゴリの通知が作成される。

通知設定

すべてのサービスカテゴリは、サービス要求を満たすタスクが割り当てられたときの通知など、一連の関連する通知から始まります。

サービスクリエーター > テンプレート通知モジュールで定義された通知は、ユーザーが新しいサービスカテゴリを作成するときにコピーされます。

テンプレート通知は、新しいサービスカテゴリが承認または拒否されたときの通知など、サービスクリエーター アプリケーション自体の通知とは区別されます。サービスクリエーター アプリケーションの通知は、[サービスクリエーター] > [通知] で定義されます。

システムアドミニストレーターは、テンプレート通知を追加および削除できます。

カテゴリとテーブルの作成

要求が提出された後、カタログアドミニストレーターは要求を承認または拒否できます。

このタスクについて

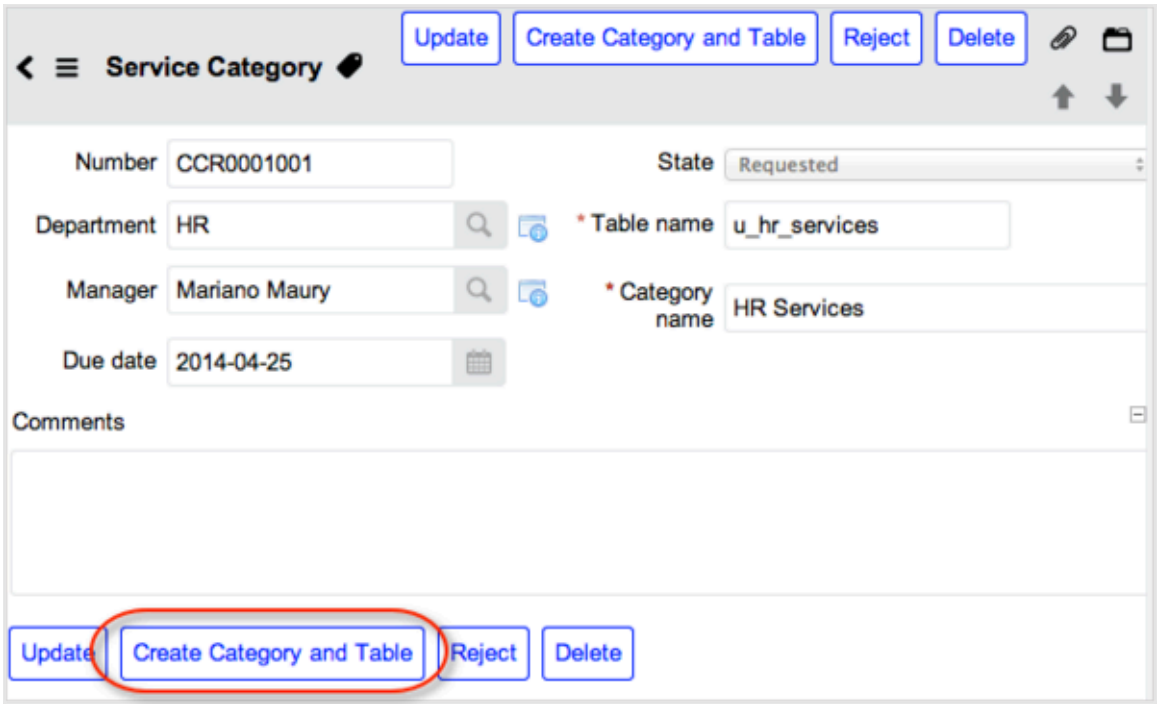
要求を承認すると、サービスカテゴリ用の新しいテーブルが作成され、カテゴリ名をアプリケーションラベルとして用い、アプリケーションナビゲーターにアプリケーションが追加され、そしてサービスカテゴリの 状態をカタログに発行と設定します。

手順

1. [すべて] > [サービスクリエーター] > [カテゴリ要求] に移動します。
2. *State* の値が *Requested* のレコードを開きます。
3. 要求されたサービスカテゴリを確認します。ServiceNow は *Department* に基づいて提案された *Table name* を提供します。
   指定したカテゴリ名またはテーブル名を持つサービスカテゴリが存在する場合は、そのフィールドの下にメッセージが表示されます。これらのフィールドには一意の値を使用します。
4. カテゴリとテーブルを作成するをクリックして要求を承認するまたは拒否します。

インスタンスに対して通知が有効になっている場合、サービスカテゴリ *Manager* に対して承認または却下が通知されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



サービスカテゴリを発行した後、新しいテーブルにアクセスするには、アプリケーションナビゲーターで新しいアプリケーションに移動するか、サービスカテゴリフォームの [タスクリストを表示] 関連リンクをクリックします。

関連情報

サービスを管理する

テンプレート通知を削除する

テンプレート通知を削除すると、新しいサービスカテゴリで通知が使えなくなりますが、すでに作成されたサービスカテゴリの通知は削除されません。

手順

1. [すべて] > [サービスクリエーター] > [通知テンプレート] に移動します。
2. 通知レコードを選択します。
3. [削除] をクリックします。
4. **OK**をクリックして確認する。

エディターを指定

エディターは、サービスカテゴリ内のサービスを作成および変更できます。

このタスクについて

エディターは自動的にcatalog_editorロールを受け取ります。

サービスカテゴリマネージャーは、発行されたサービスカテゴリのエディターを指定できます。

手順

1. [すべて] > [サービスクリエーター] > [自分のサービスカテゴリ] に移動します。
2. *State* の値が *Published to Catalog* のレコードを選択します。

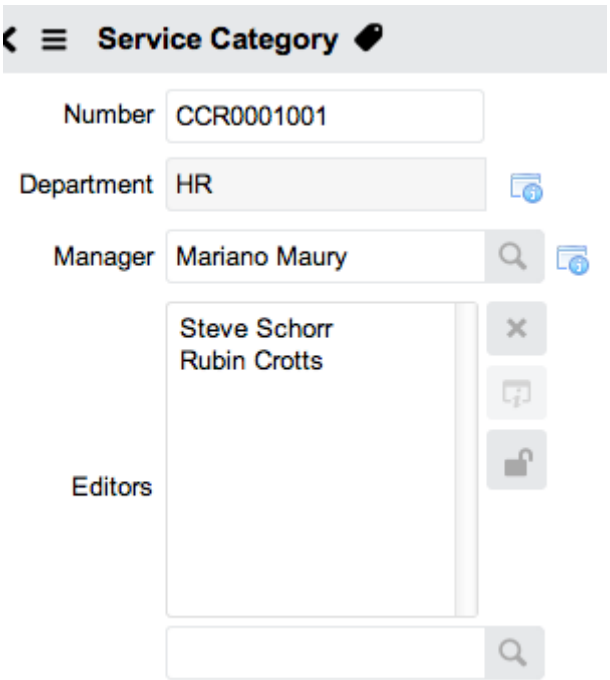
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. *Editors* フィールドの横にあるロックアイコンをクリックします。
4. 参照ルックアップアイコンを使用してエディターとして指定するユーザーを選択します。

   適切な部門のユーザーのみが選択できます。

5. すべてのエディターを追加すると、更新をクリックします。

   エディターはカタログ エディターのロールを受け取ります。



サービス履行者を指定する

サービス履行者は、サービスカテゴリに対して提出されたサービスリクエストを完了できます。

このタスクについて

サービス提供者は、割り当てられたサービスカテゴリのアプリケーションにアクセスできますが、サービスクリエーターアプリケーションにはアクセスできません。

サービスカテゴリフォームのサービスの遂行関連リストは、そのサービスカテゴリの履行者として割り当てられたすべてのユーザーが表示されます。サービスカテゴリマネージャーは、サービスカテゴリのサービス履行者を指定できます。

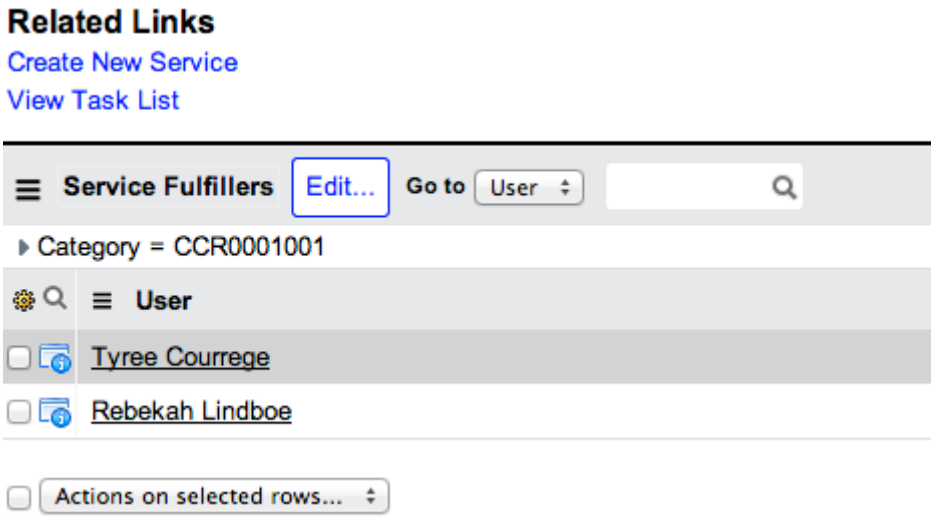
手順

1. [すべて] > [サービスクリエーター] > [自分のサービスカテゴリ] に移動します。
2. *State* が *Published to Catalog* のサービスカテゴリを選択します。
3. *Service Fulfillers* 関連リストで、[編集] をクリックします。
4. スラッシュバケットを使用して、適切なサービス履行者を追加します。

   適切な部門のユーザーのみが選択できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [保存] をクリックします。



サービス要求を履行する

エンドユーザーは、サービスカタログを通じて発行されたサービスを要求できます。

このタスクについて

ユーザーがサービスを要求すると、ServiceNowシステムは、そのサービスカテゴリの新しいタスクを作成します。サービス履行者は、要求を遂行するためにこれらのタスクを完了します。

新しい要求タスクは、*Fulfillment Group* または *Fulfillment User* サービス設定で指定されたグループまたはユーザーに自動的にアサインされます。遂行グループまたはユーザーが設定されていない場合、新しいレコードがサービスカテゴリマネージャーに割り当てられます。

特定のサービスに関する質問と要求元ユーザーが入力した回答は、実行タスクレコードの *Variables* セクションに表示されます。

手順

1. [すべて] > **[<自分のサービスアプリケーション>]** > [自分にアサイン済み] に移動します。
2. レコードを選択します。
3. 提示された情報を確認します。
4. 部門の方針と手順に従ってタスクを完了します。
5. サービス要求レコードの *State* を *Closed Complete* に設定します。
6. [更新] をクリックします。

サービスを発行する

サービスは、サービスカタログに表示されるように発行する必要があります。最初に作成されると、サービスカテゴリのドラフトサービス関連リストに新しいサービスが表示されます。発行されたサービスは、サービスカテゴリのサービス関連リストに表示されます。サービスカテゴリのマネージャーは、サービスのドラフトを発行できます。

手順

1. [すべて] > [サービスクリエーター] > [自分のサービスカテゴリ] に移動します。
2. ステータスが *Published to Catalog* のサービスカテゴリを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. サービスカテゴリフォームで、ドラフトサービス関連リストにあるサービスを右クリックします。
4. [公開] を選択します。

クラシック Workflow

ワークフローは、プラットフォーム全体で複数ステップの処理を自動化するためのドラッグアンドドロップインターフェイスを提供します。各ワークフローは、一連のアクティビティ (レコードの生成、ユーザーへの承認待ちの通知、またはスクリプトの実行など) で構成されています。グラフィカルなワークフローエディタは、ワークフローをフローチャートのように視覚的に表します。アクティビティはそのアクティビティに関する情報でラベル付けされたボックスとして表示され、1 つのアクティビティから次のアクティビティへの移行はボックスを結ぶ線として表示されます。

注: New York リリースの時点で Workflow は従来製品です。新しいプロセスの自動化には フローデザイナー を使用します。多くの組織が本番環境でワークフローを用意しているため、この Workflow ドキュメントを使用して既存のワークフローを操作する方法を学習してください。

探索

- Yokohama
- 更新セットを使用したワークフローの移動
- ワークフロー 固定しているアクティビティ
- ドメインセパレーションと ワークフロー
- でのワークフロートレーニングServiceNow® 開発者サイト

設定

- ワークフローの概要

管理

- ワークフロー ロール
- ワークフロー コンテキストの管理

使用

- ワークフローエディター
- ワークフローの作成
- ワークフローアクティビティ

開発

- 開発者トレーニング
- 開発者ドキュメント
- Workflow API 参照
- ワークフローでの変数の使用

トラブルシューティングとヘルプ

- 開発者コミュニティで質問したり質問に回答したりする
- ワークフローのトラブルシューティング

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

(続く)

- Known Error Portal で既知のエラー記事を検索
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート

ワークフローの概要

グラフィカルなワークフローエディターは、プラットフォーム全体で複数ステップのプロセスを自動化するためのドラッグアンドドロップ インターフェイスを提供します。

ワークフローの構成要素

ワークフローは、次の要素で構成されます。

プロパティ
: ワークフローの名前、ワークフローの動作対象となるレコードを含むテーブル、およびワークフローが実行される条件などの構成設定を指定します。

アクティビティ
: ワークフローが実行する一連の操作 (レコードの生成、承認待ちのユーザーへの Notify、スクリプトの実行など) を指定します。

移行
: アクティビティを実行する条件を指定します。

終了条件
: 移行を実行する条件を指定します。

コンテキスト
: ワークフローコンテキストレコードでの特定のワークフロー実行に関するランタイム情報の履歴を格納します。

バージョン
: ワークフローバージョンレコードでの特定のワークフローに関する設計情報の履歴を格納します。

ワークフローのライフサイクル

ワークフローは、トリガーイベントが発生すると開始されます。一般的なトリガーには、特定のテーブルに挿入されるレコード、指定された値に設定されるテーブル内の特定のフィールドなどが含まれます。たとえば、ユーザーがカタログから注文するアイテムの承認を要求するたびに実行されるワー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クフローを作成することができます。また、定期的に実行されるようにワークフローをスケジュールするすることも、ビジネスルールなどのスクリプトからワークフローを呼び出すこともできます。

アクティビティが完了すると、ワークフローは次のアクティビティに移行します。アクティビティは、その結果に応じて、さまざまなアクティビティへの複数の移行が行われる場合があります。上記の例を続けると、ユーザーの要求が承認された場合は、アクティビティはアイテムを注文するように誰かに通知するアクティビティに移行する可能性があります。ユーザーの要求が拒否された場合は、アクティビティは要求が拒否されたことをユーザーに通知するアクティビティに移行する可能性があります。

グラフィカルなワークフローエディタは、ワークフローをフローチャートのように視覚的に表します。アクティビティはそのアクティビティに関する情報でラベル付けされたボックスとして表示され、1 つのアクティビティから次のアクティビティへの移行はボックスを結ぶ線として表示されます。

ワークフロー内の各ステップ：

1. アクティビティが処理され、そのアクティビティによって定義されたアクションが行われます。
2. アクティビティによるアクションの完了時に、ワークフローでアクティビティの条件がチェックされます。
3. 一致する条件ごとに、ワークフローは次のアクティビティへ移行します。

ワークフローのアクティビティがなくなると、ワークフローは完了です。ワークフローコンテキストは、アクティビティと移行の実行履歴を格納します。ワークフローバージョンは、実行に利用できるアクティビティ条件、移行条件、および終了条件の設計履歴を格納します。

ワークフローのプロパティ

ワークフローのプロパティは、ワークフローの実行タイミングと、動作対象のレコードを指定します。ワークフローのプロパティの詳細については、「ワークフローのプロパティ」を参照してください。

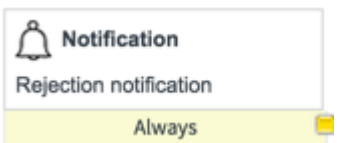
ワークフローアクティビティ

ワークフロー アクティビティには、ワークフローによって処理される指示が含まれます。

アクティビティには、スクリプトの実行、レコードの操作、設定された時間にわたる待機、イベントのログ記録などがあります。ワークフローの条件によって、アクティビティが実行されるかどうかが決まります。アクティビティは追加、削除、または再配置できます。アクティビティ間で移行を引き出すことができます。

これは、通知をトリガーするアクティビティです。

アクティビティの例



ワークフローは、アクティビティを開始するユーザーセッションとしてアクティビティを実行します。レコード操作から開始されたワークフローは、そのレコード操作を実行したユーザーセッションとしてアクティビティを実行します。スケジュールから開始されたワークフロー、またはタイマーから再開されたワークフローは、システムユーザーとしてアクティビティを実行します。スクリプトコールから開始されたワークフローは、そのスクリプトを開始したユーザーセッションとしてアクティビティを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

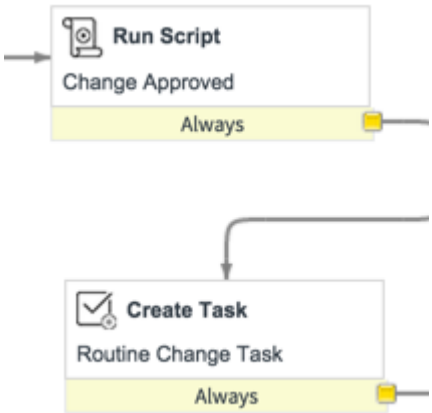
利用可能なアクティビティとその動作の詳細については、「ワークフローアクティビティ」を参照してください。

移行

ワークフロー条件が評価された後、ワークフローの移行では、ワークフロー条件に一致した場合に実行するアクティビティが決定されます。

これは、[承認された変更] スクリプトから [タスクを変更] アクティビティへと常につながる移行です。

移行の例



終了条件

ワークフロー アクティビティが実行された後、ワークフロー条件が評価され、どの移行が有効になるかが判断されます。

条件によって、承認または拒否される変更に基づく動作が決定されます。

終了条件の例

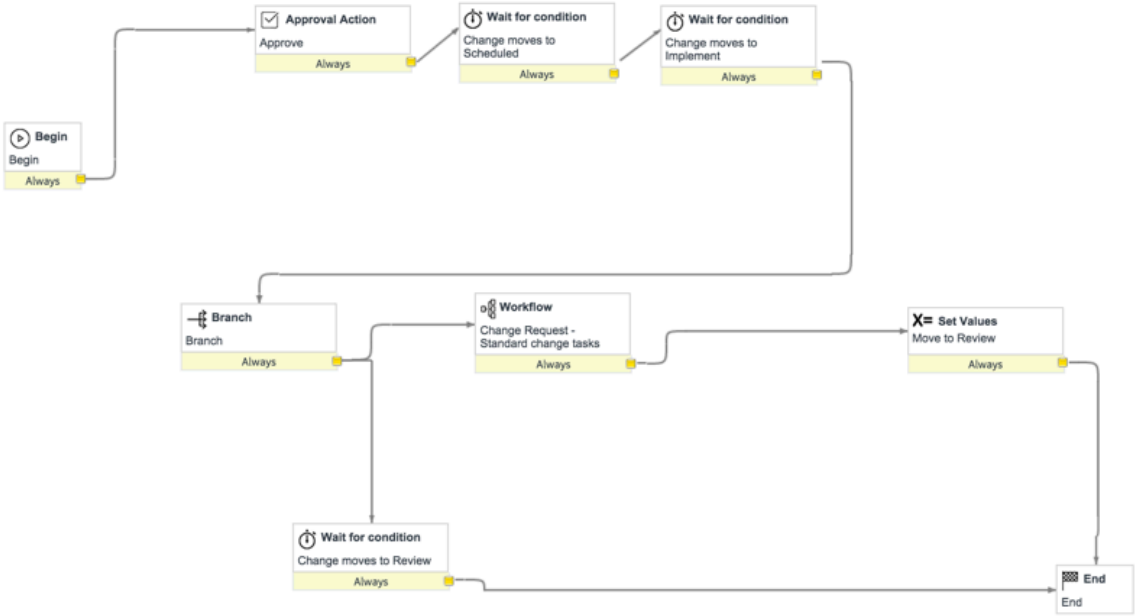
ワークフローの例

ワークフローの編集時、または未公開のワークフローの実行時は、ワークフローをチェックアウトした人だけが変更を表示できます。

ワークフローが公開されると、他のユーザーがワークフローを利用できるようになります。ワークフローは、ワークフローエディターで定義されているとおりにプロセス内を進みます。ワークフロー全体が 1 つの画面で表されます。たとえば、これは標準的な変更ワークフローです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

変更ワークフローの例



ワークフローエディター

ワークフローエディターは、アクティビティを配置および接続してプロセスを駆動することによって、ワークフローを作成および変更するためのインターフェイスです。

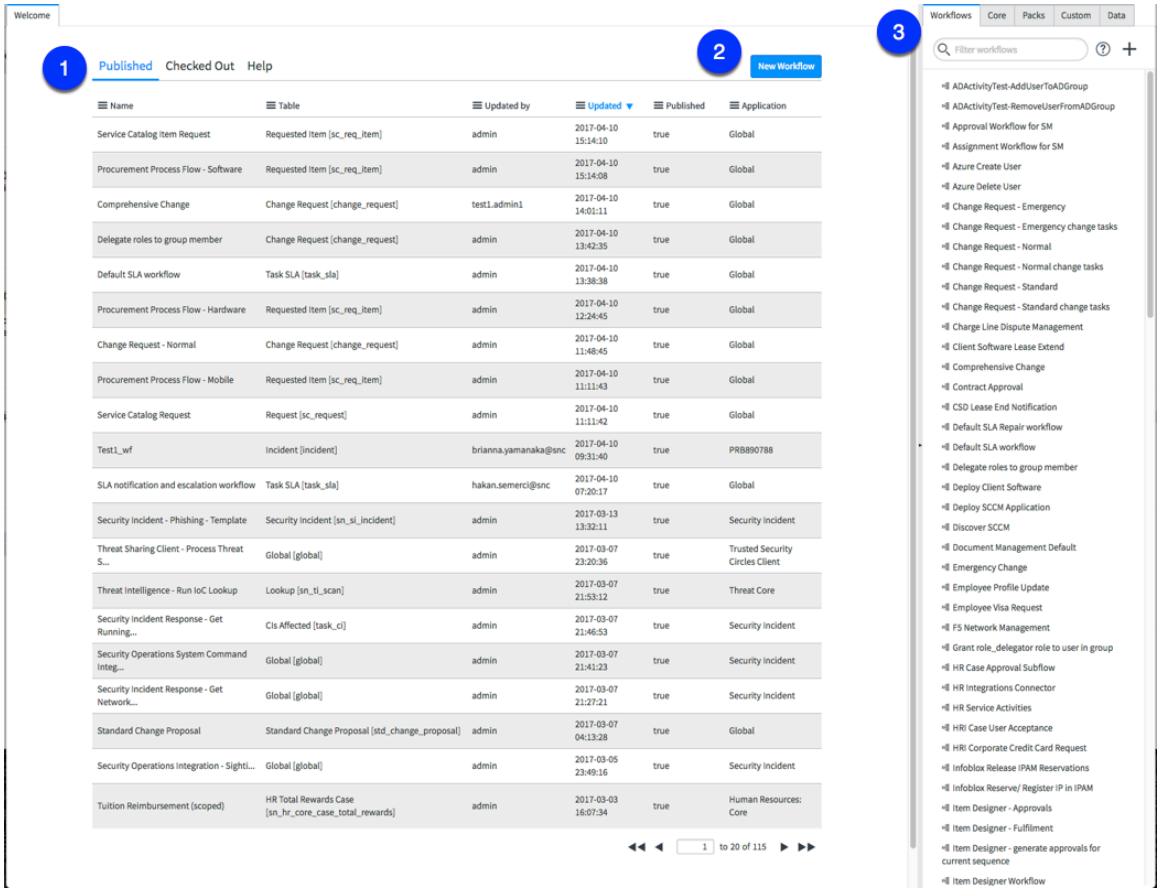
同じ画面で複数のワークフローを管理したり、カスタム ワークフロー アクティビティを作成したり、既存のアクティビティをデータ ソースとして使用したりすることができます。workflow_creator ロールを持つユーザーは、ワークフローを作成できます。workflow_admin ロールを持つユーザーは、ワークフローを作成、変更、削除、および公開できます。

ワークフローエディターを開くには、[ワークフロー] > [ワークフローエディター]に移動します 。エディタの使用方法については、「ワークフローの作成」を参照してください。

ようこそ画面

エディタの [ようこそ] ページが開き、有効な公開済みワークフローのリストが表示されます。このタブから、既存のワークフローを開いたり、新しいワークフローを作成したり、ワークフローに関連するヘルプ リソースを開いたりできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



1 一覧表示フィルター

公開済み：公開済みのワークフローの一覧を表示する場合にクリックします

チェックアウト済み ：現在のユーザーにチェックアウトされたワークフローの一覧を表示する場合にクリックします

ヘルプ ：ワークフローのためのヘルプ リソースへのリンクを表示する場合にクリックします

2 [新規ワークフロー] ボタン

新規ワークフローを作成する場合にクリックします

3 パレット タブ

ワークフロー：サブフローとして使用できるワークフロー アクティビティとワークフロー

コア：選択したワークフローに適した利用可能なワークフローアクティビティコンテンツには、ベースシステムによって指定されたアクティビティとオーケストレーションで購入したアクティビティが含まれます。

パック：ベンダーとスコープによって整理された ServiceNow® アプリ ストアからダウンロードしたオーケストレーション アクティビティパックスコープされるカスタムアクティビティとワークフローも、パックとして表示されます。オーケストレーションプラグインがインストールされている場合のみ表示されます。

カスタム：利用可能なオーケストレーションカスタムアクティビティオーケストレーションプラグインがインストールされている場合のみ表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データ：データを出力する現在のワークフローのアクティビティこれらのアクティビティを他のアクティビティのデータ ソースとして使用できます。オーケストレーション プラグインがインストールされている場合のみ表示されます。

注: ワークフローのようこそページがこの例のように表示されない場合は、Yokohama へアップグレードする前にワークフローのようこそページをカスタマイズしている可能性があります。ワークフローのようこそページを最新バージョンに更新するには、UI ページ を編集します。

[システム **UI**] > **[UI** ページ] > [ワークフローエディター]に移動します。[ようこそ] ページが表示されます。workflow_editor_welcome の UI ページレコードで、[バージョン] 関連リストにスクロールします。Yokohama へのアップグレードに対応するバージョンの行を選択し、右クリックして [このバージョンに戻す] を選択します。

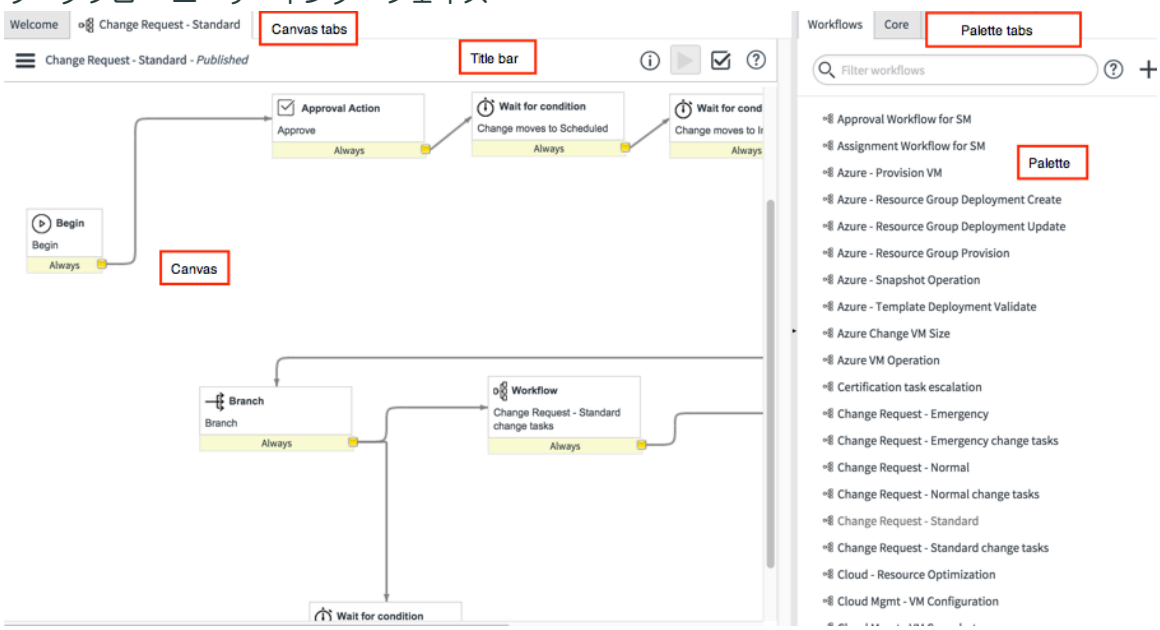
ワークフローキャンバス

新しいワークフローを開いたり作成したりすると、ワークフロー キャンバスが表示されます。キャンバスでは、キャンバス自体、キャンバス タブ、タイトル バー、パレット、およびパレット タブなど、いくつかの異なる要素を通じてワークフローエディターを操作します。

取得キャンバスでは、アクティビティを追加したり、チェックアウト済みのワークフローの移行を設定したりします。アクティビティをパレットからキャンバス内のワークフローにドラッグして追加します。詳細については、「ワークフローの作成」を参照してください。

- キャンバス タブ：編集または作成中のワークフローにアクセスするためのタブが含まれます。
- タイトル バー：ワークフロー名とステータスを表示します。ワークフローの構成、テスト、検証のためのメニューとコントロールを提供します。
- キャンバス：新しいワークフローを作成したり既存のワークフローを編集したりするための作業面を提供します。
- パレット タブ：編集または作成中のアクティビティにアクセスするためのタブが含まれます。
- パレット：利用可能なすべてのワークフロー アクティビティと、サブフローとして使用できる既存のワークフローが含まれます。アクティビティやサブフローをキャンバスにドラッグして、新しいワークフローを作成したり既存のワークフローを編集したりできます。

ワークフロー ユーザーインターフェイス



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフローパレット

デフォルトのワークフローパレットには、サブフローとして使用できるワークフロー アクティビティと既存のワークフローが含まれています。

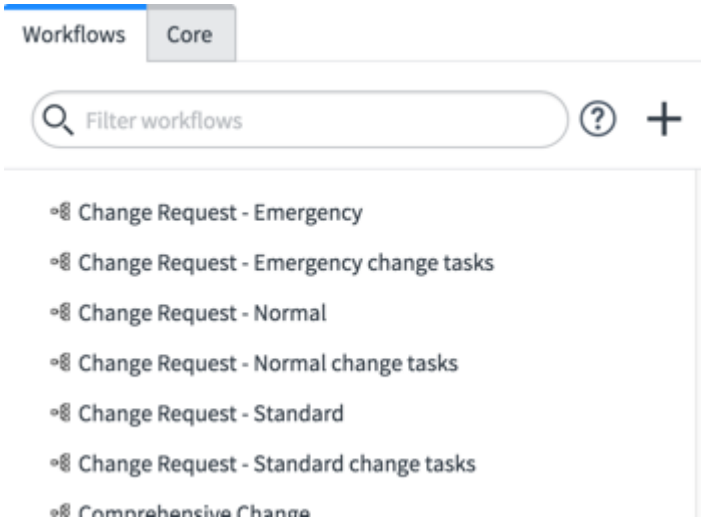
基本的なワークフローパレットには、次のタブが含まれます。

- ワークフロー：既存のワークフローを表示し、新しいワークフローを作成するためのコントロールを提供します。
- コア：すべてのシステムおよびオーケストレーションアクティビティ (オーケストレーションがアクティブ化されている場合) で利用可能なベースラインワークフローアクティビティを表示します。

ワークフロー タブ

[ワークフロー] タブには、他のワークフローでサブフローとして編集または使用できる既存のワークフローが一覧表示されます。ワークフローをダブルクリックしてキャンバス内で開きます。ワークフローをサブフローとして追加するには、ワークフローをキャンバス内の別のワークフローにドラッグします。**[+]** アイコンをクリックして新しいワークフローを作成します。

パレットのワークフロー タブ

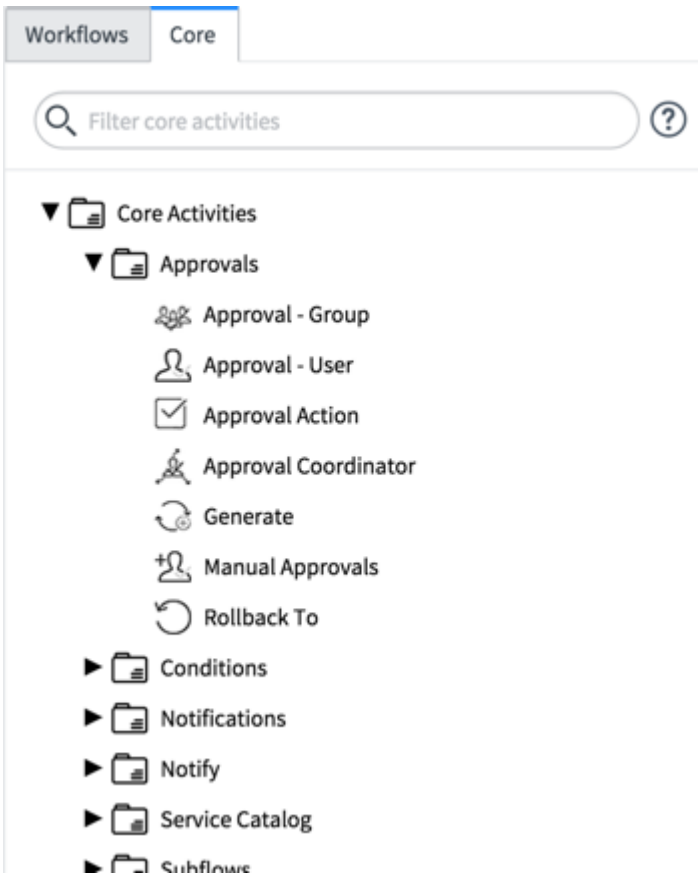


コア タブ

[コア] タブには、オーケストレーションで購入したすべてのワークフローおよびアクティビティに対して、デフォルトで利用可能な標準アクティビティがカテゴリ別にまとめられています。矢印アイコンをクリックすると、各カテゴリのアクティビティリストが展開されるか折りたたまれます。ワークフローにアクティビティを追加するには、そのアクティビティをキャンバスにドラッグします。詳細については、「ワークフローへアクティビティを追加する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

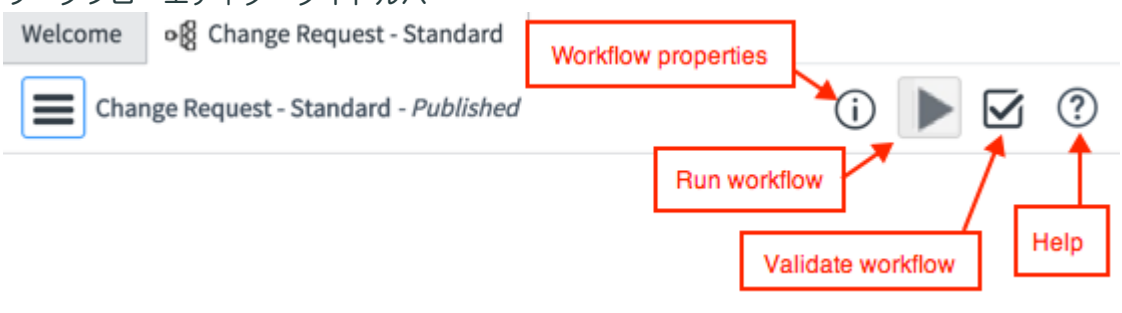
パレットのコアタブ



ワークフローエディタータイトルバー

ワークフローをキャンバスで開くと、タイトル バーにワークフローのタイトルとワークフローのステータスが斜体で表示されます。たとえば、[チェックアウト担当者 <名前>] や [公開済み] などです。

ワークフローエディタータイトルバー



タイトル バーの右側にあるコントロールは、ワークフローを管理します。

- ワークフローのプロパティ ⓘ：現在のワークフローのプロパティフォームを開きます。
- 開始 ▶：ワークフローを実行します。このコントロールは、すべてのアプリケーション スコープからアクセス可能なグローバル テーブルで実行されているワークフローでのみ利用可能です。他のテーブルにあるワークフローをテストするには、そのテーブルにワークフローの条件を満たすレコードを挿入します。

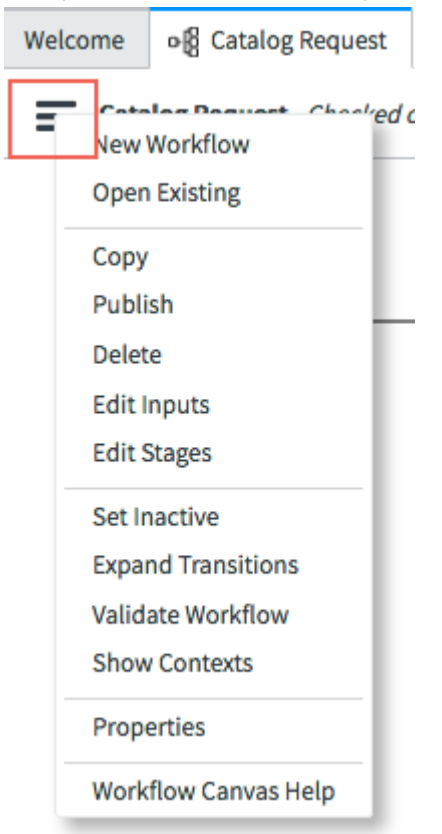
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 検証 ：公開前のワークフローをテストします。検証では、ワークフローの公開を妨げたり、ワークフローの失敗をもたらしたりする可能性のある問題を検出します。詳細については、「ワークフローの検証」を参照してください。
- ヘルプ ：ワークフローの作成に役立つドキュメントが開きます。

ワークフロー メニュー

タイトル バーのメニュー アイコンをクリックして、ワークフローを設定するための追加オプションを表示します。

ワークフロー メニューへのアクセス



次のメニュー オプションが利用可能です。

ワークフロー メニュー オプション

オプション	説明
新規ワークフロー	新しいワークフローを作成します。
既存を開く	既存の別のワークフローを開きます。
コピー	ワークフローの複製を作成します。コピーに別の名前を付けます。
公開	パーソナル ワークフロー バージョンを公開して、現在公開されているワークフロー バージョンを上書きします。このオプションは、チェックアウト済みのワークフローでのみ利用可能です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロー メニュー オプション (続く)

オプション	説明
チェックアウト	ワークフローの個人用バージョンを作成し、編集することができます。このオプションは、公開済みワークフローでのみ利用可能です。
削除	ワークフローを削除します。関連付けられたコンテキストを持つワークフローは削除できません。
無効に設定	ワークフローを無効化して使用できないようにします。
移行を展開	アクティビティ条件から離れるときに重複しないようにトランジションを再取得します。
ワークフローを開始する	現在のワークフローのテスト実行を開始します。
ワークフローを検証	公開前にワークフローで検証テストを実行します。この検証を使用して、ワークフローの公開を妨げたり、ワークフローの失敗をもたらしたりする可能性のある問題を検出します。詳細については、「ワークフローでの作業」を参照してください。
移行を折りたたむ	アクティビティ条件を離れるときにトランジションが重複するようにトランジションを再取得します。
コンテンツを表示	現在のワークフローのすべてのコンテキストを表示します。このオプションを使用して、ワークフローのトラブルシューティングを行うことができます。
プロパティ	ワークフローの属性を定義するワークフローのプロパティフォームを開きます。
入力の編集	ワークフローがサブフローとして使用されたときに受け入れられる変数のワークフロー入力リストを開きます。詳細については、「ワークフローからサブフローに変数を渡します」を参照してください。
ステージの編集	ワークフロー ステージ リストを開きます。詳細については、「ワークフローステージ」を参照してください。Type = Workflow の列を持つ表の場合。

ワークフローエディターのキーボードナビゲーション

このプラットフォームは、ウェブコンテンツアクセスアクセシビリティガイドライン (WCAG) 2.0 レベル A に対応し、障害のあるユーザーがインターフェイスにアクセスできるようにするアクセシビリティ機能が含まれています。

これらの機能により、プラットフォーム機能にアクセスする際のユーザーエクスペリエンスが スクリーンリーダーとキーボードナビゲーション アクセシビリティ機能の使用 (Using accessibility features)によって向上します。一般的に、次の一連の標準的なキーボードナビゲーション機能を使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- **[Tab]** を押して、あらかじめ定義された順序で主要なグルーピング間を移動します。これには、通常、モジュール内の標準インターフェイス コントロール (フィールドとリスト) 間、またはタブ内のレコード間の移動が含まれます。

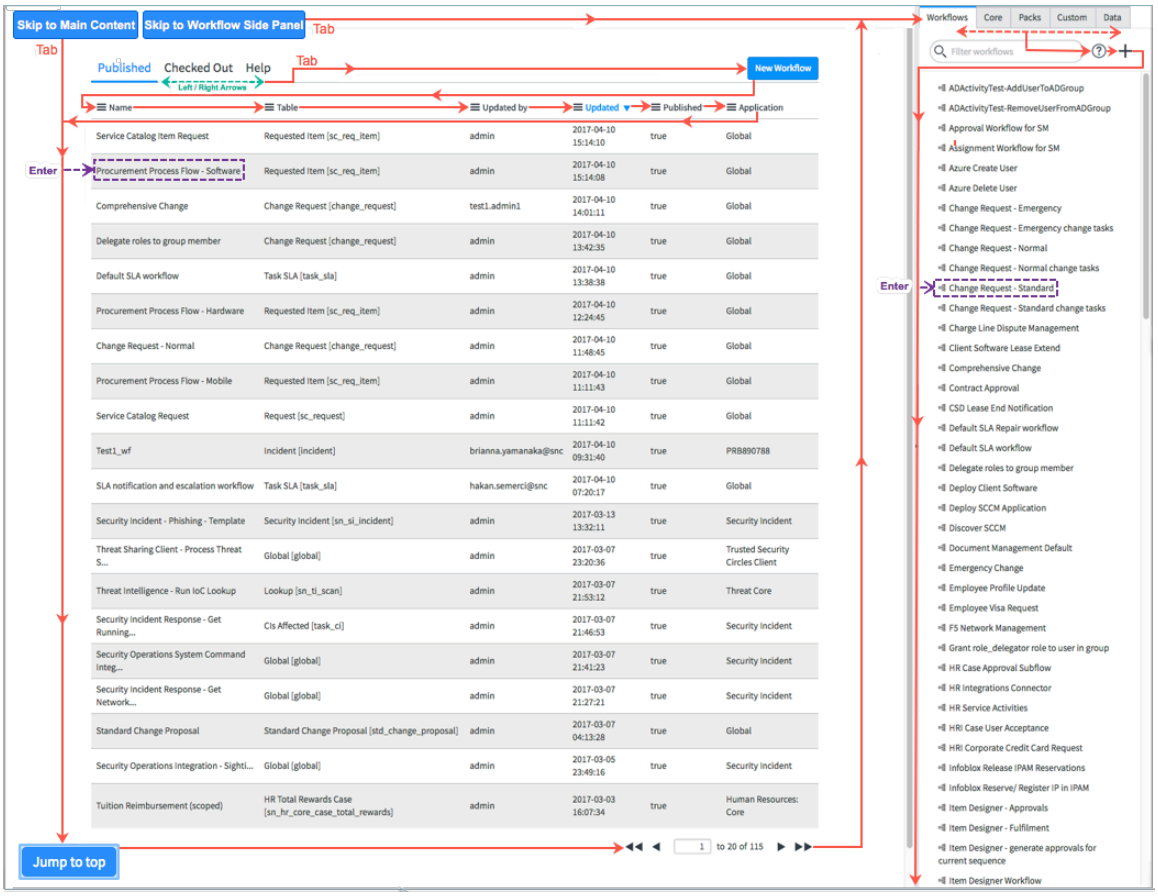
  シフトタブを押すと、あらかじめ定義された順序で逆方向に移動します。

- 矢印キー (左、右、上、下) を使用して、グループ内の個々の要素間を移動します。これには、通常、タブ間の移動、または特定のコントロール内の利用可能な選択間 (たとえば、リスト内) の移動が含まれます。
- **[Enter]** を押して、コントロールまたはタブを選択するか、コントロール内にテキストを入力します。

ワークフローエディターは独自の方法でビルドされています。一連のメイン (左) パネル タブ、一連のサイド (右) パネル タブ、およびワークフローの作成または編集用の取得キャンバスが含まれています。そのため、独自のキーボード アクセシビリティ機能とコマンドが用意されています。

ようこそページのキーボード コマンド

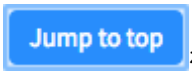
キーボード コマンドを使用して、ワークフローエディターの [ようこそ] ページ内で移動および操作します。



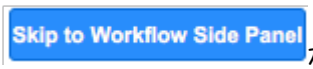
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクまたはアクション	キーボード コマンド
メイン コンテンツ (左) パネルに移動しワークフローを選択	1. メニューからワークフローエディターにアクセスした後、**[Tab]** を押します。 Skip to Main Content が左上隅に表示されます。 2. **[Enter]** を押して、[公開済み] タブに表示される最初のレコードにカーソルを置きます。 3. **[Tab]** を押して、ワークフロー レコードリスト内を下に移動します。 **[Enter]** を押して、ワークフロー取得キャンバスでワークフロー レコードを選択して開きます。
メイン コンテンツ パネルでチェックアウト済みのワークフローまたはヘルプ機能を選択	1. メニューからワークフローエディターにアクセスした後、[公開済み] タブが強調表示されるまで **[Tab]** を押します。 注: Skip to Main Content や Skip to Workflow Side Panel を選択しないでください。 2. 右矢印キーまたは左矢印キーを押して、 [公開済み]、[チェックアウト済み]、または [ヘルプ] タブ間を移動します。 3. **[Tab]** を押して、列間を横に移動し、チェックアウト済みワークフローレコードまたはヘルプ選択のリスト内を下に移動します。 **[Enter]** を押して、ワークフロー取得キャンバスでチェックアウト済みワークフローレコードを選択して開くか、ヘルプ選択 (ワークやオーケストレーションのビデオ、ドキュメント、コミュニティのディスカッション、ナレッジベース、またはライブフィード) を開きます。
ワークフローの作成	1. メニューからワークフローエディターにアクセスした後、 New Workflow が強調表示されるまで **[Tab]** を押します。 2. **[Enter]** を押して、[新規ワークフロー] を開きます。
トップにジャンプ	メイン パネルのタブに表示されたレコードをタブで移動した後 (たとえば、 [公開済み] タブ内)、 Jump to top がリストの一番下に表示されま

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクまたはアクション	キーボード コマンド
	す。**[Enter]** を押して、ワークフローエディターの上部にある [ようこそ] タブに戻ります。
ページ選択コントロールに移動 	1.  を含むメイン パネルのタブに表示されたレコードをタブで移動した後 (たとえば、[公開済み]タブ内)、**[Tab]** を押してページ選択コントロールにアクセスします。目的のコントロールにアクセスするまで **[Tab]** を押し続けます。 2. **[Enter]** を押して、選択したページ コントロールを操作します。
サイド (右) パネルに直接移動してヘルプを開く、新しいワークフローを作成する、または既存のワークフローを開く	1. メニューからワークフローエディターにアクセスした後、**[Tab]** を 2 回押します。 を選択しないでください。 が左上隅に表示されます。 2. **[Enter]** を押して、サイド パネルの [ワークフロー] タブにカーソルを置きます。 3. ヘルプを開くには、**[Tab]** を押して ? に移動します。**[Enter]** を押してヘルプを開くか、**[Tab]** を押してスキップします。 4. 新しいワークフローを作成するには、**[Tab]** を押して + に移動します。**[Enter]** を押して [新規ワークフロー] を開くか、**[Tab]** を押してスキップします。 5. 既存のワークフローを開くには： ◦ 必要に応じて、フィルターフィールドで停止してワークフローをフィルタリングします。 ◦ **[Tab]** を押して、ワークフロー リスト内を下に移動します。 ◦ **[Enter]** を押して、ワークフロー取得キャンバスでワークフロー レコードを選択して開きます。
ワークフロー取得キャンバスでチェックアウト済みワークフローにコア アクティビティを追加	チェックアウト済みワークフローがワークフロー取得キャンバスで開いている場合、コアアクティビティレコードは [コア] タブに表示されます。コア アクティビティを選択し、チェックアウト済みワークフローに配置するには：

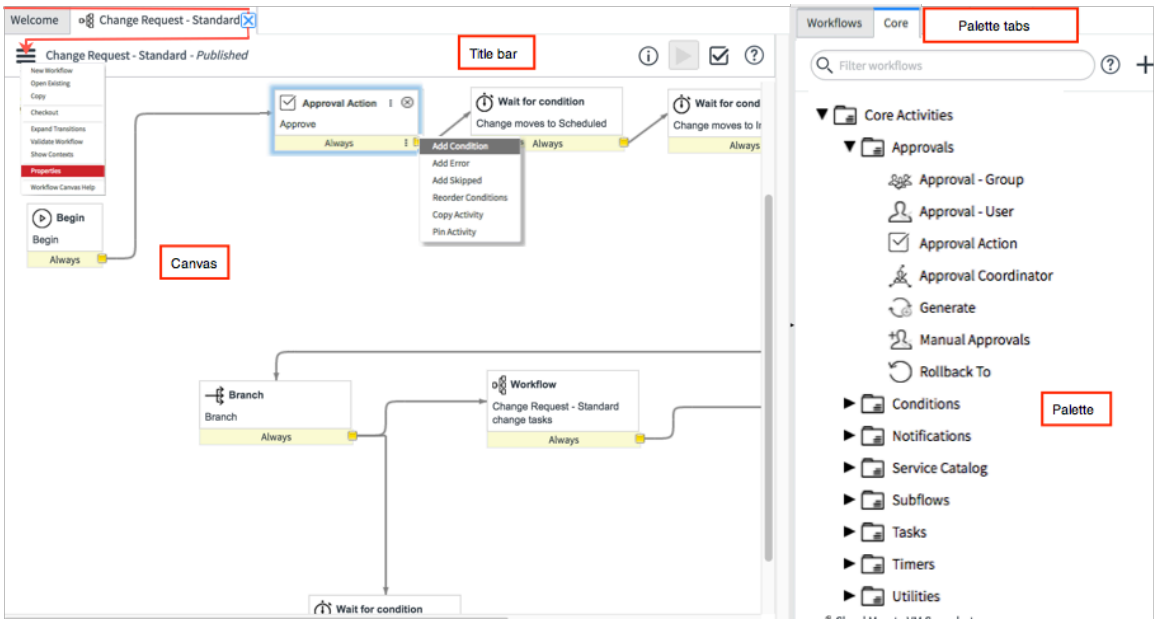
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクまたはアクション	キーボード コマンド
	注: コアアクティビティレコードは、チェックアウト済みワークフローがワークフロー取得キャンバスで開いている場合にのみ表示されます。オーケストレーション機能が有効になっている場合にのみ、サイド パネルに他のタブが表示されます。 1. ワークフロー取得キャンバスで、  が左上隅に表示されるまで **[Shift] [Tab]** を押します。 2. **[Enter]** を押して、サイド パネルの [ワークフロー] タブにカーソルを置きます。 3. 右矢印キーを押して、[コア] タブに移動します。 4. **[Tab]** または下矢印キーを押して、コア アクティビティのリスト内を下に移動します。 ◦ コア アクティビティ フォルダー (たとえば、承認) を開くには、右矢印キーを押します。 ◦ リスト内を上に移動するには、左矢印キーまたは上矢印キーを押します。 5. **[Tab]** を押してコア アクティビティを選択し、[新規アクティビティ] ダイアログを開いてプロパティを指定します。 6. アクティビティを作成したら、ワークフロー内の別のアクティビティにリンクすることを忘れないでください。「ワークフロー取得キャンバスのキーボード コマンド」の「1 つのアクティビティの条件から次のアクティビティへの接続を作成」を参照してください。

ワークフロー取得キャンバスのキーボード コマンド

キーボード コマンドを使用して、ワークフローエディターのキャンバス内を移動して操作します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



タスクまたはアクション	キーボード コマンド
ワークフロー アクション メニュー コマンドを選択 (たとえば、[ワークフローを検証] または [ワークフローを公開])	1. コンテキストメニュー ( ) が強調表示されるまで **[Tab]** を押します。 2. **[Enter]** を押して、コンテキストメニューを開きます。 3. 下矢印キーを使用してコマンドに移動し、**[Enter]** を押してそれを選択します。
一般的なワークフローのプロパティを設定	1. ⓘ が強調表示されるまで **[Tab]** を押します。 2. **[Enter]** を押して、[ワークフローのプロパティ] を開きます 。
アクティビティ ボックス間を移動します。	**[Tab]** を押すか、矢印キー (右、左、上、下) を使用して、ワークフロー内でアクティビティ間を移動できます。 **注:** ワークフロー内のアクティビティ ボックスの複雑さと数によっては、ナビゲーションの順序が予測できない場合があります。ワークフロー内でどのように移動するかによりますが、ナビゲーション順序は一般に (常時ではなく) 行単位になり、通常最も近いアクティビティ ボックスが優先されます。
選択したアクティビティを変更します。	1. アクティビティ ボックスに移動し、**[Enter]** を押して選択し、編集モードにします。アクティビティ ボックスを選択すると、強調表示されます。 2. 編集モードに入ったら、**[Tab]** を使用してアクティビティ ボックス内を移動して、次のような要素を変更またはアクセスします。 ◦ アクティビティのプロパティ ( ) ◦ タイトル ◦ ノードのコンテキストメニュー ◦ ノードを削除 ( )

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクまたはアクション	キーボード コマンド
	◦ 条件プロパティ (Always) ◦ ノードの条件付きコンテキストメニュー (⋮) ◦ ノードの条件付きポート オプション ( ) **注:** 選択したアクティビティのすべての要素は、チェックアウト済みワークフローで作業する場合にのみアクセスできます。公開済みワークフローで作業する場合、そのアクティビティのプロパティとタイトルにのみアクセスできます。 **3.** **[Enter]** を押して要素を選択するか、**[ESC]** を押して変更せずに要素をエスケープします。
アクティビティに条件を追加します。	**1.** アクティビティ ボックス内で、 を選択して、[条件プロパティ] にアクセスします。 **2.** [条件プロパティ] でアクティビティの条件を指定します。
1 つのアクティビティの条件から次のアクティビティへの接続を作成	**1.** アクティビティ ボックス内で、[ノードの条件付きコンテキストメニュー] (⋮) を選択します。 **2.** [リンク先...] を選択して次のアクティビティ ボックスへの接続を作成するか、[削除] を選択して既存の接続を削除します。
コアまたはカスタムアクティビティを追加	**1.** アクティビティ ボックス内で、[ノードの条件付きポート オプション] ( ) を選択します。 **2.** [コアアクティビティを追加] を選択してワークフローアクティビティ定義にアクセスし、新しいコアアクティビティを追加するか、[カスタムアクティビティを追加] を選択してワークフローにカスタムアクティビティを追加します。
アクティビティ ボックスを移動	**1.** **[Tab]** を押してアクティビティ ボックスに移動し、**[Enter]** を押してそれを選択します。 **2.** 矢印キーを使用してアクティビティ ボックスを移動します。アクティビティ ボックスを一度に 1 ピクセルずつ移動するには、**[Shift]** を押しながら矢印キーを使用します。
ワークフローを検証	**1.** が強調表示されるまで **[Tab]** を押します。 **2.** **[Enter]** を押してワークフローを検証します。 また、[ワークフロー アクション] メニューから [検証] を選択することもできます。
ワークフローを実行	**1.** が強調表示されるまで **[Tab]** を押します。 **2.** **[Enter]** を押してワークフローを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクまたはアクション	キーボード コマンド
	注: ワークフローがデータベース テーブルに関連付けられている場合、この機能は無効になっています。ワークフローは、適切なテーブル条件が有効になったときに実行されます (たとえば、新しいレコードをテーブルに挿入するなど)。
ワークフロー取得キャンバスを閉じる	1. (ワークフローの名前を含むタブの右側) が表示されるまで **[Tab]** を押します。 2. **[Enter]** を押して、キャンバスを閉じます。
ワークフローを公開	1. コンテキストメニュー ( ) が強調表示されるまで **[Tab]** を押します。 2. **[Enter]** を押して、コンテキストメニューを開きます。 3. 下矢印キーを使用して [公開] コマンドに移動し、**[Enter]** を押してそれを選択します。
トップにジャンプ	ワークフロー全体をタブで移動した後、Jump to topがリストの一番下に表示されます。**[Enter]** を押して、ワークフロー取得キャンバスの上部にジャンプします。

ワークフロー管理

ワークフローを作成、編集、検証、公開して、プラットフォーム全体の複数ステップのプロセスを自動化します。ワークフローのアクティビティと変数、およびそれらを効果的に使用する方法を理解する。ワークフローのビルド、検証、使用方法を詳しく見てみましょう。

ワークフローの作成

ワークフローエディタでワークフローを作成して、複数ステップのプロセスを自動化します。

始める前に

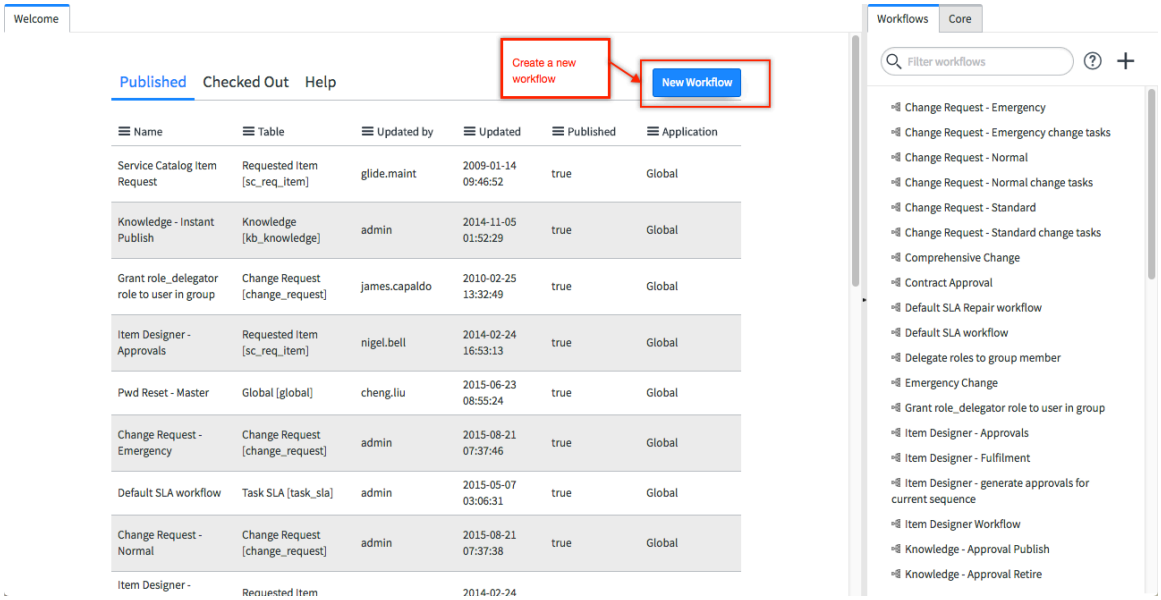
必要なロール：

- ワークフローエディタを使用するには、workflow_adminまたはworkflow_creatorロールが必要です。
- 更新セットプロセスの一部としてワークフローを設計する場合は、 更新セットを使用したワークフローの移動ワークフローを作成する前にをご覧ください。

手順

1. [すべて] > [ワークフロー] > [ワークフローエディター]に移動します。
   ワークフローエディターの [ようこそ] タブが開きます。
2. パレットのワークフロータブで、新規ワークフローをクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



New Workflowフォームの簡略版が開きます。

3. 名前とテーブルのフィールドを入力します。
4. オプション: 説明を追加します。
5. オプション: 次のいずれかの操作を行います。

   a. もし条件 UIセクションが表示されたら、 調子を特定し、必要に応じてフィールドを編集します。
   [条件] UI セクションは、選択したテーブルがワークフローの起動条件をサポートしている場合にのみ表示されます。たとえば、sc_req_item テーブルを選択した場合、条件は適用されません。[条件] UI セクションは表示されません。

   b. [ステージ] UI セクションが表示された場合は、[状態レンダリング **(State rendering)]** および [ステージの順序] フィールドに正しい情報が含まれていることを確認します。
   [ステージ] UI セクションは、選択したテーブルがステージをサポートしている場合にのみ表示されます。たとえば、sc_req_item テーブルを選択すると、[ステージ] UI セクションが表示されます。

6. [送信] をクリックします。

   新しいワークフローが、1 つの移行で結ばれた [開始] および [終了] アクティビティで作成されます。

7. ワークフローを他のユーザーが利用できるように、アクティビティの追加、検証、公開を行い、ワークフローの作成を完了します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、「ワークフローでの作業」を参照してください。

8. ワークフローの詳細設定を変更するには、 プロパティアイコン ⓘ をクリックしてください。
9. 変更を加えた場合は、 更新をクリックします。

ワークフローのプロパティ

ワークフローのプロパティでは、アプリケーションスコープ、開始条件、スケジュール、入力、ステージ、実行時間のメトリクスなどの設定を構成できます。また、ワークフロー作成者、バージョン、履歴などの情報を表示することもできます。

新しいワークフローを作成すると、ダイアログボックスで次のフィールドを使用できます。

- 名前
- テーブル
- 説明
- 条件に一致した場合
- 条件

クリックするとダイアグラムビュー 、in 関連リストダイアログボックスでは、次のUIセクションを使用できます。

- 全般
- 条件
- 入力
- アクティビティ
- アプリケーション
- スケジュール
- ステージ
- 予定ランタイム

全般

フィールド	説明
名前	ワークフローを識別する名前。
テーブル	ワークフローを実行するためのテーブル。特定のテーブルで実行されるワークフローは、引き続き他のテーブルとやりとりできます。選択グローバル[グローバル] すべてのテーブルでワークフローを実行します。 **注:** このリストには、トリガールールと同じスコープ内にあるテーブルビューとデータベースビューのみが表示されますまた、ワークフローを編集するすべてのユーザーは、必要なテーブルとドメインにアクセスできる必要があります。
チェックアウト日時	[読み取り専用] ワークフローがチェックアウトされたとき。自動的に設定するチェックアウトアクションをワークフローメニューに追加します。
チェックアウ	[読み取り専用] このワークフローを持つユーザーがチェックアウトしました。この値は、チェックアウトアクションをワークフローメニューに追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ト担当者	
公開	[読み取り専用] ワークフローが公開されたかどうかを示すチェックボックス。ワークフローメニューのパブリッシュアクションによって自動的に設定されます。
説明	ワークフローの目的。

条件

ワークフローをトリガーする条件を作成します。条件を必要としないsc_req_itemなどの表を選択すると、「条件」セクションは表示されません。

フィールド	説明
条件に一致した場合	条件がtrueと評価されると、ワークフローはアクティブなコンテキストを起動します。 • 無し ：ワークフローは、ワークフローエンジンによって自動的に開始されません。このワークフローを実行するには、ワークフローを開始するスクリプトを作成します。 • ワークフローを実行する ：デフォルト値。ワークフローエンジンは、ワークフローを開始します。 調子フィールドは、テーブルに挿入されているレコードと一致します。 • 他のワークフローがまだ一致しない場合に実行する（非推奨） ：このワークフローを開始した実行スレッドで他のワークフローが実行されていない場合にのみ、ワークフローが実行されます。使用を避ける。 • 他のワークフローが一致しない場合に実行：ワークフローは、特定のレコードで実行中のワークフローがない場合にのみ実行されます。たとえば、Incidentテーブルに挿入されるワークフローは4つあり、**short_desc** を含むテストなどの条件があります。**If**条件が一致する新しいワークフローは、他のワークフローがまだ一致しない場合に実行に設定され、4つのワークフローのいずれもインシデントレコードで実行を開始していない場合にのみ実行されます。
条件	If条件一致リストから選択された動作をトリガするワークフロー条件を指定するための条件ビルダー。
順番	ワークフローの順序を決定する数値。他のワークフローとの相対的な値。ワークフローは、最も低いオーダから順に評価されます。条件に最初に一致するワークフローが実行されます。

入力

[入力] セクションには、データ、データ型、デフォルト値を入力する現在のワークフロー内のすべてのアクティビティが一覧表示されます。入力セクションは、ワークフローが作成された後にのみ使用できます。変数を作成するには、新規をクリックします。

フィールド	説明
ラベル	列ラベルが表示されます。ユーザーのロケールに応じてローカライズされます。
参照	別のテーブルの入力フィールド。
タイプ	データタイプたとえば、整数または文字列。
デフォルト値	値を指定しない場合に使用される値。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティビティ

[アクティビティ] セクションでは、アクティビティの固定と最大アクティビティ数を設定できます。

フィールド	説明
固定しているアクティビティ	ワークフローレベルでのカスタムアクティビティの更新を制御するオプションのリスト。固定は、カスタムアクティビティがServiceNow Storeからダウンロードされると自動的に更新されるのを防ぎます。詳細については、「ワークフロー 固定しているアクティビティ」を参照してください。可能なオプションは: • アクティビティ別に設定 ：ワークフロー内のすべてのアクティビティで、独自の固定設定を使用できるようにします。これがデフォルトの固定オプションです。 • すべてのアクティビティを固定 ：ワークフロー内のすべてのアクティビティを現在のバージョンに移動します。 • すべてのアクティビティを固定解除する ：ワークフロー内のすべてのアクティビティを更新できるようにします。
最大アクティビティ数	ワークフローによって実行されるアクティビティの最大数。この値は無限ループを防止するために使用され、デフォルトでは **100** に設定されています。指定された最大数に達すると、ワークフローはキャンセルされます。このフィールドが空白の場合、最大数は**-1**に設定され、ワークフローはキャンセルされます。

アプリケーション

「アプリケーション」セクションでは、アプリケーションの有効範囲と有効範囲の制限を確認できます。

フィールド	説明
アプリケーション	[読み取り専用] このアクティビティの範囲。詳細については、アプリケーションスコープを参照してください。
アクセス可能	このワークフローのスコープの制限可能な設定は次のとおりです。 • すべてのアプリケーションスコープ:ワークフローはすべてのアプリケーションスコープからアクセス可能です。 • このアプリケーションスコープのみ：ワークフローアクセスは、アプリケーションフィールドに指定されたスコープに制限されています。 詳細については、「ワークフローのスコープ」を参照してください。

スケジュール

[スケジュール] セクションを使用して、スケジュールビルダを使用してこのワークフローのスケジュールを作成します。

フィールド	説明
配送基準：	このワークフローのスケジュールタイプ。可能なタイプは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	• ユーザー指定の期間 ：ユーザー指定の値に基づく期間。これがデフォルトのスケジュールタイプです。 • 相対期間：事前に設定されたスケジュール（たとえば、平日8～5日）から計算される期間。
予定時間	ユーザー定義の間隔。このフィールドは、スケジュールタイプがユーザー指定の期間の場合に表示されます。
スケジュール	このワークフローがいつ実行されるかを決定する事前構成されたスケジュール。
タイムゾーン	このインスタンスのタイムゾーン。

ステージ

タイプ=ワークフローのテーブルを選択すると、ステージセクションが表示されます。

フィールド	説明
ステージ	ワークフローステージの進行状況を選択したテーブルに表示します。ステージフィールドの外観をカスタマイズするには、ステージレンダリングとステージオーダーのスキームを選択します（オプション）。デフォルト値は典型的なシナリオをカバーします。
ステージの表示	ステージアイコンをフォームまたはリスト ビューに表示するときに使用するレンダラー。詳細については、「ワークフローステージレンダラー」を参照してください。
ステージの順序	ワークフロー・フィールドをリストで表示するときのワークフロー・ステージの順序。ワークフローエンジンがワークフローの実行順序からステージ順序を計算できるようにするには、計算済みを選択します。そのワークフローステージから注文フィールドを使用するには、指定されたユーザーを選択します。
名前	ワークフローフィールドに表示されるステージの名前..
期間	特定のステージに割り当てられた時間。
順番	ワークフロー・フィールドをリストで表示するときのワークフロー・ステージの順序。ワークフローエンジンがワークフローの実行順序からステージ順序を計算できるようにするには、計算済みを選択します。そのワークフローステージから注文フィールドを使用するには、指定されたユーザーを選択します。
値	スクリプト内など、システム内の他の場所から参照されるステージの値です。

予定ランタイム

推定ランタイムセクションでは、ワークフローの**ERT**を設定するためのコントロールが開きます。ベースシステムに含まれるコアワークフローは、デフォルトでは実行予定時間に構成されていません。すべての新しいワークフローは、デフォルトのERT値で自動的に構成されます。既存のワークフローの既存の実行時間見積もりを編集したり、新しい実行計画を新規に構成したりすることができます。推定実行時間がどのように設定され、計算されるかの詳細については、 ワークフロー ランタイムメトリクス をご覧ください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ERT が必要	このワークフローに予想される実行時設定が必要であることを示すチェックボックス。 ERT計算を使用して、ワークフローが予想よりも長く実行されているかどうかを判断したり、ワークフロー処理のエラーを特定したりすることができます。デフォルトでは、新しいワークフローにはERTが必要です。
予定実行時間	ワークフローの実行時間の初期見積もり。
データポイント数	[読み取り専用] システムが推定された実行時間と実際の実行時間の結果を比較した回数。
ERT の外れ値の割合しきい値	[必須] 異常値のワークフロー実行時間を識別する推定実行時間からの偏差の割合。システムでは、デフォルト値の20が使用されます。詳細については、「異常なワークフロー ランタイム」を参照してください。

テーブルからワークフローを作成する

ワークフローをサポートするテーブルのリスト ビューからワークフローを作成して、複数ステップのプロセスを自動化します。

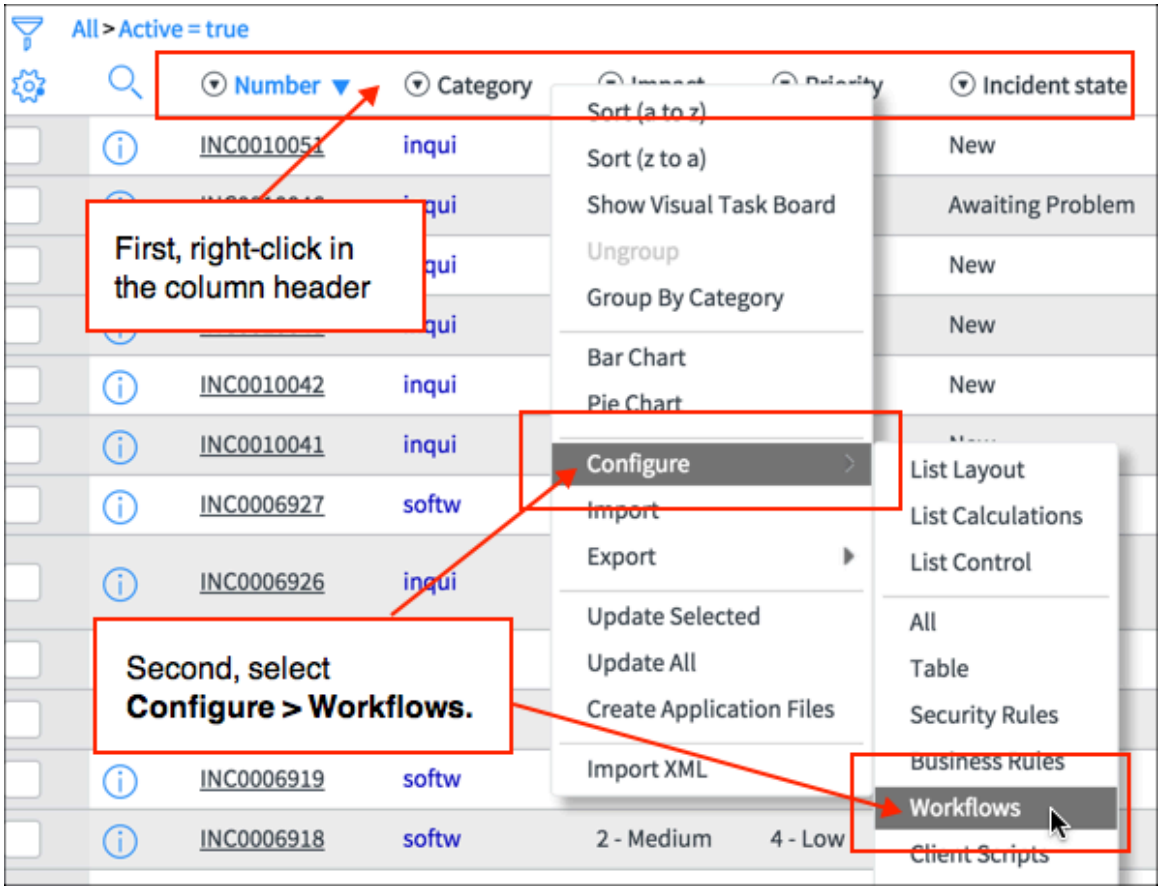
始める前に

- 更新セットプロセスの一部としてワークフローを設計する場合は、 更新セットを使用したワークフローの移動ワークフローを作成する前にをご覧ください。

手順

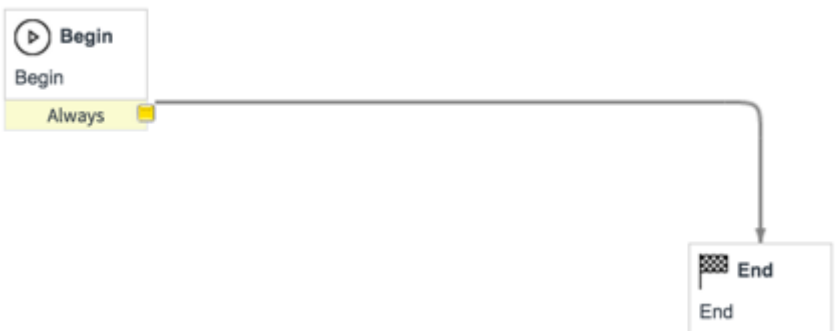
1. インシデントや問題などの表をリスト ビューで開きます。[インシデント] >[オープン] に移動します。
2. 列見出しを右クリックし、 設定>ワークフロー を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



そのテーブルのワークフローバージョンがリストに表示されます。

3. [新規] をクリックします。
   新しいワークフロービューでワークフローバージョンが開きます。テーブルフィールドには、手順 1で選択したテーブルが入力されており、読み取り専用です。
4. 名前を入力してください...
5. オプション: 説明を入力します。
6. オプション: 条件フィールドを必要に応じて編集します。
7. [送信] をクリックします。
   新しいワークフローがワークフローバージョンリストに追加されます。
8. ワークフロー名をクリックします。
   新しいワークフローが、1 つの移行で結ばれた [開始] および [終了] アクティビティで作成されます。



9. ワークフローを他のユーザーが利用できるように、アクティビティの追加、検証、公開を行い、ワークフローの作成を完了します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、「ワークフローでの作業」を参照してください。

10. オプション: ワークフローの詳細設定を変更するには、 プロパティアイコン をクリックしてください。変更を加えた場合は、 更新をクリックします。

サービスカタログアイテムの作成

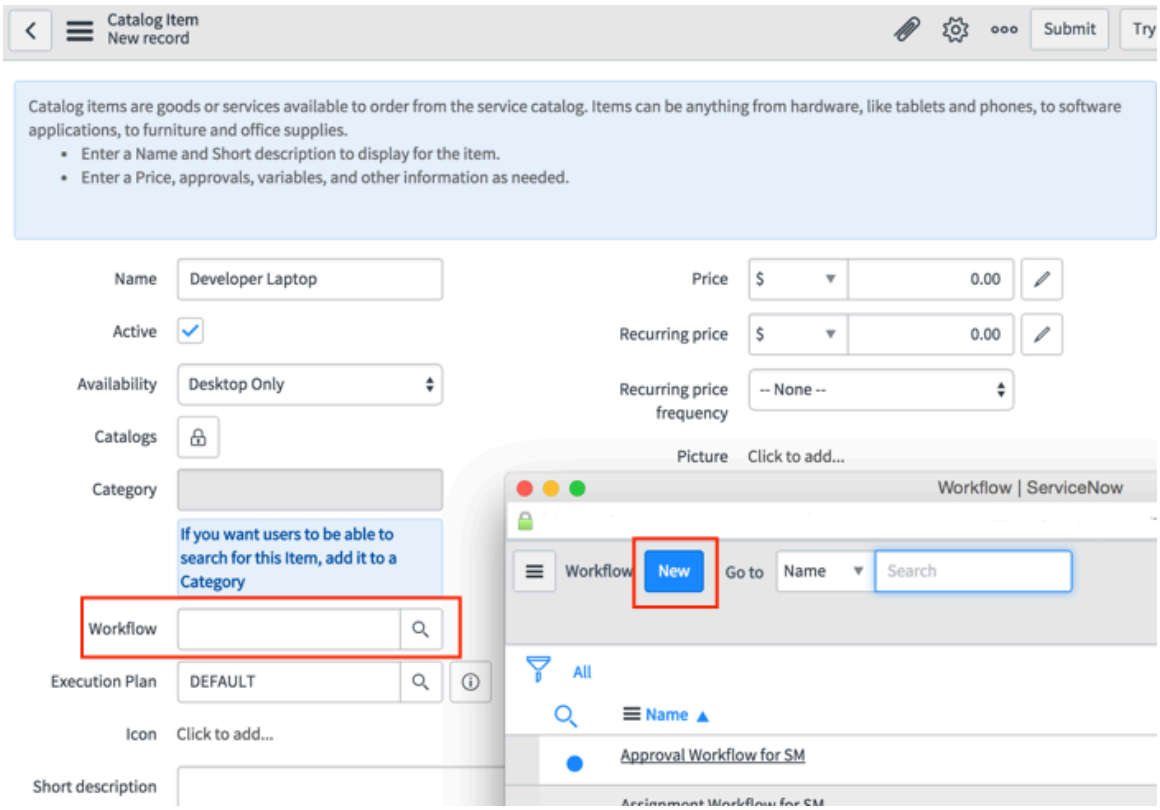
新しいサービスカタログアイテムを作成するときは、同時に対応する新しいワークフローを作成することができます。

始める前に

- 更新セットプロセスの一部としてワークフローを設計する場合は、 更新セットを使用したワークフローの移動ワークフローを作成する前にをご覧ください。

手順

1. [すべて] > [サービスカタログ] > [カタログ定義] > [アイテムの管理] に移動します。
2. フォームの上部にあるカタログアイテムの横にある新規 New をクリックします。
   カタログアイテムフォームが開きます。
3. [名前] を追加します。
4. [プロセスエンジン] タブを選択します。
5. [ワークフロー] フィールドの横にあるルックアップアイコンをクリックします。
6. 上部のワークフローの横にある新規をクリックします。

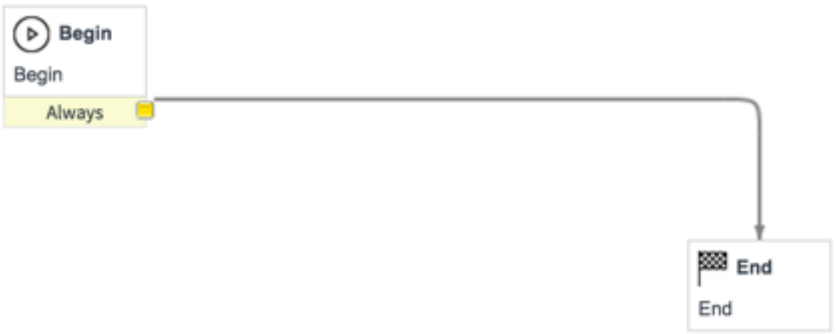


「ワークフローのバージョン」ダイアログが、「新規ワークフロー」ビューで開きます。テーブル項目は要求されたアイテム（sc_req_item）に設定され、読み取り専用です。

7. [名前] を追加します。
8. [オプション] 説明 を追加します。
9. [オプション] 必要に応じてステージ情報を変更します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

10. [送信] をクリックします。
    新しいワークフローが、1 つの移行で結ばれた [開始] および [終了] アクティビティで作成されます。



11. ワークフローを他のユーザーが利用できるように、アクティビティの追加、検証、公開を行い、ワークフローの作成を完了します。
    詳細については、「ワークフローでの作業」を参照してください。
12. ワークフローの詳細設定を変更するには、 プロパティアイコンをクリックします。
13. [更新] をクリックします。
    ワークフローエディタを閉じると、Catalog Itemレコードが表示されます。ワークフローは [ワークフロー] フィールドに追加されます。[ワークフローと情報を表示] アイコンは、[ワークフロー] フィールドの隣りにあります。情報アイコンの上にカーソルを置くと、ワークフローの読み取り専用の要約が表示されます。

SLA 定義のワークフローの作成

SLA定義からワークフローを作成して、複数ステップのプロセスを自動化します。

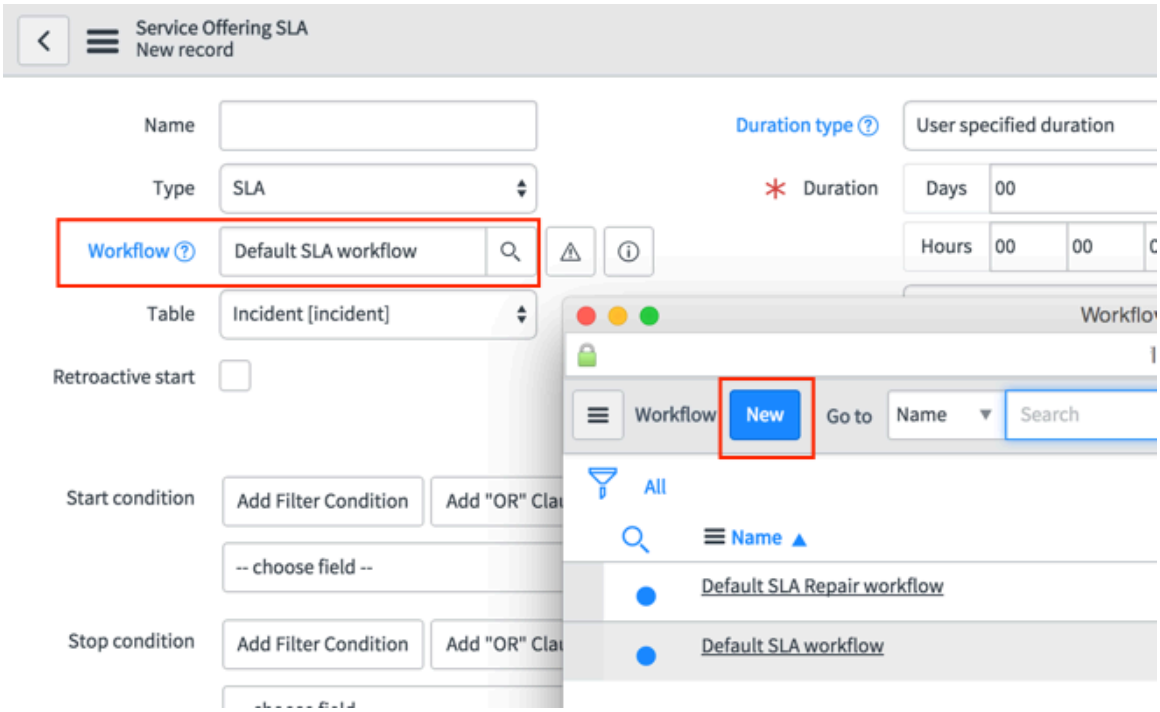
始める前に

- 更新セットプロセスの一部としてワークフローを設計する場合は、 ワークフローを作成する前に「更新セットを使用したワークフローの移動」をご覧ください。

手順

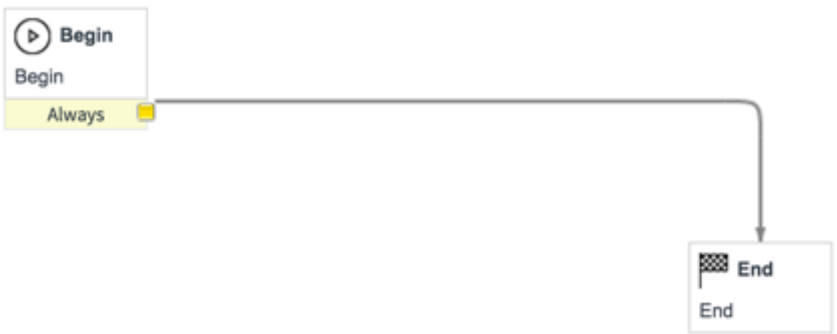
1. SLA 定義のリストを開きます。
   例えば施設**> SLA** 定義またはサービスレベル管理**> SLA** 定義 。
2. フォームの上部、**[SLA** 定義 **(SLA Definitions)]** の横で、新しいアイコン (New) をクリックします。
3. 契約 **SLA** またはサービス提供 **SLA** を選択します。
4. ワークフローフィールドの横にある参照アイコンをクリックします。
5. 上部のワークフローの横にある新規をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



「ワークフローのバージョン」ダイアログが「新規ワークフロー」ビューに表示されます。テーブルフィールドは、**SLA** 定義（contract_sla）またはサービス提供 **SLA (service_offering_sla)** に設定され、読み取り専用です。

6. [名前]を入力します。
7. [オプション] [説明] を入力します。
8. [オプション] 条件フィールドを必要に応じて編集します。
9. [送信] をクリックします。
   新しいワークフローが、1 つの移行で結ばれた [開始] および [終了] アクティビティで作成されます。



10. ワークフローを他のユーザーが利用できるように、アクティビティの追加、検証、公開を行い、ワークフローの作成を完了します。
    詳細については、「ワークフローでの作業」を参照してください。
11. [オプション] プロパティアイコン ( ) をクリックして、ワークフローの詳細設定を変更します。
    変更を加えた場合は、 更新をクリックします。

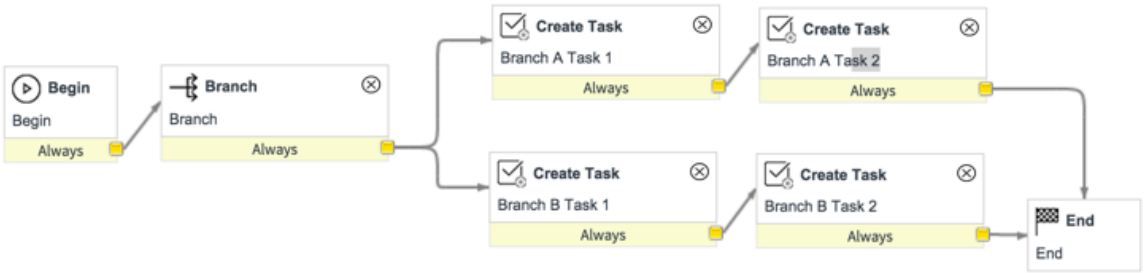
複数の支店でワークフローを終了します

進行中のワークフローのアクティブブランチがまだ存在する場合でも、終了アクティビティに到達するとワークフローは完了します。両方のブランチが完了していることを確認するには、ブランチを解決する参加アクティビティを追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

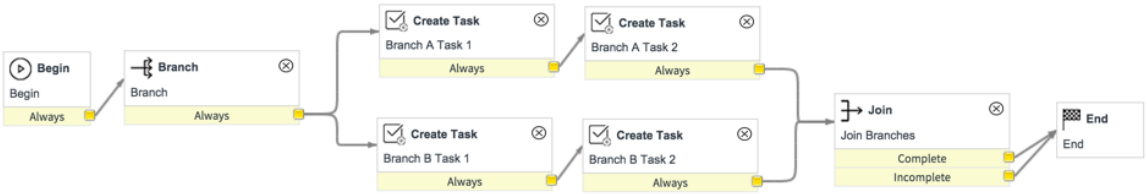
たとえば、次の図は、独立して実行する2つのブランチを持つワークフローを示しています。ブランチAのタスクが完了していない場合でも、ブランチBのタスク1とタスク2が完了すると、ワークフローは完了とマークされます。

完了していないブランチを持つワークフロー



両方のブランチを完了するには、ブランチを解決する参加アクティビティを追加します。1つのブランチが参加に達すると、ワークフローは他のブランチを待ちます。両方のブランチが完了すると、ワークフローが終了します。参加アクティビティの不完全な条件は、分岐の1つが完了できない場合にのみ満たされます。

完了したブランチのワークフロー



ワークフローでの作業

ワークフローを完了するには、ワークフロー アクティビティを追加し、ワークフローを検証して公開します。

始める前に
必要なロール：なし

ワークフロー アクティビティを追加

アクティビティによってワークフローの機能が決定されます。

始める前に
必要なロール：workflow_creator、workflow_admin、または admin

このタスクについて
作成されると、すべてのワークフローに開始アクティビティと終了アクティビティが含まれます。

詳細については、「ワークフローアクティビティ」を参照してください。

手順

1. ワークフローを開く
2. ワークフローをチェックしてください。
3. ワークフロー アクティビティをドラッグ [アクティビティ] メニューからワークフロー本文に移動します。
4. 表示されるワークフロー アクティビティフォームに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフローを検証

ワークフローエディタからワークフローを手動で検証することができます。Workflow バージョンフォームからワークフロー検証レポートを生成できます。

始める前に

必要なロール：workflow_creator、workflow_admin、または admin

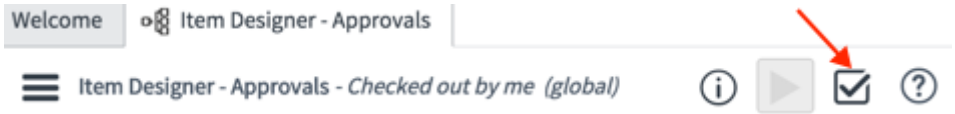
このタスクについて

新しいノードでワークフローを実行すると、ワークフローの検証が自動的に試行されます。検証が成功すると、システムはワークフローのバージョンレコードを更新して、ワークフローが検証されたことを示し、ワークフローを実行したユーザーによって更新されたレコードとしてマークします。

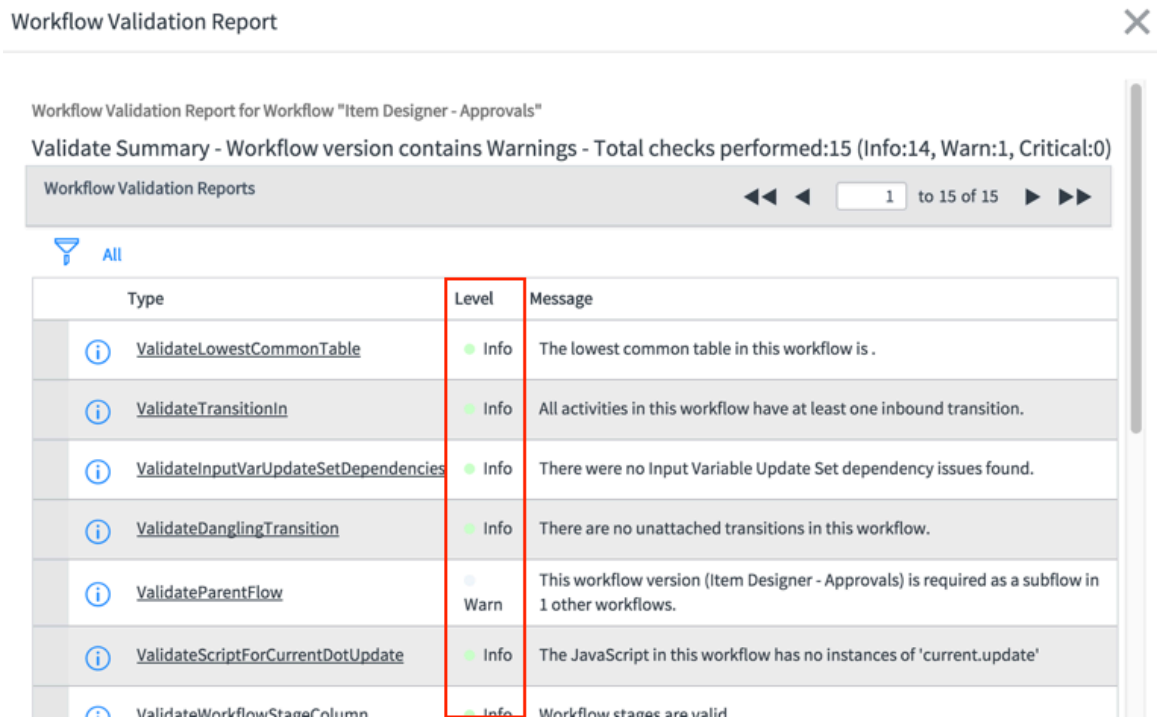
手順

1. ワークフローエディタで検証するワークフローを開きます。

   ワークフローがロードされると、ツールバーにワークフローバリデータのアイコンが表示されます。



2. バリデータアイコンをクリックすると、現在のワークフローバージョンで一連の検証テストが実行され、レポートが生成されます。



3. Workflow Versionフォームからワークフロー検証レポートを生成するには、次の手順を実行します。

   a. ワークフロー > 管理 > ワークフローのバージョン検証するワークフローを選択 へ移動

   b. 関連リンクで、ワークフローの検証をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフローを公開

ワークフローが完了したら、すべてのユーザーが使用できるようにワークフローを公開します。

始める前に

ワークフローを公開する前に、検証して、サブフローの欠落やトランジションの切断など、障害が発生する可能性のある問題をテストします。詳細については、「ワークフローの検証」を参照してください。

必要なロール：workflow_creator、workflow_admin、または admin

このタスクについて

ワークフローを公開するには：

手順

1. [すべて] > [ワークフロー] > [ワークフローエディター]に移動します。
2. パブリッシュするワークフローを開きます。
3. タイトルバーで、メニューアイコンをクリックし、 公開します。

タスクの結果

新しいバージョンのワークフローを公開した場合、変更は実行中のワークフローコンテキストには適用されません。現在実行中のワークフローコンテキストは、ワークフローの開始時に使用可能だったワークフローバージョンを使用して継続します。次回ワークフローが実行されるときに、新しいバージョンが使用されます。

ワークフローを実行できるかどうかを判断する

ワークフローは、チェックアウトされたバージョンがチェックアウトされているユーザーが使用できる場合にのみ実行できます。有効な公開バージョンは、実行権限を持つすべてのユーザーが使用できます。

始める前に

必要なロール：workflow_creator、workflow_admin、または admin

手順

1. ナビゲーションフィルタで、次のように入力します。 `wf_workflow.list` ワークフローの1つを開きます。
2. バージョン関連リストで、次のすべての条件を確認します。

   a. チェックアウトおよび〜によるチェックアウトの状態にあるワークフローバージョンは1つだけです。

   b. バージョンは1つしかなく、チェックアウトされていません。このバージョンは、アクティブと公開済みの両方である必要があります。
   リストをパーソナライズし、アクティブ列を追加する必要があります。

   c. 複数のバージョンがある場合は、1つだけが公開されます。

   これらのチェックでは、ワークフローを実行できる2つの条件だけが決まります。

   - チェックアウトしたユーザーは、ワークフローのチェックアウト済みバージョンを使用できます。
   - ワークフローを実行する権限を持つすべてのユーザーに対して、有効な発行済みワークフローバージョンを使用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これらの2つの条件のいずれかを満たさないサブフローを含むメインフローは、現在のレコードトランザクションに対して実行することはできません。代わりに、サブフロー状態を詳述する重要なログエントリがワークフローコンテキストレコードに追加されます。次の適切なトランザクションでワークフローを実行できるようにするには、メインフローからサブフローを削除するか、サブフローの発行済みおよびアクティブ状況を変更します。

公開ワークフローを編集する

パブリッシュされたワークフローは、チェックアウト後に編集できます。

始める前に

必要なロール：workflow_creator、workflow_admin、workflow_publisher、または admin

このタスクについて

注: 読み取り専用アプリケーションファイルに関連付けられたワークフローをチェックアウトまたは削除することはできません。

ワークフローをチェックアウトするには：

手順

1. [すべて] > [ワークフロー] > [ワークフローエディター]に移動します。
2. 編集するワークフローを開きます。
3. タイトルバーで、メニューアイコンをクリックし、 チェックアウト 。

   新しいワークフローのバージョンが作成され、あなたに割り当てられます。

   公開ワークフローとは異なるドメインにいる場合、新しいワークフローバージョンはあなたのドメインで作成されます 。

次のタスク

ワークフローの編集が完了したら、ワークフローを検証して公開して、新しいバージョンを他のユーザーが利用できるようにします。

2つのアプリケーションスコープ間でワークフローをコピーする

アプリケーションスコープは、アプリケーションファイルやデータに対するアクセスを識別して制限することによって、アプリケーションを保護します。必要に応じて、1つのアプリケーションスコープで作成したワークフロー（たとえば、テスト）を別の本番スコープにコピーすることができます。

始める前に

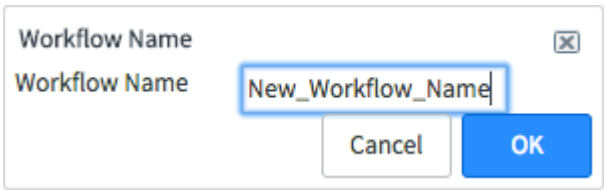
必要なロール：admin

手順

1. ホームページで、ログインしたユーザー名の横にある をクリックします。
2. 開発者タブのアプリケーションフィールドで、ServiceNowプラットフォームを操作するアプリケーションスコープ（たとえば、テスト）を選択します。
3. システム設定 ウィンドウを閉じます。
4. [ワークフロー] > [ワークフローエディタ] に移動します。
5. ワークフローエディターでワークフローを作成します。詳細については、ワークフローの作成を参照してください。
6. ワークフローエディタで、 をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. アプリケーションタブで、アプリケーションがシステム設定で選択されている現在のアプリケーションスコープに設定されます。
8. アクセス可能な場所で、ワークフローがすべてのアプリケーションスコープで使用可能な場合はすべてのアプリケーションスコープを選択し、現在のアプリケーションスコープで使用可能でアクセス可能な場合にのみこのアプリケーションスコープのみを選択します。
すべてのアプリケーションスコープからアクセス可能なワークフローのみを別のアプリケーションスコープにコピーできます。
9. ホームページに戻り、をクリックします。
10. 開発者タブのアプリケーションフィールドで、ワークフローをコピーするアプリケーションスコープ（たとえば、本番）を選択します。
11. [ワークフロー] > [ワークフローエディタ] に移動します。
12. ページを更新し、作成した同じワークフローを開きます。
範囲外のワークフローで、ワークフローが<スコープ名>スコープメッセージに表示されます。<スコープ名>は、ワークフローが最初に作成されたアプリケーションスコープです。
13. ワークフローエディタで、 をクリックします。
14. コピー を選択します。
ワークフロー名ダイアログが表示されます:



    a. ワークフロー名にコピーしたワークフローの新しい名前を入力します。
    b. **[OK]** をクリックします。システムは、現在のアプリケーションスコープにワークフローを作成します。
15. ワークフローエディタで、をクリックします。
16. アプリケーションタブでは、アプリケーションは現在のアプリケーションスコープに設定されています。
17. 以下からアクセス可能で、新しくコピーされたワークフローを現在のスコープ外からアクセスできないプライベートワークフローにする場合にのみ、このアプリケーションスコープを選択します。
18. [更新] をクリックします。

タスクの結果

選択したアプリケーションスコープに新しいワークフローレコードが作成され、ワー図フローエディタで指定されている場合はプライベートとしてマークされます。

サブフローとして使用されるワークフロー

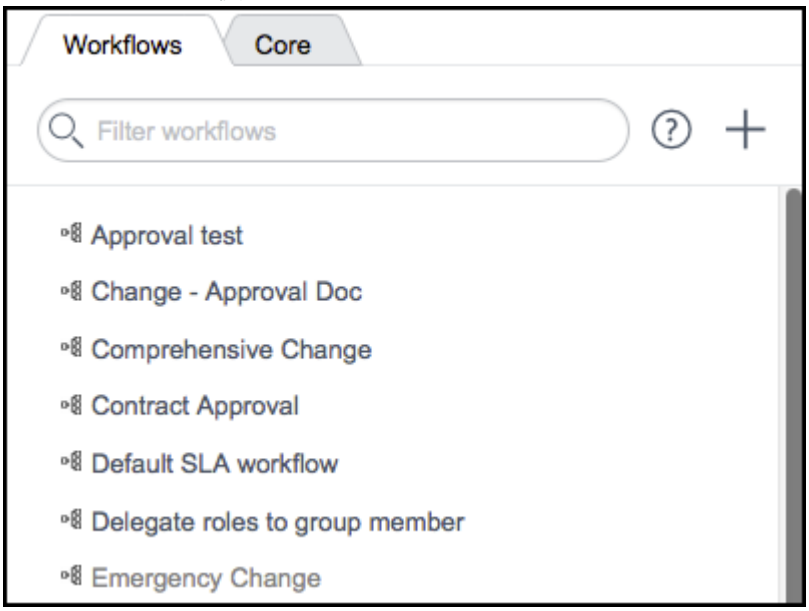
ワークフローは、別のワークフローをアクティビティとして起動することができます。

親ワークフローによってサブフローがトリガされ、続行する前にサブフローが完了するまで待機します。パブリッシングの前にワークフロー検証ツールを実行して、不足しているサブフローやその他の依存関係の問題（更新セットに関連する問題など）を検出します。

ワークフローエディタのワークフロータブには、サブフローとして使用できるワークフローのリストが含まれています。

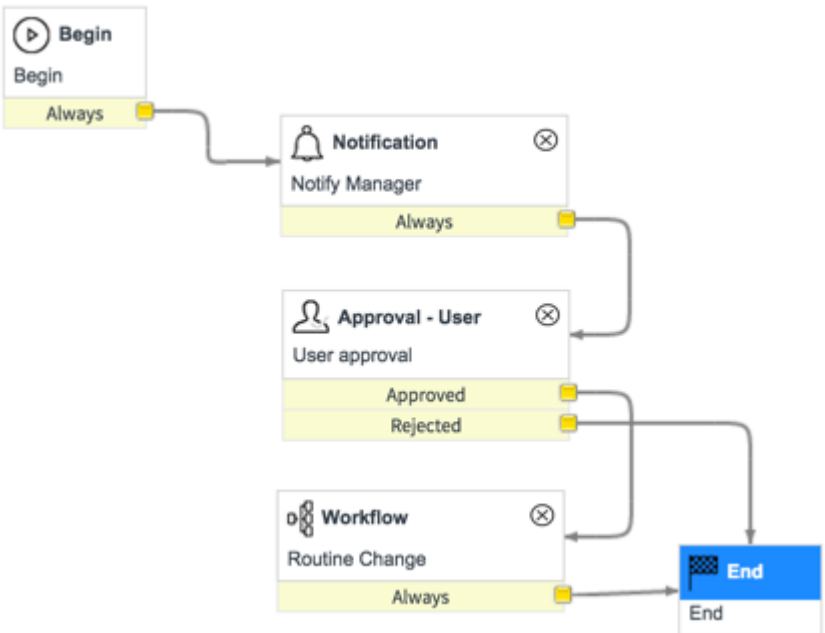
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サブフローとして使用できるワークフロー



選択したサブフローがアクティブであることを確認します。サブフローがアクティブでない場合、メインワークフローは読み込み中メッセージとともにハングアップします。非アクティブなサブフローをワークフローに配置すると、サブフローは赤いバナーで表示され、実行できないことを示します。アクティブなサブフローは、選択すると青色で強調表示されます。

アクティブなサブフローによるワークフロー



サブフローとタスクの作成アクティビティ

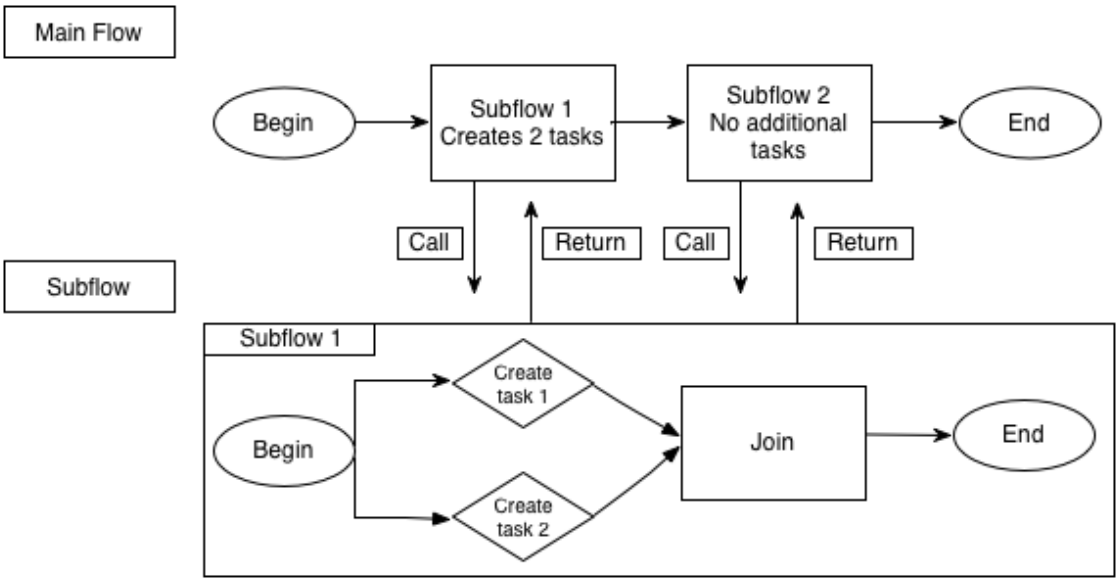
ワークフローにタスクの作成 現在のレコードで実行されたアクティビティでは、ワークフロー内の追加のタスクアクティビティが期待通りに実行されないことがあります。

これは、Create Taskアクティビティを含む同じサブフローが親フローで複数回実行される場合に発生します。サブフローが再実行され、そのサブフローを実行しようとするとタスクの作成システムは最初のタスク・アクティビティを代わりに再オープンし、追加のタスクを作成しません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

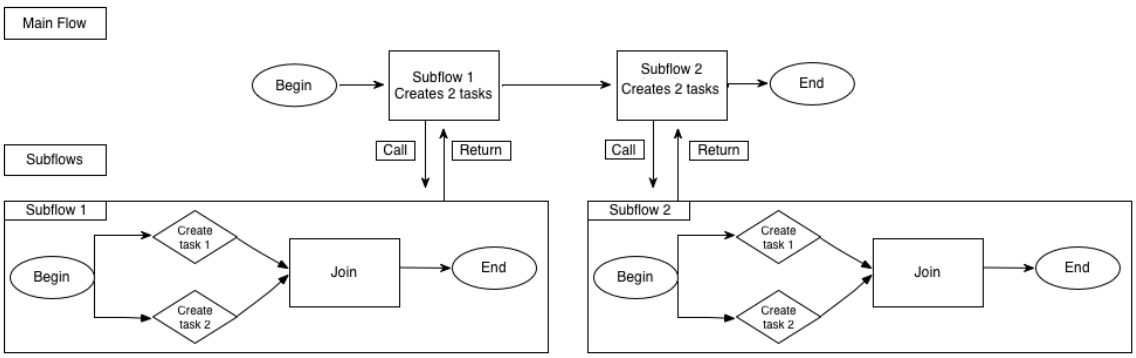
注: タスクの作成アクティビティを使用する重複サブフローを作成する代わりに、スクリプトを使用してタスクを作成するワークフローにスクリプトの実行アクティビティを追加することもできます。

同じタスク作成アクティビティがワークフローで2回実行されます



この構成では、ワークフローは、タスクを作成アクティビティを複数含む同じサブフローを複数回実行しません。これにより、ワークフローで追加のタスクを作成できます。

タスクの作成アクティビティを含む異なるサブフローの実行



ワークフローからサブフローに変数を渡します

このプロセスを使用して、親ワークフローからサブフローに変数を渡します。

始める前に

必要なロール：workflow_creator、workflow_admin、または admin

このタスクについて

注: また、 戻り値サブフロー内のアクティビティを使用して親ワークフローに値を返します。すべての終了遷移パスに戻り値があることを確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 入力を定義して、親ワークフローから変数を受け入れるようにサブフローを準備します。
2. 親ワークフローにサブフローを含め、入力を親ワークフロー変数に接続します。

> **注:** 要求されたアイテム [sc_req_item] テーブルで実行されるサブフローに変数を渡すことはできません。

サブフローの入力を定義します

サブフローとして起動されたときに親ワークフローから要求するワークフローの入力変数を定義します。

このタスクについて
すべての入力は変数 [var_dictionary] テーブルに格納されます。

手順

1. エディタで、ワークフローを開いてチェックアウトします。
2. タイトルバーで、メニューアイコンをクリックし、 入力の編集 を選択します。
3. [ワークフロー入力] ウィンドウで、 新規 をクリックします。
4. 列名、ユーザーに表示されるラベル、フィールドのタイプなど、変数の定義をレコードに取り込みます。
5. [送信] をクリックします。

ワークフローでサブフローを呼び出す

この手順を使用して、ワークフローにサブフローを追加します。

手順

1. ワークフローエディタで、親ワークフローを開き、チェックアウトします。
2. サブフローをワークフロータブを親ワークフローに追加します。
3. [新しいアクティビティ] ダイアログボックスで、サブフローの [入力] で定義された変数を定義します。

   これらのフィールドは、静的な値または変数を次の形式で受け入れることができます。

   ```
   $ {variable_name}
   ```

4. [送信] をクリックします。

   ワークフローは、適切な時間にサブフローをトリガし、入力定義によって示されるように変数を渡します。

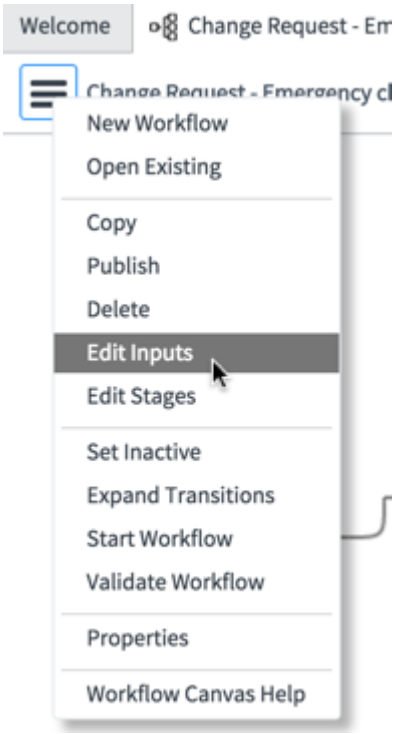
サブフローを準備します

親ワークフローで使用するサブフローを準備するプロセスと、サブフローを使用する親ワークフローを準備するプロセスを確認します。

手順

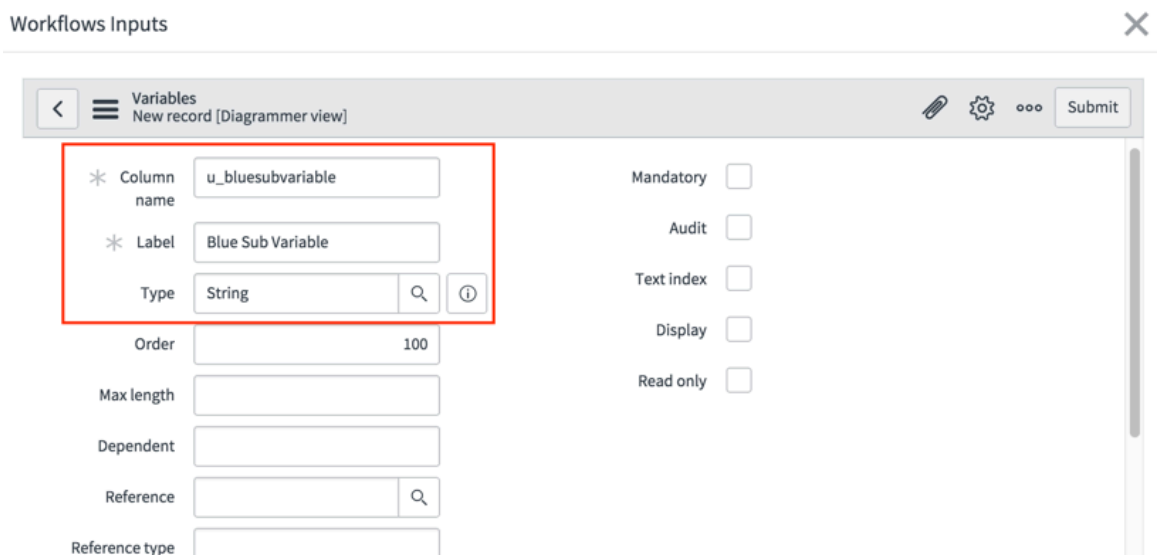
1. エディタで、サブフローとして使用するワークフローを開き、チェックアウトします。
2. タイトルバーで、メニューアイコンをクリックし、 入力の編集 を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. [ワークフロー入力] ウィンドウで、 新しいの中に変数リストをクリックします。
4. 格納する値のタイプに応じて、新しい変数を追加します。

   次の例では、文字列値を設定します。

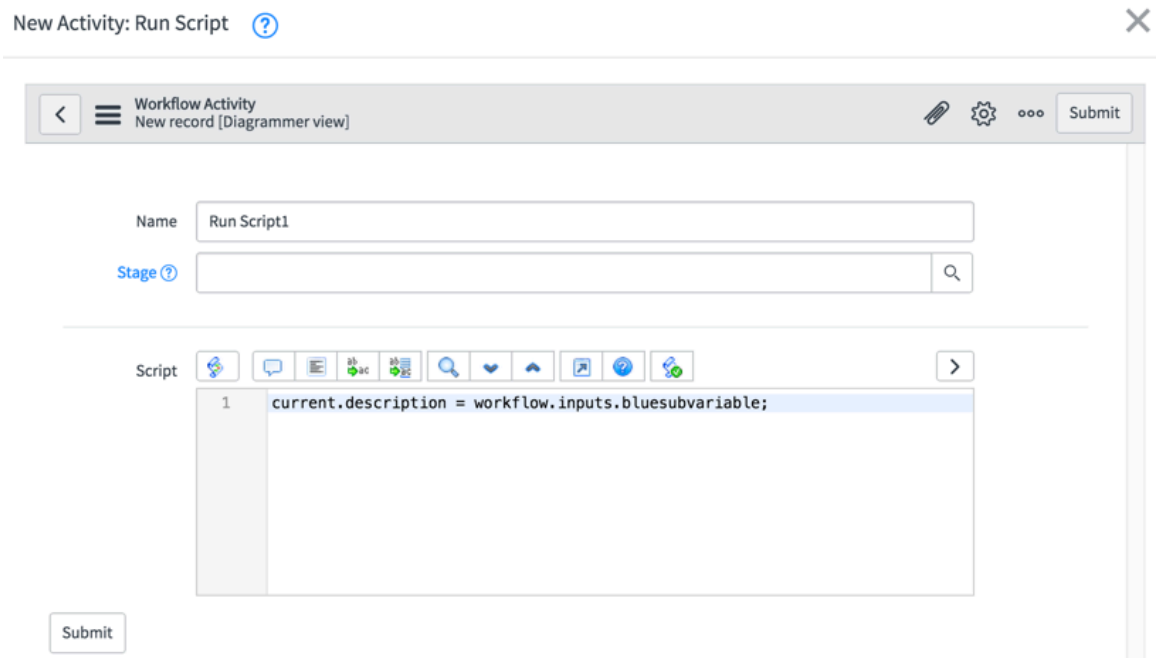


5. [送信] をクリックします。
6. ワークフロー入力ダイアログを閉じます。
7. スクリプトを実行するサブフローのアクティビティを作成します。
   - パラメータの値を現在のフォームのフィールドに設定します。お知らせアクティビティは現在の変数からのみ値を取得でき、新しく追加された変数から値を取得することはできません。そのため、これは重要です。次の例では、説明フィールドに値を設定します。

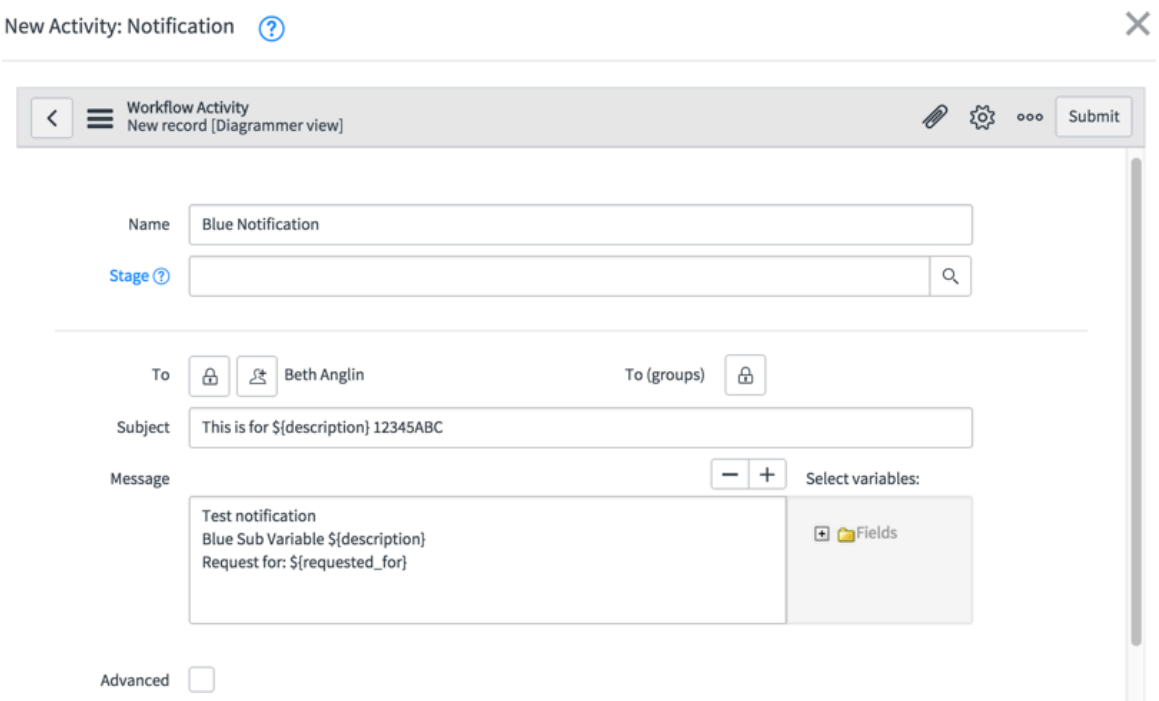
     ```
     current.description = workflow.inputs.bluesubvariable;
     ```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

◦ 要求フォームに新しいフィールドを作成しますが、フィールドは表示しません。一時的なストレージとして機能します。



8. サブフローに通知アクティビティを作成し、件名に「`$ {description}`」を使用して、フィールドから値を返します。



これは、サブフローが次のようになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

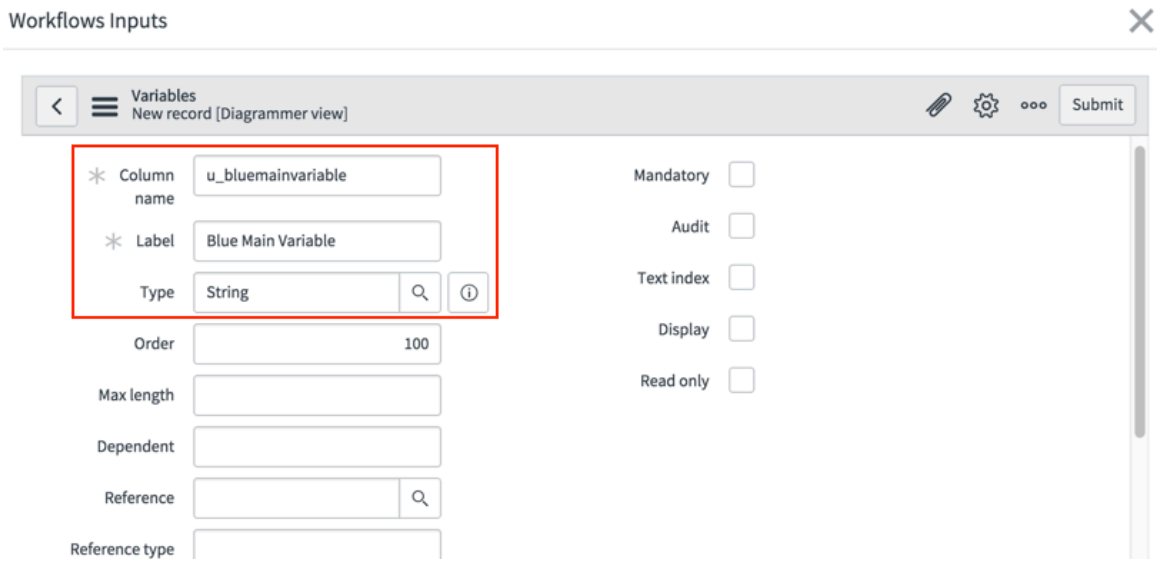
サブフローを使用するためのワークフローの準備

サブフローを作成したら、この手順を使用して親ワークフローを準備します。

手順

1. 親ワークフローで、サブフローで行ったのと同じような変数を作成しますが、名前を変えてください。

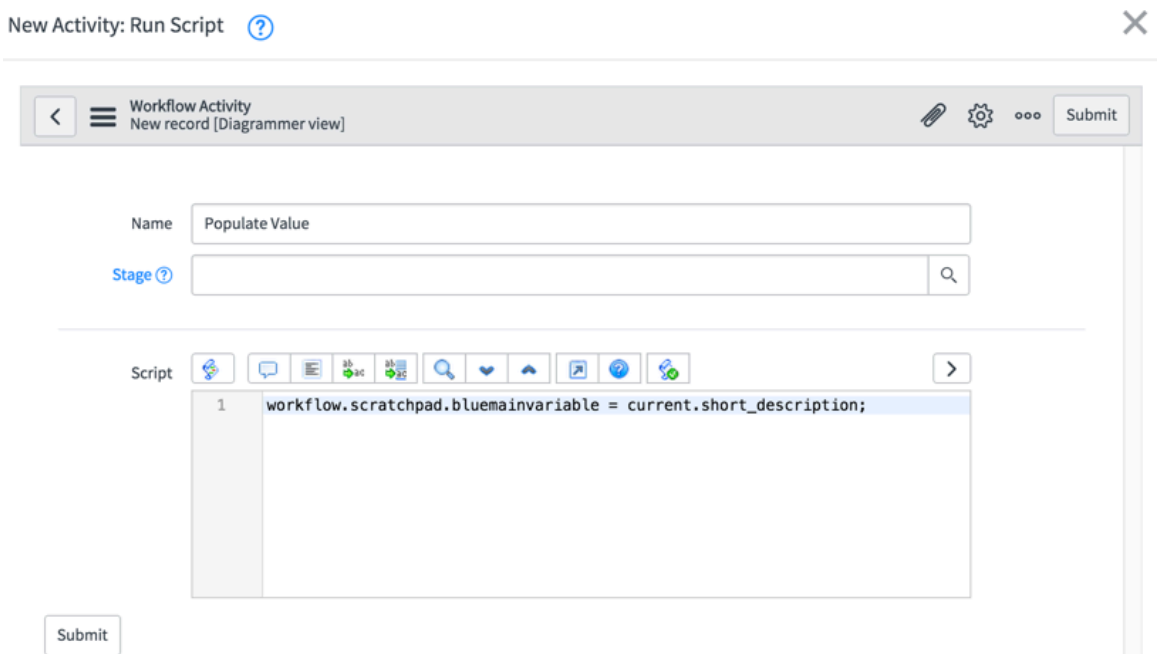
   次の例では、変数の名前は青主変数 と名付けられます。



2. [送信] をクリックします。
3. フィールドから新しく作成された変数に値を戻すには、実行スクリプトアクティビティを挿入します。

   この例では、 簡単な説明フィールドが返され、新しく作成された変数に渡されます。

```
workflow.scratchpad.bluemainvariable = current.short_description;
```

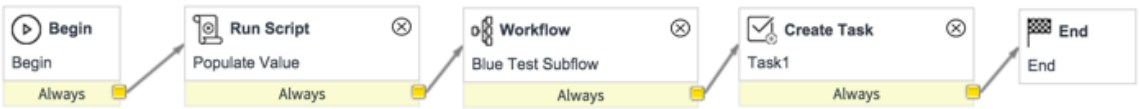


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [送信] をクリックします。
5. サブフローアクティビティで、`bluemainvariable`を`bluesubvariable`に渡すように**Blue Sub Variable**を設定します。

   `$ {workflow.scratchpad.bluemainvariable}`

   これは、メインのワークフローのようなものです：



ワークフローでの変数の使用

ワークフロー内には、利用可能ないくつかの異なるタイプの変数があります。

いくつかの変数は、ワークフローの一部を定義、記述、または構成します（ 例:ワークフロー アクティビティ ）。いくつかの変数は、ワークフロー（スクラッチパッド変数など）の実行を容易にするために特に利用できます。一部の変数は、ワークフロープロセスによって操作されるデータレコードを定義、記述、または作成します（たとえば、インシデントなどのレコードを記述するdictionary.xmlファイルに定義されているグライドレコードの要素）。

アクティビティ変数

アクティビティ変数は、特にワークフロー アクティビティに関連付けられたプロパティです。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
これらは、特定のアクティビティがワークフローキャンバスにドラッグされたときにアクティビティ定義に表示される入力です。これらの変数は、ワークフロー アクティビティ、またはワークフロー アクティビティを定義、作成、または記述するプロパティです。

アクティビティ変数は、ワークフロー アクティビティ定義内の関連リストで宣言されます。

変数を追加、表示、変更するには：

手順

1. [すべて] > **[Workflow]** > [アクティビティ定義]へ移動します。
2. ワークフロー アクティビティ（例： 承認 - ユーザー 。
3. [アクティビティ変数] セクションまたはタブでは、変数の追加、表示、変更を行えます。アクティビティ変数は、 システムディクショナリ と同じフィールドを使用して定義されます。

   注: 別のアクティビティ変数に依存する新しいアクティビティ変数を定義する場合は、親アクティビティ変数の名前の前に接頭辞「vars」を入力します。たとえば、子フィールドが親フィールドに依存している場合は、依存フィールドに値`vars.parent`を設定します。

   アクティビティがキャンバスにドラッグされた後のワークフローキャンバス上のアクティビティ変数の可視化を制御するには、wf_activityテーブルでUIポリシーを使用します。

   ワークフロー アクティビティ内の変数にアクセスしたり、これらの変数に値を割り当てるには、ワークフロー アクティビティの変数 *vars*を使用します。

```
activity.vars.variable_name = new_variable_value
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフローの入力変数

ワークフロー変数は、実行中にワークフローに渡され参照される外部値です。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
ワークフロー変数は、スクリプト内で外部から宣言してメインワークフローに渡すことも、メインワークフロー内で宣言して、サブフローへの入力として渡すこともできます。

> **注:** 要求されたアイテム[sc_request_item] テーブルに対して宣言されたワークフローには、特定の種類の入力変数があります。これらの変数の使用方法を理解するには、「ワークフローカタログ変数」を参照してください。

ワークフロー変数は、ワークフローエディターのギアメニューから使用可能なフォームで宣言されます。

手順

1. [すべて] > [ワークフロー] > [ワークフローエディター]に移動します。
2. ワークフローを編集してチェックアウトします。
3. [ワークフローアクティビティ] メニューを選択し、 入力の編集 選択します。
4. 既存の変数を選択するか、[新規] を選択します。

   列名フィールドに記入してください。スクリプトから変数にアクセスするときは、この値を使用します。

   ワークフロー変数はワークフローキャンバスに表示されず、[ワークフロー アクティビティ] メニューからの表示にのみ使用できます。

   入力変数はスクリプトで使用できます。スクリプトから入力変数にアクセスするには：

```
var input  = workflow. variables. variableName //get the workflow variable identified by column name.
```

ワークフロー外部からの変数への値の割り当て

ワークフローで宣言された後、ワークフローが開始される変数に値を割り当てることができます。

次の例は、スクリプトインクルード、ビジネスルール、またはUIアクションでワークフロー変数の値を設定する方法を示しています。

```
//Declare an instance  of workflow.js
var wf  = new Workflow ( ) //Get the workflow id
var  wfId  = wf. getWorkflowFromName ( "Workflow Name" ) ;
//Start workflow, passing along name : value pair(s) for mapping to
 variable
//where input_var_name is the name of the variable declared in gear menu
//and input_var_value is whatever that value should be for this execution
 of
//workflow
wf. startFlow (wfId , null , "Workflow Name" , {input_var_name :
 input_var_value } ) ;
```

複数の変数を渡すより読みやすい方法を示すもう1つの例は、オブジェクトを宣言し、オブジェクトに名前/値を追加し、それを渡すことです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
//Declare an instance  of workflow.js
var wf  = new Workflow ( )
//Get the workflow id
var  wfId  = wf. getWorkflowFromName ( "Workflow Name" ) ;
//Start workflow, passing along object containing name/value pairs
 mapping to inputs expected by the workflow
var vars  = { } ;
vars. input_var_name1 = input_var_value1 ;
vars. input_var_name2 = input_var_value2 ;
// add as many variables as your workflow is expecting, then pass the
 object
wf. startFlow (wfId , null , "Workflow Name" , vars ) ;
```

メインワークフロー内部からのサブフロー入力値の割当

入力を受け入れるワークフローが別のワークフロー内から呼び出された場合、それらの入力値は、ワークフロー アクティビティのUI内のワークフローキャンバスから設定できます。サブフロー用に宣言された各入力変数には、アクティビティにテキストボックスの入力領域が表示されます。これらのテキストボックス内で、変数はスクラッチパッドまたは現在のレコードのいずれかから任意の値で設定できます。

詳細については、「サブフローとして使用されるワークフロー」を参照してください。

ワークフロー入力変数の値の読み取り

ワークフロー入力変数の値は、現在のワークフローオブジェクトをドットで歩くことによってjavascriptを受け入れるワークフロー内のどこにでもアクセスできます。

```
var readValue = workflow.inputs.variable_name;
```

スクラッチパッド変数

文字列ベースの変数をワークフロー アクティビティ間の名前と値のペアとして格納して共有します。

スクラッチパッドは、実行中のワークフローのインスタンスに対してグローバルであり、したがって、すべてのアクティビティに同じように使用できます。

宣言

スクラッチパッド自体は、実行中のワークフローで自動的に使用可能で、特定の宣言は必要ありません。変数は、変数を参照することによって同時に宣言され、スクラッチパッドに格納されます。例：

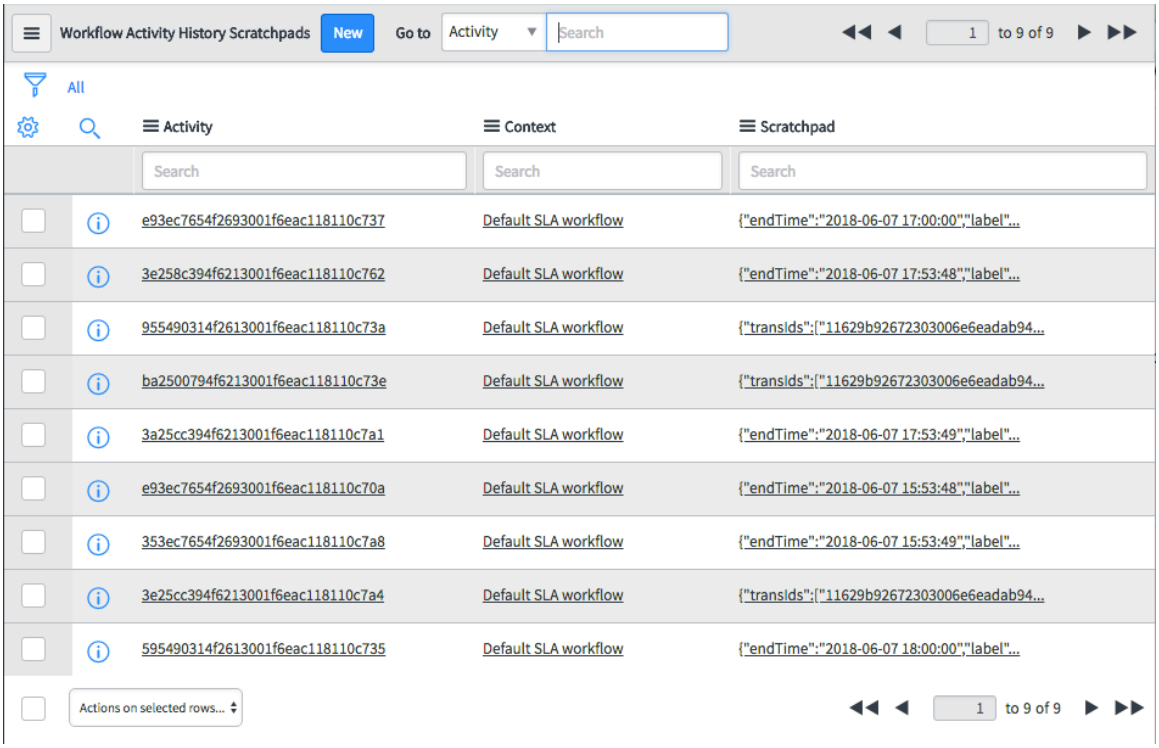
```
workflow.scratchpad.variableName = variableValue;
```

表示

ワークフローアクティビティ履歴スクラッチパッド [wf_history_scratchpad] テーブルからのアクティビティスクラッチパッドの値を表示します。ワークフローアクティビティ履歴スクラッチパッドは、ワークフローアクティビティ履歴レコードの埋め込みリストです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロー アクティビティ履歴スクラッチパッド



アクセスと割り当て

スクラッチパッドの値にアクセスしたり、割り当てたりするには、標準のJavaScriptオブジェクト表記法を使用します。たとえば、このフォーマットを使用して特定のスクラッチパッド変数値を割り当てます。

```
workflow.scratchpad.variableName = variableValue;
```

この形式を使用して、JavaScript変数をスクラッチパッド変数に割り当てます。

```
var myValue = workflow.scratchpad.variableName;
```

現在の変数

現在は、ワークフローのプロパティテーブル内のテーブルへの関連付けまたはカタログアイテムに関連付けられて、ワークフローを開始したデータベースGlideRecordがあります。

宣言

現行の変数は、データベース・レコードをサポートする`dictionary.xml`ファイルで定義されている列です。実行時に現在のレコードに変数を追加する方法はありません。

表示

現在のレコードの変数は、それらを使用するアプリケーション全体で、グライドフォームとリストに表示されます。

アクセスと割り当て

変数にアクセスしたり、ワークフロー アクティビティ内の変数に値を割り当てるには、グライド要素を参照して現在のレコードから値を取得します。

```
var myVarValue = current.getElement(nameOfTheField);
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

または

```
var myVarValue = current.fieldName;
```

または

```
current.variableName.setValue( "A Variable Value");
```

ワークフローカタログ変数

要求アイテム[sc_req_item] テーブルに関連付けられているワークフローには、特定のタイプのワークフロー入力があります。

このワークフローへの入力は基本的に質問です。回答の組み合わせは、特定のカタログタスクに関連付けられると、タスクフォームのオプションになります。これらのオプションは、ワークフロー内のカタログタスクアクティビティによって生成されます。

スコープ

サービスカタログとワークフローの目的のために、変数の有効範囲は、ワークフロー内のカタログタスクアクティビティに対する可用性を決定します。変数は、グローバルまたはカタログ固有の項目として定義できます。変数がカタログ項目に関連付けられ、カタログタスクを生成するワークフローがカタログ項目に関連付けられている場合、変数スコープは、ワークフロー内のカタログタスクアクティビティ内でマッピングに使用できる変数を決定します。ワークフローが要求アイテム[sc_request_item] に関連付けられていて、カタログアイテムに特に関連付けられていない場合、空のCatアイテムフィールド値を持つカタログ変数は、ワークフロー内のすべてのカタログタスクアクティビティで使用できます。

宣言

要求されたアイテムカタログ変数は、カタログアイテムレベルまたはグローバルレベルで宣言できます。

このタスクについて

ワークフローエディタのコンテキストメニューを使用して、グローバルカタログ変数を宣言できます。

また、 グローバル変数宣言オプション2 をご覧ください。

手順

1. [すべて] > [ワークフロー] > [ワークフローエディター]に移動します。
2. 要求アイテム[sc_req_item] テーブルに対して実行されるワークフローを開き、チェックアウトします。
3. メニューアイコンをクリックしてカタログ変数の編集 を選択します。
4. 新規をクリックして新しい変数を作成するか、既存の変数を選択します。
5. [グローバル] ：チェック ボックスをオンにします。
6. [送信] をクリックします。

グローバル変数宣言オプション2

グローバルカタログ変数は、サービスカタログを使用して宣言できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [サービスカタログ] > [アイテム変数]に移動します。
2. ワークスペースに表示される変数のリストには、 **Cat** Item ! **= <blank>** のデフォルトのフィルターがあります。**Cat Item = <blank>** に フィルターを変更 して、クエリを実行します。

   表示されるカタログ変数は、ワークフロー内から開始されるすべてのカタログタスクで使用できます。
3. [新規] をクリックして新しい変数を作成します。
4. カタログアイテムフィールドを空白のままにします。
5. [グローバル] ：チェック ボックスをオンにします。
6. [送信] をクリックします。
   また、 グローバル変数宣言オプション1 。

カタログ項目固有の変数宣言オプション1

カタログアイテム固有の変数を宣言できます。

このタスクについて
これらの変数は、参照されているカタログ項目でのみ使用できます。 カタログアイテムフィールドを変数レコードに追加します。

手順

1. [すべて] > [サービスカタログ] > [カタログ変数 **(Catalog Variables)]** > [アイテム変数]に移動します。
   ワークスペースに表示される変数のリストには、 **Cat** Item ! **= <空白>** のデフォルトのフィルタがあります。
2. カタログアイテム参照フィールドにカタログ項目を入力または選択します。
   選択するカタログアイテムカタログ変数の範囲と可用性をその特定のカタログ項目に限定します。
3. [送信] をクリックします。
   また、 カタログアイテム固有の変数宣言オプション2 もご覧ください。

カタログアイテム固有の変数宣言オプション2

カタログ項目レコードをカタログ項目レコードから直接宣言することができます。

このタスクについて
この方法でカタログ変数を作成すると、カタログアイデムリファレンスが自動的に選択されたカタログアイテムに設定されます。

手順

1. [すべて] > [サービスカタログ] > [カタログ定義] > [アイテムの管理] に移動します。
2. カタログアイテムを選択します。
   変数関連リストに移動します。この関連リストを使用して宣言されたすべての変数には、現在のカタログアイテムのカタログアイテム参照値があります。
3. 変数関連リストで、新規をクリックします。
4. あなたがカタログアイテムフィールドは、以前に選択または作成されたカタログ項目を正しく参照します。
5. 質問セクションまたはタブに移動するか開きます。
6. 質問を追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [名前] を追加します。
   変数名には空白を入れてはならず、数字で始めることはできません。
8. [送信] をクリックします。
   また、 カタログ項目固有の変数宣言オプション1 もご覧ください。

表示

カタログ固有のアイテム変数は、プロセス内で変数が表示される場所に応じていくつかの場所で表示されます。

宣言が発生する可能性があり、変数はメニューの中から、アイテムの更新モジュールとサービスカタログのアイテム変数モジュールの両方の中から見ることができます。

ワークフロー内で、カタログ固有の項目変数は、カタログタスクアクティビティの下部にあるスラッシュバケットの形式でカタログタスクアクティビティに使用できます。選択されている項目変数は、ワークフローを実行しているカタログタスクのインスタンスによって生成されるタスクに表示される質問と回答のペアです。

ワークフローが特定のカタログアイテムに関連付けられている場合、その関連付けはカタログタスクアクティビティのslushbucketに表示されるアイテム変数のフィルタとして機能します。

変数が最後に表示される場所は、カタログタスク項目によって生成されるタスクフォームです。slushbucketで選択された変数は、タスクフォームでユーザーに表示される質問と回答のペアです。

アクセスと割り当て

カタログアイテム変数は利用可能であり、特定のカタログタスクカタログタスクのslushbucketエントリを使用して（それによって特定のタスクに対して）アクティビティを実行します。

タスクを操作しているユーザーは、変数の値を入力します。

スクリプト内のカタログアイテム変数の値にアクセスするには：

```
var now_GR  = current ; // or create and query a new GlideRecord
var itemVariable  = now_GR. variables [ variableName  ] ; //access the
 service catalog variable identified by the variable name.
var itemVariableValue  = itemVariable. getValue ( ) ;
var itemVariableName  = itemVariable. getName ( ) ;
var itemQuestion  = itemVariable. getQuestion ( ); //All GlideappQuestion
 API are accessible on itemQuestion
```

ワークフローイベント

このシステムでは、登録されたプラットフォームイベントとワークフローイベントの2種類のイベントが使用されます。

登録イベント

登録されたイベントはビジネスルールで作成され、レコードがデータベースに挿入されたときに電子メール通知を送信するなどのタスクに使用されます。ワークフローイベントはワークフロー内でのみ登録され、プラットフォーム内の他の場所では使用されません。登録されたプラットフォームイベントは、外部使用のワークフローによってトリガされますが、ワークフロー内では使用できません。

ワークフローイベント

ワークフロー・イベントは、イベント・レジストリーを使用して登録されたプラットフォーム・イベントとは異なるルールに従います。プラットフォームイベントは、イベント登録[sysevent_register]テーブルに入力され、使用するプラットフォームプロセスで使用できます。ワークフローイベン

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

トは、ワークフローエンジン専用にトリガされ、ワークフローコンテキストの実行を指示するためにのみ使用されます。イベントがワークフローに登録されると、Workflow Executing Activity [wf_executing] テーブルの**registered_events**カラムに現在実行中のアクティビティにアタッチされます。

ワークフローイベントは、スクリプトインクルードまたはスクリプト実行アクティビティなど、ワークフローコンテキストにアクセスできる任意のスクリプトソースからワークフローにブロードキャストすることもできます。この場合、イベントキャンセル特定のコンテキストのWorkflow Executing [wf_executing] テーブル内のすべてのレコードに渡されます。

レジストリまたはブロードキャストのいずれの場合でも、イベントは現在実行中のアクティビティに関連付けられたアクティビティ定義によって処理されます。各アクティビティ定義には、一連のハンドラーが付属しています。たとえば、ほとんどのアクティビティには、*onExecute*、*onCancel*、および*onUpdate*イベントハンドラが付属しています。より具体的なイベントの例として、**Approval - User**アクティビティには、承認アクティビティの作業に固有の*onDetermineApprovalState*もあります。

複数の並列イベント

単一のワークフローには、ワークフローが別々のワークフローブランチ上で重複するタイマーを持つ場合など、複数のイベントスレッドを同時に実行できます。追加のスレッドが最初のスレッドの前に完了すると、システムは、追加のスレッドからのイベント情報をWorkflow Queued Commands [wf_command] テーブルに格納します。最初のスレッドが完了すると、システムは追加スレッドによって保存された情報を取得し、各スレッドからのイベント情報を含むワークフローを処理します。

ベースシステムのワークフローイベント

いくつかのワークフローイベントが基本システムで利用可能です。

ベースシステムのワークフローイベント

イベント	説明	目的	使用の方法	
activityComplete	*onActivityComplete*イベントハンドラに応答するためにアクティビティ定義で使用されるストリング値。	ワークフロー実行アクティビティ [wf_executing] テーブルのレコードに、同じワークフローコンテキスト内の他のアクティビティの完了を通知します。	アクティビティで`wf_executing.notify_termination`ブール値を設定できる場合は、*onExecute*イベント中に値をtrue（`activity.notify_termination = true`）に設定します。	
その他のイベント	**Join**アクティビティがotherEventに応答するために使用する文字列値です。	完了したotherEventについてワークフロー実行アクティビティ [wf_executing] テーブルのレコードに通知します。	**Join**アクティビティは、**n**回前のアクティビティから遷移します。これらのこれまでのアクティビティはすべてwf_executingレコードを作成し、レコードがすでに存在するかどうかを確認します。**Join**がすでに存在する場合、実行中の遷移によって作成された**Join**は削除のためにwf_executingレコードを設定します。	
タイマー	期限切れの**Timer**アクティビティに応答するためにワークフロー アクティビティによって	wf_executingレコードに完了し、タイマーイベントを発生させたタイマーアクティビティについ	**Timer**アクティビティは、スクリプトを呼び出すジョブのスケジュールを設定します。スクリプトはfireEvent（wf_executing、timer）を呼び出します。	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ベースシステムのワークフローイベント (続く)

イベント	説明	目的	使用の方法
	使用される文字列値です。	て通知することを許可します。	
execute	期限切れの**Timer**アクティビティに応答するためにワークフロー アクティビティによって使用される文字列値です。	最初の状態がwf_executingテーブルのレコードに通知されます。 実行中その主な作業を進めてください。	ワークフローエンジンは、実行されたトランジションごとに、実行中の状態を持つ実行レコードを作成します。作成されると、実行中のレコードは処理のためにキューに入れられます。キュー内の各アイテムについて、Rhinoグローバルが確立され、実行レコードを駆動するアクティビティ定義がインスタンス化され、`run()` 関数が呼び出されます。レコードの状態が実行の場合、この関数は常に*`onExecute`*を呼び出します。
実行（特に ロック ）	特定のロックを取得しようとする待機中のロックに応答するために**Lock**アクティビティが使用する文字列値です。この実行は、別のスレッドで指定された間隔で呼び出され、外部イベントとして扱われるため、以前の実行とは異なります。	指定された待機時間が経過し、再度ロックを取得する必要があることを実行するのを待機しているwf_executingレコードに通知します。	**Lock**アクティビティは、ワークフロースクリプトインクルードのfireEvent（wf_executing、'execute'）メソッドを使用するスクリプトでジョブをスケジュールします。
decideApprovalState	現在のレコードの全体的な承認ステータスの変更に対応する承認アクティビティで使用される文字列値です。	wf_executingレコードに、タイマーイベントを完了しトリガした承認に関する承認アクティビティを通知します。	承認コーディネーターは、イベントの登録とイベントのトリガーを行います。子の承認には、承認状態を決定するリスナーがあります。
キャンセル（アクティビティ定義内から）	ワークフロー アクティビティがキャンセル要求に応答するために使用する文字列値。	ワークフローがキャンセルされるコンテキスト内のすべてのwf_executingレコードに通知します。	**End**アクティビティでは、グローバルworkflow.broadcastEvent（ 'cancel'）を使用して、現在実行中のwf_executingレコードを中断します。これにより、これらのレコードの状態がキャンセルに変更されます。
キャンセル（現在のコンテキスト外）	ワークフロー アクティビティがキャンセル要求に応答するために使用する文字列値。	このイベントは上記のキャンセルイベントと同じで、同じイベントを処理します。しかし、このイ	どのスクリプトも、ワークフロースクリプトインクルードを介して、既知の実行中のコンテキストに対してキャンセルを呼び出すことができます。たとえば、`var w = new Workflow();`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ベースシステムのワークフローイベント (続く)

イベント	説明	目的	使用の方法
		ベントの管理は微妙に異なります。このイベントは、ワークフローがキャンセルされていることをコンテキスト内のすべてのwf_executingレコードに通知します。このイベントは、 *onCancel* 実行中の各アクティビティ定義のイベントハンドラですが、イベントは別々に呼び出されます。特に、アクティビティ定義の外部から取り消すコールは、現在のミューテックスによってブロックされます。これは、イベントが現在のミューテックスのパラメータ内でまだ動作している現在実行中のアクティビティを中断しないという点で重要な違いです。	w.cancel（context）; `// context`はキャンセルされるコンテキストのGlideRecordです。
停止する（ **End**アクティビティを参照してください）	**End**アクティビティはこのイベントをチェックします。	停止イベントが現在のイベントである場合、 **End**アクティビティはバイパスされます。	**End**アクティビティで唯一です。
リスナー	ワークフロー（サブフロー）アクティビティがイベントとしてトリガする文字列値です。	メインワークフローがサブフローを呼び出すとき、ワークフローはサブフローのコンテキストのIDをスクラッチパッドに保持します。サブフローが完了すると、ビジネスルールを介してリスナーイベン	リスナーイベントは、サブフローの完了時に親コンテキストに渡され、ワークフローアクティビティのonListenerアクションによって管理されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ベースシステムのワークフローイベント (続く)

イベント	説明	目的	使用の方法	
		トがトリガーされます。		
probe_complete	オーケストレーション アクティビティによってワークフロー内でトリガされた文字列値。MIDサーバーがタスクを完了したことを示します。	probe_completeイベントは、ワークフローヘルパー関数*handleEventByIds*を介してオーケストレーションセンサープロセッサからトリガーされます。	*onProbe_complete*イベントハンドラは*WebServiceActivityHandler*にあり、ほとんどのオーケストレーションアクティビティで使用されます。	
一時停止	SLAからワークフローに送信され、**Timer**アクティビティを一時停止する文字列値です。	SLAが一時停止されている場合、タイマーが実行されている場合は、SLAワークフローを一時停止する必要があります。	SLAタイマー専用です	
再開	タイマーアクティビティが一時停止したタイマーを再開するために使用する文字列値（一時停止を参照）。	SLAが再開されると、SLAワークフローも再開する必要があります。	SLAタイマー専用です。	

ワークフローに関連するイベントをグライドします

ワークフローでは、いくつかの Glide イベントが使用されます。

ワークフローグライドイベント

イベント	説明	目的	使用	ソース	スレッド	リスナー
挿入	グローバルイベントは、スクリプトエンジンを引き起こすGlideRecordの挿入時に設定され、ワークフローエン	現在のGlideRecordに関連付けられているワークフローを、要求アイテムやSLAタイマーのように参照、またはGlideRecordのテーブルに関連付	ワークフローでこれを明示的に顧客側で使用することはありません。これはグライドエンジンの一部であり、このイベントではワークフローができるのはスタートだけです。ワークフローは、スクリプトを使用して手動で開始することもできます。	ワークフローエンジン	現在のスレッド、現在のミューテックス	挿入のユーザーアクション

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフローグライドイベント (続く)

イベント	説明	目的	使用	ソース	スレッド	リスナー
	ジンを介して起動します。	けられた条件で開始します。				
更新	グローバルイベントは、スクリプトエンジンの原因となるGlideRecordの更新時に設定され、それを介してワークフローエンジンが起動します。	Workflow Context [wf_context] テーブルを参照して、現在のGlideRecordに関連付けられている実行中のワークフローをドキュメントIDで検索します。	ワークフローでこれを明示的に顧客側で使用することはありません。これは Glide エンジンの一部であり、このイベントではワークフローができるのはスタートだけです。	ワークフローエンジン	現在のスレッド、現在のミューテックス	GlideRecordのアップデートのユーザアクション
削除	グローバルイベントは、スクリプトエンジンを引き起こすGlideRecordの削除時に設定され、ワークフローエンジンを使用して起動します。	Workflow Context [wf_context] テーブルを参照して、現在のGlideRecordに関連付けられている実行中のワークフローをドキュメントIDで検索します。	ワークフローでこれを明示的に顧客側で使用することはありません。これは Glide エンジンの一部であり、このイベントではワークフローができるのはスタートだけです。	ワークフローエンジン	現在のスレッド、現在のミューテックス	GlideRecordの削除のユーザアクション
クエリー	グライドデータベースのクエリに基づいて設定されたグローバルイベントで、スクリプトエンジンとそのワークフローエンジンが起動します。	Workflow Context [wf_context] テーブルを参照して、現在のGlideRecordに関連付けられている実行中のワークフローをドキュメントIDで検索します。	ワークフローでこれを明示的に顧客側で使用することはありません。これは Glide エンジンの一部であり、このイベントではワークフローができるのはスタートだけです。	ワークフローエンジン	現在のスレッド、現在のミューテックス	GlideRecordのクエリのユーザアクション

ワークフローイベント固有の関数

特にワークフローイベントに関連するいくつかの機能があります。

ワークフローイベント固有の関数

関数	説明
registerForEvent（eventName）	文字列として表されたイベントを`wf_executing.registered_event`ルドに書き込むワークフロー環境の関数です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフローイベント固有の関数 (続く)

関数	説明
unRegisterForEvent（eventName）	`wf_executing.registered_events`フィールドに書き込まれたイベントを表す文字列値を削除するワークフロー環境の関数です。
fireEvent（eventName）	`wf_executing.registered_events`フィールドの内容を検査し、その内容を渡された`eventName`と比較するワークフロー環境の機能です。
fireEvent（eventRecord、eventName）	特定のワークフロー実行アクティビティ [wf_executing] レコードにイベントを送信するワークフロー環境の機能です。`eventRecord`はwf_executing型のGlideRecordです。
fireEvent（eventRecordSysId、eventName）	特定のワークフロー実行アクティビティ [wf_executing] レコードにイベントを送信するワークフロー環境の機能です。`eventRecordSysId` wf_executing型のGlideRecordのsys_idです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフローイベント固有の関数 (続く)

関数	説明
fireEvent（eventRecordSysId、eventName、optionalJSONObject）	特定のワークフロー実行アクティビティ [wf_executing] レコードにイベントを送信するワークフロー環境の機能です。`eventRecordSysId` wf_executing型のGlideRecordのsys_idです。
broadcastEvent（contextId、eventName）	状態にかかわらず、現在実行中のすべてのWorkflow Executing Activity [wf_executing] レコードに指定されたコンテキストでイベントを送信するワークフロー環境の機能です。
broadcastEvent（eventName）	状態に関係なく、現在実行中のすべてのWorkflow Executing Activity [wf_executing] レコードに現在のコンテキストでイベントを送信するワークフロー環境の機能です。

イベント固有のワークフロー アクティビティ

次のワークフロー アクティビティはイベントをトリガします。

イベント固有のワークフロー アクティビティ

アクティビティ名	説明	目的	使用	ソース	スレッド	リスナー
イベントを作成	ワークフローイベントではなく、イベント登録からのイベントが必要です。	ワークフロー アクティビティ [wf_activity] テーブルで指定された通知イベントを発生させます。	1. システムポリシー > イベント > レジストリに移動します。 2. イベントを作成します。 3. [システムポリシー] > [テンプレート]に移動して、メールテ	イベント登録	現在のスレッドでトリガされ、通知のワーカース	ワークフローの外部の通知スレッド

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イベント固有のワークフロー アクティビティ (続く)

アクティビティ名	説明	目的	使用	ソース	スレッド	リスナー
	このアクティビティは、お知らせワークフローツリーのカテゴリです。		ンプレート を作成します。 **4.** [システムポリシー] > [メール] > [通知]に移動します。 **5.** 新しい通知を作成する は作成したテンプレートを作成して送信するイベントによってトリガーされます。 **6.** ワークフローキャンバスで、[イベントの作成] アクティビティをキャンバスに追加し、新しく登録されたイベントに関連付けます。 ワークフローが実行されると、イベントが作成され、イベントに関連付けられた電子メールが送信されます。		レッドで処理されます。ワークフローで決して処理されません	
WF イベント待ち	ベースシステムテーブルのワークフローイベントで説明されているように、現在のコンテキスト内	現在のコンテキストの別のトランジションブランチがイベントをトリガするのを待ちます。	イベント名を入力として受け取ります。アクティビティが実行されると、指定されたイベント名が**Registered_events**列に格納された文字列配列に追加されます。この列の値は、アクティビティが実行されているときにアクティビティが待機するすべてのイ	**Wait for WF Event**アクティビティには、変数に渡された値に対して現在のイベントをテストする汎用の`onUnhandledEvent`スクリプトがあります。一致する場合、 **WF**イベントを待つワークフローを前方に移動します。	現在のスレッドまたはスクリプトからトリガされます	`onUnhandledEvent` の **WF**イベントを待つアクティビティです

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イベント固有のワークフロー アクティビティ (続く)

アクティビティ名	説明	目的	使用	ソース	スレッド	リスナー
	でのみワークフローイベントを聞きます。このアクティビティは、ワークフローツリーの条件カテゴリにあります。		ベントのリストに入っています。			

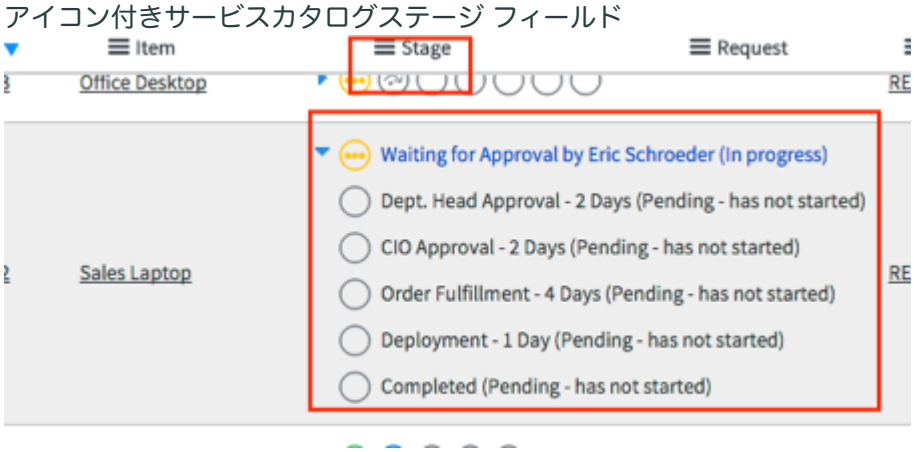
ワークフローステージ

ワークフローは、ステージ フィールドとして指定されたフィールドを更新することによって、ワークフローの進行状況を示すことができます。

たとえば、インシデント[インシデント] テーブルには、 インシデント状態フィールドは進行状況を示しますが、サービスカタログではステージ フィールドを使用します。

可能なステージ値を通るワークフローの進行状況を示すために、インターフェイスはステージ フィールドワークフローのプロパティで選択します。使用可能なフィールドは、ワークフローで使用されるテーブルによって異なります。フィールドに選択リストがある場合は、その選択肢がワークフローのステージ値として使用できます。フィールドがワークフローフィールドの場合は、ワークフローの進行状況を示すアイコンが表示されます。 ステージ フィールドです。

アイコン付きサービスカタログステージ フィールド



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフローにステージが追加されると、ステージを各ワークフロー アクティビティに割り当てることができます。ワークフローの実行時にステージが割り当てられたアクティビティが発生した場合、ワークフローエンジンはワークフローコンテキストに関連付けられたレコードにステージを割り当てます。

要求アイテム[sc_req_item] テーブルを使用するワークフローの場合、ステージ フィールドは自動的にステージテーブルのフィールドと変更することはできません。要求アイテムテーブルで実行中のワークフローに対して表示されるステージの状態は、ワークフローアクティビティの状況に基づいています。

- アクティビティがアクティブな場合、ステージは進行中の状態で表示されます。
- アクティビティが処理待ちまたは完了状態の場合、ステージはこの状態を反映します。
- アクティビティがキャンセルされた場合、 リクエストがキャンセルのステージ フィールドが表示されます。wf_stageテーブルの "Canceled"ラベルセットは予約語で、ステージ フィールドには表示されません。

ステージ値の導出方法

ステージ値は、インターフェイスのさまざまなソースから取得されます。

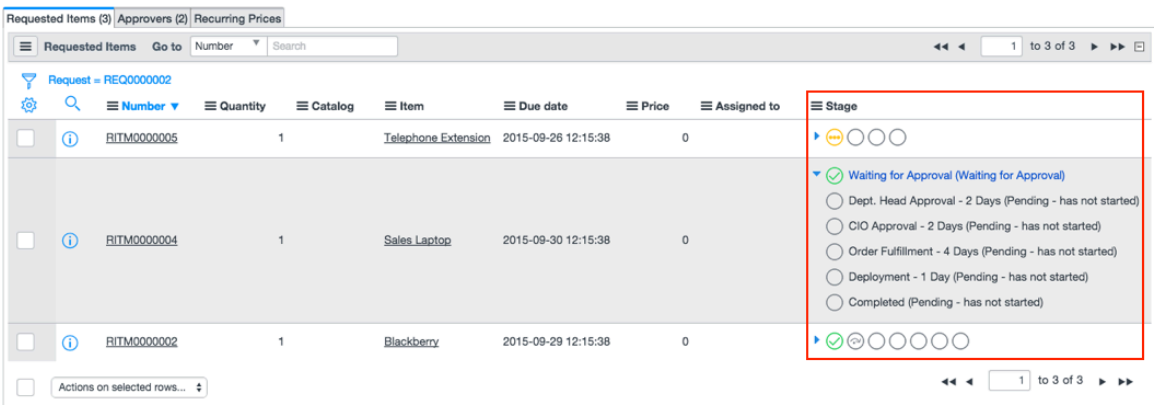
注: ワークフロー・ステージをセットとして管理する最新の方法も使用できます。ステージのグループ化と再利用の詳細については、 ワークフローステージ をご覧ください。

ステージ値は、次のソースから取得されます。

- ステージ列の選択：ワークフローのステージ列として選択された列に定義された選択項目です。
- 表のデフォルトのステージ ：選択されたテーブルのStage Default [wf_stage_default] テーブルで定義されたステージです。
- ワークフロー固有の段階 ：ワークフローステージ[wf_stage] テーブルで定義されたワークフローにのみ適用されます。
- 既存のレコードのステージ値 ：指定された値からの値ステージワークフローに割り当てられたテーブルの列は、既存のレコードから継承されます。

ワークフローのステージ フィールドがステージという名前のテーブル列である場合、ワークフローの進行状況はステージ列を含む任意のリスト ビューに表示されます。

リストのステージ



リストビューに表示されるステージ値には、実行中のワークフローアクティビティに基づく状態が伴います。アクティビティに指定されたステージがあり、そのアクティビティがワークフローで現在アクティブな場合、ステージは進行中の状態で表示されます。同様に、アクティビティが処理待ちまたは完了状態は、この状態を反映しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例

ワークフローテーブルが Request Item [sc_req_item] の場合、ステージ フィールドは自動的にステージその表の列は変更できません。リクエスト項目の次の段階の値は、ディクショナリエントリ [sys_dictionary] テーブルの選択リストに表示されます。

- 承認待ち
- 達成
- Delivery

さらに、Request Itemテーブルには、次のデフォルトステージがあります。

- 要求がキャンセルされました
- 完了

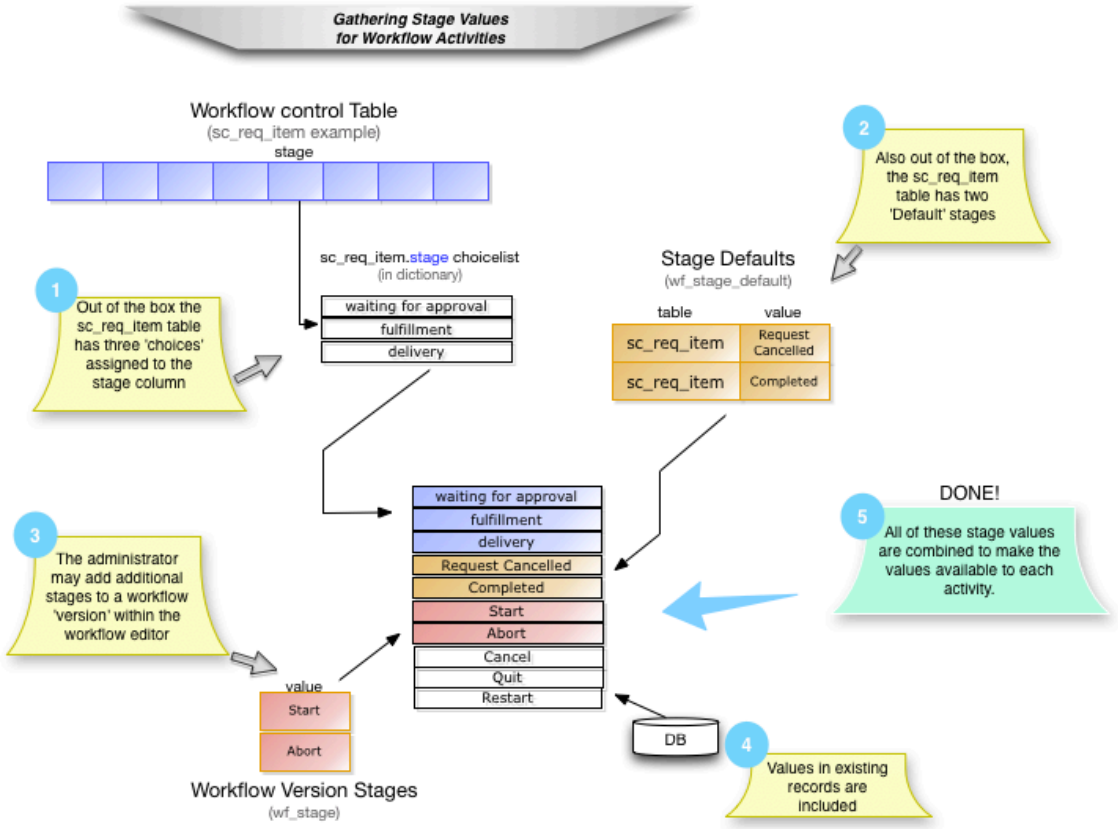
注: アクティビティがキャンセルされると、[Request Cancelled] がステージ フィールドに表示されます。wf_stageテーブルの "Canceled"ラベルセットは予約語で、ステージ フィールドには表示されません。

ワークフローエディタで使用可能なアクティビティステージを編集すると、次のステージ値がリストに表示されます。

- 承認待ち
- 達成
- Delivery
- 要求がキャンセルされました
- 完了

次の図は、Request Itemテーブルからステージ値を収集して、 ステージワークフローアクティビティのリストに取り込むプロセスを示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注: Request Item [sc_req_item] 以外のテーブルを使用してワークフローを作成する場合は、ステージ フィールドワークフローのためのワークフロープロパティに段階を持たせる必要があります。

ワークフローステージ

ワークフローステージを追加または変更できます。

始める前に

必要なロール：workflow_creator、workflow_admin、または admin

手順

1. [すべて] > [ワークフロー] > [ワークフローエディター]に移動します。
2. [新規] をクリックして新しいワークフローを作成するか、 既存のワークフローを開くことができます。
3. ワークフロープロパティフォームで、テーブルが要求アイテム[sc_req_item] テーブルでない場合は、フィールドを選択して、 ステージ フィールドプロパティを選択します。

   利用可能なフィールドはワークフローのために選択されたテーブルに依存します。
4. ワークフローにステージのリストを割り当てたら、ワークフロー アクティビティのステージ値を設定して、 ステージ フィールドをダイアログボックスに表示します。

   ワークフロー アクティビティのステージ値を設定すると、ワークフローエンジンは、実行中にアクティビティが発生したときに、そのステージをワークフローコンテキストに関連付けられたレコードに割り当てます。

   アクティビティが指定されたステージで開始されると、プラットフォームはステージ フィールドに現在の値を設定します。要求されたアイテム[sc_req_item] テーブルに対して実行されるワー

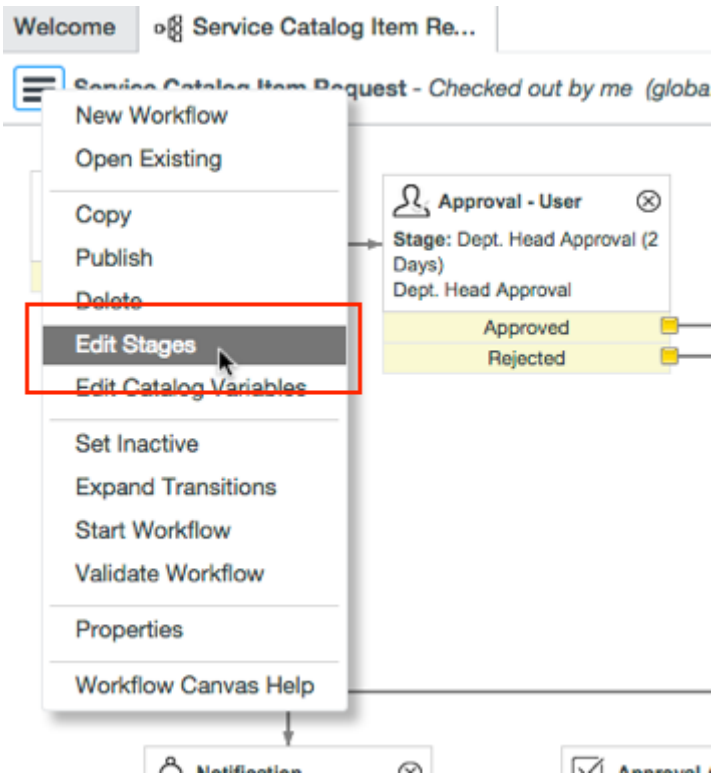
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クフローでは、 `sc_req_item.stage` フィールドは、ワークフロータイプフィールドとして定義されます。

要求されたアイテム[sc_req_item] テーブルにワークフローのステージを表示するとき、ステージ状況はワークフローアクティビティの状況に基づいています。アクティビティに指定されたステージがあり、そのアクティビティがワークフローで現在アクティブな場合、ステージには進行中状態が表示されます。同様に、アクティビティが処理待ちまたは完了状態は、この状態を反映しています。

5. 既存のワークフローのワークフロー固有のステージを編集するには、ヘッダーバーの歯車アイコンをクリックして、 [ステージを編集する] を選択します。

   これらのステージ値は、選択肢、デフォルト値、および既存の値と組み合わされます。



Example: ワークフローステージ

ステージの使用を最適化するために、ワークフロー内の複数のアクティビティにステージを割り当てることができます。たとえば、ワークフローで次のアクティビティを使用してタスクを作成する場合、

1. 承認を得ます
2. 装置を注文します
3. 装置を受け取ります
4. CMDBに機器を追加します
5. 設備をセットアップします
6. ソフトウェアをインストールします
7. ソフトウェアを構成します
8. ユーザーに配信します

次のステージが使用できます:

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 承認
- 順番
- 構成
- 配信

アクティビティのステージを次のように割り当てることをお勧めします。

ワークフロー アクティビティに追加されるステージの例

アクティビティ	割り当てられたステージ
承認を得ます	承認
装置を注文します	順番
装置を受け取ります	順番
CMDBに機器を追加します	順番
設備をセットアップします	構成
ソフトウェアをインストールします	構成
ソフトウェアを構成します	構成
ユーザーに配信します	配信

[装置の注文]、[装置の受信]、または**[CMDB**への装置の追加]アクティビティがアクティブな場合、ステージの表示には注文のステージが進行中であることが表示されます。

ステージの追加と翻訳

テーブルに使用する既定のステージを追加し、既存のワークフローにステージングすることができます

テーブルのデフォルトステージを追加します

ステージセットを作成し、任意の数のテーブルにデフォルトセットとして割り当てます。

このタスクについて

割り当てられたステージセットのステージは、関連するテーブルの新しいワークフローを作成するときに、ワークフローのバージョンステージを事前に入力します。

手順

1. [すべて] > **[Workflow]** > [デフォルトステージ **(Default Stages)** (テーブル別)]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. ステージセットを選択します。
   新しいセットを作成するには、 [新規]をクリックし、名前を入力して [送信] をクリックします。
4. 対応するテーブル を選択します。
5. [送信] をクリックします。

   選択したステージセットのステージは、対応するテーブルを使用する新しいワークフローに自動的に追加されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

既存のワークフローにステージを追加します

ワークフローに必要なステージがインポートされていないか、ワークフローテーブルに割り当てられているステージセットにない場合は、手動でワークフローに追加できます。

手順

1. [すべて] > [ワークフロー] > [ワークフローエディター]に移動します。
2. ワークフローを開いてチェックアウトします。
3. タイトルバーで、メニューアイコンをクリックし、 [ステージを編集する] を選択します。
4. ワークフローステージリストで、 新規 をクリックします。
5. ワークフローステージフォームで、必要に応じてフィールドに入力します。

   ベースシステムにすでに存在する名前または値のフィールド値は使用しないでください。

   #### ワークフロー ステージ フィールド

フィールド	説明
名前	ワークフローフィールドに表示されるステージの名前です。
値	スクリプト内など、システム内の他の場所から参照されるステージの値です。
期間	ステージのデフォルトの継続時間です。現在使用されていません。

6. [送信] をクリックします。
7. ワークフローを公開します。

ワークフロー アクティビティにステージを追加します

ステージがワークフローに追加された後、ステージをワークフロー アクティビティに割り当てることができます。

手順

1. [すべて] > [ワークフロー] > [ワークフローエディター]に移動します。
2. ワークフローを開いてチェックアウトします。
3. アクティビティをダブルクリックします。
4. アクティビティプロパティフォームのステージ フィールドで、ワークフローがアクティビティに到達したときに表示するステージを見つけて選択します。
5. [更新] をクリックします。

ワークフローステージの翻訳

ワークフロー・ステージ名の翻訳を提供して、インスタンスに対して選択された言語で名前が表示されるようにすることができます。

始める前に

インスタンスには、言語インターナショナリゼーションプラグインが既にインストールされている必要があります。詳細については「言語のアクティブ化」を参照してください。

このタスクについて

言語固有のテキストは、リスト形式で表示されるフィールドタイプ、ワークフローステージセット 、その言語を選択したユーザー向けのワークフローエディターに表示されます。フォーム上にステージを表示すると、言語固有のテキストは自動的に表示されません。フォームのステージを翻訳するには、翻訳されたテキストをワークフローフィールドの選択肢に追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インスタンスで有効になっている言語に翻訳されたテキストを追加できます。たとえば、ワークフローステージをフランス語に翻訳するには：

手順

1. インターフェイス言語を次のように設定します。 フランス語 。
2. [ワークフロー] > [ワークフローエディタ] に移動します。
3. ワークフローを開き、チェックアウトします。
4. タイトルバーで、メニューアイコンをクリックし、 [ステージを編集する] を選択します。
5. 編集する名フィールドに入力し、フランス語のユーザーに表示するテキストを入力します。

   値フィールドを変更しないでください。
6. ワークフローステージにフランス語のテキストが表示されていることを確認します。

タスクの結果

また、複数のワークフローのステージを一度に翻訳する場合は、ワークフローステージ[wf_stage]テーブルを直接編集することもできます。たとえば、ワークフローステージを複数のワークフローからフランス語に翻訳するには：

1. インターフェイス言語を次のように設定します。 フランス語 。
2. アプリケーションナビゲーションフィルタで、次のように入力します。 `wf_stage.list` 。
3. 編集する名フィールドに入力し、フランス語のユーザーに表示するテキストを入力します。値フィールドを変更しないでください。

ワークフローステージ

ステージセットは、一般的に一緒に使用されるワークフローステージの名前付きグループです。ステージセットを作成し、任意の数のテーブルにデフォルトセットとして割り当てます。ワークフローフィールドの選択リスト値をワークフローのステージとしてインポートし、ステージセットをエクスポートして新しいワークフローフィールドを作成することができます。

1つのステージセットは、通常、サービスカタログ要求の進行状況を表示するために必要なステージなどのプロセスを表します。また、特定のテーブルのワークフローのデフォルトセットとしてステージセットを割り当てることもできます。

アクティブなコンテキストでは、ワークフローステージは、ワークフローの進行状況に関する要約レベルのフィードバックを提供します。ステージアイコンは、ワークフローによって駆動されている各アクティビティのステータスを表示します。システムは、 ステージワークフローのプロパティで定義されたフィールドを使用して、可能なステージ値によるワークフローの進行状況を示します。

ワークフローステージ値の更新

アップグレード中に、ワークフローステージ[wf_stage] テーブルのレコードの値フィールドが変更されます。

- すべてのエントリは小文字になります。
- スペースと特殊文字はすべてアンダースコアに置き換えられます。

これらの変更により、システムローカリゼーション ワークフローでは翻訳されたテキストがステージ フィールドに表示されます。

新しいステージセットを作成する

ステージセットレコードを作成し、ステージセットエントリを手動で追加することで、新しいステージセットを作成できます。

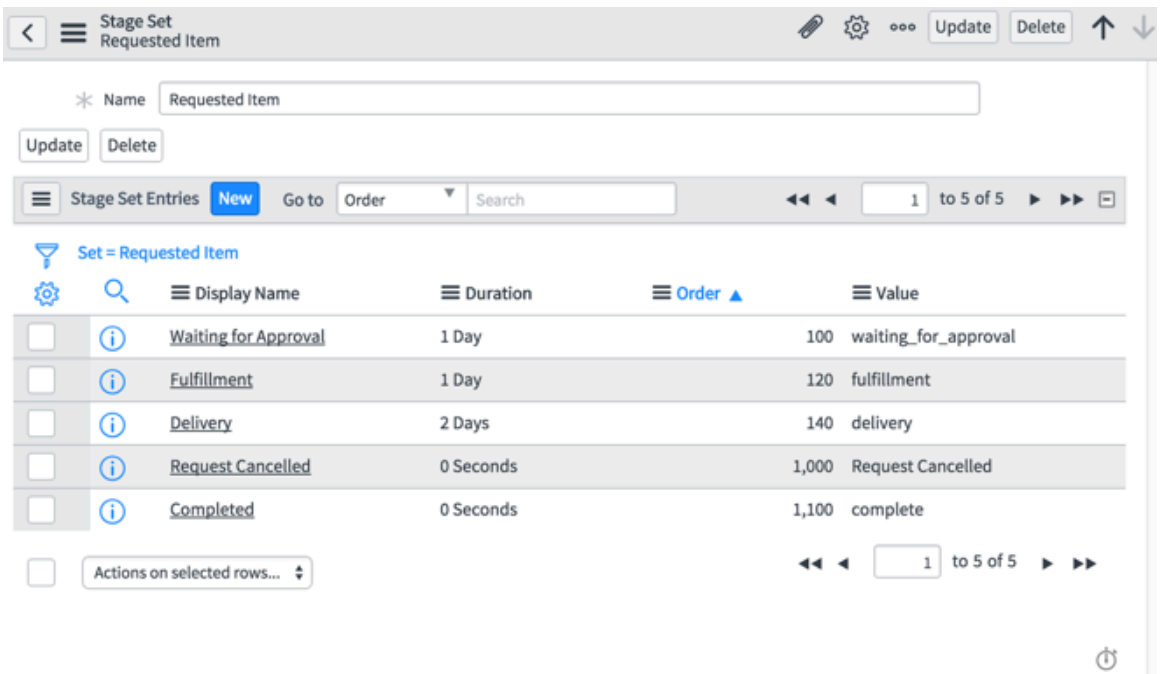
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
ステージセットレコードを作成するのは、デフォルトでテーブルで使用できない追加のステージが必要な場合だけです。

手順

1. [すべて] > **[Workflow]** > [ステージセット]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. ステージセットの目的を示す名前を入力します。

   Example
   たとえば、インベントリ追跡ワークフローまたはサービスカタログ履行ワークフローでよく使用されるステージを保持するために、要求アイテムステージセットを作成することができます。
4. [送信] をクリックします。
5. 新しいステージセットレコードを開きます。
6. [ステージセット エントリー] 関連リストで、[新規] をクリックします。
   各ステージセットエントリは、このステージセットを使用するワークフロー内のアクティビティのステージとして使用できます。
7. ワークフローフィールドに表示するステージ名を示す名前を入力します。
8. スクリプトなどでエントリを参照するときに使用する値を入力します。
9. [送信] をクリックします。
10. ステージセットエントリ関連のリストで、各エントリに一意の注文値があることを確認します。
    ワークフローの早期に表示されるステージには低い値を入力し、後のステージには高い値を入力します。



次のタスク
ステージセットは、ワークフローに追加することも、特定のテーブル用に作成されたワークフローのデフォルトステージセットとして割り当てることもできます。

デフォルトのステージセットを使用します

ステージセットを作成し、任意の数のテーブルにデフォルトセットとして割り当てます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
割り当てられたステージセットのステージは、関連するテーブルの新しいワークフローを作成するときに、ワークフローのバージョンステージを事前に入力します。

手順
1. [すべて] > **[Workflow]** > [デフォルトステージ **(Default Stages)** (テーブル別)]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. テーブルを選択します。
4. 選択したテーブルに割り当てる設定を選択します。
5. [送信] をクリックします。

選択肢リストからステージをインポート
ワークフローフィールドの選択リスト値をワークフローのステージとしてインポートすることができます。

始める前に
次のように選択リストを作成します。
- タイプワークフローのカスタムフィールドをテーブルに追加します。
- 選択リストを使用するようにカスタムフィールドを構成します。
- 新しいフィールドを作成する場合は、選択リストタイプをなしに設定し、新しく作成したフィールドの選択肢を作成します。

詳細については、「ワークフローステージ フィールドを作成します」を参照してください。

手順
1. [すべて] > [ワークフロー] > [ワークフローエディター]に移動します。
2. ワークフローを開いてチェックアウトします。
3. タイトルバーで、メニューアイコンをクリックし、 プロパティを選択します。
4. [ワークフローのプロパティ] ダイアログボックスで、[ステージタブをクリックします。
5. ステージ フィールドから適切なワークフローフィールドが選択されていることを確認します。
6. [関連リンク] セクションで、 選択リストからステージをインポートする をクリックします。
7. 選択リストをインポートするかどうかを確認するダイアログボックスで、 **OK** をクリックします。
8. [更新] をクリックします。

次のタスク
ステージセットはワークフローに追加することも、特定のテーブル用に作成されたワークフローのデフォルトセットとして割り当てることもできます。

ワークフローからステージセットをエクスポートする
ステージセットレコードに手動でステージセットエントリを追加するのではなく、既存のワークフローからステージをエクスポートして、新しいステージセットを作成することができます。

手順
1. [すべて] > [ワークフロー] > [ワークフローエディター]に移動します。
2. 新しいステージセットとしてエクスポートするステージを含むワークフローを開き、チェックアウトします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. タイトルバーで、メニューアイコンをクリックし、 入力の編集 を選択します。
4. [関連リンク] セクションで、 ステージセットにエクスポート をクリックします。
5. 新しい色の一意の名前を入力します。
6. **[OK]** をクリックします。

次のタスク
ステージセットはワークフローに追加することも、特定のテーブル用に作成されたワークフローのデフォルトセットとして割り当てることもできます。

ワークフローにステージセットを追加します
既存のワークフローに任意の数のステージセットを追加できます。

このタスクについて
複数のステージセットに同じステージセットエントリがある場合値ステージはワークフロー上に1回だけ表示されます。

手順
1. [すべて] > [ワークフロー] > [ワークフローエディター]に移動します。
2. ワークフローを開いてチェックアウトします。
3. タイトルバーで、メニューアイコンをクリックし、 入力の編集 を選択します。
4. [関連リンク] セクションで、 ステージセットからのインポート をクリックします。
5. ステージセットを選択します。
6. **[OK]** をクリックします。
7. ワークフローの必要に応じて追加のステージセットをインポートします。

次のタスク
ワークフローに必要なすべてのステージセットを追加した後、それらをワークフロー アクティビティに追加できます。詳細については、「ワークフロー アクティビティにステージを追加します」を参照してください。

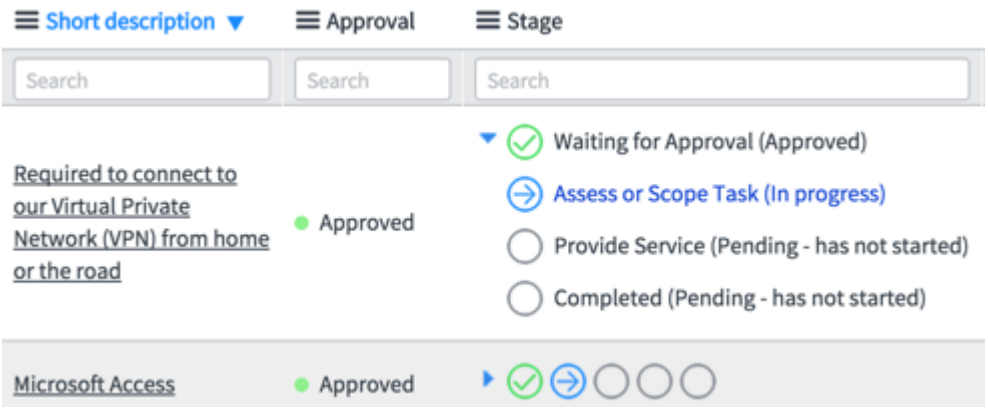
ワークフローステージ フィールドを作成します
ワークフローは、ワークフロータイプの任意のフィールドを更新することによって、ワークフローの進行状況の要約を提供できます。フィールドがワークフローフィールドの場合は、ワークフローステージの進行状況を示すアイコンが表示されます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
フォームでは、ワークフローフィールドに選択リスト値として現在のステージが表示されます。

ワークフローフィールドには、ワークフロー内の一連の状態、ステージ、フェーズ、またはタスクを表すステージアイコンが一覧で表示されます。ステージアイコンは、関連付けられたワークフローのアクティビティステージを使用して作成されます。詳細については、「ワークフローステージ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ワークフローステージ フィールドを作成するには：

手順

1. [すべて] > **[Workflow]** > [デフォルトステージ **(Default Stages)** (テーブル別)]に移動します。
2. 列ヘッダーの近くを右クリックし、**Configure** > **List Layout**を選択します。
3. 右下に新しいフィールドを作成します。
4. ワークフローで使用されるテーブルのフォームビューで、[タイプ] を [ワークフロー] に設定してフィールドを作成します。
   詳細な手順については、「テーブルのフィールドを追加およびカスタマイズする」を参照してください。
5. [保存] をクリックします。
6. ヘッダーを右クリックし、ディクショナリを設定を選択します。
7. 辞書エントリ
8. ディクショナリエントリーフォームの選択リスト指定セクションで、選択リストから**--None--**ドロップダウンを選択します。
9. [更新] をクリックします。
10. ワークフローフィールドにフォームのステージが正しく表示されるように、各ワークフローステージの選択肢を定義します。
    - 既に選択肢がある選択リストを使用してワークフロー・ステージを作成するには、選択リストからステージをインポートします。ステージは、 ステージ フィールドワークフローのプロパティで選択します。選択リストのインポートの詳細な手順については、 選択肢リストからステージをインポート をご覧ください。
    - 各選択肢の**Value**は、対応するワークフローステージの**Value**と一致する必要があります。
    - 選択またはステージのいずれにも**Value**フィールドにスペースを使用しないでください。スペースの代わりにアンダースコアを使用します。
    - 選択リストを読み取り専用にします。ワークフローによる値の制御を許可するのではなく、選択肢リストからレコードのステージ値を変更すると、ワークフロー駆動、レガシー、リニアのレンダリングが意図したとおりに機能しないことがあります。ビジネスルールまたはイベントを使用して、ワークフローが確実に進行するようにすることもできます。

    選択リストを定義する際の詳細な手順については、「選択リストのオプションの定義」を参照してください。
11. ワークフローステージをアイコンとして表示するには、ワークフローテーブルのリストレイアウトにフィールドを追加します。
    詳細な手順については、「リストレイアウトの設定」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
ワークフローフィールドを作成または更新した後：

- ワークフローで要求されたアイテム[sc_req_item] テーブルが使用されている場合を除き、ワークフロープロパティのステージ フィールドリストからワークフローフィールドが選択されていることを確認します。これらの手順の詳細については、「ステージ フィールドを選択」を参照してください。ワークフローで[要求されたアイテム] テーブルが使用されている場合、ステージ フィールドは自動的にステージテーブルのフィールドと変更することはできません。
- ワークフローを処理します。ビジネスルールやその他のスクリプトからの更新など、ワークフローフィールドに対するその他の更新は、ワークフローステージの表示を妨げることがあります。

ステージ フィールドを選択

ステージ フィールドワークフローコンテキストが、ステージ名やアクティビティの完了予定時間などの追加のワークフロー情報を表示できるようにします。

始める前に
ステージ フィールドとして使用するワークフローフィールドがステージを適切に表示するように設定されていることを確認します。これらの手順の詳細については、「ワークフローステージ フィールドを作成します」を参照してください。

このタスクについて
ワークフローが要求アイテム[sc_req_item] テーブルを使用していない限り、ワークフローテーブルのどのフィールドをステージ フィールドにするかを指定できます。要求アイテム[sc_req_item] テーブルを使用するワークフローの場合、ステージ フィールドは自動的にステージテーブルのフィールドと変更することはできません。

ワークフローステージ フィールドを追加または編集するには：

手順

1. [ワークフロー] > [ワークフローエディター] に移動します。
2. ワークフローを作成またはチェックアウトします。
3. タイトルバーで、メニューアイコンをクリックし、 プロパティ を選択します。
4. [ワークフローのプロパティ] ダイアログボックスで、[全般] タブをクリックします。
5. テーブルリストで、ワークフローフィールドを含むテーブルが選択されていることを確認します。
6. ステージタブをクリックします。
7. ステージ フィールドから適切なワークフローフィールドが選択されていることを確認します。
8. [更新] をクリックします。

ワークフローステージのフィールドに承認者を表示します

ワークフローステージのフィールドで承認者を表示したり、表示する承認者の数を変更したり、承認者の表示を無効にしたりできます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
既定では、ワークフロー駆動レンダラを使用するワークフローステージ フィールドのみが承認者の一覧を表示できます。これらのみワークフローステージレンダラタイプは承認者の表示をサポートします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- リニアレンダラ
- メインフローレンダラ
- ワークフロー駆動レンダラ

手順

1. [すべて] > **[Workflow]** > [管理 **(Administration)]** > [プロパティ **(Properties)]** に移動します。
   ワークフローのプロパティページが表示されます。
2. 次のプロパティを設定します。

プロパティ	説明
ワークフローステージに承認者を表示する場合に表示する承認者の数です。サポートされているリスト v2 レンダラーに対してのみ有効です。 glide.workflow.renderer.show_approver_limit	ワークフローステージ フィールドに表示する承認者の最大数を設定します。表示制限よりも多くの承認者がいる場合、省略記号が表示されます。 ◦タイプ：整数 ◦デフォルト値： 5
リニアレンダラーでワークフローステージを表示するときに承認者を表示します。 glide.workflow.renderer.linear.show_approver	承認者を表示するためにリニアレンダラを有効（true）または無効（false）にします。 ◦タイプ：true | false ◦デフォルト値：false
メインフローレンダラーでワークフローステージを表示するときに承認者を表示します。 glide.workflow.renderer.mainflow.show_approver	メインフローレンダラーが承認者を表示できるようにする（true）か無効にする（false）かを指定します。 ◦タイプ：true | false ◦デフォルト値：false
ワークフロー駆動レンダラーでワークフローステージを表示するときに承認者を表示します。 glide.workflow.renderer.workflowdriven.show_approver	承認者を表示するようにワークフロー駆動レンダラを有効（true）または無効（false）にします。 ◦タイプ：true | false ◦デフォルト値：true

3. [保存] をクリックします。
4. 関連するワークフローステージフィールドを含むワークフローにステージを追加します。

   注: サブフローにステージを追加する場合、親ワークフローにもステージが必要です。

5. 承認者を表示する承認アクティビティごとに、ステージ値を選択します。

   Example
   たとえば、サンプルワークフロー [サービスカタログアイテムの要求 (サービスカタログ **Item Request)]** には 2 つの承認アクティビティがあります。最初の [承認 **-** ユーザー] アクティビティには、ステージ値 `Dept. Head Approval` があります。次の [承認 **-** ユーザー] アクティビティには、ステージ値 `CIO Approval` があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
有効にしたワークフローステージフィールドのレンダラーは、承認者の表示制限まで承認者を表示します。たとえば、ワークフロー駆動のステージ フィールドには、ワークフローが承認ステージに達すると最大5人の承認者が表示されます。

ワークフローステージのフィールドアイコンとツールヒント

ワークフローステージ フィールドには、ワークフローステージを示すアイコンが表示されます。

ワークフロー用に選択されたステージレンダラーに基づいて、これらのアイコンには、追加情報を含むツールチップが表示される場合があります。

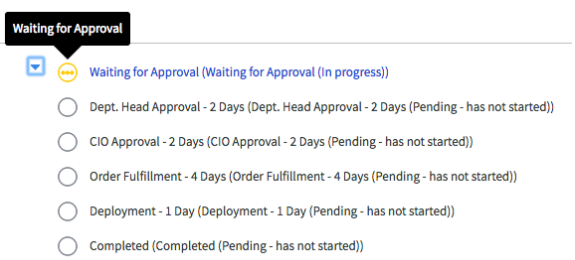
ワークフローフィールドのアイコン

アイコン	ワークフローステージ
	現在のアクティブステップ
	承認待ち
	承認拒否
	完了
	遅延（変更/要求）またはキャンセル（カタログ）
	スキップ（カタログのみ）

ステージツールチップ

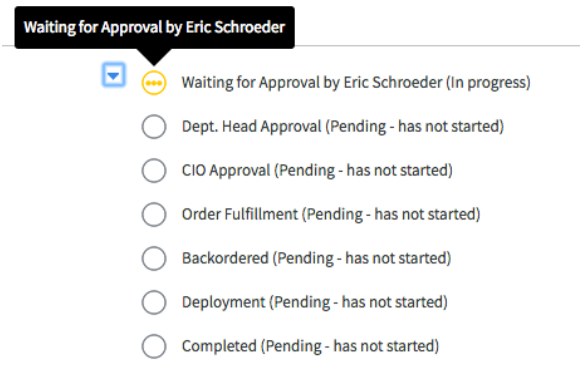
ワークフロー用に選択されたステージレンダラーに基づいて、ワークフローステージアイコンは、ステージに関する詳細情報を含むツールチップを表示することができます。

ステージレンダラーとツールチップの動作

レンダラー	ツールチップの動作
従来	ユーザーがステージを指すと、ツールチップにステージの名前が表示されます。展開されたビューでは、アクティビティのステータスがステージの横のカッコ内に表示されます。 
他のレン	ユーザーがステージを指すと、ツールチップにステージの名前が表示されます。ステージがゲート付き承認の場合、ツールヒントには承認者の名前も表示されます。展開されたビューでは、アクティビティのステータスがステージの横のカッコ内に表示されます。

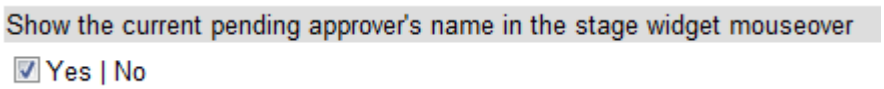
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ステージレンダラーとツールチップの動作 (続く)

レンダラー	ツールチップの動作
ダラ	

承認者の名前がツールチップに含まれないようにするには、 システムプロパティ > サービスカタログそして、 現在ステージにある処理待ちの承認者の名前をステージウィジェットのマウスオーバーに表示するチェックボックスをオンにします。

処理待ちの承認者の名前を表示するためのプロパティ



ワークフローステージレンダラー

ワークフローステージレンダラは、ワークフローがワークフローフィールドのステージをどのように表示するかを決定します。

複数のレンダラが利用可能です。

注: ほとんどのワークフローでは、ワークフロー駆動レンダラを使用する必要があります。このレンダラーは、デフォルトですべてのワークフローで使用されます。慎重に検討し、ステージがどのように表示されるかに関する特定の要件を満たすだけで、別のステージレンダラーを使用してください。

ワークフロー駆動型

ワークフロー駆動レンダラはできるだけ使用してください。このレンダラーは、ワークフローによって制御されるステージ状態を使用してステージのアイコンを表示します。アイコンは、多くの状況で意味のある方法で表示されます。このレンダラーは、メインワークフローとサブフローのステージを表示できます。アイコンの順序は、実行中のワークフローの予想されるパスによって決まります。ワークフローが進行するにつれて、ワークフローが実行しなかったパス上のステージがディスプレイから削除されます。ワークフローがそのパスに従わない限り、予想されたパス以外のパスのステージは含まれません。

ステージオーダーフィールドステージタブには2つのオプションがあります：

- [計算済み] では実際のワークフローパスを順番に使用します
- [ユーザー指定] では、ワークフローステージレコードの [順番] 列に指定されている順番を使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: 要求アイテムのワークフローコンテキストが削除された場合、その要求アイテムのステージはレンダリングできなくなります。このステージの履歴は、ワークフローコンテキストに格納されます。

メインフロー

メインフローレンダラーは、メインワークフローでのみ定義されたステージのアイコンを表示します。サブレンダリングの詳細を公開しない場合は、このレンダラーを使用します。たとえば、単一のメインワークフローで実装の詳細を処理するために複数のサブフローを実行することができます。これらのサブフローの段階では、ワークフローを開始するユーザーにとって有益な情報は提供されませんが、サブフローを編集する場合には役立ちます。このシナリオでは、メインフローレンダラーを使用すると、ユーザーエクスペリエンスが最高になります。ステージ フィールドには、不要な詳細を表示せずにワークフローのハイレベルプロセスが表示されます。

ステージオーダーフィールドステージタブには2つのオプションがあります：

- [計算済み] では実際のワークフローパスを順番に使用します
- [ユーザー指定] では、ワークフローステージレコードの [順番] 列に指定されている順番を使用します。

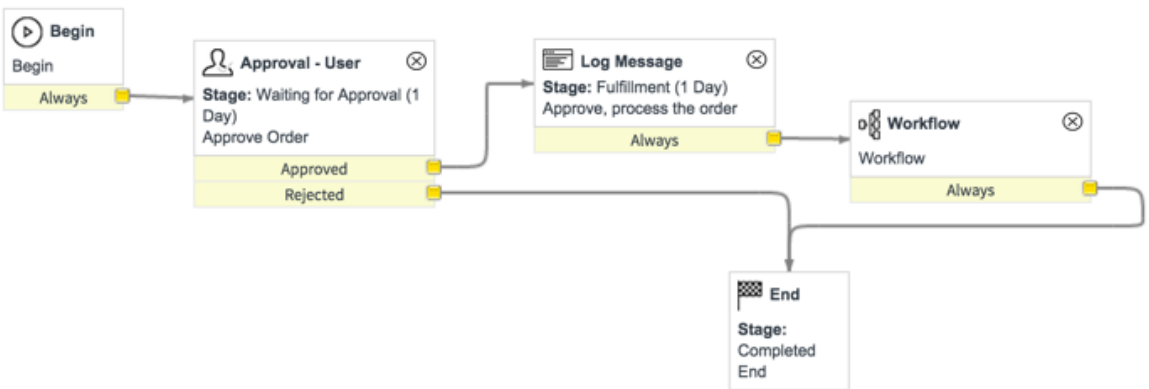
リニアー

線形レンダリングでは、メインワークフローのすべてのステージアイコンと、リストまたはフォーム上の単一ワークフローフィールド内のすべてのサブフローが表示されます。ワークフローが実行されるときにパスに従った線形シーケンスでアイコンを表示します。このレンダラーは、メインのワークフローと、メインフローが起動するサブフローの両方で定義されたステージを使用します。アイコンはユーザー指定の順序で表示されます。スキップされたステージは表示されません。

ワークフローステージを一貫した順序で表示する必要があり、ワークフローの実行方法の実際の詳細があまり重要でない場合は、このレンダラーを使用します。例えば、ワークフローは、1つまたは複数の条件ワークフローアクティビティ です。ステージ　フィールドにこれらのループを表示しても、ユーザーに有用な情報は提供されません。このシナリオでは、線形レンダラーを使用すると、ユーザーエクスペリエンスが最高になります。ステージ フィールドには、サブフローからのステージを含む、あらかじめ定義されたプロセスが一貫した順序で表示されます。

たとえば、サブフローを使用して要求されたアイテムの配信を完了するサービスカタログワークフローを作成できます。次の画像は、企業ブランドの消耗品を注文するためのメインフローとサブフローを示しています。

リニアメインフロー



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

線形サブフロー

線形レンダラーは、これらのステージすべてを1つのワークフローフィールドに表示します。親ワークフローは、承認待ち、フルフィルメント、および完了の各ステージを指定します。サブフローは、タスク、および配信**OK**ステージの配信と待機を指定します。

プログレスバー

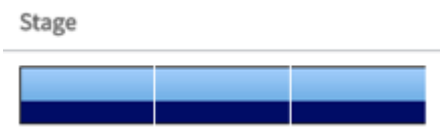
プログレスバーレンダラーは、一連のステージアイコンの代わりに単一の進行状況バーを表示します。このレンダラーは、ワークフローの一般的な進捗状況をパーセントで表示する場合に特に便利です。ワークフローの各ステージは、プログレスバーの同じ割合を制御します。たとえば、ワークフローに10のステージがある場合、各ステージに到達すると、ワークフローフィールドには進行状況バーの10%が表示されます。ステージ名は進行状況バーに表示されません。

プログレスバーレンダラーは、多数のステージを持つワークフローのステータスを表示する方法を提供します。他のレンダリングオプションは、1つのワークフローで4つ以下のステージをレンダリングする際に、より優れたユーザーエクスペリエンスを提供します。

ステージオーダーフィールドステージタブには2つのオプションがあります：

- [計算済み] では実際のワークフローパスを順番に使用します
- [ユーザー指定] では、ワークフローステージレコードの [順番] 列に指定されている順番を使用します。

ワークフローフィールドの進行状況バー



従来

レガシーレンダラーは、ダブリン以前のリリースと同じ方法でステージを表示します。インスタンスがDublinより前のリリースからアップグレードされると、既存のワークフローはすべてレガシーレンダラを使用するように設定されます。可能であれば、別のステージレンダラーを使用してください。ワークフローでDublinより前の動作を維持する場合は、[レガシー] オプションを使用します。従来のレンダラでは、ワークフローステージ フィールドに間違ったデータを割り当てたり、間違ったデータをレポートしたりすることがあります。可能であれば、すべてのワークフローでワークフロー駆動レンダラを使用することをお勧めします。

レガシーレンダラを使用すると、アイコン属性を新しいスクリプトインクルードに設定することによって、カスタムワークフローフィールドのアイコンセットを作成および参照できます。たとえば、*WorkflowIconsSCR* スクリプトインクルードを使用して、使用するアイコンを定義するには、ワークフローフィールドのディクショナリエントリの [属性] フィールドに属性 *icons=WorkflowIconsSCR* を追加します。デフォルトのアイコン表示動作を使用するには、属性 *icons=WorkflowIconsStages* を使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レガシーレンダラは、[Item] [sc_req_item] テーブル以外のすべてのテーブルで動作します。この場合は、代わりに要求されたアイテムレンダラーを使用してください。

要求済みアイテム

要求されたアイテムレンダラーは、レガシーレンダラーと同じように機能しますが、要求アイテム [sc_req_item] テーブルで使用されます。

Now Mobile でのみ、デフォルトのステージレンダラーが使用されます。

ステージレンダラー

ほとんどの場合、デフォルトのワークフロー駆動レンダラーを使用する必要があります。ステージを表示するための特定の要件がある場合は、別のステージレンダラーを選択できます。

始める前に

ステージレンダラーを選択するときは、次の点を考慮してください。

- 可能であれば、ワークフロー駆動レンダラを使用します。これは、ほとんどの場合に使用されるデフォルトのレンダラーです。
- 従来のレンダラは、インスタンスがDublinより前のリリースからアップグレードされ、ワークフローでDublin以前の動作を維持したい場合にのみ使用します。

リニア、メインフロー、またはプログレスバーのレンダリングを使用するには、次の要件を満たしている必要があります。

リニアおよびプログレスバーレンダラ要件

レンダラー	要件
リニアー	• 親ワークフローとすべてのサブフローは、同じ現在のレコードを変更する必要があります。 • すべてのサブフローのプロパティでは、 ステージ フィールドすべてのサブフローの値は、親ワークフローの値と一致する必要があります。 • 親フローとすべてのサブフローには同じステージが含まれている必要があります。ステージセットを使用して、親フローとすべてのサブフローが同じステージを持つようにします。 • ワークフローキャンバスでは、各ワークフローでは、そのワークフローで直接使用されるステージのみが必要です。親フローのアクティビティにサブフローからステージを追加する必要はなく、親フローからサブフローのアクティビティまでステージを追加する必要はありません。
メインフロー	• ワークフローにはサブフローが含まれています。 • サブフローに関する詳細を明らかにする必要はありません。
プログレスバー	• ワークフロープロパティには、 ステージ発注の価値ユーザー定義の • ワークフロー内にはワークフローステージが必要です。 • プログレスバーレンダラーを使用する場合は、ワークフローフィールドにステージ名が表示されないため、ステージ名を単純化してワークフローの割合を表すことができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リニアおよびプログレスバーレンダラ要件 (続く)

レンダラー	要件
	たとえば、プロセスに4つの主なステップがある場合は、ワークフローステージの名前を25%、50%、75%、および100%とします。[値] フィールドと[注文] フィールドに、各ステージの数値（25など）を入力します。

このタスクについて
ステージレンダラーを選択するには：

手順

1. [すべて] > [ワークフロー] > [ワークフローエディター]に移動します。
2. ワークフローを開いてチェックアウトします。
3. タイトルバーで、メニューアイコンをクリックし、 プロパティ を選択します。
4. [ワークフローのプロパティ] ダイアログボックスで、[ステージタブをクリックします。
5. ステージレンダリングリストから、ステージレンダラーを選択します。
   - 2つのワークフローを使用して1つのレコードの2つのユニークなワークフローフィールドを更新する場合、両方のワークフローで非レガシーレンダラを使用する必要があります。各ワークフローに対して異なるステージレンダラーを選択できますが、いずれかのレガシーを選択しないでください。
   - 線形レンダラを使用する場合は、選択してくださいリニア親ワークフローおよびすべてのサブフローのプロパティで設定します。
6. [更新] をクリックします。

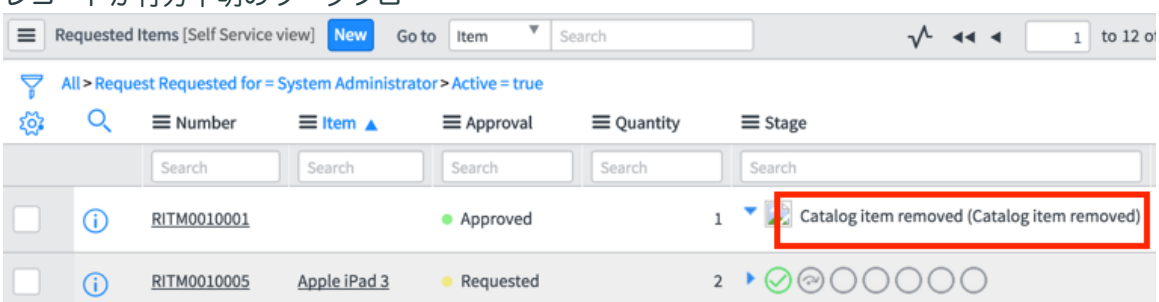
レコードが削除されたワークフローフィールド

ワークフローフィールドは、ワークフローで必要とされるレコードが削除される時期を示すことがあります。

参照レコードが削除されると、プライマリレコードの参照はもはや有効ではなくなります。ステージレンダラーがもはや有効ではない参照を検出すると、ステージ フィールドには削除されたレコードに関するメッセージが表示されます。

アドミニストレーターは削除されたレコードを復元できます。詳細については、「削除されたレコードモジュールを使用して削除されたレコードを復元」を参照してください。

レコードが行方不明のワークフロー



画像には2つのワークフローのリストが表示されます。最上位要求には、関連する要求項目がありません。ボトムリクエストには関連するリクエストアイテムがありますが、アイテムには関連付けられたワークフローコンテキストがありません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフローの検証

ワークフロー検証では、ワークフローのさまざまな特性を調べて、ワークフローが公開されない、または失敗する可能性のある問題を特定します。検証レポートには、それぞれのワークフロー検証の結果がまとめられています。

検証により、重大な欠陥が実行されてワークフローが不安定または不完全な状態になるのを防ぎます。基本システムには、ワークフロー設計者に潜在的な問題を通知する多数のバリデータがあります。たとえば、複数の**End**アクティビティ、切断されたトランジション、不正なテーブル参照、サブフローの欠落、および更新セットの影響を受ける依存関係などです。ワークフロー検証レポートには、検出された内容を示すメッセージを含む、各バリデータからの結果が表示されます。ワークフローを公開すると、自動的に検証されます。また、ワークフローエディタのコントロールからワークフローの検証を直接実行することもできます。

重大なエラーの強調表示

グラフィカルなワークフローエディタは、ワークフローがロードされるときに重大なエラーを強調表示します。この例では、サブフローが存在しないため、現在のユーザーの親ワークフローで使用できません。グラフィカルなワークフローエディタは、サブフローを呼び出すアクティビティを（赤で）強調表示することで、親ワークフローが読み込まれるときのエラーを示します。親ワークフローのエラーを修正するには、ヘッダーバーの検証アイコンをクリックして、検証レポートのエラーの説明を調べます。

不足しているサブフローの検証

公開時の検証

無効なワークフローまたは問題の可能性のあるワークフローを公開しようとすると、エラーメッセージが表示され、必要に応じて操作がブロックされます。検証エラーメッセージが表示されたら、グラフィカルワークフローエディタの検証アイコンをクリックして、エラーレポートを表示します。

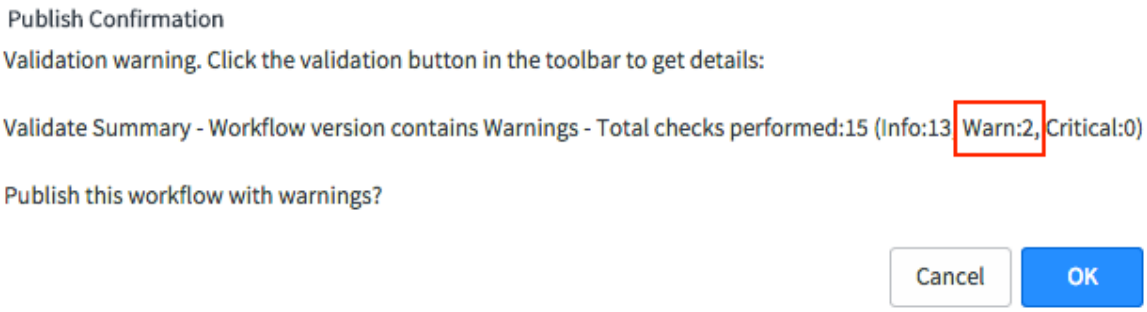
検証警告

検証の警告は、潜在的な問題がワークフローに存在することを通知しますが、ワークフローを公開することを許可します。検証の警告は次の場合に表示されます。

- 編集し、別のワークフローにサブフローとして含まれているワークフローをパブリッシュしようとします。システムは、変更が親ワークフローにどのように影響するかを判断することができず、関係について警告します。
- ワークフロー アクティビティは、ワークフローに割り当てられたテーブルとは異なるテーブルを使用します。システムは、潜在的な競合を警告します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

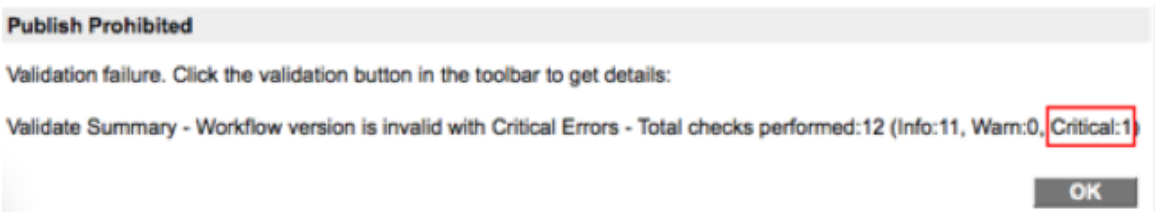
検証警告



検証の失敗

検証エラーが発生すると、ワークフローの公開に支障をきたす重大なエラーがワークフローで発生したことが通知されます。重大なエラーの例は、サブフローがないことです。

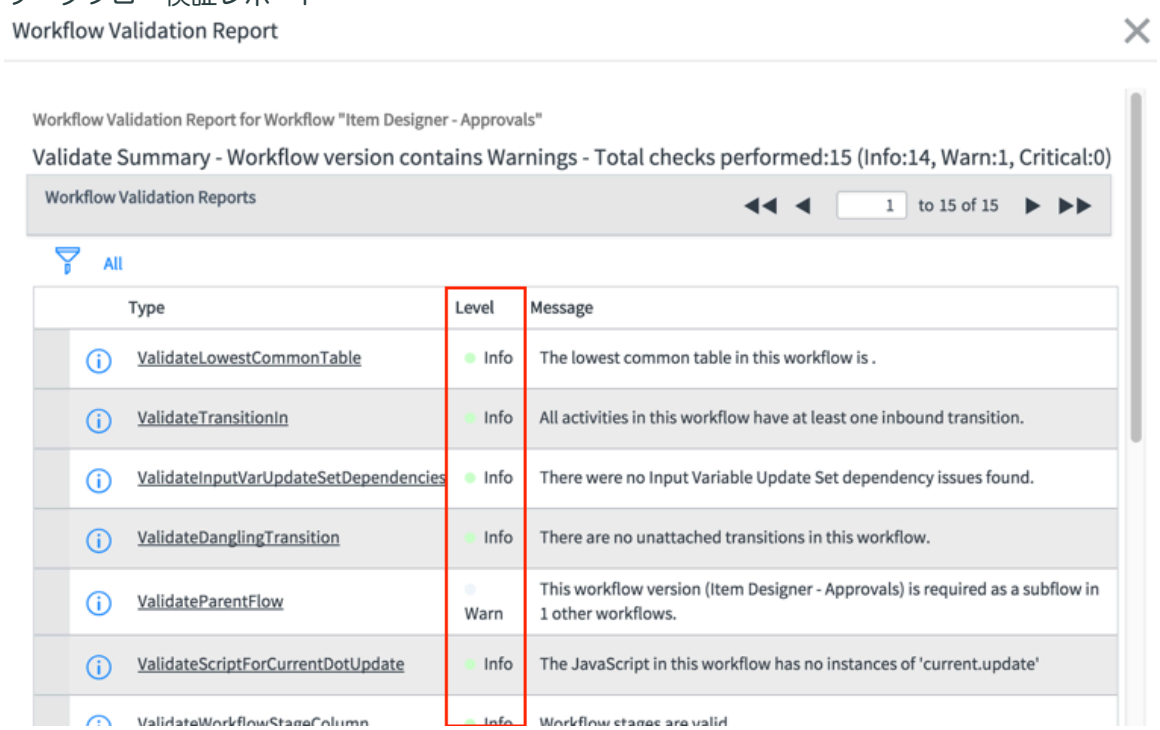
検証の失敗



ワークフロー検証レポート

バリデータには、CRITICAL、WARN、およびINFOという3つの通知レベルが表示されます。設計者はWARNまたはINFOレベルの検証を返すワークフローを公開できますが、CRITICALの全体的な検証レベルを返すワークフローは公開できません。

ワークフロー検証レポート



ヘッダーの要約

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

検証レポートのヘッダーには、指定したワークフローに対する検証の実行全体が要約されています。

- 検証の要約： 全体的なスコアは、検証中に遭遇した最も重大な通知レベルを反映しています。
- 実行された合計チェック： 実行された検証の合計数もまた、各通知レベルでの数値を示すように分解されます。

レポート列

レポートの本文には、実行された個々の検証チェックの結果が表示されます。列は次のとおりです。 タイプ 、 レベル 、およびメッセージ 。これらの列は、任意のリストと同様にソートしてフィルタリングできます。

ワークフロー終了および外部依存レベル

名前	含意
Info	現在のワークフローのバージョンに関する情報を提供します。情報レベルのメッセージの例は、ワークフロー内で最も共通のテーブルの名前を指定するものです。この検証レベルのワークフローは有効で公開可能とみなされます。
訓告	バリデーターが実行能力を損なう可能性のある異常をワークフローで検出したことをユーザーに警告します。警告レベルのメッセージの例としては、アクティビティ入力の遷移がないことを知らせるメッセージがあります。この検証レベルのワークフローは有効で公開可能とみなされます。
重大	ワークフローが正常に実行されないようにする重大なエラーを含むワークフロー要素に名前を付けます。この例としては、サブフローの欠落または無効、遷移の欠落などがあります。この検証レベルのワークフローは、本番環境で公開または実行することはできません。

メッセージ

検証メッセージには、テーブル名、更新セット、およびその他の詳細を含む結果の詳細な説明が表示されます。

ワークフローを検証し、検証レポートを生成する手順については、 ワークフローを検証

ワークフローバリデーター

ServiceNow ワークフロー設計者がワークフローをテストするためのいくつかのワークフローバリデータを提供します。

このページには、利用可能なすべてのワークフローバリデータが一覧表示されますワークフロー検証ツールとワークフロー検証レポートを使用して返される情報の種類を確認する方法については、ワークフローの検証を参照してください。

ワークフローと更新セットのハングアップ

ワークフローの使用	更新セット
ハングするワークフローにつながる可能性があるワークフロー設計の決定を特定する	異なる更新セットで移動される関連する成果物を特定する
ValidateTransitionOut	ValidateUpdateSetDependencies
ValidateTransitionIn	ValidateUpdateSetParentDependencies
ValidateDanglingTransition	ValidateInputVarUpdateSetDependencies

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフローと更新セットのハングアップ (続く)

ワークフローの使用	更新セット
ValidateSubflows	
ValidateScriptForCurrentDotUpdate	

ワークフロー終了と外部依存関係

予期しないワークフロー終了	外部依存関係
予期せず終了する可能性のあるワークフローを特定します	潜在的なワークフローの依存関係を持つ外部成果物を特定します
ValidateSingleEnd	ValidateParentFlow

ワークフローの競合

ワークフローのプロパティ
ワークフロープロパティと競合するワークフロー設計の決定を特定します
ValidateLowestCommonTable
ValidateTableChange

ValidateTransitionOut

ValidateTransitionOut バリデーターは終了トランジションのないアクティビティ条件を検出します。

検証の要約

- リスク： アクティビティ条件が次のアクティビティに移行しない可能性があり、ワークフローがハングアップする可能性があります。
- 重大度： 警告
- 有効な結果： 有効
- 有効なメッセージ:すべての条件に移行先があります
- 無効な結果： 無効
- 無効なメッセージ： このワークフローには、出力遷移なしの<condition count>アクティビティ条件が含まれています。
- 推奨処置： これが意識的な意思決定であれば、是正処置はありません。それ以外の場合は、バリデータで引用された条件を見つけて、次のアクティビティに適切な遷移を追加します。
- パブリッシュ可能： はい
- 実行可能ファイル： はい
- 関連情報: なし

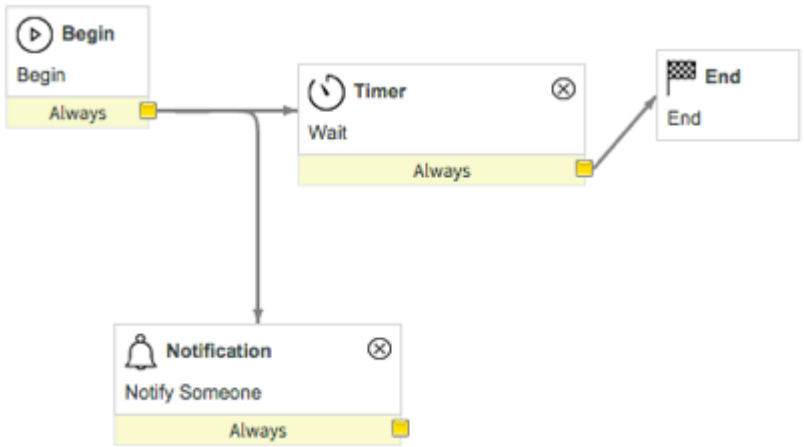
トラブルシューティング

キャンバスにワークフローを作成するときに選択した設計では、終了条件なしでアクティビティを正当に使用する可能性があります。最初の例では、 お知らせそしてタイマーアクティビティは両方ともワークフローの開始時に実行されます。タイマーはワークフローがいつ終了するかを決定するエン

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ティティです。この状況では、 お知らせを実行し、移行することなく、設計を単純に保ち、リスクを追加しません。バリデーターは、 お知らせ活動を警告設計者は無視することができます。

有効な遷移がない状態



第2の例では、 お知らせアクティビティには終了遷移がありません。デザイナーはレイアウトのためにこれを外しました。タイマーアクティビティからの移行は、通知アクティビティの後ろを通過し、通知アクティビティの終了を**End**に接続するように見えます。10または15を超えるアクティビティを持つワークフローでは、すべての遷移をはっきりと見ることは難しいかもしれません。このワークフローの設計者は、通知アクティビティをエンドに移行することを意図しています。

条件なし

このバリデーターは、出口遷移を持たない特定のアクティビティおよび条件に設計者を誘導します。その後、設計者は警告に応答するかどうかを決定します。

ValidateTransitionIn

ValidateTransitionIn バリデーターは、インバウンド遷移を持たず、ワークフローで実行できないアクティビティを検出します。

検証の要約

- リスク：インバウンドトランジションを持たないアクティビティには、ワークフロー内で実行される手段がありません。これらのアクティビティから他のロジックがビルドされた場合、ワークフローがハングアップする可能性があります。
- 目的： インバウンドトランジションを持たないアクティビティを検索します。
- 重大度： 警告。
- 有効な結果：有効。
- 有効なメッセージ： このワークフローのすべてのアクティビティには、少なくとも1つのインバウンド移行があります。
- 無効な結果： 無効。
- 無効なメッセージ：このワークフローには、入力遷移なしの <activity count> アクティビティ条件が含まれています。

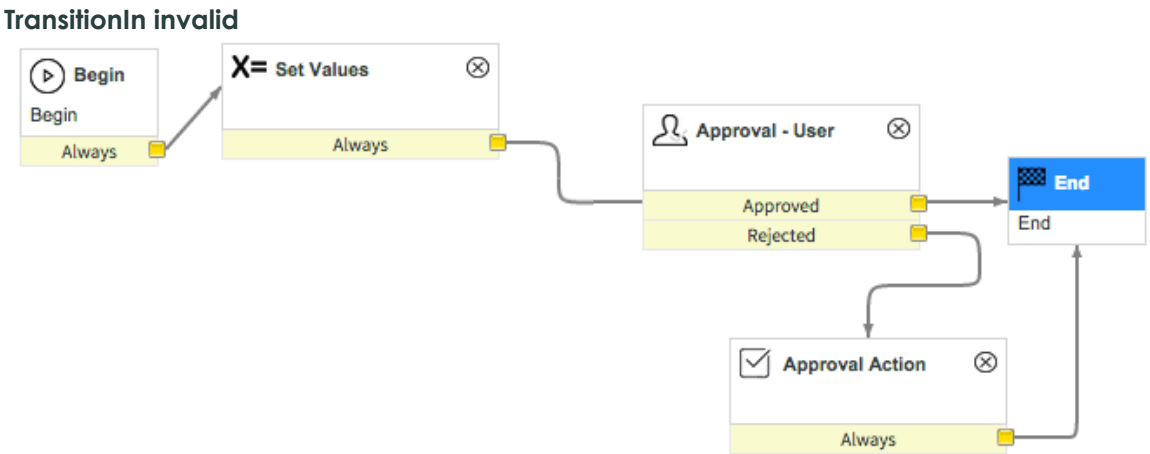
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 推奨処置：アクティビティを減らして混乱状態を緩和してワークフローを分かりやすくするか、適切なインバウンド移行を設定します。
- パブリッシュ可能：はい
- 実行可能ファイル：はい
- 関連情報：なし

トラブルシューティング

このバリデータで検出されたアクティビティはワークフローの実行に影響を与えませんが、特にプロダクションシステムでは実行できず、目的を果たせないアクティビティがキャンバスにあることをデザイナーは知る必要があります。このエラーは、通常、図面の視覚的誤解によって発生します。

このワークフローの例は完全に有効です。しかし、より厳密な検査の下では、**Set Values**からの移行が**Approval - User**で停止しないことがわかります（矢印の終わりはありません）。代わりに、その遷移は直接**End**に行きます。結果として、 承認 - ユーザー実行することはできません。承認の条件ルーティングに基づいてワークフローにアクティビティが存在するため、設計者は承認の実行を意図しており、修正が必要であると思われます。



このバリデーターは、インバウンド移行のない特定のアクティビティおよび条件にデザイナーに指示します。設計者は、移行を確立するか、アクティビティを削除する必要があります。

ValidateDanglingTransition

ValidateDanglingTransition バリデーターは、アクティビティで終了しないトランジションを検出して報告します。

注: これらのトランジションは、ワークフローキャンバスには描画されませんが、依然としてデータベースに存在します。

警告: これは、ワークフローが実行されないようにする重大なエラーです。

検証の要約

- リスク： ダングリングトランジションを含むワークフローは、リカバリオプションなしで自動的にワークフローをハングアップします。
- 重大度： クリティカル
- 有効な結果： 有効
- 有効なメッセージ： 有効
- 無効な結果： 無効

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 無効なメッセージ： 無効
- 推奨処置： 問題のあるトランジションを削除するか、接続します。検証レポートの詳細からソースアクティビティ名を取得し、問題を解決します。次に、検証を再度実行して変更をテストします。
- パブリッシュ可能： いいえ
- 実行可能ファイル： いいえ
- 関連情報: なし

トラブルシューティング

まれに、ワークフローの移行先がnullになります。ワークフローキャンバスにはトランジションの証拠は表示されませんが、実行時には、これらの不自然なトランジションのいずれかが発生するとワークフローがハングします。もし **ValidateDanglingTransition** バリデータは公開時にこの条件を報告し、問題が解決されるまで公開アクションをブロックします。ランタイムチェックでこの条件が検出された場合、ワークフローは現在のレコードのトランザクションに対して実行できません。代わりに、システムは、現在のレコードのワークフローコンテキストへのフォールト遷移を伴うアクティビティを詳述する重要なログエントリを追加します。次の適切なトランザクションでワークフローを実行できるようにするには、障害の発生した移行をワークフローモデルから削除します。

障害の発生したトランジションを検出して削除するには：

1. バリデータの詳細に示されているように、障害の発生した遷移を含むワークフローのバージョンとアクティビティを記録します。
2. ワークフロー > 管理 > ワークフローのバージョン に移動します。
3. ワークフローバージョンの一覧で、障害が発生したワークフローを選択します。
4. [ワークフローバージョン] フォームで、ワークフロー アクティビティ関連のリストを追加します。メニューアイコンをクリックし、設定>関連リストを選択し、ワークフロー アクティビティ→ワークフローバージョンを利用可能リストから選択リストに移動し、保存をクリックします。
5. ワークフロー アクティビティの中で関連するリストで、バリデーターで引用されたアクティビティを選択します。
6. ワークフロー アクティビティフォームで、ワークフロートランジションセクションまたはタブを表示し、そのリスト内で値がないか、または[NULL] の値が**To**列にあることを確認します。
7. このトランジションを削除してください。
8. ワークフローバージョンに戻り、検証チェックを再実行します。

クリティカル警告が消えるはずです。ワークフローは、次の適切なトランザクションで期待通りに実行されます。

ValidateSubflows

ValidateSubflows バリデータは、非アクティブ、削除、または現在のユーザーの公開ワークフローとして使用できないサブフローとして含まれるワークフローを検出します。

これらの条件のいずれかが原因で、メインフローのワークフロー アクティビティが発生したときにワークフローがハングします。

⚠ 警告: これは、ワークフローが実行されないようにする重大なエラーです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

検証の要約

- リスク： 削除されたサブフローに移行する親ワークフローは、回復オプションなしで無期限にハングアップします。
- 重大度： クリティカル
- 有効な結果： 有効
- 有効なメッセージ： このワークフローには、<カウント>有効なサブフローが含まれています。
- 無効な結果： 無効
- 無効なメッセージ： このワークフローには、合計サブフローの<invalid count>無効なサブフローが含まれています。
- 推奨処置： 親ワークフローのリンクを疑わしいサブフローに移動し、サブフローを検証してサブフローが有効で公開されていることを確認するか、現在のユーザーにチェックアウトされていることを確認します。サブフローの状態に修正した後、再度検証を実行して変更をテストします。
- パブリッシュ可能： いいえ
- 実行可能ファイル： いいえ
- 関連情報: サブフローとして使用されるワークフロー

トラブルシューティング

ワークフローが実行されるとき、サブフローであるかメインフローであるかにかかわらず、スクリプトエンジンは、現在のユーザーおよびワークフローの条件を考慮して、実行するワークフローのバージョンを決定します。ワークフローを実行している同じユーザーがワークフローをチェックアウトすると、チェックアウトされたバージョンが実行されるバージョンになります。ユーザーがワークフローをチェックアウトしているのと同じ人でない場合は、ワークフローの公開バージョンが実行されます。公開されたワークフローがない場合、ワークフローは実行されません。

1つのシナリオは、 **ValidateSubflows** バリデータはワークフローがいつ発生するかです：

- ユーザーAにチェックアウトされています。
- 親ワークフローのサブフローがユーザーBによって実行されているかどうかです
- ユーザーBによって実行されているサブフローの代替案はありません。

これが発生すると、親ワークフローは未発行のサブフローの実行まで実行され、そのアクティビティでハングします。サブフロー内でこの条件に遭遇するメインフローは、現在のレコードのトランザクションに対して実行することはできません。代わりに、サブフローの状態を詳述する重要なログエントリが、現在のワークフローのワークフローコンテキストレコードに追加されます。問題を解決するには、サブフローをメインフローから削除するか、サブフローをユーザーBが使用できるように公開します。これにより、ワークフローは次の適切なトランザクションで実行されます。

他のシナリオ **ValidateSubflow** バリデータはワークフローがいつ発生するかです：

- 親ワークフロー内のサブフローは、どのユーザーによっても実行されていますか。
- ワークフローが削除されたか、またはワークフローのすべてのバージョンが未公開または非アクティブであるため、サブフローの代替案は公開されていません。

注: サブフローであるワークフローをリストまたはフォームから削除することはできません。ただし、これらの不安定な条件の1つは、高度なスクリプト、SQLオプション、またはメインフローを含む不完全な更新セットで作成できますが、参照されるサブフローは作成できません。このバリデータをトリガしたワークフローをトラブルシューティングするときは、エラー状態を評価しながらサブフローの履歴を検討します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ValidateScriptForCurrentDotUpdate

ValidateScriptForCurrentDotUpdateバリデーターは、current.update（）関数を使用するスクリプトでワークフロー アクティビティを検出します。

呼び出し current.update（） トランザクション処理で大幅なパフォーマンスの遅延が発生し、インスタンスがハングアップする可能性があります。

検証の要約

- リスク ：良くても、 current.update（） スクリプトのパフォーマンスが低下します。最悪の場合、ワークフローはサーバーをクラッシュさせる無限の再帰的ループに入ります。
- 重大度： 警告
- 有効な結果： 有効
- 有効なメッセージ ：このワークフローのJavaScriptには、 'current.update（）'のインスタンスがありません。
- 無効な結果： 無効
- 無効なメッセージ ：このワークフローは、<current.update references> JavaScript文の <count>に 'current.update（）'を使用します。
- 推奨アクション ：削除 current.update（） このバリデータによって引用されたアクティビティスクリプトから削除されます。ワークフローはトランザクション内で実行され、必要に応じて、トランザクションの最後に最新のものが挿入されます。トランザクション中にレコードを明示的に更新する必要はありません。
- パブリッシュ可能： はい
- 実行可能ファイル： はい

ワークフロースクリプトでのcurrent.update（）の問題

ワークフローは次のいずれかの方法で実行を開始します。

- スクリプトエンジン ：ワークフローが特定のテーブルに割り当てられ、実行条件が与えられている場合、ワークフローはINSERTで実行されます。
- スクリプト：ビジネスルール、スクリプトインクルード、バックグラウンドスクリプト、またはクライアントスクリプトは、ワークフロースクリプトincludeを使用してワークフローを開始し、startFlow（）を呼び出すことができます。

ワークフローエンジンは、挿入されている現在のレコードの一致した基準に基づいてワークフローを開始します。現在のトランザクションは、ワークフローではなくスクリプトエンジンによって管理されます。現在のレコードのupdate（）で進行するワークフローは、ワークフローエンジンを介して呼び出されるのではなく、クライアントスクリプトまたはビジネスルールからの呼び出しとして呼び出されます。いずれの場合も、スクリプトエンジンが呼び出され、現在のレコードがメモリに格納されます。現在のフィールドの編集と変更が行われ、同じトランザクションで実行される他のアクティビティとスクリプトで使用できます。

必要に応じて、ビジネスルールエンジンやフィールドの正規化など、ワークフローエンジンで順番に実行される他のエンジンが、同じ現在のレコードトランザクションに対して呼び出されます。これらのスクリプトとアクティビティを通じた現在の変更は、メモリ内のレコードを変更します。これらの変更された値は、同じINSERTトランザクション内のアクティビティおよびスクリプトから呼び出された他のトランザクションで参照するために使用できます。すべての変更が実行されると、現在のレコードが挿入されます。

これらのスクリプトの1つがまだ挿入されていないレコードでcurrent.update（）を呼び出すと、そのアクションは不必要でエラーが発生しやすいデータベーストランザクションを強制します。レコードがまだデータベースにない場合は、レコードを更新することはできません。挿入中のレコードに対

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

してupdate（）をトリガするビジネスルールは、非常に不安定で潜在的に無限のループ状態を引き起こす可能性があります。

トラブルシューティング

このバリデータは、 current.update（） いずれかの編集可能なスクリプトフィールドに入力します。ワークフロースクリプト内からcurrent.update（）を呼び出さないでください。現在のINSERTまたはUPDATEの場合、現在の変更は同じトランザクションで実行されているすべてのスクリプトで使用でき、スクリプトエンジンはすべての変更をデータベースに保存します。現在のエンジンの更新をエンジンのままにしておきます。スクリプトは、現在のフィールド値を設定および参照するためにのみ使用してください。

ValidateLowestCommonTable

ザ **ValidateLowestCommonTable** バリデータは、ワークフローが使用するGlide階層の最下位のテーブルを報告します。

たとえば、要求アイテム[sc_req_item] テーブルは、カタログタスクアクティビティを含むワークフローの最下位テーブルです。この情報は、キャンバスにアクティビティを追加した後に既存のワークフローが実行されるテーブルを変更したいデザイナーにとって重要です。

注: このバリデーターは情報のみを提供します。エラーまたは警告状態を示すものではありません。

検証の要約

- リスク： このバリデーターは、それに関連するリスクのみを通知し、リスクはありません。
- 重大度： データ/情報
- 有効な結果： 有効
- 有効なメッセージ： このワークフローの最も一般的なテーブルは<< table_name >>です。
- 無効な結果： N / A（通知のみ）
- 無効なメッセージ： N / A（通知のみ）
- 推奨アクション： 無し
- パブリッシュ可能： はい
- 実行可能ファイル： はい
- 関連情報: ワークフローアクティビティ

ValidateTableChange

ValidateTableChange バリデーターは、ワークフローバージョンに関連付けられた表があれば、無効であるワークフロー内のアクティビティを報告します。

たとえば、変更要求 [change_request] テーブルに関連付けられているが、 カタログ要求アクティビティが選択されたテーブルと互換性がないため、キャンバス上のアクティビティは無効です。

検証の要約

- リスク： 実行時のカレントレコードが最低共通表で指定された表から始まらない場合、最低共通表のアクティビティは特定の値を設定できません。
- 重大度： ワークフローに関連付けられているテーブルが、ワークフロー アクティビティに必要な最小の共通テーブルよりもテーブル階層の方が上位である場合に警告します。
- 有効な結果： 有効
- 有効なメッセージ： すべてのアクティビティは、新しく選択されたテーブルに対して有効です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 無効な結果： 無効
- 無効なメッセージ： このワークフローには、<無効なアクティビティの数>、新しく選択したテーブルの無効なアクティビティが含まれています。
- 推奨処置： 次のいずれかの変更を行います。
  - ワークフローを変更して、報告された最低のテーブルに関連付けられたアクティビティを必要としないようにします。
  - ワークフローを変更して、階層内で最も共通の表を含む表を使用します。
  - 現在の記録がリスクのある活動の要件を満たしていることを確認する。
- パブリッシュ可能： はい
- 実行可能ファイル： はい
- 関連情報: ワークフローアクティビティ

トラブルシューティング

ワークフロー > 管理 > アクティビティ定義にナビゲートします。リストの[テーブル] 列に注意してください。グローバルではない各アクティビティはテーブルに関連付けられています。

ワークフロープロパティフォームでテーブルを選択すると、アクティビティメニューには選択したテーブルと互換性のあるアクティビティのみが表示されます。テーブルをワークフロー アクティビティに関連付けることにより、値比較、条件ルーティング、または現行レコードの項目値の設定と取得に影響を与えるアクティビティについて、システムが特定の決定を下すことができます。

ワークフローがグローバル[グローバル] テーブルに設定されている場合、ワークフローを実行するプロセスが、現在のレコードがこのバリデータによって識別されるアクティビティの要件を満たしていることを確認することができます。その場合、アクティビティは期待どおりに機能します。その保証がユーザープロセスによって保証されない場合は、キャンバス上のすべてのアクティビティの要件を満たすテーブルを割り当てずに、バリデータによって識別されたアクティビティを使用しないでください。

この妥当性チェックは、特定のワークフロー内のすべてのアクティビティで指定されたテーブルが、ワークフロー用に選択されたテーブルの階層に確実に含まれるようにします。

ValidateParentFlow

ザ **ValidateParentFlow** バリデーターは、ワークフローを使用するワークフローをサブフローとして報告します。

検証の要約

- リスク： ワークフローがサブフローであるというリスクはありません。これは、サブフローへの劇的な変更によって他のワークフローが危険にさらされているという警告に過ぎません。
- 重大度：警告
- 有効な結果： 有効
- 有効なメッセージ： 現在、<workflow version name>はサブフローではありません。
- 無効な結果： 無し
- 警告メッセージ：このワークフローバージョン（<ワークフローバージョン名>）は、<workflow version count> 内のサブフローとして必要です。
- 推奨処置： 親ワークフローが悪影響を受けないように入力パラメータや戻り値などを変更する場合は注意が必要です。
- パブリッシュ可能： はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 実行可能ファイル：はい
- 関連情報： サブフローとして使用されるワークフロー

トラブルシューティング

システムは、公開時および検証中にワークフローがサブフローであることをワークフロー設計者に警告します。この警告は、現在のワークフローの変更が、検証レポートで引用されたワークフローや既に本番環境で実行されている他のワークフローに影響を与える可能性があることを、デザイナーに思い出させるものです。サブフローであるワークフローへの変更がどれほど単純かに関わらず、この検証レポートで引用されたすべての親フローを公開前に徹底的にテストします。

ワークフローがサブフローの場合、無効になる可能性がある変更は次のとおりです。

- 入力変数 のデータ型を変更する。この検証レポートで引用されたすべての親ワークフローが正しい値の型を渡すことができることを確認します。
- 入力変数の追加 - 成功この検証レポートで引用されたすべての親ワークフローがすべての変数値をサブフローに渡すことができることを確認します。
- ワークフローの戻り値の変更または削除ワークフローの戻り値の変更がすべての親フローの要件と互換性があることを確認します。
- ワークフローを実行するテーブルの変更テーブル選択がすべての親フローと互換性があることを確認します。

> **注:** サブフローであるワークフローを削除するには、まず、この検証レポートで引用されたすべての親フローからサブフローを削除して依存関係を削除します。依存関係がクリアされると、適切な役割を持つユーザーがサブフローを削除できます。

ValidateSingleEnd

ValidateSingleEndバリデーターは、単一のワークフローで複数の**End**アクティビティを検出して識別します。

ワークフロー内の複数の**End**アクティビティは意図的であり、ワークフローに影響を与えないか、または設計者が修正する必要がある間違いである可能性があります。

検証の要約

- リスク：終了アクティビティへの実行パスは相互に排他的ではなく、最初の終了によってワークフローが完了し、他の実行中のアクティビティはすべてキャンセルされます。
- 重大度： 警告
- 有効な結果： 有効
- 有効なメッセージ： このワークフローには1つの終了アクティビティが含まれます。
- 無効な結果： 無効
- 無効なメッセージ： このワークフローには、<終了数>終了アクティビティが含まれます。
- 提案されたアクション：設計の一部として意図されていない余分な終了アクティビティを削除します。
- パブリッシュ可能： はい
- 実行可能ファイル： はい
- 関連情報: なし

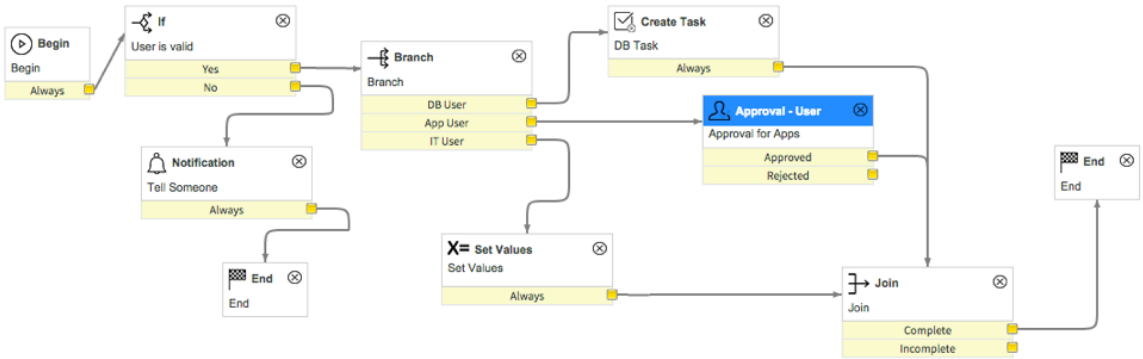
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

トラブルシューティング

ワークフローで**End**アクティビティが発生するとすぐに、他の実行可能な実行パスが存在していても、まだ実行中の2番目の**End**アクティビティが発生しても、ワークフローは完了します。実行しているアクティビティは、 **End**アクティビティのクリーンアップアクションです。したがって、複数の**End**を持つワークフローを設計した結果は注意深く考慮する必要があります。

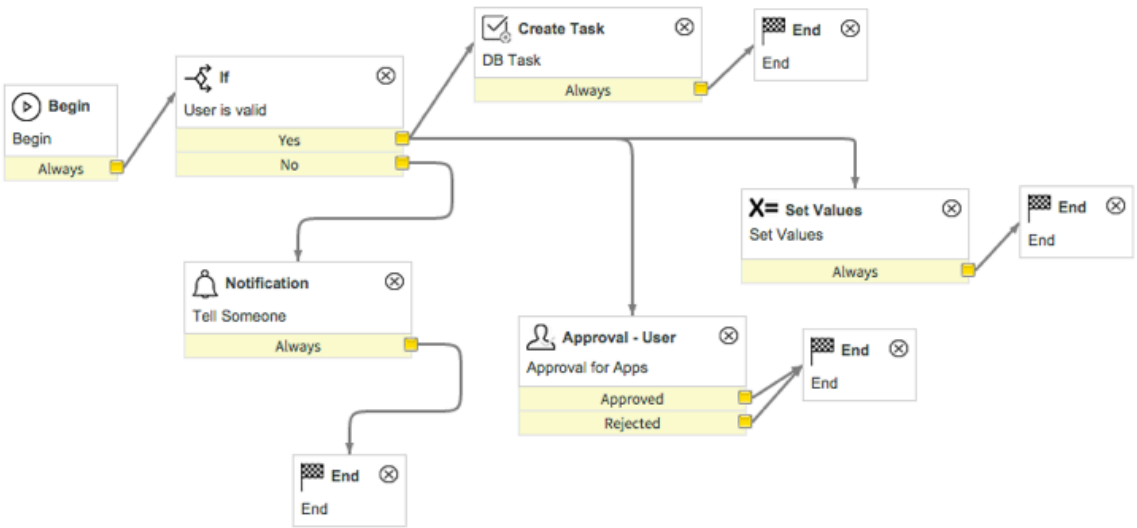
大規模なワークフローの場合、複数の**End**アクティビティがある場合にワークフローを読む方が直感的です。次の例では、2つの**End**へのパスは相互に排他的な実行パスです。これが**Branch**と2番目の**End**の間に多数のアクティビティを持つ大きなワークフローだった場合、複数のエンドの値が明らかになります。ユーザーからの無応答のトレースは、他の33の活動の後ろの1つの**End**に対しては無効です。このワークフロー設計では、通知アクティビティ終了後の**End**がワークフローを終了した場合に他のアクティビティを実行する理由がないため、リスクはありません。

相互に排他的な実行パス



次の例では、実行パスに複数の**End**アクティビティがあり、それらは相互に排他的ではありません。ユーザーからの**Yes**レスポンスが有効な場合、値の設定アクティビティが直ちに終了します。この実行パスは、**End**アクティビティに最初に到達することにより、Appsおよび**DB Task**アクティビティの承認をキャンセルしますが、これは望ましい結果ではない可能性があります。**End**の前にパスがすべて完了すると予想される場合、アクティビティは単一の**End**に遷移する**Join**（前の例のように）に来る必要があります。

相互に排他的な実行パス



注: 2番目の**End**を追加するには、右クリックして元の**End**アクティビティをコピーし、キャンバスに貼り付けます。ほとんどの場合、単一の**End**は、ワークフロー完了までに実行されると予想されるすべてのアクティビティが確実に成功するようにするための最高の信頼性の高い方法です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ValidateUpdateSetDependencies

ValidateUpdateSetDependencies バリデーターは、現在のワークフローで呼び出されたすべてのサブフローを識別し、それらのサブフローのいずれかが別の（進行中の）更新セットで編集されているかどうかを判断します。

この警告は、このワークフローとその1つ以上の依存関係が、追加の労力なしに別のインスタンスに同時に展開されないようにアクティブに変更されていることを通知します。

詳細については、「更新セットを現在のセットとして作成し選択する」を参照してください。

検証の要約

- リスク： 親ワークフローが1つの更新セットで編集され、その従属サブフローが別のワークフローで編集されている場合、2つのワークフローは異なるインスタンスに移動されたときに互換性がない場合があります。共通または期待値などの独立した変更を行うと、2つのワークフローが互換性がなくなります。
- 重大度： 警告
- 有効な結果： 有効
- 有効なメッセージ： Update Setの依存関係の問題は見つかりませんでした。
- 無効な結果： 無効
- 無効なメッセージ： このワークフローには、異なる更新セットに属する依存ワークフローがあります。
- 推奨処置： 両方のワークフローを同じ更新セットに変更して展開します。個別の更新セットで依存関係を変更する必要がある場合は、次のいずれかの方法を使用します。
  - すべての更新セットが同時に移行されることを確認します。
  - メインフローアップデートセットをデプロイする前に、そのアップデートセットを完了する前に、依存関係を1つのアップデートセットにマージします。
- パブリッシュ可能： はい
- 実行可能ファイル： はい
- 関連情報: 更新セットを使用したワークフローの移動

トラブルシューティング

ワークフローは、ワークフローが公開されたときにのみ更新セットに追加されます。このバリデータは、次のいずれかの条件が存在する場合に警告を発行します。

- 公開されたサブフローは、親ワークフローとは異なる更新セットにあり、その更新セットは進行中です。
- サブフローは、現在のユーザーとは異なる更新セットで作業している別のユーザーによってチェックアウトされます。

> **注:** このバリデーターは、クローズされた更新セットを検索しません。進行中の更新セット、または異なる更新セットで作業しているユーザーにチェックアウトされている現在のワークフローで使用されているすべてのサブフローの更新セットのみを表示します。

例

以下は、2人のユーザーが異なる更新セットのワークフロー間で依存関係を作成する、アットリスクの開発シナリオの例です。

ユーザーA：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. セットAを現在のアップデートセットに設定します。
2. ワークフローAをチェックアウトします。
3. 戻り値を変更します。 文字列ワークフローAをaに入力します。 リファレンス/ユーザータイプ。
4. ワークフローAを発行し、更新セットAにエントリを引き起こします。

ユーザーB：

1. アップデートセットBを現在のアップデートセットに設定します。
2. ワークフローBをチェックアウトします。
3. サブフローとしてワークフローAを含みます。
4. Workflow Aのユーザー参照戻り値を承認割り当てとして使用します。
5. ワークフローBを発行し、Update Set Bにエントリします。

リスク

- ユーザーBは、ワークフローAの古いバージョンを持つ別のインスタンスに更新セットBを移動します。戻り値は、ワークフローBの結果が開発時にテストされた結果と異なる原因となるユーザー参照ではありません。
- ユーザーBは、ワークフローAのバージョンを持たない新しいインスタンスに更新セットBを移動します。ワークフローBは実行時に検証エラーが発生し、実行できません。ログエントリは、現在のレコードのワークフローログに追加されます。

可能な解決策

ソリューション 1

同じ更新セットを使用して、親ワークフローとすべての従属ワークフローを一緒に新しいインスタンスに移行します。

1. 更新セットを、新しいインスタンスに移行するセットに設定します。
2. 含める必要があるワークフローをチェックアウトして再公開します。このアクションにより、現在の更新セットにエントリが強制的に挿入されます。
3. すべての依存関係の更新セットを完了します。
4. 更新セットをローカルインスタンスに移行するための標準的な手順に従います。

ソリューション 2

更新セット間で依存ワークフローを移動します。

1. 移行するメインワークフローを含む更新セットを特定します。
2. システムアップデートセット>ローカル更新セット に移動します。
3. メインワークフローへの依存関係を含む更新セットを検索して選択します。
4. 顧客の更新の中に移動するサブフローのワークフローバージョンを選択します。
5. アップデートセットフィールドの中に親ワークフローを含む更新セットを選択します。このフィールドがCustomer Updateフォームにない場合は、フォームを構成してフィールドを追加します。
6. [更新] をクリックすると、ベースシステムは従属サブフローを選択された更新セットに移動します。
7. ステップ4-6を繰り返して、従属サブフローを親フロー更新セットに追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ValidateUpdateSetParentDependencies

ザ **ValidateUpdateSetParentDependencies** バリデーターは、現在のワークフローをサブフローとして呼び出すすべてのワークフローを識別し、進行中の別の更新セットでこれらの親ワークフローのいずれかが編集されているかどうかを判断します。

この警告は、このワークフローと、このワークフローに依存する1つ以上のワークフローが、追加の労力なしに別のインスタンスに同時に展開されないように積極的に変更されていることを通知します。

検証の要約

- リスク： 親ワークフローが1つの更新セットで編集され、その従属サブフローが別のワークフローで編集されている場合、2つのワークフローは異なるインスタンスに移動されたときに互換性がない場合があります。共通または期待値の編集などの独立した変更を行うと、2つのワークフローが互換性がなくなります。
- 重大度： 警告
- 有効な結果： 有効
- 有効なメッセージ： Update Setの依存関係の問題は見つかりませんでした。
- 無効な結果： 無効
- 無効なメッセージ： このワークフローには、異なる更新セットに属する依存ワークフローがあります。
- 推奨処置： 両方のワークフローを同じ更新セットに変更して展開します。個別の更新セットで依存関係を変更する必要がある場合は、次のいずれかの方法を使用します。
  - すべての更新セットが同時に移行されることを確認します。
  - メインフローアップデートセットを展開する前に、そのアップデートセットを完了するように設定する前に、依存関係を1つのアップデートセットにマージします。
- パブリッシュ可能： はい
- 実行可能ファイル： はい
- 関連情報: 更新セットを使用したワークフローの移動

トラブルシューティング

ワークフローは、ワークフローが公開されたときにのみ更新セットに追加されます。このバリデータは、次のいずれかの条件が存在する場合に警告を発行します。

- 公開されたサブフローは、親ワークフローとは異なる更新セットにあり、その更新セットは進行中です。
- サブフローは、現在のユーザーとは異なる更新セットで作業している別のユーザーによってチェックアウトされます。

> **注:** このバリデーターは、クローズされた更新セットを検索しません。進行中の更新セットまたは現在のワークフローを呼び出すすべての親ワークフローの更新セットのみを表示し、異なる更新セットで作業しているユーザーにチェックアウトされます。

例

以下は、2人のユーザーが異なる更新セットのワークフロー間で依存関係を作成する、アットリスクの開発シナリオの例です。

ユーザーA：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. セットAを現在のアップデートセットに設定します。
2. ワークフローAをチェックアウトします。
3. 戻り値を変更します。 文字列ワークフローAをaに入力します。 リファレンス/ユーザータイプ。
4. ワークフローAを発行し、更新セットAにエントリを引き起こします。

ユーザーB：

1. アップデートセットBを現在のアップデートセットに設定します。
2. ワークフローBをチェックアウトします。
3. サブフローとしてワークフローAを含みます。
4. Workflow Aのユーザー参照戻り値を承認割り当てとして使用します。
5. ワークフローBを発行し、Update Set Bにエントリします。

リスク

- ユーザーBは、ワークフローAの古いバージョンを持つ別のインスタンスに更新セットBを移動します。戻り値は、ワークフローBの結果が開発時にテストされた結果と異なる原因となるユーザー参照ではありません。
- ユーザーBは、ワークフローAのバージョンを持たない新しいインスタンスに更新セットBを移動します。ワークフローBは実行時に検証エラーが発生し、実行できません。ログエントリは、現在のレコードのワークフローログに追加されます。

可能な解決策

ソリューション 1

同じ更新セットを使用して、親ワークフローとすべての従属ワークフローを一緒に新しいインスタンスに移行します。

1. 更新セットを、新しいインスタンスに移行するセットに設定します。
2. 含まれる必要があるワークフローを確認して再公開します。

   注: このアクションは、現在の更新セットにエントリを強制します。

3. すべての依存関係の更新セットを完了します。
4. 更新セットをローカルインスタンスに移行するための標準的な手順に従います。Update Sets の詳細については、「システムアップデートセット」を参照してください。

ソリューション 2

更新セット間で依存ワークフローを移動します。

1. 移行するメインワークフローを含む更新セットを特定します。
2. システムアップデートセット > ローカル更新セットに行きます。
3. メインワークフローへの依存関係を含む更新セットを検索して選択します。
4. 顧客の更新の中に移動するサブフローのワークフローバージョンを選択します。
5. アップデートセットフィールドの中に親ワークフローを含む更新セットを選択します。このフィールドがCustomer Updateフォームにない場合は、フォームを構成してフィールドを追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. [更新] をクリックします。ベースシステムは、従属サブフローを選択された更新セットに移動します。
7. ステップ4-6を繰り返して、親フロー更新セットに従属サブフローを追加します。

ValidateInputVarUpdateSetDependencies

ValidateInputVarUpdateSetDependenciesバリデーターは更新セットを調べて、特定のワークフローのワークフロー入力変数が現在進行中の更新セットとは異なる更新セットで削除されていないことを確認します。

検証の要約

- リスク： ワークフローとその入力変数は、1つの更新セットで一緒に移動されません。入力変数の削除は、別の更新エントリに取り込まれます。これらの2つのエントリが同じ更新セットにない場合、ワークフローの実行が不安定になる可能性があります。
- 目的： このワークフローに属する入力変数が別の更新セットで削除されたかどうかを確認します。
- 重大度： 警告
- 有効な結果： 有効
- 有効なメッセージ： 入力変数更新セットの依存関係の問題が見つかりませんでした。
- 無効な結果： 無効
- 無効なメッセージ： 削除され、別の更新セットに記録された入力変数があります。
- 推奨処置： 削除がワークフローと分離されていない場合は、両方の更新セットが新しいインスタンスに同時にコミットされていることを確認するか、両方のペイロードを単一の更新セットにマージします。
- パブリッシュ可能： はい
- 実行可能ファイル： はい
- 関連情報: 更新セットを使用したワークフローの移動

トラブルシューティング

ワークフロー入力変数は、 顧客の更新現在のユーザーの更新セット内の関連するリストこのバリデータは、現在のユーザーの更新セット以外の更新セットでワークフロー入力の削除が発生したときにユーザーに報告します。

バリデーターがこの警告を出したとき、入力変数の削除の指示に従ってください

ValidateWorkflowEndStages

ザ **ValidateWorkflowEndStages** バリデータは、ステージのあるワークフローで、ワークフローの終了アクティビティが完了または完了という名前のステージを持つことを確認します。

ワークフローに関連付けられたステージがあるが、終了アクティビティで完了したステージがない場合、ステージインジケータはワークフローが完了したことを示しません。

検証の要約

- リスク： ステージインジケータはワークフローが完了したことを表示しません。
- 重大度： 警告
- 有効な結果： 有効
- 有効なメッセージ： ワークフローの終了ステージは有効です。
- 無効な結果： 無効

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 無効なメッセージ： 無効なステージ「S」で検出されたアクティビティAを終了します。
- 推奨処置： これが仕様でない場合は、適切な変更を行います。
- パブリッシュ可能： はい
- 実行可能ファイル： はい
- 関連情報: ワークフローアクティビティ

トラブルシューティング

終了アクティビティのワークフローを確認します。このアクティビティで完了または完了という名前のステージが割り当てられていることを確認します。

ValidateWorkflowStageColumn

ValidateWorkflowStageColumn バリデーターは、ワークフローのステージ・フィールド（ステージ列）が正しくないか、または使用できないときに、それを検出して報告します。

検証の要約

- リスク： ステージインジケーターが適切な情報を表示しないことがあります。
- 重大度： 警告
- 有効な結果： 有効
- 有効なメッセージ： ワークフローのステージ値は有効です。
- 無効な結果： 警告
- 情報の概要： ステージの警告が見つかりました。
- 無効なメッセージ：
  - テーブルTにはCという名前の列はありません。
  - テーブルTのワークフローにはステージがありますが、ステージの列はありません。
  - 表Tはステージ列「C」を有するが、アクティビティによってステージが設定されていない。
  - テーブルTのワークフローには、タイプ=ワークフローではないステージの列「C」があります。
- 推奨処置： これが仕様でない場合は、適切な変更を行います。
- パブリッシュ可能： はい
- 実行可能ファイル： はい
- 関連情報：ワークフローアクティビティ、ワークフローのステージ

トラブルシューティング

ステージの列を確認するには：

1. ワークフローを開き、チェックアウトします。
2. メニューアイコンをクリックしてワークフローバージョンのプロパティダイアログを開き、 プロパティ を選択します。
3. ステージタブまたはセクションを表示します。
4. 割り当てられたステージの列が、実際にワークフローが関連付けられているテーブルの列であることを確認します。
5. 列がtype = workflowであることを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ヒント：ステージの列は選択リストであってはなりません。ワークフローエンジンの外部でその列の値を変更しても、ステージ状況が安全に追跡されるわけではないため、リストはフォームビューで読み取り専用になります。

ValidateWorkflowStateValues

ValidateWorkflowStateValues バリデーターは、正確性のためにワークフロー アクティビティのいくつかの段階の側面をチェックします。

このバリデータには複数のエラーメッセージがあります。

検証の要約

- リスク： ステージインジケーターが適切な情報を表示しないことがあります。
- 重大度： 警告。
- 有効な結果： 有効です。
- 有効なメッセージ： ワークフローのステージ値は有効です。
- 無効な結果：無効。
- 警告の概要： ステージの警告が見つかりました。
- 無効なメッセージ：
  - 空の名前のステージは許可されません。
  - 空の値は許可されていません。
  - 同じ名前のステージを複数持つことはできません: x
  - 同じ値を持つステージを複数持つことはできません：y
- 推奨処置： これが仕様でない場合は、適切な変更を行います。
- パブリッシュ可能：はい。
- 実行可能ファイル： はい
- 関連情報：ワークフローアクティビティ

トラブルシューティング

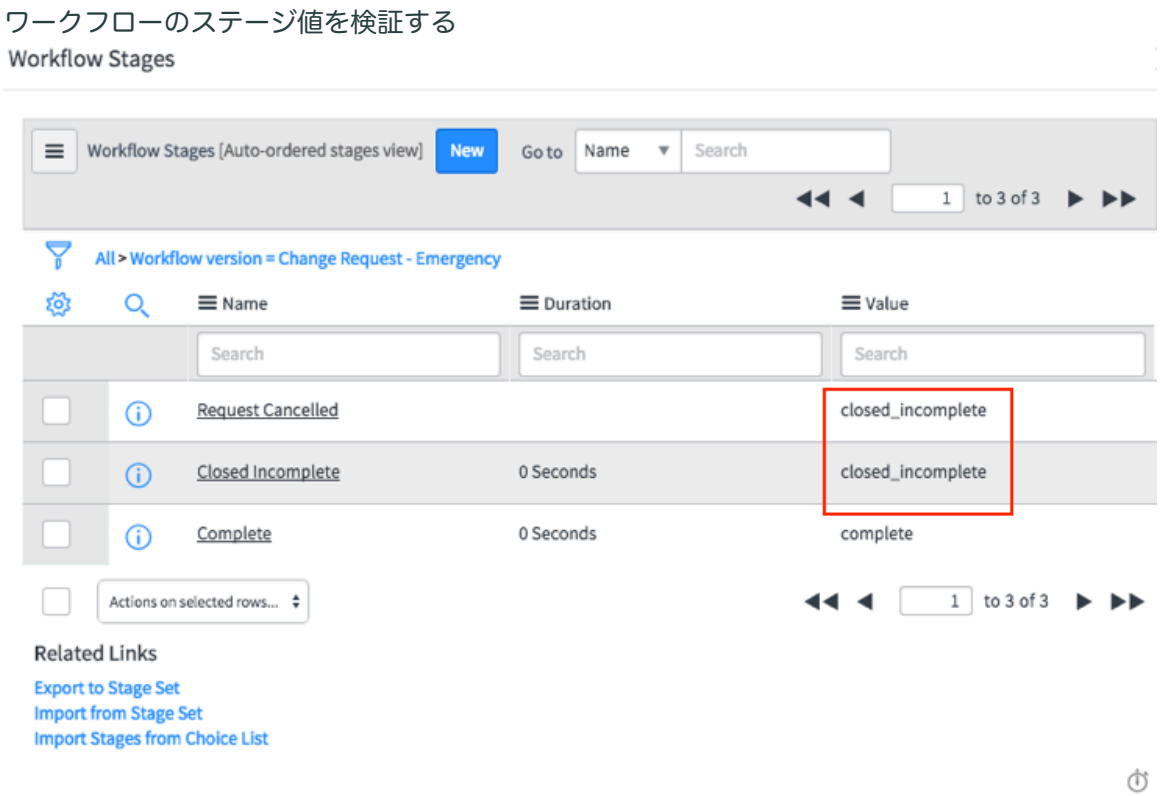
このバリデータのトラブルシューティングを行うには、次の手順を実行します。

1. ワークフローを開き、チェックアウトします。
2. ワークフローのステージのリストを開くには、メニューアイコンを選択し、[ステージの編集] を選択します。
3. 名前と値を確認します。

   名前と値が一意であり、空でないことを確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. 同じステージ名または値が複数回出現する場合は、いずれかの行を削除します。ワークフローを実行し、削除されたステージを使用したアクティビティのステージを再割り当てすることが非常に重要です。



ヒント：どのアクティビティがどのステージを割り当てるかのリストを作成します。

ワークフローコンセプト

ワークフローエディタを使用して、多くのことを行うことができます。

- コアアクティビティを変更し、条件を終了します。
- カスタムアクティビティを作成し、他のワークフローのためにデータを再利用します。

  「オーケストレーションアクティビティデザイナー」を参照してください。
- ServiceNowストアからアクティビティパックをダウンロードし、アップロード用のパックを作成します。
- ワークフローをグラフィカルに編集します。
- ワークフローアクティビティ間の移行を定義します。
- ワークフローに対応するテーブルについては、ビジネスルールをカスタマイズします。
- 段階的にワークフローの進捗状況を要約します。
- ワークフローを検証して潜在的な問題を特定します。
- 他のユーザーが使用できるよう、ワークフローを公開します。
- 複数のテーブルを直接変更することなく編集できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフローバージョン

ユーザーがシステムの他のユーザーに影響を及ぼすワークフローを変更できないようにするには、ワークフローを編集する前にチェックアウトする必要があります。

一度に1人のユーザーしかワークフローをチェックアウトできません。ワークフローがチェックアウトされると、変更はワークフローをチェックアウトしたユーザーにのみ適用されます。他のユーザーは、公開されたワークフローを引き続き使用できます。変更が完了したら、ワークフローを公開してすべてのユーザーが使用できるようにします。

注: 各ワークフローには一意のsys_idがあるため、異なるワークフローに同じ名前を付けることができます。これは通常、異なる企業のユーザーが異なるドメインに属しているため、お互いのワークフローを見ることができないドメインセパレーション環境で期待されています。しかし、これは他の環境で混乱を招く可能性があります。一般に、ワークフロー設計者が間違ったワークフローを変更しないように、各ワークフローに一意の名前を付けます。

既存のワークフローの新しいバージョンが公開されると、その変更はワークフローコンテキストの実行には適用されません。現在実行中のワークフローコンテキストは、ワークフローの開始時に使用可能だったワークフローバージョンを使用して継続します。次回ワークフローが実行されるときに、更新された公開バージョンが使用されます。

ワークフローのスコープ

ワークフローアプリケーションスコープは、ワークフロー内の情報、特にそのワークフロー内のアクティビティに含まれるデータに対するアプリケーションのアクセス権を決定します。

ワークフローが作成されると、ログインしたユーザーの歯車メニューからアプリケーションスコープが継承されます。このスコープは、ワークフローエディタでは変更できません。ワークフローの実行時には、このスコープで実行され、ワークフローのアクセシビリティ設定ですべてのスコープ（パブリック）へのアクセスが許可されている場合にのみ、別のアプリケーションから呼び出すことができます。それ以外の場合、ワークフローのアプリケーションスコープはアプリケーション専用です。

注: *If*アクティビティの高度なスクリプトなど、ワークフローエディタで作成されたスクリプトは、ワークフローのスコープ内で実行されます。ベースシステムまたはオーケストレーションで提供されるすべてのコアアクティビティは、ワークフローの範囲内で実行されます。

カスタムアクティビティは、ワークフローと異なる場合でも、独自のスコープで実行されます。カスタムアクティビティの範囲は、プライベートまたはパブリックにすることができます。スコープを持つカスタムアクティビティ内で実行されるスクリプトは、そのアクティビティのスコープ内にある外部アーティファクトまたは任意のスコープで実行するように設定されたアーティファクトにのみアクセスできます。逆に、外部アーティファクトが同じスコープ内で実行されている場合は、外部アーティファクトはそのプライベート アクティビティ内のスクリプトにのみアクセスできます。パブリック スコープを持つアクティビティは、任意のアプリケーション スコープ内の外部アーティファクトを操作できます。

パブリック アプリケーション スコープを持つワークフローの一部としてプライベート アクティビティを使用できます。これらのアクティビティは、ワークフローの外部に到達すること、またはワークフローの外部から到達することから保護されます。カスタムアクティビティのアプリケーションスコープの設定の詳細については、該当するアクティビティテンプレートのフィールド説明テーブルを参照してください。

注: ServiceNowストアにアップロードされたカスタムアクティビティは、すべてのアプリケーションスコープからアクセスできるように設定する必要があります。

ワークフローのスコープの制限

パブリックおよびプライベートアプリケーションの適用範囲にはいくつかの制限があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

実行時には、すべてのアプリケーションスコープからアクセスできるように設定されている限り、公開スコープのワークフローは他のアプリケーションリソースにアクセスできます。プライベートアプリケーションスコープ内のプライベートスコープのワークフローは、そのスコープ専用のリソースにのみアクセスできます。スコープのアクセス境界のために、スコープされた他のリソースを呼び出す非公開スコープのワークフローは、返された結果を待つ間に例外またはハングしたアクティビティで失敗します。これは、これらの共通グローバルリソースを呼び出すときに発生します。

- ECC キュー
- タスク
- Approvals
- イベント
- SLAタイマー
- タイマー
- スクリプトインクルード
- ビジネスルール
- ワークフロー API

ワークフローを設計する際には、展開前にすべてのリソースの可視化とアクセシビリティを検証します。

「アプリケーションスコープ」を参照してください。

ワークフローのスコープを構成する方法については、 ワークフローのプロパティ を参照してください。

ドメインセパレーションと ワークフロー

ドメインセパレーションは、ワークフロー アプリケーションでサポートされています。 ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル：標準*

- ベーシックレベルを含みます。
- ビジネスロジック：サービスプロバイダーによって顧客ごとにプロセスを作成または変更できます。ユースケースには、単一のインスタンスでの複数のサービスプロバイダー顧客によるアプリケーションの正しい使用が反映されています。
- インスタンスの所有者は、特定のアプリケーションに期待される通りに、テナントごとに MVP ビジネスロジックとデータパラメーターを設定できる必要があります。

ユースケース：アドミニストレーターには、あるテナントではレコードを閉じる際にコメントを残すことを必須にし、別のテナントでは必須にしない機能が必要です。

概要

ドメインセパレーションが有効な場合、ワークフローおよびワークフローアクティビティは、そのドメインをパブリッシュまたは作成するユーザーのドメインを継承します。

ワークフロー アプリケーションでのドメインセパレーションの機能の仕組み

ワークフローは複数のテーブルで管理されますが、ドメインセパレーション機能には次の表のみが使用されます。

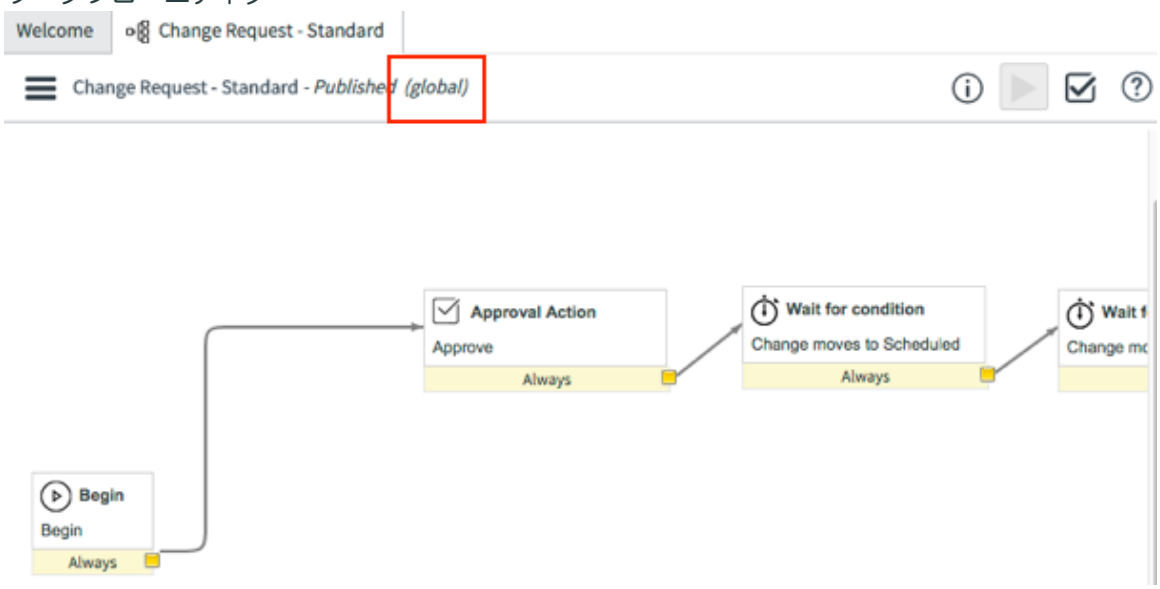
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ワークフロー**[wf_workflow]**とワークフローバージョン**[wf_workflow_version]**：委任管理 やプロセス分離に使用されます。
- ワークフローコンテキスト**[wf_context]**：ドメインセパレーションの理解 に使用されます。

注: ワークフローバージョンテーブル[wf_workflow_version]テーブルにドメインフィールドが含まれていません。ワークフローバージョンレコードは、親ワークフローレコードからドメインを継承します。

ワークフローエディタは、ワークフロー名の後のタイトルバーにワークフローのドメインを表示します。

ワークフローエディタ



関連情報

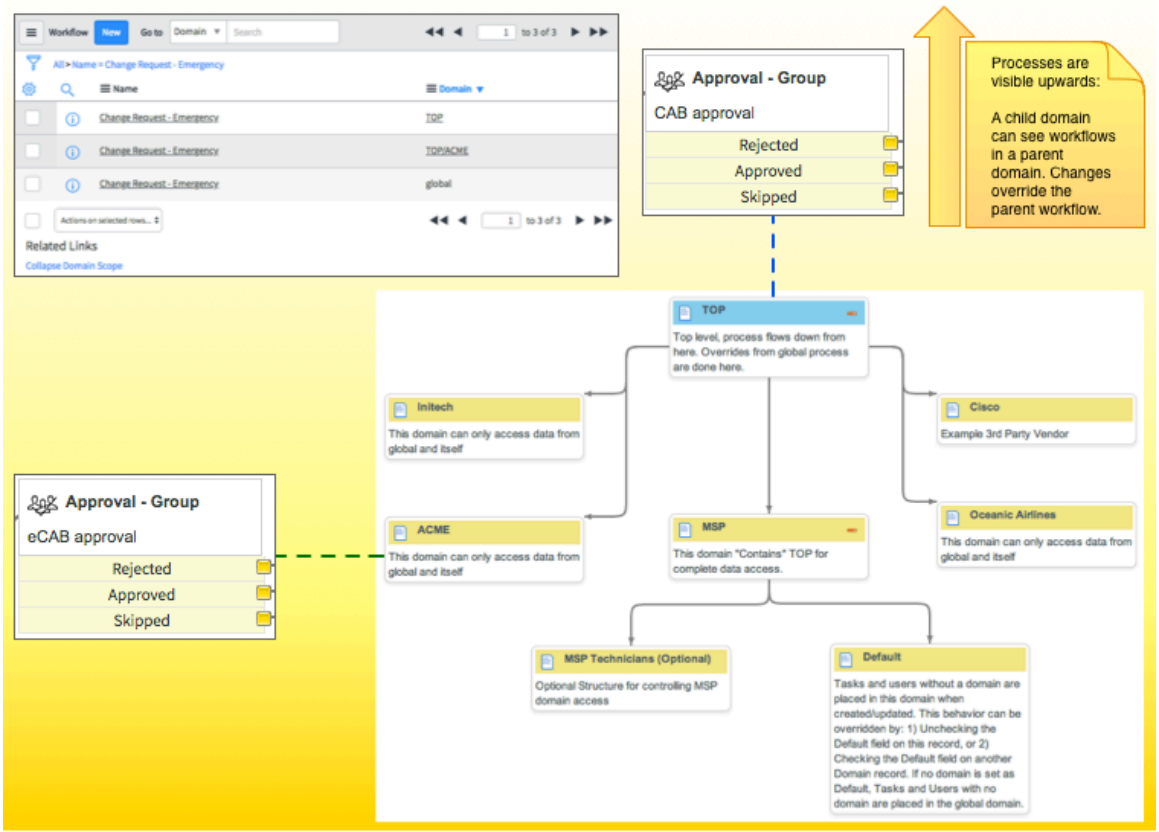
サービスプロバイダーのドメインセパレーション

ワークフローと委任管理

委任された管理により、子ドメインはドメイン階層の上位からのワークフローを継承し、必要に応じてドメイン固有のバージョンで上書きすることができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフローと委任管理



ワークフロー[wf_workflow]およびワークフローバージョン[wf_workflow_version]テーブルのワークフローレコードはプロセスと見なされます。子ドメイン内のユーザーは、親ドメインからワークフローをチェックアウトできますが、コピーはできません。子ドメインのユーザーが親ドメインからワークフローをチェックアウトすると、そのユーザーのドメインにワークフローのバージョンが作成されます。この新しいバージョンは、ワークフロー[wf_workflow]テーブルの一意のレコードです。ユーザーがこの新しいワークフローを公開すると、子ドメインの他のユーザーは新しいワークフローを使用します。これにより、親ドメインのワークフローがオーバーライドされます。親ドメインの元のワークフローは、子ドメインのユーザーには表示されなくなりました。

たとえば、管理対象サービスプロバイダ（MSP）は、ACMEとInitechを含む複数の企業のITSMサービスを1つのインスタンスでホストします。アドミニストレーターとして、MSPは、すべてのドメインに適用される変更要求 - 緊急のワークフローを作成します。これは、ドメイン階層内の最高のドメインであるTOPドメインで作成されたためです。このワークフローは、グローバル変更要求 - 緊急ワークフローをオーバーライドし、緊急変更要求にCAB承認グループの承認が必要であることを指定します。委任された管理のため、階層内のすべてのドメインがこのワークフローを認識して使用します。ここで、ACMEドメインが、緊急変更要求が緊急CAB承認グループの承認を必要とする場合、異なる承認ポリシーが必要であるとします。MSPは、ACMEドメインに別のバージョンの変更要求 - 緊急ワークフローを作成します。このワークフローは、TOPドメインのバージョンを上書きし、ACMEドメインのユーザーにのみ適用されます。

ワークフローのアクセス許可

ユーザーが新しいワークフローを開始すると、そのユーザーのドメインと認証情報でワークフローが実行されます。

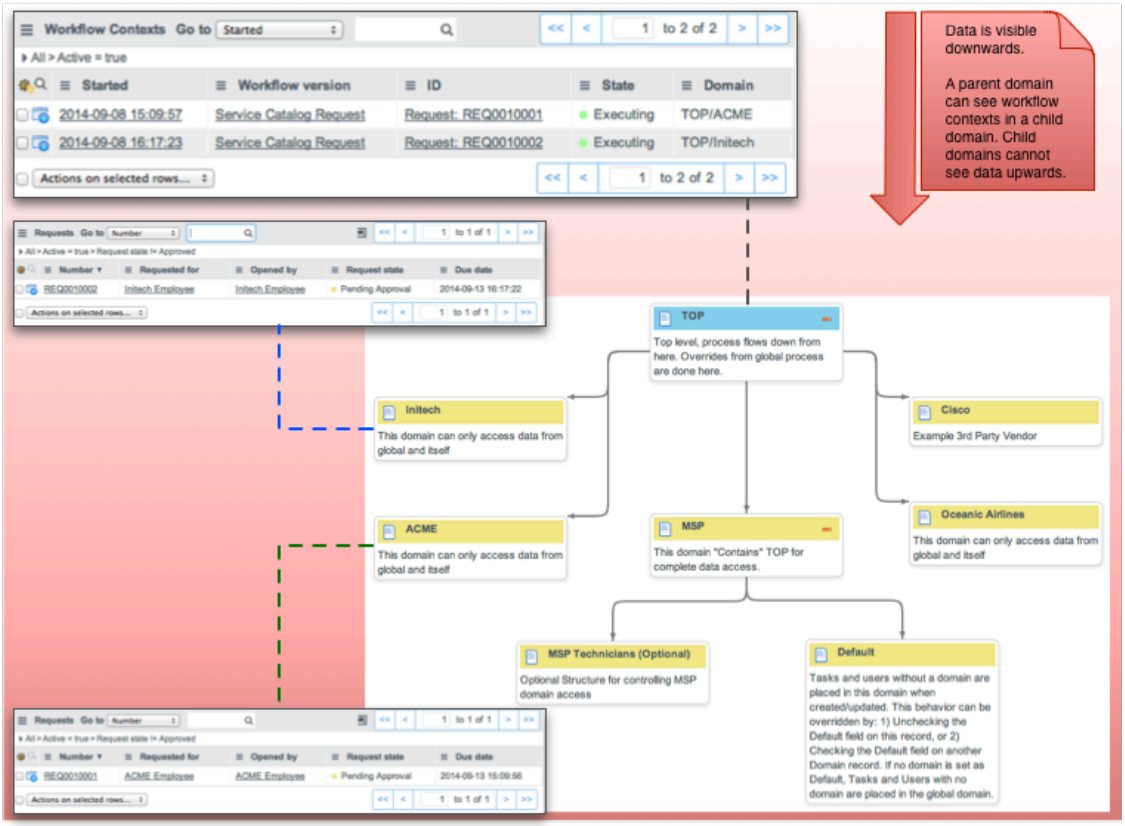
ワークフローは、承認または拒否を待つ承認アクティビティなど、アクティビティがワークフローを待機させるまで、ユーザーのドメインと認証情報を保持します。ユーザーが要求を承認するなど、停止したワークフローが再開されると、ワークフローは承認ユーザーの認証情報を使用しますが、元のユーザーのドメイン内で引き続き実行されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフローとデータ分離

データ分離は、ワークフローコンテキストを、ワークフローの同じドメイン内にあるか、または親ドメインのメンバであるユーザに制限します。

ワークフローとデータの分離



Workflow Contexts [wf_contexts]テーブル内のワークフローレコードは、データと見なされます。データ分離は、ワークフローコンテキストを、ワークフローの同じドメイン内にあるか、または親ドメインのメンバであるユーザに制限します。親ドメインのユーザーは、子ドメインの実行中のワークフローを見ることができますが、子ドメインのユーザーは親ドメインの実行中のワークフローを見ることができません。必要に応じて、アドミニストレーターは可視化を使用するか、ドメインを含むことで、ドメイン固有のデータを見ることができるユーザーを拡大することができます。

たとえば、ACMEユーザーがサービスカタログから何かを要求すると、ACMEドメインにサービスカタログ要求ワークフローコンテキストが作成されます。同様に、Initechユーザーからのサービスカタログ要求は、Initechドメインにワークフローコンテキストを作成します。TOPドメイン内のMSPユーザーは、ACMEドメインとInitechドメインの両方の親ドメインであるため、両方のワークフローコンテキストを表示できます。ただし、ACMEまたはInitechのユーザーがログインすると、データの分離により、互いのサービスカタログ要求が表示されなくなります。各ワークフローコンテキストには、要求されたアイテムや要求の承認履歴など、そのドメインに固有のデータが含まれているため、これは正常な動作です。

ワークフローエンジン操作命令

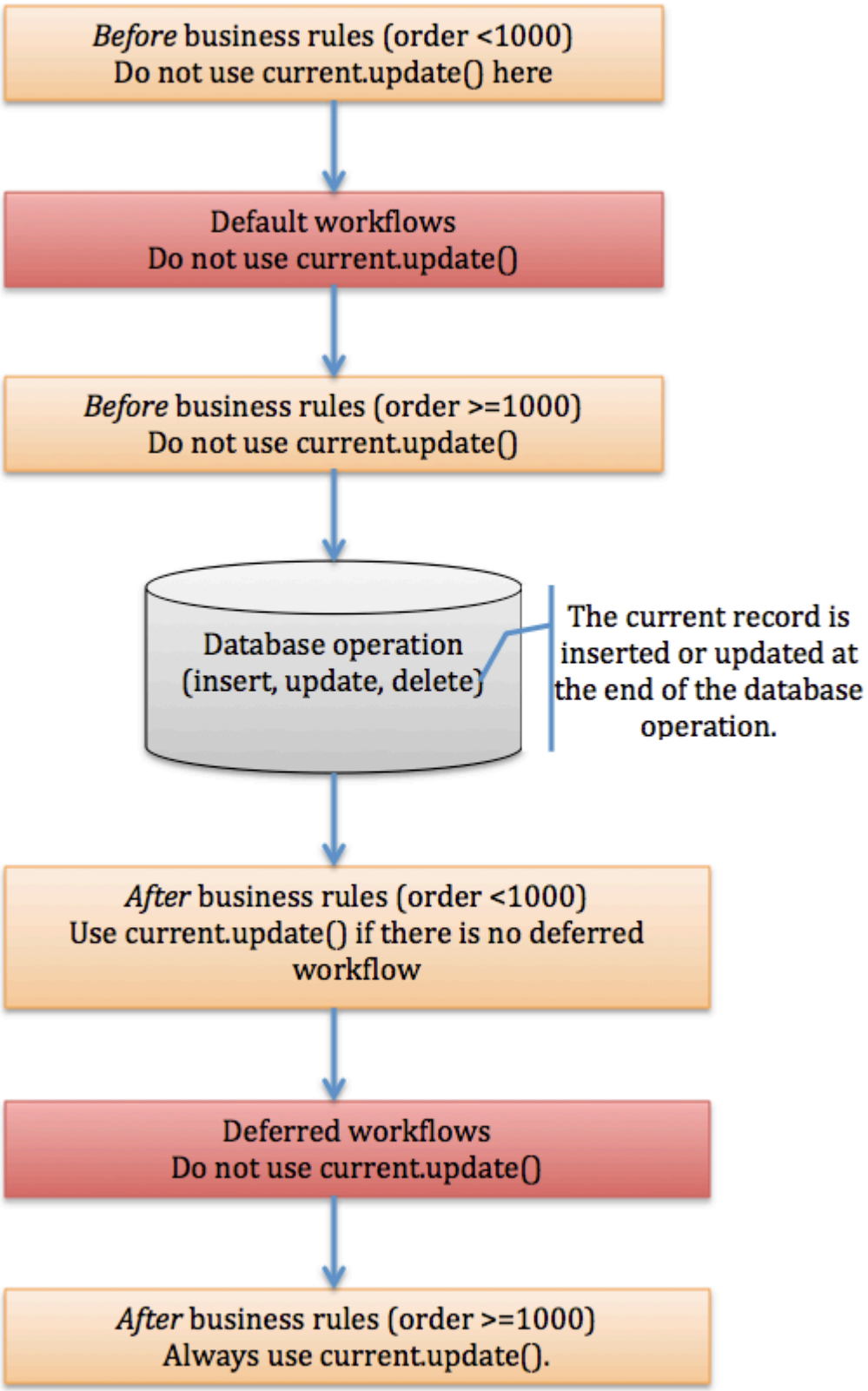
ワークフローエンジンは、ビジネスルールおよびデータベース操作に関連して事前定義された順序で実行されます。一般的な公開ワークフローをキャッシュしてパフォーマンスを向上させます。

バスの後に走ります。 ルール実行ワークフロープロパティは、ワークフローがデフォルトか保留かを定義します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

下の図は、操作のワークフローエンジンの順序、およびデフォルトフローと保留フローが実行されたときの順序を示しています。エンジン操作順序のより一般的な概要については、「スクリプトとエンジンの実行順序」を参照してください。

ワークフローエンジンの注文図



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフローキャッシング

ワークフローエンジンは、頻繁に使用される公開ワークフローをキャッシュして、パフォーマンスを向上させます。

キャッシングは、ワークフローごとのデータベースクエリの数を大幅に削減します。デフォルトでは、エンジンは最大300個のユニークなワークフローバージョンをキャッシュします。キャッシュサイズがJava仮想マシン（JVM）ヒープサイズを超えることはできないため、非常に大きなワークフローをキャッシュすると、この数が減少する可能性があります。

キャッシュされたワークフローバージョンの最大数を変更するには、**[Workflow]** > [管理] > [プロパティ] に移動し、**LRU** キャッシュ **(*glide.workflow.model.cache.max*)** プロパティで同時に保持されるモデルの最大数の値を変更します。変更を適用するには、このプロパティを変更した後でインスタンスを再起動する必要があります。

Workflow テーブル

柔軟性を最大限に高めるために、ワークフローはさまざまなテーブルに情報を格納します。

通常、ワークフロー情報を含むテーブルは 1 つ 1 つ編集されません。代わりに、ワークフローエディタを使用してワークフローを編集します。参考のため、以下のリストが提供されています。

Workflow テーブル

テーブル	説明
ワークフロー	
列レンダラー [column_renderer]	ステージの列のレンダラーウィジェット。ステージレンダラーはUIマクロとしてJellyで書かれています。デフォルトはWorkflow-Drivenです。ほとんどのワークフロー関連のステージシナリオをカバーしています。
バージョン [wf_versionable]	要素定義[wf_element_activity]の異なるバージョンを追跡します。
Workflow [wf_workflow]	ワークフローのプライマリレコード。
ワークフローバインディング[wf_workflow_binding]	ワークフローの履歴とトリガーレコード。ワークフローバインディングレコードは、関連付けられたワークフローコンテキストレコードが削除されたときに、ワークフローを再度実行することを防止します。
ワークフローコンテキスト	ワークフローの個々のインスタンスが使用されています。
ワークフロー実行 [wf_workflow_execution]	グローバルで実行されるワークフロー用の合成「現在の」レコード。
ワークフロー インスタンス [wf_workflow_instance]	サブフローへのワークフローの接続。
ワークフロー バージョン [wf_workflow_version]	ワークフローの特定のバージョン。公開されたバージョンまたはチェックアウトされたバージョン。
アクティビティ	
アクティビティデザイナー [wf_element_activity]	アクティビティ定義
アクティビティ変数 [wf_activity_variable]	アクティビティの変数。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Workflow テーブル (続く)

テーブル	説明
ワークフローアクティビティ	ワークフローで使用されているアクティビティ
ワークフローアクティビティ定義	ワークフローで使用できるアクティビティの定義。
アクティビティ実行ワークフロー	アクティブなコンテキストで実行されるアクティビティの個々のインスタンス。
ワークフローコンポーネント	
要素プロバイダ [wf_element_provider]	カスタムアクティビティのテンプレート定義。
グループ承認 [sysapproval_group]	グループレベルの承認。
変数[item_option_new]	
ワークフロー条件	ワークフローで定義されたすべての条件。
ワークフロー要素定義	アクティビティー定義の親表。
ワークフロー予定ランタイム構成	完了したワークフローの実行時パフォーマンスデータ。
ワークフロー待機コマンド	現在実行中のワークフローの一時的な内部ストレージ。
ワークフロー SC 変数	ワークフローのサービスカタログ変数。
ワークフロースケジュール [wf_workflow_schedule]	特定のワークフローを実行する時間の定義。
ワークフローのタイミング[wf_workflow_timing]	ワークフローのタイミングパフォーマンスデータ。
ワークフロー移行	定義されたすべての遷移がワークフロー内にあります。
履歴	
ワークフローアクティビティ履歴	実行された活動の履歴。
ワークフローログエントリー	ワークフローのすべてのイベントと履歴。
ワークフロー移行	実行された遷移の履歴。
ステージ	
ステージデフォルト [wf_stage_default]	使用するテーブルのデフォルトステージフィールドの定義。
ステージセット	複数のワークフローのワークフローステージを設定するために使用できるステージの名前付きセット。
ステージセットエントリ [stage_set_entry]	名前付きステージセットに属するステージ。
テーブルのステージセット	テーブルに設定されたステージの関係を定義し、テーブルの新しいワークフローが作成されるときにステージセットをデフォルトステージとして使用できるようにします。これはwf_default_stageテーブル

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Workflow テーブル (続く)

テーブル	説明
	を置き換えるもので、クリックすると表示されるビューですデフォルトステージ（テーブル別） メニューに表示されます。
ワークフローステージ [wf_stage]	ワークフローで使用されるステージの定義。

ワークフロー管理

ユーザーの希望通りにワークフローをカスタマイズできます。

ワークフロー ロール

ワークフローを使用するには、特定のロールが必要です。

サブスクリプション管理の詳細については、「サブスクリプション管理 でのユーザーごとのサブスクリプションの管理」を参照し、アカウント担当者にお問い合わせください。

ワークフロー ロール

ロール タイトル [名前]	説明
アクティビティ作成者 [activity_creator]	カスタム ワークフロー アクティビティの作成および編集、カスタムアクティビティ データの再利用、ServiceNow Store からダウンロードしたアクティビティパックの管理を行います。
Web サービスアドミニストレーター [web_service_admin]	オーケストレーションアクティビティデザイナー で REST および SOAP メッセージにアクセスして使用します。REST Web サービスと SOAP Web サービステンプレートを使用するカスタムアクティビティを作成および編集します。
ワークフローアドミニストレーター [workflow_admin]	グラフィカルなワークフローを作成、編集、公開、および削除します。 ⚠ 警告: ワークフロースクリプトアクティビティはアクセス制御をバイパスしてすべてのテーブルとデータベース操作に対するアクセス権を付与するため、このロールをユーザーに付与することはユーザーに admin ロールを付与することと同等です。スクリプトアクティビティはアプリケーションスコープ設定はバイパスしません。
ワークフロー作成者 [workflow_creator]	グラフィカルなワークフローを作成、編集、公開、および削除します。 ⚠ 警告: ワークフロースクリプトアクティビティはアクセス制御をバイパスしてすべてのテーブルとデータベース操作に対するアクセス権を付与するため、このロールをユーザーに付与することはユーザーに admin ロールを付与することと同等です。スクリプトアクティビティはアプリケーションスコープ設定はバイパスしません。

ワークフローコンテキストの管理

ワークフローコンテキストは、新しいレコードを最新のレコードとして使用して、ワークフローで定義されたアクティビティと移行を実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow のワークフローでは、実行中のワークフローをワークフローコンテキストと呼んでいます。ワークフローコンテキストには、ワークフローコンテキスト レコード内のプロセス全体の状態が保持されます。ワークフローコンテキストには、一連の関連リストで実行する個々のアクティビティの状況が保持されます。これらのリストには、現在実行中のアクティビティの状況、終了したアクティビティの結果、およびワークフローがプロセス モデルを実行した実行パスが保持されます。

ワークフローコンテキスト キャンバスでは、ワークフローがプロセス モデルを実行するときの実行パスが視覚的に表現されます。各アクティビティ (完了、実行、キャンセル、エラー) の状態は、カラー パレットを使用して表されます。実行されたパスは青で表されます。実行されていないパスはグレーで表されます。アクティブなワークフローコンテキスト、履歴ワークフローコンテキスト、およびその中のアクティビティは、ワークフロー アプリケーション メニューの [ライブワークフロー] セクションを使用して表示できます。

ワークフローコンテキストの表示

ワークフローコンテキストは 2 ヵ所で表示できます。

- ワークフローを利用しているタスクのフォームにあるワークフローコンテキスト関連のリンクから
- [ワークフロー] > [すべてのコンテキスト]に移動し、アクティブなコンテキストを選択

ワークフローの進行状況の表示

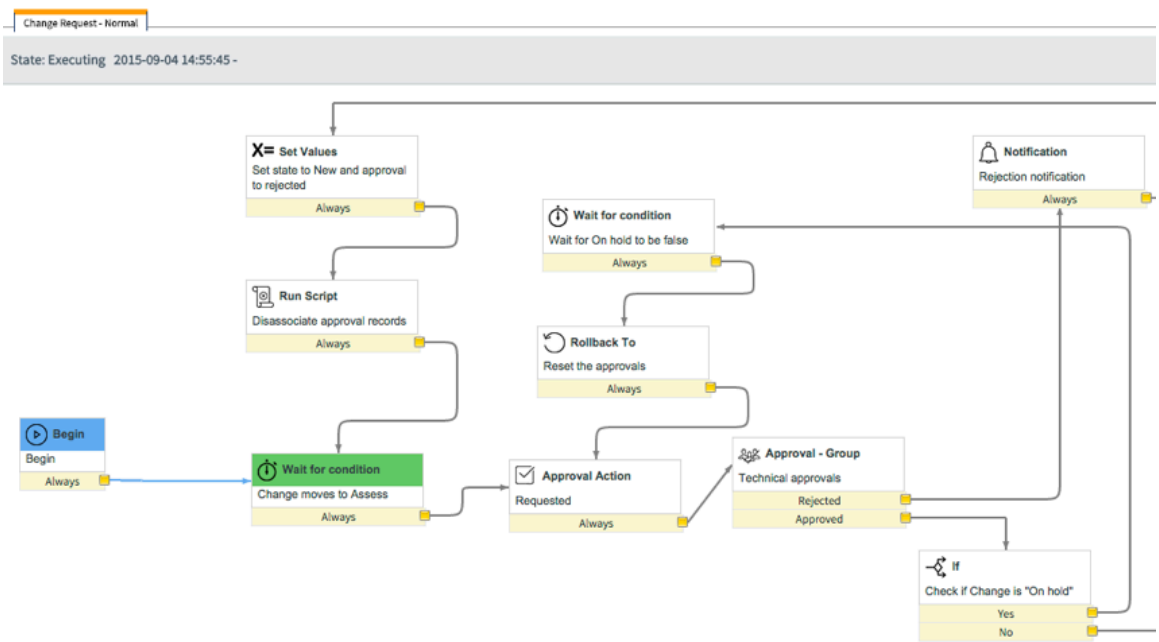
ワークフローコンテキスト フォーム上の 2 つの関連リンクを使用すると、ワークフローの進行状況をさまざまな形式で表示できます。

- [タイムラインを表示] では、ワークフローコンテキストがタイムラインとして表示されます。
- [ワークフローを表示] では、ワークフローコンテキストがグラフィカル ワークフロー エディタに表示されます。

グラフィカル インターフェイス

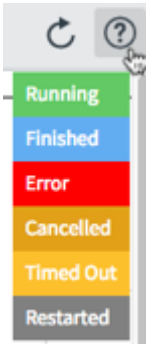
グラフィカル ワークフローエディター インターフェイスでワークフローコンテキストを表示するには、ワークフローコンテキスト レコードまたは現在のレコードのいずれかから [ワークフローを表示] リンクをクリックします。

ワークフローを表示



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

右上隅には次の 2 つのコントロールがあります。

	ワークフローコンテキストをリフレッシュします。
	ワークフローで使用される色のキーを表示し、アクティビティと移行の状態を示します。 

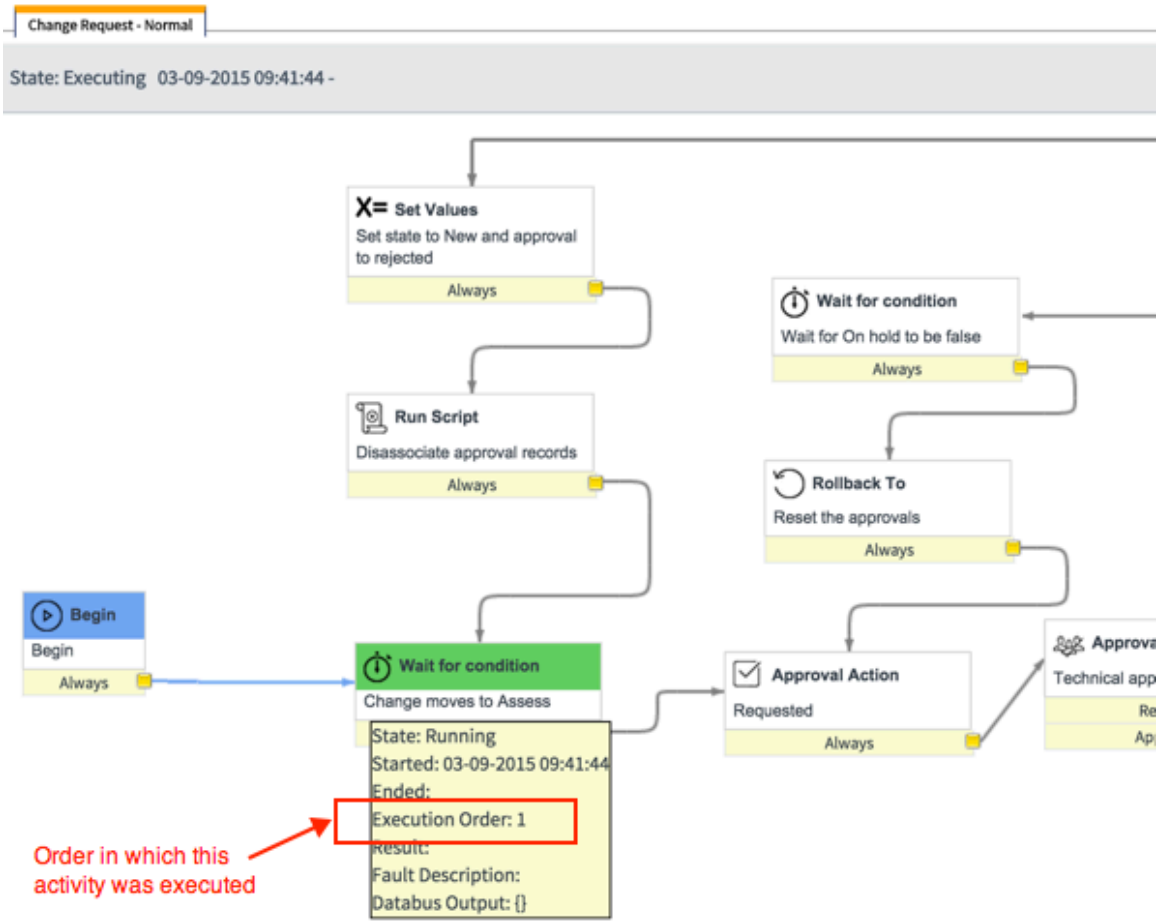
実行順序

個々のアクティビティの実行順序を確認するには、ワークフローコンテキストのグラフィカル ビューでツールヒント テキストを表示します。

[ワークフロー] > [ライブワークフロー] > [アクティブなコンテキスト] または [すべてのコンテキスト]で、調べるコンテキストを開きます。[ワークフローを表示] をクリックし、完了したアクティビティまたは実行中のアクティビティをポイントします。ツールチップには、エラー データ、実行時間、およびワークフローでアクティビティが実行される順序が表示されます。このデータは、エラー状態のアクティビティのトラブルシューティングに役立ちます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

実行順序ワークフロー



ワークフローのキャンセル

ワークフローをキャンセルすると、ワークフローの実行が停止され、ワークフローコンテキストの状態がキャンセルに設定されます。実行中のワークフローをキャンセルするには、`cancelContext(context)` スクリプトを使用します。onCancelスクリプトを定義して、未解決のワークフロー アクティビティをクリーンアップすることができます。

始める前に

必要なロール： admin または workflow_admin

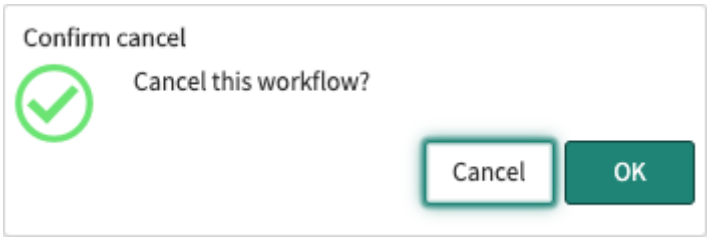
このタスクについて

ワークフローをキャンセルすると、ワークフローエンジンにキャンセルコマンドを挿入することによって、ワークフローの正常な停止が試みられます。

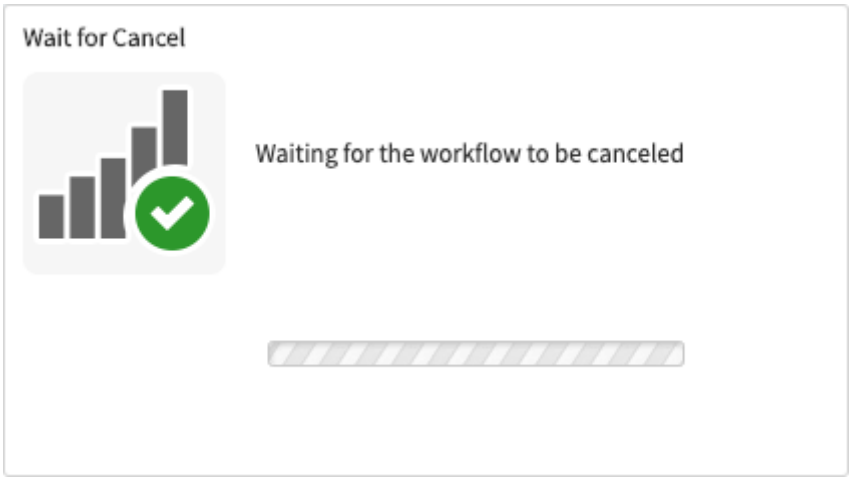
手順

1. [すべて] > **[Workflow]** > [アクティブなコンテキスト]に移動します。
2. ワークフローコンテキストレコードを選択します。
3. フォームレイアウトを設定して、 [キャンセル時のスクリプト] フィールドをフォームに追加します。
   フォームレイアウトの構成の詳細については、「フォームレイアウトの構成」を参照してください。
4. [キャンセル] 関連リンクを選択します。
   確認メッセージが表示されます。

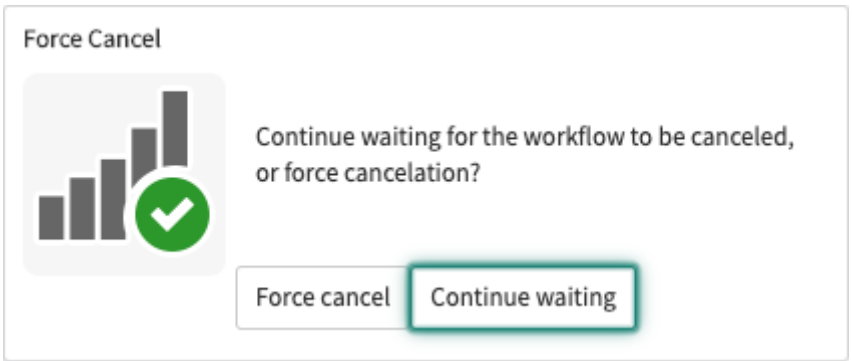
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. **[OK]** をクリックします。
   ワークフローエンジンは、ワークフローを正常にキャンセルしようとします。



ワークフローがキャンセルコマンドに応答しない場合、 [キャンセルの強制 (Force Cancel)] オプションが表示されます。



6. [キャンセルの強制] をクリックしてワークフローがアクティブに実行しているスレッドを中断するか、 [待機を続ける] をクリックしてワークフローが正常にキャンセルされるの待ちます。

⚠ **警告:** 可能な限り、ワークフローが正常にキャンセルされるようにします。ワークフローを強制的にキャンセルすると、関連するワークフローやスクリプトが未解決の状態のままになる可能性があります。キャンセル時のスクリプトを使用して、キャンセルされたワークフローから未解決のアーティファクトをクリーンアップすることができます。

`cancelContext(context)` スクリプトによるワークフローのキャンセル

実行中のワークフローをキャンセルするには、`cancelContext(context)` スクリプトを使用します。このスクリプトは、イベントに応答してワークフローをキャンセルする必要がある場合や、ユーザーが手動でワークフローをキャンセルする必要がある場合に役立ちます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
詳細については、「Workflow - cancelContext(GlideRecord context)」を参照してください。

キャンセル時のスクリプトの定義

ワークフローをキャンセルすると、レコードやスクリプトが未解決の状態のままになる可能性があります。たとえば、サービスカタログワークフローをキャンセルすると、カタログアイテムが要求しているユーザーのカートに残ることがあります。アドミニストレーターは、ワークフローがキャンセル状態に移行するときに実行されるキャンセル時のスクリプトを指定できます。このスクリプトは、ユーザーに通知したり、情報を記録したり、ワークフローアクティビティ内で実行されるスクリプトの状態を解決したりすることができます。ワークフローコンテキストの sys_id は、このスクリプトで context_sys_id 変数を使用して使用できます。

このタスクについて
キャンセル時のスクリプトは、グローバルスコープから非同期で実行されます。インスタンスの作業負荷によって、キャンセル時のスクリプトがスケジュールされて実行されるタイミングが決まります。

重要: グローバルスコープからキャンセル時のスクリプトは実行されるため、このスクリプトがスコープ付きスクリプトインクルードを呼び出したり、実行することはできません。

手順

1. [すべて] > **[Workflow]** > [ワークフローバージョン]に移動します。
2. チェックアウトしたワークフロー バージョンを選択します。
   チェックアウトされていないワークフロー バージョンは編集できません。
3. [キャンセル時のスクリプト] フィールドを編集します。
   このフィールドを追加するためにフォームを構成しなければならない場合があります。
4. [更新] をクリックします。

Example:
このサンプル スクリプトは、要求アイテムの [sc_req_item] レコードに、その要求のワークフローがキャンセルされたことを示すコメントを追加します。

```
var grContext = new GlideRecord("wf_context");
grContext.get(context_sys_id);
var grReq = new GlideRecord("sc_req_item");

// The current record may not exist, make sure it exists before modifying
 it.
if (grReq.get(grContext.id)) {
    grReq.comments = "The workflow processing this item was Canceled.
 Contact your system administrator for further information.";
    grReq.update();
}
```

ワークフローのスケジュール設定

条件に基づいて実行するだけでなく、スケジュール済みジョブと同様に、ワークフローを特定の時間に実行するようにスケジュールすることもできます。

スケジュール設定済みワークフローは、現在のレコードが定義されないため、テーブル内の特定のレコードに対しては実行されません。この動作のため、タスクの作成またはカタログタスクなど、現在のレコードに依存する特定のアクティビティは、スケジュール設定済みワークフローでは使用できません。ワークフローでこれらのアクティビティのいずれかが必要な場合、スケジュール済みワークフ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ローを使用する代わりにワークフローを開始するレコードを挿入するスケジュール済みジョブを使用することを検討してください。

ワークフローをスケジュールするには、[ワークフロー] > [スケジュール設定済みワークフロー]をクリックし、[新規]をクリックします。次のフィールドにデータが入力されます。

フィールド	説明
名前	スケジュール済みワークフローの一意の名前です。
Workflow	指定した日付、時間、または間隔でトリガーされる既存の公開ワークフローを選択します。
アクティブ	これを選択すると、スケジュール済みワークフローが適切なタイミングでトリガーされます。
アプリケーション	グローバルなどのアプリケーションのタイプを指定します。
実行	ワークフローをトリガーするタイミングを決定する選択リストです。オプションは次のとおりです。 • 日次：毎日特定の時間にトリガーします。 • 週次：特定の曜日にトリガーします。 • 月次：毎月特定の日にトリガーします。 • 定期的：設定した期間が経過するたびにトリガーします。 • **1** 回：特定の日時に 1 回トリガーします。
時刻	日次/週次/月次スケジュール ワークフローの場合、ワークフローを実行する時刻です。
日	週次スケジュール済みワークフローの場合、ワークフローを実行する曜日です。月次スケジュール ワークフローの場合はワークフローを実行する日付になります。
繰り返し間隔	定期的なワークフローの場合、開始日時からのワークフローの間隔です。
開始中	定期的なワークフローの場合、ワークフローを実行する最初の日時です。1 回実行されるスケジュール ワークフローの場合はワークフローを実行する日時になります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

スケジュール済みジョブの作成

更新セットを使用したワークフローの移動

ワークフロー情報は複数のテーブルに格納されるため、システムは他のレコードとは異なる方法で更新セットのワークフローを追跡します。

ワークフロー バージョンに対する変更は、ワークフローが公開されるまで更新セットに追加されません。その時点で、ワークフロー全体が更新セットに追加されます。更新セットには、ワークフローが単一のワークフロー [wf_workflow] レコードとして格納され、ワークフローの更新タイプを持つ最新バージョンのみが保持されます。

更新セット の詳細については、「システムアップデートセット」を参照してください。

ワークフロー更新セット移行のユースケース - シンプル

依存関係のない新しいワークフローを作成した後、ワークフローを更新セットで移行します。

1. ユーザー A が更新セット A を選択します。
2. ユーザー A が、ワークフロー A という新しいワークフローを作成します。
3. ユーザー A がワークフロー A を公開します。

   XML ペイロードを含む更新セット A に顧客更新セット レコードが追加されます。これには、公開されたワークフロー A およびすべてのアクティビティ依存関係が含まれます。XML ペイロードには、ワークフローに関連付けられたワークフロー入力変数も含まれています。
4. ユーザー A が更新セット A を完成させ、本番インスタンスに移行します。
5. 更新セット A が正常にコミットされます。
6. ワークフロー A が正常に動作します。

ワークフロー更新セット移行のユースケース - サブフロー依存関係 (成功)

既存のワークフローとその依存関係サブフローを正常に編集して移行します。

1. ユーザー A が更新セット B を選択します。
2. ユーザー A がワークフロー A をチェックアウトします。
3. ユーザー A がワークフロー B と呼ばれるサブフローをワークフロー A に追加します。

   ワークフロー B はすでに公開され、本番インスタンスに移行されたと仮定します。
4. ユーザー A がワークフロー A を公開します。

   XML ペイロードを含む更新セット B に顧客更新セット レコードが追加されます。これには、公開されたワークフロー A およびすべてのアクティビティ依存関係が含まれます。XML ペイロードには、ワークフローに関連付けられたワークフロー入力変数も含まれています。
5. ユーザー A が更新セット B を完成させ、本番インスタンスに移行します。
6. 更新セット B が正常にコミットされます。
7. ワークフロー A は、サブフローとしてワークフロー B と正常に連携します。

ワークフロー更新セット移行のユースケース - サブフロー依存関係 (失敗)

依存するサブフローがないために本番インスタンスでの実行に失敗する既存のワークフローを編集し、テスト インスタンスから本番インスタンスに移行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. ユーザー A が更新セット C を選択します。
2. ユーザー A がワークフロー A をチェックアウトします。
3. ユーザー A がワークフロー B と呼ばれるサブフローをワークフロー A に追加します。

   ワークフロー B はすでに公開されているが、本番インスタンスに移行されていないと仮定します。

4. ユーザー A がワークフロー A を公開します。

   XML ペイロードを含む更新セット C に顧客更新セット レコードが追加されます。これには、公開されたワークフロー A およびすべてのアクティビティ依存関係が含まれます。XML ペイロードには、ワークフローに関連付けられたワークフロー入力変数も含まれています。

   更新セット C に特にないものは、ワークフロー B と呼ばれるサブフローです。ワークフロー B は、ユーザー A が更新セット C を選択する前に公開されました。

5. ユーザー A が更新セット C を完成させ、本番インスタンスに移行します。
6. 更新セット C は警告とともにコミットされます。
7. ワークフロー A が本番インスタンスで呼び出され、次の結果が得られます。

   ワークフロー A がランタイム検証チェックに失敗し、本番システムで実行できなくなります。システムは、障害の原因 (特に依存するワークフローがないこと) を詳細に示すワークフロー ログをワークフローコンテキストに追加します。

   ワークフローの依存関係と更新セットにおける検証チェックの詳細については、「ValidateUpdateSetDependencies」を参照してください。

ワークフロー更新セット移行のユースケース - サブフロー依存関係 (リスク)

複数のユーザーが、適切な調整を行わずにワークフローをテスト インスタンスから本番インスタンスに移行します。このユースケースは成功する可能性がありますが、各ユーザーが依存関係について理解し、ワークフローの依存部分を新しいインスタンスに適切に移行した場合に限ります。

この例は、更新セットの失敗を表すものではありませんが、このユースケースではほとんどの場合更新セットが原因と見なされます。検証により、複数の更新セットにわたるワークフロー依存関係の可視化が高まり、より適切な情報がデザイナーに提供されます。ほとんどの場合、警告によってアクションが妨げられることはなく、リスクが特定されるだけです。デザイナーには、検証チェックで示されたアドバイスに対してアクションを起こす責任があります。

1. ユーザー A が更新セット C を選択します。
2. ユーザー A がワークフロー A をチェックアウトします。
3. ユーザー A が、ユーザー **ID** を返すワークフロー B と呼ばれるサブフローを追加します。

   注: ワークフロー B はすでに公開され、本番インスタンスに移行されたと仮定します。

4. ユーザー A がワークフロー B の戻り値を使用して承認を生成します。
5. ユーザー B が更新セット D を選択します。
6. ユーザー B がワークフロー B (ワークフロー A のサブフロー) をチェックアウトします。
7. ユーザー B が、ワークフローの戻り値をユーザー **ID** から文字列メッセージに変更することで変更します。
8. ユーザー A がワークフロー A を公開します。

   注: ワークフロー A に関連する警告がダイアログ ボックスに表示され、ユーザー A に対して公開前にワークフローの検証が推奨されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

9. ユーザー A は、ワークフロー A を公開して検証します。
10. ユーザー A に対して、異なる更新セットのユーザーによってワークフロー B が変更されたことが警告されます。
11. ユーザー A はこの警告を無視し、ワークフロー A を公開します。

    注: XML ペイロードを含む更新セット C に顧客更新セット レコードが追加されます。これには、公開されたワークフロー A およびすべてのアクティビティ依存関係が含まれます。XML ペイロードには、ワークフローに関連付けられたワークフロー入力変数も含まれています。

12. ユーザー A が更新セット C を完成させ、本番インスタンスに移行します。
13. ワークフロー A が本番インスタンス上で呼び出され、すでにシステムにある古いバージョンのワークフロー B を使用して正常に実行されます。
14. ユーザー B がワークフロー B を公開します。

    注: 更新セットが進行中ではなくなったため、ユーザー B に対して更新セット C の依存関係が警告されません。ただし、ユーザー B にはワークフロー バージョンに関連する警告を示すダイアログ ボックスが表示され、ワークフロー B を検証するよう指示されます。ユーザー B がワークフローを公開をキャンセルしてワークフローを検証した場合、ワークフロー B をサブフローとして使用するワークフローがあることがユーザー B に対して警告されます。戻り値が変更されたことが分かったら、ユーザー B はそれらのワークフローもテストする必要があります。更新セット警告のパラメータについては、「ValidateUpdateSetDependencies」を参照してください。

15. ユーザー B が最終的にワークフロー B を公開します。

    注: XML ペイロードを含む更新セット D に顧客更新セット レコードが追加されます。これには、公開されたワークフロー B およびすべてのアクティビティ依存関係が含まれます。

16. ユーザー B が更新セット D を完成させ、本番インスタンスに移行します。
17. 更新セット D は警告なしでコミットされます。
18. ワークフロー A は本番インスタンスで呼び出され、正常に実行されません。これは、ワークフロー B の戻り値がユーザー ID を生成しなくなるためです。

入力変数の移動

既存のワークフローに入力変数を追加して、それらを更新セットに追加することができます。

新しい変数を送信すると、変数 [var_dictionary] テーブルへの変数の追加を反映するエントリが現在の更新セットに作成されます。ワークフローの公開時にのみ更新セットに書き込むワークフロー バージョンとは異なり、変数は現在選択されている更新セットに個々の更新エントリを送信時すぐに書き込みます。

入力変数の移動のユースケース - 2 つの入力変数

既存のワークフローにはすでに 2 つの入力変数が含まれています。

1. ユーザー A がワークフローをチェックアウトします。
2. ユーザー A が 2 つの入力変数を追加します。

   ServiceNow により、新しい変数ごとに 1 つの顧客更新レコードが現在の更新セットに追加されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

現在のワークフローの入力変数は 4 つになりました。チェックアウト前に存在していた 2 つと、新しい 2 つの入力変数です。

3. ユーザー A がワークフローを公開します。

   関連する顧客更新レコードが 3 つになりました。新しい変数 2 つと、公開されたワークフロー 1 つです。新しいワークフローバージョンの XML ペイロードに、すべての入力変数データベースエントリが含まれるようになりました。したがって、元の 2 つの入力変数に個々の顧客更新レコードがない場合、4 つの変数すべてが、新しく公開されたワークフロー バージョンのペイロードとともにローカル インスタンスに移行されます。

4. 特定のワークフローに含まれる変数を確認します。
5. ユーザー A が更新セットを完成させます。
6. 入力変数の追加 - 成功

   ユーザー A が、更新セットを、元のワークフロー バージョンが以前にコミットされたローカル インスタンスに移行し、コミットします。

   - 既存の 2 つの入力変数は、以前のバージョンに存在していたためにすでに存在しています。
   - ユーザーが更新セットをコミットすると、2 つの新しい入力変数が追加されます。
   - システムでは、更新セットを受け取るインスタンスに 2 つのレガシー入力変数が保持されます。更新セットはこれらの変数を上書きしません。
   - 新しい公開ワークフロー バージョンでは、4 つの変数がすべて使用されます。
   - ユーザーが新しいワークフロー バージョンをテストし、正常に実行されます。

特定のワークフローに含まれる変数の確認

特定のワークフローに含まれる変数を確認できます。

手順

1. [すべて] > [システムアップデートセット] > [ローカル更新セット]に移動します。
2. アクティブな更新セットを選択します。
3. ワークフローの顧客更新エントリを選択します。
4. **XML** ペイロードを表示します。
5. いずれかの列の名前を検索するか、var_dictionary を検索します。

   入力変数ごとに 1 つの var_dictionary エントリがあります。

入力変数の削除

挿入アクションや更新アクションなどのワークフロー入力変数を削除すると、ユーザーの現在の更新セットに顧客更新レコードが作成されます。

これらの削除は、入力変数を所有するワークフローが同じ更新セットで公開されているかどうかにかかわらず、更新セットを含む新しいインスタンスに移行されます。慎重に計画し、ワークフローを編集して更新セットを選択するときは注意してください。

入力変数の削除リスク

既存のワークフローにはすでに 2 つの入力変数が含まれています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. ワークフローは、2 つの変数を持つ本番インスタンスに移行されました。
2. 開発インスタンスでは、ユーザー A が更新セット A を選択し、ワークフローをチェックアウトします。
3. ユーザー A がワークフローにある入力変数 1 つとそれに対するすべての参照を削除します。

   システムにより、入力変数の削除を反映する 1 つの顧客更新レコードが更新セット A に入力されます。入力に依存しなくなった新しいワークフロー バージョンにはレコードは追加されません。この状況は、ワークフローが公開されるまで発生しません。
4. ユーザー A が、本番に移行する必要がある更新セット A の他の機能に対して作業を続けます。
5. ユーザー A が更新セット A を完成させ、ワークフローを公開せずに本番インスタンスに移行します。

   ワークフロー入力変数を削除する更新セット エントリが、本番インスタンスに適用されるようになりました。ワークフローの前のバージョンはこのインスタンスで実行されており、引き続き欠落している変数を参照しています。

入力変数の削除ソリューション

ワークフローを編集するとき (特に入力変数を削除するとき) は、すべての変数編集とワークフロー公開に 1 つの更新セットを使用するようにしてください。

必要に応じて、更新セットを、ワークフローの公開後に展開対象となるより一般的なセットに結合します。Update Sets の詳細については、「システムアップデートセット」を参照してください。

> **注:** ワークフロー バージョンがすでに本番システムで実行されている場合に、入力変数が新しいバージョンから削除された場合、その削除は以前のバージョンに対してすでに実行されているトランザクションに影響する可能性があります。ワークフロー入力変数を削除するときは十分に注意し、移行は慎重に計画してください。

入力変数の削除の防止

ワークフロー バージョンを公開する前に、システムはワークフロー モデルを検証して、デザイナーが導入を計画できるようにします。

この検証は、ワークフローが正常に実行されない可能性がある重大なエラーについて警告しますが、更新セットの依存関係や競合についても警告します。詳細は、「ValidateUpdateSetDependencies」を参照してください。

ワークフローの重複の回避

更新セットは、ワークフロー バージョンをローカル インスタンスにコミットする前に、ワークフローのすべてのバージョンの公開状態を管理します。

更新セットを使用して挿入または更新としてコミットされたワークフローの最新バージョンは、ワークフロー バージョンの発行順序に関係なく、現在公開されているバージョンになります。

更新セットでのワークフローのコミット

このページの手順に従って、更新セットでワークフローをコミットします。

手順

1. ワークフロー A - バージョン 1 が作成され、更新セット A で公開されます。
2. 更新セット A が完成し、ローカル インスタンスに移行されます。
3. 更新セットがコミットされると、ワークフロー A の以前のすべてのバージョンが published = false に設定されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

初回の移行時は、以前のバージョンがありません。

4. ワークフロー A - バージョン 1 がワークフローの唯一の公開バージョンになります。

更新セットの移行の例

更新セットのコミットの結果として、公開バージョンが複数になることはありません。ただし、これによってリスクがなくなるわけではないため、更新セットを移行する際には注意が必要です。

次の例を考えてみましょう。

1. ワークフロー A - バージョン 1 が本番インスタンスに移行されてコミットされます。
2. 更新セット B が作成されます。
3. 更新セット C が作成されます。
4. ワークフロー A - バージョン 2 が更新セット B で公開されています。

   顧客更新レコードがバージョン 2 のペイロードを持つ更新セット B に追加されます。

   バージョン 1 ワークフローが未公開のままの更新セット B に顧客アップデートレコードが追加されます。

5. 更新セット B が完成しました。
6. ワークフロー A - バージョン 3 が更新セット C で公開されています。

   顧客更新レコードがバージョン 3 のペイロードを持つ更新セット C に追加されます。

   バージョン 2 ワークフローが未公開のままの更新セット C に顧客更新レコードが追加されます。

7. 更新セット C が完成しました。
8. 更新セット C が本番インスタンスに移行されてコミットされます。

   ワークフロー A - バージョン 1 は未公開に設定されています。

   ワークフロー A - バージョン 2 を含む更新セット B が一度も移行されたことがないため、バージョン 2 の更新はスキップされます。

   ワークフロー A - バージョン 3 がコミットされ、ワークフローの唯一の公開バージョンになります。

更新セットの移行のリスク

更新セット B が本番インスタンスに移行されてコミットされます。

1. ワークフロー A - バージョン 3 は未公開に設定されています。
2. ワークフロー A - バージョン 1 は未公開のままです。
3. ワークフロー A - バージョン 2 がコミットされ、ワークフローの唯一の公開バージョンになります。

   ワークフローが、おそらく意図せずにバージョンを戻しました。戻ったバージョンは、現在の公開バージョンになります。

ワークフローのタイムライン

システムは、ワークフローコンテキストに関連付けられた履歴アクティビティのタイムラインビューを提供します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイムラインには、開始日と終了日で定義された、タスクや承認などのアクティビティの直線状のカレンダーが表示されます。タイムライン上の各アクティビティは、スパンで表され、水平のカラーバーとして表示されます。各スパンには、アクティビティに関する追加情報を含むラベルとツールヒントがあります。左側のペインには、コンテキスト内のすべてのアクティビティが展開可能な階層で表示されます。タイムラインの表示セットを変更して、データをより詳細に表示できます。

注: ワークフローのタイムラインには、コンテキスト履歴のみ反映されます。ワークフロー アクティビティのリアルタイム ゲージではありません。

タイムラインの使用

デフォルトでは、最初に開いたときに要求されたすべてのアクティビティと移行がタイムラインに表示されます。

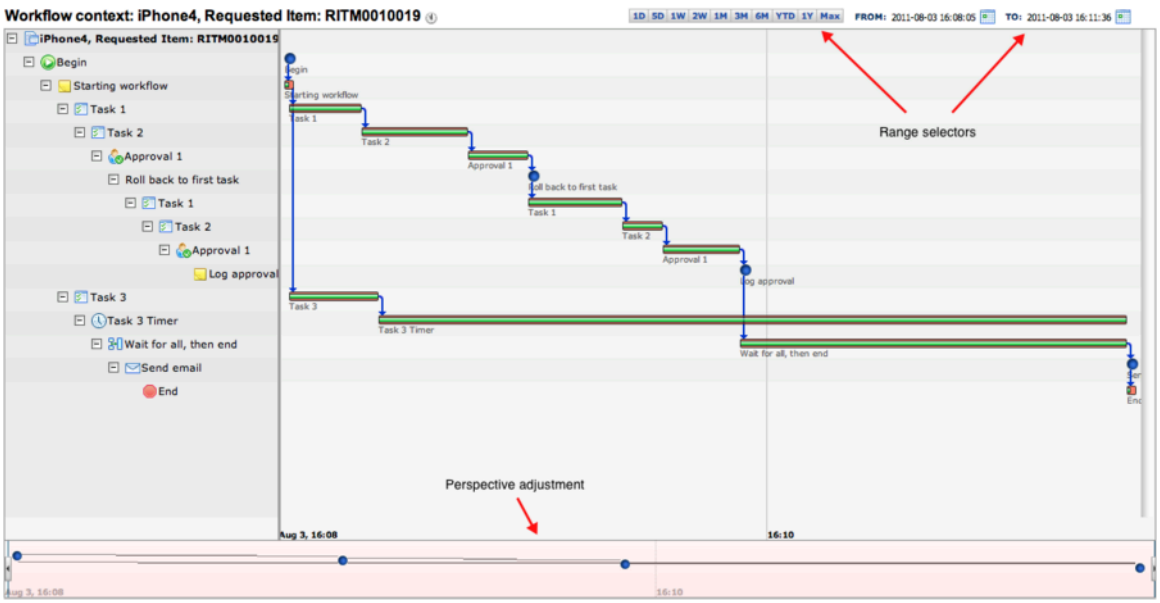
このタスクについて

アクティビティ ペインで階層の一部を折りたたむと、タイムラインが自動的に調整されます。日付/時刻および期間コントロールを使用すると、すべての要素を一度に表示できるようにタイムラインを拡大/縮小できます。タイムラインを表示するには、ワークフローコンテキスト レコード内で UI アクションをクリックします。

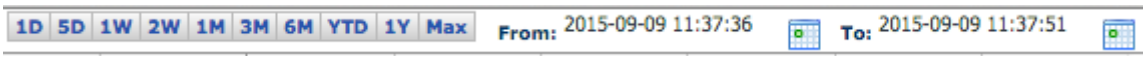
手順

1. [すべて] > **[Workflow]** > [ライブワークフロー] > [アクティブなコンテキスト]に移動します。
2. コンテキストを選択します。
3. [関連リンク] で、[タイムラインを表示] をクリックしてコンテキスト全体のタイムラインを表示します。

   すべてのアクティビティが展開され、ビューが [最大] に設定された状態でタイムラインが開きます。この場合、タイムライン全体がペインの幅に合わせて表示されます。タイムラインのタイトルは、ワークフローコンテキストの形式 (<コンテキスト名>、要求アイテム：<要求アイテム番号>) です。



4. 表示セットを変更するには、タイムラインの上部にある範囲セレクターを使用します。



   インクリメントは 1 日から 1 年に変わります。タイムラインを最初のスパンの開始日から最後のスパンの終了日までのインクリメントに制限するには、[最大] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. 開始および終了カレンダー フィールドを使用してタイムライン表示セットを選択します。

   これらのフィールドは、タイムラインの下部にあるスライダーと同じ表示セットを制御します。

6. 表示セットを変更するには、タイムラインの下部にあるピンクのスライダーを使用します。

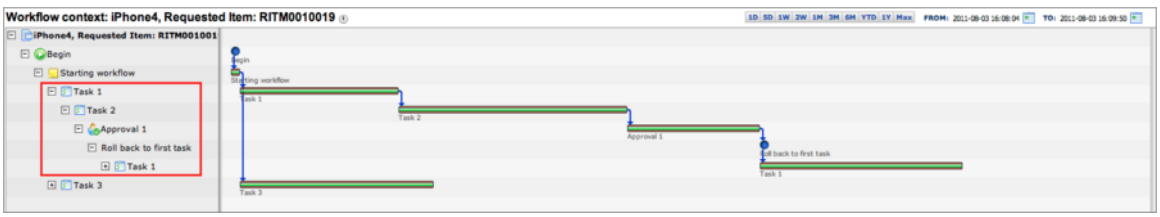
   a. 長いタイムラインにすべてのスパンを表示するには、スライダーを右から左に移動します。

   b. スライダーの端の点を調整して、任意の倍率に変更します。

      スライダーを狭くするとスパンがズームインされ、複雑なタイムラインの詳細が表示されます。スライダーを広げるとビューが引き延ばされ、タイムラインのより多くの部分が画面に表示されます。

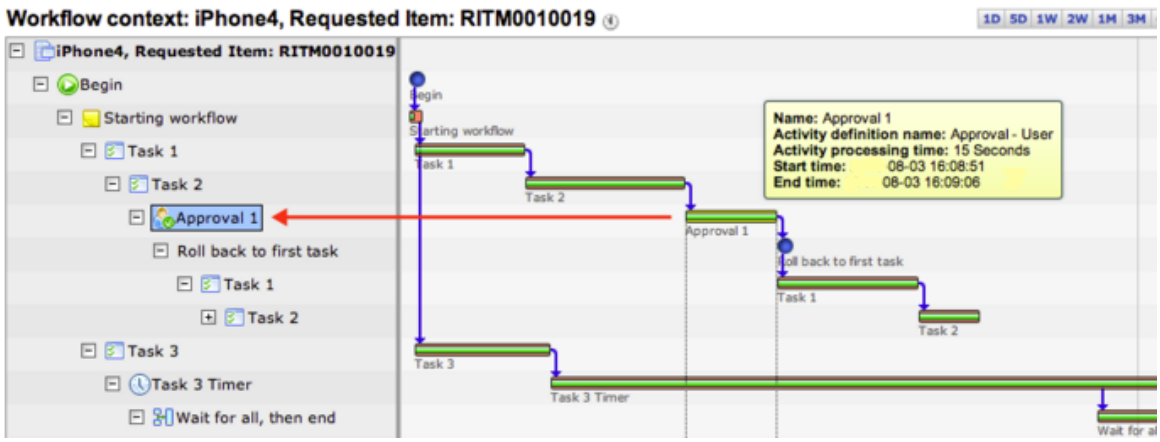
7. 選択したアクティビティでタイムライン ビューにフォーカスするには、アクティビティ ツリーを展開するか折りたたみます。

   アクティビティ ツリーに表示されないスパンは、タイムライン ペインには表示されません。



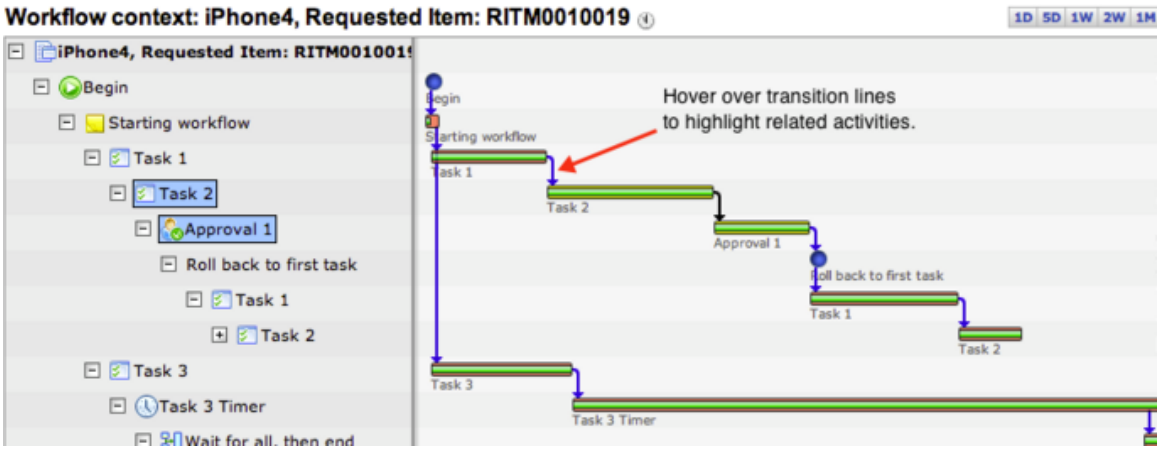
8. アクティビティ スパンの上にカーソルを合わせると、ツールヒントにアクティビティに関する情報が表示されます。

   このアクションによって、アクティビティ ペイン内のアクティビティが強調表示されます。



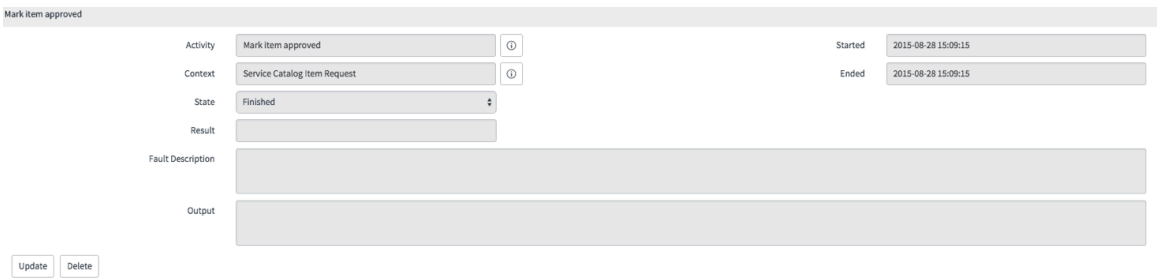
9. 2 つのアクティビティ間の移行にカーソルを合わせると、アクティビティ ペインでアクティビティと先行アクティビティが強調表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



10. スパンをダブルクリックすると、そのアクティビティの履歴レコードが表示されます。

    履歴レコードには、 状態、開始時刻、終了時刻などの情報が示されます。



選択したアクティビティのタイムライン

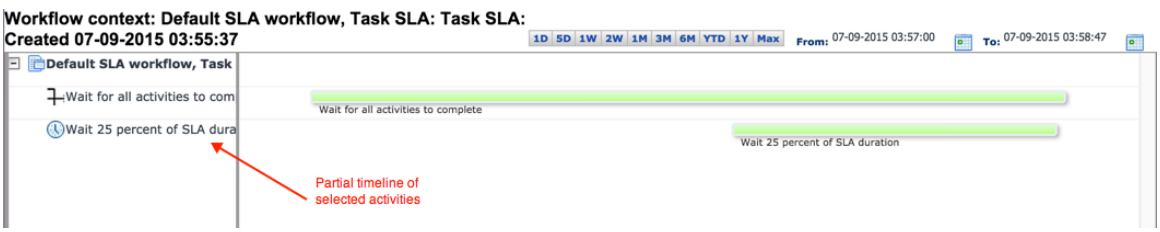
ワークフロー タイムラインの一部を表示することができます。

手順

1. [すべて] > **[Workflow]** > [ライブワークフロー] > [アクティブなコンテキスト]に移動します。
2. ワークフローコンテキスト レコードを開きます。
3. [ワークフロー アクティビティ履歴] 関連リストで、1 つ以上の個別アクティビティを選択します。
4. アクション メニューから [タイムラインを表示] をクリックします。

   結果として表示されるビューは、タイムラインのスナップショットであり、選択したアクティビティとその移行 (存在する場合) のみ表示されます。

5. ツリーを折りたたんで、ビューをさらに絞り込みます。



6. さまざまなコンテキストのアクティビティを表示するタイムラインを表示するには：
   この機能を使用して、親ワークフローコンテキストとともにサブフローのコンテキストを表示できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [ワークフロー] > [ライブワークフロー] > [履歴] に移動します。

b. リストから個々の履歴アイテムを選択します。

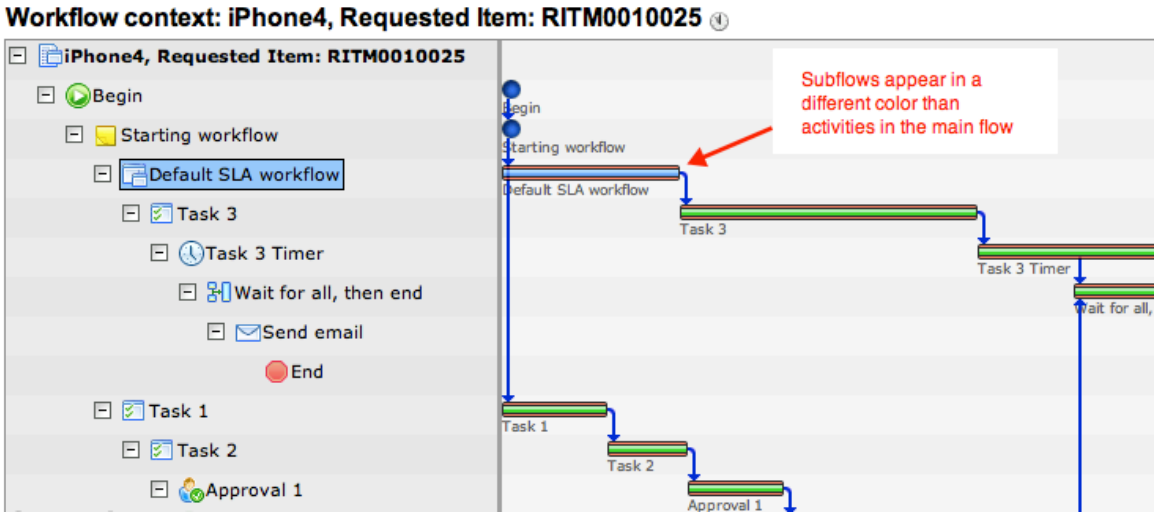
c. アクション メニューから [タイムラインを表示] オプションを選択します。

履歴アイテムは、アクティビティ ペインのコンテキストの下に階層構造で配置されます。タイムラインのタイトルは複数のコンテキストです。タイムラインは、選択された履歴アイテムのアクティビティと関係のみを描画します。

ワークフロー タイムラインでのサブフローの表示

ワークフロー タイムラインでは、サブフロー スパンはメイン ワークフローのアクティビティとは異なる色で表示されます。

ワークフロー タイムラインのサブフロー



ワークフロー エラー処理

ユーザーがワークフロー アクティビティ変数で作成するカスタマイズされた JavaScript は、ランタイム構文エラーの影響を受けやすくなります。利用可能なエラー情報は、エラー状態のワークフロー アクティビティをポイントするとツールヒントに表示されます。

ベースシステムでは、ワークフロー アクティビティはエラー状態の条件ルーティングを行いません。そのため、ワークフローは現在のレコードの状態に基づいて進行します。たとえば、ワークフローには、高度なスクリプトを使用して承認者を追加する承認 - ユーザーアクティビティが含まれています。スクリプトの構文エラーにより、承認者が追加されることはありません。状態承認者なしは、構文エラーがなくても有効な戻り値であるため、承認アクティビティはスキップされ、ワークフローは正のパスに沿って進行します。ただし、これは、承認者なしで正のパスに沿ってワークフローを進めることを希望しないワークフローデザイナーにとって有効な応答ではない可能性があります。

ワークフローエラー処理により、構文エラーが検出されて記録され、ワークフローデザイナーがエラー条件をワークフローに追加するために使用できる状態が提供されます。エラー処理を使用して、これらのワークフロー アクティビティの高度なスクリプト フィールドで構文エラーを特定します。

- 承認 - ユーザー
- 承認 - グループ
- カタログ タスク
- タスクの作成
- 条件

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- スクリプトを実行
- 通知

利用可能なエラー情報

この表は、エラー終了をサポートするアクティビティを示しています。

利用可能なエラー情報

アクティビティ	ワークフロー ログ	赤色エラー インジケーター	アクティビティ状況	アクティビティの結果	障害の説明	エラー時に再ルーティング
承認 - ユーザー 承認 - グループ	あり	あり	エラー	スキップ	あり	あり
カタログ タスク タスクの作成	あり	なし	完了	なし	なし	なし
条件	あり	あり	エラー	なし	あり	あり
スクリプトを実行	なし	はい	エラー	エラー	あり	あり
通知	あり	あり	エラー	エラー	あり	あり

ワークフローエラー追跡機能

エラー処理は、アクティビティに関するエラーの説明のポップアップ表示や詳細なログ レコードなど、ワークフロー内に視覚的なヒントを示します。

バナー

スクリプト フィールドで構文エラーが発生したことを示す、赤色のバナーを持つアクティビティを探します。エラー処理を行うすべてのアクティビティ (カタログ タスクとタスクの作成を除く) で、このエラーが発生すると赤色のバナーが表示されます。

ツールヒント

赤色のバナーが表示されているアクティビティをポイントし、エラーに関する情報を表示します。ツールヒントには、アクティビティ状況と結果が表示され、簡単な障害の説明 (タスクアクティビティを除く) が表示されます。この承認は、障害の説明に示されるエラーにかかわらず、スキップされ続けたことに注意してください。各アクティビティの利用可能な情報については、「ワークフローエラー処理」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

State: Error
Started: 07-09-2015 03:46:08
Ended: 07-09-2015 03:46:08
Execution Order: 1
Result: error
Fault Description: missing name after . operator
Databus Output: {}

実行順序

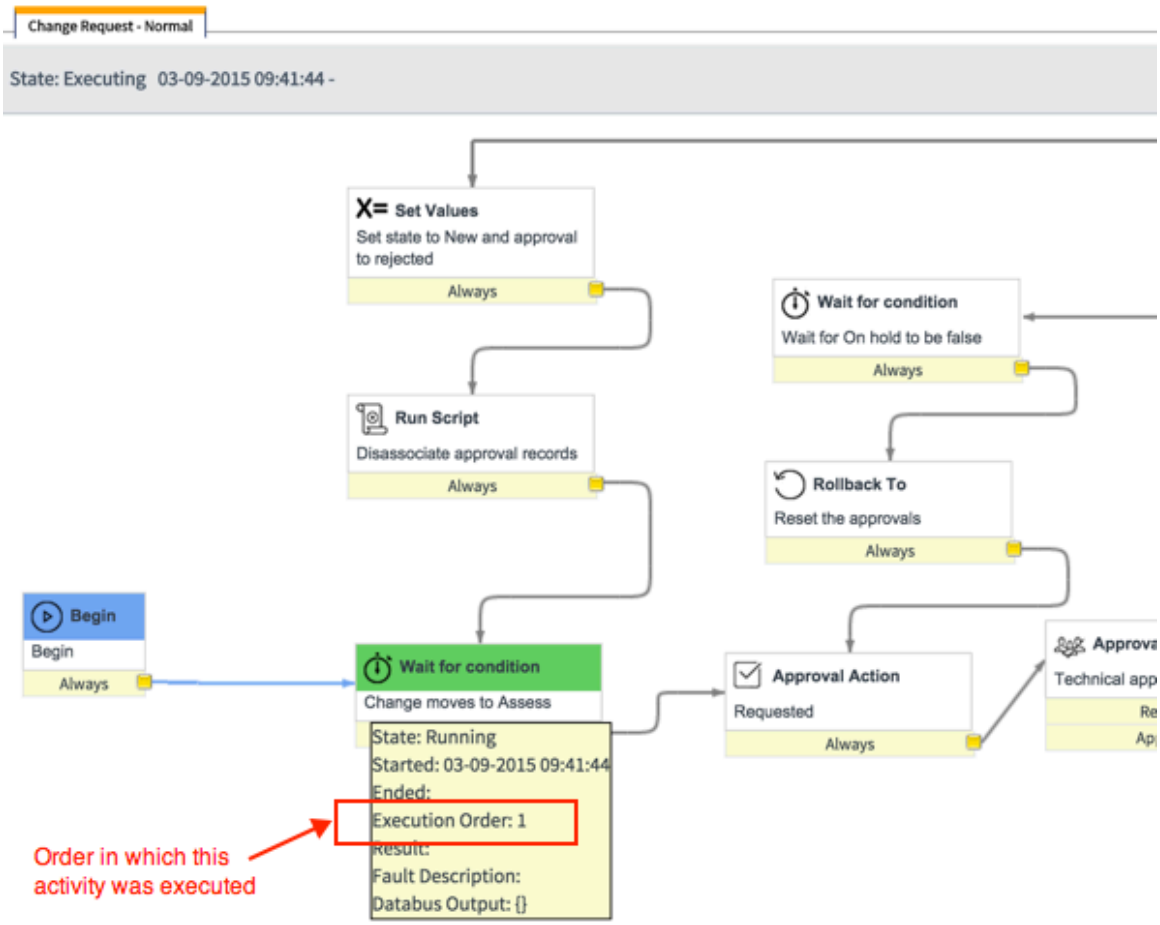
ワークフローコンテキスト グラフィック ビューのツールヒント テキストには、個々のアクティビティの実行順序が表示されます。これはトラブルシューティングに役立ちます。

ワークフローアクティビティが実行された順序を表示するには：

1. [ワークフロー] > [ライブワークフロー] > [アクティブなコンテキスト] または [すべてのコンテキスト] に移動します。
2. 調べるコンテキストを開きます。
3. [ワークフローを表示] をクリックします。
4. 完了したアクティビティまたは実行中のアクティビティにカーソルを置きます。

   エラー データ、実行時間、およびそのアクティビティがワークフローで実行された順序を示すツールヒントが表示されます。このデータを使用して、エラー状態にあるアクティビティをトラブルシューティングできます。

アクティビティの実行順序



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

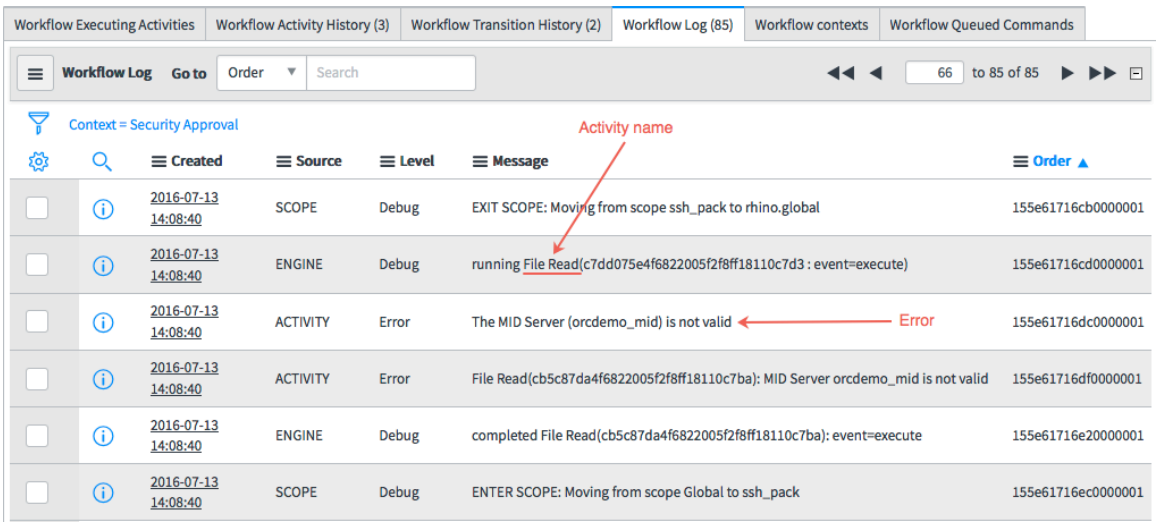
ワークフロー ログ

アクティビティの構文エラーの詳細については、ワークフローコンテキスト フォームのログを参照してください。構文エラーが発生するとタスク アクティビティに赤色のバナーが表示されないため、ワークフローが正しく実行されていないと思われる場合はログを表示する必要があります。ログでエラーの説明を調べ、ログに示されたアクティビティのスクリプトを検査します。

名前によりアクティビティを表示するには、 [ワークフロー] > [管理] > [プロパティ] に移動し、[ワークフローのデバッグ メッセージをログに記録します] プロパティを有効にします。

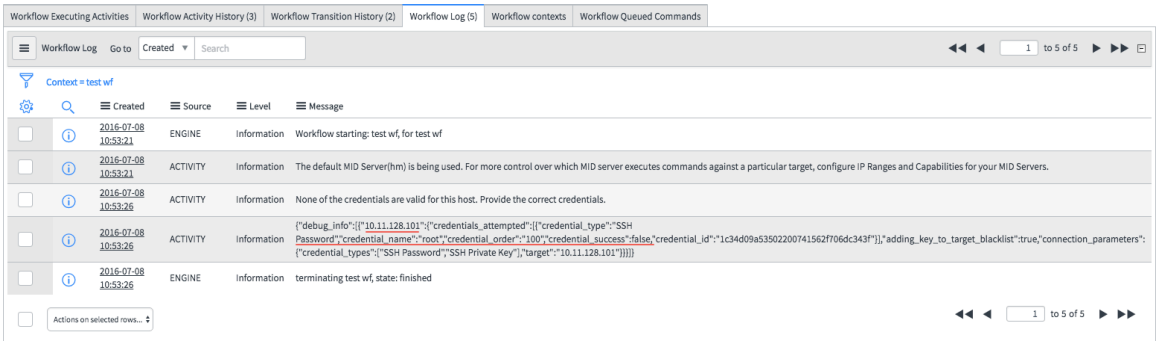
この例では、File Read という名前の SSH アクティビティが無効な MID サーバーを指定しています。

エラー処理ログ



ワークフローのアクティビティにより使用されている認証情報にエラーがあり、アクティビティをターゲットで認証できない場合は、そのエラーを説明するメッセージが [ワークフロー ログ] 関連リストに表示されます。メッセージには、ターゲット IP アドレスと認証情報の詳細が表示されます。

ワークフロー ログでの認証情報のデバッグ



エラー条件終了の作成

アドミニストレーターは、ワークフロー内の特定のアクティビティに対してエラー条件終了を作成することにより、スクリプト エラーが発生したときにワークフローを再ルーティングすることができます。これにより、ワークフローは予測可能な方法でスクリプト エラーを処理できるようになり、望ましくない結果が発生しません。

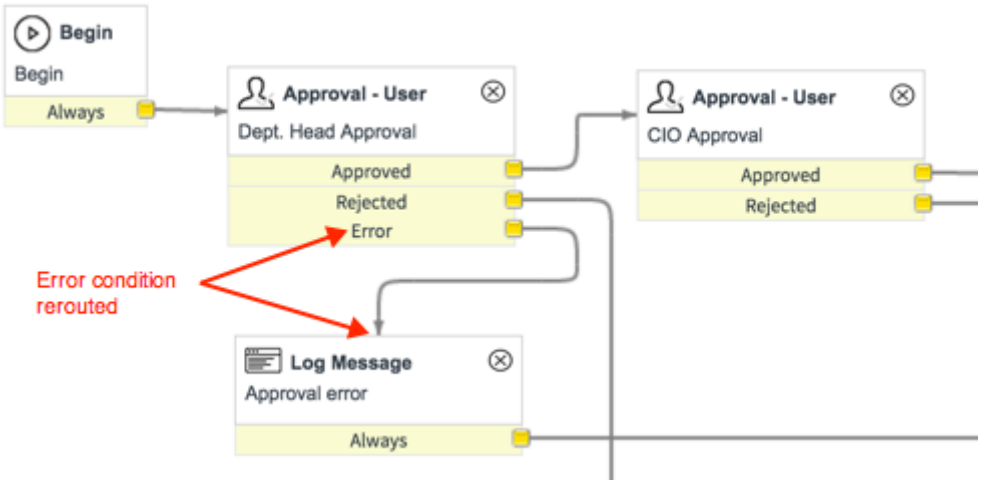
手順

1. ワークフローを開き、チェックアウトします。
2. エラー終了を作成するアクティビティの上部を右クリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. コンテキストメニューから [条件を追加] を選択します。
4. 次の値を持つ条件終了を追加します。
   - 名：`エラー`
   - 条件：`activity.state=='faulted'`
5. [送信] をクリックします。

   エラー終了がアクティビティに表示されます。
6. エラー終了を、エラー状態を処理するための別のアクティビティに接続します (たとえば、通知やログ メッセージなど)。



承認条件の再構成

承認アクティビティは、他のアクティビティとは異なる方法でスクリプト エラーに反応します。

このタスクについて

承認アクティビティ スクリプト エラーにより、承認が正常に処理されないことがあります。つまり、これにより承認がスキップで完了したにもかかわらず、承認済み状態に見える可能性があります。この状況を防ぐため、 承認済み終了を次のように再構成します。

手順

1. 承認ワークフローを開き、チェックアウトされていることを確認します。
2. 承認アクティビティで、承認済み終了をダブルクリックします。
3. 次のスクリプトを [条件] フィールドに追加します。

   ```
   && activity.state != 'faulted'
   ```

   これにより、アクティビティがエラー状態のまま通常のパスを進行することがなくなり、スキップまたは承認済みが適切な状況になります。
4. [更新] をクリックします。

ワークフロー ランタイムメトリクス

ワークフロー ランタイムメトリクスの収集を有効にし、ワークフローが正常に実行されているかや、追加のリソースを消費しているかを調べることができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフローの異常なランタイムは、実際のランタイムを、ワークフローのプロパティで定義されている外れ値のしきい値と予定ランタイムを使用して計算された外れ値の範囲と比較することによって識別されます。

これらのメトリクスの結果は、ワークフロー オペレーション ダッシュボードおよびワークフロー ゲージを使用したカスタム ホームページで監視できます。

重要:

インスタンスからの情報を整理してデータに関するストーリーを伝える、ホームページの機能は、新しいインスタンスのダッシュボードにあります。ネクストエクスペリエンス を有効にしてアップグレードされたインスタンスでは、ユーザーは直接 URL を持っている場合は既存のホームページを表示できますが、作成や編集はできません。レスポンシブダッシュボードと アナリティクスセンター ダッシュボードがホームページの機能を引き継ぎます。

ホームページ廃止ヘルプツール を使用して、インスタンスのホームページをレスポンシブダッシュボードに変換します。

詳細については、以下を参照してください。

- アナリティクスセンターでのダッシュボード
- レスポンシブダッシュボードの操作。

ワークフロー ランタイムメトリクスの有効化

実際のワークフロー ランタイムと比較できる予定ランタイムを提供します。

このタスクについて

ベースラインワークフローの場合、ランタイムメトリクスの収集も手動で有効にする必要があります。新しいワークフローのランタイムメトリクスの収集は自動的に有効になります。

手順

1. [すべて] > [ワークフロー] > [ワークフローエディター]に移動します。
2. ワークフローを開いてチェックアウトします。
3. タイトルバーで、メニューアイコンをクリックし、 プロパティ を選択します。
4. [ワークフローのプロパティ] ダイアログ ボックスで、[予定ランタイム] タブをクリックします。
5. ランタイムメトリクスの収集を有効にするには、**[ERT** が必要] オプションが選択されていることを確認します。
6. [予定ランタイム] 列から構成を開きます。
7. [予定ランタイム] で、ワークフローのランタイムの初期予定値を入力します。
   システムは、この初期予定値を実際のランタイム結果と比較して外れ値レポートを作成します。
   状況によっては、このフィールドが自動的に更新されることがあります。ワークフローデザイナーは、このフィールドを手動で更新することもできます。
8. **[ERT** の外れ値の割合しきい値] フィールドに、外れ値ワークフローのランタイムを識別する予定ランタイムからの割合偏差を入力します。
   デフォルト値の **20** が使用されます。
9. [更新] をクリックします。

異常なワークフロー ランタイム

ワークフロー ランタイムは、ワークフローに計算された外れ値の範囲よりも長いまたは短いときに外れ値として識別されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

外れ値の範囲は、ワークフローのプロパティにある [予定ランタイム] と **[ERT** の外れ値の割合しきい値] 値を使用して自動的に計算されます。これらの値は、次の式で使用されます。

ワークフロー外れ値の範囲の計算式

計算される値	使用される計算	例
外れ値	予定ランタイム x (**ERT** の外れ値の割合しきい値/100)	10 秒 x (20/100) 10 秒 x 0.2 = 2 秒
外れ値の範囲	(予定ランタイム - 外れ値) 〜 (予定ランタイム + 外れ値)	(10 秒 - 2 秒) 〜 (10 秒 + 2 秒) = 8 〜 12 秒

ワークフローが外れ値の範囲内で実行されると、その予定ランタイムが自動的に更新されます。

ワークフローに異常なランタイムがある場合、ワークフロー オペレーション ダッシュボードおよびカスタム ホームページの異常値ワークフロー ゲージに表示されます。

ワークフローの予定ランタイムの更新

ワークフローが外れ値の範囲内で実行されると、その予定ランタイムが自動的に更新されます。

予定ランタイムは、以前のランタイムに対する前回のランタイム値の累積移動平均によって更新されます。計算された値は、1 秒単位で丸められ、GlideDateTime として保存されます。

例：

データ ポイント	最新の値	累積実行平均 **(CRA)**	**1** 秒単位で丸めた後の **CRA**
1	10 秒	10 秒	10 秒
2	12 秒	11 秒	11 秒
3	9 秒	10.333 秒	10 秒

注: 1 秒単位で丸められるため、計算時間は短くなりますが精度は低くなります。

さらに、ワークフローのプロパティで予定ランタイムを手動で更新することもできます。

ワークフロー一時停止ユーティリティ

ワークフロー一時停止ユーティリティには、すべてのワークフローコンテキスト、対象となるワークフローコンテキストのサブセット、または個々のワークフローコンテキストを一時停止または再開するために使用できる機能が備わっています。一時停止したワークフローを再開する日時を指定し、必要に応じて個々のワークフローを手動で再開できます。

アクティブ化されると、ワークフローを一時停止または再開した場合、ワークフロー一時停止ユーティリティ プラグイン (com.glideapp.workflow.pause) によりいくつかのテーブルが更新されます。各テーブルには、一時停止または再開された各ワークフローに関連する特定のデータが格納されます。

wf_pause_request

すべてのワークフロー一時停止要求を記録します。ワークフローコンテキストを一時停止すると必ず、このテーブルのレコードが自動的に更新されて挿入されます。ユーザー指定の再開時刻、一時停止要求がまだ有効かどうか、一時停止または再開したワークフローの合計数を追跡します。

wf_pause_status

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

一時停止した各ワークフローコンテキストのステータスを記録します。ワークフローコンテキストを一時停止すると、プラグインは現在の実行中のアクティビティが終了するまで待機し、次のアクティビティが開始する前に一時停止します。ワークフローコンテキストが一時停止された特定のアクティビティと、そのアクティビティが再開されたかどうかを追跡します。ワークフローが一時停止されている場合は、再開がスケジュールされている時刻が追跡されます。

wf_pause_group_request

[グループ一時停止要求] でフィルタリングを使用して指定した特定のワークフローコンテキスト セットを一時停止します。[すべて一時停止] チェック ボックスをオンにすると、現在アクティブなワークフローをすべて手動で一時停止できます。

wf_pause_snapshot

ワークフローを一時停止する前と再開した後、テーブルにはワークフローコンテキストの現在の状態のスナップショットが記録されます。さらに、このテーブルは、一時停止したワークフローコンテキスト上で現在実行中のアクティビティの状況を記録します。

使用例

メンテナンスのためにインスタンスを停止すると、アクティブなワークフローコンテキストのすべてまたは一部を一時停止し、メンテナンスを完了した後に再開することができます。

メンテナンスのために停止している内部サービスにヒットする統合ワークフローコンテキストがあります。そのワークフローコンテキストのすべてのインスタンスが次のアクティビティに進まないように一時停止し、内部サービスを復元する時間を確保できます。その後、一時停止したワークフローコンテキストを再開することができます。

ワークフロー一時停止ユーティリティのアクティブ化

admin ロールを持っている場合は、ワークフロー一時停止ユーティリティ プラグイン (com.glideapp.workflow.pause) をアクティブ化することができます。このプラグインにはデモデータが含まれており、関連プラグインがまだアクティブでない場合はアクティブ化されます。

始める前に

必要なロール：Workflow_admin または workflow_publisher、workflow_creator

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。
2. フィルター基準と検索バーを使用してプラグインを検索します。

   名前または ID でプラグインを検索できます。プラグインが見つからない場合は、ServiceNow 担当者から要求する必要があります。

3. [インストール] を選択して、インストールプロセスを開始します。

   注: ドメインセパレーションと代理アドミンがインスタンスで有効になっている場合、管理ユーザーはグローバルドメインに含まれている必要があります。それ以外の場合、次のエラーが表示されます： 「別の操作が実行されているため、アプリケーションのインストールは利用できません： <プラグイン名> のプラグインの有効化 (`Application installation is unavailable because another operation is running: Plugin Activation for <plugin name>`)」

   インストールが完了するとメッセージが表示されます。プラグインとともにインストールされているコンポーネントについては、「アプリケーションとともにインストールされているコンポーネントの検索」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

プラグインのリスト

個々のワークフローの一時停止と再開

個々のワークフローコンテキストを一時停止します。ワークフローコンテキストを再開する日時を指定します。

始める前に

ワークフロー一時停止ユーティリティ プラグインをインストールしてアクティブにします。

必要なロール：Workflow_admin または workflow_publisher、workflow_creator

このタスクについて

ワークフローコンテキストが一時停止されると、再開日時などの一時停止要求に関する基本情報が wf_pause_request テーブルに保存されます。ワークフローコンテキストは指定された日時に自動的に再開されますが、一時停止したワークフローコンテキストは必要に応じて手動で再開できます。

手順

1. [すべて] > **[Workflow]** > [ライブワークフロー] > [アクティブなコンテキスト]に移動します。
2. 一時停止する個々のワークフローコンテキストを選択します。
   [ワークフローコンテキスト] が表示されます。
3. [関連リンク] で、[一時停止] をクリックします。
   [Workflow Pause Inputs] (ワークフローの一時停止入力) ダイアログが表示されます。
4. [ワークフローの一時停止入力 **(Workflow Pause Inputs)]** ダイアログで、次の操作を行います。

   a. カレンダーアイコン ( ) をクリックして日付を選択し、ワークフローを再開する時刻 (時間、分、秒) を入力します。
   現在の日付または将来の日付を選択できますが、将来の時刻を入力する必要があります。たとえば、13:30:00 (午後 1:30) にワークフローコンテキストを一時停止するには、カレンダーから日付を選択し、 `13`、`30`、および `00` をそれぞれ [時間：] フィールドに入力します。

   b. 完了したら、緑色のチェックマークアイコン をクリックします。
   選択した日時が [再開時刻] フィールドに表示されます。

   c. **[OK]** をクリックし、ワークフローコンテキストに戻ります。
   選択したワークフローが一時停止されました。ワークフロー一時停止要求を使用して、そのステータスを監視します。

5. 現在一時停止しているワークフローコンテキストを手動で再開します。
   一時停止したワークフローは、[再開時刻] フィールドで指定された日時に再開されます。

   a. [ワークフロー] > [ライブワークフロー] > [アクティブなコンテキスト] に移動します。

   b. 一時停止する個々のワークフローコンテキストを選択します。
   [ワークフローコンテキスト] が表示されます。

   c. [関連リンク] で、[再開] をクリックします。

すべてまたは複数のワークフローの一時停止と再開

ワークフローのグループやすべてのアクティブなワークフローを一時停止または再開するには、ワークフロー一時停止グループ要求を使用します。ワークフローのグループを一時停止する場合は、フィ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ルタリング機能を使用してワークフローを選択します。アクティブなワークフローをすべて一時停止する場合は、[すべて一時停止] チェック ボックスをオンにして、現在アクティブなワークフローをすべて一時停止する必要があることを示します。

始める前に
必要なロール：Workflow_admin または workflow_publisher、workflow_creator
ワークフロー一時停止ユーティリティ プラグインをインストールしてアクティブにします。

手順

1. [すべて] > **[Workflow]** > [操作] > [グループ一時停止要求]に移動します。
   [ワークフロー一時停止グループ要求] が表示され、既存のワークフロー一時停止グループ要求が表示されます。
2. [新規] をクリックします。
   ワークフロー一時停止グループ要求が表示され、ワークフロー一時停止グループ要求 ID が割り当てられます。
3. アクティブなワークフローをすべて一時停止するには、 [すべて一時停止] を選択し、[更新] をクリックします。アクティブなワークフローコンテキストのフィルタリングされたグループを一時停止するには、この手順をスキップします。
   インスタンス内の現在アクティブなワークフローコンテキストはすべて、再開するまで一時停止されます。ワークフロー一時停止要求を使用して、そのステータスを監視します。
4. アクティブなワークフローコンテキストのフィルタリングされたグループを一時停止するには、[フィルター] フィールドで検索条件を指定し、[更新] をクリックします。
   ワークフロー一時停止グループ要求 が表示され、ワークフロー グループ検索の結果が表示されます。ワークフロー一時停止グループ要求 ID が割り当てられ、グループがアクティブ (true = 一時停止) か非アクティブ (まだ一時停止されていない) かが示されます。
5. 特定のワークフロー一時停止グループ要求を更新、再開、または削除するには、その要求を選択します。
   ワークフロー一時停止グループ要求が表示され、選択したワークフロー一時停止グループ要求が表示されます。
6. 選択したワークフロー一時停止グループ要求がアクティブ (一時停止されている) になっているが、一時停止しない場合は、[受信ワークフローを一時停止しない] をクリックします。選択したワークフロー一時停止グループ要求が非アクティブ (まだ一時停止されていない) の場合、 [一時停止] をクリックして一時停止します。
7. 一時停止したワークフローグループ要求で、 [再開時刻] フィールドを使用して、一時停止したワークフローコンテキストを再開する日付と時刻を指定します。

   a. をクリックして日付を選択し、ワークフローコンテキストを再開する時刻 (時間、分、秒) を入力します。現在の日付または将来の日付を選択できますが、将来の時刻を入力する必要があります。
   たとえば、13:30:00 (午後 1:30) にワークフローコンテキストを一時停止するには、カレンダーから日付を選択し、 `13`、`30`、および `00` をそれぞれ [時間：] フィールドに入力します。

   b. 完了したら をクリックします。

   c. 選択した日時が [再開時刻] フィールドに表示されます。

   d. **[OK]** をクリックし、ワークフロー一時停止グループ要求に戻ります。

8. [送信] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

9. 一時停止したワークフローコンテキストは、[再開] フィールドで指定された日付と時刻に自動的に再開されます。現在一時停止しているワークフローコンテキストを手動で再開するには、次の手順を実行します。

   a. [ワークフロー一時停止グループ要求] に移動します。

   b. 再開するワークフロー一時停止グループ要求を選択します。
   [ワークフロー一時停止グループ要求] が表示されます。

   c. [再開] をクリックし、[更新] をクリックします。

10. [ワークフロー グループ一時停止要求] には、次の情報フィールドも含まれています。

ワークフロー一時停止グループ要求フォーム

フィールド	説明
アクティブ	ワークフロー グループが一時停止しているかどうかを示します。
完了した再開アクティビティ カウント	完了した再開済みワークフローコンテキスト アクティビティの数です。
フィルター	ワークフローコンテキストのグループの選択条件を指定するために使用される標準フィルタリング フィールドです。
ログ	グループ一時停止要求によって生成されたアクティビティ作業メモです。
未移行ワークフローの数	グループ一時停止要求が行われたときに移行されなかったワークフローコンテキストの数です。グループ一時停止要求が行われると、影響を受けるワークフローコンテキストは、次のアクティビティの開始前に一時停止されます。
再開アクティビティ カウント	グループ一時停止が完了した後に再開されたワークフローコンテキスト アクティビティの数です。
一時停止アクティビティ カウント	一時停止したワークフローコンテキスト アクティビティの数です。
要求者名	ワークフローコンテキスト一時停止を要求している人の名前です。
一時停止割合 (%)	一時停止しているワークフローコンテキストの合計の割合です。
再開割合 (%)	再開されたワークフローコンテキストの合計の割合です。
ワークフローの合計数	指定されたフィルター条件に一致する一時停止中のワークフローの合計数です。
一時停止したワークフローの数	現在一時停止しているワークフローコンテキストの数です。

ワークフロー一時停止要求の監視

ワークフロー一時停止要求を使用して、ワークフロー一時停止要求のステータスを監視できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：Workflow_admin または workflow_publisher、workflow_creator
ワークフロー一時停止ユーティリティ プラグインをインストールして有効にする必要があります。

手順

1. [すべて] > **[Workflow]** > [操作] > [要求を一時停止]に移動します。
   [ワークフロー一時停止要求] が表示され、既存のワークフロー一時停止要求が表示されます。
2. ワークフロー一時停止要求を選択します。
   ワークフロー一時停止要求が表示され、選択したワークフロー一時停止要求が表示されます。

ワークフロー一時停止要求フィールド

フィールド	説明
要求番号	割り当てられた一意の一時停止要求番号です。
完了した再開アクティビティ カウント	一時停止が完了した後に再開されたワークフローコンテキスト アクティビティの数です。
アクティブを停止	オンの場合、ワークフローコンテキストが現在一時停止していることを示します。オフの場合、そうでないことを示します。
一時停止中に移行	一時停止要求が行われたときに移行したワークフローコンテキストの数です。一時停止要求が行われると、影響を受けるワークフローコンテキストは、次のアクティビティの開始前に一時停止されます。
ワークフローコンテキスト	一時停止したワークフローコンテキストの参照番号です。
ログ	グループ一時停止要求によって生成されたアクティビティ作業メモです。
一時停止したアクティビティ カウント	一時停止したワークフローコンテキストが再開する日時です (h:m:s)。
要求者名	ワークフローの一時停止を要求した人の名前です。
再開アクティビティ カウント	一時停止が完了した後に再開されたワークフローコンテキスト アクティビティの数です。
再開時刻	ワークフロー コンテンツの再開が予定されている日付と時刻です (h:ms:s)。
テーブル	関連するレコード テーブル名です。
アプリケーション	ワークフローコンテキストが実行しているアプリケーションです。
実行アクティビティ カウント	ワークフローコンテキストが一時停止されたときに実行されていたアクティビティの数です。
グループ一時停止要求	関連付けられたグループ一時停止要求の参照番号です (存在する場合)。一時停止要求がグループ一時停止要求の結果であった場合にのみ表示されます。
ワークフローが完了	オンの場合、ワークフローコンテキストが完了していることを示します。オフの場合、そうでないことを示します。
ワークフローがスタック	オンの場合、ワークフローコンテキストがスタックしていることを示します。オフの場合、そうでないことを示します。
状況	ワークフローコンテキストの現在の状態です。[一時停止] または [再開] になります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
スタックしたアクティビティ カウント	スタックしているワークフローコンテキスト アクティビティの数です。
スタックしたアクティビティ数 (一時停止の割合には含まれない)	書類要求が割り当てられているライターです。

暗号化ワークフロースクラッチパッド

暗号化ワークフロースクラッチパッドプラグイン (com.snc.encrypted.scratchpad) は、ワークフローコンテキストおよびワークフロー実行アクティビティに対して暗号化スクラッチパッドを提供します。

プラットフォームはほとんどのフィールドで暗号化をサポートし、ワークフローは暗号化されたフィールドを持つテーブルで実行できます。暗号化されたデータは通常、暗号化されたフィールドを使用して実行されるワークフローのワークフロー スクラッチパッドに格納され、承認、タイマー、またはタスク作成アクティビティの処理後にこのデータにアクセスする必要があります。

ワークフロー スクラッチパッド内のデータは、デフォルトでは暗号化されません。ワークフローエンジンは、暗号化されたワークフロー スクラッチパッド プラグインが有効になっている場合にのみ、スクラッチパッドの暗号化とアクティビティ レコードの実行をサポートします。有効になると、wf_context および wf_executing スクラッチパッドに保存されたデータは、プライベートワークフローエンジン暗号化モジュールによって保護され、プレーン テキストで保存できなくなります。

ドメインセパレーションとの非互換性

暗号化ワークフロースクラッチパッドプラグインは、ドメインセパレーションとの互換性がありません。ドメインセパレーションインスタンスで暗号化ワークフロースクラッチパッドプラグインをアクティブ化すると、一部のワークフローの実行時に暗号化エラーが発生する可能性があります。代わりにワークフロースタジオフローの使用を検討してください。

暗号化ワークフロースクラッチパッドのアクティブ化の要求

ServiceNow の担当者に暗号化ワークフロースクラッチパッドプラグイン (com.snc.encrypted.scratchpad) のアクティブ化を要求します

始める前に

必要なロール：admin
暗号化ワークフロースクラッチパッドプラグインは、カスタマーサービス & サポート 要求を通じて有効にする必要があります。非本番インスタンスでプラグインを有効にし、十分にテストする必要があります。必ず、満足する結果が得られてから本番インスタンスでの有効化を要求してください。

本番インスタンスで有効化を要求するときは、トランザクションボリュームの少ない時間をスケジュールしてください。アクティベーションの前に、ワークフロー一時停止ユーティリティ (com.glideapp.workflow.pause) を有効にしてから、すべての有効なワークフローを一時停止します。「ワークフロー一時停止ユーティリティ」を参照してください。暗号化ワークフロースクラッチパッドプラグインを有効にした後、一時停止しているすべてのワークフローを再開します。

このタスクについて

プラグインを要求するには、次の 2 つの方法があります。

- Now Support で [すべて] > [サービスカタログ] > [プラグインをアクティブ化]をクリックして、Now Support サービスカタログに直接アクセスします。
- 次の手順に従い、インスタンスの [すべてのアプリケーション] ページから Now Support サービスカタログにアクセスします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

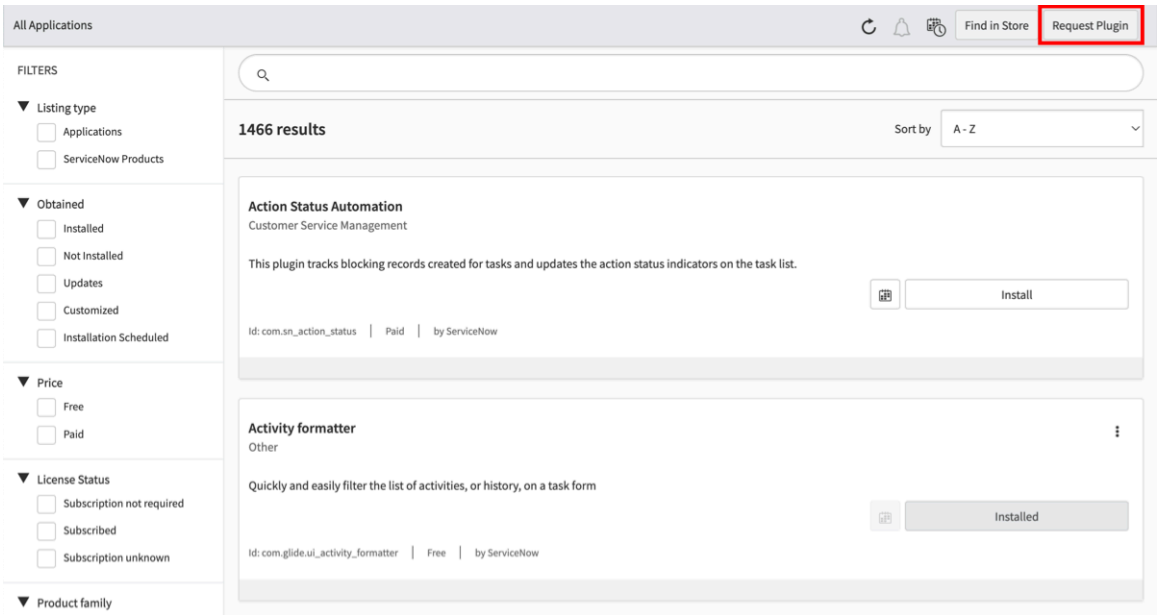
暗号化ワークフロースクラッチパッドは、関連プラグインがまだアクティブ化されていない場合にアクティブ化します。

暗号化ワークフロースクラッチパッドプラグイン

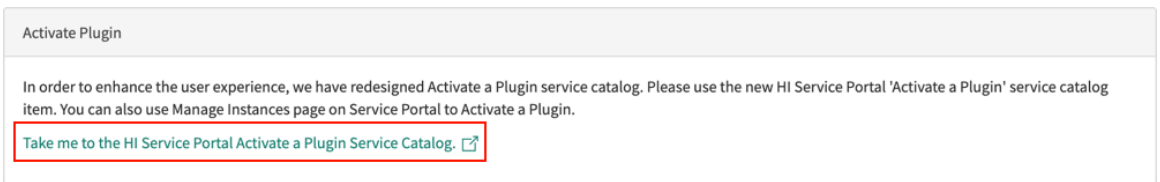
プラグイン	説明
暗号化のサポート [com.glide.encryption]	テキストフィールドと添付ファイルを暗号化できます。

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。
2. [すべてのアプリケーション] ページで [プラグインの要求] をクリックして、Now Support で [プラグインをアクティブ化] フォームを開きます。



3. Now Support で、Now Support サービスポータル サービスカタログ にアクセスするリンクを選択します。



4. インスタンスを選択します。
5. [アクション] > [プラグインのアクティブ化] を選択します。
6. [プラグインのアクティブ化] フォームで、次の情報を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

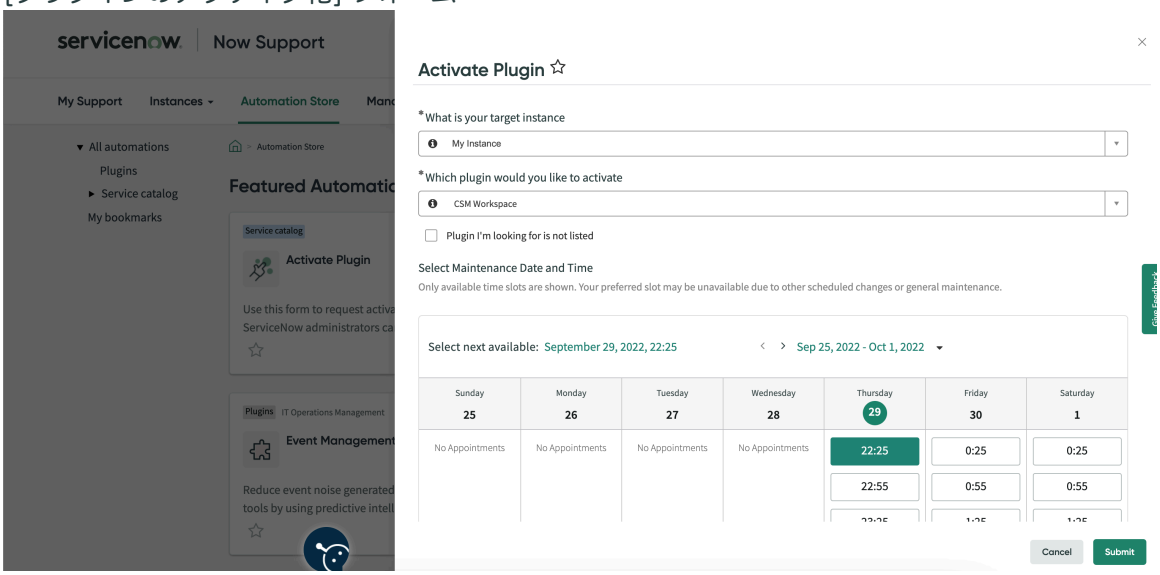
[プラグインのアクティブ化] フォーム

フィールド	説明
ターゲットインスタンスは何ですか	プラグインをアクティブ化するインスタンス。
どのプラグインをアクティブ化しますか	アクティブ化するプラグインの名前です。 **注:** 必要なプラグインが表示されない場合、または OEM またはオンプレミスのインスタンスでプラグインをアクティブ化している場合は、[探しているプラグインが表示されていません **(Plugin I'm looking for is not listed)]** チェックボックスをオンにして、プラグインの名前を入力します。
メンテナンスの日時を選択 (Select Maintenance Date and Time)	プラグインをアクティブ化する日時。 **注:** プラグインは、米国太平洋標準時で、毎営業日の朝と夕方の 2 回のバッチでアクティブ化されます。特定の時刻にプラグインをアクティブ化する必要がある場合は、[理由/コメント **(Reason/Comments)]** フィールドに要求を入力します。

Example

たとえば、 [自分のインスタンス (My Instance)] という名前のインスタンスで CSM Workspace プラグインをアクティブ化するには、次のフォームを参照してください。

[プラグインのアクティブ化] フォーム



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [送信] を選択します。
   プラグインの要求に関するその他の詳細については、Now Support ナレッジベース の記事「サービスカタログからのプラグインの要求 (Requesting a Plugin from the サービスカタログ) (KB0751715)」を参照してください。

次のタスク
プラグインをアクティブ化した後、一時停止したすべてのワークフローを再開します。「すべてまたは複数のワークフローの一時停止と再開」を参照してください。

関連情報

- プラグインのリスト

ワークフローのトラブルシューティング

ワークフローのトラブルシューティングツールを使用すると、アドミニストレーターは実行パスを分離し、コンテキストを比較し、不完全な動作を追跡できます。

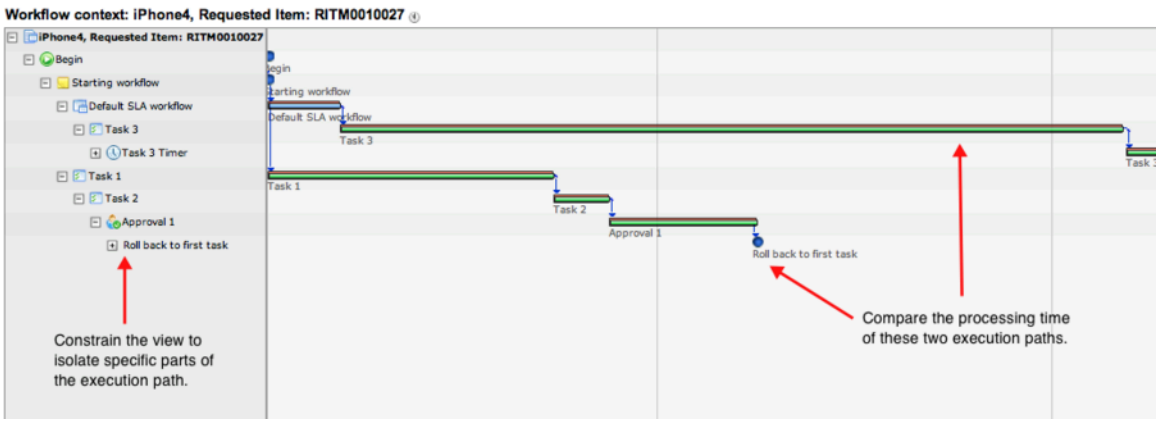
ワークフロータイムラインは、各アクティビティの遷移および経過時間を含む、ワークフローの視覚的表現を提供します。実行パスを強調表示するためのトラブルシューティングツールは、ユーザーがワークフローでフォレンジックを実行するのに役立ちます。ハイライト表示機能は、複数の実行パスをさまざまな色でグループ化し、ロールバック処理を分離できます。ワークフローハイライターを使用して、不完全なタスクと承認を分離します。また、ワークフローパフォーマンスタイミング機能を有効にして、低速なワークフローのトラブルシューティングを行うこともできます。

タイムラインでの実行パスのトラブルシューティング

ワークフロータイムラインのコントロールを使用して、特定の実行パスを分離したり、複数の実行パスを時間の経過とともに比較したりできます。

タイムラインは、ワークフロー内のアクティビティが時間の経過と共にどのように相互に関連して進行するかを示します。実行パスを分離し、サブフローとメインフロー間の遷移線に従います。処理時間は、ワークフロー図から取得できないワークフローのビューを提供します。ツールチップは、期間などの各アクティビティに関する正確な情報を提供します。

ワークフロータイムラインのトラブルシューティング



実行履歴

実行パスとロールバックを強調表示して、未解決状態のまま残っている可能性のあるアクティビティを特定します。

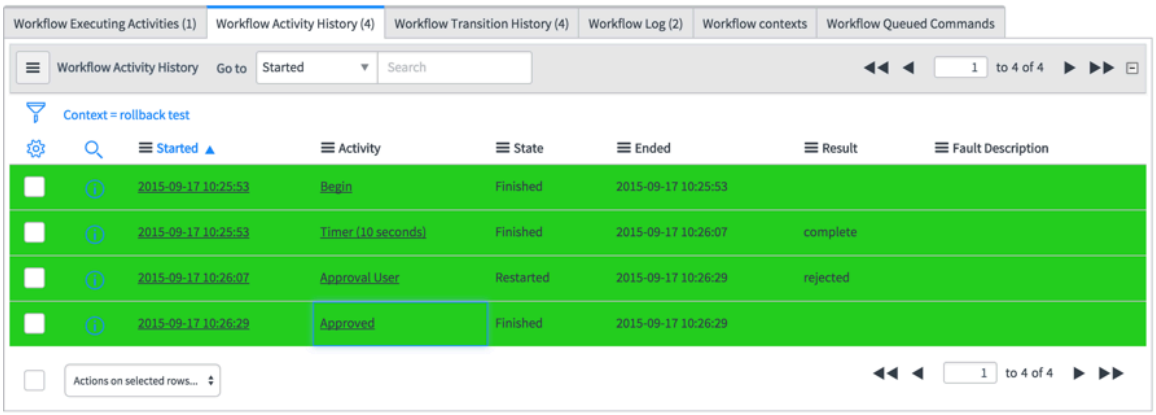
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
ワークフローの実行中にロールバック、キャンセル、および削除を行うと、一部のアクティビティが完全に完了しないことがあります。実行履歴テーブルの強調表示を使用して、ワークフロー内のどのアクティビティが未解決状態になっているかを判断します。

手順

1. ワークフローを実行
2. ワークフロー > のすべてのコンテキストへナビゲートします。
3. トラブルシューティングするコンテキストを選択します。
4. ワークフローコンテキストフォームで、ワークフローアクティビティ履歴関連リストを選択します。
5. アクティビティを右クリックし、 ワークフローのデバッグ > 実行パスの強調表示を切り替えるコンテキストメニューから選択します。

   その実行パス内のすべてのアクティビティは、プラットフォームによって選択された色で強調表示されます。デバッグパスには、ワークフロー中に正常に完了したすべてのアクティビティが表示されます。

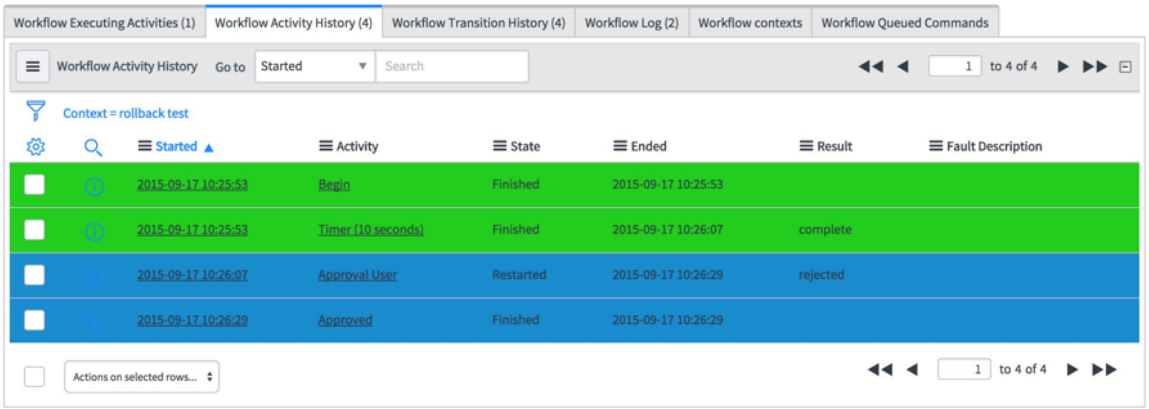


6. ロールバックアクティビティを右クリックし、 ワークフローのデバッグ > ロールバックの強調表示を切り替えるコンテキストメニューから選択します。

   プラットフォームは、異なる色でロールバック・パス（活動の再開）を強調表示します。各色は、同じロールバック実行の一部であったアクティビティのグループを表します。強調表示には、ロールバックを開始したアクティビティが含まれます。ロールバックに含まれていないアクティビティを右クリックすると、行は強調表示されません。

   注: ロールバックアクティビティ自体は、実行パスとロールバックハイライトの両方に表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



7. 強調表示を削除するには、リスト内を右クリックし、実行パスまたはロールバックの強調表示を消去するオプションを選択します。

   個々のロールバックパスまたはすべてのロールバックハイライトを消去できます。

ワークフロー運用ダッシュボードを使用する

ワークフロー運用ダッシュボードで、ワークフローの監視に役立つウィジェットを表示および追加します。ワークフローのパフォーマンスを確認し、どのワークフローを改善する必要があるかを判断します。

始める前に

必須ロール：workflow_admin
別レベルのアクセスは:

- ビュー ：ダッシュボードを表示し、レポートウィジェットを更新します。
- カスタマイズ ：ウィジェットをリフレッシュ、追加、削除、再配置します。

このタスクについて

ワークフローオペレーションダッシュボードでは、ウィジェット要素をクリックして、それらが表すレコードを表示できます。デフォルトでは表示されない新しいレポートウィジェットを追加することもできます。

手順

1. [ワークフロー] > [オペレーション] > [ワークフロー運用ダッシュボード] に移動して、ワークフロー運用ダッシュボードを表示します。

   ダッシュボードのデフォルトのレポートは次のとおりです。

   - 実行時メトリクスを提供するワークフローコンテキスト
   - 指定した期間中に開始されたアクティブなワークフロー
   - 昨日から今日までのワークフロー
   - 当月の州別ワークフロー
   - 過去 1 か月の古くなったワークフローコンテキスト

2. ダッシュボードの隅にあるコンテンツを追加アイコン (+) を選択して、ウィジェットを見つけて追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
ワークフローが一貫して異常値として表示され、実行時にエラーが発生していない場合は、その履歴実行時の値を使用して新しい実行時値を計算できます。その後、ワークフローのプロパティで推定された実行時間を更新します。

ワークフローゲージ

ワークフローのパフォーマンスを確認するのに役立つ複数のゲージが用意されています。これらのゲージをワークフロー運用ダッシュボードまたはカスタムホームページに追加することができます。

重要:

インスタンスからの情報を整理してデータに関するストーリーを伝える、ホームページの機能は、新しいインスタンスのダッシュボードにあります。ネクストエクスペリエンス を有効にしてアップグレードされたインスタンスでは、ユーザーは直接 URL を持っている場合は既存のホームページを表示できますが、作成や編集はできません。レスポンシブダッシュボードと アナリティクスセンター ダッシュボードがホームページの機能を引き継ぎます。

ホームページ廃止ヘルプツール を使用して、インスタンスのホームページをレスポンシブダッシュボードに変換します。

詳細については、以下を参照してください。

- アナリティクスセンターでのダッシュボード
- レスポンシブダッシュボードの操作。

ワークフローゲージ

コンテンツ	説明
ERT ダッシュボードコントロール >	
ERT（外れ値の割合）に対する外れ値の終了ワークフロー	終了したが推定実行時間（ERT）値内で終了しなかったワークフローを識別します。外れ値の割合を入力すると、指定した実行時間範囲外に実行されたワークフローが表示されます。
ERT（外れ値の割合）の外れ値の長いワークフロー	設定された実行時しきい値より長く実行されているワークフローを表示します。
ワークフローダッシュボード >	
現在のレコードがないワークフロー	現在のレコードが関連付けられていないワークフローコンテキストを表示します。
ゲージ > ワークフローコンテキスト	
時間の経過とともに開始されるアクティブなワークフローの数（昨日）	指定された期間における1時間あたりの実行中のワークフローの合計数を表示します。デフォルトでは、前日（昨日）に1時間当たりに実行されたワークフローの数が表示されます。
異常終了したワークフローはERTに累積されません	推定ランタイム異常値の外で終了し、推定実行時間値に累積されないワークフローコンテキストを表示します。
外れ値の実行ワークフローコンテキスト	実行中のワークフローの総数を表示します。
ERTに累積されたワークフローを正常終了	実行時間が予測された実行時間の値に累積された、正常に完了したワークフローの合計数を表示します。
州別ワークフロー（今月）	現在の状態でグループ化された1か月間に実行されたワークフローの合計数を表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフローゲージ (続く)

コンテンツ	説明
古いワークフローコンテキスト（先月から実行中）	指定された期間に実行されているワークフローコンテキストの合計数を、ワークフロー名で表示します。既定では、先月実行したワークフローコンテキストの総数が表示されます。
昨日から今日までのワークフロー（表別）	最終日に実行されたワークフローをテーブル名でグループ化して表示します。

ワークフローパフォーマンスタイミング

ワークフローエンジンは詳細なパフォーマンスタイミングデータを生成することができ、遅いワークフローのトラブルシューティングに役立ちます。

アドミニストレーターはこの機能を有効にする必要があります。

ワークフローパフォーマンスタイミングが有効になっている場合、ワークフローエンジンはさまざまな実行速度のメトリクスを含む主要なパフォーマンスデータを追跡します。Workflow Timing [wf_workflow_timing]テーブルには、各ワークフローコンテキストのレコードとともにデータが格納されます。ワークフロータイミングレコードは、ワークフローエンジンがワークフローを完了したとき、アクティビティの完了を待つとき、またはワークフロー実行を終了したときに更新されます。

ワークフロー推定ランタイムプロパティ

アドミニストレーターは、Estimated Run Time（ERT）のプロパティを設定することにより、ワークフロー実行時間メトリクスの収集を有効にすることができます。

アドミニストレーターは、ERTメトリクスを使用して、ワークフローが予想より長く実行されているかどうかを判断し、ワークフロー処理のエラーを特定できます。ワークフロー操作ダッシュボードにランタイムメトリクスが表示されます。

ワークフローパフォーマンスのタイミングを有効にします

ワークフローのパフォーマンスのタイミングは、デフォルトでは無効になっています。システムプロパティを作成して有効にすることができます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

次の仕様を使用して、 システムプロパティの追加 を行います。

フィールド	値
名前	glide.workflow.show_timing
タイプ	True | False
値	true

ワークフローアクティビティ

ワークフローアクティビティのプロパティリファレンス

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

各アクティビティは、スクリプトの実行、通知の送信、または承認の要求などの異なるタスクを実行します。アクティビティは成功または失敗する可能性があり、その結果、他のアクティビティによって実行されるアクションが行われる可能性があります。

さまざまなタイプのアクティビティを設定する方法については、下のリストのアクティビティ名をクリックするか、「ワークフロー アクティビティの参照」を参照してください。

ベースシステムで提供されるコアアクティビティ

- 承認およびロールバック ワークフロー アクティビティ
- 条件ワークフローアクティビティ
- 通知 ワークフロー アクティビティ
- 通知ワークフローアクティビティ
- サブフローとして使用されるワークフロー
- タスクワークフローアクティビティ
- タイマー ワークフロー アクティビティ
- ユーティリティ ワークフロー アクティビティ

オーケストレーションで提供されるアクティビティ

オーケストレーションには以下のアクティビティが含まれます。

- Active Directory アクティビティパック
- オーケストレーションアクティビティ
- PowerShell アクティビティ
- パペットアクティビティ

カスタムアクティビティを作成するためのテンプレート

オーケストレーションがシステム上でアクティブな場合、適切なロールを持つユーザーは、ServiceNow オーケストレーションアクティビティデザイナー を使用してカスタムアクティビティを作成できます。ServiceNow Store にアップロードできるカスタムアクティビティを作成するための オーケストレーションが提供するテンプレートの詳細については、「アクティビティデザイナーコンポーネント 」を参照してください。

ワークフロー アクティビティの参照

カテゴリ別にまとめられたワークフローアクティビティの参照。

各アクティビティは、スクリプトの実行、通知の送信、または承認の要求などの異なるタスクを実行します。

ワークフローは、アクティビティを開始または進行するユーザーセッションとしてアクティビティを実行します。レコード操作から開始されたワークフローは、そのレコード操作を実行したユーザーセッションとしてアクティビティを実行します。スケジュールから開始されたワークフロー、またはタイマーから再開されたワークフローは、システムユーザーとしてアクティビティを実行します。スクリプトコールから開始されたワークフローは、そのスクリプトを開始したユーザーセッションとしてアクティビティを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認およびロールバック アクティビティ

承認およびロールバック アクティビティは、承認を生成および管理します。 すべてのワークフローに承認アクティビティを含められるわけではありません。詳細については、「承認およびロールバック ワークフロー アクティビティ」を参照してください。

注: 承認アクティビティは、ワークフローが待機していた承認条件または却下条件に一致するアクションの、またワークフローを進行するユーザーとして実行されます。

承認およびロールバック アクティビティ

アクティビティ	説明
承認アクションワークフローアクティビティ	承認アクション アクティビティは、現在のタスク上で承認アクションを実行します。
承認コーディネーターワークフローアクティビティ	[承認コーディネーター] アクティビティは承認を作成し、その結果は 1 つ以上の子アクティビティの結果に依存します。これらの子アクティビティには、[承認 - ユーザー]、[承認 - グループ]、および/または [手動承認] アクティビティが含まれます。
承認 - グループワークフローアクティビティ	[承認 - グループ] アクティビティは、指定されたグループの各メンバーの承認レコードを作成します。
承認 - ユーザーワークフローアクティビティ	[承認 - ユーザー] アクティビティは、1 つまたは複数の個別のユーザー承認を作成します。
ワークフローアクティビティを生成	[生成] アクティビティは、ワークフロー パスで [生成] アクティビティの後に配置された任意のタスクまたは承認アクティビティから、すぐにタスクまたは承認レコードを作成します。これらの事前生成タスクおよび承認は、フロー実行中にタスクおよび承認アクティビティに到達すると開始します。これにより、タスクは関連付けられた事前生成の順次タスクまたは承認のセットを持つことができますが、依然としてそれらを順番に完了する必要があります。
手動承認ワークフローアクティビティ	[手動承認] アクティビティは、ユーザーがワークフロー プロセスの外で手動で追加するすべての承認を監視し、管理します。このアクティビティでは、[未要求] 状態の承認のみが選択されます。
ロールバックワークフローアクティビティ	[ロールバック] アクティビティは、送信遷移線矢印で指定されたアクティビティに直接移行します。

条件アクティビティ

条件アクティビティは、ワークフローの条件分岐および論理演算機能を提供します。

注: 条件アクティビティは、ワークフローが待機していた条件に一致するアクションの、またワークフローを進行するユーザーとして実行されます。

条件アクティビティ

アクティビティ	説明
If ワークフローアクティビティ	**[If]** アクティビティは条件またはスクリプトをチェックして、[はい] または [いいえ] 移行を実行する必要があるかどうかを決定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件アクティビティ (続く)

アクティビティ	説明
スイッチワークフローアクティビティ	[スイッチ] アクティビティは、渡されたフィールドまたは変数の値がいずれかのケース値と同等かどうかをチェックします。
条件待ちワークフローアクティビティ	[条件待ち] アクティビティにより、現在のレコードが指定の条件に一致するまでこのアクティビティでワークフローが待機させられます。
WF イベント待ちワークフローアクティビティ	**[WF**イベント待ち] アクティビティは、指定されたイベントが発生するまで、このアクティビティでワークフローを待機させます。

通知アクティビティ

通知 ワークフローアクティビティでは、通知 内のコールと SMS メッセージを管理します。

通知アクティビティ

アクティビティ	説明
コールを転送ワークフローアクティビティ	[コールを転送] アクティビティでは、通知コールを E.164 準拠の電話番号に転送します。
入力ワークフローアクティビティ	入力アクティビティでは、Notify コールにオプションのリストを提示することによって、電話メニューを作成します。
切断ワークフローアクティビティ	切断アクティビティでは、アクティブな通知電話のコールを切断します。
再生ワークフローアクティビティ	再生アクティビティでは、Notify コールで音声ファイルを再生します。
録音ワークフローアクティビティ	録音ワークフローアクティビティでは、ユーザからの音声を Notify コールに録音します。
却下 ワークフロー	拒否ワークフローアクティビティでは、着信通知コールを拒否します。
読み上げワークフローアクティビティ	読み上げワークフローアクティビティを使用すると、Notify コールでテキスト読み上げを使用してメッセージを再生することができます。
通知クライアントに転送ワークフローアクティビティ	通知クライアントに転送 ワークフローアクティビティでは、電話のコールを Notify WebRTC クライアントに接続します。
コールワークフローアクティビティ	コールアクティビティでは、通知ワークフローを使用して電話の発信を行います。このワークフローアクティビティは、任意のテーブルに追加することができます。
カンファレンス参加のワークフロー アクティビティ	カンファレンス参加アクティビティでは、着信または発信コールを「通知カンファレンス」に接続します。
SMS 送信ワークフローアクティビティ	通知を使用して短いテキストメッセージをユーザーの電話に送信する、**[SMS** 送信] ワークフロー アクティビティ。このワークフローアクティビティは、任意のテーブルに追加することができます。
キューワークフローアクティビティ	キューアクティビティでは、アクティブな通知コールをキューに入れます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

通知アクティビティ

通知ワークフローアクティビティは、ワークフロー中に発生したイベントをユーザーに通知します。

通知アクティビティ

アクティビティ	説明
イベントを作成 ワークフロー アクティビティ	[イベントを作成] アクティビティはイベントをイベント キューに追加しますが、そのイベントをすぐには実行しません。
通知 ワークフロー アクティビティ	[通知] アクティビティはメールまたは SMS メッセージを指定されたユーザーまたはグループに送信します。

サブフロー アクティビティ

サブフロー アクティビティは、親ワークフローからワークフローを実行および管理します。

サブフロー アクティビティ

アクティビティ	説明
パラレルフローランチャーのワークフロー アクティビティ	[パラレルフローランチャー] アクティビティは、複数のサブフローを並列に起動します。

タスク アクティビティ

タスク アクティビティは、ワークフロー タスクを作成および変更します。

注: タスクアクティビティは、ワークフローが待機していたタスクを完了するアクションの、またワークフローを進行するユーザーとして実行されます。

タスク アクティビティ

アクティビティ	説明
ワークノートを追加 ワークフロー アクティビティ	[ワークノートを追加] アクティビティは、現在のインシデント レコードの [ワークノート] フィールドにテキストを追加します。
添付メモ ワークフロー アクティビティ	[添付メモ] アクティビティは、現在のレコードに添付ファイルを追加します。
カタログ タスク ワークフロー アクティビティ	[カタログ タスク] アクティビティは、サービスカタログ タスクレコードを作成します。
タスクの作成 ワークフロー アクティビティ	[タスクの作成] アクティビティは、タスク [タスク] を拡張するテーブルのいずれかにレコードを生成します。

タイマーアクティビティ

タイマーアクティビティは、一定期間、ワークフローを一時停止します。

注: タイマーアクティビティは、システムスケジューラーがワークフローを進行するため、システムユーザーとして実行されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイマーアクティビティ

アクティビティ	説明
SLA パーセンテージタイマーワークフローアクティビティ	**[SLA** パーセンテージタイマー] アクティビティは、SLA のパーセンテージと等しい期間、ワークフローを一時停止します。
タイマーワークフローアクティビティ	[タイマー] アクティビティは、指定された期間ワークフローを一時停止します。

ユーティリティ アクティビティ

ユーティリティ アクティビティは、ワークフローのパスの制御やその他の便利なツールを提供します。

ユーティリティ アクティビティ

アクティビティ	説明
分岐 ワークフロー アクティビティ	[分岐] アクティビティは、ワークフローを 1 つのアクティビティから複数の移行パスに分割します。
結合 ワークフロー アクティビティ	[結合] アクティビティは、複数の実行パスを 1 つの移行に統合します。
ロック ワークフロー アクティビティ	[ロック] アクティビティは、ロックが解除されるまで、ワークフローの他のインスタンスがこのアクティビティを通り越して継続されないようにします。
ログ メッセージ ワークフロー アクティビティ	[ログ メッセージ] アクティビティは、ワークフロー ログにメッセージを書き込みます。
ログ トレース メッセージ ワークフロー アクティビティ	[ログ トレース メッセージ] アクティビティは、トレース メッセージをワークフロー ログに書き込みます。
REST メッセージのレガシーワークフローアクティビティ	従来 **REST** メッセージ アクティビティにより、アドミニストレーターは REST エンドポイントを上書きしたり、REST メッセージ モジュールに設定された変数を指定したりできます。
リターン値 ワークフロー アクティビティ	[リターン値] アクティビティは、サブフローから実行された場合、親ワークフローに値を返します。
スクリプトの実行 ワークフロー アクティビティ	[スクリップとの実行] アクティビティは、指定されたスクリプトをワークフロー バージョンのスコープ内で実行します。
値の設定 ワークフロー アクティビティ	値の設定アクティビティは、ワークフローの休止または終了時に現在のレコードの値を設定します。
SOAP メッセージのレガシーワークフローアクティビティ	従来 **[SOAP** メッセージ] アクティビティは、[システム Web サービス] プラグインで定義された SOAP メッセージを使用し、MID サーバーを使用してメッセージを呼び出すことができます。
ターンスタイル ワークフロー アクティビティ	[ターンスタイル] アクティビティは、ワークフローが同じ点を通過できる回数を制限します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーティリティ アクティビティ (続く)

アクティビティ	説明
ロック解除 ワークフロー アクティビティ	[ロック解除] アクティビティは、[ロック] アクティビティにより以前適用されたロックを解除します。

オーケストレーションで提供されるアクティビティ

オーケストレーションには以下のアクティビティが含まれます。

- Active Directory アクティビティパック
- オーケストレーションアクティビティ
- PowerShell アクティビティ
- パペットアクティビティ

カスタムアクティビティを作成するためのテンプレート

オーケストレーションがシステム上で有効な場合、適切なロールを持つユーザーは、ServiceNow オーケストレーションアクティビティデザイナー を使用してカスタムアクティビティを作成できます。オーケストレーションが ServiceNow Store にアップロードできるカスタムアクティビティを作成するために用意されているテンプレートの詳細については、「オーケストレーションカスタムアクティビティテンプレート」を参照してください

承認およびロールバック ワークフロー アクティビティ

承認およびロールバック アクティビティは、承認を生成および管理します。

一部のワークフローでは、承認およびロールバック アクティビティを使用できません。

- 2 つの例外を除いて、承認およびロールバック アクティビティは、ワークフローがタスクを拡張するテーブルで実行されている場合にのみ使用できます。その例外とは、グローバルに利用可能な承認 - ユーザー および承認アクション アクティビティです。
- 承認およびロールバック アクティビティは、ワークフローが実行されているテーブルの承認エンジンがオフになっている場合にのみ使用できます。テーブルに対して承認エンジンが有効になっている場合、承認アクティビティはグレー表示されて選択できません。ワークフローと承認エンジンがどのように相互作用するかについては、「承認ワークフローアクティビティと承認エンジン」を参照してください。

承認アクションワークフローアクティビティ

承認アクション アクティビティは、現在のタスク上で承認アクションを実行します。

このアクティビティを使用して、現在のタスクレコードを承認済みまたは却下としてマークします。

注: 承認アクション アクティビティが承認されたタスクをマークするために使用される場合、アクティビティは処理待ちのすべての承認を「不要」 としてマークします。このアクティビティが [承認] フィールドの値を設定するのに使用される場合、[値の設定] または [スクリプトを実行] とは異なる方法で動作します。

結果

アクティビティの結果値は、承認者によって選択された最終承認処理です。結果値は、[承認済み] または [却下] です。ワークフローデザイナーは、アクティビティのスクリプトフィールド内から *activity.result* 変数を使用して、結果値を割り当てることができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力変数

アクティビティの初期動作が、入力変数によって決まります。

承認アクション アクティビティの入力変数

フィールド	説明
アクション	タスクで実行するアクション。オプションは次のとおりです。 • 承認されたタスクをマーク • 却下されたタスクをマーク • 要求されたタスクをマーク • [承認待ちを無視]：システムは承認レコードを [不要] に設定し、そのアクティビティを [承認済み] としてマークします。

条件

これらの条件によって、アクティビティの後にどの移行が実行されるかが決まります。

注: 承認アクティビティは、ワークフローが待機していた承認条件または却下条件に一致するアクションの、またワークフローを進行するユーザーとして実行されます。

承認アクション アクティビティの条件

条件	説明
常時	承認を次のワークフロー ステップに移行させるイベントまたは条件。
エラー	エラーを生成するイベントまたは条件。
スキップ	承認をスキップできるイベントまたは条件。

状況

アクティビティ状況は、ワークフロー エンジンがアクティビティを処理する方法を指示します。

承認アクションアクティビティ状況

状況	説明
実行中	ワークフロー エンジンは、アクティビティの [実行] 機能を起動させます。
待機中	アクティビティを再開する特定のイベントが発生するまで、ワークフロー エンジンはアクティビティを無視します。
完了	アクティビティの実行が終了しました。アクティビティの結果については結果値を確認してください。
キャンセル	このアクティビティ、またはこのアクティビティを含むワークフローはキャンセルされました。
エラー	JavaScript エラーが発生しました。エラーの詳細についてログを確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認コーディネーターワークフローアクティビティ

[承認コーディネーター] アクティビティは承認を作成し、その結果は 1 つ以上の子アクティビティの結果に依存します。これらの子アクティビティには、[承認 - ユーザー]、[承認 - グループ]、および/または [手動承認] アクティビティが含まれます。

> **注:** このアクティビティは、ワークフローがタスクを拡張するテーブルで実行されている場合にのみ使用できます。

[承認コーディネーター] アクティビティを作成するには、最初にアクティビティをワークフローキャンバスにドラッグし、アクティビティフォームを表示させます。アクティビティフォームで、該当するフィールドに入力し、[送信] をクリックします。

[送信] をクリックすると、アクティビティがワークフローキャンバスに表示されます。そこから、アクティビティの本文に表示されるリンクをクリックして、子アクティビティを指定します。

[承認コーディネーター] アクティビティが完了すると、[承認コーディネーター] 承認アクティビティにより作成された処理待ちのすべての承認がすぐに [不要] に設定されます。1 人のユーザーが製品承認者とエグゼクティブ承認者の両方である場合など、1 人のユーザーが同じワークフローで 2 回承認者として呼び出された場合、そのユーザーによる最初の承認以降の承認はスキップされます。

結果

[承認コーディネーター] アクティビティの結果値は、承認者による承認アクションおよび [待機] フィールドで指定された承認条件に依存します。可能な結果値：

- 承認済み
- 却下
- 削除済み
- キャンセル

入力変数

アクティビティの初期動作が、入力変数によって決まります。

承認コーディネーター アクティビティの入力変数

フィールド	説明
待機	承認アクティビティの承認または却下を示すには何が必要かを示します。オプションは次のとおりです。 • [承認する任意の子アクティビティ]： 任意の子アクティビティ (ユーザー、グループ、または手動承認) が [承認済み] の結果で完了すると、[承認コーディネーター] アクティビティも [承認済み] の結果で完了します。 • [承認するすべての子アクティビティ]： [承認コーディネーター] アクティビティのすべての子アクティビティが [承認済み] の結果で完了すると、[承認コーディネーター] アクティビティも [承認済み] の結果で完了します。 • [任意の子アクティビティからの最初の承認または却下]： 最初の子アクティビティが [承認済み] または [却下] の結果で完了する

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認コーディネーター アクティビティの入力変数 (続く)

フィールド	説明
	と、[承認コーディネーター] アクティビティも同じ結果で完了します。 • スクリプトに基づく条件：スクリプトを呼び出して、承認または却下の管理方法を決定します。
却下時 [待機] が [承認するすべての子アクティビティ] または [承認する任意の子アクティビティ] に設定されている場合にのみ表示されます。	子アクティビティのいずれかから却下が示される場合に、コーディネーターが行うべきことを指定します。オプションは次のとおりです。 • [承認を却下]： [却下] の結果となった [承認コーディネーター] アクティビティをすぐに完了します。 • [決定前に他の回答を待つ]： 承認または却下の決定を下す前に、他の子アクティビティからの他の回答が得られるまで待ちます。 これにより、ユーザーは決定が下されるまで考えを変えることができます。 さらに、[待機] が [承認する任意の子アクティビティ] に設定されている場合、1 つの子アクティビティが [承認済み] の結果で完了すると、他の子アクティビティが [却下] の結果で完了したとしても、[承認コーディネーター] アクティビティは [承認済み] の結果で完了します。

承認スクリプト
 	
[待機] が [スクリプトに基づく条件] に設定されている場合にのみ表示されます。
	[待機] 変数が [スクリプトに基づく条件] に設定されると、このスクリプトが呼び出されて、承認または却下をどのように処理するかを決定します。このスクリプトは [回答] 変数を [承認済み] または [却下] に設定して、この承認に対する全体的な承認ステータスを示す必要があります。呼び出されると、次の変数をスクリプトで使用できます。
	`counts.total = total number of child approval activities that are part of this approval`
	`counts.approved = # of child approval activities that approved so far`
	`counts.rejected = # of child approval activities that rejected so far`
	`counts.requested = # of child approval activities that are pending approval`

条件

これらの条件によって、アクティビティの後にどの移行が実行されるかが決まります。

注: 承認アクティビティは、ワークフローが待機していた承認条件または却下条件に一致するアクションの、またワークフローを進行するユーザーとして実行されます。

承認コーディネーター アクティビティの条件

条件	説明
承認済み	グループのユーザーは、[待機] ルールに基づいて要求を承認しました。
却下	グループのユーザーは、[待機] ルールに基づいて要求を却下しました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

状況

アクティビティ状況は、ワークフロー エンジンがアクティビティを処理する方法を指示します。

承認コーディネーターアクティビティ状況

状況	説明
実行中	ワークフロー エンジンは、アクティビティの [実行] 機能を起動させます。
待機中	アクティビティを再開する特定のイベントが発生するまで、ワークフロー エンジンはアクティビティを無視します。
完了	アクティビティの実行が終了しました。アクティビティの結果については結果値を確認してください。
キャンセル	このアクティビティ、またはこのアクティビティを含むワークフローはキャンセルされました。
エラー	JavaScript エラーが発生しました。エラーの詳細についてログを確認してください。

承認 - グループワークフローアクティビティ

[承認 - グループ] アクティビティは、指定されたグループの各メンバーの承認レコードを作成します。

注: このアクティビティは、ワークフローがタスクを拡張するテーブルで実行されている場合にのみ使用できます。

グループの承認は、[待機] フィールドで指定されたロジックに従い、ユーザー承認に基づいて承認または却下されます。

結果

ワークフローデザイナーは、アクティビティのスクリプトフィールド内から activity.result を使用して、結果値を割り当てることができます。デフォルトでは、結果値は最終承認処理です。この処理は、承認者による承認アクションおよび [待機] または [誰かが却下時] フィールドで指定された承認条件に依存します。可能な結果値：

- 承認済み
- 却下
- 削除済み
- キャンセル

入力変数

アクティビティの初期動作が、入力変数によって決まります。

承認 - グループ アクティビティの入力変数

フィールド	説明
承認 - グループ時期 このアクティビティがグループ承認レコードを生成する時期を指定します。	
条件	適合した場合はグループ承認が生成される条件。条件に適合しない場合、承認はスキップされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認 - グループ アクティビティの入力変数 (続く)

フィールド	説明
承認 - グループ承認者 承認が要求されるグループを指定します。	
グループ	承認が要求されるグループ。 このフィールドを編集するには、ロック アイコンをクリックします。特定のグループを名前で選択するには、ルックアップ リストを使用します。実行時に現在のレコードのフィールド値からグループを選択するには、ツリー アイコンをクリックします。 グループの各メンバーには個別の承認レコードが割り当てられます。 グループが選択されていない場合、アクティビティは承認を自動的に [承認済み] に設定します。
承認 - グループ条件 グループの個々のメンバーからの応答に基づいてグループ承認を承認するか却下するかをアクティビティが判断する方法を指定します。	
待機	個々の承認または却下のうちのどれがアクティビティの承認または却下という結果になるかを判断するための、さまざまな承認ロジック間の選択。オプションは次のとおりです。 • [各グループからの承認]：各グループの任意のユーザーが承認することができ、各グループの最初の承認により、アクティビティは [承認済み] の結果で完了します (却下の処理方法については以下を参照)。 • [任意のグループからの承認]：任意のグループの任意のユーザーが承認でき、任意のグループの最初の承認により、アクティビティは [承認済み] の結果で完了します。 • [すべてのグループの全員からの承認]：すべてのグループのすべてのユーザーが承認して、アクティビティを [承認済み] の結果で完了させる必要があります (却下の処理方法については以下を参照)。 • [各グループからの最初の回答]：各グループの任意のユーザーからの最初の承認または却下は、グループ承認の状態を示すために使用されます (却下の処理方法については以下を参照)。 ユーザーが承認要求を却下した場合にどうなるかを示します。オプションは次のとおりです。 • [承認を却下]：[却下] の結果となったアクティビティをすぐに完了します。 • [任意のグループからの最初の回答]：任意のグループの任意のユーザーからの最初の承認または却下により、アクティビティは [承認済み] または [却下] の結果で完了します。 • [スクリプトに基づく条件]：ユーザーが承認または却下するたびに、[承認スクリプト] が呼び出されて、アクティビティを完了すべきかどうかを判断します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認 - グループ アクティビティの入力変数 (続く)

フィールド	説明

承認スクリプト
 	
[待機] が [スクリプトに基づく条件] に設定されている場合にのみ表示されます。
	[待機] 変数が [スクリプトに基づく条件] に設定されると、このスクリプトが呼び出されて、承認または却下をどのように処理するかを決定します。スクリプトは変数 [回答] を [承認済み] または [却下] に設定して、この承認の全体的なステータスを示す必要があります。
	
	このスクリプトは、すべてのグループに関して全体的な承認状態を返す前に、この承認アクティビティの一部である各グループに対して承認状態を設定します。
	
	呼び出されると、この承認アクティビティの一部であるすべてのグループのスクリプトで、次の変数を使用できます。
	
	`counts.total = total number of groups that are part of this approval`
	`counts.approved = # of groups that approved so far`
	`counts.rejected = # of groups that rejected so far`
	`counts.requested = # of groups that are pending approval`
	`counts.not_requested = # of groups that are not pending approval`
	`counts.not_required = # of groups that approval is not required`
	
	各グループについて：
	
	`groups[group_id].total = total number of users that are part of this group's approval`
	`groups[group_id].approved = # of users that approved so far`
	`groups[group_id].rejected = # of users that rejected so far`
	`groups[group_id].requested = # of users that are pending approval`
	`groups[group_id].not_requested = # of users that are not pending approval`
	`groups[group_id].not_required = # of users that approval is not required`
	`groups[group_id].approvalIDs[state] = array of user ids that are at the specified approval state`
	
	注意：使用するグループを反復する：
	
	`for (var id in groups) {`
	`var group = groups[id];`
	`... group.total ...`
	`}`
	
	注意：次のコードを使用してグループ オブジェクトを取得します (反復されるグループ名のようなものを取得する)。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認 - グループ アクティビティの入力変数 (続く)

フィールド	説明

	<pre>var objGroup = fncGetGroupObj(id);
	var strGroupName = objGroup.name;
	
	function fncGetGroupObj(sidGroupApproval)
	{
	var objGroupApproval = new GlideRecord('sysapproval_group');
	
	objGroupApproval.get(sidGroupApproval);
	
	var objGroup = new GlideRecord('sys_user_group');
	
	objGroup.get(objGroupApproval.assignment_group.sys_id);
	
	return objGroup;
	}</pre>
	承認スクリプトでも計算が可能です。たとえば、承認の半分のみが必要な場合：
	<pre>if (counts.approved/counts.total > .49) {
	answer = 'approved';
	}
	else if (counts.rejected/counts.total > .50) {
	answer = 'rejected';
	}</pre>

誰かが却下時	個々の却下のうちのどれがアクティビティの承認却下という結果になるかを判断するための、さまざまな承認ロジック間の選択。オプションは次のとおりです。 • [承認を却下]：[却下] の結果となったアクティビティをすぐに完了します。 • [決定前に他の回答を待つ]：承認または却下の決定を下す前に、他の回答が得られるまで待ちます。これにより、ユーザーは決定が下されるまで考えを変えることができます。 **注:** [待機] が [任意の人が承認] に設定されている場合 、たとえ 1 人以上のユーザーが却下したとしても、1 回の承認によりアクティビティは [承認済み] の結果で完了します。
承認 - グループ スケジュール ワークフローで承認レコードの予定開始日と期日を計算する方法を指定します。[期限日基準：] や [スケジュール基準] を選択すると該当するフィールドが表示されます。	
期限日基準：	ワークフローがタスクの期間、期日、およびスケジュールを決定する方法を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認 - グループ アクティビティの入力変数 (続く)

フィールド	説明
	• [ユーザー指定の期間]：期間は、ユーザー指定の値に基づいています。 • [相対期間]：期間は、相対的な期間 (翌営業日の終了など) から計算されます。 • [日付/時刻または期間フィールド]：期間は、現在のレコードのフィールド値に基づいています。 • [スクリプト]：期間は、スクリプトによって返されます。
期間 [期限日基準：] が [ユーザー指定の期間] に設定された場合にのみ表示されます。	特定の日数と時間。
相対期間 [期限日基準：] が [相対期間] に設定された場合にのみ表示されます。	営業日の一般的な数と長さ。
期日フィールド [期限日基準：] が [日付/時刻または期間フィールド] に設定された場合にのみ表示されます。	日付/時間または期間フィールド。
期日スクリプト [期限日基準：] が [スクリプト] に設定された場合にのみ表示されます。	「回答」を継続時間用の秒数に設定するスクリプト。
スケジュール基準：	タイマーが勤務時間をカウントするために使用する基本スケジュール。スケジュールが指定されると、スケジュールで指定された回数のみ期間が考慮されます。たとえば、期間が 2 時間の場合、午前 8 時から午後 5 時のスケジュールでワークフローが午後 4 時に開始されると、翌日の午前 9 時に終了します。オプションは次のとおりです。 • [このワークフローのスケジュール]：スケジュールは、ワークフローのコンテキストの日付、時刻、およびオプションの [タイムゾーン基準：] 値を使用します。 • [特定のスケジュール]：スケジュールは、事前定義された [スケジュール] およびオプションの [タイムゾーン基準：] 値を使用します。 • [スケジュール フィールド]：スケジュールは、テーブルの値およびオプションの [タイムゾーン基準：] 値を使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認 - グループ アクティビティの入力変数 (続く)

フィールド	説明
スケジュール [スケジュール基準：] が [特定のスケジュール] に設定された場合にのみ表示されます。	リストから事前定義された [スケジュール]。
スケジュール フィールド [スケジュール基準：] が [スケジュール フィールド] に設定された場合にのみ表示されます。	テーブルに関連付けられているスケジュールの日付/時刻または期間フィールド。有効なフィールドは、ツリー ダイアログの [要素を選択] に青色で表示されます。
タイムゾーン基準：	期間を計算するためのタイムゾーン。以下のタイムゾーン基準があります。 • [タイムゾーンなし]：デフォルト。ワークフローは GMT タイムゾーンを使用します。 • [特定のタイムゾーン]：選択リストから選択した特定の [タイムゾーン]。 • [タイムゾーン フィールド]：フォーム上のフィールドから継続時間を追跡する [タイムゾーン フィールド]。
タイムゾーン [スケジュール基準：] が [特定のスケジュール] に設定された場合にのみ表示されます 。	選択リストから希望するタイムゾーンを選択します。
タイムゾーン フィールド [タイムゾーン基準：] が [タイムゾーン フィールド] に設定された場合にのみ表示されます。	テーブルに関連付けられているスケジュールの日付/時刻または期間フィールド。有効なフィールドは、ツリー ダイアログの [要素を選択] に青色で表示されます。
承認 - 詳細 必要な場合、承認を要求する追加ユーザーを決定するスクリプトを書き込むことができます。	
詳細	このチェック ボックスをオンにすると、承認を要求する追加ユーザーを決定するスクリプトを書き込むことができます。[他のグループ スクリプト] を使用して、グループ承認をカスタマイズします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認 - グループ アクティビティの入力変数 (続く)

フィールド	説明

他のグループ スクリプト	[詳細] チェック ボックスをオンにすると、追加のグループ承認を作成するかどうかを決定するため、このスクリプトが呼び出されます。スクリプトは変数 [回答] をグループ ID のカンマ区切りリストまたはグループ ID の配列に設定して、承認グループとして追加する必要があります。例：
	`answer = [];`
	`answer.push('id1');`
	`answer.push('id2');`

条件

以下の条件によって、アクティビティの後にどの移行が実行されるかが決まります。

注: 承認アクティビティは、ワークフローが待機していた承認条件または却下条件に一致するアクションの、またワークフローを進行するユーザーとして実行されます。

承認 - グループ アクティビティ条件

条件	説明
承認済み	グループのユーザーは、[待機] ルールに基づいて要求を承認しました。
却下	グループのユーザーは、[待機] ルールに基づいて要求を却下しました。
エラー	エラーを生成するイベントまたは条件。
スキップ	承認をスキップできるイベントまたは条件。

状況

アクティビティ状況は、ワークフロー エンジンがアクティビティを処理する方法を指示します。

承認 - グループアクティビティ状況

状況	説明
実行中	ワークフロー エンジンは、アクティビティの [実行] 機能を起動させます。
待機中	アクティビティを再開する特定のイベントが発生するまで、ワークフロー エンジンはアクティビティを無視します。
完了	アクティビティの実行が終了しました。アクティビティの結果については結果値を確認してください。
キャンセル	このアクティビティ、またはこのアクティビティを含むワークフローはキャンセルされました。
エラー	JavaScript エラーが発生しました。エラーの詳細についてログを確認してください。

承認 - ユーザーワークフローアクティビティ

[承認 - ユーザー] アクティビティは、1 つまたは複数の個別のユーザー承認を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

結果

結果値は最終承認処分です。この処理は、承認者による承認アクションおよび [待機] または [誰かが却下時] フィールドで指定された承認条件に依存します。可能な結果値：

- 承認済み
- 却下
- 削除済み
- キャンセル

入力変数

承認 - ユーザー アクティビティの入力変数

フィールド	説明
承認 - ユーザー時期 このアクティビティがユーザー承認レコードを生成する時期を指定します。	
条件	適合した場合は個別の承認が生成される条件。条件に適合しない場合、承認はスキップされます。
承認 - ユーザー承認者 承認が要求されるユーザーを指定します。	
ユーザー	承認のためのユーザー。ツリー アイコンを使用して、`$ {assigned_to}` のように現在のレコードからユーザー参照フィールドを選択し、承認を作成します。ユーザーが選択されていない場合、アクティビティは承認を自動的に [承認済み] に設定します。 注: ワークフローは、承認ユーザー アクティビティによって生成された承認レコードのみを管理します。ワークフローの開始後、新たに追加された承認はワークフロー コンテキストに影響を与えません。
グループ	承認を受領するべきメンバーが属するグループこれは、個々の承認に加えてグループ承認を作成する [承認 - グループ] アクティビティとは異なる点に注意してください。ツリー アイコンを使用して、`${assignment_group}` のように現在のレコードからグループ参照フィールドを選択し、承認を作成できます。
承認 - ユーザー条件 アクティビティで個々の承認者からの応答に基づいて承認を承認するか却下するかを判断する方法を指定します。	
待機	個々の承認のうちのどれがアクティビティの承認という結果になるかを判断するための、さまざまな承認ロジック間の選択。オプションは次のとおりです。 • [任意の人が承認]：任意のユーザーが承認でき、最初の承認により、アクティビティは [承認済み] の結果で完了します。 • [全員が承認]：すべてのユーザーが承認する必要があります (却下の処理方法については、下記を参照してください)。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認 - ユーザー アクティビティの入力変数 (続く)

フィールド	説明
	• [任意の人からの最初の回答]：任意の人からの最初の承認または却下により、アクティビティは完了します。 • [スクリプトに基づく条件]：ユーザーが承認または却下するたびに、[承認スクリプト] が呼び出されて、アクティビティを完了すべきかどうかを判断します。
誰かが却下時	個々の却下のうちのどれがアクティビティの承認却下という結果になるかを判断するための、さまざまな承認ロジック間の選択。オプションは次のとおりです。 • [承認を却下]：[却下] の結果となったアクティビティをすぐに完了します。 • [決定前に他の回答を待つ]：承認または却下の決定を下す前に、他の回答が得られるまで待ちます。これにより、ユーザーは決定が下されるまで考えを変えることができます。 **注:** [待機] が [任意の人が承認] に設定されている場合 、1 人以上のユーザーが却下したとしても、1 回の承認によりアクティビティは [承認済み] の結果で完了することに注意してください。
承認列	ワークフローが実行されているテーブル上の、承認フィールドの名前の文字列フィールド。デフォルト値は [承認] で、これはタスク テーブルのフィールドです。 **注:** ラベルではなくフィールドの名前を使用します。 カスタム承認列のフィールドと承認列のジャーナルを使用する場合は、ワークフローの [値の設定] アクティビティを使用して、[承認] 列のカスタム フィールドを設定します。
承認ジャーナル列	

承認スクリプト	[待機] 変数が [スクリプトに基づく条件] に設定されると、このスクリプトが呼び出されて、承認または却下をどのように処理するかを決定します。このスクリプトは [回答] 変数を [承認済み] または [却下] に設定して、この承認に対する承認ステータスを示す必要があります。呼び出されると、次の情報を利用できます。
	`counts.total = total number of users that are part of this approval`
	`counts.approved = # of users that approved so far`
	`counts.rejected = # of users that rejected so far`
	`counts.requested = # of users that are pending approval`
	`counts.not_requested = # of users that are not pending approval`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認 - ユーザー アクティビティの入力変数 (続く)

フィールド	説明
	counts.not_required = # of users that approval is not required
承認 - ユーザー スケジュール ワークフローで承認レコードの予定開始日と期日を計算する方法を指定します。[期限日基準：] や [スケジュール基準] を選択すると該当するフィールドが表示されます。	
期限日基準：	ワークフローがタスクの期間、期日、およびスケジュールを決定する方法を選択します。 • [ユーザー指定の期間]：期間は、ユーザー指定の値に基づいています。 • [相対期間]：期間は、相対的な期間 (翌営業日の終了など) から計算されます。 • [日付/時刻または期間フィールド]：期間は、現在のレコードのフィールド値に基づいています。 • [スクリプト]：期間は、スクリプトによって返されます。
期間 [期限日基準：] が [ユーザー指定の期間] に設定された場合にのみ表示されます。	特定の日数と時間。
相対期間 [期限日基準：] が [相対期間] に設定された場合にのみ表示されます。	営業日の一般的な数と長さ。
期日フィールド [期限日基準：] が [日付/時刻または期間フィールド] に設定された場合にのみ表示されます。	日付/時間または期間フィールド。
期日スクリプト [期限日基準：] が [スクリプト] に設定された場合にのみ表示されます。	「回答」を継続時間用の秒数に設定するスクリプト。
スケジュール基準：	タイマーが勤務時間をカウントするために使用する基本スケジュール。スケジュールが指定されると、スケジュールで指定された回数のみ期間が考慮されます。たとえば、期間が 2 時間の場合、午前 8 時から午後 5 時のスケジュールでワークフローが午後 4 時に開始されると、翌日の午前 9 時に終了します。オプションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認 - ユーザー アクティビティの入力変数 (続く)

フィールド	説明
	• [このワークフローのスケジュール]：スケジュールは、ワークフローのコンテキストの日付、時刻、およびオプションの [タイムゾーン基準：] 値を使用します。 • [特定のスケジュール]：スケジュールは、事前定義された [スケジュール] およびオプションの [タイムゾーン基準：] 値を使用します。 • [スケジュール フィールド]：スケジュールは、テーブルの値およびオプションの [タイムゾーン基準：] 値を使用します。
スケジュール [スケジュール基準：] が [特定のスケジュール] に設定された場合にのみ表示されます。	リストから事前定義された [スケジュール]。
スケジュール フィールド [スケジュール基準：] が [スケジュール フィールド] に設定された場合にのみ表示されます。	テーブルに関連付けられているスケジュールの日付/時刻または期間フィールド。有効なフィールドは、ツリー ダイアログの [要素を選択] に青色で表示されます。
タイムゾーン基準：	期間を計算するためのタイムゾーン。以下のタイムゾーン基準があります。 • [タイムゾーンなし]：デフォルト。ワークフローは GMT タイムゾーンを使用します。 • [特定のタイムゾーン]：選択リストから選択した特定の [タイムゾーン]。 • [タイムゾーン フィールド]：フォーム上のフィールドから継続時間を追跡する [タイムゾーン フィールド]。
タイムゾーン [スケジュール基準：] が [特定のスケジュール] に設定された場合にのみ表示されます 。	選択リストから希望するタイムゾーンを選択します。
タイムゾーン フィールド [タイムゾーン基準：] が [タイムゾーン フィールド]	テーブルに関連付けられているスケジュールの日付/時刻または期間フィールド。有効なフィールドは、ツリー ダイアログの [要素を選択] に青色で表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認 - ユーザー アクティビティの入力変数 (続く)

フィールド	説明
に設定された場合にのみ表示されます。	
承認 - 詳細 必要な場合、承認を要求する追加ユーザーを決定するスクリプトを書き込むことができます。	
詳細	このチェック ボックスをオンにすると、承認を要求する追加ユーザーを決定するスクリプトを書き込むことができます。

他の承認者スクリプト	[詳細] チェック ボックスをオンにすると、追加のユーザー承認を作成するかどうかを決定するため、このスクリプトが呼び出されます。スクリプトは変数 [回答] をユーザー ID とグループ ID のカンマ区切りリスト、またはユーザー ID とグループ ID の配列に設定して、承認者として追加する必要があります。例：
	
	`answer = [];`
	`answer.push('id1');`
	`answer.push('id2');`

条件

以下の条件によって、アクティビティの後にどの移行が実行されるかが決まります。

注: 承認アクティビティは、ワークフローが待機していた承認条件または却下条件に一致するアクションの、またワークフローを進行するユーザーとして実行されます。

承認 - ユーザー アクティビティ条件

条件	説明
承認済み	ユーザーは、[待機] ルールに基づいて要求を承認しました。
却下	ユーザーは、[待機] ルールに基づいて要求を却下しました。
エラー	エラーを生成するイベントまたは条件。
スキップ	承認をスキップできるイベントまたは条件。

状況

アクティビティ状況は、ワークフロー エンジンがアクティビティを処理する方法を指示します。

承認 - ユーザーアクティビティ状況

状況	説明
実行中	ワークフロー エンジンは、アクティビティの [実行] 機能を起動させます。
待機中	アクティビティを再開する特定のイベントが発生するまで、ワークフロー エンジンはアクティビティを無視します。
完了	アクティビティの実行が終了しました。アクティビティの結果については結果値を確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認 - ユーザーアクティビティ状況 (続く)

状況	説明
キャンセル	このアクティビティ、またはこのアクティビティを含むワークフローはキャンセルされました。
エラー	JavaScript エラーが発生しました。エラーの詳細についてログを確認してください。

ワークフローアクティビティを生成

[生成] アクティビティは、ワークフロー パスで [生成] アクティビティの後に配置された任意のタスクまたは承認アクティビティから、すぐにタスクまたは承認レコードを作成します。これらの事前生成タスクおよび承認は、フロー実行中にタスクおよび承認アクティビティに到達すると開始します。これにより、タスクは関連付けられた事前生成の順次タスクまたは承認のセットを持つことができますが、依然としてそれらを順番に完了する必要があります。

注: このアクティビティは、ワークフローがタスクを拡張するテーブルで実行されている場合にのみ使用できます。

デフォルトでは、ワークフローは、ワークフローで到達するまでタスクや承認を作成しません。

[生成] アクティビティは、ワークフローから各アクティビティへのすべての移行に従います。各アクティビティについて：

- タスク アクティビティ の場合、タスクを作成して、
  - [状態] を [保留中] に設定します。
  - 開始予定日
  - 期日

  注: タスクアクティビティは、ワークフローが待機していたタスクを完了するアクションの、またワークフローを進行するユーザーとして実行されます。

- 承認アクティビティの場合、承認を作成し、
  - 承認の [状態] を [未要求] に設定します。
  - 開始予定日
  - 期日

  注: 承認アクティビティは、ワークフローが待機していた承認条件または却下条件に一致するアクションの、またワークフローを進行するユーザーとして実行されます。

開始予定日と期日は、[生成] アクティビティおよび更新中のアクティビティの間のすべてのタスクと承認の[予想時間] に基づいて計算されます。分岐したパスの場合 ([分岐] アクティビティと [結合] アクティビティの間)、分岐後のアクティビティにはより長い期間が使用されます。

[生成] アクティビティは複数回使用でき、更新された情報でタスクや承認がリフレッシュされます。これは、ワークフローの進行中に承認者のリストやその他の重要な情報がまだ編集可能であり、生成された承認やタスクを更新または修正する必要がある場合に便利です。

一連のアクティビティを [生成] アクティビティから除外するには、任意の条件で [生成時はスキップ] チェック ボックスをオンにします。これにより、その移行は生成プロセス中に追跡されません。デフォルトでは、次の条件で [生成時はスキップ] チェック ボックスがオンになっています。

- [却下] (任意の承認アクティビティの場合)
- **[If]** アクティビティの [いいえ] 条件

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [ターンスタイル] アクティビティの [続行] 条件
- [結合] アクティビティの [未完了] 条件

入力変数

アクティビティの初期動作が、入力変数によって決まります。

生成アクティビティの入力変数

フィールド	説明
承認を生成	オンにした場合、[生成] アクティビティの実行時に承認が作成されます。オフにした場合、複数の承認を使用して予想時間が算出されますが、承認は作成されません。
タスクを生成	オンにした場合、[生成] アクティビティの実行時にタスクが作成されます。オフにした場合、複数のタスクを使用して予想時間が算出されますが、タスクは作成されません。

状況

アクティビティ状況は、ワークフロー エンジンがアクティビティを処理する方法を指示します。

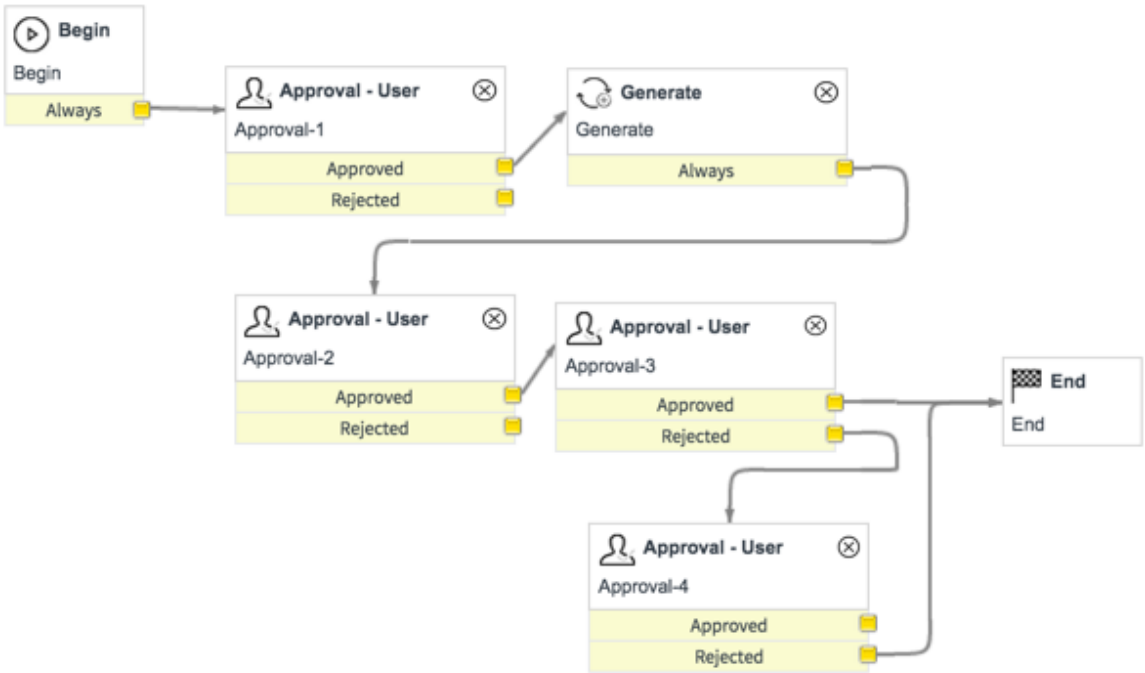
アクティビティ状況を生成する

状況	説明
実行中	アクティビティが実行されています。
完了	アクティビティの実行が終了しました。アクティビティの結果については結果値を確認してください。
キャンセル	このアクティビティ、またはこのアクティビティを含むワークフローはキャンセルされました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例

ワークフローを生成する



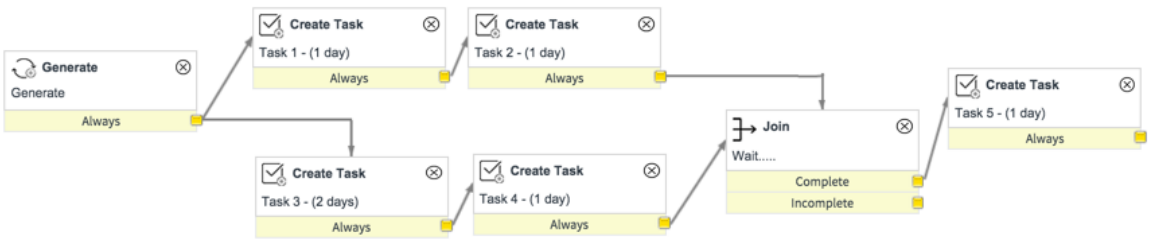
この例では、次の承認が生成されます。

- 承認-2
- 承認-3

Approval-3 の [却下] 条件で [生成時はスキップ] が選択されているため、Approval-4 はスキップされます。

この例では、開始予定日と期日を説明する [生成] アクティビティを使用しています

ワークフローの開始日と期日を生成する



この例では、[生成] アクティビティが 2016 年 1 月 1 日に実行された場合、生成されるタスクには、次の開始予定日と期日が設定されます。

タスク	開始予定日	理由	期日
タスク 1 (1 日)	2016 年 1 月 1 日		2016 年 1 月 2 日
タスク 2 (1 日)	2016 年 1 月 2 日	タスク 1 は 1 日です	2016 年 1 月 3 日
タスク 3 (2 日)	2016 年 1 月 1 日		2016 年 1 月 3 日
タスク 4 (1 日)	2016 年 1 月 3 日	タスク 3 は 2 日です	2016 年 1 月 4 日
タスク 5 (1 日)	2016 年 1 月 4 日	タスク 4 は [結合] 前の最後に終了します	2016 年 1 月 5 日

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[結合] への最も長いパス (期日に基づく) はタスク 3/タスク 4 であるため、タスク 5 は 2016 年 1 月 4 日に開始することに注意してください。

手動承認ワークフローアクティビティ

[手動承認] アクティビティは、ユーザーがワークフロー プロセスの外で手動で追加するすべての承認を監視し、管理します。このアクティビティでは、[未要求] 状態の承認のみが選択されます。

> **注:** このアクティビティは、ワークフローがタスクを拡張するテーブルで実行されている場合にのみ使用できます。

このアクティビティの実行時に処理待ちの手動承認がない場合、アクティビティはすぐに [承認済み] の結果で完了します。このアクティビティでは承認レコードは作成されません。ユーザーが関連するワークフローのレコードに手動承認を追加し、それが [未要求] 状態である場合、このアクティビティを使用してワークフローを一時停止します。ワークフローは、続行する前に承認がクローズされるのを待ちます。

結果

ワークフローデザイナーは、アクティビティのスクリプトフィールド内から `activity.result` を使用して、結果値を割り当てることができます。デフォルトでは、アクティビティの結果値は承認者の承認アクションによって決定される最終承認処理です。可能な結果値：

- 承認済み
- 却下
- 削除済み
- キャンセル
- エラー

入力変数

アクティビティの初期動作が、入力変数によって決まります。

手動承認アクティビティの入力変数

フィールド	説明
待機	承認アクティビティの承認または却下を示すには何が必要かを示します。オプションは次のとおりです。 • [任意の手動ユーザーまたはグループ承認]：任意のユーザーが承認でき、最初の承認により、アクティビティは [承認済み] の結果で完了します。 • [すべての手動ユーザーまたはグループが承認]：すべてのユーザーが承認する必要があります (却下の処理方法については、下記を参照してください)。 • [手動承認からの最初の回答]：任意のユーザーからの最初の承認または却下により、アクティビティが完了します。
誰かが却下時	ユーザーが承認要求を却下した場合にどうなるかを示します。オプションは次のとおりです。 • [承認を却下]：[却下] の結果となったアクティビティをすぐに完了します。 • [決定前に他の回答を待つ]：承認または却下の決定を下す前に、他の回答が得られるまで待ちます。これにより、ユーザーは決定が下されるまで考えを変えることができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手動承認アクティビティの入力変数 (続く)

フィールド	説明
	さらに、[待機] が [任意の人が承認] に設定されている場合 、たとえ 1 人以上のユーザーが却下したとしても、1 回の承認によりアクティビティは [承認済み] の結果で完了します。

条件

これらの条件によって、アクティビティの後にどの移行が実行されるかが決まります。

注: 承認アクティビティは、ワークフローが待機していた承認条件または却下条件に一致するアクションの、またワークフローを進行するユーザーとして実行されます。

手動承認アクティビティの条件

条件	説明
承認済み	グループのユーザーは、[待機] ルールに基づいて要求を承認しました。
却下	グループのユーザーは、[待機] ルールに基づいて要求を却下しました。

状況

アクティビティ状況は、ワークフロー エンジンがアクティビティを処理する方法を指示します。

手動承認アクティビティ状況

状況	説明
実行中	ワークフロー エンジンは、アクティビティの [実行] 機能を起動させます。
待機中	アクティビティを再開する特定のイベントが発生するまで、ワークフロー エンジンはアクティビティを無視します。
完了	アクティビティの実行が終了しました。アクティビティの結果については結果値を確認してください。
キャンセル	このアクティビティ、またはこのアクティビティを含むワークフローはキャンセルされました。
エラー	JavaScript エラーが発生しました。エラーの詳細についてログを確認してください。

ロールバックワークフローアクティビティ

[ロールバック] アクティビティは、送信遷移線矢印で指定されたアクティビティに直接移行します。

注: このアクティビティは、ワークフローがタスクを拡張するテーブルで実行されている場合にのみ使用できます。

[ロールバック] は、実行順序ではなく、ロールバック自体とアクティビティに移行したものとの間でアクティビティの実際のワークフロー順序 (遷移線添付ファイル) に基づいて、どのアクティビティをリセットするかを決定します。[ロールバック] は、ロールバックとアクティビティへの移行の間に移行した承認をすべて [未要求] としてマークし、タスクを [オープン] または [保留中] のいずれかとしてすべてマークします。

複数のロールバックが必要なすべてのワークフローに [ロールバック] アクティビティを使用します。[ロールバック] に変数はありません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件

これらの条件によって、アクティビティの後にどの移行が実行されるかが決まります。

ロールバック アクティビティの条件

条件	説明
常時	承認を元のワークフロー ステップに戻すイベントまたは条件。
エラー	エラーを生成するイベントまたは条件。
スキップ	承認をスキップできるイベントまたは条件。

状況

アクティビティ状況は、ワークフロー エンジンがアクティビティを処理する方法を指示します。

ロールバックアクティビティ状況

状況	説明
実行中	ワークフロー エンジンは、アクティビティの [実行] 機能を起動させます。
待機中	アクティビティを再開する特定のイベントが発生するまで、ワークフロー エンジンはアクティビティを無視します。
完了	アクティビティの実行が終了しました。アクティビティの結果については結果値を確認してください。
キャンセル	このアクティビティ、またはこのアクティビティを含むワークフローはキャンセルされました。
エラー	JavaScript エラーが発生しました。エラーの詳細についてログを確認してください。

ロールバックの動作

[ロールバック] アクティビティは、遷移線矢印で指定されたアクティビティに直接移行します。

複数のロールバックまたはネストされたロールバックを使用するすべてのワークフローに [ロールバック] アクティビティを使用します。[ロールバック] は、対象タスク (直接移行) を [オープン] にリセットします。[ロールバック] アクティビティと対象タスク (ロールバック タスク) 間で実行されたすべてのタスクは、[保留中] に設定されます。

(0) 開始

(1) ログ メッセージ

(2) タスク 1

(3) タスク 3

(4) タスク 2

(5) タイマー

(6) 承認 1

(7) 最初のタスクにロールバック

(8) タスク 1

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

(9) タスク 2

(10) 承認 1

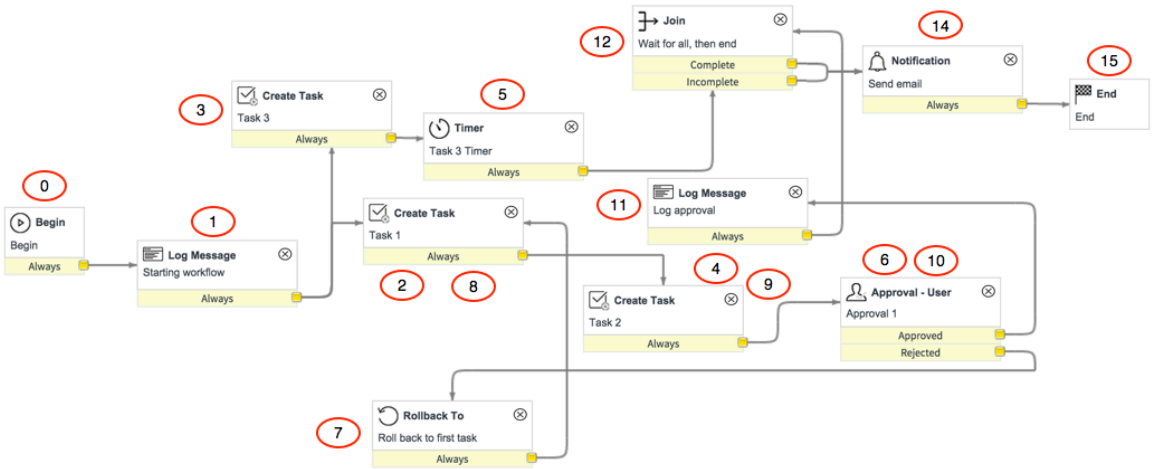
(11) ログ承認

(12) 結合

(14) メール送信

(15) 終了

ワークフローにロールバック



移行履歴

(3) タスク 3 の状態は、このアクティビティがロールバック ターゲット アクティビティから直接移行しないため、変更されません。ロールバックされたアクティビティを確認するには、 [ワークフロー移行履歴] 関連リストを選択し、[ロールバック済み] 列を確認します。

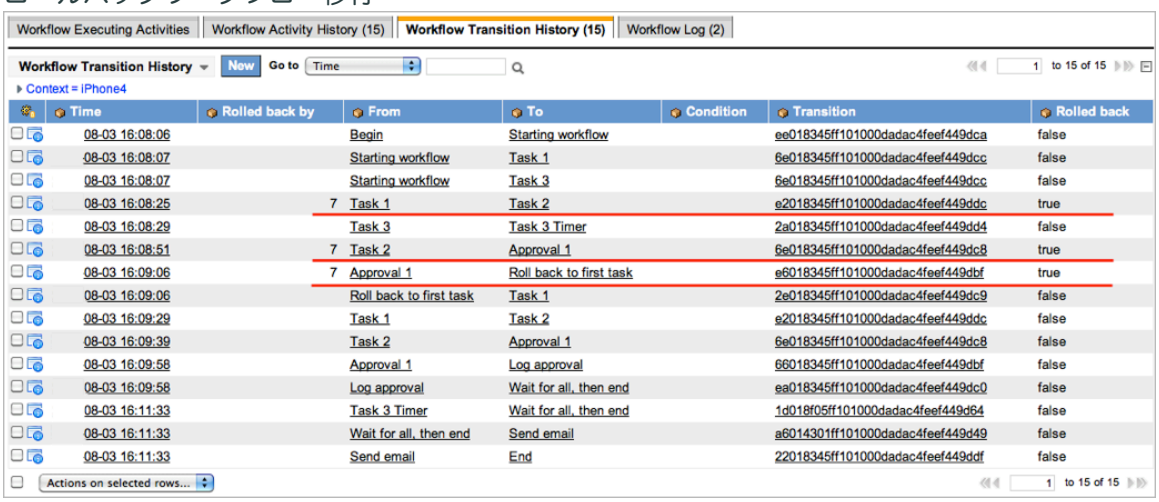
[ロールバック] アクティビティ (7) は、以下のアクティビティを更新します。

(8) タスク 1：[オープン]

(9) タスク 2：[保留中]

(10) 承認 1：未要求 にリセット

ロールバックワークフロー移行



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールバック アクティビティ

ワークフロー内の条件が [ロールバック] アクティビティをトリガーすると、ワークフローは、ワークフロー内の指定されたアクティビティに処理を戻し、すでに実行された特定のアクティビティを元の状態にリセットします。これは、予期しないエラーを処理する場合や、プログラムされた論理フローの一部として処理する場合に便利です。

ワークフローのロールバック中にアクティビティがリセットされると、次のようになります。

- 承認は 未要求 にリセットされます。
- タスクは [オープン] または [保留中] のいずれかにリセットされます。ロールバックワークフローパスは新しいタスクを作成できません。

ファイルの削除やメールの送信などの外部システム操作を実行するアクティビティはロールバックされません。承認およびタスクのアクティビティのみがリセットされます。

ワークフローには、単一のロールバック、複数のロールバックを含めることができます。また、より複雑なワークフローには、ネストされたロールバックを含めることができます。[ロールバック] アクティビティは、実行順序を使用して処理を再開する場所を決定するのではなく、それ自体とアクティビティに移行したものとの間でアクティビティの実際のワークフロー順序 (遷移線添付ファイル) に基づいてアクティビティをリセットします。

条件ワークフローアクティビティ

条件アクティビティは、ワークフローの条件分岐および論理演算機能を提供します。

If ワークフローアクティビティ

[If] アクティビティは条件またはスクリプトをチェックして、[はい] または [いいえ] 移行を実行する必要があるかどうかを決定します。

ワークフロー作成者が[条件] および [詳細] スクリプトの両方を指定する場合、どちらも [はい] 移行に進むアクティビティを正常に評価する必要があります。

結果

ワークフローデザイナーは、アクティビティレコードの スクリプトフィールド内から activity.result を使用して、結果値を割り当てることができます。デフォルトでは、アクティビティの結果値は、指定された条件またはスクリプトの最終結果です。可能な結果値：

- はい
- いいえ

入力変数

次の変数は、アクティビティの動作を決定します。

注: 条件アクティビティは、ワークフローが待機していた条件に一致するアクションの、またワークフローを進行するユーザーとして実行されます。

If アクティビティの入力変数

フィールド	説明
条件	この条件が指定され、現在のレコードが一致すると、[はい] 移行に進みます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

If アクティビティの入力変数 (続く)

フィールド	説明
詳細およびスクリプト	スクリプトを指定するには、[詳細] チェック ボックスをオンにします。次に、評価されるスクリプトを入力することができます。スクリプトで変数回答が [はい] に設定された場合、[はい] 移行に進みます。そうでない場合、[いいえ] 移行に進みます。

条件

次の条件は、アクティビティの後にどの移行が来るかを決定します。

If アクティビティ条件

条件	
はい	条件 (指定されている場合) に一致し、[詳細] スクリプト (指定されている場合) が [はい] を返す場合に、実行されます。
いいえ	条件と一致しないか、[詳細] スクリプトが [いいえ] を返す場合に、実行されます。

状況

アクティビティ状況は、ワークフロー エンジンがアクティビティを処理する方法を指示します。

If アクティビティ状況

状況	説明
実行中	ワークフロー エンジンは、アクティビティの `onExecute` 機能を起動させることができます。
待機中	アクティビティを再開する特定のイベントが発生するまで、ワークフロー エンジンはアクティビティを無視します。
完了	アクティビティの実行が終了しました。アクティビティの結果については結果値を確認してください。
キャンセル	このアクティビティ、またはこのアクティビティを含むワークフローがキャンセルされました。
エラー	JavaScript エラーが発生しました。エラーの詳細についてログを確認してください。

スイッチワークフローアクティビティ

[スイッチ] アクティビティは、渡されたフィールドまたは変数の値がいずれかのケース値と同等かどうかをチェックします。

スイッチ アクティビティの動作は、Java の switch 文に似ています。

スイッチ アクティビティを作成する場合、[変数] または [フィールド] を選択して、一致するフィールド値のアクティビティ条件と照合します。この変数またはフィールドで渡された値がアクティビティ条件の [条件] フィールドで定義された値と一致する場合、ワークフローはそのアクティビティ条件の処理を進めます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: 条件アクティビティは、ワークフローが待機していた条件に一致するアクションの、またワークフローを進行するユーザーとして実行されます。

結果

[変数] または [フィールド] アクティビティ変数で選択された変数またはフィールドは、可能な結果値を決定します。

入力変数

次の変数は、アクティビティの動作を決定します。

スイッチ アクティビティの入力変数

フィールド	説明
タイプ	[変数] または [フィールド] を値のタイプとして選択し、利用可能な条件と照合します。この選択は、ラベルと他のフィールドの利用可能なオプションを設定します。
変数またはフィールド	スイッチ アクティビティ条件と比較される値のソースを選択します。フィールド ラベルと利用可能なオプションは、[種類] の選択によって異なります。 • [変数]：任意のサービスカタログ変数を選択します。 • [フィールド]：ワークフロー プロパティで定義されたテーブルから任意のフィールドを選択します。

状況

アクティビティ状況は、ワークフロー エンジンがアクティビティを処理する方法を指示します。

スイッチアクティビティ状況

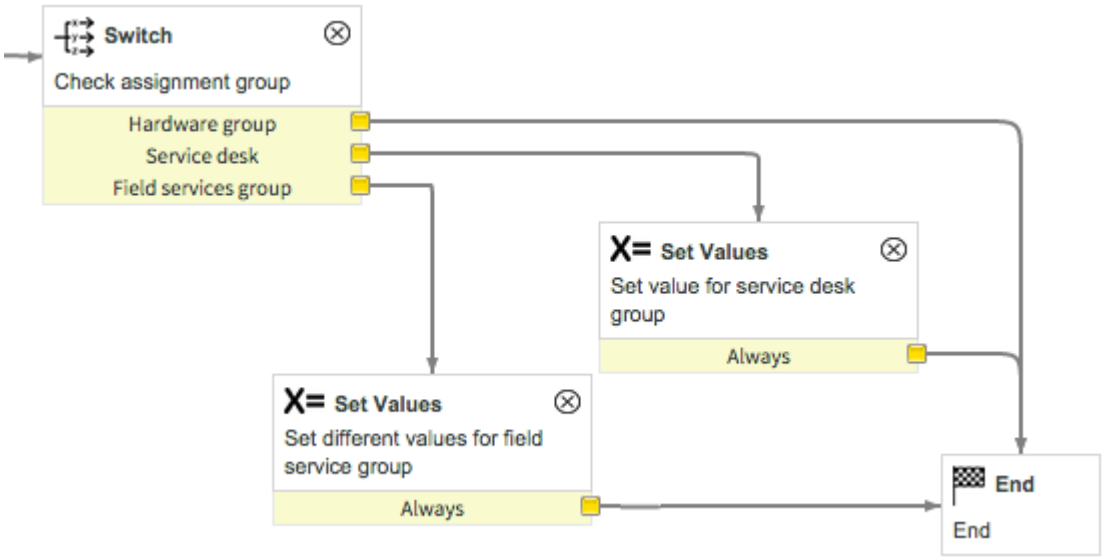
状況	説明
実行中	ワークフロー エンジンは、アクティビティの `onExecute` 機能を起動させることができます。
待機中	アクティビティを再開する特定のイベントが発生するまで、ワークフロー エンジンはアクティビティを無視します。
完了	アクティビティの実行が終了しました。アクティビティの結果については結果値を確認してください。
キャンセル	このアクティビティ、またはこのアクティビティを含むワークフローはキャンセルされました。
エラー	JavaScript エラーが発生しました。エラーの詳細についてログを確認してください。

例

インシデント レコードのアサイン先グループに基づいて、インシデントに異なるフィールド値を設定するスイッチ アクティビティを作成できます。

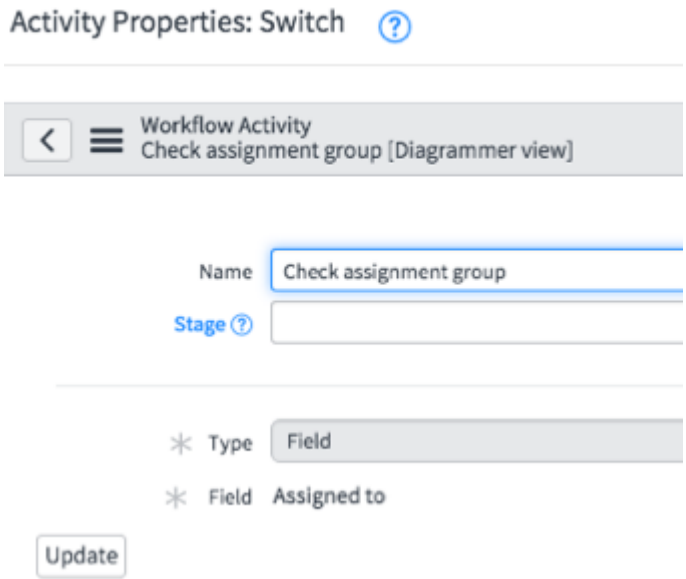
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スイッチ アクティビティの例



選択された [フィールド] は、インシデントの [アサイン先] インシデントです。

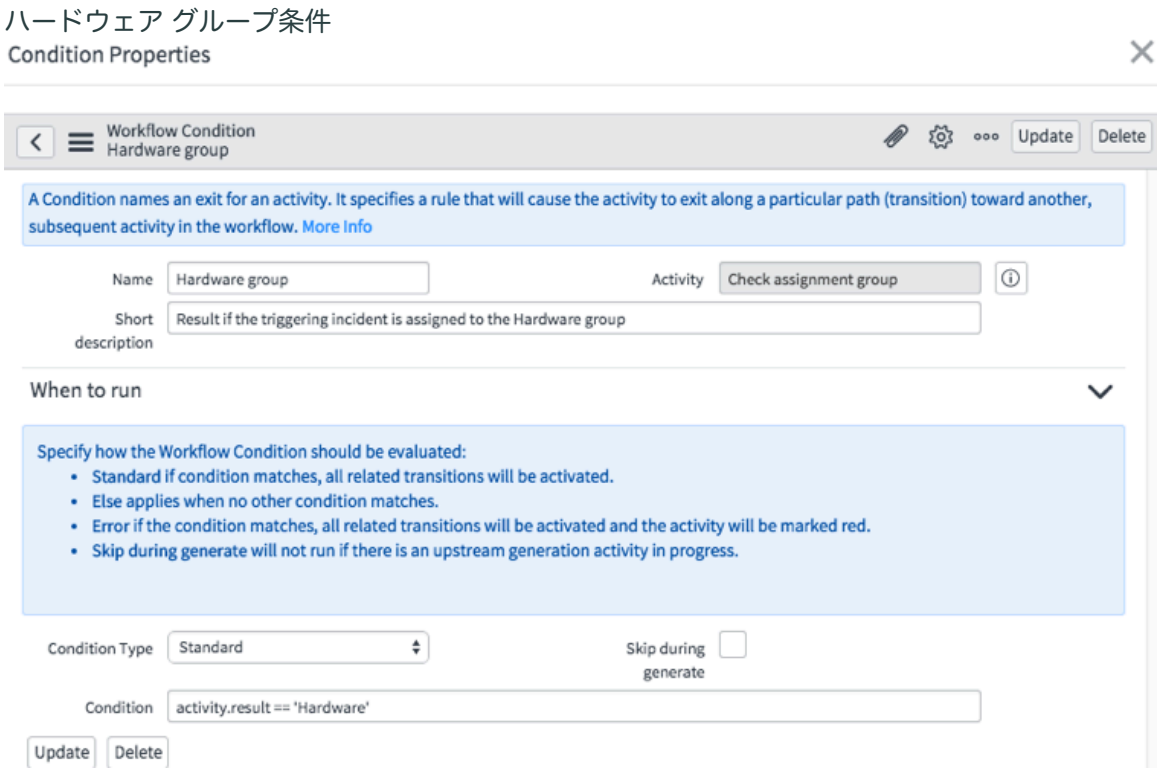
スイッチ アクティビティ フィールド



ワークフローによってトリガーされるインシデントの [アサイン先] フィールドの値が、[サービスデスク] または [フィールド サービス] である場合、ワークフローはインシデント レコードの値を入力してから続行します。[アサイン先] 値が [ハードウェア] の場合、フィールド値を入力せずにワークフローが続行されます。

条件タイプ (標準、その他、またはエラー) が使用されます。詳細については、「ワークフローアクティビティ条件を管理する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



条件待ちワークフローアクティビティ

[条件待ち] アクティビティにより、現在のレコードが指定の条件に一致するまでこのアクティビティでワークフローが待機させられます。

ワークフローは、現在のレコードが更新されるたびに [条件待ち] アクティビティを評価します。このアクティビティを使用して、レコード更新によって特定の基準が満たされるまで無期限にワークフローを一時停止します。一定期間にわたってワークフローを一時停止するには、「タイマー ワークフロー アクティビティ」を参照してください。

ワークフローが条件を満たしていると見なすには、ビルダーまたはスクリプトのいずれかに指定されたすべての条件が true でなければなりません。

注: 条件待ちアクティビティは、レコード更新などの外部イベントを待機する目的のみに使用し、値を設定するワークフローからのイベントには使用しないでください。値を設定するワークフローがあり、同じフィールドが「変更済み」と見なされるのを待つ場合は、1 秒タイマーを挿入してみてください。

結果

ワークフローデザイナーは、アクティビティのスクリプトフィールド内から `activity.result` を使用して、結果値を割り当てることができます。結果値が true の場合にアクティビティが移行します。

入力変数

次の変数は、アクティビティの動作を決定します。

注: 条件アクティビティは、ワークフローが待機していた条件に一致するアクションの、またワークフローを進行するユーザーとして実行されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件待ちアクティビティの入力変数

フィールド	説明
条件	この条件が現在のレコードと一致するまで、ワークフローはこのアクティビティで停止されます。
条件スクリプト	指定した場合、このスクリプトが [回答] を true に設定するまで、ワークフローはこのアクティビティで一時停止します。
タイムアウト有効化	続行する前にワークフローがアクティビティの完了を待機する時間を制限するオプション。 **注:** このアクティビティの実行が続行されないようにするには、[タイムアウトを有効化] オプションを使用します。続行するための条件が満たされない場合、タイムアウト値は、システムが [条件待ち] アクティビティをスキップしてワークフロー内の次のアイテムに進むタイミングを指定します。タイムアウトを有効にするには、 [期間] の値を設定する必要があります。特定の作業スケジュールに基づいて期間の終了日を計算する場合は、 [スケジュール] を選択することもできます。
期間	[タイムアウトを有効化] オプションが選択されている場合に、続行する前にワークフローが待機する時間。待機時間を時、分、秒単位で入力します。このフィールドを空白のままにすると、ワークフローは待機しません。

状況

アクティビティ状況は、ワークフロー エンジンがアクティビティを処理する方法を指示します。

条件待ちアクティビティの状況

状況	説明
実行中	ワークフロー エンジンは、アクティビティの *onExecute* 機能を起動させることができます。
待機中	アクティビティを再開する特定のイベントが発生するまで、ワークフロー エンジンはアクティビティを無視します。
完了	アクティビティの実行が終了しました。アクティビティの結果については結果値を確認してください。
キャンセル	このアクティビティ、またはこのアクティビティを含むワークフローがキャンセルされました。
エラー	JavaScript エラーが発生しました。エラーの詳細についてログを確認してください。

WF イベント待ちワークフローアクティビティ

[WFイベント待ち] アクティビティは、指定されたイベントが発生するまで、このアクティビティでワークフローを待機させます。

このアクティビティを使用して、別のアクティビティがイベントを発生させるのを待ちます。他のアクティビティからのイベントは、workflow.fireEvent('eventName') API 呼び出しを使用してスクリプトで発生します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

結果

ワークフローデザイナーは、アクティビティのスクリプトフィールド内から `activity.result` を使用して、結果値を割り当てることができます。このアクティビティは、指定されたイベントが発生すると移行します。

入力変数

次の変数は、アクティビティの動作を決定します。

注: 条件アクティビティは、ワークフローが待機していた条件に一致するアクションの、またワークフローを進行するユーザーとして実行されます。

WFイベント待ちアクティビティの入力変数

フィールド	説明
イベント待ち	ワークフローをトリガーするイベント名。

状況

アクティビティ状況は、ワークフロー エンジンがアクティビティを処理する方法を指示します。

WFイベント待ちアクティビティ状況

状況	説明
実行中	ワークフロー エンジンは、アクティビティの *`onExecute`* 機能を起動させることができます。
待機中	アクティビティを再開する特定のイベントが発生するまで、ワークフロー エンジンはアクティビティを無視します。
完了	アクティビティの実行が終了しました。アクティビティの結果については結果値を確認してください。
キャンセル	このアクティビティ、またはこのアクティビティを含むワークフローはキャンセルされました。
エラー	JavaScript エラーが発生しました。エラーの詳細についてログを確認してください。

ワークフロー 通知アクティビティ

通知ワークフローアクティビティは、ワークフロー中に発生したイベントをユーザーに通知します。

イベントを作成 ワークフロー アクティビティ

[イベントを作成] アクティビティはイベントをイベント キューに追加しますが、そのイベントをすぐには実行しません。

イベント プロセッサーは通常、1 分以内にイベントを処理します。このアクティビティは、イベントによって通常トリガーされるビジネス ルールまたは電子メール通知をトリガーします。

システムイベントの作成と使用の詳細については、「システムイベント」を参照してください。

結果

[完了]：アクティビティがイベントをイベント キューに追加しました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力変数

イベントを作成アクティビティの入力変数

フィールド	説明
イベント名	作成するイベントの名前。イベント名のルックアップ リストから、キューに追加するイベントを選択します。イベントにパラメーターが必要な場合は、[パラメーター スクリプト] フィールドにパラメーターを指定します。
パラメーター 1	イベントの第 1 パラメーター。 注: このパラメーターが文字列値の場合、引用符 (" ") で囲む必要があります。
パラメーター 2	第 2 イベント パラメーター。 注: このパラメーターが文字列値の場合、引用符 (" ") で囲む必要があります。

通知 ワークフロー アクティビティ

[通知] アクティビティはメールまたは SMS メッセージを指定されたユーザーまたはグループに送信します。

入力変数

通知を停止する場合は、受信者リストを更新するか、フローからアクティビティを削除します。

通知アクティビティの入力変数

フィールド	説明
アドレス	
宛先	メールの受信者になるユーザー。
宛先 (グループ)	メールの受信者となるグループのメンバー。
詳細	これを選択すると、メールの追加の受信者を指定するために [宛先 (スクリプト)] フィールドが呼び出されます。
宛先 (スクリプト)	[詳細]を選択すると、このスクリプトが呼び出され、メールの受信者として追加するユーザーまたはグループ sys_ids のカンマ区切りリストに [回答] 変数を設定する必要があります。
メッセージ	
件名	メールの件名。
メッセージ	送信されるメール本文。 メッセージ本文にフィールドの値を含めるには、テキストのフィールドの値を挿入する位置にカーソルを置きます。次に、[フィールド] の横の [+] アイコンをクリックし、必要なフィールドを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

状況

アクティビティ状況は、ワークフロー エンジンがアクティビティを処理する方法を指示します。

通知アクティビティ状況

フィールド	説明
実行中	ワークフロー エンジンは、アクティビティの `run` 機能を起動させることができます。
完了	アクティビティの実行が終了しました。アクティビティの結果については結果値を確認してください。
キャンセル	このアクティビティ、またはこのアクティビティを含むワークフローはキャンセルされました。

タイマー ワークフロー アクティビティ

タイマーアクティビティは、一定期間、ワークフローを一時停止します。

関連情報

1 つのワークフローで複数のタイマーアクティビティを使用する

SLA パーセンテージタイマーワークフローアクティビティ

[SLA パーセンテージタイマー] アクティビティは、SLA のパーセンテージと等しい期間、ワークフローを一時停止します。

このアクティビティを使用するには、タスク SLA テーブルでワークフローを実行する必要があります。

注: タイマーアクティビティは、システムスケジューラーがワークフローを進行するため、システムユーザーとして実行されます。

結果

SLA パーセンテージタイマーアクティビティの結果

結果	説明
完了	アクティビティは指定された期間を正常に完了しました
キャンセル	タイマーが指定された期間に達する前にアクティビティまたはワークフローがキャンセルされました

入力変数

アクティビティの初期動作が、入力変数によって決まります。

SLA パーセンテージタイマーアクティビティの入力変数

フィールド	説明
パーセンテージ	現在の SLA パーセンテージとしてワークフローを一時停止する期間

状況

アクティビティ状況は、ワークフロー エンジンがアクティビティを処理する方法を指示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SLA パーセンテージタイマーの状態

状況	説明
実行中	初期化中、アクティビティは短時間この状態にありますが、その後すぐに [待機中] に変わります。
待機中	ワークフロー エンジンは、SLA が指定されたパーセンテージに達するまで待機します。その後、エンジンはワークフローを次のアクティビティに移行します。
完了	アクティビティの実行が終了しました。アクティビティの結果については結果値を確認してください。
キャンセル	このアクティビティ、またはこのアクティビティを含むワークフローはキャンセルされました。
エラー	JavaScript エラーが発生しました。エラーの詳細についてログを確認してください。

タイマーワークフローアクティビティ

[タイマー] アクティビティは、指定された期間ワークフローを一時停止します。

この期間は、絶対時間値または定義されたスケジュールの作成と使用に基づく相対値です。[期間] を調整して、ワークフローを適切なタイミングで進行できるようにするのが最良の方法です。条件が満たされるまで無期限にワークフローを一時停止するには、「条件待ち」を参照してください。

注: タイマーアクティビティは、システムスケジューラーがワークフローを進行するため、システムユーザーとして実行されます。

結果

タイマーアクティビティの結果

結果	説明
完了	アクティビティは指定された期間を正常に完了しました。
キャンセル	アクティビティまたはワークフローは、タイマーが指定された期間を完了する前にキャンセルされました。

入力変数

アクティビティの初期動作が、入力変数によって決まります。

タイマーアクティビティの入力変数

フィールド	説明
タイマー情報	
タイマー基準：	タイマー期間の計算方法。オプションは次のとおりです。 • [ユーザー指定の期間]：期間は、日や時間などの [期間] フィールドに基づいています。 • [相対期間]：期間は、相対期間 (翌営業日の終了など) および [待機] フィールドに基づいています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイマーアクティビティの入力変数 (続く)

フィールド	説明
	• [日付/時刻または期間フィールド]：期間は、[フィールド] 価値および [待機] フィールドに基づいています。 • [スクリプト]：期間は、秒数を返すスクリプトに基づいています。
期間 [タイマー基準：] が [ユーザー指定の期間] の場合にのみ表示されます。	ワークフロー内の次のアクティビティに進むまでの特定の日数と時間。
相対期間 [タイマー基準：] が [相対期間] の場合にのみ表示されます。	次のワークフローアクティビティに進む前に待機する一般的な営業日の日数と長さ。
待機 [タイマー基準：] が [相対期間] または [日付/時刻または期間フィールド] の場合のみ表示されます。	[タイマー基準：] が [相対期間] または [日付/時刻または期間フィールド] の場合の追加タイマー調整。オプションは次のとおりです。 • [全期間]：計算された期間の変更はありません。 • [期間の%]：期間は、(パーセンテージ/100) で秒数を乗算することにより調整されます。 • [少し前]：期間は、[次の前の時間] の日と時間により短縮されます。 • [少し後]：期間は、[次の後の時間] の日と時間により延長されます。
パーセンテージ [タイマー基準：] が [相対期間] または [日付/時刻または期間フィールド] の場合のみ表示されます。	[タイマー基準：] が [相対期間] または [日付/時刻または期間フィールド] の場合の [待機] パーセント値。
次の前の時間 [タイマー基準：] が [相対期間] または [日付/時刻または期間フィールド] で、[待機] が [少し前] の場合のみ表示されます。	[待機] が [少し前] の場合の修飾子の時間値。
次の後の時間： [タイマー基準：] が [相対期間] または [日付/時刻または期間フィールド] で、[待機] が [少し後] の場合のみ表示されます。	[待機] が [少し後] の場合の修飾子の時間値。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイマーアクティビティの入力変数 (続く)

フィールド	説明
フィールド [タイマー基準：] が [日付/時刻または期間フィールド] の場合のみ表示されます。	次のワークフローアクティビティに移動するまでの経過待ち時間を含む日付/時刻または期間フィールド。
スクリプト [タイマー基準：] が [スクリプト] の場合にのみ表示されます。	「回答」を継続時間用の秒数に設定するスクリプト。
タイマー スケジュール	
スケジュール基準：	タイマーが勤務時間をカウントするために使用する基本スケジュール。スケジュールが指定されると、スケジュールで指定された回数のみ期間が考慮されます。たとえば、期間が 2 時間の場合、午前 8 時から午後 5 時のスケジュールでワークフローが午後 4 時に開始されると、翌日の午前 9 時に終了します。オプションは次のとおりです。 • [このワークフローのスケジュール]：スケジュールは、ワークフローのコンテキストの日付、時刻、およびオプションの [タイムゾーン基準：] 値を使用します。 • [特定のスケジュール]：スケジュールは、事前定義された [スケジュール] およびオプションの [タイムゾーン基準：] 値を使用します。 • [スケジュール フィールド]：スケジュールは、テーブルの値およびオプションの [タイムゾーン基準：] 値を使用します。
スケジュール [スケジュール基準：] が [特定のスケジュール] の場合のみ表示されます。	リストから事前定義された [スケジュール]。
スケジュール フィールド [スケジュール基準：] が [スケジュール フィールド] の場合のみ表示されます。	テーブルに関連付けられているスケジュールの日付/時刻または期間フィールド。有効なフィールドは、ツリー ダイアログの [要素を選択] に青色で表示されます。
タイマー タイムゾーン	
タイムゾーン基準：	期間を計算するためのタイムゾーン。以下のタイムゾーン基準があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイマーアクティビティの入力変数 (続く)

フィールド	説明
	• [タイムゾーンなし]：デフォルト。ワークフローは GMT タイムゾーンを使用します。 • [特定のタイムゾーン]：事前定義された [タイムゾーン]。 • [タイムゾーン フィールド]：フォーム上のフィールドから継続時間を追跡する [タイムゾーン フィールド]。
タイムゾーン [タイムゾーン基準：] が [特定のタイムゾーン] の場合にのみ表示されます。	事前定義済みのタイムゾーン。
タイムゾーン フィールド [タイムゾーン基準：] が [タイムゾーン フィールド] の場合にのみ表示されます 。	テーブルに関連付けられているスケジュールの日付/時刻または期間フィールド。有効なフィールドは、ツリー ダイアログの [要素を選択] に青色で表示されます。

状況

アクティビティ状況は、ワークフロー エンジンがアクティビティを処理する方法を指示します。

タイマーアクティビティ状況

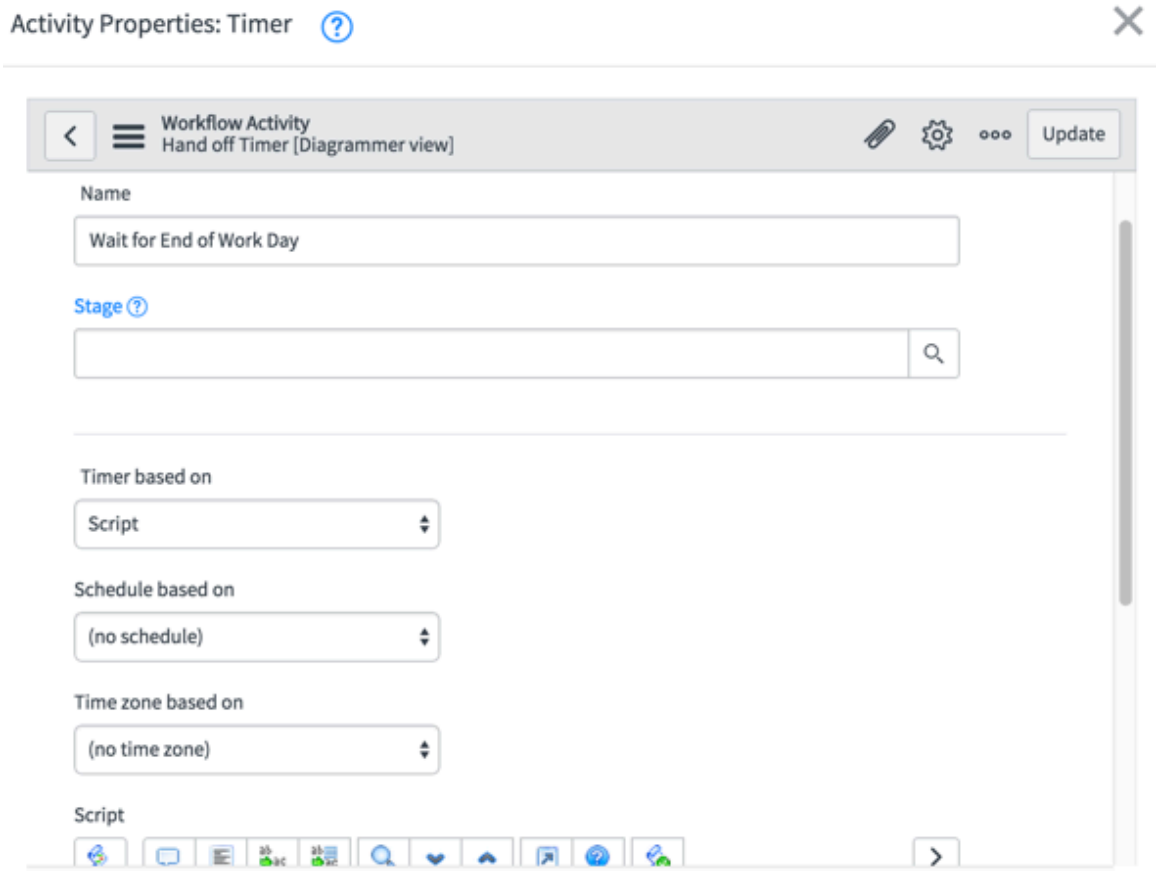
状況	説明
実行中	初期化中、[タイマー] アクティビティは短時間この状態にありますますが、その後すぐに [待機中] に変わります。
待機中	ワークフロー エンジンは、タイマーが指定された期間を完了するまで待機します。その後、エンジンはワークフローを次のアクティビティに移行します。
完了	アクティビティの実行が終了しました。アクティビティの結果については結果値を確認してください。
キャンセル	このアクティビティ、またはこのアクティビティを含むワークフローはキャンセルされました。
エラー	JavaScript エラーが発生しました。エラーの詳細についてログを確認してください。

例

[タイマー] アクティビティを使用して、営業日が終了するまでワークフローを一時停止することができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイマーの例



この例では、スクリプトは *[now]* 変数と *[eod]* 変数の間の時間を評価します。*[eod]* 変数は、24 時間で午後 4 時に定義されます。スクリプトは、[回答] 変数を秒単位でこれらの変数の差に設定し、メッセージを記録します。

```
// get now and calc end of day (4:00pm)

var now =new Date();

var eod =new Date();
eod.setHours(16);
eod.setMinutes(0);
eod.setSeconds(0);

answer =(eod.getTime()- now.getTime())/1000;

workflow.debug('Timer will fire @: '+ eod +'  '+(answer/60)+' minutes
 from now');
```

タスクワークフローアクティビティ

タスク アクティビティは、ワークフロー タスクを作成および変更します。

タスク アクティビティは、ワークフローがタスクを拡張するテーブルで実行されている場合にのみ使用できます。

ワークノートを追加 ワークフロー アクティビティ

[ワークノートを追加] アクティビティは、現在のインシデント レコードの [ワークノート] フィールドにテキストを追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このアクティビティを使用するには、インシデント テーブルでワークフローを実行する必要があります。

注: タスクアクティビティは、ワークフローが待機していたタスクを完了するアクションの、またワークフローを進行するユーザーとして実行されます。

入力変数

ワークノートを追加アクティビティの入力変数

フィールド	説明
作業メモ	インシデント レコードに追加するテキスト。

添付メモ ワークフロー アクティビティ

[添付メモ] アクティビティは、現在のレコードに添付ファイルを追加します。

注: このアクティビティは、ワークフローがタスクを拡張するテーブルで実行されている場合にのみ使用できます。

このアクティビティにより、不規則な HTML タグを使用して添付ファイル、特に［コード］タグを参照できます。*glide.ui.allow_deep_html_validation* プロパティが true の場合、不規則な HTML を使用するジャーナルフィールドのエントリーは機能しません。デフォルトでは、このプロパティは false に設定されています。

注: タスクアクティビティは、ワークフローが待機していたタスクを完了するアクションの、またワークフローを進行するユーザーとして実行されます。

結果

[完了]：アクティビティによってレコードに添付ファイルが追加されました。

入力変数

次の変数は、アクティビティの動作を決定します。

添付メモ アクティビティの入力変数

フィールド	説明
全般	
フィールド	このアクティビティを実行すると、ファイルが添付されたというメモが現在のレコードに作成されます。このメモを表示する現在のレコードのフィールドを指定します。オプションは次のとおりです。 • [なし] (デフォルトは作業メモになります) • 追加コメント • 作業メモ
添付メモ情報	
添付ファ	このアクティビティを実行すると、このフィールドに指定した名前で .txt ファイルが作成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

添付メモ アクティビティの入力変数 (続く)

フィールド	説明
イル名	
添付データ	.txt 添付ファイルのコンテンツ。これはテキストであるか、変数を使用して特定のデータをテーブルから抽出することができます。

カタログ タスク ワークフロー アクティビティ

[カタログ タスク] アクティビティは、サービスカタログ タスクレコードを作成します。

注: このアクティビティは、ワークフローがタスクを拡張するテーブルで実行されている場合にのみ使用できます。

ユーザーはカタログ タスクを完了する必要があります。このアクティビティは、カタログ要求アイテム [sc_req_item] テーブルで実行されているワークフローでのみ利用できます。

注: タスクアクティビティは、ワークフローが待機していたタスクを完了するアクションの、またワークフローを進行するユーザーとして実行されます。

結果

アクティビティのスクリプト フィールド内から `activity.result` を使用して、結果値を割り当てることができます。カタログ タスクレコードの最終 [状況] 値により、[タスクの作成] アクティビティの結果値が決まります。可能な結果値：

- 完了してクローズ
- 未完了でクローズ
- スキップしてクローズ
- 削除済み
- キャンセル

入力フィールド

次のフィールドに入力した値によって、アクティビティの動作が決まります。

カタログ タスク アクティビティ情報

フィールド	説明
カタログ タスク アクティビティの設定 次のフィールドは、カタログ タスク アクティビティの動作を指定します。	
タスクテーブル	このアクティビティが実行されるテーブル。ほとんどの場合、デフォルト値 [sc_req_item] のままにしておきます。
優先度	新しいタスクの [優先度] フィールドに割り当てたい値。
完了待ち	選択した場合、ワークフローアクティビティはタスクの完了を待ってから継続します。選択を解除した場合、タスクは作成されますがワークフローも先に進みます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カタログ タスク アクティビティ情報 (続く)

フィールド	説明
カタログ タスクレコードの設定 次のフィールドには、このアクティビティが作成するカタログ タスクに対して設定するフィールド値を指定します。	
タスク値取得元	新しいタスクのフィールドに入力する方法を指定します。 • [フィールド]：[実行グループ]、[アサイン先]、[簡単な説明]、および [指示] を含む事前定義された一組のフィールド。 • [テンプレート]：選択されたタスク テーブルの既存のテンプレート。 • [値]：[値の設定] ウィジェットを使用して指定する値。 [タスク値取得元] の値を選択したら、その値に固有の追加フィールドがフォームに表示されます。
実行グループ [タスク値取得元] が [フィールド] に設定された場合にのみ表示されます	このタスクの完了に対して責任を担うグループ。新しいタスクの [アサイン先グループ] フィールドに入力します。
担当者 [タスク値取得元] が [フィールド] に設定された場合にのみ表示されます	このタスクの完了に対して責任を担うユーザー。新しいタスクの [アサイン先] フィールドに入力します。
簡単な説明 [タスク値取得元] が [フィールド] に設定された場合にのみ表示されます	タスクの簡単な説明。新しいタスクの [簡単な説明] フィールドに入力します。
説明 [タスク値取得元] が [フィールド] に設定された場合にのみ表示されます	タスクを閉じる前にユーザーが完了するためのタスク指示。新しいタスクの [説明] フィールドに入力します。
テンプレート [タスク値取得元] が [テンプレート] に設定された場合にのみ表示されます。	タスクの値は、選択したテンプレートの値から読み込まれます。
値の設定 [タスク値取得元] が [値] に設定された場	ここで指定した値にタスクレコードの任意のフィールドを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カタログ タスク アクティビティ情報 (続く)

フィールド	説明
合にのみ表示されます。	
詳細	スクリプトを使用してカタログ タスクに値を割り当てる場合は、[詳細] をオンにします。[詳細] をオンにすると、スクリプトを入力できるテキスト ボックスが表示されます。
詳細スクリプト [詳細] フィールドをオンにした場合にのみ表示されます。	このスクリプト内にタスクに対する追加値を設定します。このスクリプトは、すでに指定した [フィールド]、[テンプレート]、または [値] を使用してタスク値が設定された後に実行されます。 追加の値を設定するときは、変数 [タスク] を使用します。例： `task.short_description = current.short_description;`
カタログ タスク変数	
タスク フォームの変数	オプションのカタログ変数を指定して、カタログ タスク フォームに組み込みます。ここで選択した変数は、[変数エディター] と呼ばれるフィールドに表示されます。ここで変数を選択しないと、カタログ タスク フォームの [変数エディター] フィールドは表示されません。
カタログ タスク スケジュール	
期限日基準：	ワークフローがタスクの期間、期日、およびスケジュールを決定する方法を選択します。 • [ユーザー指定の期間]：期間は、ユーザー指定の値に基づいています。 • [相対期間]：期間は、相対的な期間 (翌営業日の終了など) から計算されます。 • [日付/時刻または期間フィールド]：期間は、現在のレコードのフィールド値に基づいています。 • [スクリプト]：期間は、スクリプトによって返されます。
期間 [期限日基準：] が [ユーザー指定の期間] に設定された場合にのみ表示されます。	特定の日数と時間。
相対期間 [期限日基準：] が [相対期間] に設定された場合にのみ表示されます。	営業日の一般的な数と長さ。
期日フィールド [期限日基準：] が [日付/時刻または期間フィールド] に設	日付/時間または期間フィールド。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カタログ タスク アクティビティ情報 (続く)

フィールド	説明
定された場合にのみ表示されます。	
期日スクリプト [期限日基準：] が [スクリプト] に設定された場合にのみ表示されます。	「回答」を継続時間用の秒数に設定するスクリプト。
スケジュール基準：	タイマーが勤務時間をカウントするために使用する基本スケジュール。スケジュールが指定されると、スケジュールで指定された回数のみ期間が考慮されます。たとえば、期間が 2 時間の場合、午前 8 時から午後 5 時のスケジュールでワークフローが午後 4 時に開始されると、翌日の午前 9 時に終了します。オプションは次のとおりです。 • [このワークフローのスケジュール]：スケジュールは、ワークフローのコンテキストの日付、時刻、およびオプションの [タイムゾーン基準：] 値を使用します。 • [特定のスケジュール]：スケジュールは、事前定義された [スケジュール] およびオプションの [タイムゾーン基準：] 値を使用します。 • [スケジュール フィールド]：スケジュールは、テーブルの値およびオプションの [タイムゾーン基準：] 値を使用します。
スケジュール [スケジュール基準：] が [特定のスケジュール] に設定された場合にのみ表示されます。	リストから事前定義された [スケジュール]。
スケジュール フィールド [スケジュール基準：] が [スケジュール フィールド] に設定された場合にのみ表示されます。	テーブルに関連付けられているスケジュールの日付/時刻または期間フィールド。有効なフィールドは、ツリー ダイアログの [要素を選択] に青色で表示されます。
タイムゾーン基準：	期間を計算するためのタイムゾーン。以下のタイムゾーン基準があります。 • [タイムゾーンなし]：デフォルト。ワークフローは GMT タイムゾーンを使用します。 • [特定のタイムゾーン]：選択リストから選択した特定の [タイムゾーン]。 • [タイムゾーン フィールド]：フォーム上のフィールドから継続時間を追跡する [タイムゾーン フィールド]。
タイムゾーン	選択リストから希望するタイムゾーンを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カタログ タスク アクティビティ情報 (続く)

フィールド	説明
[スケジュール基準：] が [特定のスケジュール] に設定された場合にのみ表示されます。	
タイムゾーン フィールド [タイムゾーン基準：] が [タイムゾーン フィールド] に設定された場合にのみ表示されます。	テーブルに関連付けられているスケジュールの日付/時刻または期間フィールド。有効なフィールドは、ツリー ダイアログの [要素を選択] に青色で表示されます。

状況

アクティビティ状況は、ワークフロー エンジンがアクティビティを処理する方法を指示します。

カタログタスクアクティビティ状況

状況	説明
実行中	ワークフロー エンジンは、アクティビティの *onExecute* 機能を起動させることができます。
待機中	アクティビティを再開する特定のイベントが発生するまで、ワークフロー エンジンはアクティビティを無視します。
完了	アクティビティの実行が終了しました。アクティビティの結果については結果値を確認してください。
キャンセル	このアクティビティ、またはこのアクティビティを含むワークフローはキャンセルされました。
エラー	JavaScript エラーが発生しました。エラーの詳細についてログを確認してください。

タスクの作成 ワークフロー アクティビティ

[タスクの作成] アクティビティは、タスク [タスク] を拡張するテーブルのいずれかにレコードを生成します。

注: このアクティビティは、ワークフローがタスクを拡張するテーブルで実行されている場合にのみ使用できます。

[完了待ち] チェック ボックスが選択されている場合、ワークフロー コンテキストは、完了または未完了などのタスクに対するユーザー アクションを待機し、そのユーザー アクションに基づいて処理を進めます。

注: タスクアクティビティは、ワークフローが待機していたタスクを完了するアクションの、またワークフローを進行するユーザーとして実行されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

結果

アクティビティのスクリプト フィールド内から `activity.result` を使用して、結果値を割り当てることができます。デフォルトでは、タスクレコードの [状態] 値が、[タスクの作成] アクティビティの結果値を決定します。可能な結果値：

- 完了してクローズ
- 未完了でクローズ
- スキップしてクローズ
- 削除済み
- キャンセル

入力変数

次の変数は、アクティビティの動作を決定します。

タスクの作成アクティビティの入力変数

フィールド	説明
タスクの作成アクティビティの設定 以下のフィールドは、[タスクの作成] アクティビティの動作を指定します。	
タスクタイプ	作成されるタスクのタイプ。ワークフローに対応するタスク テーブルから選択します。
優先度	タスクに割り当てられたデフォルトの優先度。[タスク値取得元 (Task values from)] セクションでもタスク優先度を設定すると タスク値がデフォルトの優先度を上書きします。
完了待ち	選択した場合、ワークフローアクティビティはタスクの完了を待ってから継続します。選択を解除した場合、タスクは作成されますがワークフローも先に進みます。
タスクの作成のレコード設定 次のフィールドには、このアクティビティが作成するタスクに対して設定するフィールド値を指定します。	
タスク値取得元	タスクの作成に使用される値は次のいずれかです。 • [フィールド]：[実行グループ]、[アサイン先]、[簡単な説明]、および [指示] を含む事前定義された一組のフィールド。 • [テンプレート]：選択されたタスク テーブルの既存のテンプレート。 • [値]：[値の設定] ウィジェットを使用して指定する値。 **注:** ここで設定したタスク優先度は、[優先度] フィールドで設定されたデフォルトの優先度を上書きします。
実行グループ [タスク値取得元] が [フィールド] に設定された場合にのみ表示されます	このタスクの完了に対して責任を担うグループ。新しいタスクの [アサイン先グループ] フィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの作成アクティビティの入力変数 (続く)

フィールド	説明
担当者 [タスク値取得元] が [フィールド] に設定された場合にのみ表示されます	このタスクの完了に対して責任を担うユーザー。新しいタスクの [アサイン先] フィールドに入力します。
簡単な説明 [タスク値取得元] が [フィールド] に設定された場合にのみ表示されます	タスクの簡単な説明。新しいタスクの [簡単な説明] フィールドに入力します。
説明 [タスク値取得元] が [フィールド] に設定された場合にのみ表示されます	タスクを閉じる前にユーザーが完了するためのタスク指示。新しいタスクの [説明] フィールドに入力します。
タスク テンプレート [タスク値取得元] が [テンプレート] に設定された場合にのみ表示されます。	タスクの値を記入するために使用されるテンプレート。
値の設定 [タスク値取得元] が [値] に設定された場合にのみ表示されます。	タスクのフィールドに値を指定するために使用されるウィジェット。
詳細	
詳細	スクリプトを使用してカタログ タスクに値を割り当てる場合は、[詳細] をオンにします。[詳細] をオンにすると、スクリプトを入力できるテキスト ボックスが表示されます。
詳細スクリプト [詳細] フィールドをオンにした場合にのみ表示されます。	このスクリプト内にタスクに対する追加値を設定します。このスクリプトは、すでに指定した [フィールド]、[テンプレート]、または [値] を使用してタスク値が設定された後に実行されます。 追加の値を設定するときは、変数 [タスク] を使用します。例： `task.short_description = current.short_description;`
タスク スケジュール	
期限日基準：	ワークフローがタスクの期間、期日、およびスケジュールを決定する方法を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの作成アクティビティの入力変数 (続く)

フィールド	説明
	• [ユーザー指定の期間]：期間は、ユーザー指定の値に基づいています。 • [相対期間]：期間は、相対的な期間 (翌営業日の終了など) から計算されます。 • [日付/時刻または期間フィールド]：期間は、現在のレコードのフィールド値に基づいています。 • [スクリプト]：期間は、スクリプトによって返されます。
期間 [期限日基準：] が [ユーザー指定の期間] に設定された場合にのみ表示されます。	特定の日数と時間。
相対期間 [期限日基準：] が [相対期間] に設定された場合にのみ表示されます。	営業日の一般的な数と長さ。
期日フィールド [期限日基準：] が [日付/時刻または期間フィールド] に設定された場合にのみ表示されます。	日付/時間または期間フィールド。
期日スクリプト [期限日基準：] が [スクリプト] に設定された場合にのみ表示されます。	「回答」を継続時間用の秒数に設定するスクリプト。
スケジュール基準：	タイマーが勤務時間をカウントするために使用する基本スケジュール。スケジュールが指定されると、スケジュールで指定された回数のみ期間が考慮されます。たとえば、期間が 2 時間の場合、午前 8 時から午後 5 時のスケジュールでワークフローが午後 4 時に開始されると、翌日の午前 9 時に終了します。オプションは次のとおりです。 • [このワークフローのスケジュール]：スケジュールは、ワークフローのコンテキストの日付、時刻、およびオプションの [タイムゾーン基準：] 値を使用します。 • [特定のスケジュール]：スケジュールは、事前定義された [スケジュール] およびオプションの [タイムゾーン基準：] 値を使用します。 • [スケジュール フィールド]：スケジュールは、テーブルの値およびオプションの [タイムゾーン基準：] 値を使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの作成アクティビティの入力変数 (続く)

フィールド	説明
スケジュール [スケジュール基準：] が [特定のスケジュール] に設定された場合にのみ表示されます。	リストから事前定義された [スケジュール]。
スケジュール フィールド [スケジュール基準：] が [スケジュール フィールド] に設定された場合にのみ表示されます。	テーブルに関連付けられているスケジュールの日付/時刻または期間フィールド。有効なフィールドは、ツリー ダイアログの [要素を選択] に青色で表示されます。
タイムゾーン基準：	期間を計算するためのタイムゾーン。以下のタイムゾーン基準があります。 • [タイムゾーンなし]：デフォルト。ワークフローは GMT タイムゾーンを使用します。 • [特定のタイムゾーン]：選択リストから選択した特定の [タイムゾーン]。 • [タイムゾーン フィールド]：フォーム上のフィールドから継続時間を追跡する [タイムゾーン フィールド]。
タイムゾーン [スケジュール基準：] が [特定のスケジュール] に設定された場合にのみ表示されます 。	選択リストから希望するタイムゾーンを選択します。
タイムゾーン フィールド [タイムゾーン基準：] が [タイムゾーン フィールド] に設定された場合にのみ表示されます。	テーブルに関連付けられているスケジュールの日付/時刻または期間フィールド。有効なフィールドは、ツリー ダイアログの [要素を選択] に青色で表示されます。

状況

アクティビティ状況は、ワークフロー エンジンがアクティビティを処理する方法を指示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの作成アクティビティ状況

状況	説明
実行中	ワークフロー エンジンは、アクティビティの `onExecute` 機能を起動させることができます。
待機中	アクティビティを再開する特定のイベントが発生するまで、ワークフロー エンジンはアクティビティを無視します。
完了	アクティビティの実行が終了しました。アクティビティの結果については結果値を確認してください。
キャンセル	このアクティビティ、またはこのアクティビティを含むワークフローはキャンセルされました。
エラー	JavaScript エラーが発生しました。エラーの詳細についてログを確認してください。

ユーティリティ ワークフロー アクティビティ

ユーティリティ アクティビティは、ワークフローのパスの制御やその他の便利なツールを提供します。

分岐 ワークフロー アクティビティ

[分岐] アクティビティは、ワークフローを 1 つのアクティビティから複数の移行パスに分割します。

移行パスを追加するには、[分岐] アクティビティをキャンバスにドラッグします。[分岐アクティビティのプロパティ] フォームが表示されたら、 [送信] をクリックして、キャンバスにアクティビティを追加します。アクティビティがキャンバスに配置されたら、アクティビティ本文を右クリックし、[条件を追加] をクリックします。

このアクティビティからの移行はすべて同時に実行されます。このアクティビティは、単一の [常時] 条件を提供します。この条件から任意の数の移行を取得できます。このアクティビティの使用は、別のアクティビティの単一の条件から複数の移行を取得するのと同じです。

分岐は、ロールバック アクティビティの動作に影響を与える可能性があります。詳細については、「ロールバック アクティビティ」を参照してください。

結合 ワークフロー アクティビティ

[結合] アクティビティは、複数の実行パスを 1 つの移行に統合します。

このアクティビティを使用して、ワークフローで複数のパス内のすべてのアクティビティが完了してから処理を続行するようにします。複数の同時ワークフロー パスが [結合] アクティビティなしで接触する場合、後続のアクティビティは 2 回実行されます。

キャンバスに [結合] を追加するには、[送信] をクリックします 。キャンバス上で、[結合] アクティビティの先行処理として動作させる各アクティビティからの受信移行をコネクトします。次に、2 つの終了条件 (完了および未完了) に送信移行をコネクトします。

結果

先行アクティビティが [結合] アクティビティにつながらない移行パスに従える場合は、常に [結合] から未完了の移行を提供します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

結合アクティビティの結果

結果	説明
完了	すべての先行アクティビティが完了し [結合] へと移行したとシステムが判断した場合、[結合] は完了パスに沿って終了します。
未完了	少なくとも 1 つの先行アクティビティが完了したが [結合] アクティビティを回避するパスに沿って移行したとシステムが判断した場合、[結合] は未完了パスに沿って終了します。

ロック ワークフロー アクティビティ

[ロック] アクティビティは、ロックが解除されるまで、ワークフローの他のインスタンスがこのアクティビティを通り越して継続されないようにします。

同じワークフローの複数のインスタンスが同時に実行されることがあります。たとえば、レコードが特定のテーブルに追加されたときにワークフローがトリガーされた場合などです。このワークフローは、レコードが挿入されるたびに複数のレコードが次々に追加された場合、複数回トリガーされます。ロックアクティビティを使用して、ワークフローのこのインスタンスが 1 つ以上のアクティビティを終了してから、ワークフローの他のインスタンスを続行できるようにすることができます。

ワークフローは、 [ロック解除] アクティビティにより明示的にロックを解除できます。ロックは、[最大期間] が完了した場合も解除されます。

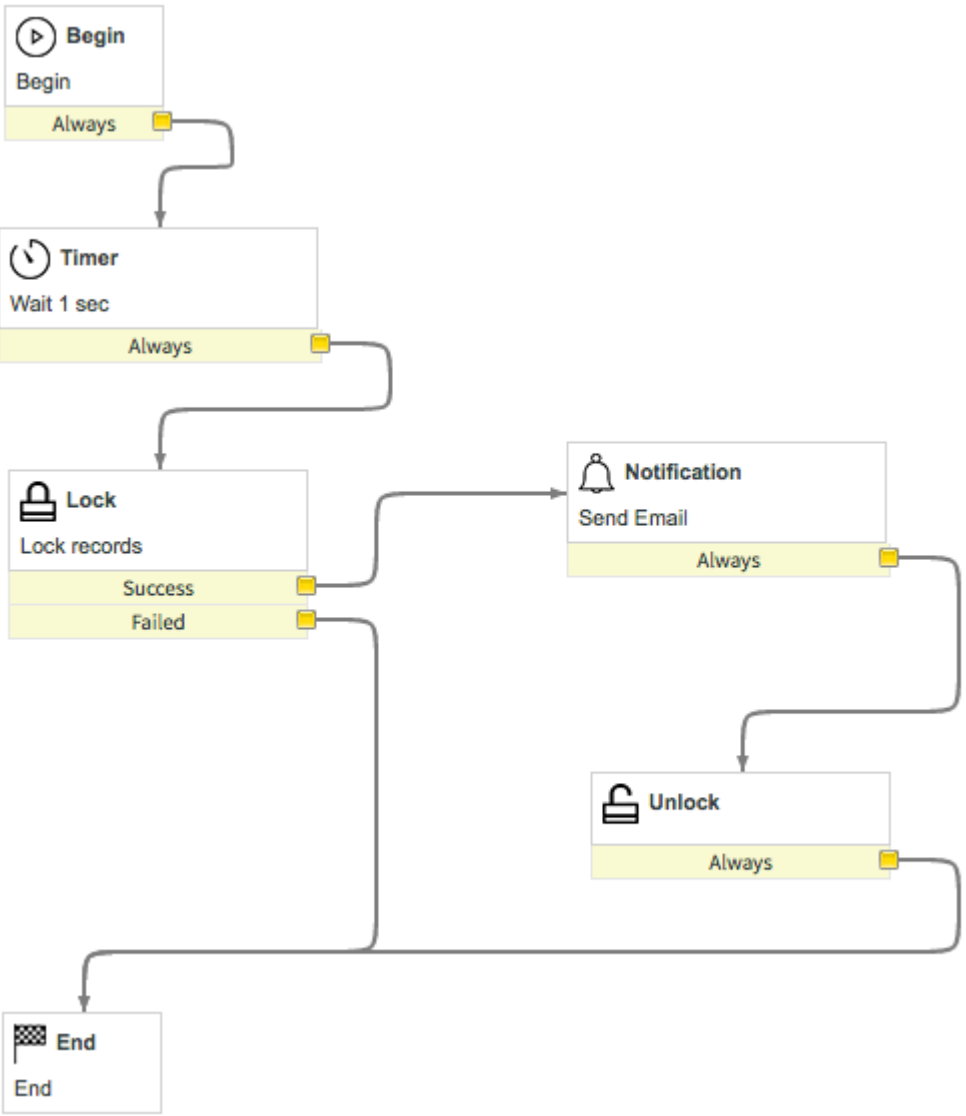
ワークフローのインスタンスが [ロック] アクティビティに到達すると、[ロック] アクティビティで指定されたキーを使用してロックを取得しようとします。別のインスタンスがすでにロックを取得していて、まだ解放していない場合、このロック試行は失敗します。インスタンスは [最大試行回数] に達するまで、引き続きロックの取得を試行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

ロックアクティビティの前に 1 秒タイマーアクティビティを配置することをお勧めします。これにより、ロックアクティビティがあるワークフロー インスタンスを別のワークフロー インスタンスと区別できない稀な状態を防ぐことができます。この状態は、ロックを所有するエンティティが特定のワークフロー インスタンスではなく、そのインスタンスが実行されているコード実行スレッドであるために発生します。ほとんどの場合、各ワークフローインスタンスは、異なるスレッドで実行されます。タイマーアクティビティを追加することで、この動作が確実になります。

タイマーアクティビティが先行するロックアクティビティの例



[ロック] アクティビティは他のワークフロー インスタンスの処理を一時的に防止するだけなので、ワークフローを [ロック] と [ロック解除] アクティビティ ブロック間で待機させるようなアクティビティを追加しないでください。これにより、[ロック解除] アクティビティがそれを解放するロックを取得できなくなり、代わりに完了までに 60 秒かかってしまうことがあります。制限付き待機アクティビティには以下が含まれます。

- 承認アクティビティ
- タスク アクティビティ
- タイマーアクティビティ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 条件待ちアクティビティ
- WF イベント待ちアクティビティ
- PowerShell スクリプトなどの MID サーバーアクティビティ

結果

ロックアクティビティの結果

結果	説明
成功	アクティビティはロックを正常に取得しました。ワークフローのこのインスタンスはこの時点を過ぎても継続できますが、他のインスタンスはロックが解放されるまで継続できません。
失敗	最大試行回数に達するまでロックを取得しようとしましたが、アクティビティはロックを取得できませんでした。

入力変数

アクティビティの初期動作が、入力変数によって決まります。

ロックアクティビティの入力変数

フィールド	説明
キー	一意のミューテックス キー。ロック解除 アクティビティはこのキーを使用してロックを解除します。
期間	
最大期間	ロックが持続する最大時間。ロックはこの期間に達すると解除されます。この方法によるロック解除は、[ロック解除] アクティビティの実行と同じです。
ロック試行 ロック試行が拒否された場合のアクティビティの動作を指定します。最後のロック試行が失敗した場合、アクティビティのステータスは「タイムアウト」に設定され、アクティビティの結果は「失敗」に設定されます。	
最大試行回数	アクティビティがロックを取得しようとする最大回数を指定します。
試行間の遅延	ロック試行が失敗してから、次のロック試行が許可される前までに必要な時間。

状況

アクティビティ状況は、ワークフロー エンジンがアクティビティを処理する方法を指示します。

ロックアクティビティの状況

状況	説明
待機中	ワークフロー エンジンがロックを取得するのを待機しています。
完了	アクティビティはロックを正常に取得しました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロックアクティビティの状況 (続く)

状況	説明
タイムアウト	アクティビティは、[最大試行回数] 入力変数で指定された試行回数内でロックを取得することができませんでした。

ログ メッセージ ワークフロー アクティビティ

[ログ メッセージ] アクティビティは、ワークフロー ログにメッセージを書き込みます。

このアクティビティを使用して、デバッグまたはトレースの目的でワークフローのログにエントリーを追加します。

入力変数

アクティビティの初期動作が、入力変数によって決まります。

ログ メッセージ アクティビティの入力変数

フィールド	説明
メッセージ	記録するメッセージ。この変数は、文字列、または文字列として評価される JavaScript 式にすることができます。

ログ トレース メッセージ ワークフロー アクティビティ

[ログ トレース メッセージ] アクティビティは、トレース メッセージをワークフロー ログに書き込みます。

トレース メッセージには、アクティビティ名、ワークフローを呼び出したイベント、および現在のレコードのテーブルが含まれます。変数や条件はありません。他のデータを記録するには、ログ メッセージ ワークフロー アクティビティ アクティビティを使用します。

REST メッセージのレガシーワークフローアクティビティ

従来 **REST** メッセージ アクティビティにより、アドミニストレーターは REST エンドポイントを上書きしたり、REST メッセージ モジュールに設定された変数を指定したりできます。

このアクティビティは、Yokohama リリースでは、新しいワークフロー開発用にワークフローキャンバスに表示されなくなりました。新しいワークフローでは、 オーケストレーション 代わりに REST アクティビティテンプレート。

を使用してください。オーケストレーション を使用する既存のワークフローは、設計どおりに動作し続けます。既存のワークフローでこのアクティビティを編集するには、アクティビティを再アクティブ化 する必要があります。

[REST メッセージ] アクティビティは、機能レコードに定義された値を使用して、エンドポイントでデッドリンク REST 機能 (POST、PUT、GET、または DELETE) を実行します。

> **注:** MID サーバーを使用して REST メッセージを送信する場合、MID サーバーはインスタンスによりアクセス可能で、SSH を使用するように構成されている必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力変数

REST メッセージ アクティビティの入力変数

フィールド	説明
REST メッセージ	
REST メッセージ	実行する [REST メッセージを作成] の名前。これは、REST メッセージ [sys_rest_message] テーブルへの参照フィールドです ([システム **Web** サービス] > [アウトバウンド] > **[REST** メッセージ])。
REST メッセージ関数	REST メッセージ関数で定義された呼び出し機能。これは、HTTP メソッド [sys_rest_message_fn] テーブルへの参照フィールドです ([システム **Web** サービス] > [アウトバウンド] > **[REST** メッセージ])。 利用可能な関数は、**PUT**、**POST**、**GET**、または **DELETE** です。各 REST メッセージ レコードの **[HTTP** メソッド] 関連リストで関数を編集できます。
REST エンドポイント	HTTP メソッド レコードで定義された [エンドポイント] の代わりに使用する REST エンドポイント。このフィールドを空白のままにして、REST メッセージ関数レコードで定義されたエンドポイントを使用します。
REST メッセージの変数	
変数	HTTP メソッドレコードで定義された送信 REST メッセージでの変数の置換 に使用する値。 文字列には、次の形式を使用します。 `name1=value1, name2=value2, . . .` たとえば、`name=${nameValue}, id=${idValue}` (*name* および *id* は関数の変数) を使用します。変数名または値のいずれかにカンマまたは等号が含まれている場合は、これらの文字をバックスラッシュでエスケープします。
REST メッセージの MID サーバー	
MID サーバーを使用	MID サーバーを使用して REST メッセージを送信する場合は、このボックスをオンにします。インスタンスには表示されないファイアウォールまたはサブネットワーク内のエンドポイントに到達するには、MID サーバーが必要な場合があります。このチェック ボックスがオンになっていても **[MID** サーバー] フィールドで MID サーバーが定義されていない場合、ワークフローは IP 範囲と REST 機能に基づいて自動的に MID サーバーを検索しようとします。
MID サーバー	使用する MID サーバーの名前。このフィールドは、**[MID** サーバーを使用] が選択された場合に利用可能です。*use_midserver* パラメーターが無効な場合、ワークフローはこのパラメーターを無視します。
REST メッセージ スクリプト	
センサースクリプト	要求が行われ、回答が受信されてから実行されるスクリプト。*activity.output* 変数から応答本文全体にアクセスできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リターン値 ワークフロー アクティビティ

[リターン値] アクティビティは、サブフローから実行された場合、親ワークフローに値を返します。

このアクティビティには変数や条件はありません。詳細については、「サブフローとして使用されるワークフロー」を参照してください。

サブフロー内でこのアクティビティを使用して、親フローがアクセスできるデータを保存します。[リターン値] アクティビティは、サブフローの [値] 変数から親ワークフローの [スクラッチパッド] へデータを追加します。

スクラッチパッドエントリーー

このアクティビティは、ワークフロー スクラッチパッドを使用して永続的な値を読み書きします。

リターン値アクティビティのスクラッチパッドエントリーー

変数	説明
value	アクティビティは、サブフローの [値] 変数から親スクラッチパッドへ値を書き込みます。サブフローを実行する親ワークフローアクティビティには、親ワークフローが返されたデータを保存する場所を定義する [リターン値のマップ先] 変数が含まれています。このデータは、スカラー、文字列対応の JavaScript オブジェクト、または文字列対応の JavaScript オブジェクトとして評価される式です。

関連情報

- スクラッチパッド変数
- ワークフローでの変数の使用

スクリプトの実行 ワークフロー アクティビティ

[スクリップとの実行] アクティビティは、指定されたスクリプトをワークフロー バージョンのスコープ内で実行します。

> **注:** [現在] への変更はすべて自動的に更新されます。`current.update()` を呼び出す必要はありません。

入力変数

アクティビティの初期動作が、入力変数によって決まります。

スクリプトの実行アクティビティの入力変数

フィールド	説明
スクリプト	実行するスクリプト。

値の設定 ワークフロー アクティビティ

値の設定アクティビティは、ワークフローの休止または終了時に現在のレコードの値を設定します。

入力フィールド

次のフィールドに入力した値によって、アクティビティの動作が決まります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

値の設定アクティビティの入力フィールド

フィールド	説明
これらの値を設定	左側のリストから、ワークフローの休止または終了時に、値を設定する現在のレコードのフィールドを選択します。右側のユーザー入力フィールドで、そのフィールドに設定する値を選択または入力します。 **注:** 異なる値を設定アクティビティから同じフィールドを設定しないようにしてください。ワークフローでは、休止または終了前に実行された前回の値を設定アクティビティで指定された値のみを設定します。

注: [値の設定] アクティビティを使用してタスク上の 承認 フィールドを設定しても、承認待ちはキャンセルされません。ワークフロー内のタスクを承認するには、承認アクション アクティビティを代用します。

SOAP メッセージのレガシーワークフローアクティビティ

従来 **[SOAP** メッセージ] アクティビティは、[システム Web サービス] プラグインで定義された SOAP メッセージを使用し、MID サーバーを使用してメッセージを呼び出すことができます。

このアクティビティは、Yokohama リリースでは、新しいワークフロー開発用にワークフローキャンバスに表示されなくなりました。新しいワークフローでは、 オーケストレーション 代わりに SOAP アクティビティテンプレート。

を使用してください。オーケストレーション を使用する既存のワークフローは、設計どおりに動作し続けます。既存のワークフローでこのアクティビティを編集するには、アクティビティを再アクティブ化 する必要があります。

入力変数

[SOAP メッセージ] アクティビティの入力変数

フィールド	パラメーター	説明
SOAP メッセージ	soap_message	[システム Web サービス] プラグインのアウトバウンド SOAP メッセージ [sys_soap_message] テーブルで定義された SOAP メッセージ。([システム **Web** サービス] > [アウトバウンド] > **[SOAP** メッセージ])
SOAP メッセージ関数	soap_message_function	SOAP メッセージで定義された呼び出し機能。各 SOAP メッセージ レコードにある **[SOAP** メッセージ関数] 関連リストに登録された機能。
SOAP エンドポイント	soap_endpoint	SOAP メッセージ関数レコードで **[SOAP** エンドポイント] 値の代わりに使用するエンドポイント。このフィールドを空白のままにして、SOAP メッセージ関数レコードで定義されたエンドポイントを使用します。
変数	変数	SOAP メッセージ関数レコードで定義された SOAP [エンベロープ] へ代入する変数。文字列には、次の形式を使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[SOAP メッセージ] アクティビティの入力変数 (続く)

フィールド	パラメーター	説明
		`name1=value1, name2=value2, . . .` 名前または値のいずれかにカンマまたは等号が含まれている場合は、これらの文字をバックスラッシュでエスケープします。
MID サーバーを使用	use_midserver	MID サーバーを使用して SOAP メッセージを送信するためのチェック ボックス。インスタンスには表示されないファイアウォールまたはサブネットワーク内のエンドポイントに到達するには、MID サーバーが必要な場合があります。このチェックボックスがオン (true) になっていても **[MID** サーバー] フィールドで MID サーバーが定義されていない場合、ワークフローは自動的に MID サーバーを検索しようとします。
MID サーバー	midserver	使用する MID サーバーの名前。このフィールドは、**[MID** サーバーを使用] チェック ボックスをオンにした場合に表示されます。*use_midserver* パラメーターが無効な場合、ワークフローはこのパラメーターを無視します。
センサースクリプト	sensor_script	要求が行われ、回答が受信されてから実行されるスクリプト。*activity.output* オブジェクトから XML 応答本文全体にアクセスできます。

ターンスタイル ワークフロー アクティビティ

[ターンスタイル] アクティビティは、ワークフローが同じ点を通過できる回数を制限します。

このアクティビティを使用すると、無限ループを防ぐことができます。このアクティビティは、ロールバックワークフローアクティビティ アクティビティと同様に役立ちます。

結果

アクティビティのスクリプト フィールド内から *activity.result* 変数を使用して、結果値を割り当てることができます。デフォルトでは、アクティビティ スクリプトはアクティビティが反復または停止を継続するかどうかを判断します。

ターンスタイル アクティビティの結果

結果	説明
続行	[許可された反復] 値は、ワークフローがこのアクティビティにアクセスした回数を超えています。
キャンセル	ワークフローは、[許可された反復] 値よりも多くの回数にわたりこのアクティビティにアクセスしました。

入力変数

アクティビティの初期動作が、入力変数によって決まります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ターンスタイル アクティビティの入力変数

フィールド	説明
許可された反復	ターンスタイルがループを終了する前にワークフローがこのアクティビティを通過できる回数。

条件

これらの条件によって、アクティビティの後にどの移行が実行されるかが決まります。

ターンスタイル アクティビティの条件

フィールド	説明
続行	ワークフローがこの時点まで戻った回数が、許容された反復回数よりも少ない場合。
キャンセル	ワークフローがこの時点まで戻った回数が、許容された反復回数を超えた場合。

状況

アクティビティ状況は、ワークフロー エンジンがアクティビティを処理する方法を指示します。

ターンスタイルアクティビティの状況

状況	説明
実行中	ワークフロー エンジンは、アクティビティの `onExecute` 機能を起動させることができます。
待機中	アクティビティを再開する特定のイベントがトリガーされるまで、ワークフローエンジンはアクティビティを無視します。
完了	アクティビティの実行が終了しました。アクティビティの結果については結果値を確認してください。
キャンセル	このアクティビティ、またはこのアクティビティを含むワークフローはキャンセルされました。
エラー	JavaScript エラーが発生しました。エラーの詳細についてログを確認してください。

ロック解除 ワークフロー アクティビティ

[ロック解除] アクティビティは、[ロック] アクティビティにより以前適用されたロックを解除します。

ロックを解除するには、[ロック] アクティビティで指定されたものと同じロック キーを指定します。[ロック] アクティビティに [期間] が指定され、その期間がすでに経過した場合、ロックはすでに解除されています。

入力変数

アクティビティの初期動作が、入力変数によって決まります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロック解除アクティビティの入力変数

フィールド	説明
ロックキー	ロックを解除するミューテックス キー。このキーは、ロックアクティビティにより指定されたキーと一致する必要があります。詳細については、「ロックアクティビティ」を参照してください。

状況

アクティビティ状況は、ワークフロー エンジンがアクティビティを処理する方法を指示します。

ロック解除アクティビティの状況

状況	説明
完了	アクティビティがロックを正常に解除しました。

サブフロー アクティビティ ワークフロー

サブフロー アクティビティは、親ワークフローからワークフローを実行および管理します。

[パラレルフローランチャー] サブフローアクティビティが利用可能です。

パラレルフローランチャーのワークフローアクティビティ

[パラレルフローランチャー] アクティビティは、複数のサブフローを並列に起動します。

並行して実行されるワークフローは同時に実行され、任意の順序で完了することができます。アクティビティは、必要に応じて単一のサブフローまたは複数のサブフローを起動できます。サブフローごとに返される入力値と値を管理できます。

注: [パラレルフローランチャー] アクティビティは、続行する前にすべてのサブフローが完了するまで待機します。サブフローが終了しない場合、アクティビティは無期限に待機します。

[パラレルフローランチャー] アクティビティで多数のサブフローを起動しないでください。過度に使用された場合、このアクティビティはインスタンスに過度の負担をかける可能性があります。膨大な数のサブフローを起動するには、パラレルフローランチャーをターンスタイルまたはその他の条件付きアクティビティによって制御されるループ内に配置してバッチを実行することをご検討ください。

アクティビティ変数

アクティビティ変数は、アクティビティの初期動作を決定します。

パラレルフローランチャー アクティビティの入力変数

フィールド	説明
パラレルフローランチャーの設定	
名前	アクティビティの一意の名前。
ステージ	ワークフローがアクティビティに到達したときに表示するステージ。
入力	実行するサブフローへの入力。起動するワークフローで定義されている各入力に対して「名前：値」のペアの配列を指定します。入力された各入力変数の名前とデータ型は、

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パラレルフローランチャー アクティビティの入力変数 (続く)

フィールド	説明
	このアクティビティが起動するサブフローで使用されているものと一致する必要があります。詳細な例については、「パラレルフローランチャーの例」を参照してください。
パラレルフローランチャーの選択	
Workflow	実行するワークフロー。
詳細	[詳細] をオンにし、WorkflowCoordinator オブジェクトを使用してサブフローを管理するスクリプトを入力します。[詳細] をオンにすると、各入力変数のセットごとに固有のワークフローを指定するスクリプトを入力できるテキスト ボックスが表示されます。詳細については、「WorkflowCoordinator オブジェクト」を参照してください。
パラレルフローランチャーの反復 パラメーターを指定してバッチ ワークフローのパフォーマンスをチューニングします。	
カウント	入力設定で指定されない場合、[カウント] がこのアクティビティから並列に実行されるサブフローの数を決定します。[詳細] オプションがオフの場合は、このフィールドに有効な番号が入力されていることを確認します。
最大フロー数	このアクティビティが起動できるワークフローの最大数。この値が正の整数の場合、WorkflowCoordinator コンストラクターで使用される max パラメーターを上書きします。
最大同時回数	このアクティビティが同時に実行できる並列ワークフローの最大数。この値が正の整数である場合、WorkflowCoordinator コンストラクターで使用される poolsize パラメーターを上書きします。
パラレルフローランチャーのプロセス	
プロセス フロー完了	各サブフローが完了した後に実行されるスクリプトを指定するには、[プロセス フロー完了] をオンにします。このフィールドをオンにすると、[フロー完了] とラベル付けされたテキスト ボックスが表示され、実行するスクリプトを入力できます。
フロー完了	サブフローが終了するたびに実行されるスクリプト。このフィールドは、[プロセス フロー完了] オプションが選択されている場合に利用できます。 他のワークフロー スクリプトで使用できる同じスクリプト関数および変数 ([スクリプトの実行] アクティビティなど) は、ここで使用できます。詳細については、「スクリプトで完了したサブフロー値」を参照してください。 変数「flow」はこのスクリプトで使用できます。これは、終了中のフローに関する以下の情報を含むオブジェクトです。 **flow.output (String)**：終了前にリターン値アクティビティを実行した場合、サブフローが親に返す値。 **flow.index (Number)**：終了したサブフローのゼロ相対インデックス。 **flow.contextId (String)**：完成したサブフローのワークフロー コンテキストの sys_id。 **flow.inputs (Object)**：コンテキストの作成および開始時にサブフローに渡された入力。 **flow.status (String)**：コンテキストの最終状況。これは、サブフロー コンテキスト レコード内の可能な値を持つ [状態] 列に対応します。この列の可能な値は、[実行中]、[完了]、[キャンセル]、または [障害] です。(フローは完了しているので、この時点で [実行中] にはなり得ません。)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パラレルフローランチャー アクティビティの入力変数 (続く)

フィールド	説明
パラレルフローランチャーの分割	

プロセス終了	すべてのサブフローが終了した後に実行されるスクリプトを指定するには、[プロセス終了] をオンにしてください。このフィールドをオンにすると、[終了スクリプト] とラベル付けされたテキストボックスが表示され、実行するスクリプトを入力できます。「コーディネーター」変数はこのスクリプトで利用可能になり、getFlow(index) メソッドを使用して完成したどのサブフローにもアクセスできるオブジェクトになります。例：
	`for (var i = 0; i < coordinator.getNumFlows(); i++)`
	`writeFlowResultsToTable( i, coordinator.getFlow(i) );`

終了スクリプト	アクティビティによって起動されたすべてのサブフローの後に実行されるスクリプトは完了しています。このスクリプトでは、完了したフロー情報を含む変数を使用できます。
	「コーディネーター」変数はこのスクリプトで利用可能になり、getFlow(index) メソッドを使用して完成したどのサブフローにもアクセスできるオブジェクトになります。例：
	`for (var i = 0; i < coordinator.getNumFlows(); i++)`
	`writeFlowResultsToTable( i, coordinator.getFlow(i) );`
	このフィールドは、[プロセス終了] が選択された場合に利用可能です。

状況

アクティビティ状況は、ワークフロー エンジンがアクティビティを処理する方法を指示します。アクティビティの状況を表示するには、そのアクティビティをポイントします。ポップアップ ウィンドウには、アクティビティの [状況] および [結果] が表示されます。アクティビティがエラー状態にある場合、ポップアップ ウィンドウには簡単な [障害の説明] が表示されます。

パラレルフローランチャーアクティビティ状況

状況	説明
待機中	アクティビティは、すべてのサブフローが終了するのを待機しています。すべてのサブフローが開始されており、完了しているサブフローもあります。
完了	アクティビティはすべてのサブフローを正常に完了しました。
エラー	アクティビティでエラーが発生しました。

WorkflowCoordinator オブジェクト

WorkflowCoordinator オブジェクトは、実行するサブフローとそれらのサブフローに渡す入力変数を指定します。

WorkflowCoordinator オブジェクトを使用する場合は、複数のサブフローを起動する [パラレルフローランチャー] アクティビティを作成できます。WorkflowCoordinator オブジェクトなしでアクティビティを使用する場合は、単一のサブフローのみを複数回起動できます。[詳細] アクティビティ入力変数を選択した場合、次のいずれかの方法を使用して、アクティビティの WorkflowCoordinator オブジェクトを指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 既存の WorkflowCoordinator オブジェクトを含むワークフロー スクラッチパッド変数を参照します。WorkflowCoordinator オブジェクトをスクラッチパッドに保存するには、WorkflowCoordinator オブジェクトで *`save(variableName)`* 関数を呼び出します。*`variableName`* パラメーターで渡された値を使用してオブジェクトを参照することができます。たとえば、WorkflowCoordinator オブジェクトを[スクリプトを実行] アクティビティで作成し、`<object>.save('coord')` を使用してオブジェクトを保存し、後続の[パラレルフローランチャー] アクティビティの [ワークフロー] アクティビティ変数で「`coord`」と入力してこのオブジェクトを呼び出します。
- [ワークフロー] アクティビティ変数内で WorkflowCoordinator を定義します。`javascript` を追加：スクリプトの先頭にある識別子。パラレルフローランチャーの例 は、このような WorkflowCoordinator オブジェクトの使用方法を示しています。
- WorkflowCoordinator オブジェクトを定義するファクトリ クラスを作成します。システムはデフォルトで WorkflowCoordinator のファクトリ クラスを提供しません。

スクリプトで完了したサブフロー値

[パラレルフローランチャー] アクティビティは、スクリプトで使用できる追加の変数を公開します。

追加の変数

変数	説明
コーディネーター	サブフローを実行するときに使用される WorkflowCoordinator。[終了スクリプト] でこの変数を使用して、最終的な操作を実行します。さらに、アクティビティ名または sys_id を *`WorkflowCoordinator.load('<Activity>')`* 関数に渡すことにより、後のワークフローアクティビティで WorkflowCoordinator を使用できます。たとえば、「サブフローを起動」と呼ばれる [パラレルフローランチャー] アクティビティから WorkflowCoordinator オブジェクトをロードするには、その後のアクティビティで「`var coord = WorkflowCoordinator.load('Launch Subflows');`」を入力します。
フロー	最後に完了したアクティビティによって起動されたサブフロー。[フロー完了] スクリプトでこの変数を使用して、 各サブフローで後処理操作を実行します。コーディネーター オブジェクトから完全なサブフローを取得するには、`var flow = coord.getFlow(I);` を使用します。この中で、「I」はサブフローが起動された順序に基づいたサブフローの数値インデックスを示します。 これらの値は、完了したサブフローから使用できます。 • インデックス：起動された順序に基づくこのサブフローの数値インデックス • ワークフロー：WorkflowCoordinator コンストラクターに渡したこのサブフローに使用されるワークフローの sys_id または名前 • 入力：起動されたサブフローに提供された入力値 • ステータス：サブフロー コンテキストのステータス • 出力：サブフローによって返される値 • contextId：サブフローのワークフロー コンテキストの sys_id

パラレルフローランチャーの例

この例は、[パラレルフローランチャー] アクティビティを入力値の配列と WorkflowCoordinator オブジェクトとともに使用する方法を示しています。

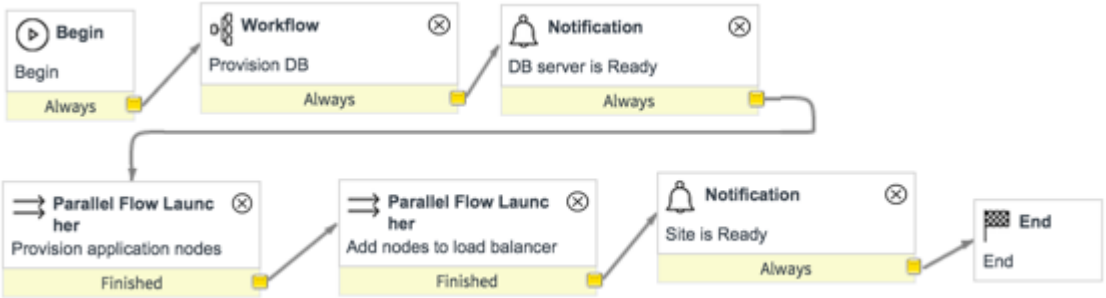
サンプル ワークフロー

この例は、4 つのアプリケーション ノードを持つ SQL ベースの Web サーバーを示しています。1 つのサブフローを実行してデータベースをプロビジョニングし、複数の並列サブフローがそれぞれア

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プリケーション ノードを設定します。最後に、並列サブフローの別のセットが、ロード バランサーを使用するようにノードを設定し、サーバー DNS を設定します。

パラレルフローランチャーのビジネス ケース

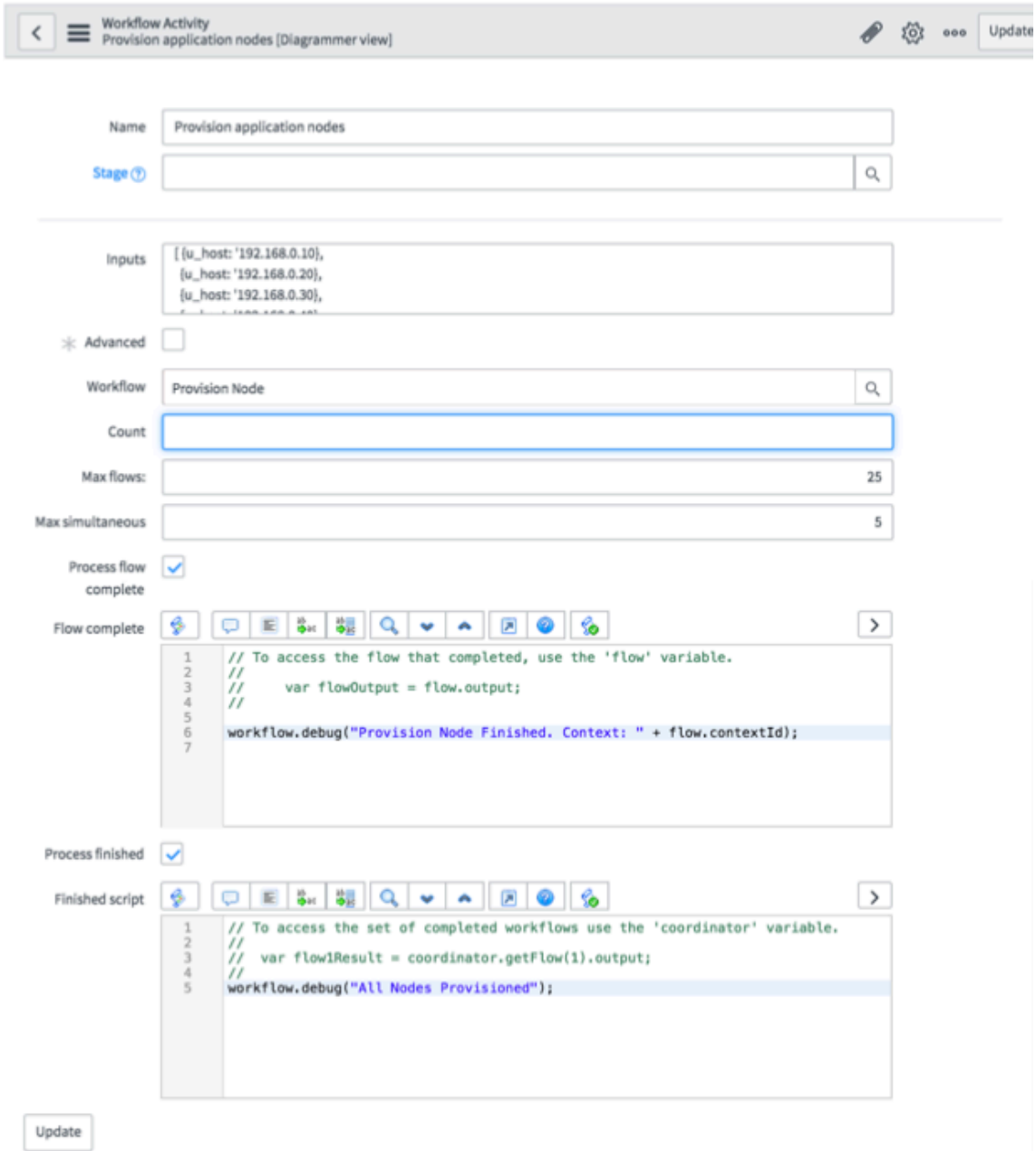


アプリケーション ノードのプロビジョニング

最初の [パラレルフローランチャー] アクティビティは、[ノードのプロビジョニング] サブフローを 4 回起動します。アクティビティは、[入力] 変数の配列から各サブフローに固有の IP アドレスを渡します。[フロー完了] および [終了スクリプト] 変数で定義されたスクリプトは、サブフローのステータスに関するログ メッセージを書き込みます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パラレルフローランチャー アクティビティのプロパティ
Activity Properties: Parallel Flow Launcher



ロード バランサーにノードを追加する

2 番目の [パラレルフローランチャー] アクティビティは、WorkflowCoordinator オブジェクトを使用して、実行するサブフローを指定します。[コーディネーター] 変数は、前の[ノードのプロビジョニング] アクティビティから完了フロー情報を保存します。スクリプトは、プロビジョニングされた各ノードの IP アドレスとポートを取得します。`[coord2]` WorkflowCoordinator オブジェクトは、取得した IP アドレスおよびポート情報を入力変数として使用して、[ロード バランサーにノードを追加] サブフローをノードごとに 1 回実行します。最後に、`[coord2]` WorkflowCoordinator オブジェクトは、 **[SetupDNS]** サブフローを 1 回実行してロード バランサーを設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

実行するサブフローの指定

```
javascript:
var coordinator = WorkflowCoordinator.load('Provision Nodes');
var coord2 = new WorkflowCoordinator({
    workflow: 'Add Node to Load Balancer'
});

for (var i = 0; i < coordinator.getNumFlows(); i++) {
    var ip = coordinator.getInput(i).ip;
    var port = coordinator.getOutput(i);
    coord2.add( {
        ip: ip,
        port: port
    } );
}
var loadBalancerIP = '10.0.20.10';
coord2.add( {ip: loadBalancerIP, hostname:'www.snow1.net'}, 'SetupDNS');

coord2;
```

ワークフロー アクティビティの説明の表示

ワークフロー アクティビティ用のツールヒントが用意されており、各アクティビティの使い方を理解するのに役立ちます。

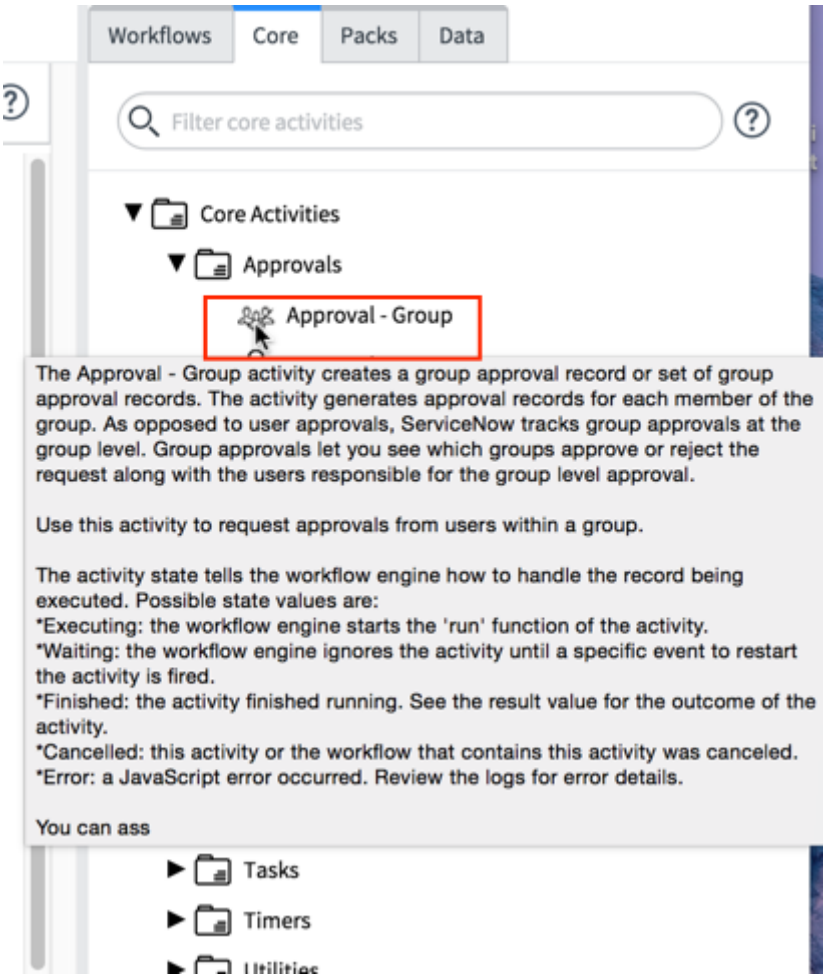
始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

手順

1. ワークフローエディターでアクティビティの説明を表示するには、パレット内のアクティビティのアイコンをポイントします。



2. アクティビティの説明を変更するには、[ワークフロー] > [管理] > [アクティビティ定義]に移動し、[説明] フィールドを編集します。

> **注:** アクティビティの詳細を表示するには、キャンバス上のアクティビティをダブルクリックして、[アクティビティのプロパティ] ウィンドウのタイトルバーにあるヘルプ アイコンをクリックします。

ワークフロー アクティビティ定義の要素

各アクティビティでは、アクティビティの動作を制御するか、またはアクティビティによって制御されるいくつかの要素を指定できます。

すべてのアクティビティが可能な要素をすべて指定するとは限りませんデフォルトで提供されているアクティビティへのリンクについては、「ワークフローアクティビティ」を参照してください。各アクティビティの説明では、そのアクティビティによって提供される特定の要素が詳細に説明されています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロー アクティビティの要素

要素	説明
結果	可能な **activity.results** 値。通常、アクティビティ結果はアクティビティが移行する場合の条件を決定します。
スクラッチパッドエントリー	アクティビティの実行が依存するスクラッチパッド変数、またはアクティビティがスクラッチパッドに書き込む変数。
入力変数	アクティビティの動作を制御する値。これらの値を設定するフィールドは、新しいアクティビティがワークフローに追加されたときに [アクティビティのプロパティ] フォームに表示されます。詳細については、「アクティビティ変数」を参照してください。
条件	完了後にアクティビティがどのように移行するかを決定します。詳細については、「ワークフローアクティビティ条件を管理する」を参照してください。
状況	ワークフローが実行中のレコードをどのように処理するかを決定します。

ワークフローへアクティビティを追加する

利用可能なアクティビティは、ワークフローエディタパレットの [コア]、[パック]、および [カスタム] タブに表示されます。

始める前に

必要なロール：admin

手順

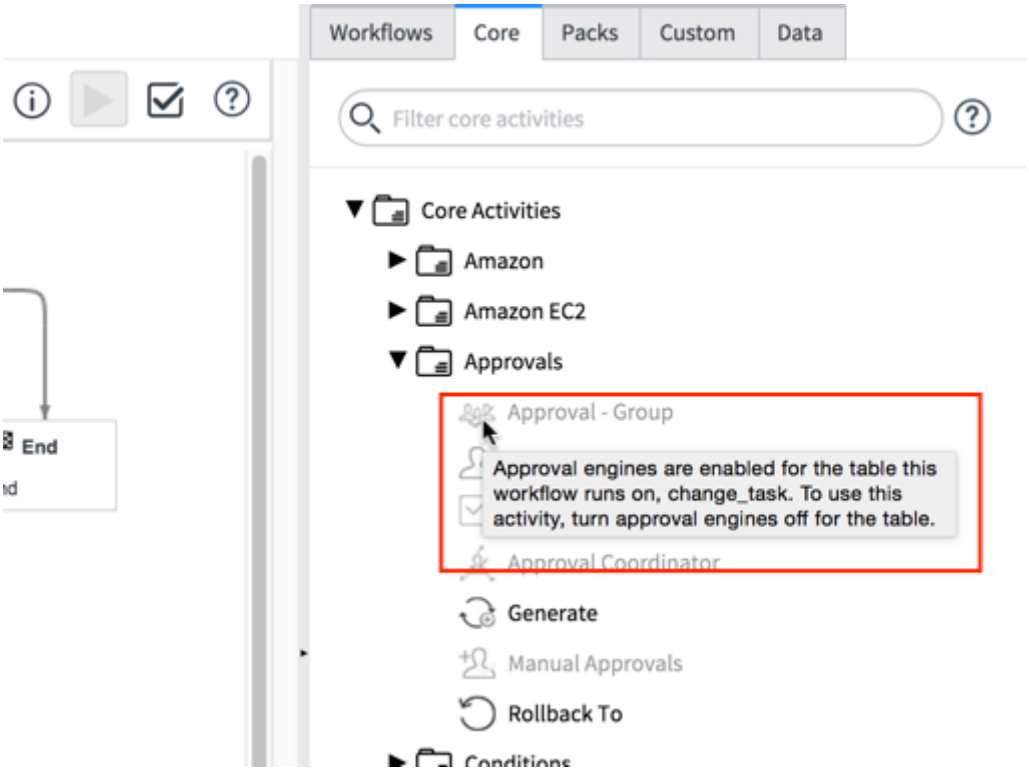
1. ワークフローエディターで、ワークフローをチェックアウトします。
2. ワークフローアクティビティを追加するには、[コア]、[パック]、または [カスタム] タブからキャンバスにドラッグし、ワークフロー本体の移行線上にドロップします。

   移行は新しいアクティビティに接続されると青色に変わります。デザイナーがその時点でアクティビティをフローに追加すると、新しいアクティビティのプロパティフォームが表示されます。

   アクティビティが灰色で表示されている場合は、承認エンジンがワークフローが実行されているテーブルに対して有効です。アクティビティを使用するには、テーブルの承認エンジンをオフにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

利用できないアクティビティと承認エンジン

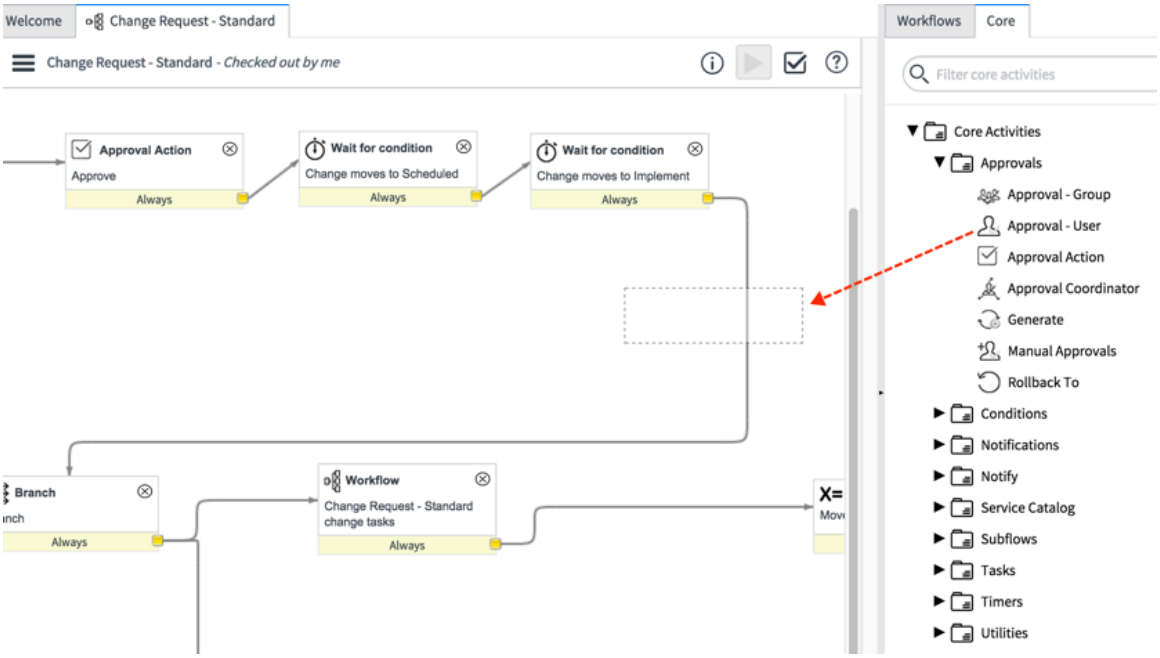


3. アクティビティに必要な追加の条件を作成し、すべての終了が接続されていることを確認します。
4. 公開の前にワークフロー検証ツールを実行して、ワークフローをハングアップさせる可能性がある欠損または切断された移行を検出します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: すべてのアクティビティの説明には [テーブル] 値があります。この値が [グローバル] の場合、ワークフロープロパティで選択されたテーブルに関係なく、アクティビティをワークフローで使用できます。特定のテーブルを識別するアクティビティは、ワークフロー用に構成されたテーブルがアクティビティで識別されるテーブルと一致または拡張する場合にのみ、パレットに表示されます。

ワークフローへのアクティビティの追加



ワークフローアクティビティを複製する

ワークフローで使用されるアクティビティ (設定されたすべてのプロパティを含む) を複製することができます。

手順

1. アクティビティを右クリックし、コンテキストメニューから [アクティビティのコピー] を選択します。

   システムは自動的にアクティビティを複製しますが、移行は作成しません。

2. コピーをダブルクリックし、プロパティを適切に構成します。
3. アクティビティをワークフロー内の場所にドラッグします。
4. 移行を追加します。

ワークフローアクティビティ間の移行を管理する

移行は、各アクティビティで定義された条件に応じて、ワークフローの処理パスを定義します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
アクティビティのすべての条件には移行が必要であり、すべての移行は別のアクティビティまたは [終了] アクティビティへの接続を持つ必要があります。

注:

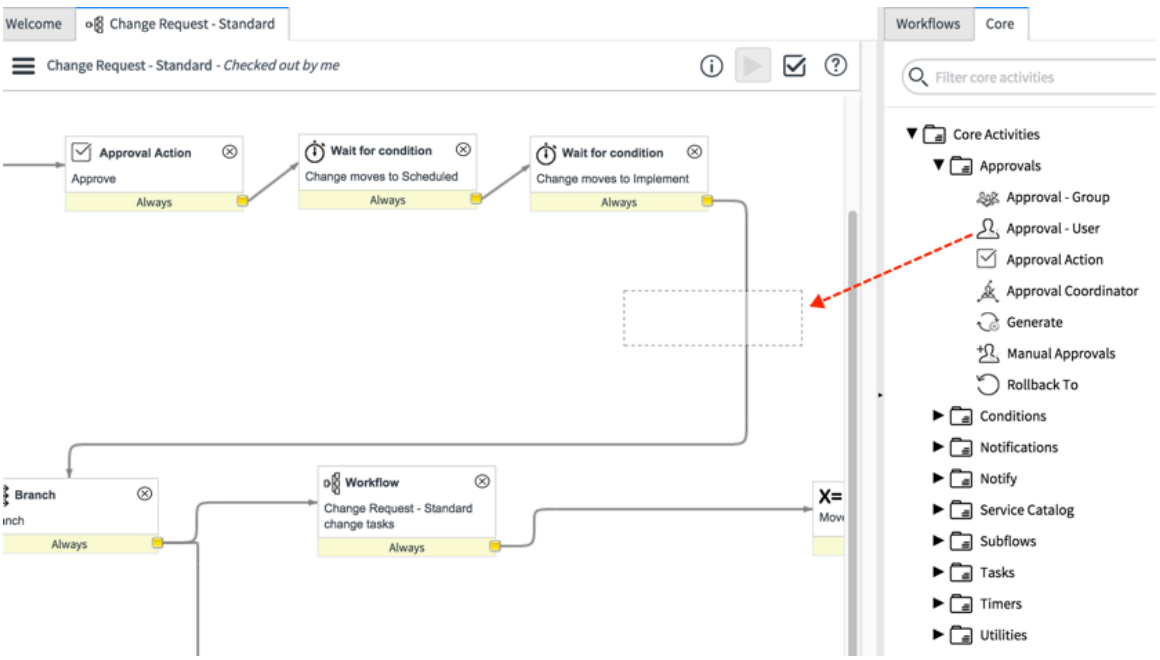
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

公開の前にワークフロー検証ツールを実行して、ワークフローをハングアップさせる可能性がある欠損または切断された移行を検出します。

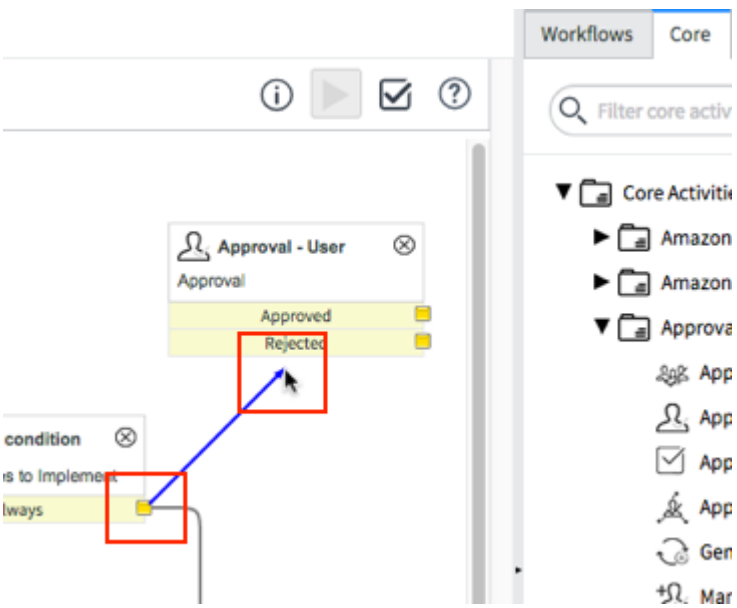
手順

1. 次のいずれかの方法を使用して、ワークフローに移行を追加します。

   - アクティビティを移行線上に直接ドラッグアンドドロップして、隣接するアクティビティに接続します。接続が行われると、移行線が青色に変わります。システムは自動的に移行を更新し、新しいシーケンスを反映します。



   - アクティビティをキャンバス内の空いている領域にドラッグし、手動で移行を作成します。アクティビティ条件の右側にある黄色の四角形をクリックし、コネクタを次のタスクにドラッグします。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. アクティビティが同時に実行される場合、同じアクティビティ条件から複数の移行を描画できます。
3. 移行を削除するには、クリックしてハイライト表示し、[削除] を押します。

カスタムアクティビティの移行

[承認 - ユーザー] アクティビティでコントロールを使用すると、アドミニストレーターは [承認済み] または [却下] のデフォルトの移行以外にさらにワークフロー移行をアクティビティに追加できます。

この方法を使用して定義された移行は、[承認 - ユーザー] アクティビティの永続的機能にはなりません。新しい移行が設定された後、必要に応じて、その移行をアクティビティの後続のインスタンスに手動で適用する必要があります。

ワークフローアクティビティ条件を管理する

アクティビティには、どの移行に従うかを決定するデフォルトの条件が含まれています。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

たとえば、[承認 - ユーザー] アクティビティには 2 つの条件、[承認済み] と [却下] があります。

アクティビティ条件の例

JavaScript 条件チェックを使用して、コアワークフローアクティビティのカスタム条件を作成できます。カスタムアクティビティはこの機能をサポートしていません。

手順

1. アクティビティを右クリックし、コンテキストメニューから [条件を追加] を選択します。
2. [新規ワークフロー条件] ダイアログボックスで、必要に応じてフィールドに記入します (表を参照)。

[新規ワークフロー条件] フォーム

フィールド	説明
名前	ワークフローに表示されるラベルです。
アクティビティ	この条件が送信されたアクティビティの名前です。この値は、システムによって自動的に入力されます。
簡単な説明	この条件の簡単な説明です。
条件	JavaScript の条件チェックです。次の変数を使用できます。 ◦ **current**：ワークフローが実行されている現在のレコード。 ◦ **activity.result**：完了時にアクティビティによって設定された結果値。

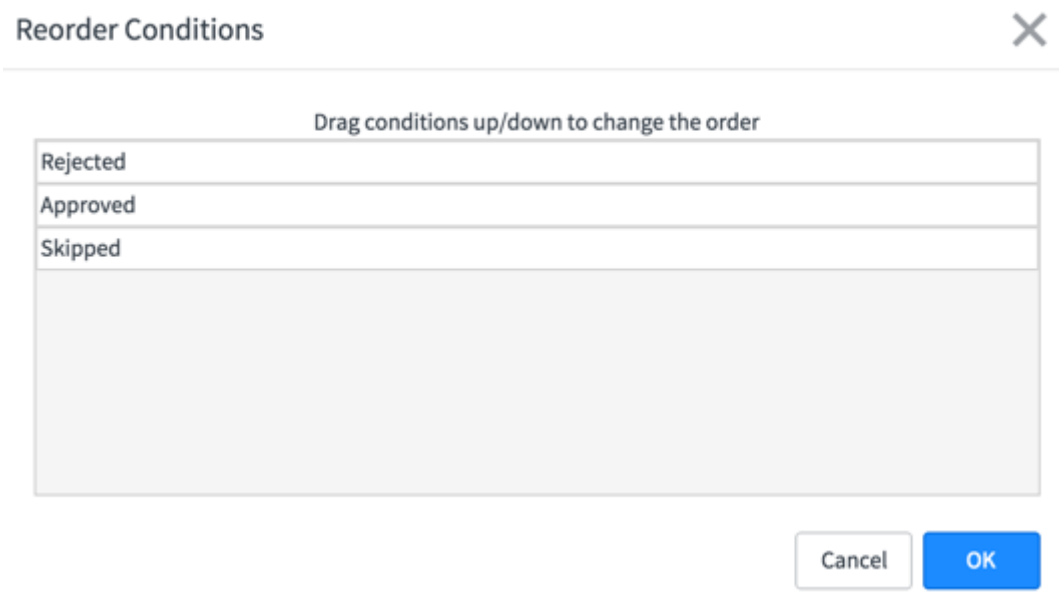
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	◦ **activity**：ワークフロー実行アクティビティ (wf_executing) レコード。詳細条件チェックに使用されます。 ◦ **activity.vars**：ワークフロー実行アクティビティレコードに関連付けられた変数。詳細条件チェックに使用されます。
生成時はスキップ	選択すると、[生成] アクティビティ は、承認またはタスクを生成するためにこの移行に従いません。

3. [送信] をクリックします。
4. ワークフローアクティビティに表示される条件の順序を変更するには、そのアクティビティを右クリックし、[条件の並び替え] を選択します。

   ダイアログボックスが表示され、利用可能な条件のリストが表示されます。

   現在のアクティビティの条件リスト



5. 条件をリストの新しい位置にドラッグします。
6. **[OK]** をクリックします。

アクティビティの結果値

アクティビティによって指定された結果値は、アクティビティが移行する条件を制御します。

結果値をアクティビティの [条件] フィールドの一部として使用します。たとえば、[承認 - ユーザー] アクティビティの [条件] フィールドには、`activity.result == 'rejected'` が含まれ、アクティビティは、承認者から却下を受信するとその条件を通して移行します。結果値は、アクティビティ定義の [スクリプト] フィールドに設定されます。

ワークフローアクティビティのプロパティフォームを編集する

アクティビティのプロパティフォームに表示されるワークフロー変数と、フォーム上の変数の配置方法をカスタマイズします。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [ワークフロー] > [管理] > [アクティビティ定義] に移動します。
2. 作業するアクティビティまでスクロールし、アクティビティ名をクリックします。
3. ワークフローアクティビティ定義フォームで、[変数レイアウトを編集] 関連リンクをクリックします。
4. アクティビティのプロパティフォームの [フォームデザイン] ページで、アクティビティ変数を追加および削除します。
   アクティビティ変数は、フォーム上で並べ替えることができる個別のアイテムとして表示されます。

   フォームデザインインターフェイスの詳細については、「フォームデザイナーの使用」を参照してください。

ワークフロー承認アクティビティの使用とワークフローのロールバック

承認を使用して作業する場合、承認アクティビティと承認エンジンとのやりとり、スキップされた承認ワークフローアクティビティの修正方法、ロールバックの動作方法を理解する必要があります。

関連情報

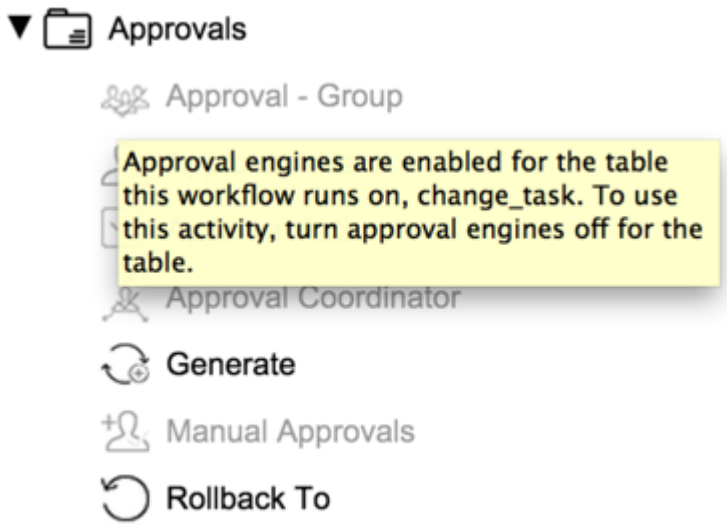
ロールバックワークフローアクティビティ

承認ワークフローアクティビティと承認エンジン

承認は、承認アクティビティまたは承認エンジンで管理できますが、両方では管理できません。承認アクティビティは、ワークフローに関連付けられたテーブルに対して承認エンジンが有効になっていない場合に使用できます。

承認は、承認アクティビティまたは承認エンジンで管理できますが、両方では管理できません。両方を使用しようとすると、さまざまな問題が発生する可能性があります。承認エンジンが指定されたテーブルで使用されている場合、承認アクティビティはパレットで利用できません (灰色で表示)。パレットで灰色表示された承認アクティビティにカーソルを合わせると、より多くの情報を含むコメントが提供されます。承認および承認エンジンの詳細については、「クラシックの承認」を参照してください。

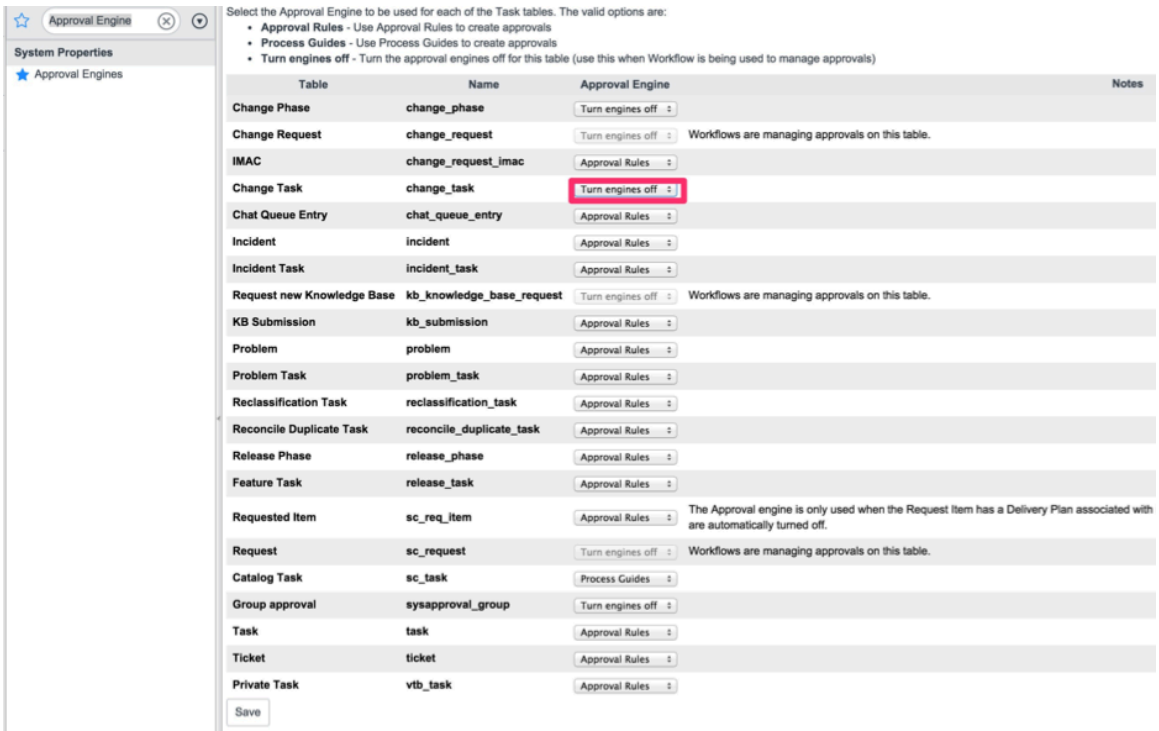
利用できない承認アクティビティ



テーブルの承認エンジンをオフにするには、[システムプロパティ] > [承認エンジン] に移動して、テーブルの設定を [エンジンをオフにする] に変更します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認エンジンをオフにする



関連情報

- 承認およびロールバック ワークフロー アクティビティ
- クラシックの承認

スキップされた ワークフロー 承認アクティビティを修正する

ワークフローがアクティブなコンテキストにある間、承認アクティビティを次のアクティビティにスキップできます。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

承認アクティビティがスキップされる理由は次のとおりです。

- 承認ユーザーまたはグループが見つからないか無効です (たとえば、sys_id)。
- 承認レコードが作成された後、承認ユーザーまたはグループが非アクティブになりました。
- アクティビティは `current.opened_by.department.manager` などの関連テーブルでのデータへのドット連結 フィールドであり、承認ユーザーまたはグループが見つからないか無効です。
- ワークフローに関連付けられているテーブルのビジネスルールが無効です。

見つからない承認アクティビティを修正するには、次を実行します。

手順

1. [すべて] > **[Workflow]** > [ライブワークフロー] > [すべてのコンテキスト]に移動します。
2. 承認アクティビティを誤って処理しているワークフローの [開始] 列の日時をクリックします。
3. [関連リンク] で [ワークフローを表示] をクリックします。
4. 実行されたワークフローの部分を確認し、次のうちの 1 つ以上を実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 承認後、ワークフローが次のアクティビティに進むことを確認します。ワークフローが進むのに失敗する場合は、ビジネスルールを確認してください。詳細については、「ビジネスルールのデバッグ」を参照してください。
- 承認された各承認アクティビティを指定して、[状態] が [完了] で [結果] が [スキップ] のアクティビティを検索します。

5. [ワークフロー] > [ワークフローエディタ] に移動してワークフローを開きます。
6. スキップされた承認アクティビティをダブルクリックします。
7. [ユーザー] または [グループ] をクリックします。
8. 承認アクティビティにアクティブなユーザーまたはグループを割り当てます。詳細については、「ワークフロー エラー処理」を参照してください。

ワークフロー 通知アクティビティので変数を使用する

特定の ワークフロー 通知アクティビティの通知は、問い合わせユーザーにテキストを読み込むための変数代替をサポートします。

特定のワークフローアクティビティの通知を使用すると、ワークフロースクラッチパッドなどの変数を使用して、アクティビティの動作を判断できます。各アクティビティは最大 20 の変数をサポートします。変数代替が可能なアクティビティは次のとおりです。

アクティビティ	メモ
発言	[テキスト] フィールドでのみ変数代替をサポートします。
入力	[テキスト] フィールドでのみ変数代替をサポートします。
プレイ	**[URL]** フィールドでのみ変数代替をサポートします。
コールを転送	[電話番号] フィールドでのみ変数代替をサポートします。

スクラッチパッド変数

${variable_name} という構文を使用して、ワークフロースクラッチパッドまたはアクティビティスクラッチパッドから変数を呼び出すことができます。変数名の前に workflow.scratchpad または activity.scratchpad を含める必要はありません。たとえば、変数 `activity.scratchpad.langCode = 'en-US'` を使用するには、アクティビティ内で ${langCode} を呼び出します。スクラッチパッドに指定された変数が含まれていない場合、変数は空の値として評価されます。

${object.value} の書式を使用して、スクラッチパッド上のオブジェクトから値を取得できます。たとえば、${user.name} を呼び出すことで `workflow.scratchpad.user =` {name：'john.smith'} のようなユーザーオブジェクトの名前を取得できます。

ディジット変数

[入力] アクティビティは ${digit} 変数を公開します。この変数は、アクティビティが提示する各条件で使用します。ユーザーに読み取らせる番号は、各条件によって自動的に決定されます。問い合わせユーザーはその番号を押して、その条件を通してアクティビティを移行させることができます。

1 つのワークフローで複数のタイマーアクティビティを使用する

ワークフロー タイマーアクティビティは、アクティビティ固有のスクラッチパッドに互いに独立してデータを格納します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

以前は、ワークフロー内のすべてのタイマーアクティビティが単一の共有スクラッチパッドにアクセスし、複数のタイマーアクティビティを 1 つのワークフローに追加する際に競合が発生する可能性がありました。

タイマーのスクラッチパッドのエントリは、次の値を保持します。

- workflow.scratchpad.endTime
- workflow.scratchpad.realStartTime
- workflow.scratchpad.retroactiveSecsLeft

関連情報

タイマー ワークフロー アクティビティ

カスタムアクティビティワークフローを公開する

ユーザーがカスタムアクティビティを作成して保存または送信すると、そのアクティビティがデザイナー パレットの [カスタム] および [パック] タブに表示されます。ただし、これはカスタムアクティビティを作成したユーザーに対してのみ表示されます。

設定が完了したら、ユーザーは [公開] をクリックします。これにより、workflow_admin または activity_creator ロールを持つインスタンス上の他のユーザーがアクティビティにアクセスできるようになります。公開済みアクティビティは、ServiceNow ストアへのアップロード用に使用でき、ワークフローへの追加、および適切なロールを持つ任意のユーザーによる編集が可能です。

公開済みアクティビティを編集するには、[チェックアウト] をクリックします。ユーザーがアクティビティをチェックアウトすると、そのユーザーだけがアクティビティを変更できます。チェックアウト済みアクティビティのフィールドは、他のすべてのユーザーに対して読み取り専用です。チェックアウト済みアクティビティを正常に変更したら、ユーザーはそれを再度公開します。システムはこのアクティビティの新しいバージョンを、[ワークフローエディター] パレットの [カスタム] タブに追加します。

注: 現在のアプリケーション スコープで作成された場合、作成および公開するアクティビティは [パック] タブでのみ表示可能です。

ロックされたバージョン

アクティビティ バージョンがユーザーによってチェックアウトされた後に、そのユーザーが病気になったり退社したりしてチェックインされなかった場合、問題が発生する可能性があります。この状態のアクティビティを更新のためにチェックアウトすることはできません。

アドミン ロールを持つユーザーは、ロックされたアクティビティを公開済みステータスに戻すことができます。アドミニストレーターは、ロックされたアクティビティをワークフローエディターの [カスタム] タブから開き、チェックアウト済みバージョンを選択して、[強制的にチェックアウト]、[公開] を選択します。

ワークフロー 固定しているアクティビティ

ワークフローアドミニストレーターはカスタムアクティビティを固定して、ServiceNow ストアから新しいバージョンをダウンロードする場合に、システムによってそのアクティビティが自動的に更新されないようにすることができます。

個々のアクティビティの固定または固定解除を行うか、そのワークフロー内のすべてのアクティビティに使用されているバージョンを制御するワークフロー プロパティ内で固定を設定できます。これにより、同じアクティビティの異なるバージョンを使用する 2 つのワークフローが発生する可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: アクティビティの固定と固定解除は、ServiceNow ストアからダウンロードされたカスタムアクティビティにのみ適用され、インスタンスでローカルに作成された新規公開のアクティビティ定義には適用されません。これらのローカルに更新されたカスタムアクティビティを使用するには、ワークフローをチェックアウトし、アクティビティを手動で追加する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。